宮城県文化財調査報告書第254集

北小松遺跡

―田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成22年度発掘調査報告書―

第１分冊　本文編

令和３年３月

宮城県教育委員会

北小松遺跡

―田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成22年度発掘調査報告書―

第１分冊　本文編

序　　文

東日本大震災から10年の節目の年を迎え、私たちは、地域の復興とともに、持続可能な社会の形成に向けた取り組みを進めています。このためには、安全で災害に強いまちづくり、産業の振興、人々の暮らしの再生に加えて、先人たちが苦難を克服し築き上げてきた文化を再認識し継承していくことも不可欠です。

地域で守り伝えられてきた文化財は、現在を生きる私たちと過去や未来を生きる人々、そして地域で共に生きる人々を結びつけるものです。過疎化や少子高齢化などを背景に、地域の文化財の滅失等が危惧されているなか、地域社会総がかりで、その継承に取り組んでいくことが必要になります。この取り組みにより、身近な地域の個性豊かな風土や歴史的な価値を再発見し、人々と地域が密接に結びついた、より豊かで魅力ある地域社会が形成されていくものと期待されます。

本書は、平成22年度に大崎市田尻西部地区におけるほ場整備事業に伴う工事に先立って実施した北小松遺跡の発掘調査報告書です。調査では、縄文時代から弥生時代の初め頃の人々の居住施設や埋葬されたイヌの墓域、その周囲に捨てられた当時の生活道具などを数多く発見し、水辺に営まれたムラの様子が明らかとなる貴重な成果が得られました。こうした成果が広く県民の皆様や各地の研究者に活用され、地域の歴史解明の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、遺跡の保存に理解を示され、発掘調査に際しては多大なる御協力をいただいた関係機関の方々、さらに実際の調査にあたられた皆様に対し、厚くお礼申し上げます。

令和3年3月

宮城県教育委員会
教育長　伊東　昭代

例　　言

1. 本書は、宮城県北部地方振興事務所および江合川沿岸土地改良区との協議に基づき実施した、経営体育成基盤整備事業（田尻西部地区）に係る北小松遺跡の発掘調査のうち、平成 22 年度に実施した発掘調査の成果をとりまとめたものである。
2. 発掘調査は、宮城県教育委員会が主体となり、宮城県教育庁文化財保護課（当時、現:文化財課）が担当した。
3. 発掘調査および資料整理・報告書の作成に際しては、以下の方々および機関からご指導・ご協力を賜った（五十音順、敬称略）。

阿子島 香　飯塚義之　五十嵐 愛　市川健夫　伊藤陽肇　岩渕竜也　内山幸子　大場亜弥
岡村道雄　小原一成　金井慎司　金田明大　鹿納晴尚　鹿又喜隆　菅野智則　日下和寿
髙妻洋成　古賀日加理　小林謙一　佐々木 理　佐々木由香　佐藤祐輔　佐野勝宏　沢田 敦
柴田恵子　菅原弘樹　鈴木三男　須藤 隆　早田 勉　千葉 史　辻森 樹　富岡直人　長瀬敏郎
箱﨑真隆　早瀬亮介　平野一郎　藤沼邦彦　古川善博　眞鍋早紀　松崎哲也　松本秀明
三澤裕之　宮本 毅　村松 篤　森田賢司　柳田俊雄　山口正紀　山﨑 健　山田しょう
山田凜太郎　横山 真　吉川純子　吉川昌伸　渡辺丈彦
文化庁　東北歴史博物館　宮城県多賀城跡調査研究所　大崎市教育委員会

4. 本書の第 1 図は、国土調査による『1/200,000 土地分類基本調査（地形分類図）「宮城県」』（経済企画庁総合開発局　1972）を使用して、宮城県教育庁文化財課が作成したものである。
5. 本書の第 2・4 図は、国土地理院発行の電子地形図 25000 を使用した。
6. 本書の第 3 図は、国土地理院の基盤地図情報数値標高モデル（10m メッシュ）を使用して作成した段彩図と陰影起伏図を重ね合わせたものに、宮城県遺跡地図の遺跡データを重ね合わせて作成した。作成に当たっては GIS ソフトウェア QGIS ver. 3.10 を使用し、以下の文献を適宜参考にした。

喜多耕一　2019 『業務で使う QGIS ver. 3　完全使いこなしガイド』全国林業改良普及協会
石井淳平　2020 「文化財業務で使う GIS　－ QGIS を利用した実践的操作－」『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用 2』奈良文化財研究所研究報告第 24 冊 pp. 138-194

7. 本書の図版 1（第 3 分冊）は、国土地理院ウェブサイト「地図・空中写真閲覧サービス」でダウンロードした画像（CTO7257, C5C- 5 ～ 9, C6B- 6 ～ 9）を加工して作成した。
8. 本書で使用した測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第Ⅹ系による。なお、方位は座標北を表している。
9. 本書で使用した遺構略号は以下のとおりである。

SB: 掘立柱建物跡　SD: 溝跡　SE: 井戸跡　SK: 埋葬犬骨、土坑
SX: 竪穴状遺構、石斧集積遺構、焼け面、焼土集積、沢跡、自然流路跡　P: 柱穴、小穴

10. 遺構図版にはそれぞれスケールを付しているが、縮尺は原則として以下のとおりである。

遺構 : 1/10, 1/60, 1/100　調査区 : 1/100, 1/200

11. 土色の記述に当たっては、『新版　標準土色帖　1996 年版』（小山・竹原　1996）を用いている。

12. 遺物図版にはそれぞれスケールを付しているが、縮尺は原則として以下のとおりである。遺物写真図版も同様である。

土器 : 1/3　土製品 : 2/3, 1/3　骨角牙製品 : 2/3　木製品 : 1/3, 1/6　漆製品 : 2/3

土師器・須恵器 : 1/3　瓦 : 1/4　陶磁器 : 1/3　金属製品 : 2/3

13. 石器・石製品の縮尺は原則として以下のとおりである。遺物写真図版も同様である。

剥片石器 : 2/3　石斧、石庖丁様石器 : 1/2　礫石器、石錘 : 1/3

円盤状石製品、石棒・石刀、石冠、独鈷石 : 1/2　その他の石製品 : 2/3

14. 調査区および遺構の実測図は、一部除いて株式会社 CUBIC 製遺構実測支援システム「遺構くん Cubic」および「トレースくん Cubic」を用いて作成した。

15. 遺物の実測図のうち、土器および土製品の一部を株式会社 CUBIC 製遺物実測支援システム「遺物くん Cubic」を用いて作成した。

16. 一部の土器および柱材の実測用下図は、SfM/MVS による 3D データを基に作成した。写真撮影は、株式会社 CUBIC 製 3D 回転撮影システムを使用し、3D データ作成は、SfM/MVS ソフトウェア Agsoft Metashape Professional / Standard を使用している。ここで作成した 3D データについて、株式会社 CUBIC 製遺物実測支援システム「遺物くん Cubic」を使用して二次元の展開図および断面図を作成し、実測用下図とした（小野　2019）。

17. 一部の土器･土製品の三次元レーザー計測および 3D 処理は、株式会社 CUBIC に委託して行った。ここで作成した 3D データについて、「遺物くん Cubic」を利用して実測用下図を作成した。

18. 一部の石器・石製品・骨角牙製品の三次元レーザー計測および 3D 処理、実測用下図の作成は、株式会社ラングに委託して行った。

19. 遺物の実測図で、赤色顔料の付着が顕著な部分は赤色、アスファルトまたはタール状の黒色の付着物や炭化物の付着が顕著な部分は灰色または茶色で示した。また、石器・石製品の一部にみられる磨面については、加工の痕跡が明瞭な部分のみ擦痕で表現し、それ以外は白色で示している。

20. 土師器については、製作にロクロを使用したものをロクロ調整、ロクロを使用していないものを非ロクロ調整と表記した。実測図で土師器内面にグレーの網掛けを行っているものは、内面が黒色処理されていることを示している。

21. 遺物の観察表で、土器の法量は一部から復元したもので正確でないものに（　）を付けた。土器以外の法量については残存する値である。

22. 土器・土製品の観察表で、文様内の充填要素については（　）で記した。

23. 石器･石製品の観察表で、「被熱」「加熱処理」「変形」「自然面」「付着物」の各項目における「0」は「なし」を意味し、「-」は「判別不能」を意味する。うち、「被熱」「自然面」の各項目においては痕跡のあるものを「1」とした。「加熱処理」においては巻末註 13 を参照のこと。「付着物」においては赤色顔料の付着を「R」、アスファルトまたはタール状の黒色物質の付着を「B」としている。

24. 石器・石製品の石材鑑定は、一部を東北大学東北アジア研究センターの宮本 毅氏、台湾中央研究院地球科学研究所の飯塚義之氏に依頼した。
25. 発掘調査における遺跡の空中写真撮影は、日本特殊撮影株式会社に委託して行った。
26. 遺物の写真撮影は、株式会社クロマテックシステムズ、株式会社アートプロフィールに委託して行った。
27. 土器の 6 面展開画像は、実測用下図と同様に SfM/MVS による 3D データを基に作成した。SfM/MVS 用の写真は、株式会社 CUBIC 製 3D 回転撮影システムを使用し、オリンパス社製デジタル一眼カメラ OM-D E-M1 Mark Ⅱ の深度合成モードで撮影している。3D データ作成は、SfM/MVS ソフトウェア Agsoft Metashape Professional / Standard を使用した。ここで作成した 3D データを基に、株式会社 CUBIC 製遺物実測支援システム「遺物くん Cubic」を使用して 6 面展開図を作成している。
28. 本書の一部は、それぞれ以下の個人（代表者）に依頼し、玉稿を賜った（敬称略）。

土器付着炭化物の放射性炭素年代測定および炭素・窒素安定同位体比分析
：小林謙一（中央大学） 第 2 分冊第 6 章

自然木の酸素同位体比分析：箱﨑真隆（国立歴史民俗博物館） 第 2 分冊第 11 章

レプリカ法による土器圧痕調査：佐藤祐輔（仙台市縄文の森広場） 第 2 分冊第 12 章

遺物付着の黒色物質の分析：髙妻洋成（奈良文化財研究所） 第 2 分冊第 13 章

石器・石製品および土製小玉の材料分析
：飯塚義之（台湾 中央研究院地球科学研究所） 第 2 分冊第 15 章

石器および骨角製品の痕跡学的分析：鹿又喜隆（東北大学） 第 2 分冊第 17 章

29. 自然科学的分析は、それぞれ以下の機関に委託して行い、その成果を本書に収録した。

動物遺存体：パリノ・サーヴェイ株式会社　第 2 分冊第 1 章

放射性炭素年代測定および炭素・窒素安定同位体比分析
：株式会社加速器分析研究所　第 2 分冊第 2 ～ 5 章

糞石分析：株式会社加速器分析研究所　第 2 分冊第 7 章

花粉・珪藻分析：古代の森研究舎　第 2 分冊第 8 章

木製品等の樹種同定：古代の森研究舎　第 2 分冊第 9 章

木材および種実分析：古代の森研究舎　第 2 分冊第 10 章

アスファルト塊の材質分析：株式会社パレオ・ラボ　第 2 分冊第 14 章

黒曜石の産地推定：パリノ・サーヴェイ株式会社　第 2 分冊第 16 章

30. 漆製品の保存処理・復元は、東北歴史博物館に依頼した。
31. 本書の整理等作業の分担および担当者は、以下のとおりである。

調査記録類・遺構：小野章太郎・久保井裕之・青山隼人・須藤貴宏・武田裕光

遺物：（基礎整理）小野章太郎・久保井裕之・青山隼人・須藤貴宏・武田裕光

（土器）小野章太郎・阿部博志・猪股清和・梅川隆寛

（土製品）小野章太郎・阿部博志

（石器・石製品）小野章太郎・山田晃弘

（骨角牙製品）西村 力・初鹿野博之・小野章太郎

（動物遺存体）西村 力

（木製品・漆製品・植物遺存体）小野章太郎

（古代以降の遺物）小野章太郎・梅川隆寛・矢内雅之

31. 本書の執筆は、調査担当者との協議の後に、小野章太郎が行い、編集は、小野章太郎（第1･3分冊、第2分冊第2～17章）・西村 力（第2分冊第1章）が行った。編集に当たっては、中島敦子・長田由佳・小林由美・伏見裕味子・鈴木美由紀・遠藤友美・湯元文子がこれを補助した。

32. 本遺跡の調査成果については、現地説明会や宮城県遺跡調査成果発表会（平成22年度、宮城県考古学会主催）、田尻地区ほ場整備関連遺跡調査成果発表会（宮城県教育委員会・大崎市教育委員会主催）、宮城県文化財調査報告書（第202・216・223・226・234・248・252集）、『宮城の遺跡100』（宮城県文化財保護協会発行）、『発掘された日本列島2015』（文化庁主催）、各種学会発表・刊行物、博物館等における展示・講座などでその内容の一部を公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合には、本書がこれらに優先する。

33. 発掘調査の記録類や出土遺物は、宮城県教育委員会が保管している。

調 査 要 項

遺 跡 名：北小松遺跡（宮城県遺跡地名表登載番号 No. 38005） 遺跡略号：UO

所 在 地：宮城県大崎市田尻小松字岩田東ほか

調査原因：経営体育成基盤整備事業（田尻西部地区）

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：宮城県教育庁文化財保護課（現：文化財課）

調 査 員：小野章太郎　久保井裕之　青山隼人　須藤貴宏　武田裕光
村上裕次　小野寺淳一　初鹿野博之　古田和誠　鈴木啓司

調査期間：平成22年4月26日～平成23年2月3日

調査面積：約6,412㎡

調査協力：文化庁　大崎市教育委員会
宮城県北部地方振興事務所　江合川沿岸土地改良区
株式会社大林土建　株式会社渡辺工務店

目　　次

第１分冊　本文編

序　　文
例　　言
調査要項
目　　次
第１章　遺跡の概要 …… 1
　第１節　遺跡の位置と自然環境 …… 1
　第２節　歴史的環境 …… 2
　　1. 遺跡の発見と発掘調査 …… 2
　　2. 縄文時代 …… 3
　　（1）大崎低地周辺部の遺跡 …… 3
　　（2）迫川沿岸低地周辺部の遺跡群 …… 6
　　3. 弥生時代以降の北小松遺跡周辺の様相 …… 9
第２章　調査に至る経緯と調査方法 …… 11
　第１節　調査に至る経緯 …… 11
　　1. 事前協議および範囲確認調査 …… 11
　　2. 本発掘調査 …… 11
　　（1）遺跡全体にかかわる調査成果 …… 11
　　（2）平成 21 年度の発掘調査成果 …… 13
　　（3）平成 22 年度以降の発掘調査成果 …… 15
　第２節　調査の方法と経過 …… 15
　　1. 発掘作業 …… 15
　　（1）調査の方針と調査地の選定 …… 15
　　（2）調査の方法 …… 16
　　（3）調査の経過 …… 20
　　2. 整理等作業 …… 22
第３章　周辺の地形と基本層序 …… 23
　第１節　発掘調査区周辺の地形 …… 23
　第２節　基本層序 …… 23
　第３節　Ⅵ層の分布と区分 …… 25

第４章　遺構の分布と遺物の分類 …… 26
第１節　遺構の分布 …… 26
1. 縄文時代から弥生時代前期 …… 26
(1) 遺構の分布と種類 …… 26
(2) 遺構包含層の分布と区分 …… 26
2. 古代以降 …… 27
第２節　遺物の分類 …… 27
1. 土 器 …… 27
(1) 器種・器形による分類（類型 1） …… 28
(2) 口縁部形態による分類（類型 1） …… 29
(3) 装飾・施文要素による分類（類型 1） …… 29
2. 土製品 …… 36
3. 石器・石製品 …… 38
(1) 石器 …… 38
(2) 石製品 …… 46
4. 骨角牙製品 …… 47
第５章　縄文時代から弥生時代前期の遺構と遺物 …… 53
第１節　東Ｃ丘陵南斜面（F-29・30・34・35・36・37 区） …… 53
1. 遺 構 …… 53
(1) 掘立柱建物跡 …… 53
(2) その他の遺構と出土遺物 …… 60
2. 遺物包含層 …… 62
(1) 堆積状況と分布範囲 …… 62
(2) 遺物の層位別出土状況 …… 63
第２節　東Ｃ・Ｄ丘陵間の小丘陵（F-23 区北・Ａ～Ｇグリッド・東） …… 77
1. 遺構 …… 77
(1) 掘立柱建物跡 …… 77
(2) 石斧集積遺構 …… 115
(3) 埋葬犬骨 …… 119
(4) 土坑 …… 123
(5) その他の遺構 …… 127
2. 遺物包含層 …… 129
(1) 堆積状況と分布範囲 …… 129
(2) 遺物の層位別出土状況 …… 130

第 3 節　東 D 丘陵北斜面（F-23 区南・西、F-24・38・39 区）……273
1. 遺物包含層……273
(1) 堆積状況と分布範囲……273
(2) 遺物の層位別出土状況……273
第 4 節　東 D・E 丘陵間西斜面（F-70・71 区）……311
1. 遺構……311
2. 遺物包含層……327
(1) 堆積状況と分布範囲……328
(2) 遺物の層位別出土状況……328
第 5 節　東 E 丘陵北斜面（F-55・87 区）……335
1. 遺物包含層……335
(1) 堆積状況と分布範囲……335
(2) 遺物の層位別出土状況……335
第 6 節　その他の地点から出土した遺物……342
第 6 章　古代以降の遺構と遺物……343
第 1 節　古代……343
1. 東 D 丘陵南斜面（F-63 区）の遺構・遺物……343
(1) 遺構……343
(2) 遺物……343
2. その他の地点から出土した遺物……346
第 2 節　中世以降……349
第 7 章　総括……351
第 1 節　遺物包含層から出土した遺物……351
1. 土器・土製品……351
(1) 東 C・D 丘陵間遺物包含層から出土した土器……351
(2) その他の遺物包含層から出土した土器……371
(3) 土製品……375
2. 石器・石製品……380
(1) 各器種の出土状況……380
(2) 石材……381
(3) 素材剥片の生産……389
(4) 剥片石器の製作・使用……393
(5) 礫石器……398
(6) 石製品……399
3. 骨角牙製品……402

第２節　遺構 ……406
1. 主要な遺構の時期と特徴 ……406
（1）掘立柱建物跡 ……406
（2）埋葬犬骨 ……412
（3）沢跡・溝跡 ……413
（4）石斧集積遺構 ……414
（5）遺物包含層 ……415
2. F 区における各時期の集落の様相 ……415
（1）縄文時代後期後葉から晩期 2 期（大洞 BC 式）……415
（2）晩期 3 期から 4a 期（大洞 C1 式～ C2 式古段階）……415
（3）晩期 4b 期（大洞 C2 式新段階）……420
（4）晩期 5a 期（大洞 A 式古段階）……420
（5）晩期 5a ～ 5c 期（大洞 A 式中～新段階）……420
（6）晩期 6 期（大洞 A' 式）～弥生時代前期 ……421
第３節　まとめ ……422
引用文献
付　　表　平成 22 年度発掘調査状況一覧 ……430
報告書抄録

図　目　次（第１分冊）

第 1 図　北小松遺跡の位置 ……1
第 2 図　北小松遺跡の位置と周辺の遺跡 ……4
第 3 図　宮城県北部の縄文時代遺跡の分布 ……8
第 4 図　田尻西部地区ほ場整備事業に係る発掘調査 ……12
第 5 図　経営体育成基盤整備事業（田尻西部地区）
調査区配置図 ……17・18
第 6 図　平成 22 年度調査区の位置と遺物包含層の
分布状況 ……19
第 7 図　F-23 区グリッド配置図 ……20
第 8 図　基本層序模式図（F-23 区、F-55 区、F-70 区）…23
第 9 図　F 区北半部　丘陵裾部の断面模式図 ……24
第 10 図　土器の分類基準図（類型 1）(1) ……30
第 11 図　土器の分類基準図（類型 1）(2) ……31
第 12 図　土器の分類基準図（類型 2）(1) ……32
第 13 図　土器の分類基準図（類型 2）(2) ……33
第 14 図　土器の分類基準図（類型 2）(3) ……34
第 15 図　土製品の分類基準図 ……37
第 16 図　石器・石製品の分類基準図 (1) ……40
第 17 図　石器・石製品の分類基準図 (2) ……41
第 18 図　石器・石製品の分類基準図 (3) ……42
第 19 図　骨角牙製品の分類基準図 (1) ……50
第 20 図　骨角牙製品の分類基準図 (2) ……51
第 21 図　F 区北部（F-29 区周辺）平面図 ……54
第 22 図　F-29・30 区平面図・断面図 ……55
第 23 図　F-29 区（拡張部分）平面図・断面図 ……57
第 24 図　SB193・194・195 建物跡平面図 ……58
第 25 図　SB193・194・195 建物跡断面図 ……58
第 26 図　SB196・197 建物跡平面図・断面図 ……59
第 27 図　掘立柱建物跡、竪穴状遺構出土遺物 ……60
第 28 図　F-34 区平面図・断面図 ……63
第 29 図　F-36・37 区平面図・断面図 ……64
第 30 図　F-35 区平面図・断面図 ……65
第 31 図　東 C 丘陵南斜面遺物包含層出土土器 (1) ……66
第 32 図　東 C 丘陵南斜面遺物包含層出土土器 (2) ……67
第 33 図　東 C 丘陵南斜面遺物包含層出土土器 (3) ……68
第 34 図　東 C 丘陵南斜面遺物包含層出土土器 (4) ……69

第 35 図　東 C 丘陵南斜面遺物包含層出土土器（5）……70
第 36 図　東 C 丘陵南斜面遺物包含層出土土製品……71
第 37 図　東 C 丘陵南斜面遺物包含層出土石器・石製品（1）
……72
第 38 図　東 C 丘陵南斜面遺物包含層出土石器・石製品（2）
……73
第 39 図　東 C 丘陵南斜面遺物包含層出土石器・石製品（3）
……74
第 40 図　F-23 区平面図……79・80
第 41 図　F-23 区断面図……81・82
第 42 図　東 C・D 丘陵間掘立柱建物跡平面図（1）……84
第 43 図　東 C・D 丘陵間掘立柱建物跡平面図（2）……85
第 44 図　SB153・154・155・156・157・158・159 建物跡
平面図……87
第 45 図　SB154・155・156・158 建物跡、
SK138 土坑断面図……88
第 46 図　SB153・154・155・156・157・158 建物跡
出土土器・土製品・石器……89
第 47 図　SB160・161 建物跡平面図、出土土器……89
第 48 図　SB162A・162B 建物跡平面図・断面図……90
第 49 図　SB162A・162B 建物跡出土土器・石器……91
第 50 図　SB163 建物跡平面図……91
第 51 図　SB164・165・165・167 建物跡平面図・断面図
……93
第 52 図　SB165・166・167 建物跡出土土器・石器……94
第 53 図　SB168 建物跡平面図、出土遺物……95
第 54 図　SB169 建物跡平面図……96
第 55 図　SB170 建物跡平面図……96
第 56 図　SB170 建物跡出土石器・石製品……96
第 57 図　SB171・172・173 建物跡平面図・断面図……97
第 58 図　SB171・172・173 建物跡出土土器・土製品・石器
……98
第 59 図　SB174・175・176 建物跡平面図・断面図……100
第 60 図　SB174・175・176 建物跡出土土器……100
第 61 図　SB177 建物跡平面図……101
第 62 図　SB178 建物跡平面図……101
第 63 図　SB179 建物跡平面図……101
第 64 図　SB180・181・182A・182B・183 建物跡平面図
……103
第 65 図　SB180・182A・182B 建物跡断面図……104
第 66 図　SB182A・182B・183 建物跡出土土器・石器
……104
第 67 図　SB184A・184B 建物跡平面図・断面図……106
第 68 図　SB184A・184B 建物跡出土土器・土製品……107
第 69 図　SB185・186・187・188・189・190・191 建物跡
平面図……109
第 70 図　SB186・187・188・191 建物跡断面図……110
第 71 図　SB185・187・188・191 建物跡出土土器・石器
……110
第 72 図　SB192 建物跡平面図・断面図……112
第 73 図　SB192 建物跡出土石器・木製品……112
第 74 図　SB192 建物跡出土柱材……113
第 75 図　その他のピット出土土器・土製品・石製品……115
第 76 図　土坑・溝跡・その他の遺構平面図（1）……116
第 77 図　土坑・溝跡・その他の遺構平面図（2）……117
第 78 図　SX131 石斧集積遺構平面図・断面図、出土石器
……118
第 79 図　SK125 埋葬犬骨平面図・断面図……120
第 80 図　SK127 埋葬犬骨平面図・断面図……121
第 81 図　SK128 埋葬犬骨平面図・断面図……121
第 82 図　SK134・135 埋葬犬骨平面図……122
第 83 図　F-23 区土坑断面図……124
第 84 図　土坑出土土器・土製品……126
第 85 図　遺構確認面出土土器・土製品・石製品……128
第 86 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（1）……131
第 87 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（2）……132
第 88 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（3）……133
第 89 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（4）……134
第 90 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（5）……135
第 91 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（6）……136
第 92 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（7）……137
第 93 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（8）……138
第 94 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（9）……139
第 95 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（10）……140
第 96 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（11）……141
第 97 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（12）……142
第 98 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（13）……143
第 99 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（14）……144
第 100 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（15）…145
第 101 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（16）…146
第 102 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（17）…147
第 103 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（18）…148
第 104 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（19）…149
第 105 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（20）…150
第 106 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（21）…152
第 107 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（22）…153
第 108 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（23）…154
第 109 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（24）…155
第 110 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（25）…156
第 111 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（26）…157
第 112 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（27）…158
第 113 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（28）…159
第 114 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（29）…160
第 115 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（30）…161

第 116 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（31）・・・162
第 117 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（32）・・・163
第 118 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（33）・・・164
第 119 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（34）・・・165
第 120 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（35）・・・166
第 121 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（36）・・・167
第 122 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（37）・・・168
第 123 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（38）・・・169
第 124 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（39）・・・170
第 125 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（40）・・・171
第 126 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（41）・・・172
第 127 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（42）・・・173
第 128 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（43）・・・174
第 129 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（44）・・・175
第 130 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（45）・・・176
第 131 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（46）・・・177
第 132 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（47）・・・178
第 133 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（48）・・・179
第 134 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（49）・・・180
第 135 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（50）・・・181
第 136 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（51）・・・182
第 137 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（52）・・・183
第 138 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（53）・・・184
第 139 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（54）・・・185
第 140 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（55）・・・186
第 141 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（56）・・・187
第 142 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（57）・・・188
第 143 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（58）・・・189
第 144 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（59）・・・190
第 145 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（60）・・・191
第 146 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（61）・・・192
第 147 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（62）・・・193
第 148 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（63）・・・194
第 149 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（64）・・・195
第 150 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（65）・・・196
第 151 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（66）・・・197
第 152 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（67）・・・198
第 153 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（68）・・・199
第 154 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（69）・・・200
第 155 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（70）・・・201
第 156 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（71）・・・202
第 157 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（72）・・・203
第 158 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（73）・・・204
第 159 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（74）・・・205
第 160 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（75）・・・206
第 161 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（76）・・・207
第 162 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土製品（1）・・・210
第 163 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土製品（2）・・・211
第 164 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土製品（3）・・・212
第 165 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土製品（4）・・・213
第 166 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土製品（5）・・・214
第 167 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土製品（6）・・・215
第 168 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土製品（7）・・・216
第 169 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土製品（8）・・・217
第 170 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土製品（9）・・・218
第 171 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土製品（10）・・・219
第 172 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土製品（11）・・・220
第 173 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土製品（12）・・・221
第 174 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土製品（13）・・・222
第 175 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土製品（14）・・・223
第 176 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土製品（15）・・・224
第 177 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（1）・・・226
第 178 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（2）・・・227
第 179 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（3）・・・228
第 180 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（4）・・・229
第 181 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（5）・・・230
第 182 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（6）・・・231
第 183 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（7）・・・232
第 184 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（8）・・・233

第 185 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（9）……234
第 186 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（10）……235
第 187 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（11）……236
第 188 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（12）……237
第 189 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（13）……238
第 190 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（14）……239
第 191 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（15）……240
第 192 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（16）……241
第 193 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（17）……242
第 194 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（18）……243
第 195 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（19）……244
第 196 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（20）……245
第 197 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（21）……246
第 198 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（22）……247
第 199 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（23）……248
第 200 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（24）……249
第 201 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（25）……250
第 202 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土石器・石製品（26）……250
第 203 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土骨角牙製品（1）……255
第 204 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土骨角牙製品（2）……256
第 205 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土骨角牙製品（3）……257
第 206 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土骨角牙製品（4）……258
第 207 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土骨角牙製品（5）……259
第 208 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土骨角牙製品（6）……260
第 209 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土骨角牙製品（7）……261
第 210 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土骨角牙製品（8）……262
第 211 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土骨角牙製品（9）……263
第 212 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土骨角牙製品（10）……264
第 213 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土骨角牙製品（11）……265
第 214 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土骨角牙製品（12）……266
第 215 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土骨角牙製品（13）……267
第 216 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土骨角牙製品（14）……268
第 217 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土骨角牙製品（15）……269
第 218 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土漆製品……271
第 219 図　F-23・24・38・39 区平面図……274
第 220 図　F-23 区南・西平面図……275
第 221 図　F-23 区南・西断面図・柱状模式図……276
第 222 図　F-24・38・39 区平面図……277
第 223 図　F-24・38・39 区断面図……278
第 224 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土土器（1）……280
第 225 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土土器（2）……281
第 226 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土土器（3）……282
第 227 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土土器（4）……283
第 228 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土土器（5）……284
第 229 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土土器（6）……285
第 230 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土土器（7）……286
第 231 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土土器（8）……287
第 232 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土土器（9）……288
第 233 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土土器（10）……289
第 234 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土土器（11）……290
第 235 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土土器（12）……291
第 236 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土土器（13）……292
第 237 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土土器（14）……293
第 238 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土土器（15）……294
第 239 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土土器（16）……295
第 240 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土土器（17）……296
第 241 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土土器（18）……297
第 242 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土土器（19）……298
第 243 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土土製品（1）……299

第 244 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土土製品（2）……300
第 245 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土土製品（3）……301
第 246 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土石器･石製品（1）……303
第 247 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土石器･石製品（2）……304
第 248 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土石器･石製品（3）……305
第 249 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土石器･石製品（4）……306
第 250 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土石器･石製品（5）……307
第 251 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土石器･石製品（6）……308
第 252 図　東 D 丘陵北斜面遺物包含層出土石器･石製品（7）……309
第 253 図　F-70・71 区平面図……312
第 254 図　F-70 区平面図……313
第 255 図　F-71 区平面図……314
第 256 図　F-70・71 区断面図……315・316
第 257 図　SX151A 沢跡の検出範囲……319
第 258 図　SX151B 沢跡の検出範囲……319
第 259 図　SX151C 沢跡の検出範囲……320
第 260 図　SX151D 沢跡の検出範囲……320
第 261 図　SX151E 沢跡の検出範囲……322
第 262 図　SX151F 沢跡の検出範囲……322
第 263 図　SX151G 沢跡の検出範囲……323
第 264 図　SD152A 沢跡の検出範囲……324
第 265 図　SD152B 沢跡の検出範囲……324
第 266 図　SX151 沢跡出土土器（1）……325
第 267 図　SX151 沢跡出土土器（2）……326
第 268 図　SX151 沢跡出土土製品……327
第 269 図　SX151 沢跡出土石器……327
第 270 図　東 D・E 丘陵間遺物包含層出土土器（1）……329
第 271 図　東 D・E 丘陵間遺物包含層出土土器（2）……330
第 272 図　東 D・E 丘陵間遺物包含層出土土器（3）……331
第 273 図　東 D・E 丘陵間遺物包含層出土土製品……331
第 274 図　東 D・E 丘陵間遺物包含層出土石器……332
第 275 図　F 区南西側（F-55 区周辺）平面図……336
第 276 図　F-55 区平面図……337
第 277 図　F-55 区断面図……338
第 278 図　F-87 区平面図・断面図……338
第 279 図　東 E 丘陵北斜面遺物包含層出土土器（1）……339
第 280 図　東 E 丘陵北斜面遺物包含層出土土器（2）……340
第 281 図　東 E 丘陵北斜面遺物包含層出土石器……340
第 282 図　東 D 丘陵南斜面出土土器……342
第 283 図　東 E 丘陵北斜面出土土器・石器……342
第 284 図　F-63 区平面図・断面図……344
第 285 図　F-63 区出土遺物……345
第 286 図　F 区出土遺物（土師器・須恵器）……347
第 287 図　F 区出土遺物（須恵器・瓦）……348
第 288 図　F 区出土遺物（中世陶器・近世磁器・金属製品）……349
第 289 図　層位別の土器の大きさ・形状（深鉢・鉢・浅鉢・皿）……361
第 290 図　東 C･D 丘陵間遺物包含層　層位別出土土器（1）……362
第 291 図　東 C･D 丘陵間遺物包含層　層位別出土土器（2）……363
第 292 図　東 C･D 丘陵間遺物包含層　層位別出土土器（3）……364
第 293 図　東 C･D 丘陵間遺物包含層　層位別出土土器（4）……365
第 294 図　東 C･D 丘陵間遺物包含層　層位別出土土器（5）……366
第 295 図　東 C･D 丘陵間遺物包含層　層位別出土土器（6）……367
第 296 図　東 C･D 丘陵間遺物包含層　層位別出土土器（7）……368
第 297 図　東 C･D 丘陵間遺物包含層　層位別出土土器（8）……369
第 298 図　装飾類型の出現状況（縄文時代晩期中葉～弥生時代前期）……371
第 299 図　耳飾の層位別類型出現頻度……378
第 300 図　土製小玉の層位別類型出現頻度……378
第 301 図　円盤状土製品の平面形（層位別）……379
第 302 図　円盤状土製品の断面形（層位別）……379
第 303 図　円盤状土製品の成形方法（層位別）……379
第 304 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層器種別石材組成（1）……390
第 305 図　東 C・D 丘陵間遺物包含層器種別石材組成（2）……391
第 306 図　剥片・砕片・石核の石材別の加熱処理痕跡出現頻度……392
第 307 図　剥片石器の加熱処理痕跡出現頻度……394
第 308 図　石鏃　層位別類型出現頻度……395
第 309 図　石鏃類型別石材組成……395
第 310 図　石鏃の大きさ・形状……396
第 311 図　不定形石器　層位別類型出現頻度……397
第 312 図　不定形石器類型別石材組成……397
第 313 図　礫石器の大きさ・形状……399
第 314 図　円盤状石製品の大きさ・形状……400

第 315 図　骨角牙製品の大きさ……404
第 316 図　F 区における主要遺構の変遷……416
第 317 図　各時期の主要遺構および遺物包含層の
分布状況（1）……417
第 318 図　各時期の主要遺構および遺物包含層の
分布状況（2）……418
第 319 図　各時期の主要遺構および遺物包含層の
分布状況（3）……419

表　目　次（第 1 分冊）

第 1 表　遺跡地名表……5
第 2 表　F-29・30 区土層観察表……56
第 3 表　SB193・194・195 建物跡土層観察表……59
第 4 表　東 C 丘陵南斜面掘立柱建物跡一覧……60
第 5 表　調査区間の遺物包含層（Ⅵ層）の対応……62
第 6 表　F-23 区北・A ～ G グリッド・東　土層観察表
……83
第 7 表　東 C・D 丘陵間掘立柱建物跡一覧……114
第 8 表　東 C・D 丘陵間埋葬犬骨一覧……123
第 9 表　東 C・D 丘陵間土坑一覧……127
第 10 表　F-23 区南・西　土層観察表……277
第 11 表　調査区間の遺物包含層（Ⅵ層）の対応……278
第 12 表　F-70・71 区土層観察表（1）……317
第 13 表　F-70・71 区土層観察表（2）……318
第 14 表　東 C・D 丘陵間遺物包含層　層位別の器種類型
出現頻度……352
第 15 表　東 C・D 丘陵間遺物包含層　層位別の装飾
出現頻度……353
第 16 表　東 C・D 丘陵間遺物包含層　層位別の主要な
装飾類型出現頻度……353
第 17 表　半精製土器・粗製土器の層位別の各類型
出現頻度……371
第 18 表　その他の地点の層位別器種類型出現頻度……373
第 19 表　その他の地点の層位別装飾出現頻度……373
第 20 表　各地点における土製品の層位別出土状況……376
第 21 表　土製小玉の装飾の有無（類型別）……378
第 22 表　各地点における石器・石製品の
層位別出土状況（1）……382
第 23 表　各地点における石器・石製品の
層位別出土状況（2）……383
第 24 表　東 C・D 丘陵間遺物包含層石器・石製品
層位別出土状況……384
第 25 表　東 C・D 丘陵間遺物包含層
石器・石製品類型別出現頻度……385
第 26 表　東 C・D 丘陵間遺物包含層　層位別石材組成
（剥片石器）……386
第 27 表　東 C・D 丘陵間遺物包含層　層位別石材組成
（礫石器）……386
第 28 表　東 C・D 丘陵間遺物包含層　層位別石材組成
（剥片・砕片・石核）点数……387
第 29 表　東 C・D 丘陵間遺物包含層　層位別石材組成
（剥片・砕片・石核）重量（g）……387
第 30 表　東 C・D 丘陵間遺物包含層器種別石材組成（1）
……388
第 31 表　東 C・D 丘陵間遺物包含層器種別石材組成（2）
……389
第 32 表　東 C・D 丘陵間遺物包含層
剥片・砕片・石核各属性の層位別出現頻度……392
第 33 表　剥片石器の層位別の加熱処理痕跡出現頻度…394
第 34 表　各器種における再加工・転用……398
第 35 表　骨角牙製品層位別出土状況……403
第 36 表　骨角牙製品層位別各類型出現頻度……403
第 37 表　骨角牙製品器種別素材……403
第 38 表　掘立柱建物跡の分類と推定時期……408
第 39 表　遺構の推定時期……409

第２分冊　分析編

目　　次

第１章　北小松遺跡出土の動物遺存体分析 …… パリノ・サーヴェイ株式会社　1
第２章　北小松遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定）
……（株）加速器分析研究所　167
第３章　北小松遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定）および炭素・窒素安定同位体分析（1）……（株）加速器分析研究所　181
第４章　北小松遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定）および炭素・窒素安定同位体分析（2）……（株）加速器分析研究所　199
第５章　北小松遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定）および炭素・窒素安定同位体分析（3）……（株）加速器分析研究所　221
第６章　北小松遺跡出土土器付着物の炭素 14 年代測定・同位体比
……小林謙一（中央大学）・東京大学総合研究博物館放射性炭素年代測定室　229
第７章　北小松遺跡における糞石分析 ……（株）加速器分析研究所　239
第８章　北小松遺跡Ｆ区の花粉・珪藻分析 ……吉川昌伸（古代の森研究舎）　249
第９章　北小松遺跡Ｆ区出土木製品等の樹種同定 ……吉川純子（古代の森研究舎）　279
第 10 章　北小松遺跡で出土した木材と種実 ……吉川純子（古代の森研究舎）　283
第 11 章　酸素同位体比年輪年代法に基づく北小松遺跡出土木材の年代測定
…… 箱﨑真隆（国立歴史民俗博物館）・李 貞・中塚 武（名古屋大学）・木村勝彦（福島大学）・小林謙一（中央大学）　295
第 12 章　北小松遺跡におけるレプリカ法による土器圧痕の調査
……佐藤祐輔（仙台市縄文の森広場）　299
第 13 章　北小松遺跡出土の土器・石器に付着した黒色物質の分析
……髙妻洋成（奈良文化財研究所）　319
第 14 章　北小松遺跡出土のアスファルト塊の材質分析 …… 藤根 久（パレオ・ラボ）　325
第 15 章　北小松遺跡出土の石器・石製品および土製小玉の非破壊化学分析
…… 飯塚義之（台湾 中央研究院地球科学研究所）　331
第 16 章　北小松遺跡ほか出土の黒曜石の産地推定 …… パリノ・サーヴェイ株式会社　341
第 17 章　北小松遺跡出土資料における痕跡学的分析 ……鹿又喜隆（東北大学）　363

第３分冊　写真図版編

目　　次

写真図版

図版１　北小松遺跡周辺空中写真…… 1
図版２　遺跡遠景（1）…… 2
図版３　遺跡遠景（2）…… 3
図版４　F 区北半部…… 4
図版５　F-29 区（拡張部分）…… 5
図版６　F-29 区、F-30 区 …… 6
図版７　F-34 区、F-35 区、F-36 区、F-37 区 …… 7
図版８　F-23 区ほか全景 …… 8
図版９　F-23 区全景 …… 9
図版 10　F-23 区南壁 ……10
図版 11　F-23 区掘立柱建物跡（1） ……11
図版 12　F-23 区掘立柱建物跡（2） ……12
図版 13　F-23 区掘立柱建物跡（3） ……13
図版 14　F-23 区埋葬犬骨 ……14
図版 15　F-23 区埋葬犬骨、石斧集積遺構、焼け面、
焼土集積……15
図版 16　F-23 区Ⅵａ～Ⅵｂ層遺物出土状況 ……16
図版 17　F-23 区Ⅵｂ層遺物出土状況（1） ……17
図版 18　F-23 区Ⅵｂ層遺物出土状況（2） ……18
図版 19　F-23 区Ⅵｂ～Ⅵｃ層遺物出土状況 ……19
図版 20　F-23 区Ⅵｃ層遺物出土状況（1） ……20
図版 21　F-23 区Ⅵｃ層遺物出土状況（2） ……21
図版 22　F-23 区Ⅵｃ層遺物出土状況（3） ……22
図版 23　F-23 区Ⅵｃ層遺物出土状況（4） ……23
図版 24　F-23 区Ⅵｃ層遺物出土状況（5） ……24
図版 25　F-23 区Ⅵｃ層遺物出土状況（6） ……25
図版 26　F-23 区Ⅵｃ層遺物出土状況（7） ……26
図版 27　F-23 区Ⅵｃ層遺物出土状況（8） ……27
図版 28　F-23 区Ⅵｃ層遺物出土状況（9） ……28
図版 29　F-23 区Ⅵｃ層遺物出土状況（10）……29
図版 30　F-23 区Ⅵｄ層遺物出土状況（1） ……30
図版 31　F-23 区Ⅵｄ層遺物出土状況（2） ……31
図版 32　F-23 区Ⅵｅ層遺物出土状況（1） ……32
図版 33　F-23 区Ⅵｅ層遺物出土状況（2）、
調査風景……33
図版 34　F-23 区南、F-23 区西 ……34
図版 35　F-23 区南Ⅵｄ層遺物出土状況 ……35
図版 36　F-24 区、F-38 区、F-39 区 ……36
図版 37　F 区南半部……37
図版 38　F-70 区、F-71 区 ……38
図版 39　F-70 区 ……39
図版 40　F-70 区 SD152 溝跡、SX151 沢跡（1） ……40
図版 41　F-70 区 SD152 溝跡、SX151 沢跡（2） ……41
図版 42　F-71 区 ……42
図版 43　F-55 区、F-87 区 ……43
図版 44　F 区その他の調査区（1）……44
図版 45　F 区その他の調査区（2）……45
図版 46　F-23 区出土土器（1） ……46
図版 47　F-23 区出土土器（2） ……47
図版 48　F 区北半部出土土製品……48
図版 49　東Ｃ・Ｄ丘陵間遺物包含層
出土石器・石製品……49
図版 50　F-23 区出土石器・石製品 ……50
図版 51　東Ｃ丘陵南斜面、東Ｄ丘陵北斜面遺物包含層
出土石器・石製品……51
図版 52　東Ｃ・Ｄ丘陵間遺物包含層
出土骨角牙製品（1）……52
図版 53　東Ｃ・Ｄ丘陵間遺物包含層出土
骨角牙製品（2）……53
図版 54　東Ｃ・Ｄ丘陵間遺物包含層
出土骨角牙製品（3）……54
図版 55　東Ｃ・Ｄ丘陵間遺物包含層
出土骨角牙製品（4）……55
図版 56　東Ｃ丘陵南斜面掘立柱建物跡、竪穴状遺構、
遺物包含層出土土器（1）……56
図版 57　東Ｃ丘陵南斜面遺物包含層出土土器（2） …57
図版 58　東Ｃ丘陵南斜面遺物包含層出土土器（3） …58
図版 59　東Ｃ丘陵南斜面遺物包含層出土土器（4） …59
図版 60　東Ｃ丘陵南斜面遺物包含層出土土製品 ……59
図版 61　東Ｃ丘陵南斜面遺物包含層
出土石器・石製品（1）……60
図版 62　東Ｃ丘陵南斜面遺物包含層
出土石器・石製品（2）……61
図版 63　東Ｃ・Ｄ丘陵間掘立柱建物跡
出土遺物（1）……62
図版 64　東Ｃ・Ｄ丘陵間掘立柱建物跡
出土遺物（2）……63
図版 65　東Ｃ・Ｄ丘陵間その他のピット出土土器・
土製品・石製品……64
図版 66　東Ｃ・Ｄ丘陵間石斧集積遺構、土坑、
遺構確認面出土遺物……65
図版 67　東Ｃ・Ｄ丘陵間遺物包含層出土土器（1）……66
図版 68　東Ｃ・Ｄ丘陵間遺物包含層出土土器（2）……67
図版 69　東Ｃ・Ｄ丘陵間遺物包含層出土土器（3）……68

図版 70　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（4）……69
図版 71　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（5）……70
図版 72　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（6）……71
図版 73　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（7）……72
図版 74　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（8）……73
図版 75　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（9）……74
図版 76　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（10）…75
図版 77　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（11）…76
図版 78　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（12）…77
図版 79　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（13）…78
図版 80　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（14）…79
図版 81　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（15）…80
図版 82　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（16）…81
図版 83　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（17）…82
図版 84　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（18）…83
図版 85　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（19）…84
図版 86　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（20）…85
図版 87　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（21）…86
図版 88　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（22）…87
図版 89　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（23）…88
図版 90　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（24）…89
図版 91　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（25）…90
図版 92　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（26）…91
図版 93　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（27）…92
図版 94　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（28）…93
図版 95　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（29）…94
図版 96　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（30）…95
図版 97　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（31）…96
図版 98　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（32）…97
図版 99　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（33）…98
図版 100　東 C・D 丘陵間遺物包含層出土土器（34）…99
図版 101　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（35）…… 100
図版 102　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（36）…… 101
図版 103　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（37）…… 102
図版 104　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（38）…… 103
図版 105　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（39）…… 104
図版 106　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（40）…… 105
図版 107　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（41）…… 106
図版 108　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（42）…… 107
図版 109　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（43）…… 108
図版 110　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（44）…… 109
図版 111　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（45）…… 110
図版 112　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（46）…… 111
図版 113　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（47）…… 112
図版 114　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（48）…… 113
図版 115　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（49）…… 114
図版 116　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（50）…… 115
図版 117　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（51）…… 116
図版 118　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（52）…… 117
図版 119　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（53）…… 118
図版 120　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（54）…… 119
図版 121　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（55）…… 120
図版 122　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（56）…… 121
図版 123　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（57）…… 122
図版 124　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（58）…… 123
図版 125　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（59）…… 124
図版 126　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（60）…… 125
図版 127　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（61）…… 126
図版 128　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（62）…… 127
図版 129　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土器（63）…… 128
図版 130　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土製品（1）…… 129
図版 131　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土製品（2）…… 129

図版 132　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土製品（3）…… 130
図版 133　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土製品（4）…… 131
図版 134　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土製品（5）…… 132
図版 135　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土製品（6）…… 133
図版 136　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土製品（7）…… 134
図版 137　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土土製品（8）…… 135
図版 138　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土石器・石製品（1）…… 136
図版 139　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土石器・石製品（2）…… 137
図版 140　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土石器・石製品（3）…… 138
図版 141　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土石器・石製品（4）…… 139
図版 142　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土石器・石製品（5）…… 140
図版 143　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土石器・石製品（6）…… 141
図版 144　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土石器・石製品（7）…… 142
図版 145　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土石器・石製品（8）…… 143
図版 146　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土石器・石製品（9）…… 144
図版 147　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土石器・石製品（10）…… 145
図版 148　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土石器・石製品（11）…… 146
図版 149　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土石器・石製品（12）…… 147
図版 150　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土石器・石製品（13）…… 148
図版 151　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土骨角牙製品（1）…… 148
図版 152　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土骨角牙製品（2）…… 149
図版 153　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土骨角牙製品（3）…… 150
図版 154　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土骨角牙製品（4）…… 151
図版 155　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土骨角牙製品（5）…… 152
図版 156　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土骨角牙製品（6）…… 153
図版 157　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土骨角牙製品（7）…… 154
図版 158　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土骨角牙製品（8）…… 155
図版 159　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土骨角牙製品（9）…… 156
図版 160　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土骨角牙製品（10）…… 157
図版 161　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土漆製品…… 158
図版 162　東 C・D 丘陵間遺物包含層
出土糞石…… 158
図版 163　東 D 丘陵北斜面遺物包含層
出土土器（1）…… 159
図版 164　東 D 丘陵北斜面遺物包含層
出土土器（2）…… 160
図版 165　東 D 丘陵北斜面遺物包含層
出土土器（3）…… 161
図版 166　東 D 丘陵北斜面遺物包含層
出土土器（4）…… 162
図版 167　東 D 丘陵北斜面遺物包含層
出土土器（5）…… 163
図版 168　東 D 丘陵北斜面遺物包含層
出土土器（6）…… 164
図版 169　東 D 丘陵北斜面遺物包含層
出土土器（7）…… 165
図版 170　東 D 丘陵北斜面遺物包含層
出土土器（8）…… 166
図版 171　東 D 丘陵北斜面遺物包含層
出土土器（9）…… 167
図版 172　東 D 丘陵北斜面遺物包含層
出土土器（10）…… 168
図版 173　東 D 丘陵北斜面遺物包含層
出土土器（11）…… 169
図版 174　東 D 丘陵北斜面遺物包含層
出土土器（12）…… 170
図版 175　東 D 丘陵北斜面遺物包含層
出土土器（13）…… 171
図版 176　東 D 丘陵北斜面遺物包含層
出土土器（14）…… 172
図版 177　東 D 丘陵北斜面遺物包含層
出土土器（15）…… 173

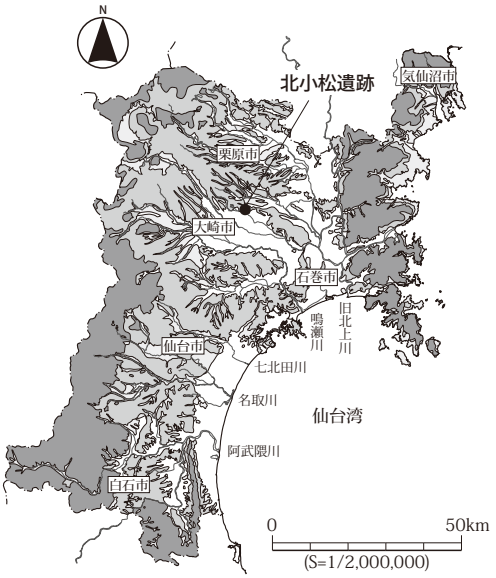
図版 178　東 D 丘陵北斜面遺物包含層
出土土器（16）…… 174
図版 179　東 D 丘陵北斜面遺物包含層
出土土製品（1）…… 175
図版 180　東 D 丘陵北斜面遺物包含層
出土土製品（2）…… 176
図版 181　東 D 丘陵北斜面遺物包含層
出土石器・石製品（1）…… 177
図版 182　東 D 丘陵北斜面遺物包含層
出土石器・石製品（2）…… 178
図版 183　東 D 丘陵北斜面遺物包含層
出土石器・石製品（3）…… 179
図版 184　東 D 丘陵北斜面遺物包含層
出土石器・石製品（4）…… 180
図版 185　SX151 沢跡出土土器 …… 181
図版 186　SX151 沢跡出土土製品 …… 182
図版 187　SX151 沢跡出土石器 …… 182
図版 188　東 D・E 丘陵間遺物包含層出土土器（1）… 183
図版 189　東 D・E 丘陵間遺物包含層
出土土器（2）・土製品…… 184
図版 190　東 D・E 丘陵間遺物包含層出土石器…… 185
図版 191　東 E 丘陵北斜面遺物包含層出土土器 …… 185
図版 192　東 E 丘陵北斜面遺物包含層出土石器 …… 186
図版 193　東 D 丘陵南斜面出土土器 …… 186
図版 194　東 E 丘陵北斜面出土土器・石器 …… 186
図版 195　F-63 区出土遺物（土師器・須恵器・瓦）… 187
図版 196　F 区出土遺物（土師器・須恵器）…… 188
図版 197　F 区出土遺物（瓦・中世陶器・近世磁器・
金属製品）…… 189
図版 198　浅鉢（10Po2538、東 C・D 丘陵間遺物
包含層Ⅵ e2 層出土）6 面展開画像（1） …… 190
図版 199　浅鉢（10Po2538、東 C・D 丘陵間遺物
包含層Ⅵ e2 層出土）6 面展開画像（2） …… 191
図版 200　深鉢（10Po2084、東 C・D 丘陵間遺物
包含層Ⅵ c4 層出土）6 面展開画像（1） …… 192
図版 201　深鉢（10Po2084、東 C・D 丘陵間遺物
包含層Ⅵ c4 層出土）6 面展開画像（2） …… 193
図版 202　深鉢（10Po840、東 C・D 丘陵間遺物
包含層Ⅵ c4 層出土）6 面展開画像（1） …… 194
図版 203　深鉢（10Po840、東 C・D 丘陵間遺物
包含層Ⅵ c4 層出土）6 面展開画像（2） …… 195
図版 204　深鉢（10Po848、東 C・D 丘陵間遺物
包含層Ⅵ b2 層出土）6 面展開画像（1） …… 196
図版 205　深鉢（10Po848、東 C・D 丘陵間遺物
包含層Ⅵ b2 層出土）6 面展開画像（2） …… 197
図版 206　壺（10Po1851、東 C・D 丘陵間遺物
包含層Ⅵ c7 層出土）6 面展開画像（1） …… 198
図版 207　壺（10Po1851、東 C・D 丘陵間遺物
包含層Ⅵ c7 層出土）6 面展開画像（2） …… 199
図版 208　壺（10Po2178、東 C・D 丘陵間遺物
包含層Ⅵ c4 層出土）6 面展開画像（1） …… 200
図版 209　壺（10Po2178、東 C・D 丘陵間遺物
包含層Ⅵ c4 層出土）6 面展開画像（2） …… 201
図版 210　四脚付浅鉢（10Po1962、東 C・D 丘陵間遺物
包含層Ⅵ c4-6 層出土）6 面展開画像（1）…… 202
図版 211　四脚付浅鉢（10Po1962、東 C・D 丘陵間遺物
包含層Ⅵ c4-6 層出土）6 面展開画像（2）…… 203
図版 212　台付浅鉢（10Po1838、東 C・D 丘陵間遺物
包含層Ⅵ b2 層出土）6 面展開画像（1） …… 204
図版 213　台付浅鉢（10Po1838、東 C・D 丘陵間遺物
包含層Ⅵ b2 層出土）6 面展開画像（2） …… 205

第１章　遺跡の概要

第１節　遺跡の位置と自然環境

北小松遺跡は、宮城県北部の大崎市田尻小松ほかに所在し（第１・２図）、江合川と鳴瀬川の沖積作用で形成された東西約 20km、南北約 10km の大崎平野（大崎低地）の北縁部に位置する。

遺跡の南に広がる大崎低地は、現河道および旧河道沿いに自然堤防が形成され、これらの間に後背湿地が広がる。南を鹿島台丘陵（三本木丘陵、大松沢丘陵）、北を清滝丘陵（築館丘陵）に囲まれており、これらの丘陵はそれぞれ東へ延びる。遺跡の位置する清滝丘陵は大崎低地の東部で低くなり、末端部では断続的となる。低地の東縁部になると、ごく低い丘陵が点在する状況が見られる（宮城県企画部土地対策課　1989）。



第1図　北小松遺跡の位置

遺跡は、清滝丘陵が南東に細長く張り出した箇所で、樹枝状に延びる低丘陵の裾部と、その西側に広がる後背湿地に位置する。標高は約 13.4 ～ 49.7m で、現在は宅地や水田・畑地、山林等として利用されている。遺跡の南側は江合川支流の田尻川が東流し、これにより形成された自然堤防が東西に延びる。遺跡の低地部分は、細長い岬状に突き出た低丘陵と自然堤防に囲まれ、洪水流路や江合川流路が通常進入しにくいことから、河川からの土砂の供給量が少なく、大崎平野主部の地表面高度に対して、1 ～ 2m 低い低地帯（谷底平野）が形成されている（松本　2014）。

遺跡の位置する清滝丘陵を囲む北上川下流域は、貝塚を含む縄文時代の遺跡が数多く所在する地域である。地質学的に復元された縄文時代の海岸線の位置（松本　1984）を参考に、貝塚の主体貝種などの考古学的資料から検討した鹹水域、汽水域の変遷によると（須藤・富岡編　1995）、縄文時代早期末葉から前期初頭にかけて、この地域に広がる沖積地に海水が深く入り込み、清滝丘陵の南の大崎低地、東の迫川沿岸低地に鹹水域が広がり、大崎低地では本遺跡から約 10km 南東、迫川沿岸低地では約 8km 東のところに海岸線があったとされる。その後、前期末葉から中期初頭には、海岸線が大崎低地の南東縁に当たる松島丘陵の東側まで後退し、迫川沿岸低地や大崎低地の一部には汽水域が広がる。本遺跡周辺で多くの集落が営まれるようになる晩期には、本遺跡から約 20km 南東まで汽水域が縮小し、清滝丘陵の周辺域は淡水化して、湖沼域が広がっていったものとみられる。なお、本遺跡周辺は縄文時代を通して湖沼域であったとみられ、その後 1690 年（元禄 3）に開墾されるまで大崎沼（別名千枝湖）とよばれる沼地があったと伝えられている（田尻町史編さん委員会　1982）。

遺跡周辺の地質を概観すると、遺跡の位置する丘陵には、新第三紀鮮新世の瀬峰層が分布する。瀬峰層は凝灰質砂岩・同質シルト岩・凝灰岩等からなり、箆岳以北の低平丘陵地一帯および、北上川・

迫川・江合川・鳴瀬川に沿った沖積平野に残丘状に残された小丘陵を構成しつつ分布する。また、低地には、細粒灰色低地土壌および、細粒グライ土壌、グライ土壌、低位泥炭土壌が分布している（宮城県企画部土地対策課　1989）。

第２節　歴史的環境

1. 遺跡の発見と発掘調査

北小松遺跡は 1953 年（昭和 28）に発見され、『宮城県史１』の遺跡地名表には縄文時代晩期の大洞 BC ～ A' 式土器が出土する遺跡として紹介された（伊東　1957）。また、1957 年（昭和 32）の開田工事では、泥炭層や貝層から、抜歯が施された人骨やシジミ・タニシ等の淡水産貝類、多数の縄文土器や石器、動物遺存体が発見されている（興野　1959、田尻町史編さん委員会　1982、高橋　1986）。 地元住民によると、この地点は遺跡標柱の西側に位置する微高地（平成 21 年度発掘調査地点）の南側の水田付近にあたるという。これらにより、本遺跡は縄文時代晩期の遺物を豊富に出土する遺跡として知られることとなった。

2001 年（平成 13）から、本遺跡を含む大崎市東部（旧田尻町、田尻西部地区）では、ほ場整備事業に伴う発掘調査が継続して行われることとなり、本遺跡のほかに、西側の丘陵上にある愛宕山遺跡や諏訪遺跡、宮沼遺跡、南側の自然堤防上および後背湿地にある団子山西遺跡が発掘調査の対象となった（第２図）[(註 1)]。これら一連の発掘調査の結果、いずれの遺跡においても縄文時代の遺構・遺物を確認し、特に丘陵上に位置する 4 遺跡（北小松遺跡、愛宕山遺跡、諏訪遺跡、宮沼遺跡）では、東西・南北それぞれ 1.3km の範囲で湖沼を囲むように遺物包含層が分布することが判明した。すなわち、現在おもに水田として利用されている谷底平野は縄文時代を通して湖沼であり、その周囲の低丘陵や微高地上に縄文時代早期から弥生時代前期にかけて集落が営まれ、特に晩期中葉から末葉頃には近接して多くの集落が営まれたことなどが明らかとなった（宮城県教育委員会　2005・2008・2010b・2011・2014）。なお、これらの遺物包含層は弥生時代前期頃に大規模に発生した洪水堆積層に覆われ（松本　2014）、その後、丘陵裾部や低地部における人間の活動痕跡はしばらく見られなくなる。

ほ場整備事業以外でも、本遺跡およびその周辺遺跡で小規模なものを中心に発掘調査が行われている。本遺跡では、2013 年（平成 25）に個人住宅建築に伴う発掘調査が行われ、縄文時代晩期前葉から弥生時代前期の遺物包含層を検出し、なかでも晩期中葉から末葉の縄文土器や土製品、石器・石製品、動物遺存体が多量に出土した（大崎市教育委員会　2015b）。宮沼遺跡では、1996 年（平成８）に町道拡幅工事に伴う発掘調査が行われ、縄文時代晩期の土器がわずかに出土している。また、本遺跡の位置する丘陵およびその東側に延びる丘陵上にまたがる新田柵跡においても、各種事業に伴う発掘調査で、縄文時代の遺構や遺物が広範囲に点在して発見された（宮城県教育委員会　1991、田尻町教育委員会　1998、大崎市教育委員会　2009a など）。ほ場整備事業に伴う発掘調査では、丘陵裾部および低地部を中心とした調査であったが、これらよりも標高の高い丘陵上においても縄文時代の遺物がわずかに出土したことで、丘陵上にも集落が存在していた可能性が考えられる成果となった。

2. 縄文時代

(1) 大崎低地周縁部の遺跡

大崎低地は四方を丘陵地に囲まれ、その縁辺部には縄文時代遺跡が多く立地する。これらの遺跡について、便宜上、低地の南側を流れる鳴瀬川の南や東に位置する丘陵とその周辺、低地北側を流れる江合川の北や西に位置する丘陵とその周辺の２つに分け、発掘調査が行われた遺跡を中心に概観する。

①大崎低地南縁部の遺跡

大崎低地は東にかけて低くなり、南東部で松島丘陵（旭山丘陵）と接する。この丘陵上やその縁辺部には石巻市宝ヶ峯遺跡（志間・桑月　1991）や、県指定史跡の東松島市平田原貝塚（宮城県塩釜女子高等学校社会部　1969）などがある。

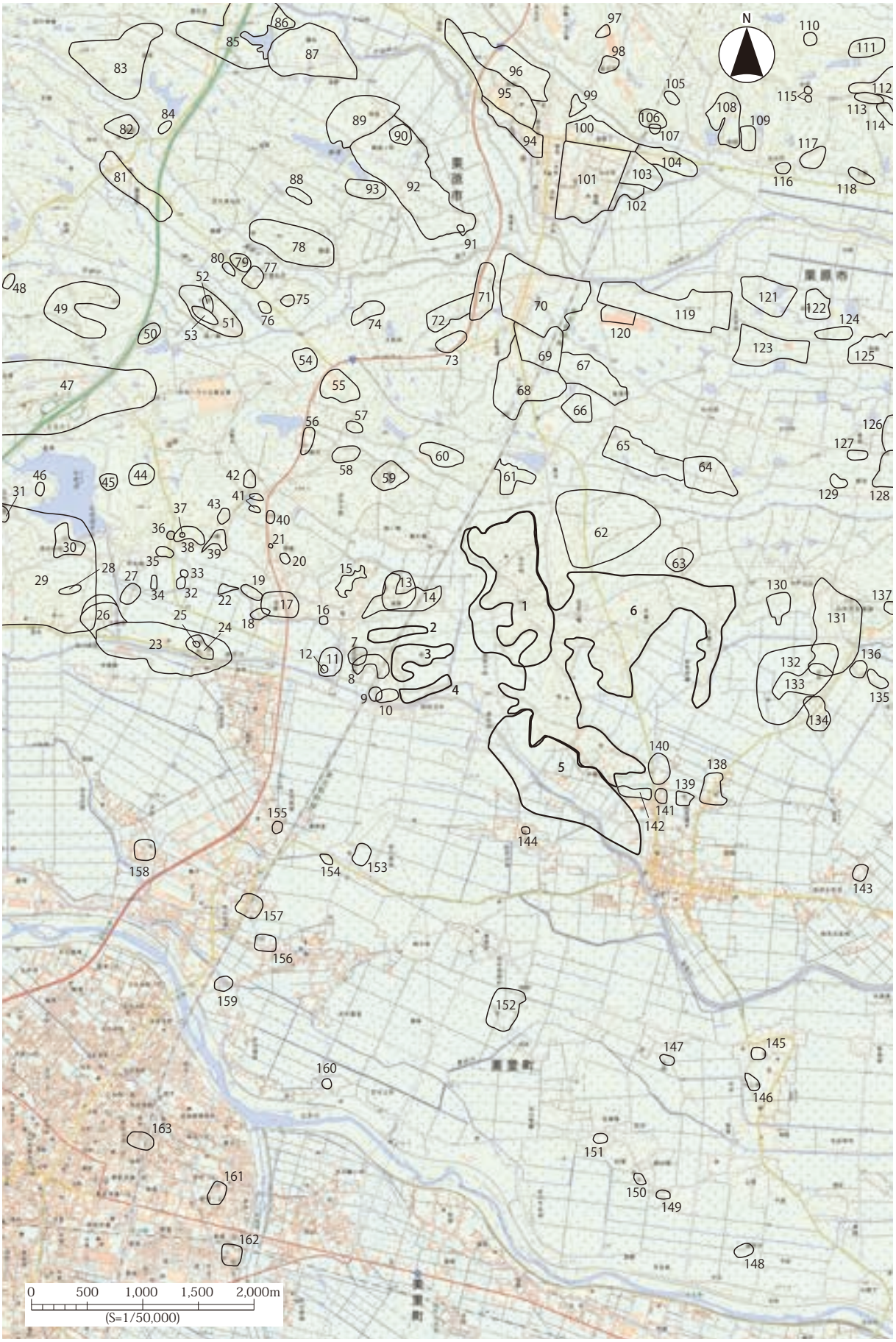
低地の南には鹿島台丘陵（三本木丘陵・大松沢丘陵）があり、丘陵上やその縁辺部に多くの縄文時代遺跡が立地するが、その多くは、丘陵の南に広がる吉田川低地の縁辺部に位置する。大崎低地南縁部では、大崎市混内山遺跡の発掘調査で早期中葉から晩期の遺物が出土している（宮城県教育委員会　1980e）が、遺跡数や調査による出土事例は少ない。

また、この丘陵から北に延び、現在は鳴瀬川の開析によって分断されて低地内に島状に残る丘陵上には、美里町素山貝塚、新山前貝塚、大崎市矢根八幡遺跡、師山遺跡などが立地する。素山貝塚では早期末葉の鹹水産の貝層（ハマグリ、カキなど）が検出され（伊東　1940）、国指定史跡の山前遺跡では、早期末葉から前期初頭の鹹水産のカキやハマグリを主体とする貝層および、早期後半から中期末葉の遺物包含層や竪穴住居跡が検出された（小牛田町教育委員会　1976）。矢根八幡遺跡では、後期中葉から晩期後葉の遺物包含層とこれに伴うとみられる竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが検出され（大崎市教育委員会　2015a）、師山遺跡では前期末葉から中期中葉の遺物包含層が検出されている（大崎市教育委員会　2009b）。

低地の西側はゆるやかに高くなり、鳴瀬川の南で加美丘陵（小野田台地）に接する。この地域には、色麻町香ノ木遺跡や大谷地遺跡などが立地する。香ノ木遺跡では後期後半から晩期、なかでも晩期中葉から後葉（大洞 C2 ～ A 式）の良好な遺物包含層を検出し（宮城県教育委員会　1985）、大谷地遺跡では中期末葉（大木 10 式）の遺物包含層と後期初頭から前葉の遺物包含層などを検出した（宮城県教育委員会　1984）。また、この地域の北に位置する鳴瀬川と江合川の間では青木ヶ原台地（玉造丘陵）に接する。この台地・丘陵上では、大崎市高幌遺跡や天神山遺跡で発掘調査が行われている。高幌遺跡では土坑と陥し穴多数が検出され、また、晩期中葉から末葉（大洞 C2 ～ A' 式）の遺物が出土した（古川市教育委員会　2001）。天神山遺跡では竪穴遺構と土坑を検出し、早期後葉の遺物が出土している（宮城県教育委員会　1982b）。

②大崎低地北縁部の遺跡

低地の北には清滝丘陵（築館丘陵）があり、丘陵上やその縁辺部には、低地の西や南側と比べて多くの遺跡が立地し、北小松遺跡とその周辺の縄文時代遺跡（愛宕山遺跡、諏訪遺跡、宮沼遺跡）もこ



第2図　北小松遺跡の位置と周辺の遺跡

第1表　遺跡地名表　（番号は第2図に対応）

番号	遺跡名	立地	種　別	時　代	番号	遺跡名	立地	種　別	時　代
1	北小松遺跡	丘陵・沖積平野	集落・散布地	縄文早・前・後・晩・弥生・古代・中世	83	笹森遺跡	丘陵	散布地	縄文前
2	愛宕山遺跡	丘陵	散布地	縄文・古代	84	北見遺跡	丘陵麓	散布地	古代
3	諏訪遺跡	丘陵	集落	縄文・弥生・古代	85	西手取遺跡	丘陵	集落・塚	縄文早・前・平安・中世・近世
4	宮沼遺跡	丘陵	散布地	縄文・弥生・古代	86	館山館跡	丘陵	城館	中世
5	団子山西遺跡	沖積平野	集落	縄文晩・古墳・奈良・平安・中世	87	西横手遺跡	丘陵	散布地	縄文・古代・中世・近世
6	新田柵跡	丘陵	散布地・古墳?・官衙・城館	弥生・古墳・古代・中世	88	外沢窯跡	丘陵斜面	窯跡	平安
7	沼木館跡	丘陵	城館	中世	89	明官遺跡	段丘	散布地	古代
8	日向前横穴墓群	丘陵麓	横穴墓群	古墳・平安	90	勝負ケ町遺跡	丘陵	散布地	古代
9	筒水横穴墓群	丘陵	横穴墓群	古墳	91	上経ケ崎遺跡	段丘	塚	中世・近世?
10	大隅館跡	丘陵	城館	中世	92	経ケ崎遺跡	段丘	散布地・集落	縄文・古墳・古代
11	天神山遺跡	丘陵	散布地	古代	93	生深町遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文
12	天神西横穴墓群	丘陵麓	横穴墓群	古墳後	94	長福寺遺跡	段丘	散布地・集落	縄文・古代・近世
13	須賀遺跡	丘陵尾根	散布地	縄文晩・古代	95	五輪遺跡	段丘	散布地	縄文・古墳
14	小野館跡	丘陵	城館	中世	96	袖山遺跡	段丘	散布地	古代・近世
15	普月館跡	丘陵	城館	中世	97	二本石遺跡	丘陵	経塚	中世
16	一貫寺遺跡	丘陵	散布地	奈良	98	折木山遺跡	丘陵	寺院？	古代
17	羽黒遺跡	丘陵	散布地	古墳	99	一本松遺跡	丘陵	散布地	縄文・古代
18	小野横穴墓群（羽黒支群）	丘陵斜面	横穴墓群	古墳後・奈良	100	佐野遺跡	段丘	散布地・集落	古墳・奈良・平安・中世・近世
19	小野横穴墓群（白山支群）	丘陵斜面	横穴墓群	古墳後・奈良	101	高清水城跡	段丘	城館	古代・中世・近世
20	小野横穴墓群（馬籠支群）	丘陵斜面	横穴墓群	古墳後	102	東館遺跡	段丘	集落	弥生～平安
21	小野馬籠一里塚	丘陵	一里塚	近世	103	筒の池遺跡	段丘	散布地	縄文・古墳中・後・古代
22	いもり塚周辺遺跡	丘陵麓	散布地	縄文晩	104	大寺遺跡	段丘	散布地・集落	縄文・弥生後・古墳前・中・古代・中世
23	権現山遺跡	丘陵	集落・屋敷	弥生・古代・中世	105	影の沢コド山遺跡	丘陵	散布地	奈良
24	新江川遺跡	丘陵	散布地	縄文晩	106	新庄館跡（新城館）	丘陵	城館・散布地	平安・中世
25	稲荷塚古墳	丘陵	円墳	古墳後	107	下折木遺跡	丘陵麓	集落	平安
26	三輪田遺跡	丘陵	官衙・寺院?	奈良・平安	108	薬沢東遺跡	丘陵	集落	縄文・古代
27	朽木橋遺跡	沖積平野	散布地	古代	109	町田遺跡	丘陵	散布地	縄文・古代
28	岩井堂横穴墓群	丘陵	横穴墓群	古代	110	空堤遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文前
29	国史跡　宮沢遺跡	丘陵	散布地・官衙・城館・墓	縄文・弥生・奈良・平安・中世	111	寺沢遺跡	丘陵	集落・塚	古代・中世
30	苔ノ谷地遺跡	丘陵	散布地	弥生	112	岩石Ⅰ遺跡	丘陵	集落・塚	縄文前・中・古墳・古代・中世・近世
31	長者原E遺跡	丘陵斜面	散布地	古代	113	蒲盛遺跡	丘陵	墓	古代
32	小野横穴墓群（岩崎支群）	丘陵麓	横穴墓群	古墳後・奈良	114	岩石Ⅱ遺跡	丘陵	散布地	縄文中
33	岩崎古墳群	丘陵尾根	円墳	古墳	115	県指定有形　瀬峰一里塚	丘陵	塚	近世
34	新中山遺跡	沖積平野	塚	中世・近世?	116	北ノ沢遺跡	丘陵	散布地	古代
35	小野横穴墓群（朽木橋支群）	丘陵斜面	横穴墓群	古墳後・奈良	117	寺浦遺跡	丘陵	散布地	縄文・古墳・古代
36	姥沢遺跡	丘陵	散布地	奈良・平安	118	杉ノ壇遺跡	丘陵	散布地	縄文・古代・中世
37	小野横穴墓群	丘陵斜面	横穴墓群	古墳後・古代	119	外沢田A遺跡	段丘	散布地	古代・中世・近世
38	小高遺跡	丘陵斜面	窯跡	古代	120	北甚六原遺跡	段丘	散布地・集落	縄文・古代・中世・近世
39	小野横穴墓群（小高支群）	丘陵麓	横穴墓群	古墳後・奈良	121	中三代遺跡	丘陵	集落	古代
40	馬場遺跡	沖積平野	散布地	縄文・古代	122	三代遺跡	丘陵	散布地	古代・中世
41	新田古墳群	丘陵	円墳・方墳	古墳	123	外沢田B遺跡	段丘	集落・窯跡	古代・近世
42	横沢窯跡	丘陵	窯跡・散布地	古代・近世・近代	124	市史跡　王壇遺跡	丘陵	塚・散布地	古墳?・古代
43	小野横穴墓群（新田支群）	丘陵斜面	円墳・横穴墓	古墳・古代	125	長根遺跡	丘陵	集落	古代
44	嵐山遺跡	丘陵	散布地	縄文	126	神田遺跡	丘陵	集落	古代
45	上蝦沢遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文	127	野沢遺跡	丘陵	散布地	古代
46	長者原D遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文	128	四ツ壇原遺跡	丘陵	散布地	縄文・古代
47	長者原A遺跡	丘陵	散布地	縄文晩・奈良	129	諏訪神社遺跡	丘陵	散布地	縄文・古代
48	畑谷地遺跡	丘陵	散布地	縄文	130	北山遺跡	丘陵	散布地	縄文・奈良
49	畑谷地塚群	丘陵尾根	塚		131	国史跡　木戸瓦窯跡	丘陵	窯跡	奈良
50	十八弓沢遺跡	丘陵麓	散布地	縄文晩・古代	132	木戸遺跡	丘陵	集落・散布地	弥生・古代・中世・近世
51	鴻ノ巣館跡	丘陵	城館	近世	133	木戸館跡	丘陵	城館・散布地	平安・中世
52	鴻ノ巣遺跡	丘陵斜面	散布地	奈良・平安	134	金鋳神遺跡	丘陵	集落	縄文・弥生・奈良・平安
53	城内窯跡	丘陵	窯跡	古代	135	泉谷崎畑遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文・古代
54	下沢田遺跡	丘陵斜面	散布地	奈良	136	北久保遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文・古代
55	一ノ坪遺跡	丘陵斜面	散布地・集落	平安	137	六月坂遺跡	丘陵	散布地	古代
56	通揚窯跡	丘陵斜面	窯跡	近世	138	通木城跡	丘陵	集落・城館	古代・中世
57	下蝦沢A遺跡	丘陵斜面	散布地	弥生	139	通木寺下遺跡	丘陵・低地	散布地・城館	縄文・古代・中世・近世
58	下蝦沢B遺跡	丘陵斜面	散布地	弥生	140	通木田中前遺跡	沖積平野	散布地	古代
59	華島遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文晩・古代	141	通木山崎遺跡	自然堤防	散布地	平安
60	大窪遺跡	丘陵	散布地	縄文前・中	142	お椀子山遺跡	自然堤防	散布地	縄文晩・古墳前・古代
61	萱刈遺跡	丘陵	散布地・道路・土塁	古代・中世・近世?	143	百塚原東遺跡	沖積平野	散布地	古代
62	天狗堂遺跡	丘陵斜面	集落	縄文・奈良・平安	144	忠全寺跡	自然堤防	寺院	不明
63	大嶺遺跡	丘陵	散布地	平安	145	町遺跡	自然堤防	散布地	古代
64	袋沢遺跡	丘陵	散布地・集落	縄文・古墳・古代	146	十二神遺跡	自然堤防	散布地	古代・中世
65	北原A遺跡	段丘	散布地	縄文・古代・中世・近世	147	中田遺跡	沖積平野	散布地	古代
66	北原B遺跡	段丘	散布地	古代	148	練布川遺跡	自然堤防	散布地	古代
67	覚満寺遺跡	段丘	寺院・散布地	縄文・古代・中世・近世	149	山王遺跡	自然堤防	散布地	古代
68	中ノ茎遺跡	段丘	集落	縄文・古代・中世・近世	150	谷陽院遺跡	自然堤防	散布地	古代
69	仰ヶ返り地蔵前遺跡	段丘	集落・窯跡	縄文・古代・中世・近世	151	的場遺跡	自然堤防	散布地	古代
70	観音沢遺跡	段丘	集落	縄文・古墳・奈良～中世	152	長岡針遺跡	自然堤防	散布地	平安
71	向野遺跡	段丘	集落・散布地	縄文・古代・中世	153	馬放館跡	自然堤防	城館・集落・散布地	古代・中世
72	台町西遺跡	段丘	集落・塚	古代	154	馬放B遺跡	沖積平野	散布地	古代
73	松ノ木沢田遺跡	段丘	集落・塚	縄文・古代・中世	155	稲荷遺跡	沖積平野	散布地	古代
74	萩田遺跡	段丘	集落	縄文晩・弥生・古代～近世	156	休塚館跡	自然堤防	城館	中世
75	堀崎遺跡	丘陵斜面	散布地	古代	157	御館跡	自然堤防	城館	近世
76	梅女遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文・古代	158	沢田城跡	自然堤防	城館	中世
77	市ケ坂館跡	丘陵	城館	中世	159	渕尻遺跡	自然堤防	散布地	古墳中
78	北山遺跡	丘陵	散布地・円墳・塚	古墳後・古代・近世	160	上垉遺跡	沖積平野	散布地	古代
79	新寺館跡	丘陵斜面	城館	中世	161	李垉城跡	自然堤防	城館	中世
80	堀場遺跡	丘陵	散布地	古代	162	谷地館跡	自然堤防	城館	中世
81	藤屋敷遺跡	丘陵	集落	奈良・平安	163	留沼遺跡	自然堤防	集落・水田	古墳前・中
82	長泥遺跡	丘陵麓	散布地	古代					

の丘陵上に立地する。本遺跡周辺では、ほ場整備事業（田尻西部地区、田尻中央地区）に伴い大崎市団子山西遺跡、新田柵跡、通木田中前遺跡、通木寺下遺跡、木戸遺跡、金鋳神遺跡などで縄文時代を対象とした発掘調査が行われている。団子山西遺跡では、本遺跡における遺物包含層相当層から早期後葉から前期前葉および晩期後葉（大洞 A 式）の土器が少量出土した（宮城県教育委員会　2018・2020）。新田柵跡では縄文時代から弥生時代前期の遺物包含層が丘陵裾部に点在することが判明し、早期中葉から弥生時代前期の遺物が出土している（大崎市教育委員会　2020）。通木寺下遺跡では早期後葉（梨木畑式）から前期初頭（上川名Ⅱ式）の遺物包含層（大崎市教育委員会　2017）、木戸遺跡では後期前葉から弥生時代前期の遺物包含層（大崎市教育委員会　2018b）、金鋳神遺跡では晩期後葉から末葉（大洞 A ～ A' 式）を主体とする遺物包含層（大崎市教育委員会　2016）、通木田中前遺跡では、晩期末葉（大洞 A' 式）から弥生時代前期（山王Ⅳ上層式）を主体とする遺物包含層（大崎市教育委員会　2010）がそれぞれ検出された。これらの調査から、遺跡はいずれも大崎低地に樹枝状に延びる丘陵の端部に立地しており、この立地条件はこの地域における縄文時代から弥生時代前期の遺跡に共通することが判明した。また、いずれの遺跡においても洪水堆積層直下の黒色粘土層から遺物が出土しており、弥生時代前期にこの地域周辺で発生した大規模洪水の広がりや時期が推定できる成果が得られている。

これらの遺跡が立地する清滝丘陵の南縁部の西側の地域については、大崎市いもり塚周辺遺跡で晩期末葉を主体とする遺物包含層[(註2)]、大崎市宮沢遺跡（国史跡）で晩期末葉（大洞 A' 式）の土坑と遺物包含層（宮城県教育委員会　1980d）がそれぞれ発掘調査で検出されている。さらに西側に位置する、江合川沿岸の段丘上では大崎市玉造遺跡や根岸遺跡などで発掘調査を実施し、玉造遺跡では竪穴住居跡や土坑を検出し、中期末葉（大木 10 式）の遺物が出土した（宮城県教育委員会　1980c）。根岸遺跡では、晩期中葉から末葉（大洞 C1 ～ A' 式）の遺物包含層と、墓域を構成する配石遺構、土坑、埋設土器を検出している（宮城県教育委員会　1981a）。

（2）迫川沿岸低地周辺部の遺跡群

清滝丘陵および筧岳丘陵を挟んで大崎低地の北東に広がる迫川沿岸低地の西側は、筧岳丘陵、清滝丘陵、瀬峯丘陵が東へ樹枝状に延び、迫川支流の各河川の沿岸には内湾状の低地帯が形成される。南から旧迫川・蕪栗沼沿岸、伊豆沼・内沼沿岸、一迫川・二迫川沿岸の各地域に縄文時代の遺跡が多く立地する。以下に、各地域における縄文時代遺跡について、発掘調査が行われた遺跡を中心に概観する。

①旧迫川・蕪栗沼沿岸の遺跡

北小松遺跡が立地する清滝丘陵は、本遺跡からさらに東へ延び、高度を下げるとともに幅の狭い低丘陵となる。また、そこから筧岳丘陵が南東へ延びるが、清滝丘陵端部の低平丘陵とは異なり、標高の高い丘陵地となっている。これらの丘陵の縁辺部に縄文時代の遺跡が多く立地する。本遺跡から東へ続く丘陵の東端部付近では、国指定史跡の涌谷町長根貝塚や大崎市中沢目貝塚、国指定重要文化財の遮光器土偶が出土した大崎市恵比須田遺跡（宮城県教育委員会　1980b）などが立地する。長根貝

塚では、丘陵尾根上で中期後葉の竪穴住居跡 2 軒、丘陵裾部では馬蹄形に広がる前期末葉から中期末葉（大木 6 ～ 10 式）の淡水産のヤマトシジミを主体とする貝層を検出した（伊東ほか　1969）。中沢目貝塚では丘陵斜面で淡水産のオオタニシやイシガイ、ヌマガイを主体とする貝層が検出された。なお、貝層には鹹水産のアサリも多く含まれる。出土した遺物は後期末葉から晩期中葉（大洞 C1 式）を主体とするが、特に晩期前葉に属する土器や石器、動物遺存体等が層位的に出土している（須藤編　1984、須藤・富岡編　1995）。また、丘陵上の平坦部では、後期後葉の竪穴住居跡 1 軒と晩期中葉（大洞 C2 式）の竪穴住居跡が 2 軒検出された（田尻町教育委員会　1986）。筧岳丘陵の裾部では、涌谷町ツナギの沢貝塚で発掘調査が行われ、竪穴住居跡 13 軒や多数の土坑やピットとともに、後期前葉から晩期後葉の遺物包含層が検出されている（涌谷町教育委員会　2004）。

低地の西縁部や北縁部に当たる丘陵縁辺部では、栗原市西手取遺跡、下富前遺跡、登米市長者原貝塚、青島貝塚などで発掘調査が行われている。西手取遺跡では、早期末葉から前期初頭および晩期後葉（大洞 A 式）の遺物が出土した（宮城県教育委員会　1980a）。下富前遺跡では、早期後葉から中期末葉、なかでも前期後半（大木 4・5 式）の遺物が多数出土している（瀬峰町教育委員会　2002）。長者原貝塚では、1970 年の調査で中期中葉頃の溝跡や土坑、ピットを検出し、前期末葉から後期初頭の遺物が出土した（宮城県教育委員会　1981c）。1977 年の調査では、中期中葉から後葉（大木 8a ～ 9 式）と晩期中葉（大洞 C2 式）の竪穴住居跡や、人骨を伴う晩期の土坑墓、中期末葉の新生児骨、淡水産のオオタニシ、イシガイ、ドブガイを主体とする中期中葉（大木 8a 式）の貝層、中期中葉（大木 8a ～ 8b 式）と晩期（大洞 BC ～ A 式）の遺物包含層が検出されている（南方町教育委員会　1978）。青島貝塚では、1917 年の調査で淡水産のイシガイ科を主体とする貝層と埋葬人骨 14 体が検出された（松本　1930）。また、1969･70 年の調査では、埋葬人骨 9 体、竪穴住居状遺構、淡水産のオオタニシ、イシガイ、ヌマガイを主体とする貝層や遺物包含層などが検出されている。遺物は、中期中葉から後期初頭のものが主体となる（加藤･後藤　1975）。さらに、2010 年の調査では、中期初頭（大木 7a 式）と後期初頭の埋葬人骨 3 体と、中期中葉から後期前葉の住居跡とみられるピット群、タニシやヌマガイなどの淡水産の貝層が検出されている（登米市教育委員会　2011）。

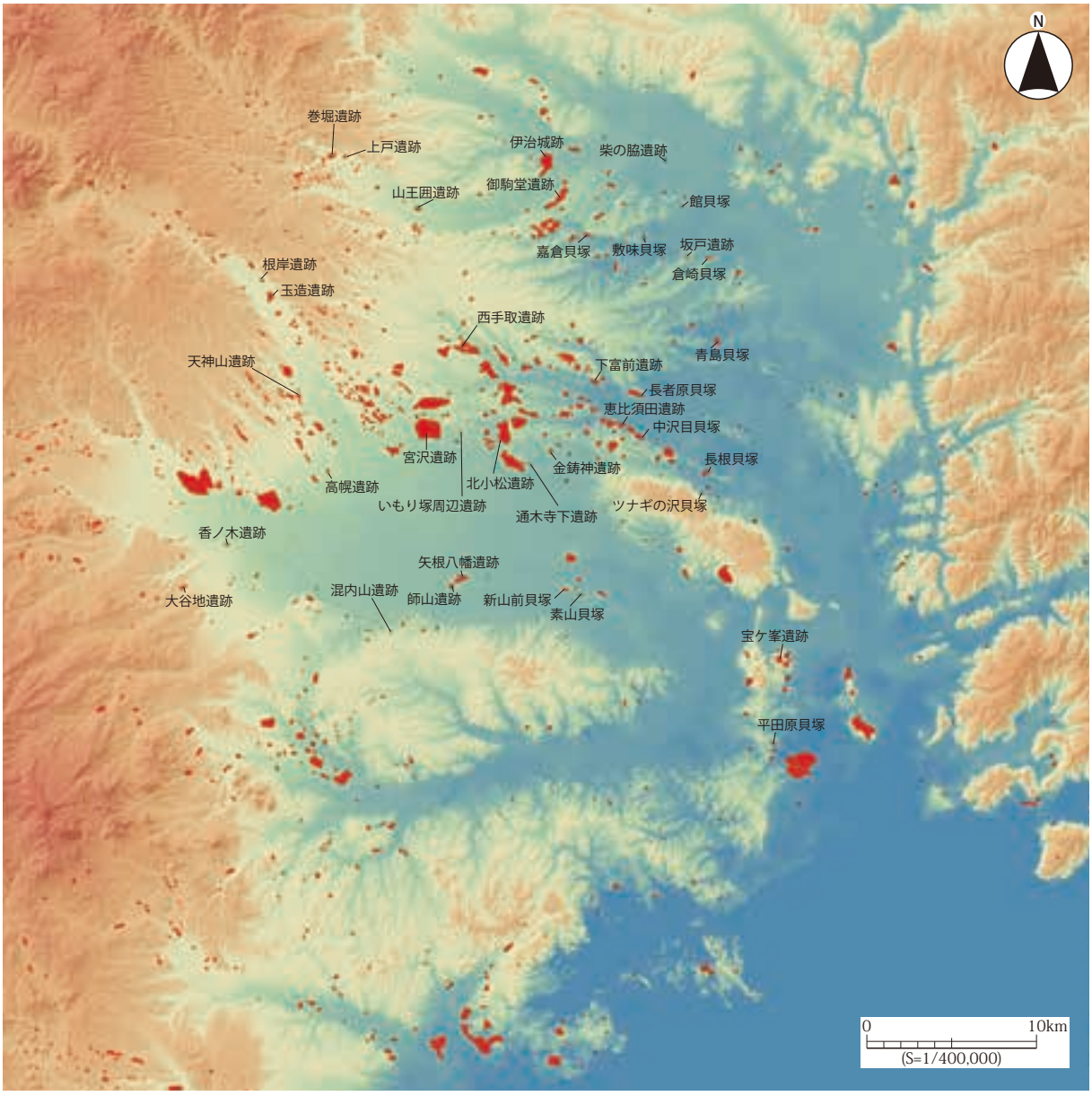
②伊豆沼・内沼沿岸の遺跡

旧迫川・蕪栗沼沿岸の低地とは丘陵を挟んで北に位置する伊豆沼・内沼沿岸では、登米市倉崎貝塚、坂戸遺跡、栗原市嘉倉貝塚、敷味貝塚、館貝塚で、本遺跡の主体をなす晩期の遺構・遺物が発掘調査により発見されている。倉崎貝塚では、晩期中葉頃の人骨を伴う土坑墓を検出し、淡水産のヌマガイやオオタニシを主体とする貝層を含む堆積層を検出した（宮城県教育委員会　1990b）。遺物は後期後葉から晩期中葉のものが出土し、なかでも晩期前半が主体となる。坂戸遺跡では、竪穴住居跡や掘立柱建物跡、遺物包含層が検出された。遺物の主体は後期中葉であるが、晩期末葉から弥生時代前期（大洞 A' 式～砂沢式）の遺物も少量出土している（迫町教育委員会　2005）。嘉倉貝塚では、晩期後葉（大洞 A 式）から弥生時代前期の竪穴住居跡や土坑墓、土器埋設遺構のほか、弥生時代前期の遺物包含層が検出された（築館町教育委員会　2003）。敷味貝塚では、晩期中葉から後葉（大洞 C1 ～ A 式）

の遺物包含層を検出している（伊東ほか　1965）。館貝塚では、埋葬人骨５体と淡水産の貝層を検出した。遺物は晩期前葉（大洞Ｂ～ＢＣ式）が主体である（伊東　1981）。柴の脇遺跡では、晩期末葉から弥生時代前期を主体とする遺物包含層を検出した（宮城県教育委員会　1986c）。

③一迫川・二迫川沿岸の遺跡

伊豆沼・内沼沿岸の低地とは丘陵を挟んで北に位置し、迫川上流域である一迫川・二迫川沿岸では、栗原市御駒堂遺跡、山王囲遺跡、巻堀遺跡、上戸遺跡、伊治城跡で晩期の遺構・遺物が発見されている。御駒堂遺跡では、晩期後葉から末葉（大洞Ａ～Ａ'式）の遺物包含層を検出した（宮城県教育委員会　2016）。山王囲遺跡では、晩期中葉から弥生時代前期の遺物包含層と、弥生時代前期の竪穴住居跡や溝跡、土坑墓のほか、おもに晩期末葉から弥生時代前期の遺構群が検出された（伊東・須藤　1985、須藤・大場ほか　1996・1997・1998、須藤ほか　2007、栗原市教育委員会　2013）。巻堀遺跡



第3図　宮城県北部の縄文時代遺跡の分布

では、晩期中葉から末葉（大洞 C1 ～ A' 式）の遺物包含層（一迫町教育委員会　1977）、上戸遺跡では、晩期前葉の遺物包含層と土坑 1 基を検出した（宮城県教育委員会　1989）。伊治城跡では、城柵の位置する段丘の北側低地部で晩期前葉（大洞 B 式）の遺物包含層が検出された（栗原市教育委員会　2014）。

3. 弥生時代以降の北小松遺跡周辺の様相

弥生時代前期頃の大規模洪水により、大崎低地北縁部に当たる本遺跡周辺では低地部や微高地に洪水によって運ばれてきた砂や粘土が堆積し、低地部における生活の痕跡は古代以降までほとんど確認されなくなる。しかしながら、本遺跡の西側に位置する諏訪遺跡の発掘調査で洪水堆積層の上面から弥生時代前期の土器がつぶれた状態で出土する（宮城県教育委員会　2010b）など、近隣の丘陵上では引き続き生活が営まれていた可能性が大きい。

本遺跡周辺では、縄文時代と比べて遺跡数や遺構・遺物の量が大幅に減少するものの、低地部やその丘陵上などで、弥生時代の遺構・遺物が発見されている。低地部における洪水層の下位からの出土例としては、本遺跡や新田柵跡で前期の遺物がわずかに出土しているほか（宮城県教育委員会　2011・2014、大崎市教育委員会　2020）、通木田中前遺跡と木戸遺跡で前期の遺物包含層が検出された事例がある（大崎市教育委員会　2010・2018b）。洪水堆積層中およびその上位では、諏訪遺跡や本遺跡で前期の土器が出土したほか（宮城県教育委員会　2010b・2011）、金鋳神遺跡で洪水層上位のスクモ層（泥炭層）から後期の土器がわずかに出土し（大崎市教育委員会　2016）、また、古代の遺物包含層中ではあるが、大崎市通木城跡で中期中葉の土器がわずかに出土している（大崎市教育委員会　2017）。丘陵上では、新田柵跡で後期（天王山式）の土器がわずかに出土した（宮城県教育委員会　1991）。

さらに、同じ大崎低地北縁部に当たる本遺跡西側の地域においても、遺跡数および遺構・遺物の量は少ないものの、天神前遺跡、灰塚遺跡、宮沢遺跡、野崎遺跡、欠下遺跡、若林遺跡（いずれも大崎市）などで、発掘調査により弥生時代の遺構・遺物が発見されている。河岸段丘上にある天神前遺跡では、南側低地部の洪水堆積層上面で中期の土坑が検出された（大崎市教育委員会　2018a）。自然堤防上にある灰塚遺跡では、後期の土坑が検出され、遺構堆積土や河川跡からも後期の土器がわずかに出土している（古川市教育委員会　2002、佐藤　2006）。宮沢遺跡では、丘陵上で後期（天王山式）の壺棺墓と遺物包含層を検出し、また、前期から中期の土器も少量出土した（宮城県教育委員会　1980d）。同じく丘陵上に立地する野崎遺跡、欠下遺跡、若林遺跡の近接する三遺跡では、後期の土坑が検出され（欠下遺跡）、また、中期中葉から後期の遺物が出土している（大崎市教育委員会　2008）。

古墳時代以降の本遺跡周辺の低地部は、江戸時代に開墾されるまで湿地であったとみられ、これらの時代の遺跡はおもに自然堤防上や丘陵上に立地する。古墳時代を対象とした、近隣の丘陵地や自然堤防上におけるおもな発掘調査では、新田柵跡で古墳時代前期の溝跡（円形周溝）と土坑（田尻町教育委員会　2001）、金鋳神遺跡で同じく前期の竪穴住居跡（大崎市教育委員会　2016）、団子山遺跡で古墳時代中期の溝跡や土坑などを検出している（宮城県教育委員会　2018）。また、大崎市六月坂遺

跡では7世紀中葉から8世紀前半の横穴墓群（宮城県多賀城跡調査研究所　2008）、同市日向前横穴墓群で多賀城創建以前の横穴墓を検出した（宮城県教育委員会　1981b）。さらに、同市小野横穴墓群では、8地点に80基以上の横穴墓と円墳1基が存在するが、複数の地点での発掘調査により7世紀から8世紀前葉にかけて造営され、9世紀代まで追葬されたことが判明している（宮城県教育委員会　1983b、高橋　2006）。

本遺跡では古代の遺構は発見されていないが、西側にある三遺跡（愛宕山遺跡、諏訪遺跡、宮沼遺跡）も含めて、発掘調査で奈良・平安時代の灰釉陶器や須恵器、土師器、瓦が少量出土している。これらの遺物出土地点の東側丘陵上には、『続日本紀』天平9年（737）条に記載のある「新田柵」に推定されている新田柵跡があり、これらの遺物は当該遺跡との関連性が大きいものとみられる。新田柵跡では、各種公共事業や国庫補助事業に伴う発掘調査が20年以上にわたって行われており、大型の掘立柱建物跡や門跡、材木塀跡、築地・土塁状遺構など、おもに8世紀頃の遺構群が検出され、その構成や配置が明らかとなってきている（大崎市教育委員会　2012など）。

また、新田柵跡南側の自然堤防上には団子山西遺跡、新田柵跡の位置する丘陵の南東端部とその東側の自然堤防上にはお椀子山遺跡が立地する。団子山西遺跡ではこれまでの発掘調査で、新田柵に直線的に延びる南北道路跡と、これにL字状に交差する東西道路跡、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、材木塀跡、溝跡などを検出している（宮城県教育委員会　2018・2020）。これらの遺構群はおもに8世紀後半から9世紀前半に営まれるが、特に9世紀前半には道路の方向にあわせた建物群の造営が行われるなど、道路と建物が一体となって営まれた状況が見られる。お椀子山遺跡では、掘立柱建物跡や柱列跡、溝跡などが検出され、8世紀代に外郭施設外側に官衙的空間が広がる可能性が指摘されている（大崎市教育委員会　2019）。

さらに、新田柵跡から北に延びる丘陵上には大崎市天狗堂遺跡があり、丘陵斜面で奈良時代を中心とした竪穴住居跡が多数検出された（田尻町教育委員会　1978）。天狗堂遺跡以外にも新田柵跡北辺の外郭施設の北側では丘陵上で竪穴住居跡が点在するように発見されている（宮城県教育委員会1991、 田尻町教育委員会　1998）。

以上の遺跡群は本遺跡の位置する丘陵とその周辺の自然堤防上に近接して位置しており、それぞれ高い関連性を総合的に検討することで、8世紀から9世紀前半を中心とした当該地域の様相がより明らかとなることであろう。

第 2 章　調査に至る経緯と調査方法

第 1 節　調査に至る経緯

1. 事前協議および範囲確認調査

本調査は、経営体育成基盤整備事業（ほ場整備）に伴うものである。北小松遺跡の位置する旧田尻町西部（田尻西部地区）で大規模なほ場整備事業計画が示されたことにより、宮城県古川産業振興事務所（現･北部地方振興事務所）、江合川沿岸土地改良区、宮城県教育委員会、田尻町教育委員会（現･大崎市教育委員会）の四者で、計画地内にある埋蔵文化財の取扱いについて協議を実施し、遺跡とのかかわりのある地域については、工事着手前に発掘調査を行うこととした。平成 12 年 11 月 21 日付けで古川産業振興事務所長から文化財保護法第 57 条第 3 項に基づく発掘通知があり（回答通知：平成 12 年 12 月 7 日付け文第 3-98 号）、当該地区のほ場整備事業に伴う工事が開始されることとなったため、平成 13 年度から田尻西部地区の発掘調査を開始することとなった。

平成 13 年度から 15 年度は、田尻川右岸の神明遺跡（現・団子山西遺跡）とその周辺地域を対象として試掘確認調査および記録保存調査を田尻町教育委員会が行い、本遺跡の位置する田尻川左岸の事業区域については平成 16 年度から調査に着手した。平成 16 年度および 17 年度は、遺跡の範囲や遺構面の深度を確認するために、宮城県教育委員会（平成 16 年度）と田尻町教育委員会（平成 16・17 年度）がそれぞれ試掘確認調査を実施した。これらの調査の結果、本報告にかかわる遺跡では、北小松遺跡が立地する丘陵から西へ延びる丘陵先端部の微高地の周辺に、縄文時代晩期中葉から弥生時代前期の遺物包含層が形成され、微高地上には集落が営まれていた可能性が想定された（宮城県教育委員会　2005 など）。また、諏訪遺跡の立地する丘陵から東に延びる丘陵の先端部や、北小松遺跡の立地する丘陵裾部で縄文時代晩期の遺物包含層が 3 箇所検出され、さらに、古代の遺物も 2 地点で検出されるなど、事業予定地周辺の丘陵上には集落が点在して営まれ、これらの丘陵裾部には遺物包含層が形成されることが想定された（車田　2020）。

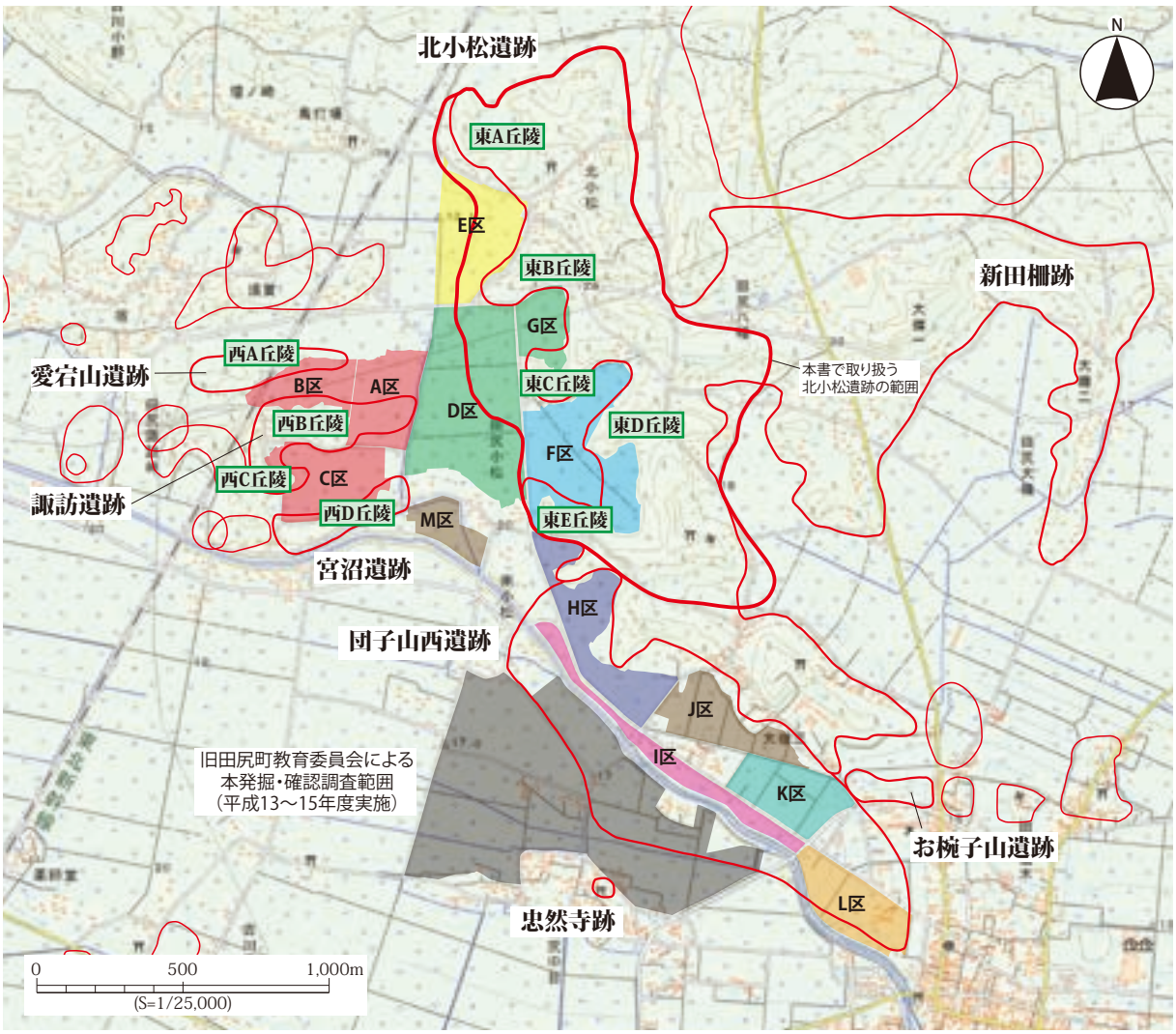
当該地域の基本設計は、確認調査で遺構が検出された箇所について掘削を伴う工事を極力回避するなど、調査成果を反映させるかたちで行われた。その後、基本設計を受けた協議を経て、平成 19 年度から記録保存調査を含む本発掘調査を実施することとなった（第 4 図）。

2. 本発掘調査

本発掘調査は宮城県教育委員会を主体とし、宮城県教育庁文化財保護課（現・文化財課）が担当した。事業予定地の北西部に位置する愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡（調査における地区名：A ～ C 区と D 区の一部）から調査を開始し、その後、北小松遺跡（新田柵跡）（D ～ F 区）、団子山西遺跡（H ～ L 区）、宮沼遺跡の南側（M 区）の順に調査を進めることとなった。

（1）遺跡全体にかかわる調査成果

本報告にかかわる調査としては、平成 19 年度に実施した本遺跡の西側丘陵裾部に当たる愛宕山遺



調査年度	発掘原因	遺　跡　名	調　査　地　点	調査面積	調査主体	報　告　書
平成 13 年度	試掘確認	団子山西遺跡	田尻川右岸	1,363㎡	田尻町教育委員会	宮城県教育委員会 2020（県 252 集）
平成 14 年度	試掘確認	団子山西遺跡、忠然寺跡	田尻川右岸	6,050㎡	田尻町教育委員会	
平成 15 年度	記録保存 試掘確認	団子山西遺跡	田尻川右岸	7,788㎡	田尻町教育委員会	
平成 16 年度	試掘確認	北小松遺跡	D 区	670㎡	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 2005（県 202 集）
	試掘確認	諏訪遺跡、北小松遺跡、団子山西遺跡	A 区、B 区、C 区、F 区、H 区、I 区、J 区、K 区	5,745㎡	田尻町教育委員会	宮城県教育委員会 2020（県 252 集）
平成 17 年度	試掘確認	北小松遺跡	E 区、F 区、G 区	1,655㎡	田尻町教育委員会	
平成 19 年度	記録保存 確認	愛宕山遺跡、諏訪遺跡、宮沼遺跡・北小松遺跡	A 区（1 ～ 34 区）、B 区（1 ～ 29 区）、C 区（1 ～ 33 区）、D 区（1 ～ 35 区）	7,961㎡	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 2007（県 216 集）、宮城県教育委員会 2010（県 223 集）
平成 20 年度	記録保存 確認	北小松遺跡	D 区（36 ～ 52 区）、E 区（1 ～ 95 区）、F 区（1 ～ 14 区）	5,472㎡	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 2011（県 226 集）
平成 21 年度	記録保存 確認	北小松遺跡	D 区（53 ～ 80 区）、F 区（15 ～ 17 区）、G 区（1 ～ 34 区）	2,170㎡	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 2014（県 234 集）
平成 22 年度	記録保存 確認	北小松遺跡	F 区（18 ～ 89 区）	6,412㎡	宮城県教育委員会	**本書**
	記録保存 試掘確認	団子山西遺跡	H 区（1 ～ 10 区、28 ～ 30 区、7 ～ 24T、28 ～ 34T）	2,830㎡	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 2018（県 248 集）
平成 23 年度	記録保存 確認	団子山西遺跡	H 区（11 ～ 27 区）、I 区（1 ～ 5 区）	8,082㎡	宮城県教育委員会	
	試掘確認	団子山西遺跡	J 区（1 ～ 36T）	2,553㎡	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 2020（県 252 集）
平成 24 年度	記録保存 確認	団子山西遺跡	I 区（6 ～ 19 区）、L 区（1 ～ 15 区）	9,366㎡	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 2018（県 248 集）
平成 25 年度	記録保存 確認	団子山西遺跡	L 区（16・17 区）	196㎡	宮城県教育委員会	
			J 区（1 ～ 24 区）	3,324㎡		宮城県教育委員会 2020（県 252 集）
平成 26 年度	記録保存 試掘確認	団子山西遺跡、宮沼遺跡	J 区（25 ～ 36 区）、K 区（1 ～ 4 区）、M 区（1 ～ 25T）	3,923㎡	宮城県教育委員会	
平成 27 年度	記録保存 確認	団子山西遺跡	K 区（5 ～ 15 区）	3,819㎡	宮城県教育委員会	
平成 29 年度	記録保存	団子山西遺跡	K 区（5 区）	430㎡	宮城県教育委員会	

※上記のほかに、付帯工事や関連事業に係る発掘調査および工事立会を随時実施している。

第4図　田尻西部地区ほ場整備事業に係る発掘調査

跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡の発掘調査、平成 20 年度および 21 年度に実施した、上記 3 遺跡の東側丘陵裾部に当たる北小松遺跡の発掘調査があげられる。これまでの発掘調査成果のうち、これら 4 遺跡全体にかかわるものとして、以下の 1）～ 8）に取り上げることなどが判明した（宮城県教育委員会 2008・2010b・2011・2014）。

1）調査対象範囲の大部分を占める丘陵裾部および低地部の基本層序はⅠ～Ⅹ層に大別され、うちⅥ層の黒色粘土層に縄文時代晩期を主体とする遺物包含層が形成されること。

2）低丘陵や微高地などの現在の地形は、縄文時代晩期頃の地形をおおよそ反映しており、丘陵の周囲には湿地や沼地、湖沼が広がっていたこと。

3）遺構は、掘立柱建物跡や竪穴状遺構、土坑墓、埋葬犬骨、土器埋設遺構、集石遺構、土器の一括廃棄土坑などを検出し、これらは低丘陵上および丘陵裾部の微高地および緩斜面につくられ、丘陵の突端部で多く見られること。

4）遺物包含層は、丘陵裾部から低地部の斜面に形成され、調査対象範囲の広範囲に点在していること。

5）出土した遺物には、縄文土器や土製品、石器・石製品、木製品、漆製品、骨角牙製品、動植物遺存体などがあること。

6）遺物は、縄文時代早期中葉から弥生時代前期まで多くの時期のものが出土しているが、晩期中葉から末葉のものが特に多く出土していること。

7）遺物の出土状況から、縄文時代晩期前葉以前は小規模な集落が点在する状況がみられるが、晩期中葉から末葉にかけて集落の規模と数が増加し広範囲にわたって形成されるようになること。

8）縄文時代の遺物包含層の上層には、砂や植物を部分的に含むグライ化した粘土層（Ⅴ層）やスクモ層（Ⅱ～Ⅳ層、Ⅴ層の一部）が形成され、弥生時代前期の大規模洪水の後に湿地化したこと。

(2) 平成 21 年度の発掘調査成果

平成 21 年度の調査では、北小松遺跡の範囲の中央部に当たる東 C 丘陵西端部を調査し、過去 2 年間の調査と比べて膨大な量の遺構・遺物を検出した。調査範囲はこの地域における拠点集落の性格をもつ空間であったとみられ、以下の 9) ～ 20) に取り上げる成果が得られた（宮城県教育委員会 2014）。

9）東 C 丘陵西端部では、縄文時代晩期を主体とする掘立柱建物跡 19 棟や柱列跡 3 条、土坑墓 27 基、埋葬犬骨 3 基、土器埋設遺構 5 基、集石遺構 3 基、土坑 17 基、焼け面 2 箇所、ピット多数などを検出した。また、丘陵裾部で縄文時代後期末葉から弥生時代前期の遺物包含層を検出した。

10）検出したピット群の分布から、丘陵頂部の中央部付近は空閑地であり、三方を囲むように掘立柱建物群がつくられた状況を確認した。空閑地は広場として利用されていた可能性が考えられる。建物群はおもに晩期中葉から末葉に位置づけられ、この区域ではほかに竪穴住居跡や貯蔵穴等を検出しなかったことから、居住域または倉庫域と推定される。また、これらの周りで柱列跡を 3 条検出した。これらは晩期中葉から後葉頃に位置づけられ、居住・倉庫域を囲む柵や塀の役割を

果たしていたとみられる。

11）建物群の外側にある南斜面では、土坑墓（27 基）、埋葬犬骨（3 基）、集石遺構（2 基）がつくられ、墓域が形成される。埋葬犬骨は晩期前葉から末葉に位置づけられ、それ以外は晩期末葉以降に位置づけられる。なお、晩期中葉から後葉の埋葬犬骨 1 基は 3 体が同時埋葬されており、国内でもきわめて稀な検出事例である。また、集石遺構 1 基（SX43）は自然石や礫石器の他に、石棒類や独鈷石などの石製品、土偶や土版などの土製品もあわせて集積されていることから、葬送行為に関連する遺構とみられる。

12）南斜面の土坑墓はすべて一次埋葬の墓壙であるが、埋葬形態により遺体に土器を被せたもの（A 類）と被せないもの（B 類）の 2 種類に分類され、A 類→ B 類という時間的変遷が層位的に捉えられる。また、墓域内における位置も、両者が重複せずにおおむね西側から東側へ移動する。

13）南斜面の遺物包含層は後期末葉から晩期末葉まで形成される。晩期前葉には貝層が形成される。また、最上層は地山粒や地山ブロックが多く含まれ、直下の層よりもやや古い時期の遺物がやや多く含まれることから、二次堆積や人為的な盛土の可能性が考えられる。

14）同じく建物群の外側にある北斜面では、土器埋設遺構（5 基）と集石遺構（1 基）がつくられる。いずれも晩期最終末以降に位置づけられる。土器埋設遺構は大型の鉢を伏せて埋設した遺構であり、うち 1 基で人骨の一部を検出したことから、二次埋葬の墓壙と考えられる。これらは、集石遺構と合わせて円弧状に配列されており、両者は一連のものの可能性がある。したがって、この時期には丘陵西端の北斜面も葬送行為にかかわる空間として利用されたとみられる。

15）北斜面の遺物包含層は晩期前葉から弥生時代前期まで形成される。南斜面と同様に地山粒や地山ブロックを多く含む層を検出している。南斜面のものよりも時期が遡るものの、その範囲が限定されることから、盛土状の遺構の可能性も考えられる。

16）丘陵裾部（南斜面・北斜面）に形成された遺物包含層の広がりや遺物の出土状況から、この区域では晩期前葉から居住域が形成され、晩期末葉になると、中央の広場を囲む掘立柱建物群がつくられ、その外側には墓域や柵または塀、さらに廃棄の場（遺物包含層）で構成される集落となる。弥生時代前期には、建物群が縮小するものの、南斜面では墓域が継続して営まれ、北斜面に新たな墓域が形成されるようになる。

17）遺物包含層からは、土器や土製品、石器・石製品のほか、漆製品や骨角牙製品などの有機質遺物や動植物遺存体が多量に出土している。これらのなかには、中空動物形土製品やイモガイ形石製品など、県内では類例の少ない遺物が含まれる。また、北斜面の晩期中葉の遺物包含層から出土した 3 点の「サメ歯装着具」は日本列島で初の出土事例である。

18）出土した動物遺存体は、淡水と森林～草原に生息する動物でほとんどが構成されており、縄文時代晩期には東 C 丘陵西端部周囲の水位が低く、やや乾燥した林間にあった可能性がある。これらの動物資源は季節的な変動が大きい点が特徴とされており、保存食や交易などの利用も含め、季節的変動に合わせた生業活動が営まれていたとみられる。

19）珪藻化石群の分析から、東 C 丘陵西端部周辺では縄文時代後期末葉以降に、湿った環境と乾

いた環境が繰り返し変化していた状況が確認された。また、植物化石群の分析から、本遺跡周辺の他の調査地点と同様に沼の周辺ではクリが優勢な林が形成されていたことが判明している。

20）弥生時代前期の大規模洪水により集石遺構の上部が一部攪乱されており、また、洪水堆積層の下位からは弥生時代前期の遺物も出土していることから、東C丘陵西端部付近では大規模洪水に近い時期まで人間活動の痕跡が残されていたものとみられる。

（3）平成22年度以降の本発掘調査

平成22年度の発掘調査は、前年度に引き続き、ほ場整備対象地区の東側丘陵に立地する北小松遺跡のうち、遺跡範囲の南半部に当たる丘陵裾部および低地部（F区）が発掘調査の対象となった。また、作物の収穫後に、遺跡範囲の最も南に位置する丘陵（東E丘陵）南側の丘陵裾部および低地部の発掘調査を実施した（H区）。この区域では縄文時代の遺物包含層等が検出されなかったことから、遺跡は南側に広がらないと判断し、北小松遺跡としての発掘調査は平成22年度で終了した。

平成22年11月からは団子山西遺跡（当時、新田柵跡、団子山西遺跡、神明遺跡）の本発掘調査を開始した。その後、翌23年3月に発生した東日本大震災による影響や、発掘調査成果を受けて調査計画および工事の基本設計が変更されたこともあり、当初の計画より調査終了時期が延長となったが、平成29年度には面工事に伴う大規模な発掘調査（発掘作業）が終了した。なお、平成22年度からは、暗渠排水工事や表土入れ換え工事などの付帯工事に伴う小規模な発掘調査や工事立会が断続的に続いている。

第2節　調査の方法と経過

1. 発掘作業

平成22年度にほ場整備の工事を予定している範囲（約143,600㎡）のうち、コンクリート製の構造物を敷設する水路予定地が記録保存調査、パイプライン埋設予定地（掘削深度の平均値約1m）および、田面部で高さ調整のために削平される範囲が、掘削深度までの記録保存調査、未舗装あるいは簡易舗装の農道予定地および、構造物を敷設しない水路（土水路）が遺跡の内容把握のための確認調査の対象となった（第4・5図）。また、農道および土水路予定地内でコンクリート製の構造物が敷設される範囲は記録保存調査、土水路の掘削が遺構検出面に及ぶ範囲は、掘削深度までの記録保存調査の対象としている。

（1）調査の方針と調査地の選定

平成22年度の発掘調査対象地（F区）では、平成17年度に田尻町教育委員会により試掘確認調査が実施されている。その後、この調査成果を受けて、遺跡への影響を小さくするように水路や道路等が設計され、これを基にあらためて調査計画を立てることとなった。

平成19年度から3箇年にわたる発掘調査では、ほ場整備地区内の丘陵裾部から低地部にかけて遺物包含層（Ⅵ層）を多くの地点で検出し、また、丘陵上や丘陵裾部の微高地には遺構が形成されるこ

とが判明した。平成 22 年度の発掘調査対象地（F 区）も、これまで発掘調査を実施してきた場所と同様の地形が広がることから、縄文時代の遺構や遺物包含層が存在することが想定され、これらの分布と範囲確認、および内容の把握を発掘調査のおもな方針とした。

一方で、調査対象地の東側丘陵上には、古代の城柵跡とされる新田柵跡が隣接していることから、関連する遺構の確認および内容の把握もまた調査方針の一つとなった。

以上の経緯および調査の方針により、調査地を選定することとした。調査地の選定に当たっては、平成 19 年度以降の発掘調査で確認した遺物包含層が、試掘確認調査で想定された以上に多くの地点に存在し、その範囲も広大なものであることが判明したことから、あらためて対象地内の遺構・遺物の分布を把握する必要があった。したがって、調査開始前に、丘陵裾部を中心に対象地内全域でハンドオーガーによるボーリング調査を実施し、Ⅵ層の分布の広がりと検出深度を確認して全体の作業量の把握に努めた[(註 3)]。

ボーリング調査の結果、F 区北東の湾奥部にあたる丘陵裾部と、南半部全体の丘陵裾部にⅥ層が広がることが判明し、この分布に基づいて調査区の設定を行った。Ⅵ層が検出された範囲とその周辺では、縄文時代の遺構や遺物包含層を検出するために調査区を多く設定し、そこから離れる低地部では遺物包含層の分布があまり見られなくなることから、少なく設定することとした。また、新田柵跡に関連する遺構の検出を目的として、外郭施設の延長線上にある丘陵裾部を中心に調査区を多く設定した。

(2) 調査の方法

発掘調査では、遺構確認面までをバックホウで掘削し、おおむね古代以降の遺構検出作業をⅤ層上面、縄文時代から弥生時代前期の遺構検出作業をⅥ層以下で実施した。丘陵裾部では縄文時代から弥生時代前期の遺物包含層を 3 箇所で検出し、これらの区域では、層の分布や堆積状況、遺構・遺物の分布状況を確認している。遺構や遺物包含層は、記録保存調査対象の発掘調査区では原則としてすべて精査し、確認調査対象の発掘調査区では必要に応じて一部を掘り下げて内容を確認することとした。また、Ⅵ層が深い位置にある低地部においても、遺物包含層の有無やⅥ層の分布状況を把握するため、すべての調査区を対象に、人力やバックホウによる掘削とボーリング調査を適宜実施し、遺物の確認および、Ⅵ層の深度や堆積状況を記録した。なお、新田柵跡の中心域の隣接地（F 区南半部）では、関連する遺構の有無を確認するために、丘陵裾部を中心に調査区を多く設定して遺構検出作業を実施したが、古代の遺物の二次堆積層 1 箇所以外に、新田柵跡に関連する遺構は検出されなかった。

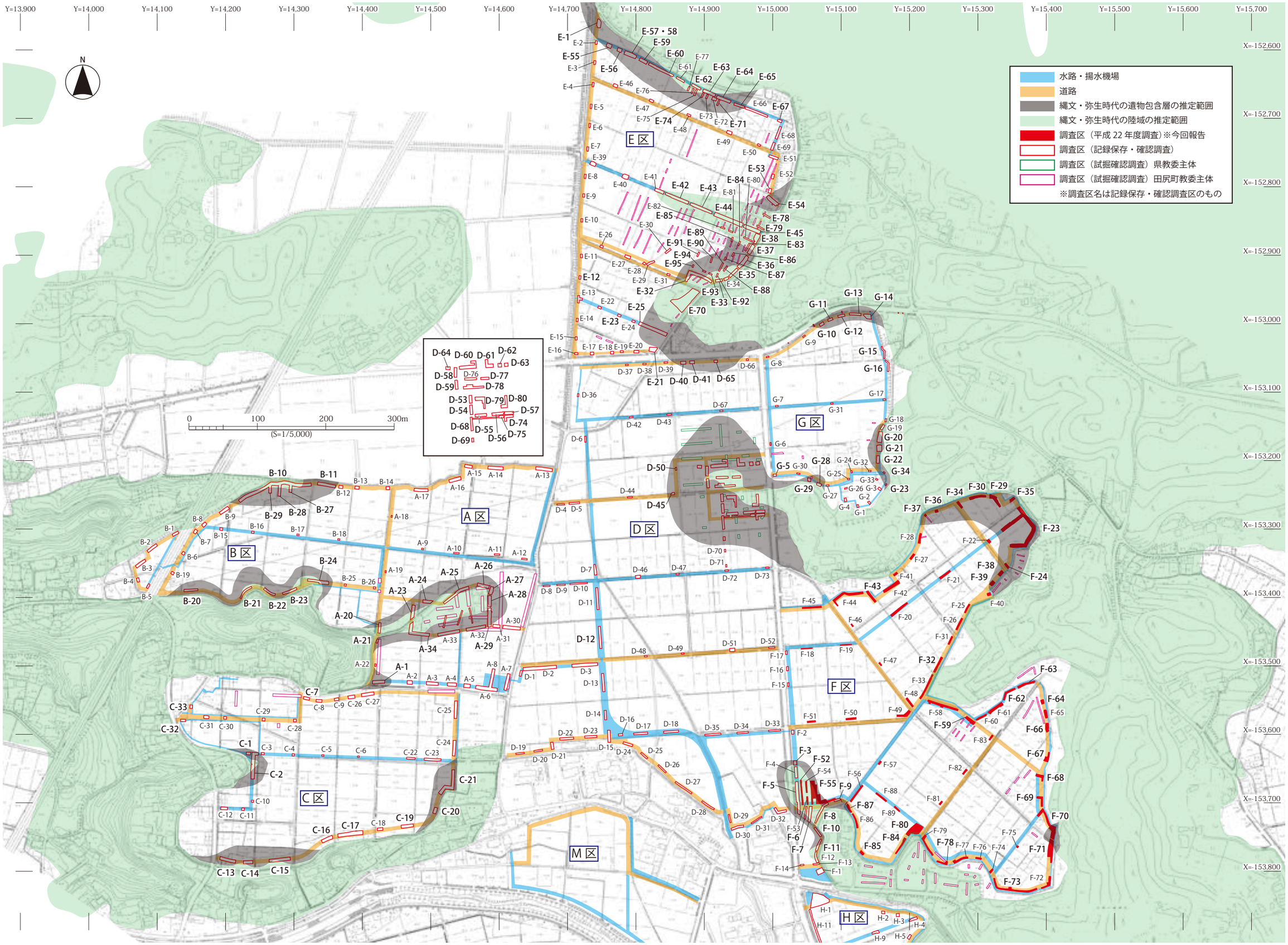
遺構等の記録に際しては、ほ場整備事業に伴い設置した 2 級基準点を測量原点とし、トータルステーションを用いた測量作業を行った。2 級基準点の国家座標（世界測地系第Ⅹ系）は以下のとおりである。

基Ⅱ -4: X=-153,411.328　Y=15,010.645　標高 : 17.798m

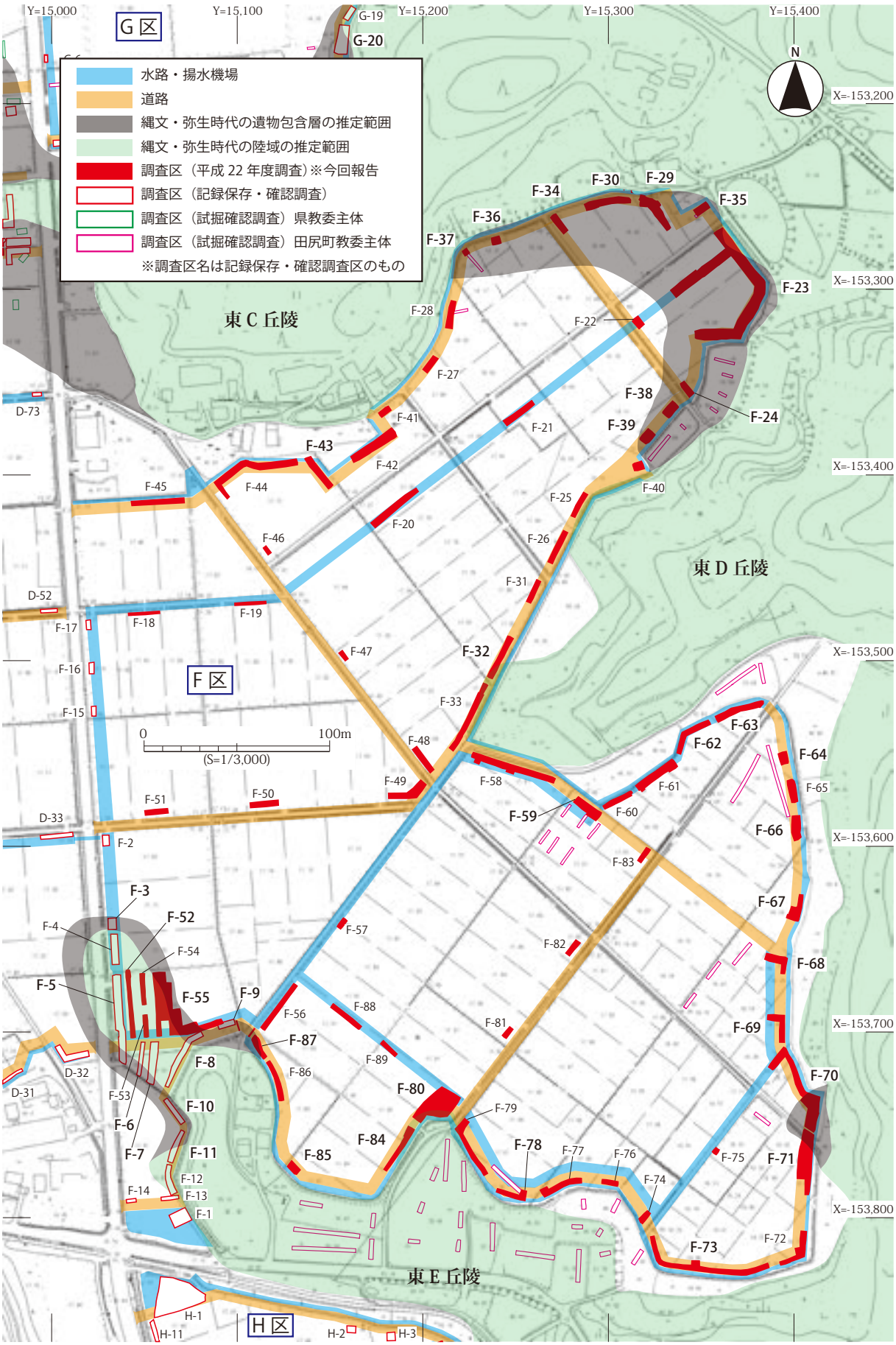
基Ⅱ -5: X=-153,509.643　Y=15,399.344　標高 : 20.006m

基Ⅱ -8: X=-153,823.441　Y=15,040.974　標高 : 18.328m

測量した遺構等の図化作業は、株式会社 CUBIC 製の遺構実測支援システム「遺構くん」を使用した。遺構の一部は縮尺 1/2 および 1/10 で実測図を作成し、断面図は縮尺 1/2 ～ 1/20 で実測した。な



第5図　経営体育成基盤整備事業（田尻西部地区）　調査区配置図



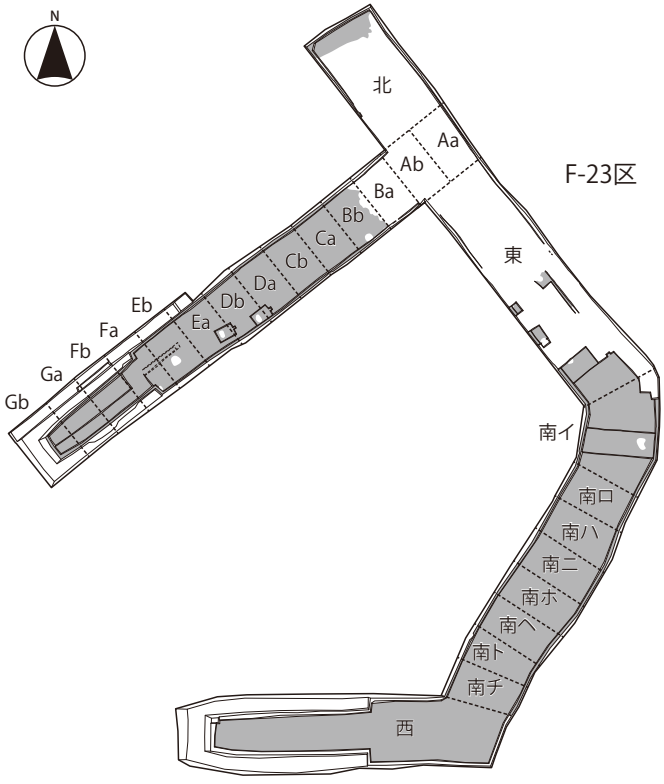
第6図　平成22年度調査区の位置と遺物包含層の分布状況

お、調査区平面図は遺構・遺物の有無や発掘原因（記録保存または確認）にかかわらず、すべての調査区を同じ精度で記録した。調査区壁の断面図は、遺物がある程度まとまって出土した地点について原則2面を実測することとし、遺構・遺物の検出がほとんどなかった調査区については、各調査区1箇所程度の柱状図を作成することとした。

遺物の出土状況の記録は、出土量の多いF-23区やF-70区で、発掘調査区をさらに小地区やグリッドに細分して、この区分を用いて記録した（第7図、F-70区については第5章参照）。また、残りの良いものについては、トータルステーションを用いて出土位置の三次元座標を記録するとともに、個別の出土状況も写真により記録している。

遺構等の写真撮影は、デジタル一眼レフカメラ（撮像素子サイズ：23.6 × 15.8mm（APS-Cサイズ）、有効画素数：12.9メガピクセル）を用い（記録形式JPEG）、重要度が高いものについてはRAW形式とJPEG形式の同時記録（TIFF形式へ変換した画像もあわせて保存）に加えて、6 × 7cm判カラーリバーサルおよびモノクロフィルムを併用した。また、空中写真撮影を日本特殊撮影株式会社へ委託し、6 × 7cm判カラーリバーサルフィルム、35mm判カラーリバーサルフィルム、フルサイズデジタル一眼レフカメラ（RAW+JPEG同時記録）、デジタルビデオカメラ（ハイビジョン記録）による撮影を行った。

（3）調査の経過



第7図　F-23区グリッド配置図

発掘作業は、平成22年4月26日から翌23年2月3日まで実施した。調査はF区北半部（F-18 ～ 51区）から着手し、終了後にF区南半部（F-52 ～ 89区）の調査に移行する計画であった。

F区北半部の調査は4月26日に着手し、5月中旬には北東の湾奥部で東西180m、南北150mの範囲（いずれも推定値）に広がる遺物包含層を検出した。特に最奥部のF-23区では、北東辺の農道予定地（F-23区北・Aグリッド・東）で丘陵の延びを確認し多数のピットや土坑を検出している。また北東辺から南西に方向に延びる水路予定地（A ～ Gグリッド）では、ピットや土坑のほかに埋葬犬骨5基（6体）を検出するとともに、最大で約1mの厚さの遺物包含層から膨大な量の土器や石器類、シカやイノシシ

を主体とする動物遺存体が多量に出土することが判明した。このように貴重な遺構・遺物が多数発見されたことから、遺跡のさらなる重要性を鑑み、事業者と保存協議を行うこととなった。この協議の結果、F-23 区の取扱いが留保されることとなったため、これ以外の調査区を先行して調査することとした。その結果、8 月 26 日までには、F-23 区以外の遺物包含層の調査を終えた。一方で F-23 区については、7 月 8 日の協議で、コンクリート製の水路部分は遺物包含層に到達しない掘削深度の土水路とすること、F-23 区南東側の道路幅を縮小すること（5m → 4m）、F-23 区周辺のパイプラインの敷設を取り止めることとなり、遺物包含層を含む遺構を現地保存することとなった。そのため、F-23 区は、検出遺構や遺物包含層の記録と一部精査、出土遺物の記録と取り上げなど、遺跡の解明に必要な調査を実施した後に、土嚢や山砂を用いて慎重に埋め戻した。これらの作業を含む F-23 区の調査と、これと並行して実施した遺物包含層検出地点以外の F 区北半部の調査は、10 月 8 日までに終了した。

F 区南半部の調査は 8 月 20 日に着手し、調査開始前のボーリング調査でⅥ層を検出した地点を対象に表土掘削および遺構検出作業を先行して実施した。これらの作業でⅥ層上面まで検出した箇所では、遺構や遺物の量があまり多くなく、F 区北半部の調査終了後に調査することとしたため、南半部の調査を一時中断した。その後、10 月 6 日から調査を再開し、南西部の丘陵裾部（F-55 区）と、南東にある湾奥部に当たる丘陵裾部の一部（F-70・71 区）で遺物包含層を検出した。また、F-70 区の遺物包含層では、これと重複する沢跡および溝跡を 1 条ずつ検出している。

F-55 区では、水路部分および田面部の工事により掘削が及ぶ範囲（標高 17.7m 以上）を対象に記録保存のための調査を実施した。F-70 区および F-71 区では、道路および土水路部分の確認調査とパイプライン敷設箇所の記録保存調査を行う計画であったが、遺物が多く出土したことから、事業者にパイプラインの敷設箇所変更を要望した。その結果、11 月 26 日の保存協議でパイプライン敷設位置が遺物包含層を回避する計画へと変更となり、当該調査区は確認調査のみとなった。これにより調査期間も短縮され、F 区南半部の調査は 12 月 8 日までに終了した。

12 月 9 日からは、既存の施設部分（水路、農道等）の工事に伴う記録保存調査や確認調査、工事立会を実際の工事に合わせて断続的に実施した。F-29 区の北側では掘立柱建物跡や竪穴状遺構を検出し、F-23 区以外にも居住を伴う遺構群が存在することが判明した。これらの発掘調査や工事立会は、2 月 3 日までにすべて終了した。

また、本遺跡の発掘調査と並行して、団子山西遺跡の発掘調査を 11 月 2 日から 12 月 6 日まで実施している（宮城県教育委員会　2018）。調査対象地の H 区では、おもに古代の遺構・遺物を検出した。また、東 E 丘陵の南側に位置する H 区北部の丘陵裾部では、本遺跡の遺物包含層に相当する層（Ⅵ層）を検出したが、縄文土器がわずかに出土したのみで、遺物包含層の形成は確認されなかった。

本遺跡における平成 22 年度の発掘調査区の総数は 73 箇所で、調査面積は 6,412㎡（記録保存調査：2,101㎡、確認調査：4,311㎡）である。

なお、F-23 区周辺の遺物包含層の調査成果がある程度判明した 9 月 4 日には現地説明会を開催し、約 150 名の参加があった。また、9 月 1 日に空中写真撮影、9 月 2 日に報道記者発表、9 月 3 日に宮城県議会議員佐々木敏克氏による視察、9 月 8 日には文化庁調査官による視察があり、現状保存に当

たっての調査指導があった。

2. 整理等作業

整理等作業は発掘作業期間中から開始した。発掘作業と並行して、調査記録の基礎整理は、雨天等による発掘作業の中止日等に現地で行い、遺物の水洗作業は多賀城市内の整理室（文化財保護課分室）で行った。12 月に発掘作業がおおむね終了した後は、整理室で整理等作業の一切を行った。

調査記録の基礎整理および遺構の整理作業は平成 22 年度に実施した。遺構の整理作業は平成 23 年 3 月 9 日までにおおむね完了し、これ以降は遺物の整理作業に重点を置く予定であったが、その 2 日後の 3 月 11 日に東日本大震災が発生し、整理等作業は当分の間中断せざるを得ない状況となった。翌 23 年度になり、震災発生から 1 か月半後の 4 月下旬には整理等作業が再開できる見通しが立ったことから、徐々に作業を再開し、平成 24 年度までに遺物の水洗や注記、土壌の水洗フルイ等の基礎整理を継続して実施した。

その後、遺物の接合・抽出・登録等の作業を平成 25 年度から、遺物の実測や写真撮影等の作業を平成 29 年度から開始し、平成 31 年度までに継続して実施した。自然科学的分析や遺物の保存処理等の作業は平成 28 年度から外部機関に適宜依頼･委託した。報告書作成作業は平成 31 年度から実施し、令和 2 年度に印刷・刊行するに至った。

第３章　周辺の地形と基本層序

第１節　発掘調査区周辺の地形

北小松遺跡が位置する丘陵は、大崎低地の北縁部に位置する清滝丘陵の南東部に位置し、低く断続的になっているところの一つである。本遺跡周辺はこの低丘陵が南に樹枝状に延びる地形となっている。ほ場整備に伴う北小松遺跡とその周辺の遺跡の発掘調査では、この丘陵上や丘陵裾部に縄文時代の遺構や遺物包含層が形成されることが判明した。また、これらの丘陵に囲まれた低地部は近世まで湖沼や湿地であったとみられる。この低地部の中心から見て、西には愛宕山遺跡、諏訪遺跡、宮沼遺跡の位置する丘陵（西丘陵）、東には北小松遺跡の位置する丘陵（東丘陵）があり、それぞれの丘陵から低地部の中心に向かって、小丘陵がさらに樹枝状に延びている。これらの小丘陵は、西丘陵では北から西Ａ丘陵、西Ｂ丘陵、西Ｃ丘陵、西Ｄ丘陵の４本、東丘陵では北から東Ａ丘陵、東Ｂ丘陵、東Ｃ丘陵、東Ｄ丘陵、東Ｅ丘陵の５本に、それぞれ大きく分かれる（第４図）。

平成 22 年度における本遺跡の発掘調査対象範囲は、東Ｃ丘陵および東Ｄ丘陵、また東Ｅ丘陵に囲まれた丘陵裾部と低地部である（第６図）。現況は、標高 17.3 ～ 18.8m のほぼ平坦な地形で、大部分が水田として利用されている。

第２節　基本層序

平成 22 年度調査区における基本層序は、過去の調査と同様に以下のように大別される（第８図）。

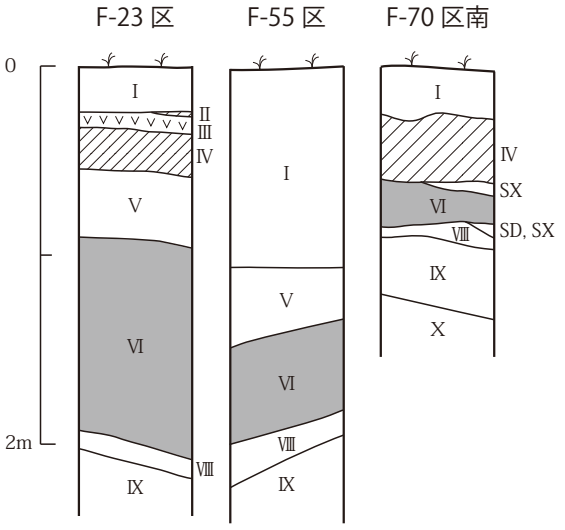
第Ⅰ層：表土層

第Ⅱ層：スクモ層。おもに低地部に分布する。層厚約 5cm（F-44･55･73･86 区）～ 10cm（F-23･63 区）。

第Ⅲ層：灰白色火山灰層（十和田Ａテフラ、To-a）。おもに低地部に分布する。層厚約 2cm（F-57･74 区）～ 15cm（F-22・23・47・68・70・73 区）。

第Ⅳ層：スクモ層。東Ｄ丘陵南斜面の一部（F-63 区）ではこの上位に灰黄褐色粘土～シルト層が堆積し、古代の遺物を含む。層厚約 5cm（F-23･57･77･79 区）～ 165cm（F-75 区）。

第Ⅴ層：オリーブ灰色粘土～砂層。水成堆積層。層中にスクモ層が形成される地点があることから、洪水による水位の上昇が複数回繰り返されたものとみられる（松本　2014）。層厚約 5cm（F-72 区）～ 405cm 以上（F-50 区）。



第8図　基本層序模式図（F-23区 F-55区、F-70区）

第Ⅵ層：おもに黒色を呈する粘土～砂層。縄文時代から弥生時代前期の遺物包含層はこの層中に形成される。層厚約 15cm（F-32・58 区）～ 250cm（F-35 区）。

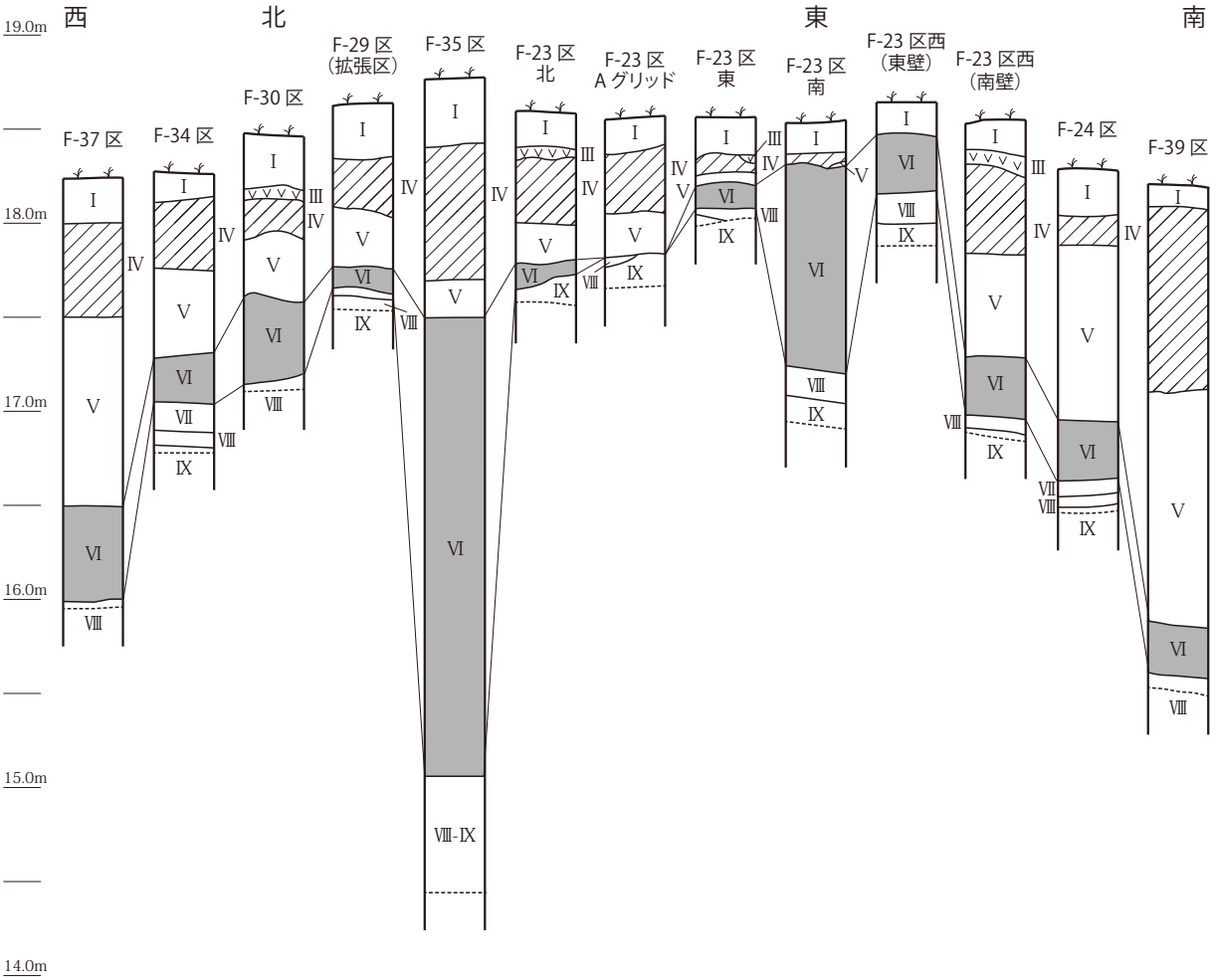
第Ⅶ層：おもに黒色や褐灰色を呈する粘土～砂層。Ⅵ層と比べて黒色が薄くなり、砂粒の混入が増加する。無遺物層。

第Ⅷ層：おもに暗褐色を呈するシルト～砂層。Ⅵ・Ⅶ層とⅨ層の漸移層。

第Ⅸ層：黄褐色粘土～砂層

第Ⅹ層：基盤の凝灰岩層

ここで、遺構・遺物を多く検出したＦ区北半部における丘陵裾部の断面について、柱状図を用いて第 9 図に示した。Ｆ区は、東Ｃ丘陵南側から東Ｅ丘陵北側の間の丘陵裾部および低地部からなり、縄文時代から弥生時代前期の遺物包含層は、大きく 3 箇所で形成される。なかでも、東Ｃ丘陵南斜面（F-37 区）から東Ｄ丘陵北斜面（F-39 区）にかけて広範囲に広がり、遺構・遺物を特に多く検出している。遺物包含層の分布は一様ではなく、丘陵にほど近い F-35 区と F-23 区南（東端部）で厚く堆積している状況を確認した。周辺調査区におけるⅥ層の層厚差から、この 2 地点は当時沢状の地形であったとみられる。この 2 地点に挟まれた地点は、低丘陵が南東に張り出しており、この突端部に



第9図　F区北半部　丘陵裾部の断面模式図

掘立柱建物跡などの遺構が多くつくられる。遺物包含層に相当するⅥ層は丘陵裾部に形成され、一部で厚く堆積し微高地状になる。なお、遺物包含層を検出した3箇所以外にも丘陵裾部にはⅥ層が広く分布し、多くの地点で縄文土器や石器が出土している。ただし、これらの地点は、遺物の分布が散漫で、かつ破片も小さいため、周辺の丘陵からの流れ込みによるものと判断した。

洪水堆積層であるⅤ層はほぼ全域で確認され、建物跡を多く検出したF-23区（Aグリッド）の丘陵上でも堆積していることから、低丘陵をのみ込むほどの大規模な洪水であったと推定される。湿地性の堆積層であるⅣ層は丘陵裾部の末端から低地部にかけて堆積し、また、F-23区など縄文時代に丘陵であった場所にも堆積している。大規模洪水後に伴い水位が上昇し、縄文時代よりも湖沼や湿地の範囲が広がったものとみられる。F-63区ではⅣ層中に古代の遺物を含む層を確認したが、同様に遺物の分布状況から、Ⅵ層と同様に新田柵跡の立地する丘陵からの流れ込みによるものと判断した。灰白色火山灰層であるⅢ層は、湿地のなかでも水が集まる場所に集積している。

第3節　Ⅵ層の分布と区分

遺物包含層が形成される基本層第Ⅵ層は、おもに黒色を呈する粘土やシルト、砂などからなる層であり、本遺跡周辺の丘陵裾部に発達する。層厚は約10～250cm（平成19～22年度調査）あり、この層の一部に縄文時代から弥生時代前期の遺物包含層が形成される。これまでの調査成果から、遺物包含層は本遺跡や周辺遺跡の丘陵裾部に点在することが判明している（第5図）。

本遺跡の西側では、愛宕山遺跡の位置する西A丘陵の南斜面（東端部）で1箇所、諏訪遺跡の位置する西B丘陵の北斜面・東端部・南東斜面でそれぞれ1箇所ずつ、西C丘陵の東端部で1箇所、宮沼遺跡の位置する西D丘陵の北斜面で2箇所の遺物包含層を検出している。遺物包含層出土の遺物は後期後葉のものから見られるが、出土量が増えるのは晩期中葉以降である。晩期中葉の遺物は西C丘陵東端部や西B丘陵南斜面で多く出土し、晩期後葉にはより広範囲で主体的に出土するようになる（宮城県教育委員会　2010b）。

本遺跡では、これまでの発掘調査で、東A丘陵の南斜面で1箇所、東B丘陵の北斜面・南斜面でそれぞれ2箇所ずつ、東C丘陵の北斜面で3箇所、南斜面で1箇所、東E丘陵の北斜面・南斜面でそれぞれ1箇所ずつ検出している。遺物包含層出土の遺物は早期中葉のものから見られるが、中期までは一部の地点のみの出土にとどまる。後期以降により広範囲で出土するようになり、晩期中葉以降に出土量がより多くなる傾向が判明している（宮城県教育委員会　2011・2014）。

平成22年度の発掘調査では、東C・D丘陵間の湾奥部で大きく1箇所、東D・E丘陵間で南北に延びる丘陵の西側で1箇所、東E丘陵の突端部で1箇所検出した。東C・D丘陵間には小丘陵が形成され、それぞれの丘陵は小さな沢または河川で隔てられている。この場所で形成された遺物包含層は、これらにより3箇所に細分される。

第 4 章　遺構の分布と遺物の分類

平成 22 年度の発掘調査は、東 C 丘陵および東 D 丘陵、また東 E 丘陵に囲まれた丘陵裾部と低地部を対象として実施し、縄文時代から弥生時代前期および古代以降の遺構・遺物を検出した。これらのほとんどが縄文時代から弥生時代前期のものとみられ、掘立柱建物跡 48 棟、竪穴状遺構 1 基、石斧集積遺構 1 基、埋葬犬骨 5 基、土坑 9 基、溝跡 2 条、沢跡 1 条、焼け面 1 箇所、ピット多数がある。また、縄文時代から弥生時代前期の遺物包含層を 5 箇所、古代の遺物包含層（二次堆積層）を 1 箇所で確認している。遺物は、遺物収納箱（長 54 ×幅 34 ×深 15cm）で 295 箱に相当する量が出土した。

以下に、発掘調査範囲における遺構の分布の状況と、遺物の概要について述べる。なお、本書で取り上げる遺構および遺物は原則として中世までを対象とし、近世以降については遺物のみに限定している。

第 1 節　遺構の分布

1. 縄文時代から弥生時代前期

(1) 遺構の分布と種類

平成 22 年度発掘調査範囲における縄文時代から弥生時代前期の遺構（遺物包含層を除く）の分布は、大きく 3 箇所に分けられ、F 区北半部の東 C 丘陵南斜面、東 C・D 丘陵間の小丘陵の突端部、F 区南半部の東 D・E 丘陵間を南北に延びる丘陵の西側でそれぞれ検出している。遺構の大部分は、F 区北半部の丘陵緩斜面やそこから広がる微高地上で検出したものであり、丘陵斜面からやや離れた低地部が調査対象地となることの多かったF区南半部では、遺構の検出は溝跡1条と沢跡1条のみにとどまった。

各地点で検出した遺構の種類は以下のとおりである。なお、各地点および各遺構の詳細については、次章で述べる。

東 C 丘陵南斜面（F-29 区、F-30 区）

掘立柱建物跡 5 棟（建て替えを含む）、竪穴状遺構 1 基、焼土集積 3 箇所、ピット（柱穴や小穴）多数

東 C・D 丘陵間の小丘陵突端部（F-23 区のうち、北区・東区・A ～ G グリッド）

掘立柱建物跡 43 棟（建て替えを含む）、石斧集積遺構 1 基、埋葬犬骨 5 基、溝跡 1 条、土坑 9 基、焼け面 1 箇所、焼土集積 2 箇所、ピット多数

東 D・E 丘陵間（F-70 区）

溝跡 1 条、沢跡 1 条

(2) 遺物包含層の分布と区分

前章で述べたとおり、平成 22 年度の発掘調査において遺物包含層は、東 C･D 丘陵間の湾奥部（F-23･24･29･30･34 ～ 39 区）で 1 箇所、東 D･E 丘陵間で南北に延びる丘陵の西側（F-70･71 区）で 1 箇所、

東Ｅ丘陵の突端部（F-55・87 区）で１箇所検出した。さらに、東Ｃ・Ｄ丘陵間の遺物包含層は３箇所に細分されることから、本調査で検出した遺物包含層は計５箇所である。これらについて、前回の報告書（宮城県文化財調査報告書第 234 集）での記述にならって、それぞれの調査区で検出した遺物包含層を以下のように分類・呼称する（第５図）。

F-29 区、F-30 区、F-34 区、F-35 区、F-36 区、F-37 区：「東Ｃ丘陵南斜面ｂ包含層」

F-23 区北・東・Ａ～Ｇグリッド：「東Ｃ・Ｄ丘陵間包含層」

F-23 区南・西、F-24 区、F-38 区、F-39 区：「東Ｄ丘陵北斜面包含層」

F-70 区、F-71 区：「東Ｄ・Ｅ丘陵間包含層」

F-55 区、F-87 区：「東Ｅ丘陵北斜面包含層」

本書では、上記分類にもとづいて遺構や遺物の記載を行う。なお、上記以外の調査区でもⅥ層から遺物が出土している調査区があるが、いずれも小破片（縄文土器）の散漫な分布であったことから、二次的な堆積によるものと判断し、遺構や遺物包含層以外の出土遺物としてまとめて報告する。

2. 古代以降

古代以降の遺物は、発掘調査対象地の広範囲にわたって出土し、特に F-63 区や F-70 区では古代の遺物がⅣ層中から一定量出土している。ただし、これらの遺物は小破片が多く、摩耗も顕著に認められることから、二次堆積によるものとみられる。

これらの調査区以外では、古代以降の遺物の出土量は非常に少なく、また、ほとんどが湿地性堆積層（Ⅱ～Ⅳ層）や低地部の表土層などから出土したものであり、周囲の丘陵等からの流れ込みによるものと判断される。

第２節　遺物の分類

本調査で出土した遺物のほとんどが、縄文時代から弥生時代前期のものである。本節では、出土量の多い土器、土製品、石器・石製品、骨角牙製品を対象に分類基準を提示し、この基準に従って次章で遺物を記載する。

1. 土器

本調査で出土した土器は、型式学的特徴から縄文時代晩期のものが大部分を占め、その前後の時期のものが少量出土している。また、後期中葉以前のものも出土しているが、一部の時期を除いてわずかな出土にとどまり、まとまりが認められない。したがって、出土量の比較的多い縄文時代後期後葉から弥生時代前期の土器を対象として、(1) 器種・器形、(2) 口縁部形態、(3) 装飾・施文要素、の３項目について、平成 21 年度発掘調査報告書（宮城県教育委員会　2014）に準じて以下のとおり分類する。

(1) 器種・器形による分類（類型 1）

器種には、深鉢、鉢、浅鉢、皿、壺、注口土器、香炉形土器、蓋、袖珍土器がある。分類基準図を第 10・11 図に示した。

[深鉢・鉢・浅鉢・皿]

これらの 4 器種は、器高と口径との比率に基づいて分類した。おおむね、器高／口径が 1 以上のものを深鉢、1 未満で 1/2 以上のものを鉢、1/2 未満で 1/3 以上のものを浅鉢、1/3 未満のものを皿として分類している。また、台や脚の付くものについては、台部や脚部高を器高から除いて器形分類した。

A類：口縁部が緩やかに内湾もしくは直立するもの（くびれをもたないもの）

B類：口縁部が、体部との境に明瞭なくびれをもってく字形に外反するもの

C類：口縁部が緩やかに外湾するもの（くびれの程度が弱いもの）

D類：明瞭な長い頸部をもつもの

[壺]

口径より体部最大径が明瞭に大きくなるもの。体部のくびれの位置まで残存している個体は少ないため、口頸部の形状により分類する。

A類：体部との境に明瞭な屈折点がなく、口頸部が直立もしくは内傾するもの

B類：体部との境に明瞭な屈折点がなく、口頸部が外傾するもの

C類：体部との境に明瞭な屈折点がなく、口頸部が緩やかに外湾するもの

D類：体部との境に明瞭な屈折点がなく、口頸部が外反するもの

E類：体部との境に明瞭な屈折点をもち、口頸部が直立もしくは内傾するもの

F類：体部との境に明瞭な屈折点をもち、口頸部が外傾するもの

G類：体部との境に明瞭な屈折点をもち、口頸部が緩やかに外湾するもの

H類：体部との境に明瞭な屈折点をもち、口縁部がく字形に外反するもの

Ⅰ類：体部との境に明瞭な屈折点をもち、頸部がく字形に外反し、口縁部が直立するもの

[注口土器]

注口部をもつもの。口頸部の形状により分類する。

A類：口縁部と頸部との境に明瞭な屈折点をもち、口縁部が内湾または内傾して立ち上がるもの

B類：口縁部と頸部との境に明瞭な屈折点をもち、口縁部が外傾または外反するもの

C類：口縁部と頸部との境に明瞭な屈折点がなく、口頸部が直立または内傾するもの

[香炉形土器]

香炉形土器は出土量がきわめて少ないため器形分類を行わなかった。

[蓋]

蓋は出土量がきわめて少ないため器形分類を行わなかった。

[袖珍土器]

小型でおもに手づくねにより成形しているものを袖珍土器とした。深鉢、鉢、浅鉢、皿、壺に類似する器形が認められ、同様の基準で器種・器形分類を行った。

(2) 口縁部形態による分類（類型 1）

香炉形土器を除く各器種で、口縁部が残存しているものについては口縁部形態による分類を行った。

1 類 : 平坦口縁

2 類 : 小波状口縁

3 類 : 大波状口縁

また、上記の 3 類型に、口縁部に施される以下の装飾的要素を加えて細分する。

a: 粘土の貼付

b: 浮線文

c: 沈線文

d: 刻目・刺突・押圧

e: 大型の突起

f: 小型の突起

o: その他

(3) 装飾・施文要素による分類（類型 2）

口縁部、頸部、体部、台部に展開する主要な装飾意匠や施文要素による分類を行う。分類基準図を第12～14図に示した。なお、出土量がきわめて少なかった装飾・施文要素については分類を行わなかった。類型は以下に示すⅠ～ⅩⅤの記号を用いて表しているが、ⅩⅡ～ⅩⅤ類の要素については、Ⅰ～ⅩⅠ類の要素がない場合についてのみ、これらの記号を用いて表している。

Ⅰ類 : 帯状文が施されるもの。これらのうち、貼瘤が施されるものをⅠＢ類とする。以下の充填要素を加えて細分する。

a: 縄文

b: 無文

c: 刻目

d: 刺突列

Ⅱ類 : 入組帯状文が施されるもの。これらのうち、貼瘤が施されるものをⅡＢ類とする。Ⅰ類と同様に充填要素の細分を行う。

Ⅲ類 : 三叉文が施されるもの

a: 魚眼状三叉文

b: 玉抱き三叉文

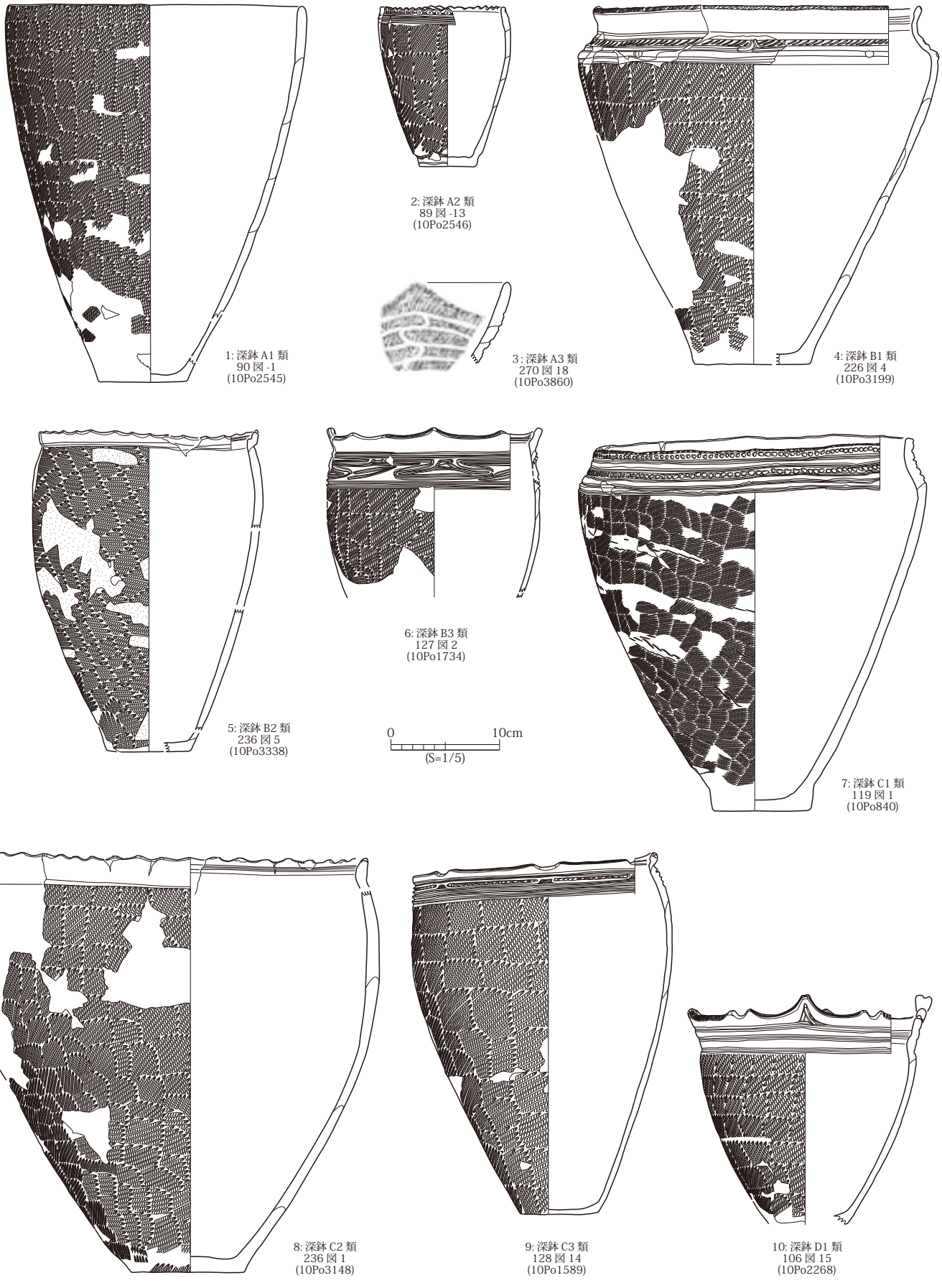
c: 入組三叉文

o: その他

Ⅳ類 : 羊歯状文

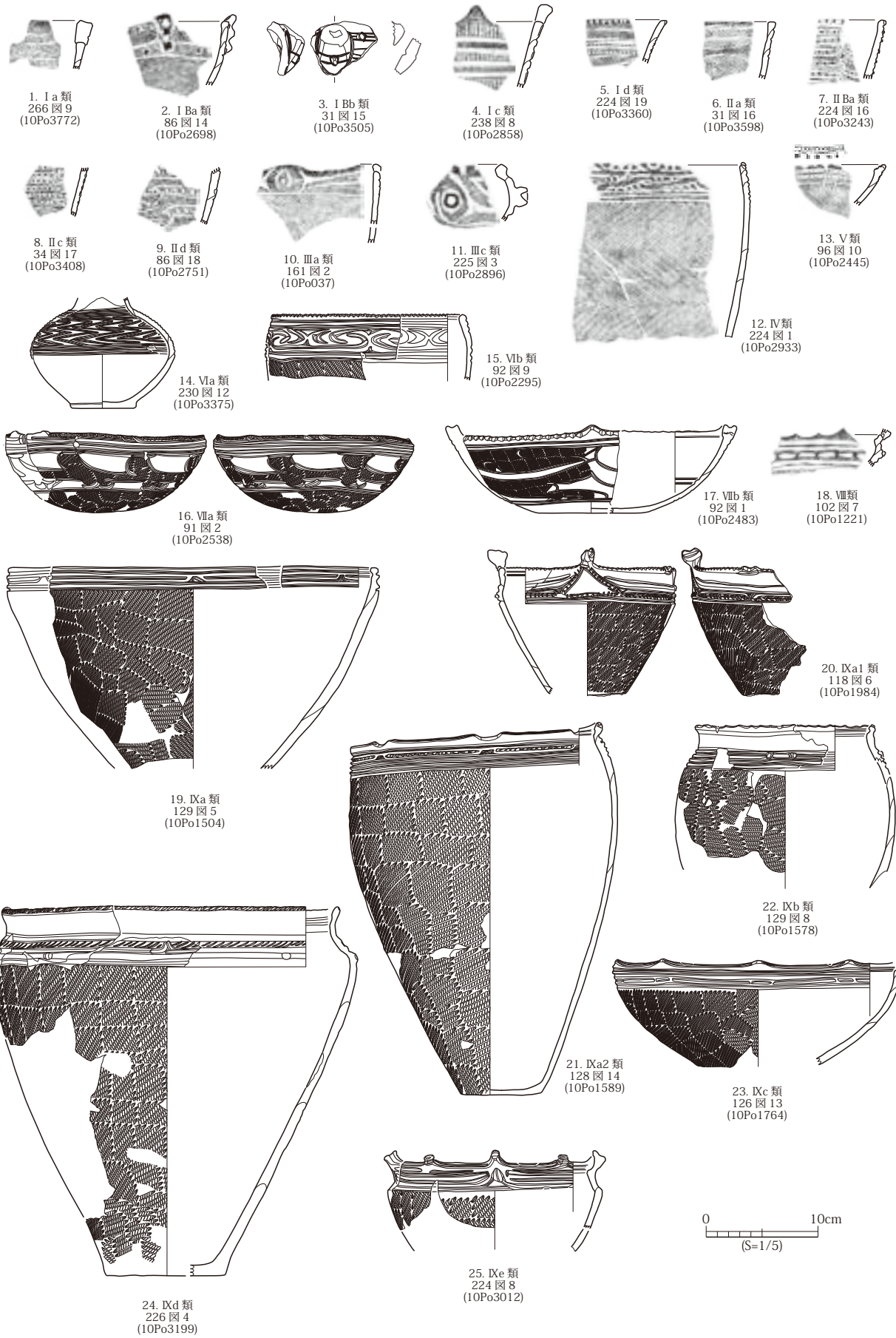
Ⅴ類 : 列点文

Ⅵ類 : アルファベット形の文様が施されるもの

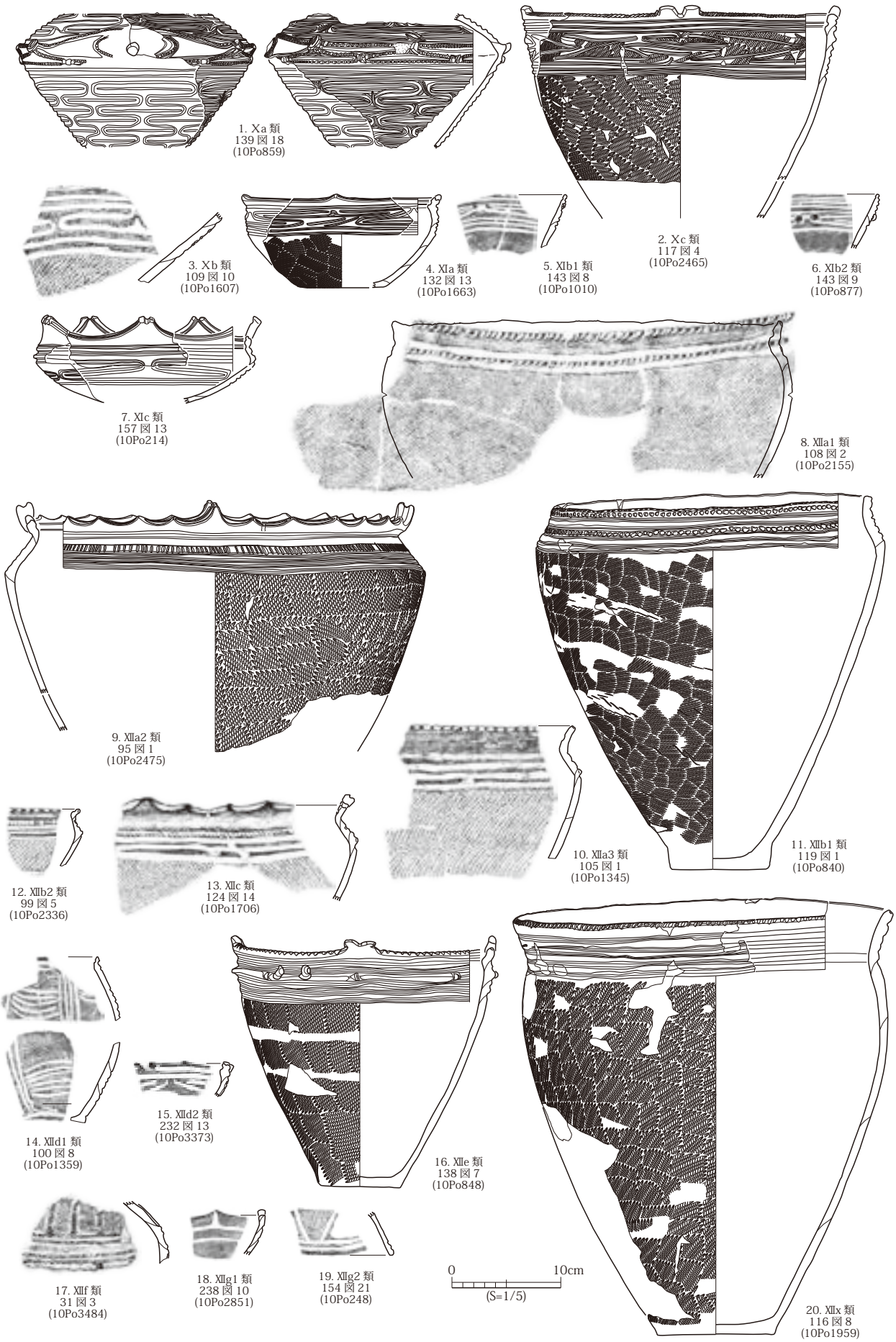


第10図　土器の分類基準図（類型1）（1）

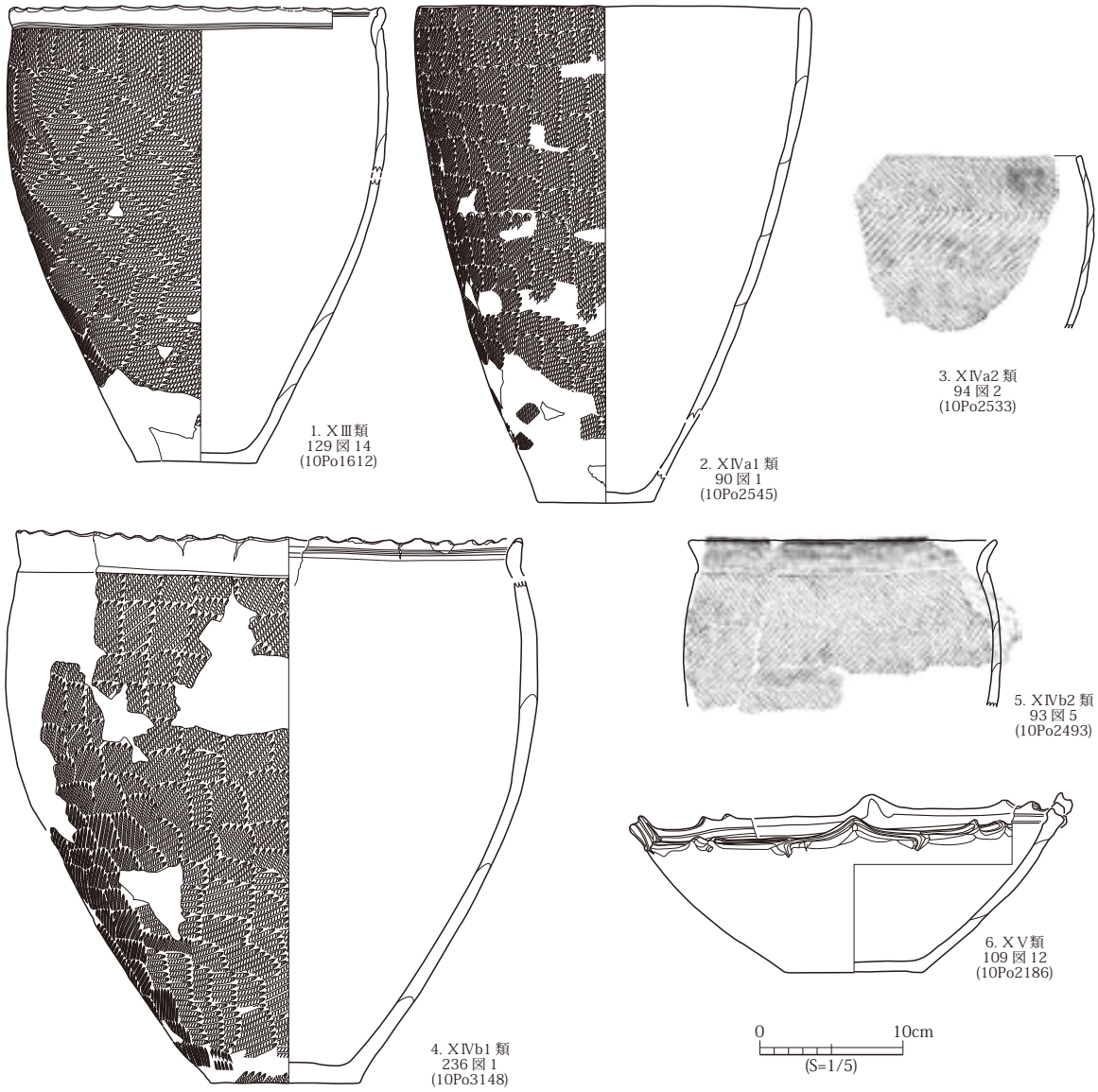
第11図　土器の分類基準図（類型1）（2）



第12図　土器の分類基準図（類型2）（1）



第13図　土器の分類基準図（類型2）（2）



第14図　土器の分類基準図（類型2）（3）

a: Z 字状

b: X 字状（C 字状）

Ⅶ類 : 雲形文が施されるもの

a: 浮彫表現

b: 沈線表現

Ⅷ類 : メガネ状浮文が施されるもの

Ⅸ類 : π字文（匹字文）が施されるもの

a: 隆線のみでπ字文を表現したもの。刻目や刺突列が付加されるものはその位置により以下の2類に細分される。

1: 隆線上

2: 隆線間

b: 隆線の一部を彫り込みその両側に粘土粒を貼付するもの。刻目や刺突列の付加による細分についてはａ類と同様である。

c: 沈線に２個一対の粘土粒を貼付したもの。または、粘土を寄せて貼瘤状にしたもの

d: 隆線間に刻目や刺突列を施し、隆線の一部を深く彫り込んでπ字文にしたもの

e: 隆線間に、これらと平行する隆線を１本付加し、変形工字文に類似する表現を作り出したもの

o: その他

Ｘ類：工字文が施されるもの

a: 陰刻（工字部を隆線により表現したもの）

b: 陽刻（工字部を沈線により表現したもの）

c: 沈線により帯状に工字文の表現がなされたもの

ＸⅠ類：変形工字文が施されるもの

a: 変形工字文間を斜線で区画したもの

b: 隆線表現によるもの。沈線の幅が狭いものを１類、広いものを２類としてさらに細分した。いずれにも瘤が付くものがあるが、２類は瘤が大きくなる。

c: 沈線表現によるもの

ⅩⅡ類：横位の平行沈線文が施されるもの。付随する要素により以下の６類に細分される。

a: 刻目。連続する刻みの間隔が均等のものを１類、一部で間隔が広がるもの（π字状の表現を作り出しているもの）を２類、単体の刻みと平行沈線文の組み合わせにより工字状の表現を作り出しているものを３類としてさらに細分した。

b: 刺突列。刺突の間隔による細分はａ類と同様である。

c: 押圧

d: 他方向の平行沈線文と組み合わさるもの。縦位のものと組み合わさるものを１類、斜位のものと組み合わさるものを２類としてさらに細分した。

e: 貼瘤

f: 隆帯

g: 他方向の沈線文と組み合わさるもの。方向による細分はｄ類と同様である。

x: なし

ⅩⅢ類：横位の沈線文が施されるもの

ⅩⅣ類：縄文のみが施されるもの。施文位置により以下の２類に細分される。

a: 口縁部から底部付近まで縄文が施されるもの

b: 口縁部付近にナデまたはミガキによる無文帯があるもの

また、施文される縄文の種類によりさらに細分される。

1: 縄文（斜行・横走・縦走）。原体のほとんどが単節縄文 LR や RL であり、ほかに無節縄文や複節縄文、前々段多条縄文、直前段多条縄文、直前段反撚縄文、前々段反撚縄文があ

る。また、末端部を強調するもの、結節や附加条の付くものがわずかに見られる。

2: 羽状縄文

3: 擬縄文

ＸＶ類: 残存する器面（口唇部を除く）すべてが無文のもの

2. 土製品

本調査では、土製品が 1,865 点出土している。これらについて、土偶、動物形土製品、土版、土面、円盤状土製品、垂飾、耳飾、土製小玉、舟形土製品、笠形土製品、鐸形土製品、スタンプ形土製品、棒状土製品、幾何学形土製品（円形、円柱形、球形、環形、円筒形）、不明土製品に器種分類した。また、これらのうち、出土量が多く遺物の形状に多様性のあるものについてそれぞれ以下のとおり類型化を行った。

［土版］

円盤状に成形したものを土版として分類し、装飾要素により Ａ～Ｃ類に大別した。

Ａ類: 円盤状に成形したものに、沈線文や刻み、刺突、押圧などにより装飾が施されたもの。両面に施されることが多い。

Ｂ類: 円盤状に成形したものに、沈線文などにより装飾が施されたもの。貫通孔が 4 箇所に穿たれている。小型で厚みをもつため土版として分類したが、装飾要素から蓋の可能性がある。

Ｃ類: 円盤状に成形しているが、Ａ・Ｂ類と異なり、装飾要素をほとんどもたないもの。全体の形状も不整なものもある。

［円盤状土製品］

土器片の縁辺を剥離や研磨によって円形に成形したものを円盤状土製品として分類した。平面形、断面形、縁辺部の製作技法により以下の各類型に細分される。

ⅰ）平面形による分類

Ａ類: 円形

Ｂ類: 楕円形

Ｃ類: 多角形

ⅱ）断面形による分類

ａ類: 平坦

ｂ類: 端部湾曲

ｃ類: 全体湾曲

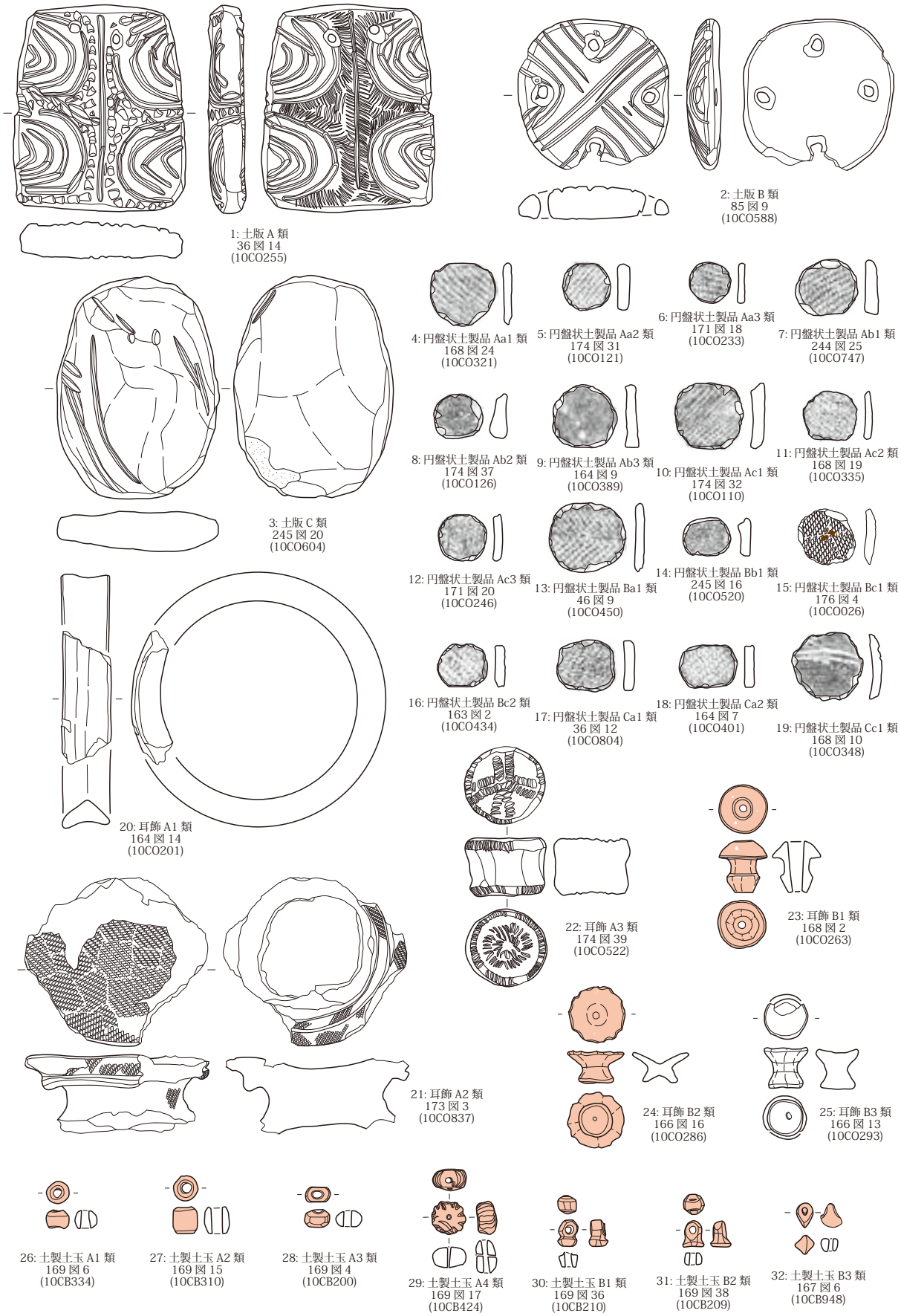
ⅲ）縁辺部の製作技法による分類

1 類: 剥離

2 類: 一部研磨

3 類: 全周研磨

なお、本文中や観察表等では、上記ⅰ）～ⅲ）の各類型を組み合わせて記号化したものを記載する。



（土版：S=1/2、円盤状土製品：S=1/4、耳飾：S=1/2、土製小玉：S=2/3）

第15図　土製品の分類基準図

[耳飾]

耳飾は大きさでA・B類に大別し、全体の形状によりさらに細分した。

A類：大型のもの

1: 環形

2: 滑車形

3: 円筒形（大型の鼓形）

B類：小型のもの。全面に漆が塗られ、朱色を呈するものが大部分を占める。

1: キノコ形

2: 盃形

3: 鼓形

[土製小玉]

球形や円盤形、円柱形などに成形した極小型の粘土塊に貫通孔が穿たれたものを土製小玉と総称した。全体の形状により、以下の各類型に細分される。

A類：単体で構成されるもの

1: 貫通孔が穿たれた面が円形を呈し、全体の形状が環形や球形になるもの

2: 貫通孔が穿たれた面が円形を呈し、A-1類よりも厚みをもち、円柱状となるもの

3: 貫通孔が穿たれた面が楕円形や四角形を呈するもの。A-1類のものがつぶれた形状となる。

4: A-2類に装飾が施されるもの。厚みをもち、全体の形状が円盤形となる。

B類：環形のものに、別の形状のものが付くもの

1: 突出した部位と環形の部位との境界が明瞭でくびれをもつもの。大きな石が突き出た指輪のような形状となる。

2: 突出した部位と環形の部位との境界が不明瞭で、くびれをもたないもの

3: 突出した部位が扇形となるもの。突出した部位と環形の部位の境界は不明瞭である。

3. 石器・石製品

本調査では、石器・石製品が6,569点出土している。これらについて器種別に分類し、それぞれの器種の特徴をもとに、形態や製作・使用状況により類型化を行う。なお、以下に示した分類基準および各類型は、原則として平成21年度発掘調査報告書（宮城県教育委員会　2014）に準ずる。

(1) 石器

[石鏃]

二次加工により作出した尖頭部をもち、先端が薄く扁平なもの。尖頭器としたものに比べ小型である。基部の形態によりⅠ～Ⅳ類に大別し、未成品をⅤ類とした。各類型はそれぞれ形状によりさらに細分される（第16図1～19）。

Ⅰ類：基部が突出するもの（凸基）

a: 基部の両側辺に深い抉りを入れ、茎を作出しているもの（有茎）

1: 鏃身が茎より長いもの

2: 鏃身が茎とほぼ同じ長さか短いもの

b: 基部の両側辺に浅い抉りを入れ、茎を作出しているもの（有茎）

1: 鏃身が茎より長いもの

2: 鏃身が茎とほぼ同じ長さか短いもの

c: 基部に抉りを入れないもの（凸基無茎）

1: 幅広のもの

2: 細身のもの

Ⅱ類 : 基部を半円形に調整しているもの（円基）

Ⅲ類 : 基部を直線的に調整しているもの（平基）

Ⅳ類 : 基部に抉りを入れ、２個の逆刺を作出しているもの（凹基）

a: 基部の抉りが深いもの

b: 基部の抉りが浅いもの

Ⅴ類 : 製作途中にあると考えられるもの（未成品）。基部や鏃身が非対称、一部が極端に厚みをもつなどの特徴が見られる。

また、Ⅰ～Ⅳ類については鏃身の形状により以下の３類に細分する。

A: 両側辺が外湾するもの

B: 両側辺が直線的になるもの

C: 両側辺が内湾するもの

［尖頭器］

二次加工により作出した尖頭部をもつもので、大型のもの。石鏃から尖頭器への大きさの変遷は連続的であり形態も類似するため、両者の間に明瞭な境界線を引くことはできないが、大部分の石鏃が長さ 4cm 未満であることから、未成品以外で長さ 4cm 以上のものを便宜的に尖頭器とした。長さ 4cm 未満のものについては、破損品であること、幅広で厚みをもつこと、二次加工が部分的で石鏃と異なる様相をもつことなどの要素があれば尖頭器として分類している。石鏃と同様に基部の形態でⅠ～Ⅲ類に大別し、未成品をⅣ類とした。各類型はそれぞれ形状によりさらに細分される（第 16 図 20 ～ 22）。

Ⅰ類 : 基部が突出するもの（凸基）

a: 基部の両側辺に抉りを入れ、茎を作出しているもの（有茎）

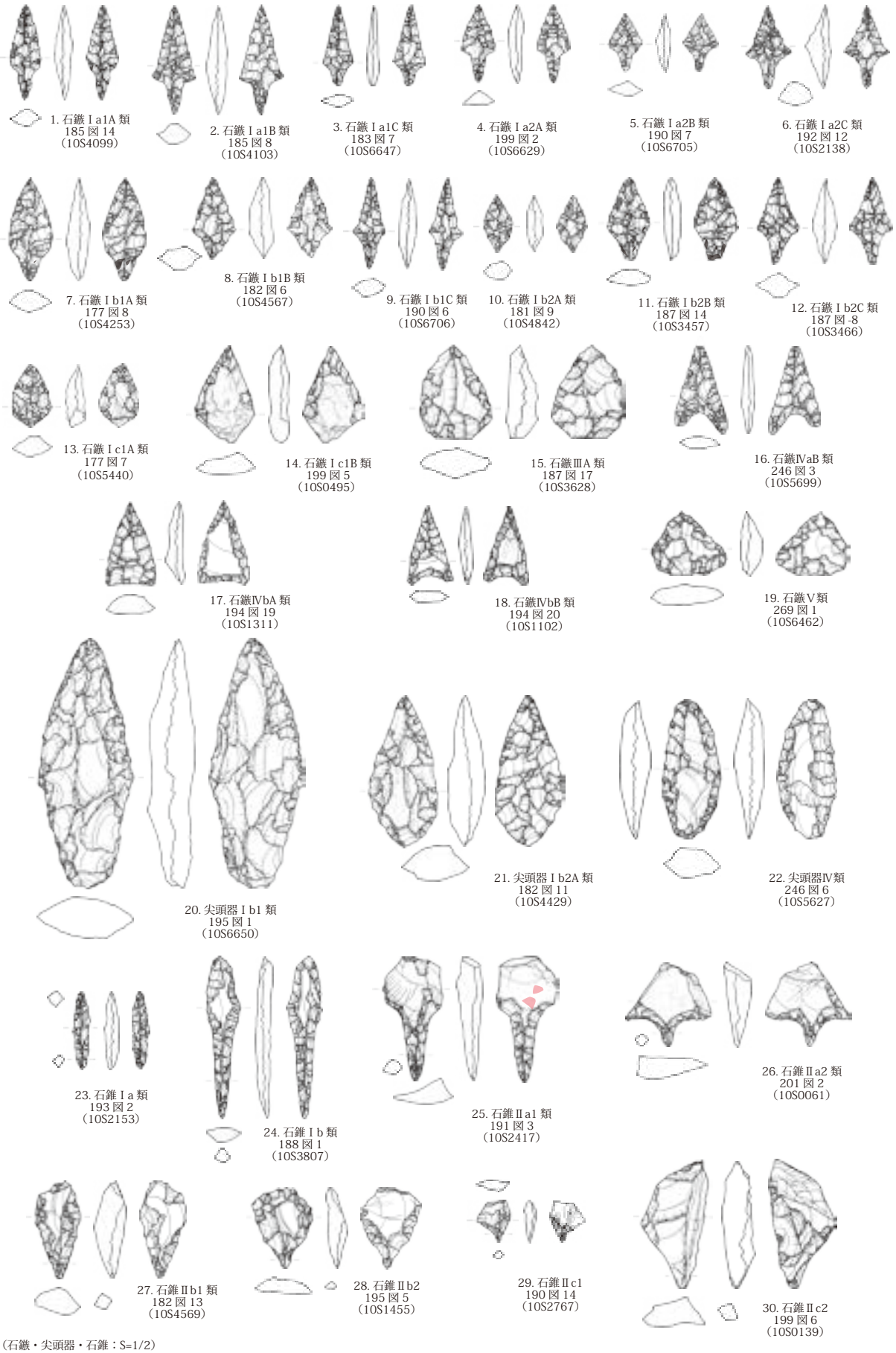
b: 基部に抉りを入れないもの（凸基無茎）

1: 幅広のもの

2: 細身のもの

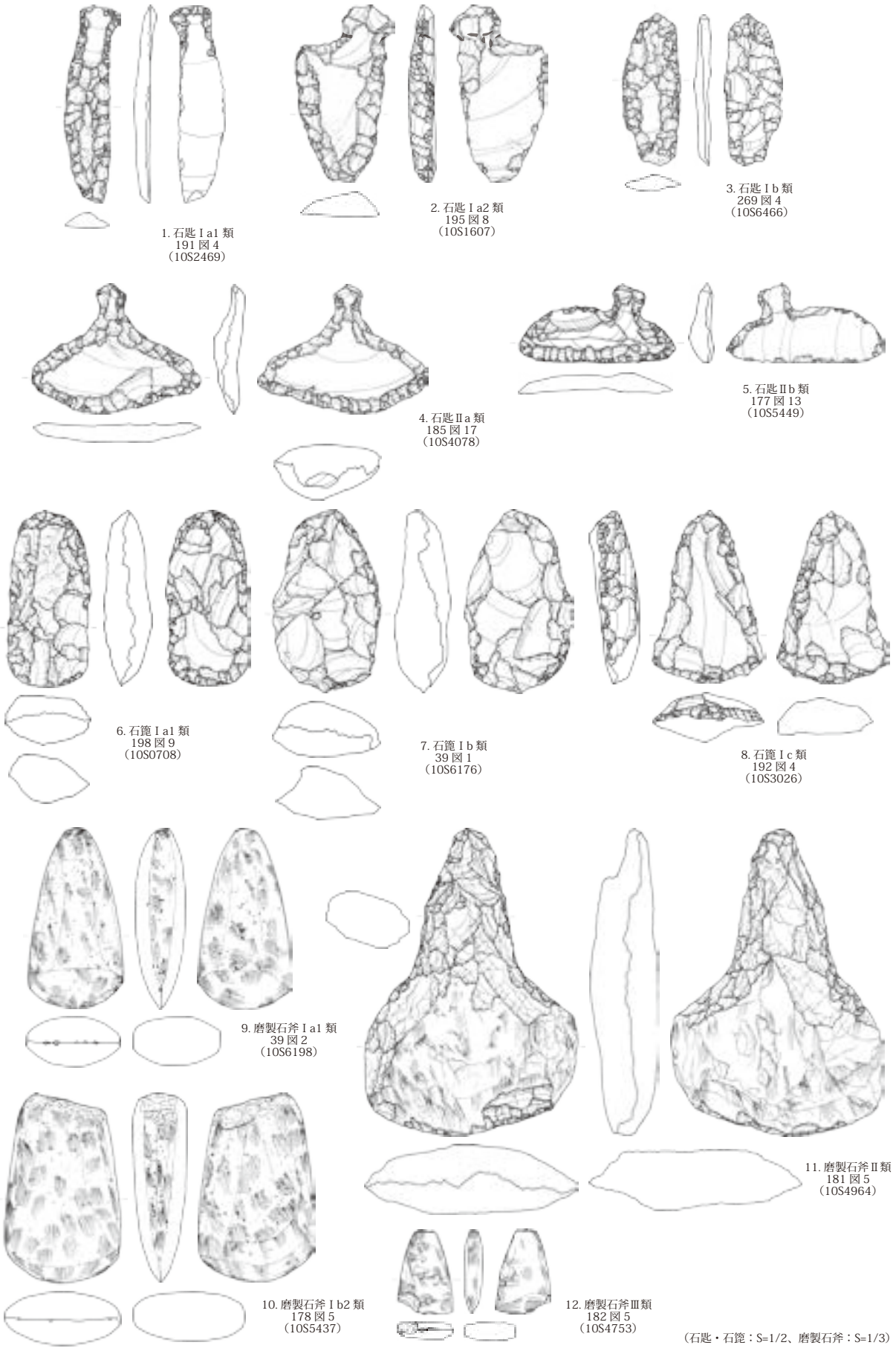
Ⅱ類 : 基部を半円形に調整しているもの（円基）

Ⅲ類 : 基部を直線的に調整しているもの（平基）



（石鏃・尖頭器・石錐：S=1/2）

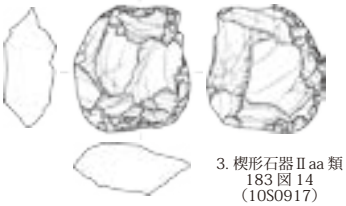
第16図　石器・石製品の分類基準図（1）



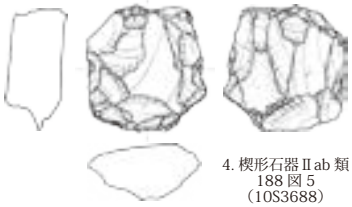
第17図　石器・石製品の分類基準図（2）

1. 楔形石器Ⅰa類
196図5
（10S1810）

2. 楔形石器Ⅰb類
274図2
（10S6575）

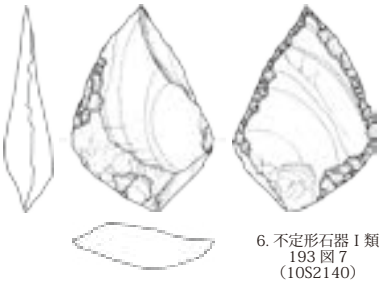


3. 楔形石器Ⅱaa類
183図14
（10S0917）



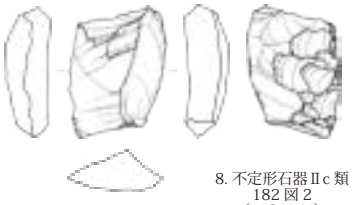
4. 楔形石器Ⅱab類
188図5
（10S3688）

5. 楔形石器Ⅱbb類
183図1
（10S4606）

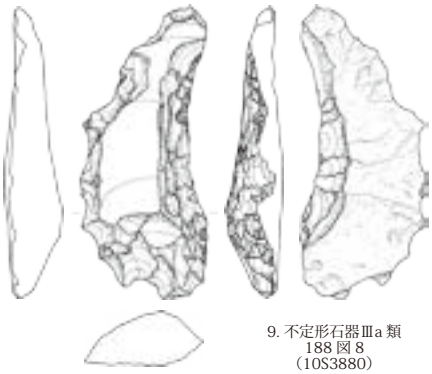


6. 不定形石器Ⅰ類
193図7
（10S2140）

7. 不定形石器Ⅱa類
198図11
（10S0699）

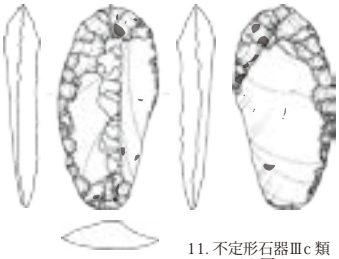


8. 不定形石器Ⅱc類
182図2
（10S4854）



9. 不定形石器Ⅲa類
188図8
（10S3880）

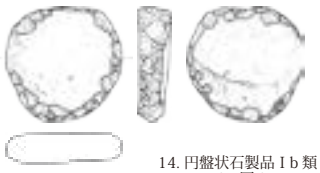
10. 不定形石器Ⅲb類
182図4
（10S4793）



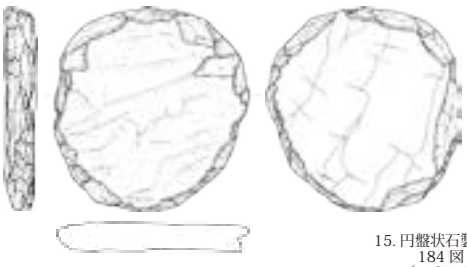
11. 不定形石器Ⅲc類
193図9
（10S6880）

12. 不定形石器Ⅲd類
196図9
（10S1041）

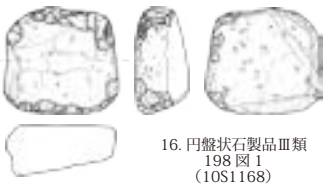
13. 円盤状石製品Ⅰa類
189図8
（10S3723）



14. 円盤状石製品Ⅰb類
197図9
（10S6659）



15. 円盤状石製品Ⅱ類
184図2
（10S0908）



16. 円盤状石製品Ⅲ類
198図1
（10S1168）

（円盤状石製品：S=1/3、楔形石器・不定形石器：S=1/2）

第18図　石器・石製品の分類基準図（3）

Ⅳ類：製作途中にあると考えられるもの（未成品）。両側辺が非対称、一部が極端に厚みをもつなどの特徴が見られる。

また、Ⅰ～Ⅲ類については鏃身の形状により以下の3類に細分する。

A: 両側辺が外湾するもの

B: 両側辺が直線的になるもの

C: 両側辺が内湾するもの

[石錐]

二次加工により作出した尖頭部をもち、その先端が厚みをもつもの。断面三角形もしくは四角形を呈し、厚みをもつ尖頭部（錐部）はおもに回転穿孔の機能を有していたと考えられる。尖頭部の数によりⅠ・Ⅱ類に大別し、未成品をⅢ類とした。各類型はそれぞれ形状によりさらに細分される（第16図23～30）。

Ⅰ類：両端に尖頭部を有し、全体の形状が棒状を呈するもの。両端または一端が錐部として機能していたものとみられる。

a: 全体がほぼ同じ幅のもの

b: 中央部が幅広になるもの

Ⅱ類：尖頭部は一端のみで、いわゆる「つまみ部」（基部）をもつもの

a: つまみ部との境界に抉りを入れて、錐部を明瞭に作出しているもの

1: 錐部がつまみ部より長いもの

2: 錐部がつまみ部より短いもの

b: つまみ部との境界が不明瞭なもの

1: 錐部がつまみ部より長いもの

2: 錐部がつまみ部より短いもの

c: 剥片の一端を加工して錐部を作出しているもの

1: 抉りを入れて明瞭な錐部を作出しているもの

2: 抉りを入れないもの

Ⅲ類：製作途中にあると考えられるもの（未成品）。一部が極端に厚みをもつなどの特徴が見られる。

[石匙]

両側辺に抉りを入れて作出した「つまみ部」を有するもの。先端部（刃部）の形態によりⅠ・Ⅱ類に大別し、未成品をⅢ類とした。各類型はそれぞれ形状によりさらに細分される（第17図1～5）。

Ⅰ類：つまみ部に対して先端部が縦方向に長いもの（縦型）

a: 先端が突出するもの

1: 二次加工により鋭い尖頭部を作出しているもの

2: 先端がやや円くなるもの

b: 先端が直線的になるもの。先端は折れ面や無加工である。

Ⅱ類：つまみ部に対して先端部が斜方向や横方向に長いもの（横型）

a: 先端部が外湾するもの

b: 先端部が直線的になるもの

Ⅲ類：製作途中にあると考えられるもの（未成品）。刃部の作出が明瞭でないなどの特徴が見られる。

［石篦］

一端に長軸（器軸）と直交する刃部を作出したもの。平面形によりⅠ・Ⅱ類に大別し、未成品をⅢ類とした。各類型はそれぞれ形状によりさらに細分される（第17図6～8）。

Ⅰ類：左右対称のもの

a: 両側辺が直線的で、刃部がやや開くもの

1: 器体が長いもの

2: 器体が寸詰まりで、全体の形状が三角形を呈するもの

b: 両側辺が外湾し、全体の形状が楕円形を呈するもの

c: 両側辺が内湾するように開き、全体の形状が撥形を呈するもの

Ⅱ類：左右非対称のもの

Ⅲ類：刃部の加工がない、あるいはわずかのもの。未成品とみられる。

［打製石斧］

端部に刃部を有する打製の石器。技術形態学的は石篦に類似するが、おもに粗粒の石材を利用し、基部整形の二次加工がやや粗いという点に差異がある。

［磨製石斧］

端部に刃部を有する石器で、器体の成形に研磨を用いるもの。小型のものをⅢ類とし、それ以外については製作方法によりⅠ・Ⅱ類に大別した。各類型はそれぞれ形状によりさらに細分される（第17図9～12）。

Ⅰ類：全面を研磨と敲打で整形しているもの

a: 基部がやや尖るもの

1: 幅と最大厚との差が小さく、厚みのあるもの

2: 幅と最大厚との差が大きく、扁平なもの

b: 基部が尖らないもの

1: 幅と最大厚との差が小さく、厚みのあるもの

2: 幅と最大厚との差が大きく、扁平なもの

Ⅱ類：研磨による整形は一部のみで、剥離による整形の痕跡を大きく残すもの

Ⅲ類：小型のもの

［石庖丁様石器］

粘板岩を素材とし、剥離や研磨等により石庖丁様に成形したもの。平面形はおおむね紡錘形を呈し、二次加工（剥離→研磨）により鋭い縁辺（刃部）を作出している。

[楔形石器]

両極打法による剥離面（両極剥離痕）が認められるもの。対向する縁辺には、末端がステップ状となる二次加工が多くみられ、縁辺がつぶれているものも多く見られる。両極剥離が施された縁辺の数によりⅠ・Ⅱ類に大別した。類型はそれぞれ形状によりさらに細分される（第 18 図 1 ～ 5)。

Ⅰ類 : 対になる 2 辺 1 組に両極剥離痕が観察されるもの。縁辺の形状によりさらに細分される。

a: 線状―線状

b: 線状―平坦面

c: 線状―点状

d: 平坦面―平坦面

e: 平坦面―点状

f: 点状―点状

Ⅱ類 : 対になる 2 辺 2 組に両極剥離痕が観察されるもの。対になる各縁辺の形状の細分はⅠ類に準ずる。

[不定形石器]

二次加工が施された打製石器のなかで、上記の定形的な石器（未成品を含む）の定義に該当しないものを不定形石器として一括している。二次加工の状況によりⅠ～Ⅲ類に大別した。Ⅱ・Ⅲ類はそれぞれの二次加工の状況によりさらに細分される（第 18 図 6 ～ 12)。

Ⅰ類 : 二次加工により尖頭部を作出しているもの（尖頭状石器)。尖頭器に比べて尖頭部の角度が大きく、尖頭部の作出があまり明瞭でないなどの特徴があり、刺突具としての機能は推定しにくい。

Ⅱ類 : 剥片等に面的な二次加工を施すもの

a: 両面に二次加工を施し、素材面をほとんど残さないもの（両面加工石器）

b: 両面に二次加工を施すものの、片面は素材面を大きく残すもの（半両面加工石器）

c: 片面のみに二次加工を施すもの（片面加工石器）

Ⅲ類 : 剥片等の縁辺に二次加工を施すもの。素材面は両面ともに大きく残る。二次加工の状況により下記の 4 類に細分した。

a: 鋸歯状の二次加工を施すもの（デンティキュレイト）

b: 深い抉りを入れるもの（ノッチ）

c: 上記の a・b に該当しないもので、縁辺の大半に二次加工を施すもの（周縁加工石器）

d: 上記の a ～ c に該当しないもので、縁辺の一部に二次加工を施すもの（二次加工ある剥片）

[礫石器]

礫石器は、平坦あるいは緩やかに凹む磨面を有するものを石皿とし、それ以外のものについては使用痕により大別した。１つの石器に複数の使用痕を有するものについて、使用痕の新旧関係がわかるものは最終段階の使用痕で器種を決定し、新旧関係の不明なものについては広い面に残された使用痕で器種を決定した。実際には複数の用途での使用が考えられるため、器種名称は便宜的な意味が強い。

石　皿：平坦あるいは緩やかに凹む磨面を有するもの。大型の礫石器が想定されるが、小型のものでも地面に置いて使用されたと推定されるものについては石皿として分類した。

磨　石：石皿以外で磨面を有するもの

凹　石：敲打痕による凹みを有するもの。凹みは、円形で深い凹みからやや広い範囲に浅く凹むものまでさまざまなものが見られる。

砥　石：溝状の凹み（磨面）を有するもの

敲　石：敲打痕を有するもの

[剥片・石核]

石器を製作する際の石材の残滓。製作目的等の有無に関わらず、便宜的に、最終剥離面がポジティブな面となるものを剥片、ネガティブな面となるものを石核と呼称する。また、剥片として分類したもののうち、長さまたは幅がおおむね 1cm 未満のものを砕片として分類した。

(2) 石製品

上記の石器以外の石製の人工遺物を石製品に分類した。以下に、分類の基準を示す。

[円盤状石製品]

扁平な礫の縁辺を剥片剥離や敲打等により成形し、円盤状を呈するもの。剥離や敲打等による成形は粗く、平面形は円形のものから多角形のものまで多様である。未成品をⅢ類とし、それ以外は縁辺の形状により 2 類に大別される。Ⅰ類は二次加工の状況によりさらに細分される（第 18 図 13 ～ 16）。

Ⅰ類：縁辺がほぼ平坦または丸みをもつもの

a: おもに剥離により成形しているもの

b: おもに敲打により成形しているもの

c: おもに研磨により成形しているもの

Ⅱ類：鋭い縁辺をもつもの

Ⅲ類：未成品。平面形が不整な円形を呈する。

[石錘]

礫の対になる縁辺に刻みや凹みを施すもの。その形状から、紐状のものを溝に通して錘として使用されたと想定されるが、使用の痕跡を確認するのは難しいため、石製品の一種として分類した。

[石冠]

平面形が半円形や長方形を呈し、長辺の一つに研磨等の二次加工を施して磨製石斧の刃部状に成形するもの。断面三角形を呈する。

[独鈷石]

両端がやや尖り、中央部に節を 2 個もつ石器。研磨と敲打により成形するもの。端部は円錐状になるものや磨製石斧の刃部状になるものがある。

[石棒・石刀]

おもに粘板岩製で、敲打や研磨により棒状あるいは刀剣状に成形したもの。その平面形から男性器を模倣したとみられる。断面円形のものを石棒、断面扁平のものを石刀とした。石棒の素材となる石材は粘板岩がほとんどであるが、珪化木も少量ある。珪化木は他の石器にも多く用いられ、ほとんどが珪化が進行した半透明状の石材であるが、石棒や石刀の一部には、珪化のあまり進行していない木質に近い石材を利用している。

[サメ歯状石製品]

両面加工により小型で薄く成形し、三方に尖頭部を作り出すもの。形状がサメ歯に類似することから「サメ歯状石製品」と呼称する。「嘴状石器」（B 類）（秋田県教育委員会　1989）や「鮫歯状石器」（門脇　2003）とよばれるものに類するものとみられる。

[異形石器]

剥片を素材として剥離により不定形に成形している石器のうち、その平面形から実用的でないとみられるものを異形石器として分類した。

[垂飾]

貫通孔が穿たれた小型の石製品で、研磨等により全体の形状を整えているもの。

[勾玉・臼玉・小玉]

貫通孔が穿たれた極小型の石製品のうち、C 字形のものを勾玉、直径と同程度の厚みをもつ円柱形のものを臼玉、これら以外の球形や円盤形などの極小型の石製品を総称して小玉とした。

[イモガイ形石製品]

イモガイの殻頂部を横位に切断したものに形態が類似するものをイモガイ形石製品とした[(註4)]。外面および側面を研磨と刻みにより半球状に成形し、貫通孔を穿つことにより釦のような形状を呈する。内面は円錐状に掘り窪められ、同心円状の細かな刻みにより渦の表現（方向不明）がなされている。

[岩版・線刻礫]

礫の全面もしくは一部に断面Ｖ字形の細い線刻を入れ、文様を描いたもの。形状が扁平で文様がやや複雑なものを岩版、円礫を素材として厚みをもち文様が簡素なものを線刻礫とした。

[有孔石製品]

扁平な円礫等に貫通孔が穿たれているもので、上記の孔のある石製品以外を有孔石製品として総称した。

[不明石製品]

上記以外の石製品を総称して不明石製品とした。

4. 骨角牙製品

本調査では、骨角牙製品は 383 点出土している。これらについて器種別に分類し、それぞれの器種の特徴をもとに、形態や製作技法等により類型化を行う。

[鏃]

先端が尖頭状となり茎部をもつ小型のもの。矢の先に着柄した使用方法が想定される。

[根挟]

鏃に類似する形態であるが、先端を溝状に加工する。加工した溝には石鏃等を装着する使用方法が想定される。

[銛頭]

先端が尖頭状となり、逆刺をもつもので、器体に紐状のものを固定する加工が施されているもの。形態や加工によりＡ～Ｃ類に大別される（第19図１～3)。

Ａ類：柄に差し込むための茎部をもつもの。紐状のものを固定するために貫通孔が穿たれている。

Ｂ類：柄を差し込むための受けをもつもの。紐状のものを固定するために貫通孔が穿たれている。

Ｃ類：細長い燕尾形を呈するもの。紐状のものを固定するために両側辺に抉りを入れている。

[ヤス]

先端が尖頭状となり、逆刺をもつもの。銛頭と異なり、柄に固定して使用したものとみられる。形態によりＡ・Ｂ類に大別される（第19図4・5)。

Ａ類：両側に逆刺がつくもの

Ｂ類：片側に逆刺がつくもの

[組み合わせ式ヤス]

基部に、器体に対して斜めの平坦面を作り出すもの。着柄のために作り出されたものとみられる。形態や加工によりＡ・Ｂ類に大別される（第19図6～8)。

Ａ類：先端部に逆刺をもつもの

Ｂ類：先端に逆刺の機能をもつ小型の針状のものを装着するもの

Ｃ類：先端部に逆刺をもたないもの

[鉤先]

小型の針状のもの。組み合わせ式ヤスの逆刺などの用途が想定される。

[着柄式刺突具]

両端に尖頭部をもち、一端を着柄のために加工したもの。組み合わせ道具としての使用が想定され、基部にアスファルトなどの黒色物質が残るものがある。全体の形状によりＡ・Ｂ類に大別される（第19図9・10)。

Ａ類：幅または厚さが7mm以上のもの

Ｂ類：幅または厚さが7mm未満のもの

[刺突具]

尖頭部をもつもので、着柄のための加工が施されていないもの。単体での使用が想定される。加工の状況によりＡ～Ｃ類に大別され、Ａ類は先端部形状によりさらに細分される（第20図１～4)。

Ａ類：先端部のみを加工したもの

１：先端部を細長い錐状に加工したもの

２：先端のみの加工にとどまるもの

Ｂ類：先端部に加えて側面にも加工が施され、棒状となるもの

Ｃ類：鋭く割れた一端を機能部位としてそのまま利用したもの

[篦]

器体を扁平に成形したもの

[棒状角製品]

シカ角を棒状に成形し、両端に鈍い尖頭部を作り出したもの。断面形がやや扁平で、素材面を大きく残すものが多い。

[弭]

シカ角先端部を利用し、髄を刳り貫き、受けを作出したもの。全体の形状や装飾によりＡ・Ｂ類に大別される（第 20 図 5・6）。

Ａ類：大型で、装飾的な彫刻が施されるもの。受けは貫通しない。

Ｂ類：小型で、装飾的な彫刻がないもの。受けが貫通する。

[簪]

直線的で細長い形状を呈し、尖頭部と頭部をもつもの。頭部の装飾要素によりＡ～Ｃ類に大別される（第 20 図 7 ～ 9）。

Ａ類：頭部の装飾帯が広く、装飾性の高いもの

Ｂ類：頭部の装飾帯が狭く、簡素な装飾が施されるもの

Ｃ類：頭部に装飾をもたないもの

[針状製品]

直線的で細長い形状を呈し、尖頭部をもつもので、器種の特定ができないものを針状製品として分類した。

[猪牙製垂飾]

イノシシ歯牙に貫通孔が穿たれたもの。貫通孔の位置によりＡ～Ｃ類に大別される（第 20 図 10 ～ 12）。

Ａ類：一端に貫通孔が穿たれているもの

Ｂ類：両端に貫通孔が穿たれているもの

Ｃ類：貫通孔の位置に規則性のないもの

[垂飾]

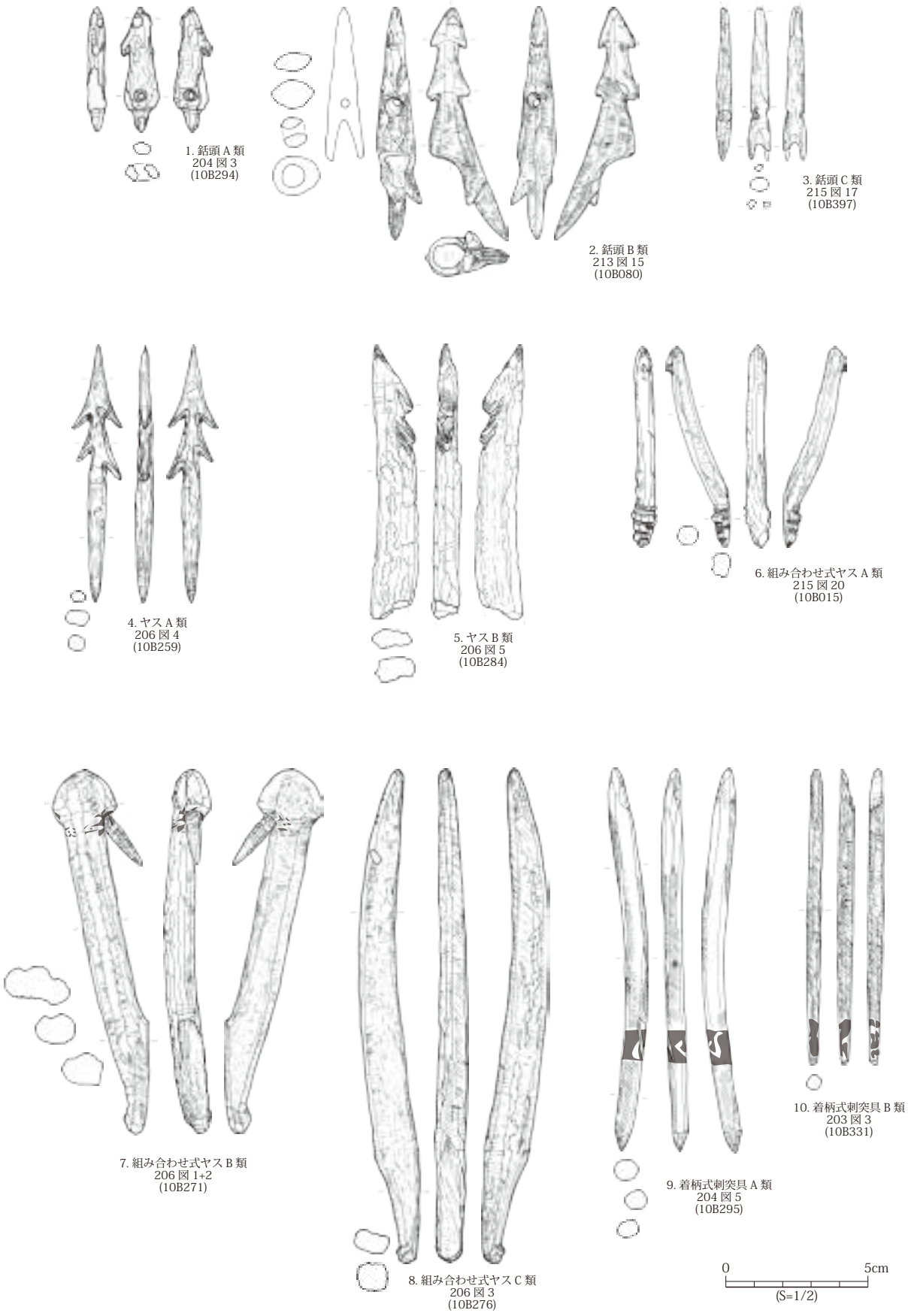
貫通孔が穿たれているもので、道具としての形状を呈していないものを垂飾として分類した。これらは装身具としての使用が想定される。

[管状垂飾]

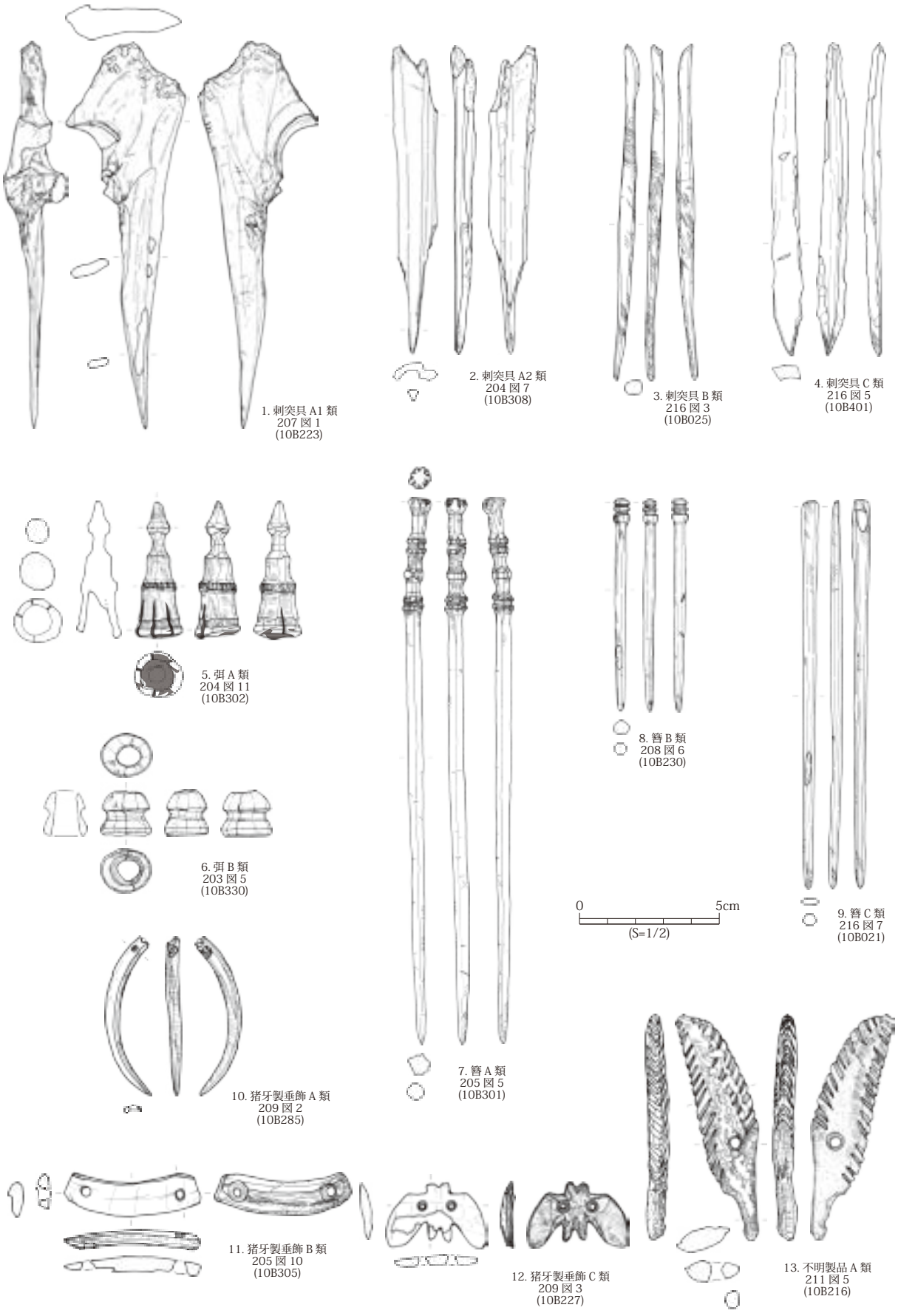
鳥類や哺乳類の長管骨やシカ角を利用して、管状に加工したもの

[環状製品]

環状に成形したもの



第19図　骨角牙製品の分類基準図（1）



第20図　骨角牙製品の分類基準図（2）

［儀仗］

棒状に成形したもののうち、装飾性の高いもの

［不明製品］

用途が不明なものを不明製品とした。これらのうち、形状に共通性が見られるものをA類として抽出し（第20図13)、それ以外のものをB類として区分した。

A類：一辺が着柄のために加工されたもの。直線状となり、これに平行するように紐穴とみられる貫通孔が複数穿たれるものがある。

B類：上記以外のもの

なお、道具や装身具などの他に、製品素材や、未成品とみられる加工痕のある骨や角、便宜的利用が想定される使用痕のある骨などについても、骨角牙製品として分類した。

第５章　縄文時代から弥生時代前期の遺構と遺物

平成 22 年度の発掘調査は、Ｆ区が対象となり 73 箇所の調査区を設定した（第 6 図）。なお、各調査区の調査概要について付表（巻末）にまとめている。

Ｆ区は平成 20 年度から調査を行っており、これまでに東Ｅ丘陵突端部の南斜面および北斜面で、縄文時代前期を主体とする遺物包含層を検出している。平成 22 年度に調査した範囲では、東Ｃ丘陵南斜面（F-29 区周辺）から東Ｄ丘陵北斜面（F-23 区南周辺）にかけての丘陵裾部と、東Ｄ・Ｅ丘陵間の西斜面（F-70・71 区）、東Ｅ丘陵北斜面（D-55 区）の 3 箇所で遺構や遺物包含層を検出した。前章で述べたように、東Ｃ丘陵南斜面から東Ｄ丘陵北斜面にかけて丘陵裾部に広がる遺物包含層は 2 本の沢によって 3 つに区分される。

平成 22 年度の調査で検出した遺構のほとんどが縄文時代晩期から弥生時代前期のものである。掘立柱建物跡 48 棟（建て替えを含む）、竪穴状遺構 1 基、石斧集積遺構 1 基、埋葬犬骨 5 基、土坑 9 基、溝跡 2 条、沢跡 1 条、焼け面 1 箇所、焼土集積 5 箇所のほかにピット（柱穴や小穴）が多数ある。遺物は、遺物収納箱（長 54 ×幅 34 ×深 15cm）で 295 箱に相当する量が出土している。遺物の時期は縄文時代早期中葉から弥生時代前期まで多岐にわたるが、大部分が晩期中葉から末葉のものである。

本章では、これらの遺構・遺物について、前章の遺物包含層の分類に従って記述する。

第 1 節　東Ｃ丘陵南斜面（F-29・30・34・35・36・37 区）

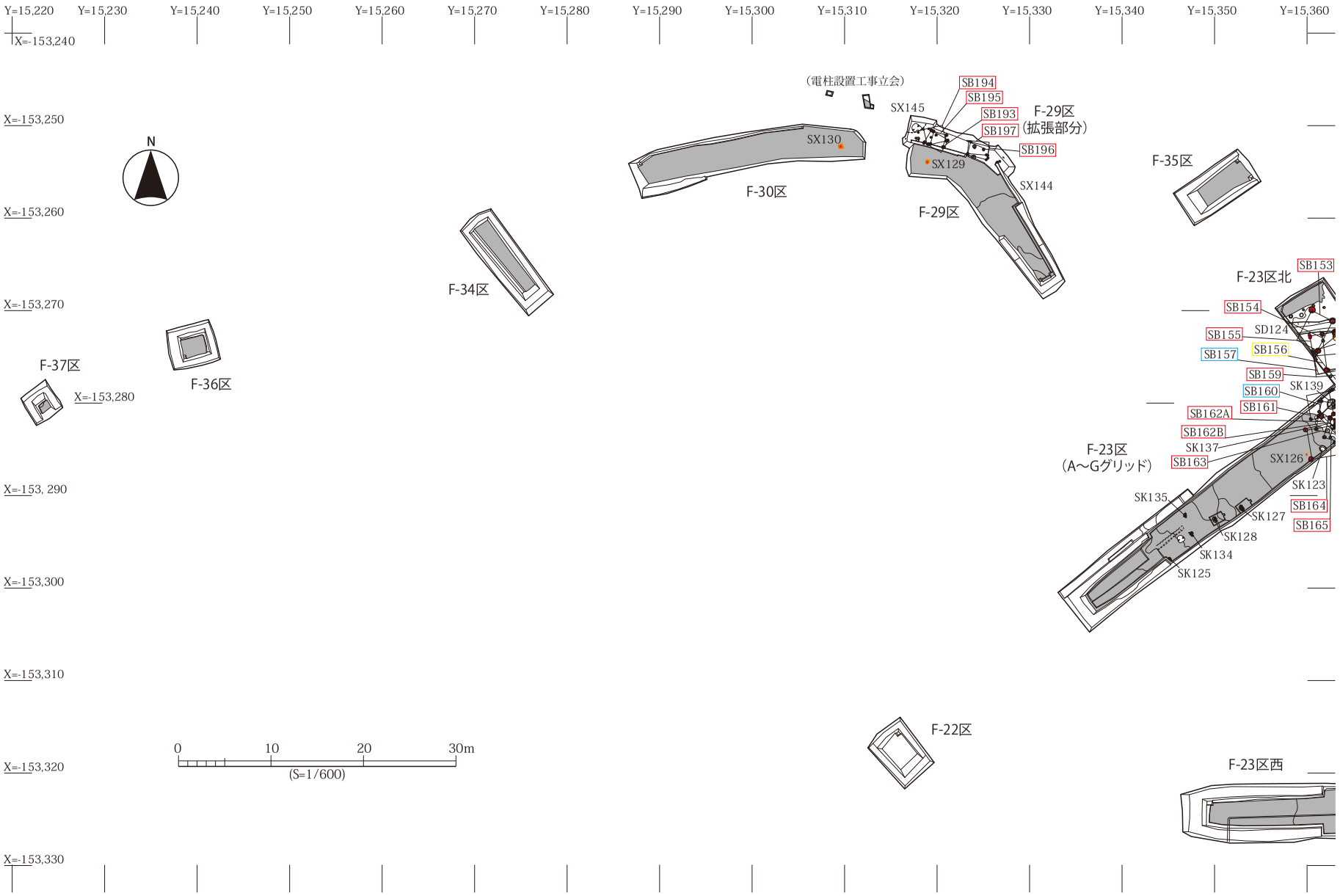
東Ｃ丘陵は、北小松遺跡が立地する丘陵から、西に樹枝状に延びる丘陵のうち、北から 3 番目に当たる丘陵である。前回までの調査で、北斜面で 3 箇所、南斜面で 1 箇所の遺物包含層を検出している。今回の調査では、丘陵基部の南緩斜面や微高地上で掘立柱建物跡などの遺構を検出し、丘陵裾部から低地部にかけて南に広がる遺物包含層を検出した。以下に、検出した遺構と遺物について記す。

1. 遺構

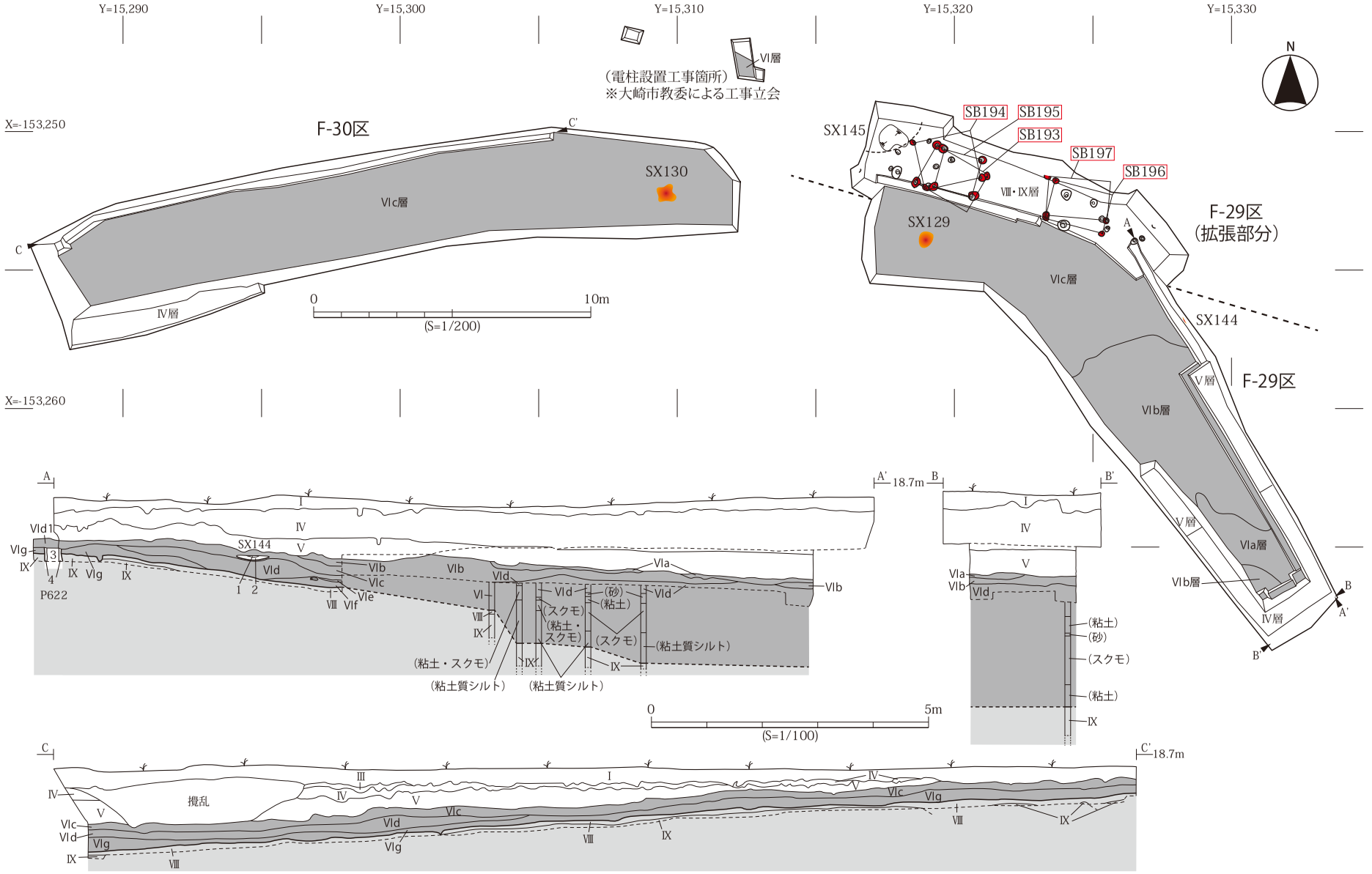
東Ｃ丘陵南斜面では、F-29･30･34･35･36･37 区で遺物包含層を検出し、F-29 区および F-30 区では、丘陵斜面や微高地（遺物包含層）上で遺構を検出している。この区域で検出した遺構には、掘立柱建物跡 5 棟、竪穴状遺構 1 基、焼土集積 3 箇所の他に、ピット（柱穴や小穴）が多数ある（第 22 図）。

（1）掘立柱建物跡

F-29 区の拡張部分で多数の柱穴を検出し、5 棟の掘立柱建物跡を確認した（第 23 図）。柱穴は丘陵斜面で多く検出しており、その分布状況から調査区外（北および西）にも広がるものとみられる。それぞれの建物跡の柱穴の組み合わせは、柱穴の位置、規模、重複関係、埋土の特徴などを考慮して行った。なお、F-29 区の拡張部分は、恒久構造物を埋設するために記録保存調査の対象となったため、結果としてピットを多数検出することができた。一方で、その南側は確認調査の対象（農道予定地）であったことから、遺物包含層の保存のため、発掘調査は遺構を覆う遺物包含層の上面で終了するこ



第21図　F区北部（F-29区周辺）　平面図



第22図　F-29・30区　平面図・断面図

第2表　F-29・30区　土層観察表

調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
F-29 区	A-A' B-B'	Ⅵa	黒褐色（10YR3/1）	シルト質砂	
		Ⅵb	黒褐色（10YR3/1）	シルト	スクモ少量
		Ⅵc	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	砂わずか
		Ⅵd	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	
		Ⅵe	黒色（10YR2/1）	砂質シルト	
		Ⅵf	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	砂中量
		Ⅵg	黒褐色（10YR3/1）	砂質シルト	地山（Ⅸ層）粒少量
SX144		1	褐色（7.5YR4/4）	シルト	焼土ブロック　【堆積土】
		2	にぶい黄褐色（10YR5/4）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）ブロック　【堆積土】
P622		3	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	【柱痕跡】
		4	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック少量　【掘方埋土】
F-30 区	C-C'	Ⅵc	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）粒・砂少量、スクモ中量
		Ⅵd	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	
		Ⅵg	黒色（10YR2/1）	砂質シルト	

ととした。したがって、柱穴の検出は調査区壁面のみにとどめた。本遺跡における過去の調査事例（宮城県教育委員会　2014）から、これらの建物跡はおおむね 4 本の柱で構成されると考えられるが、上記理由により調査範囲が限定されたため、確定的なものではない。なお、個別の建物跡の諸属性については第 4 表にまとめている。

【SB193 建物跡】（第 24・25 図、第 3 表）

［位置］F-29 区拡張部分西側（第 23 図）

［検出面］Ⅵg 層（3 属群）

［重複］SB194・195 建物跡と重複し、これらよりも古い。

［構造・規模］4 本の柱で構成され、東西に長い平面長方形を呈する建物跡である。北側柱列で約 2.1m、西側柱列で 1.6m ある。

［方向］北側柱列で見ると、東で 32° 南に偏する。

［柱穴］3 箇所で確認した。直径 28 ～ 39cm の円形や楕円形を呈し、残存する深さが 28 ～ 32cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒色や黒褐色の粘土質～砂質シルトである。柱痕跡を 2 箇所、柱抜取穴を 2 箇所で確認した。柱痕跡は直径 12 ～ 16cm の円形を呈する。

［出土遺物］遺物は出土していない。

【SB194 建物跡】（第 24・25 図、第 3 表）

［位置］F-29 区拡張部分西側（第 23 図）

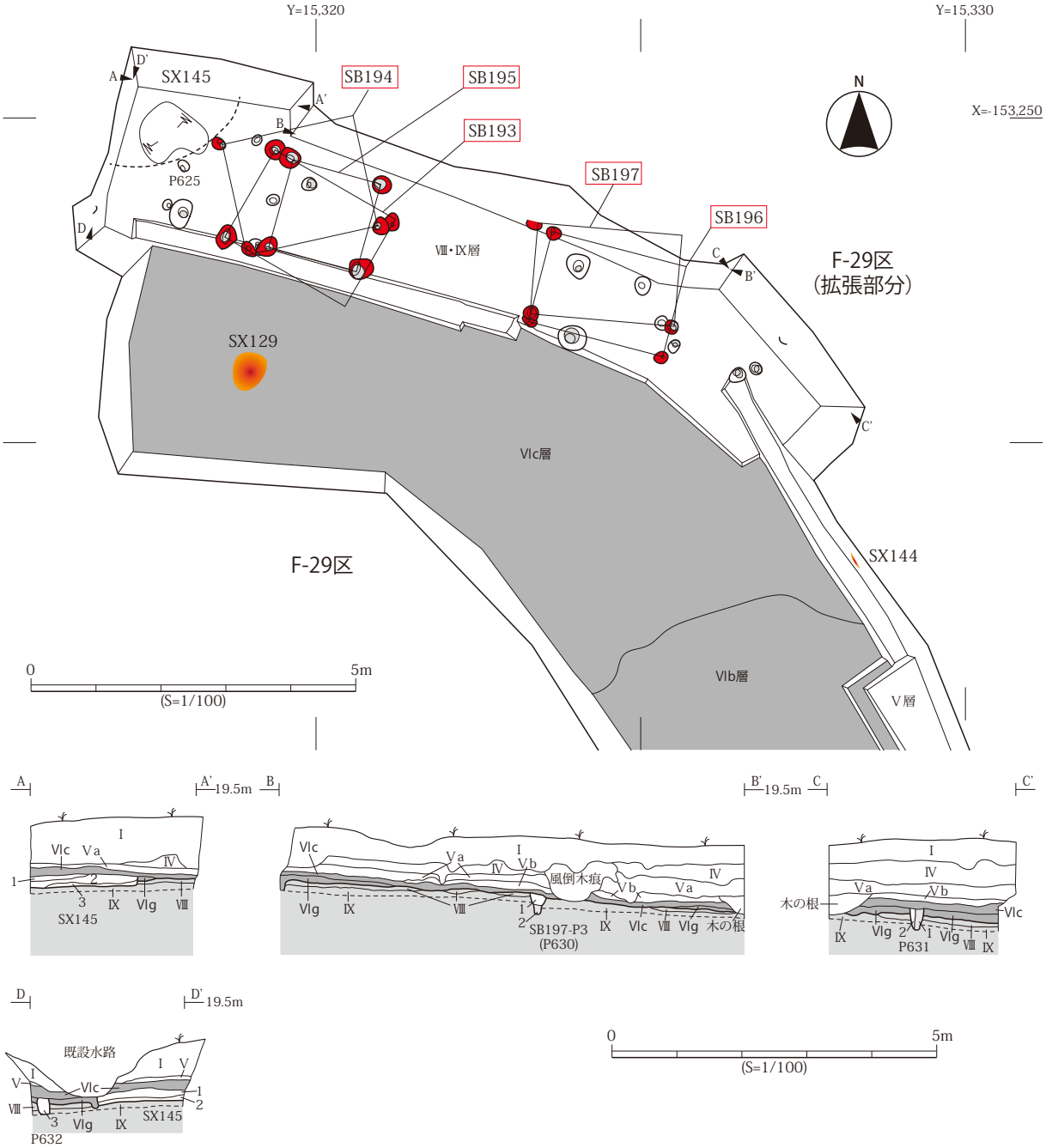
［検出面］Ⅵg 層（3 属群）

［重複］SB193・195 建物跡および SX145 竪穴状遺構と重複し、SB193 建物跡より新しい。

［構造・規模］4 本の柱で構成され、東西に長い平面長方形を呈する建物跡である。南側柱列で約 2.0m、西側柱列で約 1.6m ある。

［方向］南側柱列で見ると、東で 10° 北に偏する。

［柱穴］3 箇所で確認した。直径 23 ～ 28cm の円形や楕円形を呈し、残存する深さが 18 ～ 33cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒褐色や褐灰色の粘土～シルトである。柱痕跡を 2 箇所で確認した。柱痕跡は直径 8 ～ 10cm の円形を呈する。



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　　徴
F-29 区（拡張部分）	A-A' B-B' C-C' D-D'	Ⅵ c	黒色（10YR2/1）	粘土	砂少量
		Ⅵ g	黒色（10YR2/1）	粘土	砂多量
SX145	A-A' D-D'	1	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）粒～小ブロック・砂わずか（ラミナ状）【堆積土】
		2	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）粒～小ブロック少量 【堆積土】
		3	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）粒～小ブロック・礫少量 【堆積土】
SB197-P3（P630）	B-B'	1	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）ブロック多量 【柱抜取穴】
		2	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	【柱痕跡】
P631	C-C'	1	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山粒わずか 【柱痕跡】
		2	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山ブロック多量 【掘方埋土】
P632	D-D'	1	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）小ブロックわずか 【堆積土】

第23図　F-29区（拡張部分）　平面図・断面図

［出土遺物］遺物は出土していない。

【SB195 建物跡】（第 24・25 図、第 3 表）

［位置］F-29 区拡張部分西側（第 23 図）

［検出面］Ⅵ g 層（3 属群）

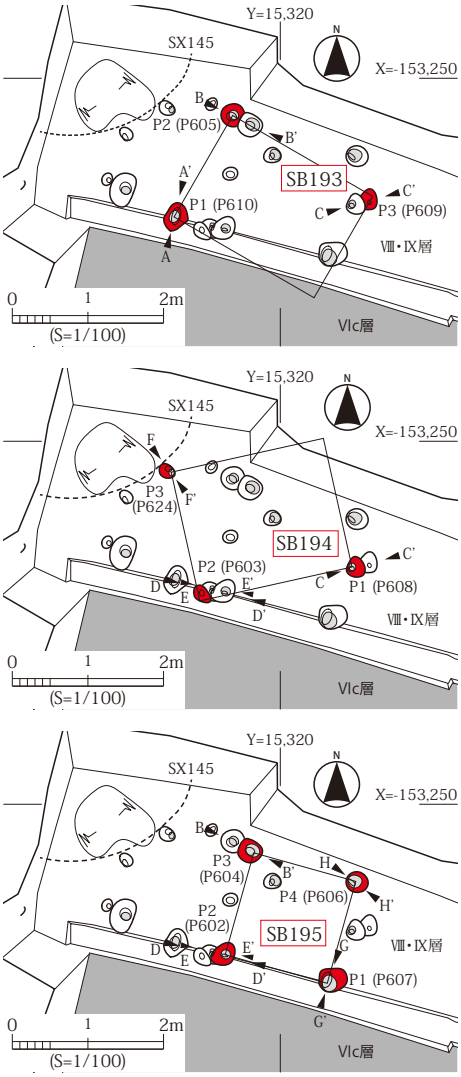
［重複］SB193・194 建物跡と重複し、SB193 建物跡より新しい。

［構造・規模］4 本の柱で構成され、平面正方形を呈する建物跡である。南側柱列で 1.4m、東側柱列で 1.4m ある。

［方向］南側柱列で見ると、東で 16° 南に偏する。

［柱穴］4 箇所で確認した。直径 30 ～ 38cm の円形や楕円形を呈し、残存する深さが 30 ～ 34cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを多く含む黒褐色の粘土や粘土質シルトである。柱痕跡をすべてで確認した。柱痕跡は直径 12 ～ 22cm の円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器深鉢・鉢が出土している（第 27 図）。



第24図　SB193・194・195建物跡　平面図

【SB196 建物跡】（第 26 図）

［位置］F-29 区拡張部分東側（第 23 図）

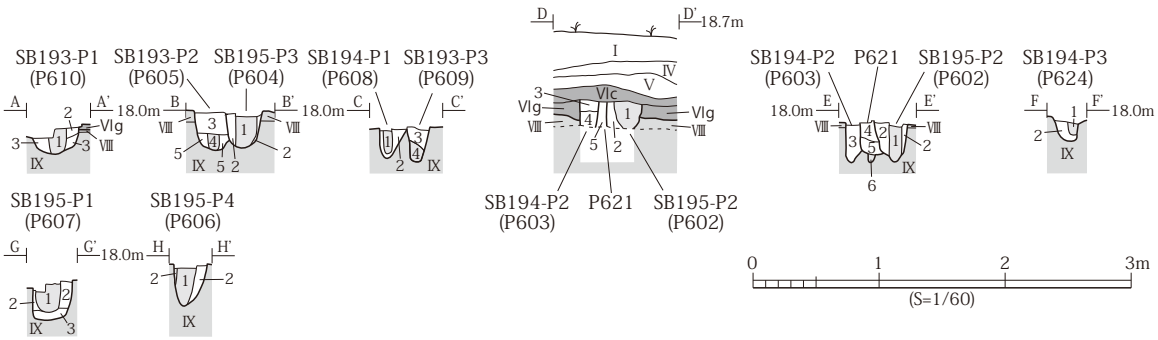
［検出面］Ⅸ層

［重複］SB197 建物跡と重複し、これよりも古い。

［構造・規模］4 本の柱で構成され、東西に長い平面長方形を呈する建物跡である。南側柱列で約 2.1m、西側柱列で約 1.4m ある。

［方向］南側柱列で見ると、東で 15° 南に偏する。

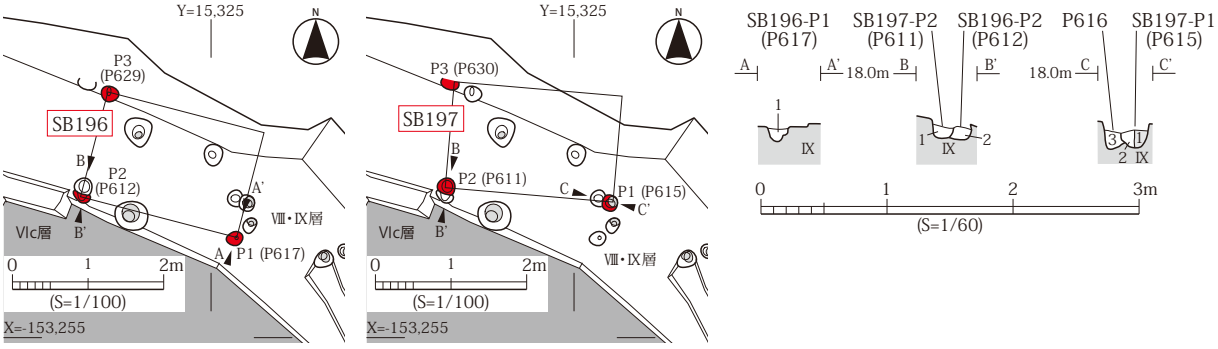
［柱穴］3 箇所で確認した。直径 22 ～ 25cm の円形や楕円



第25図　SB193・194・195建物跡　断面図

第3表　SB193・194・195建物跡　土層観察表

調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
SB193-P1 (P610)	A-A'	1	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	砂・植物少量 【柱痕跡】
		2	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）ブロック中量、小礫わずか 【掘方埋土】
		3	黒色（10YR2/1）	砂質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロックわずか 【掘方埋土】
SB195-P3 (P604)	B-B'	1	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	植物少量 【柱痕跡】
		2	黒褐色（10YR3/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック多量 【掘方埋土】
SB193-P2 (P605)		3	黒褐色（10YR2/2）	シルト	地山（Ⅸ層）ブロック多量、砂中量 【柱抜取穴】
		4	黒褐色（10YR3/1）	シルト	地山（Ⅸ層）ブロックわずか、砂粒中量 【柱痕跡】
		5	黒色（10YR2/1）	シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック少量 【掘方埋土】
SB194-P1 (P608)	C-C'	1	黒色（10YR2/1）	粘土	スクモ少量 【柱痕跡】
		2	黒褐色（10YR3/1）	粘土	地山（Ⅸ層）ブロックやや多量 【掘方埋土】
SB193-P3 (P609)		3	黒色（10YR2/1）	砂質シルト	地山（Ⅸ層）ブロックやや多量 【柱抜取穴】
		4	黒褐色（10YR3/1）	砂質シルト	地山（Ⅸ層）ブロック少量 【柱痕跡】
SB195-P2 (P602)	D-D'	1	黒褐色（10YR3/1）	粘土	砂少量 【柱痕跡】
		2	黒褐色（10YR3/2）	粘土	地山（Ⅸ層）小～中ブロック多量 【掘方埋土】
SB194-P2 (P603)		3	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）ブロック中量 【掘方埋土】
		4	黒褐色（10YR3/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）ブロック多量 【掘方埋土】
P621		5	褐灰色（10YR4/1）	粘土	地山（Ⅸ層）ブロック多量、植物少量 【柱抜取穴】
SB195-P2 (P602)	E-E'	1	黒褐色（10YR3/1）	粘土	砂少量 【柱痕跡】
		2	黒褐色（10YR3/2）	粘土	地山（Ⅸ層）小～中ブロック多量 【掘方埋土】
SB194-P2 (P603)		3	褐灰色（10YR4/1）	シルト	地山（Ⅸ層）大ブロック多量、小礫わずか 【柱抜取穴】
P621		4	褐灰色（10YR4/1）	粘土	地山（Ⅸ層）ブロック多量、植物少量 【柱抜取穴】
		5	黒褐色（10YR3/1）	粘土	地山（Ⅸ層）大ブロック多量、小礫わずか 【柱抜取穴】
		6	黒褐色（10YR3/1）	シルト	砂中量 【柱痕跡】
SB194-P3 (P624)	F-F'	1	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	【柱痕跡】
		2	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小～中ブロック少量 【掘方埋土】
SB195-P1 (P607)	G-G'	1	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）粒少量 【柱痕跡】
		2	黒褐色（10YR3/1）	粘土	地山（Ⅸ層）中～大ブロック多量 【掘方埋土】
		3	黒褐色（10YR3/1）	粘土	地山（Ⅸ層）中～大ブロック極多量 【掘方埋土】
SB195-P4 (P606)	H-H'	1	黒色（10YR2/1）	粘土	砂中量、スクモわずか 【柱痕跡】
		2	黒褐色（10YR3/1）	粘土	地山（Ⅸ層）小～中ブロック極多量、スクモ少量 【掘方埋土】



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
SB196-P1 (P617)	A-A'	1	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	砂少量 【掘方埋土】
SB197-P2 (P611)	B-B'	1	黒色（10YR2/1）	粘土	地山（Ⅸ層）小ブロック少量、砂中量 【掘方埋土】
SB196-P2 (P612)		2	黒褐色（10YR3/1）	粘土	砂・地山（Ⅸ層）小ブロック少量、植物わずか 【掘方埋土】
SB197-P1 (P615)	C-C'	1	黒色（10YR2/1）	粘土	スクモ少量 【柱痕跡】
		2	黒褐色（10YR3/1）	砂質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロックわずか、小礫多量 【掘方埋土】
P616		3	黒色（10YR2/1）	粘土	砂少量 【掘方埋土】

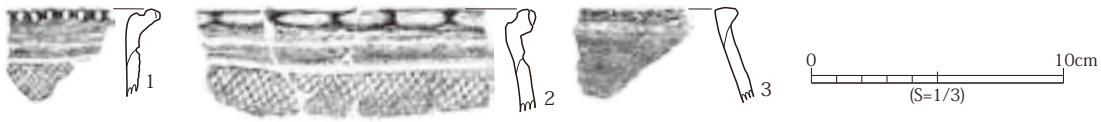
第26図　SB196・197建物跡　平面図・断面図

形を呈し、残存する深さが 12 ～ 13cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを少量含む黒色や黒褐色の粘土～シルトである。

［出土遺物］縄文土器深鉢が出土している。

【SB197 建物跡】（第 26 図）

［位置］F-29 区拡張部分東側（第 23 図）



No.	器　種	類型 1	類型 2	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	鉢	B1cd	XⅢ	F-29 拡・SB195-P3 (P604) / 柱痕跡	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。横位沈線文。直前段多条縄文 LR	56-1	Po3499
2	深鉢	B2	XⅢ	F-29 拡・SB195-P1 (P607) / 柱痕跡	小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	56-2	Po3500
3	壺	-	XⅤ	F-29 拡・SX145 / 堆積土	平縁。胎土に海綿骨針を含む	56-3	Po3498

第27図　掘立柱建物跡、竪穴状遺構　出土遺物

第4表　東C丘陵南斜面　堀立柱建物跡一覧

遺構名	間数		平面形	平面規模							方向		柱穴掘方			柱痕跡径（cm）	柱材径（cm）	柱抜取穴（個）	備　考（出土遺物など）	挿図番号	
				桁行			梁行			張出長（m）	角度	計測柱列	規模（cm）		平面形					平面	断面
	桁行	梁行		総長（m）	計測柱列	柱間寸法（m）	総長（m）	計測柱列	柱間寸法（m）				直径	深度							
SB193	1	1	長方形（東西棟）	2.1	北	2.1	1.6	西	1.6	-	E-32-S	北	28-39	28-32	円形、楕円形	12-16	-	2		24	25
SB194	1	1	長方形（東西棟）	2.0	南	2.0	1.6	西	1.6	-	E-10-N	南	23-28	18-33	円形、楕円形	8-10	-	0		24	25
SB195	1	1	正方形	1.4	南	1.4	1.4	東	1.4	-	E-16-S	南	30-38	30-34	円形、楕円形	12-22	-	0	縄文土器深鉢・鉢	24	25
SB196	1	1	長方形（東西棟）	2.1	南	2.1	1.4	西	1.4	-	E-15-S	南	22-25	12-13	円形、楕円形	-	-	0	縄文土器深鉢	26	26
SB197	1	1	長方形（東西棟）	2.2	南	2.2	1.4	西	1.4	-	E-5-S	南	23-24	14-33	円形	10	-	1		26	26

［検出面］Ⅷ層

［重複］SB196 建物跡と重複し、これよりも古い。

［構造･規模］4 本の柱で構成され､東西に長い平面長方形を呈する建物跡である。南側柱列で約 2.2m、西側柱列で約 1.4m ある。

［方向］南側柱列で見ると、東で 5° 南に偏する。

［柱穴］3 箇所で確認した。直径 23 ～ 24cm の円形を呈し､残存する深さが 14 ～ 33cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを少量含む黒色や黒褐色の粘土～砂質シルトである。柱痕跡を 1 箇所、柱抜取穴を 1 箇所で確認した。柱痕跡は直径 10cm の円形を呈する。

［出土遺物］遺物は出土していない。

(2) その他の遺構と出土遺物

丘陵端部に当たる場所で竪穴状遺構 1 基、丘陵裾部において遺物包含層が堆積し微高地状になっている場所で、焼土を含む土壌が集積した箇所（焼土集積）3 箇所を検出した。

【SX145 竪穴状遺構】

［位置］F-29 区拡張部分北西隅（第 23 図）

［検出面］Ⅵ g 層（3 属群）

［重複］SB194 建物跡と重複するとみられる。

［構造・規模］調査区壁で確認し、北側と西側が調査区外に広がる。断面での確認のみであるため平面形は不明である。南北 1.3 m以上、東西 1.7 m以上ある。断面形は皿形を呈する。

［壁］Ⅵ g 層およびⅧ層を壁としており、床面からほぼまっすぐに立ち上がる。壁高は 13cm ある。

［床面］地山（Ⅸ層）を床とし、ほぼ平坦である。

［柱穴］周囲で直径 20cm、残存する深さが 26cm の小柱穴（P625）を 1 個検出した。遺構に伴う可能性がある。

［堆積土］3 層確認した。いずれも地山（Ⅸ層）小ブロックを少量含む黒色シルト質粘土で、自然堆積土である。

［出土遺物］遺構堆積土から縄文土器深鉢・壺が出土している（第 27 図）。また、柱穴底面付近より柱材とみられる木片が出土した。この木片について放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、^{14}C 年代が 2,570±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 797 ～ 773calBC となり、晩期中葉（大洞 C2 式新段階）頃の年代値（小林　2019）が得られている（分析編第 2 章）。

【SX129 焼土集積】

［位置］F-29 区西側（第 22 図）

［検出面］Ⅵ c 層（2 属群）

［重複］建物跡と竪穴状遺構を覆う層（Ⅵ c 層）で検出したことから、これらより新しい。

［平面形・規模］長径 61cm、短径 51cm の不整な円形を呈する。

［堆積土］明赤褐色砂質シルト（焼土）ブロックと地山（Ⅸ層）大ブロックが混ざったもので、流れ込みにより堆積したものとみられる。

［出土遺物］動物遺存体が出土している。

【SX130 焼土集積】

［位置］F-30 区東側（第 22 図）

［検出面］Ⅵ c 層（2 属群）

［重複］ F-29 区で検出した建物跡と竪穴状遺構を覆う層（Ⅵ c 層）に相当する層で検出したことから、これらより新しい。

［平面形・規模］長径 79cm、短径 76cm の不整形を呈する。

［堆積土］黒褐色粘土質シルトブロックを多く含むにぶい赤褐色シルト質砂（焼土）で、流れ込みにより堆積したものとみられる。

［出土遺物］遺物は出土していない。

【SX144 焼土集積】

［位置］F-29 区東壁（第 22 図）

［検出面］Ⅵ c 層（2 属群）

［重複］建物跡と竪穴状遺構を覆う層（Ⅵ c 層）で検出したことから、これらより新しい。

［断面形・規模］検出長が 59cm あり、断面形は浅い皿形を呈し、深さが 8cm ある。

［堆積土］褐色シルト（焼土）ブロックと地山（Ⅸ層）大ブロックが混ざったもので、流れ込みにより堆積したものとみられる。

［出土遺物］遺物は出土していない。

2. 遺物包含層

東 C 丘陵基部付近では、黒色～黒褐色を呈する粘土～粘土質シルトを主体とするⅥ層が堆積し、この層に縄文時代晩期を主体とする土器や石器などの遺物が多量に包含されている。この遺物包含層は丘陵斜面から低地部にかけて南に広がる。これまでの発掘調査で、東 C 丘陵南斜面で検出した遺物包含層は 2 箇所あり、便宜上、丘陵の先端部から a 包含層、b 包含層と呼称している（宮城県教育委員会　2014）。本報告では b 包含層について述べる。

なお、図を掲載した遺物の属性や特徴はすべて観察表に記しているため、本文中における遺物の個別の説明は原則として省略した。

（1）堆積状況と分布範囲

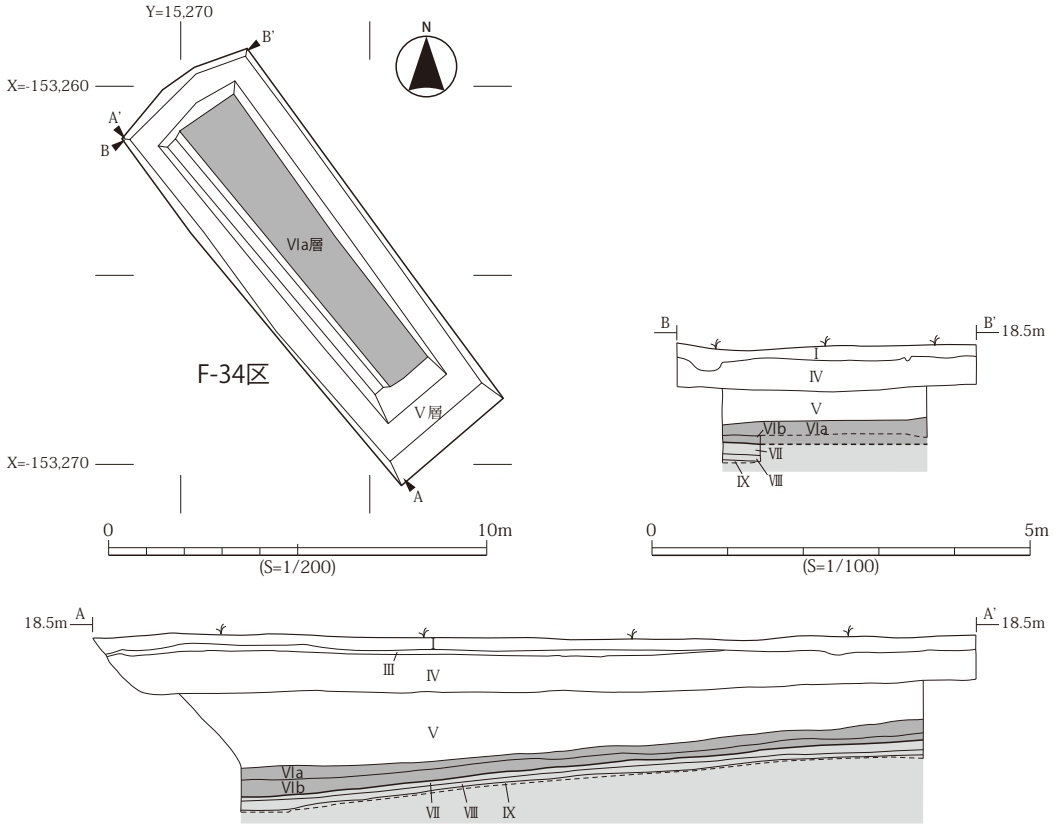
Ⅵ層を F-29・30・34・35・36・37 区で検出し、縄文時代晩期を主体とする遺物が多量に包含されている状況を確認した。また、これらの調査区の北側で電柱設置工事が行われ、この工事立会で遺物包含層の丘陵側への広がりを確認している。これらの範囲は、東西約 134m（F-35 区東端と F-37 区西端を結ぶ直線距離）、南北約 28m（電柱設置工事箇所の北端と F-29 区南端を結ぶ直線距離）ある。F-35 区の南に位置する F-23 区でもⅥ層中に遺物包含層を検出しているが、両者は沢状の地形で隔てられているため、別地点として取り扱う（第 2 節）。なお、これらの調査区の南西に位置する F-27・28・41 ～ 45 区および、南東に位置する F-22 区では遺物包含層は検出されなかった。

遺物包含層は、丘陵から低地部に向かって緩やかに傾斜する。各調査区におけるⅥ層上面での地形を見ると、F-29 区東壁ではⅥ層の検出長約 14.1m、Ⅵ層上面での比高約 0.7m、勾配約 5.0% であり、F-34 区西壁ではⅥ層の検出長約 9.0m、Ⅵ層上面での比高約 0.7m、勾配約 7.8% である。沢状の地形となっている F-35 区北壁ではⅥ層の検出長約 5.9m、Ⅵ層上面での比高約 0.3m、勾配約 5.1% となっている。

第 3 章で述べたように、Ⅵ層は土色や土性、含有物などの特徴から各調査区で複数の層に細分できる一方で、調査区によりⅥ層の堆積状況が異なる。これらの細分層の土性や土色、含有物などの特徴から、遺物包含層（Ⅵ層）を 1 ～ 3 層群に大別した（第 5 表）。大別層群でみると、すべての調査区で 3 層群および 2 層群が堆積し、1 層群は F-29 区および F-36 区で確認される。

第5表　調査区間の遺物包含層（Ⅵ層）の対応　（⇔：同一層、≒：近似層）

調査区・層名											大別層群			
F-37 区		F-36 区		F-34 区		F-30 区		F-29 区		F-35 区	層名	細分層	堆積場所	特　徴
		Ⅵa	⇔		⇔		⇔	Ⅵa			1 層群	1A	斜面部	黒褐色シルト～シルト質砂
								Ⅵb				1B		
Ⅵa	⇔	Ⅵb	≒	Ⅵa	⇔	Ⅵc	⇔	Ⅵc	≒	Ⅵa	2 層群	2A	平坦部～斜面部	黒色～黒褐色を呈するシルト質粘土～粘土質シルト
						Ⅵd	⇔	Ⅵd	≒	Ⅵb		2B		
								Ⅵe	≒	Ⅵc Ⅵd	3 層群	3A	斜面部	黒色～黒褐色を呈する、砂が混じる粘土質シルトや砂質シルト
								Ⅵf				3B		
Ⅵb Ⅵc	⇔	Ⅵc	⇔	Ⅵb	⇔	Ⅵg	⇔	Ⅵg				3C	平坦部～斜面部	



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
F-34 区	A-A' B-B'	VI a	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	
		VI b	黒色（10YR1.7/1）	粘土質シルト	砂少量

第28図　F-34区　平面図・断面図

(2) 遺物の層位別出土状況

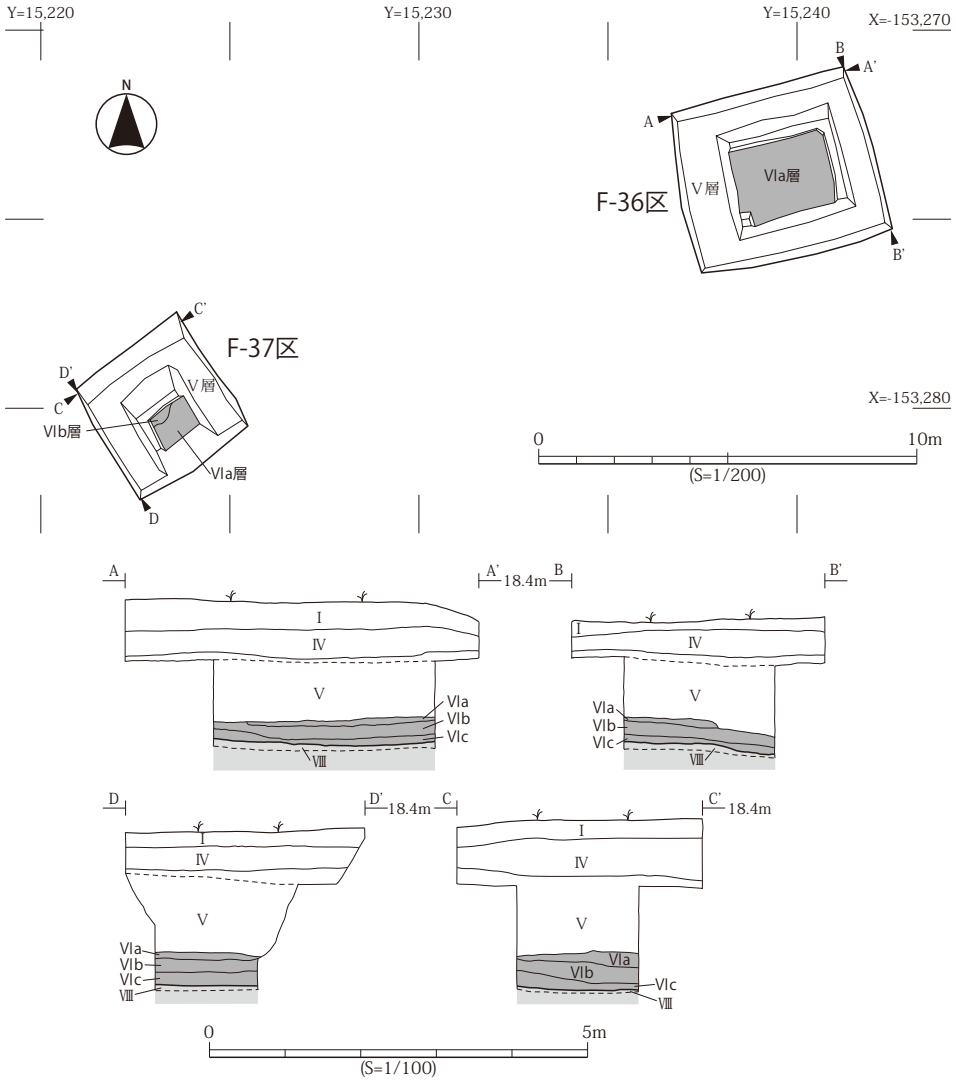
遺物包含層から出土した遺物は遺物収納箱（54 × 34 × 15cm）換算で約 12 箱に相当する量が出土している。以下に、遺物の種類ごとの層位別出土状況について述べる。

①土器

3 層群では中・小破片を中心に少量出土している。器種は深鉢や鉢、浅鉢、皿、壺のほかに台の付く土器がある。装飾は、雲形文（第 31 図 1）やメガネ状浮文、工字文、π字文、縦位隆帯（同図 3）などが見られる。

2 層群ではいずれの調査区も中・小破片が主体である。器種は深鉢や鉢、浅鉢、皿、壺、注口土器、蓋のほかに袖珍土器壺、台や脚の付く土器がある。装飾は、帯状文（第 31 図 8･17）や入組帯状文（同図 16）、瘤の付く帯状文（同図 7･9･11･12･14･15）･入組帯状文（同図 6･10）、三叉文、羊歯状文（同図 19）、列点文（同図 19 ～ 21・23）、雲形文（同図 22・24 ～ 28）、メガネ状浮文（第 32 図 24）、工字文（同図 10 ～ 16･22）、綾杉状文（同図 23）、π字文（同図 15･17 ～ 21･24 ～ 29、第 33 図 1 ～ 4･6 ～ 10）、変形工字文（同図 5・9・10）などが見られる。なかでもπ字文が特に多く見られ、工字文や雲形文が施された土器も多く出土している。また、帯状文も一定量含まれる。

1 層群では中・小破片が主体である。器種は深鉢や鉢、浅鉢、皿、壺、注口土器、蓋のほかに袖珍



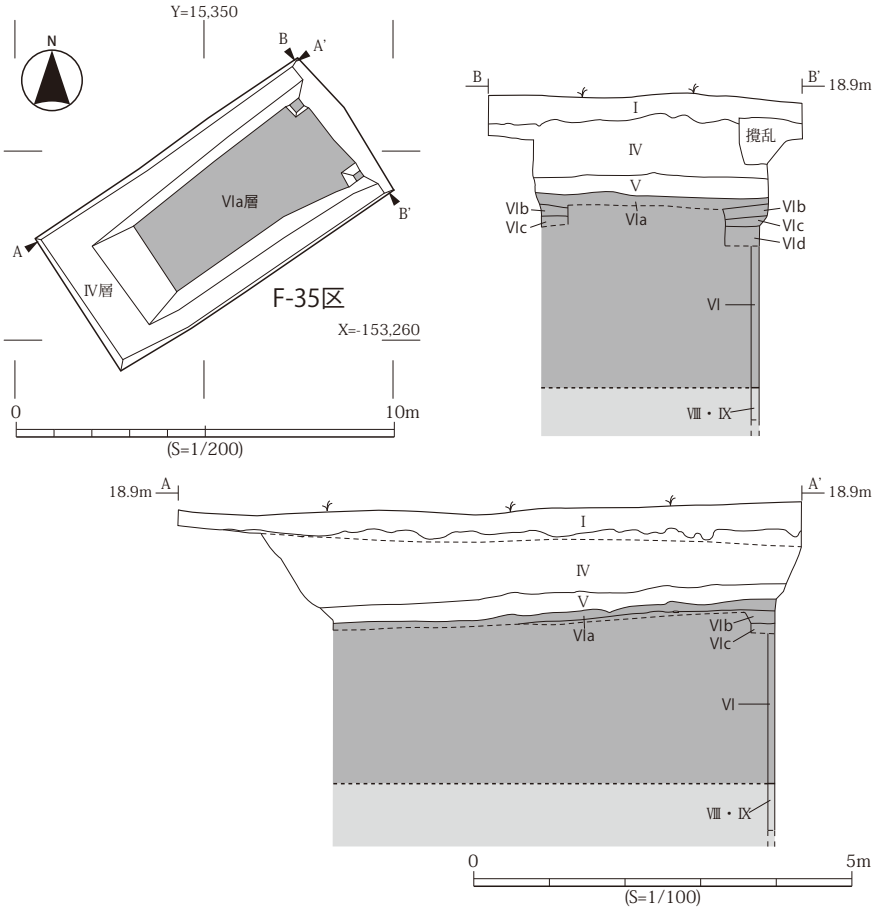
調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
F-36 区	A-A' B-B'	VI a	黒色（2.5Y2/1）	シルト質砂	
		VI b	黒色（10YR1.7/1）	粘土	
		VI c	黒色（7.5YR2/1）	砂質シルト	
F-37 区	C-C' D-D'	VI a	黒色（10YR1.7/1）	粘土	
		VI b	黒色（7.5YR2/1）	砂質シルト	
		VI c	黒色（10YR2/1）	砂質シルト	

第29図　F-36・37区　平面図・断面図

土器深鉢・鉢、アスファルト容器（鉢、第 35 図 24）、台や脚の付く土器がある。装飾は、帯状文（第 34 図 16）、入組帯状文（同図 17）、三叉文、羊歯状文（同図 18）、列点文（同図 19・20・25）、雲形文（同図 25・26・28 ～ 31、第 35 図 1・5）、メガネ状浮文（同図 1）工字文（同図 8・9・13）、X 字状文、綾杉状文、π字文（同図 10 ～ 12・14 ～ 16・18）、変形工字文（同図 17・18）などが見られる。なかでもπ字文が最も多く見られ、雲形文や工字文が施された土器も多く出土している。

②土製品

土製品は各大別層群から出土している。ほとんどが円盤状土製品である。以下に、各大別層群の出土状況について述べる。



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
F-35 区	A-A' B-B'	Ⅵ a	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	砂少量
		Ⅵ b	黒色（10YR1.7/1）	シルト質粘土	
		Ⅵ c	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	砂中量
		Ⅵ d	黒褐色（10YR3/1）	砂質シルト	スクモ少量

第30図　F-35区　平面図・断面図

3 層群からは円盤状土製品が 1 点出土している。

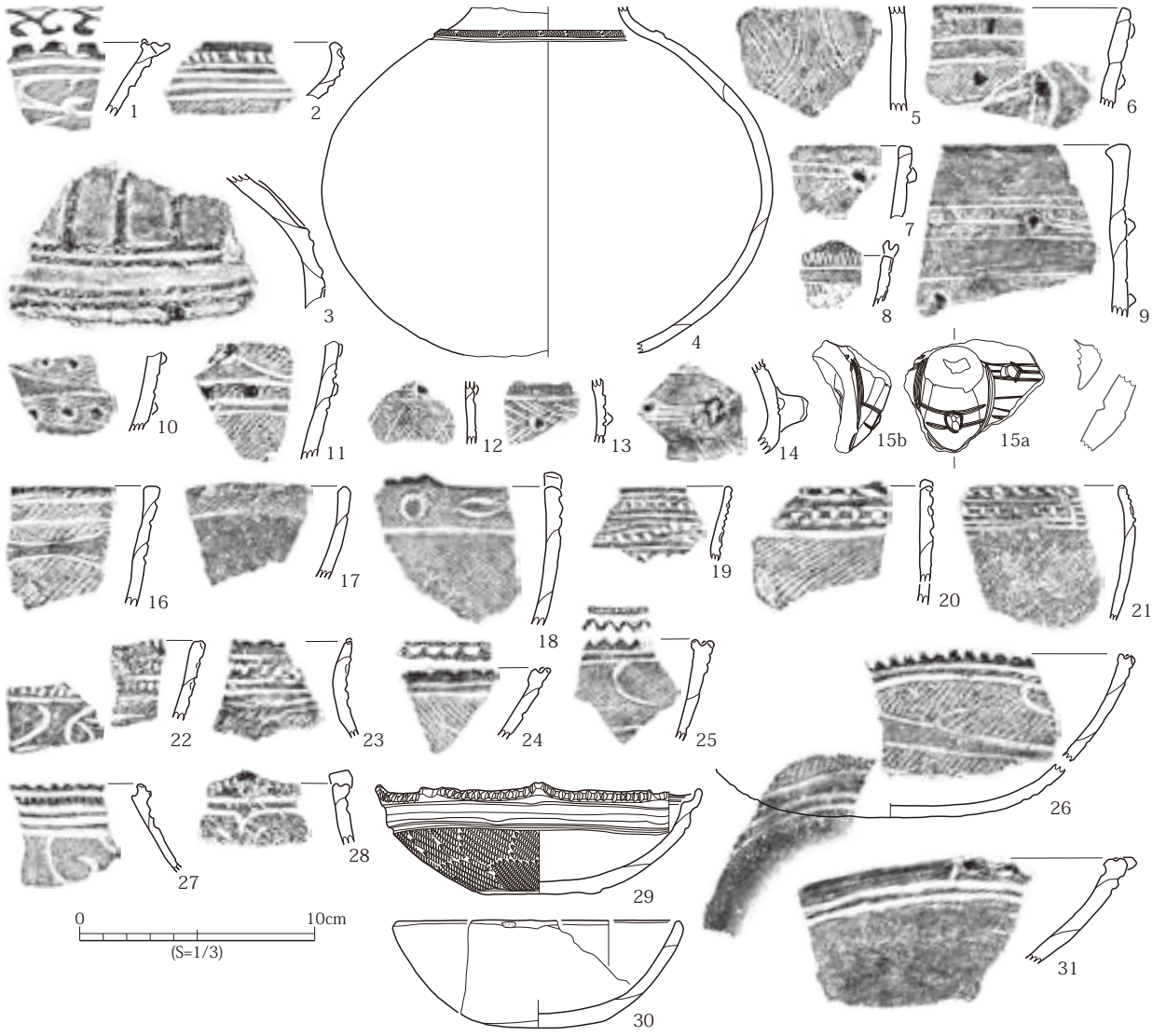
2 層群からは、土版（第 36 図 14）や耳飾（同図 15）のほかに円盤状土製品（同図 1 ～ 13）が出土している。第 36 図 14 は完形の土版である。

1 層群からは土偶上半身（第 36 図 20）や土偶腕?のほかに円盤状土製品（同図 16 ～ 19）が出土している。第 36 図 20 は、頂部がくぼむ貼瘤で顔を表現し、頭部から胸部にかけて縄文が施される。

③石器・石製品

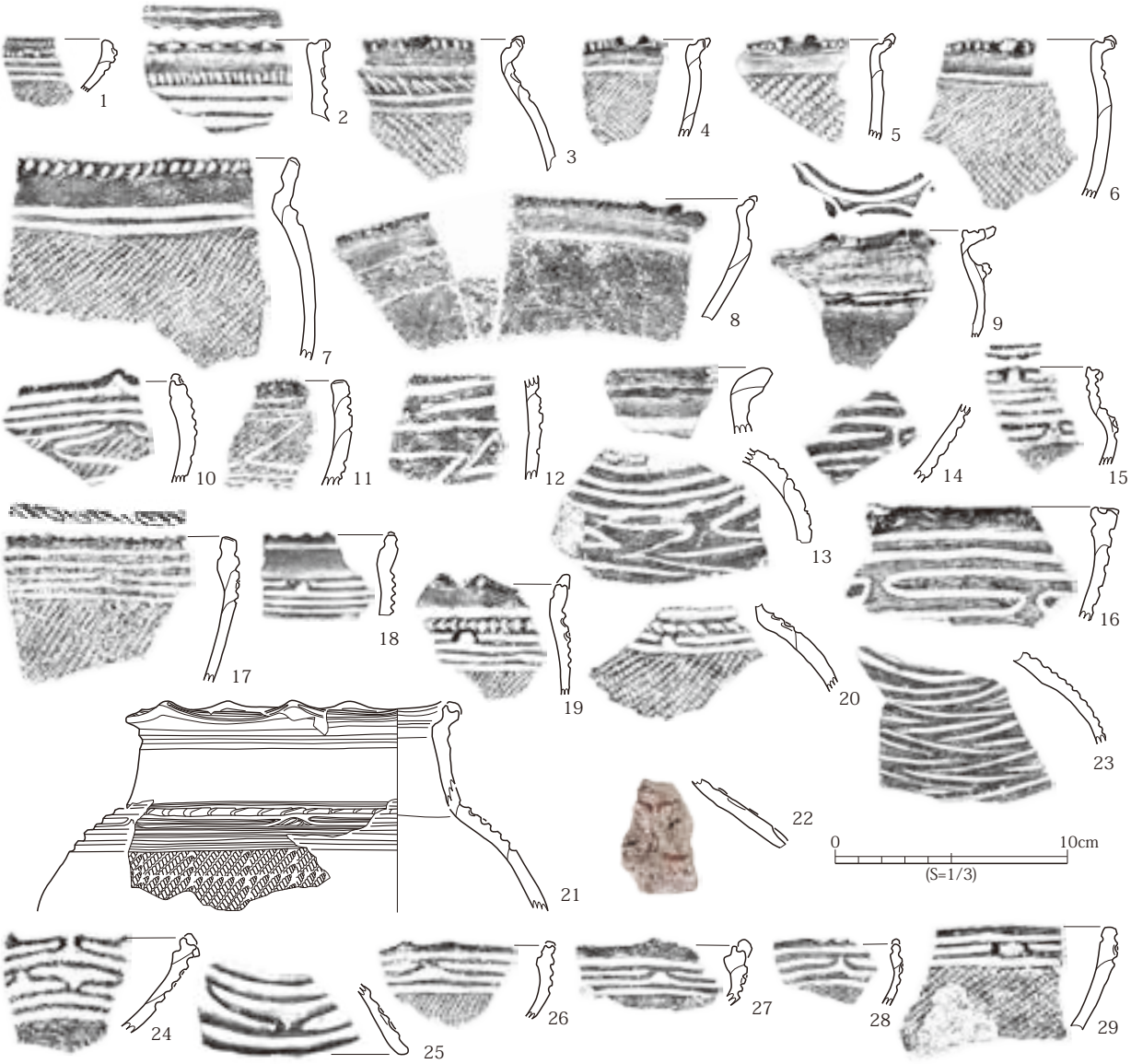
遺物包含層からは、石器・石製品が 163 点出土している。石鏃 1 点、尖頭器 1 点、石錐 1 点、石匙 1 点、石篦 3 点、磨製石斧 7 点、楔形石器 1 点、不定形石器 5 点、石皿 12 点、磨石 24 点、凹石 2 点、砥石 1 点といったトゥール類や剥片･砕片 63 点、石核 29 点、また、円盤状石製品 7 点、独鈷石 1 点、石棒 1 点、石刀 1 点、不明石製品 1 点といった石製品がある。さらに石器石材とみられる原石 1 点が出土している。なお、層位別の器種組成を第 22・23 表に示した。

2 層群からは 113 点出土し、石鏃 1 点、石錐 1 点（第 37 図 1）、石匙 1 点（同図 2）、石篦 2 点、磨



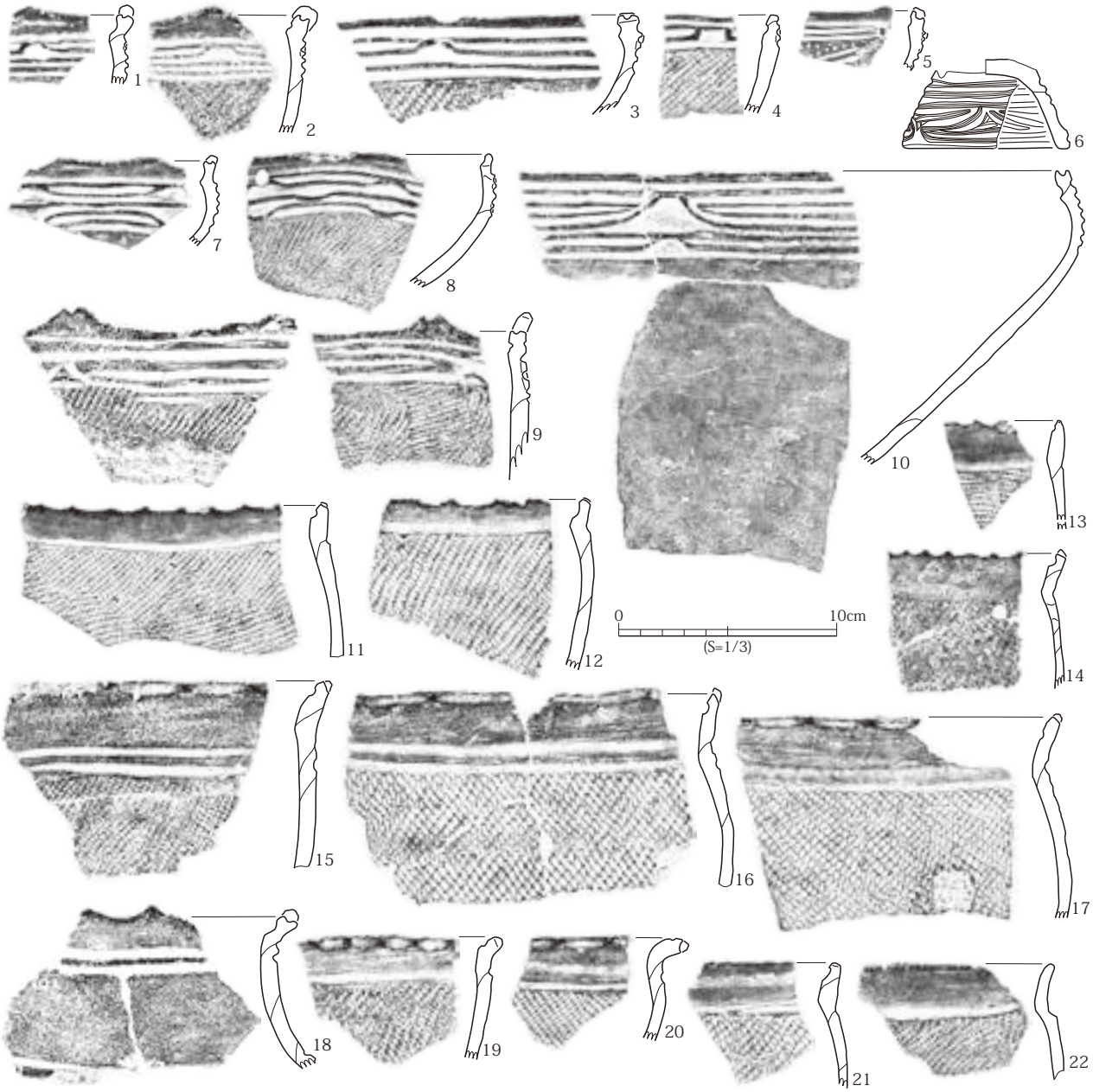
No.	器　種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	Ⅲ	A1bf	Ⅶa	3 層群	F-29 拡 / Ⅵg	平縁。二個一対の小突起 + 羊歯状浮線文。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR。外面・口唇部赤彩	56-4	Po3487
2	鉢	A1	ⅩⅡa2	3 層群	F-29 拡 / Ⅵg	平縁。平行沈線文 + 刺突列。縄文 LR	56-5	Po3486
3	壺	-	ⅩⅡf	3 層群	F-29 拡 / Ⅵg	平行沈線文 + 隆帯	56-6	Po3484
4	壺	-	ⅩⅡf	3 層群	F-29 / Ⅵf	最大径（19.2cm）。平行沈線文 + 横位の隆帯（充填縄文）。縄文 LR。外面赤彩、内面赤漆付着	56-7	Po3488
5	深鉢	-	-	2 層群	F-34 / Ⅵa	弧状の条線文	56-8	Po3594
6	深鉢	A1	ⅡBa	2 層群	F-34 / Ⅵa	平縁。入組帯状文（縄文）+ 貼瘤。縄文 LR	56-9	Po3587
7	鉢	A1	ⅠBa	2 層群	F-30 / Ⅵc	平縁。帯状文（縄文）+ 貼瘤。無節縄文 L	56-10	Po3519
8	鉢	A1ce	Ⅰc	2 層群	F-30 / Ⅵc	平縁。円形突起（頂部短沈線文）。帯状文（櫛歯状刻目）	56-11	Po3550
9	深鉢	A1	ⅠBb	2 層群	F-34 / Ⅵ確認面	平縁。帯状文（無文）+ 貼瘤	56-12	Po3591
10	深鉢	-	ⅡBa?	2 層群	F-30 / Ⅵc	入組帯状文（縄文）+ 貼瘤。縄文 RL	56-13	Po3518
11	深鉢	-	ⅠBa	2 層群	F-34 / Ⅵa	帯状文（縄文）+ 貼瘤。0 段多条縄文 LR	56-14	Po3583
12	鉢	-	ⅠBb	2 層群	F-34 / Ⅵa	帯状文（無文）+ 貼瘤、平行沈線による斜格子文。胎土に海綿骨針を含む	56-15	Po3596
13	鉢	-	ⅩⅡd2	2 層群	F-30 / Ⅵc	平行沈線文 + 斜位の平行沈線文 + 貼瘤	56-16	Po3517
14	壺	-	ⅠBb	2 層群	F-30 / Ⅵc	帯状文（無文）+ 貼瘤（頂部短沈線文）+ 貼瘤	56-17	Po3515
15	注口土器	-	ⅠBb	2 層群	F-30 / Ⅵc	帯状文（無文）+ 貼瘤、注口部の周りに沈線文	56-18	Po3505
16	深鉢	A1	Ⅱa	2 層群	F-34 / Ⅵa	平縁。入組帯状文（縄文）。縄文 LR	56-19	Po3598
17	浅鉢	A1	Ⅰa	2 層群	F-34 / Ⅵa	平縁。帯状文（縄文）。縄文 LR	56-20	Po3589
18	深鉢	A1e	-	2 層群	F-34 / Ⅵa	平縁。台形突起 + 頂部刻目。円文 + 楕円文。縄文 LR	56-21	Po3590
19	鉢	C1	Ⅳ + Ⅴ	2 層群	F-30 / Ⅵc	平縁。列点文、羊歯状文	56-22	Po3544
20	深鉢	A1df	Ⅴ	2 層群	F-29 拡 / Ⅵc	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。列点文。縄文 LR	56-23	Po3478
21	鉢	A1cd	Ⅴ	2 層群	F-35 / Ⅵa	平縁。ヘラ刻目 + 弧状の連続短沈線文。列点文、平行沈線文。直前段多条縄文 LR	56-24	Po3627
22	鉢	A1d	Ⅶb	2 層群	F-37 / Ⅵa	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文 + 刺突列、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR	56-25	Po3650
23	鉢	C1d	Ⅴ	2 層群	F-35 / Ⅵa	平縁。ヘラ刻目。列点文、平行沈線文。縄文原体不明	56-26	Po3605
24	Ⅲ	A1bd	Ⅶb	2 層群	F-35 / Ⅵa	平縁。ヘラ刻目 + 波状浮線文。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 RL。口縁部内面沈線	56-27	Po3612
25	Ⅲ	A1bd	Ⅶb	2 層群	F-30 / Ⅵc	平縁。ヘラ刻目 + 波状浮線文。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。無節縄文 L。口縁部内面沈線	56-28	Po3546
26	Ⅲ	A1bd	Ⅶb	2 層群	F-34 / Ⅵa	底径（8.8cm）。平縁。ヘラ刻目 + 波状浮線文。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）、底部付近に平行沈線文。縄文 LR。底部ミガキ。体部下半内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	56-30	Po3595
27	注口土器	-	Ⅶa	2 層群	F-34 / Ⅵa	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文 + ヘラ刻目、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR	56-29	Po3597
28	注口土器	-	Ⅶa	2 層群	F-35 / Ⅵa	平縁。山形突起 + 突起間沈線 + ヘラ刻目。雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 RL	56-31	Po3615
29	浅鉢	B1df	ⅩⅢ	2 層群	F-29 拡 / Ⅵc	口径 13.9cm、器高 4.8cm、底径 5.1cm。平縁。山形突起 4 単位 + 二個一対の小突起 4 単位 + ヘラ刻目 + 口唇部沈線。横位沈線文。縄文 RL。底部ミガキ。胎土に海綿骨針を含む	56-33	Po3474
30	浅鉢	A1	ⅩⅤ	2 層群	F-30 / Ⅵc	口径（12.0cm）、器高 4.6cm、底径 5.1cm。平縁。底部ケズリ	56-31	Po3541
31	Ⅲ	A1cf	ⅩⅡx	2 層群	F-30 / Ⅵc	平縁。二個一対の山形突起 + 口唇部沈線。平行沈線文。口縁部内面沈線	56-32	Po3556

第31図　東C丘陵南斜面遺物包含層　出土土器（1）



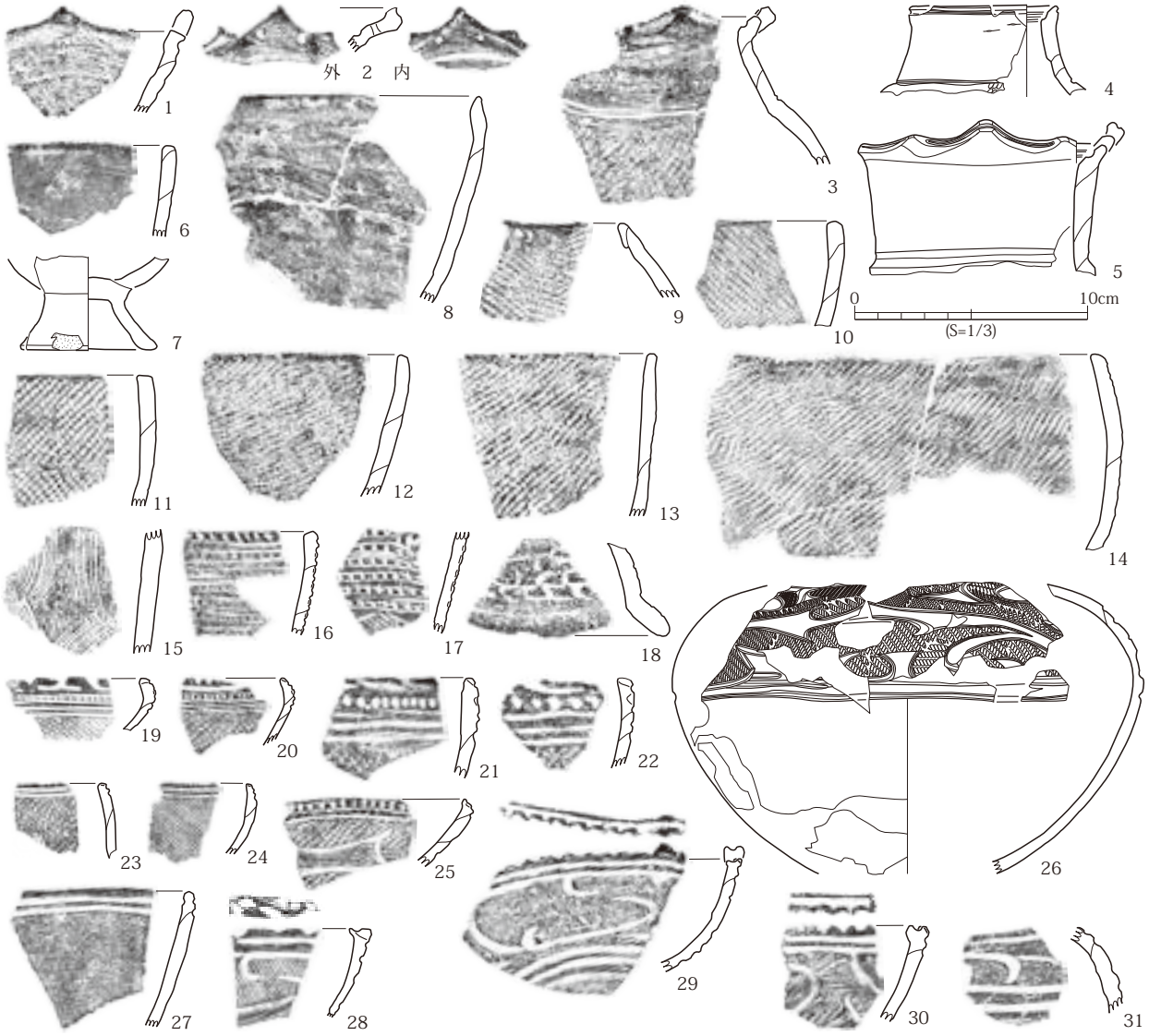
No.	器種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	浅鉢	A1	XⅡ a2	2 層群	F-30 / Ⅵ c	平縁。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文 LR	56-35	Po3552
2	深鉢	B1cd	XⅡ a1	2 層群	F-29 拡 / Ⅵ	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋櫛歯状刻目	56-36	Po3440
3	深鉢	B1df	XⅡ a1	2 層群	F-35 / Ⅵ a	平縁。二個一対の小突起＋ヘラ刻目。平行沈線文＋櫛歯状刻目。縄文 RL。口縁部内面沈線	56-37	Po3613
4	鉢	B1cdf	XⅢ	2 層群	F-35 / Ⅵ a	平縁。二個一対の山形突起＋ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。羽状縄文 LR/RL	56-38	Po3628
5	深鉢	B1cdf	XⅣ b1	2 層群	F-35 / Ⅵ a	平縁。二個一対の小突起＋ヘラ刻目＋口唇部沈線。縄文 LR	56-39	Po3640
6	深鉢	B1cdf	XⅡ x	2 層群	F-35 / Ⅵ a	平縁。二個一対の山形突起＋ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文。羽状縄文 L/RL	56-40	Po3610
7	深鉢	C1d	XⅡ x	2 層群	F-30 / Ⅵ c	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	56-41	Po3533
8	浅鉢	D1cf	XⅢ	2 層群	F-35 / Ⅵ a	平縁。二個一対の小突起＋口唇部沈線。横位沈線文	56-45	Po3616
9	鉢	B1cf	XⅢ	2 層群	F-30 / Ⅵ c	平縁。二個一対の山形突起＋口唇部沈線。体部上半に隆帯＋山形突起＋横位沈線文。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	56-44	Po3529
10	鉢	A1cf	X c	2 層群	F-35 / Ⅵ a	平縁。山形突起＋突起間沈線。平行沈線文、工字文（Z 字状、磨消縄文）。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	56-42	Po3633
11	鉢	A1d	X c	2 層群	F-35 / Ⅵ a	平縁。櫛歯状刻目。平行沈線文、工字文（Z 字状、磨消縄文）。縄文 LR	56-43	Po3637
12	鉢	-	X c	2 層群	F-30 / Ⅵ c	工字文（Z 字状）	56-46	Po3520
13	壺	G1	X c	2 層群	F-29 拡 / Ⅵ c+ Ⅵ	平縁。頸部～体部上半に平行沈線文、体部上半に工字文（Z 字状）	56-49	Po3439
14	浅鉢	-	X a	2 層群	F-35 / Ⅵ a	平行沈線文、工字文（陰刻）	56-47	Po3602
15	鉢	D1	Ⅸ b+ X a	2 層群	F-35 / Ⅵ a	平縁。π字文（下向）＋二個一対の貼瘤、工字文（陰刻）。縄文 LR。口縁部内面平行沈線文	56-48	Po3644
16	鉢	A1c	X b	2 層群	F-34 / Ⅵ a	平縁。口唇部沈線。平行沈線文、入組工字文（陽刻）。口縁部内面沈線	57-1	Po3580
17	鉢	A1d	Ⅸ a	2 層群	F-35 / Ⅵ a	平縁。櫛歯状刻目。平行沈線文、π字文（下向）。縄文 LR。口縁部内面沈線	57-2	Po3638
18	深鉢	C1d	Ⅸ a	2 層群	F-30 / Ⅵ c	平縁。ヘラ刻目。π字文（下向）、平行沈線文。口縁部内面沈線	57-7	Po3527
19	深鉢	B1ce	Ⅸ a	2 層群	F-35 / Ⅵ a	平縁。二個一対の山形突起＋突起間沈線。平行沈線文＋刺突列、π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	57-3	Po3636
20	壺	-	Ⅸ a	2 層群	F-30 / Ⅵ c	平行沈線文＋刺突列、π字文（下向）。直前段多条縄文 LR	57-4	Po3553
21	壺	H1cf	Ⅸ a	2 層群	F-30 / Ⅵ確認面	口径 14.2cm。平縁。山形突起 7 単位＋口唇部沈線。平行沈線文、平行沈線文＋刺突列、π字文（下向）。0 段多条縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	57-6	Po3564
22	壺	-	X a	2 層群	F-34 / Ⅵ a	工字文（陰刻）、横位の隆帯＋縦位の隆帯。外面赤彩	57-10	Po3970
23	壺	-	Ⅵ a	2 層群	F-35 / Ⅵ a	Z 字状文（綾杉状文）	57-5	Po3603
24	浅鉢	A1cf	Ⅷ＋Ⅸ a	2 層群	F-30 / Ⅵ c	平縁。二個一対の山形突起＋二個一対の小突起。メガネ状浮文、π字文（下向＋上向）、平行沈線文。口縁部内面沈線	57-8	Po3507
25	台部	-	Ⅸ a	2 層群	F-35 / Ⅵ a	π字文（下向＋上向）	57-11	Po3604
26	鉢	A1cf	Ⅸ a	2 層群	F-35 / Ⅵ a	平縁。二個一対の山形突起＋突起間沈線。π字文（下向）、平行沈線文。0 段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	57-9	Po3606
27	浅鉢	B1cf	Ⅸ a	2 層群	F-30 / Ⅵ c	平縁。山形突起（頂部刻み）＋突起間沈線。π字文（下向）、平行沈線文。突起・口縁部内面沈線	57-12	Po3510
28	浅鉢	A1f	Ⅸ a	2 層群	F-35 / Ⅵ a	平縁。二個一対の山形突起。π字文（下向）、平行沈線文。口縁部内面沈線	57-13	Po3608
29	鉢	A1	Ⅸ c	2 層群	F-30 / Ⅵ c	平縁。π字文＋二個一対の貼瘤。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	57-17	Po3530

第32図　東C丘陵南斜面遺物包含層　出土土器（2）



No.	器　種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	B1cf	Ⅸ a	2 層群	F-30 / Ⅵ c	平縁。山形突起 + 突起間沈線。π字文（下向）、平行沈線文。口縁部内面沈線。内外面・口唇部赤彩	57-14	Po3526
2	鉢	A1ce	Ⅸ a	2 層群	F-35 / Ⅵ a	平縁。山形突起 + 突起間沈線。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	57-18	Po3614
3	鉢	A1cd	Ⅸ a	2 層群	F-30 / Ⅵ c+ Ⅵ確認面	平縁。口唇部沈線 + 押圧。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	57-15	Po3531
4	鉢	A1	Ⅸ a	2 層群	F-30 / Ⅵ c	平縁。π字文（下向）。縄文 LR。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	57-19	Po3547
5	鉢	A1cf	Ⅹ Ⅰ b1	2 層群	F-30 / Ⅵ c	平縁。山形突起 + 口唇部沈線。変形工字文 + 二個一対の貼瘤。擬縄文（刺突）。口縁部内面沈線	57-16	Po3508
6	台部	-	Ⅸ a	2 層群	F-35 / Ⅵ a	台部径（7.5cm）。平行沈線文、π字文（下向 + 上向）4 単位	57-21	Po3625
7	鉢	A1cf	Ⅸ a	2 層群	F-30 / Ⅵ c	平縁。二個一対の山形突起 + 突起間沈線。π字文（上下対向）。口縁部内面沈線	57-20	Po3551
8	浅鉢	A1	Ⅸ a	2 層群	F-30 / Ⅵ c	平縁。π字文（上下対向）。縄文 LR。口縁部内面沈線。補修孔 1	57-24	Po3560
9	深鉢	A1ce	Ⅸ a+ Ⅹ Ⅰ b1	2 層群	F-30 / Ⅵ c+ Ⅵ c 確認面	平縁。山形突起（頂部刻み）+ 突起間沈線。平行沈線文、π字文（下向）、変形工字文。縄文 LR。口縁部内面沈線	57-25	Po3503
10	鉢	A1cd	Ⅸ a+ Ⅹ Ⅰ b1	2 層群	F-30 / Ⅵ c	平縁。口唇部沈線 + 押圧。変形工字文 + π字文（下向）。口縁部内面沈線。内外面炭化物付着	57-23	Po3561
11	深鉢	C2	Ⅹ Ⅲ	2 層群	F-30 / Ⅵ c	小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	57-26	Po3559
12	深鉢	C2	Ⅹ Ⅲ	2 層群	F-30 / Ⅵ c	小波状縁。横位沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	57-27	Po3535
13	深鉢	C2	Ⅹ Ⅲ	2 層群	F-30 / Ⅵ c	小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	57-22	Po3504
14	深鉢	C2	Ⅹ Ⅳ b1	2 層群	F-35 / Ⅵ a	小波状縁。縄文 LR。口縁部内面沈線。内外面・口唇部炭化物付着。補修孔 1	57-28	Po3619
15	深鉢	C2	Ⅹ Ⅱ x	2 層群	F-35 / Ⅵ a	小波状縁。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	57-29	Po3620
16	深鉢	C2	Ⅹ Ⅱ x	2 層群	F-30 / Ⅵ c	小波状縁。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	57-30	Po3537
17	深鉢	C2	Ⅹ Ⅱ x	2 層群	F-30 / Ⅵ c	小波状縁。平行沈線文。縄文 RL。口縁部内面沈線	57-31	Po3554
18	壺	H1cf	Ⅹ Ⅱ x	2 層群	F-30 / Ⅵ c	平縁。二個一対の山形突起 + 口唇部沈線。口縁部・頸部に平行沈線文。口縁部内面沈線	57-32	Po3528
19	深鉢	C2	Ⅹ Ⅲ	2 層群	F-35 / Ⅵ a	小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	57-33	Po3641
20	深鉢	B2	Ⅹ Ⅲ	2 層群	F-35 / Ⅵ a	小波状縁。突起間沈線。横位沈線文。縄文 RL。口縁部内面沈線	57-34	Po3618
21	深鉢	C1d	Ⅹ Ⅲ	2 層群	F-30 / Ⅵ c	平縁。ヘラ刻目。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	57-35	Po3511
22	深鉢	B1	Ⅹ Ⅲ	2 層群	F-35 / Ⅵ a	平縁。横位沈線文。縄文 LR	57-36	Po3642

第33図　東C丘陵南斜面遺物包含層　出土土器（3）

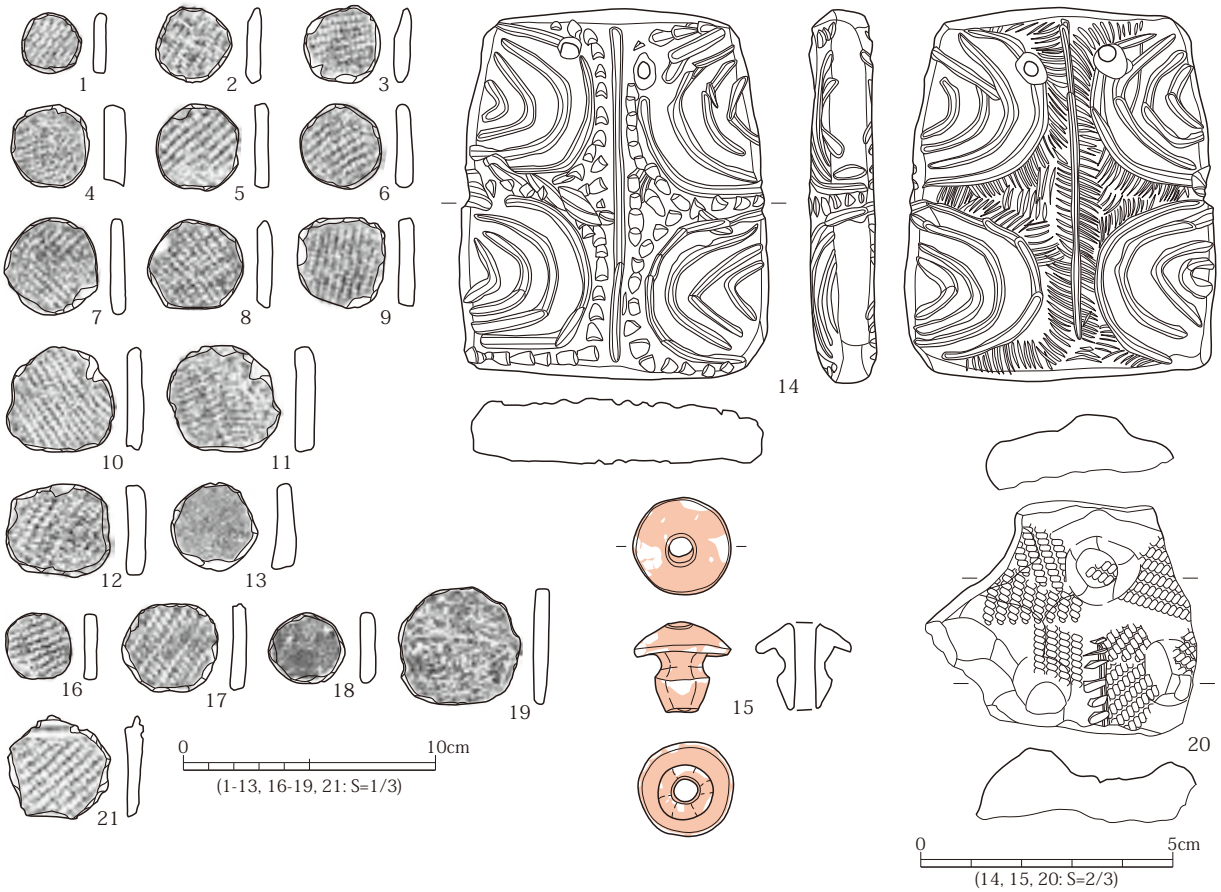


No.	器 種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特 徴	写真図版	登録
1	Ⅲ	C1ef	ⅩⅤ	2 層群	F-34 / Ⅵ a	平縁。山形突起（大）の両側に山形突起（小）	58-1	Po3588
2	Ⅲ	A1cef	ⅩⅤ	2 層群	F-35 / Ⅵ a	平縁。山形突起（大）の両側に山形突起（小）+ 口唇部沈線。二個一対の小突起、貫通孔 2。突起・口縁部内面平行沈線文	58-2	Po3626
3	壺	H1ef	ⅩⅡ x	2 層群	F-35 / Ⅵ a	平縁。山形突起（大）の両側に二個一対の山形突起（小）。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	58-11	Po3631
4	壺	C1c	ⅩⅢ	2 層群	F-30 / Ⅵ c	口径（6.2cm）。平縁。口唇部沈線。口縁部に横位沈線文、頸部に横位沈線文。縄文 LR	58-3	Po3545
5	壺	H1cef	ⅩⅢ	2 層群	F-30 / Ⅵ確認面	口径（10.1cm）。平縁。山形突起（大）の両側に山形突起（小）+ 口唇部沈線。横位沈線文。突起・口縁部内面沈線	58-8	Po3962
6	鉢	A1	ⅩⅤ	2 層群	F-34 / Ⅵ a	平縁	58-4	Po3576
7	台部	-	ⅩⅤ	2 層群	F-34 / Ⅵ a	台部径 5.9cm	58-48	Po3573
8	鉢	A1	ⅩⅤ	2 層群	F-30 / Ⅵ c	平縁	58-12	Po3524
9	鉢	A1	ⅩⅣ a1	2 層群	F-30 / Ⅵ c	平縁。縄文 LR	58-5	Po3549
10	深鉢	A1	ⅩⅣ a2	2 層群	F-34 / Ⅵ a	平縁。羽状縄文 RL/LR	58-6	Po3574
11	深鉢	A1	ⅩⅣ a2	2 層群	F-35 / Ⅵ a	平縁。羽状縄文 LR/RL	58-7	Po3645
12	深鉢	A1	ⅩⅣ a1	2 層群	F-34 / Ⅵ a	平縁。0 段多条縄文 LR	58-9	Po3581
13	深鉢	A1	ⅩⅣ a1	2 層群	F-35 / Ⅵ a	平縁。縄文 LR	58-10	Po3632
14	深鉢	A1	ⅩⅣ a1	2 層群	F-30 / Ⅵ c	平縁。0 段多条縄文 LR	58-13	Po3502
15	深鉢	-	-	1 層群	F-36 / Ⅵ a	弧状の条線文	58-32	Po3647
16	鉢	A1d	Ⅰ c	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。ヘラ刻目。帯状文（刻目）	58-33	Po3470
17	鉢	-	Ⅱ c	1 層群	F-29 / Ⅵ	入組帯状文（櫛歯状刻目）。縄文 RL	58-24	Po3408
18	台部	-	Ⅳ	1 層群	F-29 / Ⅵ確認面	羊歯状文	58-26	Po3493
19	鉢	A1cd	Ⅴ	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。弧状の短沈線文 + ヘラ刻目。列点文、平行沈線文。縄文 RL。内面炭化物付着	58-19	Po3409
20	鉢	A1d	Ⅴ	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。ヘラ刻目。列点文、平行沈線文。縄文 LR	58-16	Po3455
21	鉢	A1d	ⅩⅡ b1	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文 + 刺突列。縄文 LR	58-25	Po3464
22	鉢	A1d	ⅩⅡ b1	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文 + 刺突列。縄文 LR	58-14	Po3426
23	袖珍土器深鉢	A1d	ⅩⅡ x	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR	58-15	Po3461
24	袖珍土器鉢	A1d	ⅩⅡ x	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。羽状縄文 RL/L	58-17	Po3462
25	浅鉢	A1	Ⅴ + Ⅶ a	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。列点文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR	58-18	Po3451
26	壺	-	Ⅶ a	1 層群	F-29 / Ⅵ	最大径（23.0cm）。雲形文（磨り消し縄文）、平行沈線文。縄文 RL。外面赤彩	58-43	Po3443
27	鉢	A1	ⅩⅡ x	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。平行沈線文。口縁部内面沈線	58-31	Po3444
28	Ⅲ	A1bf	Ⅶ b	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。二個一対の小突起 + 羊歯状浮線文。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR。体部下半内面沈線。内外面・口唇部赤彩	58-27	Po3423
29	Ⅲ	A1bcdf	Ⅶ b	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。山形突起 + ヘラ刻目 + 波状浮線文 + 口唇部沈線。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）、底部付近に平行沈線文。縄文 LR。底部ミガキ。体部下半内面沈線	58-42	Po3450
30	Ⅲ	A1bd	Ⅶ b	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。ヘラ刻目 + 波状浮線文。平行沈線文 + 雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。胎土に海綿骨針を含む	58-28	Po3413
31	壺	-	Ⅶ b	1 層群	F-36 / Ⅵ a	平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR	58-29	Po3648

第34図　東C丘陵南斜面遺物包含層　出土土器（4）

No.	器　種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	鉢	D1cdf	Ⅶb+Ⅷ	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。二個一対の山形突起 + 二個一対の円形突起 + 口唇部沈線 + ヘラ刻目。メガネ状浮文 + ヘラ刻目、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。0 段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	58-40	Po3453
2	深鉢	D1cdf	ⅩⅡa1+ⅩⅡa3	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。二個一対の小突起 + ボタン状の突起 + 櫛歯状刻目 + 突起の周りに弧状の短沈線文 + 短沈線による区画文。平行沈線文 + ヘラ刻目（工字状の表現）+ 櫛歯状刻目。縄文 LR。口縁部内面沈線	58-44	Po3412
3	深鉢	B1cd	ⅩⅡa2	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文 + 櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文 RL。外面炭化物付着	58-36	Po3435
4	深鉢	B1cd	ⅩⅡa2	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文 + 櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。羽状縄文 LR/RL。胎土に海綿骨針を含む	58-46	Po3467
5	注口土器	B1cdf	Ⅶb	1 層群	F-29 / Ⅵ	口径（8.0cm）、最大径（14.8cm）。平縁。小突起 + 二個一対の小突起 + 口唇部平行沈線文 + ヘラ刻目。鉢巻状雲形文（沈線表現、磨消縄文）5 単位か、隆帯 + 二個一対の山形突起 + ヘラ刻目 + 刺突列、平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR	58-45	Po3452
6	深鉢	B1cd	ⅩⅢ	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。横位沈線文。縄文 LR 末端部強調	58-38	Po3469
7	深鉢	B1cd	ⅩⅢ	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。横位沈線文。縄文 RL	58-39	Po3430
8	注口土器	-	Ⅹc	1 層群	F-29 / Ⅵ	平行沈線文 + ヘラ刻目、隆帯上に山形突起 + 沈線文 + ヘラ刻目、平行沈線文、工字文（Z 字状、磨消縄文）。縄文 LR	58-34	Po3446
9	鉢	-	Ⅹb	1 層群	F-29 / Ⅵ	平行沈線文、入組工字文（陽刻）	58-41	Po3425
10	壺	G1ce	Ⅸa2	1 層群	F-29 / Ⅵ + Ⅵ確認面	平縁。山形突起（頂部刻み）+ 突起間沈線。口縁部に平行沈線文、体部上半にπ字文（下向）+ 刺突列、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	58-47	Po3422
11	浅鉢	A1cf	Ⅸa	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。山形突起 + 突起部内面に短沈線文。π字文（上向）2 段、平行沈線文。口縁部内面沈線	58-23	Po3463
12	浅鉢	A1	Ⅸb	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。π字文（上向）+ 二個一対の貼瘤。胎土に海綿骨針を含む	58-35	Po3456
13	台部	-	Ⅹc	1 層群	F-29 / Ⅵ	台部径 9.3cm。平行沈線文、工字文（Z 字状）3 単位	58-49	Po3417
14	深鉢	B1cf	Ⅸa	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。山形突起 + 突起間沈線。平行沈線文、π字文（下向）。口縁部内面沈線	58-37	Po3407
15	浅鉢	A1cf	Ⅸa	1 層群	F-29 / Ⅵ確認面	平縁。二個一対の山形突起 + 口唇部沈線。π字文（上下対向）。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	58-30	Po3489
16	浅鉢	A1cd	Ⅸa	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。口唇部沈線 + 押圧。π字文（上下対向）。口縁部内面沈線	58-22	Po3454
17	台部	-	ⅩⅠc	1 層群	F-29 / Ⅵ	変形工字文 + 二個一対の貼瘤 2 段、平行沈線文。台部内面沈線	58-20	Po3433
18	鉢	B1cd	Ⅸa+ⅩⅠb1	Ⅴ	F-30 / Ⅴ	平縁。口唇部沈線 + 押圧。変形工字文、π字文（上向）。口縁部内面沈線。補修孔 2	58-21	Po3514
19	深鉢	C2	ⅩⅡx	1 層群	F-29 / Ⅵ	小波状縁。平行沈線文。縄文 LR 末端部強調。口縁部内面沈線	59-2	Po3471
20	鉢	A1	ⅩⅤ	1 層群	F-29 / Ⅵ	口径（13.0cm）、器高 7.5cm、底径 6.7cm。平縁。底部網代痕	59-1	Po3442
21	深鉢	A1	ⅩⅣa2	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。羽状縄文 RL/LR	59-4	Po3432
22	深鉢	A1	ⅩⅣa2	1 層群	F-29 / Ⅵ	平縁。羽状縄文 L/R	59-5	Po3449
23	深鉢	A1	ⅩⅣa1	1 層群	F-29 / Ⅵ	口径（22.9cm）。平縁。0 段多条縄文 LR	59-3	Po3448
24	アスファルト容器（鉢）	-	ⅩⅣa1	1 層群	F-29 / Ⅵ	0 段多条縄文 LR。内面アスファルト付着	59-6	Po3421

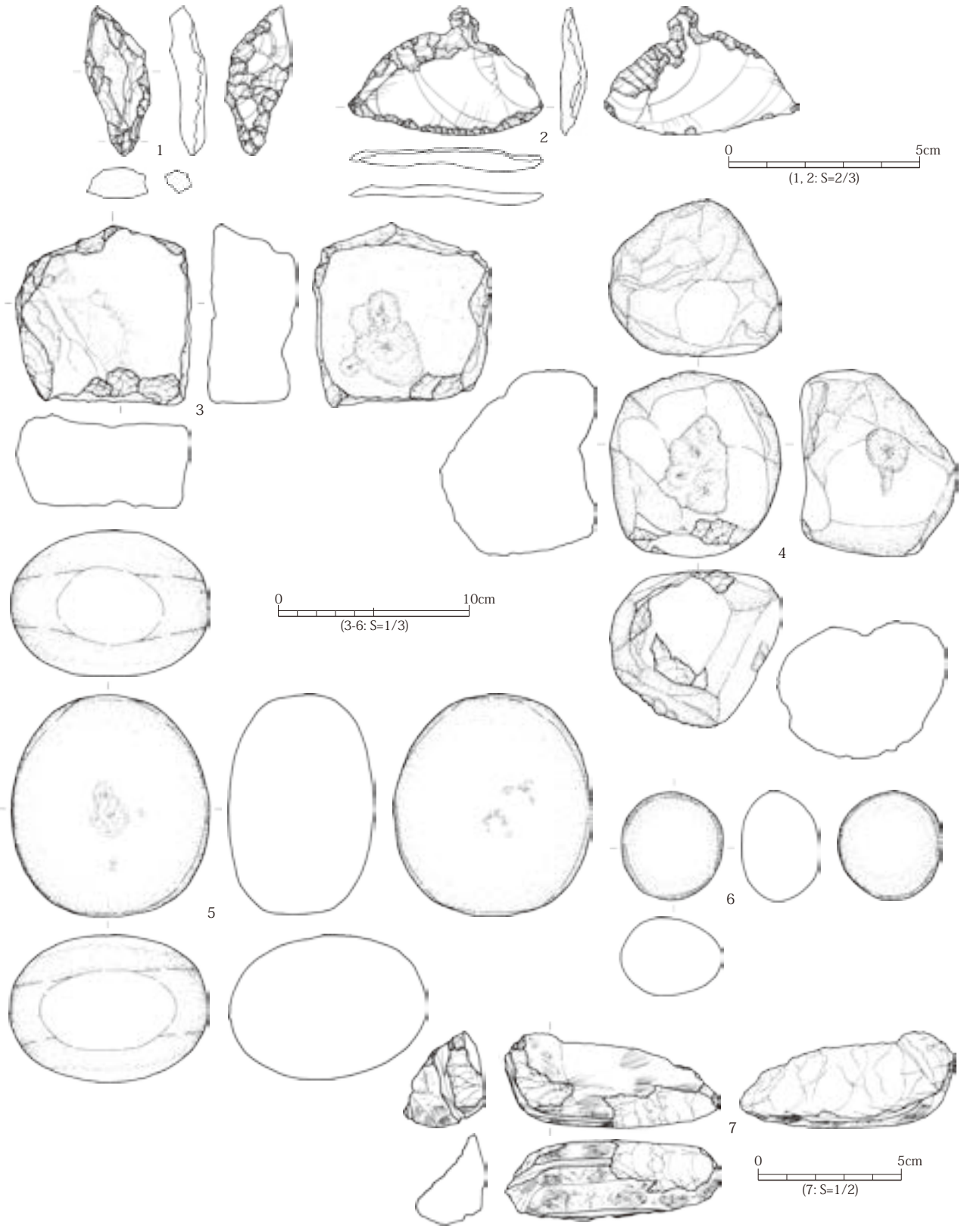
第35図　東C丘陵南斜面遺物包含層　出土土器（5）



No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	円盤状土製品	Aa2	2 層群	F-30 / Ⅵ c	長 24.2mm、幅 23.7mm、厚 5.7mm。円形、平坦、一部研磨成形。縄文 LR	60-1	CO786
2	円盤状土製品	Ac1	2 層群	F-30 / Ⅵ c	長 30.4mm、幅 30.1mm、厚 6.2mm。円形、湾曲、剥離成形。縄文 LR	60-2	CO789
3	円盤状土製品	Aa1	2 層群	F-35 / Ⅵ a	長 32.1mm、幅 30.8mm、厚 6.8mm。円形、平坦、剥離成形。縄文 LR	60-3	CO806
4	円盤状土製品	Aa1	2 層群	F-35 / Ⅵ a	長 32.6mm、幅 30.9mm、厚 9.5mm。円形、平坦、剥離成形。縄文 LR	60-4	CO812
5	円盤状土製品	Aa2	2 層群	F-34 / Ⅵ確認面	長 34.7mm、幅 33.0mm、厚 5.7mm。円形、平坦、一部研磨成形。縄文 LR	60-5	CO798
6	円盤状土製品	Ac2	2 層群	F-29 拡 / Ⅵ c	長 33.4mm、幅 32.2mm、厚 7.4mm。円形、湾曲、一部研磨成形。縄文 LR。摩滅著しい	60-6	CO772
7	円盤状土製品	Ac1	2 層群	F-35 / Ⅵ a	長 37.3mm、幅 37.2mm、厚 6.0mm。円形、湾曲、剥離成形。羽状縄文 LR/RL。摩滅著しい	60-7	CO811
8	円盤状土製品	Aa1	2 層群	F-30 / Ⅵ c	長 37.6mm、幅 34.9mm、厚 6.9mm。円形、平坦、剥離成形。縄文 LR	60-8	CO784
9	円盤状土製品	Aa1	2 層群	F-30 / Ⅵ c	長 38.9mm、幅 38.1mm、厚 6.5mm。円形、平坦、剥離成形。0 段多条縄文 LR	60-9	CO785
10	円盤状土製品	Cc1	2 層群	F-34 / Ⅵ a	長 43.2mm、幅 42.2mm、厚 6.7mm。多角形、湾曲、剥離成形。縄文 RL	60-10	CO795
11	円盤状土製品	Cc1	2 層群	F-35 / Ⅵ a	長 46.9mm、幅 41.8mm、厚 8.5mm。多角形、湾曲、剥離成形。縄文 LR	60-11	CO808
12	円盤状土製品	Ca1	2 層群	F-35 / Ⅵ a	長 41.7mm、幅 36.2mm、厚 7.8mm。多角形、平坦、剥離成形。縄文 RL。摩滅著しい	60-12	CO804
13	円盤状土製品	Ab1	2 層群	F-30 / Ⅵ確認面	長 33.6mm、幅 32.4mm、厚 8.2mm。円形、端部湾曲、剥離成形。無文（底部外面ミガキ）。胎土に海綿骨針を含む、底部破片	60-13	CO793
14	土版	A	2 層群	F-30 / Ⅵ c	長 74.2mm、幅 61.3mm、厚 12.8mm。表面：縦位の沈線文（正中線）の両側に縦位の刺突列、半円形の平行沈線文 2 段の外側を周る刺突列。裏面：縦位の沈線文（正中線）の両側に櫛歯状刻目、半円形の平行沈線文 2 段の外側を周る櫛歯状刻目。二個一対の貫通孔	60-14	CO255
15	耳飾	B1	2 層群	F-30 / Ⅵ c	長 17.4mm、幅 19.3mm、厚 18.8mm。キノコ形。無文、貫通孔 1。表面全体・孔内面赤彩	60-15	CO298
16	円盤状土製品	Aa3	1 層群	F-29 / Ⅵ	長 27.6mm、幅 26.7mm、厚 6.0mm。円形、平坦、全周研磨成形。0 段多条縄文 LR	60-16	CO766
17	円盤状土製品	Ac1	1 層群	F-29 / Ⅵ	長 37.6mm、幅 36.9mm、厚 5.5mm。円形、湾曲、剥離成形。縄文 LR	60-17	CO765
18	円盤状土製品	Aa2	1 層群	F-29 / Ⅵ	長 30.3mm、幅 28mm、厚 7.0mm。円形、平坦、一部研磨成形。無文（外面ミガキ）	60-18	CO770
19	円盤状土製品	Ab1	1 層群	F-29 / Ⅵ	長 48.3mm、幅 47.2mm、厚 6.6mm。円形、端部湾曲、剥離成形。無文（底部外面ケズリ）。底部破片	60-19	CO763
20	土偶上半身	-	1 層群	F-29 / Ⅵ	残存長 46.6mm、残存幅 53.3mm、残存厚 14.0mm。中実。顔：貼瘤（頂部くぼみ）。胸部：縦位の沈線文＋刺突列（正中線）の両側に貼瘤（乳房）。顔から胸部にかけて粘土貼付後に縄文 LR	60-20	CO592
21	円盤状土製品	Aa1	Ⅴ層	F-30 / Ⅴ	長 39.8mm、幅 38.8mm、厚 7.5mm。円形、平坦、剥離成形。平行沈線文、縄文 LR	60-21	CO774

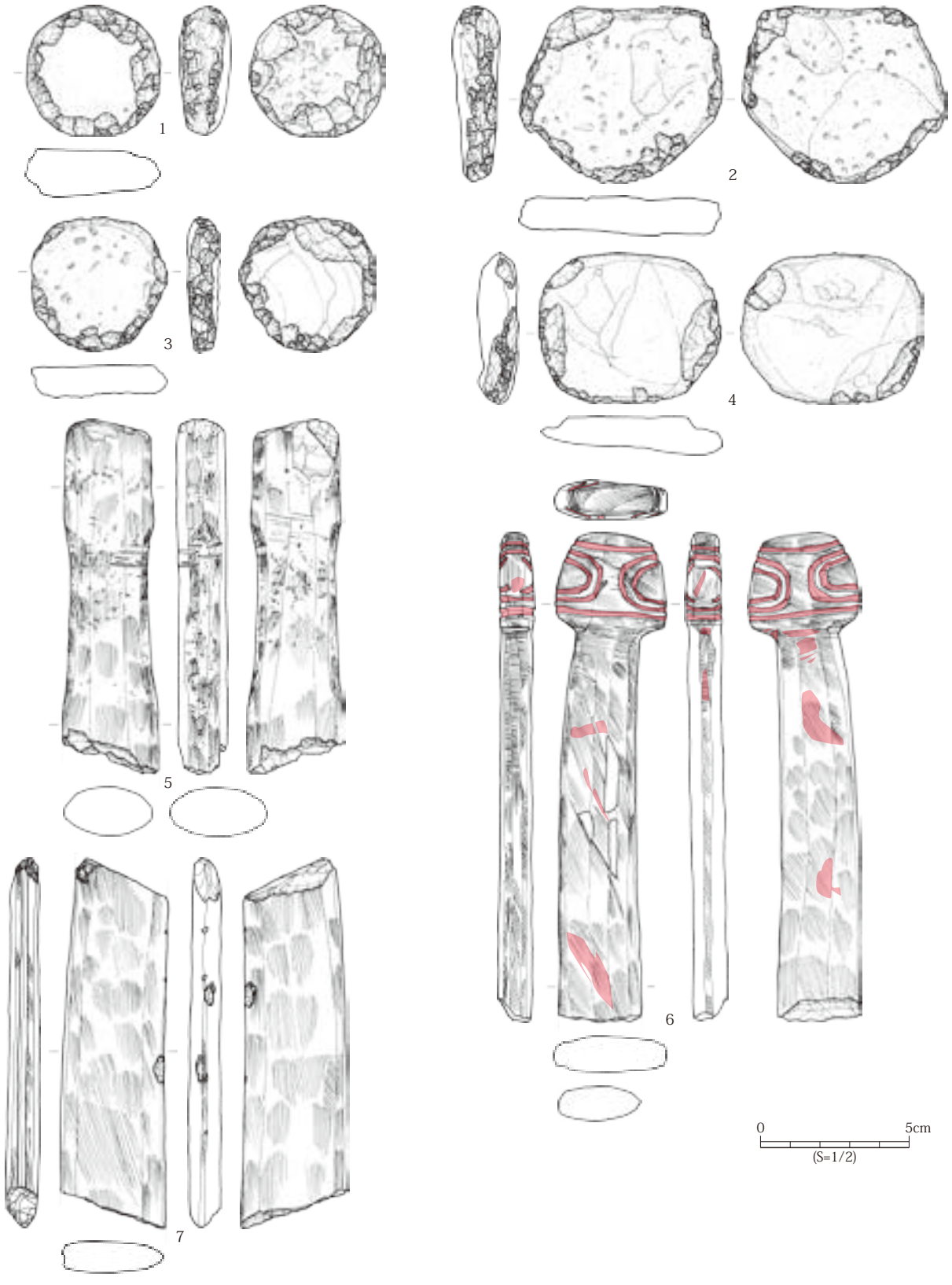
第36図　東C丘陵南斜面遺物包含層　出土土製品

製石斧 2 点、楔形石器 1 点、不定形石器 2 点、石皿 10 点（同図 3）、磨石 18 点（同図 5・6）、凹石 2 点（同図 4）、砥石 1 点、剥片・砕片 39 点、石核 21 点、円盤状石製品 7 点（第 38 図 1 ～ 4）、石冠 1 点（第 37 図 7）、石棒 1 点（第 38 図 5）、石刀 1 点（同図 6・7）、不明石製品 1 点がある。また、石器石材とみられる原石（珪質頁岩 A 類）が 1 点出土した。第 38 図 6 は頭部に沈線による装飾が施され、沈線内や身部には赤色顔料が残ることから、全体を赤く彩色したものとみられる。石材は珪質頁岩（A）が最も多く、ほかに碧玉（B1・B2・C・D）や安山岩質凝灰岩、安山岩、デイサイトが多い。



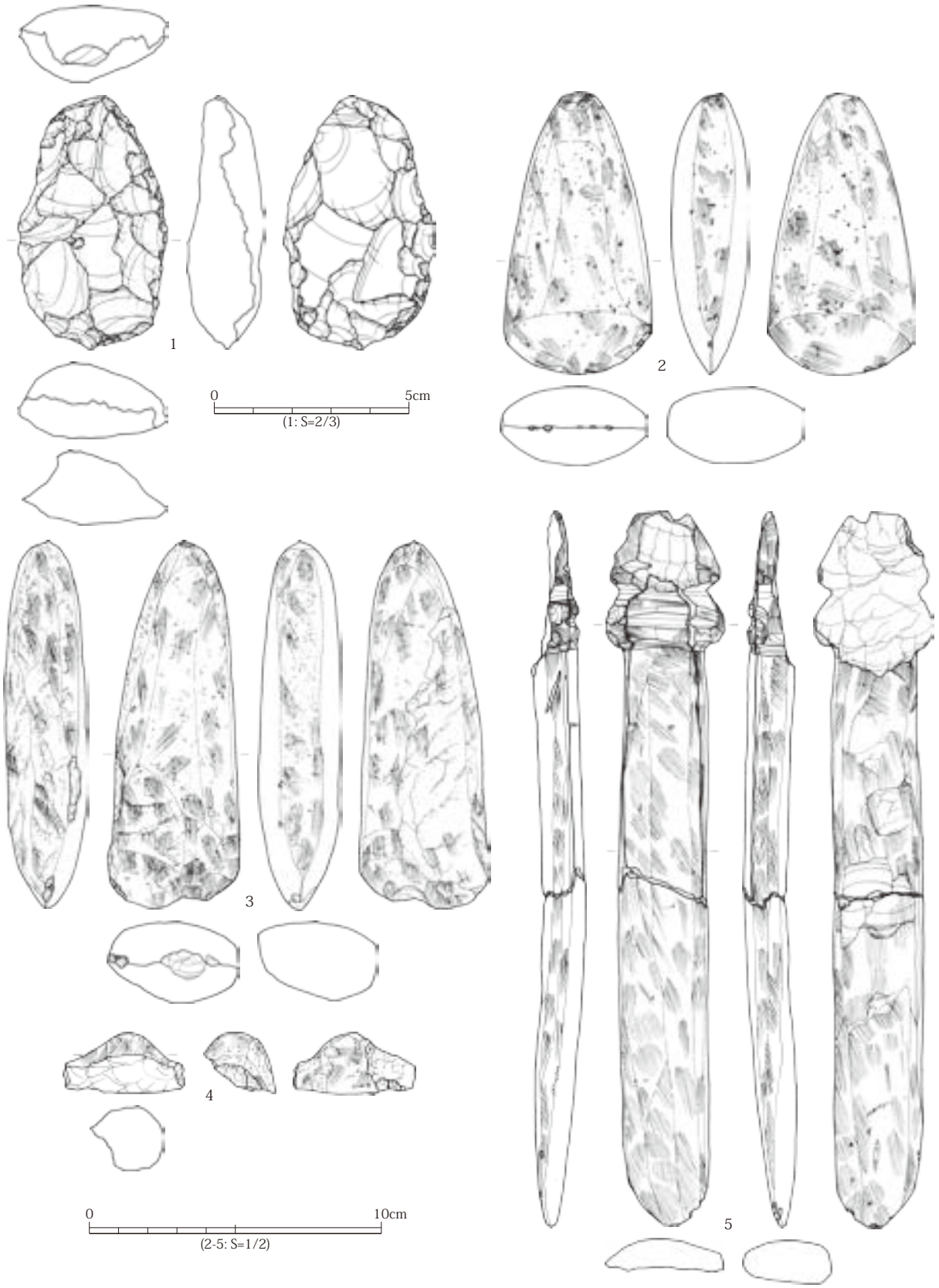
No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	石錐	Ⅱ b2	2 層群	F-29 拡 / Ⅵ c	珪質頁岩 A	38.9	16.3	7.5	4.93	完形	0	0	0	1	0		61-1	S6215
2	石匙	Ⅱ a	2 層群	F-34 / Ⅵ a	珪質頁岩 A	33.5	50.7	4.6	6.29	完形	0	1	0	0	0		61-2	S6327
3	石皿	-	2 層群	F-35 / Ⅵ a	凝灰質砂岩	91.3	90.3	48.8	581.24	破片	0	0	凹痕あり	1	0		61-4	S6358
4	凹石	-	2 層群	F-30 / Ⅵ c	安山岩	96.8	90.2	78.8	870.00	一部欠	0	0	磨石→	1	0		61-6	S6301
5	磨石	-	2 層群	F-29 拡 / Ⅵ c	安山岩	115.8	104.3	76.5	1410.00	完形	0	0	凹石→	1	0		61-5	S6218
6	磨石	-	2 層群	F-35 / Ⅵ a	安山岩	56.7	54.1	40.8	168.60	完形	0	0	0	1	0		61-3	S6341
7	石冠	-	2 層群	F-30 / Ⅵ c	安山岩質凝灰岩	73.9	26.7	28.6	48.04	破片	0	0	0	1	0		61-7	S6266

第37図　東C丘陵南斜面遺物包含層　出土石器・石製品（1）



No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	円盤状石製品	Ⅰb	2 層群	F-35 / Ⅵa	凝灰岩	42.6	44.5	16.8	42.73	完形	0	0	0	1	0		61-11	S6350
2	円盤状石製品	Ⅲ	2 層群	F-35 / Ⅵa	安山岩質凝灰岩	58.9	67.6	15.0	79.57	完形	0	0	0	1	0		61-9	S6357
3	円盤状石製品	Ⅰa	2 層群	F-35 / Ⅵa	安山岩質凝灰岩	44.5	45.5	10.8	30.46	完形	0	0	0	1	0		61-10	S6345
4	円盤状石製品	Ⅱ	2 層群	F-30 / Ⅵc	安山岩質凝灰岩	50.3	60.6	12.6	52.83	完形	0	0	0	1	0		61-8	S6268
5	石棒	-	2 層群	F-34 / Ⅵa	粘板岩	118.4	32.0	16.4	104.88	基部欠	0	0	0	0	0		61-12	S6316
6	石刀	-	2 層群	F-30 / Ⅵc	粘板岩	163.0	37.5	12.0	108.68	基部欠	0	0	0	0	R		61-14	S6227
7	石刀	-	2 層群	F-30 / Ⅵc	粘板岩	123.3	34.0	10.5	72.37	破片	0	0	0	0	0		61-13	S6269

第38図　東C丘陵南斜面遺物包含層　出土石器・石製品（2）



No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	石篦	Ⅰb	1層群	F-29 / Ⅵ	珪質頁岩 A	64.5	38.5	19.8	43.81	完形	0	0	0	0	0		62-1	S6176
2	磨製石斧	Ⅰa1	1層群	F-29 / Ⅵ	凝灰質泥岩	95.3	49.7	26.9	181.96	完形	0	0	0	0	0		62-3	S6198
3	磨製石斧	Ⅰa1	1層群	F-29 / Ⅵ	凝灰質泥岩	125.5	43.8	26.0	215.08	完形	0	0	刃部再加工	0	0		62-2	S6199
4	独鈷石	-	1層群	F-29 / Ⅵb	安山岩質凝灰岩	22.9	42.7	21.8	14.75	破片	0	0	0	0	0		62-4	S6908
5	石棒	-	Ⅴ	F-29 / Ⅴ	粘板岩	246.0	40.2	15.6	175.11	一部欠	0	0	0	0	0	後世の破損	62-5	S6160

第39図　東C丘陵南斜面遺物包含層　出土石器・石製品（3）

1層群からは50点出土し、尖頭器1点、石篦1点（第39図1）、磨製石斧5点（同図2・3）、不定形石器2点、石皿2点、磨石6点、剥片・砕片24点、石核8点、独鈷石1点（同図4）がある。石材は珪質頁岩（A）と碧玉（A・B1・C）が特に多く、ほかに珪質凝灰岩（A・B）や凝灰岩、玉髄などが見られる。

また、遺物包含層より上位のⅤ層からは、頭部に装飾が施された石棒（第39図5）が出土している。

第２節　東Ｃ・Ｄ丘陵間の小丘陵（F-23 区北・Ａ～Ｇグリッド・東）

北小松遺跡が立地する丘陵から西に樹枝状に延びる丘陵のうち、北から３番目に当たる東Ｃ丘陵と、北から４番目に当たる東Ｄ丘陵に囲まれた湾奥部は、現況では水田が営まれており、低地部と同様に平坦な地形となっている。発掘調査ではこの水田部で洪水堆積層を検出し、さらにその下位では、小丘陵が南西に延び、その周囲にⅥ層が微高地状に広がる状況を確認した。小丘陵の頂部および微高地上では、掘立柱建物跡や埋葬犬骨などの遺構を検出し、丘陵裾部では遺物包含層を検出している。前章でも述べたように、東Ｃ丘陵基部の南斜面（第１節）および東Ｄ丘陵基部の北斜面（第３節）にも遺物包含層が広がるが、この小丘陵の南北は沢状の地形によりそれぞれの丘陵と隔てられていることから、遺物包含層も同様にそれぞれ区分して捉えることとした。したがって、本節では小丘陵およびその周囲で検出した遺構・遺物に限定して述べる。

1. 遺構

検出した遺構には、掘立柱建物跡43棟（建て替えを含む）、石斧集積遺構１基、埋葬犬骨５基、溝跡１条、土坑９基、焼け面１箇所、焼土集積２箇所の他に、ピット（柱穴や小穴）が多数ある（第 40 図）。

（1）掘立柱建物跡

F-23 区北、F-23 区Ａ・Ｂグリッド、F-23 区東で多数の柱穴を検出し、43 棟の掘立柱建物跡を確認した（第 42・43 図）。柱穴は丘陵端部から微高地上で多く検出しており、その分布状況から調査区外（北東および南西）にも広がるものとみられる。それぞれの建物跡の柱穴の組み合わせは、柱穴の位置、規模、重複関係、埋土の特徴などを考慮して行った。本遺跡における過去の調査事例（宮城県教育委員会　2014）から、これらの建物跡は４本の柱で構成されるものが多いとみられるが、調査範囲が限定されているため、確定的なものではない。なお、個別の建物跡の諸属性については第７表にまとめている。

【SB153 建物跡】（第 44 図）

［位置］F-23 区北（第 42 図）

［検出面］Ⅸ層

［重複］SB154・155・156・157 建物跡および SD124 溝跡と重複し、SB156 建物跡より新しく、SD124 溝跡よりも古い。

［構造・規模］４本の柱で構成され、南北に長い平面長方形を呈する建物跡である。東側柱列で約 3.6m、北側柱列で 2.5m ある。

［方向］東側柱列で見ると、北で 26° 東に偏する。

［柱穴］３箇所で確認した。直径 59 ～ 68cm の円形を呈する。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒色の粘土質シルト～シルトや黒褐色の粘土～粘土質シルトである。柱痕跡を２箇所、柱抜取穴を１箇所で確認した。柱痕跡は直径 22 ～ 31cm の円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器深鉢・鉢・浅鉢、土偶頭部、円盤状土製品が出土している（第 46 図）。

【SB154 建物跡】（第 44・45 図）

［位置］F-23 区北（第 42 図）

［検出面］Ⅸ層

［重複］SB153・155・156・157・158・159 建物跡および SD124 溝跡と重複し、SD124 溝跡よりも古い。

［構造・規模］4 本の柱で構成され、南北に長い平面長方形を呈する建物跡である。東側柱列で約 4.0m、南側柱列で約 2.9m ある。

［方向］東側柱列で見ると、北で 11° 西に偏する。

［柱穴］4 箇所で確認した。直径 47 ～ 79cm の円形や楕円形を呈し、残存する深さが 49cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒色や黒褐色の粘土～シルト質粘土である。柱痕跡を 2 箇所、柱抜取穴を 1 箇所で確認した。柱痕跡は直径 27 ～ 29cm の円形や楕円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器深鉢が出土している（第 46 図）。

【SB155 建物跡】（第 44・45 図）

［位置］F-23 区北（第 42 図）

［検出面］Ⅸ層

［重複］SB153・154・156・157・158・159 建物跡および SD124 溝跡と重複し、SB156 建物跡より新しく、SD124 溝跡よりも古い。

［構造・規模］4 本の柱で構成され、南北に長い平面長方形を呈する建物跡である。東側柱列で約 4.2m、北側柱列で約 2.8m ある。

［方向］東側柱列で見ると、北で 10° 西に偏する。

［柱穴］3 箇所で確認した。直径 65 ～ 72cm の円形や楕円形を呈し、残存する深さが 33 ～ 67cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを多く含む黒色シルトや暗オリーブ灰色砂質シルト（Ⅸ層起源）である。柱痕跡を 1 箇所、柱抜取穴を 2 箇所で確認した。柱痕跡（P1）は直径 38cm の円形を呈し、柱材が残存していた。この柱材について放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、^{14}C 年代が 2,640±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 817 ～ 798calBC となり、縄文時代晩期中葉（大洞 C2 式新段階）に当たる年代値（小林　2019）が得られた（分析編第 2 章）。

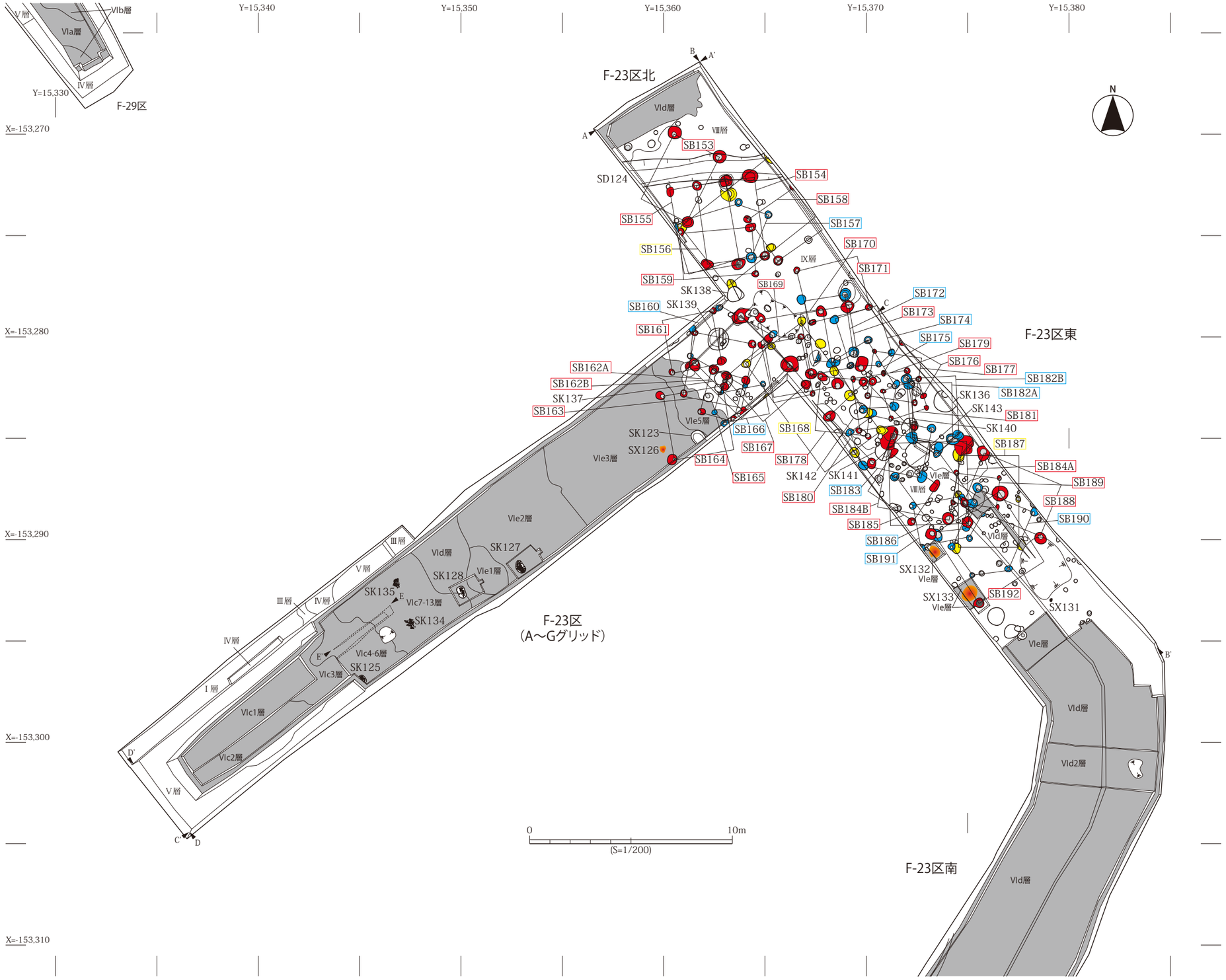
［出土遺物］縄文土器深鉢・鉢・浅鉢、円盤状土製品、動物遺存体、種実（オニグルミ）が出土している（第 46 図）。

【SB156 建物跡】（第 44・45 図）

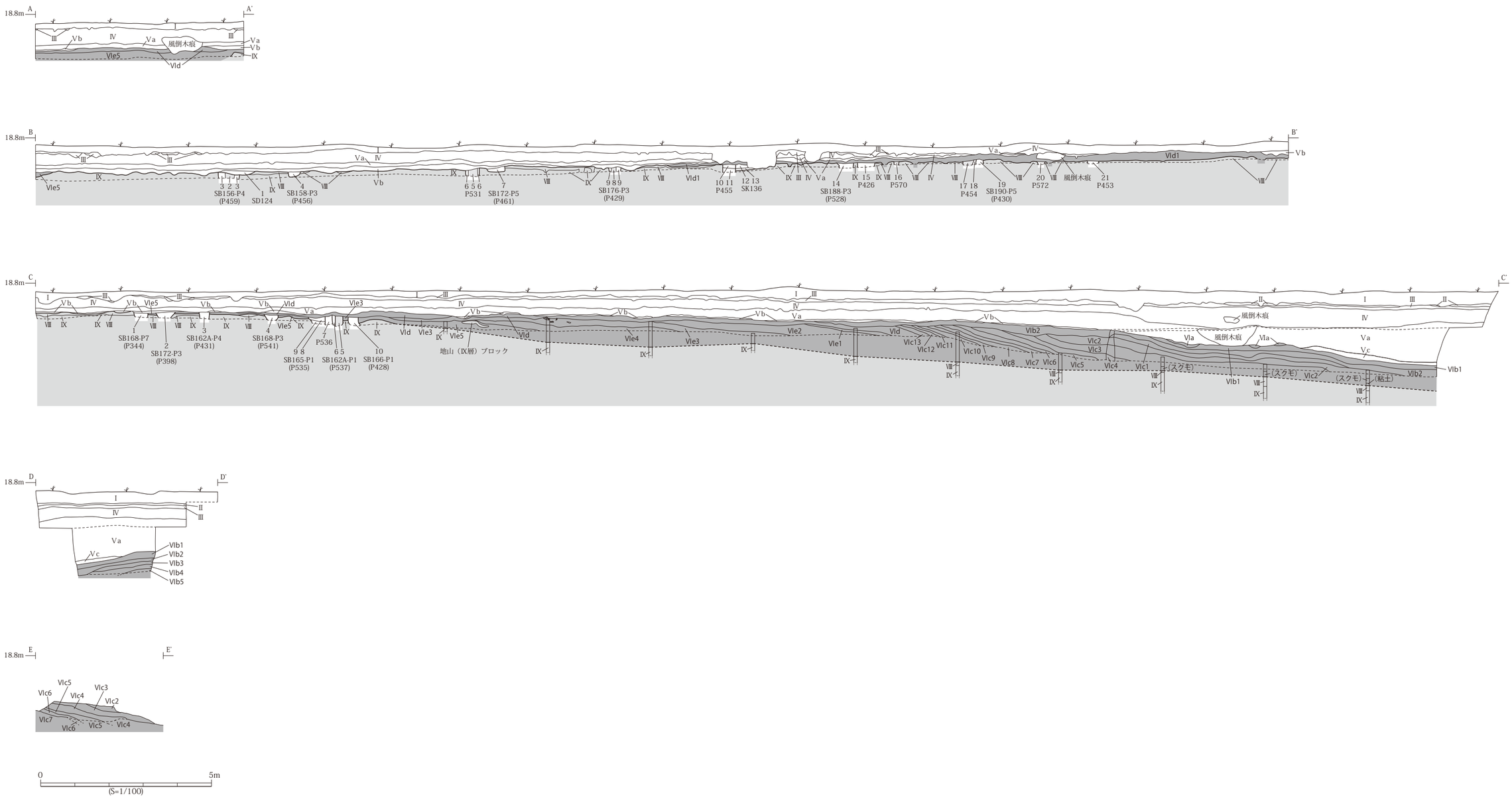
［位置］F-23 区北（第 42 図）

［検出面］Ⅸ層

［重複］SB153・154・155・157・158・159 建物跡、SK138 土坑と重複し、SB153・155・157・159 建



第40図　F-23区　平面図



第41図　F-23区　断面図

第6表　F-23区北・A～Gグリッド・東　土層観察表

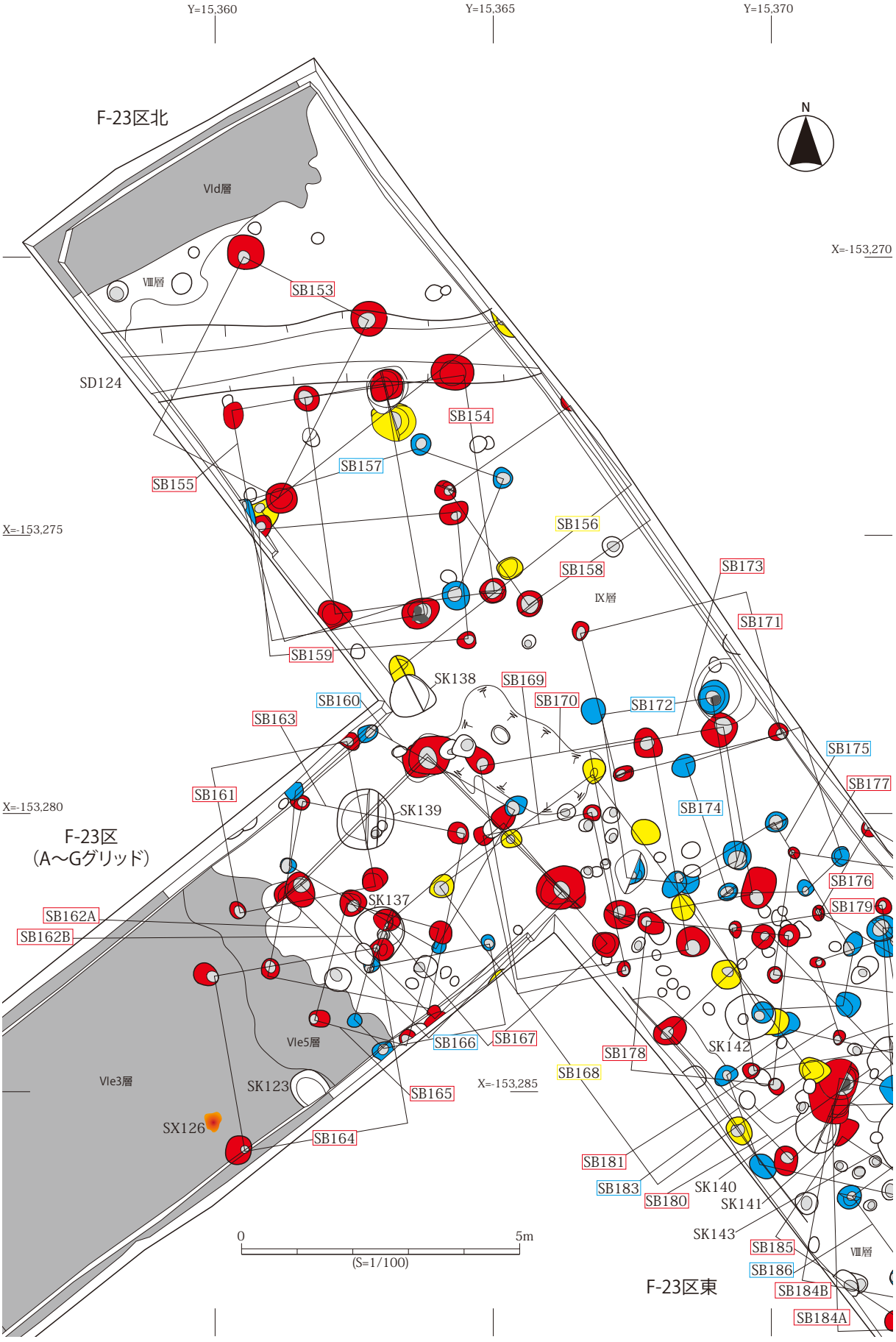
調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　　徴
F-23 区 Aa ～ Gb グリッド	A-A' C-C' D-D' E-E'	Ⅴa	オリーブ灰色（5GY5/1）	粘土	最上部にスクモ中量、一部で砂中量（ラミナ状）、植物少量
		Ⅴb	暗オリーブ灰色（5GY4/1）	粘土	
		Ⅴc	暗褐色（10YR3/3）	粘土	スクモ多量
		Ⅵa	黒色（10YR2/1）	砂まじり粘土	
		Ⅵb1	黒褐色（10YR2/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒・炭化物粒少量、スクモ多量
		Ⅵb2	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）砂～粒少量、スクモ・炭化物粒多量
		Ⅵc1	黒褐色（10YR3/1）	シルト質粘土	Ⅸ～Ⅹ層起源の粘土小ブロック多量（層状）、地山（Ⅸ層）砂～粒多量、炭化物粒少量
		Ⅵc2	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒・炭化物粒少量、スクモ多量
		Ⅵc3	黒褐色（10YR2/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒～中ブロック・炭化物粒少量、スクモ多量
		Ⅵc4	黒褐色（10YR3/2）	シルト質粘土	Ⅸ～Ⅹ層起源の粘土大ブロック中量（ラミナ状）、地山（Ⅸ層）砂～大ブロック・炭化物粒多量
		Ⅵc5	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック中量、スクモ・炭化物粒～中ブロック多量
		Ⅵc6	黒褐色（10YR3/1）	シルト質粘土	Ⅸ～Ⅹ層起源の粘土大ブロック中量（ラミナ状）、地山（Ⅸ層）砂～粒多量
		Ⅵc7	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒～小ブロック少量、スクモ・炭化物粒～大ブロック多量
		Ⅵc8	黒褐色（10YR3/2）	シルト質粘土	スクモ・炭化物粒少量
		Ⅵc9	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	スクモ・炭化物粒多量
		Ⅵc10	黒褐色（10YR3/1）	シルト質粘土	スクモ少量
		Ⅵc11	黒褐色（10YR2/2）	粘土質シルト	スクモ多量
		Ⅵc12	黒褐色（10YR3/2）	シルト質粘土	
		Ⅵc13	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	スクモ・炭化物粒多量
		Ⅵd	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒・炭化物粒少量、スクモ多量
		Ⅵe1	黒褐色（10YR2/2）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）大ブロック多量
		Ⅵe2	黒色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒～小ブロックやや多量、炭化物粒多量
		Ⅵe3	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒・炭化物粒やや多量
		Ⅵe4	黒褐色（10YR3/2）	シルト	地山（Ⅸ層）粒わずか
		Ⅵe5	黒褐色（10YR2/2）	砂質シルト	地山（Ⅸ層）粒少量、炭化物粒わずか
SB168-P7 (P344)		1	黒褐色（10YR3/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）小～大ブロック多量 【掘方埋土】
SB172-P3 (P398)		2	黒色（2.5Y2/2）	粘土	地山（Ⅸ層）小～大ブロック多量、炭化物粒・焼土粒少量 【柱抜取穴】
SB162A-P4 (P431)		3	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小～中ブロック多量 【掘方埋土】
SB168-P3 (P541)		4	黒褐色（10YR2/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒わずか、スクモ少量 【掘方埋土】
SB162A-P1 (P537)		5	黒褐色（10YR2/2）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）粒～小ブロック少量 【柱抜取穴】
		6	黒褐色（10YR3/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）中ブロック多量 【掘方埋土】
P536		7	黒褐色（10YR3/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）中ブロック多量 【掘方埋土】
SB165-P1 (P535)		8	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）粒少量 【柱痕跡】
		9	黒褐色（10YR3/2）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）ブロック主体 【掘方埋土】
SB166-P1 (P428)		10	黒褐色（10YR3/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）小ブロック少量、炭化物粒わずか 【掘方埋土】
F-23 区北 F-23 区 Aa グリッド F-23 区東	B-B'	Ⅴa	オリーブ灰色（5GY5/1）	粘土	最上部にスクモ中量、一部で砂中量（ラミナ状）、植物少量
		Ⅴb	暗オリーブ灰色（5GY4/1）	粘土	
		Ⅵd1	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒やや多量
		Ⅵe5	黒褐色（10YR2/2）	砂質シルト	地山（Ⅸ層）粒少量、炭化物粒わずか
SD124		1	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒少量、砂多量、炭化物粒やや多量 【堆積土】
SB156-P4 (P459)		2	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロックわずか、炭化物粒少量 【柱痕跡】
		3	褐灰色（10YR4/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）大ブロック多量 【掘方埋土】
SB158-P3 (P456)		4	黒褐色（10YR3/2）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）ブロック多量、炭化物粒やや多量 【掘方埋土】
P531		5	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒・炭化物粒少量 【柱痕跡】
		6	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小～中ブロック多量。炭化物粒少量 【掘方埋土】
SB172-P5 (P461)		7	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒～中ブロックやや多量、炭化物粒わずか 【掘方埋土】
SB176-P3 (P429)		8	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒・炭化物粒少量 【柱痕跡】
		9	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒～小ブロック・炭化物粒少量 【掘方埋土】
P455		10	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒・炭化物粒少量 【掘方埋土】
		11	褐灰色（10YR4/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）中ブロック多量 【掘方埋土】
SK136		12	褐灰色（10YR4/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック多量、炭化物粒少量 【堆積土】
		13	褐灰色（10YR4/3）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）ブロック主体 【堆積土】
SB188-P3 (P528)		14	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック多量、炭化物粒少量 【掘方埋土】
P426		15	黒色（10YR2/1）	シルト	地山（Ⅸ層）粒やや多量、炭化物粒少量 【掘方埋土】
P570		16	黒色（10YR2/1）	シルト	炭化物粒・焼土粒中量 【掘方埋土】
P454		17	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒やや多量、植物・炭化物粒少量 【柱痕跡】
		18	黒褐色（10YR3/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）中～大ブロック多量 【掘方埋土】
SB190-P5 (P430)		19	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック・炭化物粒少量 【掘方埋土】
P572		20	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）粒わずか 【掘方埋土】
P453		21	黒色（10YR2/1）	シルト	地山（Ⅸ層）粒・炭化物粒わずか 【掘方埋土】

物跡と SK137 土坑よりも古い。

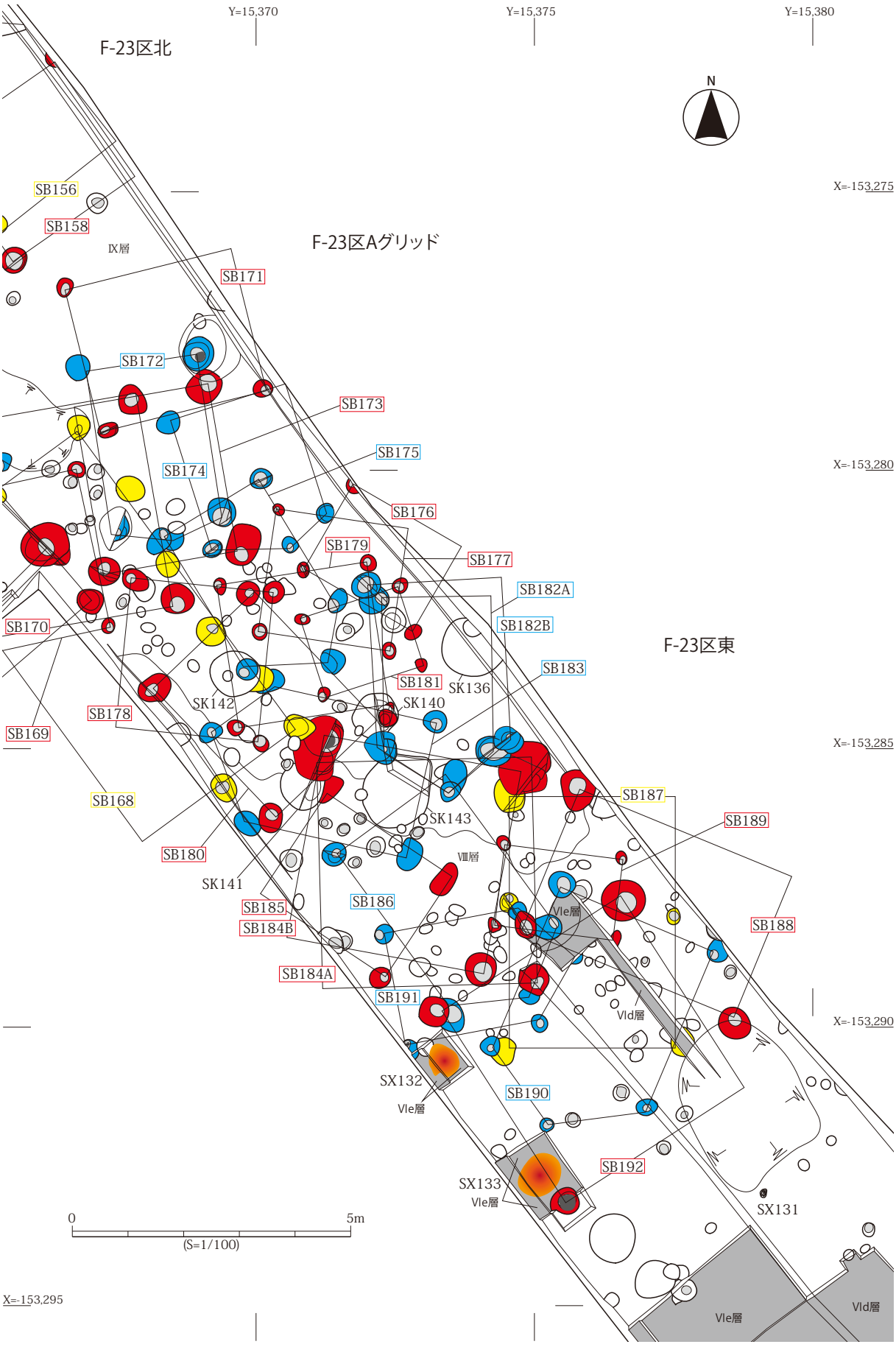
［構造・規模］6 本以上の柱で構成され、桁行 2 間以上、梁行 1 間の東西に長い平面長方形を呈する建物跡である。桁行は北側柱列で総長 5.5m 以上あり、梁行は西側柱列で約 3.8m ある。桁行の柱間寸法は東から 2.7m、2.9m である。

［方向］北側柱列で見ると、東で 38° 北に偏する。

［柱穴］5 箇所で確認した。直径 48 ～ 82cm の円形や楕円形を呈し、残存する深さが 14 ～ 64cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒褐色や褐灰色の粘土～シルトである。柱痕跡を 3 箇所、柱抜



第42図　東C・D丘陵間　掘立柱建物跡　平面図（1）



第43図　東C・D丘陵間　掘立柱建物跡　平面図（2）（1/100）

取穴を 2 箇所で確認した。柱痕跡は直径 29 ～ 34cm の円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器深鉢・鉢、磨石が出土している（第 46 図）。

【SB157 建物跡】（第 44 図）

［位置］F-23 区北（第 42 図）

［検出面］Ⅸ層

［重複］SB153・154・155・156・158・159 建物跡と重複し、SB156・159 建物跡より新しい。

［構造･規模］5 本の柱で構成され､東が張り出す平面五角形を呈する建物跡である。北側柱列で 3.4m、東側柱列で 2.8m、張出部の長さが 1.3m ある。

［方向］北側柱列で見ると、東で 19° 北に偏する。

［柱穴］4 箇所で確認した。直径 38 ～ 54cm の円形や楕円形を呈する。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒色や黒褐色の粘土～シルトである。柱痕跡をすべてで確認した。柱痕跡は直径 19 ～ 27cm の円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器深鉢・鉢、楔形石器、剥片、動物遺存体が出土している（第 46 図）。

【SB158 建物跡】（第 44・45 図）

［位置］F-23 区北・Aa グリッド（第 42 図）

［検出面］Ⅷ層

［重複］SB154・155・156・157・159 建物跡と重複するが、これらとの新旧関係は不明である。

［構造・規模］4 本の柱で構成され、平面正方形を呈する建物跡である。北側柱列で約 2.7m、西側柱列で 2.5m ある。

［方向］北側柱列で見ると、東で 36° 北に偏する。

［柱穴］3 箇所で確認した。直径 39 ～ 49cm の円形や楕円形を呈し､残存する深さが 32 ～ 58cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを多く含む黒褐色粘土～シルトである。柱痕跡を 2 箇所で確認した。柱痕跡は直径 19 ～ 32cm の円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器深鉢・鉢、磨石、剥片が出土している（第 46 図）。

【SB159 建物跡】（第 44 図）

［位置］F-23 区北（第 42 図）

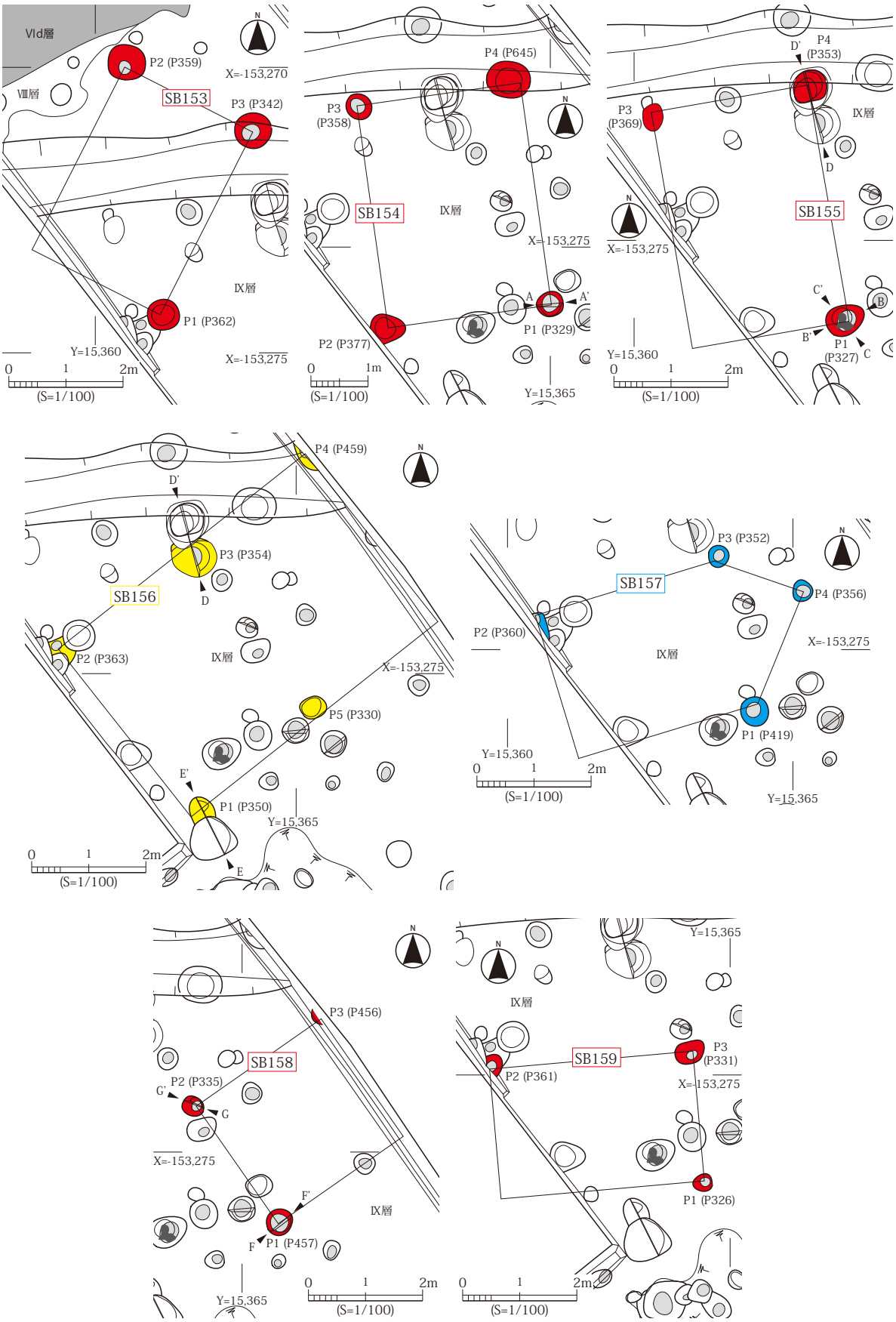
［検出面］Ⅸ層

［重複］SB154･155･156･157･158 建物跡と重複し､SB156 建物跡より新しく､SB157 建物跡よりも古い。

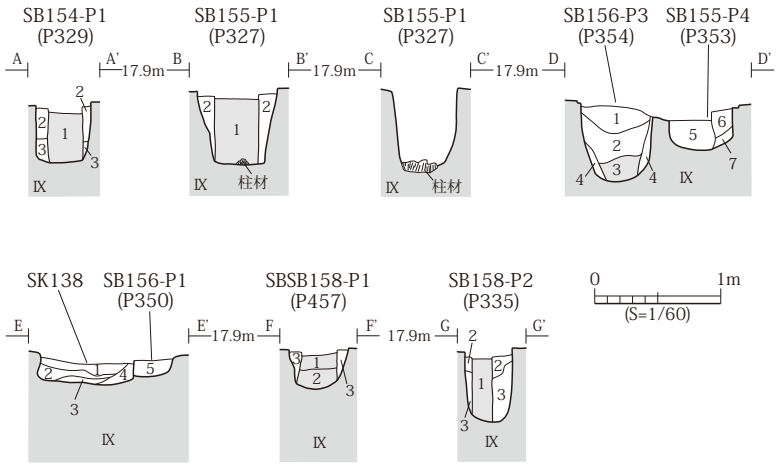
［構造・規模］4 本の柱で構成され、東西に長い平面長方形を呈する建物跡である。北側柱列で 3.5m、東側柱列で 2.3m ある。

［方向］北側柱列で見ると、東で 3° 北に偏する。

［柱穴］3 箇所で確認した。直径 34 ～ 54cm の円形や楕円形を呈する。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロッ



第44図　SB153・154・155・156・157・158・159建物跡　平面図



調査区 / 遺構	層序		土色	土性	特徴
SB154-P1（P329）	A-A'	1	黒色（10YR2/1）	粘土	炭化物粒少量、焼土粒中量 【柱痕跡】
		2	緑灰色（7.5GY5/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック少量 【掘方埋土】
		3	黒褐色（2.5Y3/1）	粘土	【掘方埋土】
SB155-P1（P327）	B-B' C-C'	1	黒色（10YR1.7/1）	シルト	地山（Ⅸ層）小ブロックわずか、炭化物粒少量 【柱痕跡】
		2	暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）	砂質シルト	【掘方埋土】
SB156-P3（P354）	D-D'	1	黒色（10YR2/1）	粘土	地山（Ⅸ層）中ブロック多量、炭化物粒少量、焼土粒わずか 【柱抜取穴】
		2	黒褐色（2.5Y3/1）	粘土	地山（Ⅸ層）ブロック主体 【柱抜取穴】
		3	黒色（10YR1.7/1）	粘土	【柱痕跡】
		4	黒褐色（10YR3/1）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック多量 【掘方埋土】
SB155-P4(P353)		5	黒色（5Y2/1）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック・スクモ多量 【柱抜取穴】
		6	黒色（2.5Y2/1）	シルト	地山（Ⅸ層）大ブロック多量 【掘方埋土】
		7	黒色（10YR2/1）	シルト	【掘方埋土】
SK138	E-E'	1	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒～小ブロック少量、炭化物粒・焼土粒多量 【堆積土】
		2	黒褐色（10YR2/2）	シルト	地山（Ⅸ層）粒・炭化物粒わずか 【堆積土】
		3	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小～中ブロック中量 【堆積土】
		4	黒褐色（10YR2/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒～中ブロック多量 【堆積土】
SB156-P1（P350）		5	黒褐色（10YR2/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒～小ブロック中量、炭化物粒多量、焼土粒少量 【掘方埋土】
SB158-P1（P457）	F-F'	1	黒褐色（7.5YR3/1）	シルト	地山（Ⅸ層）粒少量、炭化物粒・焼土粒多量 【柱痕跡】
		2	黒色（2.5Y2/1）	シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック・炭化物粒少量 【柱痕跡】
		3	黒褐色（2.5Y3/1）	粘土	地山（Ⅸ層）大ブロック主体 【掘方埋土】
SB158-P2（P335）	G-G'	1	黒色（10YR1.7/1）	シルト	炭化物粒少量 【柱痕跡】
		2	黒褐色（10YR2/2）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック・焼土粒中量、炭化物粒少量 【掘方埋土】
		3	黒褐色（10YR2/2）	シルト	地山（Ⅸ層）大ブロック主体 【掘方埋土】

第45図　SB154・155・156・158建物跡、SK138土坑　断面図

クを含む黒色や黒褐色の粘土～シルト質粘土である。柱痕跡をすべてで確認した。柱痕跡は直径 15 ～ 19cm の円形や楕円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器、砕片が出土している。

【SB160 建物跡】（第 47 図）

［位置］F-23 区 Ab ～ Ba グリッド（第 42 図）

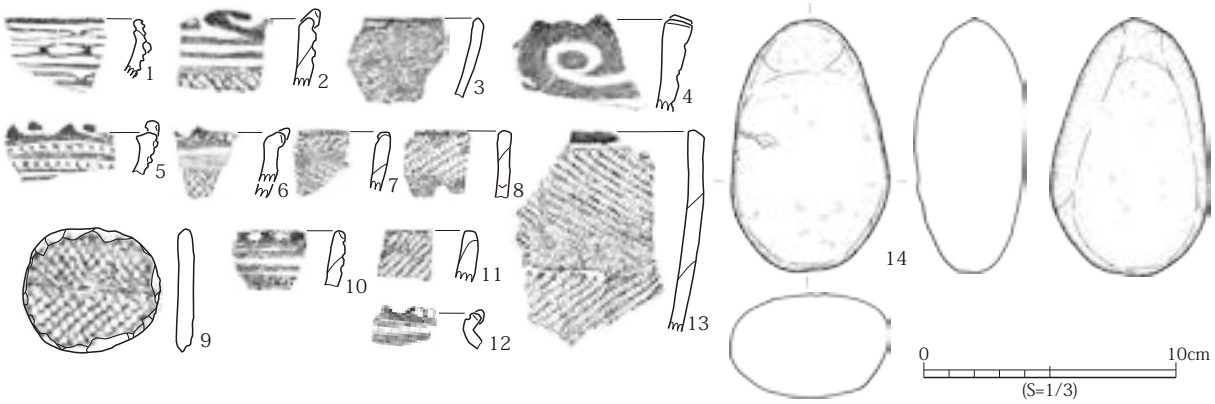
［検出面］Ⅸ層

［重複］SB161・162A・162B・163・165・166・167・168・169・170 建物跡、SK139 土坑と重複し、SB163・167・169 建物跡より新しく、SB165 建物跡よりも古い。

［構造･規模］5 本の柱で構成され､西が張り出す平面五角形を呈する建物跡である。北側柱列で 2.9m、西側柱列で 2.9m、張出部の長さが約 0.6m ある。

［方向］北側柱列で見ると、東で 29° 南に偏する。

［柱穴］5 箇所で確認した。直径 28 ～ 44cm の円形や楕円形を呈する。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロッ



No.	器　種	類型 1	類型 2	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	鉢	A1	Ⅷ + Ⅸ a	F-23 北・SB153-P3 (P342) / 柱痕跡	平縁。π字文（上向）、メガネ状浮文、平行沈線文。口唇部沈線	63-1	Po2612
2	深鉢	A1df	ⅩⅡ x	F-23 北・SB153-P2 (P359) / 柱痕跡	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。羊歯状の浮線文、平行沈線文。縄文 RL	63-2	Po2619
3	浅鉢	A1	ⅩⅤ	F-23 北・SB153-P2 (P359) / 堆積土	平縁	63-3	Po2618
4	深鉢	-	Ⅲ c	F-23 北・SB154-P2 (P377) / 堆積土	方形突起（頂部刻み）。入組三叉文	63-4	Po2621
5	浅鉢	A1cf	Ⅴ	F-23 北・SB155-P4 (P353) / 柱痕跡	平縁。二個一対の小突起 + 弧状の短沈線文 + 口唇部沈線。列点文 2 段	63-5	Po2614
6	鉢	B1cdf	ⅩⅣ b1	F-23 北・SB155-P1 (P327) / 柱痕跡	平縁。二個一対の山形突起 + ヘラ刻目 + 口唇部沈線。縄文 LR	63-6	Po2608
7	深鉢	A1	ⅩⅣ a2	F-23 北・SB155-P3 (P354) / 抜取穴	平縁。羽状縄文 LR/RL	63-7	Po2617
8	深鉢	A1	ⅩⅣ a1	F-23 北・SB156-P5 (P330) / 柱痕跡	平縁。縄文 LR。補修孔 1	63-8	Po2609
10	鉢	A1d	ⅩⅡ x	F-23 北・SB157-P2 (P360) / 掘方埋土	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文	63-10	Po2620
11	深鉢	A1	ⅩⅣ a1	F-23 北・SB157-P1 (P419) / 掘方埋土	平縁。縄文 LR	63-11	Po2622
12	鉢	B1df	ⅩⅢ	F-23 北・SB158-P2 (P335) / 柱痕跡	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。口唇部沈線	63-12	Po2611
13	深鉢	A1	ⅩⅣ a2	F-23 北・SB158-P2 (P335) / 柱痕跡	平縁。羽状縄文 RL/LR	63-13	Po2610

No.	器　種	類型	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
9	円盤状土製品	Ba1	F-23 北・SB155-P3 (P369) / 堆積土	長 53.2mm、幅 47.6mm、厚 8.1mm。楕円形、平坦、剥離成形。羽状縄文 RL/LR	63-9	CO450

No.	器種	類型	区・遺構 / 層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
14	磨石	-	F-23 北・SB158-P2（P335）/ 柱痕跡	安山岩	101.4	63.0	42.4	331.54	完形	0	0	0	1	0		63-14	S6055

第46図　SB153・154・155・156・157・158建物跡　出土土器・土製品・石器

クを含む黒褐色粘土～シルトである。柱痕跡を 3 箇所で確認した。柱痕跡は直径 25 ～ 27cm の円形や楕円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器深鉢が出土している。

【SB161 建物跡】（第 47 図）

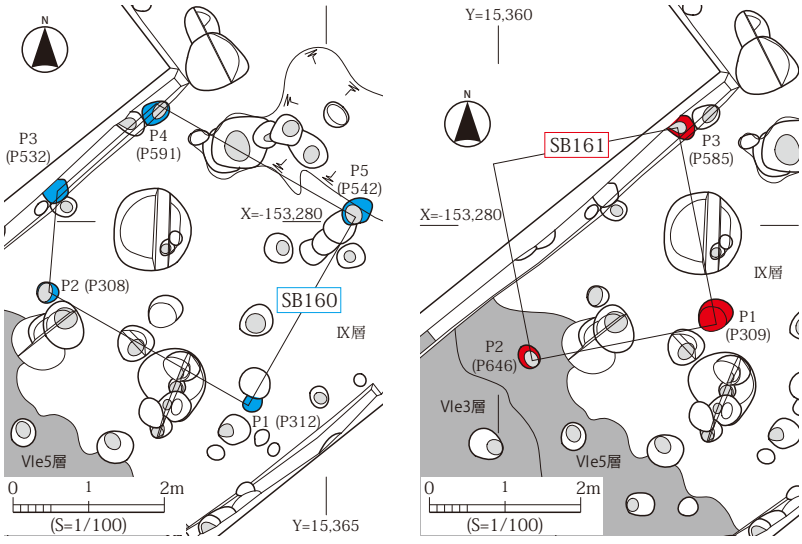
［位置］F-23 区 Ba ～ Bb グリッド（第 42 図）

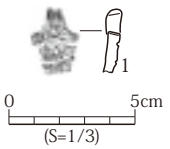
［検出面］Ⅵ e5 層

［重複］SB160・162A・162B・163・165 建物跡、SK139 土坑と重複する。これらとの新旧関係は不明である。

［構造・規模］4 本の柱で構成され、平面正方形を呈する建物跡である。東側柱列で約 2.6m、南側柱列で約 2.4m ある。

［方向］東側柱列で見ると、北で 11° 西に偏する。





No.	器種	類型 1	類型 2	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	袖珍土器深鉢	A1e	Ⅶ b?	F-23Ba・SB161-P1 (P309) / 堆積土	平縁。方形突起（頂部刻み）。雲形文（沈線表現）か	63-15	Po2591

第47図　SB160・161建物跡　平面図、出土土器

［柱穴］3 箇所で確認した。直径 32 ～ 49cm の円形や楕円形を呈する。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒色や黒褐色の粘土～シルトである。柱痕跡を 2 箇所、柱抜取穴を 1 箇所で確認した。柱痕跡は直径 22cm の円形や楕円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器深鉢・袖珍土器深鉢、石核が出土している（第 47 図）。

【SB162A・B 建物跡】（第 48 図）

［位置］F-23 区 Ab ～ Bb グリッド（第 42 図）

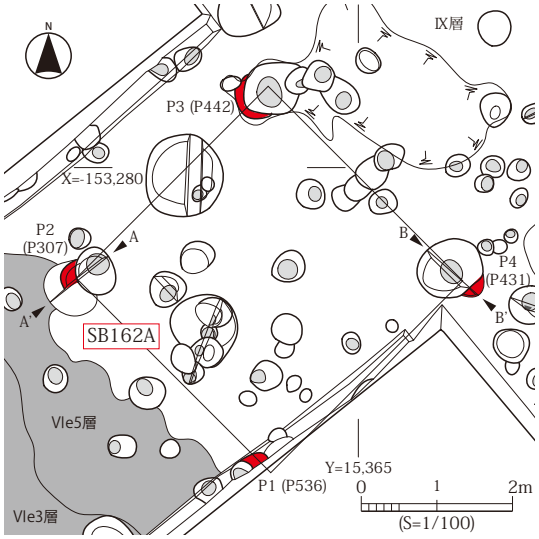
［検出面］Ⅵ e5 層

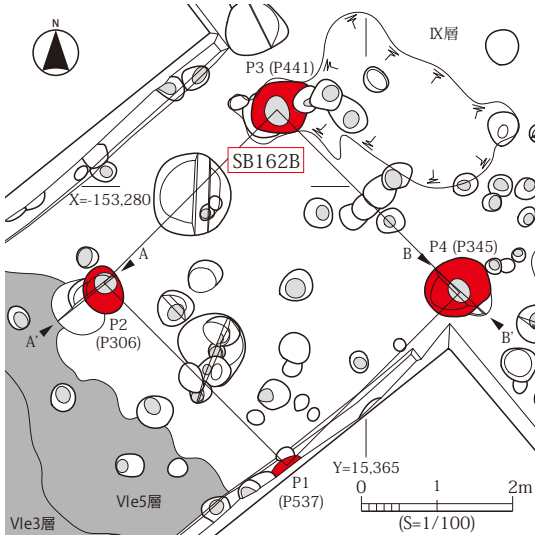
［重複］建て替えが一度認められる（A → B）。SB160・161・163・164・165・166・167・168・169・170 建物跡、SK137・139 土坑と重複し、SB163 建物跡より新しく、SB165 建物跡よりも古い。

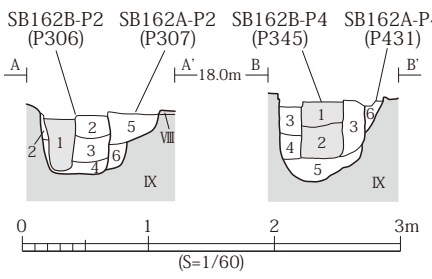
［構造・規模］いずれも 4 本の柱で構成され、平面正方形を呈する建物跡である。A 建物跡は北側柱列で約 3.6m、西側柱列で約 3.3m あり、B 建物跡は北側柱列で 3.4m。西側柱列で 3.2m ある。

［方向］いずれも北側柱列で見ると、A 建物跡は東で 41° 南に偏し、B 建物跡は東で 44° 南に偏する。

［柱穴］それぞれ 4 箇所で確認した。A 建物跡は直径 63cm の円形や楕円形を呈し、残存する深さが 47cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを多く含む黒褐色粘土～粘土質シルトである。柱抜取

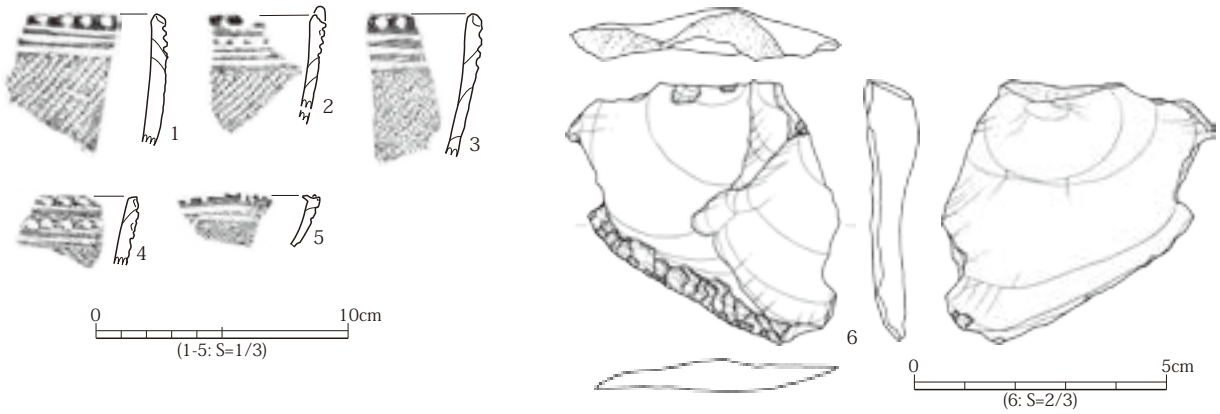






調査区 / 遺構	層序		土色	土性	特徴
SB162B-P2 (P306)	A-A'	1	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック少量 【柱痕跡】
		2	黒褐色（10YR3/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）中ブロック主体 【掘方埋土】
		3	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒わずか 【掘方埋土】
		4	黒褐色（10YR2/2）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）中ブロック多量 【掘方埋土】
SB162A-P2 (P307)		5	黒褐色（10YR2/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック・炭化物粒少量 【柱抜取穴】
		6	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック・炭化物粒少量 【掘方埋土】
SB162B-P4 (P345)	B-B'	1	オリーブ灰色（7.5Y4/2）	シルト質粘土	【柱痕跡】
		2	黒色（10YR1.7/1）	シルト質粘土	スクモ少量 【柱痕跡】
		3	黒褐色（2.5Y3/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）中ブロック多量、炭化物粒・焼土粒少量 【掘方埋土】
		4	黒色（2.5Y2/1）	シルト質粘土	スクモ少量 【掘方埋土】
		5	黒色（10YR1.7/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）中ブロック多量 【掘方埋土】
SB162A-P4 (P431)		6	黒色（10YR2/1）	シルト	【掘方埋土】

第48図　SB162A・162B建物跡　平面図・断面図



No.	器　種	類型 1	類型 2	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1d	Ⅹ Ⅱ x	F-23Bb・SB162A-P2 (P307) / 抜取穴	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR	63-16	Po2589
2	深鉢	A1df	V	F-23Ba・SB162B-P2 (P306) / 掘方埋土	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。羊歯状の浮線文、列点文、平行沈線文。縄文 LR	63-17	Po2586
3	鉢	A1d	Ⅹ Ⅱ x	F-23Ba・SB162B-P2 (P306) / 柱痕跡	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR	63-18	Po2585
4	鉢	A1	Ⅹ Ⅱ b1	F-23Ab・SB162B-P4 (P345) / 堆積土	平縁。平行沈線文 + 刺突列 2 段。縄文 RL	63-19	Po2599
5	皿	A1	Ⅶ b	F-23Ab・SB162B-P4 (P345) / 堆積土	平縁。ヘラ刻目 + 波状浮線文。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 RL	63-20	Po2601

No.	器　種	類型	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
6	不定形石器	Ⅲ d	F-23Bb・SB162A-P2 (P307) / 抜取穴	珪質頁岩 A	52.2	53.7	9.3	17.81	一部欠	0	0	0	1	0		63-21	S6049

第49図　SB162A・162B建物跡　出土土器・石器

穴を 3 箇所で確認した。B 建物跡は直径 64 ～ 88cm の円形や楕円形を呈し、残存する深さが 50 ～ 70cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを多く含む黒色や黒褐色のシルト質粘土～シルトである。柱痕跡を 3 箇所、柱抜取穴を 1 箇所で確認した。柱痕跡は直径 29 ～ 40cm ある。

［出土遺物］A 建物跡からは縄文土器深鉢・鉢、円盤状土製品、不定形石器、動物遺存体が出土し、B 建物跡からは縄文土器深鉢･鉢･浅鉢･皿、石皿、磨石、剥片、石核、石刀が出土している（第 49 図）。

【SB163 建物跡】（第 50 図）

［位置］F-23 区 Ab ～ Bb グリッド（第 42 図）

［検出面］Ⅵ e5 層

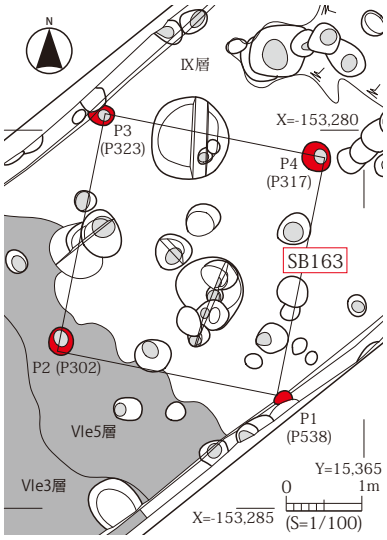
［重複］SB160・161・162A・162B・164・165・166・167・168 建物跡、SK137・139 土坑と重複し、SB160・162A・B・165 建物跡よりも古い。

［構造・規模］4 本の柱で構成され、平面正方形を呈する建物跡である。西側柱列で 3.0m、北側柱列で 2.9m ある。

［方向］西側柱列で見ると、北で 11° 東に偏する。

［柱穴］4 箇所で確認した。直径 25 ～ 41cm の円形や楕円形を呈する。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒色や黒褐色の粘土～シルトである。柱痕跡を 3 箇所で確認した。柱痕跡は直径 16 ～ 22cm の円形や楕円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器深鉢・鉢が出土している。



第50図　SB163建物跡　平面図

【SB164 建物跡】（第 51 図）

［位置］F-23 区 Ba ～ Ca グリッド（第 42 図）

［検出面］Ⅵ e5 層

［重複］SB162A・162B・163・165・166 建物跡、SK123・137 土坑と重複し、SK137 土坑より新しく、SB166 建物跡と SK123 土坑よりも古い。

［構造・規模］4 本の柱で構成され、平面正方形を呈する建物跡である。西側柱列で 3.2m、北側柱列で 3.0m ある。

［方向］西側柱列で見ると、北で 10° 西に偏する。

［柱穴］3 箇所で確認した。直径 44 ～ 53cm の円形を呈し、残存する深さが 75cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒色や黒褐色の粘土～シルトである。柱痕跡をすべてで確認した。柱痕跡は直径 12 ～ 21cm の円形や楕円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器、石核、動物遺存体が出土している。

【SB165 建物跡】（第 51 図）

［位置］F-23 区 Ba ～ Bb グリッド（第 42 図）

［検出面］Ⅵ e5 層

［重複］SB160・161・162A・162B・163・164・166・167 建物跡、SK137 土坑と重複し、SB160・162A・162B・163 建物跡より新しい。

［構造・規模］4 本の柱で構成され、南北に長い平面長方形を呈する建物跡である。西側柱列で 2.2m、北側柱列で約 1.7m ある。

［方向］西側柱列で見ると、北で 20° 東に偏する。

［柱穴］4 箇所で確認した。直径 33 ～ 49cm の円形や楕円形を呈し、残存する深さが 63cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒色や黒褐色の粘土～シルトである。柱痕跡を 3 箇所で確認した。柱痕跡は直径 16 ～ 24cm の円形や楕円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器深鉢・鉢・浅鉢・台部、砥石、砕片が出土している（第 52 図）。

【SB166 建物跡】（第 51 図）

［位置］F-23 区 Ba ～ Bb グリッド（第 42 図）

［検出面］Ⅵ e5 層

［重複］SB160・162A・162B・163・164・165・167・168 建物跡、SK137 土坑と重複し、SB164 建物跡と SK137 土坑より新しい。

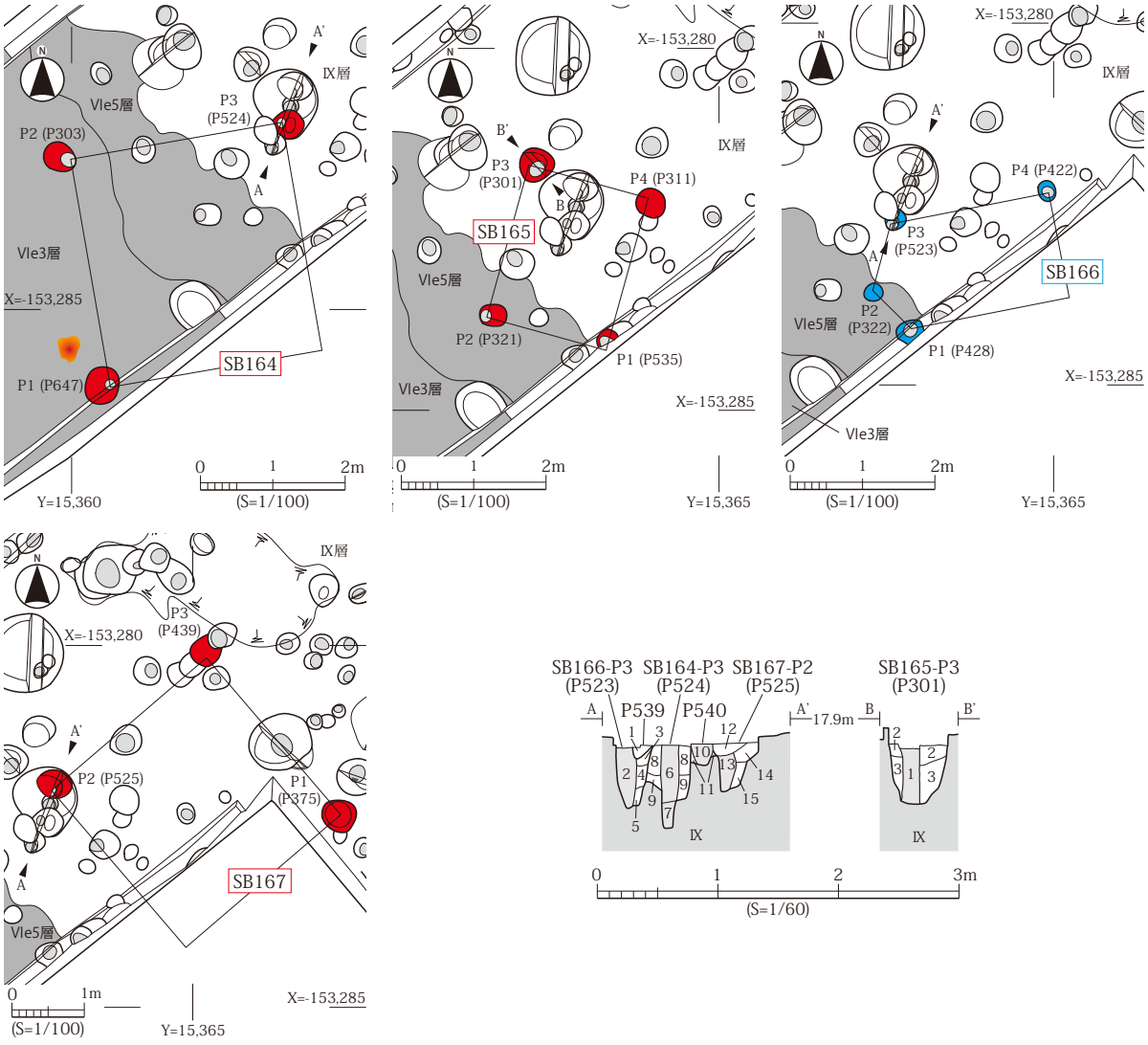
［構造・規模］5 本の柱で構成され、西が張り出す平面五角形を呈する建物跡である。北側柱列で 2.2m、西側柱列で 1.5m、張出部の長さが約 0.4m ある。

［方向］北側柱列で見ると、東で 12° 北に偏する。

［柱穴］4 箇所で確認した。直径 27 ～ 40cm の円形や楕円形を呈し、残存する深さが 58cm ある。埋土は、

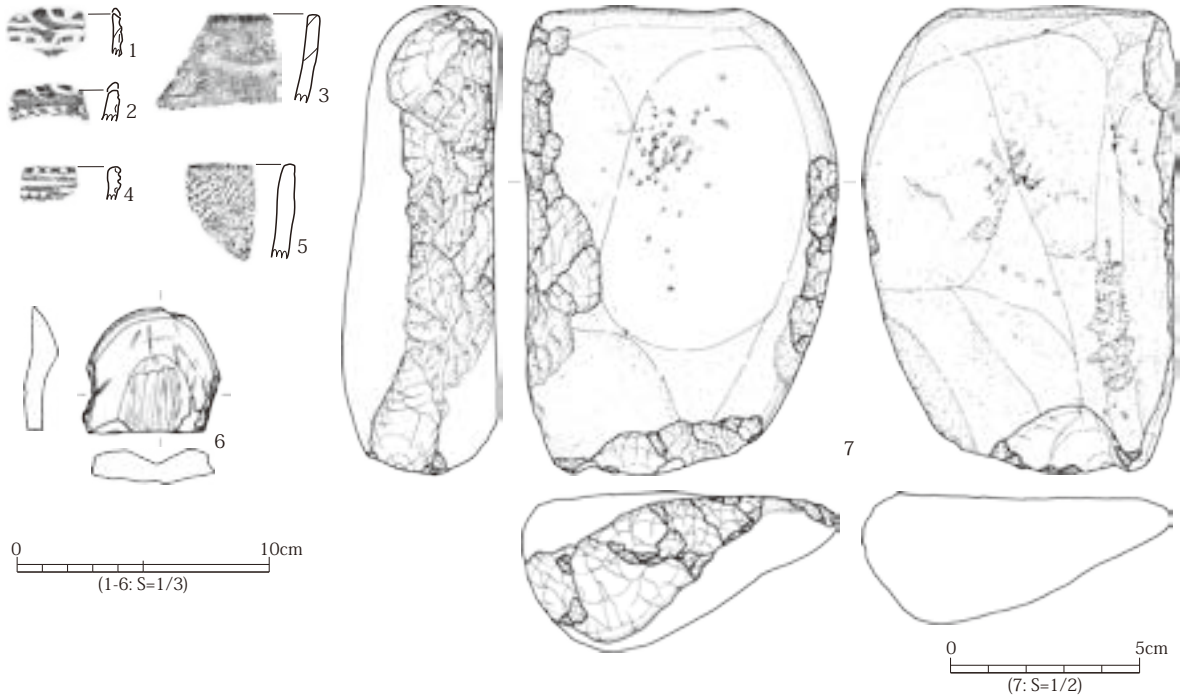
地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒色や黒褐色の粘土～シルトである。柱痕跡を３箇所で確認した。柱痕跡は直径 16 ～ 20cm の円形や楕円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器深鉢・鉢・浅鉢、耳飾、動物遺存体が出土している（第 52 図）。



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
P539	A-A'	1	黒褐色（10YR3/1）	砂質シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック多量 【掘方埋土】
SB166-P3 (P523)		2	黒色（10YR2/1）	粘土	【柱痕跡】
		3	黒色（7.5YR2/1）	粘土	【掘方埋土】
		4	黒褐色（5YR2/1）	粘土	地山（Ⅸ層）中ブロック多量 【掘方埋土】
		5	黒褐色（10YR2/2）	粘土	【掘方埋土】
SB164-P3 (P524)		6	黒色（10YR2/1）	粘土	地山（Ⅸ層）中ブロック・炭化物粒わずか、スクモ少量 【柱痕跡】
		7	黒褐色（10YR3/1）	黒褐色	【柱痕跡】
		8	黒色（7.5YR1.7/1）	粘土	【掘方埋土】
		9	黒褐色（7.5YR3/1）	粘土	地山（Ⅸ層）中ブロック多量 【掘方埋土】
P540		10	黒色（7.5YR2/1）	粘土	スクモ少量、炭化物粒・焼土粒わずか 【柱痕跡】
		11	黒褐色（7.5YR3/1）	砂質シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック多量、炭化物粒少量 【掘方埋土】
SB167-P2 (P525)		12	黒色（7.5YR1.7/1）	粘土	スクモ少量 【柱抜取穴】
		13	黒褐色（5YR2/1）	粘土	【柱痕跡】
		14	黒褐色（7.5YR3/1）	砂質シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック多量 【掘方埋土】
		15	褐灰色（10YR4/1）	砂質シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック多量 【掘方埋土】
SB165-P3 (P301)	B-B'	1	黒色（10YR2/1）	粘土	炭化物粒少量 【柱痕跡】
		2	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック多量、炭化物粒中量、焼土粒少量 【掘方埋土】
		3	黒色（2.5Y2/1）	粘土	地山（Ⅸ層）小ブロックわずか、炭化物粒少量 【掘方埋土】

第51図　SB164・165・166・167建物跡　平面図・断面図



No.	器　種	類型 1	類型 2	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	鉢	A1df	Ⅳ	F-23Ba・SB165-P3 (P301) / 掘方埋土	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。羊歯状文	63-22	Po2583
2	鉢	A1df	Ⅴ	F-23Ba・SB165-P3 (P301) / 柱痕跡	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。羊歯状の浮線文、列点文	63-23	Po2580
3	深鉢	A1	ⅩⅤ	F-23Bb・SB165-P2 (P321) / 堆積土	平縁	63-24	Po2593
4	鉢	A1d	Ⅴ	F-23Bb・SB166-P2 (P322) / 堆積土	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文、列点文	63-25	Po2594
5	深鉢	A1	ⅩⅣ a1	F-23Ba・SB166-P3 (P523) / 柱痕跡	平縁。縄文 LR	63-26	Po2606

No.	器　種	類型	区・遺構 / 層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
6	砥石	-	F-23Ba・SB165-P3（P301）/ 堆積土	凝灰岩	50.7	53.1	12.6	29.90	破片	0	0	0	1	0		63-27	S6043
7	打製石斧	-	F-23 東・SB167-P1（P375）/ 堆積土	安山岩	122.8	82.5	39.6	566.76	完形	0	0	石皿→	1	0	未成品	63-28	S6072

第52図　SB165・166・167建物跡　出土土器・石器

【SB167 建物跡】（第 51 図）

［位置］F-23 区 Ab ～ Ba グリッド（第 42 図）

［検出面］Ⅸ層

［重複］SB160・162A・162B・163・165・166・168・169・170 建物跡、SK137 土坑と重複し、SB169 建物跡と SK137 土坑より新しく、SB160 建物跡よりも古い。

［構造・規模］4 本の柱で構成され、平面正方形を呈する建物跡である。東側柱列で約 2.9m、北側柱列で約 2.9m ある。

［方向］東側柱列で見ると、北で 39° 西に偏する。

［柱穴］3 箇所で確認した。直径 47 ～ 49cm の円形や楕円形を呈し、残存する深さが 45cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを多く含む黒色や黒褐色の粘土～シルトである。柱痕跡を 1 箇所、柱抜取穴を 2 箇所で確認した。柱痕跡は直径 15cm である。

［出土遺物］縄文土器深鉢・鉢、打製石斧、剥片が出土している（第 52 図）。

【SB168 建物跡】（第 53 図）

［位置］F-23 区 Ab ～ Ba グリッド、F-23 区東（第 42 図）

［検出面］Ⅵe5層

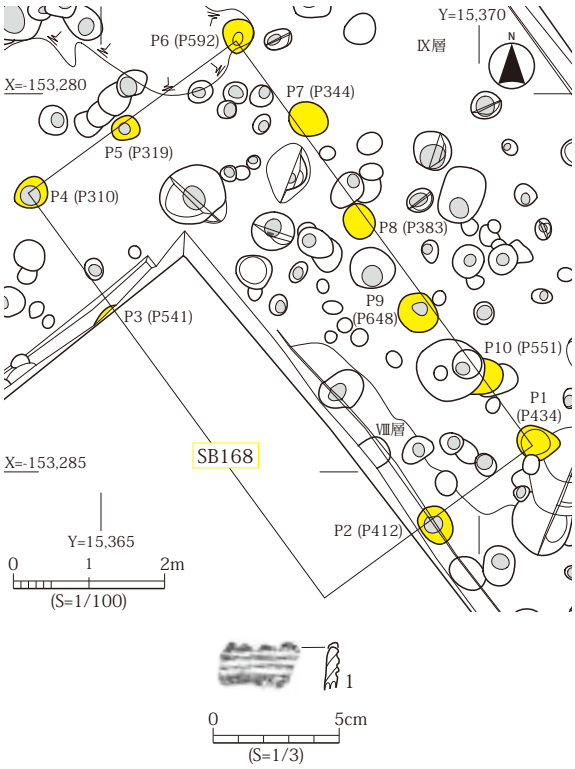
［重複］SB160・162A・162B・163・166・167・169・170・172・173・178・179・180・183・184A・184B建物跡、SK142土坑と重複し、SB183・184A・184B建物跡より新しく、SB175建物跡とSK142土坑よりも古い。

［構造・規模］14本の柱で構成され、桁行5間、梁行2間の南北に長い平面長方形を呈する建物跡である。桁行は東側柱列で総長約6.7mあり、梁行は北側柱列で約3.4mある。桁行の柱間寸法は南から約1.1m、約1.3m、約1.4m、約1.6m、約1.4m梁行の柱間寸法は東から約1.9m、1.5mである。

［方向］東側柱列で見ると、北で36°西に偏する。

［柱穴］10箇所で確認した。直径38～57cmの円形や楕円形を呈する。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒色や黒褐色の粘土～シルトである。柱痕跡を4箇所、柱抜取穴を1箇所で確認した。柱痕跡は直径17～27cmの円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器深鉢・鉢が出土している（第53図）。



No.	器種	類型1	類型2	区・遺構／層	特　徴	写真図版	登録
1	鉢	A1df	XⅡx	F-23Ab・SB168-P7 (P344) / 堆積土	平縁。小突起＋ヘラ刻目。平行沈線文。縄文LR	63-29	Po2598

第53図　SB168建物跡　平面図、出土遺物

【SB169建物跡】（第54図）

［位置］F-23区Ab～Baグリッド、F-23区東（第42図）

［検出面］Ⅸ層

［重複］SB160・162A・162B・167・168・170・173建物跡と重複し、SB160・167建物跡よりも古い。

［構造・規模］4本の柱で構成され、南北に長い平面長方形を呈する建物跡である。東側柱列で2.9m、北側柱列で約2.0mある。

［方向］東側柱列で見ると、北で12°西に偏する。

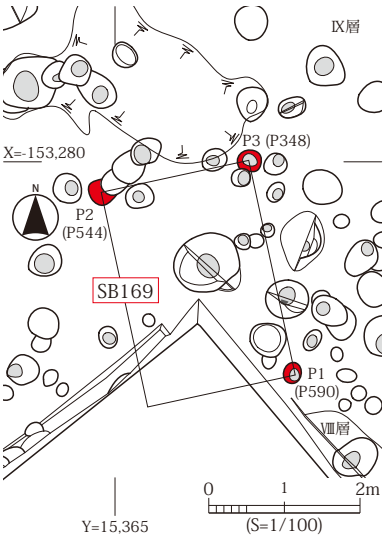
［柱穴］3箇所で確認した。直径29～35cmの円形を呈する。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒色や黒褐色の粘土質シルト～シルトである。柱痕跡を2箇所で確認した。柱痕跡は直径16～19cmの円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器、不定形石器が出土している。

【SB170建物跡】（第55図）

［位置］F-23区Aa～Baグリッド、F-23区東（第42図）

［検出面］Ⅸ層



第54図　SB169建物跡　平面図

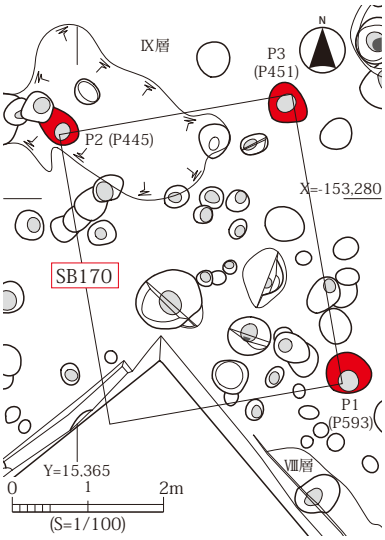
［重複］SB160・162A・162B・167・168・169・171・172・173・175・178 建物跡と重複する。これらとの新旧関係は不明である。

［構造・規模］4 本の柱で構成され、南北に長い平面長方形を呈する建物跡である。東側柱列で 3.8m、北側柱列で 3.0m ある。

［方向］東側柱列で見ると、北で 12° 西に偏する。

［柱穴］3 箇所で確認した。直径 59 ～ 60cm の円形や楕円形を呈する。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを多く含む黒褐色粘土～シルトである。柱痕跡をすべてで確認した。柱痕跡は直径 23 ～ 28cm の円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器深鉢・鉢・浅鉢、磨製石斧、石皿、円盤状石製品、動物遺存体が出土している（第 56 図）。



第55図　SB170建物跡　平面図

【SB171 建物跡】（第 57 図）

［位置］F-23 区 Aa グリッド（第 42 図）

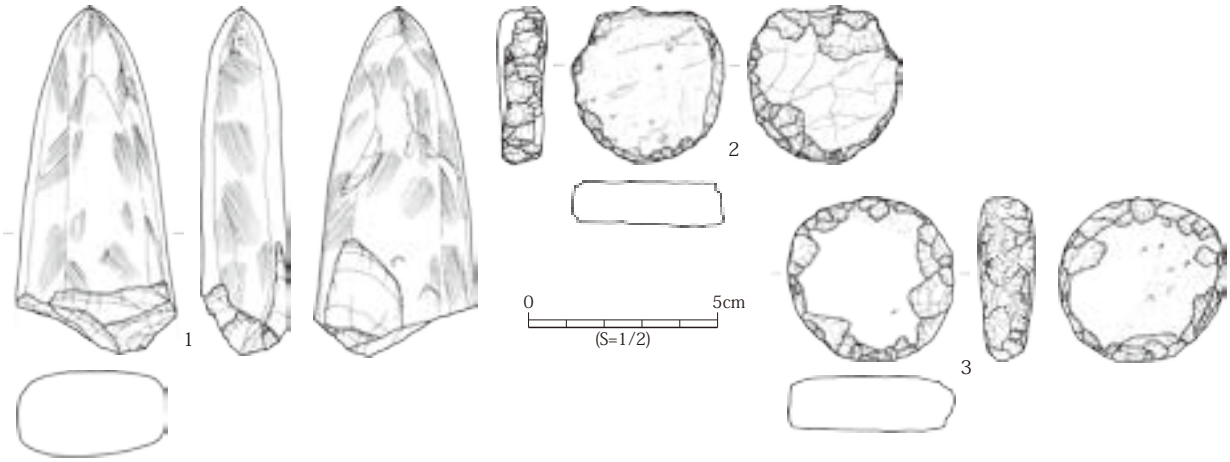
［検出面］Ⅸ層

［重複］SB170・172・173・174 建物跡と重複する。これらとの新旧関係は不明である。

［構造・規模］4 本の柱で構成され、東西に長い平面長方形を呈する建物跡である。南側柱列で 3.0m、西側柱列で 2.6m ある。

［方向］南側柱列で見ると、東で 14° 北に偏する。

［柱穴］3 箇所で確認した。直径 34 ～ 38cm の円形や楕円形を呈し、残存する深さが 44cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含



No.	器　種	類型	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	磨製石斧	Ⅰ a1	F-23Aa・SB170-P3 (P451) / 掘方埋土	緑色凝灰岩	90.8	42.2	22.3	124.46	刃部欠	0	0	0	0	0		63-30	S6099
2	円盤状石製品	Ⅰ a	F-23Aa・SB170-P3 (P451) / 掘方埋土	デイサイト質凝灰岩	40.6	40.4	12.3	27.69	完形	0	0	0	1	0		63-31	S6096
3	円盤状石製品	Ⅰ b	F-23Aa・SB170-P3 (P451) / 掘方埋土	凝灰岩	43.4	45.6	14.1	37.51	完形	0	0	磨石→	1	0		63-32	S6098

第56図　SB170建物跡　出土石器・石製品

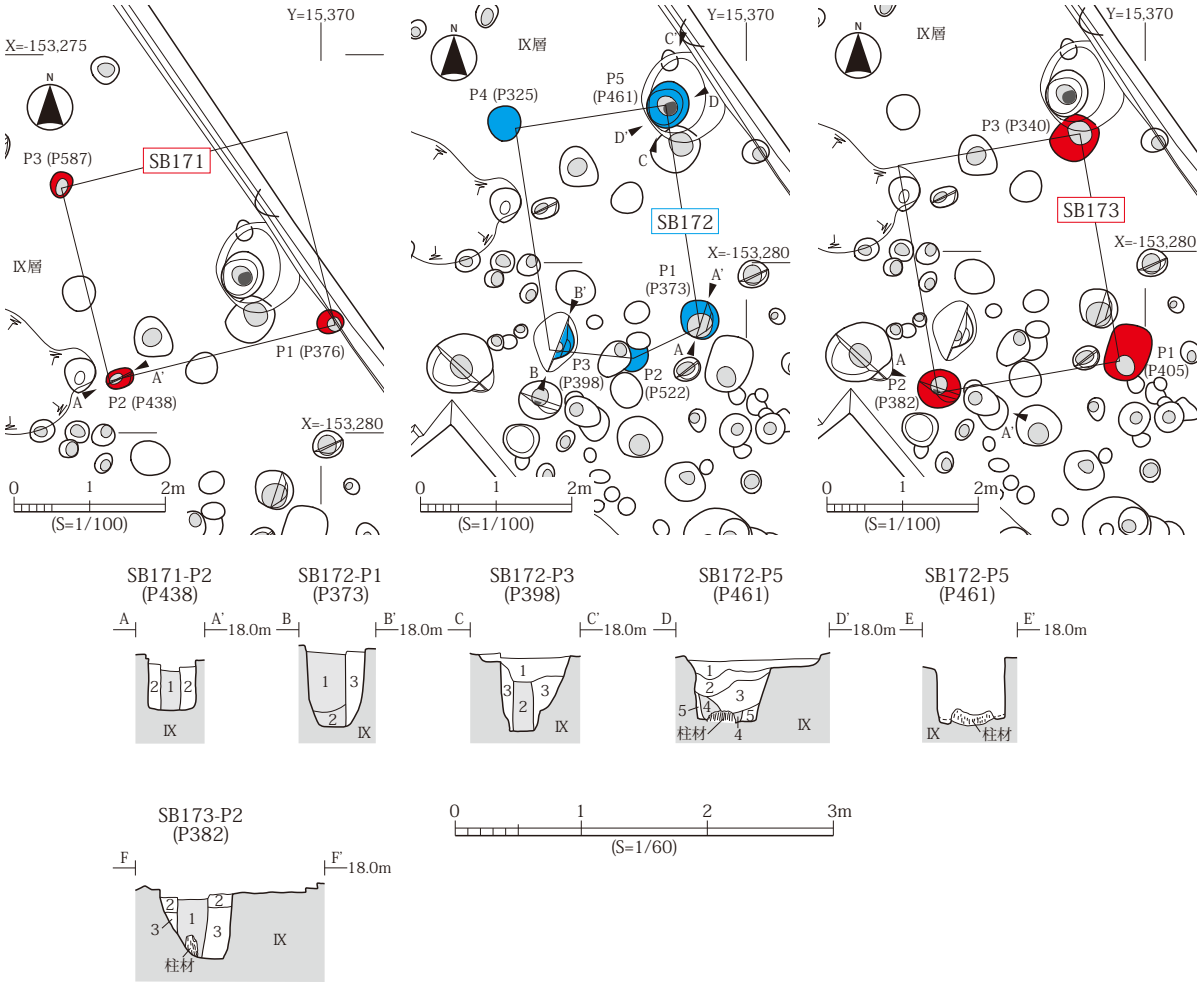
む黒色や黒褐色の粘土～シルトである。柱痕跡をすべてで確認した。柱痕跡は直径 19 ～ 23cm の円形や楕円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器、磨製石斧が出土している（第 58 図）。

【SB172 建物跡】（第 57 図）

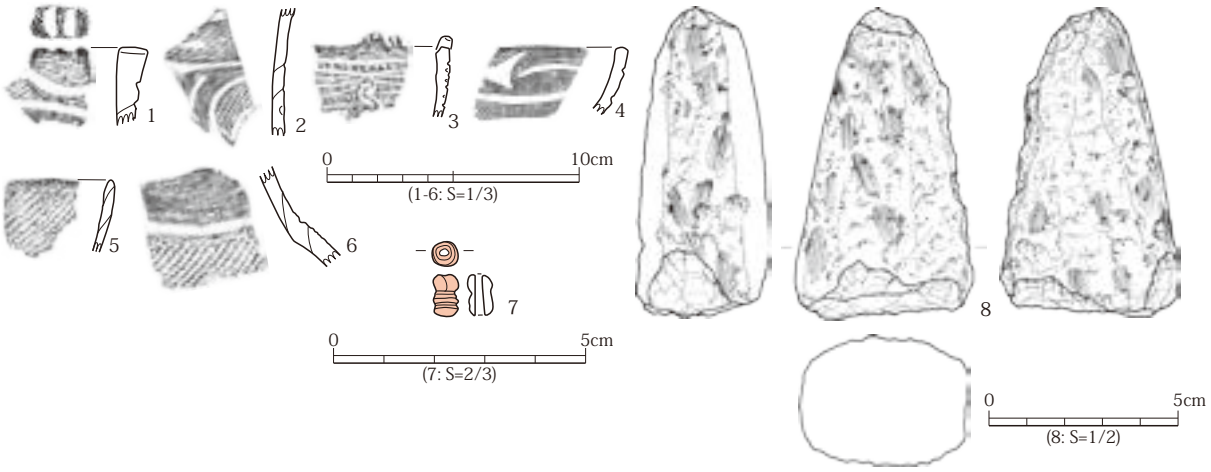
［位置］F-23 区 Aa ～ Ab グリッド、F-23 区東（第 42 図）

［検出面］Ⅷ層



調査区 / 遺構	層序		土色	土性	特徴
SB171-P2 (P438)	A-A'	1	黒色（10YR2/1）	粘土	植物少量、炭化物粒わずか 【柱痕跡】
		2	黒色（2.5Y2/1）	粘土質シルト	スクモ少量、炭化物粒・焼土粒わずか 【掘方埋土】
SB172-P1 (P373)	B-B'	1	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒～小ブロック・小礫・炭化物粒中量、植物少量 【柱痕跡】
		2	灰黄褐色（10YR4/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック多量 【柱痕跡】
		3	黒褐色（10YR3/1）	シルト	地山（Ⅸ層）大ブロック主体 【掘方埋土】
SB172-P3 (P398)	C-C'	1	黒色（2.5Y2/2）	粘土	地山（Ⅸ層）小～大ブロック多量、炭化物粒・焼土粒少量 【柱抜取穴】
		2	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）中ブロック中量、植物多量 【柱痕跡】
		3	黒色（7.5YR1.7/1）	シルト質粘土	植物多量 【掘方埋土】
SB172-P5 (P461)	D-D' E-E'	1	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小～中ブロック多量、炭化物粒・焼土粒わずか 【柱抜取穴か】
		2	黒褐色（10YR2/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒少量、炭化物粒・焼土粒わずか 【柱抜取穴】
		3	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小～大ブロック多量 【柱抜取穴】
		4	黒褐色（10YR3/1）	シルト質粘土	【柱痕跡】
		5	黒褐色（10YR2/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック中量 【掘方埋土】
SB173-P2 (P382)	F-F'	1	黒色（10YR1.7/1）	粘土	地山（Ⅸ層）小ブロック・炭化物粒少量、スクモ多量 【柱痕跡】
		2	黒褐色（7.5YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック多量、炭化物粒・焼土粒少量 【掘方埋土】
		3	黒色（2.5Y2/1）	粘土	スクモ多量、炭化物粒わずか 【掘方埋土】

第57図　SB171・172・173建物跡　平面図・断面図



No.	器　種	類型 1	類型 2	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	-	Ⅰ a	F-23Aa・SB172-P5 (P461) / 掘方埋土	方形突起 + 頂部刻目。帯状文（縄文）。縄文 LR	63-33	Po2605
2	深鉢	-	Ⅰ d	F-23Aa・SB172-P5 (P461) / 1	帯状文（縄文 + 刺突）、渦巻状の区画文。縄文 LR	63-34	Po2602
3	鉢	A1df	Ⅱ d	F-23Aa・SB172-P4 (P325) / 堆積土	平縁。二個一対の山形突起（頂部刻目）。入組帯状文（刺突列）。	63-35	Po2595
4	皿	A1	Ⅲ o	F-23Aa・SB172-P5 (P461) / 3	平縁。三叉文	63-36	Po2604
5	鉢	A1	ⅩⅣ a1	F-23 東・SB172-P3 (P398) / 抜取穴	平縁。0 段多条縄文 LR	63-37	Po2635
6	壺	-	ⅩⅢ	F-23Aa・SB173-P3 (P340) / 堆積土	横位沈線文。縄文 LR	63-38	Po2597

No.	器　種	類型	区・遺構 / 層	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	装飾	彩色	備　考	写真図版	登録
7	土製小玉	A2	F-23 東・SB173-P2 (P382) / 掘方埋土	4.7	4.5	7.3	0.19	完形	1	赤彩		63-39	CB844

No.	器　種	類型	区・遺構 / 層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
8	磨製石斧	Ⅰ a1	F-23Aa・SB171-P1（P376）/ 柱痕跡	緑色凝灰岩	81.0	46.8	35.2	185.46	完形	0	0	0	0	0	未成品か	63-40	S6073

第58図　SB171・172・173建物跡　出土土器・土製品・石器

［重複］SB168・170・171・173・174・175 建物跡と重複し、SB173 建物跡より新しく、SB175 建物跡よりも古い。

［構造・規模］5 本の柱で構成され、南が張り出す平面五角形を呈する建物跡である。東側柱列で 2.9m、南側柱列で 2.0m、張出部の長さが約 0.3m ある。

［方向］東側柱列で見ると、北で 8° 西に偏する。

［柱穴］5 箇所で確認した。直径 48 ～ 62cm の円形を呈し、残存する深さが 61 ～ 65cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒色や黒褐色のシルト質粘土～シルトである。柱痕跡を 3 箇所、柱抜取穴を 2 箇所で確認した。柱痕跡は直径 16 ～ 35cm の円形を呈し、うち P5 では柱材が残存していた。この柱材について放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、^{14}C 年代が 2,550±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 797 ～ 761calBC となり、縄文時代晩期中葉（大洞 C2 式新段階）に当たる年代値（小林　2019）が得られた（分析編第 2 章）。

［出土遺物］縄文土器深鉢・鉢・皿、石皿、剥片、石核、木の根が出土している（第 58 図）。また、P3 の柱抜取穴から出土した木片（柱材?）について放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、^{14}C 年代が 2,710±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 895 ～ 826calBC となり、縄文時代晩期中葉（大洞 C2 式）にあたる年代値（小林　2019）が得られている（分析編第 2 章）。

【SB173 建物跡】（第 57 図）

［位置］F-23 区 Aa ～ Ab グリッド、F-23 区東（第 42 図）

［検出面］Ⅷ層

［重複］SB168・169・170・171・172・174・175・178 建物跡と重複し、SB172・175 建物跡よりも古い。
［構造・規模］4 本の柱で構成され、南北に長い平面長方形を呈する建物跡である。東側柱列で 3.1m、南側柱列で 2.5m ある。
［方向］東側柱列で見ると、北で 11° 西に偏する。
［柱穴］3 箇所で確認した。直径 57 ～ 78cm の円形や楕円形を呈し、残存する深さが 55cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを多く含む黒色や黒褐色の粘土～シルトである。柱痕跡をすべてで確認した。柱痕跡は直径 24 ～ 31cm の円形を呈し、うち P2 では柱材が残存していた。
［出土遺物］縄文土器鉢・浅鉢・壺、土製小玉、磨石が出土している（第 58 図）。

【SB174 建物跡】（第 59 図）
［位置］F-23 区 Aa グリッド、F-23 区東（第 42 図）
［検出面］Ⅸ層
［重複］SB171・172・173・175・176・177 建物跡と重複する。これらとの新旧関係は不明である。
［構造・規模］5 本の柱で構成され、南が張り出す平面五角形を呈する建物跡である。西側柱列で約 2.4m、南側柱列で約 2.2m、張出部の長さが約 0.4m ある。
［方向］西側柱列で見ると、北で 19° 西に偏する。
［柱穴］4 箇所で確認した。直径 30 ～ 43cm の円形や楕円形を呈し、残存する深さが 51cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒色や黒褐色の粘土～シルトである。柱痕跡を 2 箇所、柱抜取穴を 1 箇所で確認した。柱痕跡は直径 15 ～ 24cm の楕円形を呈する。
［出土遺物］縄文土器の袖珍土器台付鉢、剥片が出土している（第 60 図）。

【SB175 建物跡】（第 59 図）
［位置］F-23 区東（第 42 図）
［検出面］Ⅸ層
［重複］SB168・172・173・174・176・177・178・179・180・181・183 建物跡、SK142 土坑と重複し、SB168・172・173・183 建物跡と SK142 土坑より新しい。
［構造・規模］5 本の柱で構成され、南が張り出す平面五角形を呈する建物跡である。西側柱列で 2.9m、北側柱列で 2.0m、張出部の長さが約 0.8m ある。
［方向］西側柱列で見ると、北で 30° 西に偏する。
［柱穴］5 箇所で確認した。直径 39 ～ 53cm の円形や楕円形を呈し、残存する深さが 48cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒褐色粘土質シルト～シルトである。柱痕跡を 4 箇所、柱抜取穴を 1 箇所で確認した。柱痕跡は直径 18 ～ 27cm の円形を呈する。
［出土遺物］縄文土器脚部、剥片が出土している（第 60 図）。

【SB176 建物跡】（第 59 図）

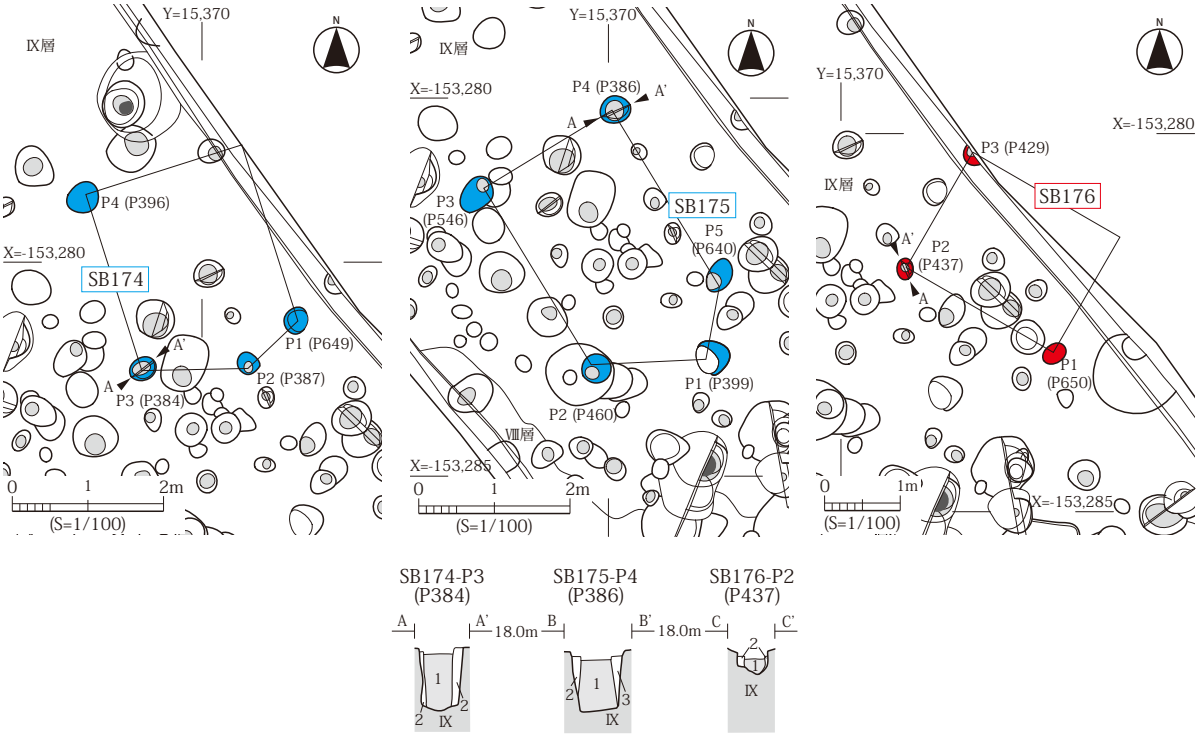
［位置］F-23 区東（第 43 図）

［検出面］Ⅸ層

［重複］SB174･175･177･179･181･182A･182B 建物跡と重複する。これらとの新旧関係は不明である。

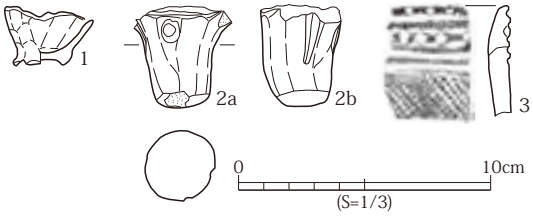
［構造･規模］4 本の柱で構成され、東西に長い平面長方形を呈する建物跡である。南側柱列で約 2.3m、西側柱列で約 1.8m ある。

［方向］南側柱列で見ると、東で 30° 南に偏する。



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　　徴
SB174-P3 (P384)	A-A'	1	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒・砂・炭化物粒中量、植物少量 【柱痕跡】
		2	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック多量 【掘方埋土】
SB175-P4 (P386)	B-B'	1	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒・植物中量 【柱痕跡】
		2	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック中量 【掘方埋土】
		3	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック中量 【掘方埋土】
SB176-P2 (P437)	C-C'	1	黒色（2.5Y2/1）	粘土	地山（Ⅸ層）小ブロック中量 【柱痕跡】
		2	黒褐色（10YR3/1）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック中量 【掘方埋土】

第59図　SB174・175・176建物跡　平面図・断面図



No.	器　種	類型 1	類型 2	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	袖珍土器台付鉢	A1	ⅩⅤ	F-23 東・SB174-P3 (P384) / 柱痕跡	口径（3.5cm）。平縁	63-41	Po3942
2	脚部	-	ⅩⅡx	F-23 東・SB175-P4 (P386) / 堆積土	脚部間に平行沈線文、盲孔 1	63-42	Po2629
3	深鉢	C1d	Ⅴ	F-23 東・SB176-P3 (P429) / 柱痕跡	平縁。ヘラ刻目。列点文、平行沈線文。縄文 RL	63-43	Po2647

第60図　SB174・175・176建物跡　出土土器

［柱穴］3 箇所で確認した。直径 29 ～ 34cm の楕円形を呈し、残存する深さが 18cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒褐色粘土質シルト～シルトである。柱痕跡を 2 箇所で確認した。柱痕跡は直径 12 ～ 14cm の円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器深鉢が出土している（第 60 図）。

【SB177 建物跡】（第 61 図）

［位置］F-23 区東（第 43 図）

［検出面］Ⅸ層

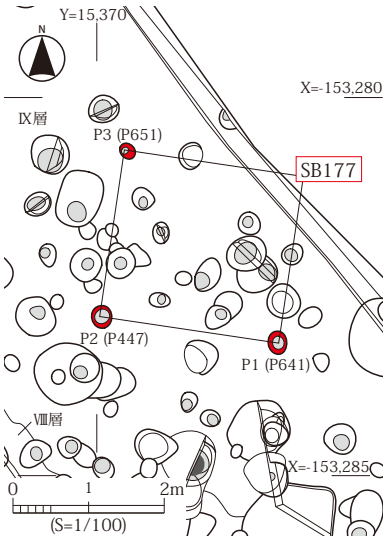
［重複］SB174・175・176・178・179・180・181・182A・182B 建物跡と重複する。これらとの新旧関係は不明である。

［構造・規模］4 本の柱で構成され、平面正方形を呈する建物跡である。南側柱列で 2.4m、西側柱列で 2.2m ある。

［方向］南側柱列で見ると、東で 8° 南に偏する。

［柱穴］3 箇所で確認した。直径 23 ～ 31cm の円形や楕円形を呈する。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒褐色粘土質シルト～シルトである。柱痕跡をすべてで確認した。柱痕跡は直径 10 ～ 20cm の円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器が出土している。



第61図　SB177建物跡　平面図

【SB178 建物跡】（第 62 図）

［位置］F-23 区東（第 43 図）

［検出面］Ⅸ層

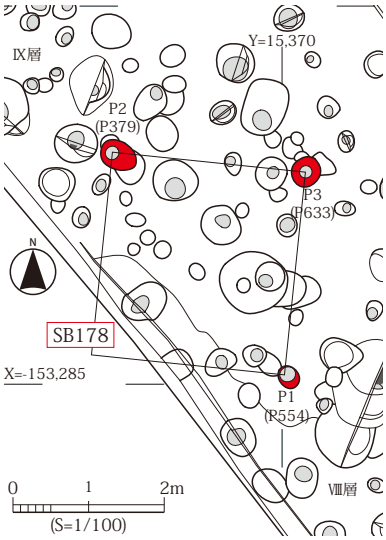
［重複］SB168・170・173・175・177・179・180・183 建物跡、SK142 土坑と重複する。これらとの新旧関係は不明である。

［構造・規模］4 本の柱で構成され、平面正方形を呈する建物跡である。東側柱列で 2.7m、北側柱列で 2.6m ある。

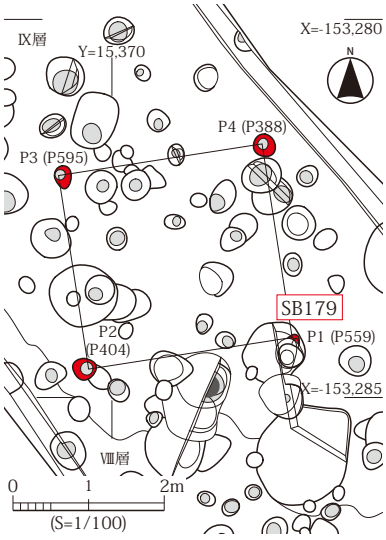
［方向］東側柱列で見ると、北で 5° 東に偏する。

［柱穴］3 箇所で確認した。直径 31 ～ 51cm の円形や楕円形を呈する。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを多く含む黒褐色粘土質シルト～シルトである。柱痕跡をすべてで確認した。柱痕跡は直径 17 ～ 21cm の円形を呈する。

［出土遺物］遺物は出土していない。



第62図　SB178建物跡　平面図



第63図　SB179建物跡　平面図

【SB179 建物跡】（第 63 図）

［位置］F-23 区東（第 43 図）

［検出面］Ⅸ層

［重複］SB168・175・176・177・178・180・181・182A・182B・183・184A・184B 建物跡、SK140・142 土坑と重複し、SK140 土坑より新しく、SB180 建物跡よりも古い。

［構造・規模］4 本の柱で構成され、平面正方形を呈する建物跡である。北側柱列で 2.7m、西側柱列で 2.6m ある。

［方向］北側柱列で見ると、東で 9° 北に偏する。

［柱穴］4 箇所で確認した。直径 31 ～ 32cm の円形や楕円形を呈する。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒褐色粘土～シルトである。柱痕跡を 3 箇所で確認した。柱痕跡は直径 14 ～ 17cm の円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器が出土している。

【SB180 建物跡】（第 64・65 図）

［位置］F-23 区東（第 43 図）

［検出面］Ⅷ層

［重複］SB168・175・177・178・179・181・182A・182B・183・184A・184B 建物跡、SK140・141・142 土坑と重複し、SB179・183 建物跡と SK140 土坑より新しい。

［構造・規模］4 本の柱で構成され、南北に長い平面長方形を呈する建物跡である。西側柱列で 3.1m、北側柱列で 2.5m ある。

［方向］西側柱列で見ると、北で 44° 西に偏する。

［柱穴］4 箇所で確認した。直径 35 ～ 62cm の円形や楕円形を呈し、残存する深さが 56cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒褐色粘土質シルト～シルトである。柱痕跡を 3 箇所、柱抜取穴を 1 箇所で確認した。柱痕跡は直径 17 ～ 27cm の円形や楕円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器深鉢・鉢、剥片が出土している。

【SB181 建物跡】（第 64 図）

［位置］F-23 区東（第 43 図）

［検出面］Ⅸ層

［重複］SB175・176・177・179・180・182A・182B・183 建物跡と重複する。これらとの新旧関係は不明である。

［構造・規模］4 本の柱で構成され、東西に長い平面長方形を呈する建物跡である。北側柱列で 1.8m、西側柱列で 1.4m ある。

［方向］北側柱列で見ると、東で 19° 北に偏する。

［柱穴］4 箇所で確認した。直径 25 ～ 30cm の円形や楕円形を呈する。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロッ

クを含む黒褐色粘土質シルト～シルトである。柱痕跡を 3 箇所で確認した。柱痕跡は直径 13 ～ 18cm の円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器が出土している。

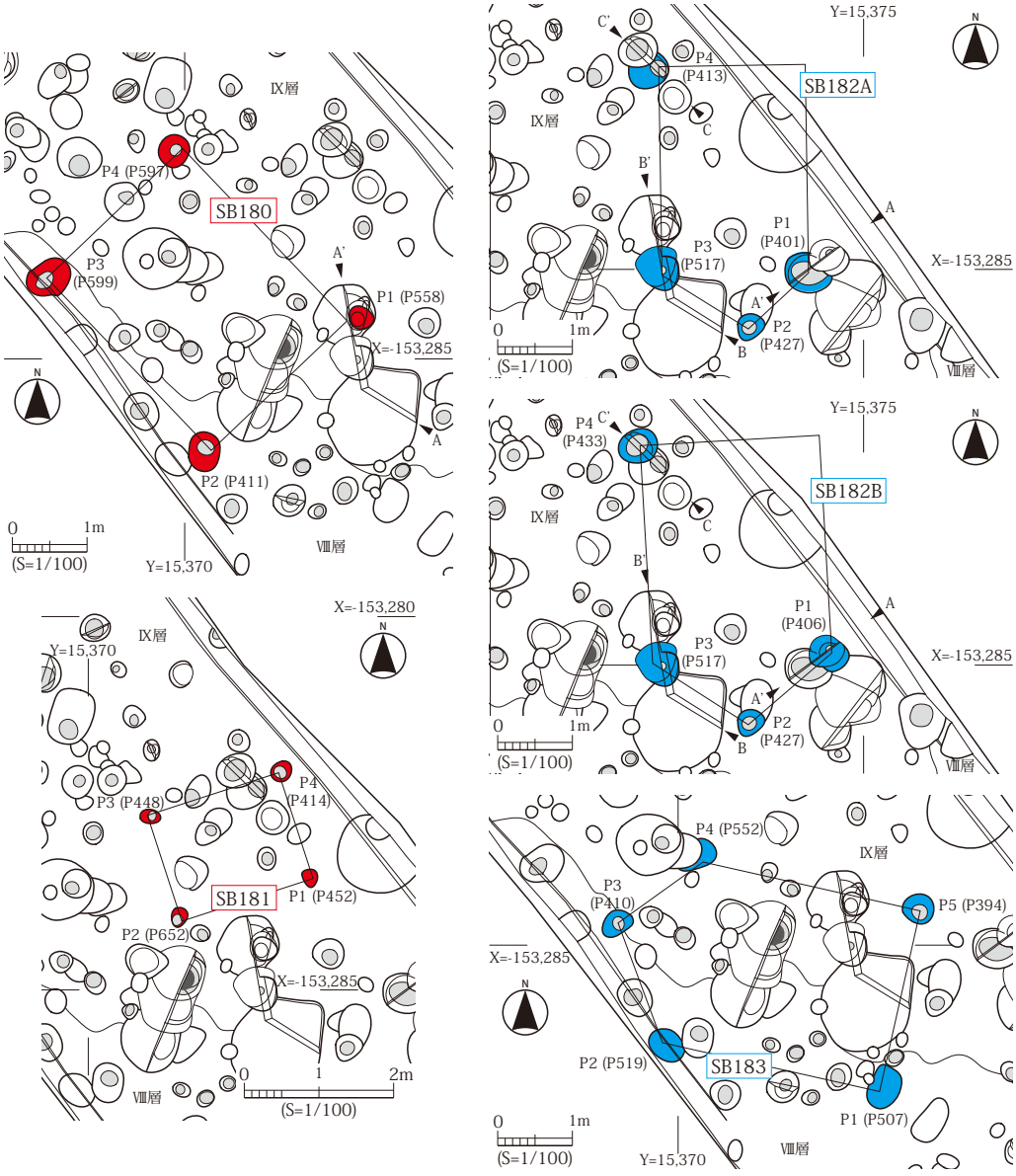
【SB182A・B 建物跡】（第 64・65 図）

［位置］F-23 区東（第 43 図）

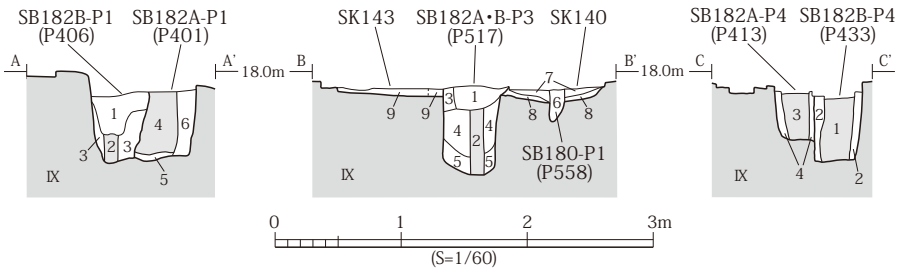
［検出面］Ⅸ層

［重複］建て替えが一度認められる（A → B）。SB176・177・179・180・181・183・184A・184B・186・187 建物跡、SK136・140・143 土坑と重複し、SB184A・184B・186・187 建物跡と SK140・143 土坑より新しい。

［構造・規模］いずれも 5 本の柱で構成され、南が張り出す平面五角形を呈する建物跡である。A 建

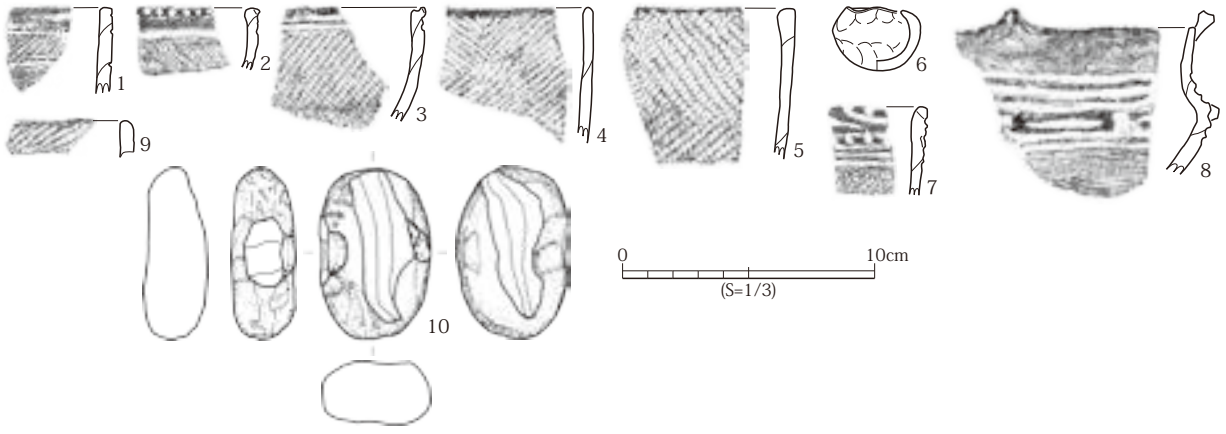


第64図　SB180・181・182A・182B・183建物跡　平面図



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　　徴
SB182B-P1（P406）	A-A'	1	黒褐色（10YR2/2）	砂質シルト	地山（Ⅸ層）粒～中ブロック・炭化物粒少量、焼土粒わずか 【柱抜取穴】
		2	黒色（10YR2/1）	粘土	【柱痕跡】
		3	黒褐色（7.5YR3/1）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック多量 【掘方埋土】
SB182A-P1（P401）		4	黒褐色（10YR2/2）	シルト	地山（Ⅸ層）粒～小ブロック・焼土粒わずか、炭化物粒少量 【柱痕跡】
		5	黒色（2.5Y2/1）	シルト	地山（Ⅸ層）大ブロック多量 【掘方埋土】
		6	黒色（2.5Y2/1）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック多量、炭化物粒少量 【掘方埋土】
SB182A・B-P3（P517）	B-B'	1	黒色（10YR2/1）	粘土	地山（Ⅸ層）中ブロック中量、スクモ・焼土粒少量、炭化物粒多量 【柱抜取穴】
		2	黒色（2.5Y2/1）	粘土	【柱痕跡】
		3	黒褐色（10YR2/2）	シルト	地山（Ⅸ層）大ブロック主体 【掘方埋土】
		4	黒褐色（10YR2/2）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック多量 【掘方埋土】
		5	黒褐色（7.5YR2/2）	シルト	【掘方埋土】
SB180-P1（P558）		6	黒褐色（10YR2/2）	粘土	炭化物粒わずか 【柱抜取穴】
SK140		7	黒褐色（5YR2/1）	シルト	地山（Ⅸ層）粒～小ブロック・炭化物粒・焼土粒少量 【堆積土】
		8	黒色（10YR1.7/1）	シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック中量 【堆積土】
SK143		9	黒褐色（7.5YR3/1）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック多量、炭化物粒・焼土粒少量 【埋土】
SB182B-P4（P433）	C-C'	1	黒色（2.5Y2/1）	粘土	地山（Ⅸ層）小ブロック・炭化物粒少量、スクモ多量 【柱痕跡】
		2	黒色（10YR2/1）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック多量、炭化物粒わずか 【掘方埋土】
SB182A-P4（P413）		3	黒色（7.5YR1.7/1）	シルト	地山（Ⅸ層）粒～小ブロック少量、炭化物粒わずか 【柱痕跡】
		4	黒褐色（10YR3/1）	粘土	地山（Ⅸ層）中ブロック中量、炭化物粒・焼土粒わずか 【掘方埋土】

第65図　SB180・182A・182B建物跡　断面図



No.	器　種	類型 1	類型 2	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	鉢	A1	Ⅰa	F-23 東・SB182A-P4 (P413) / 柱痕跡	平縁。帯状文（縄文）。無節縄文 L	63-44	Po2646
2	鉢	B1d	ⅩⅢ	F-23 東・SB182A-P1 (P401) / 柱痕跡	平縁。ヘラ刻目。横位沈線文。無節縄文 R	63-45	Po2633
3	鉢	B1cd	ⅩⅡx	F-23 東・SB182A-P1 (P401) / 掘方埋土	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文。羽状縄文 LR/RL	63-46	Po2634
4	深鉢	A1	ⅩⅣa1+ ⅩⅣa2	F-23 東・SB182A・B-P3 (P517) / 堆積土	平縁。羽状縄文 RL/LR、縄文 LR	63-47	Po2664
5	深鉢	A1	ⅩⅣa2	F-23 東・SB182A-P1 (P401) / 柱痕跡	平縁。羽状縄文 RL/LR	63-48	Po2632
6	袖珍土器鉢	A1	ⅩⅤ	F-23 東・SB182A-P1 (P401) / 柱痕跡	口径 2.1cm、器高 2.4cm、最大径 3.5cm。平縁。丸底ナデ	63-49	Po2469
7	鉢	A1df	Ⅴ	F-23 東・SB182B-P1 (P406) / 柱痕跡	平縁。二個一対の小突起＋ヘラ刻目。羊歯状の浮線文、列点文、平行沈線文。縄文 LR	63-50	Po2640
8	深鉢	C1f	Ⅷ	F-23 東・SB182B-P4 (P433) / 掘方埋土	平縁。二個一対の山形突起。メガネ状浮文＋二個一対の貼瘤。無節縄文 L	63-52	Po2648
9	深鉢	A1	ⅩⅣa1	F-23 東・SB183-P2 (P519) / 堆積土	平縁。無節縄文 L	63-51	Po2666

No.	器種	類型	区・遺構 / 層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
10	砥石	-	F-23 東・SB182A-P1（P401）/ 柱痕跡	真珠岩	67.2	43.6	25.4	106.65	完形	0	0	0	1	0		63-53	S6077

第66図　SB182A・182B・183建物跡　出土土器・石器

物跡は西側柱列で 2.7m、南側柱列で 2.0m、張出部の長さが 0.8m あり、B 建物跡は西側柱列で 3.0m、南側柱列で 2.3m、張出部の長さが 0.9m ある。

［方向］いずれも西側柱列で見ると、A 建物跡は長軸方向が北を向き、B 建物跡は北で 7° 西に偏する。

［柱穴］それぞれ 4 箇所で確認した。A 建物跡は直径 38 ～ 65cm の円形を呈し、残存する深さが 44 ～ 71cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒色や黒褐色の粘土～シルトである。柱痕跡をすべてで、柱抜取穴を 1 箇所で確認した。柱痕跡は直径 11 ～ 49cm の楕円形を呈する。B 建物跡は直径 38 ～ 53cm の円形や楕円形を呈し、残存する深さが 53 ～ 72cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを多く含む黒色や黒褐色の粘土質シルト～シルトである。柱痕跡をすべてで、柱抜取穴を 2 箇所で確認した。柱痕跡は直径 11 ～ 33cm の楕円形を呈する。

［出土遺物］A 建物跡からは縄文土器深鉢・鉢・浅鉢・袖珍土器鉢、磨石、砥石、剥片、竪櫛、動物遺存体、種実（オニグルミ）が出土し、B 建物跡からは縄文土器深鉢・鉢・皿、不定形石器、磨石、剥片、動物遺存体が出土している（第 66 図）。

【SB183 建物跡】（第 64 図）

［位置］F-23 区東（第 43 図）

［検出面］Ⅵ e 層

［重複］SB168・175・178・179・180・181・182A・182B・184A・184B・185・186 建物跡、SK140・141・142・143 土坑と重複し、SB168・175・180 建物跡と SK142 土坑よりも古い。

［構造・規模］5 本の柱で構成され、西が張り出す平面五角形を呈する建物跡である。南側柱列で約 3.0m、東側柱列で約 2.4m、張出部の長さが約 0.9m ある。

［方向］南側柱列で見ると、東で 11° 南に偏する。

［柱穴］5 箇所で確認した。直径 42 ～ 59cm の円形や楕円形を呈する。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒色や黒褐色の粘土質シルト～シルトである。柱痕跡を 2 箇所で確認した。柱痕跡は直径 19 ～ 22cm の円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器深鉢が出土している（第 66 図）。

【SB184A・B 建物跡】（第 67 図）

［位置］F-23 区東（第 43 図）

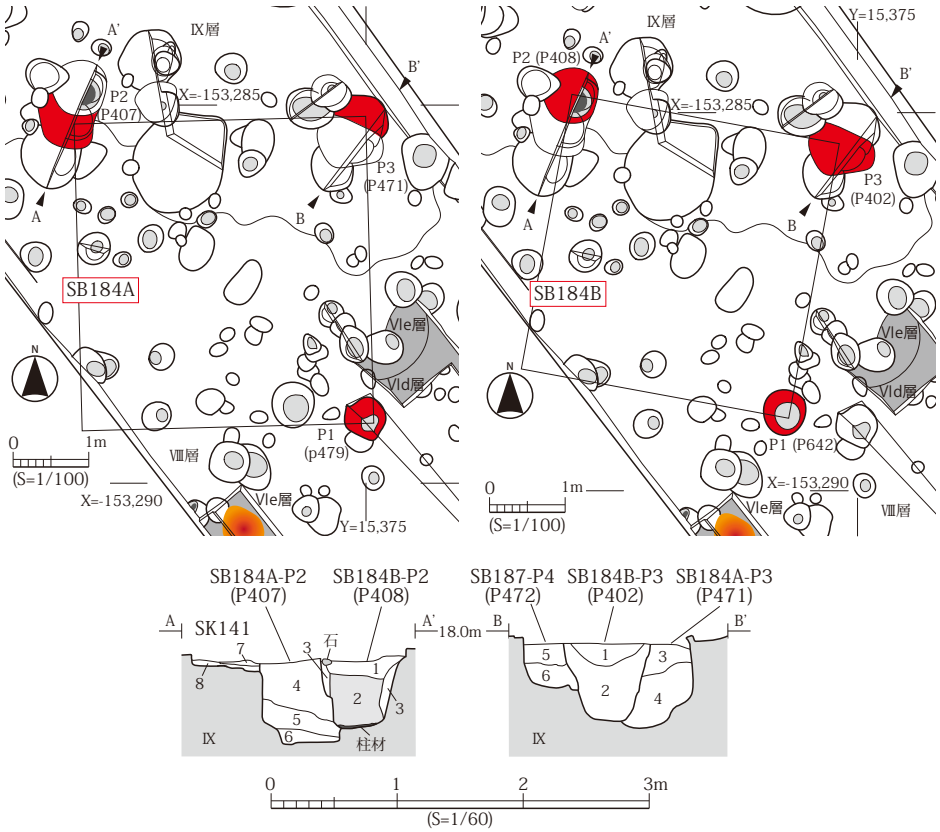
［検出面］Ⅵ e 層

［重複］建て替えが一度認められる（A → B）。SB168・179・180・182A・182B・183・185・186・187・188・189・190・191・192 建物跡、SK140・141・143 土坑と重複し、SB185・186 建物跡と SK141 土坑より新しく、SB168・182A・182B 建物跡よりも古い。また、B 建物跡は、SB187 建物跡より新しい。

［構造・規模］いずれも 4 本の柱で構成され、平面正方形を呈する建物跡である。A 建物跡は東側柱列で約 4.0m、北側柱列で約 3.9m あり、B 建物跡は東側柱列で約 3.6m、北側柱列で約 3.6m ある。

［方向］いずれも東側柱列で見ると、A 建物跡は北で 2° 西に偏し、B 建物跡は北で 12° 東に偏する。

［柱穴］それぞれ 4 箇所で確認した。A 建物跡は直径 60 ～ 79cm の円形を呈し、残存する深さが 73 ～ 76cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒色や黒褐色の粘土～シルトである。柱痕跡を



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
SB184B-P2（P408）	A-A'	1	黒色（2.5Y2/1）	シルト	地山（Ⅸ層）粒～小ブロック少量、炭化物粒わずか、焼土中ブロック多量 【柱抜取穴】
		2	黒色（2.5Y2/1）	粘土	炭化物粒少量 【柱痕跡】
		3	黒褐色（10YR3/1）	シルト	炭化物粒少量 【掘方埋土】
SB184A-P2（P407）		4	黒褐色（10YR2/2）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック主体 【柱抜取穴】
		5	黒色（7.5YR2/1）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック主体 【柱抜取穴】
		6	黒色（10YR1.7/1）	粘土	地山（Ⅸ層）中ブロック中量 【掘方埋土】
SK141		7	黒褐色（10YR3/1）	シルト	炭化物粒少量、焼土粒わずか 【堆積土】
		8	黒褐色（7.5YR3/1）	シルト	炭化物粒・焼土粒少量 【埋土】
SB184B-P3（P402）	B-B'	1	黒褐色（10YR3/1）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック多量 【柱抜取穴】
		2	黒色（2.5Y2/1）	粘土	地山（Ⅸ層）中ブロックやや多量 【柱抜取穴】
SB184A-P3（P471）		3	黒褐色（10YR3/1）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック主体 【掘方埋土】
		4	黒色（10YR2/2）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック多量 【掘方埋土】
SB187-P4（P472）		5	黒褐色（10YR3/1）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロックやや多量、炭化物粒少量、焼土粒わずか 【掘方埋土】
		6	黒褐色（2.5Y3/1）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック多量 【掘方埋土】

第67図　SB184A・184B建物跡　平面図・断面図

1箇所、柱抜取穴を2箇所で確認した。柱痕跡は直径25cmの楕円形を呈する。B建物跡は直径60～92cmの円形や楕円形を呈し、残存する深さが63～68cmある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロック含む黒褐色粘土質シルト～シルトである。柱痕跡を2箇所、柱抜取穴を2箇所で確認した。柱痕跡は直径35～42cmの円形を呈し、うちP2では柱材が残存していた。

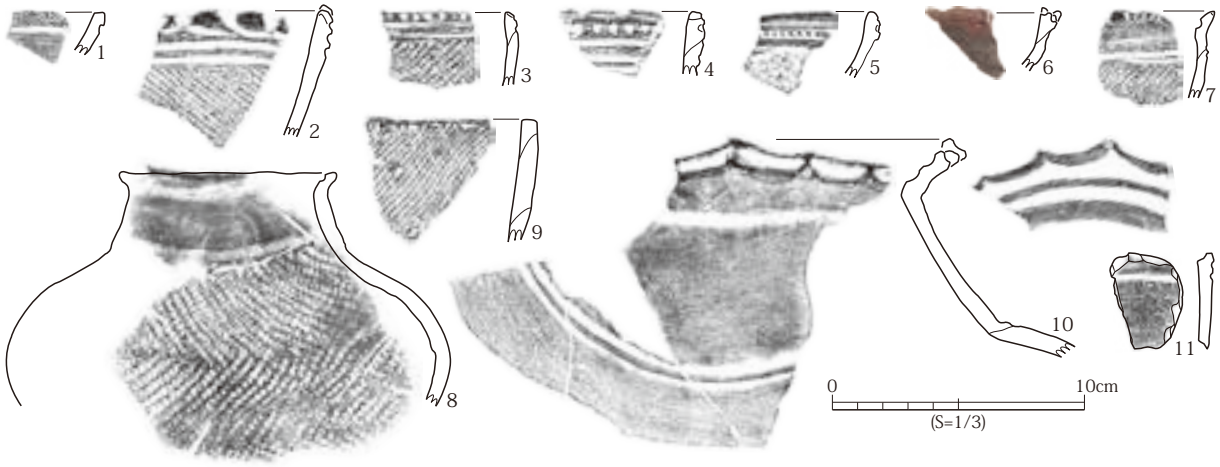
［出土遺物］A建物跡からは縄文土器鉢・浅鉢・皿、円盤状土製品、動物遺存体が出土し、B建物跡からは縄文土器深鉢・鉢・皿・壺、円盤状土製品、石核、動物遺存体が出土している（第68図）。

【SB185建物跡】（第69図）

［位置］F-23区東（第43図）

［検出面］Ⅵe層

［重複］SB168・183・184A・184B・186・191建物跡、SK141・143土坑と重複し、SB168・182A・



No.	器種	類型 1	類型 2	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	浅鉢	B1	Ⅰa	F-23 東・SB184A-P2 (P407) / 掘方埋土	平縁。帯状文（縄文）。縄文 LR	64-1	Po2642
2	鉢	A1df	ⅩⅡx	F-23 東・SB184A-P3 (P471) / 掘方埋土	平縁。二個一対の小突起＋ヘラ刻目。羊歯状の浮線文、平行沈線文。縄文 RL	64-2	Po2667
3	鉢	A1d	ⅩⅡx	F-23 東・SB184A-P1 (P479) / 掘方埋土	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR	64-3	Po2652
4	浅鉢	A1d	ⅩⅡb1	F-23 東・SB184A-P1 (P479) / 掘方埋土	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋刺突列	64-4	Po2653
5	鉢	A1	Ⅴ	F-23 東・SB184B-P3 (P402) / 掘方埋土	平縁。列点文	64-5	Po2638
6	皿	A1bf	Ⅶa	F-23 東・SB184B-P3 (P402) / 掘方埋土	平縁。小突起＋羊歯状浮線文。雲形文（浮彫表現、磨消縄文））。縄文原体不明。内外面・口唇部赤彩	64-7	Po2636
7	鉢	C1df	ⅩⅡx	F-23 東・SB184B-P2 (P408) / 掘方埋土	平縁。二個一対の山形突起か＋ヘラ刻目。平行沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	64-6	Po2644
8	壺	H1	ⅩⅢ	F-23 東・SB184B-P2 (P408) / 掘方埋土	口径 8.5cm、最大径（17.6cm）。平縁。横位沈線文。羽状縄文 RL/LR。口縁部内面沈線	64-8	Po2643
9	深鉢	A1	ⅩⅣa1	F-23 東・SB184B-P3 (P402) / 掘方埋土	平縁。0 段多条縄文 LR	64-9	Po2637
10	壺	H2cef	ⅩⅡx	F-23 東・SB184B-P2 (P408) / 抜取穴	小波状縁。山形突起（大・小）＋口唇部沈線。平行沈線文。突起・口縁部内面平行沈線文。外面赤彩	64-10	Po2645

No.	器　種	類型	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
11	円盤状土製品	Ac1	F-23 東・SB184A-P2 (P407) / 掘方埋土	長 38.3mm、幅 26.1mm、厚 5.8mm。円形、湾曲、剥離成形。平行沈線文	64-11	CO838

第68図　SB184A・184B建物跡　出土土器・土製品

182B 建物跡と SK141 土坑よりも古い。

［構造･規模］4 本の柱で構成され､東西に長い平面長方形を呈する建物跡である。北側柱列で約 2.7m、東側柱列で約 2.1m ある。

［方向］北側柱列で見ると、東で 38° 南に偏する。

［柱穴］3 箇所で確認した。直径 42 ～ 65cm の円形や楕円形を呈する。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒色や黒褐色の粘土質シルト～シルトである。柱痕跡を 1 箇所で確認した。柱痕跡は直径 17cm の円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器深鉢・壺、動物遺存体が出土している（第 71 図)。

【SB186 建物跡】（第 69・70 図）

［位置］F-23 区東（第 43 図）

［検出面］Ⅵe 層

［重複］SB182A・182B・183・184A・184B・185・187・188・189・190・191・192 建物跡、SK143 土坑と重複し、SB182A・182B・184A・184B・188・192 建物跡よりも古い。

［構造･規模］5 本の柱で構成され､南が張り出す平面五角形を呈する建物跡である。西側柱列で 3.6m、南側柱列で 2.5m、張出部の長さが約 0.7m ある。

［方向］西側柱列で見ると、北で 36° 西に偏する。

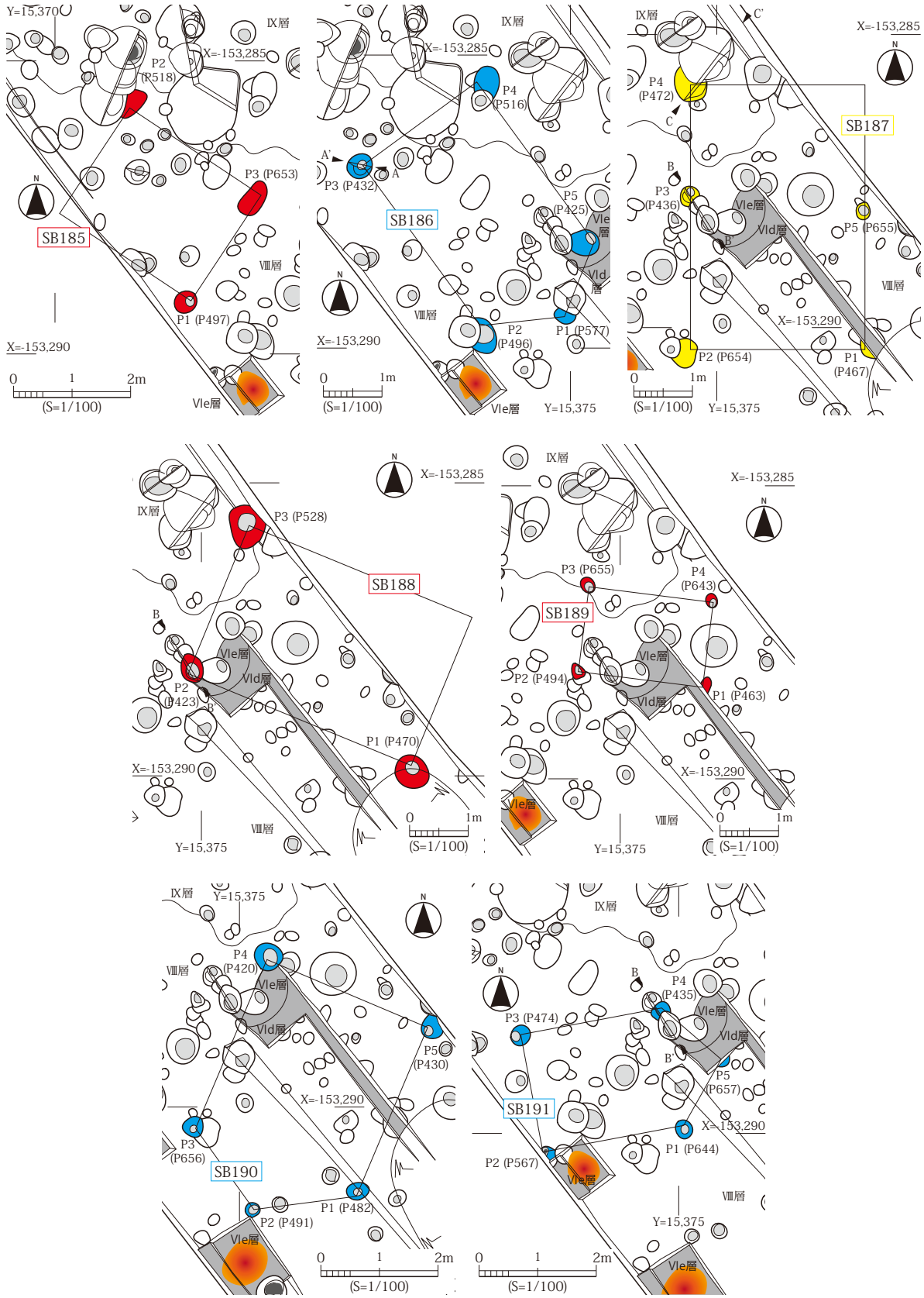
［柱穴］5 箇所で確認した。直径 38 ～ 65cm の円形や楕円形を呈し､残存する深さが 30cm ある。埋土は、

地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒色や黒褐色の粘土質シルト～シルトである。柱痕跡を 3 箇所で確認した。柱痕跡は直径 17 ～ 34cm の円形や楕円形を呈する。
［出土遺物］縄文土器、剥片、動物遺存体が出土している。

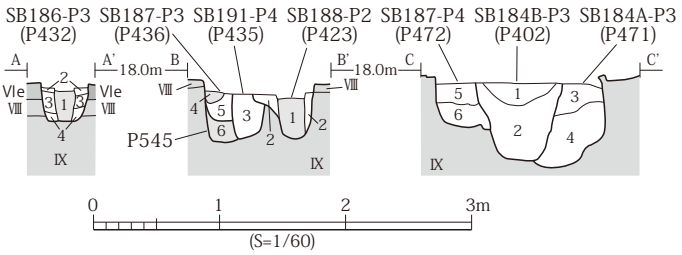
【SB187 建物跡】（第 69・70 図）
［位置］F-23 区東（第 43 図）
［検出面］Ⅷ層
［重複］SB182A・182B・184A・184B・186・188・189・190・191・192 建物跡と重複し、SB182A・182B・184B・188・190・191 建物跡よりも古い。
［構造・規模］6 本以上の柱で構成され、桁行 2 間以上、梁行 1 間の南北に長い平面長方形を呈する建物跡である。桁行は西側柱列で総長約 4.6m 以上あり、梁行は南側柱列で約 3.2m ある。桁行の柱間寸法は南から約 2.8m、約 1.8m である。
［方向］西側柱列で見ると、北で 1° 東に偏する。
［柱穴］5 箇所で確認した。直径 35 ～ 65cm の円形や楕円形を呈し、残存する深さが 32 ～ 43cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒褐色粘土質シルト～シルトである。柱痕跡を 2 箇所で確認した。柱痕跡は直径 15 ～ 19cm の円形を呈する。
［出土遺物］縄文土器深鉢、動物遺存体が出土している（第 71 図）。

【SB188 建物跡】（第 69・70 図）
［位置］F-23 区東（第 43 図）
［検出面］Ⅵ e 層
［重複］SB184A・186・187・189・190・191・192 建物跡と重複し、SB186・187・191・192 建物跡より新しい。
［構造・規模］4 本の柱で構成され、東西に長い平面長方形を呈する建物跡である。南側柱列で 4.1m、西側柱列で 2.7m ある。
［方向］南側柱列で見ると、東で 24° 南に偏する。
［柱穴］3 箇所で確認した。直径 51 ～ 74cm の円形や楕円形を呈する。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒褐色粘土～シルトである。柱痕跡をすべてで確認した。柱痕跡は直径 25 ～ 33cm の円形や楕円形を呈する。
［出土遺物］縄文土器鉢、磨石が出土している（第 71 図）。

【SB189 建物跡】（第 69 図）
［位置］F-23 区東（第 43 図）
［検出面］Ⅷ層
［重複］SB184A・184B・186・187・188・190・191・192 建物跡と重複する。これらとの新旧関係は

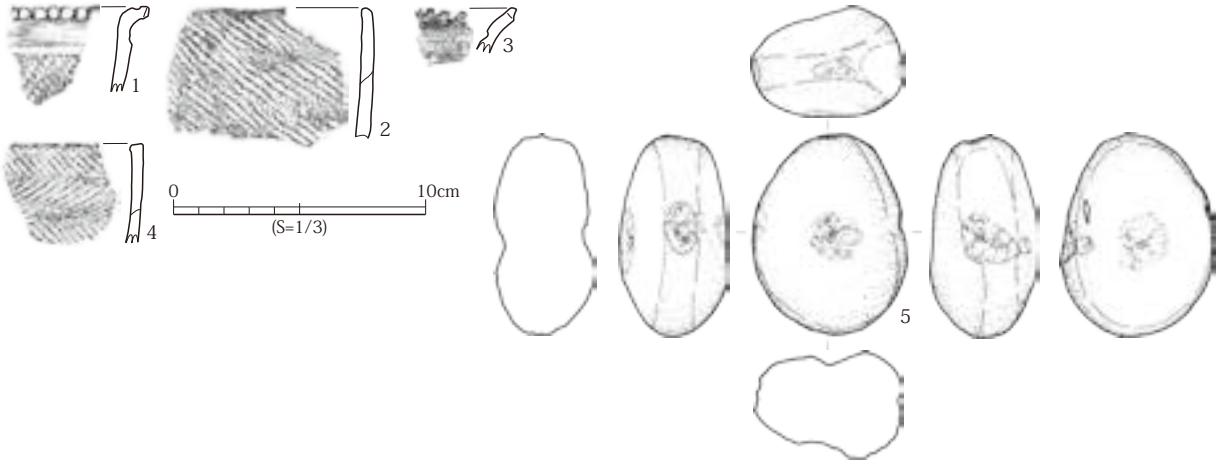


第69図　SB185・186・187・188・189・190・191建物跡　平面図



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　　徴
SB186-P3 (P432)	A-A'	1	黒色（10YR1.7/1）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック少量 【柱痕跡】
		2	黒褐色（10YR2/2）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック多量 【掘方埋土】
		3	黒色（10YR2/1）	シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック少量 【掘方埋土】
		4	黒色（10YR2/1）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック中量 【掘方埋土】
SB188-P2 (P423)	B-B'	1	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒～小ブロックわずか、砂中量、炭化物粒・焼土粒少量 【柱痕跡】
		2	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小～大ブロック中量 【掘方埋土】
SB191-P4 (P435)		3	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒～中ブロック中量 【掘方埋土】
SB187-P3 (P436)		4	黒褐色（10YR2/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒少量 【柱痕跡】
		5	黒褐色（10YR3/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小～中ブロック中量 【掘方埋土】
P545		6	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）小ブロックわずか、スクモ少量 【柱痕跡か】
SB184B-P3 (P402)	C-C'	1	黒褐色（10YR3/1）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック多量 【柱抜取穴】
		2	黒色（2.5Y2/1）	粘土	地山（Ⅸ層）中ブロックやや多量 【柱抜取穴】
SB184A-P3 (P471)		3	黒褐色（10YR3/1）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック主体 【掘方埋土】
		4	黒色（10YR2/2）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック多量 【掘方埋土】
SB187-P4 (P472)		5	黒褐色（10YR3/1）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロックやや多量、炭化物粒少量、焼土粒わずか 【掘方埋土】
		6	黒褐色（2.5Y3/1）	シルト	地山（Ⅸ層）中ブロック多量 【掘方埋土】

第70図　SB186・187・188・191建物跡　断面図



No.	器　種	類型 1	類型 2	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1cd	ⅩⅢ	F-23 東・SB185-P1 (P497) / 柱痕跡	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。縄文 LR	64-12	Po2663
2	深鉢	A1	ⅩⅣ a1	F-23 東・SB187-P4 (P472) / 掘方埋土	平縁。無節縄文 R	64-13	Po2651
3	鉢	C1d	ⅩⅤ	F-23 東・SB188-P1 (P470) / 柱痕跡	平縁。ヘラ刻目。口縁部内面沈線	64-14	Po2649
4	鉢	A1	ⅩⅣ a2	F-23 東・SB191-P3 (P474) / 堆積土	平縁。羽状縄文 RL/LR	64-15	Po2650

No.	器種	類型	区・遺構 / 層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
5	磨石	-	F-23 東・SB188-P3（P528）/ 掘方埋土	安山岩	79.1	58.9	42.0	220.14	完形	0	0	凹石→	1	0		64-16	S6127

第71図　SB185・187・188・191建物跡　出土土器・石器

不明である。

［構造・規模］4 本の柱で構成され、東西に長い平面長方形を呈する建物跡である。北側柱列で 2.1m、西側柱列で 1.4m ある。

［方向］北側柱列で見ると、東で 7° 南に偏する。

［柱穴］4 箇所で確認した。直径 24 ～ 29cm の円形や楕円形を呈する。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロッ

クを含む黒色や黒褐色の粘土～シルトである。柱痕跡を 3 箇所で確認した。柱痕跡は直径 16 ～ 17cm の円形や楕円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器、剥片が出土している。

【SB190 建物跡】（第 69 図）

［位置］F-23 区東（第 43 図）

［検出面］Ⅵ e 層

［重複］SB184A・186・187・188・189・191・192 建物跡と重複し、SB187 建物跡より新しい。

［構造･規模］5 本の柱で構成され､南が張り出す平面五角形を呈する建物跡である。西側柱列で 3.2m、南側柱列で 3.0m、張出部の長さが 0.9m ある。

［方向］西側柱列で見ると、北で 24° 東に偏する。

［柱穴］5 箇所で確認した。直径 26 ～ 49cm の円形や楕円形を呈する。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒色や黒褐色の粘土質シルト～シルトである。柱痕跡をすべてで確認した。柱痕跡は直径 13 ～ 30cm の円形や楕円形を呈する。

［出土遺物］縄文土器、磨石が出土している。

【SB191 建物跡】（第 69・70 図）

［位置］F-23 区東（第 43 図）

［検出面］Ⅵ e 層

［重複］SB184A・184B・185・186・187・188・189・190・192 建物跡と重複し、SB187 建物跡より新しく、SB188 建物跡よりも古い。

［構造･規模］5 本の柱で構成され､東が張り出す平面五角形を呈する建物跡である。南側柱列で 2.4m、西側柱列で 2.0m、張出部の長さが約 0.9m ある。

［方向］南側柱列で見ると、東で 9° 北に偏する。

［柱穴］5 箇所で確認した。直径 33 ～ 38cm の円形を呈し､残存する深さが 46cm ある。埋土は､地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒色や黒褐色の粘土質シルトである。柱痕跡を 3 箇所で確認した。柱痕跡は直径 14 ～ 18cm の円形を呈し、うち P2 では柱材が残存していた。

［出土遺物］縄文土器鉢、動物遺存体が出土している（第 71 図）。

【SB192 建物跡】（第 72 図）

［位置］F-23 区東（第 43 図）

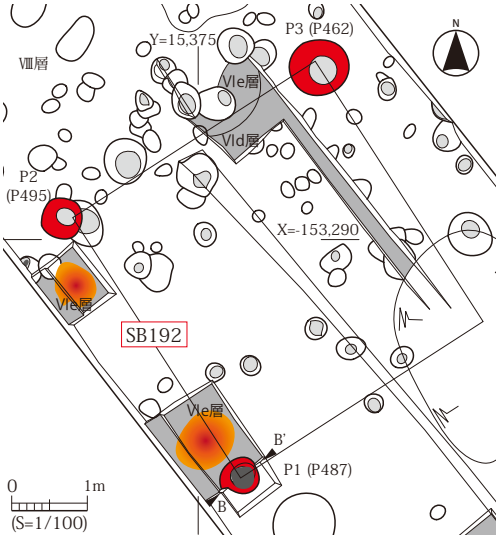
［検出面］Ⅵ e 層

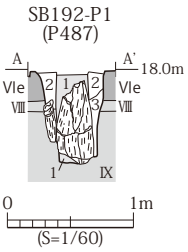
［重複］SB184A・184B・186・187・188・189・190・191 建物跡と重複し、SB186 建物跡より新しい。

［構造･規模］4 本の柱で構成され､平面正方形を呈する建物跡である｡西側柱列で 4.2m､北側柱列で 3.9m ある。

［方向］西側柱列で見ると、北で 34° 西に偏する。

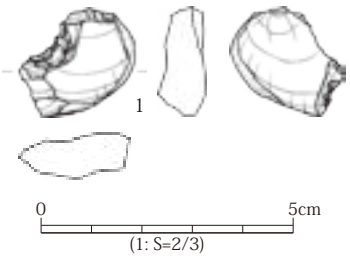
［柱穴］3 箇所で確認した。直径 55 ～ 79cm の円形や楕円形を呈し、残存する深さが 72cm ある。埋土は、地山（Ⅸ層）ブロックを多く含む黒褐色粘土～シルトである。柱痕跡をすべてで確認した。柱痕跡は直径 24 ～ 39cm の円形を呈し、うち P1 では柱材が残存していた（第 74 図）。この柱材について放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、^{14}C 年代が 2,390±20yrBP（2 試料）および 2,400±20yrBP（1 試料）であり、最外年輪のウィグルマッチングによる暦年較正年代（1σ）が 449 ～ 401calBC となり、縄文時代晩期末葉（大洞 A' 式）から弥生時代前期に当たる年代値（小林　2019）が得られた。また、柱を支持したものとみられる木柱片が、柱材に接して出土した（第 73 図）。この木柱片についても放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、^{14}C 年代が 2,410±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 508 ～ 411calBC となり、縄文時代晩期末葉（大洞 A' 式）から弥生時代前期に

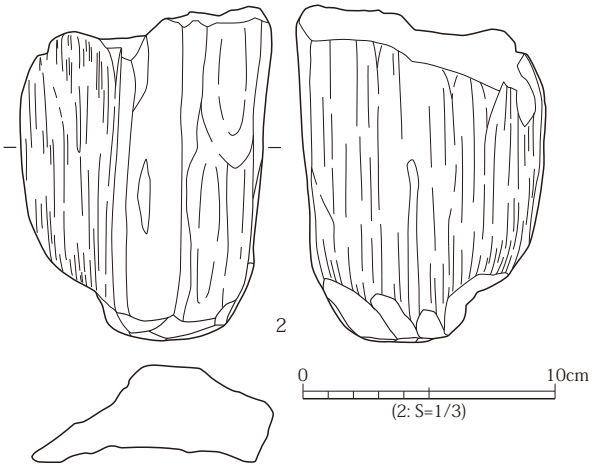




調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
SB192-P1 (P487)	A-A'	1	黒色 (10YR2/1)	粘土質シルト	炭化物粒少量、焼土粒わずか 【柱痕跡】
		2	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒～小ブロック中量、炭化物粒少量、焼土粒わずか 【掘方埋土】
		3	黒褐色 (10YR3/1)	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）小～中ブロック多量 【掘方埋土】

第72図　SB192建物跡　平面図・断面図

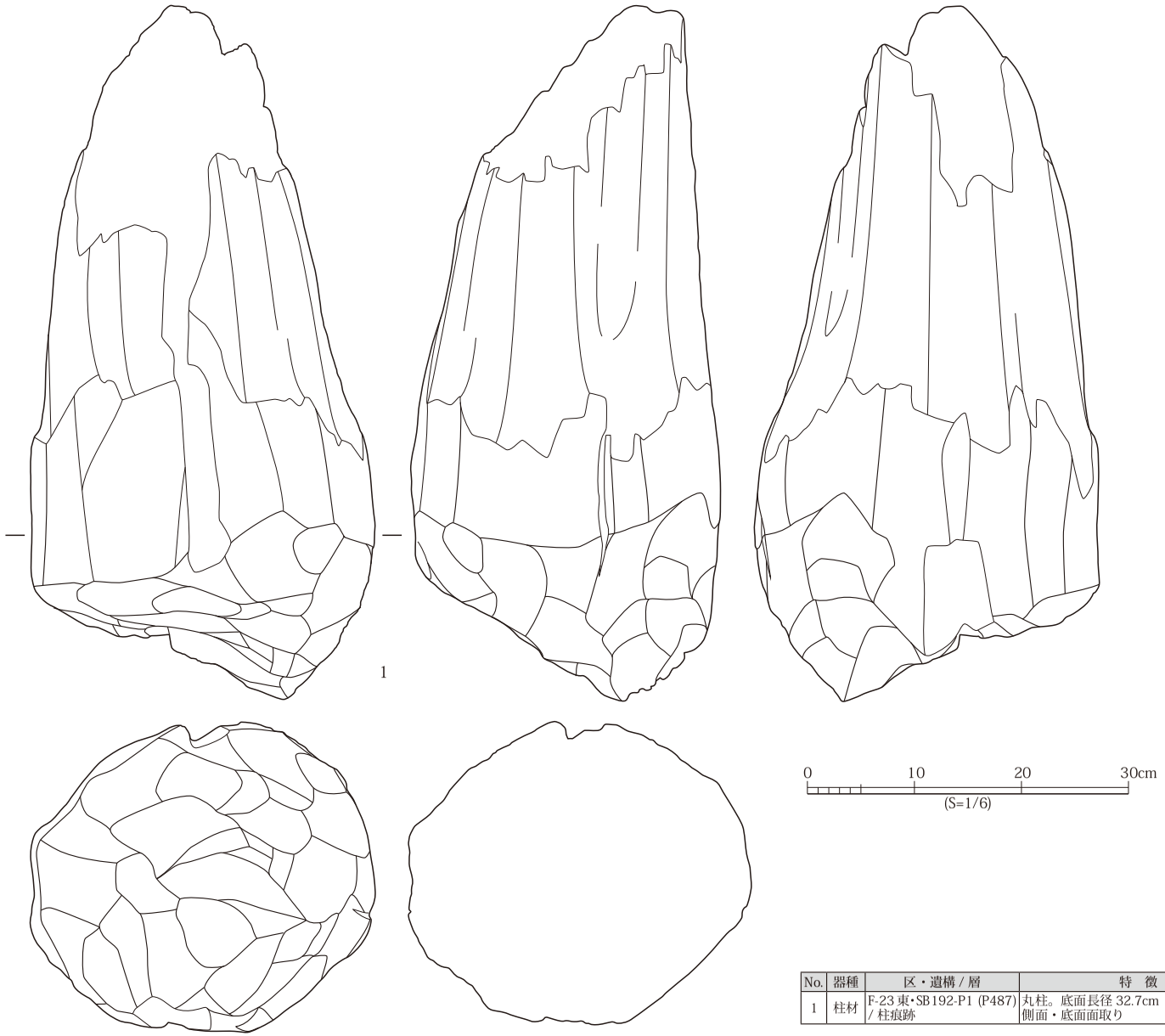




No.	器　種	類型	区・遺構 / 層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備考	写真図版	登録
1	不定形石器	Ⅲ d	F-23 東・SB192-P1（P487）/ 掘方埋土	碧玉 A	20.2	22.6	6.9	3.73	完形	0	0	0	1	0		64-17	S6109

No.	器　種	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
2	柱の支持材か	F-23 東・SB192-P1 (P487) / 3	柱材と同一個体か	64-18	W60

第73図　SB192建物跡　出土石器・木製品

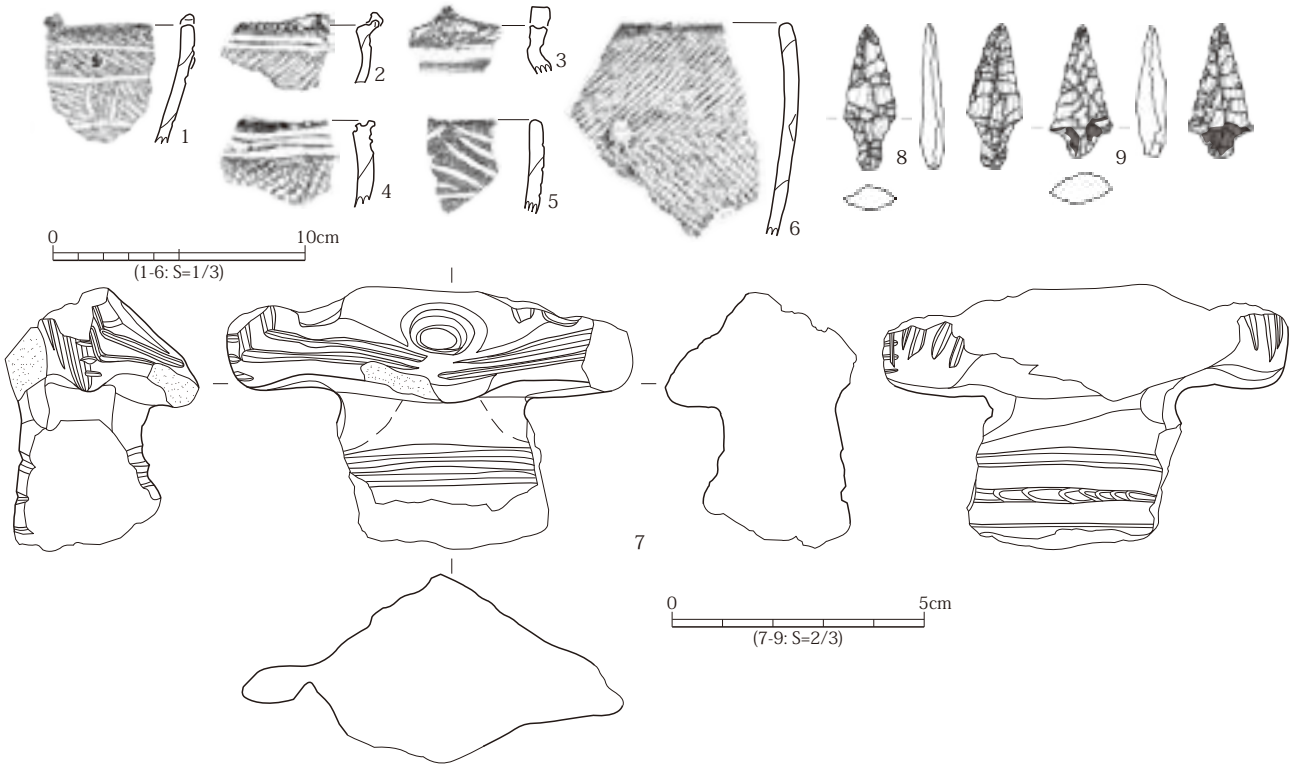


No.	器種	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	柱材	F-23 東・SB192-P1 (P487) / 柱痕跡	丸柱。底面長径 32.7cm ×短径 29.5cm。側面・底面面取り	64-19	W58

第74図　SB192建物跡　出土柱材

第7表　東C・D丘陵間　堀立柱建物跡一覧

遺構名	間数		平面形	平面規模						張出長(m)	方向		柱穴掘方			柱痕跡径(cm)	柱材径(cm)	柱抜取穴(個)	備　考（出土遺物など）	挿図番号	
				桁行			梁行						規模（cm）								
	桁行	梁行		総長(m)	計測柱列	柱間寸法(m)	総長(m)	計測柱列	柱間寸法(m)		角度	計測柱列	直径	深度	平面形					平面	断面
SB153	1	1	長方形（南北棟）	3.6	東	3.6	2.5	北	2.5	-	N-26-E	東	59-68	-	円形	22-31	-	1	縄文土器深鉢・鉢・浅鉢、土偶頭部1、円盤状土製品1	44	-
SB154	1	1	長方形（南北棟）	4.0	東	4.0	2.9	南	2.9	-	N-11-W	東	47-79	49	円形、楕円形	27-29	-	1	縄文土器深鉢	44	45
SB155	1	1	長方形（南北棟）	4.2	東	4.2	2.8	北	2.8	-	N-10-W	東	65-72	33-67	円形、楕円形	38	34	2	縄文土器深鉢・鉢・浅鉢、円盤状土製品2、動物遺存体、種実（オニグルミ）	44	45
SB156	2以上	1	長方形（東西棟）	5.5以上	北	東から 2.7 2.9	3.8	西	3.8	-	E-38-N	北	48-82	14-64	円形、楕円形	29-34	-	2	縄文土器深鉢・鉢、磨石1	44	41 45
SB157	1	1	五角形（東張出）	3.4	北	3.4	2.8	東	2.8	1.3	E-19-N	北	38-54	-	円形、楕円形	19-27	-	0	縄文土器深鉢・鉢、楔形石器1、剥片2、動物遺存体	44	-
SB158	1	1	正方形	2.7	北	2.7	2.5	西	2.5	-	E-36-N	北	39-49	32-58	円形、楕円形	19-32	-	0	縄文土器深鉢・鉢、磨石1、剥片1	44	41 45
SB159	1	1	長方形（東西棟）	3.5	北	3.5	2.3	東	2.3	-	E-3-N	北	34-54	-	円形、楕円形	15-19	-	0	縄文土器、砕片1	44	-
SB160	1	1	五角形（西張出）	2.9	北	2.9	2.9	西	2.9	0.6	E-29-S	北	28-44	-	円形、楕円形	25-27	-	0	縄文土器深鉢	47	-
SB161	1	1	正方形	2.6	東	2.6	2.4	南	2.4	-	N-11-W	東	32-49	-	円形、楕円形	22	-	1	縄文土器深鉢・袖珍土器深鉢、石核1	47	-
SB162A	1	1	正方形	3.6	北	3.6	3.3	西	3.3	-	E-41-S	北	28-63	47	円形、楕円形	-	-	3	縄文土器深鉢・鉢、円盤状土製品1、不定形石器1、動物遺存体	48	41 48
SB162B	1	1	正方形	3.4	北	3.4	3.2	西	3.2	-	E-44-S	北	64-88	50-70	円形、楕円形	29-40	-	1	縄文土器深鉢・鉢・浅鉢・皿、石皿1、磨石1、剥片3、石核1、石刀1	48	41 48
SB163	1	1	正方形	3.0	西	3.0	2.9	北	2.9	-	N-11-E	西	25-41	-	円形、楕円形	16-22	-	0	縄文土器深鉢・鉢	50	-
SB164	1	1	正方形	3.2	西	3.2	3.0	北	3.0	-	N-10-W	西	44-53	75	円形	12-21	-	0	縄文土器、石核1、動物遺存体	51	51
SB165	1	1	長方形（南北棟）	2.2	西	2.2	1.7	北	1.7	-	N-20-E	西	33-49	63	円形、楕円形	16-24	-	0	縄文土器深鉢・鉢・浅鉢・台部、砥石1、砕片1	51	41 51
SB166	1	1	五角形（西張出）	2.2	北	2.2	1.5	西	1.5	0.4	E-12-N	北	27-40	58	円形、楕円形	16-20	-	0	縄文土器深鉢・鉢・浅鉢、耳飾、動物遺存体	51	41 51
SB167	1	1	正方形	2.9	東	2.9	2.9	北	2.9	-	N-39-W	東	47-49	45	円形、楕円形	15	-	2	縄文土器深鉢・鉢、打製石斧1、剥片1	51	51
SB168	5	2	長方形（南北棟）	6.7	東	南から 1.1 1.3 1.4 1.6 1.4	3.4	北	東から 1.9 1.5	-	N-36-W	東	38-57	-	円形、楕円形	17-27	-	1	縄文土器深鉢・鉢	53	41
SB169	1	1	長方形（南北棟）	2.9	東	2.9	2.0	北	2.0	-	N-12-W	東	29-35	-	円形	16-19	-	0	縄文土器、不定形石器1	54	-
SB170	1	1	長方形（南北棟）	3.8	東	3.8	3.0	北	3.0	-	N-12-W	東	59-60	-	円形、楕円形	23-28	-	0	縄文土器深鉢・鉢・浅鉢、磨製石斧1、石皿1、円盤状石製品3、動物遺存体	55	-
SB171	1	1	長方形（東西棟）	3.0	南	3.0	2.6	西	2.6	-	E-14-N	南	34-38	44	円形、楕円形	19-23	-	0	縄文土器、磨製石斧1	57	57
SB172	1	1	五角形（南張出）	2.9	東	2.9	2.0	南	2.0	0.3	N-8-W	東	48-62	61-65	円形	16-35	35	2	縄文土器深鉢・鉢・皿、石皿3、剥片1、石核1、木の根	57	57
SB173	1	1	長方形（南北棟）	3.1	東	3.1	2.5	南	2.5	-	N-11-W	東	57-78	55	円形、楕円形	24-31	10	0	縄文土器鉢・浅鉢・壺、土製小玉1、磨石1	57	57
SB174	1	1	五角形（南張出）	2.4	西	2.4	2.2	南	2.2	0.4	N-19-W	西	30-43	51	円形、楕円形	15-24	-	1	縄文土器（袖珍土器）台付鉢、剥片1	59	59
SB175	1	1	五角形（南張出）	2.9	西	2.9	2.0	北	2.0	0.8	N-30-W	西	39-53	48	円形、楕円形	18-27	-	1	縄文土器脚部、剥片1	59	59
SB176	1	1	長方形（東西棟）	2.3	南	2.3	1.8	西	1.8	-	E-30-S	南	29-34	18	楕円形	12-14	-	0	縄文土器深鉢	59	41 59
SB177	1	1	正方形	2.4	南	2.4	2.2	西	2.2	-	E-8-S	南	23-31	-	円形、楕円形	10-20	-	0	縄文土器	61	-
SB178	1	1	正方形	2.7	東	2.7	2.6	北	2.6	-	N-5-E	東	31-51	-	円形、楕円形	17-21	-	0		62	-
SB179	1	1	正方形	2.7	北	2.7	2.6	西	2.6	-	E-9-N	北	31-32	-	円形、楕円形	14-17	-	0	縄文土器	63	-
SB180	1	1	長方形（南北棟）	3.1	西	3.1	2.5	北	2.5	-	N-44-W	西	35-62	56	円形、楕円形	17-27	-	1	縄文土器深鉢・鉢、剥片1	64	65
SB181	1	1	長方形（東西棟）	1.8	北	1.8	1.4	西	1.4	-	E-19-N	北	25-30	-	円形、楕円形	13-18	-	0	縄文土器	64	-
SB182A	1	1	五角形（南張出）	2.7	西	2.7	2.0	南	2.0	0.8	N-0	西	38-65	44-71	円形	11-49	-	1	縄文土器深鉢・鉢・浅鉢・袖珍土器鉢、磨石1、砥石1、剥片2、竪櫛、動物遺存体、種実（オニグルミ）	64	65
SB182B	1	1	五角形（南張出）	3.0	西	3.0	2.3	南	2.3	0.9	N-7-W	西	38-53	53-72	円形、楕円形	11-33	-	2	縄文土器深鉢・鉢・皿、不定形石器1、磨石2、剥片1、動物遺存体	64	65
SB183	1	1	五角形（西張出）	3.0	南	3.0	2.4	東	2.4	0.9	E-11-S	南	42-59	-	円形、楕円形	19-22	-	0	縄文土器深鉢	64	-
SB184A	1	1	正方形	4.0	東	4.0	3.9	北	3.9	-	N-2-W	東	60-79	73-76	円形	25	-	2	縄文土器鉢・浅鉢・皿、円盤状土製品2、動物遺存体	67	67
SB184B	1	1	正方形	3.6	東	3.6	3.6	北	3.6	-	N-12-E	東	60-92	63-68	円形、楕円形	35-42	31	2	縄文土器深鉢・鉢・皿・壺、円盤状土製品1、石核1、動物遺存体	67	67
SB185	1	1	長方形（東西棟）	2.7	北	2.7	2.1	東	2.1	-	E-38-S	北	42-65	-	円形、楕円形	17	-	0	縄文土器深鉢・壺、動物遺存体	69	-
SB186	1	1	五角形（南張出）	3.6	西	3.6	2.5	南	2.5	0.7	N-36-W	西	38-65	30	円形、楕円形	17-34	-	0	縄文土器、剥片1、動物遺存体	69	70
SB187	2以上	1	長方形（南北棟）	4.6	西	南から 2.8 1.8	3.2	南	3.2	-	N-1-E	西	35-65	32-43	円形、楕円形	15-19	-	0	縄文土器深鉢、動物遺存体	69	70
SB188	1	1	長方形（東西棟）	4.1	南	4.1	2.7	西	2.7	-	E-24-S	南	51-74	-	円形、楕円形	25-33	-	0	縄文土器鉢、磨石1	69	41 70
SB189	1	1	長方形（東西棟）	2.1	北	2.1	1.4	西	1.4	-	E-7-S	北	24-29	-	円形、楕円形	16-17	-	0	縄文土器、剥片2	69	-
SB190	1	1	五角形（南張出）	3.2	西	3.2	3.0	北	3.0	0.9	N-24-E	西	26-49	-	円形、楕円形	13-30	-	0	縄文土器、磨石1	69	41
SB191	1	1	五角形（東張出）	2.4	南	2.4	2.0	西	2.0	0.9	E-9-N	南	33-38	46	円形	14-18	8（確認面）	0	縄文土器鉢、動物遺存体	69	70
SB192	1	1	正方形	4.2	西	4.2	3.9	北	3.9	-	N-34-W	西	55-79	72	円形、楕円形	24-39	29	0	縄文土器深鉢・鉢・浅鉢、不定形石器1、剥片4、動物遺存体、種実（オニグルミ）	72	72



No.	器　種	類型 1	類型 2	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1f	Ⅰ Ba	F-23 東・P486 / 堆積土	平縁。山形突起（頂部刻み）。帯状文（縄文）＋貼瘤。縄文 RL	65-1	Po2655
2	鉢	B1cdf	ⅩⅢ	F-23 東・P374 / 堆積土	平縁。二個一対の山形突起＋ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。縄文 LR	65-2	Po2626
3	深鉢	B	ⅩⅢ	F-23 東・P391 / 堆積土	山形突起＋突起間沈線。横位沈線文。口縁部内面沈線	65-3	Po2630
4	深鉢	B1cf	Ⅸ a	F-23 東・P493 / 堆積土	平縁。口唇部平行沈線文。π字文（下向）。縄文 LR	65-4	Po2661
5	鉢	A1	ⅩⅡ x	F-23 東・P391 / 堆積土	平縁。弧状の平行沈線文	65-5	Po2631
6	深鉢	A1	ⅩⅣ a1	F-23Bb・P305 / 掘方埋土	平縁。羽状縄文 LR/RL。盲孔 1	65-6	Po2584

No.	器　種	類型	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
8	石鏃	Ⅰ a1B	F-23Ab・P347 / 堆積土	珪質頁岩 A	28.0	10.2	3.8	0.94	完形	0	1	0	0	0		65-8	S6061
9	石鏃	Ⅰ a1C	F-23 東・P508 / 堆積土	珪質頁岩 A	25.5	12.5	5.4	1.20	尖頭部欠	0	2	0	0	B		65-9	S6118

No.	器種	類型	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
7	土偶頭部	-	F-23 北・P342 / 掘方埋土	残存長 49.6mm、残存幅 80.4mm、残存厚 35.8mm。中実。顔：環状沈線（口）、ヘラ刻目＋側縁に沈線文（耳）、顔の輪郭に沿う平行沈線文。首と胸部の境に平行沈線文。後頭部：ヘラ刻目＋縦位の沈線文（耳）。背部：平行沈線文＋刺突列	65-7	CO593

第75図　その他のピット　出土土器・土製品・石製品

当たる年代値（小林　前掲）が得られている（分析編第 2 章）。

［出土遺物］縄文土器深鉢・鉢・浅鉢、不定形石器、剥片、動物遺存体、種実（オニグルミ）が出土している（第 73 図）。また、P1 の掘方埋土から出土した木材片について放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、^{14}C 年代が 2,410±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 508 ～ 410calBC となり、縄文時代晩期末葉（大洞 A' 式）から弥生時代前期に当たる年代値（小林　2019）が得られている（分析編第 2 章）。

（2）石斧集積遺構

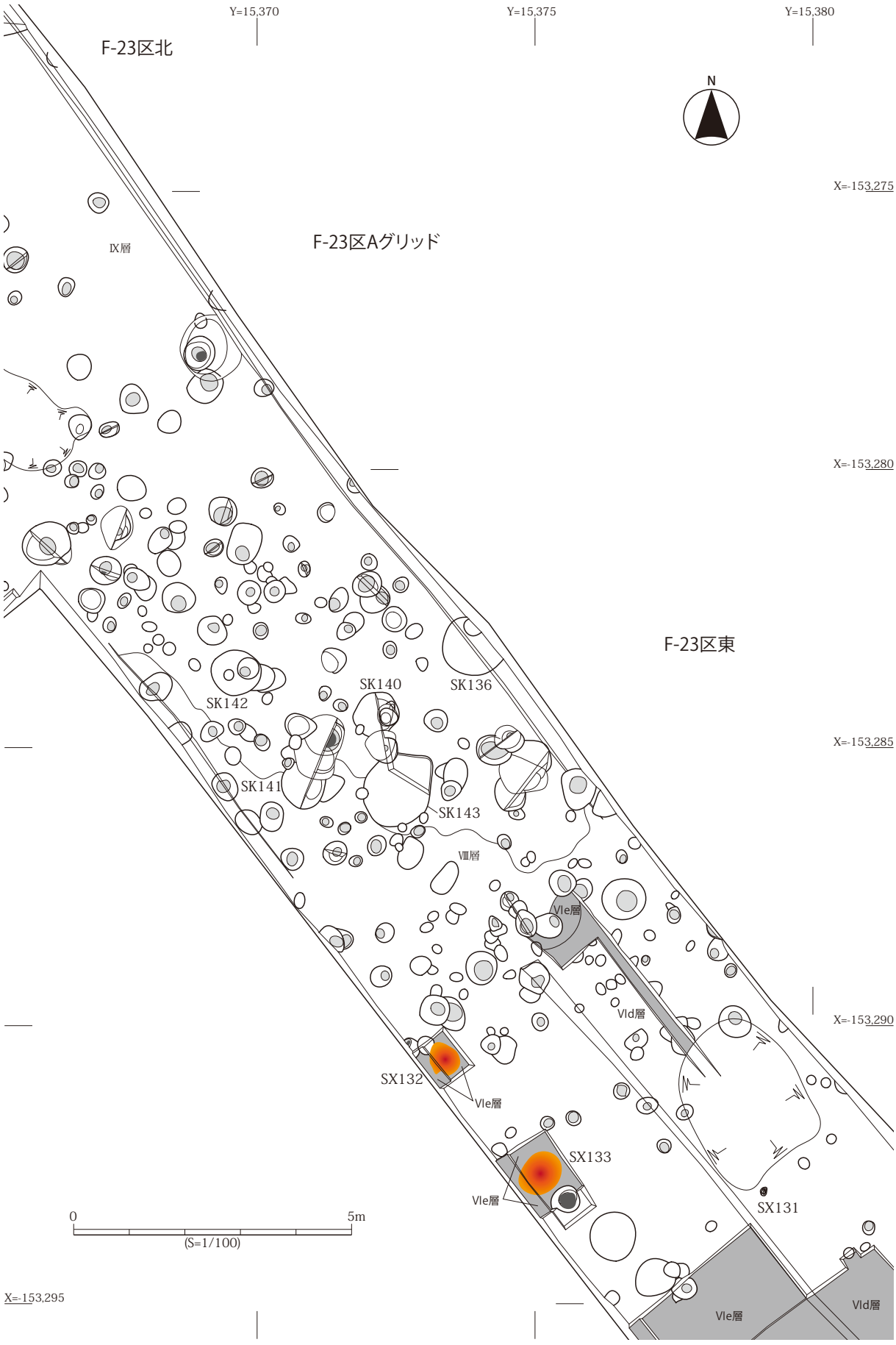
F-23 区東の南東側、掘立柱建物群（ピット群）の南東端部（丘陵裾部）で 1 基検出した。

【SX131 石斧集積遺構】（第 78 図）

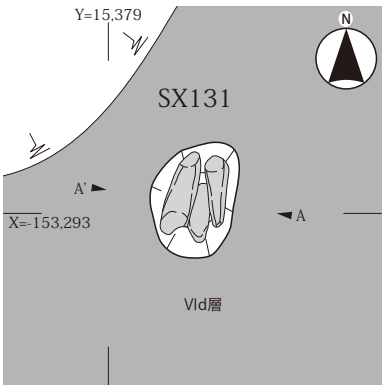
［位置］F-23 区東の南東側（第 77 図）

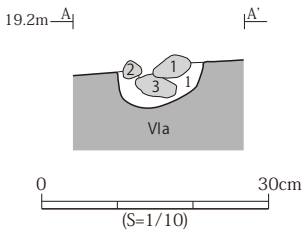
［検出面］Ⅵ d 層

第76図　土坑・溝跡・その他の遺構　平面図（1）

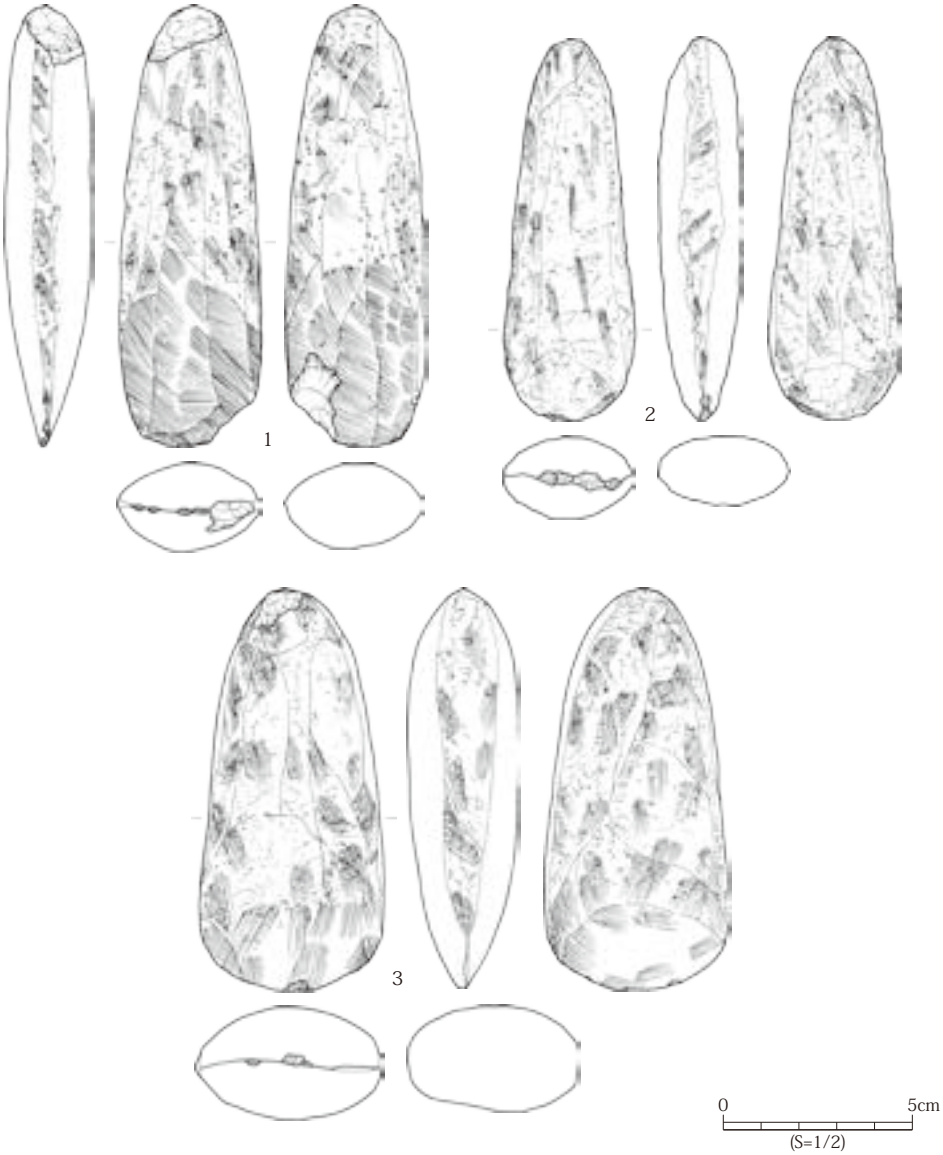


第77図　土坑・溝跡・その他の遺構　平面図（2）





遺構	層 序		土 色	土 性	特 徴
SX131	A-A'	1	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	スクモ少量、小礫わずか 【堆積土】



No.	器 種	類型	区・遺構 / 層	石 材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備 考	写真図版	登録
1	磨製石斧	Ⅰ a1	F-23 東・SX131	凝灰質泥岩	116.2	36.9	22.6	133.41	刃部欠	0	0	0	0	0		66-1	S6152
2	磨製石斧	Ⅰ a1	F-23 東・SX131	砂岩	100.3	34.0	21.6	101.03	完形	0	0	0	0	0		66-2	S6154
3	磨製石斧	Ⅰ a1	F-23 東・SX131	凝灰質泥岩	105.1	47.7	29.6	202.47	完形	0	0	0	0	0		66-3	S6153

第78図　SX131石斧集積遺構　平面図・断面図、出土石器

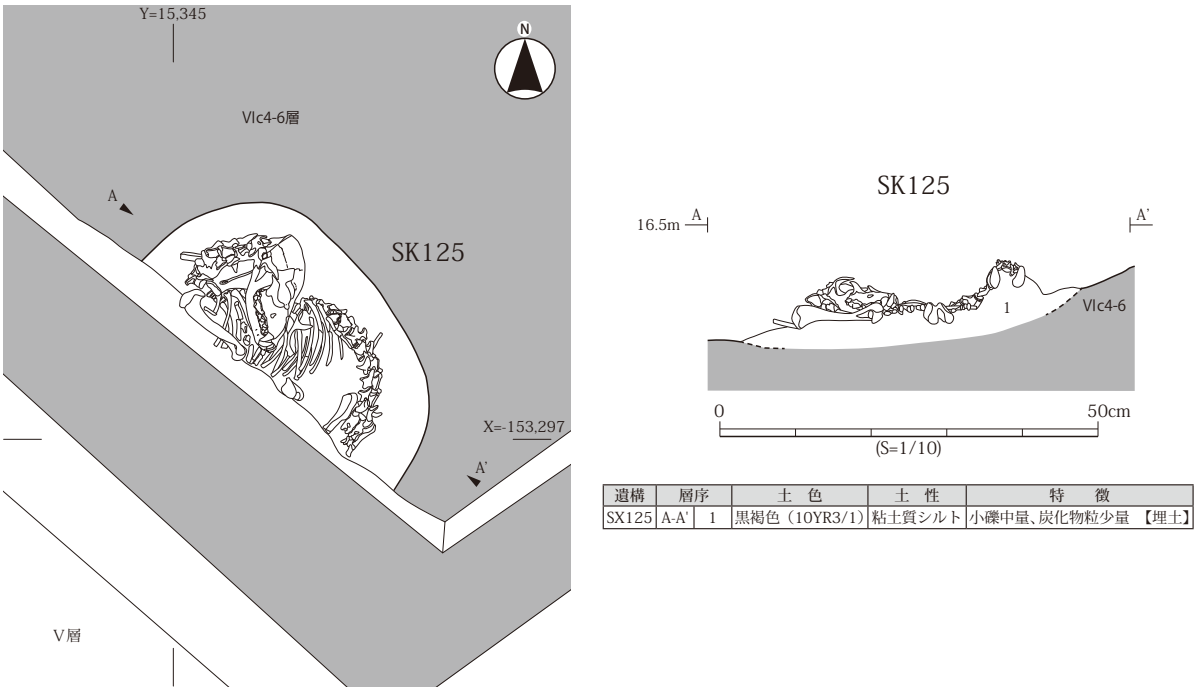
［重複］なし。
［構造･規模］長径 16cm ×短径 11cm の平面楕円形を呈し､残存する深さが 5cm の断面皿形を呈する。
［堆積土］1 層確認し、遺物包含層（Ⅵ b 層）とみられる黒色粘土質シルトが自然堆積している。
［遺物集積の状況］磨製石斧 3 点を寝かせて、南北方向で並列させた状態で集積（埋納）されている。石斧 1（第 78 図 1）と石斧 2（同図 2）がほぼ同じ高さに並び､石斧 3（第 78 図 3）が下位に位置する。石斧 1 のみ刃部が南を向き、石斧 2・3 は刃部が北を向く。
［出土遺物］磨製石斧が 3 点出土している（第 78 図）。

(3) 埋葬犬骨

埋葬犬骨は F-23 区 Db グリッドから Fa グリッドにかけて 5 基検出した。掘立柱建物群から南西にやや離れた場所（最短距離で約 9.1m）にあり、遺物包含層が平坦に堆積して微高地を形成している場所から斜面部にかけて形成される。1 基（SK127）が 2 体同時埋葬、残る 4 基が 1 体埋葬である。これらのうち、SK125・127・128 については土壌ごと切り取って保存している。なお、諸属性を第 8 表にまとめた。また、埋葬骨の詳細については、本遺跡の平成 21 年度発掘調査報告書（宮城県文化財調査報告書第 234 集『北小松遺跡』分析編第 3 章（古賀日加里・富岡直人「北小松遺跡出土イヌ遺存体（埋葬犬）」））ですでに報告しており、そちらを参照されたい。

【SK125 埋葬犬骨】（第 79 図）
［位置］F-23 区 Fa グリッド（第 40 図）
［検出面］Ⅵ c4 層
［重複］なし。
［規模］平面形は長径 45cm、短径 21cm 以上の楕円形とみられる。深さは不明である。
［壁・底面］底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がるものとみられる。
［埋土］炭化物を少量含む黒褐色粘土質シルトで埋め戻されている。
［埋葬遺体］若犬 1 体が埋葬されている。左側を上にした姿勢で、頭部は北西に位置し、頭部を背側に反転させて胸部に乗せている。椎骨は北西から南東へ屈曲するように並ぶ。土層確認および排水のために先行して掘削したサブトレンチにより前肢の橈骨・尺骨以下と後肢の大腿骨以下が失われているが、前肢は強く屈曲している状況が伺える。
［出土遺物］遺物は出土していない。

【SK127 埋葬犬骨】（第 80 図）
［位置］F-23 区 Db グリッド（第 40 図）
［検出面］Ⅵ e2 層
［重複］なし。
［規模］平面形は長径 66cm、短径 42cm の長楕円形を呈する。深さは不明である。



遺構	層序		土　色	土　性	特　　徴
SX125	A-A'	1	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	小礫中量、炭化物粒少量　【埋土】

第79図　SK125埋葬犬骨　平面図・断面図

［埋土］炭化物粒や地山（Ⅸ層）粒を少量含む黒色シルト質粘土で埋め戻されている。

［埋葬遺体］幼犬2体（第80図1（赤）・2（青））が埋葬されている。埋土の差異が見られず、遺体の関節の残存が良好で、人為的な破損が見られないこと、また遺体の埋葬姿勢から、2体同時埋葬とみられる。埋葬の順序は2→1である。2は右側を上にした姿勢で、頭部は南東に位置するが、頭部を上下に反転させて胸部に乗せている。椎骨は南東から北西へ屈曲するように並ぶ。前肢はほぼ伸展し、後肢は腹側へ屈曲する。1は、上体で左側を上にしているが、下体は腹部を上にしているように、身体を強く曲げた不自然な姿勢である。頭部は南東に位置し、上体を強く反転させて腹部に乗せている。このため、椎骨は下体側で南西から北東に並び、上体側は南東から北西に並ぶ。前肢は、右が伸展し、左が強く屈曲している。後肢はともに強く屈曲する。このように、後から埋葬された遺体（1）が不自然な姿勢である理由として、それぞれ顔面が他の個体の胴部に覆われないように意図的に埋葬されたものと考えられている（古賀・富岡　2014）。

［出土遺物］遺物は出土していない。

【SK128 埋葬犬骨】（第81図）

［位置］F-23区Eaグリッド（第40図）

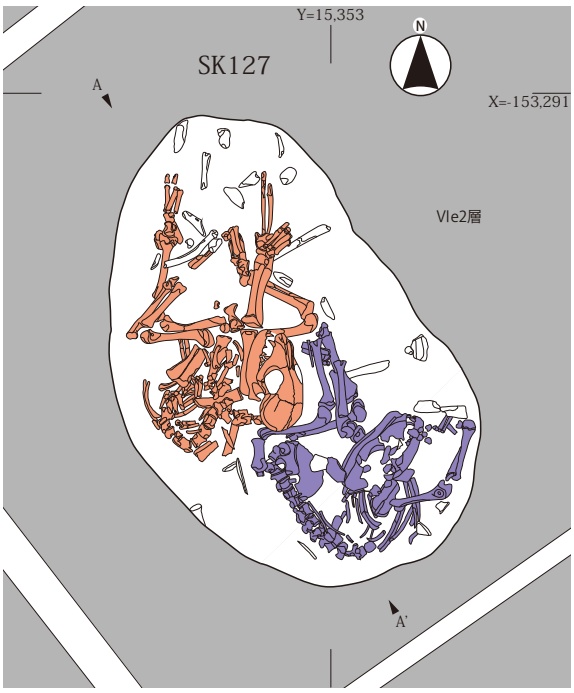
［検出面］Ⅵc7～13層

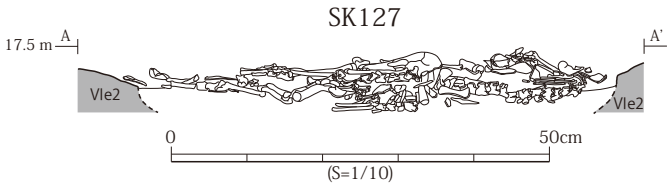
［重複］なし。

［規模］長径65cm、短径38cmの長楕円形を呈する。深さは不明である。

［埋土］炭化物粒や地山（Ⅸ層）粒を少量含む黒色シルト質粘土で埋め戻されている。

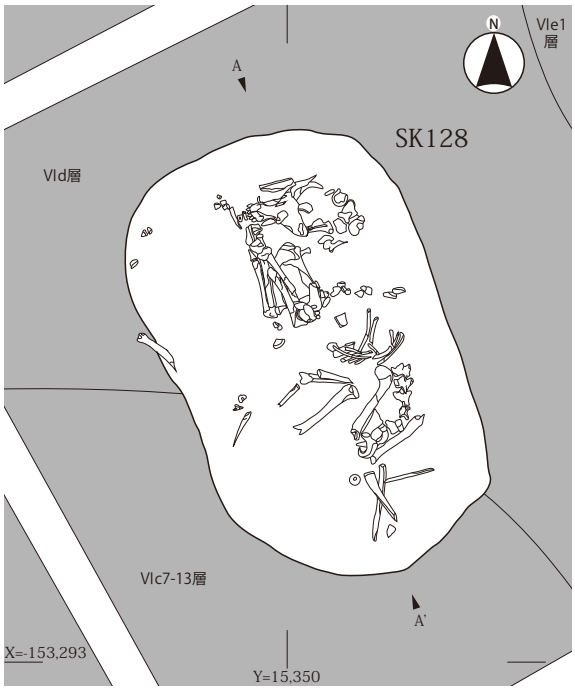
［埋葬遺体］幼～若犬が1体埋葬されている。左側を上にした姿勢で、頭部は北に位置する。椎骨は

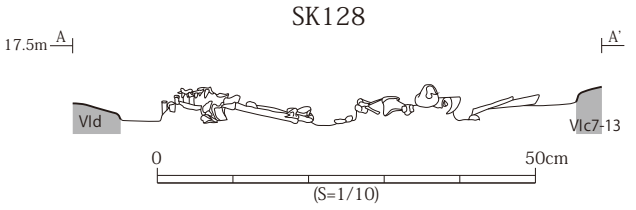




遺構	層	序	土 色	土 性	特 徴
SX127	A-A'	1	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山（IX層）粒・炭化物粒少量 【埋土】

第80図　SK127埋葬犬骨　平面図・断面図





遺構	層序		土 色	土 性	特 徴
SX128	A-A'	1	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山（IX層）粒・炭化物粒少量 【埋土】

第81図　SK128埋葬犬骨　平面図・断面図

北から南へ並ぶ。前肢は強く屈曲し、後肢も屈曲する。検出した骨のうち、肋骨を対象に放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、^{14}C 年代が 2,610±20yrBP であり、暦年較正年代（1σ）が 806 ～ 791calBC となり、縄文時代晩期中葉頃に相当する年代値（小林　2019）が得られた（分析編第 4 章）。

［出土遺物］堆積土から動物遺存体が出土している。

【SK134 埋葬犬骨】（第 82 図）

［位置］F-23 区 Eb グリッド（第 40 図）

［検出面］Ⅵ b2 層

［重複］なし。

［規模］長径 50cm 以上、短径 46cm 以上あるとみられる。深さは不明である。

［堆積土］墓壙を確認できなかったため、不明である。

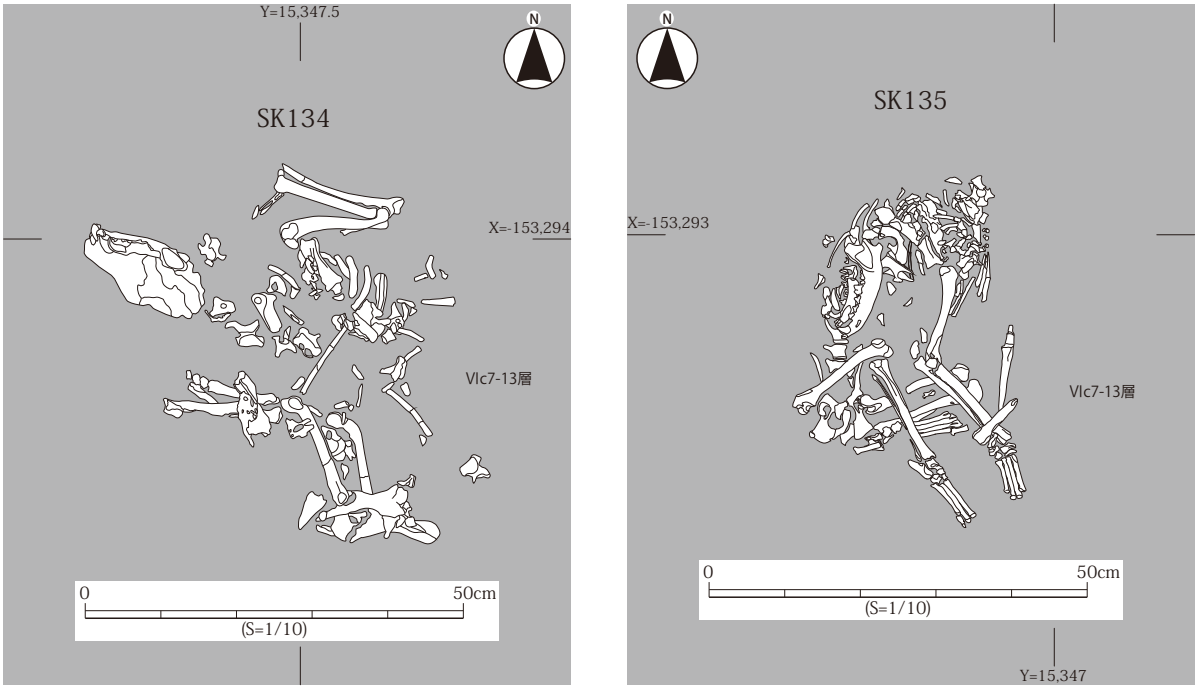
［埋葬遺体］成～老犬 1 体が埋葬されている。頭部は北西に位置する。上体は背部を上にし、下体は腰部から左を上にしているものとみられる。椎骨は北西から南東にかけて並ぶものとみられる。前肢は屈曲し、後肢は伸展している。検出した骨のうち、左第 3 中足骨を対象に放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、^{14}C 年代が 2,710±20yrBP であり、暦年較正年代（1σ）が 895 ～ 827calBC となり、縄文時代晩期中葉頃に相当する年代値（小林　2019）が得られた（分析編第 4 章）。

［出土遺物］堆積土から動物遺存体が出土している。

［出土遺物］遺物は出土していない。

【SK135 埋葬犬骨】（第 82 図）

［位置］F-23 区 Eb グリッド（第 40 図）



第82図　SK134・135埋葬犬骨　平面図　（左: SK134　右: SK135）

第8表　東C・D丘陵間　埋葬犬骨一覧

遺構名	検出面		埋葬遺体	平面形	断面形	大きさ (cm)	深さ (cm)	方向（土坑は長軸方向、遺体は椎骨の方向を計測）			出土遺物	備　考	挿図番号	
	調査区	層位						土坑	遺　体	頭部位置			平面	断面
SK125	F-23Fa	Ⅵc4	イヌ１	楕円形	-	45 × 21 以上	-	N-43-W	E-40-S	NW	なし		79	79
SK127	F-23Db	Ⅵe2	イヌ２	長楕円形	-	66 × 42	-	N-29-W	(E-43-S) → (N-30-E → E-17-S)	SE → SE	なし		80	80
SK128	F-23Ea	Ⅵc7-13	イヌ１	長楕円形	-	65 × 38	-	N-29-W	N-27-W	N	動物遺存体	年代測定・食性分析	81	81
SK134	F-23Eb	Ⅵb2	イヌ１	-	-	50 以上× 46 以上	-	-	E-32-S	NW	-	年代測定・食性分析	82	-
SK135	F-23Eb	Ⅵc4-6	イヌ１	-	-	45 以上× 35 以上	-	-	N-36-E	NW	-	年代測定・食性分析	82	-

［検出面］Ⅵc4 ～ 6 層

［重複］なし。

［規模］長径 45cm 以上、短径 35cm 以上あるとみられる。深さは不明である。

［堆積土］墓壙を確認できなかったため、不明である。

［埋葬遺体］若～成犬が 1 体埋葬されている。

右側を上にして埋葬されており、頭部は北西に位置し、頭部を背側に反転させて胸部に乗せている。椎骨は北東から南西へ屈曲するように並ぶ。前肢と後肢を合わせて伸展しているようにみられる。検出した骨のうち、左第 3 中足骨を対象に放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、^{14}C 年代が 2,770±20yrBP であり、暦年較正年代（1σ）が 971 ～ 851calBC となり、縄文時代晩期中葉頃に相当する年代値（小林　2019）が得られた（分析編第 4 章）。

［出土遺物］遺物は出土していない。

（4）土坑

土坑は 9 基検出した。平面の大きさや形状では大型の柱穴と区別のつかないものがあるため、遺構の半截等により、断面形が浅い皿形を呈することを確認できたもののみを土坑とし、それ以外をピット（柱穴等）として分類している。なお、土坑の諸属性を第 9 表にまとめた。

【SK123 土坑】（第 83 図）

［位置］F-23 区 Bb グリッド（第 76 図）

［検出面］Ⅵd 層

［重複］SB164 建物跡と重複し、これより新しい。

［規模］長径約 58cm 以上、短径 62cm の楕円形を呈し、残存する深さが 8cm ある。

［壁・底面］底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は皿形である。

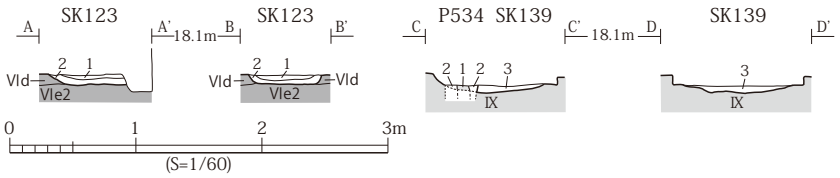
［堆積土］2 層確認した。焼土ブロックや炭化物粒を含む黒褐色粘土質シルトで、上層に焼土ブロックをやや多く含む。自然堆積層である。

［出土遺物］遺物は出土していない。

【SK136 土坑】

［位置］F-23 区東の中央部（第 77 図）

［検出面］Ⅸ層



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
SK123	A-A' B-B'	1	黒褐色（10YR2/2）	粘土質シルト	小礫・植物・炭化物粒少量、焼土ブロックやや多量 【堆積土】
		2	黒褐色（10YR2/2）	粘土質シルト	小礫・植物・焼土ブロック少量、炭化物粒わずか 【堆積土】
P534	C-C'	1	黒褐色（10YR3/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒少量 【柱痕跡】
		2	灰黄褐色（10YR4/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）ブロック主体 【掘方埋土】
SK139	C-C' D-D'	3	黒褐色（10YR2/2）	粘土	地山（Ⅸ層）中ブロック少量 【堆積土】

第83図　F-23区土坑　断面図　（セクションポイントは第76図に対応）

［重複］SB182A・B 建物跡、P455 と重複し、P455 より古い。

［規模］径 110cm の円形を呈するものとみられ、深さが 20cm 以上ある。

［壁・底面］一部での確認にとどまるが、底面はほぼ平坦であるとみられる。壁の立ち上がりは不明である。

［堆積土］2 層確認した。堆積土は、地山（Ⅸ層）ブロックを多く含む褐灰色粘土質シルトで、上層では炭化物粒を多く含む。自然堆積層である。

［出土遺物］遺物は出土していない。

【SK137 土坑】

［位置］F-23 区 Ba グリッド（第 76 図）

［検出面］Ⅸ層

［重複］SB162A・162B・163・164・165・166・167 建物跡、P539・540 と重複し、SB164・166・167 建物跡と P539・540 よりも古い。

［規模］長径 91cm、短径 83cm の不整な円形を呈し、残存する深さが 11cm ある。

［壁・底面］底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は浅い皿形である。

［堆積土］黒褐色粘土質シルト～シルトで、地山（Ⅸ層）ブロックを少量含む。自然堆積層である。

［出土遺物］縄文土器深鉢・鉢・浅鉢・皿が出土している。

【SK138 土坑】

［位置］F-23 区 Ab グリッド（第 76 図）

［検出面］Ⅸ層

［重複］SB156 建物跡と重複し、これより新しい。

［規模］長径 79cm、短径 73cm の不整な円形を呈し、残存する深さが 14cm ある。

［壁・底面］底面はほぼ平坦で、壁が急に立ち上がる。断面形は箱型である。

［堆積土］4 層確認した。下層に地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒色～黒褐色粘土質シルト、上層に炭化物粒や焼土粒を含む黒色粘土質シルトや黒褐色シルトが堆積している。すべて自然堆積層である。

［出土遺物］縄文土器深鉢・鉢が出土している（第 84 図）。

【SK139 土坑】（第 83 図）

［位置］F-23 区 Ba グリッド（第 76 図）

［検出面］Ⅸ層

［重複］SB160・161・162A・162B・163 建物跡、P533・544 と重複し、P533・544 よりも古い。

［規模］長径約 108cm、短径約 102cm の円形を呈し、残存する深さが 15cm ある。

［壁・底面］底面は南側が緩やかに窪み、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は浅い皿形である。

［堆積土］黒褐色粘土で、地山（Ⅸ層）ブロックを少量含む。自然堆積層である。

［出土遺物］縄文土器深鉢・皿、剥片、石核、種実（オニグルミ）が出土している（第 84 図）。

【SK140 土坑】

［位置］F-23 区東の中央部（第 77 図）

［検出面］Ⅸ層

［重複］SB179・180・182A・182B・183・184B 建物跡、P560 と重複し、SB179・180・182A・182B 建物跡と P560 よりも古い。

［規模］長径約 84cm、短径 69cm 以上の不整な円形を呈し、残存する深さが 12cm ある。

［壁・底面］底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は皿形を呈する。

［堆積土］2 層確認した。下層に地山（Ⅸ層）ブロックを含む黒色シルト、上層に炭化物粒や焼土粒、地山（Ⅸ層）ブロックを少量含む黒褐色シルトが堆積している。いずれも自然堆積層である。

［出土遺物］縄文土器浅鉢、不明土製品、磨石、剥片が出土している（第 84 図）。

【SK141 土坑】

［位置（調査区）］F-23 区東の中央部（第 77 図）

［検出面］Ⅷ層

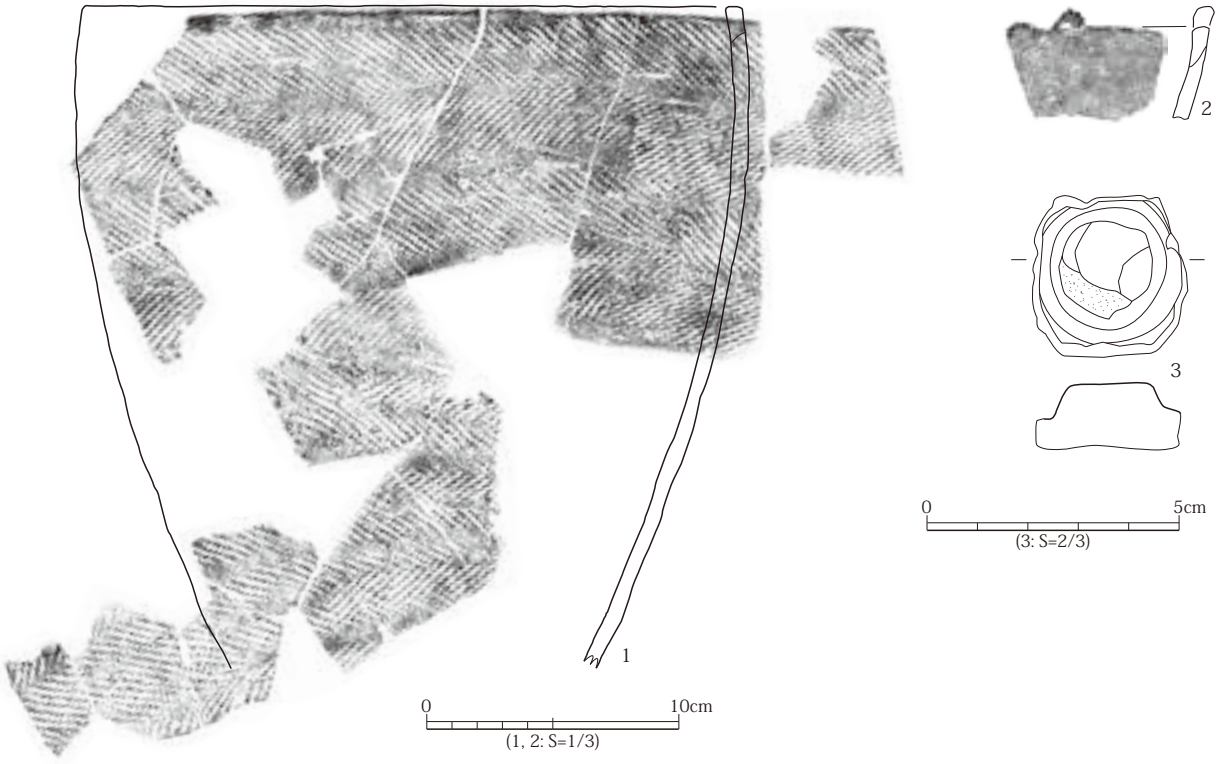
［重複］SB180･183･184A･184B･185 建物跡、P509･557 と重複し、SB185 建物跡と P557 より新しく、SB184A 建物跡と P509 よりも古い。

［規模］長径 78cm 以上、短径約 80cm の円形を呈し、残存する深さが 9cm ある。

［壁・底面］底面は北側が段状に窪み、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は浅い皿形である。

［堆積土・埋土］2 層確認した。下層は炭化物粒や焼土粒を少量、地山（Ⅸ層）ブロックを多く含む黒褐色シルトで埋め戻されている。上層は炭化物粒や焼土粒を少量含む黒褐色シルトで、自然堆積層である。

［出土遺物］遺物は出土していない。



No.	器　種	類型 1	類型 2	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1	XIV a1	F-23Ab・SK138 / 堆積土	口径（26.0cm）、最大径（26.7cm）。平縁。縄文 RL	66-4	Po2572
2	皿	A1f	XV	F-23Ba・SK139 / 堆積土	平縁。二個一対の山形突起	66-6	Po2573

No.	器　種	類型	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
3	不明土製品	-	F-23 東・SK140 / 堆積土	残存長 31.3mm、残存幅 31.2mm、残存厚 14.2mm。中実。貼瘤の周りに環状沈線	66-5	CO851

第84図　土坑　出土土器・土製品

【SK142 土坑】

［位置］F-23 区東の北西側（第 77 図）

［検出面］Ⅸ層

［重複］SB168・175・178・179・180・183 建物跡、P550・552 と重複し、SB168・183 建物跡より新しく、SB175 建物跡と P550 よりも古い。

［規模］長径 88cm、短径 82cm の円形を呈し、深さが 17cm 以上ある。

［壁・底面］平面でのみの確認のため不明である。

［堆積土］黒褐色シルト～粘土質シルトで、地山（Ⅸ層）ブロックを少量含む。自然堆積層である。

［出土遺物］縄文土器深鉢・鉢・袖珍土器壺、剥片、動物遺存体が出土している。

【SK143 土坑】

［位置］F-23 区東の中央部（第 77 図）

［検出面］Ⅷ層

［重複］SB182A・182B・183・184A・184B・185・186 建物跡、P561・562・563 と重複し、SB182A・182B 建物跡と P561・562・563 よりも古い。

［規模］長径約 150cm、短径約 122cm の不整な円形を呈し、残存する深さが 6cm ある。

第9表　東C・D丘陵間　土坑一覧

遺構名	検出面		重　複	平面形	断面形	大きさ (cm)	深さ (cm)	堆積土	出土遺物	備考	挿図番号	
	調査区	層位									平面	断面
SK123	F-23Bb	Ⅵd	SB164 → SK123	楕円形	皿形	58 以上× 62	8	自然	なし		76	83
SK136	F-23 東・中央	Ⅸ	SK136 → P455 SB182A・B ⇔ SK136	円形	皿形	径 110	20 以上	自然	なし		77	41
SK137	F-23Ba	Ⅸ	SK137 → P540 → SB164P3（P524） → SB166P3（P523）→ P539 SK137 → P540 → SB167P2（P525） SB162A・B ⇔ SK137 SB163 ⇔ SK137 SB165 ⇔ SK137	不整円形	皿形	91 × 83	11	自然	縄文土器深鉢・鉢・浅鉢・皿		76	-
SK138	F-23Ab	Ⅸ	SB156P1（P350）→ SK138	不整円形	箱形	79 × 73	14	自然	縄文土器深鉢・鉢		76	45
SK139	F-23Ba	Ⅸ	SK139 → P534 → P533 SB160 ⇔ SK139 SB161 ⇔ SK139 SB162A・B ⇔ SK139 SB163 ⇔ SK139 SB165 ⇔ SK139	円形	皿形	108 × 102	15	自然	縄文土器深鉢・皿、剥片 4、石核 1、種実（オニグルミ）		76	83
SK140	F-23 東・中央	Ⅸ	SK140 → SB179P1（P559）→ SB180P1（P558） SK140 → SB182A・B・P3（P517） SK140 → P560 SB183 ⇔ SK140 SB184B ⇔ SK140	不整円形	皿形	84 × 69 以上	12	自然	縄文土器浅鉢、不明土製品 1、磨石 3、剥片 1		77	65
SK141	F-23 東・中央	Ⅷ	SB185P2（P518）→ SK141 P557 → SK141 → SB184A・P2（P407） → SB184B・P2（P408） P557 → SK141 → P509 SB180 ⇔ SK141 SB183 ⇔ SK141	円形	皿形	78 以上× 80	9	人為→自然	なし		77	67
SK142	F-23 東・北西	Ⅸ	SB183P4（P552）→ SB168P10（P551） → SK142 → SB175P2（P460） SK142 → P550 SB178 ⇔ SK142 SB179 ⇔ SK142 SB180 ⇔ SK142	円形	皿形	88 × 82	17 以上	自然	縄文土器深鉢・鉢・袖珍土器壺、剥片 4、動物遺存体		77	-
SK143	F-23 東・中央	Ⅷ	SK143 → SB182A・P3（P517） SK143 → P561 SK143 → P562 SK143 → P563 SB183 ⇔ SK143 SB184A・B ⇔ SK143 SB185 ⇔ SK143 SB186 ⇔ SK143	不整円形	皿形	150 × 122	6	人為	なし		77	65

［壁・底面］底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は浅い皿形である。

［埋土］炭化物粒や焼土粒を少量含み、地山（Ⅸ層）ブロックを多く含む黒褐色シルトで埋め戻されている。

［出土遺物］遺物は出土していない。

(5) その他の遺構

丘陵端部に当たる場所で溝跡 1 条、丘陵裾部において遺物包含層が堆積し微高地状になっている場所で、焼け面 1 基と、焼土を含む土壌が集積した箇所（焼土集積）2 箇所を検出している。また、遺構確認面として取り上げた遺物を第 85 図にまとめた。

【SD124 溝跡】

［位置］F-23 区北（第 76 図）

［検出面］Ⅷb 層

［重複］SB153・154・155・156 建物跡と重複し、これらより新しい。

［構造・規模］検出長 6.7m、上幅 1.1m、下幅 0.5m あり、残存する深さが 0.1m ある。断面形は浅い皿形である。

［堆積土］1 層確認した。堆積土は、砂や炭化物粒を多く含む黒褐色粘土質シルトで、自然堆積層である。

［出土遺物］遺物は出土していない。

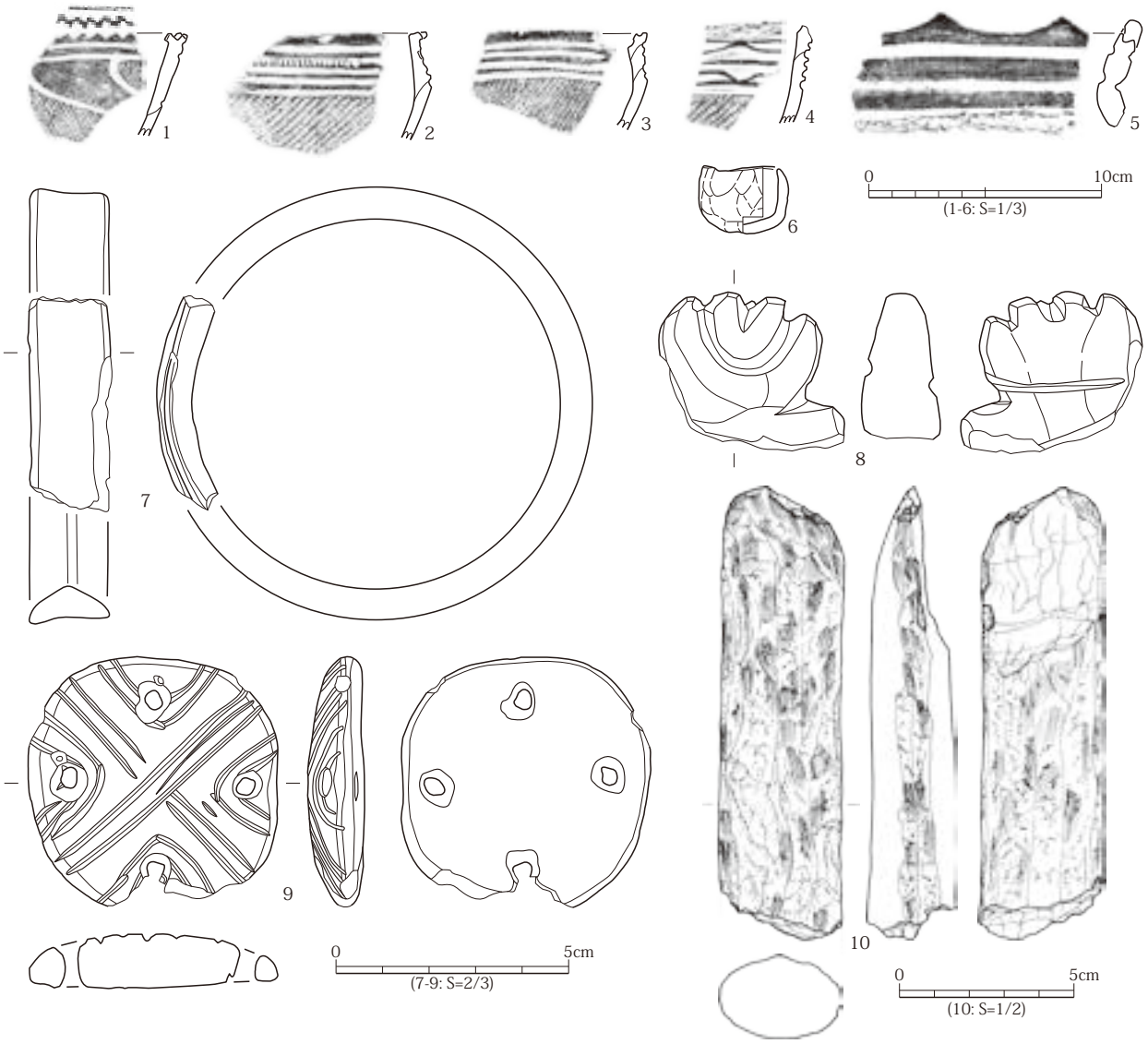
【SX126 焼け面】

［位置］F-23 区 Ca グリッド（第 76 図）

［検出面］Ⅵ e3 層

［重複］なし。

［規模］長径 36cm、短径 34cm の不整な四辺形を呈する。



No.	器　種	類型 1	類型 2	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	皿	A1bd	Ⅶ b	F-23 北 / 確認面	平縁。ヘラ刻目 + 波状浮線文。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 RL	66-7	Po2684
2	鉢	B1d	Ⅹ a2	F-23 北 / 確認面	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文 + 櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文 LR	66-8	Po2681
3	鉢	B1c	Ⅸ a	F-23 北 / 確認面	平縁。口唇部沈線。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	66-9	Po2685
4	深鉢	-	Ⅸ a	F-23 北 / 確認面	π字文（上下対向）。縄文 LR。口縁部内面沈線	66-10	Po2683
5	鉢	B2c	Ⅹ x	F-23 北 / 確認面	小波状縁。口唇部沈線。平行沈線文。突起・口縁部内面沈線	66-11	Po2682
6	袖珍土器鉢	A1	Ⅹ	F-23 東・P379・380 / 確認面	口径 3.5cm、器高 3.0cm、最大径 3.9cm、底径 3.7cm。平縁。底部ナデ。底部内面に円形のくぼみ	66-12	Po2470

No.	器　種	類型	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
7	耳飾	A1	F-23Ba・P523・539・SK137 / 確認面	残存長 44.5mm、残存幅 17.6mm、残存厚 6.3mm。環形。無文（ミガキ）	66-15	CO456
8	不明土製品	-	F-23A・P439・542・543・544 / 確認面	残存長 32.4mm、残存幅 42.1mm、残存厚 18.1mm。中実。表面：縁辺にヘラ刻目 + 弧状の沈線文、裏面：沈線文。土偶頭部または動物形土製品の手か	66-13	CO843
9	土版	B	F-23 北 / 確認面	残存長 53.7mm、残存幅 53.0mm、残存厚 11.9mm。表：十字状の平行沈線文、弧状の平行沈線文 + 貫通孔 4 単位。裏：無文（ナデ）。蓋か	66-14	CO588

No.	器　種	類型	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
10	石棒	-	F-23 東 - 南 / 確認面	粘板岩	127.4	34.8	25.0	145.27	頭部	0	0	0	0	0		66-16	S6004

第85図　遺構確認面　出土土器・土製品・石製品

［出土遺物］遺物は出土していない。

【SX132 焼土集積】

［位置］F-23 区東の南側（第 77 図）

［検出面］Ⅵｄ層

［重複］SB191 建物跡、P566 と重複し、これらより新しい。

［規模］長径 63cm、短径 54cm の不整な楕円形を呈する。

［堆積土］明赤褐色シルト（焼土ブロック）と地山（Ⅸ層）大ブロックが混ざったもので、流れ込みにより堆積したものとみられる。

［出土遺物］縄文土器が出土している。

【SX133 焼土集積】

［位置（調査区）］F-23 区東の南側（第 77 図）

［検出面］Ⅵｄ層

［重複］SB192 建物跡と重複する。新旧関係は不明である。

［規模］長径 84cm、短径 69cm の楕円形を呈する。

［堆積土］明赤褐色シルト（焼土ブロック）と地山（Ⅸ層）大ブロックが混ざったもので、流れ込みにより堆積したものとみられる。

［出土遺物］縄文土器、剥片が出土している。

2. 遺物包含層

東Ｃ丘陵と東Ｄ丘陵の間にある小丘陵の裾部では、黒色～黒褐色を呈する粘土～粘土質シルトを主体とするⅥ層が堆積し、この層に縄文時代晩期を主体とする土器や石器、骨角牙製品などの遺物が多量に包含されている。この遺物包含層は丘陵裾部から低地部にかけて南西に広がる。第 4 章ですでに述べたように、この遺物包含層を「東Ｃ・Ｄ丘陵間包含層」と呼称し、これについて記述する。

（1）堆積状況と分布範囲

Ⅵ層を F-23 区で検出し、縄文時代晩期を主体とする遺物が多量に包含されている状況を確認した。これらの範囲は、北西から南東にかけて約 37m（F-23 区北の北端から F-23 区東の東端を結ぶ直線距離）、北東から南西にかけて約 41m（F-23 区Ａグリッドの東端と同Ｇグリッド西端を結ぶ直線距離）ある。F-23 区の北西にある F-35 区、F-23 区東の南に位置する F-23 区南には沢状の地形があるため、この包含層の延びはこれらの地点までにとどまり、それより北（第 1 節）および南（第 3 節）に位置する遺物包含層は別地点として取り扱う。なお、F-23 区の南西に位置する F-22 区では遺物包含層は検出されなかった。

遺物包含層であるⅥ層は、丘陵から低地部に向かって緩やかに傾斜する。また、F-23 区で検出し

たⅥ層は5層に大別され、さらにⅥb層で2層、Ⅵc層で13層、Ⅵe層で5層に細分される。ただし、Ⅵ層の堆積状況は一様ではなく、丘陵部、丘陵裾部、低地部それぞれで異なることから、遺物包含層をこれらの地形区分にしたがって3つに大別し、それぞれの地形や堆積状況、遺物の出土状況について検討する。

丘陵部に形成された遺物包含層の範囲は、F-23区北とF-23区東、またA・Bグリッドがこれに該当する。Ⅵ層上面での地形を見ると、南壁ではⅥ層の検出長約8.7m、Ⅵ層上面での比高約0.1m、勾配約1.1%である。Ⅵ層は丘陵上に薄く堆積しており、より高いところではⅤ層によって一部または全部が削平されている。Ⅵd層とⅥe層の2層に大別される。この範囲で掘立柱建物跡などの遺構と重複する。遺物の出土量は少ない。

丘陵裾部に形成された遺物包含層の範囲は、F-23区C・Dグリッドがこれに該当する。Ⅵ層上面での地形を見ると、南壁ではⅥ層の検出長約12.0m、Ⅵ層上面での比高約0.2m、勾配約1.7%である。丘陵斜面部にやや厚く堆積したⅥ層の上面はほぼ平坦となっており、微高地を形成する。Ⅵ層は、Ⅵb層・Ⅵd層・Ⅵe層の3層に大別される。低地部との境界付近で埋葬犬骨と重複する。遺物の出土量は多い。

低地部に形成された遺物包含層の範囲は、F-23区E・F・Gグリッドがこれに該当する。Ⅵ層上面での地形を見ると、南壁ではⅥ層の検出長約17.0m、Ⅵ層上面での比高約1.3m、勾配約7.6%である。Ⅵ層の上面は緩い傾斜をもち、下層になると急な傾斜をもちながら堆積している。Ⅵ層は、Ⅵa層・Ⅵb層・Ⅵc層・Ⅵd層・Ⅵe層の3層に大別される。この範囲でも埋葬犬骨と重複するが、微高地に近いところに限定される。遺物の出土量は最も多い。

なお、調査目的の変更（記録保存調査→確認調査）のため、当該調査区の遺物包含層は現地保存されることとなり、内容を把握するために必要な調査にとどめている。また、発掘調査の安全確保のために、現地表面から約2mを超える範囲については、土層の確認を行っていない。したがって、上記大別層および細分層は、発掘調査で確認できた範囲内での区分である。

(2) 遺物の層位別出土状況

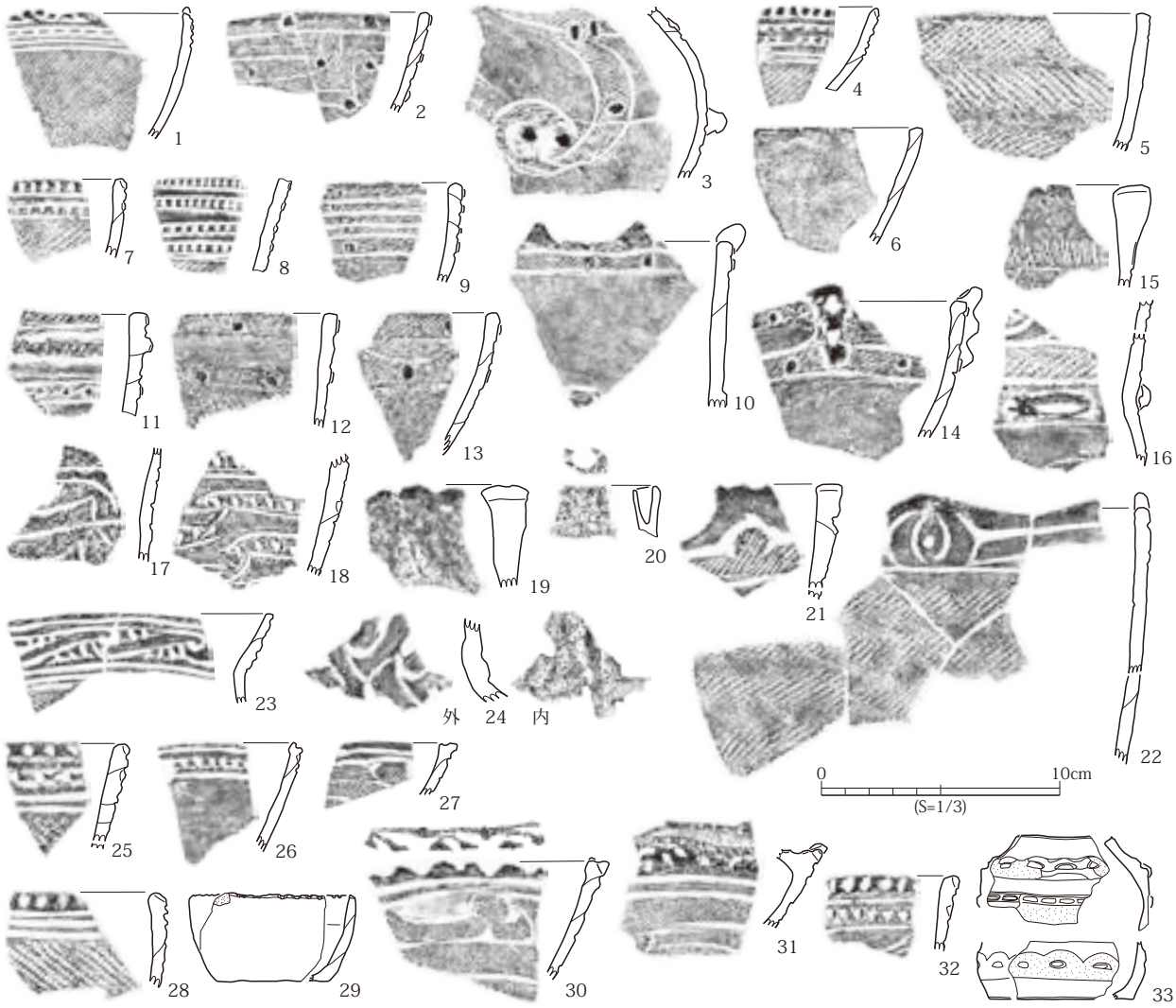
遺物包含層から出土した遺物は遺物収納箱（54 × 34 × 15cm）換算で約204箱に相当する量が出土している（遺構出土のものもわずかに含まれる）。以下に、遺物の種類ごとの層位別出土状況について述べる。

①土器

ⅰ）丘陵部

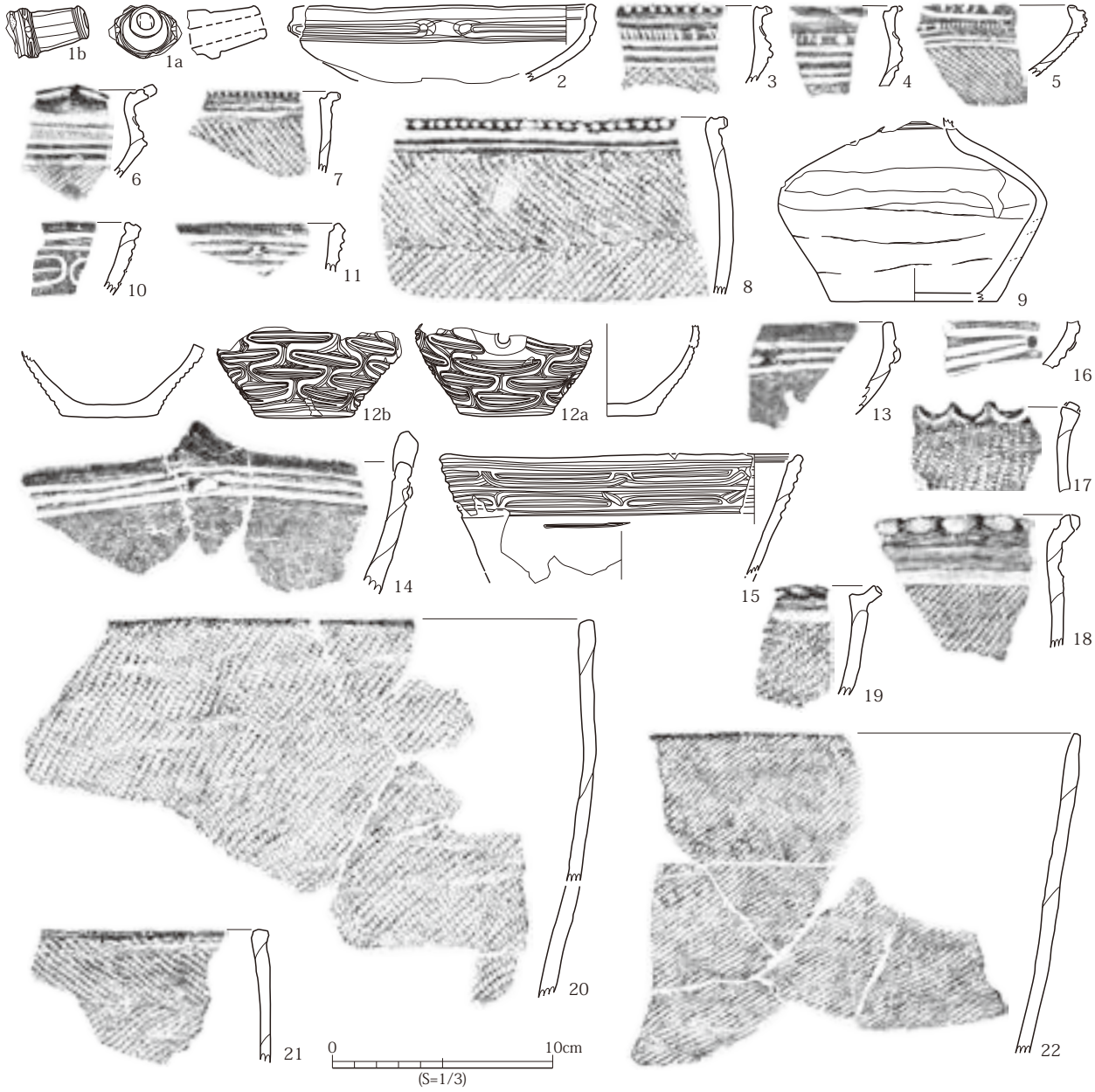
Ⅵe層（Ⅵe5層とⅥe3層を含む）では中・小破片を中心に少量出土している。器種は深鉢や鉢、浅鉢、皿、壺、注口土器、香炉形土器のほかに袖珍土器がある。装飾は、帯状文や入組帯状文、瘤の付く帯状文・入組帯状文（第86図2・3）、羊歯状文（同図4）、列点文（同図1）、雲形文、π字文などが見られる。

Ⅵd層では中・小破片が主体であるが、大破片もわずかに出土している。器種は深鉢や鉢、浅鉢、皿、



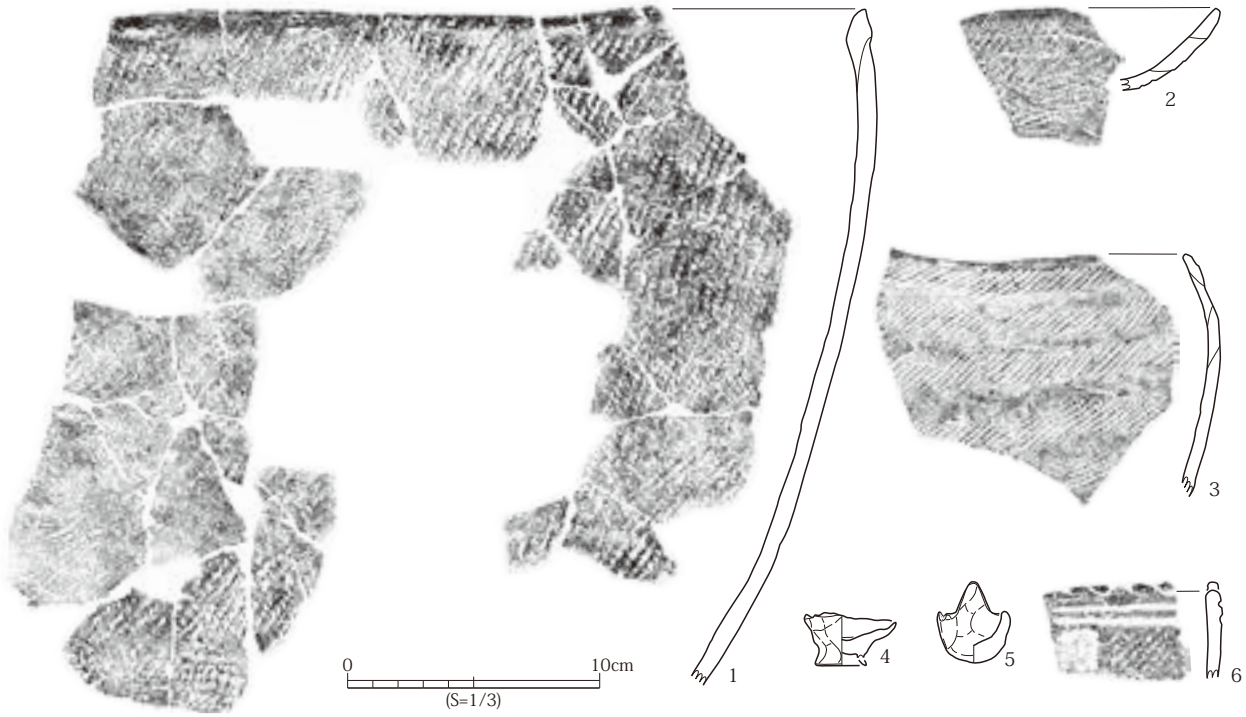
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	鉢	A1df	V	Ⅵ e5	F-23Aa / Ⅵ e5	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。羊歯状の浮線文、列点文、平行沈線文。羽状縄文 LR/RL	67-1	Po2566
2	鉢	A1	Ⅱ Ba	Ⅵ e	F-23 東 / Ⅵ e	平縁。入組帯状文（縄文）+ 貼瘤。縄文 L、R	67-2	Po2745
3	壺	-	Ⅱ Ba	Ⅵ e	F-23 東 / Ⅵ e	帯状文（縄文）+ 貼瘤、渦巻状の帯状文（縄文）+ 貼瘤。縄文 LR	67-3	Po2748
4	鉢	A1d	Ⅳ	Ⅵ e	F-23 東 / Ⅵ e	平縁。ヘラ刻目。羊歯状文、平行沈線文。縄文 LR	67-4	Po2743
5	深鉢	A1	XⅣ a2	Ⅵ e	F-23 東 / Ⅵ e	平縁。横位に平行ナデ（磨消縄文）。羽状縄文 LR/RL	67-5	Po2746
6	鉢	A1	XⅤ	Ⅵ e	F-23 東 / Ⅵ e	平縁。胎土に海綿骨針を含む	67-6	Po2749
7	鉢	A1d	Ⅰ c	Ⅵ d	F-23B / Ⅵ d	平縁。櫛歯状刻目。帯状文 + ヘラ刻目。縄文 LR	67-7	Po2460
8	深鉢	-	Ⅰ a+ Ⅰ c	Ⅵ d	F-23Bb / Ⅵ d	帯状文（縄文、ヘラ刻目）。無節縄文 L	67-8	Po2455
9	鉢	A1	Ⅰ Ba	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	平縁。帯状文（縄文）+ 貼瘤（頂部刻み）。縄文 LR	67-9	Po2729
10	壺	-	Ⅰ Ba	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	山形突起。帯状文（縄文）+ 貼瘤。縄文 LR	67-10	Po2728
11	鉢	B1	Ⅰ Ba	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	平縁。横位の隆帯、帯状文（縄文）+ 貼瘤。縄文 LR	67-11	Po2724
12	鉢	A1	Ⅰ Bb	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	平縁。帯状文（無文）+ 貼瘤	67-12	Po2706
13	鉢	A1	Ⅰ Ba	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	平縁。帯状文（縄文）+ 貼瘤。縄文 LR	67-13	Po2719
14	鉢	A1a	Ⅰ Ba	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	平縁。小突起状の縦位隆帯（隆帯上押圧）。帯状文（縄文）+ 貼瘤。縄文 LR	67-14	Po2698
15	深鉢	-	Ⅰ c	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	方形突起（頂部刻み）。帯状文（櫛歯状刻目）	67-15	Po2702
16	深鉢	-	Ⅱ a	Ⅵ d	F-23B / Ⅵ d	入組帯状文（縄文）+ 楕円貼付文（頂部短沈線文）。縄文 LR	67-16	Po2457
17	壺	-	Ⅱ a	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	入組帯状文（縄文）。縄文 LR	67-17	Po2720
18	深鉢	-	Ⅱ d	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d-e	入組帯状文（刺突列）	67-18	Po2751
19	突起	-	-	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	方形突起（頂部刻目）。三角形状の彫り込み	67-19	Po2718
20	突起	-	-	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	山形突起（楕円形突帯 + 頂部盲孔）	67-20	Po3949
21	深鉢	A1e	Ⅰ a+ Ⅲ o	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	平縁。方形突起（頂部押圧）。三叉文 + 帯状文（縄文）。0 段多条縄文 LR	67-21	Po2721
22	深鉢	A3	Ⅲ a	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	大波状縁。魚眼状三叉文、平行ナデ（磨消縄文）。縄文 LR	67-22	Po2732
23	鉢	-	Ⅳ	Ⅵ d	F-23B-C / Ⅵ確認面	羊歯状文、平行沈線文。無節縄文 R	67-23	Po43
24	台部	-	Ⅳ?	Ⅵ d	F-23Ba / Ⅵ d	透かし彫りを伴う羊歯状文か	67-24	Po2464
25	鉢	A1d	V	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	平縁。ヘラ刻目。列点文、平行沈線文。縄文 RL	67-25	Po2699
26	Ⅲ	A1c	V	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	平縁。口唇部沈線。列点文	67-26	Po2740
27	Ⅲ	A1	Ⅶ a	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	平縁。口唇部沈線。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR。内外面・口唇部赤彩	67-27	Po2707
28	深鉢	A1d	XⅡ x	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 RL	67-28	Po2722
29	袖珍土器鉢	A1d	XⅤ	Ⅵ d	F-23B-C / Ⅵ確認面	口径（7.0cm）、底径（4.6cm）。平縁。ヘラ刻目。底部ナデ	67-29	Po44
30	Ⅲ	A1bf	Ⅶ a	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	平縁。二個一対の小突起 + 羊歯状浮線文。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 RL、0 段多条縄文 LR	67-30	Po2742
31	注口土器	-	Ⅶ a	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	平行沈線文 + ヘラ刻目、二個一対の小突起 + ヘラ刻目、平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。無節縄文 L	67-31	Po2700
32	深鉢	A1d	Ⅶ b?	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文 + 刺突列、雲形文（沈線表現）か	67-32	Po2730
33	壺	A1	Ⅷ	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	口径（4.0cm）、底径（6.1cm）。平縁。メガネ状浮文 3 段か。底部ナデ	67-34	Po2735

第86図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（1）　F-23区北・東・A・Bグリッド



No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	注口土器	-	Ⅷ	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	注口部の周りにメガネ状浮文 4 単位、平行沈線文	67-35	Po2714
2	皿	A1	Ⅷ	Ⅵ d	F-23 東 - 南イ / Ⅵ d	口径（13.1cm）。平縁。メガネ状浮文 + 二個一対の貼瘤。口縁部内面沈線	67-33	Po2932
3	鉢	B1cd	ⅩⅡ a2	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文 + 櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文 RL。内面炭化物付着	67-36	Po2723
4	鉢	B1cd	ⅩⅡ b2	Ⅵ d	F-23 北 / Ⅵ d	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文 + 刺突列（π字状の表現あり）	67-37	Po2675
5	浅鉢	A1df	ⅩⅡ a2	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	平縁。二個一対の小突起か + ヘラ刻目。平行沈線文 + 櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文 RL	67-38	Po2703
6	深鉢	B2c	ⅩⅡ a1	Ⅵ d	F-23 北 / Ⅵ d	小波状縁。突起間沈線。平行沈線文 + 櫛歯状刻目。縄文 LR。口縁部内面沈線。内外面炭化物付着	67-39	Po2678
7	深鉢	B1cd	ⅩⅢ	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。横位沈線文。縄文 RL	67-40	Po2705
8	深鉢	B1cd	ⅩⅢ	Ⅵ d	F-23B / Ⅵ d	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。横位沈線文。羽状縄文 RL/LR	67-43	Po2458
9	壺	-	ⅩⅢ	Ⅵ d	F-23A- 北 / Ⅵ d	最大径 12.2cm、底径 7.7cm。横位沈線文。底部ナデ	67-52	Po2669
10	浅鉢	A1c	Ⅹ b	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	平縁。口唇部沈線。平行沈線文、入組工字文（陽刻）。口縁部内面沈線	67-41	Po2709
11	鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	平縁。π字文（下向）。口縁部内面沈線	67-42	Po2733
12	注口土器	-	Ⅹ a	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	底径 4.4cm。流水工字文（陰刻）、貫通孔 1（注口部）。底部ナデ、粘土巻付の痕跡	67-44	Po2741
13	浅鉢	A1	Ⅸ c	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	平縁。π字文	67-46	Po2713
14	鉢	A1e	Ⅸ b	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	平縁。山形突起。π字文（下向）+ 二個一対の貼瘤。口縁部内面沈線	67-45	Po2727
15	鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	口径 15.7cm。平縁。π字文（上下対向）7 単位。口縁部内面沈線	67-53	Po2734
16	浅鉢	-	ⅩⅠ b1	Ⅵ d	F-23 北 / Ⅵ d	変形工字文 + 二個一対の貼瘤	67-47	Po2676
17	深鉢	C2	ⅩⅣ a1	Ⅵ d	F-23 東 - 南イ / Ⅵ d	小波状縁。縄文 LR	67-48	Po2929
18	深鉢	B2c	ⅩⅢ	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	小波状縁。横位沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	67-50	Po2704
19	深鉢	B2c	ⅩⅢ	Ⅵ d	F-23A- 北 / Ⅵ d	小波状縁。口唇部沈線。横位沈線文。縄文 LR	67-49	Po2671
20	深鉢	A1	ⅩⅣ a1	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	平縁。縄文 RL、0 段多条縄文 LR	68-1	Po2737
21	深鉢	A1	ⅩⅣ a2	Ⅵ d	F-23Ab / Ⅵ d	平縁。羽状縄文 RL/LR	67-51	Po2459
22	深鉢	A1	ⅩⅣ a1	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	平縁。無節縄文 L	68-2	Po2738

第87図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（2）　F-23区北・東・A・Bグリッド



No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1	XIV a1	VI d	F-23 東 / VI d	平縁。縄文 LR	68-4	Po2725
2	皿	A1	XIV a1	VI d	F-23 東 / VI d	平縁。縄文 LR	68-3	Po2717
3	深鉢	A1	XIV a1	VI d	F-23 東 / VI d	平縁。横位に平行ナデ（磨消縄文）。縄文 LR。胎土に海綿骨針を含む	68-5	Po2739
4	袖珍土器台付浅鉢	A1	XV	VI d	F-23 東 / VI d	口径 3.6cm、器高 2.0cm、台部径 2.3cm。平縁。底部ナデ。胎土に海綿骨針を含む	68-6	Po2696
5	袖珍土器鉢	A1e	XV	VI d	F-23 東 / VI d	口径 2.8cm、器高 3.3cm。平縁。山形突起	68-7	Po2468
6	深鉢	A1df	XII x	V	F-23 東 / V	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。羊歯状の浮線文、平行沈線文。縄文 LR	68-8	Po2690

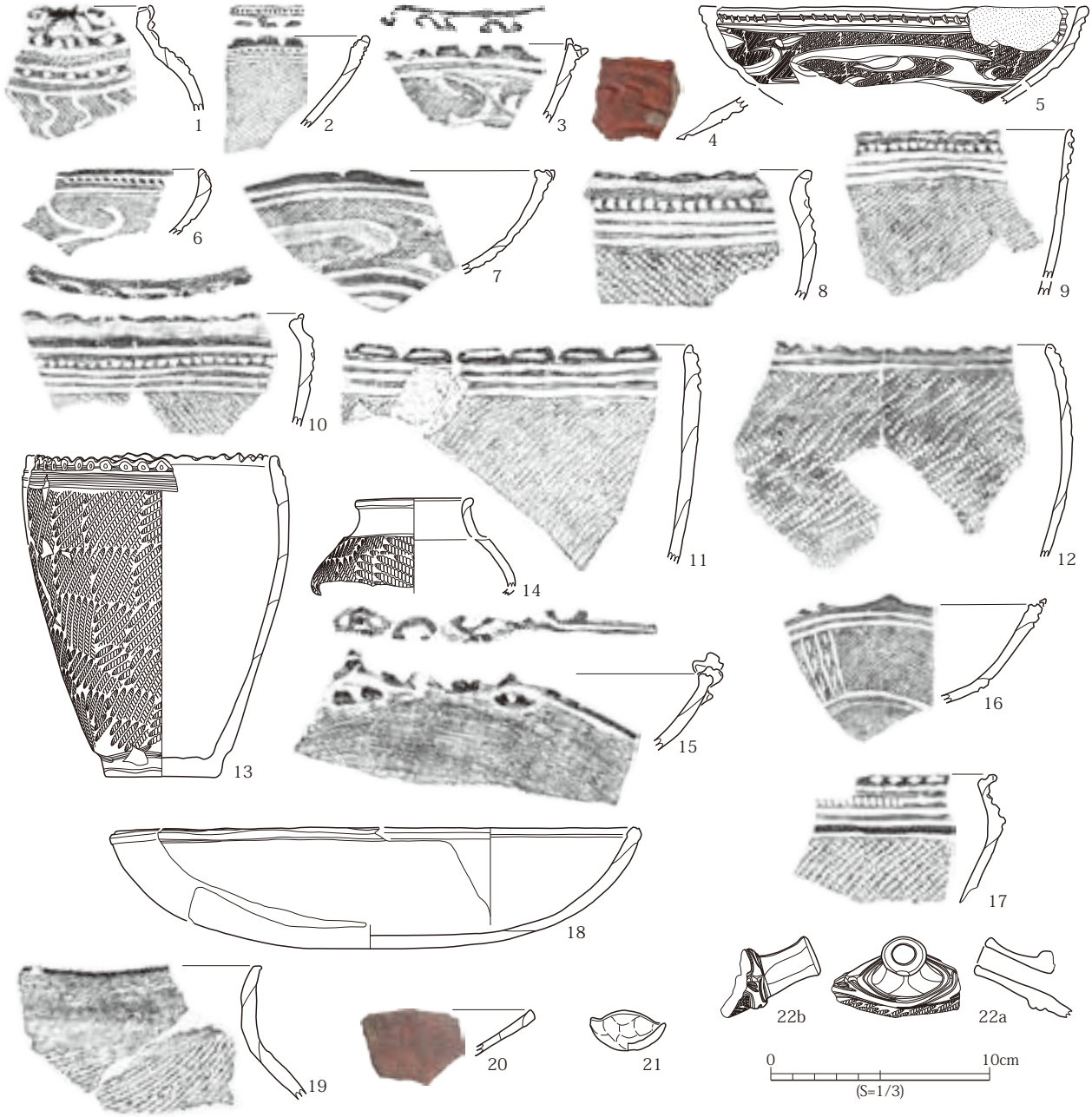
第88図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（3）　F-23区北・東・A・Bグリッド

壺、注口土器、香炉形土器のほかに袖珍土器鉢・台付浅鉢、台や脚の付く土器がある。装飾は、帯状文（第 86 図 7・8・15・21）や入組帯状文（同図 16 ～ 18）、瘤の付く帯状文（同図 9 ～ 14）・入組帯状文、三叉文（同図 21・22）、羊歯状文（同図 23・24）、列点文（同図 25・26）、雲形文（同図 27・30 ～ 32）、メガネ状浮文（同図 33、第 87 図 1・2）、工字文（同図 10・12）、π字文（同図 11・13 ～ 15）、変形工字文（同図 16）などが見られる。なかでも、π字文や雲形文、瘤の付く帯状文が施された土器が多く出土している。

ⅱ）丘陵裾部

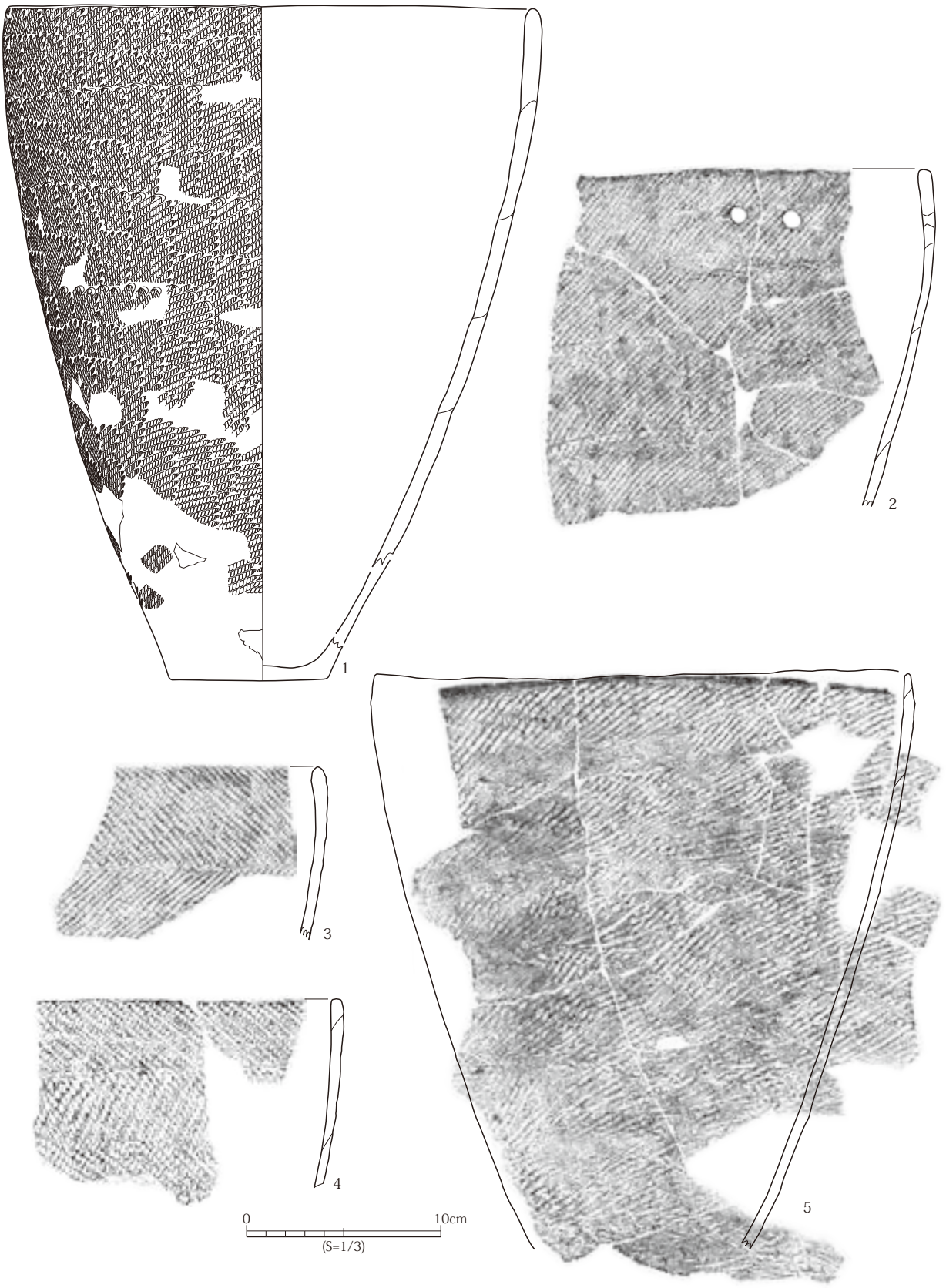
VI e3 層では中・小破片に加えて大破片が多く出土している。器種は深鉢や鉢、浅鉢、皿、壺、注口土器のほかに袖珍土器皿、台の付く土器、漆容器がある。装飾は、入組帯状文や羊歯状文（第 89 図 1）、列点文（同図 1・2・6）、雲形文（同図 3 ～ 7）などが見られる。なかでも雲形文が施された土器が多く出土している。

VI e2 層では中・小破片に加えて大破片が多く出土しており、完形に近い土器も含まれる。器種は深鉢や鉢、浅鉢、皿、壺、注口土器のほかに袖珍土器皿、製塩土器深鉢（第 94 図 4）がある。装飾は、雲形文（第 91 図 2・4・5、第 92 図 1 ～ 6）やメガネ状浮文（同図 4）、X 字状文（同図 7 ～ 9）などが見られる。なかでも雲形文が主体となる。



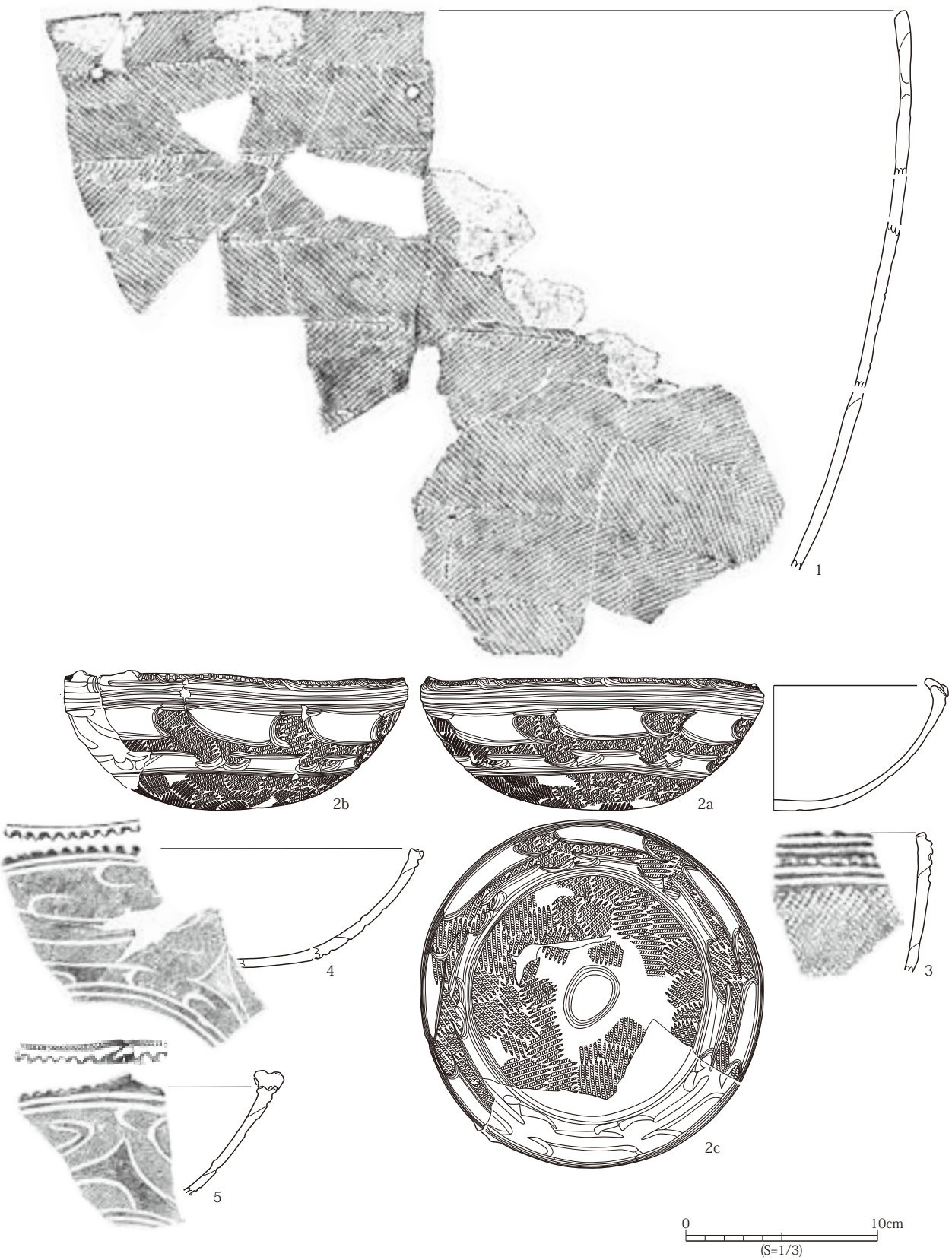
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	壺	F1df	Ⅳ + Ⅴ	Ⅵ e3	F-23Ca / Ⅵ e3	平縁。小突起 + ヘラ刻目。羊歯状文、列点文、縦位に平行する S 字状の短沈線文。縄文 RL	68-10	Po2562
2	皿	A1cd	Ⅴ	Ⅵ e3	F-23Ca / Ⅵ e3	平縁。内面に弧状の短沈線文 + ヘラ刻目。列点文、平行沈線文。縄文 LR、RL。口縁部内面列点文。内面・口唇部赤彩	68-9	Po2563
3	皿	A1bf	Ⅶ a	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3	平縁。二個一対の小突起 + 羊歯状浮線文。平行沈線文 + 雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 RL	68-11	Po2547
4	皿	-	Ⅶ a	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3	雲形文（浮彫表現、磨消縄文）、平行沈線文。縄文 LR。内外面赤彩	68-12	Po1854
5	皿	A1	Ⅶ a	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3+ Ⅵ d	口径（17.5cm）。平縁。平行沈線文 + 刺突列、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。直前段多条縄文 LR（LL）	68-13	Po2568
6	皿	A1	Ⅴ + Ⅶ a	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3	平縁。列点文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 RL	68-14	Po2548
7	皿	A1cf	Ⅶ a	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3	平縁。二個一対の小突起 + 口唇部沈線。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）、底部付近に平行沈線文。直前段多条縄文 LR。体部下半内面沈線。内外面・口唇部赤彩	68-15	Po2542
8	深鉢	B2	Ⅹ Ⅱ b2	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3	小波状縁。平行沈線文 + 刺突列（π字状の表現あり）。縄文 RL	68-16	Po2560
9	深鉢	A1d	Ⅹ Ⅱ b1	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文 + 刺突列。縄文 LR	68-17	Po2543
10	深鉢	C1b	Ⅹ Ⅱ b1	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3	平縁。羊歯状浮線文。平行沈線文 + 刺突列。縄文 RL	68-18	Po1853
11	深鉢	A1d	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。0 段多条縄文 LR	68-19	Po2559
12	深鉢	A2	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3	小波状縁。平行沈線文。縄文 LR。内面炭化物付着	68-21	Po2558
13	深鉢	A2	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3	口径 11.1cm、器高 14.8cm、底径 5.1cm。小波状縁。平行沈線文。縄文 LR。底部ミガキ	68-23	Po2546
14	壺	C1	Ⅹ Ⅳ b1	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3	口径 5.6cm、最大径 9.4cm。平縁（玉縁）。0 段多条縄文 RL	68-22	Po2554
15	皿	A1bcdf	Ⅹ Ⅲ	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3	平縁。山形突起（大・小）+ 羊歯状浮線文 + 口唇部沈線。横位沈線文、二個一対の小突起	68-20	Po1858
16	浅鉢	A1cf	Ⅹ Ⅱ d1	Ⅵ e3	F-23Db / Ⅵ e3	平縁。山形突起 + 二個一対の山形突起 + 口唇部沈線。平行沈線文、縦位の平行沈線文 + 刺突列、底部付近に平行沈線文。縄文 LR。底部ミガキ。口縁部内面沈線	69-1	Po2541
17	深鉢	B1cd	Ⅹ Ⅱ a2	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文 + 刺突列（π字状の表現あり）。縄文 RL。外面赤彩	69-2	Po2552
18	皿	A1	Ⅹ Ⅴ	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3	口径（23.6cm）、器高 6.1cm、底径 12.0cm。平縁（玉縁）。底部ミガキ	69-3	Po2550
19	壺	A1	Ⅹ Ⅳ b1	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3	平縁。無節縄文 L	69-4	Po2553
20	皿	A1	Ⅹ Ⅴ	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3	平縁。内外面・口唇部赤彩	69-5	Po3943
21	袖珍土器皿	A3	Ⅹ Ⅴ	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3	口径 3.4cm、器高 1.6cm。大波状縁。丸底ナデ	69-6	Po2567
22	注口土器	-	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3	注口部の周りに平行沈線文。縄文 LR	69-7	Po2544

第89図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（4）　F-23区C・Dグリッド



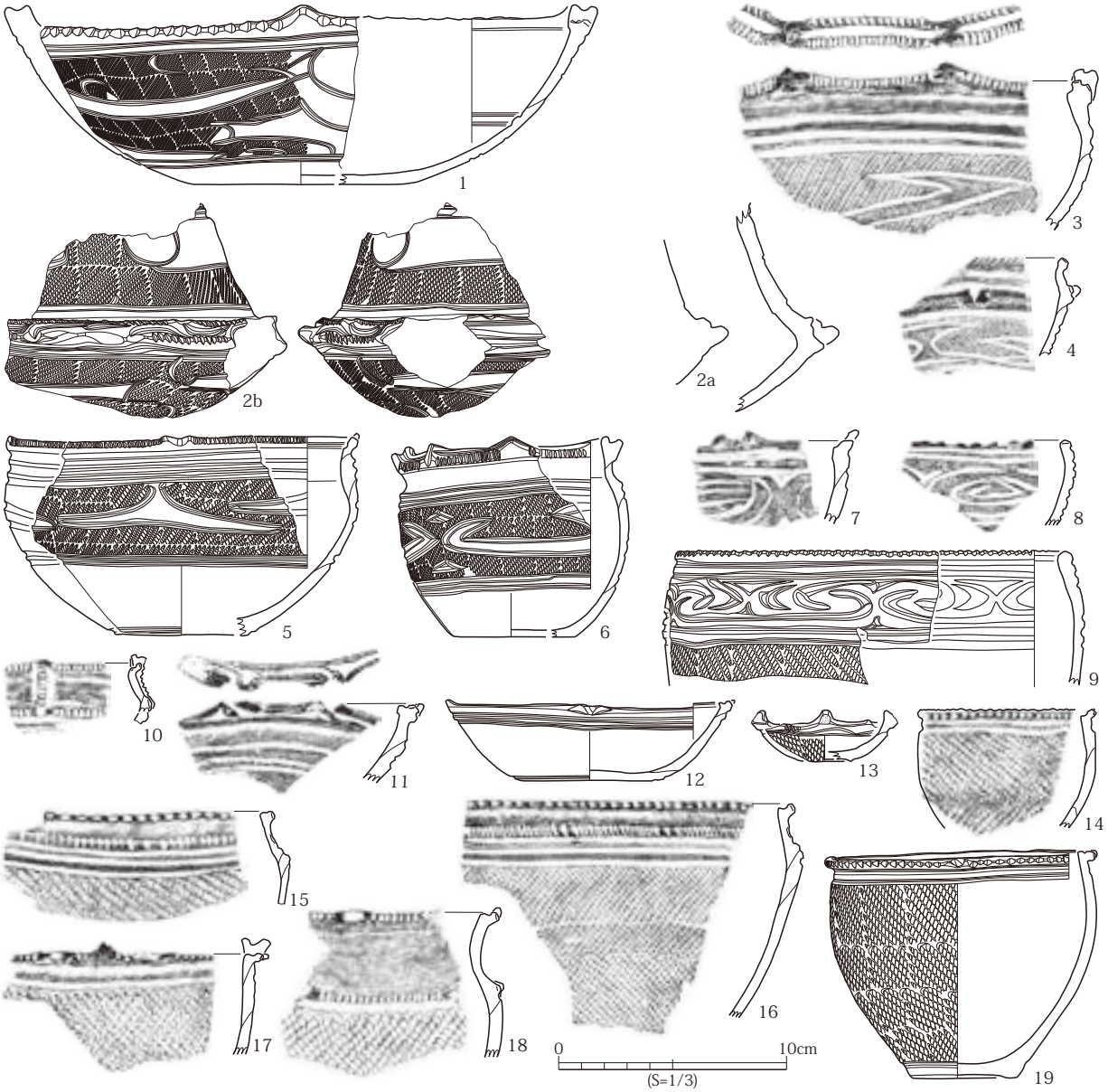
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1	XIV a1	VI e3	F-23Cb / VI e3	口径 27.8cm、器高 35.3cm、底径 8.3cm。平縁。縄文 LR。底部ミガキ	69-8	Po2545
2	深鉢	A1	XIV a1	VI e3	F-23Cb / VI e3	平縁。縄文 RL。補修孔 2	70-2	Po2570
3	深鉢	A1	XIV a2	VI e3	F-23Cb / VI e3	平縁。羽状縄文 RL/LR	70-6	Po2557
4	深鉢	A1	XIV a1	VI e3	F-23Cb / VI e3	平縁。羽状縄文 RL/LR	70-3	Po1856
5	深鉢	A1	XIV a1	VI e3	F-23Ca+Cb / VI e3	口径（28.8cm）。平縁。無節縄文 L	70-1	Po2549

第90図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（5）　F-23区C・Dグリッド



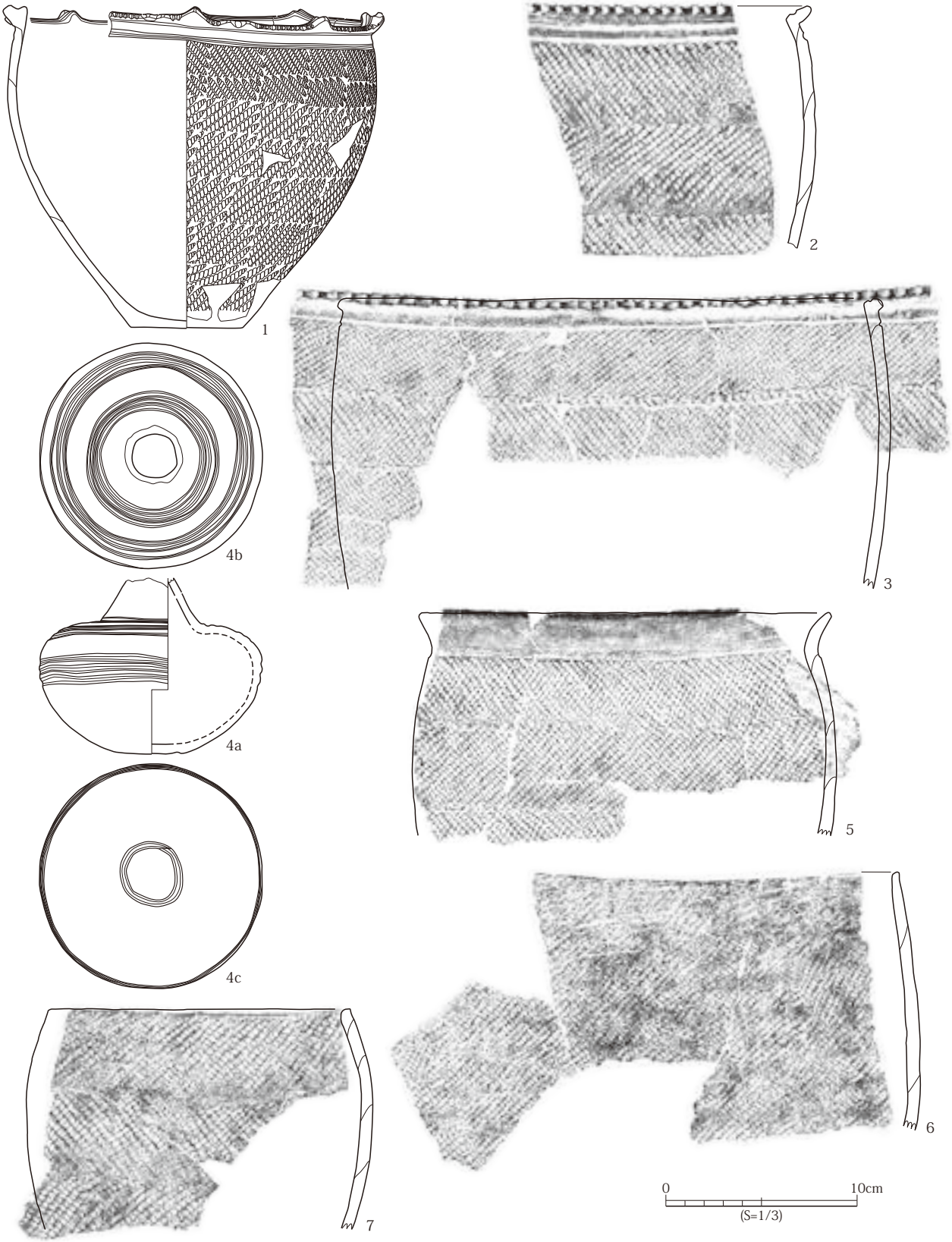
No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1	XIV a2	VI e3	F-23Cb / VI e3	平縁。羽状縄文 LR/RL（いずれも末端部強調）。補修孔 3	71-1	Po2571
2	浅鉢	A1df	VII a	VI e2	F-23Cb / VI e2	口径 16.8cm、器高 7.2cm、最大径 18.0cm、底径 3.5cm。平縁。二個一対の小突起か 1 単位 + ヘラ刻目。横位沈線文 + 貼瘤、平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）、底部に環状沈線文。縄文 LR。底部に環状沈線文 + ミガキ。内外面赤彩	70-9	Po2538
3	鉢	A1d	XII b1	VI e2	F-23Db / VI e2	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文 + 刺突列。縄文 LR	70-7	Po2502
4	III	A1bd	VII b	VI e2	F-23Da / VI e2+ VI d	平縁。ヘラ刻目 + 波状浮線文。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）、底部付近に平行沈線文。縄文 LR。底部ミガキ。体部下半内面隆帯 + 充填縄文 LR	70-5	Po2532
5	III	A1bdf	VII b	VI e2	F-23Db / VI e2	平縁。山形突起 + ヘラ刻目 + 波状浮線文 + 櫛歯状刻目。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）、底部付近に平行沈線文。縄文 LR。突起部内面に三角形状の彫り込み、体部下半内面隆帯 + 充填縄文 LR	70-4	Po2537

第91図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（6）　F-23区C・Dグリッド



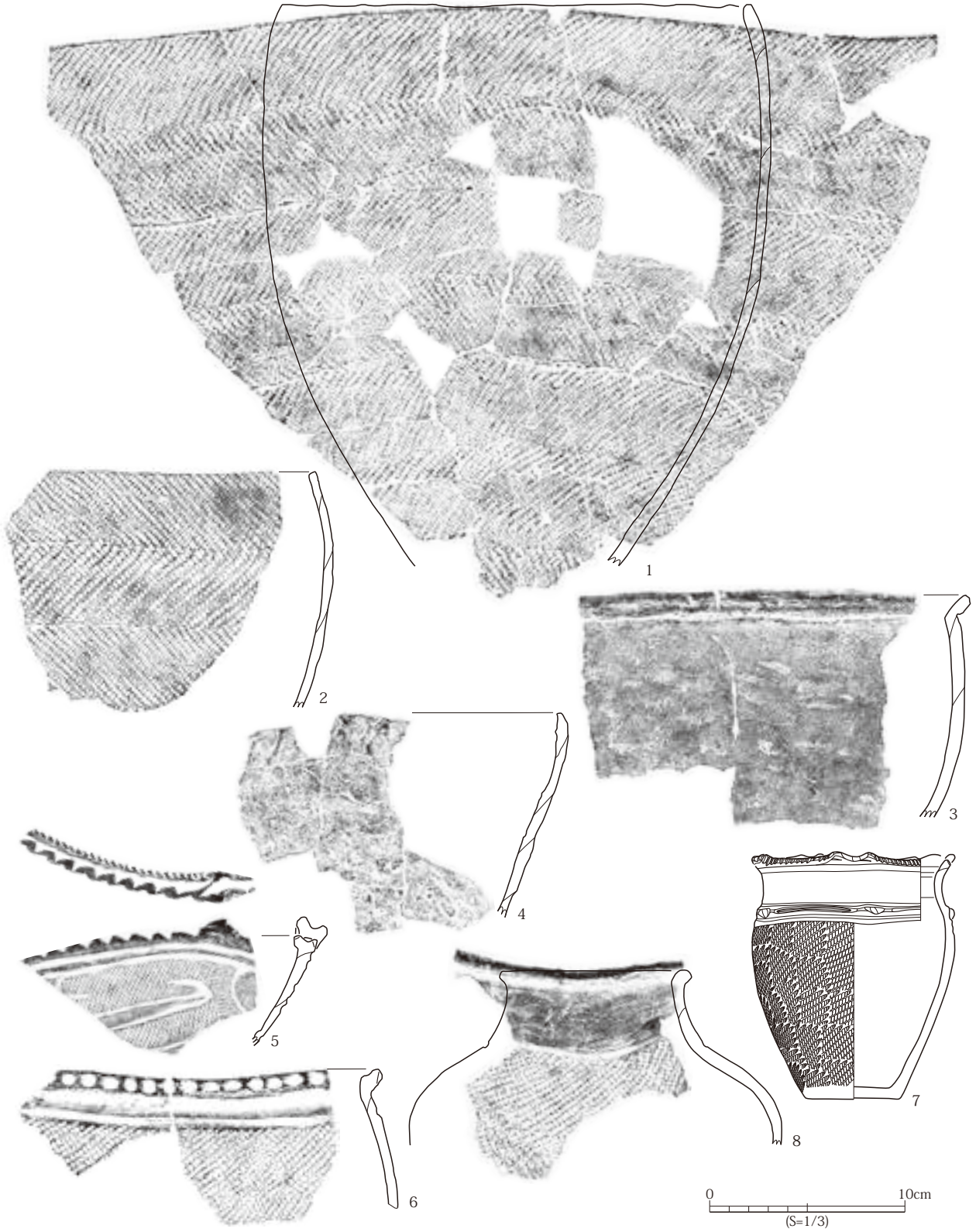
No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	Ⅲ	A1bcdf	Ⅶb	Ⅵe2	F-23Db / Ⅵe2	口径（25.8cm）、器高 7.4cm、、底径（9.6cm）。平縁。山形突起 4 単位＋突起部沈線＋波状浮線文＋ヘラ刻目。平行沈線文、雲形文（磨消縄文）4 単位。縄文 LR。底部ミガキ。平行沈線文＋隆帯＋充填縄文 LR	71-19	Po2483
2	注口土器	-	Ⅶb	Ⅵe2	F-23Db / Ⅵe2	最大径（19.0cm）。平行沈線文、鉢巻状雲形文（沈線表現、磨消縄文）、隆帯＋二個一対の山形突起＋山形突起（大）＋ヘラ刻目、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。外面赤彩	71-2	Po2511
3	鉢	C3cd	Ⅶb	Ⅵe2	F-23Db / Ⅵe2	大波状縁。突起間沈線＋櫛歯状刻目。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。直前段多条縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	71-4	Po2497
4	鉢	B1d	Ⅶb+Ⅷ	Ⅵe2	F-23Db / Ⅵe2	平縁。櫛歯状刻目。メガネ状浮文＋二個一対の貼瘤＋櫛歯状刻目、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。口縁部内面沈線	70-8	Po2480
5	鉢	B1df	Ⅶb	Ⅵe2	F-23Db / Ⅵe2	口径（15.0cm）、器高 8.6cm、最大径（15.4cm）、底径（5.8cm）。平縁。二個一対の山形突起＋櫛歯状刻目。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。直前段多条縄文 LR。底部ミガキか。口縁部内面沈線。外面赤彩	71-3	Po2510
6	壺	C1cdf	Ⅶb	Ⅵe2	F-23Db / Ⅵe2	口径（9.4cm）、器高 8.8cm、最大径（10.0cm）、底径（5.3cm）。平縁。山形突起 3 単位＋山形突起（頂部刻み）3 単位＋口唇部沈線＋櫛歯状刻目。平行沈線文、雲形文（磨り消し縄文）4 単位。縄文 LR。底部ミガキ	71-18	Po2495
7	浅鉢	A1cf	Ⅵb	Ⅵe2	F-23Da / Ⅵe2	平縁。二個一対の山形突起＋口唇部沈線。平行沈線文、X 字状文（C 字状文）	71-5	Po2529
8	鉢	A2	Ⅵb	Ⅵe2	F-23Db / Ⅵe2	小波状縁。平行沈線文、X 字状文（C 字状文）。内面炭化物付着	71-6	Po2506
9	深鉢	A1d	Ⅵb	Ⅵe2	F-23Da+Db+D / Ⅵe2+ Ⅵd+ Ⅵb2	口径（17.4cm）。平縁。ヘラ刻目。平行沈線文、X 字状文（C 字状文）。縄文 RL	71-7	Po2295
10	鉢	B1cdf	ⅩⅡx	Ⅵe2	F-23D / Ⅵe2	平縁。山形突起＋ヘラ刻目＋口唇部沈線。縦位の隆帯＋ヘラ刻目、横位の隆帯＋ヘラ刻目、平行沈線文。突起・口縁部内面沈線	71-8	Po1353
11	Ⅲ	B1cf	ⅩⅡx	Ⅵe2	F-23Da / Ⅵe2	平縁。二個一対の山形突起＋口唇部沈線。平行沈線文。内外面・口唇部赤彩	71-14	Po2520
12	Ⅲ	A1cf	ⅩⅡx	Ⅵe2	F-23Da+Db / Ⅵe2	口径（12.4cm）、器高 3.5cm、底径（5.4cm）。平縁。二個一対の山形突起 4 単位＋口唇部沈線。平行沈線文、底部付近に平行沈線文。底部ミガキ。胎土に海綿骨針を含む	71-17	Po2490
13	袖珍土器Ⅲ	A3cdef	ⅩⅢ	Ⅵe2	F-23Db / Ⅵe2	口径（6.6cm）、器高 2.1cm、底径（2.0cm）。大波状縁。山形突起＋二個一対の山形突起＋口唇部沈線＋ヘラ刻目。横位沈線文。縄文 RL。底部円文（かるい上げ底）＋ミガキ	71-10	Po2491
14	鉢	B1cd	ⅩⅡx	Ⅵe2	F-23Db / Ⅵe2	口径（7.6cm）、最大径（7.8cm）。平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文。羽状縄文 RL/LR	71-15	Po2498
15	深鉢	C1cd	ⅩⅡa2	Ⅵe2	F-23Da / Ⅵe2	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋櫛歯状刻目。無節縄文 R	71-11	Po2523
16	深鉢	B1cd	ⅩⅡa2	Ⅵe2	F-23Da / Ⅵe2	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋櫛歯状刻目。羽状縄文 LR/RL	71-12	Po2521
17	深鉢	B1cdef	ⅩⅢ	Ⅵe2	F-23Da / Ⅵe2	平縁。山形突起（大）の両側に二個一対の山形突起（小）＋ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。縄文 LR。内面・口唇部炭化物付着	71-16	Po2526
18	深鉢	C1cdf	ⅩⅡa2+ ⅩⅡe	Ⅵe2	F-23Db / Ⅵe2	平縁。二個一対の山形突起＋ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋二個一対の貼瘤＋ヘラ刻目。縄文 LR	71-13	Po2504
19	鉢	B1cdf	ⅩⅢ	Ⅵe2	F-23Db / Ⅵe2	口径 11.8cm、器高 9.9cm、底径 4.5cm。平縁。二個一対の山形突起 4 単位＋ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。縄文 RL 末端部強調。底部ミガキ	71-20	Po2509

第92図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（7）　F-23区C・Dグリッド



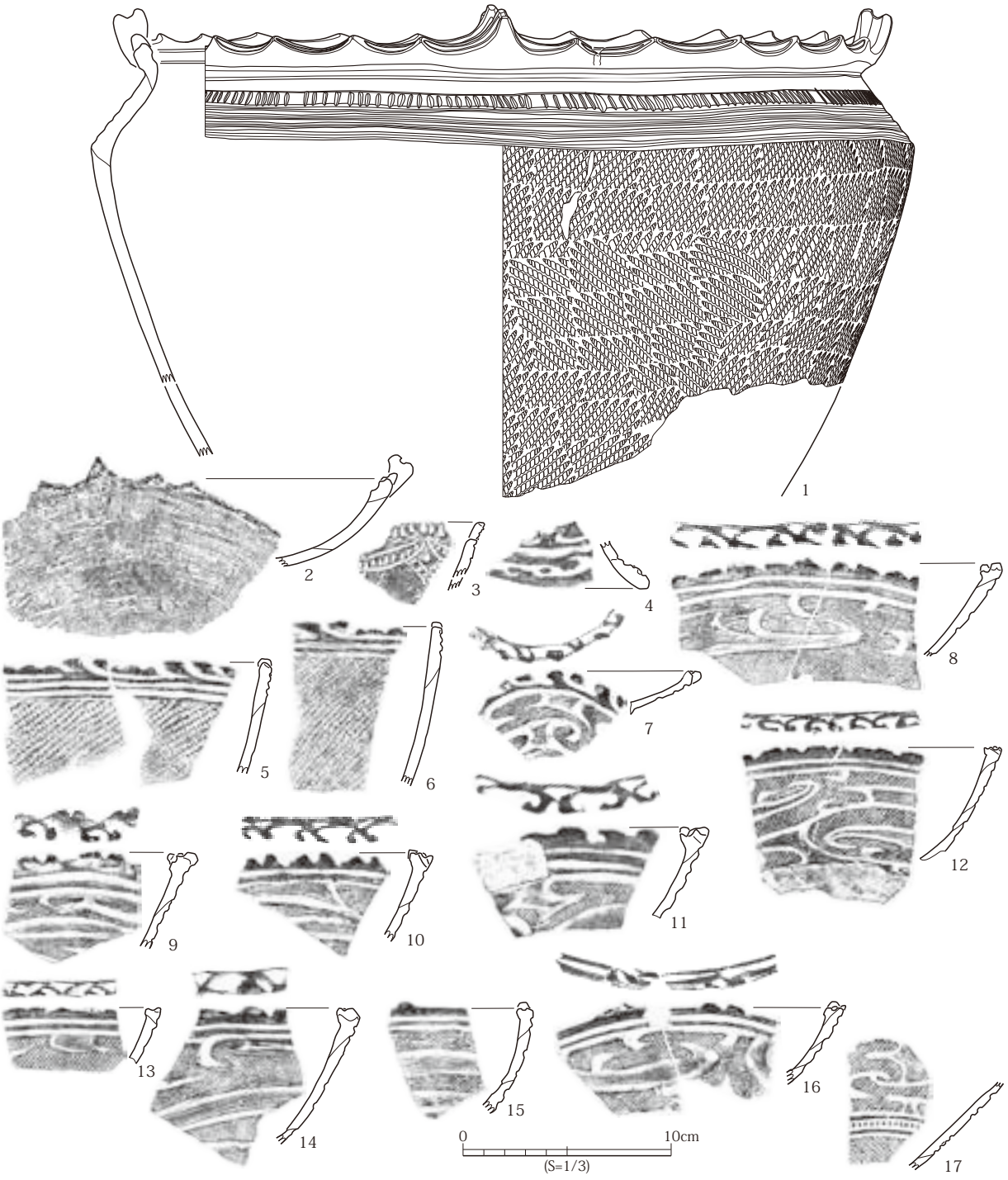
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	鉢	B1cdf	XⅢ	Ⅵe2	F-23Da-Db / Ⅵe2	口径（19.0cm）、器高 16.4cm、底径 5.5cm。平縁。山形突起の両側に二個一対の小突起 4 単位＋山形突起 4 単位＋ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。羽状縄文 RL/LR。底部ミガキ	73-1	Po2512
2	深鉢	B1cd	XⅢ	Ⅵe2	F-23Db / Ⅵe2	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。羽状縄文 RL（直前段多条）/LR	73-3	Po2494
3	深鉢	B1cd	XⅢ	Ⅵe2	F-23Da / Ⅵe2	口径（26.7cm）。平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。羽状縄文 LR/RL	72-1	Po2530
4	壺	-	XⅡx	Ⅵe2	F-23Da / Ⅵe2	最大径 11.6cm、底径 3.5cm。。平行沈線文。底部ミガキ＋環状沈線文（かるい上げ底）	73-7	Po1852
5	深鉢	C1	XⅣb2	Ⅵe2	F-23Db / Ⅵe2	口径（21.2cm）。平縁。羽状縄文 RL/LR	71-9	Po2493
6	深鉢	A1	XⅣb2	Ⅵe2	F-23Da / Ⅵe2	平縁。直前段多条縄文 LR	73-2	Po2535
7	深鉢	A1	XⅣa1	Ⅵe2	F-23Db / Ⅵe2	口径（15.8cm）。平縁。羽状縄文 LR/RL。胎土に海綿骨針を含む	73-5	Po2516

第93図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（8）　F-23区C・Dグリッド



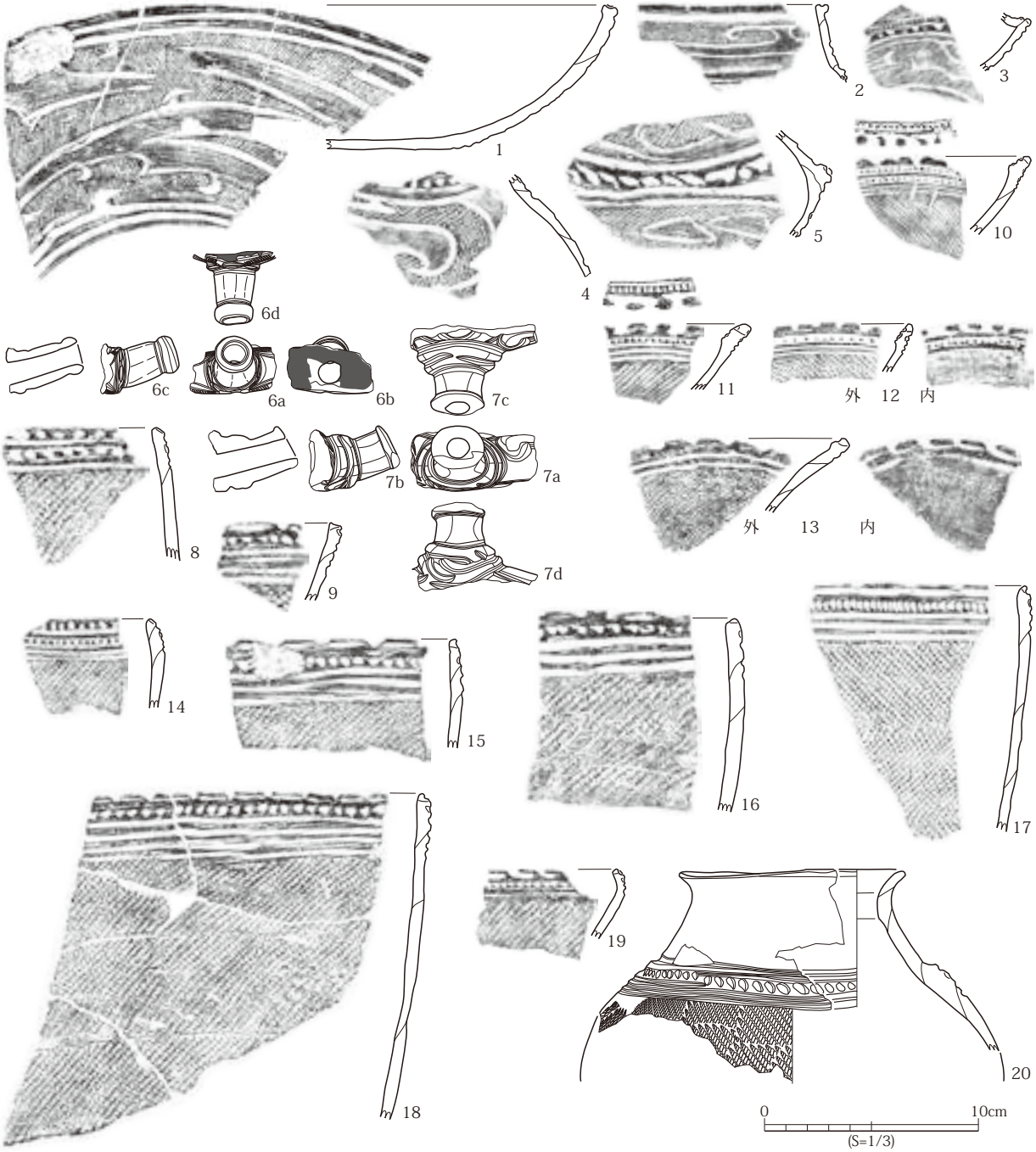
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1	XIV a2	VI e2	F-23Da / VI e2	口径（24.3cm）。平縁。0 段多条縄文 LR	72-2	Po2531
2	深鉢	A1	XIV a2	VI e2	F-23Da / VI e2	平縁。羽状縄文 RL/LR	73-6	Po2533
3	深鉢	B1	XV	VI e2	F-23Db+D / VI e2	平縁	73-4	Po2492
4	製塩土器深鉢	A1	XV	VI e2	F-23Da / VI e2	平縁	73-8	Po2525
5	Ⅲ	A1cdf	VII b	VI e1	F-23Db / VI e1	平縁。山形突起 + ヘラ刻目 + 波状浮線文。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。体部下半内面隆帯 + 充填縄文 LR	73-10	Po2478
6	深鉢	B1cd	XIII	VI e1	F-23Db / VI e1	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。横位沈線文。縄文 LR 末端部強調	73-11	Po2477
7	漆容器（深鉢）	C1df	VIII	VI e1	F-23Db / VI e1	口径 10.1cm、器高 12.8cm、底径 4.8cm。平縁。二個一対の山形突起 5 単位 + 櫛歯状刻目。メガネ状浮文 5 単位。縄文 LR。底部ナデ。口縁部内面沈線（一部磨消）。内面赤漆付着	73-12	Po2482
8	壺	H1	XIII	VI e1	F-23Db / VI e1	口径（9.6cm）、最大径（18.8cm）。平縁。横位沈線文。羽状縄文 LR/RL。胎土に海綿骨針を含む	73-13	Po2481

第94図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（9）　F-23区C・Dグリッド



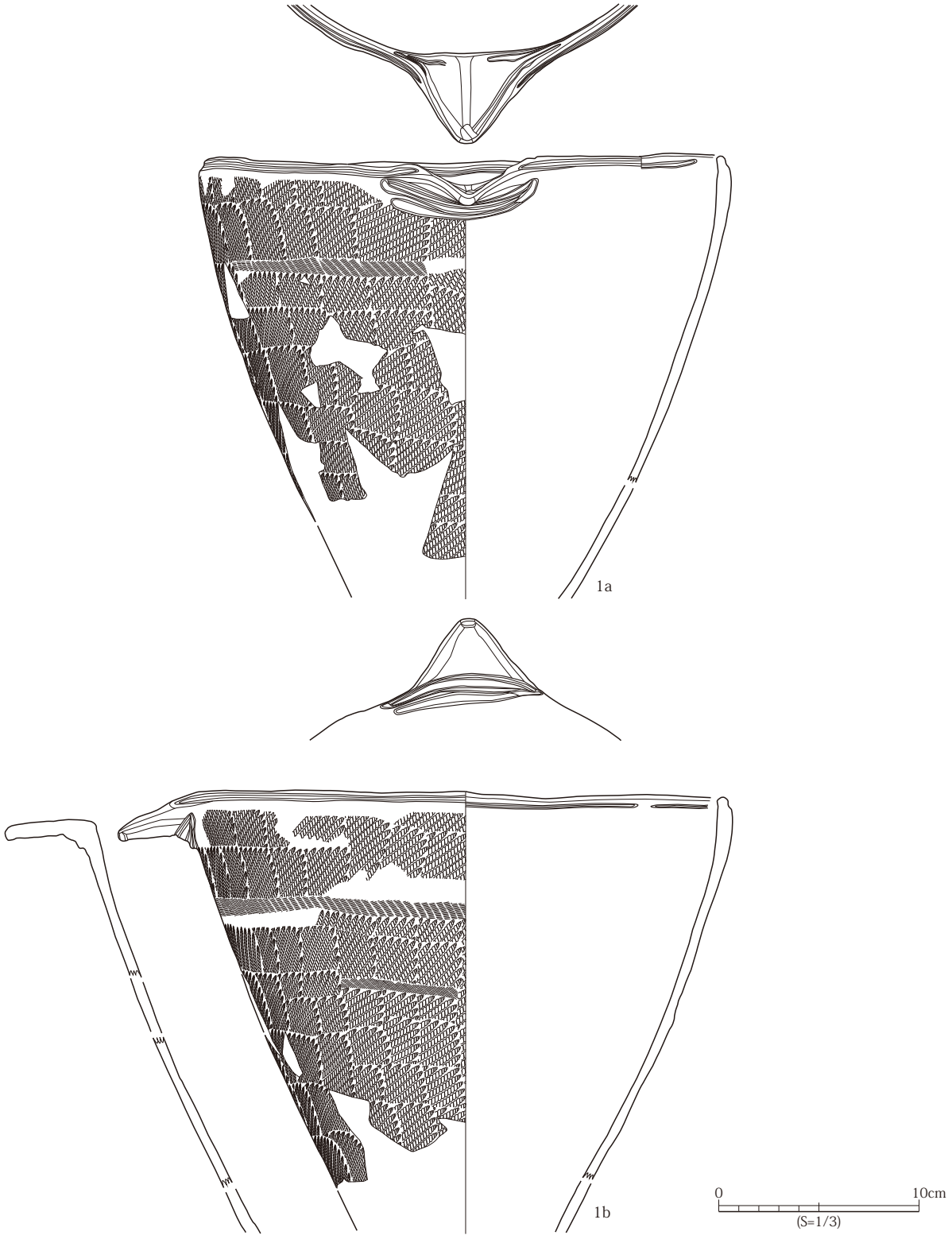
No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	B2f	XⅡ a2	Ⅵ e1	F-23Db / Ⅵ e1	口径（35.4cm）、最大径（40.0cm）。小波状縁。山形突起 4 単位 + 口唇部沈線。平行沈線文 + 櫛歯状刻目（π字状の表現）。直前段多条縄文 LR 末端部強調。突起・口縁部内面沈線	74-1	Po2475
2	Ⅲ	A1cef	XⅤ	Ⅵ e1	F-23Db / Ⅵ e1	平縁。山形突起（大）の両側に二個一対の山形突起（小）+ 口唇部沈線。突起・口縁部内面沈線	73-9	Po2476
3	鉢	A1de	Ⅲ b?	Ⅵ d	F-23Ca / Ⅵ d2	平縁。方形突起 + 頂部刻み。弧状の平行沈線文 + 三叉文状の刺突列、盲孔 1	73-15	Po2410
4	台部	-	Ⅳ	Ⅵ d	F-23Ca / Ⅵ d	透かし彫りを伴う羊歯状文	73-16	Po2412
5	深鉢	A1df	XⅡ x	Ⅵ d	F-23Ca / Ⅵ d	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。羊歯状の浮線文、平行沈線文。縄文 LR	74-2	Po2405
6	深鉢	A1cdf	XⅡ x	Ⅵ d	F-23C / Ⅵ d	平縁。二個一対の小突起 + 弧状の短沈線文 + ヘラ刻目。羊歯状の浮線文、平行沈線文。直前段多条縄文 LR	74-5	Po2439
7	Ⅲ	A1bcd	Ⅶ a	Ⅵ d	F-23C / Ⅵ d	平縁。弧状の短沈線文 + ヘラ刻目 + 羊歯状浮線文。雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR	73-14	Po2431
8	Ⅲ	A1bf	Ⅶ a	Ⅵ d	F-23C / Ⅵ d	平縁。二個一対の小突起 + 羊歯状浮線文。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR。口縁部内面沈線	74-3	Po2432
9	Ⅲ	A1bf	Ⅶ a	Ⅵ d	F-23Ca / Ⅵ d	平縁。二個一対の小突起 + 羊歯状浮線文。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR	74-7	Po2407
10	Ⅲ	A1bf	Ⅶ a	Ⅵ d	F-23C / Ⅵ d	平縁。二個一対の小突起 + 羊歯状浮線文。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR。内外面・口唇部黒彩	74-9	Po2446
11	Ⅲ	A1bf	Ⅶ a	Ⅵ d	F-23Da / Ⅵ d	平縁。山形突起 + 二個一対の小突起 + 羊歯状浮線文。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR。外面・口唇部黒彩	74-10	Po2347
12	Ⅲ	A1cf	Ⅶ a	Ⅵ d	F-23C / Ⅵ d	平縁。二個一対の小突起 + 羊歯状浮線文。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR。体部下半内面沈線。内外面赤彩	74-4	Po2438
13	Ⅲ	A1bd	Ⅶ a	Ⅵ d	F-23Cb / Ⅵ d	平縁。ヘラ刻目 + 羊歯状浮線文。平行沈線文、雲形文（浮暢表現、磨消縄文）。縄文 LR	74-11	Po3931
14	Ⅲ	A1bf	Ⅶ a	Ⅵ d	F-23Cb / Ⅵ d	平縁。二個一対の小突起 + 羊歯状浮線文。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR。体部下半内面隆帯。内外面・口唇部赤彩	74-6	Po2386
15	Ⅲ	A1cf	Ⅶ a	Ⅵ d	F-23Da / Ⅵ d	平縁。二個一対の小突起 + 口唇部沈線。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。直前段多条縄文 LR。体部下半内面隆帯。内外面赤彩	74-8	Po2357
16	Ⅲ	A1bcf	Ⅶ a	Ⅵ d	F-23Cb / Ⅵ d	平縁。二個一対の山形突起 + 二個一対の小突起 + 羊歯状浮線文 + 口唇部沈線。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR。体部下半内面隆帯 + 充填縄文 LR。内外面・口唇部赤彩。胎土に海綿骨針を含む	74-13	Po2385
17	浅鉢	-	Ⅴ + Ⅶ a	Ⅵ d	F-23Ca / Ⅵ d	雲形文（浮彫表現、磨消縄文）、列点文。縄文 RL。胎土に海綿骨針を含む	74-14	Po2411

第95図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（10）　F-23区C・Dグリッド



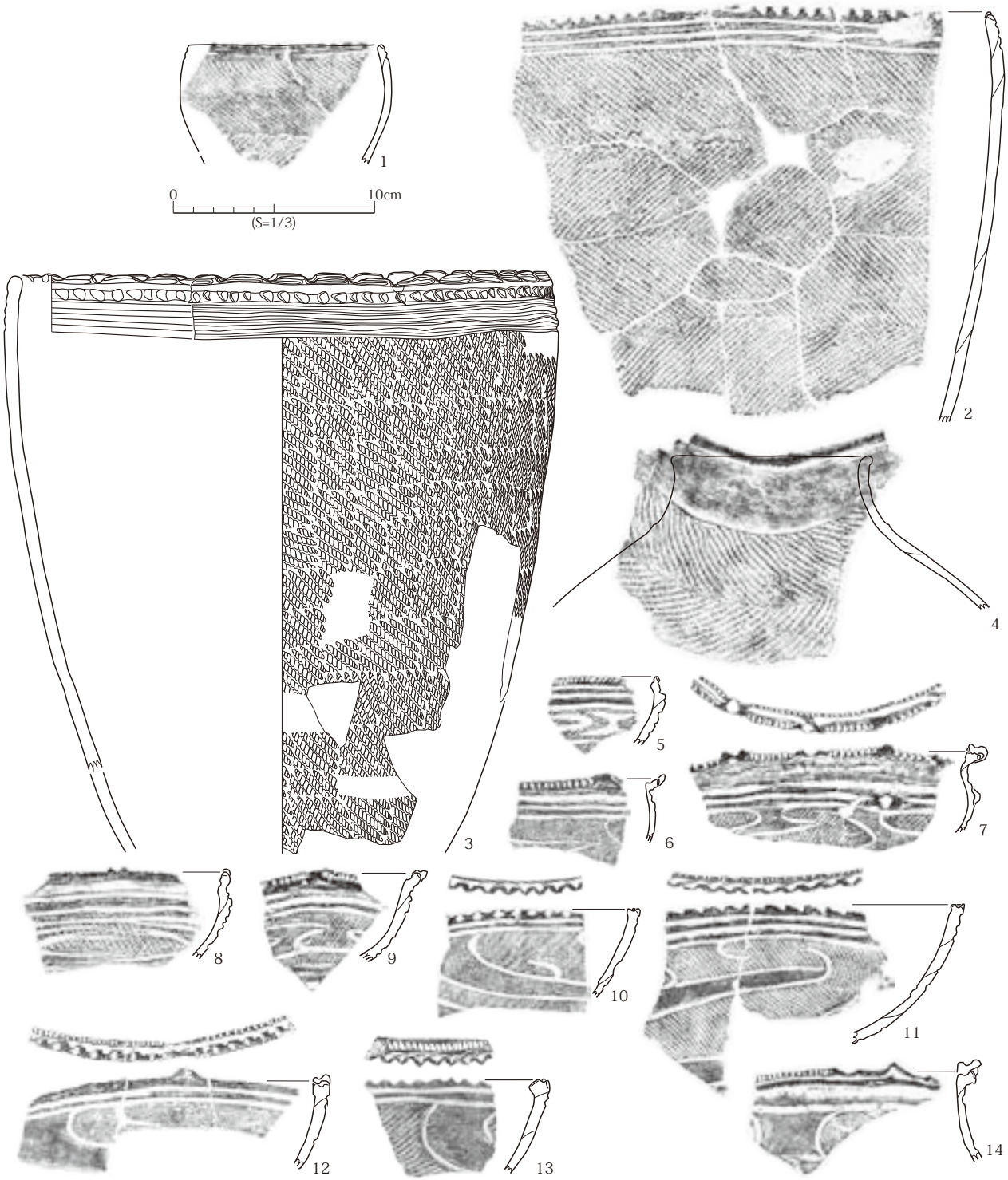
No.	器 種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特 徴	写真図版	登録
1	Ⅲ	A2c	Ⅶa	Ⅵd	F-23Cb+C / Ⅵd	小波状縁。口唇部沈線。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）、底部付近に平行沈線文。直前段多条縄文 LR。底部ミガキ。体部下半内面隆帯。外面赤彩	75-5	Po2374
2	注口土器	-	Ⅶa	Ⅵd	F-23C / Ⅵd	平縁。口唇部沈線。雲形文（浮彫表現、磨消縄文）、平行沈線文。縄文 LR	74-12	Po2426
3	注口土器	-	Ⅶa	Ⅵd	F-23Da / Ⅵd	平行沈線文、隆帯＋櫛歯状刻目、二個一対の小突起＋弧状の短沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR	74-15	Po2356
4	壺	-	Ⅶa	Ⅵd	F-23Ca / Ⅵd	平行沈線文＋ヘラ刻目、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR	74-16	Po2393
5	注口土器	-	Ⅶa	Ⅵd	F-23Cb / Ⅵd	雲形文（浮彫表現、磨消縄文）、平行沈線文。隆帯＋ヘラ刻目＋弧状の短沈線文。縄文 LR	74-17	Po2379
6	注口土器	-	ⅩⅡa1	Ⅵd	F-23Db / Ⅵd	平行沈線文＋櫛歯状刻目、注口基部の周りに環状の平行沈線文、注口先端部に環状沈線文。注口部と体部の接合部に黒色物質付着	74-18	Po2283
7	注口土器	-	Ⅶa	Ⅵd	F-23D / Ⅵd	雲形文（浮彫表現）、羊歯状の浮線文＋平行沈線文	74-19	Po2337
8	深鉢	A1d	Ⅴ	Ⅵd	F-23Cb / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目。列点文。縄文 LR	74-20	Po2419
9	深鉢	A1cd	ⅩⅡb1	Ⅵd	F-23C / Ⅵd	平縁。口唇部沈線＋ヘラ刻目。平行沈線文＋刺突列。縄文 LR	74-22	Po2453
10	Ⅲ	A1cdf	Ⅴ	Ⅵd	F-23C / Ⅵd	平縁。二個一対の小突起＋弧状の短沈線文＋ヘラ刻目。列点文２段、平行沈線文。直前段多条縄文 RL。口縁部内面列点文。	74-21	Po2445
11	Ⅲ	A1cdf	Ⅴ	Ⅵd	F-23C / Ⅵd	平縁。小突起＋内面に弧状の短沈線文＋ヘラ刻目。列点文、平行沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面列点文。胎土に海綿骨針を含む	74-23	Po2451
12	浅鉢	A1cd	Ⅴ	Ⅵd	F-23Cb / Ⅵd	平縁。内面に弧状の短沈線文＋ヘラ刻目。列点文、平行沈線文。縄文 RL。口縁部内面列点文	74-25	Po2416
13	Ⅲ	A1cd	ⅩⅡx	Ⅵd	F-23C / Ⅵd	平縁。内面に弧状の短沈線文＋ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR	74-24	Po2433
14	深鉢	A1d	Ⅴ	Ⅵd	F-23C / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目。列点文、平行沈線文。縄文 LR	75-2	Po2441
15	深鉢	A1d	ⅩⅡb1	Ⅵd	F-23Ca / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋刺突列。縄文 LR	75-1	Po2398
16	深鉢	A1d	ⅩⅡb1	Ⅵd	F-23Cb / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋刺突列。無節縄文 L	75-3	Po2380
17	深鉢	A1d	ⅩⅡa1	Ⅵd	F-23Ca / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋櫛歯状刻目。羽状縄文 RL/LR	75-4	Po2397
18	深鉢	A1cd	ⅩⅡb1	Ⅵd	F-23Ca / Ⅵd	平縁。弧状の短沈線文＋ヘラ刻目。平行沈線文＋刺突列。縄文 LR 末端部強調	76-10	Po2406
19	深鉢	A1cd	ⅩⅡb1	Ⅵd	F-23Cb / Ⅵd	平縁。弧状の短沈線文＋ヘラ刻目。平行沈線文＋刺突列。縄文 LR	75-6	Po2366
20	壺	D1	ⅩⅡb1	Ⅵd	F-23Ca+Cb / Ⅵd	口径 10.8cm。平縁。平行沈線文＋刺突列。縄文 LR	75-9	Po2417

第96図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（11）　F-23区C・Dグリッド



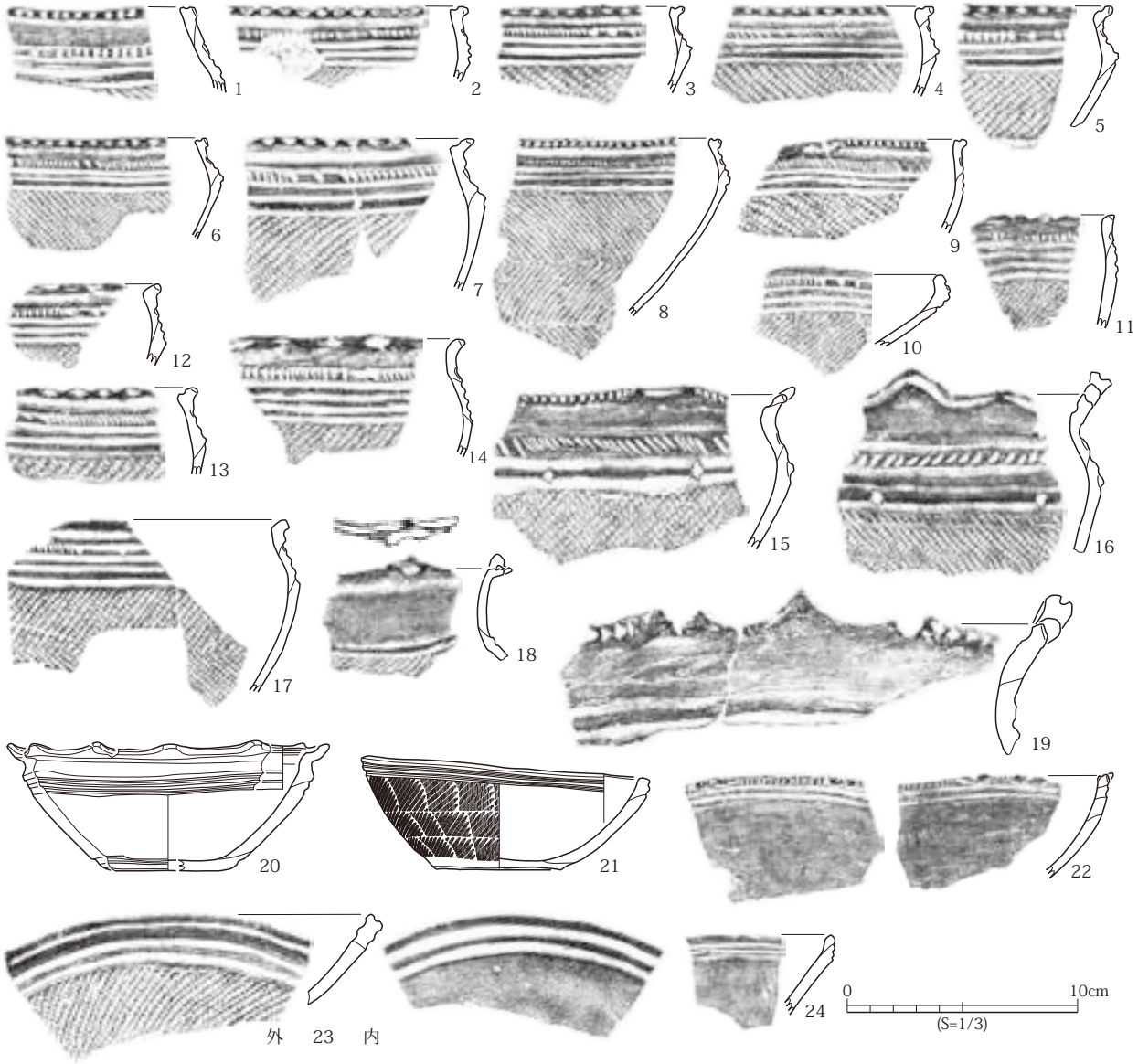
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	片口付深鉢	A1o	XⅡx	Ⅵd	F-23Ca+Eb / Ⅵd+ Ⅵc4-6	口径 25.8cm。平縁。注口 1 単位(片口)。片口の下位に平行沈線文、口縁部付近に横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	75-10	Po1848

第97図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（12）　F-23区C・Dグリッド



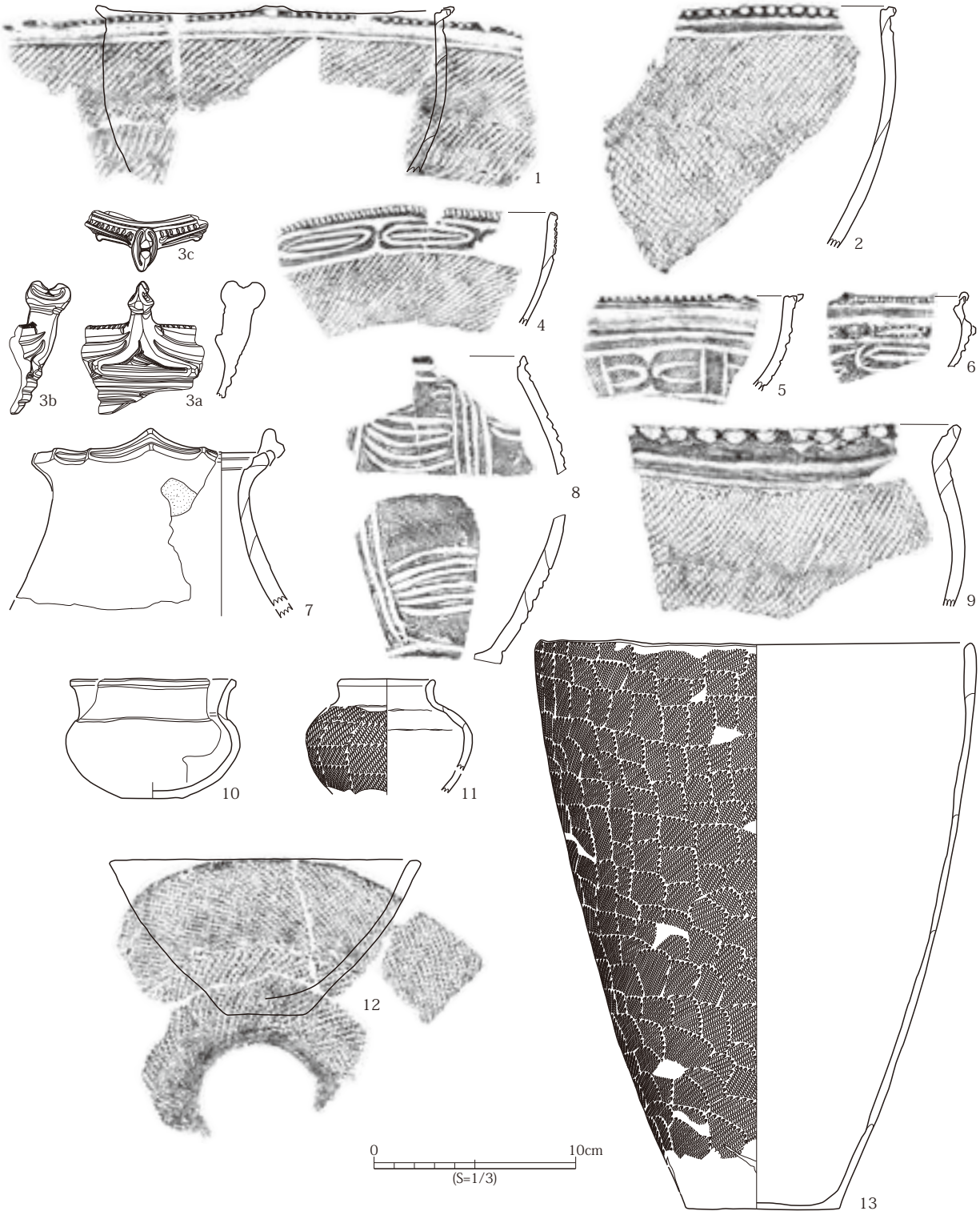
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	鉢	A1d	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ d	F-23Cb / Ⅵ d	口径（9.6cm）。平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。羽状縄文 LR/RL	75-8	Po2367
2	深鉢	A2cf	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ d	F-23Ca / Ⅵ d	小波状縁。二個一対の小突起＋弧状の短沈線文。平行沈線文。羽状縄文 RL/LR	77-1	Po2400
3	深鉢	A1cd	Ⅹ Ⅱ b1	Ⅵ d	F-23Ca+Eb / Ⅵ d+ Ⅵ c7	口径 26.6cm。平縁。短沈線文＋ヘラ刻目。平行沈線文＋刺突列。直前段多条縄文 LR	76-1	Po1839
4	壺	C1	Ⅹ Ⅲ	Ⅵ d	F-23Cb / Ⅵ d	口径（10.0cm）。平縁。玉縁。横位沈線文。羽状縄文 RL/LR	75-7	Po2418
5	浅鉢	B1d	Ⅶ a	Ⅵ d	F-23Db+E / Ⅵ d+ Ⅵ b2	平縁。櫛歯状刻目。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR。口縁部内面沈線	76-2	Po1100
6	鉢	B1cdf	Ⅶ b	Ⅵ d	F-23Da / Ⅵ d	平縁。山形突起＋ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。直前段多条縄文 LR	76-3	Po2302
7	鉢	B1cf	Ⅶ b+ Ⅷ	Ⅵ d	F-23Da+D / Ⅵ d+ Ⅵ b2	平縁。山形突起＋二個一対の小突起＋口唇部沈線＋ヘラ刻目。メガネ状浮文＋二個一対の貼瘤、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	76-4	Po2313
8	浅鉢	A1df	Ⅶ b	Ⅵ d	F-23Da / Ⅵ d	平縁。山形突起＋ヘラ刻目。平行沈線文＋雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 RL	76-5	Po2349
9	浅鉢	C1df	Ⅶ b	Ⅵ d	F-23Da / Ⅵ d	平縁。山形突起＋ヘラ刻目。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	76-6	Po2361
10	Ⅲ	A1bd	Ⅶ b	Ⅵ d	F-23Da / Ⅵ d	平縁。ヘラ刻目＋波状浮線文。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。体部下半内面隆帯	76-8	Po2346
11	Ⅲ	A1bd	Ⅶ b	Ⅵ d	F-23Da / Ⅵ d	平縁。ヘラ刻目＋波状浮線文。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 RL。体部下半内面平行沈線文	76-9	Po2341
12	Ⅲ	A1bdf	Ⅶ b	Ⅵ d	F-23Da / Ⅵ d	平縁。山形突起＋ヘラ刻目＋波状浮線文。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR	76-11	Po2342
13	Ⅲ	A1bd	Ⅶ b	Ⅵ d	F-23Da / Ⅵ d	平縁。ヘラ刻目＋櫛歯状刻目＋波状浮線文。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR	76-18	Po2343
14	注口土器	B1cdf	Ⅶ b	Ⅵ d	F-23Da / Ⅵ d	平縁。山形突起の両側に二個一対の山形突起＋ヘラ刻目＋口唇部沈線。雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 RL	76-12	Po2355

第98図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（13）　F-23区C・Dグリッド



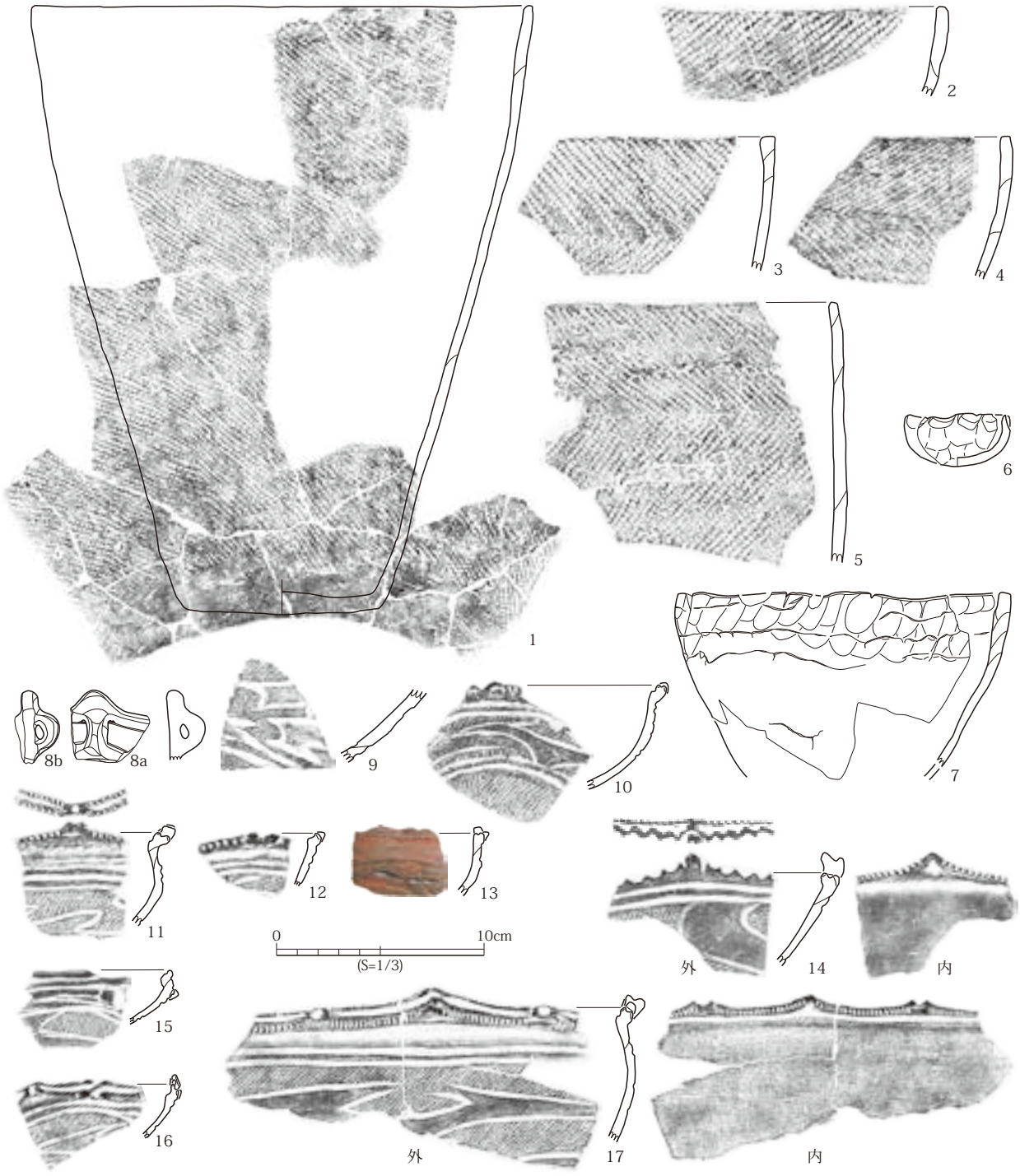
No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	B1cd	XⅡa2	Ⅵd	F-23C / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋ヘラ刻目（π字状の表現あり）。縄文 RL	76-16	Po2440
2	深鉢	B1cd	XⅡb2	Ⅵd	F-23Cb / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋刺突列（π字状の表現あり）。縄文 LR。内面炭化物付着	76-17	Po2422
3	深鉢	B1cd	XⅡa2	Ⅵd	F-23Cb / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文 LR。胎土に海綿骨針を含む	76-14	Po2391
4	深鉢	B1cd	XⅡa2	Ⅵd	F-23Cb / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文 RL。内外面・口唇部炭化物付着	76-26	Po2383
5	深鉢	B1cd	XⅡb2	Ⅵd	F-23D / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋刺突列（π字状の表現あり）。縄文 LR	76-7	Po2336
6	鉢	B1cd	XⅡa2	Ⅵd	F-23Da / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文 RL	76-19	Po2306
7	深鉢	B1cd	XⅡa2	Ⅵd	F-23C / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文 LR	76-22	Po2443
8	鉢	B1cd	XⅡa1	Ⅵd	F-23Da / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋櫛歯状刻目。羽状縄文 RL/LR。内外面炭化物付着	76-21	Po2328
9	深鉢	B1cd	XⅡa2	Ⅵd	F-23Da / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。直前段多条縄文 RL	76-23	Po2293
10	浅鉢	A1	XⅡa2	Ⅵd	F-23Ca / Ⅵd	平縁。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文 LR	76-20	Po2409
11	鉢	A1d	XⅡa2	Ⅵd	F-23Da / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文 LR	76-13	Po2325
12	深鉢	C2	XⅡa2	Ⅵd	F-23Ca / Ⅵd	小波状縁。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文 LR。胎土に海綿骨針を含む	76-15	Po2399
13	深鉢	B1cd	XⅡa2	Ⅵd	F-23C / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文 LR	76-28	Po2429
14	深鉢	C2	XⅡa2	Ⅵd	F-23Cb / Ⅵd	小波状縁。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。直前段多条縄文 LR	76-25	Po2381
15	深鉢	B1df	XⅡa2+XⅡa3	Ⅵd	F-23Db / Ⅵd	平縁。二個一対の山形突起＋ヘラ刻目。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）＋ヘラ刻目（工字状の表現）。縄文 LR。口縁部内面沈線	76-27	Po2290
16	深鉢	B2ce	XⅡa1+XⅡa3	Ⅵd	F-23Db / Ⅵd	小波状縁。山形突起(大・小)＋口唇部沈線。平行沈線文＋ヘラ刻目＋押圧(工字状の表現)。縄文 RL。突起・口縁部内面沈線	76-24	Po2286
17	鉢	B1	XⅡa2	Ⅵd	F-23C / Ⅵd	平縁。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。羽状縄文 LR/RL	77-2	Po2463
18	壺	H1cf	XⅡx	Ⅵd	F-23Da / Ⅵd	平縁。山形突起＋二個一対の山形突起＋弧状の短沈線文＋口唇部沈線。平行沈線文。0 段多条縄文 LR	77-4	Po2326
19	深鉢	C1cdef	XⅡx	Ⅵd	F-23Db / Ⅵd+ Ⅵb2	平縁。山形突起の両側に二個一対の山形突起＋ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文。突起・口縁部内面沈線	77-5	Po2279
20	浅鉢	B1f	XⅡx	Ⅵd	F-23Da / Ⅵd	口径（12.6cm）、器高 5.6cm。底径（5.2cm）平縁。山形突起 10 単位。平行沈線文、底部付近に横位沈線文。底部ミガキ。突起・口縁部内面沈線	77-26	Po2311
21	浅鉢	A1	XⅡx	Ⅵd	F-23Ca / Ⅵd	口径 12.5cm、器高 5.1cm、底径 5.4cm。平縁。平行沈線文。縄文 LR。底部ナデ（一部ミガキ）、かるい上げ底	77-27	Po2408
22	浅鉢	A1cdf	XⅡx	Ⅵd	F-23Da / Ⅵd	平縁。二個一対の小突起＋口唇部沈線＋櫛歯状刻目。平行沈線文。胎土に海綿骨針を含む	77-3	Po2297
23	皿	A1c	XⅡx	Ⅵd	F-23Db / Ⅵd	平縁。口唇部沈線。平行沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面平行沈線文。胎土に海綿骨針を含む	77-6	Po2281
24	浅鉢	A1cd	XⅡx	Ⅵd	F-23Ca / Ⅵd	平縁。平行沈線文	77-7	Po2415

第99図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（14）　F-23区C・Dグリッド



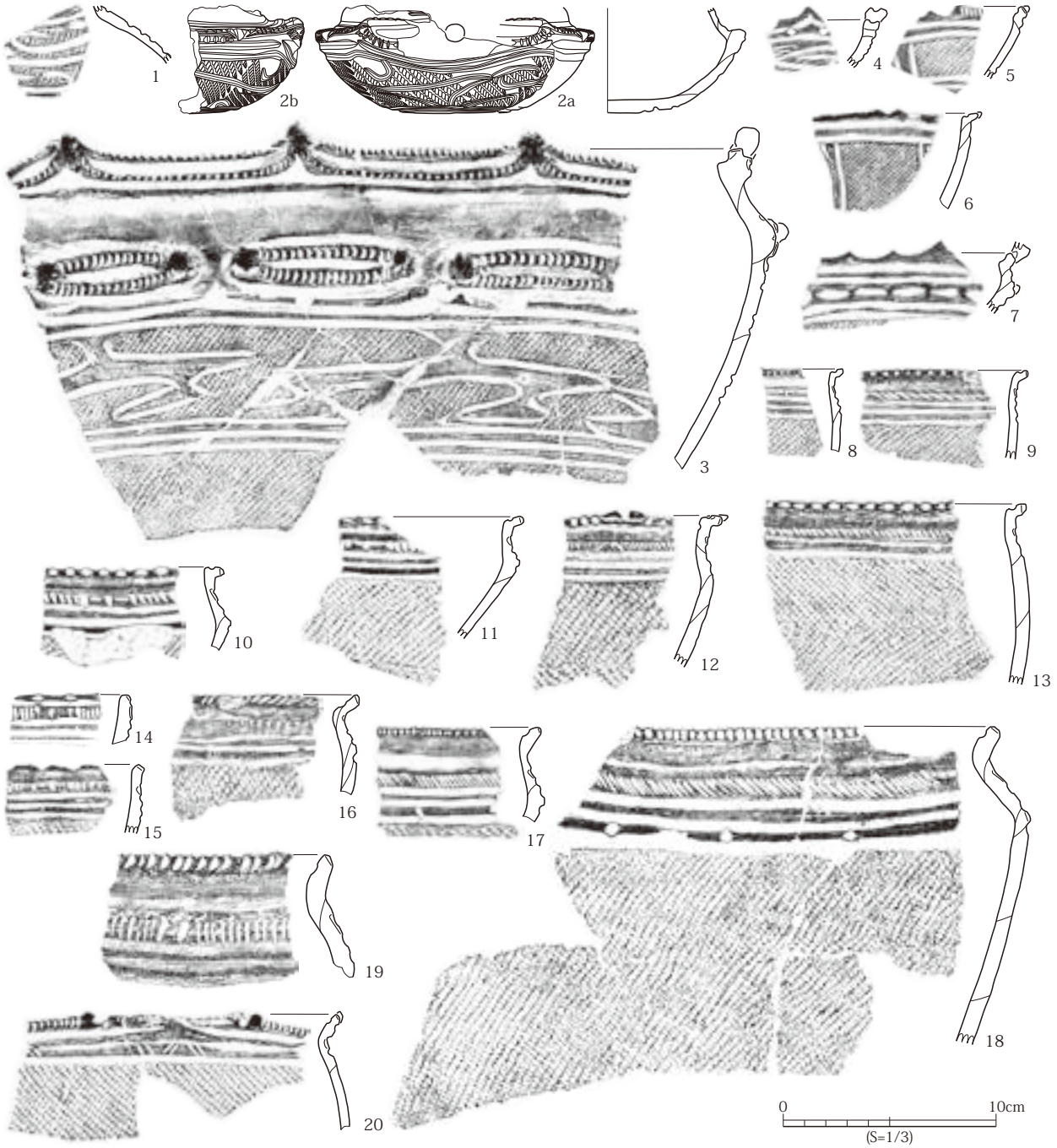
No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	B1cdf	XIII	VI d	F-23Da / VI d	口径（17.4cm）。平縁。二個一対の山形突起 + ヘラ刻目 + 口唇部沈線。横位沈線文。縄文 LR 末端部強調	77-9	Po2323
2	深鉢	B1cd	XIII	VI d	F-23Da / VI d	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。横位沈線文。羽状縄文 LR/RL	77-12	Po2310
3	深鉢	A1de	VIII	VI d	F-23Da / VI d	平縁。装飾的な角状の突起 + ヘラ刻目。平行沈線文、メガネ状浮文 + 二個一対の貼瘤。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	77-10	Po2296
4	鉢	A1d	X b	VI d	F-23Da / VI d	平縁。櫛歯状刻目。工字文（陽刻）。縄文 LR 末端部強調。胎土に海綿骨針を含む	77-17	Po2312
5	鉢	A1cd	X b	VI d	F-23Db / VI d	平縁。二個一対の小突起 + 口唇部沈線 + ヘラ刻目。平行沈線文、縦位の平行沈線文、工字文（陽刻、磨消縄文）。縄文 LR	77-8	Po2277
6	鉢	B1df	VIII + X b	VI d	F-23Db / VI d	平縁。二個一対の山形突起 + ヘラ刻目 + 口唇部沈線。メガネ状浮文 + 二個一対の貼瘤 + ヘラ刻目、工字文（陽刻）。縄文 LR	77-11	Po2282
7	壺	-	XV	VI d	F-23Db / VI d	口径（11.8cm）。平縁。山形突起（大）の両側に二個一対の山形突起 + 口唇部沈線。突起・口縁部内面沈線	77-15	Po2278
8	鉢	B1	X II d1	VI d	F-23Da+Db / VI d+ VI b2	平縁。平行沈線文、縦位の平行沈線文、弧状の平行沈線文。底部剥落。口縁部内面沈線	77-13	Po1359
9	深鉢	B2	XIII	VI d	F-23Db / VI d	小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	77-14	Po2289
10	壺	H1	XV	VI d	F-23Ca / VI d	器高 5.9cm、最大径（8.6cm）、底径 3.0cm。平縁。底部ミガキ、かるい上げ底	77-24	Po2403
11	壺	A1	XIV b1	VI d	F-23D / VI d	口径 4.7cm、最大径 8.3cm。平縁。縄文 LR	77-25	Po2334
12	鉢	A1	XIV a2	VI d	F-23Da / VI d	口径（15.4cm）、器高 7.8cm、底径 4.0cm。平縁。羽状縄文 RL/LR。底部ミガキ	77-28	Po2300
13	深鉢	A1	XIV a1	VI d	F-23Ca / VI d	口径（21.0cm）、器高 28.4cm、底径 7.7cm。平縁。直前段多条縄文 LR。底部ケズリ	78-28	Po2404

第100図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（15）　F-23区C・Dグリッド



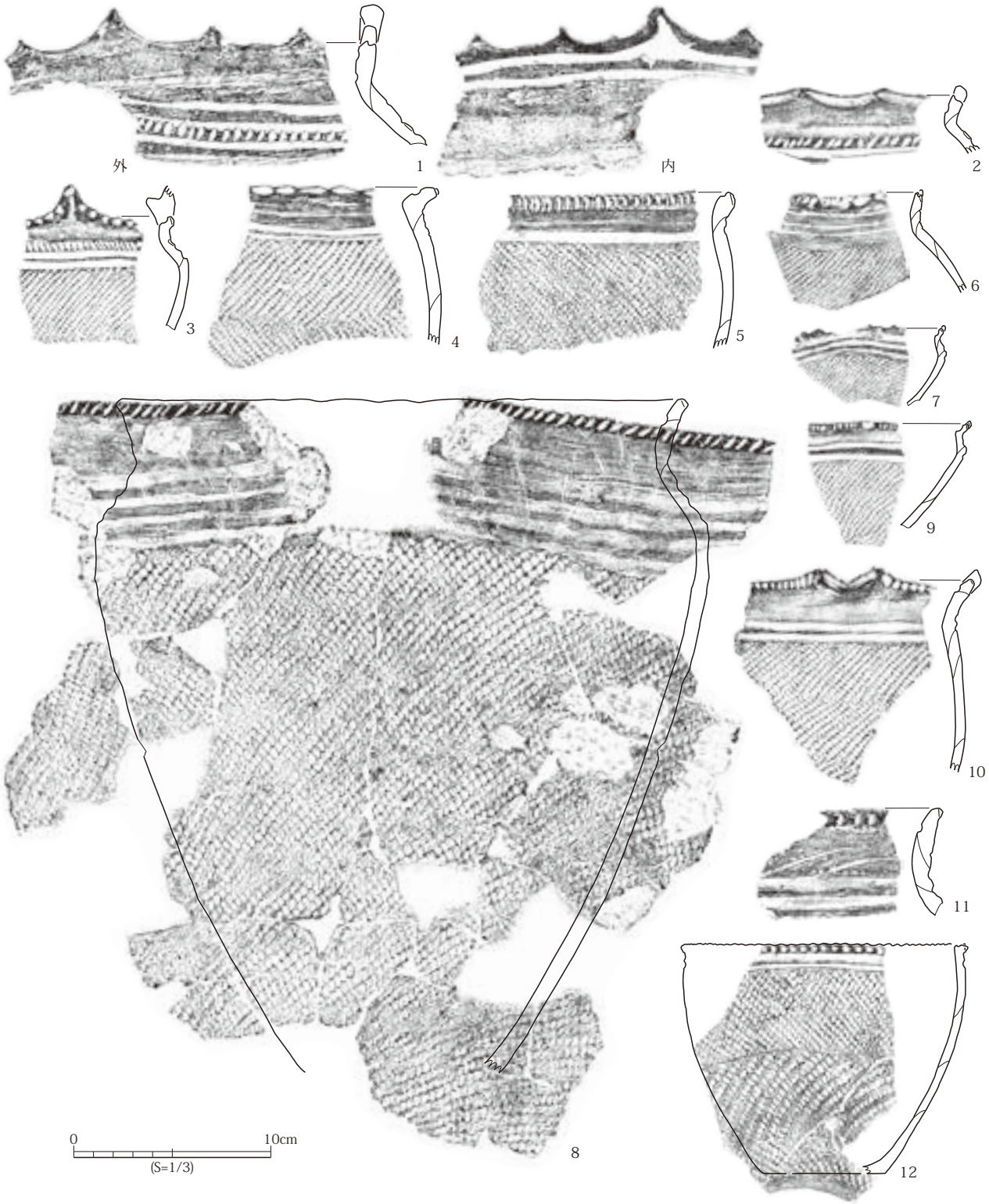
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1	XIV a1	VI d	F-23Ca / VI d2+ VI d	口径（23.5cm）、器高（29.3cm）、底径 9.6cm。平縁。無節縄文 R。底部ナデ	79-15	Po2396
2	深鉢	A1	XIV a1	VI d	F-23C / VI d	平縁。縄文 LR	77-18	Po2434
3	深鉢	A1	XIV a2	VI d	F-23Da / VI d+ VI a	平縁。羽状縄文 RL/LR	77-16	Po2315
4	深鉢	A1	XIV a2	VI d	F-23Cb / VI d	平縁。羽状縄文 LR/RL	77-20	Po2368
5	深鉢	A1	XIV a2	VI d	F-23Cb / VI d	平縁。羽状縄文 RL/LR	77-23	Po2421
6	袖珍土器鉢	A1d	XV	VI d	F-23Da / VI d	口径（4.6cm）、器高（2.5cm）。平縁。押圧。丸底ナデ。胎土に海綿骨針を含む	77-19	Po2292
7	製塩土器鉢	A1d	XV	VI d	F-23Cb+Da / VI d	口径（16.0cm）。平縁。指頭による押圧	78-29	Po2329
8	深鉢	A1f	-	VI b2	F-23Db / VI b2	平縁。山形突起。環状隆帯	77-21	Po1146
9	皿	-	VII a	VI b2	F-23Da / VI b2	雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR。体部下半内面沈線	77-22	Po1859
10	浅鉢	B1cdf	VII b	VI b2	F-23Db / VI b2	平縁。二個一対の小突起＋口唇部沈線＋ヘラ刻目。雲形文（沈線表現、磨消縄文）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	78-1	Po1215
11	鉢	B1cdf	VII b	VI b2	F-23D / VI b2	平縁。山形突起（頂部刻み）＋突起間沈線＋ヘラ刻目。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。口縁部内面沈線	78-4	Po1398
12	浅鉢	B1df	VII b	VI b2	F-23Db / VI b2	平縁。二個一対の小突起＋ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文、雲形文（沈線表現）。縄文 LR。内外面・口唇部赤彩	78-2	Po1161
13	鉢	A1cf	VII b	VI b2	F-23Db / VI b2	平縁。山形突起＋二個一対の小突起。雲形文（沈線表現）。縄文 LR。内外面・口唇部赤彩	78-3	Po1252
14	皿	A1bdf	VII b	VI b2	F-23Db / VI b2	平縁。山形突起＋ヘラ刻目＋波状浮線文。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR	78-5	Po1347
15	浅鉢	B1	VII b+ VIII	VI b2	F-23D / VI b2	平縁。平行沈線文、メガネ状浮文＋二個一対の貼瘤、雲形文（沈線表現）。縄文 LR。口縁部内面沈線	78-7	Po1375
16	皿	A1cdf	VII b	VI b2	F-23Db / VI b2	平縁。山形突起（頂部刻み）＋二個一対の小突起＋口唇部沈線。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。口縁部内面沈線	78-9	Po1269
17	鉢	B2cdef	VII b	VI b2	F-23Db+D / VI b2	大波状縁。山形突起＋二個一対の山形突起＋櫛歯状刻目＋口唇部沈線。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。口縁部内面沈線	78-6	Po1373

第101図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（16）　F-23区C・Dグリッド



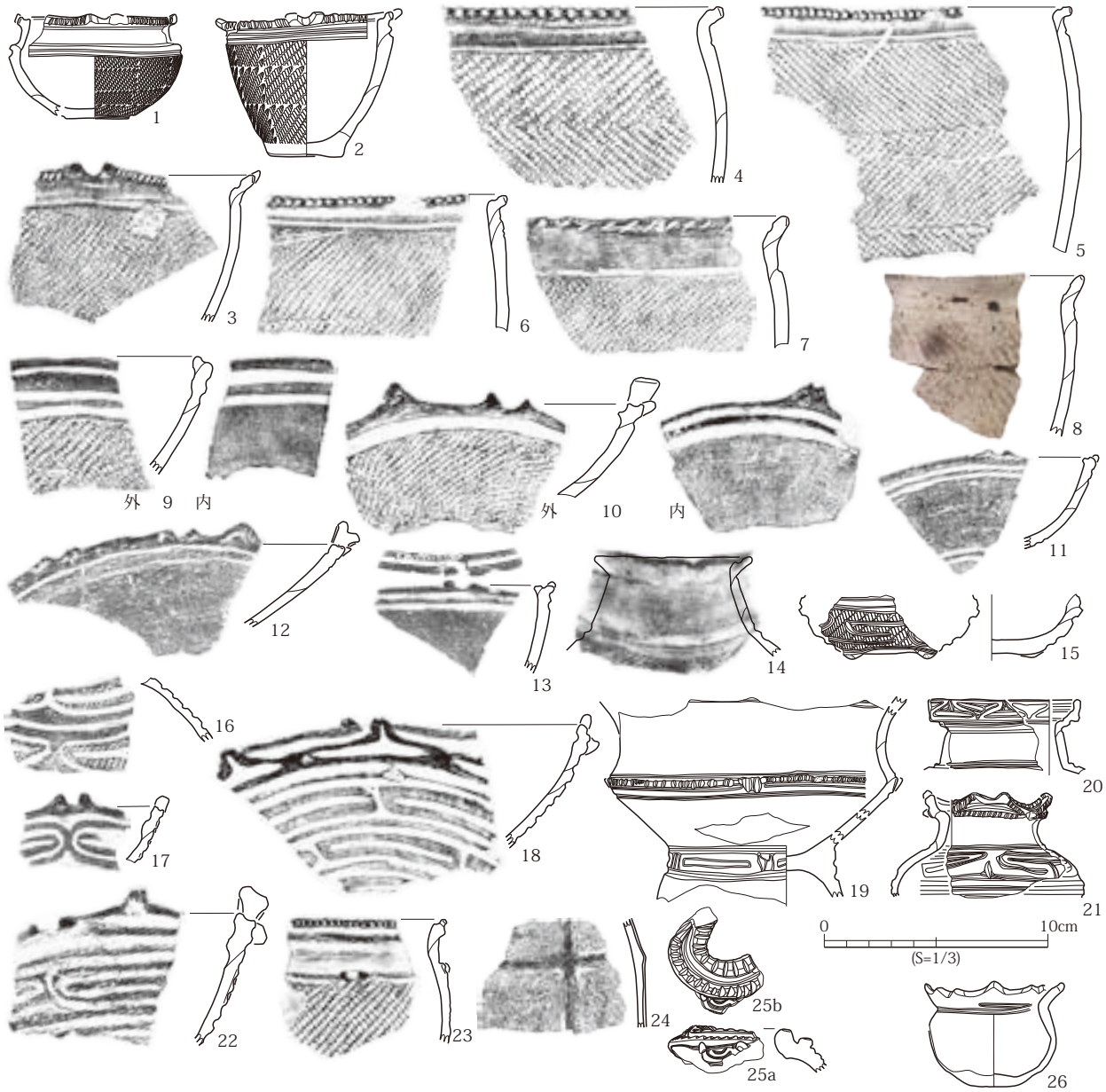
No.	器　種	類型１	類型２	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	壺	-	Ⅶb	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	雲形文（沈線表現、磨消縄文）。0 段多条縄文 LR	78-8	Po1142
2	注口土器	-	Ⅶb	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	底径（5.2cm）。平行沈線文、隆帯＋ヘラ刻目＋櫛歯状刻目＋隆帯上に横位沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 RL。底部ミガキ	78-10	Po1435
3	鉢	B1cdf	Ⅶb+Ⅷ	Ⅵb2	F-23Db+D / Ⅵb2	平縁。山形突起＋突起間沈線＋ヘラ刻目。メガネ状浮文＋二個一対の貼瘤＋櫛歯状刻目、平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。口縁部内面沈線	78-14	Po1172
4	浅鉢	A1ce	Ⅵa	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	平縁。山形突起＋口唇部沈線。Z 字状文（綾杉状文）、貫通孔 2	78-11	Po1394
5	皿	A1df	ⅩⅡd1	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。二個一対の山形突起＋櫛歯状刻目。平行沈線文、縦位の平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	78-15	Po1203
6	鉢	B1cf	ⅩⅡd1	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。二個一対の山形突起＋口唇部沈線。横位沈線文＋縦位の平行沈線文。縄文 LR	78-12	Po1293
7	鉢	B2ce	Ⅷ	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	小波状縁。山形突起＋口唇部沈線。メガネ状浮文、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	78-13	Po1221
8	鉢	B1cd	ⅩⅡa2	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋ヘラ刻目（π字状の表現あり）。縄文 LR	78-18	Po1321
9	深鉢	B1cd	ⅩⅡa2	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現）。縄文 LR	78-16	Po1370
10	深鉢	B1cd	ⅩⅡa2	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状表現あり）。縄文 LR	78-17	Po1437
11	鉢	B1cd	ⅩⅡb2	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋刺突列（π字状の表現あり）。縄文 LR 末端部強調。内面炭化物付着	78-19	Po1429
12	深鉢	B1cdf	ⅩⅡa2	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。二個一対の小突起＋ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。羽状縄文 LR/RL	78-20	Po1281
13	深鉢	B1cd	ⅩⅡa1	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋櫛歯状刻目。羽状縄文 RL/LR	78-21	Po1280
14	鉢	A1d	ⅩⅡa2	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。押圧。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）	78-23	Po1303
15	深鉢	A1d	ⅩⅡb2	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋刺突列（π字状の表現あり）。縄文 LR	78-27	Po1320
16	深鉢	B1cd	ⅩⅡa1	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。櫛歯状刻目＋口唇部沈線。櫛歯状刻目（一部磨消）、平行沈線文。直前段多条縄文 LR	78-22	Po1224
17	深鉢	B1cd	ⅩⅡa2+ⅩⅡa3	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋櫛歯状刻目＋ヘラ刻目（工字状の表現）。縄文 RL	78-24	Po1255
18	深鉢	B1d	ⅩⅡa2+ⅩⅡa3	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）＋ヘラ刻目（工字状の表現）。縄文 LR。口縁部内面沈線	79-7	Po1408
19	深鉢	C1d	ⅩⅡa2	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。口縁部内面沈線	78-25	Po1333
20	深鉢	B1cdf	ⅩⅡa2	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。二個一対の山形突起＋ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋平行する刻目による π 字状の表現。縄文 RL	78-26	Po1181

第102図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（17）　F-23区C・Dグリッド



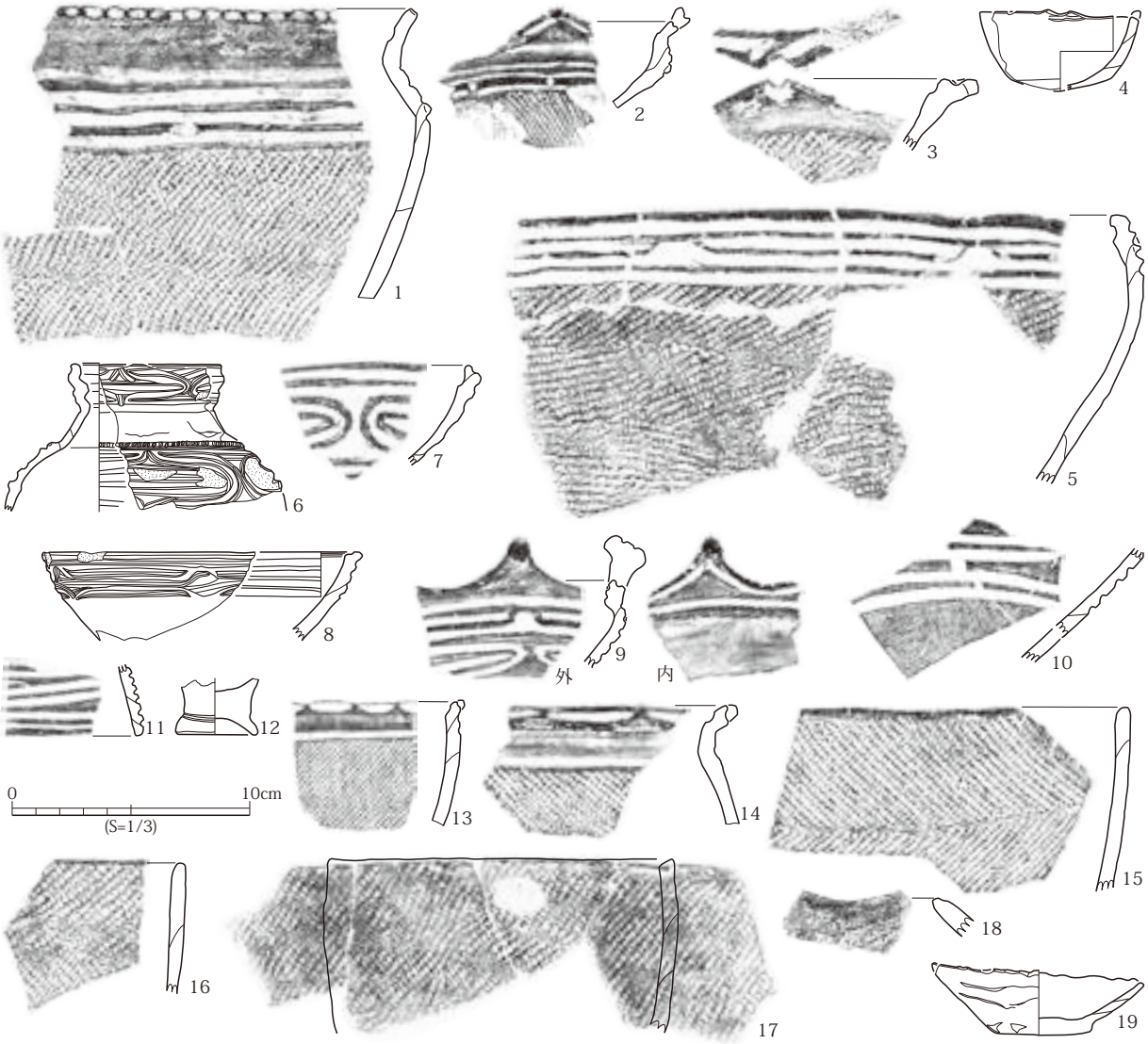
No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	B1cef	XⅡa1	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	平縁。山形突起（大・小）+ 突起間沈線。平行沈線文 + ヘラ刻目。突起・口縁部内面平行沈線文	79-1	Po1428
2	深鉢	B1cf	XⅡa1	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	平縁。山形突起 + 口唇部沈線。平行沈線文 + ヘラ刻目。口縁部内面沈線	79-2	Po1414
3	鉢	B1cde	XⅡa1	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。山形突起 + ヘラ刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文 + 櫛歯状刻目。直前段多条縄文 LR。内面・口唇部炭化物付着	79-4	Po1298
4	深鉢	B1cd	XⅡx	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文。羽状縄文 LR/RL	79-6	Po1199
5	深鉢	C1d	XⅡx	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。櫛歯状刻目。平行沈線文。縄文 RL。口縁部内面平行沈線文	79-9	Po1198
6	壺	A1d	XⅡx	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR	79-13	Po1176
7	小型鉢	B1df	XⅡx	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。平行沈線文。0 段多条縄文 L。口縁部内面沈線	79-3	Po1419
8	深鉢	B1d	XⅡx	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	口径（28.5cm）、最大径（30.9cm）。平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	80-15	Po1346
9	浅鉢	B1cdf	XⅡx	Ⅵb2	F-23Da / Ⅵb2	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文。縄文 LR	79-5	Po1363
10	深鉢	C1df	XⅡx	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。二個一対の山形突起 + ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	79-12	Po1242
11	深鉢	C1d	XⅡx	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。ヘラ刻目。弧状のヘラ書き、平行沈線文。口縁部内面沈線	79-14	Po1170
12	鉢	B1cd	XⅡx	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	口径（14.4cm）、器高 11.9cm、底径（6.2cm）。平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文。縄文 RL/LR。底部ミガキ	79-11	Po1424

第103図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（18）　F-23区C・Dグリッド



No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	浅鉢	C1cdf	XⅢ	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	口径 6.7cm、器高 4.7cm、底径 3.1cm。平縁。二個一対の山形突起 4 単位か＋ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文、底部付近に横位沈線文。縄文 LR。底部ナデ	79-16	Po1218
2	鉢	B1cdf	XⅢ	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	口径（7.2cm）、器高 6.2cm、底径 3.2cm。平縁。二個一対の山形突起 4 単位＋ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。縄文 LR。底部ミガキ	79-17	Po1432
3	深鉢	C1df	XⅢ	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。二個一対の山形突起＋櫛歯状刻目。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	80-3	Po1241
4	深鉢	B1cd	XⅢ	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。羽状縄文 LR/RL	79-10	Po1162
5	深鉢	B1cd	XⅢ	Ⅵb2	F-23D+E / Ⅵb2	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。羽状縄文 RL/LR。胎土に海綿骨針を含む	79-8	Po1372
6	深鉢	B1cd	XⅢ	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。縄文 LR	80-1	Po1382
7	深鉢	C1d	XⅢ	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	平縁。ヘラ刻目。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	80-6	Po1411
8	漆容器（深鉢）	C1d	XⅢ	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。ヘラ刻目。横位沈線文。縄文 RL。口縁部内面沈線。内外面赤漆付着	80-2	Po1219
9	Ⅲ	A1	XⅡx	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	平縁。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面平行沈線文	80-4	Po1410
10	浅鉢	A1cef	XⅢ	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	平縁。山形突起＋二個一対の山形突起。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面平行沈線文	80-7	Po1436
11	Ⅲ	A1cf	XⅡx	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。二個一対の小突起＋口唇部沈線。平行沈線文、底部付近に平行沈線文。底部ミガキ。口縁部内面沈線	80-5	Po1404
12	Ⅲ	A1cef	XⅡx	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。山形突起＋二個一対の山形突起＋口唇部沈線。平行沈線文。口縁部内面沈線	80-9	Po1284
13	浅鉢	A1cf	XⅡx	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。二個一対の小突起＋口唇部沈線。平行沈線文	80-11	Po1194
14	壺	H1c	XⅡx	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	口径（7.0cm）。平縁。口唇部沈線。平行沈線文。縄文 LR	81-1	Po1171
15	四脚付鉢	-	Xc	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	底径（4.2cm）。平行沈線文、工字文（Z 字状、磨消縄文）、底部付近に横位沈線文。縄文 LR。底部ナデ	80-12	Po1416
16	壺	-	Ⅸa+Xc	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	π字文（下向、磨消縄文）、工字文（Z 字状、磨消縄文）。縄文 LR	81-2	Po1246
17	Ⅲ	A1cf	Xb	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。二個一対の山形突起＋突起間沈線。工字文（陽刻）。口縁部内面沈線	80-10	Po1231
18	浅鉢	A1f	Ⅷ+Xa	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	平縁。二個一対の山形突起。メガネ状浮文、工字文（陰刻）、平行沈線文。口縁部内面沈線	80-13	Po1430
19	台付鉢	-	Xa	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	工字文（陰刻）4 単位＋二個一対の貼瘤＋隆線上にヘラ刻目、工字文（陰刻）4 単位。底部ミガキ	80-14	Po1425
20	壺	I1	Ⅸa	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	口径（6.6cm）。平縁。π字文（下向＋上向）、平行沈線文。口縁部内面平行沈線文。内外面赤彩	81-3	Po1409
21	壺	I1cdf	Xa+Xb	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	口径（5.2cm）、最大径（8.6cm）。平縁。二個一対の山形突起の両側に小突起＋突起間沈線＋ヘラ刻目。工字文（陽刻）＋工字文（陰刻）、平行沈線文。内外面・口唇部赤彩。胎土に海綿骨針を含む	81-4	Po1334
22	浅鉢	A1cef	Xa	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。山形突起（頂部ボタン状突帯）＋二個一対の小突起＋突起間沈線。平行沈線文、工字文（陰刻）。口縁部内面平行沈線文	80-8	Po1173
23	深鉢	B1cd	Ⅸb	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。口縁部に平行沈線文、頸部～体部上半にπ字文（上向）＋二個一対の貼瘤。直前段多条縄文 LR	81-5	Po1263
24	壺	-	-	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	十字状の隆帯（突帯文）	81-6	Po1341
25	香炉形土器か	-	Xa?	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	弧状の隆線＋ヘラ刻目、透かしのある工字文（陰刻）か。貫通孔 1、盲孔 1	81-7	Po1322
26	袖珍土器鉢	B3ef	XV	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	口径 6.1cm、器高 4.9cm、底径 2.5cm。大波状縁。山形突起（大）4 単位＋二個一対の山形突起（小）4 単位。底部ナデ	81-34	Po1431

第104図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（19）　F-23区C・Dグリッド



No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	B2	XⅡ a3	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	小波状縁。平行沈線文 + ヘラ刻目（工字状の表現）。縄文 LR。口縁部内面沈線	81-10	Po1345
2	浅鉢	B1ce	XⅡ a3	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	平縁。山形突起 + 口唇部沈線。平行沈線文 + ヘラ刻目（工字状の表現）。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	81-8	Po1168
3	Ⅲ	A1cf	XⅣ b1	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	平縁。二個一対の山形突起 + 口唇部沈線。縄文 LR。口縁部内面沈線	81-9	Po1212
4	袖珍土器鉢	A1f	XⅤ	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	口径（6.8cm）、底径（4.2cm）。平縁。二個一対の山形突起。底部ナデ	81-12	Po1253
5	鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	平縁。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR 末端部強調。口縁部内面沈線	81-11	Po1249
6	壺	I1	Ⅸ a+ X a	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	口径（6.2cm）。平縁。π字文（下向）4 単位、工字文（陰刻）4 単位、平行沈線文 + 櫛歯状刻目。口縁部内面平行沈線文	81-16	Po1344
7	浅鉢	A1	X a	Ⅵ b2	F-23D / Ⅵ b2	平縁。平行沈線文、工字文（陰刻）。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	81-13	Po1406
8	浅鉢	A1c	Ⅸ a	Ⅵ b2	F-23D+E / Ⅵ b2	口径（13.3cm）。平縁。口唇部沈線。π字文（上下対向）6 単位	81-19	Po1017
9	台付浅鉢	B3c	Ⅸ a+ XⅠ b1	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	大波状縁。山形突起（頂部半球状の突帯）+ 口唇部沈線。π字文（下向）、変形工字文。突起・口縁部内面沈線	81-18	Po1247
10	台付浅鉢か	-	XⅠ c	Ⅵ b2	F-23D / Ⅵ b2	変形工字文、平行沈線文	81-17	Po1397
11	台部	-	XⅡ x	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	平行沈線文	81-14	Po1155
12	台部	-	XⅢ	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	台部径 3.2cm。横位沈線文。壺台部か	81-36	Po1306
13	深鉢	B2c	XⅡ x	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	小波状縁。突起間沈線。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	81-21	Po1195
14	深鉢	C2c	XⅢ	Ⅵ b2	F-23D / Ⅵ b2	小波状縁。突起間沈線。横位沈線文。縄文 RL。口縁部内面沈線。	81-20	Po1378
15	深鉢	A1	XⅣ a2	Ⅵ b2	F-23D / Ⅵ b2	平縁。羽状縄文 RL/LR	81-23	Po1389
16	深鉢	A1	XⅣ b2	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	平縁。羽状縄文 LR/RL	81-22	Po1243
17	深鉢	A1	XⅣ a1	Ⅵ b2	F-23Db+D / Ⅵ b2	口径（14.4cm）。平縁。縄文 LR	81-24	Po1261
18	鉢	A1	XⅤ	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	平縁	81-15	Po1302
19	Ⅲ	A1	XⅤ	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	口径 8.9cm、器高 2.9cm、底径 4.1cm。平縁。底部ナデ	81-35	Po1244

第105図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（20）　F-23区C・Dグリッド

Ⅵ e1 層では中･小破片に加えて大破片や完形に近い土器も出土している。器種は深鉢や鉢、浅鉢、Ⅲ、壺、注口土器のほかに台の付く土器、漆容器（深鉢、第 94 図 7）がある。装飾は、雲形文（同図 5）やメガネ状浮文（同図 7）などが見られる。

Ⅵd層では中・小破片に加えて大破片が多く出土しており、その場でつぶれた状態で出土した土器も含まれる。器種は深鉢・片口付深鉢・小型深鉢や鉢、浅鉢、皿、壺、注口土器、香炉形土器のほかに袖珍土器鉢、製塩土器鉢（第101図7）、台や脚の付く土器がある。装飾は、帯状文や入組帯状文、瘤の付く帯状文、三叉文（第95図3）、や羊歯状文（同図4）、列点文（同図17、第96図8・10～12・14）、雲形文（第95図7～17、第96図1～5・7、第98図5～14）、メガネ状浮文（同図7、第100図3・6）、工字文（同図4～6）、π字文などが見られる。なかでも雲形文が主体となる。

Ⅵb2層では中・小破片が主体であるが、大破片も多く出土している。器種は深鉢や鉢・小型鉢・台付鉢・四脚付鉢、浅鉢・台付浅鉢、皿、壺、注口土器、香炉形土器?のほかに袖珍土器鉢、台の付く土器、漆容器（深鉢、第104図8）がある。装飾は、帯状文や入組帯状文、三叉文、羊歯状文、雲形文（第101図9～17、第102図1～3）やメガネ状浮文（第101図15、第102図3・7、第104図18）、工字文（同図15～19・21・22・25、第105図6・7）、綾杉状文（第102図4）、π字文（第104図16・20・23、第105図5・6・8・9）、変形工字文（同図9・10）などが見られる。なかでも雲形文が施された土器が特に多く出土している。また、工字文やπ字文も多く見られる。

ⅲ）低地部

Ⅵe層（Ⅵe2層、Ⅵe1層）では中･小破片が主体となる。器種は深鉢や鉢、浅鉢･四脚付浅鉢、皿、壺のほかに脚の付く土器がある。装飾は、雲形文（第106図1）などが見られる。

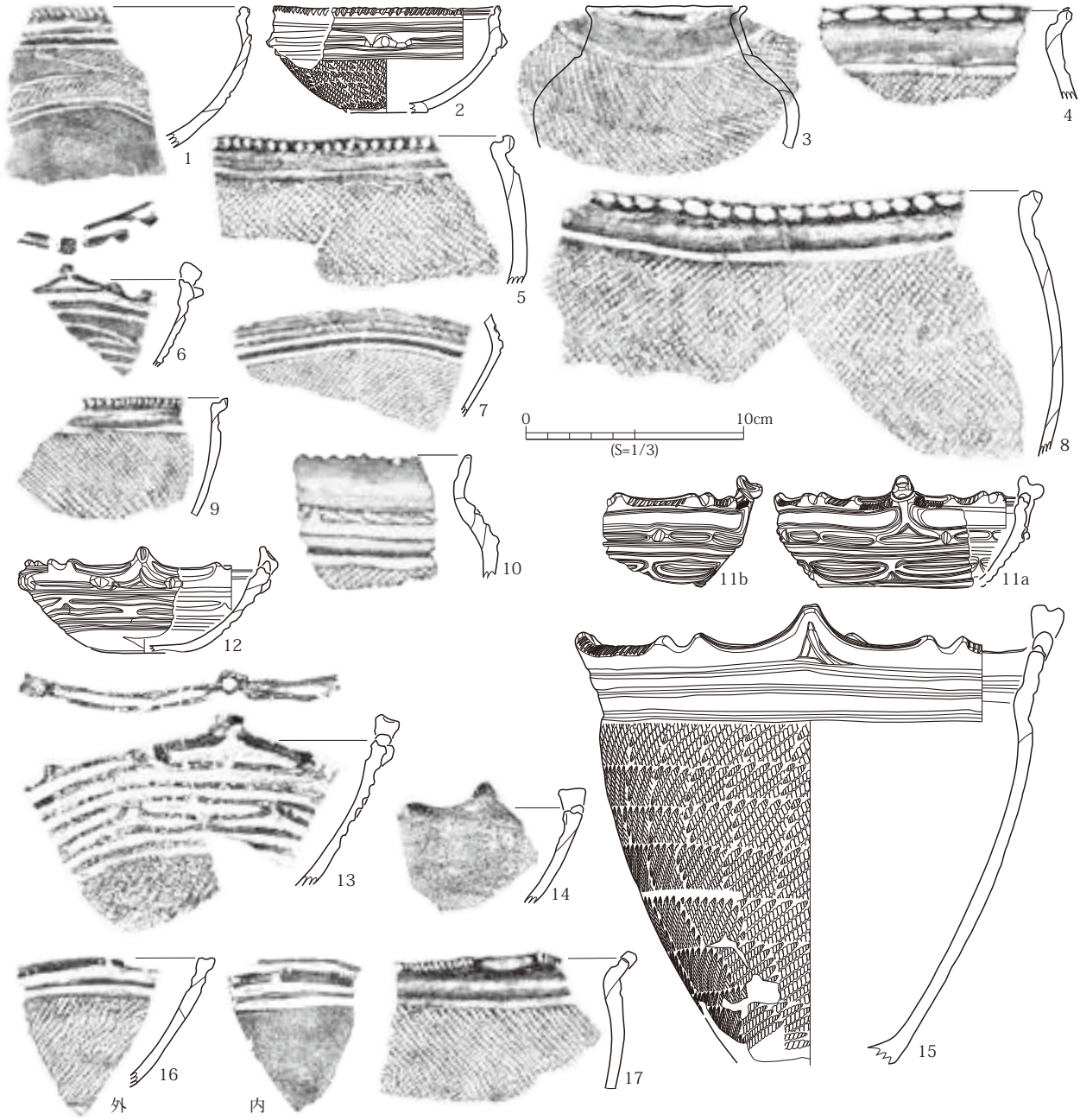
Ⅵd層では中・小破片が主体となる。器種は深鉢や鉢、浅鉢、皿、壺のほかに袖珍土器壺、脚の付く土器がある。装飾は、羊歯状文や雲形文、メガネ状浮文（第106図11～13）や工字文（同図6･11）、π字文（同図10・12・13）などが見られる。

Ⅵc層は、微高地の落ち際の斜面部に堆積する層である。Ⅸ層（地山）をラミナ状やブロック状に含むことが特徴である。掘り下げた範囲では13層に細分されるが、特にⅥc4層より下位はラミナ状に薄く堆積しているため、遺物は、細分層のまとまりが平面で容易に視認できるⅥc4層からⅥc6層までと、Ⅵc7層からⅥc13層までをそれぞれ一括して取り上げることが多かった。したがって、これらの層準では、Ⅵc4層とⅥc7層にそれぞれ帰属させた遺物が多い。

Ⅵc11層からⅥc9層では中・小破片が出土している。器種は深鉢や鉢がある。

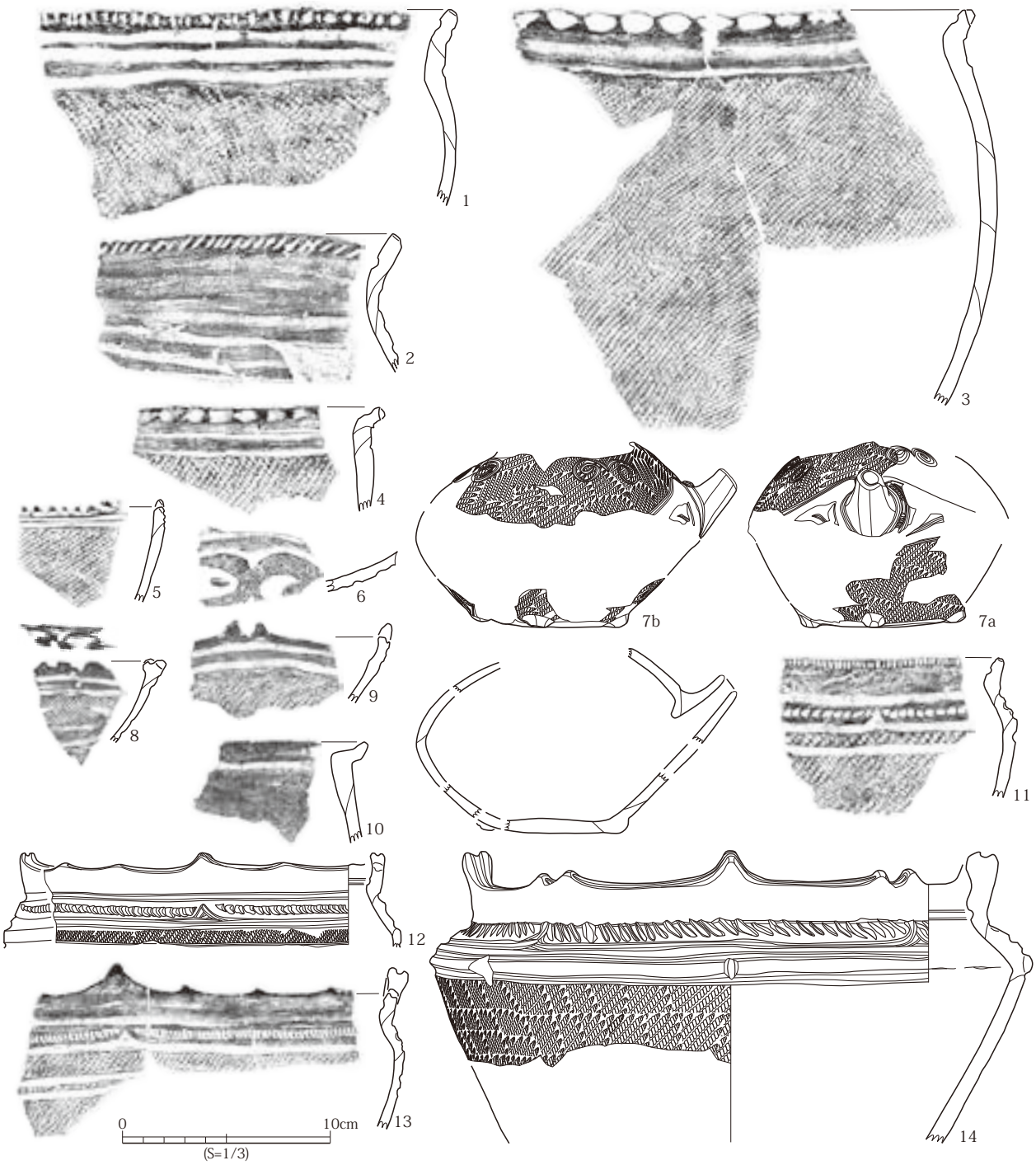
Ⅵc7層では中・小破片に加えて大破片が多く出土しており、完形に近い土器や、その場でつぶれた状態で出土した土器も見られる。器種は深鉢や鉢･台付鉢･四脚付鉢、浅鉢、皿、壺、注口土器（四脚付）のほかに袖珍土器、台や脚の付く土器がある。装飾は、雲形文（第107図6・8）やメガネ状浮文（第109図5・7・13～15、第110図1・3～6）、工字文（第108図11、第109図6～11・15、第110図2・7、第111図12）、綾杉状文（第110図8）、π字文（第107図11～14、第109図11・13・14、第110図1・4～7・9～12、第111図1～8・11・12）などが見られる。なかでもπ字文が施された土器が特に多く出土している。

Ⅵc6層では中・小破片が出土している。器種は深鉢や鉢、浅鉢がある。装飾は、雲形文や工字文などが見られる。



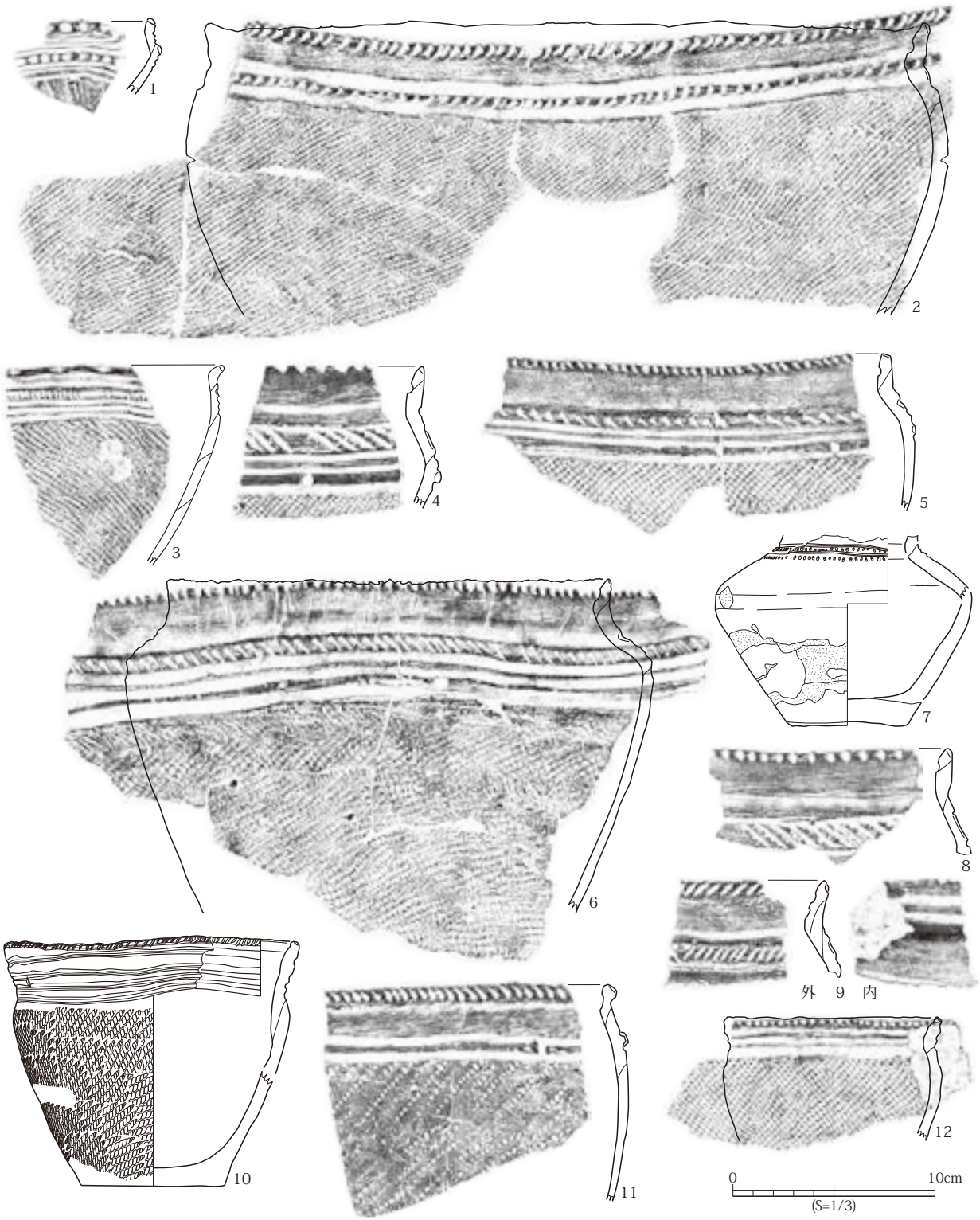
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	浅鉢	B1d	Ⅶb	Ⅵe2	F-23Ea / Ⅵe2	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。口縁部内面沈線	81-25	Po2484
2	浅鉢	C1cd	ⅩⅡe	Ⅵe2	F-23Ea / Ⅵe2+ Ⅵe1	口径（10.2cm）、器高 5.2cm、底径（3.6cm）。平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋二個一対の貼瘤（山形突起）。縄文 RL。底部ミガキ	81-37	Po2489
3	壺	D1c	ⅩⅣb1	Ⅵe2	F-23Ea / Ⅵe2+ Ⅵe1	口径（7.4cm）、最大径（12.1cm）。平縁。口唇部沈線。0 段多条縄文 RL	81-38	Po2488
4	深鉢	C2	ⅩⅢ	Ⅵe2	F-23Ea / Ⅵe2	小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	81-27	Po2486
5	深鉢	B1cd	ⅩⅢ	Ⅵe2	F-23Ea / Ⅵe2	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。羽状縄文 RL/LR	81-26	Po2487
6	浅鉢	A1cef	Ⅹc	Ⅵd	F-23Ea / Ⅵd	平縁。山形突起（頂部円形突帯）＋二個一対の小突起＋口唇部沈線。突起部に三角形状の彫り込み、平行沈線文、工字文（Z 字状）。口縁部内面沈線	81-33	Po2271
7	鉢	-	ⅩⅡa2	Ⅵd	F-23Ea / Ⅵd	平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文 LR 末端部強調	81-28	Po2272
8	深鉢	B1cd	ⅩⅢ	Ⅵd	F-23Ea / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。羽状縄文 LR/RL	81-32	Po2270
9	深鉢	B1cd	ⅩⅢ	Ⅵd	F-23Ea / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。縄文 RL 末端部強調	81-29	Po2266
10	深鉢	B1d	Ⅸd	Ⅵd	F-23Ea / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目。π字文（下向）＋櫛歯状刻目、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。内外面・口唇部炭化物付着	81-30	Po2265
11	浅鉢	A3cdef	Ⅷ＋Ⅹb	Ⅵd	F-23Ea / Ⅵd	口径（11.4cm）。大波状縁。山形突起（装飾的な突帯）の両側に山形突起（小）＋二個一対の山形突起＋ヘラ刻目＋突起間沈線。メガネ状浮文 12 単位、平行沈線文、工字文（陽刻）6 単位。口縁部内面沈線	81-31	Po2269
12	四脚付浅鉢	A1cef	Ⅷ＋Ⅸa	Ⅵd	F-23Ea / Ⅵd+ Ⅵb2	口径（10.8cm）、底径（4.0cm）。平縁。山形突起（大、頂部短沈線文）1 単位＋二個一対の山形突起（小）5 単位＋突起間沈線。メガネ状浮文＋二個一対の貼瘤 6 単位、π字文（下向＋上向）5 単位、平行沈線文。底部剝落。突起・口縁部内面沈線	81-39	Po2249
13	鉢	A1cef	Ⅷ＋Ⅸa	Ⅵd	F-23Ea / Ⅵd+ Ⅵc7	平縁。山形突起（頂部ボタン状突帯）の両側に二個一対の小突起＋二個一対の山形突起＋口唇部沈線。メガネ状浮文、π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線。焼けハジケ多数	82-1	Po2245
14	Ⅲ	A1cef	ⅩⅤ	Ⅵd	F-23Ea / Ⅵd	平縁。山形突起＋二個一対の山形突起＋口唇部沈線。突起・口縁部内面沈線	82-4	Po2252
15	深鉢	D1cdef	ⅩⅡx	Ⅵd	F-23Ea / Ⅵd	口径 20.5cm、器高 19.4cm、底径（7.0cm）。平縁。山形突起の両側に二個一対の山形突起＋二個一対の山形突起 3 単位＋突起間沈線＋櫛歯状刻目。平行沈線文。縄文 LR 末端部強調。底部調整不明。突起・口縁部内面沈線	82-20	Po2268
16	Ⅲ	A1cd	ⅩⅡx	Ⅵd	F-23Ea / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面平行沈線文。胎土に海綿骨針を含む	82-2	Po2258
17	深鉢	B1df	ⅩⅢ	Ⅵd	F-23Ea / Ⅵd	平縁。櫛歯状刻目＋二個一対の山形突起。横位沈線文。縄文 RL。口縁部内面沈線	82-5	Po2257

第106図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（21）　F-23区E・F・Gグリッド



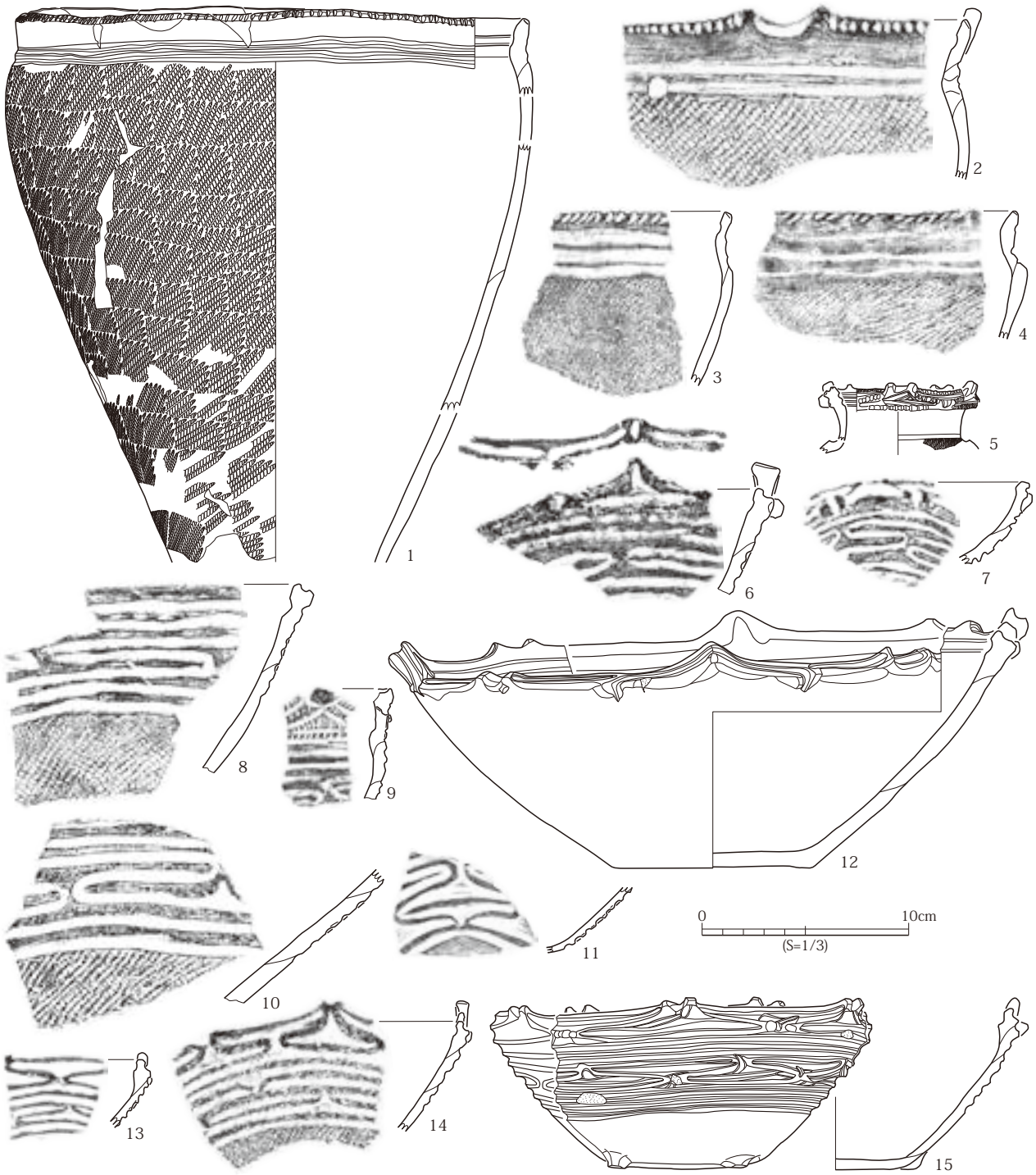
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	C1d	XⅡx	Ⅵd	F-23Ea / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	82-3	Po2262
2	深鉢	C1d	XⅡx	Ⅵd	F-23Ea / Ⅵd	平縁。櫛歯状刻目。平行沈線文。口縁部内面沈線	82-6	Po2250
3	深鉢	B2	XⅢ	Ⅵd	F-23Ea / Ⅵd+ Ⅵb2	小波状縁。横位沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	82-8	Po2264
4	深鉢	B1cd	XⅡx	Ⅵc9	F-23E / Ⅵc9	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文。直前段多条縄文 LR	82-12	Po2243
5	深鉢	A1df	XⅡx	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	平縁。二個一対の小突起＋ヘラ刻目。平行沈線文（羊歯状の浮線あり）。縄文 LR	82-13	Po2103
6	Ⅲ	-	Ⅶa	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	縄文 LR。底部に雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。底部の内外面赤彩	82-18	Po2109
7	四脚付注口土器	-	-	Ⅵc7	F-23Eb+Fa / Ⅵc7+ Ⅵc4-7	底径 4.7cm。二個一対の渦巻状沈線文 4 単位。縄文 LR。底部ケズリ	82-22	Po2100
8	Ⅲ	A1bf	Ⅶa	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	平縁。二個一対の小突起＋羊歯状浮線文。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR。体部下半内面沈線。内外面・口唇部赤彩	82-15	Po2139
9	Ⅲ	A1cf	XⅡx	Ⅵc7	F-23Ea / Ⅵc7	平縁。二個一対の山形突起＋口唇部沈線。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面隆帯	82-19	Po2203
10	壺	-	XⅤ	Ⅵc7	F-23E / Ⅵc7	平縁。口唇部沈線	82-16	Po2176
11	深鉢	B1d	Ⅸa2	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	平縁。櫛歯状刻目。π字文（下向）＋刺突列。縄文 LR。口縁部内面沈線。内外面・口唇部炭化物付着	82-10	Po2141
12	深鉢	B1cef	Ⅸa2	Ⅵc7	F-23Ea / Ⅵc7+ Ⅵb2	口径（17.4cm）。平縁。山形突起（大）＋山形突起（小）＋突起間沈線。π字文（下向）＋刺突列、平行沈線文。直前段多条縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	82-21	Po2193
13	深鉢	B1cef	Ⅸa2	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7+ Ⅵc4-6+ Ⅵc3	平縁。山形突起（大・小）＋口唇部沈線。π字文（下向）＋櫛歯状刻目、平行沈線文。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線。内面・口唇部炭化物付着	82-7	Po2104
14	深鉢	B1cef	Ⅸd	Ⅵc7	F-23Eb+Fa / Ⅵc7+ Ⅵc4-7	口径（24.4cm）、最大径 28.8cm。平縁。山形突起 4 単位＋二個一対の山形突起 4 単位＋口唇部沈線。π字文（下向）4 単位＋櫛歯状刻目。縄文 LR。突起・口縁部内面平行沈線文。外面炭化物付着	83-12	Po2128

第107図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（22）　F-23区E・F・Gグリッド



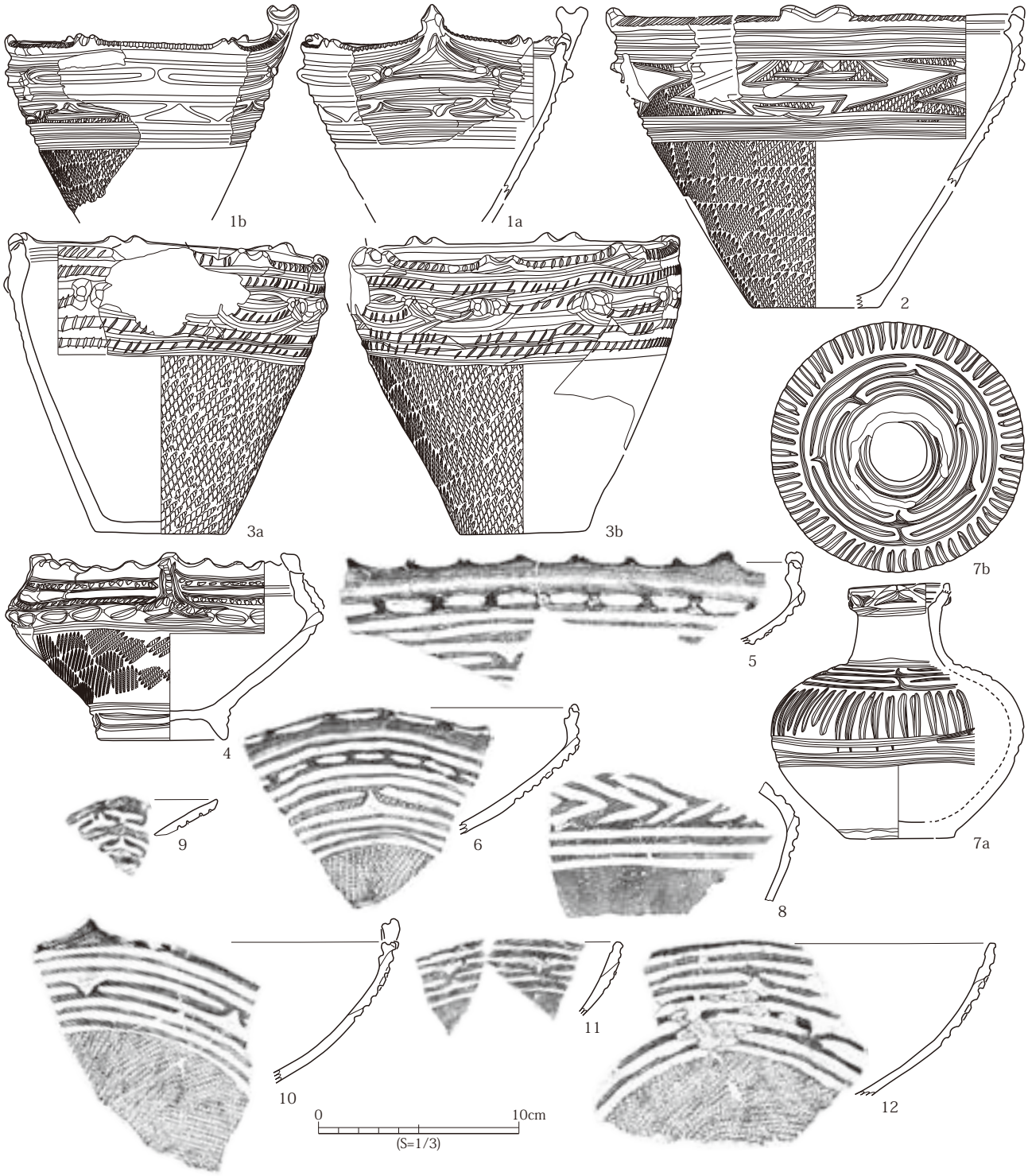
No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	浅鉢	A2	XⅡf	Ⅵc7	F-23Ea / Ⅵc7	小波状縁。平行沈線文、隆帯＋ヘラ刻目。縄文原体不明。口縁部内面沈線	82-17	Po2225
2	深鉢	C1d	XⅡa1	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	口径（35.2cm）。平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋ヘラ刻目。縄文 LR。口縁部内面沈線	83-1	Po2155
3	鉢	C2	XⅡa2	Ⅵc7	F-23E / Ⅵc7	小波状縁。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文 RL 末端部強調。内面炭化物付着	82-9	Po2173
4	深鉢	C1d	XⅡa2+XⅡa3	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋櫛歯状刻目＋ヘラ刻目（工字状の表現）。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	82-11	Po2168
5	深鉢	C1d	XⅡa2+XⅡa3	Ⅵc7	F-23Ea / Ⅵc7+Ⅵb2	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋刺突列（π字状の表現）＋ヘラ刻目（工字状の表現）。縄文 LR。口縁部内面沈線	82-14	Po2199
6	深鉢	C1d	XⅡa2+XⅡa3	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	口径（21.6cm）、最大径（26.2cm）。平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋ヘラ刻目（π字状の表現あり）＋ヘラ刻目（工字状の表現）。縄文 LR、無節縄文 R。口縁部内面沈線	86-4	Po2149
7	壺	-	XⅡb1	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	最大径（12.2cm）、底径 5.9cm。平行沈線文＋刺突列。底部ミガキ、かるい上げ底	84-11	Po2127
8	深鉢	C1d	XⅡa1	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋櫛歯状刻目。口縁部内面沈線	83-2	Po2216
9	深鉢	C1d	XⅡa2	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	平縁。櫛歯状刻目。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文原体不明。口縁部内面平行沈線文	83-6	Po2171
10	鉢	C1	XⅡx	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	口径（14.4cm）、器高 12.6cm、底径 7.2cm。平縁。櫛歯状刻目。平行沈線文。縄文 LR。底部ナデ。外面炭化物付着	83-10	Po2162
11	深鉢	B1d	Xa	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	平縁。ヘラ刻目。工字文（陰刻）＋二個一対の貼瘤。縄文 LR。口縁部内面沈線。内面炭化物付着	83-8	Po2140
12	深鉢	B1d	XⅡx	Ⅵc7	F-23Ea+Eb / Ⅵc7	口径（10.4cm）。平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	83-11	Po2120

第108図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（23）　F-23区E・F・Gグリッド



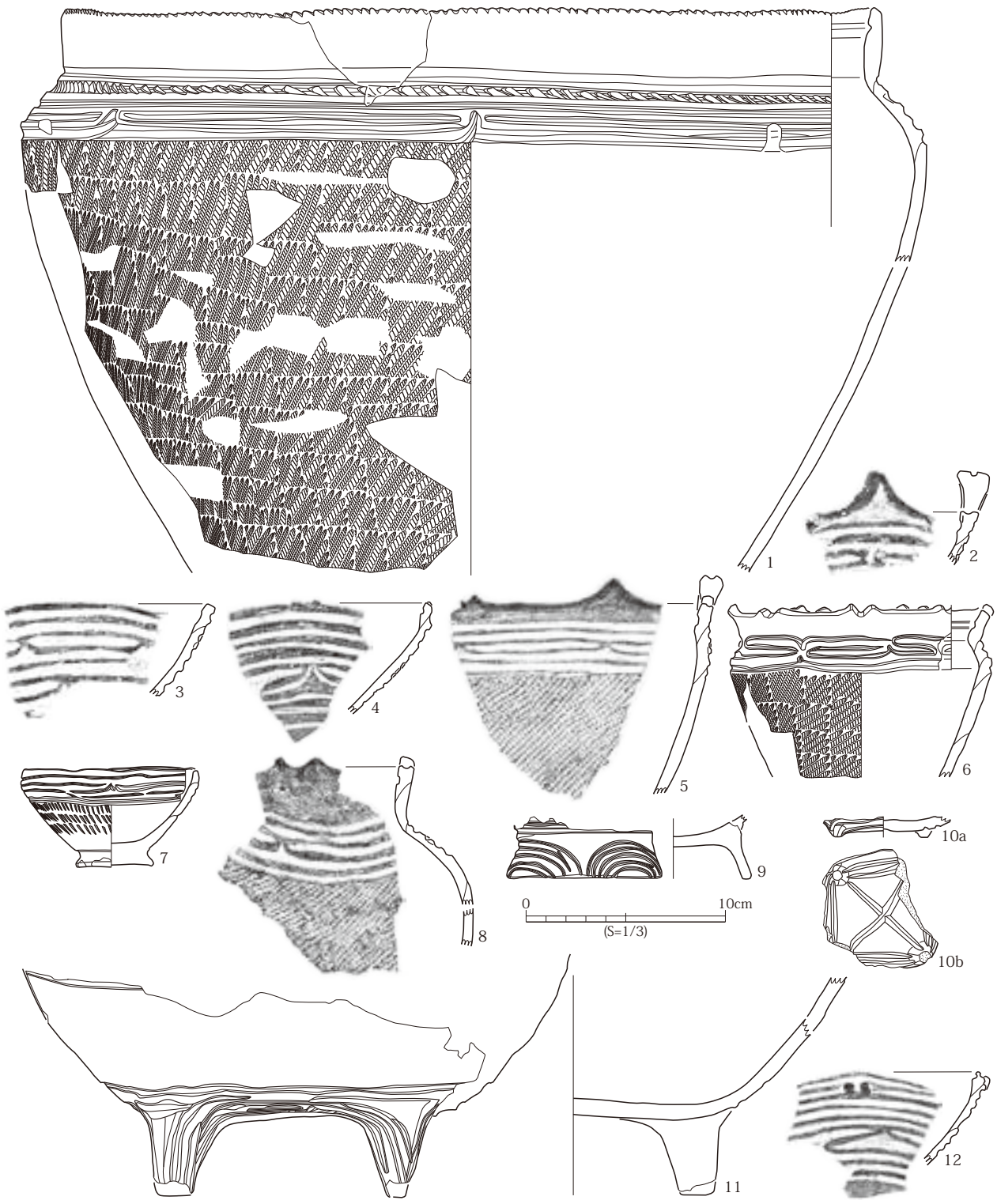
No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	C1d	XⅡx	Ⅵc7	F-23Ea / Ⅵc7	口径 25.0cm。平縁。櫛歯状刻目。平行沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	84-10	Po2187
2	深鉢	C1df	XⅡx	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	平縁。二個一対の山形突起＋ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。内外面炭化物付着。補修孔 1	83-7	Po2130
3	鉢	A1d	XⅡx	Ⅵc7	F-23Ea / Ⅵc7	平縁。櫛歯状刻目。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	83-3	Po2195
4	深鉢	C1d	XⅡx	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	平縁。櫛歯状刻目。平行沈線文（磨消）。0 段多条縄文 L	83-15	Po2105
5	壺	B1cdf	Ⅷ	Ⅵc7	F-23Fa / Ⅵc7	口径 7.6cm。平縁。二個一対の小突起 5 単位＋口唇部沈線＋ヘラ刻目。メガネ状浮文＋二個一対の貼瘤 5 単位。縄文 LR。口縁部内面平行沈線文	84-9	Po2096
6	鉢	A1cef	Xb	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	平縁。山形突起（頂部短沈線）の両側に二個一対の小突起＋口唇部沈線。突起部に三角形状の短沈線文、平行沈線文、工字文（陽刻）。突起・口縁部内面沈線	83-9	Po2133
7	浅鉢	A1	Ⅷ＋Xb	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	平縁。メガネ状浮文＋二個一対の貼瘤、入組工字文（陽刻）、平行沈線文	83-5	Po2215
8	浅鉢	A1c	Xb	Ⅵc7	F-23Ea / Ⅵc7+ Ⅵb2	平縁。口唇部沈線。平行沈線文、入組工字文（陽刻）。縄文 LR。口縁部内面沈線	83-16	Po2222
9	鉢	-	Xb	Ⅵc7	F-23Ea / Ⅵc7	山形突起（頂部ボタン状突帯）＋口唇部沈線＋ヘラ刻目。突起部に三角形状の沈線文＋櫛歯状刻目、平行沈線文＋ヘラ刻目、平行沈線文、工字文（陽刻）。突起・口縁部内面沈線	83-4	Po2207
10	鉢	-	Xb	Ⅵc7	F-23Eb+Fb / Ⅵc7+ Ⅵc2	工字文（陽刻）2 段、平行沈線文。直前段多条縄文 LR	83-17	Po1607
11	壺	-	Ⅸa+Xa	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	流水工字文（陰刻）、π字文（上向）。底部摩耗	83-14	Po2116
12	浅鉢	A1cef	XV	Ⅵc7	F-23Ea+E / Ⅵc7+ Ⅵc+ Ⅵb2	口径 29.4cm、器高 12.5cm、底径 8.7cm。平縁。山形突起（大）4 単位＋二個一対の山形突起（小）4 単位＋二個一対の小突起 4 単位。底部ケズリ。突起・口縁部内面沈線	84-8	Po2186
13	浅鉢	A1f	Ⅷ＋Ⅸa	Ⅵc7	F-23E / Ⅵc7	平縁。二個一対の小突起か。メガネ状浮文、平行沈線文、π字文（下向）	83-13	Po2174
14	浅鉢	A3cef	Ⅷ＋Ⅸa	Ⅵc7	F-23Ea / Ⅵc7	大波状縁。山形突起（頂部刻み）＋二個一対の山形突起、口唇部沈線。メガネ状浮文、π字文（上向＋下向）、平行沈線文。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線。焼けハジケ多数	83-18	Po2189
15	四脚付鉢	A1f	Ⅷ＋Xa	Ⅵc7	F-23Ea / Ⅵc7	口径（17.7cm）、器高 8.4cm、、底径 5.2cm。平縁。二個一対の小突起 5 単位。メガネ状浮文＋二個一対の貼瘤 5 単位、工字文（陰刻）7 単位、平行沈線文。底部ミガキ。口縁部内面沈線	85-11	Po2223

第109図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（24）　F-23区E・F・Gグリッド



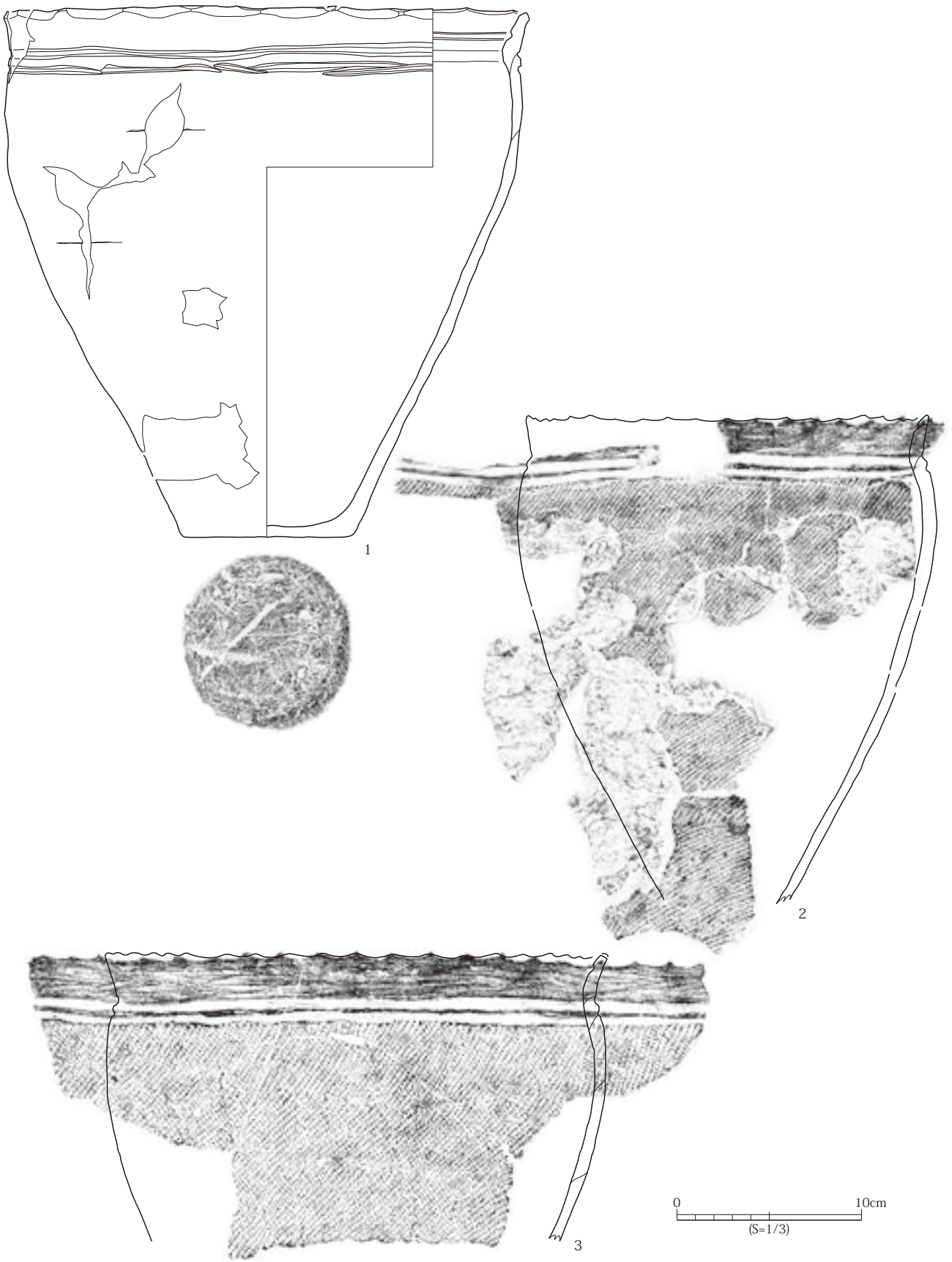
No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	鉢	B1def	Ⅷ + Ⅸ a	Ⅵ c7	F-23Ea+Gb / Ⅵ c7+ Ⅵ b2+ Ⅵ b1	口径（13.2cm）。平縁。装飾的な突起 1 単位 + 二個一対の山形突起 5 単位 + ヘラ刻目。メガネ状浮文 + 二個一対の貼瘤、π字文（下向 + 上向）。縄文 LR。口縁部内面沈線。内外面赤彩	85-7	Po2198
2	鉢	A1df	X c	Ⅵ c7	F-23Eb+E+Fa / Ⅵ c7+ Ⅵ c4-6+ Ⅵ c3	口径 20.2cm、器高 14.9cm、、底径（6.4cm）。平縁。二個一対の小突起 + 櫛歯状刻目。平行沈線文、工字文（Z 字状、磨消縄文）。縄文 LR。底部ナデ。口縁部内面沈線。内外面・口唇部炭化物付着	85-12	Po2131
3	深鉢	A1def	Ⅷ	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7+ Ⅵ c3	口径（15.6cm）、器高 14.3cm、底径 6.4cm。平縁。大型の突起の両側に二個一対の山形突起か + 二個一対の山形突起 4 単位 + 櫛歯状刻目。平行沈線文 + 櫛歯状刻目、メガネ状浮文 + 二個一対の貼瘤 10 単位か。縄文 LR。底部ミガキ。突起・口縁部内面沈線。	85-13	Po2125
4	台付鉢	A2f	Ⅷ + Ⅸ a1+ Ⅸ a	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7+ Ⅵ c4-7	口径 13.7cm、器高 9.4cm、最大径（15.8cm）、台部径 6.5cm。小波状縁。山形突起（頂部短沈線文または押圧）4 単位 + 山形突起 15 単位。π字状（下向）の隆帯 4 単位 + ヘラ刻目 + 縦位の平行沈線文、π字文（下向）4 単位 + 隆線上に刺突列、平行沈線文 + 刺突列、メガネ状浮文、台部にπ字文（下向）4 単位。縄文 LR。底部ナデ。突起・口縁部内面沈線	85-8	Po1843
5	浅鉢	C2cef	Ⅷ + Ⅸ a	Ⅵ c7	F-23Ea+Eb / Ⅵ c7+ Ⅵ b2	小波状縁。山形突起（大）+ 山形突起（小、一部の頂部刻み）+ 口唇部沈線。メガネ状浮文、平行沈線文、π字文（上向）。突起・口縁部内面沈線	84-4	Po2121
6	浅鉢	B2c	Ⅷ + Ⅸ a	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7	小波状縁。突起間沈線。平行沈線文、メガネ状浮文、π字文（下向）。縄文 LR。口縁部内面沈線	85-4	Po2190
7	壺	I1	Ⅸ a+ X a	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	口径（5.0cm）、器高 12.5cm、最大径 12.6cm、底径 5.5cm。平縁。口縁部に工字文（陰刻）。体部上半にπ字文（下向）3 単位、工字文（陰刻）1 単位、π字文（上向）3 単位、縦位の平行沈線文。体部下半に横位の平行沈線文。底部摩滅、一部剝落。口縁部内面平行沈線文	84-12	Po1851
8	壺	-	Ⅵ a	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7	Z 字状文（綾杉状文）、平行沈線文	84-6	Po2224
9	浅鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	平縁。π字文（下向 + 上向）2 段	84-5	Po2112
10	浅鉢	A1cef	Ⅸ a	Ⅵ c7	F-23Eb+E / Ⅵ c7+ Ⅵ c	平縁。山形突起の両側に二個一対の小突起 + 口唇部沈線。平行沈線文、π字文（下向 + 上向）。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	85-5	Po2143
11	浅鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7	平縁。平行沈線文、π字文（上向）。口縁部内面沈線	84-2	Po2226
12	浅鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	平縁。平行沈線文、π字文（下向）、π字文（上向）、底部付近に横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	85-6	Po2138

第110図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（25）　F-23区E・F・Gグリッド



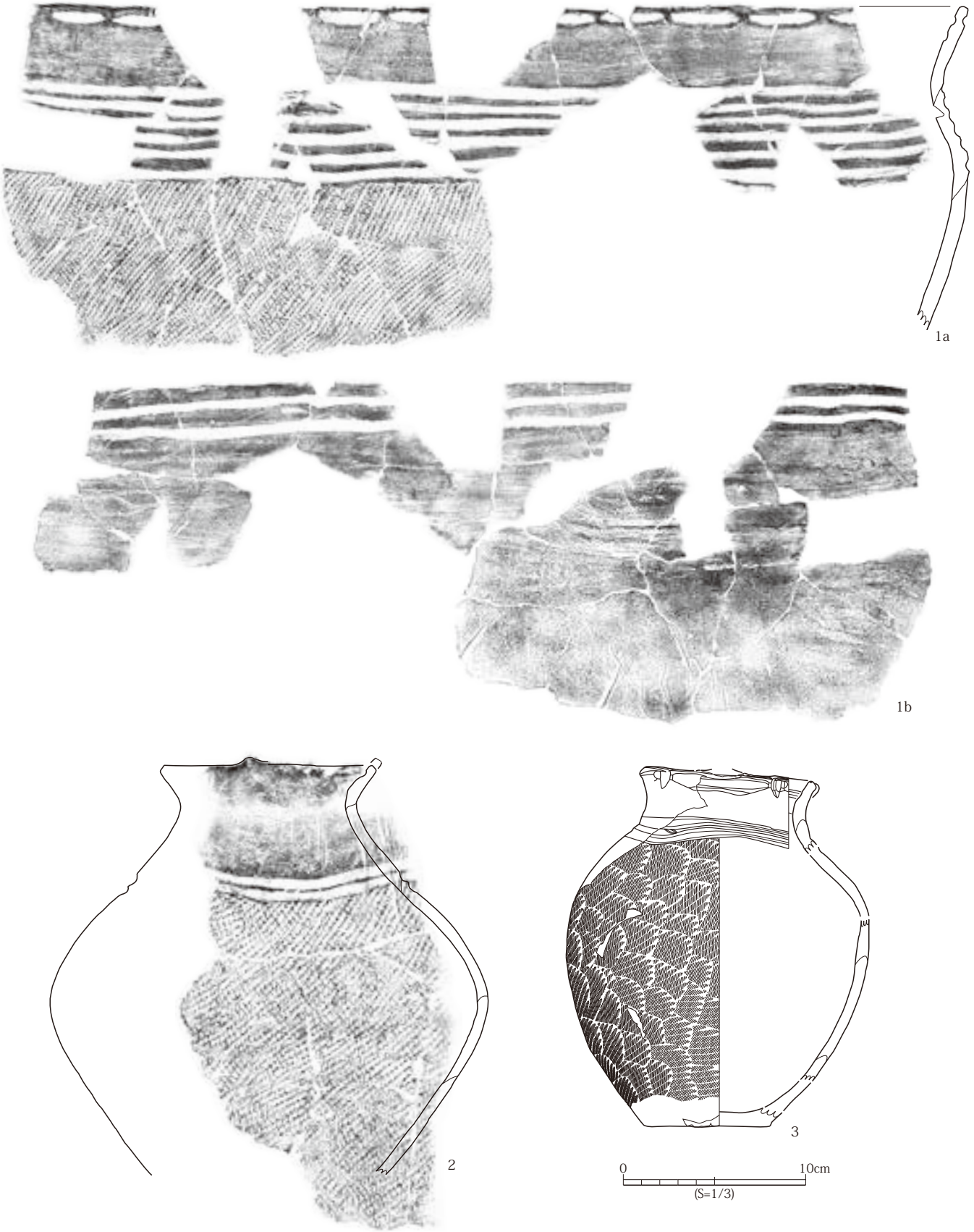
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	B1d	Ⅸ a	Ⅵ c7	F-23Eb+Fa / Ⅵ c7+ Ⅵ c4-7+ Ⅵ c4-6	口径(40.4cm)、最大径(45.0cm)。平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋櫛歯状刻目、π字文(下向)8 単位。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	86-1	Po1927
2	鉢	A1ce	Ⅸ a	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7	平縁。山形突起＋口唇部沈線。突起部に三角形状の彫り込み、平行沈線文、π字文（上向）。突起・口縁部内面沈線。内外面・口唇部赤彩	85-1	Po2208
3	浅鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	平縁。平行沈線文、π字文（下向）2 段。口縁部内面沈線	84-1	Po3927
4	皿	A1f	Ⅸ a	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	平縁。二個一対の小突起。平行沈線文、π字文（下向＋上向）。口縁部内面沈線	84-3	Po2214
5	深鉢	C1cef	Ⅸ a	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	平縁。山形突起＋二個一対の小突起＋口唇部沈線。平行沈線文、π字文（下向）。直前段多条縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	84-7	Po2165
6	深鉢	B1f	Ⅸ e	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7+ Ⅵ b2	口径 12.7cm。平縁。二個一対の山形突起 7 単位。π字文（下向＋上向）4 単位。縄文 LR。口縁部内面沈線	87-2	Po2210
7	台付鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7+ Ⅵ b2	口径 8.7cm、器高 4.9cm、台部径 3.8cm。平縁。π字文（下向）4 単位。櫛歯状刻目による擬縄文。底部ミガキ	85-9	Po2213
8	壺	E1cf	Ⅸ a	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	平縁。二個一対の山形突起＋突起間沈線。平行沈線文、π字文（下向）。縄文 LR。口縁部内面沈線	86-3	Po2134
9	台部	-	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	台部径 7.8cm。平行沈線文、弧状の平行沈線文 4 単位	85-10	Po2228
10	四脚付鉢	-	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7	底径 3.9cm。平行沈線文。十字状の沈線文。底部内面環状沈線	85-2	Po2194
11	四脚付鉢	-	Ⅸ a	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7	底径 14.1cm。平行沈線文、π字文（下向）4 単位、脚部間に平行沈線文。底部ミガキ	86-2	Po2205
12	浅鉢	A1	Ⅸ a+ Ⅸ b+ Ⅹ a	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7	平縁。π字文（上向）＋二個一対の小突起、平行沈線文、π字文（下向）、工字文（陰刻）。口縁部内面沈線	85-3	Po2201

第111図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（26）　F-23区E・F・Gグリッド



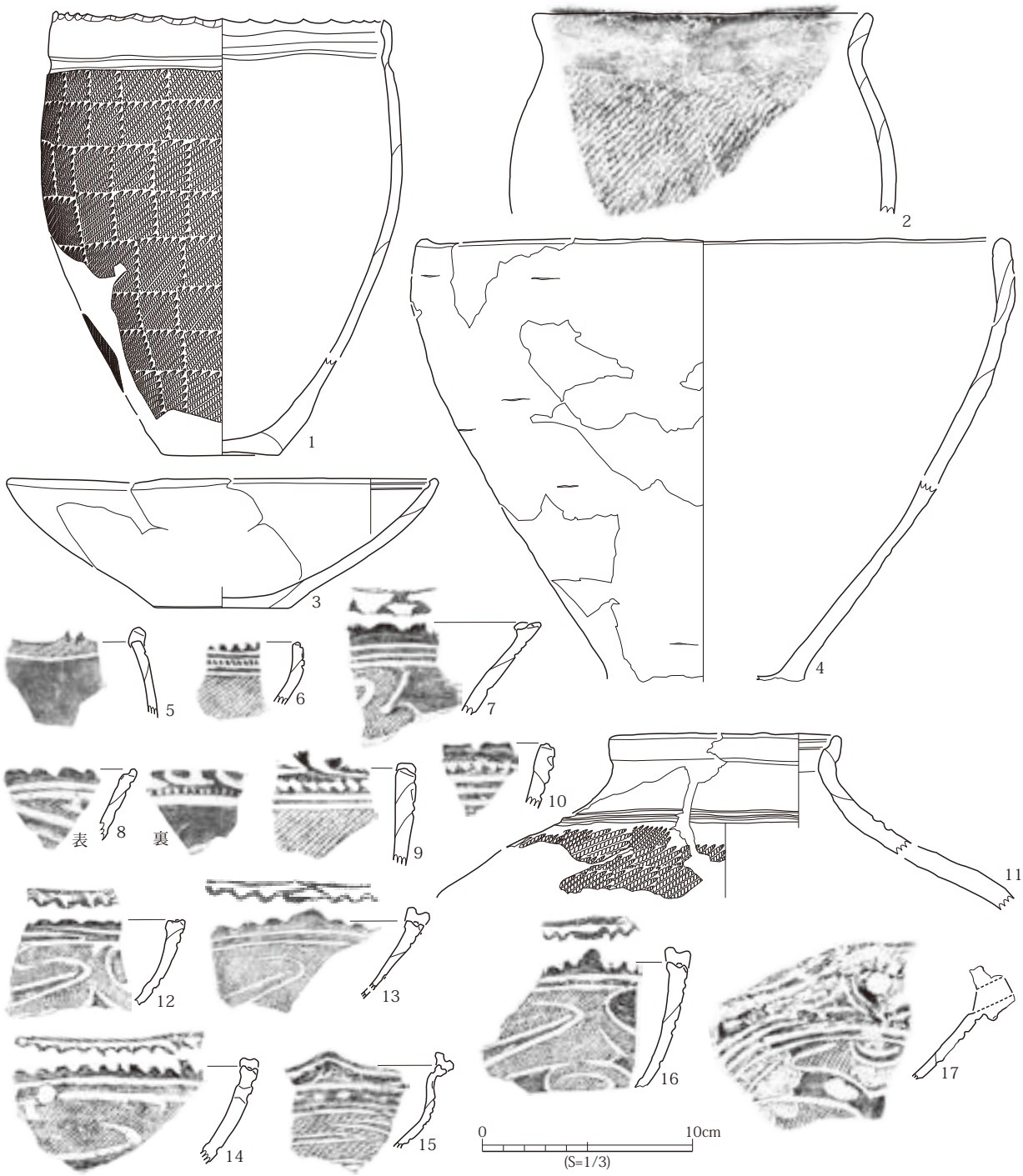
No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	C2	XⅡx	Ⅵc7	F-23Eb+E / Ⅵc7	口径（28.1cm）、器高（28.6cm）、底径 9.1cm。小波状縁。平行沈線文。底部木葉痕→ナデ。口縁部内面沈線	87-1	Po2137
2	深鉢	C2	XⅡx	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	口径（21.5cm）。小波状縁。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	88-1	Po3956
3	深鉢	C2	XⅡx	Ⅵc7	F-23Eb+Fa / Ⅵc7	口径（27.0cm）。小波状縁。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	89-2	Po2094

第112図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（27）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	D1	XⅡx	Ⅵc7	F-23Eb+E / Ⅵc7	平縁。横位の連続短沈線文、平行沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面平行沈線文	89-1	Po2124
2	壺	C1f	XⅡx	Ⅵc7	F-23Ea / Ⅵc7	口径（11.6cm）、最大径（24.0cm）。平縁。山形突起。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	88-2	Po2204
3	壺	G1ce	XⅡx	Ⅵc7	F-23Eb+E / Ⅵc7	口径（9.6cm）、器高 19.5cm、最大径（15.7cm）、底径 6.9cm。平縁。山形突起の両側に二個一対の小突起か＋口唇部沈線。平行沈線文。無節縄文 L。底部ミガキ。口縁部内面沈線	87-3	Po2147

第113図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（28）　F-23区E・F・Gグリッド

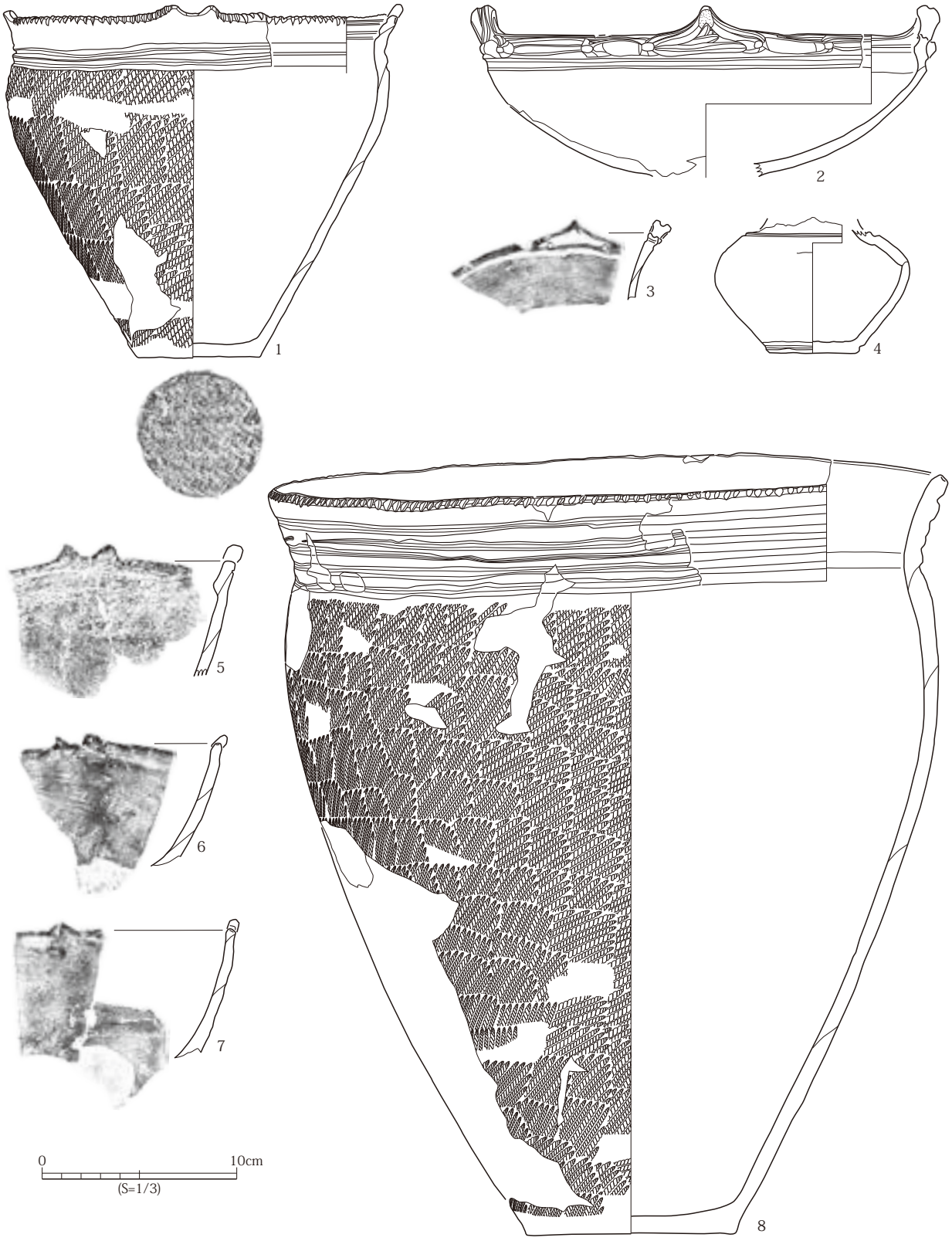


No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A2	XⅢ	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	口径（16.0cm）、器高 21.0cm、底径 5.7cm。小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。底部ケズリ。口縁部内面沈線	90-2	Po2119
2	深鉢	C1	XⅣ b1	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	口径（15.8cm）。平縁。無節縄文 L	89-3	Po2129
3	浅鉢	A1	XⅤ	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	口径（22.0cm）、器高 6.4cm、底径 6.4cm。平縁。底部ミガキ。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	90-3	Po2227
4	深鉢	A1	XⅤ	Ⅵc7	F-23Eb+Fa / Ⅵc7+ Ⅵc4-6	口径（27.2cm）。平縁	90-1	Po2206
5	壺	A1f	Ⅰa	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	平縁。山形突起（頂部刻み）。帯状文（縄文）。縄文 LR	91-1	Po1967
6	鉢	A1d	Ⅴ	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	平縁。ヘラ刻目。列点文。縄文 LR。内面炭化物付着	91-2	Po1909
7	Ⅲ	A1b	Ⅶa	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	平縁。羊歯状浮線文。平行沈線文、雲形文（浮彫表現）。縄文 LR	91-3	Po1941
8	Ⅲ	A1bdf	Ⅶa	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	平縁。羊歯状浮線文＋ヘラ刻目。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR。口縁部内面ヘラ刻目＋沈線。外面・口唇部炭化物付着	91-4	Po1902
9	深鉢	B1cdf	XⅡ b1	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	平縁。二個一対の小突起＋ヘラ刻目。平行沈線文（羊歯状の浮線あり）＋刺突列。直前段多条縄文 LR	91-5	Po1887
10	鉢	A1cd	XⅡ b1	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	平縁。口唇部沈線＋ヘラ刻目。平行沈線文＋刺突列	91-6	Po1885
11	壺	D1	XⅡ x	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6+ Ⅵc3	口径（10.6cm）。平縁。横位沈線文、頸部に平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	91-27	Po1814
12	Ⅲ	A1bd	Ⅶa	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	平縁。ヘラ刻目＋波状浮線文。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR。体部下半内面隆帯＋充填縄文 LR。胎土に海綿骨針を含む	91-7	Po1973
13	Ⅲ	A1bdf	Ⅶb	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	平縁。山形突起＋ヘラ刻目＋波状浮線文。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR	91-9	Po1976
14	Ⅲ	A1bdf	Ⅶb	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	平縁。山形突起＋ヘラ刻目＋波状浮線文。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。口縁部内面沈線、体部下半内面隆帯＋充填縄文 LR。内面・口唇部赤彩。補修孔 1	91-10	Po2002
15	鉢	C1cf	Ⅶb	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	平縁。山形突起＋口唇部沈線。雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	91-12	Po1946
16	Ⅲ	A1bdf	Ⅶb	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	平縁。山形突起＋ヘラ刻目＋波状浮線文。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。体部下半内面隆帯＋充填縄文 LR	91-17	Po2018
17	注口土器	-	Ⅶb	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	平行沈線文、二個一対の小突起＋平行沈線文＋隆線上にヘラ刻目、注口部を周る平行沈線文＋隆帯上にヘラ刻目、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。外面赤彩	91-21	Po1937

第114図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（29）　F-23区E・F・Gグリッド

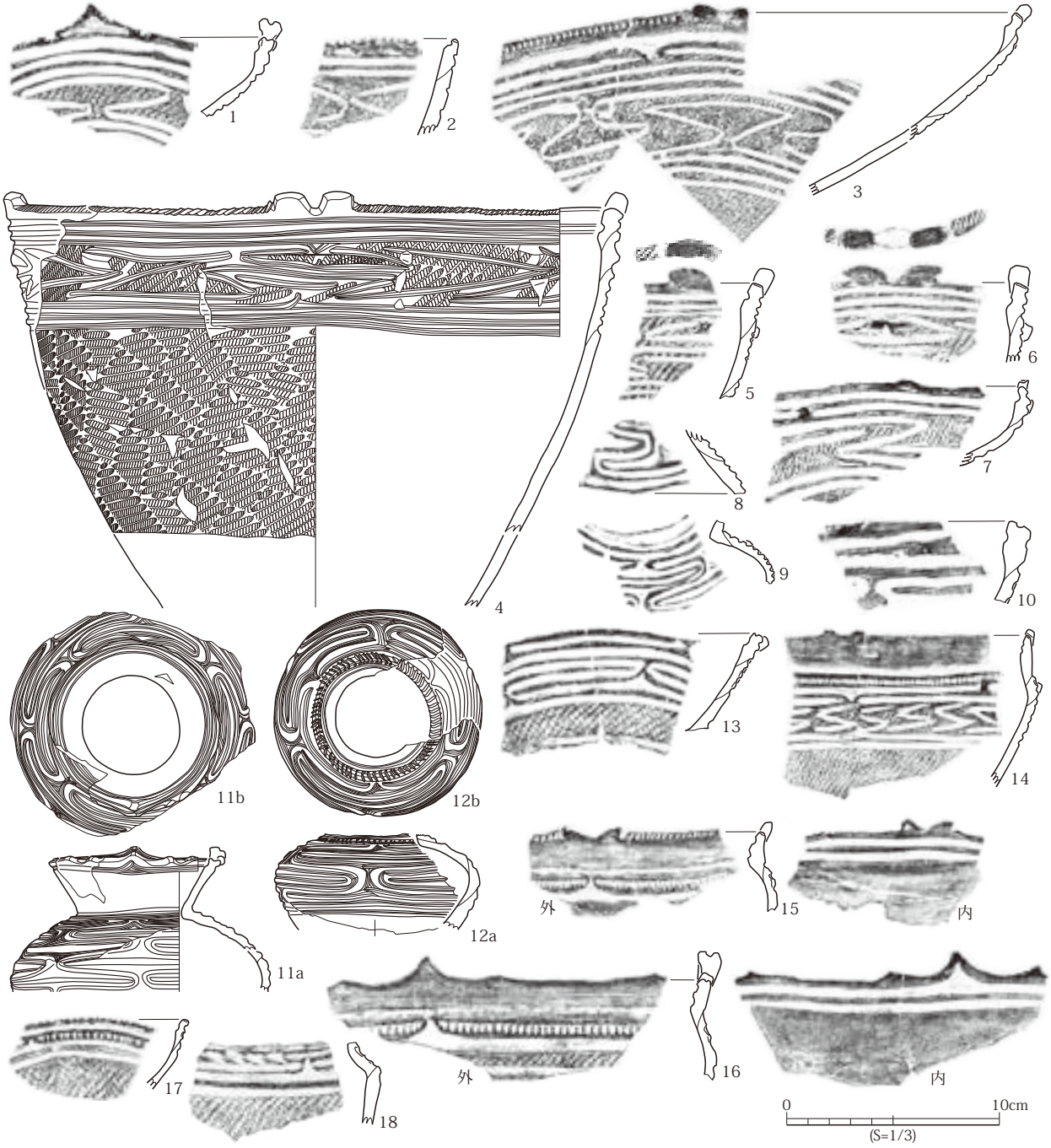
No.	器種	類型1	類型2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	袖珍土器鉢	A1d	Ⅶb+Ⅷ	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	平縁。櫛歯状刻目。メガネ状浮文＋二個一対の貼瘤、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。口縁部内面沈線	91-8	Po1872
2	鉢	C1df	Ⅶb	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	平縁。二個一対の山形突起＋ヘラ刻目。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。口縁部内面沈線	91-14	Po2038
3	鉢	B1d	Ⅵb	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	平縁。櫛歯状刻目。メガネ状浮文＋二個一対の貼瘤、X 字状文（C 字状文）、平行沈線文。口縁部内面沈線	91-18	Po1891
4	深鉢	B1cdf	XⅡa2	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	平縁。二個一対の山形突起＋櫛歯状刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文 LR	91-15	Po1999
5	深鉢	C1f	XⅡb1	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	平縁。二個一対の小突起。突起部に V 字形の短沈線文、平行沈線文＋刺突列。無節縄文 R。内面炭化物付着	91-16	Po2055
6	深鉢	C1df	XⅡa1	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	平縁。二個一対の山形突起＋櫛歯状刻目。平行沈線文＋櫛歯状刻目。縄文 LR。口縁部内面沈線	91-13	Po1963
7	深鉢	C1d	XⅡx	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	口径（10.4cm）、器高 10.1cm、底径 4.2cm。平縁。櫛歯状刻目。平行沈線文。0 段多条縄文 LR。底部摩滅。口縁部内面沈線	90-4	Po1957
8	鉢	A1df	XⅡx	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	平縁。二個一対の小突起＋ヘラ刻目。平行沈線文（羊歯状の浮線あり）。縄文 LR	91-19	Po1893
9	鉢	B1df	XⅢ	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-7	平縁。山形突起＋櫛歯状刻目。横位沈線文。直前段多条縄文 RL。突起・口縁部内面沈線	91-11	Po2183
10	深鉢	C1d	XⅡx	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	口径（37.0cm）。平縁。櫛歯状刻目。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	91-20	Po1923
11	鉢	B1d	XⅢ	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	口径（15.2cm）。平縁。櫛歯状刻目。横位沈線文。無節縄文 L。口縁部内面沈線	91-25	Po1895
12	鉢	A1df	XⅣa1	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	平縁。櫛歯状刻目＋二個一対の山形突起。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	91-22	Po2091
13	Ⅲ	A1f	XⅢ	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	平縁。二個一対の山形突起＋突起間沈線。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	91-23	Po1929

第115図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（30）　F-23区E・F・Gグリッド



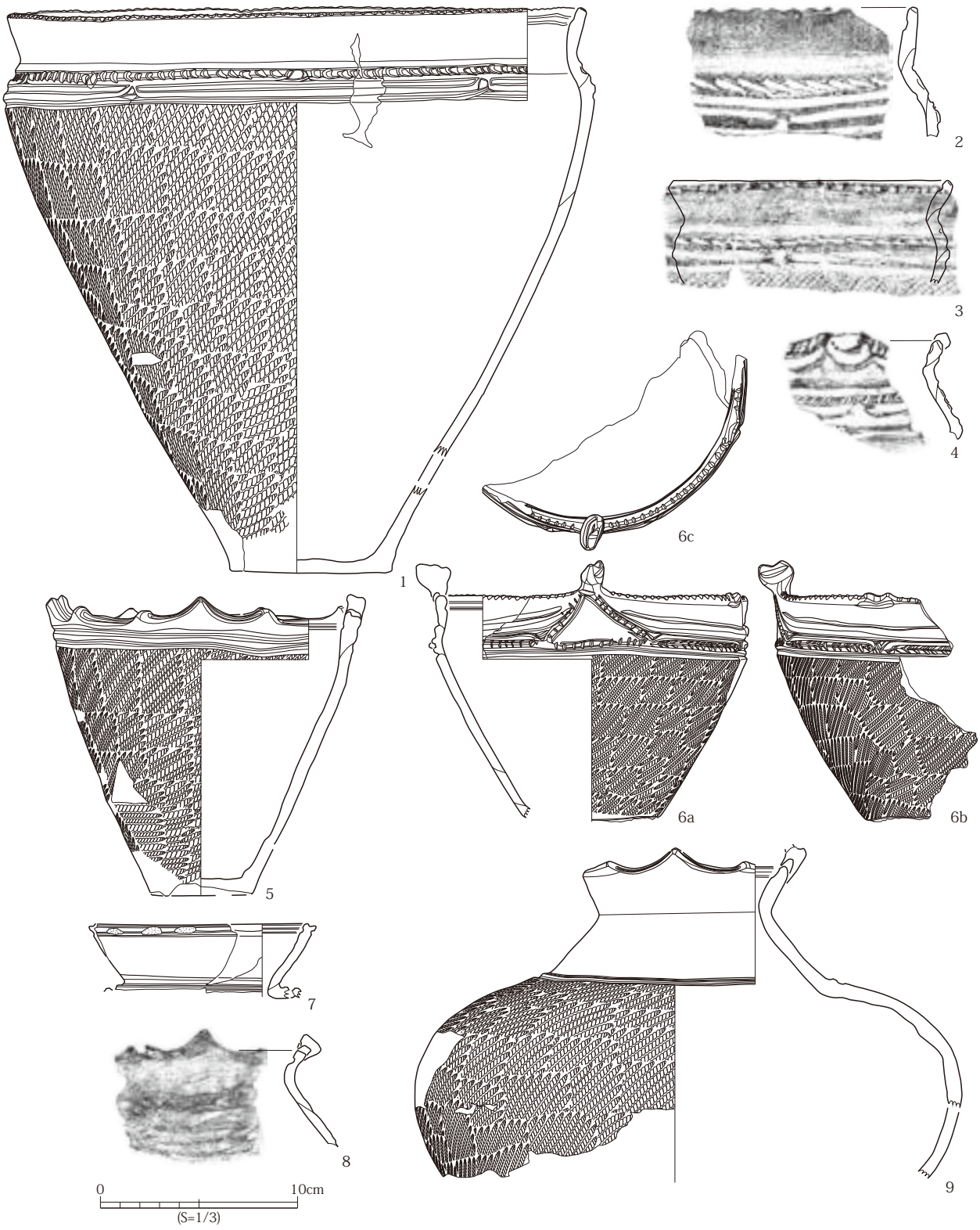
No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	鉢	C1df	XⅡx	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	口径 22.0cm、器高 18.7cm、底径 6.3cm。平縁。二個一対の山形突起 4 単位 + ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR。底部網代痕。突起・口縁部内面平行沈線文	93-19	Po1943
2	浅鉢	A1cef	XⅡx	Ⅵc4	F-23Eb+Fb / Ⅵc4-6+Ⅵc1	口径（23.0cm）。平縁。山形突起 4 単位の両側に二個一対の小突起 8 単位 + 口唇部沈線。平行沈線文。口縁部内面沈線。外面焼けハジケ？	93-21	Po1544
3	壺	-	XⅢ	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	平縁。山形突起の両側に二個一対の小突起 + 口唇部沈線。突起部に三角形状の彫り込み + 二個一対の貫通孔、横位沈線文。突起・口縁部内面沈線	91-24	Po2082
4	壺	-	XⅡx	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	最大径 10.0cm、底径 4.5cm。平行沈線文、底部付近に横位沈線文。底部ミガキ	93-22	Po1964
5	鉢	A1f	XⅢ	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	平縁。二個一対の山形突起。横位沈線文。内面・口唇部炭化物付着	91-26	Po2004
6	鉢	A1df	XⅤ	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	平縁。二個一対の山形突起 + 櫛歯状刻目	93-2	Po2007
7	鉢	A1df	XⅤ	Ⅵc4	F-23Eb-Fa / Ⅵc4	平縁。二個一対の山形突起 + 櫛歯状刻目	93-1	Po3916
8	深鉢	C1d	XⅡx	Ⅵc4	F-23Eb+Fa / Ⅵc4-6	口径 34.2cm、器高（38.3cm）、底径 10.7cm。平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR。底部ナデ	92-4	Po1959

第116図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（31）　F-23区E・F・Gグリッド



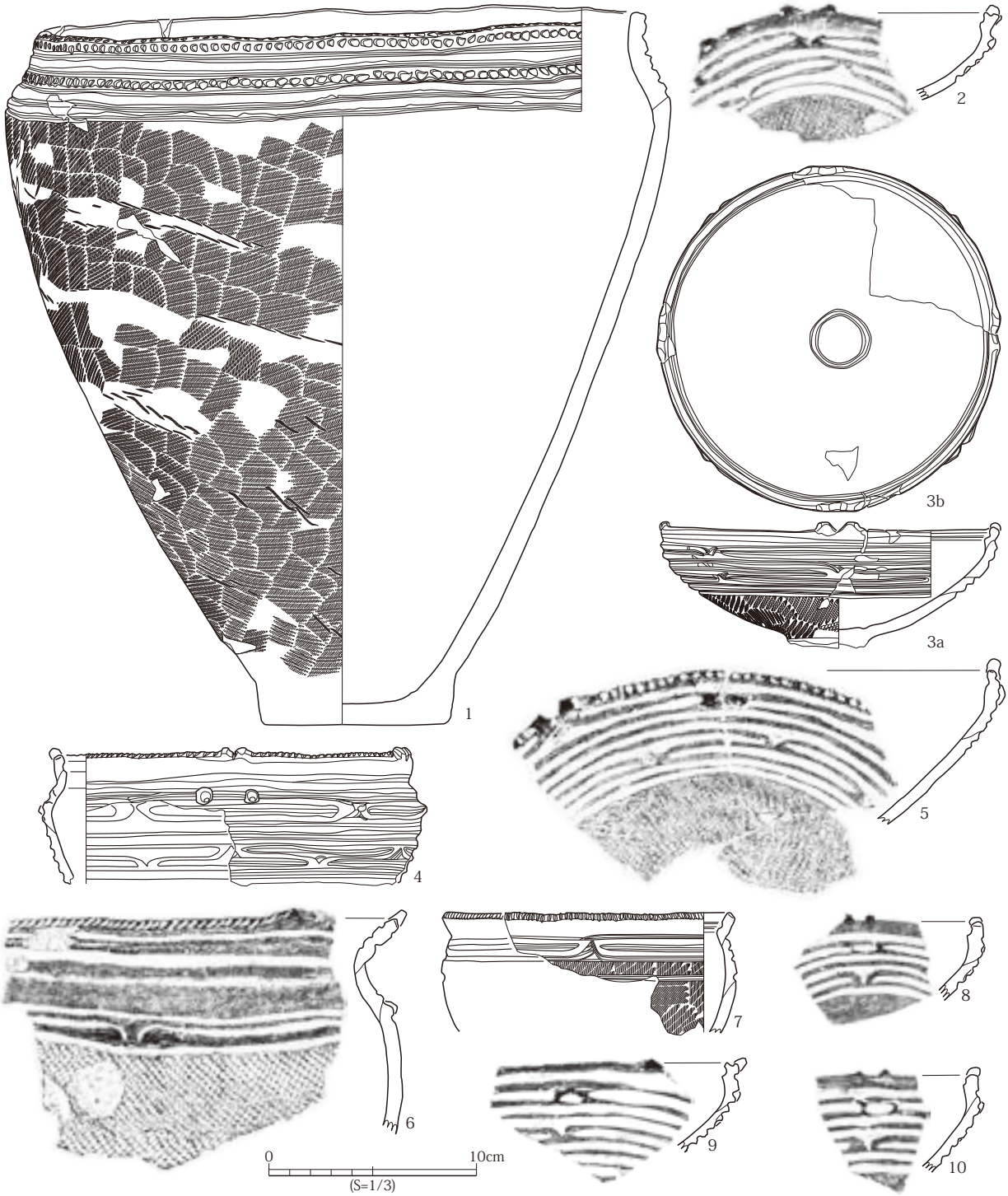
No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	浅鉢	A1cef	X c	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	平縁。山形突起の両側に二個一対の小突起 + 口唇部沈線。平行沈線文、工字文（Z 字状、磨消縄文）。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	93-3	Po1898
2	鉢	A1d	X c	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文、工字文（Z 字状、磨消縄文）。縄文 LR。口縁部内面沈線	93-4	Po1926
3	鉢	A1df	Ⅸ a+ X c	Ⅵ c4	F-23Eb+Fa / Ⅵ c4-6+ Ⅵ c3+ Ⅵ c1・2	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。π字文（上向）、平行沈線文、工字文（Z 字状、磨消縄文）。縄文 LR。口縁部内面沈線	93-5	Po1740
4	深鉢	A1df	X c	Ⅵ c4	F-23Eb-Fa / Ⅵ c4	口径（28.4cm）。平縁。二個一対の円形突起 + 櫛歯状刻目。平行沈線文、工字文（Z 字状、磨消縄文）+ 貼瘤。縄文 LR。口縁部内面沈線	95-2	Po2465
5	深鉢	A1df	X c	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	平縁。櫛歯状刻目 + 二個一対の小突起。平行沈線文、工字文（Z 字状、磨消縄文）+ 二個一対の貼瘤。縄文 LR。口縁部内面沈線。Po1823 と同一個体か	93-8	Po1994
6	深鉢	A1df	X c	Ⅵ c4	F-23Eb-Fa / Ⅵ c4	平縁。二個一対の楕円形突起 + 櫛歯状刻目。平行沈線文、工字文（Z 字状、磨消縄文）+ 二個一対の小突起。縄文 LR。口縁部内面沈線。内面炭化物付着	93-9	Po3922
7	皿	A1cf	Ⅷ + X c	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	平縁。二個一対の山形突起 + 口唇部短沈線文。メガネ状浮文 + 二個一対の貼瘤、工字文（Z 字状、磨消縄文）、平行沈線文。無節縄文 L。口縁部内面沈線	93-6	Po1899
8	台部	-	X a	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	流水工字文（陰刻）	93-11	Po2021
9	壺	-	Ⅸ a+ X a	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	平行沈線文、π字文（下向）、流水工字文（陰刻）	93-10	Po2035
10	鉢	A1c	X b	Ⅵ c4	F-23E / Ⅵ c4-6	平縁。口唇部沈線。平行沈線文、工字文（陽刻）。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	93-7	Po2241
11	壺	F1cef	Ⅸ a+ X a	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6+ Ⅵ b2	口径 8.2cm。平縁。山形突起の両側に二個一対の小突起 1 単位 + 口唇部沈線。平行沈線文、π字文（下向）4 単位、流水工字文 4 単位。突起・口縁部内面沈線	92-1	Po749
12	壺	-	Ⅸ a+ X a	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	最大径 9.7cm。平行沈線文 + ヘラ刻目、π字文（下向）3 単位、入組工字文（陰刻）3 単位、π字文（上向）3 単位	92-2	Po2034
13	浅鉢	A1cf	X b	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	平縁。小突起 + 口唇部沈線。平行沈線文、入組工字文（陽刻）。縄文 LR。口縁部内面沈線。口唇部・内面炭化物付着。胎土に海綿骨針を含む	93-15	Po2057
14	鉢	C1df	Ⅵ a+ Ⅷ + Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6+ Ⅵ c3	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。平行沈線文 + 櫛歯状刻目、メガネ状浮文、π字文（上向）、Z 字状文（綾杉状文）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面平行沈線文	93-16	Po1827
15	深鉢	C1df	Ⅸ d	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	平縁。二個一対の小突起 + 櫛歯状刻目。π字文（下向）+ 櫛歯状刻目、平行沈線文。縄文原体不明。口縁部内面平行沈線文。内面・口唇部炭化物付着	93-12	Po2044
16	深鉢	B1cef	Ⅸ a2	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	平縁。山形突起（大）の両側に山形突起（小）。π字文（下向）+ 刺突列、平行沈線文。縄文 LR。突起・口縁部内面平行沈線文。内外面・口唇部炭化物付着	93-18	Po2033
17	鉢	A1d	Ⅸ a2	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	平縁。ヘラ刻目。π字文（下向）+ 櫛歯状刻目、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	93-13	Po2061
18	深鉢	-	Ⅸ a1	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	π字文（下向）+ 刺突列、平行沈線文。縄文 LR。外面炭化物付着	93-14	Po1905

第117図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（32）　F-23区E・F・Gグリッド



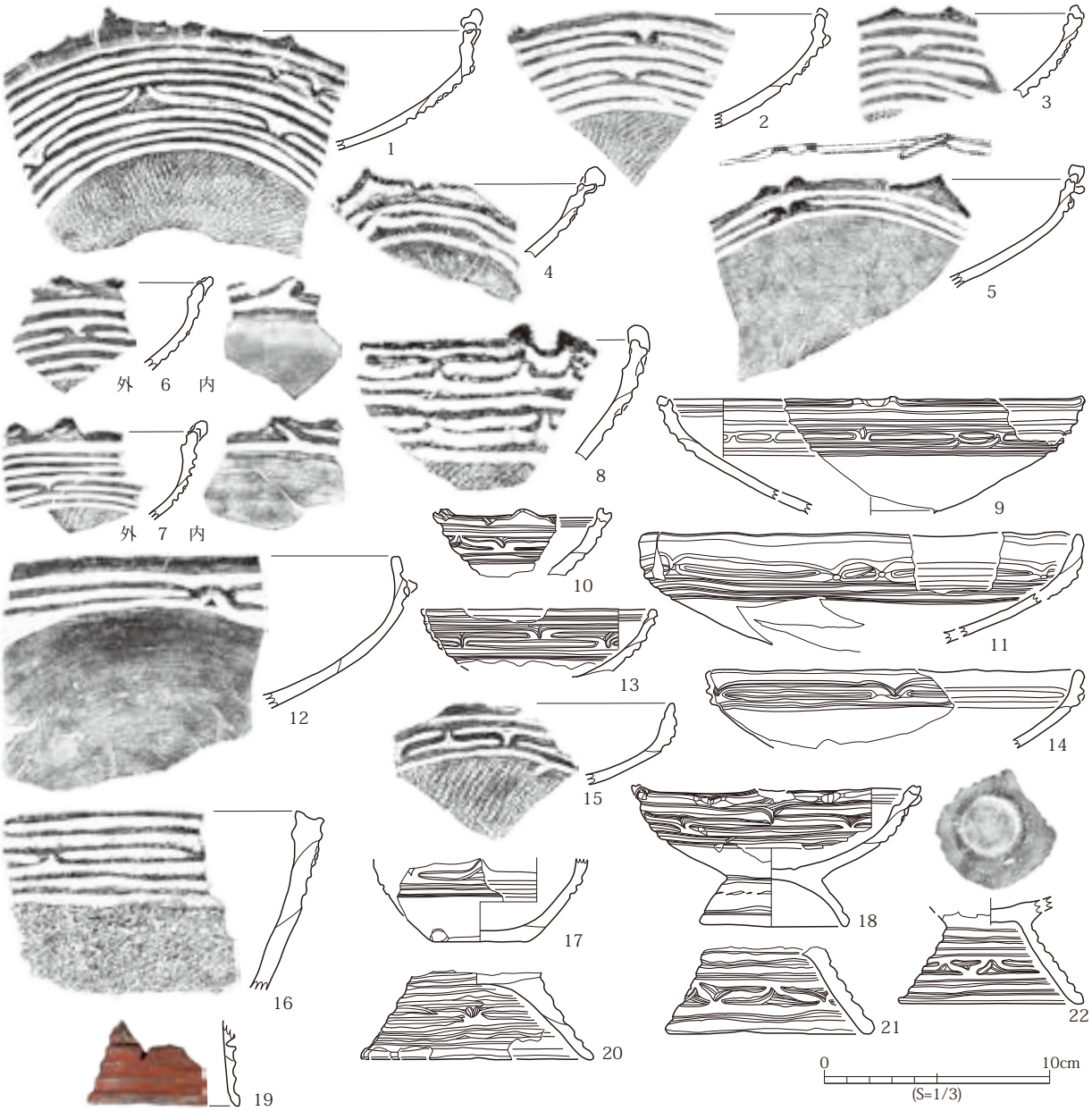
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1d	Ⅸa+Ⅸd	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	口径 28.8cm、器高 29.0cm、底径 8.3cm。平縁。ヘラ刻目。π字文（下向）5 単位＋刺突列、π字文（下向）5 単位。縄文 LR。底部ミガキ。口縁部内面沈線	94-2	Po2084
2	深鉢	B1d	Ⅸa	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋櫛歯状刻目、π字文（下向）、平行沈線文。口縁部内面沈線	96-1	Po2013
3	深鉢	C1d	Ⅸb	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	口径（13.8cm）。平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋刺突列、π字文（下向）＋二個一対の貼瘤。縄文 LR。口縁部内面沈線。内面炭化物付着	96-2	Po1917
4	深鉢	B1df	Ⅸa1	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	平縁。二個一対の山形突起＋櫛歯状刻目。π字文（下向）＋隆線上に櫛歯状刻目、平行沈線文。突起部内面短沈線文、口縁部内面沈線	93-17	Po2063
5	深鉢	A1cef	ⅩⅡx	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	口径 15.1cm。平縁。山形突起（大）の両側に山形突起（小）4 単位＋突起間沈線。平行沈線文。縄文 LR。底部剝落。突起・口縁部内面沈線	93-20	Po1958
6	鉢	C1def	Ⅸa1	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	口径（15.2cm）。平縁。装飾的な突起＋二個一対の小突起＋ヘラ刻目。三角形状の隆帯＋ヘラ刻目、平行沈線文、π字文（上向）＋隆線上にヘラ刻目、底部付近に横位沈線文。直前段多条縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	96-3	Po1984
7	壺	F1c	ⅩⅡx	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	口径 10.7cm。平縁。口唇部沈線。横位沈線文、平行沈線文。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	92-3	Po2040
8	壺	-	ⅩⅤ	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	平縁。山形突起の両側に二個一対の小突起＋突起間沈線。突起・口縁部内面沈線	96-4	Po1978
9	壺	H1cef	ⅩⅡx	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	口径 11.6cm、最大径 27.5cm。平縁。山形突起（大）の両側に山形突起（小）1 単位＋突起間沈線。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	94-1	Po1840

第118図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（33）　F-23区E・F・Gグリッド



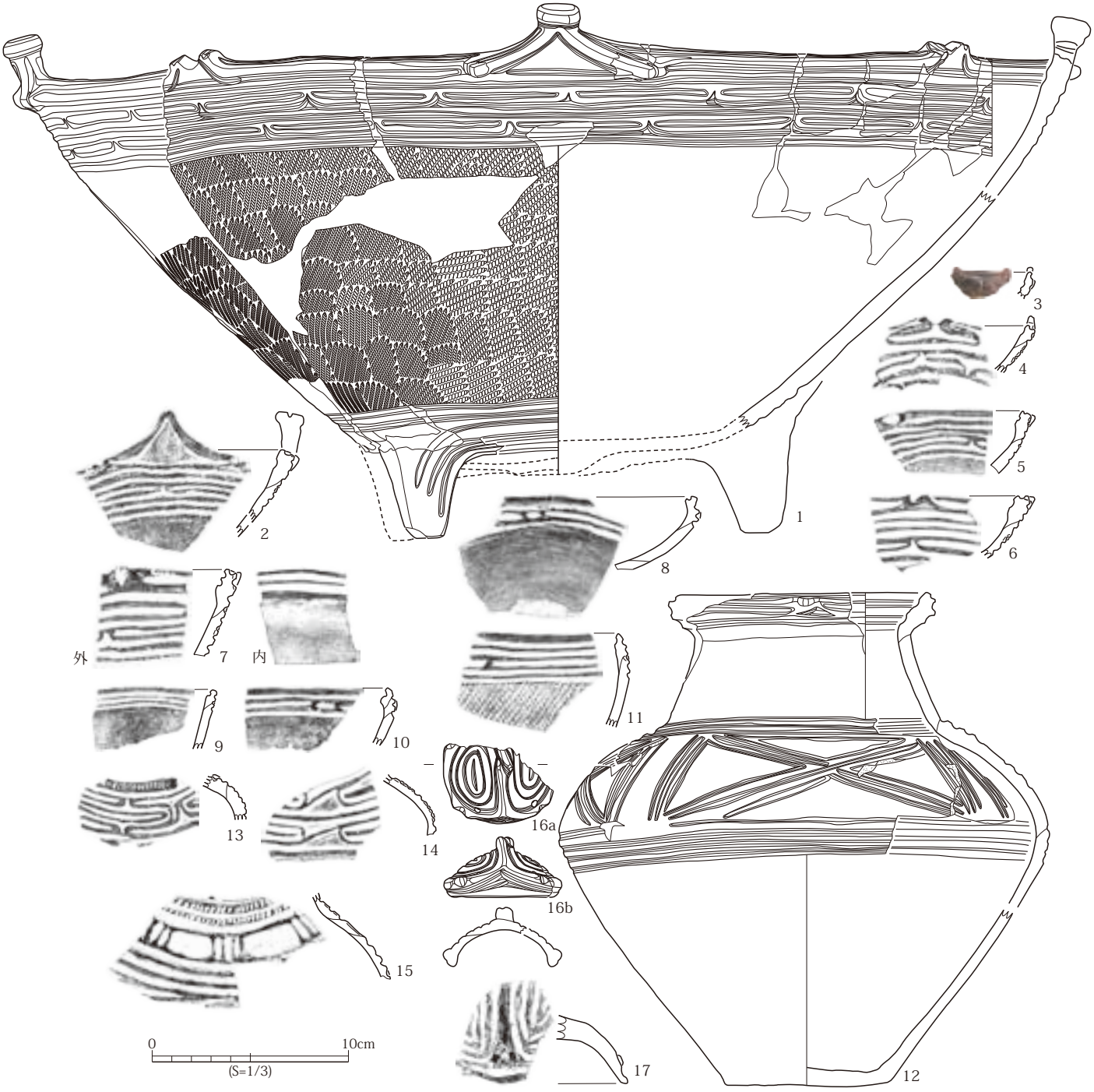
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	C1d	XⅡ b1	Ⅵ c4	F-23Eb+(Eb-Fa) / Ⅵ c4-7+ Ⅵ c4-6+ Ⅵ b2	口径 29.0cm、器高 33.0cm、底径 9.1cm。平縁。刺突列。平行沈線文＋刺突列。無節縄文 L。底部ナデ	95-4	Po840
2	浅鉢	A1cf	Ⅸ a+ Ⅸ b	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	平縁。二個一対の山形突起＋二個一対の小突起＋口唇部沈線。π字文（上向）+二個一対の貼瘤、π字文（下向＋上向）。縄文 LR。口縁部内面沈線	96-5	Po2068
3	台付浅鉢	A1f	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6+ Ⅵ c3	口径 16.0cm。平縁。二個一対の突起 4 単位。π字文（上向）4 単位、平行沈線文。縄文 LR。底部ミガキ。口縁部内面沈線。外面赤彩	95-3	Po1809
4	深鉢	B1df	Ⅷ＋Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6+ Ⅵ b2	口径(17.0cm)。平縁。二個一対の小突起 5 単位＋ヘラ刻目。メガネ状浮文 8 単位、π字文(下向＋上向）6 単位。口縁部内面沈線。補修孔 2	95-1	Po780
5	浅鉢	A1df	Ⅷ＋Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Eb+E / Ⅵ c4-6+ Ⅵ c+ Ⅵ b2	平縁。二個一対の山形突起＋ヘラ刻目。メガネ状浮文＋二個一対の貼瘤、平行沈線文、π字文(上向）2 段。直前段多条縄文 RL。口縁部内面沈線	96-8	Po2239
6	深鉢	B1df	Ⅸ b	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	平縁。山形突起＋櫛歯状刻目。平行沈線文、π字文（上向）＋二個一対の貼瘤。縄文 RL 末端部強調。口縁部内面平行沈線文	96-9	Po1882
7	深鉢	B1d	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	口径（14.0cm)。平縁。ヘラ刻目。π字文（下向)、平行沈線文。無節縄文 L。口縁部内面沈線。内面炭化物付着	96-6	Po2072
8	Ⅲ	A1f	Ⅷ＋Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	平縁。二個一対の小突起。メガネ状浮文、π字文（上向）	96-7	Po1922
9	浅鉢	A1cf	Ⅸ a+ Ⅸ c	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	平縁。二個一対の小突起＋口唇部沈線。π字文＋二個一対の貼瘤状、平行沈線文、π字文（上向)。口縁部内面沈線	96-10	Po2031
10	鉢	A1f	Ⅸ a+ Ⅸ c	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	平縁。二個一対の小突起。π字文＋二個一対の貼瘤、平行沈線文、π字文（上向)。口縁部内面沈線。内外面赤彩	96-11	Po2015

第119図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（34）　F-23区E・F・Gグリッド



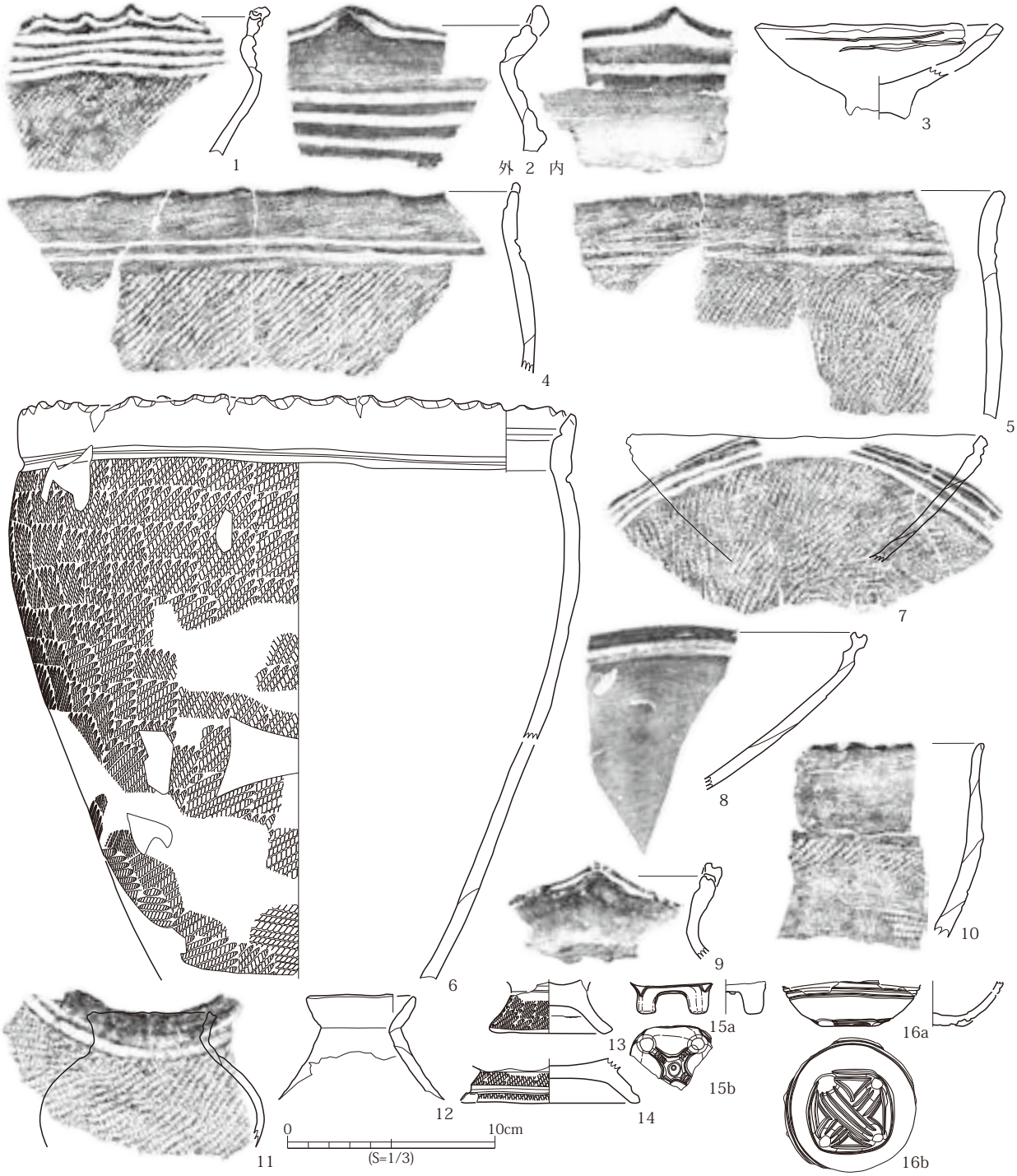
No.	器 種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特 徴	写真図版	登録
1	皿	A1cef	Ⅷ + Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	平縁。山形突起（大）の両側に二個一対の小突起＋山形突起（小）＋弧状の短沈線文＋口唇部沈線。メガネ状浮文＋二個一対の貼瘤、π字文（下向）、π字文（上向）、平行沈線文。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	96-12	Po1969
2	浅鉢	A1f	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Eb-Fa / Ⅵ c4	平縁。二個一対の小突起。π字文（上向）2 段、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。内外面赤彩	96-13	Po3915
3	浅鉢	A1cf	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	平縁。二個一対の山形突起＋突起間沈線。平行沈線文、π字文（上向）2 段。縄文 RL	96-14	Po2042
4	皿	A1ef	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	平縁。山形突起の両側に二個一対の小突起＋突起間沈線。π字文（下向）、平行沈線文。突起・口縁部内面沈線	96-15	Po2043
5	皿	A1cef	Ⅸ b	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	平縁。山形突起の両側に小突起＋二個一対の小突起＋口唇部沈線。π字文(上向)+二個一対の貼瘤。突起・口縁部内面沈線	96-17	Po2051
6	浅鉢	A1cf	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	平縁。二個一対の小突起＋口唇部沈線。平行沈線文、π字文（上向）。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	96-16	Po1870
7	浅鉢	A1e	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	平縁。二個一対の突起。平行沈線文、π字文（上向）。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	96-18	Po1991
8	鉢	A1cf	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	平縁。二個一対の山形突起＋口唇部沈線。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	96-20	Po2058
9	浅鉢	A1cf	Ⅷ + Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	口径（18.2cm）。平縁。二個一対の小突起 4 単位＋口唇部沈線。メガネ状浮文 5 単位＋π字文（上向）5 単位。口縁部内面沈線	96-25	Po1972
10	浅鉢	A1cf	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6+ Ⅵ c3	口径（7.4cm）。平縁。山形突起 4 単位＋口唇部沈線。π字文（下向＋上向）4 単位、平行沈線文。口縁部内面沈線。内外面・口唇部赤彩	96-21	Po1743
11	皿	A1	Ⅷ	Ⅵ c4	F-23Eb+Fa / Ⅵ c4-6+ Ⅵ c3+ Ⅵ c1・2	口径 19.3cm。平縁。メガネ状浮文 6 単位。口縁部内面沈線	96-24	Po1689
12	浅鉢	A1	Ⅸ b	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	平縁。π字文（下向）＋二個一対の小突起	98-1	Po2017
13	皿	A1	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6+ Ⅵ c3	口径（10.4cm）。平縁。平行沈線文、π字文（上向）4 単位。口縁部内面沈線	97-3	Po1801
14	皿	A1	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	口径（16.3cm）。平縁。π字文（上向）5 単位	96-22	Po1878
15	皿	A1	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23E / Ⅵ c4-6	平縁。π字文（下向＋上向）。縄文 LR。口縁部内面沈線	96-19	Po2240
16	鉢	A1c	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	平縁。口唇部沈線。π字文（上向＋下向）、平行沈線文。口縁部内面沈線	98-2	Po2081
17	漆容器（四脚付鉢）	-	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	最大径（9.1cm）、底径（4.0cm）。π字文（下向＋上向）、平行沈線文。底部ミガキ。内面赤漆付着	98-3	Po2077
18	台付浅鉢	A1cf	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6+ Ⅵ c3	口径 12.7cm、台部径(6.4cm)。平縁。突起 4 単位かの両側に二個一対の小突起 8 単位＋口唇部沈線。π字文（上向）、平行沈線文。底部ミガキ。口縁部内面沈線、底部内面環状沈線	96-23	Po1799
19	台部	-	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	π字文（上向）、平行沈線文。内外面赤彩	98-5	Po3940
20	台部	-	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	台部径（10.2cm）。π字文（上向）4 単位。外面赤彩	98-4	Po1904
21	台部	-	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	台部径 9.3cm。平行沈線文、π字文（下向＋上向）5 単位。外面赤彩	97-4	Po1874
22	台部	-	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	台部径 8.3cm。平行沈線文、π字文（下向＋上向）4 単位。底部内面に浅い円文	97-5	Po1928

第120図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（35）　F-23区E・F・Gグリッド



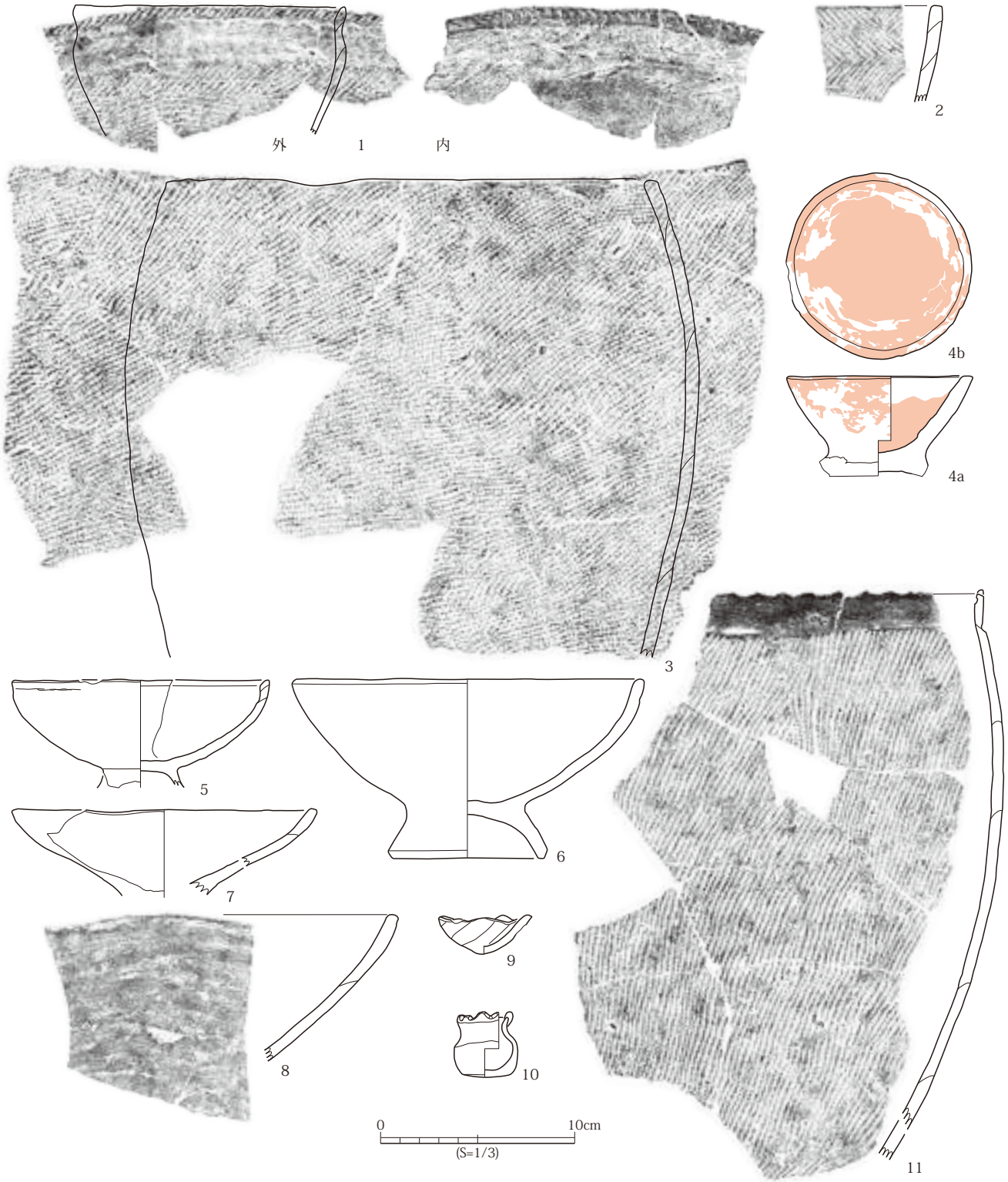
No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	四脚付浅鉢	A1cdef	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Eb+Fa / Ⅵ c4-6	口径（55.5cm）、器高 26.7cm、底径（16.8cm）。平縁。山形突起（大、頂部円盤状突帯）の両側に二個一対の小突起 4 単位＋二個一対の山形突起（小、頂部刻み）4 単位＋突起間沈線。山形突起（大）部に三角形状の沈線文、平行沈線文、π字文（下向）16 単位か（2 段）、底部付近に平行沈線文。縄文 LR。脚部間に縁辺に平行する平行沈線文＋直交する隆帯。突起内面短沈線、口縁部内面平行沈線文	97-6	Po1962
2	鉢	A1cef	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	平縁。山形突起の両側に二個一対の小突起＋口唇部沈線。突起部に三角形状の沈線文、平行沈線文、π字文（下向）。突起・口縁部内面沈線	98-6	Po2085
3	壺	A1f	Ⅷ	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	平縁。二個一対の小突起。メガネ状浮文＋二個一対の貼瘤。口縁部内面平行沈線文。内外面・口唇部赤彩	98-7	Po3948
4	浅鉢	A1cf	Ⅸ a+ Ⅹ a	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	平縁。二個一対の小突起＋突起間沈線。工字文（陰刻）、π字文（下向＋上向）、平行沈線文。口縁部内面沈線	98-8	Po1936
5	Ⅲ	A1cf	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4	平縁。二個一対の小突起＋口唇部沈線。π字文（上向）、平行沈線文、π字文（下向）。口縁部内面沈線	98-9	Po1861
6	浅鉢	A1cef	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	平縁。山形突起＋二個一対の小突起＋口唇部沈線。平行沈線文、π字文（下向）。口縁部内面沈線	98-10	Po2037
7	浅鉢	A1c	Ⅸ a	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-7	平縁。二個一対の小突起＋突起間沈線。π字文（上向）、π字文（下向）、平行沈線文。口縁部内面平行沈線文。内外面・口唇部赤彩	98-11	Po2185
8	浅鉢	A1	Ⅸ c	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	平縁。π字文。口縁部内面沈線	98-12	Po2024
9	浅鉢	A1	Ⅸ c	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	平縁。π字文。口縁部内面沈線	98-13	Po2001
10	浅鉢	A1	Ⅸ c	Ⅵ c4	F-23Eb-Fa / Ⅵ c4	平縁。π字文＋二個一対の貼瘤。外面赤彩	98-14	Po3921
11	鉢	A1	Ⅸ c	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	平縁。平行沈線文、π字文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	98-19	Po1970
12	壺	I1ac	Ⅹ Ⅱ d1+ Ⅹ Ⅱ d2	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-7	口径（12.7cm）、器高 25.0cm、最大径（24.8cm）、底径 8.3cm。平縁。二個一対の小突起＋口唇部沈線。平行沈線文、平行沈線文＋縦位の平行沈線文＋斜位の平行沈線文。底部摩滅。口縁部内面平行沈線文	97-1	Po2178
13	壺	-	Ⅷ＋Ⅸ a+ Ⅹ b	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	メガネ状浮文＋二個一対の貼瘤、、π字文（下向）、工字文（陰刻）、π字文（上向）、平行沈線文	98-16	Po1921
14	壺	-	Ⅹ a	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	工字文（陰刻）2 段	98-15	Po2073
15	壺	-	Ⅹ Ⅱ d1	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	平行沈線文＋隆帯上にヘラ刻目、縦位の平行短沈線文、平行沈線文、斜位の平行沈線文	98-17	Po1965
16	蓋	A1	-	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	器高 3.1cm、最大径（6.1cm）。平縁。8 字状に隆帯＋頂部二個一対の小突起＋短沈線文＋二個一対の小突起 4 単位）、隆帯で囲まれた内側に浮線渦巻文（同心円状）2 単位。貫通孔 2	97-2	Po2867
17	蓋	-	-	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	浮線渦巻文、隆帯＋二個一対の小突起	98-18	Po1982

第121図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（36）　F-23区E・F・Gグリッド



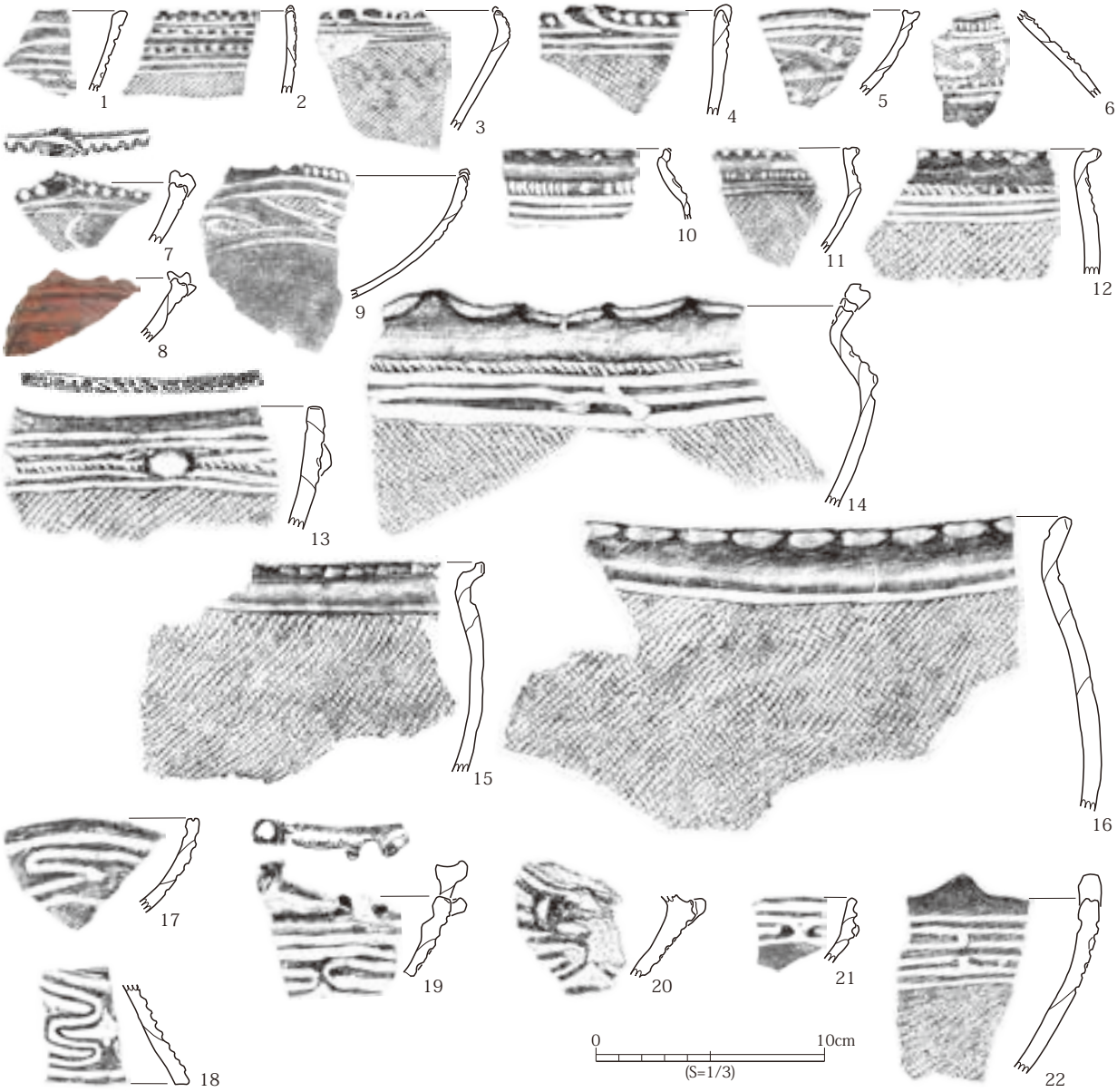
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	鉢	C2cde	XⅡx	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	小波状縁。山形突起（大）+山形突起（小・頂部刻み）+口唇部沈線。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	98-20	Po2020
2	深鉢	B1cf	XⅡx	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-7	平縁。山形突起 + 突起間沈線。平行沈線文。突起・口縁部内面平行沈線文	98-21	Po2182
3	台付浅鉢	A1	XⅡx	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	口径（11.4cm）。平縁。平行沈線文。底部ナデ	99-5	Po1876
4	深鉢	C2	XⅡx	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6+ Ⅵb2	小波状縁。平行沈線文。無節縄文 L。口縁部内面沈線	98-23	Po737
5	深鉢	C1	XⅡx	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6+ Ⅵb2	平縁。平行沈線文。縄文 LR	98-22	Po776
6	深鉢	C2	XⅢ	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	口径 27.1cm。小波状縁。横位沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	99-4	Po2070
7	浅鉢	A1c	XⅡx	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	口径（17.2cm）。平縁。口唇部沈線。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	96-26	Po2071
8	Ⅲ	A1c	XⅢ	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	平縁。口唇部沈線。横位沈線文。口縁部内面沈線	98-24	Po2041
9	壺	B1cef	XⅤ	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	平縁。山形突起（大）の両側に二個一対の山形突起 + 口唇部沈線。突起・口縁部内面沈線	98-27	Po2008
10	深鉢	C2	XⅡx	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	小波状縁。平行沈線文。縄文 LR（一部磨消）	98-32	Po2009
11	壺	C1c	XⅢ	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	口径（5.6cm）、最大径（10.7cm）。平縁。口唇部沈線。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面平行沈線文	99-6	Po1956
12	壺	-	XⅤ	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	口径（5.0cm）。平縁	98-28	Po1900
13	台部	-	XⅣb1	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	台部径 5.9cm。縄文 LR	99-7	Po2030
14	台部	-	XⅢ	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	台部径 8.6cm。横位沈線文。縄文 LR	99-8	Po2078
15	袖珍土器脚部	-	XⅢ	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	底径（4.0cm）。横位沈線文、三角形状の区画文。中央が円形となる十字状の隆帯 + ヘラ刻目、円形の内側に環状沈線	98-29	Po2056
16	袖珍土器四脚付鉢	-	XⅡx	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	底径 3.3cm。平行沈線文。十字状の平行沈線文	98-31	Po2062

第122図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（37）　F-23区E・F・Gグリッド



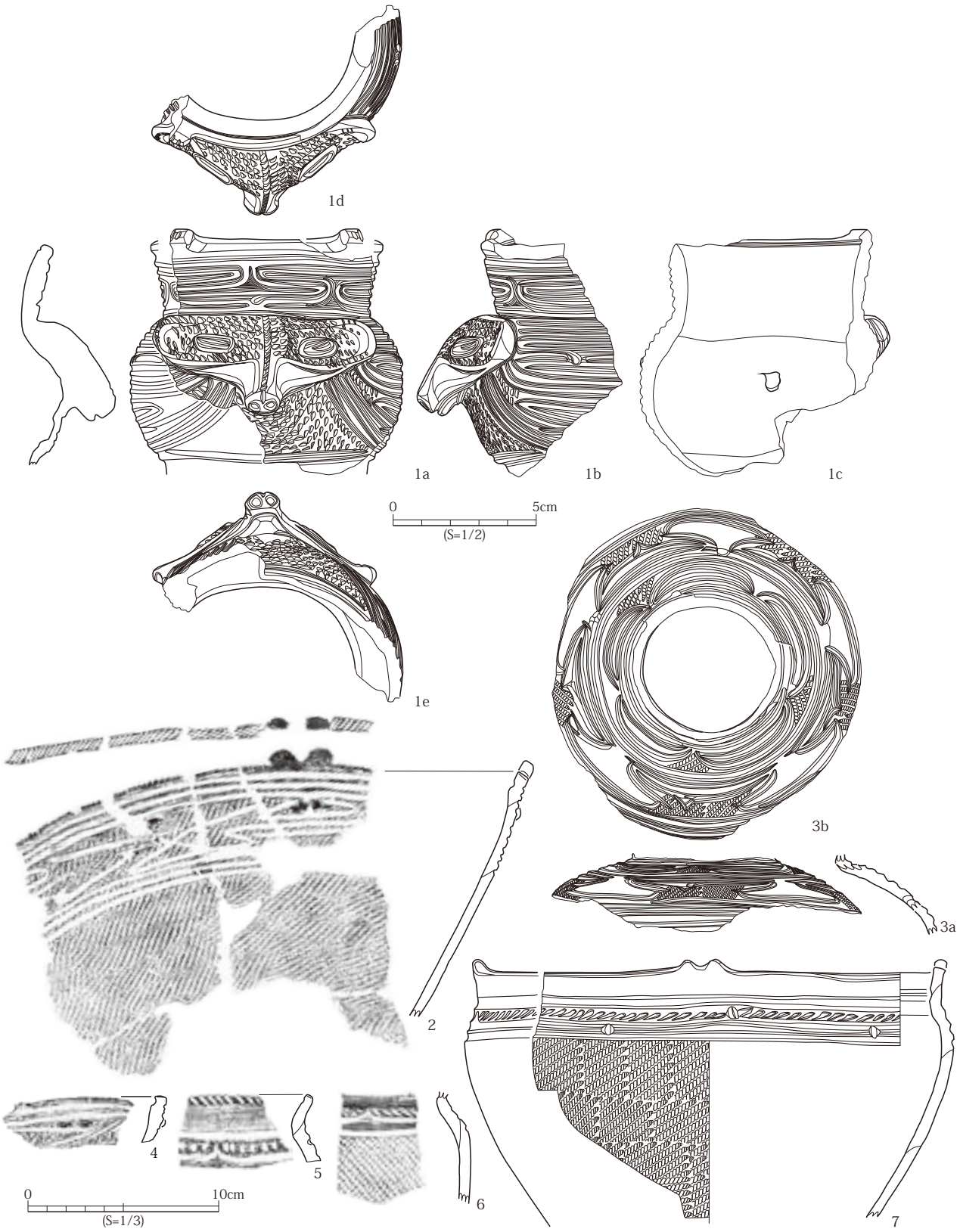
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	C1	XIV b1	VI c4	F-23Eb / VI c4-6+ VI b2	口径（14.0cm）。平縁。縄文 LR（頸部磨消）。口縁部内面に爪形の刺突列	98-25	Po812
2	深鉢	A1	XIV a1+ XIV a2	VI c4	F-23Eb / VI c4-6	平縁。0 段多条縄文 RL、羽状縄文 LR/RL	98-26	Po2005
3	深鉢	A1	XIV a1	VI c4	F-23Eb / VI c4-6	口径（25.2cm）、最大径（29.4cm）。平縁。縄文 LR。外面炭化物付着	98-33	Po2014
4	漆容器（台部の転用）	-	XV	VI c4	F-23Fa / VI c4-6	口径 9.5cm、器高 5.5cm、底径 5.2cm。平縁。底部環状沈線。内面赤漆付着。台部の転用	99-1	Po1888
5	台付浅鉢	A1	XV	VI c4	F-23Eb / VI c4-6	口径（13.0cm）。平縁。底部ミガキ	99-2	Po2010
6	台付浅鉢	A1	XV	VI c4	F-23Eb / VI c4-6	口径 17.9cm、器高 9.3cm、台部径 8.0cm。平縁	99-9	Po2074
7	台付浅鉢	A1	XV	VI c4	F-23Eb+Fa / VI c4-6	口径（15.0cm）。平縁	99-3	Po1864
8	浅鉢	A1f	XV	VI c4	F-23Fa / VI c4-6	平縁。山形突起	98-30	Po1924
9	袖珍土器皿	A3	XV	VI c4	F-23Eb / VI c4-6	口径 4.8cm、器高 2.1cm。大波状縁	98-34	Po2467
10	袖珍土器壺	C1ef	XV	VI c4	F-23Eb / VI c4	口径 2.6cm、器高 3.4cm、最大径 3.4cm、底径 2.5cm。平縁。山形突起（大）の両側に二個一対の山形突起。底部ミガキ	98-35	Po1837
11	深鉢	A2	XIV b1	VI c4	F-23Eb / VI c4-6+ VI b2	小波状縁。0 段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	100-1	Po817

第123図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（38）　F-23区E・F・Gグリッド



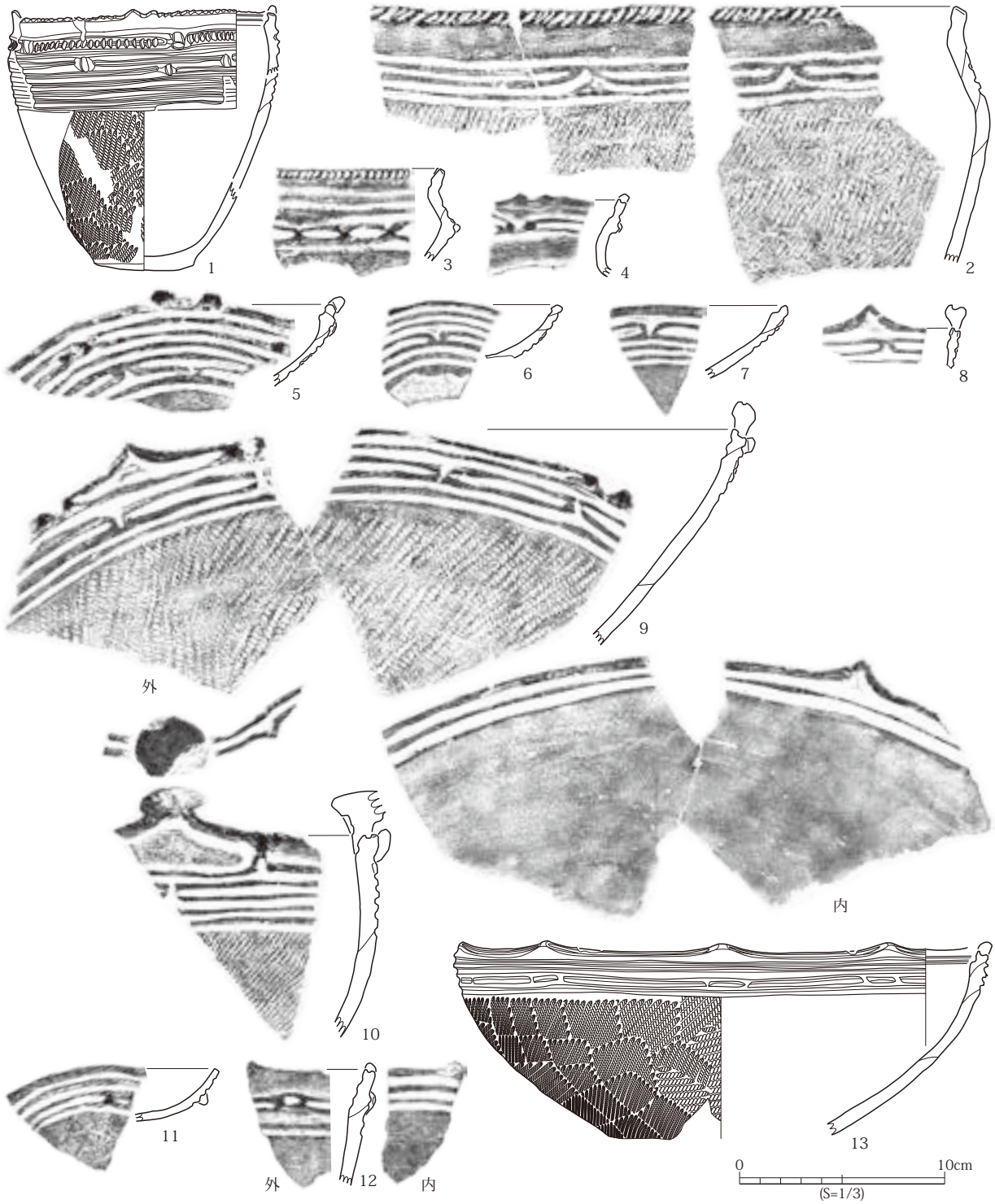
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	鉢	A1	Ⅱ a	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	平縁。入組帯状文（縄文）、平行沈線文＋短沈線文。縄文 LR	100-10	Po1785
2	鉢	A1cf	Ⅳ	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	平縁。二個一対の小突起＋弧状の短沈線文。羊歯状文、平行沈線文。縄文 LR	100-5	Po1794
3	鉢	A1df	Ⅹ Ⅱ a1	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	平縁。二個一対の小突起＋ヘラ刻目。平行沈線文＋櫛歯状刻目。羽状縄文 RL/LR。胎土に海綿骨針を含む	100-6	Po1729
4	深鉢	A1f	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	平縁。二個一対の小突起。刺突列、平行沈線文。縄文 RL	100-7	Po1719
5	皿	A1c	Ⅶ a	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	平縁。口唇部沈線。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR	100-8	Po1716
6	壺	-	Ⅶ a	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	平行沈線文＋櫛歯状刻目、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）、平行沈線文＋刺突列。縄文 LR	100-9	Po1732
7	皿	A1bdf	Ⅶ b	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	平縁。山形突起＋ヘラ刻目＋波状浮線文。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。直前段多条縄文 LR	100-11	Po1789
8	皿	A1cef	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	平縁。山形突起＋二個一対の山形突起＋口唇部沈線。平行沈線文。口縁部内面沈線。内外面・口唇部赤彩	100-12	Po1824
9	皿	A1df	Ⅶ b	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	平縁。二個一対の山形突起＋ヘラ刻目。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR	100-3	Po1787
10	深鉢	B1cd	Ⅹ Ⅱ a2	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。内面炭化物付着	100-13	Po1746
11	鉢	A1cd	Ⅹ Ⅱ b2	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋刺突列（π字状の表現あり）。羽状縄文 LR/RL	100-27	Po3911
12	深鉢	B1cd	Ⅹ Ⅱ a2	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文 LR	100-15	Po1749
13	深鉢	A1df	Ⅹ Ⅱ a2	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	平縁。山形突起＋櫛歯状刻目。平行沈線文＋櫛歯状刻目＋二個一対の貼瘤（π字状の表現）。縄文 LR。口縁部内面沈線。内外面・口唇部炭化物付着	100-21	Po1739
14	深鉢	B2ce	Ⅹ Ⅱ a2+ Ⅹ Ⅱ c	Ⅵ c3	F-23Ea+Fa / Ⅵ c3+ Ⅵ b2	小波状縁。山形突起（大・小）＋口唇部沈線。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）＋押圧。直前段多条縄文 RL。口縁部内面沈線	100-2	Po1706
15	深鉢	B1cd	Ⅹ Ⅲ	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。直前段多条縄文 LR	100-19	Po3908
16	深鉢	C1d	Ⅹ Ⅲ	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	平縁。ヘラ刻目。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	100-18	Po1711
17	皿	A1c	Ⅹ c	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	平縁。口唇部沈線。工字文（Z 字状）。縄文 LR。口縁部内面沈線	100-24	Po1720
18	台部	-	Ⅹ b	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	平行沈線文、流水工字文（陽刻）	100-23	Po3907
19	鉢	A1cef	Ⅹ b	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	平縁。山形突起（頂部ボタン状突帯）＋二個一対の小突起＋口唇部沈線。平行沈線文、工字文（陽刻）。口縁部内面沈線	100-22	Po1708
20	注口土器	-	Ⅹ b	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	平行沈線文＋二個一対の山形突起＋隆線上にヘラ刻目、工字文（陽刻）、平行沈線文	100-26	Po1790
21	鉢	B1	Ⅹ a	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	平縁。工字文（陰刻）＋二個一対の貼瘤	100-25	Po3910
22	鉢	A1cf	Ⅸ a+ Ⅹ a	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	平縁。山形突起＋突起間沈線。工字文（陰刻）、π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	100-4	Po1765

第124図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（39）　F-23区E・F・Gグリッド



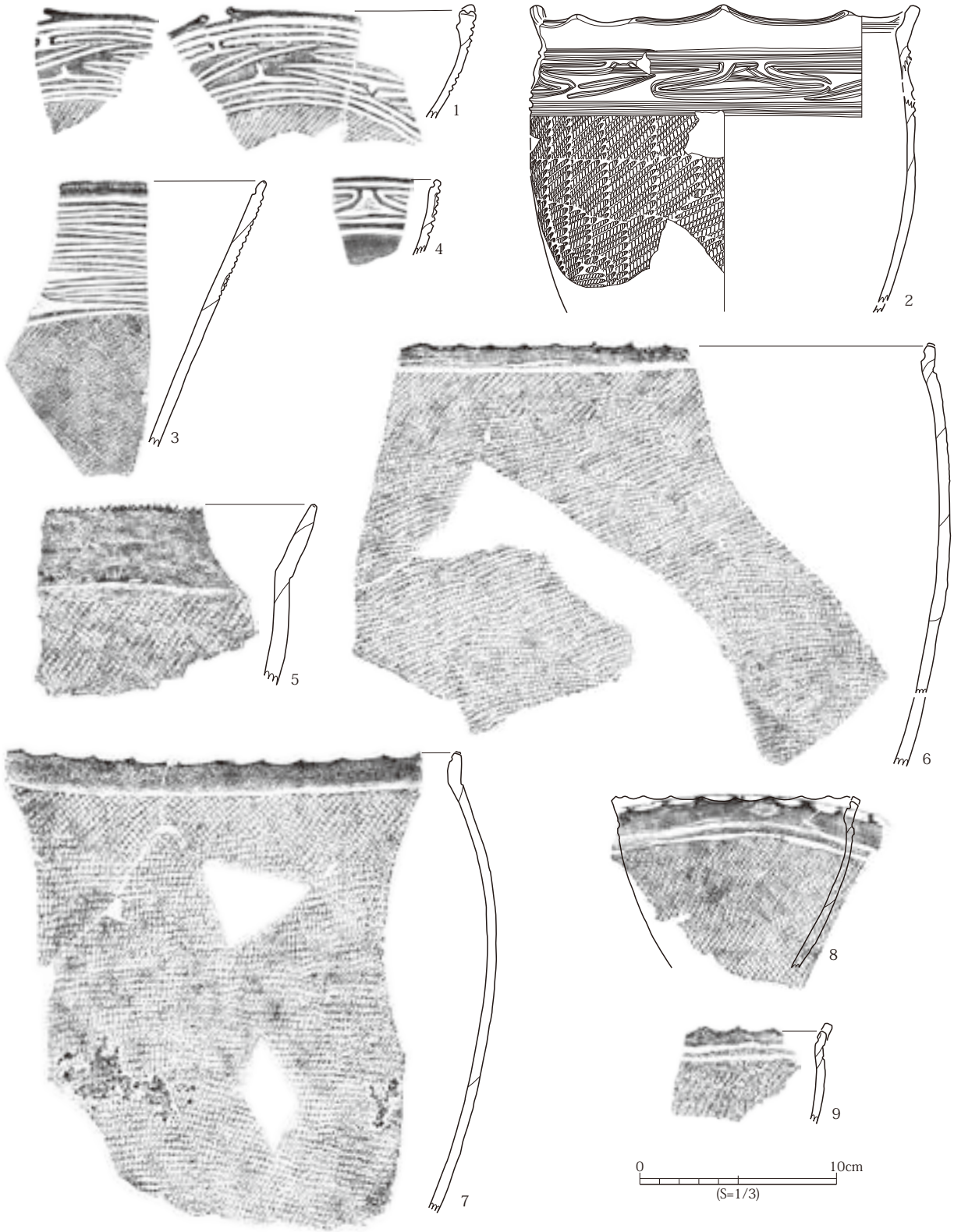
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	動物形土器	D1f	Ⅸ a+ Ⅹ a	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	平縁。二個一対の小突起か。口縁部に入組工字文(陰刻)、π字文(上向)。体部に平行沈線文、π字文(上向)。動物（イノシシ）を模した顔の貼付：貼瘤（頂部短沈線によるくぼみ、目)、縦位の沈線文＋刺突列（鼻梁)、盲孔２（鼻)、沈線文（口)、指頭による押圧（耳)、刺突文（顔面)。底部付近に平行沈線文。擬縄文（刺突)。口縁部内面沈線、体部内面盲孔１（鼻の裏側)。内外面・口唇部赤彩	100-14	Po1841
2	鉢	A1df	Ⅹ c	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	平縁。櫛歯状刻目＋二個一対の小突起。平行沈線文、工字文（Z 字状、磨消縄文）＋二個一対の貼瘤。縄文 LR。口縁部内面沈線。Po1994 と同一個体か	100-30	Po1823
3	壺	-	Ⅸ a+ Ⅹ c	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	平行沈線文、π字文（下向、磨消縄文)、工字文（Z 字状、磨消縄文)。縄文 LR	100-20	Po1846
4	深鉢	A1cf	Ⅹ c	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	平縁。櫛歯状刻目。平行沈線文、工字文（Z 字状、磨消縄文）＋二個一対の貼瘤。縄文 LR。口縁部内面沈線	100-16	Po1825
5	深鉢	C1d	Ⅸ a2	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	平縁。ヘラ刻目。π字文（下向）＋刺突列。口縁部内面沈線	100-28	Po1757
6	鉢	-	Ⅸ d	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	π字文（下向）＋刺突列、平行沈線文。縄文 RL	100-29	Po1762
7	深鉢	C1cf	Ⅸ d	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	口径（24.2cm)。平縁。二個一対の山形突起＋口唇部沈線。π字文（下向）＋刺突列、平行沈線文＋ヘラ刻み６単位か。縄文 LR。口縁部内面沈線	100-17	Po1806

第125図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（40）　F-23区E・F・Gグリッド



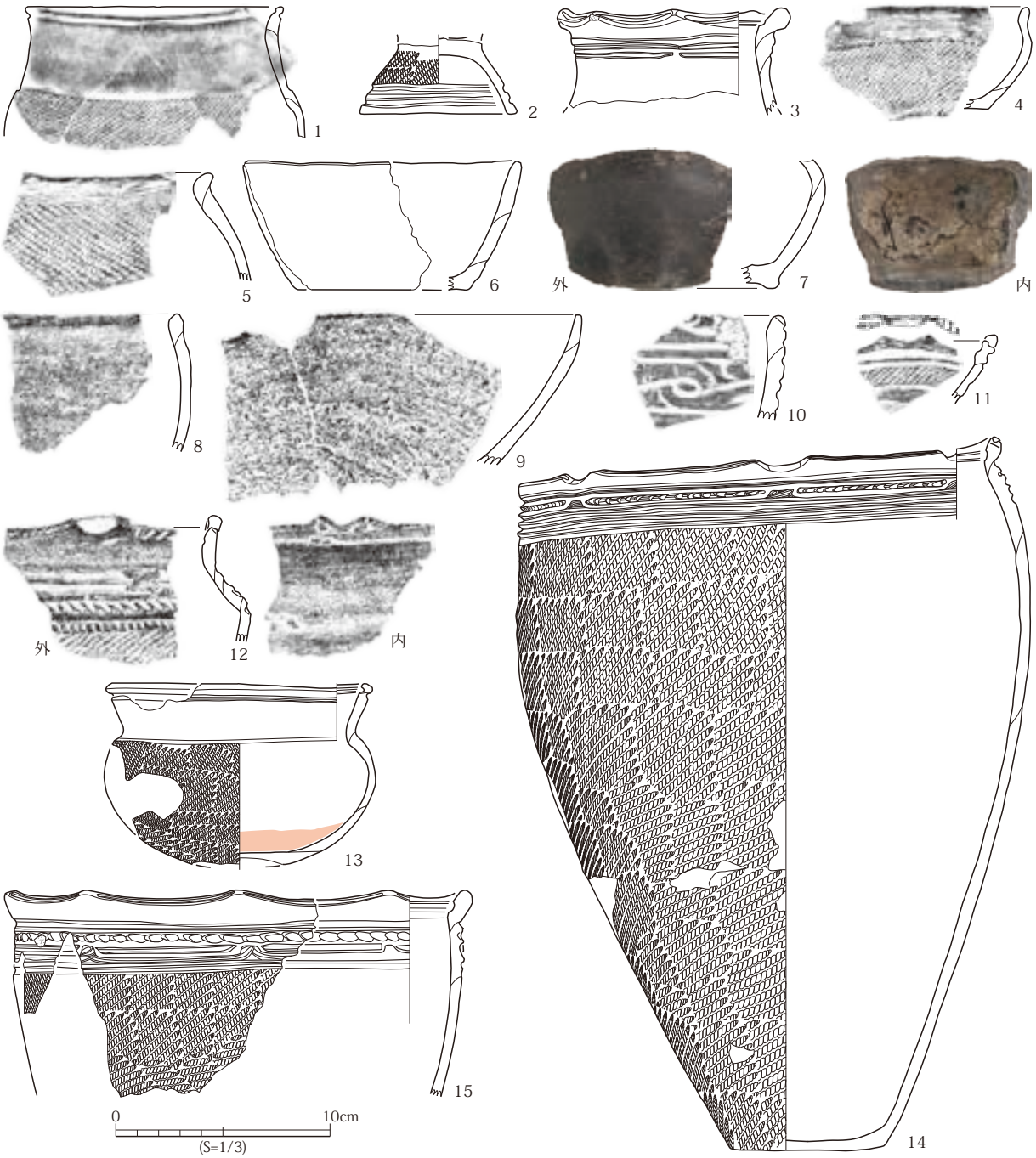
No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1df	Ⅷ + Ⅸ a	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	口径 13.2cm、器高 12.8cm、底径 5.0cm。平縁。二個一対の山形突起 4 単位 + ヘラ刻目。メガネ状浮文 + 刺突列 7 単位 π 字文（下向 + 上向 7 単位）、平行沈線文。0 段多条縄文 LR。底部ミガキ。口縁部内面沈線。口唇部炭化物付着	101-19	Po1776
2	深鉢	C1d	Ⅸ a	Ⅵ c3	F-23Eb+Fa / Ⅵ c3	平縁。櫛歯状刻目。π 字文（下向）、平行沈線文。0 段多条縄文 L。口縁部内面沈線	101-1	Po1783
3	鉢	B1d	Ⅷ	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文、メガネ状浮文。縄文 LR。口縁部内面沈線	101-3	Po1735
4	壺	F1cf	Ⅷ	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	平縁。二個一対の山形突起 + 口唇部沈線。メガネ状浮文 + 二個一対の貼瘤。口縁部内面沈線	101-4	Po3906
5	浅鉢	A1ef	Ⅷ + Ⅸ a	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	平縁。二個一対の突起。メガネ状浮文 + 二個一対の貼瘤、π 字文（下向 + 上向）。突起・口縁部内面沈線。外面赤彩	101-2	Po1810
6	Ⅲ	A1	Ⅸ a	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	平縁。平行沈線文、π 字文（上向）。口縁部内面沈線	101-5	Po1778
7	浅鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ c3	F-23Fb / Ⅵ c3	平縁。π 字文（上向）、平行沈線文。口縁部内面沈線	101-6	Po1704
8	浅鉢	A1ce	Ⅸ a	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	平縁。山形突起 + 口唇部沈線。π 字文（下向）。口縁部内面沈線。内外面・口唇部赤彩	101-7	Po1752
9	鉢	A1cef	Ⅸ a	Ⅵ c3	F-23Fa+F / Ⅵ c3+ Ⅵ a	平縁。山形突起の両側に二個一対の小突起 + 口唇部沈線。π 字文（下向 + 上向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面平行沈線文	101-11	Po1707
10	鉢	A1cef	Ⅸ a	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	平縁。山形突起（大、頂部円盤状突帯）+ 山形突起（小）+ 口唇部沈線。π 字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。内外面・口唇部赤彩	101-12	Po1736
11	Ⅲ	A1	Ⅷ	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	平縁。平行沈線文、メガネ状浮文	101-8	Po1741
12	鉢	C1cf	Ⅷ	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	平縁。小突起 + 突起間沈線。メガネ状浮文、平行沈線文。口縁部内面平行沈線文	101-9	Po1795
13	浅鉢	A1cf	Ⅸ c	Ⅵ c3	F-23(Eb-Fa)+Fa+F / Ⅵ c3+ Ⅵ c2・3+ Ⅵ b2	口径（26.0cm）。平縁。山形突起 10 単位 + 突起間沈線。π 字文 10 単位。縄文 LR。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	101-20	Po1764

第126図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（41）　F-23区E・F・Gグリッド



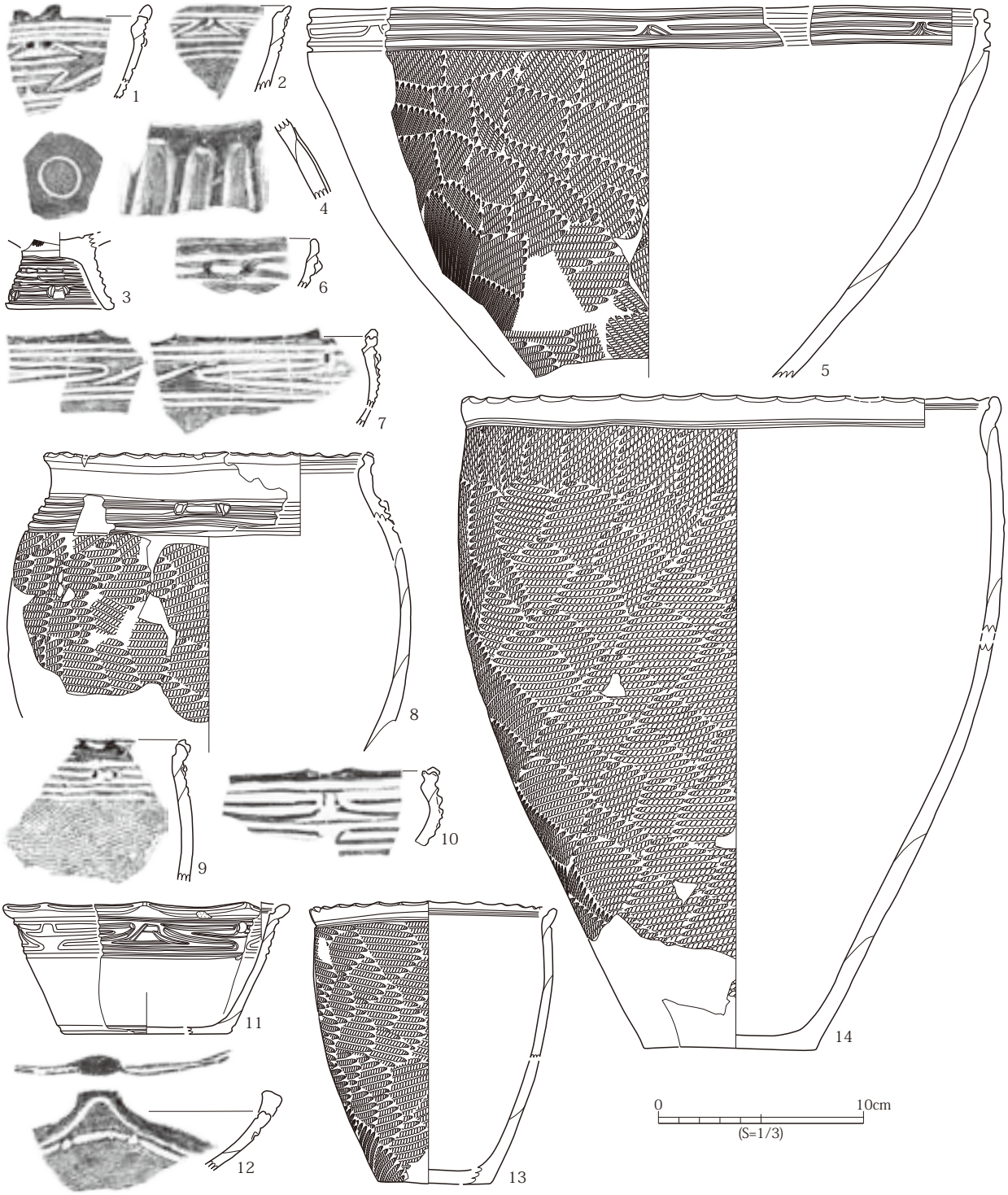
No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	鉢	A1cf	X a+ X I a	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3+ Ⅵ c	平縁。二個一対の小突起 + 口唇部沈線。工字文（陰刻）、変形工字文（祖型）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	101-18	Po1710
2	深鉢	B3c	Ⅸ a+ X I a	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	口径 19.2cm。大波状縁。口唇部沈線。π字文（下向）4 単位、変形工字文（祖型）4 単位、平行沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線。外面赤彩。胎土に海綿骨針を含む	102-11	Po1734
3	鉢	A1d	Ⅸ e	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	平縁。櫛歯状刻目。平行沈線文、π字文（下向）3 段。縄文 LR。口縁部内面沈線	101-16	Po1714
4	鉢	A1	Ⅸ e	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	平縁。π字文（下向）、平行沈線文。口縁部内面沈線。外面赤彩。胎土に海綿骨針を含む	101-15	Po1715
5	深鉢	C1d	X Ⅲ	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	平縁。ヘラ刻目。横位沈線文。縄文 LR	101-17	Po1781
6	深鉢	B2	X Ⅲ	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3+ Ⅵ c1・2	小波状縁。横位沈線文。0 段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	101-10	Po1766
7	深鉢	B2	X Ⅲ	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	102-1	Po1737
8	鉢	C2	X Ⅱ x	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3+ Ⅵ b2	口径（12.2cm）。小波状縁。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	101-13	Po699
9	深鉢	C2	X Ⅱ x	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	小波状縁。平行沈線文。無節縄文 L。口縁部内面沈線	101-14	Po1793

第127図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（42）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	鉢	D1	XIII	VI c3	F-23Fa+Fb / VI c3+ VI c1・2	口径（12.0cm）。平縁。横位沈線文。0 段多条縄文 LR。口縁部内面沈線。内外面・口唇部赤彩	102-2	Po1701
2	台部	-	XII x	VI c3	F-23Fa / VI c3	台部径 7.6cm。平行沈線文。縄文 LR	102-10	Po1744
3	壺	-	XII x	VI c3	F-23Fa+Fb / VI c3+ VI c1・2	口径（9.6cm）。大波状縁。山形突起 8 単位 + 突起間沈線。平行沈線文。口縁部内面沈線	102-3	Po1699
4	浅鉢	C1	XIV b1	VI c3	F-23Eb / VI c3	平縁。縄文 LR。底部ミガキ	102-4	Po1830
5	深鉢	C1	XIV b1	VI c3	F-23Fa / VI c3	平縁。縄文 LR	102-5	Po1730
6	鉢	A1	XV	VI c3	F-23Eb / VI c3	口径（12.5cm）、器高 6.0cm、底径（7.8cm）。平縁。底部ナデ	102-6	Po1829
7	漆容器（四脚付鉢）	-	XV	VI c3	F-23Eb / VI c3	内面赤漆付着	102-7	Po1828
8	深鉢	C1	XV	VI c3	F-23Eb / VI c3	平縁	102-8	Po1807
9	鉢	A1	XV	VI c3	F-23Fa+Fb / VI c3+ VI c1・2	平縁。胎土に海綿骨針を含む	102-9	Po1635
10	鉢	A1df	IV	VI c2	F-23Gb / VI c2	平縁。突起 + ヘラ刻目。平行沈線文、羊歯状文	102-12	Po1570
11	皿	A1cdf	VII b	VI c2	F-23Fb / VI c2	平縁。二個一対の山形突起 + ヘラ刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。口縁部内面沈線	102-14	Po1606
12	深鉢	B1df	XII a1	VI c2	F-23Fa / VI c2	平縁。二個一対の山形突起 + ヘラ刻目。平行沈線文 + 櫛歯状刻目。無節縄文 L。突起・口縁部内面沈線。内外面・口唇部炭化物付着	102-15	Po1618
13	漆容器（鉢）	B1	XIII	VI c2	F-23Ga / VI c2	口径（11.8cm）、最大径（12.6cm）。平縁。横位沈線文。縄文 LR。底部剝落。口縁部内面沈線。内面赤漆付着	102-16	Po1587
14	深鉢	C3d	IX a2	VI c2	F-23Fb+Ga / VI c2+ VI c1	口径 21.3cm、器高 33.2cm、底径 7.3cm。大波状縁。押圧 8 単位 + 口唇部沈線。π 字文（下向）+ 刺突列 8 単位、平行沈線文。縄文 LR。底部ナデ。口縁部内面沈線	103-10	Po1589
15	深鉢	B1cf	IX a	VI c2	F-23Ga+G / VI c2+ VI b2+ VI b1+ VI a	口径(20.8cm)。平縁。山形突起 8 単位 + 突起間沈線。平行沈線文 + 刺突列、π 字文(下向)8 単位。縄文 LR。口縁部内面沈線	102-13	Po1580

第128図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（43）　F-23区E・F・Gグリッド

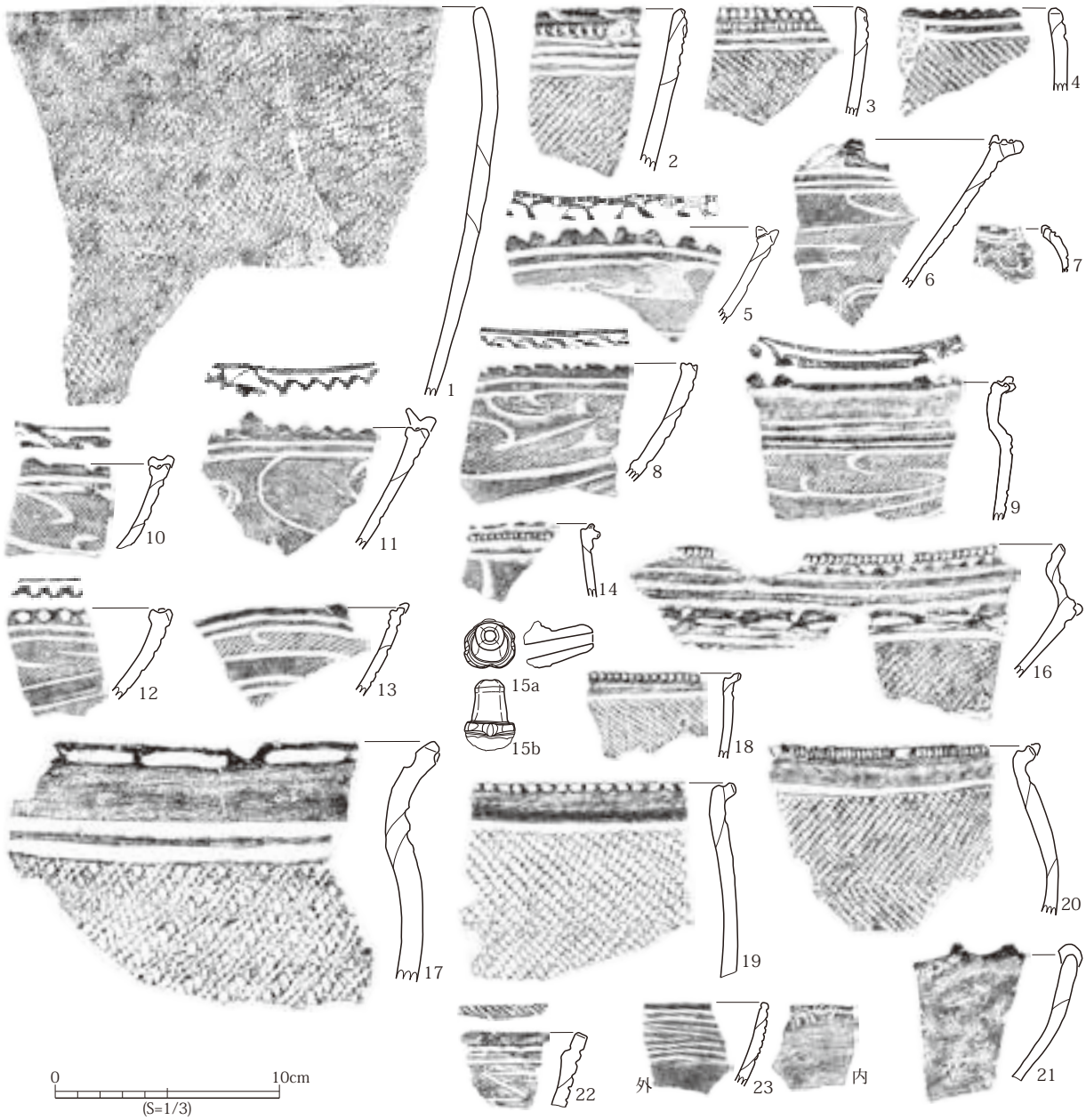


No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1df	Ⅹ c	Ⅵ c2	F-23Fa / Ⅵ c2・3	平縁。二個一対の小突起 + 櫛歯状刻目。平行沈線文、工字文(Z 字状、磨消縄文)+ 二個一対の貼瘤。縄文 RL か。口縁部内面沈線。内面・口唇部炭化物付着	103-1	Po1826
2	鉢	A1c	Ⅹ c	Ⅵ c2	F-23Fb / Ⅵ c2	平縁。口唇部沈線。工字文（Z 字状）、平行沈線文。口縁部内面沈線。内外面・口唇部赤彩	103-2	Po1592
3	台部	-	Ⅸ b	Ⅵ c2	F-23Fa / Ⅵ c2・3	台部径 5.2cm。平行沈線文、π字文（下向 + 上向）2 単位 + 二個一対の貼瘤 4 単位。底部内面に環状沈線	103-11	Po1770
4	壺	-	ⅩⅢ	Ⅵ c2	F-23Gb / Ⅵ c2	横位沈線文、横位の隆帯 + 縦位の隆帯	103-8	Po1571
5	鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ c2	F-23Fb+Ga / Ⅵ c2+ Ⅵ c1	口径（32.8cm）。平縁。π字文（下向）8 単位か。0 段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	103-5	Po1504
6	鉢	A1	Ⅸ c	Ⅵ c2	F-23Ga / Ⅵ c2	平縁。π字文	103-3	Po1585
7	鉢	A1cf	ⅩⅠ a	Ⅵ c2	F-23Fb / Ⅵ c2	平縁。二個一対の小突起 + 口唇部沈線。変形工字文（祖型）、平行沈線文。口縁部内面沈線。内外面赤彩	103-4	Po1593
8	深鉢	C2	Ⅸ b	Ⅵ c2	F-23Ga / Ⅵ c2+ Ⅵ c1	口径（16.0cm）、最大径（19.6cm）。小波状縁。π字文（下向）+ 二個一対の貼瘤、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	103-6	Po1578
9	深鉢	B1cd	Ⅸ b	Ⅵ c2	F-23Fa / Ⅵ c2・3	平縁。押圧 + 口唇部沈線。π字文（下向）+ 二個一対の貼瘤、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	103-7	Po1768
10	鉢	B1cf	Ⅸ e	Ⅵ c2	F-23Fb / Ⅵ c2+ Ⅵ c1	平縁。二個一対の山形突起 + 口唇部沈線。π字文（上下対向）。口縁部内面沈線	103-9	Po1599
11	鉢	B3c	Ⅸ a+ Ⅹ Ⅰ b1	Ⅵ c2	F-23Ga / Ⅵ c2	口径（13.6cm）、器高 6.5cm、、底径（8.0cm）。大波状縁。突起間沈線。π字文（下向）、変形工字文、平行沈線文。底部ミガキ。口縁部内面沈線。補修孔 1	104-4	Po1582
12	Ⅲ	A1ce	Ⅸ a	Ⅵ c2	F-23Fa / Ⅵ c2・3	平縁。山形突起（頂部円盤状突帯）+ 口唇部沈線。π字文（下向）。口縁部内面沈線	104-6	Po1769
13	深鉢	B2	ⅩⅢ	Ⅵ c2	F-23Fa+Fb / Ⅵ c2+ Ⅵ c1・2+ Ⅵ b2	口径 11.9cm、器高 13.9cm、底径（5.4cm）。小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。底部ミガキ。口縁部内面沈線。内外面・口唇部炭化物付着	103-13	Po1604
14	深鉢	B2	ⅩⅢ	Ⅵ c2	F-23Fb+Ga / Ⅵ c2+ Ⅵ a	口径 25.5cm、器高（33.0cm）、底径 9.3cm。小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。底部ナデ。口縁部内面沈線。外面炭化物付着。胎土に海綿骨針を含む	104-17	Po1612

第129図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（44）　F-23区E・F・Gグリッド

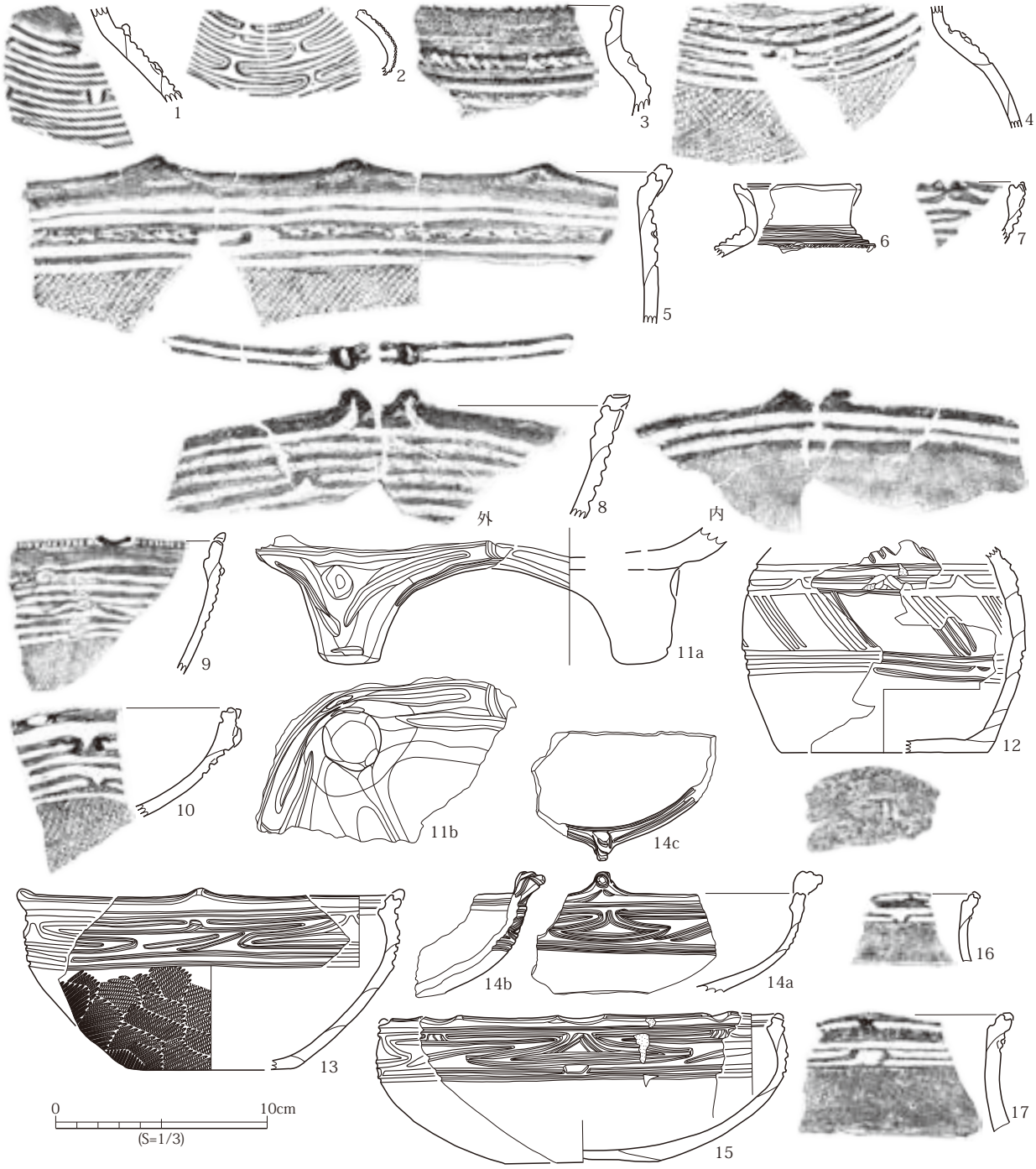
No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	壺	-	ⅩⅡ x	Ⅵ c2	F-23Fb / Ⅵ c2	大波状縁。突起間沈線。平行沈線文。口縁部内面沈線	104-2	Po1598
2	蓋	-	ⅩⅡ x	Ⅵ c2	F-23Ga / Ⅵ c2+ Ⅵ c1	口径（11.0cm）、器高 2.4cm、天井部径 9.2cm。平縁。平行沈線文。天井部ミガキ	103-12	Po1619
3	深鉢	B2	ⅩⅢ	Ⅵ c2	F-23Ga / Ⅵ c2	小波状縁。横位沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	104-3	Po1591
4	深鉢	A1	ⅩⅣ a1	Ⅵ c2	F-23Fa / Ⅵ c2+ Ⅵ c	口径（30.0cm）。平縁。直前段多条縄文 LR	106-1	Po1617
5	深鉢	A1	ⅩⅣ b1	Ⅵ c2	F-23Ga / Ⅵ c2	口径 19.3cm、器高 24.3cm、底径 7.0cm。平縁。縄文 RL。底部ナデ	105-1	Po1586
6	深鉢	A1	ⅩⅣ a1	Ⅵ c2	F-23Fa+Fb+Ga / Ⅵ c2+ Ⅵ c1・2	口径 22.2cm、器高 30.2cm、底径 8.8cm。平縁。直前段多条縄文 LR。底部ナデ	105-2	Po1656

第130図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（45）　F-23区E・F・Gグリッド



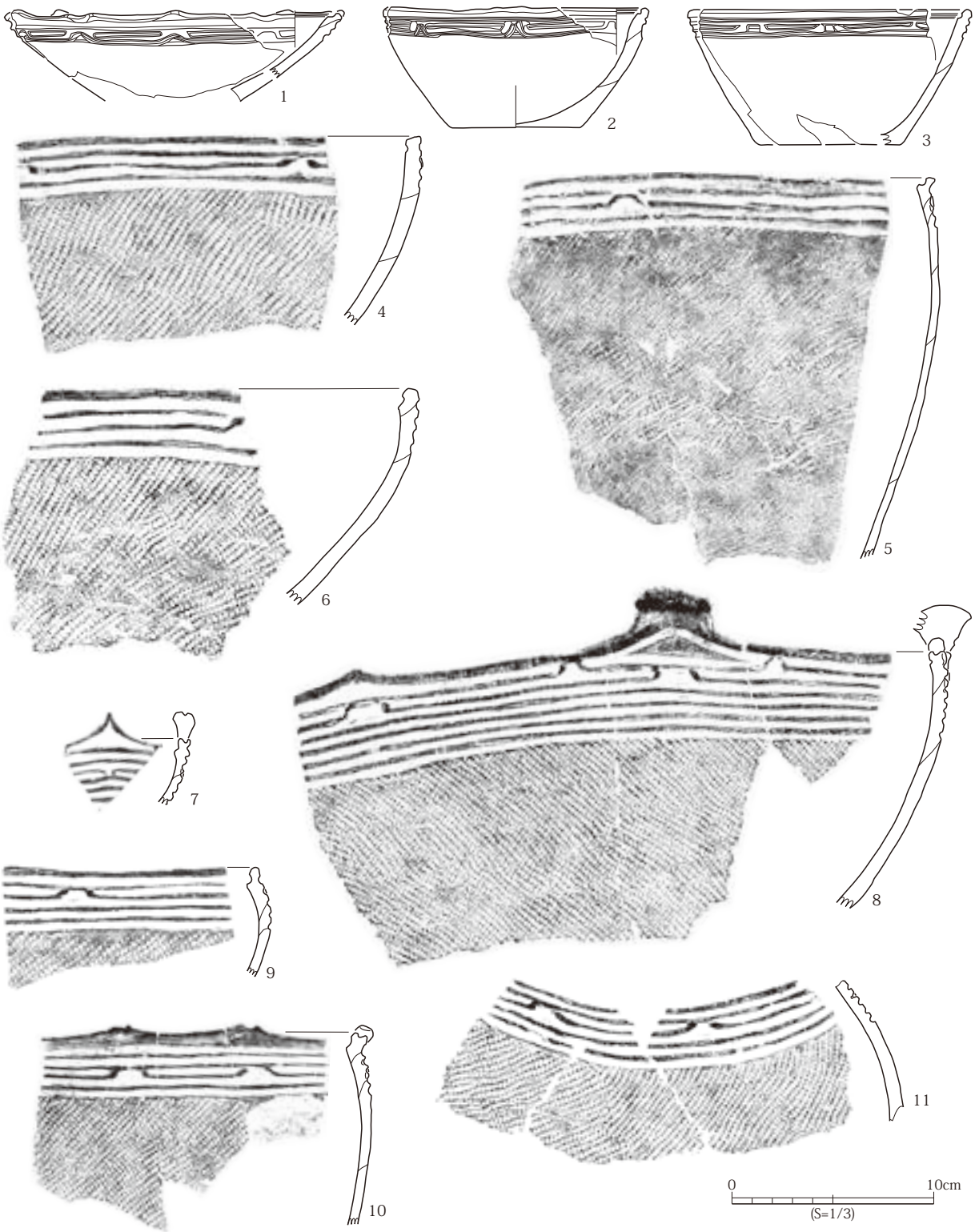
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1	XIV a1	VI c2	F-23Fb / VI c2+ VI b1	平縁。縄文 LR。外面炭化物付着	104-1	Po1614
2	深鉢	A1cd	V	VI c1	F-23Gb / VI c1	平縁。弧状の短沈線文 + ヘラ刻目。列点文。縄文 LR	104-8	Po1445
3	深鉢	A1d	X II b1	VI c1	F-23Fa / VI c1・2	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文 + 刺突列。縄文 RL	104-7	Po1638
4	深鉢	A1d	X II x	VI c	F-23Fa / VI c	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。0 段多条縄文 RL	104-5	Po1568
5	皿	A1bdf	VII a	VI c1	F-23Fb-Gb / VI c1	平縁。二個一対の小突起 + 羊歯状浮線文 + ヘラ刻目。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR	104-10	Po1455
6	鉢	A1bf	VII a	VI c1	F-23Fa / VI c1・2	平縁。二個一対の小突起 + 波状浮線文。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	104-9	Po1642
7	袖珍土器壺	A1df	VII a	VI c1	F-23Fb / VI c1	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。平行沈線文、雲形文（浮彫表現）	104-13	Po3936
8	皿	A1bc	VII a	VI c	F-23E / VI c	平縁。弧状の短沈線文 + 波状浮線文。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR。体部下半内面隆帯 + 充填縄文 LR。内外面・口唇部赤彩	104-14	Po2236
9	鉢	C1cf	VII b	VI c1	F-23Fa / VI c1・2	平縁。二個一対の小突起 + 口唇部沈線。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	104-15	Po1685
10	皿	A1cdf	VII b	VI c1	F-23Fa / VI c1・2	平縁。山形突起 + ヘラ刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。0 段多条縄文 RL。口縁部内面沈線。内外面・口唇部赤彩	104-11	Po1628
11	皿	A1bdf	VII b	VI c1	F-23Fa / VI c1・2	平縁。山形突起 + ヘラ刻目 + 波状浮線文。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。突起部内面に三角形状の彫り込み。胎土に海綿骨針を含む	104-16	Po1632
12	皿	A1bd	VII b	VI c1	F-23Fb / VI c1	平縁。ヘラ刻目 + 波状浮線文。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。無節縄文 L	104-12	Po1532
13	浅鉢	A1cf	VII b	VI c1	F-23Ga / VI c1	平縁。二個一対の小突起 + 口唇部沈線。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。口縁部内面平行沈線文。胎土に海綿骨針を含む	105-3	Po1462
14	注口土器	-	VII a	VI c1	F-23Fa / VI c1・2	平縁。口唇部平行沈線文 + ヘラ刻目。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR	105-4	Po1832
15	注口土器	-	-	VI c1	F-23Fa / VI c1・2	注口部の付け根付近に平行沈線文 + 隆帯 + ヘラ刻目	105-5	Po1627
16	鉢	B1d	VIII	VI c1	F-23Fa / VI c1・2	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文、メガネ状浮文。縄文 LR。口縁部内面沈線	105-7	Po1659
17	深鉢	C1d	VIII	VI c1	F-23Fa / VI c1・2	平縁。押圧。メガネ状浮文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	105-8	Po1672
18	深鉢	B1cd	X III	VI c1	F-23Ga / VI c1	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。横位沈線文。縄文 RL	105-6	Po1507
19	深鉢	B1cd	X III	VI c1	F-23Ga / VI c1	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。横位沈線文。羽状縄文 RL/LR	105-9	Po1498
20	深鉢	B1cdf	X III	VI c1	F-23Fa / VI c1・2	平縁。二個一対の山形突起 + 櫛歯状刻目 + 口唇部沈線。横位沈線文。羽状縄文 LR/RL	105-10	Po1688
21	浅鉢	A1f	X V	VI c1	F-23Fb / VI c1	平縁。二個一対の山形突起	105-12	Po1545
22	鉢	A1d	X c	VI c1	F-23Fa / VI c1・2	平縁。櫛歯状刻目。平行沈線文、工字文（Z 字状）。口縁部内面沈線	105-13	Po1682
23	浅鉢	A1	X ?	VI c1	F-23Fa / VI c1・2	平縁。平行沈線文、工字文か。口縁部内面沈線	105-11	Po1630

第131図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（46）　F-23区E・F・Gグリッド



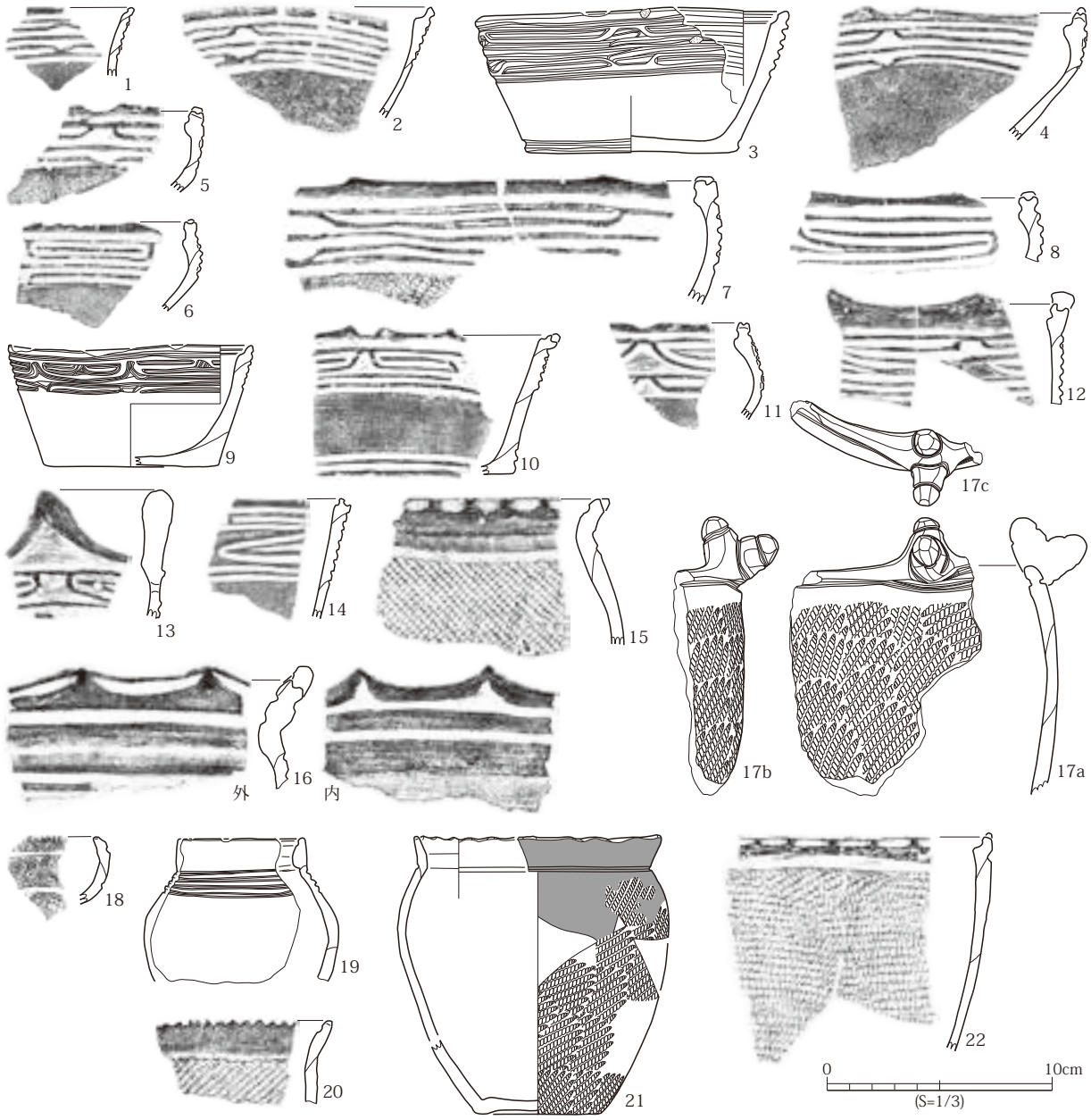
No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	壺	-	X a	Ⅵ c	F-23E / Ⅵ c	入組工字文（最上部に二個一対の貼瘤、陰刻）	107-1	Po1696
2	壺	-	Ⅸ a+ Ⅸ a2+ X a	Ⅵ c	F-23E / Ⅵ c+ Ⅵ b2	π字文（下向）+ 刺突列、π字文（下向）、工字文（陰刻）3段、平行沈線文	107-2	Po1082
3	深鉢	C1d	X Ⅱ b2	Ⅵ c1	F-23Fa / Ⅵ c1・2	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文 + 刺突列（π字状の表現あり）。口縁部内面沈線	107-5	Po1631
4	壺	-	Ⅸ a	Ⅵ c1	F-23Fa / Ⅵ c1・2	平行沈線文 + 刺突列、π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。外面赤彩	107-9	Po1677
5	深鉢	B1cf	Ⅸ a2	Ⅵ c1	F-23Fb / Ⅵ c1+ Ⅵ b1	平縁。山形突起 + 口唇部沈線。平行沈線文、π字文（下向）+ 刺突列。縄文 LR。口縁部内面沈線	107-3	Po1510
6	壺	C1c	Ⅸ d	Ⅵ c1	F-23Fa / Ⅵ c1・2	口径（6.0cm）。平縁。平行沈線文、π字文（下向）+ 刺突列。口縁部内面沈線	107-4	Po1626
7	浅鉢	A1cf	Ⅸ a	Ⅵ c1	F-23Fa / Ⅵ c1	平縁。二個一対の小突起 + 口唇部沈線。π字文（下向）2段、平行沈線文。口縁部内面沈線。外面赤彩	107-6	Po1563
8	鉢	A1cf	Ⅸ a	Ⅵ c1	F-23E+Fb / Ⅵ c1	平縁。二個一対の山形突起（頂部刻み）+ 突起間沈線。平行沈線文、π字文（下向）。口縁部内面平行沈線文。胎土に海綿骨針を含む	107-7	Po1541
9	鉢	C1df	Ⅸ b	Ⅵ c1	F-23Fa / Ⅵ c1・2	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。π字文（上向）+ 二個一対の貼瘤、平行沈線文。縄文 RL。口縁部内面沈線	107-10	Po1686
10	皿	A1cf	Ⅸ a+ Ⅸ b	Ⅵ c	F-23E / Ⅵ c	平縁。二個一対の山形突起 + 口唇部沈線。π字文（上向）+ 二個一対の貼瘤、平行沈線文、π字文（上向）。縄文 LR。口縁部内面沈線	107-11	Po2232
11	脚部	-	X a	Ⅵ c1	F-23Fb / Ⅵ c1	底径（18.5cm）。工字文（陰刻）4 単位、円文 4 単位。底部に十字状の隆帯	107-8	Po1552
12	壺	-	Ⅸ a	Ⅵ c1	F-23F+Ga / Ⅵ c1+ Ⅵ b2+ Ⅵ a	最大径（13.3cm）、底径（9.7cm）。π字文（下向）、斜位の平行沈線文、平行沈線文。底部網代痕→ミガキ	107-20	Po616
13	浅鉢	A1cf	Ⅸ a+ X Ⅰ a	Ⅵ c1	F-23Fa / Ⅵ c1・2	口径（18.0cm）、器高 8.8cm、底径（8.0cm）。平縁。山形突起 4 単位 + 口唇部沈線。π字文（下向）4 単位、変形工字文（祖型）4 単位、π字文（上向）4 単位。縄文 LR。底部ミガキ。口縁部内面沈線	106-2	Po1663
14	台付浅鉢	A1ce	X Ⅰ a	Ⅵ c1	F-23Fa / Ⅵ c1・2	平縁。山形突起（装飾的な突帯）+ 口唇部沈線。変形工字文（祖型）、平行沈線文。突起・口縁部内面沈線。内外面・口唇部赤彩	107-12	Po1636
15	浅鉢	B1cd	Ⅸ a+ X Ⅰ a	Ⅵ c1	F-23Fa / Ⅵ c1・2+ Ⅵ b2	口径（18.4cm）、器高 7.0cm、、底径（7.2cm）。平縁。口唇部沈線 + 押圧 8 単位。π字文（下向）4 単位、変形工字文（祖型）4 単位、π字文（上向）4 単位。底部ミガキ。口縁部内面沈線	106-3	Po1655
16	壺	-	Ⅸ a	Ⅵ c1	F-23Fa / Ⅵ c1・2	平縁。山形突起 + 突起間沈線。π字文（上向）。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	107-15	Po1647
17	壺	-	Ⅸ a	Ⅵ c1	F-23Fa / Ⅵ c1・2	平縁。山形突起 + 突起間沈線。π字文（下向）。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	107-13	Po1691

第132図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（47）　F-23区E・F・Gグリッド



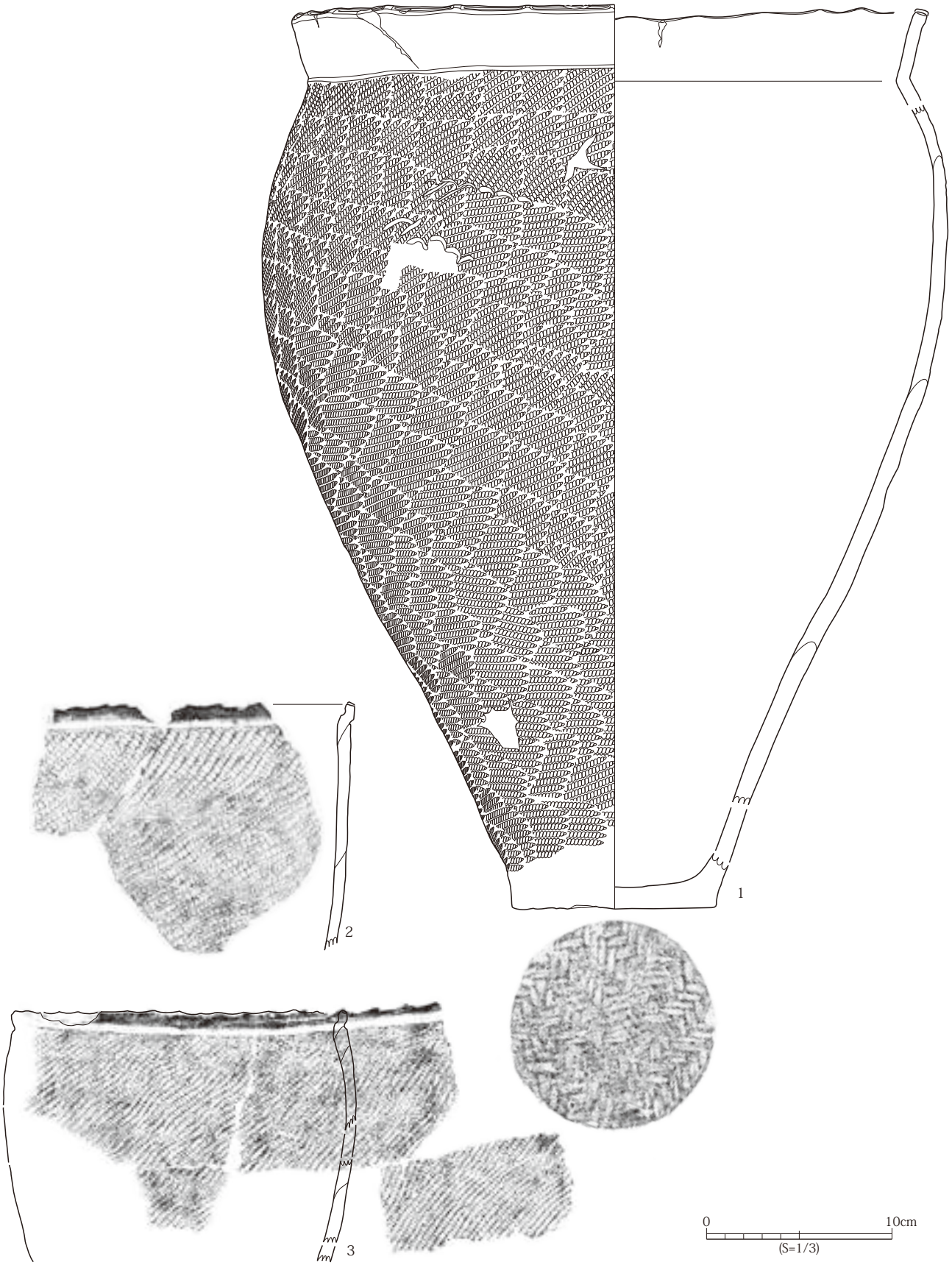
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	浅鉢	A1f	Ⅸ a	Ⅵ c1	F-23Fb / Ⅵ c1+ Ⅵ a	口径（16.2cm）。平縁。山形突起 5 単位 + 二個一対の山形突起 5 単位。π字文（下向）10 単位。口縁部内面沈線	107-21	Po1514
2	鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ c1	F-23Fb / Ⅵ c1	口径(12.8cm)、器高 6.1cm、底径 6.2cm。平縁。π字文(下向)8 単位。底部ミガキ。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	108-25	Po1554
3	鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ c1	F-23Fa / Ⅵ c1・2	口径（13.8cm）、器高 6.8cm、底径（7.0cm）。平縁。π字文（下向）9 単位。底部ナデ。口縁部内面沈線	108-26	Po1675
4	鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ c1	F-23Gb / Ⅵ c1	平縁。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	107-14	Po1446
5	深鉢	B1	Ⅸ a	Ⅵ c1	F-23Ga / Ⅵ c1	平縁。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	107-19	Po1458
6	鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ c1	F-23Ga / Ⅵ c1	平縁。π字文（下向）、平行沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	107-17	Po1483
7	浅鉢	A1ce	Ⅸ a	Ⅵ c1	F-23Fa / Ⅵ c1	平縁。山形突起 + 口唇部沈線。平行沈線文、π字文（上向）。口縁部内面沈線	107-16	Po1560
8	鉢	A1cef	Ⅸ a	Ⅵ c1	F-23Fb / Ⅵ c1	平縁。方形突起（頂部円盤状突帯）+ 山形突起 + 突起間沈線。大突起の左右にπ字文（下向）、π字文（下向）、平行沈線文。縄文 RL。口縁部内面沈線	108-6	Po1556
9	鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ c1	F-23Ga / Ⅵ c1	平縁。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	107-18	Po1494
10	深鉢	B3cd	Ⅸ a	Ⅵ c1	F-23Fb+Ga / Ⅵ c1	大波状縁。突起頂部刻み + 突起間沈線。平行沈線文 + 刺突列、π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。内外面赤彩	108-1	Po1530
11	深鉢	-	Ⅸ a2	Ⅵ c1	F-23Fb / Ⅵ c1	平行沈線文、π字文（下向）+ 刺突列。縄文 LR	108-2	Po1520

第133図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（48）　F-23区E・F・Gグリッド



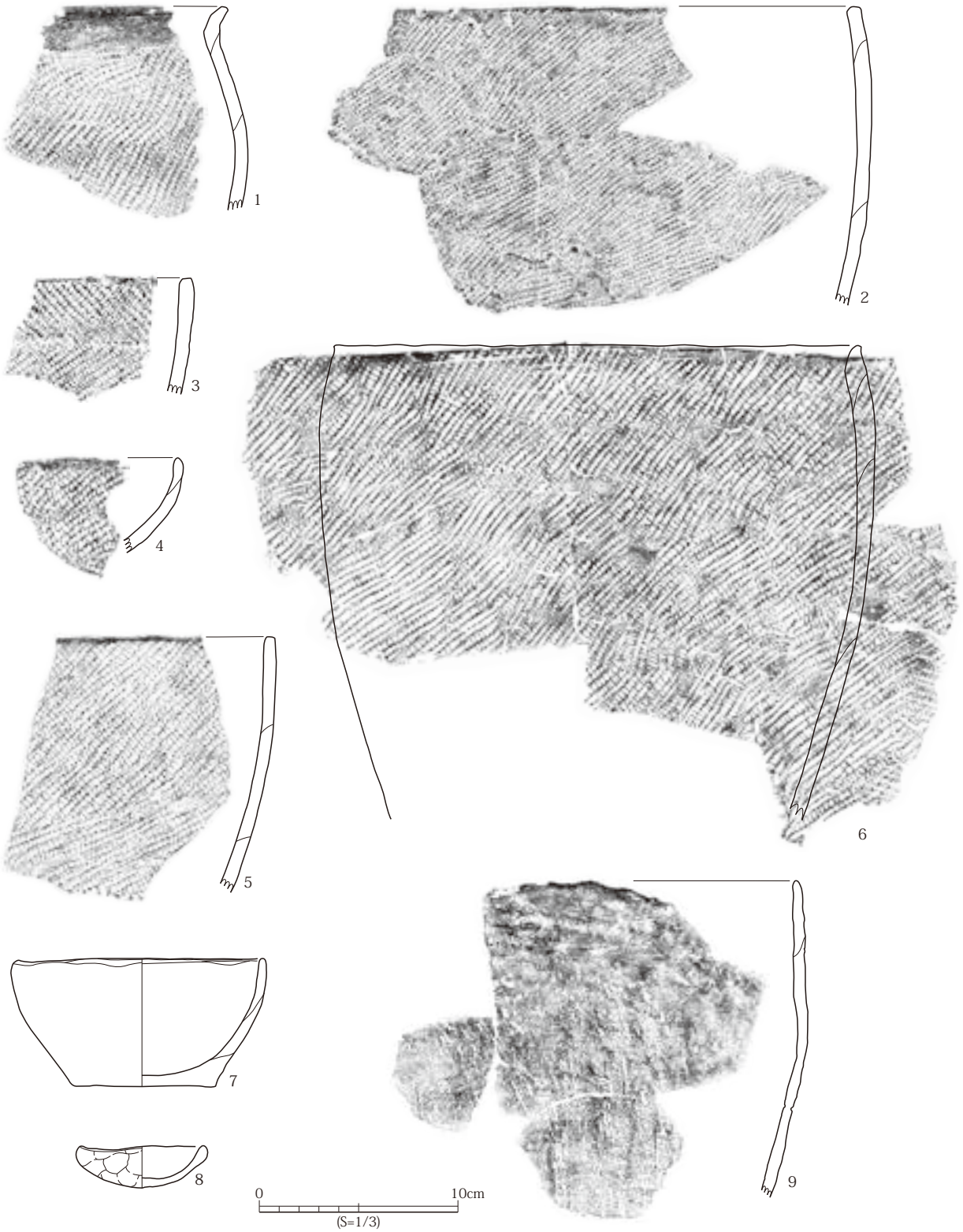
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	浅鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ c1	F-23Ga / Ⅵ c1	平縁。π字文（上下対向）。口縁部内面沈線。外面赤彩	108-4	Po1459
2	鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ c1	F-23Ga / Ⅵ c1	平縁。π字文（上下対向）。口縁部内面沈線	108-7	Po1495
3	鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ c1	F-23Fb / Ⅵ c1	口径（13.4cm）、器高 6.2cm、底径 9.5cm。平縁。π字文（上下対向）5 単位、底部付近に横位沈線文。底部ミガキ、かるい上げ底。口縁部内面沈線	108-27	Po1513
4	浅鉢	A1cf	Ⅸ a	Ⅵ c1	F-23Ga / Ⅵ c1	平縁。二個一対の山形突起＋口唇部沈線。π字文（上下対向）。口縁部内面沈線	108-3	Po1487
5	浅鉢	A1cd	Ⅸ a	Ⅵ c1	F-23Ga / Ⅵ c1	平縁。口唇部沈線＋押圧。π字文（上下対向）。口縁部内面沈線。外面赤彩	108-5	Po1477
6	浅鉢	B1cd	Ⅸ e	Ⅵ c1	F-23Ga / Ⅵ c1	平縁。口唇部沈線＋押圧。π字文（上下対向）。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	108-8	Po1478
7	鉢	A1cd	Ⅸ a	Ⅵ c1	F-23Ga+G / Ⅵ c1+ Ⅵ a	平縁。押圧＋口唇部沈線。π字文（上下対向）。縄文 LR。口縁部内面沈線	108-9	Po1500
8	鉢	A1cf	Ⅸ a+ Ⅹ Ⅰ b1	Ⅵ c1	F-23Fa+Gb / Ⅵ c1・2+ Ⅵ b1	平縁。二個一対の山形突起＋口唇部沈線。変形工字文、π字文（上向）。口縁部内面沈線	108-10	Po1651
9	鉢	A1c	Ⅸ a	Ⅵ c1	F-23(Fb-Gb)+Gb / Ⅵ c1+ Ⅵ b2	口径（10.8cm）、器高 5.5cm、底径（7.8cm）。平縁。口唇部沈線。π字文（下向）8 単位、π字文（上下対向）8 単位。底部ミガキ	108-28	Po1456
10	浅鉢	B1cf	Ⅹ Ⅰ b1	Ⅵ c1	F-23Ga / Ⅵ c1	平縁。二個一対の山形突起＋口唇部沈線。変形工字文、平行沈線文、底部付近に平行沈線文。底部ミガキ。口縁部内面沈線	108-15	Po1490
11	鉢	A1cd	Ⅸ a+ Ⅸ e	Ⅵ c1	F-23Gb / Ⅵ c1	平縁。押圧＋口唇部沈線。π字文（下向）。口縁部内面沈線	108-11	Po1439
12	深鉢	C1ce	Ⅸ a+ Ⅹ Ⅰ b1	Ⅵ c1	F-23Fb / Ⅵ c1	平縁。山形突起＋突起間沈線。π字文（下向）、変形工字文、平行沈線文。口縁部内面沈線	108-12	Po1526
13	鉢	A1ce	Ⅹ Ⅰ b1	Ⅵ c1	F-23Fa / Ⅵ c1・2	平縁。山形突起＋突起間沈線。変形工字文、平行沈線文、貫通孔 2。突起・口縁部内面沈線	108-16	Po1669
14	鉢	A1c	Ⅸ a+ Ⅹ Ⅰ b1	Ⅵ c1	F-23Fb / Ⅵ c1	平縁。口唇部沈線。π字文（下向）、変形工字文、平行沈線文。口縁部内面沈線。外面赤彩	108-17	Po1512
15	深鉢	B2	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ c1	F-23Fb / Ⅵ c1	小波状縁。平行沈線文。縄文 RL。口縁部内面沈線	108-19	Po1511
16	鉢	B1cf	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ c1	F-23Fa / Ⅵ c1・2	平縁。山形突起＋突起間沈線。平行沈線文。口縁部内面平行沈線文	108-18	Po1673
17	深鉢	A1e	Ⅹ Ⅲ	Ⅵ c1	F-23Ga / Ⅵ c1	平縁。装飾的な突起（半球状の突帯＋環状沈線、円錐状の突帯＋環状の平行沈線文）。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	108-22	Po1486
18	袖珍土器鉢	A1d	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ c1	F-23Fa / Ⅵ c1・2	平縁。櫛歯状刻目。横位沈線文、底部付近に横位沈線文。底部ナデ	108-21	Po3935
19	壺	E1	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ c1	F-23Fa / Ⅵ c1・2	口径（5.6cm）、最大径（8.1cm）。平縁。平行沈線文。口縁部内面沈線	108-20	Po1662
20	深鉢	C1d	ⅩⅣ b1	Ⅵ c1	F-23Fb / Ⅵ c1	平縁。ヘラ刻目。縄文 LR。口縁部内面沈線。内外面炭化物付着	108-23	Po1518
21	深鉢	C2	Ⅹ Ⅲ	Ⅵ c1	F-23Ga / Ⅵ c1	口径（10.8cm）、器高 12.5cm、最大径（12.1cm）、底径 5.6cm。小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。底部木葉痕。内外面炭化物付着	108-24	Po1480
22	深鉢	A1	Ⅹ Ⅲ	Ⅵ c1	F-23Ga / Ⅵ c1	平縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	108-14	Po1485

第134図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（49）　F-23区E・F・Gグリッド



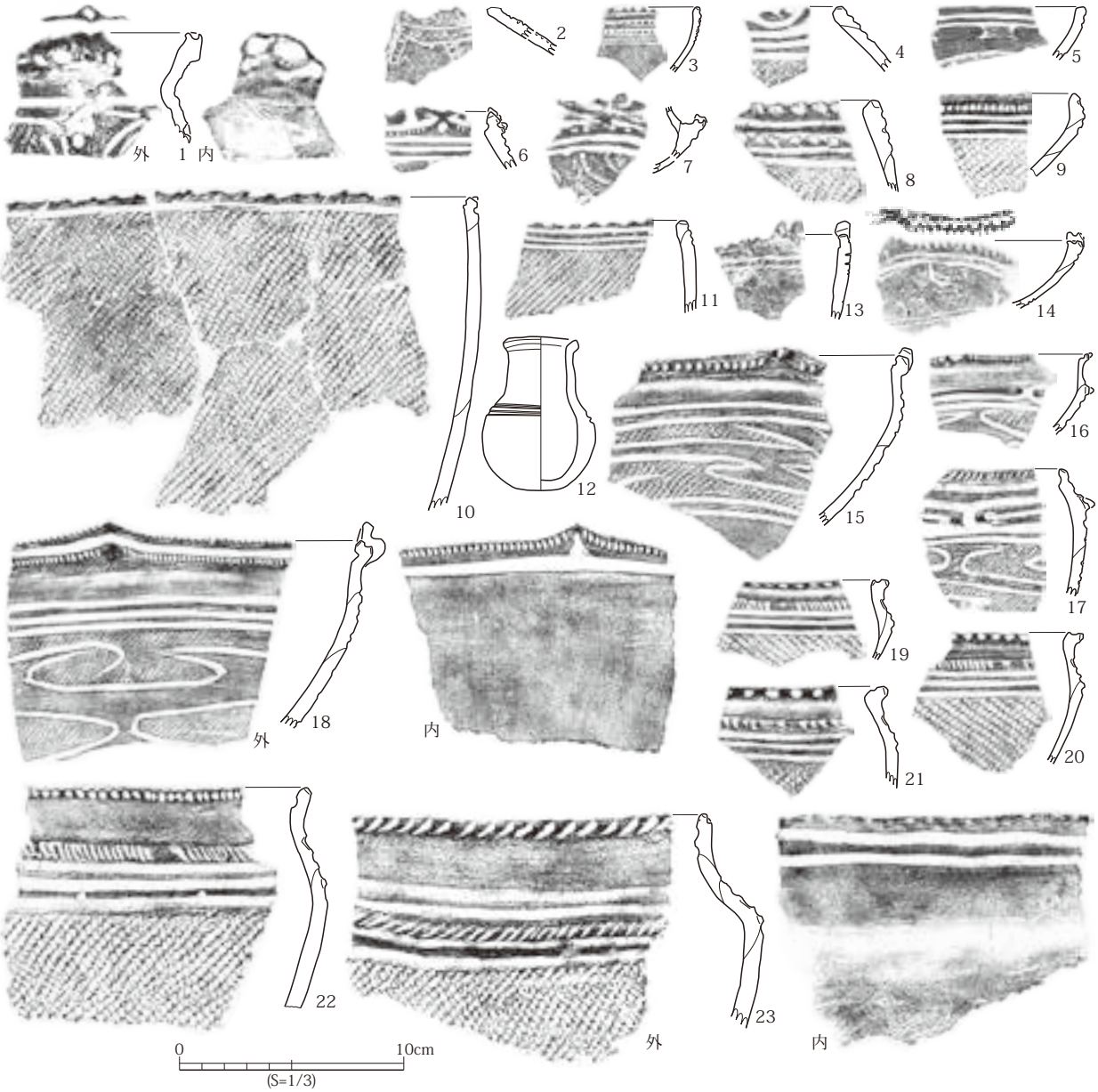
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	B2	XⅢ	Ⅵc1	F-23Fb+(Fa-Fb)+F / Ⅵc1+ Ⅵb2+ Ⅵa	口径 34.2cm、器高 48.6cm、最大径 36.6cm、底径 10.9cm。大波状縁。横位沈線文。縄文 LR。底部網代痕。胎土に海綿骨針を含む	109-1	Po100
2	深鉢	B2	XⅢ	Ⅵc1	F-23Fb+Ga / Ⅵc1+ Ⅵb1	小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	108-13	Po1501
3	深鉢	B2	XⅢ	Ⅵc1	F-23Fb / Ⅵc1+ Ⅵb1	口径 17.5cm。小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	107-22	Po552

第135図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（50）　F-23区E・F・Gグリッド



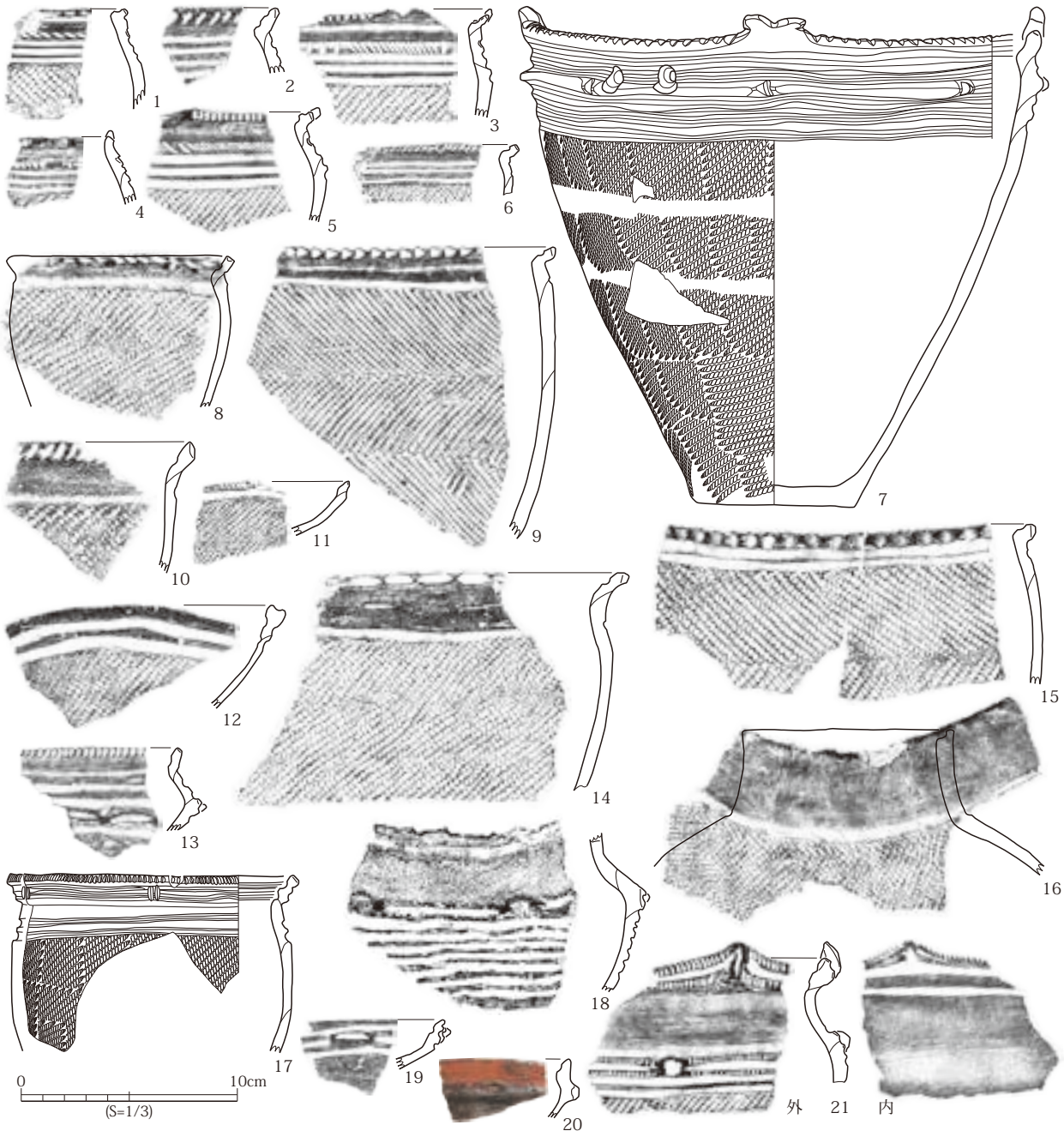
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	C1	XⅢ	Ⅵc1	F-23Fb / Ⅵc1	平縁。縄文 LR	110-9	Po1555
2	深鉢	A1	XⅣa1	Ⅵc1	F-23Fa+Fb+(Fa-Ga)+F / Ⅵc1・2+ Ⅵb1+ Ⅵa+ 排土	平縁。直前段多条縄文 LR。外面炭化物付着	110-7	Po1842
3	深鉢	A1	XⅣa2	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	平縁。羽状縄文 RL/LR	110-8	Po1650
4	浅鉢	A1	XⅣa1	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	平縁。縄文 LR	110-3	Po1653
5	深鉢	A1	XⅣa1	Ⅵc1	F-23Fb / Ⅵc1	平縁。縄文 LR	110-6	Po1549
6	深鉢	A1	XⅣa1	Ⅵc1	F-23Ga / Ⅵc1	口径（26.4cm）。平縁。直前段多条縄文 LR。内外面炭化物付着	110-1	Po1484
7	鉢	A1	XⅤ	Ⅵc1	F-23Ga / Ⅵc1	口径（12.3cm）、器高 6.3cm、底径 7.5cm。平縁。底部ミガキ	110-2	Po1509
8	袖珍土器皿	A1	XⅤ	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	口径（6.2cm）、器高 2.9cm。平縁。丸底ナデ	110-4	Po1646
9	深鉢	A1	XⅤ	Ⅵc1	F-23Gb / Ⅵc1	平縁	110-5	Po1444

第136図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（51）　F-23区E・F・Gグリッド



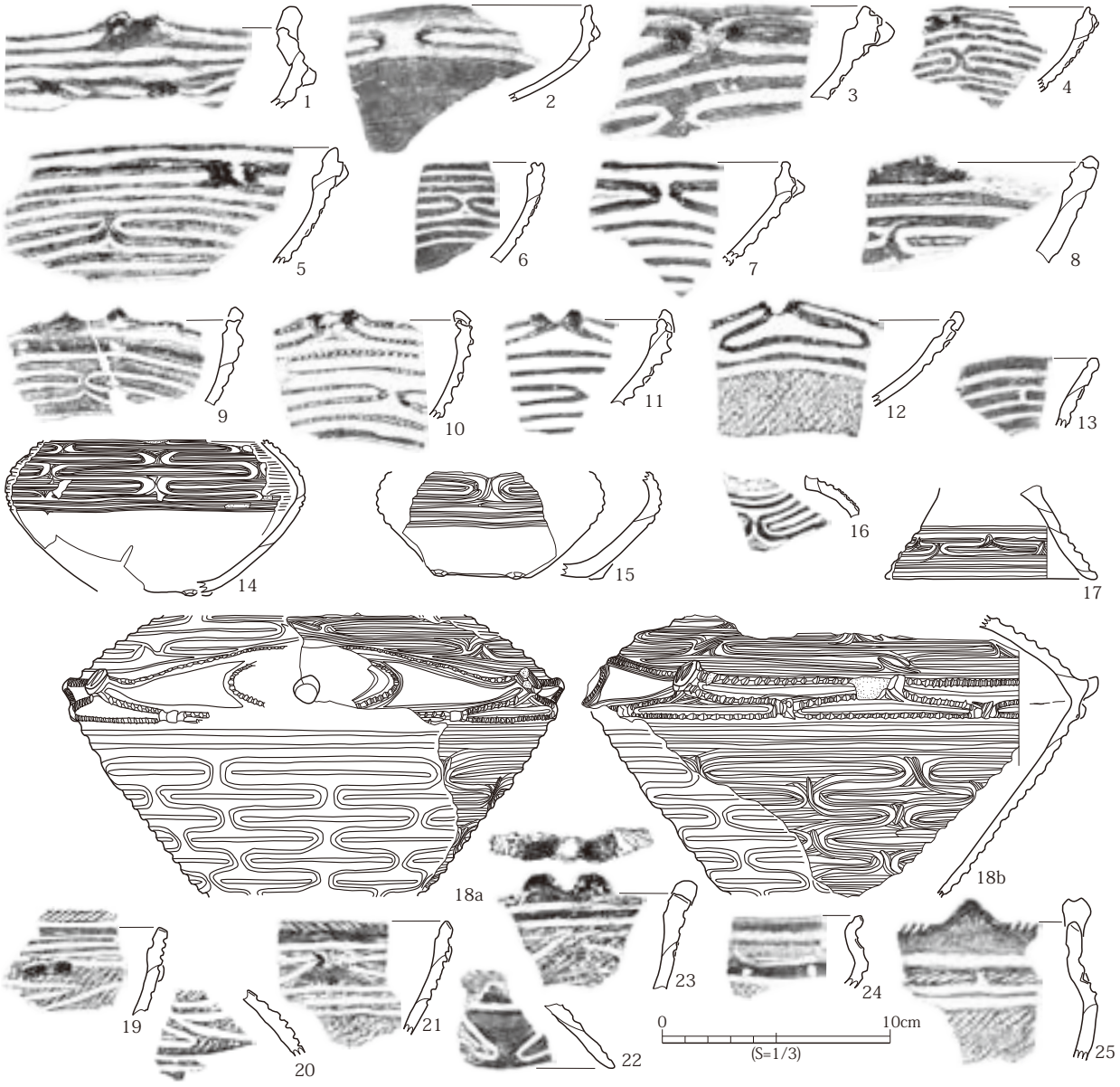
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	B1e	-	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	平縁。装飾的な突起（頂部刺突 + 環状把手 + 盲孔 2）。平行沈線文、弧状の平行沈線文、盲孔 2。縄文 LR。突起内面に盲孔 1	110-10	Po833
2	壺	-	Ⅹ Ⅱ b1	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	平行沈線文 + 刺突列、縦位の方形区画文 + 刺突列	110-13	Po767
3	鉢	A1df	Ⅳ	Ⅵ b2	F-23Gb / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目。羊歯状文、平行沈線文。0 段多条縄文 LR	110-22	Po610
4	鉢	A1cd	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ b2	F-23E / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目 + 弧状の短沈線文。平行沈線文。縄文 LR	110-14	Po1096
5	皿	A1	Ⅶ a	Ⅵ b2	F-23Fa / Ⅵ b2	平縁。平行沈線文、雲形文（浮彫表現）。内外面赤彩	110-15	Po671
6	鉢	A1d	Ⅶ a	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目。羊歯状の浮線文 + ヘラ刻目、平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 RL。口縁部内面沈線	110-23	Po729
7	注口土器	-	Ⅶ a	Ⅵ b2	F-23E / Ⅵ b2	透かし彫りを伴う雲形文か、平行沈線文、山形突起 + ヘラ刻目 + 横位沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR	110-24	Po1075
8	深鉢	A1d	Ⅹ Ⅱ b1	Ⅵ b2	F-23Fa / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文 + 刺突列。縄文 LR	110-11	Po657
9	鉢	A1	Ⅹ Ⅱ b1	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	平縁。平行沈線文 + 刺突列。縄文 LR	110-12	Po830
10	深鉢	A2	Ⅹ Ⅲ	Ⅵ b2	F-23Fb / Ⅵ b2	小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	110-28	Po647
11	深鉢	A1	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR	110-17	Po844
12	袖珍土器壺	D1	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ b2	F-23E / Ⅵ b2	口径 3.5cm、器高 6.9cm、最大径 5.1cm、底径 1.8cm。平縁。平行沈線文。底部ミガキ	110-21	Po1835
13	袖珍土器鉢	A1df	Ⅶ b	Ⅵ b2	F-23Fa / Ⅵ b2	平縁。山形突起（頂部刻み）+ 櫛歯状刻目。平行沈線文、雲形文（沈線表現）。口縁部内面沈線	110-20	Po676
14	皿	A1bdf	Ⅶ b	Ⅵ b2	F-23Fa / Ⅵ b2	平縁。山形突起 + ヘラ刻目 + 波状浮線文。平行沈線文、雲形文（沈線表現）	110-18	Po691
15	浅鉢	B1cdf	Ⅶ b	Ⅵ b2	F-23Fa / Ⅵ b2	平縁。山形突起（頂部刻み）+ ヘラ刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。口縁部内面沈線	110-27	Po695
16	鉢	C1cdf	Ⅶ b+ Ⅷ	Ⅵ b2	F-23Fa / Ⅵ b2	平縁。二個一対の山形突起 + ヘラ刻目 + 口唇部沈線。メガネ状浮文 + 二個一対の貼瘤、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。外面・口唇部炭化物付着	110-19	Po669
17	鉢	A1d	Ⅶ b+ Ⅷ	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	平縁。櫛歯状刻目。メガネ状浮文 + 二個一対の貼瘤、平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	110-25	Po773
18	鉢	C1cdf	Ⅶ b	Ⅵ b2	F-23Gb / Ⅵ b2	平縁。山形突起 + 櫛歯状刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。口縁部内面沈線	110-26	Po589
19	鉢	B1cd	Ⅹ Ⅱ a2	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。櫛歯状刻目（π字状の表現か）、平行沈線文。縄文 RL。胎土に海綿骨針を含む	111-3	Po937
20	鉢	B1cd	Ⅹ Ⅱ a2	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文 + 櫛歯状刻目（π字状の刻みあり）。縄文 RL	111-4	Po726
21	深鉢	B1cd	Ⅹ Ⅱ b2	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文 + 刺突列（π字状の凸部あり）。無節縄文 L	110-16	Po779
22	深鉢	C1d	Ⅹ Ⅱ a2+ Ⅹ Ⅱ a3	Ⅵ b2	F-23Fa / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文 + 櫛歯状刻目（π字状の刻みあり）+ ヘラ刻目（工字状の表現）。縄文 LR。口縁部内面沈線	111-8	Po684
23	深鉢	C1d	Ⅹ Ⅱ a1+ Ⅹ Ⅱ a3	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文 + 櫛歯状刻目 + ヘラ刻目（工字状の表現）。縄文 LR。口縁部内面平行沈線文	111-12	Po936

第137図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（52）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	B1cd	XⅡ a1	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文 + 櫛歯状刻目。縄文 RL	111-16	Po822
2	深鉢	B1d	XⅡ x	Ⅵ b2	F-23Fa / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。口縁部内面平行沈線文。内面炭化物付着	111-18	Po663
3	深鉢	B1cdf	XⅡ a2	Ⅵ b2	F-23E / Ⅵ b2	平縁。二個一対の山形突起 + ヘラ刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文 + 櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文 LR	111-1	Po1063
4	深鉢	C1d	XⅡ a2	Ⅵ b2	F-23E / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文 + 櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文 LR	111-19	Po1046
5	深鉢	B1df	XⅡ a2	Ⅵ b2	F-23F / Ⅵ b2	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文 + 櫛歯状刻目（π字状の刻みあり）。縄文 LR。口縁部内面沈線	111-2	Po721
6	鉢	B1co	XⅡ x	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	平縁。端部に無節縄文 L+ 口唇部沈線。平行沈線文。縄文 LR	111-21	Po911
7	深鉢	A1df	XⅡ e	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	口径 24.0cm、器高 21.7cm、底径 7.9cm。平縁。二個一対の円形突起 4 単位 + ヘラ刻目。平行沈線文 + 貼瘤 8 単位。縄文 LR。底部ミガキ。口縁部内面沈線。補修孔 2	111-24	Po848
8	深鉢	B1d	XⅢ	Ⅵ b2	F-23Ga / Ⅵ b2	口径（10.0cm）。平縁。刺突列。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	111-13	Po626
9	深鉢	B1cd	XⅢ	Ⅵ b2	F-23E / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。横位沈線文。羽状縄文 RL/LR	111-7	Po1069
10	深鉢	C1d	XⅢ	Ⅵ b2	F-23Fa / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	111-5	Po662
11	浅鉢	A1d	XⅢ	Ⅵ b2	F-23E / Ⅵ b2	平縁。櫛歯状刻目。横位沈線文。縄文 LR	111-17	Po1058
12	浅鉢	A1c	XⅡ x	Ⅵ b2	F-23E / Ⅵ b2	平縁。口唇部沈線。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面平行沈線文	111-10	Po1073
13	鉢	B1d	Ⅷ	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文、メガネ状浮文。口縁部内面沈線	111-6	Po909
14	深鉢	C1d	XⅢ	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	111-9	Po906
15	深鉢	B1cd	XⅢ	Ⅵ b2	F-23Fa / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。横位沈線文。羽状縄文 RL/LR	111-15	Po687
16	壺	G1c	XⅢ	Ⅵ b2	F-23Ga / Ⅵ b2	口径（9.8cm）。平縁。口唇部沈線。横位沈線文。縄文 LR	111-14	Po625
17	深鉢	B1d	Ⅷ	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	口径（13.2cm）。平縁。ヘラ刻目。メガネ状浮文、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面平行沈線文	111-25	Po929
18	壺	-	Ⅷ	Ⅵ b2	F-23E / Ⅵ b2	メガネ状浮文 + 二個一対の貼瘤、平行沈線文	111-23	Po1081
19	Ⅲ	A1	Ⅷ	Ⅵ b2	F-23E / Ⅵ b2	平縁。メガネ状浮文。口縁部内面沈線	111-20	Po1087
20	浅鉢	A1	Ⅷ	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	平縁。メガネ状浮文。口縁部内面沈線。内外面赤彩	111-22	Po766
21	深鉢	C1cde	Ⅷ	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	平縁。山形突起 + 突起間沈線 + ヘラ刻目 + 縦位の短沈線文。メガネ状浮文 + 隆帯上に櫛歯状刻目、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面平行沈線文。胎土に海綿骨針を含む	111-11	Po821

第138図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（53）　F-23区E・F・Gグリッド

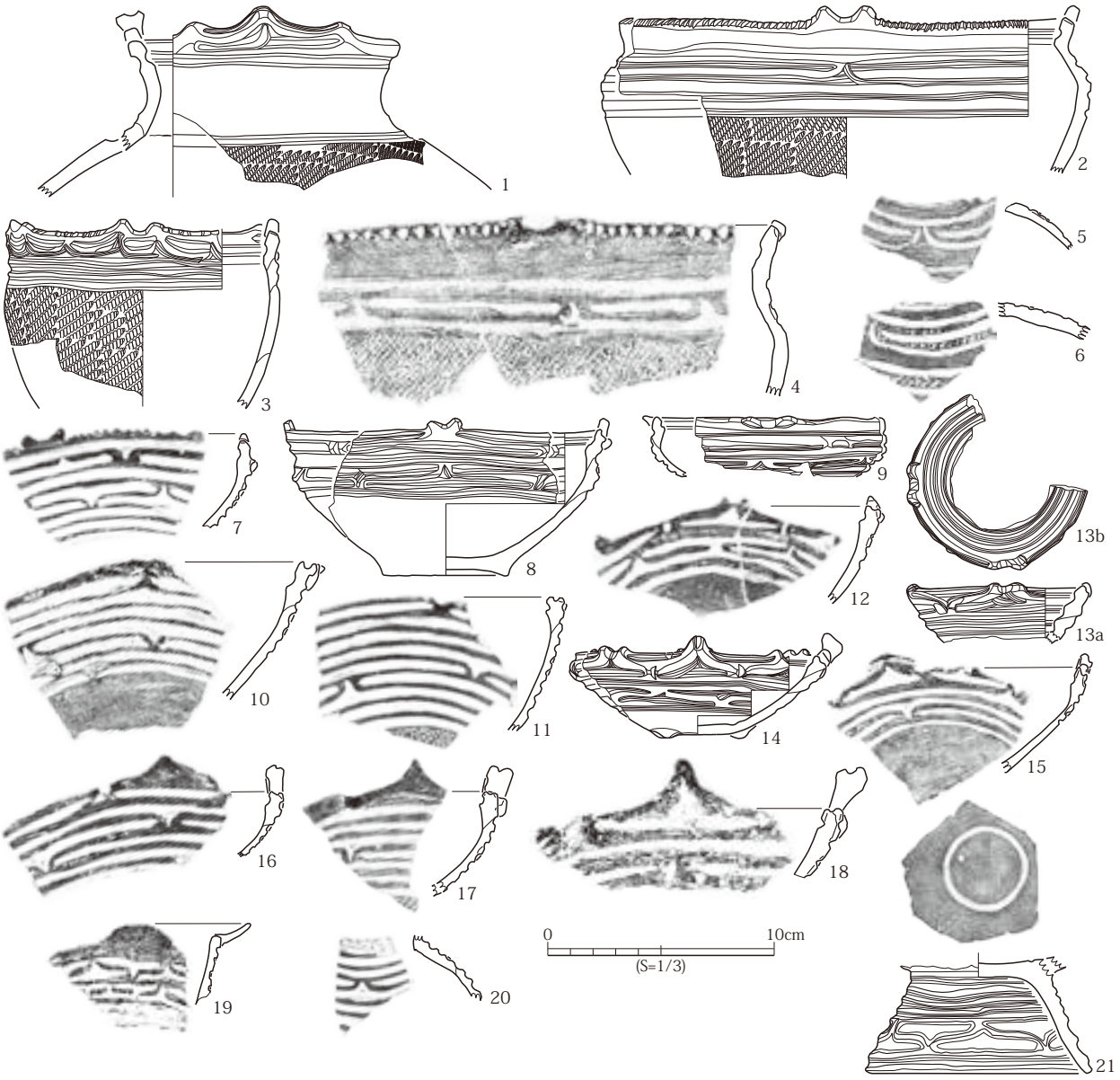


No.	器　種	類型１	類型２	帰属層	区・遺構／層	特　徴	写真図版	登録
1	鉢	A1cf	Ⅷ	Ⅵb2	F-23E / Ⅵb2	平縁。二個一対の山形突起＋口唇部沈線。平行沈線文、メガネ状浮文。口縁部内面沈線	112-7	Po1025
2	浅鉢	A1	Ⅷ	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	平縁。メガネ状浮文。口縁部内面沈線	112-2	Po758
3	鉢	A1	Ⅸb+Ⅹb	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	平縁。π字文（上向）＋二個一対の貼瘤、工字文（陽刻）、平行沈線文。口縁部内面沈線	112-3	Po886
4	皿	A1c	Ⅹa	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	平縁。口唇部沈線。工字文（陰刻）＋二個一対の貼瘤、工字文（X字状、隆線表現）、平行沈線文。口縁部内面沈線	112-4	Po966
5	鉢	A1	Ⅷ＋Ⅹb	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	平縁。メガネ状浮文＋二個一対の貼瘤、平行沈線文、工字文（陽刻）。口唇部沈線。胎土に海綿骨針を含む	112-1	Po978
6	皿	A1c	Ⅹa	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	平縁。口唇部沈線。平行沈線文、工字文（陰刻）。口縁部内面沈線	112-6	Po806
7	浅鉢	A1	Ⅹa	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	平縁。工字文（陰刻）＋二個一対の貼瘤、平行沈線文。口縁部内面沈線	112-5	Po870
8	鉢	A1cf	Ⅹb	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	平縁。山形突起＋突起間沈線。平行沈線文、工字文（陽刻）。口縁部内面沈線	112-8	Po738
9	浅鉢	A2c	Ⅹb	Ⅵb2	F-23(Eb-Fa)+F / Ⅵb2+Ⅵa	小波状縁。口唇部沈線。平行沈線文、工字文（陽刻）。口縁部内面沈線	112-9	Po1123
10	浅鉢	A1df	Ⅹa	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	平縁。二個一対の小突起＋ヘラ刻目。平行沈線文＋ヘラ刻目、工字文（陰刻）、平行沈線文。縄文LR。口縁部内面沈線	112-10	Po757
11	浅鉢	A1f	Ⅹa	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	平縁。二個一対の山形突起。平行沈線文、工字文（陰刻）。口縁部内面沈線	112-11	Po922
12	皿	A1cf	Ⅹa	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	平縁。二個一対の山形突起＋突起間沈線。工字文（陰刻）。縄文LR。口縁部内面沈線	112-18	Po678
13	壺	-	Ⅹa	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	平縁。工字文（陰刻）、平行沈線文。口縁部内面沈線	112-14	Po799
14	四脚付壺	-	Ⅹa	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	最大径（13.0cm）。流水工字文４単位。底部ミガキ	112-17	Po846
15	アスファルト容器（四脚付壺）	-	Ⅹa	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	最大径（10.0cm）、底径（4.0cm）。工字文（陰刻）、平行沈線文。底部ミガキ。内面アスファルト付着	112-38	Po763
16	壺	-	Ⅸa?+Ⅹa	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	平行沈線文、工字文（陰刻）、π字文（上向）か	112-24	Po816
17	台部	-	Ⅸa+Ⅹa	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	台部径（9.2cm）。π字文（下向）＋工字文（陰刻）６単位	112-39	Po707
18	注口土器	-	Ⅹa	Ⅵb2	F-23Eb+Fb / Ⅵb2	最大径（21.9cm）。工字文（陰刻）４単位、工字文（陰刻）＋二個一対の貼瘤＋隆線上にヘラ刻目、注口部の周りに平行沈線文＋隆線上にヘラ刻目＋注口部の両側に突帯（頂部平行短沈線文）、平行沈線文、流水工字文６単位	112-37	Po859
19	鉢	A1d	Ⅹc	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	平縁。櫛歯状刻目。平行沈線文、工字文（Z字状、磨消縄文）＋二個一対の貼瘤。縄文LR。口縁部内面沈線	112-23	Po800
20	壺	-	Ⅵa	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	櫛歯状刻目、Z字状文（綾杉状文）、平行沈線文。縄文LR	112-25	Po787
21	鉢	A1d	Ⅹc	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	平縁。櫛歯状刻目。工字文（陽刻、Z字状）＋二個一対の貼瘤、平行沈線文。無節縄文L。口縁部内面沈線	112-16	Po680
22	台部	-	Ⅹc	Ⅵb2	F-23E / Ⅵb2	平行沈線文、工字文（Z字状）	112-26	Po1083
23	鉢	A1de	Ⅹc	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	平縁。二個一対の突起＋櫛歯状刻目。平行沈線文、工字文（Z字状、磨消縄文）。縄文LR。口縁部内面沈線	112-19	Po823
24	鉢	B1cd	Ⅸo	Ⅵb2	F-23E / Ⅵb2	平縁。櫛歯状刻目＋口唇部沈線。沈線表現によるπ字文（下向）＋櫛歯状刻目、平行沈線文＋ヘラ刻目（工字状の表現）。縄文RL	112-27	Po1091
25	深鉢	C1cde	Ⅸa2	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	平縁。山形突起＋口唇部沈線＋ヘラ刻目。π字文（下向）＋櫛歯状刻目、平行沈線文。縄文LR。口縁部内面沈線	112-33	Po884

第139図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（54）　F-23区E・F・Gグリッド

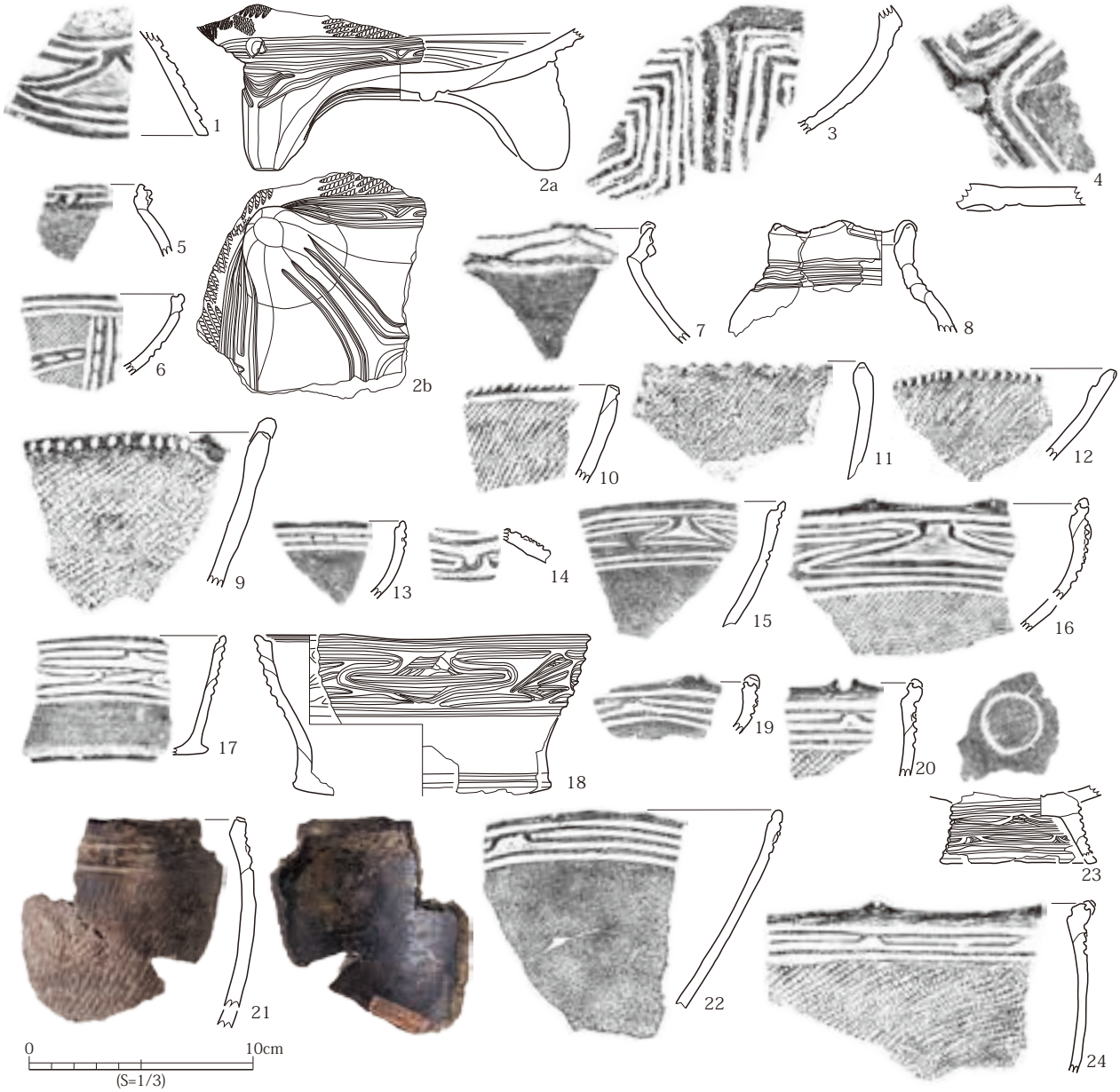
No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	C1d	Ⅸ a2	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	平縁。櫛歯状刻目。π字文（下向）＋櫛歯状刻目。縄文 LR。口縁部内面平行沈線文	112-13	Po914
2	深鉢	C2ef	Ⅸ d	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	小波状縁。山形突起（大）＋山形突起（小、頂部刻み）＋口唇部沈線。π字文（下向）＋櫛歯状刻目、平行沈線文。口縁部内面沈線。内外綿炭化物付着	112-20	Po954
3	深鉢	B2	Ⅹ Ⅱ a2	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	小波状縁。口唇部沈線。櫛歯状刻目（π字状の表現か）、平行沈線文。縄文 RL。口縁部内面沈線。	112-35	Po933
4	深鉢	B2	Ⅹ Ⅱ a2	Ⅵ b2	F-23Fa+Fb / Ⅵ b2+ Ⅵ a	小波状縁。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状）。縄文 LR。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	112-12	Po192
5	深鉢	B1cef	Ⅸ d	Ⅵ b2	F-23Eb+(Eb-Fa) / Ⅵ b2	平縁。山形突起（大・小）＋口唇部沈線（突起間沈線）。π字文（下向）＋櫛歯状刻目。縄文 LR。口縁部内面沈線	112-15	Po862
6	深鉢	B1cef	Ⅸ a2	Ⅵ b2	F-23Ea+Eb / Ⅵ b2	平縁。山形突起（大・小）＋口唇部沈線。π字文（下向）＋刺突列。縄文 LR。口唇部沈線	112-29	Po973
7	深鉢	B1d	Ⅹ Ⅱ a2	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。口縁部内面沈線	112-28	Po888
8	深鉢	B1cf	Ⅹ Ⅱ a2	Ⅵ b2	F-23Fa / Ⅵ b2	平縁。山形突起＋口唇部沈線。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の刻みあり）。縄文 LR。口縁部内面沈線	112-22	Po656
9	鉢	A1d	Ⅸ a+ Ⅸ b2	Ⅵ b2	F-23Fa / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目。π字文（下向）＋二個一対の貼瘤＋刺突列、π字文（下向）、平行沈線文。口縁部内面沈線	112-30	Po641
10	深鉢	B1cf	Ⅹ Ⅱ b1	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	平縁。二個一対の山形突起＋突起間沈線。平行沈線文＋刺突列。縄文 LR。口唇部沈線。胎土に海綿骨針を含む	112-21	Po977
11	深鉢	C1d	Ⅹ Ⅱ b1	Ⅵ b2	F-23Gb / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋刺突列。口縁部内面沈線	112-36	Po596
12	壺	-	Ⅸ a2+ Ⅸ a	Ⅵ b2	F-23E / Ⅵ b2	平行沈線文、π字文（上向か）＋櫛歯状刻目、π字文（下向）	112-34	Po1065
13	深鉢	C2	Ⅸ a	Ⅵ b2	F-23Eb-Fa / Ⅵ b2	小波状縁。平行沈線文＋刺突列、π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	112-32	Po1117
14	深鉢	-	Ⅸ a	Ⅵ b2	F-23E / Ⅵ b2	平行沈線文＋刺突列、π字文（下向）、平行沈線文	112-31	Po1053
15	深鉢	B2	Ⅸ a2	Ⅵ b2	F-23Gb / Ⅵ b2	小波状縁。突起間沈線。π字文（下向）＋刺突列、平行沈線文＋刺突列。縄文 LR。口縁部内面沈線	113-1	Po590
16	深鉢	B1cef	Ⅸ a2	Ⅵ b2	F-23Eb+F / Ⅵ b2+ Ⅵ a	口径（23.0cm）。平縁。山形突起（装飾的な突帯）＋山形突起（小）7 単位＋突起間沈線。π字文（上下対向）8 単位＋刺突列。縄文 LR。口縁部内面沈線	113-2	Po751
17	壺	G1	Ⅷ＋Ⅸ b	Ⅵ b2	F-23Eb-Fa / Ⅵ b2	口径 7.6cm。平縁。メガネ状浮文、π字文（下向）＋二個一対の貼瘤＋刺突列。口縁部内面沈線	113-21	Po1119
18	壺	D3cf	Ⅸ a2	Ⅵ b2	F-23Gb / Ⅵ b2	口径（14.8cm）。大波状縁。山形突起（頂部刻み）8 単位＋突起間沈線。π字文（下向）＋刺突列、平行沈線文＋刺突列。口縁部内面沈線	113-5	Po599

第140図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（55）　F-23区E・F・Gグリッド



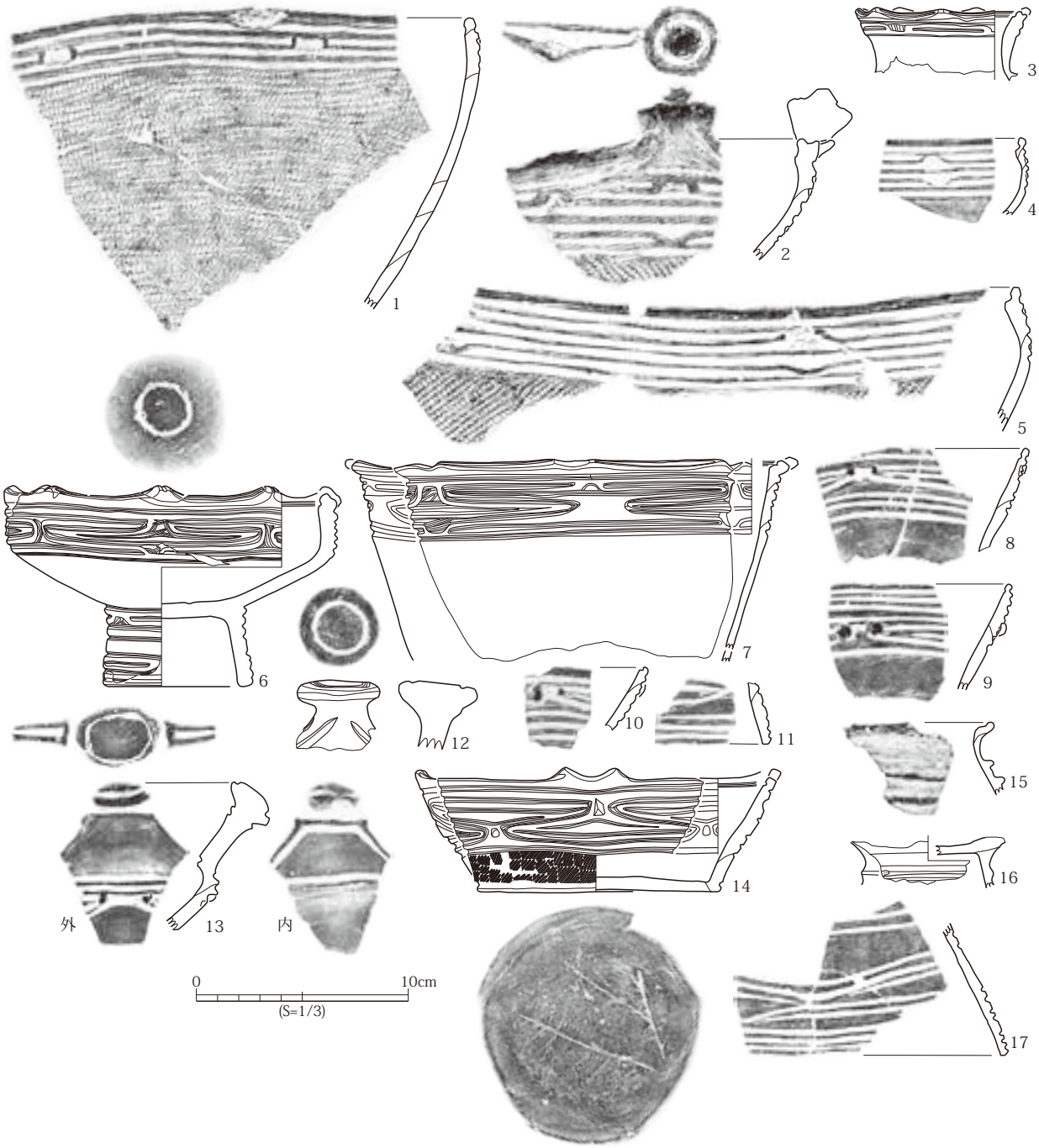
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	壺	C1ef	XⅡx	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	口径 11.0cm。平縁。山形突起（大）の両側に山形突起（小）1 単位＋突起間沈線。突起部下位に平行沈線文、頸部に平行沈線文。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	113-25	Po985
2	深鉢	B1df	Ⅸa	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	口径（20.0cm）、最大径（21.6cm）。平縁。二個一対の山形突起＋櫛歯状刻目。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	113-3	Po710
3	深鉢	A1df	Ⅸa	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	口径（11.6cm）。平縁。二個一対の山形突起 6 単位＋ヘラ刻目。π字文（下向）18 単位、平行沈線文。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	113-4	Po893
4	深鉢	C1df	Ⅸa	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	平縁。二個一対の山形突起＋ヘラ刻目。π字文（下向）。縄文 LR 末端部強調。口縁部内面沈線	113-6	Po928
5	壺	-	Ⅸa	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	π字文（下向＋上向、磨消縄文）。縄文 LR	113-8	Po926
6	壺	-	Ⅸa	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR	113-9	Po958
7	浅鉢	A1df	Ⅸa	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	平縁。二個一対の小突起＋ヘラ刻目。π字文（下向＋上向）2 段、平行沈線文。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	113-10	Po825
8	浅鉢	A1f	Ⅷ＋Ⅸa	Ⅵb2	F-23E / Ⅵb2	口径（13.7cm）、器高 7.0cm、底径 5.5cm。平縁。二個一対の小突起 4 単位。メガネ状浮文 4 単位、π字文（下向＋上向）5 単位。底部ミガキ、かるい上げ底。口縁部内面沈線	113-24	Po1134
9	浅鉢	C1f	Ⅸa+Ⅸc	Ⅵb2	F-23Fa+(F-G) / Ⅵb2+Ⅵa	口径（10.2cm）。平縁。二個一対の小突起。π字文＋二個一対の貼瘤、π字文（下向＋上向）8 単位。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	113-11	Po716
10	浅鉢	A1cf	Ⅷ＋Ⅸa	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	平縁。山形突起＋口唇部沈線。メガネ状浮文、平行沈線文、π字文（下向＋上向）。口唇部沈線	113-7	Po979
11	浅鉢	A1c	Ⅷ＋Ⅸa	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	平縁。口唇部沈線。メガネ状浮文、平行沈線文、π字文（上向）、π字文（下向）。縄文 LR。口縁部内面沈線。外面赤彩	113-15	Po942
12	浅鉢	A1cf	Ⅷ＋Ⅸa	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	平縁。二個一対の山形突起＋口唇部沈線。メガネ状浮文、π字文（下向）2 段。口縁部内面沈線	113-12	Po955
13	壺	-	Ⅸa	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	口径 8.1cm。平縁。二個一対の小突起 4 単位。π字文（上向）4 単位。口縁部内面平行沈線文	113-20	Po635
14	浅鉢	A1cef	Ⅷ＋Ⅸa	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	口径 10.6cm、器高 4.5cm、最大径 11.6cm、底径 3.1cm。平縁。山形突起 1 単位＋二個一対の山形突起 5 単位＋口唇部沈線。メガネ状浮文＋貼瘤（頂部刻み）6 単位、π字文（下向＋上向）4 単位。底部ミガキ。口縁部内面沈線、底部内面環状沈線	113-23	Po925
15	皿	A1cef	Ⅸa	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	平縁。山形突起＋二個一対の小突起＋口唇部沈線。π字文（下向）、平行沈線文、π字文（上向）。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	113-14	Po703
16	浅鉢	A1ce	Ⅸa	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	平縁。山形突起＋ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文、π字文（上向）2 段。口縁部内面沈線	113-13	Po781
17	浅鉢	A1cef	Ⅸa	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	平縁。山形突起＋小突起＋口唇部沈線。平行沈線文、π字文（上向）。無節縄文 L。口縁部内面沈線	113-19	Po740
18	鉢	A1ce	Ⅸa	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	平縁。山形突起＋口唇部沈線。メガネ状浮文＋二個一対の貼瘤＋π字文（下向）。口縁部内面沈線	113-16	Po885
19	浅鉢	A1e	Ⅸa	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	平縁。半円形の突起。π字文（下向＋上向）2 段。外面赤彩	113-18	Po895
20	壺	-	Ⅸa	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	平行沈線文、π字文（下向）	113-17	Po630
21	台部	-	Ⅸa	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	台部径 9.9cm。平行沈線文、π字文（下向＋上向）5 単位	113-22	Po1847

第141図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（56）　F-23区E・F・Gグリッド



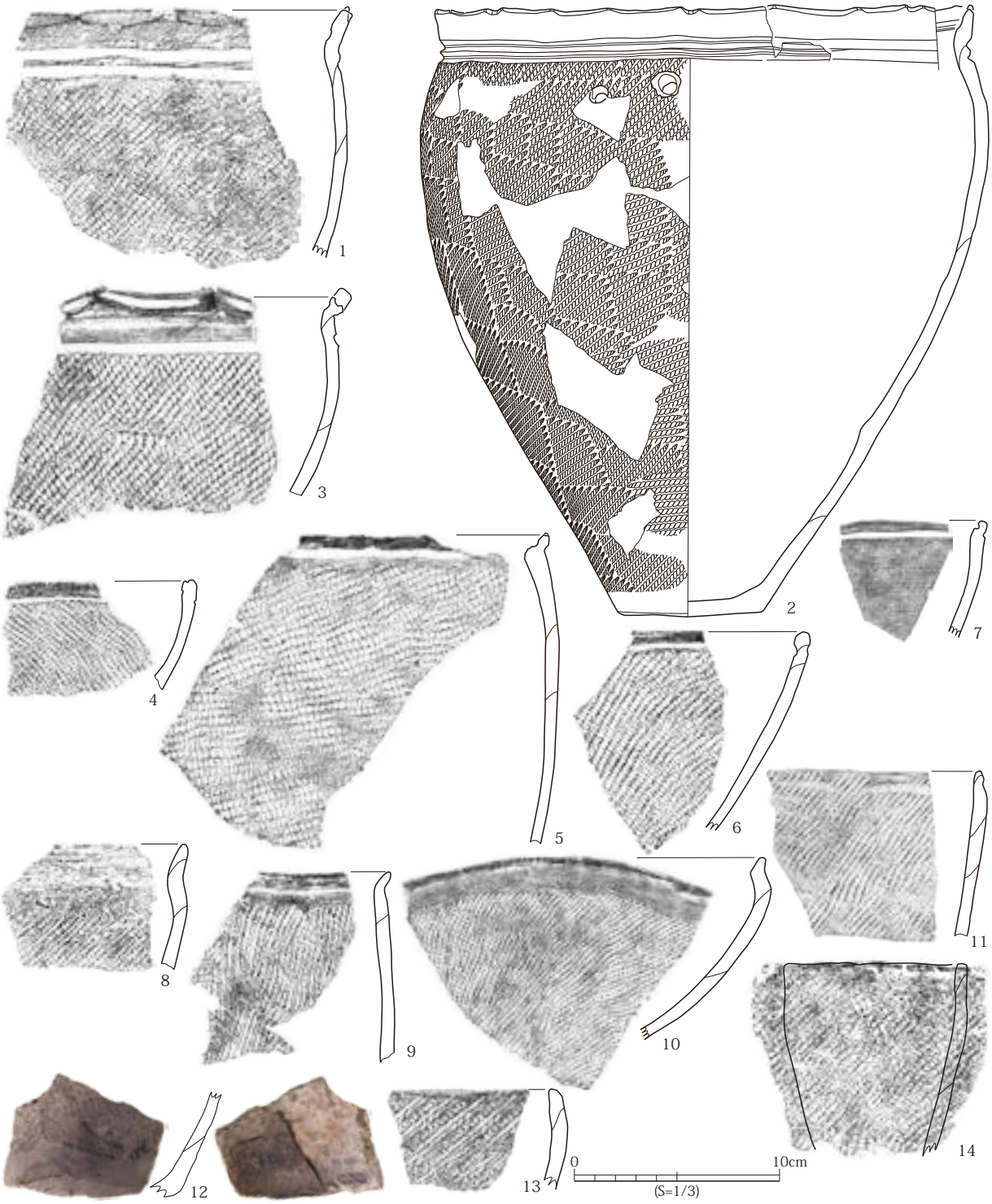
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	台部	-	Ⅸ a	Ⅵ b2	F-23Fa / Ⅵ b2	平行沈線文、π字文（下向 + 上向）	114-8	Po645
2	脚部	-	Ⅸ a	Ⅵ b2	F-23Fa / Ⅵ b2	底径（14.0cm）。底部付近にπ字文（上向）4 単位。縄文 LR。中央が環状となる十字状の隆帯 + この両側に沿う平行沈線文	114-1	Po636
3	壺	-	-	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	浮線渦巻文	114-2	Po834
4	四脚付鉢	-	Ⅹ Ⅱ d1+ Ⅹ Ⅱ f	Ⅵ b2	F-23E / Ⅵ b2	十字状の隆帯 + 盲孔、隆帯の両側に平行する平行沈線文	114-3	Po1028
5	壺	A1	Ⅸ b	Ⅵ b2	F-23E / Ⅵ b2	平縁。π字文（上向）+ 二個一対の貼瘤。口縁部内面沈線	114-7	Po1026
6	浅鉢	A1c	Ⅹ Ⅱ d1+ Ⅹ Ⅱ d2	Ⅵ b2	F-23E / Ⅵ b2	平縁。口唇部沈線。平行沈線文 +（縦位の平行沈線文 + 刺突列）+（斜位の平行沈線文 + 刺突列）。縄文 LR	114-11	Po1093
7	壺	-	Ⅷ + Ⅸ a	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	平縁。二個一対の小突起。π字文（下向）、メガネ状浮文。口縁部内面沈線	114-9	Po879
8	壺	A1cf	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ b2	F-23Gb / Ⅵ b2	口径（5.5cm）。平縁。山形突起（頂部刻み）5 単位か + 突起間沈線。平行沈線文	114-5	Po600
9	鉢	A1df	Ⅹ Ⅳ a1	Ⅵ b2	F-23E / Ⅵ b2	平縁。二個一対の山形突起 + ヘラ刻目。直前段多条縄文 LR	114-4	Po1098
10	鉢	A1d	Ⅹ Ⅲ	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目。横位沈線文。縄文 LR	114-12	Po920
11	深鉢	A1d	Ⅹ Ⅳ a1	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目。縄文 LR	114-13	Po988
12	浅鉢	A1d	Ⅹ Ⅳ a1	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	平縁。ヘラ刻目。0 段多条縄文 L。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	114-14	Po796
13	鉢	A1	Ⅸ c	Ⅵ b2	F-23Fa / Ⅵ b2	平縁。π字文。口縁部内面沈線	114-10	Po715
14	壺	-	Ⅹ a	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	平行沈線文、工字文（陰刻）	114-6	Po789
15	鉢	A1	Ⅹ Ⅰ a	Ⅵ b2	F-23Fa / Ⅵ b2	平縁。変形工字文（祖型）、平行沈線文。口縁部内面沈線。外面赤彩	114-30	Po679
16	浅鉢	A1cf	Ⅹ Ⅰ a	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	平縁。山形突起 + 突起間沈線。変形工字文（祖型）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	114-18	Po741
17	浅鉢	A1	Ⅸ a+ Ⅹ Ⅰ a	Ⅵ b2	F-23Ga / Ⅵ b2	平縁。π字文（下向）、変形工字文（祖型）、平行沈線文。底部ミガキ。口縁部内面沈線	114-17	Po612
18	浅鉢	A1c	Ⅸ a+ Ⅹ Ⅰ a	Ⅵ b2	F-23Gb+G / Ⅵ b2+ Ⅴ	口径（15.0cm）、底径（11.4cm）。平縁。口唇部沈線。π字文（下向）4 単位、変形工字文（祖型）4 単位、π字文（上向）8 単位。底部ミガキ。外面赤彩	114-19	Po603
19	Ⅲ	A1cf	Ⅸ a	Ⅵ b2	F-23Fa / Ⅵ b2	平縁。山形突起（頂部刻み）+ 突起間沈線。π字文（下向）、平行沈線文	114-27	Po692
20	深鉢	B1cf	Ⅸ a	Ⅵ b2	F-23Fa / Ⅵ b2	平縁。二個一対の山形突起 + 突起間沈線。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	114-16	Po701
21	漆容器（深鉢）	B2cf	Ⅸ a	Ⅵ b2	F-23Fb / Ⅵ b2	小波状縁。小突起 + 口唇部沈線。π字文（下向 + 上向）。縄文 LR。内外面・口唇部赤漆付着	114-20	Po651
22	浅鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ b2	F-23Ga / Ⅵ b2	平縁。π字文（下向）、平行沈線文。口縁部内面沈線	114-28	Po605
23	台部	-	Ⅸ a	Ⅵ b2	F-23Eb-Fa / Ⅵ b2	台部径（6.6cm）。平行沈線文、π字文（下向）5 単位 2 段。底部ミガキ。底部内面環状沈線	114-38	Po1132
24	深鉢	B1cf	Ⅸ a	Ⅵ b2	F-23Ga / Ⅵ b2	平縁。山形突起（頂部刻み）+ 突起間沈線。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。内外面・口唇部炭化物付着	114-23	Po614

第142図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（57）　F-23区E・F・Gグリッド



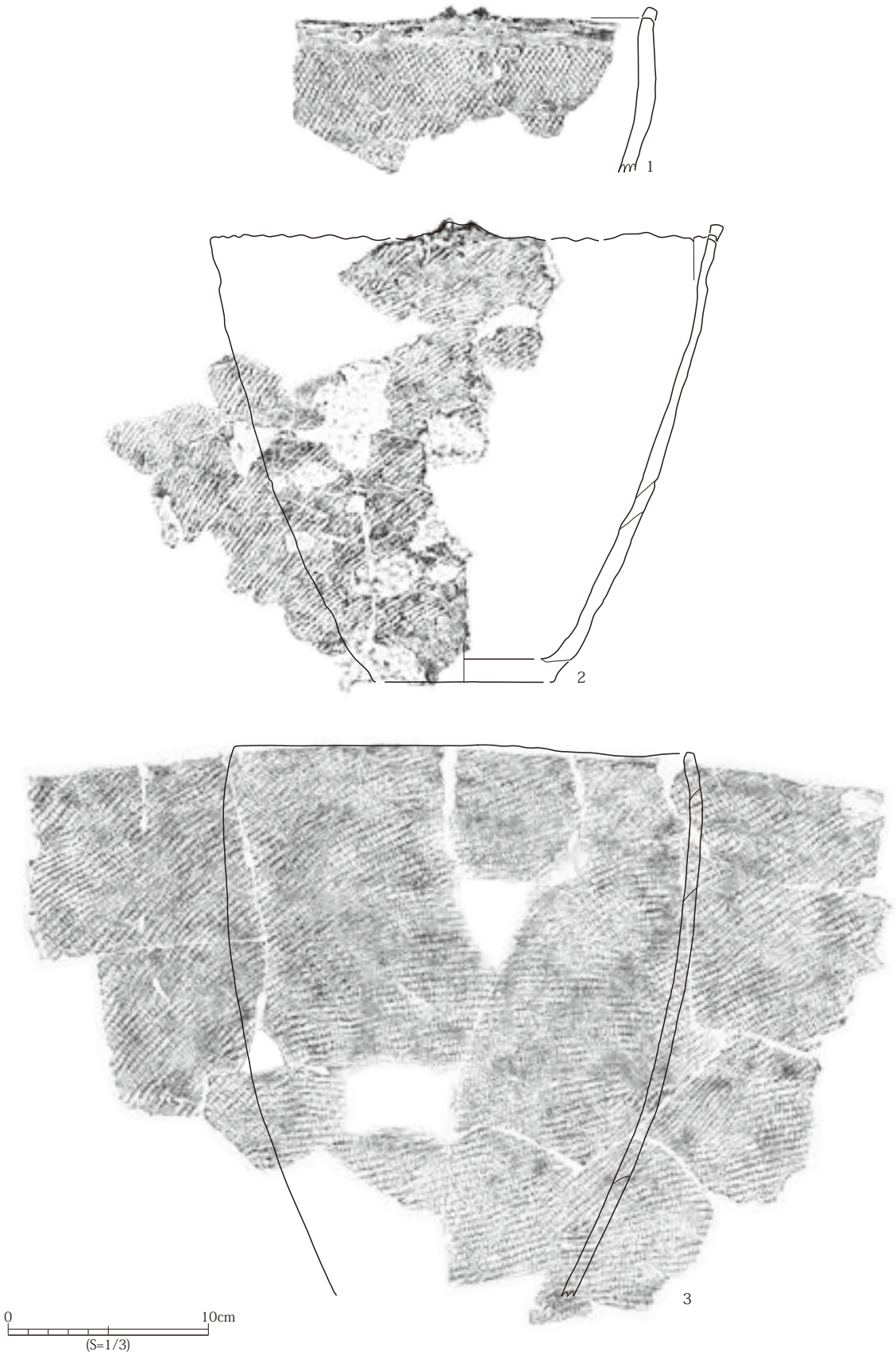
No.	器　種	類型１	類型２	帰属層	区・遺構／層	特　　徴	写真図版	登録
1	鉢	A1	Ⅸa	Ⅵb2	F-23Gb／Ⅵb2	平縁。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	114-24	Po611
2	鉢	A1cef	Ⅸa	Ⅵb2	F-23Ga／Ⅵb2	平縁。装飾的な突起（頂部に円盤状突帯＋環状沈線＋円錐状突帯）＋山形突起＋口唇部沈線。π字文（上下対向、π字文間の隆線２条）、π字文（下向）。縄文 RL。口縁部内面沈線	114-26	Po622
3	壺	F2ce	Ⅸa	Ⅵb2	F-23Eb+Fb+F／Ⅵb2+Ⅵb1+Ⅵa	口径 8.5cm。大波状縁。山形突起６単位＋突起間沈線。π字文（上向）。口縁部内面沈線	114-25	Po782
4	浅鉢	A1	Ⅸa	Ⅵb2	F-23Fa／Ⅵb2	平縁。π字文（上下対向）。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	114-15	Po643
5	鉢	A1	Ⅸa	Ⅵb2	F-23Gb+G／Ⅵb2+Ⅵa	平縁。π字文（上下対向）。縄文 LR。口縁部内面沈線	114-21	Po609
6	台付浅鉢	A3cf	Ⅸa+ⅩⅠb1	Ⅵb2	F-23Fb／Ⅵb2	口径（15.0cm）、器高 9.7cm、台部径 7.1cm。大波状縁。大波状縁＋山形突起（頂部刻み）８単位＋突起間沈線。変形工字文４単位、π字文（上向）４単位、π字文（下向）４単位、平行沈線文。底部ミガキ。口縁部内面沈線、底部内面環状沈線	114-36	Po1838
7	鉢	B1cf	Ⅸa+ⅩⅠb1	Ⅵb2	F-23Gb+G／Ⅵb2+Ⅵa	口径（20.1cm）。平縁。二個一対の山形突起８単位＋突起間沈線。π字文（下向）４単位、変形工字文４単位、π字文（上向）４単位。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	114-22	Po273
8	浅鉢	A1	ⅩⅠb1	Ⅵb2	F-23E／Ⅵb2	平縁。変形工字文＋二個一対の貼瘤、平行沈線文。口縁部内面沈線	114-29	Po1010
9	浅鉢	A1	ⅩⅠb2	Ⅵb2	F-23Ea／Ⅵb2	平縁。平行沈線文、変形工字文＋二個一対の貼瘤。口縁部内面沈線	114-35	Po877
10	浅鉢	A1c	ⅩⅠb1	Ⅵb2	F-23Ea／Ⅵb2	平縁。変形工字文＋二個一対の貼瘤、平行沈線文	114-31	Po902
11	台部	-	ⅩⅠc	Ⅵb2	F-23Eb／Ⅵb2	変形工字文、平行沈線文	114-32	Po734
12	突起	-	-	Ⅵb2	F-23Fb／Ⅵb2	山形突起＋円盤状突帯（頂部に環状沈線）。縁辺に沿う斜位の沈線文。縁辺に沿う斜位の沈線文。内外面・突起頂部赤彩	114-33	Po648
13	台付浅鉢	C3ce	ⅩⅠb1	Ⅵb2	F-23E／Ⅵb2	大波状縁。方形突起（頂部円盤状飾り）、突起間沈線。平行沈線文、変形工字文＋二個一対の貼瘤。突起・口縁部内面沈線	115-2	Po1004
14	浅鉢	A1cf	ⅩⅠc	Ⅵb2	F-23Gb+G／Ⅵb2+Ⅴ	口径（16.8cm）、器高 5.7cm、底径 11.3cm。平縁。二個一対の山形突起４単位か＋突起間沈線。変形工字文４単位、底部付近に横位沈線文。０段多条縄文 LR。底部木葉痕→ナデ。口縁部内面沈線	114-37	Po604
15	壺	-	-	Ⅵb2	F-23Fa／Ⅵb2	平縁。口唇部沈線。平行する隆帯	114-34	Po682
16	台付浅鉢か	A1c	ⅩⅡx	Ⅵb2	F-23Eb／Ⅵb2	平縁。口唇部沈線。平行沈線文。底部内面に円文。内外面・口唇部赤彩。口縁部破片あり	115-5	Po750
17	台部	-	-	Ⅵb2	F-23Ea+Fb／Ⅵb2+Ⅵa	平行沈線文、波状文	115-6	Po896

第143図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（58）　F-23区E・F・Gグリッド



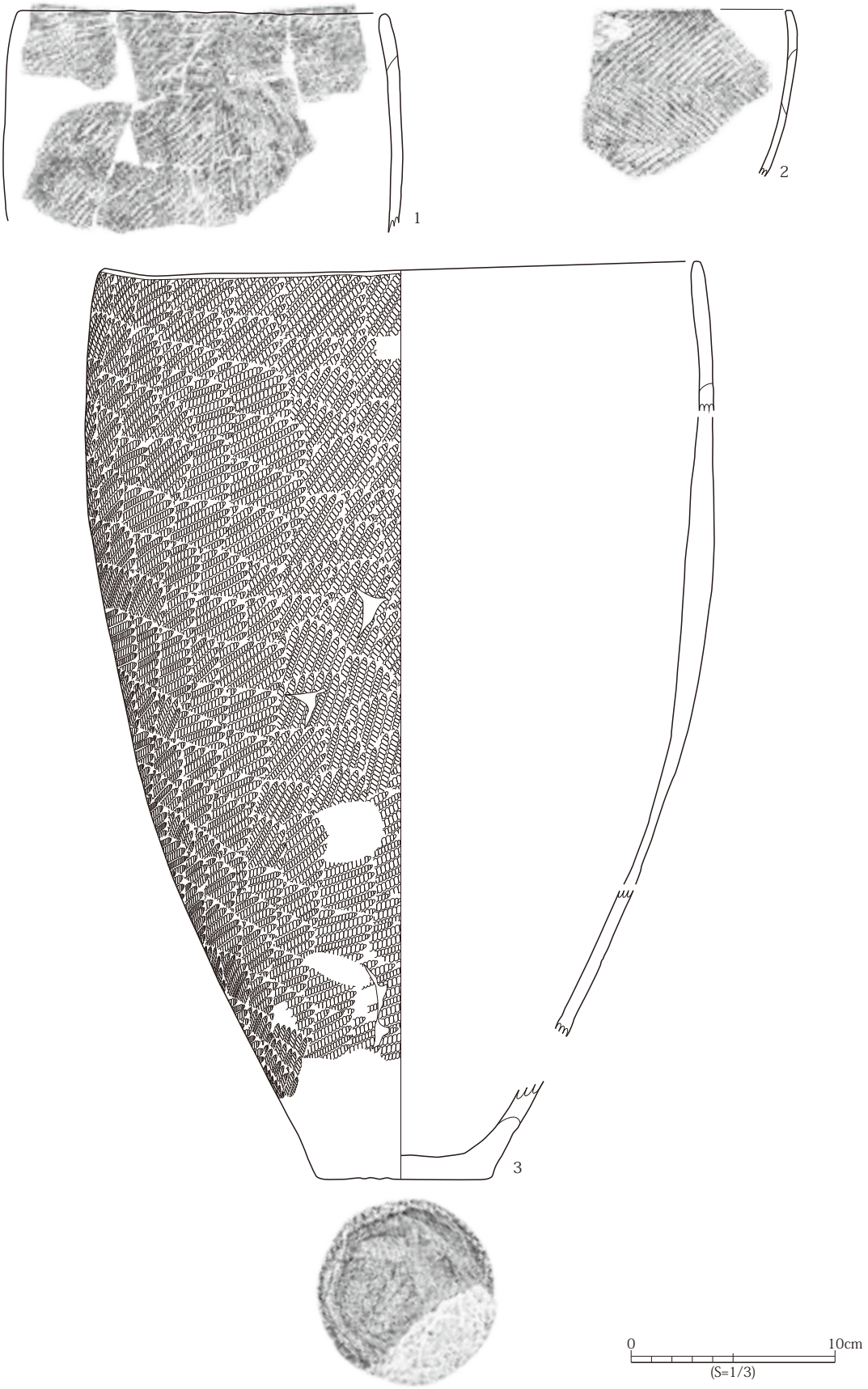
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1f	XⅡx	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	平縁。小突起。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	115-3	Po962
2	深鉢	B2f	XⅡx	Ⅵb2	F-23Eb+(Eb-Fa) / Ⅵb2	口径（26.3cm）、器高 28.5cm、最大径（32.0cm）、底径 7.4cm。小波状縁。二個一対の山形突起 8 単位。平行沈線文。縄文 LR。底部ミガキ。口縁部内面沈線。補修孔 2	115-13	Po1833
3	深鉢	C1cf	XⅢ	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	平縁。山形突起 + 突起間沈線。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	115-4	Po683
4	皿	A1c	XⅢ	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	平縁。横位沈線文。縄文 RL。口縁部内面沈線	115-11	Po644
5	深鉢	B2	XⅢ	Ⅵb2	F-23Ga / Ⅵb2	小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	115-1	Po618
6	鉢	A1	XⅢ	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	平縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	115-8	Po905
7	鉢	A1	XⅢ	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	平縁。横位沈線文。口縁部内面沈線	115-10	Po719
8	深鉢	C1	XⅣb1	Ⅵb2	F-23E / Ⅵb2	平縁。直前段多条縄文 LR	115-14	Po1002
9	深鉢	B1	XⅣb1	Ⅵb2	F-23Fb / Ⅵb2	平縁。無節縄文 L	115-9	Po652
10	鉢	C1	XⅣb1	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	平縁。縄文 LR。胎土に海綿骨針を含む	115-7	Po702
11	深鉢	A1	XⅢ	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	平縁。横位沈線文。縄文 LR	115-16	Po736
12	漆容器（深鉢）	-	XⅣ	Ⅵb2	F-23E / Ⅵb2	縄文 LR。底部ナデ。内面赤漆付着	115-12	Po1050
13	深鉢	A1	XⅣa1	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	平縁。合撚縄文 LR・L	115-15	Po802
14	深鉢	A1	XⅣa1	Ⅵb2	F-23Fb / Ⅵb2	口径（8.8cm）。平縁。縄文 LR	115-17	Po649

第144図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（59）　F-23区E・F・Gグリッド



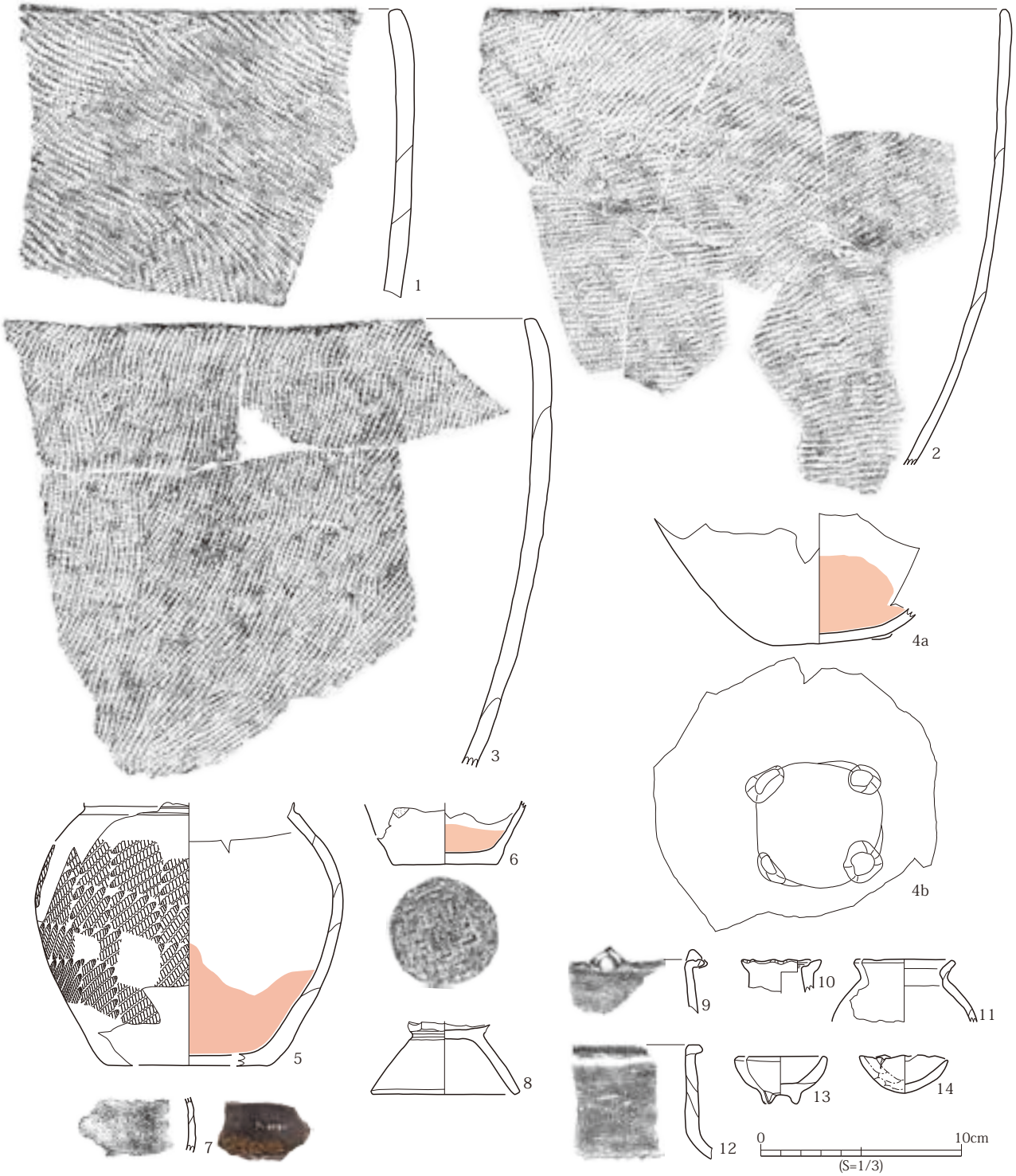
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1f	XIV b1	VI b2	F-23Ea+F / VI b2+ VI a	平縁。二個一対の山形突起。縄文 LR	117-2	Po970
2	深鉢	A2f	XIV a1	VI b2	F-23Eb / VI b2	小波状縁。二個一対の山形突起。無節縄文 L	116-1	Po999
3	深鉢	A1	XIV a1	VI b2	F-23Eb+Fb+F / VI b2+ VI b1+ V c	口径 23.0cm。平縁。縄文 LR、0 段多条縄文 LR	116-4	Po521

第145図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（60）　F-23区E・F・Gグリッド



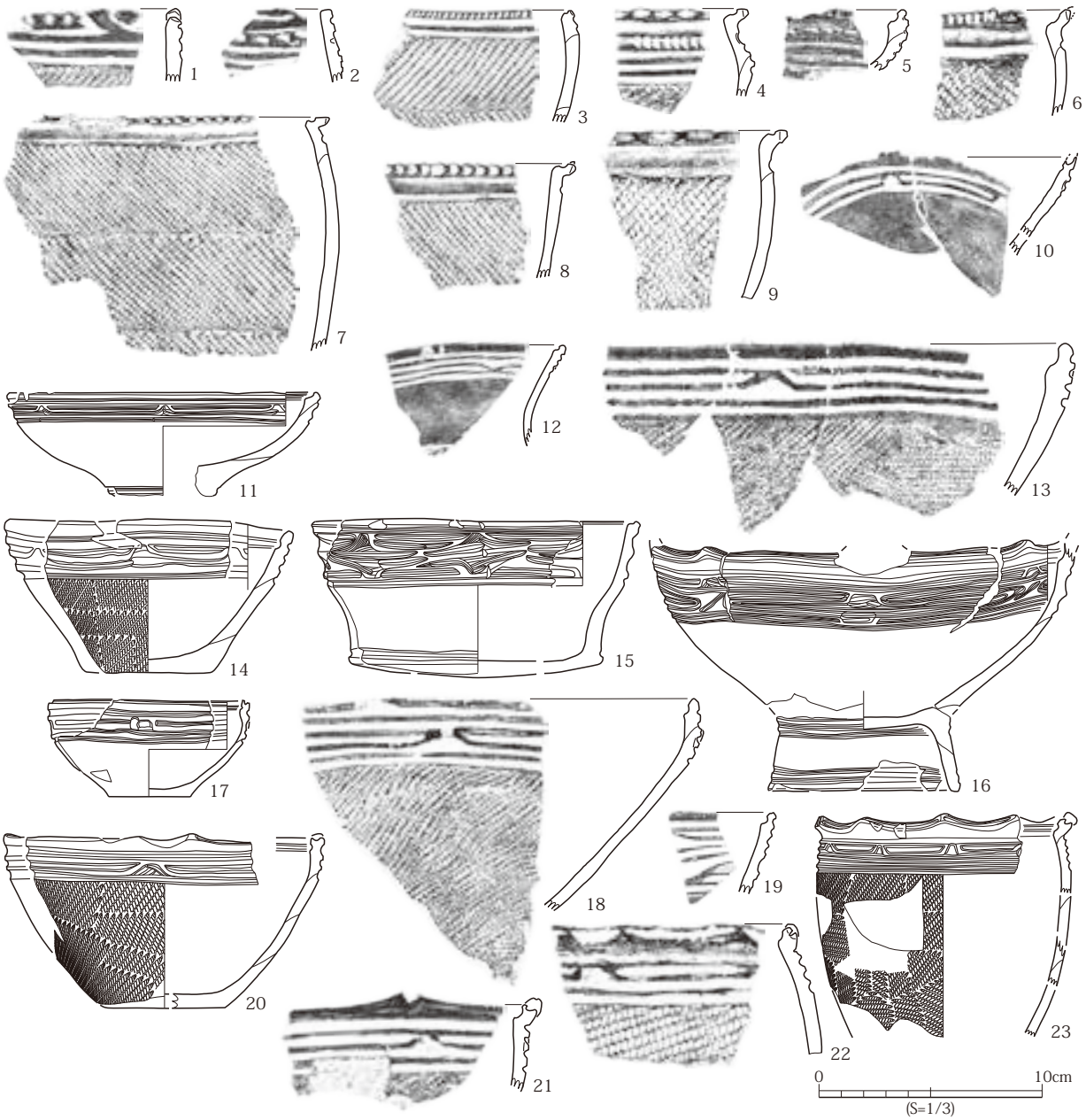
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1	XIV b1	VI b2	F-23Fb+Ga / VI b2+VI b1	口径（18.0cm）。平縁。縄文 LR（ナデやハケメによる一部磨消）	118-4	Po580
2	深鉢	A1	XIV a1	VI b2	F-23E / VI b2	平縁。羽状縄文 LR/RL	117-3	Po1070
3	深鉢	A1	XIV a1	VI b2	F-23Fa+Fb / VI b2+VI b1	口径（29.5cm）、器高 44.7cm、底径 8.7cm。平縁。縄文 LR。底部網代痕→ナデ	117-4	Po513

第146図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（61）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1	XIV a1	VI b2	F-23Ga / VI b2	平縁。縄文 RL	118-1	Po621
2	深鉢	A1	XIV a1	VI b2	F-23Fb+Gb / VI b2+ VI b1	平縁。0 段多条縄文 LR	118-2	Po469
3	深鉢	A1	XIV a1	VI b2	F-23Ga+Gb / VI b2+ VI b1	平縁。0 段多条縄文 LR。内外面焼けハジケ	118-3	Po435
4	漆容器（四脚付鉢）	-	XV	VI b2	F-23Eb / VI b2	底径 6.3cm。内面赤漆付着	117-1	Po843
5	漆容器（壺）	-	XIV b1	VI b2	F-23Eb+E+F / VI b2+ VI a+ VI確認面	底径 8.0cm。縄文 LR。底部ケズリ→ナデ。内面赤漆付着	118-24	Po65
6	漆容器（深鉢）	-	XV	VI b2	F-23E / VI b2	底径 5.4cm。底部網代痕。内面赤漆付着	116-2	Po1079
7	漆容器（鉢）	-	XV	VI b2	F-23E / VI b2	内面赤漆付着	118-5	Po1080
8	台部	-	XV	VI b2	F-23Eb / VI b2	台部径 7.4cm	116-3	Po739
9	壺	-	XV	VI b2	F-23Fa / VI b2	平縁。山形突起 + 二個一対の小突起 + 突起間沈線 + 弧状の短沈線文	118-6	Po668
10	壺	-	XV	VI b2	F-23Eb / VI b2	口径 4.0cm。小波状縁。二個一対の山形突起 5 単位 + 口唇部沈線	118-25	Po724
11	壺	G1	XV	VI b2	F-23Fa / VI b2	口径（4.8cm）。平縁	118-7	Po696
12	壺	D1	XV	VI b2	F-23Gb / VI b2	平縁。底部ナデ	118-8	Po594
13	袖珍土器四脚付浅鉢	A1	XV	VI b2	F-23Fa / VI b2	口径（4.3cm）、器高 2.4cm、底径（2.0cm）。平縁。底部ミガキ	118-9	Po2473
14	袖珍土器浅鉢	A1	XV	VI b2	F-23E / VI b2	口径 4.5cm、器高 2.0cm。平縁。丸底ナデ	118-26	Po1023

第147図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（62）　F-23区E・F・Gグリッド

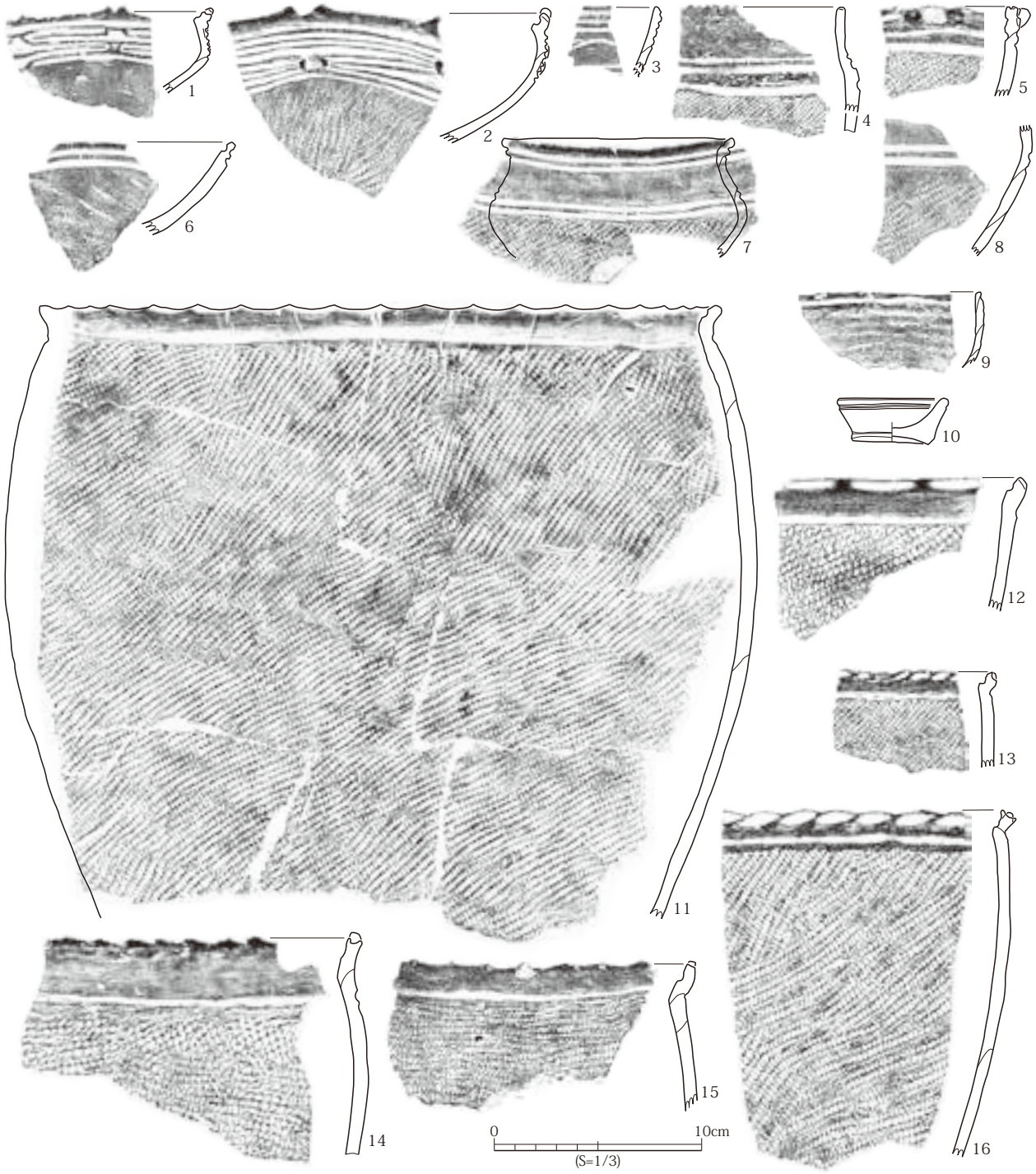


No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1df	XⅡx	Ⅵb1	F-23Ga / Ⅵb1	平縁。二個一対の小突起＋ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR	118-10	Po452
2	鉢	A1ce	XⅡb1	Ⅵb1	F-23Ga / Ⅵb1	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋刺突列	118-11	Po412
3	深鉢	A1cd	XⅡx	Ⅵb1	F-23Fb / Ⅵb1	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文。羽状縄文 LR/RL	118-14	Po561
4	鉢	B1d	XⅡa2	Ⅵb1	F-23Ga / Ⅵb1	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋櫛歯状刻目。無節縄文 L。胎土に海綿骨針を含む	118-15	Po453
5	鉢	A1ce	XⅡb1	Ⅵb1	F-23Ga / Ⅵb1	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋刺突列。口縁部内面沈線	118-12	Po413
6	鉢	B1df	XⅢ	Ⅵb1	F-23Ga / Ⅵb1	平縁。山形突起＋ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。縄文 RL	118-16	Po410
7	深鉢	B1cd	XⅢ	Ⅵb1	F-23Fb / Ⅵb1	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。縄文 RL 末端部強調	118-13	Po511
8	深鉢	B1cd	XⅢ	Ⅵb1	F-23Fb / Ⅵb1	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。縄文 RL	118-17	Po494
9	深鉢	B2	XⅢ	Ⅵb1	F-23Ga / Ⅵb1	小波状縁。口唇部沈線。横位沈線文。縄文 LR	118-18	Po458
10	浅鉢	A1cf	Ⅸa	Ⅵb1	F-23Fb+Ga / Ⅵb1+ Ⅵa	平縁。山形突起＋突起間沈線。π字文（下向）。口縁部内面沈線	118-19	Po333
11	台付浅鉢	A1c	Ⅸa	Ⅵb1	F-23Fb+F / Ⅵb1+ Ⅵa	口径 13.8cm。平縁。口唇部沈線。π字文（下向）8 単位、平行沈線文、台部との境界付近に平行沈線文	119-1	Po101
12	浅鉢	A1	Ⅸa	Ⅵb1	F-23Gb / Ⅵb1	平縁。平行沈線文、π字文（上向）、底部付近に横位沈線文。口縁部内面沈線	118-20	Po363
13	鉢	A1	Ⅸa	Ⅵb1	F-23Fb / Ⅵb1	平縁。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。外面赤彩	118-21	Po485
14	鉢	A1	Ⅸa	Ⅵb1	F-23Gb+G / Ⅵb1+ Ⅵa	口径（13.4cm）、器高 6.8cm、底径 6.0cm。平縁。π字文（下向）8 単位か。縄文 LR。底部ナデ。口縁部内面沈線	119-4	Po284
15	鉢	A1c	Ⅸa+ⅩⅠa	Ⅵb1	F-23Fb / Ⅵb1	口径（14.6cm）、底径（11.2cm）。平縁。口唇部沈線。π字文（下向）4 単位、変形工字文（祖型）4 単位、π字文（上向）8 単位、底部付近に横位沈線文。底部ミガキ。外面赤彩	119-5	Po506
16	台付鉢	A1cef	Ⅸa+ⅩⅠa	Ⅵb1	F-23Fb / Ⅵb1+ Ⅵ確認面	口径（19.3cm）、器高 11.8cm、台部径 8.5cm。平縁。突起（大）4 単位＋山形突起（小）4 単位＋口唇部沈線。π字文（下向）4 単位、変形工字文（祖型）4 単位、π字文（上向）4 単位、平行沈線文。口縁部内面沈線	119-8	Po564
17	浅鉢	A1c	Ⅸa	Ⅵb1	F-23Gb / Ⅵb1	口径（9.0cm）、器高 4.6cm、底径 3.8cm。平縁。口唇部沈線。π字文（下向）、平行沈線文。底部ミガキ	118-27	Po378
18	鉢	A1	Ⅸa	Ⅵb1	F-23Fb / Ⅵb1+ Ⅵa	平縁。平行沈線文、π字文（下向）。縄文 LR+ 附加条 r。口縁部内面沈線	118-23	Po575
19	鉢	A1	Ⅸa+ⅩⅠa?	Ⅵb1	F-23Ga / Ⅵb1	平縁。π字文（下向）、変形工字文（祖型）か、π字文（上向）。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	118-22	Po466
20	鉢	A1cf	Ⅸa	Ⅵb1	F-23Fb / Ⅵb1	口径（13.9cm）、器高 8.0cm、底径（5.4cm）。平縁。二個一対の小突起＋突起間沈線。π字文（下向）。縄文 LR。底部ミガキ。口縁部内面沈線	119-6	Po503
21	深鉢	B1cf	Ⅸa	Ⅵb1	F-23Fb / Ⅵb1	平縁。二個一対の小突起＋突起間沈線。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	119-10	Po517
22	深鉢	B1cf	Ⅸa	Ⅵb1	F-23Fb / Ⅵb1	平縁。二個一対の山形突起＋突起間沈線。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	119-11	Po473
23	深鉢	B1cf	Ⅸa	Ⅵb1	F-23Fb / Ⅵb1	口径（11.5cm）。平縁。山形突起 10 単位＋突起間沈線。π字文（下向）10 単位、平行沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	119-12	Po470

第148図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（63）　F-23区E・F・Gグリッド

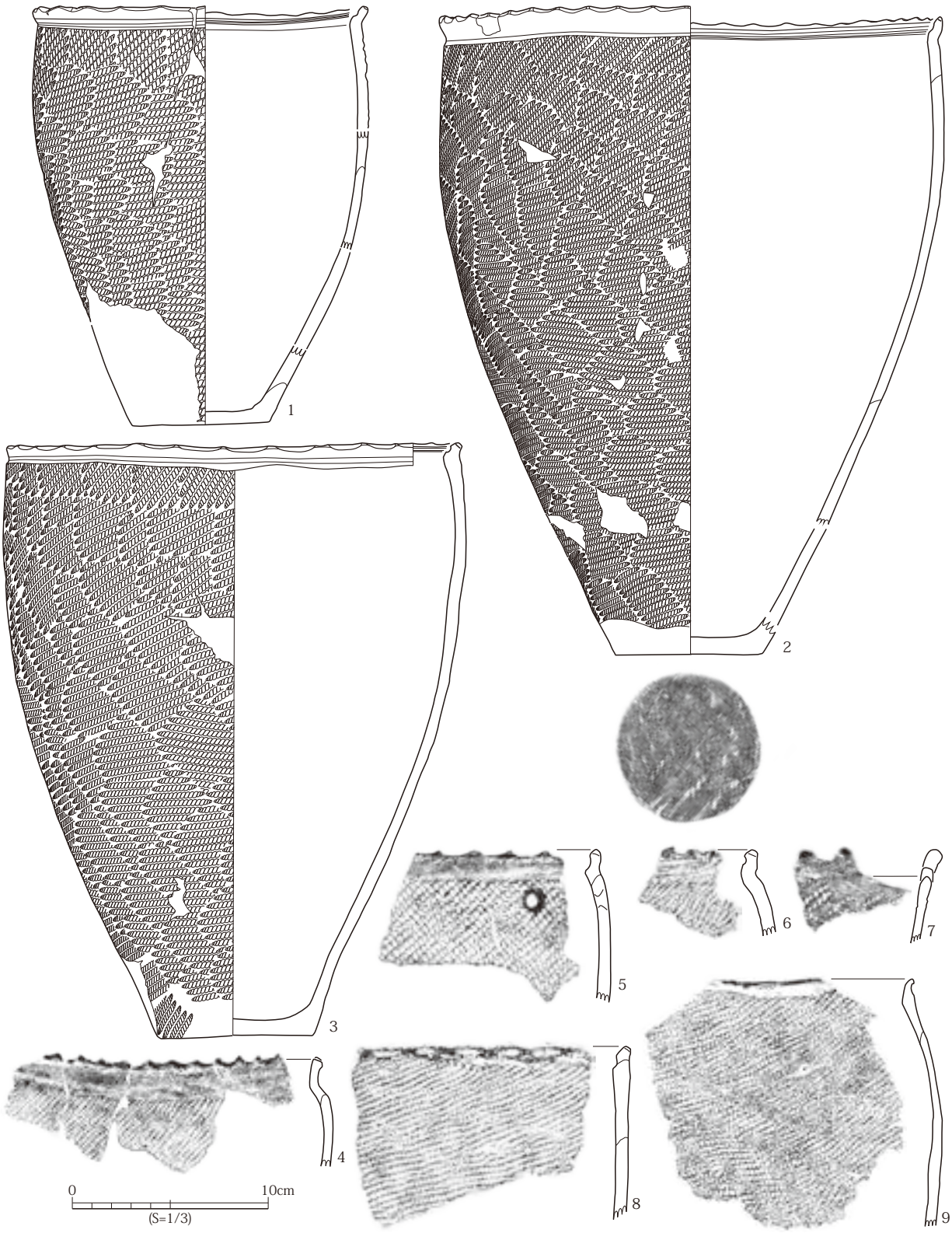
No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	浅鉢	A1cef	Ⅸ a	Ⅵ b1	F-23Gb / Ⅵ b1	平縁。山形突起（内外面に半球状突帯）＋山形突起（頂部刻み）＋突起間沈線。π字文（下向）、平行沈線文。口縁部内面沈線	120-1	Po384
2	鉢	A1cf	Ⅸ a	Ⅵ b1	F-23Fb / Ⅵ b1	平縁。山形突起（頂部刻み）＋突起間沈線。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線。内外面・口唇部赤彩・炭化物付着	119-13	Po524
3	浅鉢	A1cf	Ⅸ a	Ⅵ b1	F-23Ga / Ⅵ b1	平縁。山形突起（頂部付近内面刻み）＋突起間沈線。π字文（下向）、平行沈線文	120-2	Po538
4	浅鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ b1	F-23Fb / Ⅵ b1+ Ⅵ a	平縁。π字文（上下対向）。口縁部内面沈線。内面赤彩。胎土に海綿骨針を含む	120-3	Po487
5	浅鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ b1	F-23Ga / Ⅵ b1	平縁。π字文（上下対向、π字文間に隆線なし）。口縁部内面沈線	120-4	Po558
6	鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ b1	F-23Fb / Ⅵ b1+ Ⅵ a	平縁。π字文（上下対向）。縄文 LR。口縁部内面沈線。外面赤彩	120-6	Po191
7	浅鉢	A1cd	Ⅸ a	Ⅵ b1	F-23Ga / Ⅵ b1	口径（14.5cm）。平縁。押圧 8 単位＋口唇部沈線。π字文（上下対向）8 単位	119-2	Po535
8	深鉢	B1cef	Ⅸ a	Ⅵ b1	F-23Gb+G / Ⅵ b1+ Ⅵ a+ Ⅴ c	口径 16.3cm。平縁。装飾的な突起の両側に山形突起 1 単位＋二個一対の山形突起 4 単位＋突起間沈線。π字文（上下対向）6 単位。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	119-9	Po360
9	浅鉢	A1cd	Ⅸ a	Ⅵ b1	F-23Fb / Ⅵ b1+ Ⅵ a	平縁。押圧＋口唇部沈線。π字文（上下対向）。口縁部内面沈線	120-7	Po496
10	浅鉢	A1cf	Ⅸ a	Ⅵ b1	F-23Fb / Ⅵ b1	平縁。二個一対の小突起＋突起間沈線。π字文（上下対向、π字文間に隆線 2 条）。口縁部内面沈線。補修孔 1（盲孔）	120-5	Po497
11	浅鉢	A1cd	Ⅸ a	Ⅵ b1	F-23Fa+Fb+Gb / Ⅵ b1+ Ⅵ a	口径（17.6cm）。平縁。口唇部沈線＋押圧 8 単位。π字文（上下対向）8 単位。口縁部内面沈線。内外面赤彩。胎土に海綿骨針を含む	120-8	Po364
12	浅鉢	A1	Ⅸ e	Ⅵ b1	F-23Fb / Ⅵ b1+ Ⅵ a	口径（10.4cm）、器高 4.6cm、底径 7.6cm。平縁。π字文＋二個一対の貼瘤 4 単位、平行沈線文、底部付近に横位沈線文。底部ミガキ。口縁部内面沈線	119-3	Po198
13	深鉢	A1cd	Ⅹ Ⅰ b1	Ⅵ b1	F-23Fb / Ⅵ b1	平縁。押圧＋口唇部沈線。変形工字文。縄文 LR。口縁部内面沈線。内外面・口唇部炭化物付着	120-14	Po555
14	深鉢	B3	Ⅸ a+ Ⅹ Ⅰ b1	Ⅵ b1	F-23Fb / Ⅵ b1	大波状縁。突起間沈線。変形工字文、π字文（上向）。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線。内外面・口唇部炭化物付着	120-15	Po547
15	鉢	A1	Ⅸ e	Ⅵ b1	F-23Fb / Ⅵ b1	平縁。押圧。平行沈線文、π字文（下向）。口縁部内面沈線。補修孔 1	120-9	Po495
16	浅鉢	A1c	Ⅸ a+ Ⅹ Ⅰ b1?	Ⅵ b1	F-23Fb / Ⅵ b1	口径（19.7cm）、器高 6.7cm、、底径（14.5cm）。平縁。口唇部沈線。変形工字文か、π字文（上向）、平行沈線文、底部付近に横位沈線文。底部ミガキ。胎土に海綿骨針を含む	119-7	Po505

第149図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（64）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	浅鉢	B1cf	Ⅸ a+ Ⅹ Ⅰ b1	Ⅵ b1	F-23Fb / Ⅵ b1	平縁。二個一対の山形突起 + 突起間沈線。π字文（下向）、変形工字文、π字文（上向）。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	120-12	Po572
2	浅鉢	A1f	Ⅹ Ⅰ b1	Ⅵ b1	F-23Ga / Ⅵ b1	平縁。山形突起 + 二個一対の山形突起。平行沈線文、変形工字文 + 二個一対の貼瘤。直前段反撚縄文 LLR。口縁部内面沈線	120-16	Po529
3	鉢	A1	-	Ⅵ b1	F-23Ga / Ⅵ b1	平縁。平行沈線文、波状文。外面赤彩	120-10	Po418
4	深鉢	C1d	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ b1	F-23Fb / Ⅵ b1	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。無節縄文 L。内面・口唇部炭化物付着	120-13	Po541
5	鉢	A1cf	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ b1	F-23Fb / Ⅵ b1	平縁。二個一対の小突起 + 口唇部沈線。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面平行沈線文	120-11	Po483
6	皿	A1	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ b1	F-23Fb / Ⅵ b1	平縁。平行沈線文。口縁部内面沈線。ヘラで擬縄文か	120-17	Po509
7	鉢	C1	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ b1	F-23Ga+G / Ⅵ b1+ Ⅵ a	口径（11.0cm）、最大径（12.4cm）。平縁。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	120-19	Po441
8	壺	-	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ b1	F-23Ga / Ⅵ b1	平行沈線文。縄文 LR。遠賀川系土器	120-18	Po433
9	浅鉢	A1	Ⅹ Ⅱ x	Ⅵ b1	F-23Fb / Ⅵ b1	平縁。横位沈線文、平行沈線文（磨消）	120-25	Po583
10	アスファルト容器（浅鉢）	A1	Ⅹ Ⅲ	Ⅵ b1	F-23Ga / Ⅵ b1	口径 5.2cm、器高 2.3cm、底径 3.6cm。平縁。横位沈線文。底部ミガキ（素材土器の底部内面）。内外面・口唇部アスファルト付着。台部の転用	120-24	Po442
11	深鉢	B2	Ⅹ Ⅲ	Ⅵ b1	F-23Fb / Ⅵ b1+ Ⅵ a	口径（32.8cm）。小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	120-22	Po172
12	深鉢	C1	Ⅹ Ⅳ b1	Ⅵ b1	F-23Fb / Ⅵ b1	小波状縁。縄文 LR。口縁部内面沈線。外面炭化物付着。胎土に海綿骨針を含む	120-23	Po519
13	深鉢	B2	Ⅹ Ⅳ b1	Ⅵ b1	F-23Fb / Ⅵ b1	小波状縁。縄文 LR。口縁部内面沈線。外面炭化物付着	120-26	Po514
14	深鉢	C2	Ⅹ Ⅲ	Ⅵ b1	F-23Ga / Ⅵ b1	小波状縁。横位沈線文。縄文 LR	120-21	Po528
15	深鉢	B2	Ⅹ Ⅲ	Ⅵ b1	F-23Gb / Ⅵ b1	小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	120-20	Po358
16	深鉢	B2	Ⅹ Ⅳ b1	Ⅵ b1	F-23Ga / Ⅵ b1	小波状縁。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線。外面炭化物付着。胎土に海綿骨針を含む	120-27	Po426

第150図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（65）　F-23区E・F・Gグリッド

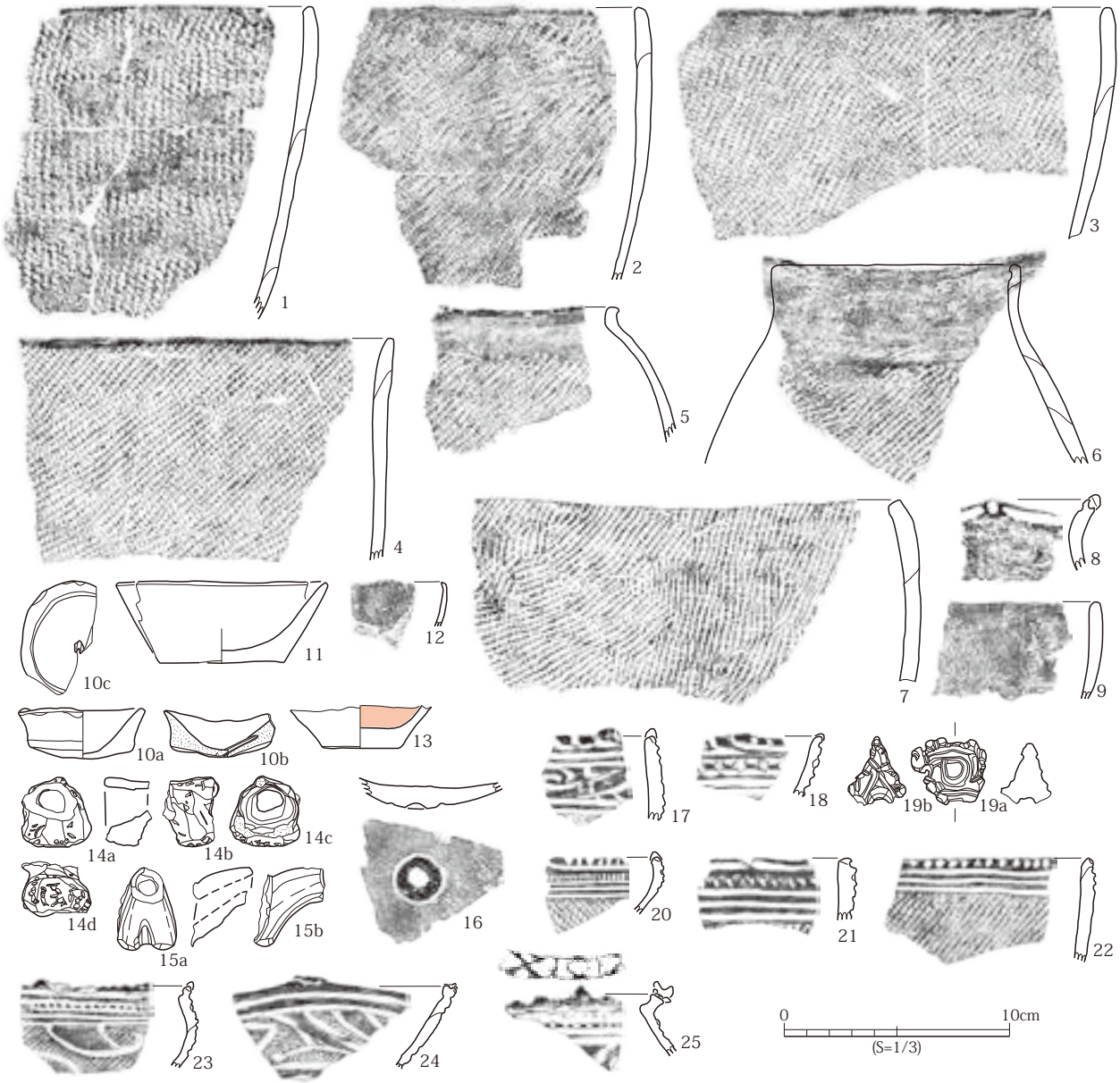


No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	B2	XIV b1	VI b1	F-23Fb+G / VI b1+ VI a	口径 18.2cm、器高 21.5cm、底径 6.8cm。小波状縁。縄文 LR。底部ナデ。口縁部内面沈線。外面炭化物付着	121-1	Po206
2	深鉢	B2	XIII	VI b1	F-23Fa / VI b1	口径 25.3cm、器高 31.5cm、最大径 27.1cm、底径 7.6cm。小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。底部網代痕→ミガキ。口縁部内面沈線	122-10	Po1845
3	深鉢	B2	XIII	VI b1	F-23Fb / VI b1	口径 23.2cm、器高 29.6cm、底径 8.3cm。小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。底部ミガキ。口縁部内面沈線	121-12	Po551
4	深鉢	C2	XIV b1	VI b1	F-23Ga / VI b1	小波状縁。縄文 LR	121-10	Po444
5	深鉢	C2	XIV b1	VI b1	F-23Fb / VI b1	小波状縁。縄文 LR。口縁部内面沈線。補修孔 1	121-3	Po481
6	深鉢	C2	XIV b1	VI b1	F-23Fb / VI b1	小波状縁。0 段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	121-8	Po502
7	鉢	A1e	XIV b1	VI b1	F-23Ga / VI b1	平縁。二個一対の山形突起。縄文 LR	121-9	Po423
8	深鉢	A2	XIV a1	VI b1	F-23Ga / VI b1	小波状縁。縄文 LR。口縁部内面沈線	121-6	Po468
9	深鉢	A1	XIV b1	VI b1	F-23Ga / VI b1	平縁。縄文 LR	121-5	Po420

第151図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（66）　F-23区E・F・Gグリッド

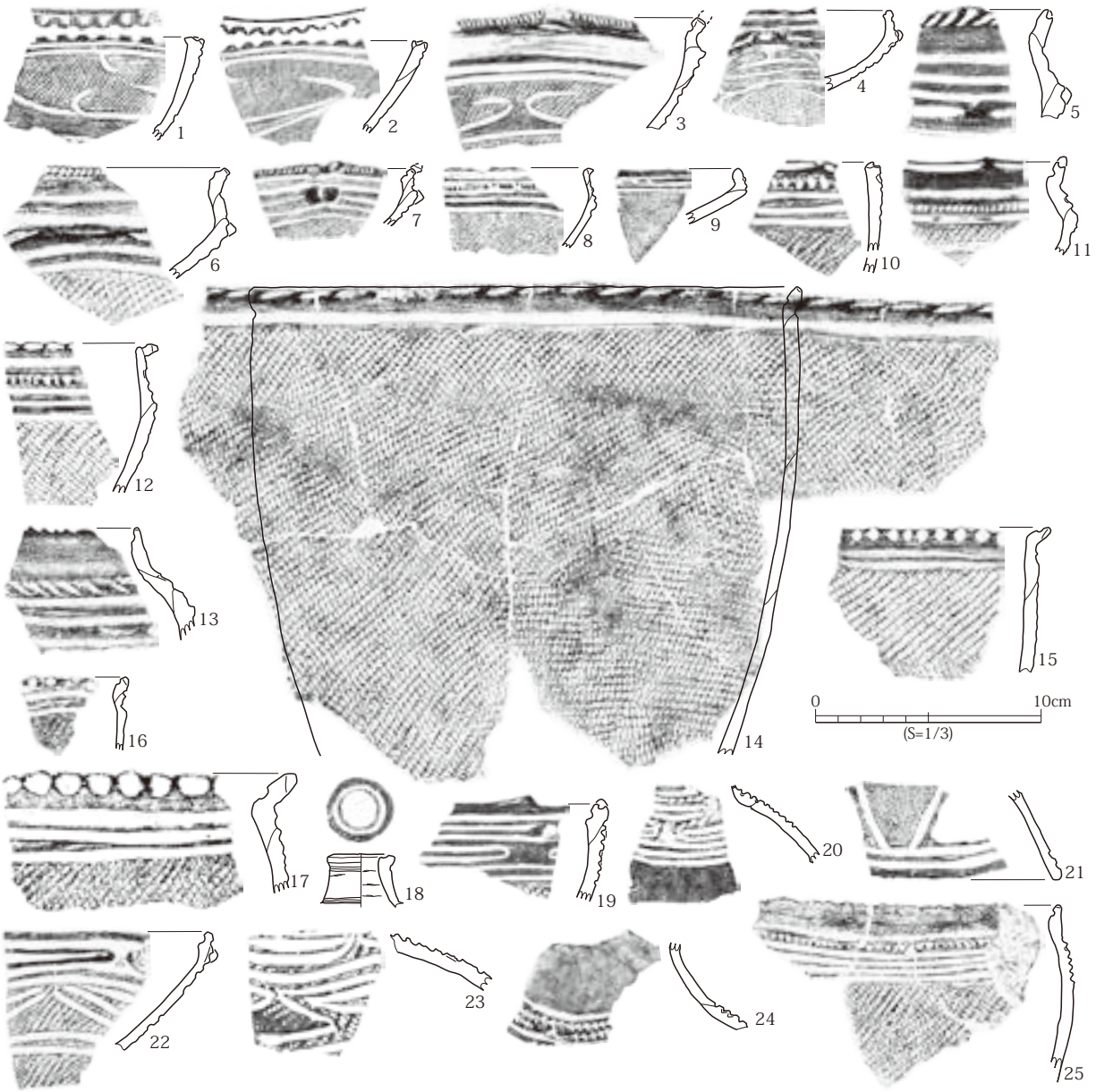
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	B2	XⅢ	Ⅵ b1	F-23Fb / Ⅵ b1	口径（30.1cm）。小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	123-1	Po548
2	鉢	A1	XⅣ b1	Ⅵ b1	F-23F+Ga+G / Ⅵ b1+ Ⅵ a+ Ⅴ c	口径（15.0cm）。平縁。縄文 LR。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	121-11	Po246
3	深鉢	C1	XⅣ b1	Ⅵ b1	F-23Fb+Ga / Ⅵ b1	口径（21.3cm）、器高 31.5cm、最大径 23.0cm、底径 9.4cm。平縁。直前段多条縄文 LR。底部ミガキ	124-12	Po527
4	深鉢	A1	XⅣ b1	Ⅵ b1	F-23Ga / Ⅵ b1	平縁。縄文 LR	121-2	Po416
5	深鉢	A1	XⅣ a1	Ⅵ b1	F-23Fb / Ⅵ b1	平縁。無節縄文 R	121-7	Po569
6	深鉢	A1o	XⅣ b1	Ⅵ b1	F-23Gb / Ⅵ b1	平縁（玉縁）。縄文 LR	121-4	Po392
7	深鉢	A1	XⅣ a1	Ⅵ b1	F-23Fb /　Ⅵ b1+ Ⅵ a+ 排土	口径 12.6cm、器高 14.2cm、底径 6.6cm。平縁。縄文 LR。底部ナデ	121-13	Po169

第152図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（67）　F-23区E・F・Gグリッド



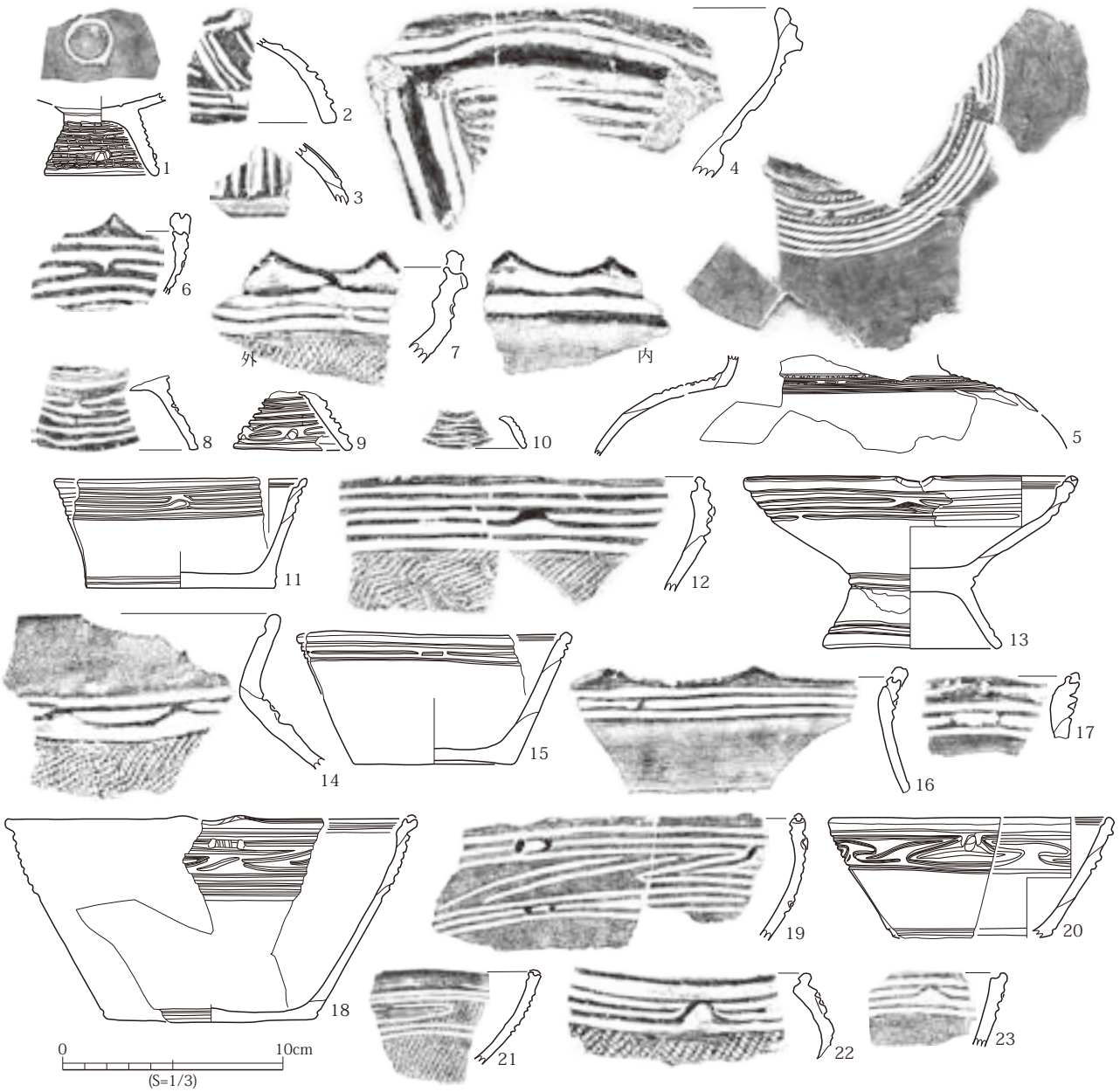
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1	XIV a1	VI b1	F-23Ga+Gb / VI b1+ V c	平縁。複節縄文 LRL	122-1	Po405
2	深鉢	A1	XIV a1	VI b1	F-23Gb / VI b1	平縁。縄文 LR。外面炭化物付着	122-2	Po362
3	深鉢	A1	XIV a1	VI b1	F-23Ga / VI b1	平縁。縄文 LR	122-3	Po430
4	深鉢	A1	XIV a1	VI b1	F-23Gb / VI b1	平縁。直前段多条縄文 LR。外面炭化物付着	122-4	Po361
5	鉢	C1	XIV b1	VI b1	F-23Fb / VI b1	平縁。縄文 LR	122-11	Po510
6	壺	B1	XIV b1	VI b1	F-23Gb / VI b1	口径（11.0cm）。平縁。縄文 LR。口縁部内面沈線	122-5	Po396
7	深鉢	A1	XIV a1	VI b1	F-23Ga / VI b1	平縁。0 段多条縄文 LR	122-6	Po533
8	壺	C1cf	XV	VI b1	F-23Gb / VI b1	平縁。山形突起（頂部刻み）+ 突起間沈線。口縁部内面沈線	122-8	Po381
9	深鉢	A1	XV	VI b1	F-23Fb / VI b1	平縁	122-9	Po568
10	袖珍土器浅鉢	C1	XV	VI b1	F-23Ga / VI b1	口径（5.7cm）、器高 2.2cm、底径（4.6cm）。平縁。底部ナデ。底部に貫通孔 1	122-14	Po539
11	浅鉢	A1	XV	VI b1	F-23Ga+Gb / VI b1	口径 9.6cm、器高 3.9cm、底径 6.1cm。平縁。底部ミガキ	122-16	Po385
12	製塩土器深鉢	A1	XV	VI b1	F-23Fb / VI b1	平縁。胎土に海綿骨針を含む	122-7	Po3913
13	漆容器（深鉢）	-	XV	VI b1	F-23Fb / VI b1	底径 3.6cm。底部ミガキ。内面赤漆付着	122-15	Po585
14	注口土器	-	-	VI a	F-23G / VI a	縄文 LR	122-17	Po3975
15	注口土器	-	III o	VI a	F-23F / VI a	三叉文か	122-12	Po3933
16	注口土器	-	-	VI a	F-23Gb / VI a	底部高台付 + 環状沈線文	122-13	Po337
17	深鉢	A1df	IV	VI a	F-23F / VI a	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。平行沈線文、羊歯状文	123-10	Po94
18	鉢	A1cd	V	VI a	F-23Fb / VI a	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。列点文、平行沈線文	123-2	Po175
19	香炉形土器	-	-	VI a	F-23G / VI a	二個一対の装飾的な突起（羊歯状の浮線文、環状沈線文）	122-18	Po3963
20	鉢	A1df	X II a1	VI a	F-23Ga / VI a	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。平行沈線文 + 櫛歯状刻目。縄文 RL。胎土に海綿骨針を含む	123-3	Po331
21	鉢	A1d	X II b1	VI a	F-23G / VI a	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文 + 刺突列。0 段多条縄文 LR	123-4	Po256
22	鉢	A1d	X II x	VI a	F-23Gb / VI a	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。0 段多条縄文 LR	123-11	Po339
23	鉢	C1df	V + VII a	VI a	F-23Fb-Ga / VI a	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。列点文 + 雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR。口縁部内面沈線	123-12	Po226
24	III	A1cf	VII a	VI a	F-23G / VI a	平縁。山形突起 + 口唇部沈線 + 弧状の短沈線。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。無節縄文 L。口縁部・体部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	123-13	Po245
25	注口土器	B1bcf	V + VII a	VI a	F-23G / VI a	平縁。山形突起 + 短沈線文 + 羊歯状浮線文 + 口唇部沈線。列点文、平行沈線文、鉢巻状雲形文（磨消縄文）。縄文 LR。胎土に海綿骨針を含む	123-5	Po301

第153図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（68）　F-23区E・F・Gグリッド



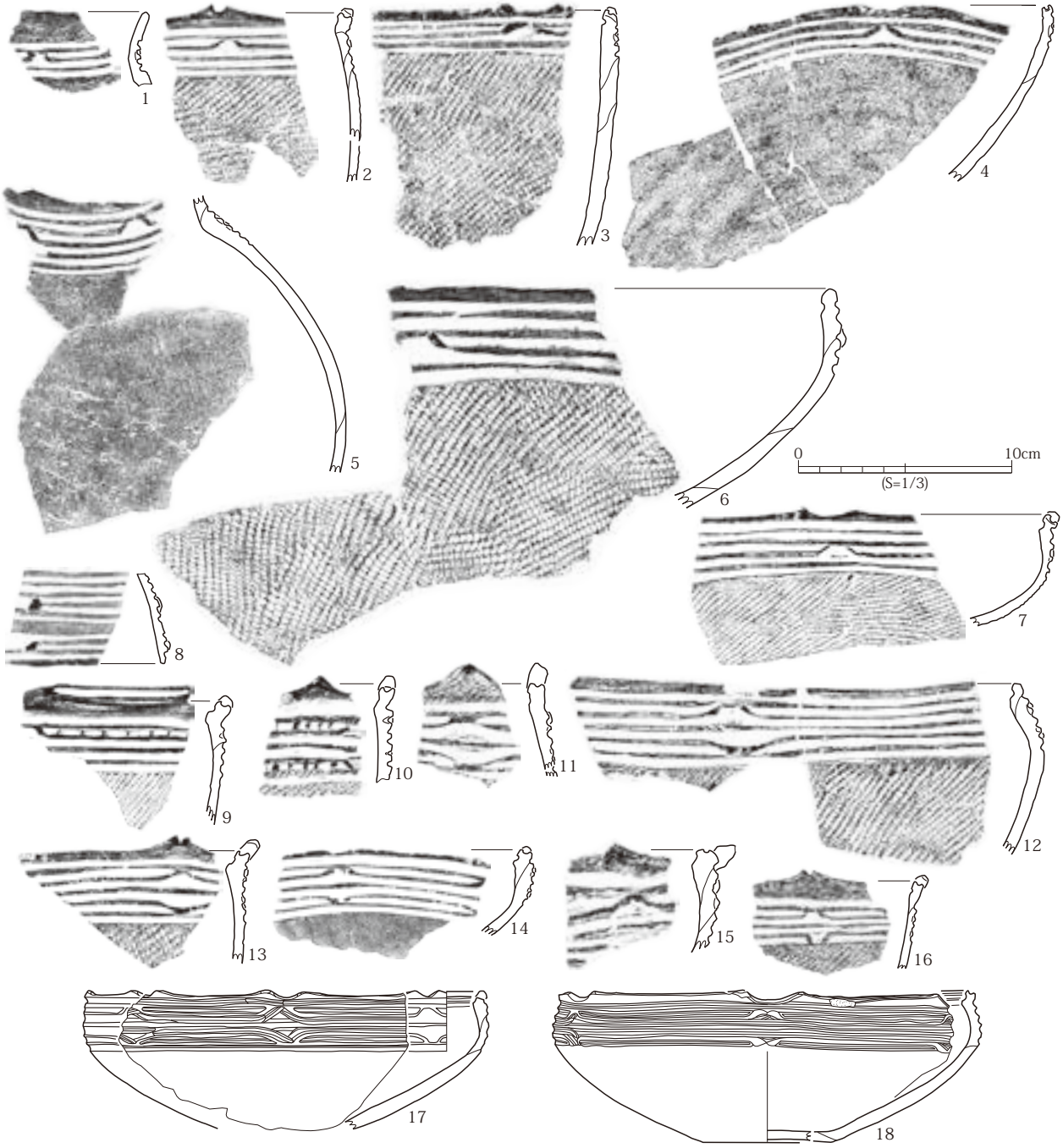
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	皿	A1bd	Ⅶb	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	平縁。ヘラ刻目＋波状浮線文。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。体部下半内面隆帯＋充填縄文 LR	123-14	Po92
2	皿	A1bd	Ⅶb	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	平縁。ヘラ刻目＋波状浮線文。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。体部下半内面沈線	123-15	Po56
3	鉢	B1df	Ⅶb	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	平縁。山形突起＋櫛歯状刻目。平行沈線文、雲形文（沈線表現）。縄文 LR。口縁部内面沈線	123-20	Po272
4	台付浅鉢	B1	Ⅵb+Ⅷ	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	平縁。平行沈線文、メガネ状浮文＋二個一対の貼瘤、X 字状文（C 字状文）。縄文 LR、RL。口縁部内面沈線。外面赤彩	123-16	Po129
5	鉢	B1	Ⅷ	Ⅵa	F-23Ga / Ⅵa	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文、メガネ状浮文	123-26	Po308
6	鉢	B1d	Ⅷ	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文、メガネ状浮文。縄文 LR。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	123-21	Po135
7	鉢	A1df	Ⅷ	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	平縁。二個一対の小突起＋櫛歯状刻目。メガネ状浮文＋二個一対の貼瘤。縄文 LR。口縁部内面沈線	123-6	Po260
8	鉢	B1d	ⅩⅡa2	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋ヘラ刻目（π字状の表現あり）。縄文 LR	123-9	Po124
9	浅鉢	A1	ⅩⅡa2	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	平縁。平行沈線文＋ヘラ刻目（π字状の表現か）	123-7	Po300
10	鉢	A1cd	ⅩⅡb1	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	平縁。弧状の短沈線文＋ヘラ刻目。平行沈線文＋刺突列、平行沈線文。直前段反撚縄文 LLR	123-17	Po51
11	深鉢	B1cf	ⅩⅡb1	Ⅵa	F-23Fb / Ⅵa	平縁。山形突起＋突起間沈線。平行沈線文＋刺突列。0 段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	123-18	Po209
12	鉢	B1d	ⅩⅡa2	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文＋ヘラ刻目（π字状の表現あり）。0 段多条縄文 LR	123-22	Po128
13	鉢	B1d	ⅩⅡa1	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋櫛歯状刻目。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	123-19	Po121
14	深鉢	A1	ⅩⅢ	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	口径（24.4cm）。平縁。連続する短沈線文。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	124-1	Po48
15	深鉢	B1d	ⅩⅢ	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。縄文 LR	123-23	Po123
16	袖珍土器鉢	B1cd	ⅩⅡx	Ⅵa	F-23Fa / Ⅵa	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文	123-8	Po3932
17	深鉢	B1d	ⅩⅡx	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文。縄文 LR	123-24	Po293
18	壺	H1c	ⅩⅢ	Ⅵa	F-23Fa / Ⅵa	口径 2.9cm。平縁。口唇部沈線。横位沈線文	124-5	Po144
19	鉢	A1cf	Ⅸa+Ⅹb	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	平縁。二個一対の小突起＋突起間沈線。π字文（下向）、工字文（陽刻）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	123-25	Po264
20	壺	-	Ⅹa	Ⅵa	F-23Fb-Ga / Ⅵa	平行沈線文＋刺突列、工字文（陰刻）＋刺突列、平行沈線文。胎土に海綿骨針を含む	123-27	Po225
21	台部	-	ⅩⅡg2	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	透かし彫りを伴う三角形状の区画文。縄文 LR	124-2	Po248
22	鉢	A1	Ⅹa	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	平縁。工字文（陰刻）＋二個一対の貼瘤、斜位の平行沈線文、平行沈線文。0 段多条縄文 LR。口縁部内面沈線。内外面赤彩。胎土に海綿骨針を含む	124-3	Po296
23	壺	-	Ⅸa+Ⅹc	Ⅵa	F-23Fb-Ga / Ⅵa	π字文（下向、磨消縄文）、工字文（Z 字状、磨消縄文）。縄文 LR	124-4	Po224
24	壺	-	Ⅸa2	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	沈線文＋刺突列、π字文（下向）＋刺突列、平行沈線文	125-4	Po96
25	深鉢	C1d	Ⅸa2	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	平縁。ヘラ刻目。π字文（下向）＋刺突列。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	125-25	Po125

第154図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（69）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型１	類型２	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	台部	-	Ⅸb	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	台部径 5.4cm。平行沈線文（沈線内に工具の押し引きによる低い段が付く）、π字文（下向）＋二個一対の貼瘤 4 単位。底部内面に環状沈線	124-7	Po336
2	蓋	A1	Ⅸa	Ⅵa	F-23Fb / Ⅵa	平縁。横位の平行沈線文＋盲孔、斜位の平行沈線文、π字文（上向）	125-13	Po201
3	壺	-	ⅩⅢ	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	横位沈線文、縦位の平行する隆帯	125-3	Po243
4	鉢	A1	ⅩⅡd1	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	平縁。平行沈線文、横位流体＋縦位隆帯、横位の平行沈線文＋縦位の平行沈線文。口縁部内面沈線	125-1	Po104
5	壺	-	Ⅸa+Ⅹb	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	平行沈線文＋刺突列、π字文（下向）2 単位か＋工字文（陽刻）2 単位か＋刺突列	125-7	Po259
6	浅鉢	A1ce	Ⅸa	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	平縁。山形突起＋口唇部沈線。平行沈線文、π字文（上向）。口縁部内面平行沈線文	125-9	Po81
7	鉢	B3	Ⅸa	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	大波状縁。山形突起＋突起間沈線。三角形浮線文、π字文（下向）。縄文 LR。口縁部内面平行沈線文	125-19	Po303
8	台部	-	Ⅸa	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	平行沈線文、π字文（下向）	125-10	Po58
9	台部	-	Ⅸa	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	台部径 5.4cm。平行沈線文、π字文（下向）5 単位	124-8	Po250
10	袖珍土器台部	-	Ⅸa	Ⅵa	F-23Gb / Ⅵa	π字文（上向）、平行沈線文	125-20	Po343
11	浅鉢	A1	Ⅸa	Ⅵa	F-23Ga / Ⅵa	口径（11.4cm）、器高 5.0cm、底径 8.5cm。平縁。π字文（下向）4 単位か、平行沈線文、底部付近に横位沈線文。底部ミガキ。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	124-9	Po321
12	鉢	A1	Ⅸa	Ⅵa	F-23F+Ga / Ⅵa	平縁。平行沈線文、π字文（下向）。縄文 LR+ 附加条 R、縄文 LR。口縁部内面沈線	125-2	Po307
13	台付浅鉢	A1cd	Ⅸa	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	口径（14.9cm）、器高 7.8cm、台部径 8.0cm。平縁。押圧（4 単位）＋口唇部沈線。π字文（下向）4 単位、平行沈線文。底部ナデ。口縁部内面沈線	124-11	Po230
14	壺	F1	Ⅸa	Ⅵa	F-23Fb / Ⅵa	平縁。π字文（下向）。0 段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	125-14	Po168
15	鉢	A1	Ⅸc	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	口径（12.3cm）、器高 6.1cm、底径 7.1cm。平縁。π字文 4 単位。底部ミガキ、かるい上げ底。口縁部内面沈線	124-10	Po141
16	深鉢	C1ce	Ⅸc	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	平縁。山形突起＋突起間沈線。π字文、平行沈線文。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	125-8	Po294
17	壺	-	Ⅸc	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	平縁。山形突起（頂部刻み）＋口唇部沈線。π字文。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	125-11	Po134
18	鉢	A1cf	Ⅸa+ⅩⅠa	Ⅵa	F-23F+G / Ⅵa	口径 18.3cm、器高 9.4cm、底径 9.5cm。平縁。二個一対の小突起＋突起間沈線。π字文（下向）、変形工字文（祖型）、平行沈線文、底部付近に横位沈線文。底部ミガキ。口縁部内面沈線	124-6	Po137
19	鉢	A1cf	Ⅸc+ⅩⅠa	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	平縁。二個一対の小突起＋突起間沈線。π字文（沈線に二個一対の貼瘤）、変形工字文（祖型）。口縁部内面沈線	125-18	Po72
20	浅鉢	A1	ⅩⅠa	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	口径（12.6cm）、器高（5.4cm）底径（7.2cm）。平縁。変形工字文（祖型）4 単位、底部付近に横位沈線文。底部ナデ。口縁部内面沈線	125-6	Po79
21	浅鉢	A1cf	ⅩⅠa	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	平縁。二個一対の小突起＋突起間沈線。変形工字文（祖型）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	125-23	Po136
22	鉢	B1	Ⅸe	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	平縁。π字文（下向）。縄文 LR。口縁部内面沈線。外面赤彩	125-12	Po251
23	浅鉢	A1	Ⅸa	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	平縁。π字文（下向）、平行沈線文。口縁部内面沈線	125-22	Po80

第155図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（70）　F-23区E・F・Gグリッド

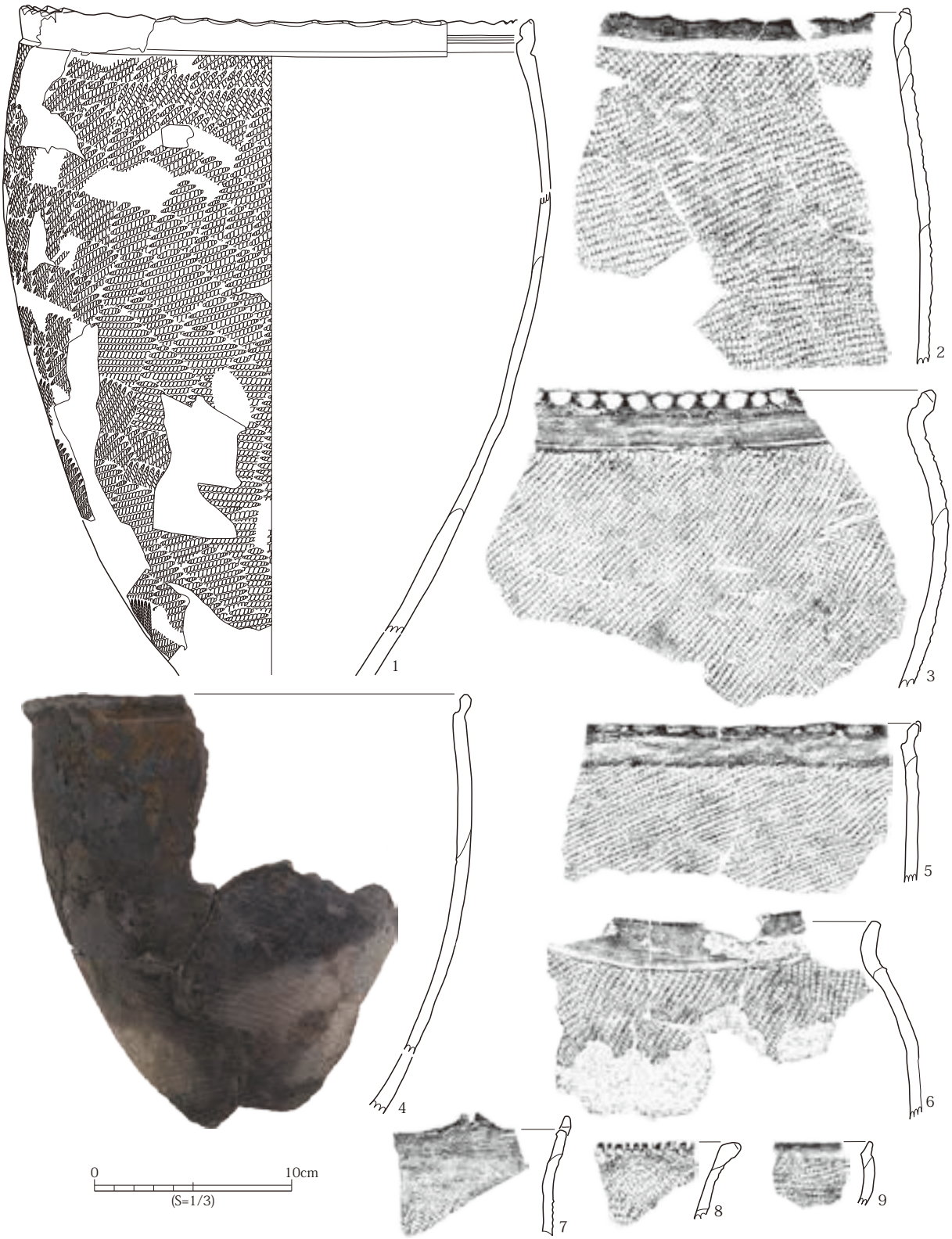


No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	壺	B1	Ⅸ a	Ⅵ a	F-23Fb / Ⅵ a	平縁。π字文（下向）+ 平行沈線文	125-21	Po213
2	深鉢	A1cf	Ⅸ a	Ⅵ a	F-23F / Ⅵ a	平縁。二個一対の小突起 + 突起間沈線。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	125-31	Po97
3	深鉢	A1cf	Ⅸ a	Ⅵ a	F-23Fb / Ⅵ a	平縁。二個一対の小突起 + 突起間沈線。π字文（下向）。0 段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	125-15	Po174
4	鉢	A1cd	Ⅸ a	Ⅵ a	F-23F / Ⅵ a	平縁。押圧 + 口唇部沈線。π字文（下向）、平行沈線文。口縁部内面沈線	125-5	Po102
5	壺	E	Ⅸ a	Ⅵ a	F-23G / Ⅵ a	π字文（下向）2 段、平行沈線文	125-24	Po271
6	浅鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ a	F-23Fb+F / Ⅵ a	平縁。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	125-17	Po195
7	浅鉢	A1cf	Ⅸ a	Ⅵ a	F-23G / Ⅵ a	平縁。二個一対の山形突起 + 突起間沈線。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	125-16	Po231
8	台部	-	Ⅸ b	Ⅵ a	F-23F / Ⅵ a	平行沈線文、π字文（上向）+ 二個一対の貼瘤	125-30	Po109
9	深鉢	B1cf	Ⅸ a2	Ⅵ a	F-23F / Ⅵ a	平縁。二個一対の小突起 + 突起間沈線。π字文（下向）+ 刺突列、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	125-35	Po145
10	深鉢	A1cf	Ⅸ a2	Ⅵ a	F-23F / Ⅵ a	平縁。二個一対の小突起 + 突起間沈線。π字文（上下対向）+ 隆線間刺突列。縄文 LR。口縁部内面沈線	125-26	Po49
11	深鉢	-	Ⅸ a	Ⅵ a	F-23F / Ⅵ a	山形突起 + 突起間沈線。π字文（上下対向）。縄文原体不明。口縁部内面沈線	125-27	Po76
12	鉢	A1	Ⅸ a	Ⅵ a	F-23G / Ⅵ a+ Ⅴ c	平縁。π字文（上下対向）。縄文 LR。口縁部内面沈線	125-32	Po305
13	深鉢	C1cf	Ⅸ a	Ⅵ a	F-23F / Ⅵ a	平縁。山形突起（頂部刻み）+ 突起間沈線。π字文（上下対向）。縄文 LR。口縁部内面沈線	125-37	Po107
14	浅鉢	B1	Ⅸ a	Ⅵ a	F-23Fa / Ⅵ a	平縁。二個一対の小突起 + 突起間沈線。π字文（上下対向）。口縁部内面沈線。外面・口唇部赤彩。胎土に海綿骨針を含む	125-36	Po148
15	鉢	A1ce	Ⅸ a	Ⅵ a	F-23Ga / Ⅵ a	平縁。山形突起 + 口唇部沈線。π字文（上下対向）。口縁部内面沈線	125-29	Po315
16	深鉢	B1ce	Ⅸ a	Ⅵ a	F-23G / Ⅵ a	大波状縁。頂部ヘラ刻目 + 口唇部沈線。π字文(上下対向)。0 段多条縄文 LR。口縁部内面沈線。内面・口唇部炭化物付着	125-28	Po253
17	浅鉢	A1cd	Ⅸ a	Ⅵ a	F-23Fb / Ⅵ a	口径（18.4cm）。平縁。口唇部沈線 + 押圧 8 単位。π字文（上下対向）8 単位。口縁部内面沈線。内外面赤彩。胎土に海綿骨針を含む	125-34	Po160
18	浅鉢	A1cf	Ⅸ a	Ⅵ	F-23F-G / Ⅵ確認面	口径（19.5cm）、器高 7.0cm、底径 5.8cm。平縁。二個一対の山形突起 6 単位 + 突起間沈線。π字文（上下対向）6 単位。底部ミガキ。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	125-33	Po2863

第156図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（71）　F-23区E・F・Gグリッド

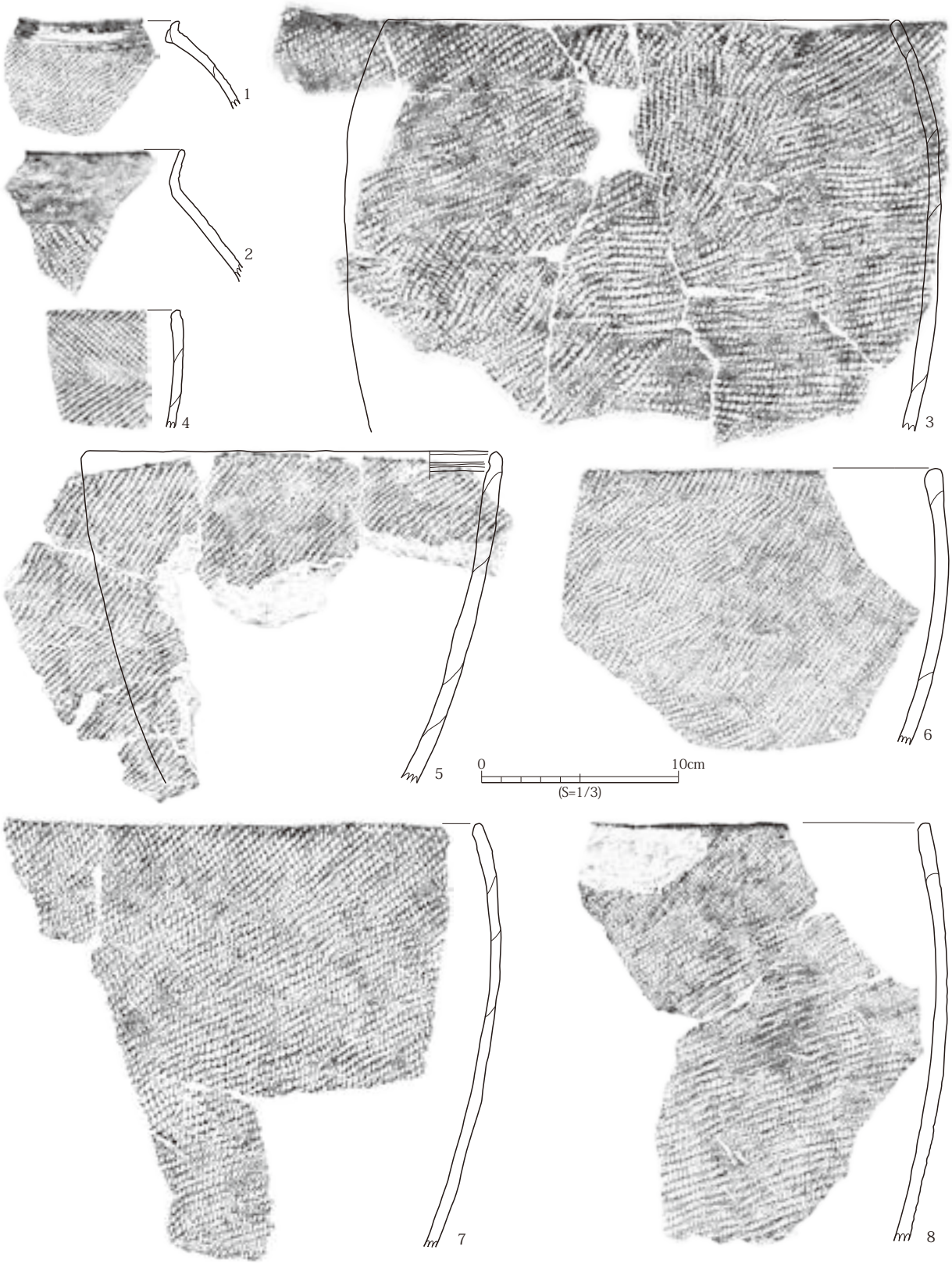
No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	浅鉢	A1	Ⅸa	Ⅵa	F-23F+Ga / Ⅵa	口径（17.2cm）、器高 5.1cm。底径（6.9cm）。平縁。π字文（上下対向）。底部網代痕→ミガキ。口縁部内面沈線	126-14	Po313
2	浅鉢	A1	Ⅸa	Ⅵa	F-23Ga / Ⅵa	口径 19.1cm、器高 7.6cm、最大径 20.4cm、底径 6.6cm。平縁。π字文（上下対向）6 単位。底部ガキ。口縁部内面沈線	126-16	Po312
3	鉢	B1cf	Ⅸa+ⅩⅠb1	Ⅵa	F-23Fa / Ⅵa	平縁。二個一対の小突起＋突起間沈線。π字文（下向）、変形工字文、π字文（上向）。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	126-3	Po147
4	鉢	A1	Ⅸa+ⅩⅠb1	Ⅵa	F-23Fb / Ⅵa	平縁。変形工字文、π字文（上向）。口縁部内面沈線	126-4	Po156
5	鉢	A1cf	Ⅸa+ⅩⅠb1	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	平縁。二個一対の小突起＋突起間沈線。変形工字文、π字文（上向）2 段、底部付近に横位の沈線文。底部ミガキ。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	126-1	Po261
6	浅鉢	A1cf	Ⅸa+ⅩⅠb1	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	平縁。二個一対の小突起＋突起間沈線。π字文（下向）＋変形工字文＋π字文（上向）。口縁部内面沈線。外面・口唇部赤彩	126-2	Po242
7	台付浅鉢	B3cef	Ⅸa	Ⅵa	F-23Fb+F / Ⅵa+Ⅴc	口径 17.9cm。大波状縁。山形突起（頂部に装飾的な突起）4 単位＋山形突起（小）4 単位＋突起間沈線。π字文（下向）4 単位、π字文（上下対向）4 単位。突起・口縁部内面沈線	126-17	Po199
8	浅鉢	A1	Ⅸa+ⅩⅠb1	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	口径（17.1cm）、器高 6.2cm、底径（9.4cm）。平縁。口唇部沈線＋押圧 4 単位。π字文（下向）4 単位、変形工字文 4 単位、π字文（上向）4 単位。底部ミガキ。口縁部内面沈線	126-18	Po268
9	鉢	C1	Ⅸa+Ⅸe+Ⅹb	Ⅵa	F-23(Fa-Fb)+F / Ⅵa	口径（12.5cm）。平縁。π字文（下向）3 単位、工字文（陽刻）3 単位、π字文（上向）3 単位、体部上半にπ字文（下向、隆線 3 本）＋π字文（上向、隆線 3 本）3 単位。縄文 LR。口縁部内面沈線	126-9	Po152
10	鉢	A1f	ⅩⅠb1	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	平縁。二個一対の山形突起。平行沈線文、変形工字文＋二個一対の貼瘤。口縁部内面沈線	126-12	Po95
11	深鉢	B3cf	Ⅸa+ⅩⅠa	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	大波状縁。山形突起＋突起間沈線。変形工字文（祖型）＋二個一対の貼瘤、π字文（上向）。縄文 LR。口縁部内面沈線。内外面炭化物付着	126-5	Po138
12	台付浅鉢	B3ce	ⅩⅠc	Ⅵ	F-23F-G / Ⅵ確認面	大波状縁。山形突起（楕円形突帯）＋突起間沈線。変形工字文。突起・口縁部内面沈線	126-11	Po3928
13	台付浅鉢	B3cd	ⅩⅠc	Ⅵa	F-23Fb+(F-G) / Ⅵa	口径（18.8cm）、最大径（20.3cm）。大波状縁。頂部に二個一対の小突起＋口唇部沈線。変形工字文。突起・口縁部内面沈線。内外面・口唇部赤彩	126-10	Po214
14	浅鉢	A1	Ⅸe+ⅩⅠc	Ⅵa	F-23G+(F-G) / Ⅵa+Ⅵ確認面＋Ⅴc+Ⅴ	口径（17.4cm）、底径（8.5cm）。平縁。変形工字文 6 単位、π字文（上向）6 単位。底部ミガキ。口縁部内面沈線	126-19	Po236
15	台部	-	-	Ⅵ	F-23E / Ⅵ確認面	平行沈線文、波状文	127-1	Po45
16	台部	-	-	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	平行沈線文、波状文	126-6	Po78
17	袖珍土器台部	-	-	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	刺突文。縄文 RL	126-15	Po3951
18	深鉢	B2	ⅩⅢ	Ⅵa	F-23F-G / Ⅵa	小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。外面炭化物付着	126-8	Po221
19	深鉢	C1	ⅩⅢ	Ⅵa	F-23Ga+G / Ⅵa	口径（8.5cm）、器高 11.8cm、最大径（9.8cm）、底径 5.7cm。平縁。横位沈線文。縄文 LR。底部ミガキ。口縁部内面沈線	126-7	Po335
20	深鉢	B1	ⅩⅢ	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	平縁。横位沈線文。縄文 LR。内外面炭化物付着	127-8	Po105

第157図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（72）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型１	類型２	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	B2	Ⅹ Ⅲ	Ⅵ a	F-23(Fa-Fb)+F / Ⅵ a	口径（25.6cm）、最大径（27.6cm）。小波状縁。横位沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	127-9	Po151
2	深鉢	B2	Ⅹ Ⅲ	Ⅵ a	F-23F / Ⅵ a	小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	127-4	Po116
3	深鉢	B2	Ⅹ Ⅲ	Ⅵ a	F-23F / Ⅵ a	小波状縁。横位沈線文。直前段多条縄文 LR 末端部強調。口縁部内面沈線	126-13	Po132
4	深鉢	B2	Ⅹ Ⅲ	Ⅵ a	F-23Fb+F / Ⅵ a	小波状縁。横位沈線文。縄文 RL。口縁部内面沈線。内外面炭化物付着	127-7	Po207
5	深鉢	B2	ⅩⅣ b1	Ⅵ a	F-23Fa / Ⅵ a	小波状縁。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	128-1	Po149
6	深鉢	C1	Ⅹ Ⅲ	Ⅵ a	F-23F / Ⅵ a	平縁。横位沈線文。縄文 LR	127-5	Po82
7	深鉢	C1de	ⅩⅣ b1	Ⅵ a	F-23Fb / Ⅵ a	平縁。山形突起（頂部刻み）。0 段多条縄文 LR	127-6	Po204
8	深鉢	C1d	ⅩⅣ a1	Ⅵ a	F-23Fb / Ⅵ a	平縁。ヘラ刻目。縄文 LR	127-2	Po210
9	鉢	B1	ⅩⅣ b1	Ⅵ a	F-23Ga / Ⅵ a	平縁。0 段多条縄文 LR	127-3	Po330

第158図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（73）　F-23区E・F・Gグリッド

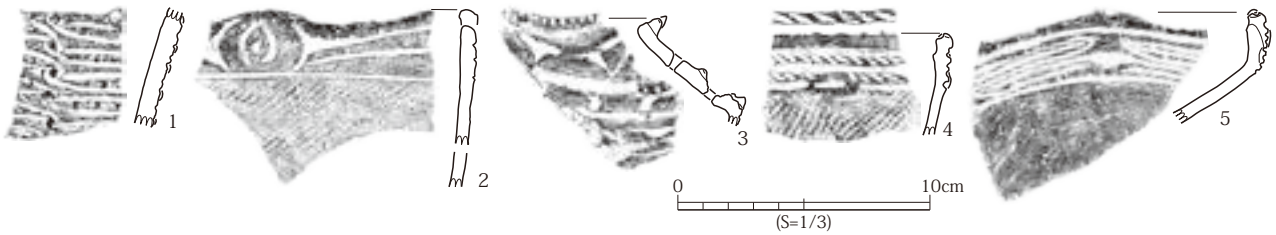


No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	鉢	B1	XIV b1	VI a	F-23F / VI a	平縁。縄文 LR。口縁部内面沈線	128-11	Po59
2	壺	B1	XIV b1	VI a	F-23G / VI a	平縁。複節縄文 RLR	128-10	Po291
3	深鉢	A1	XIV a1	VI a	F-23Fb+F / VI a+ V c	口径（26.0cm）。平縁。直前段多条縄文 LR。外面炭化物付着	128-3	Po205
4	深鉢	A1	XIV a2	VI a	F-23Gb / VI a	平縁。羽状縄文 LR/RL	128-12	Po341
5	深鉢	A1	XIV a1	VI a	F-23Fb / VI a	口径（20.8cm）。平縁。縄文 LR。口縁部内面沈線	128-2	Po173
6	深鉢	A1	XIV a1	VI a	F-23F / VI a	平縁。縄文 LR	128-4	Po71
7	深鉢	A1	XIV a1	VI a	F-23Ga / VI a	平縁。縄文 LR	128-5	Po311
8	深鉢	A1	XIV a1	VI a	F-23F / VI a	平縁。縄文 LR	128-9	Po99

第159図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（74）　F-23区E・F・Gグリッド

No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	壺	G1	XⅢ	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	口径 10.5cm。平縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	129-1	Po89
2	深鉢	A1	XⅣa1	Ⅵa	F-23Fa / Ⅵa	平縁。直前段多条縄文 LR	128-8	Po150
3	深鉢	A1	XⅣa1	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	平縁。縄文 LR	128-7	Po292
4	漆容器（深鉢）	-	XⅣ	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	底径 6.1cm。縄文 LR。底部ナデ。内面赤漆付着	128-14	Po53
5	袖珍土器鉢	-	XⅤ	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	底径 4.6cm。底部木葉痕→ナデ	128-15	Po90
6	壺	A1	XⅤ	Ⅵa	F-23Fb-Ga / Ⅵa	平縁	128-6	Po228
7	製塩土器深鉢か	A1	XⅤ	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	平縁	128-13	Po238
8	鉢	B1d	XⅡa2	風倒木痕	F-23Eb・SX121 / 堆積土	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文原体不明	129-2	Po2578
9	深鉢	B1cd	XⅢ	風倒木痕	F-23Eb・SX121 / 堆積土	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。縄文 RL	129-3	Po2577
10	鉢	C1	XⅠc	風倒木痕	F-23Eb・SX121 / 堆積土	平縁。変形工字文＋二個一対の貼瘤、平行沈線文。口縁部内面沈線	129-4	Po2579
11	注口土器	-	-	Ⅴc	F-23F / Ⅴc	2 個 1 対の小突起＋入組状の隆線（隆線上刻目）＋環状沈線＋二個一対の小突起。縄文 LR	129-9	Po11
12	壺	D1cde	Ⅸa	Ⅴc	F-23F / Ⅴc	口径（5.4cm）。平縁。装飾的な突起＋口唇部沈線＋押圧 3 単位。π字文（下向）4 単位、平行沈線文。口縁部内面沈線。外面・口唇部赤彩	129-7	Po4
13	浅鉢	A3	Ⅸc	Ⅴc	F-23G / Ⅴc	口径（11.6cm）、器高 4.9cm、底径（6.6cm）。大波状縁。突起間沈線。π字文、平行沈線文、底部付近に横位沈線文。底部ミガキ。口縁部内面沈線	129-10	Po349
14	深鉢	B3cdf	Ⅸa	Ⅴc	F-23F / Ⅴc	大波状縁。二個一対の小突起＋突起間沈線。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。内外面炭化物付着	129-12	Po40
15	鉢	A1cdf	Ⅸa	Ⅴc	F-23G / Ⅴc	平縁。二個一対の小突起＋突起間沈線。π字文（上下対向）。0 段多条縄文 LR。外面赤彩	129-6	Po15
16	突起	-	XⅢ	Ⅴc	F-23G / Ⅴc	大波状縁。方形突起（頂部円盤状飾り）。横位沈線文。突起内面沈線。突起赤彩	129-8	Po354
17	鉢	A1	Ⅸa+XⅠb2	Ⅴ	F-23G / Ⅴ	平縁。変形工字文＋二個一対の貼瘤、π字文（上向）。口縁部内面沈線	129-5	Po345
18	台部	-	-	Ⅴc	F-23G / Ⅴc	平行沈線文、波状文	129-11	Po3964
19	壺	A1	XⅣb1	Ⅴc	F-23G / Ⅴc	口径（10.0cm）。平縁。縄文 LR	129-13	Po353

第160図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（75）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型１	類型２	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	-	Ⅱ Ba	Ⅵ	F-23 / Ⅵ確認面	入組帯状文（縄文）＋貼瘤。縄文原体不明	129-14	Po33
2	深鉢	A3	Ⅲ a	Ⅵ	F-23 / Ⅵ確認面	大波状縁。魚眼状三叉文、沈線文。縄文 LR	129-15	Po37
3	香炉形土器	-	Ⅲ o	Ⅵ	F-23 / Ⅵ確認面	平縁。二個一対の小突起＋ヘラ刻目。沈線文＋刺突、三叉文＋貫通孔 3、隆帯＋ヘラ刻目、貫通孔 3、三叉文＋二個一対の小突起、平行沈線文。口縁部内面沈線	129-16	Po31
4	深鉢	A1d	Ⅸ c	Ⅰほか	F-23 / 排土	平縁。櫛歯状刻目。平行沈線文＋櫛歯状刻目、π字文。縄文 LR。口縁部内面沈線。内面・口唇部炭化物付着	129-17	Po154
5	浅鉢	A1cdf	Ⅸ a+ Ⅹ b	Ⅰほか	F-23 / 確認面	平縁。山形突起（頂部刻み）＋突起間沈線。工字文（陽刻）２段、π字文（上向）。口縁部内面沈線	129-18	Po47

第161図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土器（76）　F-23区E・F・Gグリッド

Ⅵ c5 層では中・小破片が出土している。器種は深鉢や鉢、浅鉢、壺、注口土器のほかに袖珍土器鉢がある。装飾は、雲形文などが見られる。

Ⅵ c4 層では中・小破片に加えて大破片が多く出土している。完形に近い土器や、その場でつぶれた状態で出土した土器も見られる。器種は深鉢や鉢･小型鉢･台付鉢･四脚付鉢､浅鉢･台付浅鉢､皿､壺･四脚付壺、注口土器、蓋のほかに袖珍土器深鉢・鉢・四脚付鉢・皿・壺、台や脚の付く土器、漆容器（四脚付鉢・台部転用、第 120 図 17・第 123 図 4）がある。装飾は、帯状文（第 114 図 5）や三叉文、羊歯状文、列点文（同図 6)、雲形文（同図 7・8・12 ～ 17、第 115 図 1・2)、メガネ状浮文（同図 1、第 117 図 7・14、第 119 図 4・5・8、第 120 図 1・9・11、第 121 図 3・13)、X 字状文（第 115 図 3)、工字文（第 117 図 1 ～ 13、第 121 図 4・13・14)、綾杉状文（第 117 図 14)、浮線渦巻文（第 121 図 16・17)、π字文（第 117 図 3・9・11・12・14 ～ 18、第 118 図 1 ～ 4・6、第 119 図 2 ～ 10、第 120 図 1 ～ 10・12 ～ 22、第 121 図 1・2・4 ～ 11・13)、変形工字文などが見られる。なかでもπ字文が施された土器が特に多く出土しており、雲形文や工字文が施された土器も一定量出土している。

Ⅵ c3 層では中・小破片に加えて大破片が多く出土しており、完形に近い土器も見られる。器種は深鉢や鉢・四脚付鉢、浅鉢、皿、壺、注口土器のほかに袖珍土器浅鉢・皿、台や脚の付く土器、漆容器（四脚付鉢、第 128 図 7)、動物形土器（第 125 図 1）がある。装飾は、入組帯状文（第 124 図 1）や三叉文、羊歯状文（同図 2)、列点文、雲形文（同図 5 ～ 7・9)、メガネ状浮文（第 126 図 1・3 ～ 5・11・12)、工字文（第 124 図 17 ～ 22、第 125 図 1 ～ 4、第 127 図 1)、綾杉状文、π字文（第 124 図 22、第 125 図 1・3・5 ～ 7、第 126 図 1・2・5 ～ 10・13、第 127 図 2 ～ 4)、変形工字文（同図 1・2）などが見られる。なかでもπ字文が施された土器が最も多く出土しており、雲形文や工字文が施された土器も一定量出土している。

Ⅵ c2 層では中・小破片に加えて大破片が多く出土しており、その場でつぶれた状態で出土した土器も見られる。器種は深鉢や鉢･四脚付鉢、浅鉢、皿、壺、注口土器、蓋のほかに台や脚の付く土器、漆容器（鉢、第 128 図 13）がある。装飾は、羊歯状文（同図 10)、雲形文（同図 11)、メガネ状浮文、工字文（第 129 図 1･2)、π字文（第 128 図 14･15、第 129 図 3･5･6･8 ～ 12)、変形工字文（同図 7･11）などが見られる。なかでもπ字文が施された土器が特に多く出土している。

Ⅵc1層では中・小破片に加えて大破片が多く出土しており、完形に近い土器や、その場でつぶれた状態で出土した土器も見られる。器種は深鉢や鉢・四脚付鉢、浅鉢・台付浅鉢、皿、壺、注口土器、香炉形土器、蓋のほかに袖珍土器深鉢・鉢・皿・壺、台や脚の付く土器がある。装飾は、三叉文や羊歯状文、列点文（第131図2）、雲形文（同図5～14）、メガネ状浮文（同図16・17）、工字文（同図22・23、第132図1・2・11）、π字文（同図2・4～10・12・13・15～17、第133図1～11、第134図1～9・11・12・14）、変形工字文（第132図13～15、第134図8・10・12～14）などが見られる。なかでもπ字文が施された土器が特に多く出土しており、雲形文が施された土器も一定量出土している。

Ⅵb2層では中・小破片に加えて大破片が多く出土しており、完形に近い土器や、その場でつぶれた状態で出土した土器も見られる。器種は深鉢や鉢・四脚付鉢、浅鉢・台付浅鉢・四脚付浅鉢、皿、壺・四脚付壺、注口土器、蓋のほかに袖珍土器深鉢・鉢・四脚付鉢・浅鉢・四脚付浅鉢・皿・壺、台や脚の付く土器、製塩土器（深鉢・鉢）、漆容器（深鉢・鉢・四脚付鉢・壺・四脚付壺、第142図21・第144図12・第147図4～7）、アスファルト容器（四脚付壺、第139図15）がある。装飾は、帯状文や入組帯状文、瘤の付く帯状文、三叉文、羊歯状文（第137図3）、列点文、雲形文（同図5～7・13～18）、メガネ状浮文（同図16・17、第138図13・17～21、第139図1・2・5、第140図17、第141図8・10～12・14、第142図7）、工字文（第139図3～19・21～23、第142図14）、綾杉状文（第139図20）、浮線渦巻文（第142図3）、π字文（第139図3・16・17・24・25、第140図1・2・5・6・9・12～18、第141図2～21、第142図1・2・5・7・13・17～24、第143図1～7）、変形工字文（第142図15～18、第143図6～11・13・14）、波状文（同図17）などが見られる。なかでもπ字文が施された土器が特に多く出土しており、雲形文やメガネ状浮文、工字文が施された土器も一定量出土している。

Ⅵb1層では中・小破片に加えて大破片が多く出土しており、完形に近い土器や、その場でつぶれた状態で出土した土器も見られる。器種は深鉢や鉢・台付鉢・四脚付鉢、浅鉢・台付浅鉢、皿、壺、注口土器、香炉形土器、蓋？のほかに袖珍土器浅鉢・壺、台や脚の付く土器、製塩土器深鉢（第153図12）、漆容器（深鉢、同図13）、アスファルト容器（浅鉢、第150図10）がある。装飾は、帯状文や三叉文、羊歯状文、列点文、雲形文、メガネ状浮文、工字文、π字文（第148図10～23、第149図1～12・14～16、第150図1）、変形工字文（第148図15・16・19、第149図13・14・16、第150図1・2）、波状文（同図3）などが見られる。なかでもπ字文が施された土器が特に多く出土しており、変形工字文が施された土器も一定量出土している。

Ⅵa層では中・小破片に加えて大破片が多く出土しており、完形に近い土器も見られる。器種は深鉢や鉢・四脚付鉢、浅鉢・台付浅鉢、皿、壺、注口土器、香炉形土器、蓋のほかに袖珍土器鉢・皿、台や脚の付く土器、製塩土器深鉢（第160図7）、漆容器（深鉢、同図4）がある。装飾は、帯状文や入組帯状文、瘤の付く帯状文、三叉文（第153図15）、羊歯状文（同図17）、列点文（同図18・23・25）、雲形文（同図23～25、第154図1～3）、メガネ状浮文（同図4～7）、X字状文（同図4）、工字文（同図19・20・22・23、第155図5、第157図9）、綾杉状文、π字文（第154図19・23～25、

第 155 図 1・2・5 ～ 19・22・23、第 156 図 1 ～ 18、第 157 図 1 ～ 9・11・14)、変形工字文（第 155 図 18 ～ 21、第 157 図 3 ～ 6・8・10 ～ 14)、波状文（同図 15・16）などが見られる。なかでもπ字文が施された土器が特に多く出土し、雲形文や変形工字文が施された土器も一定量出土している。

②土製品

土製品は遺物包含層の各層から出土している。これらの多くが円盤状土製品である。また、低地部では土製小玉が多量に出土している。以下に、地形別・層位別に出土状況を述べる。

ⅰ）丘陵部

Ⅵe 層（Ⅵe5 層を含む）からは、環形の耳飾（第 162 図 1）や円盤状土製品（同図 2）が出土している。

Ⅵd 層からは、土偶頭部（第 162 図 7・8）・胴部・左肩部（同図 9）・右腕や耳飾（同図 10 ～ 12）のほかに円盤状土製品（同図 3 ～ 6）や不明土製品が出土している。第 162 図 12 は、内面に三叉文が施される。

ⅱ）丘陵裾部

Ⅵe3 層からは、舟形土製品（第 163 図 1）が出土している。貫通孔が 2 個長軸に沿って穿たれており、内面は赤い彩色が確認される。

Ⅵe2 層からは、円盤状土製品（第 163 図 2 ～ 4）と不明土製品（同図 5）が出土している。第 163 図 3 は、外面にアスファルトとみられる黒色物質の付着が確認される。同図 5 は、刺突（目）や貼瘤（乳房か）、下半部の線刻（文身）から、擬人化したものとみられる。

Ⅵe1 層からは、土偶右脚や円盤状土製品（第 163 図 6)、土製小玉が出土している。第 163 図 6 は、外面中央にアスファルトとみられる黒色物質の付着が確認される。

Ⅵd 層からは、土偶上半身（第 163 図 7）・胴部（同図 8）・腕・右脚（同図 9・10)、土版（同図 12)、耳飾、環形土製品のほかに円盤状土製品（第 164 図 2 ～ 9)、土製小玉（同図 1)、不明土製品（第 163 図 11）が出土している。

Ⅵb2 層からは土偶胴部・肩部?・左腕?・右脚（第 164 図 10)、土版（同図 13)、耳飾（同図 14)、笠形土製品（同図 11）のほかに円盤状土製品（第 165 図 1 ～ 14)、土製小玉、不明土製品が出土している。第 164 図 10 は中空の土偶である。同図 11 は、口縁部付近に貫通孔が 1 個穿たれている。同図 13 はⅥd 層出土の土版（第 163 図 12）と同一個体とみられる。第 165 図 1 は外面が赤く彩色されているが、素材土器の製作時の彩色である。

ⅲ）低地部

Ⅵe2 層からは円盤状土製品が出土している。

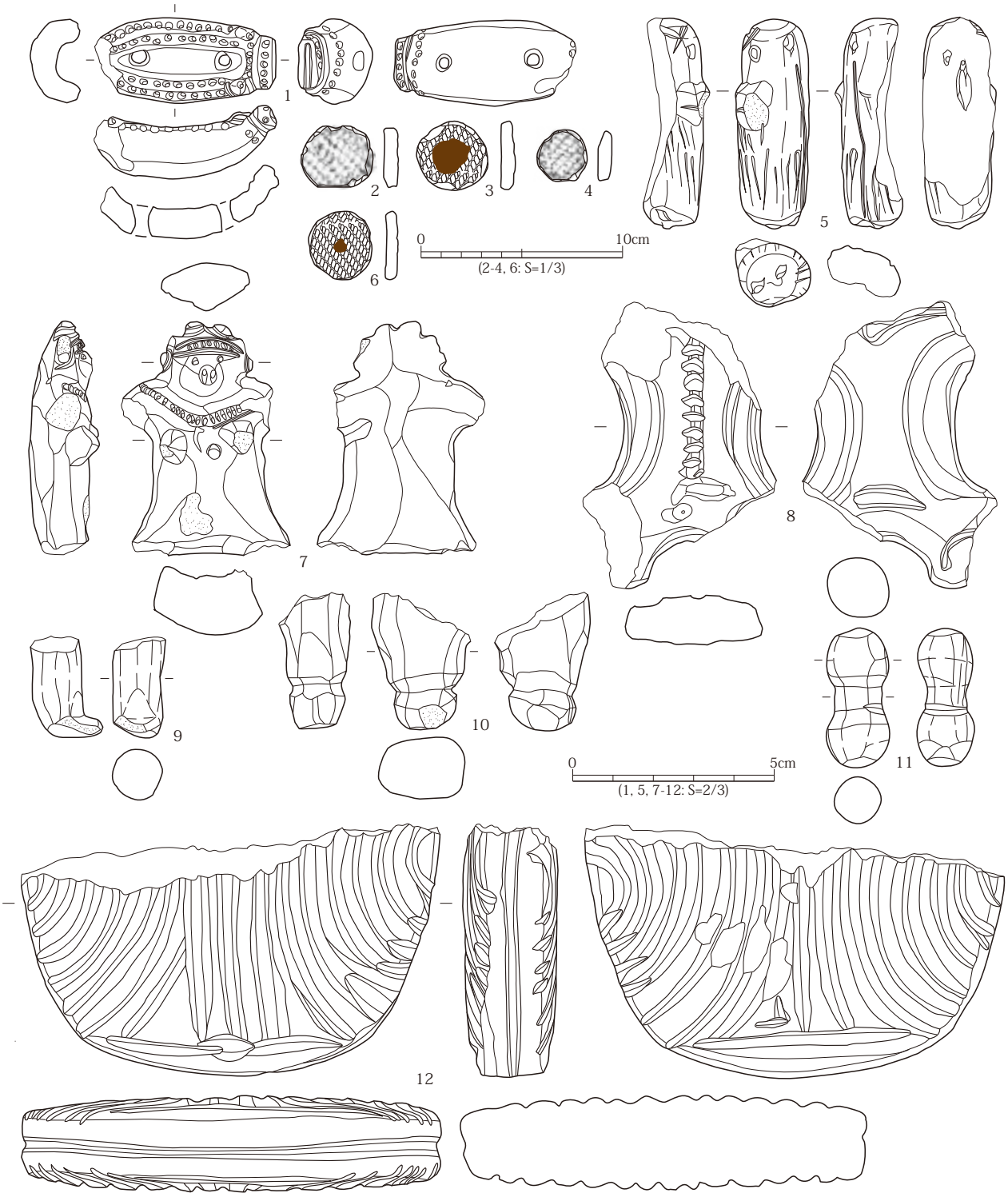
Ⅵd 層からは土版（第 166 図 1）や円盤状土製品（同図 2 ～ 4)、土製小玉が出土している。

Ⅵc11 層からは円盤状土製品が出土している。

Ⅵc7 層からは、土偶脚（第 166 図 11）や土版（同図 12)、耳飾（同図 13 ～ 17）のほかに円盤状

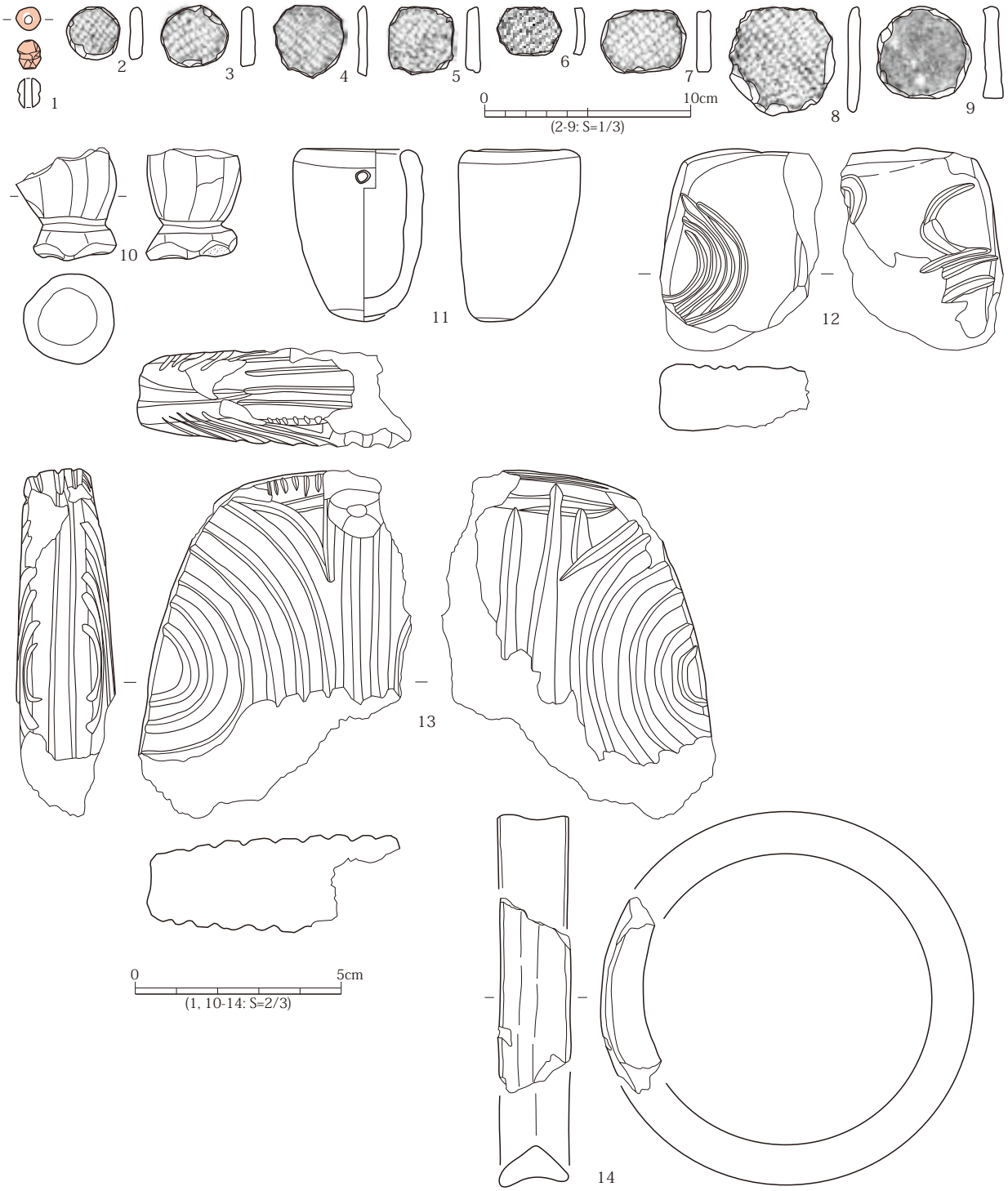
No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	耳飾	A1	Ⅵ e5	F-23Ba / Ⅵ e5	残存長 29.9mm、残存幅 17.8mm、残存厚 5.0mm。環形。無文（ミガキ）	130-1	CO586
2	円盤状土製品	Ac2	Ⅵ e5	F-23Ba / Ⅵ e5	長 37.3mm、幅 34.9mm、厚 6.1mm。円形、湾曲、一部研磨成形。縄文 RL	130-2	CO445
3	円盤状土製品	Aa1	Ⅵ d	F-23Bb / Ⅵ d	長 30.2mm、幅 27.5mm、厚 7.2mm。円形、平坦、剥離成形。平行沈線文、雲形文（磨消縄文）、縄文 LR	130-3	CO414
4	円盤状土製品	Ca1	Ⅵ d	F-23Bb / Ⅵ d	長 33.8mm、幅 29.6mm、厚 8.1mm。多角形、平坦、剥離成形。縄文 LR	130-4	CO413
5	円盤状土製品	Ac2	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	長 33.0mm、幅 32.2mm、厚 7.1mm。円形、湾曲、一部研磨成形。羽状縄文 LR/RL	130-5	CO475
6	円盤状土製品	Ab2	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	長 37.3mm、幅 33.0mm、厚 7.6mm。円形、端部湾曲、一部研磨成形。無文（底部外面ミガキ）。底部破片	130-6	CO470
7	土偶頭部	-	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	残存長 59.2mm、残存幅 54.6mm、残存厚 15.5mm。中実。顔：環状沈線＋貼瘤＋頂部刺突（目）、貼瘤＋頂部平行短沈線文（口）、貫通孔 2（両耳）。胸部：Ⅴ字形の隆帯＋刺突列。背部：無文（ミガキ）、剥落痕	130-9	CO254
8	土偶頭部	-	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	残存長 42.8mm、残存幅 43.4mm、残存厚 18.6mm。中実。顔：粘土紐貼付＋細く深い短沈線文（目）＋刺突 2（鼻）、刺突列（口）。首の周りに粘土紐貼付。後頭部：刺突文	130-7	CO591
9	土偶左肩部	-	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	残存長 34.6mm、残存幅 64.2mm、残存厚 21.5mm。中実。胸・肩部：横位の平行沈線文＋刺突列 2 条、縦位の平行短沈線文、首の周りに弧状の沈線文＋区画内に刺突文。背部：背から肩にかけて折り返す平行沈線文＋隆線上に刺突列、縦位の平行沈線文＋隆線上に刺突列	130-8	CO590
10	耳飾	B1	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	長 18.7mm、幅 19.2mm、厚 18.7mm。キノコ形。無文、貫通孔 1。表面全体・孔内面赤彩	130-10	CO297
11	耳飾	A1	Ⅵ d	F-23Bb / Ⅵ d	残存長 42.3mm、残存幅 13.7mm、残存厚 4.0mm。環形。無文（ミガキ）	130-11	CO415
12	耳飾	A1	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	残存長 20.7mm、残存幅 17.3mm、残存厚 7.2mm。環形。外面ミガキ、内面三叉文間に短沈線文	130-12	CO480

第162図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土製品（1）　F-23区北・東・A・Bグリッド



No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	舟形土製品	-	Ⅵe3	F-23Cb / Ⅵe3	残存長 44.5mm、残存幅 20.8mm、残存厚 6.6mm。縁辺に刺突列２条、舟首に刺突文、舟尾を周る沈線文＋刺突列２条、舟尾に二個一対の貼瘤＋頂部刺突、舟底に貫通孔 2。内面赤彩	131-1	CO584
2	円盤状土製品	Bc2	Ⅵe2	F-23Da / Ⅵe2	長 35.2mm、幅 29.2mm、厚 7.3mm。楕円形、湾曲、一部研磨成形。縄文 RL	131-2	CO434
3	円盤状土製品	Aa2	Ⅵe2	F-23Db / Ⅵe2	長 35.2mm、幅 34.0mm、厚 6.9mm。円形、平坦、一部研磨成形。縄文 LR。外面黒色物質付着	131-3	CO423
4	円盤状土製品	Aa1	Ⅵe2	F-23Db / Ⅵe2	長 25.0mm、幅 24.2mm、厚 8.0mm。円形、平坦、剥離成形。縄文 RL	131-4	CO430
5	不明土製品	-	Ⅵe2	F-23Da / Ⅵe2	長 51.4mm、残存幅 17.7mm、残存厚 14.0mm。中実、円柱状。側面：刺突 2、貼瘤 1、先の細い工具による直線状の線刻多数、平坦面：刺突 2	131-5	CO435
6	円盤状土製品	Ac2	Ⅵe1	F-23Db / Ⅵe1	長 33.8mm、幅 30.5mm、厚 6.1mm。円形、湾曲、一部研磨成形。縄文 RL。外面黒色物質付着	131-6	CO417
7	土偶頭部・胴部	-	Ⅵd	F-23Cb / Ⅵd	残存長 57.7mm、残存幅 39.0mm、残存厚 16.4mm。中実。頭部：二個一対の小突起＋弧状の短沈線文（頭髪）、平行沈線文＋刺突列（眉）、貼瘤＋刺突 2（貼瘤）、二個一対の小突起（耳）。胸部：V 字形の隆帯＋櫛歯状刻目＋平行沈線文＋縦位隆帯（首飾り）、貼瘤 2（乳房）	131-9	CO253
8	土偶胴部	-	Ⅵd	F-23D / Ⅵd	残存長 70.8mm、残存幅 47.6mm、残存厚 13.1mm。中実。胸・腹部：縦位の沈線文＋刺突列（正中線）＋粘土紐貼付（短い弧状）、貼瘤か（乳房）、左右対称の弧状の沈線文。背部：上部に弧状の沈線文（端部円文状）、左右対称の弧状の沈線文、下部に弧状の短沈線文、右脚に弧状の沈線文。赤彩、左脚の付け根付近の破断面に黒色物質付着。胎土に海綿骨針を含む	131-10	CO404
9	土偶右脚	-	Ⅵd	F-23Db / Ⅵd	残存長 24.4mm、幅 12.8mm、厚 13.8mm。中実。無文（ナデ、一部ミガキ）	131-7	CO577
10	土偶右脚か	-	Ⅵd	F-23Ca / Ⅵd	残存長 35.8mm、残存幅 22.9mm、厚 16.3mm。中空。足首に沈線文、無文（ミガキ、ナデ）	131-8	CO581
11	不明土製品	-	Ⅵd	F-23Cb / Ⅵd	長 33.2mm、幅 15.2mm、厚 14.5mm。中実。球を 2 個つないだ形状。無文（ナデ）	131-11	CO583
12	土版	A	Ⅵd	F-23Db / Ⅵd	残存長 62.2mm、残存幅 104.3mm、残存厚 23.5mm。表面：縦位の平行沈線文（２条）、半円形の平行沈線文、最下部に横位沈線文。側面を周る沈線文。裏面：縦位の平行沈線文（3 条）、半円形の平行沈線文、最下部に横位沈線文＋短沈線による楕円形の凹み。CO257 と同一個体か	132-1	CO256

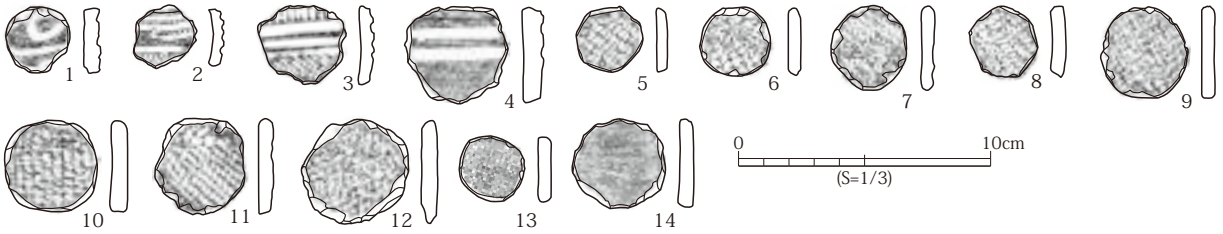
第163図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土製品（2）　F-23区C・Dグリッド



No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	装飾	彩色	備　考	写真図版	登録
1	土製小玉	A2	Ⅵ d	F-23Db / Ⅵ d	6.3	6.2	7.1	0.27	完形	1	赤彩		132-2	CB763

No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
2	円盤状土製品	Aa2	Ⅵ d	F-23Db / Ⅵ d	長 25.6mm、幅 24.5mm、厚 7.8mm。円形、平坦、一部研磨成形。縄文 LR	132-3	CO382
3	円盤状土製品	Aa3	Ⅵ d	F-23Da / Ⅵ d	長 32.1mm、幅 29.1mm、厚 7.7mm。円形、平坦、全周研磨成形。縄文 LR	132-4	CO394
4	円盤状土製品	Ac1	Ⅵ d	F-23Da / Ⅵ d	長 34.9mm、幅 34.7mm、厚 4.6mm。円形、湾曲、剥離成形。縄文 LR	132-5	CO384
5	円盤状土製品	Ca1	Ⅵ d	F-23Da / Ⅵ d	長 32.3mm、幅 31.6mm、厚 7.7mm。多角形、平坦、剥離成形。縄文 LR	132-6	CO400
6	円盤状土製品	Cc1	Ⅵ d	F-23Cb / Ⅵ d	長 30.9mm、幅 22.5mm、厚 5.0mm。多角形、湾曲、剥離成形。縄文 LR	132-7	CO411
7	円盤状土製品	Ca2	Ⅵ d	F-23Da / Ⅵ d	長 40.4mm、幅 29.6mm、厚 7.2mm。多角形、平坦、一部研磨成形。縄文 LR	132-8	CO401
8	円盤状土製品	Cc1	Ⅵ d	F-23Da / Ⅵ d	長 51.6mm、幅 50.5mm、厚 7.4mm。多角形、湾曲、剥離成形。縄文 RL	132-9	CO395
9	円盤状土製品	Ab3	Ⅵ d	F-23Da / Ⅵ d	長 45.9mm、幅 45.6mm、厚 11.0mm。円形、端部湾曲、全周研磨成形。無文（底部外面ミガキ）。底部破片	132-10	CO389
10	土偶右脚	-	Ⅵ b2	F-23D / Ⅵ b2	残存長 25.9mm、幅 26.4mm、厚 22.0mm。中空。足首に沈線文、刻みによる足指の表現、無文（ミガキ、ナデ）	132-11	CO578
11	笠形土製品	-	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	長 41.2mm、幅 31.7mm、厚 30.3mm。烏帽子状。無文（ナデ）、貫通孔 1	132-12	CO845
12	土版	A	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	残存長 49.5mm、残存幅 38.2mm、残存厚 16.4mm。表：円文（正中線）、弧状の沈線文、半円形の平行沈線文。裏：縦位の沈線文（正中線）、半円形の平行沈線文	132-13	CO579
13	土版	A	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	残存長 85.7mm、残存幅 67.6mm、残存厚 22.7mm。表面：縦位の平行沈線文（2 条）+ 円文、半円形の平行沈線文、上端に櫛歯状刻目。裏面：縦位の平行沈線文（3 条）、半円形の平行沈線文、最上部に横位沈線文。側面：上面に平行沈線文、側面を周る沈線文。CO256 と同一個体か	132-14	CO257
14	耳飾	A1	Ⅵ b2	F-23D / Ⅵ b2	残存長 46.5mm、残存幅 17.9mm、残存厚 8.2mm。環形。無文（ミガキ）	132-15	CO201

第164図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土製品（3）　F-23区C・Dグリッド



No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	円盤状土製品	Aa3	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	長 26.7mm、幅 24.8mm、厚 7.9mm。円形、平坦、全周研磨成形。入組三叉文か。外面赤彩（素材土器）	132-16	CO202
2	円盤状土製品	Cc1	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	長 26.7mm、幅 22.8mm、厚 5.4mm。多角形、湾曲、剥離成形。雲形文（磨消縄文）、縄文 LR	132-17	CO167
3	円盤状土製品	Cc1	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	長 35.8mm、幅 30.1mm、厚 6mm。多角形、湾曲、剥離成形。平行沈線文＋櫛歯状刻目、縄文 RL	132-18	CO212
4	円盤状土製品	Ca1	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	長 42.8mm、幅 42.3mm、厚 9.1mm。多角形、平坦、剥離成形。平行沈線文	132-19	CO215
5	円盤状土製品	Aa2	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	長 26.7mm、幅 25.2mm、厚 5.1mm。円形、平坦、一部研磨成形。縄文 LR	132-20	CO177
6	円盤状土製品	Aa2	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	長 29mm、幅 28.4mm、厚 6.1mm。円形、平坦、一部研磨成形。羽状縄文 LR/RL	132-21	CO182
7	円盤状土製品	Aa3	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	長 33.5mm、幅 30.6mm、厚 6.5mm。円形、平坦、全周研磨成形。縄文 RL 末端部強調	132-22	CO190
8	円盤状土製品	Ac1	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	長 29mm、幅 25.3mm、厚 6.3mm。円形、湾曲、剥離成形。羽状縄文 LR/RL	132-23	CO210
9	円盤状土製品	Aa1	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	長 37.1mm、幅 34.8mm、厚 5.8mm。円形、平坦、剥離成形。縄文 LR	132-24	CO161
10	円盤状土製品	Aa2	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	長 39.3mm、幅 38.8mm、厚 8mm。円形、平坦、一部研磨成形。縄文 LR	132-25	CO199
11	円盤状土製品	Aa2	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	長 38.2mm、幅 37.6mm、厚 6.2mm。円形、平坦、一部研磨成形。羽状縄文 LR/RL	132-26	CO164
12	円盤状土製品	Aa1	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	長 43.6mm、幅 40.1mm、厚 7.5mm。円形、平坦、剥離成形。縄文 LR	132-27	CO175
13	円盤状土製品	Aa3	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	長 26.9mm、幅 25mm、厚 6.3mm。円形、平坦、全周研磨成形。無文（外面ミガキ）。胎土に海綿骨針を含む	132-28	CO160
14	円盤状土製品	Aa1	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	長 36.5mm、幅 34.8mm、厚 6.7mm。円形、平坦、剥離成形。無文（外面ミガキ）	132-29	CO180

第165図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土製品（4）　F-23区C・Dグリッド

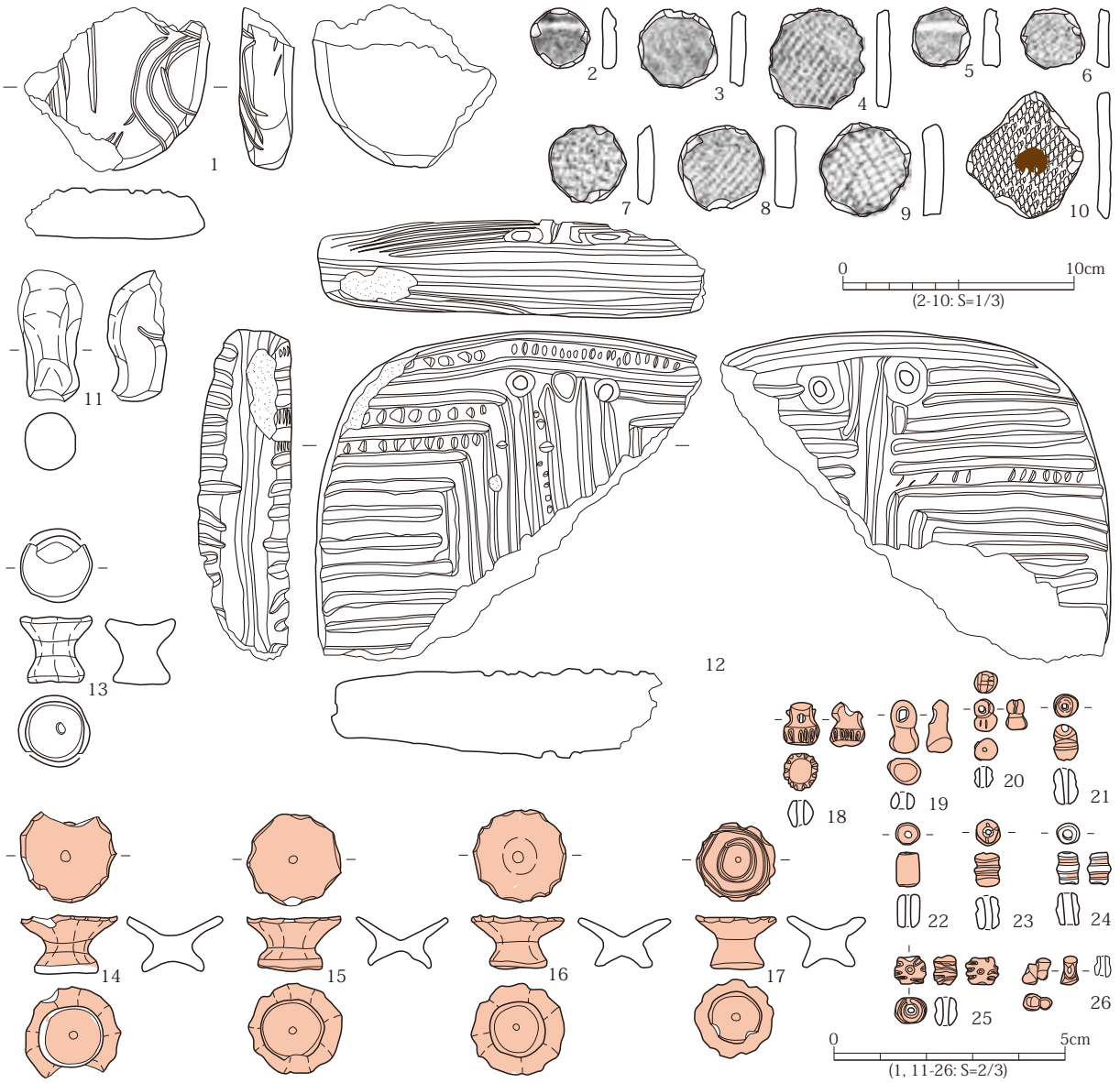
土製品（同図 5 ～ 10）、土製小玉（同図 18 ～ 26）が出土している。第 166 図 10 は、外面中央にアスファルトとみられる黒色物質の付着が確認される。同図 17 は坏部内面に環状の平行沈線文が施文されている。同図 18 は、下部全周に刻みによる装飾が見られる。同図 20 は、正面に加えて長軸方向にも貫通孔が穿たれている。同図 26 は小玉 2 点が漆で固着している状態で出土した。

Ⅵc6 層からは、土版（第 167 図 1）と耳飾（同図 2）、土製小玉（同図 3 ～ 6）が出土している。第 167 図 1 は沈線内に刺突列が施文されることが特徴である。

Ⅵc5 層からは、土版（第 167 図 7）や円盤状土製品、土製小玉（同図 8 ～ 17）が出土している。

Ⅵc4 層からは、土偶胴部（第 167 図 18）・右腕（同図 19）・脚?、土版（同図 20・24、第 168 図 7）、耳飾（第 167 図 23、第 168 図 1 ～ 5）、鐸形土製品（第 167 図 22）、円形土製品（第 168 図 6）、球形土製品（第 167 図 21）のほかに円盤状土製品（第 168 図 8 ～ 25）、土製小玉（第 169 図 1 ～ 43）、不明土製品が出土している。第 167 図 20 は、同図 1 と同一個体とみられる。同図 21 は貫通孔が穿たれた土製の玉類であるが、小玉よりも大型であるため球形土製品とした。同図 23 は大型の耳飾であり、中心部に貫通孔が穿たれている。第 168 図 7 は装飾要素が少なく、表面に凹みが見られることから、足形の可能性が考えられる。同図 11 は外面に赤色物質が付着している。第 169 図 16 は装飾のある円盤形の玉である。土製小玉の多くが側面から貫通孔が穿たれているのに対し、この個体は正面から貫通孔が穿たれている。同図 13・43 は小玉 2 点が漆で固着している状態で出土した。同図 41 は下面に刺突文が見られる。

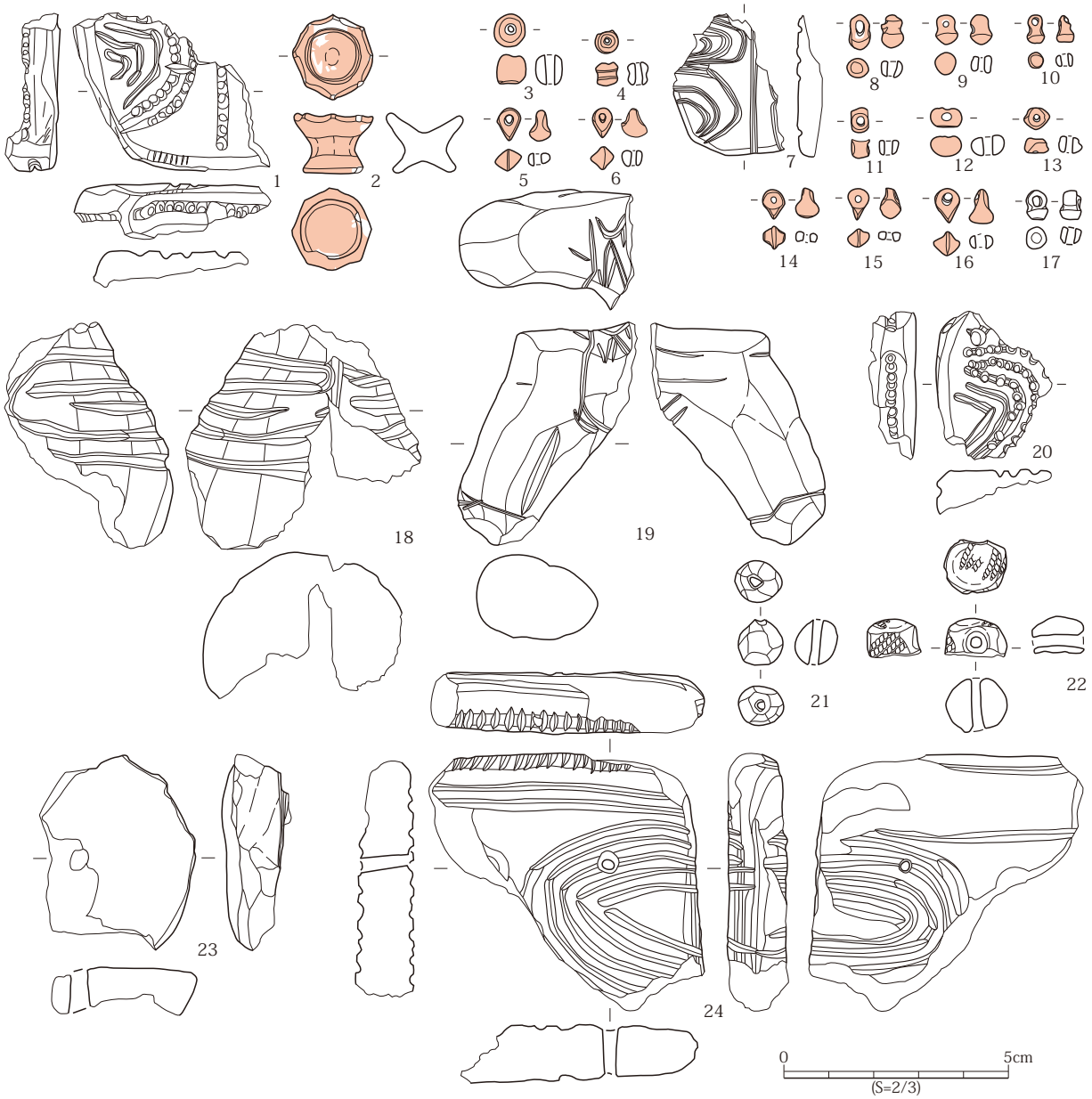
Ⅵc3 層からは、土偶右腕や土版（第 169 図 44）、耳飾（同図 45・46）、円形土製品（第 170 図 1）、環形土製品（第 169 図 47）のほかに円盤状土製品（第 170 図 27 ～ 30）、土製小玉（同図 2 ～ 26）、不明土製品が出土している。第 169 図 45 はキノコ形の耳飾であるが、傘部のみの彩色で、下端が細くなる形状である。同図 47 は表裏面および側面に刺突列が施されている。その大きさや形状から耳飾の可能性もある。第 170 図 14 は、側面からの貫通孔に加えて、正面からも貫通孔が穿たれている。



No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	土版	A	Ⅵ d	F-23Ea / Ⅵ d	残存長 35.6mm、残存幅 41.0mm、残存厚 11.2mm。表面：縦位の沈線文（正中線）の両側に半円形の平行沈線文各 2 段。裏面：無文（ミガキ）	133-1	CO380
2	円盤状土製品	Aa3	Ⅵ d	F-23Ea / Ⅵ d	長 25.8mm、幅 25.4mm、厚 6.2mm。円形、平坦、全周研磨成形。平行沈線文	133-2	CO374
3	円盤状土製品	Aa1	Ⅵ d	F-23Ea / Ⅵ d	長 34.6mm、幅 32.3mm、厚 7.1mm。円形、平坦、剥離成形。無文（底部外面ミガキ）。底部破片	133-3	CO377
4	円盤状土製品	Ac1	Ⅵ d	F-23Ea / Ⅵ d	長 44.6mm、幅 39.6mm、厚 6.3mm。円形、湾曲、剥離成形。縄文 LR	133-4	CO378
5	円盤状土製品	Aa1	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	長 25.5mm、幅 25.4mm、厚 7.7mm。円形、平坦、剥離成形。平行沈線文、縄文 LR	133-5	CO362
6	円盤状土製品	Aa1	Ⅵ c7	F-23E / Ⅵ c7	長 27.2mm、幅 26.4mm、厚 5.6mm。円形、平坦、剥離成形。縄文 LR	133-6	CO354
7	円盤状土製品	Aa1	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7	長 33.2mm、幅 33.1mm、厚 7.1mm。円形、平坦、剥離成形。縄文 RL	133-7	CO358
8	円盤状土製品	Ac1	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7-13	長 37.2mm、幅 34.6mm、厚 9.0mm。円形、湾曲、剥離成形。縄文 LR 末端部強調	133-8	CO364
9	円盤状土製品	Ac1	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7	長 39.9mm、幅 37.8mm、厚 8.4mm。円形、湾曲、剥離成形。縄文 RL	133-9	CO355
10	円盤状土製品	Cc1	Ⅵ c7	F-23Fa / Ⅵ c7	長 47.5mm、幅 44.0mm、厚 6.7mm。多角形、湾曲、剥離成形。縄文 LR。外面黒色物質付着	133-10	CO359
11	土偶脚	-	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	残存長 28.4mm、幅 14.2mm、厚 12.4mm。中実。無文（ミガキ）	133-11	CO564
12	土版	A	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	残存長 72.5mm、残存幅 83.6mm、残存厚 18.7mm。表：横位の平行沈線文＋隆線上に刺突列、縦位の平行沈線文＋上端部に浅い円文＋隆線上に刺突列（正中線）、正中線の両側に横位＋縦位の組み合わせによるコ字形の平行沈線文＋隆線上に刺突列。裏：横位沈線文、縦位の沈線文（正中線）の両側に横位の平行沈線文・縦位の平行沈線文・縦位の沈線文の組み合わせによる表現＋隆線上に刺突列、貫通孔 2（左右対称）。赤彩	133-12	CO562
13	耳飾	B3	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7	長 14.4mm、幅 15.8mm、残存厚 12.7mm。鼓形。無文（ミガキ）。彩色なし。	133-13	CO293
14	耳飾	B2	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	長 12.3mm、幅 20.9mm、残存厚 19.0mm。盃形。口縁部波状、無文。全面赤彩	133-14	CO284
15	耳飾	B2	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	長 11.5mm、幅 19.9mm、厚 19.9mm。盃形。口縁部波状、無文。全面赤彩	133-15	CO285
16	耳飾	B2	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	長 10.8mm、幅 20.1mm、厚 19.8mm。盃形。口縁部波状、無文。全面赤彩	133-16	CO286
17	耳飾	B2	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7	長 11.3mm、幅 16.6mm、厚 16.6mm。盃形。口縁部波状、口縁部～体部下半内面に環状の平行沈線文。全面赤彩	133-17	CO291

No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	装飾	彩色	備　考	写真図版	登録
18	土製小玉	B1	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	8.6	7.8	7.2	0.43	一部欠	1	赤彩		133-18	CB839
19	土製小玉	B1	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	10.6	5.8	5.1	0.28	完形	0	赤彩		133-19	CB872
20	土製小玉	B1	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	6.5	4.8	4.7	0.16	完形	1	赤彩	長軸に貫通孔あり	133-20	CB808
21	土製小玉	A2	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	5.0	5.0	7.6	0.20	完形	1	赤彩		133-21	CB834
22	土製小玉	A2	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7	5.4	5.0	7.8	0.31	完形	0	赤彩		133-22	CB788
23	土製小玉	A2	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	4.8	4.6	6.5	0.19	完形	1	赤彩		133-23	CB842
24	土製小玉	A2	Ⅵ c7	F-23Fa / Ⅵ c7	4.5	4.5	6.8	0.15	完形	1	赤彩		133-24	CB477
25	土製小玉	A4	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	6.6	4.8	5.7	0.21	完形	1	赤彩		133-25	CB867
26	土製小玉	B2+B2	Ⅵ c7	F-23Fa / Ⅵ c7	5.0	5.7	3.4	0.07	完形	0	赤彩	2 点連結	133-26	CB873

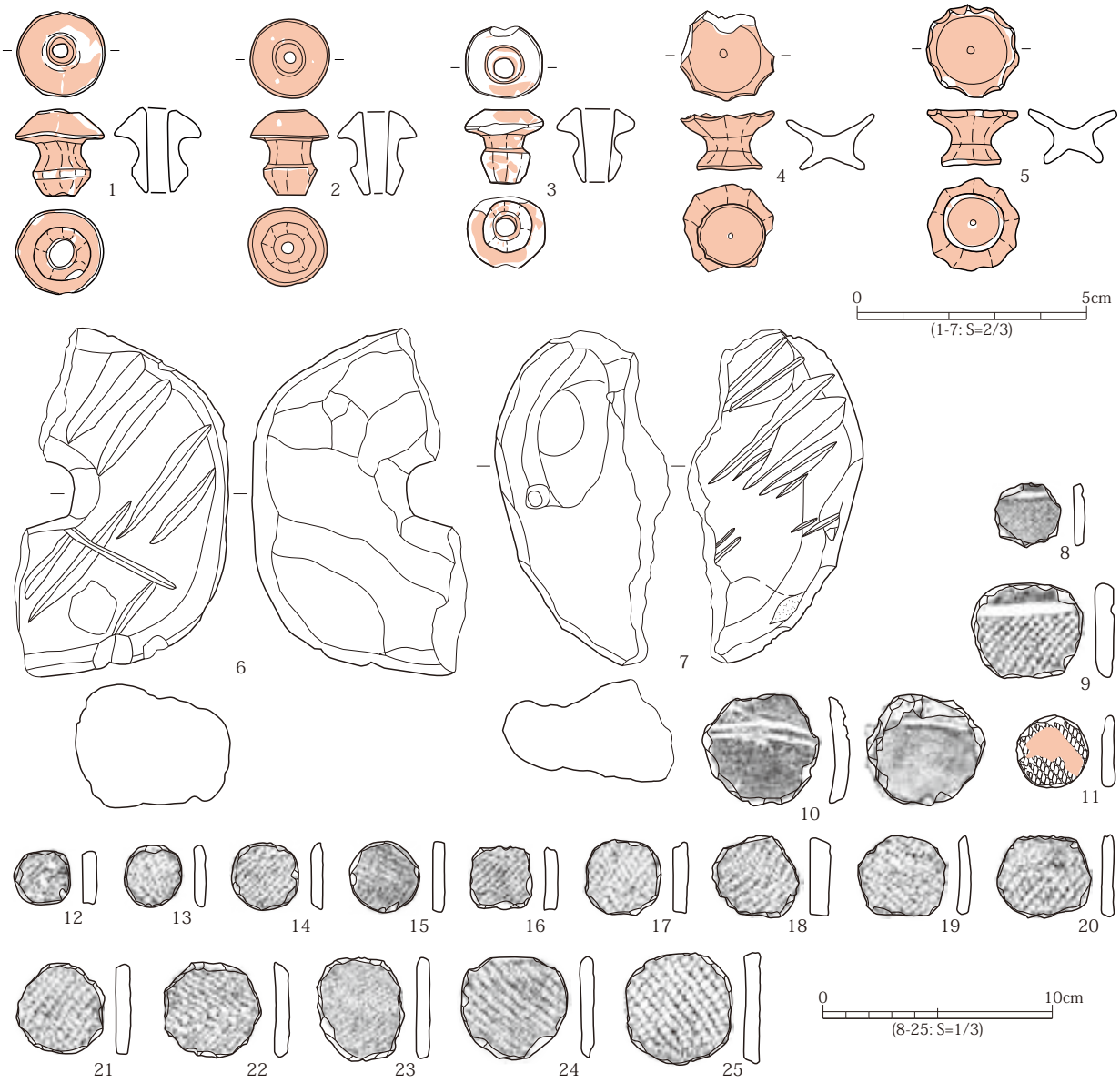
第166図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土製品（5）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	土版	A	Ⅵc6	F-23Eb / Ⅵc6	残存長 33.5mm、残存幅 42.6mm、残存厚 11.6mm。表：縦位の平行沈線文＋沈線内に刺突列（正中線）、正中線の両側に半円形の平行沈線文＋刺突列。側面：沈線文＋刺突列。CO568 と同一個体	133-42	CO572
2	耳飾	B2	Ⅵc6	F-23Eb / Ⅵc6	長 13.1mm、幅 17.8mm、厚 16.8mm。盃形。口縁部波状、口縁部内面に環状沈線。全面赤彩	133-41	CO282
7	土版	A	Ⅵc5	F-23Eb / Ⅵc5	残存長 30.6mm、残存幅 24.9mm、残存厚 4.8mm。表：縦位の沈線文（正中線）の両側に半円形の平行沈線文２段。側面：沈線文。赤彩	133-43	CO560
18	土偶胴部	-	Ⅵc4	F-23E / Ⅵc4-6	残存長 48.3mm、残存幅 38.6mm、残存厚 51.0mm。中空。π字文（上向、下向）か、平行沈線文	133-46	CO369
19	土偶右腕	-	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	残存長 45.8mm、残存幅 40.0mm、厚 27.9mm。中実。腕の付け根を周る沈線文、手首を周る沈線文	133-47	CO324
20	土版	A	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	残存長 33.0mm、残存幅 25.2mm、残存厚 10.7mm。表：半円形の平行沈線文＋刺突列、盲孔 1。側面：沈線文＋刺突列。CO572 と同一個体	133-44	CO568
21	球形土製品	-	Ⅵc4	F-23Eb-Fa / Ⅵc4	長 10.1mm、幅 9.8mm、厚 8.9mm。中実。無文（ナデ）、貫通孔 1	133-48	CO548
22	鐸形土製品	-	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	残存長 8.1mm、残存幅 13.8mm、残存厚 11.5mm。縄文 LR、貫通孔 1	133-49	CO848
23	耳飾	A2	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	残存長 42.7mm、残存幅 35.9mm、残存厚 13.7mm。滑車形。中央に貫通孔 1、側面に沈線文、表面の大部分はミガキ	133-50	CO304
24	土版	A	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	残存長 57.0mm、残存幅 61.8mm、残存厚 13.7mm。表面：最上部に横位の平行沈線文、円文（正中線）、半円形の平行沈線文。裏面：上端に櫛歯状刻目、上部に横位の平行沈線文、半円形の平行沈線文。右側面に平行沈線文。貫通孔 1	133-45	CO337

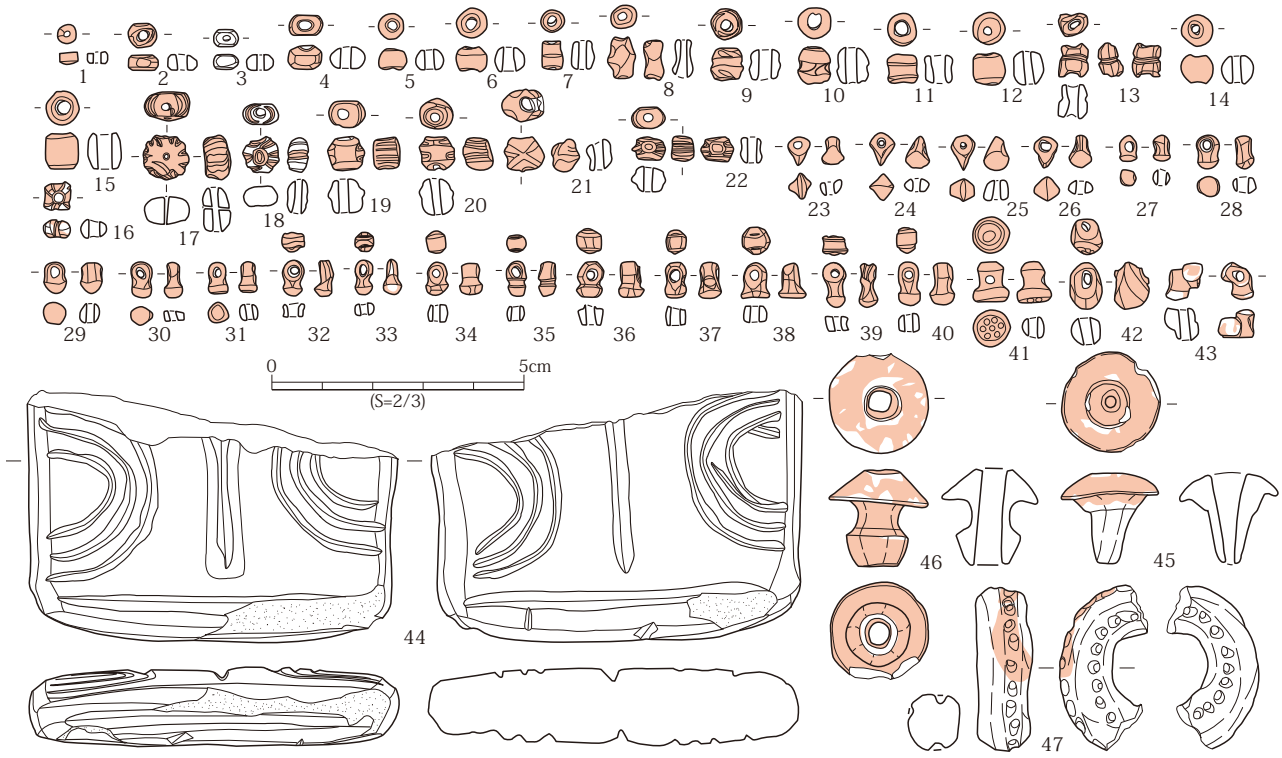
No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	装飾	彩色	備　考	写真図版	登録
3	土製小玉	A2	Ⅵc6	F-23Eb / Ⅵc6	6.7	6.4	6.0	0.33	完形	0	赤彩		133-27	CB949
4	土製小玉	A2	Ⅵc6	F-23Eb / Ⅵc6	4.2	4.1	4.2	0.08	完形	1	赤彩		133-28	CB950
5	土製小玉	B3	Ⅵc6	F-23Eb / Ⅵc6	5.7	4.3	4.2	0.07	完形	0	赤彩		133-29	CB947
6	土製小玉	B3	Ⅵc6	F-23Eb / Ⅵc6	5.7	4.1	4.5	0.09	完形	0	赤彩		133-30	CB948
8	土製小玉	B2	Ⅵc5	F-23Eb / Ⅵc5	6.5	4.3	4.2	0.14	完形	0	黒彩		133-31	CB938
9	土製小玉	B2	Ⅵc5	F-23Eb / Ⅵc5	5.4	4.4	4.0	0.10	完形	0	赤彩		133-32	CB942
10	土製小玉	B1	Ⅵc5	F-23Eb / Ⅵc5	5.7	3.3	3.2	0.07	完形	0	赤彩		133-33	CB1015
11	土製小玉	A3	Ⅵc5	F-23Eb / Ⅵc5	4.5	3.8	3.5	0.09	一部欠	0	黒彩		133-34	CB940
12	土製小玉	A3	Ⅵc5	F-23Eb / Ⅵc5	6.0	4.0	3.9	0.10	完形	0	赤彩		133-35	CB943
13	土製小玉	A1	Ⅵc5	F-23Eb / Ⅵc5	4.5	4.0	3.1	0.08	完形	0	赤彩		133-36	CB986
14	土製小玉	B3	Ⅵc5	F-23Eb / Ⅵc5	5.5	4.2	4.5	0.07	完形	0	赤彩		133-37	CB914
15	土製小玉	B3	Ⅵc5	F-23Eb / Ⅵc5	5.6	4.0	3.6	0.07	完形	0	赤彩		133-38	CB916
16	土製小玉	B3	Ⅵc5	F-23Eb / Ⅵc5	7.0	4.5	4.8	0.11	完形	0	赤彩		133-39	CB919
17	土製小玉	B1	Ⅵc5	F-23Eb / Ⅵc5	6.0	4.3	4.4	0.12	完形	0	なし		133-40	CB946

第167図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土製品（6）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	耳飾	B1	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4	長 18.6mm、幅 19.1mm、厚 18.6mm。キノコ形。無文、貫通孔 1。表面全体・孔内面赤彩	134-1	CO262
2	耳飾	B1	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	長 18.2mm、幅 17.2mm、厚 17.0mm。キノコ形。無文、貫通孔 1。表面全体・孔内面赤彩	134-2	CO263
3	耳飾	B1	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	長 15.9mm、幅 17.2mm、厚 15.7mm。キノコ形。無文、貫通孔 1。表面全体・孔内面赤彩	134-3	CO264
4	耳飾	B2	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	長 12.9mm、残存幅 20.0mm、残存厚 19.0mm。盃形。口縁部波状、口縁部内面に環状沈線。全面赤彩	134-4	CO280
5	耳飾	B2	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	長 11.8mm、幅 20.4mm、厚 19.6mm。盃形。口縁部波状、口縁部内面に環状沈線。全面赤彩	134-5	CO281
6	円形土製品	-	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	残存長 73.5mm、残存幅 53.0mm、残存厚 26.7mm。表:平行する直線状の線刻、裏:無文（ナデ）、貫通孔 1。形態は CO556 と類似	134-6	CO573
7	土版	C	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	残存長 73.0mm、残存幅 37.1mm、残存厚 22.9mm。表面：凹み（足形か）。裏面：斜位の線条痕	134-7	CO347
8	円盤状土製品	Ac1	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	長 28.0mm、幅 26.9mm、厚 4.8mm。円形、湾曲、剥離成形。横位沈線文、縄文 RL	134-8	CO345
9	円盤状土製品	Bc1	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	長 49.8mm、幅 48.3mm、厚 9.6mm。楕円形、湾曲、剥離成形。横位沈線文、縄文 LR	134-9	CO303
10	円盤状土製品	Cc1	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	長 50.9mm、幅 45.8mm、厚 7.3mm。多角形、湾曲、剥離成形。雲形文か、平行沈線文、底部外面ミガキ、体部下半内面沈線。底部破片	134-10	CO348
11	円盤状土製品	Aa3	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	長 31.1mm、幅 30.5mm、厚 5.6mm。円形、平坦、全周研磨成形。縄文 RL。外面赤色物質付着	134-11	CO571
12	円盤状土製品	Aa2	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	長 25.2mm、幅 24.3mm、厚 7.3mm。円形、平坦、一部研磨成形。縄文 LR	134-12	CO346
13	円盤状土製品	Ac3	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	長 26.4mm、幅 25.3mm、厚 4.8mm。円形、湾曲、全周研磨成形。縄文 RL	134-13	CO340
14	円盤状土製品	Aa2	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	長 30.7mm、幅 29.4mm、厚 5.7mm。円形、平坦、一部研磨成形。縄文 LR	134-14	CO308
15	円盤状土製品	Aa3	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	長 30.4mm、幅 30.1mm、厚 6.6mm。円形、平坦、全周研磨成形。羽状縄文 RL/LR	134-15	CO317
16	円盤状土製品	Ca1	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	長 27.1mm、幅 26.1mm、厚 6.5mm。多角形、平坦、剥離成形。縄文 LR	134-16	CO344
17	円盤状土製品	Ac1	Ⅵ c4	F-23E / Ⅵ c4-6	長 34.6mm、幅 33.3mm、厚 6.9mm。円形、湾曲、剥離成形。羽状縄文 LR/RL	134-17	CO370
18	円盤状土製品	Aa1	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	長 38.2mm、幅 32.3mm、厚 10.3mm。円形、平坦、剥離成形。縄文 LR	134-18	CO334
19	円盤状土製品	Ac2	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	長 37.2mm、幅 33.4mm、厚 6.3mm。円形、湾曲、一部研磨成形。縄文 LR	134-19	CO335
20	円盤状土製品	Bc1	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	長 40.6mm、幅 34.8mm、厚 6.7mm。楕円形、湾曲、剥離成形。縄文 LR 末端部強調	134-20	CO315
21	円盤状土製品	Ac1	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	長 37.9mm、幅 37.6mm、厚 6.1mm。円形、湾曲、剥離成形。縄文 LR	134-21	CO339
22	円盤状土製品	Ac1	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	長 42.2mm、幅 40.7mm、厚 6.7mm。円形、湾曲、剥離成形。羽状縄文 RL/LR	134-22	CO307
23	円盤状土製品	Bc1	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	長 45mm、幅 38.5mm、厚 7.0mm。楕円形、湾曲、剥離成形。直前段多条縄文縄文 LR	134-23	CO332
24	円盤状土製品	Aa1	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	長 46.4mm、幅 43.9mm、厚 7.0mm。円形、平坦、剥離成形。平縁、0 段多条縄文 RL	134-24	CO321
25	円盤状土製品	Ac1	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	長 49mm、幅 48.2mm、厚 8.3mm。円形、湾曲、剥離成形。縄文 RL	134-25	CO325

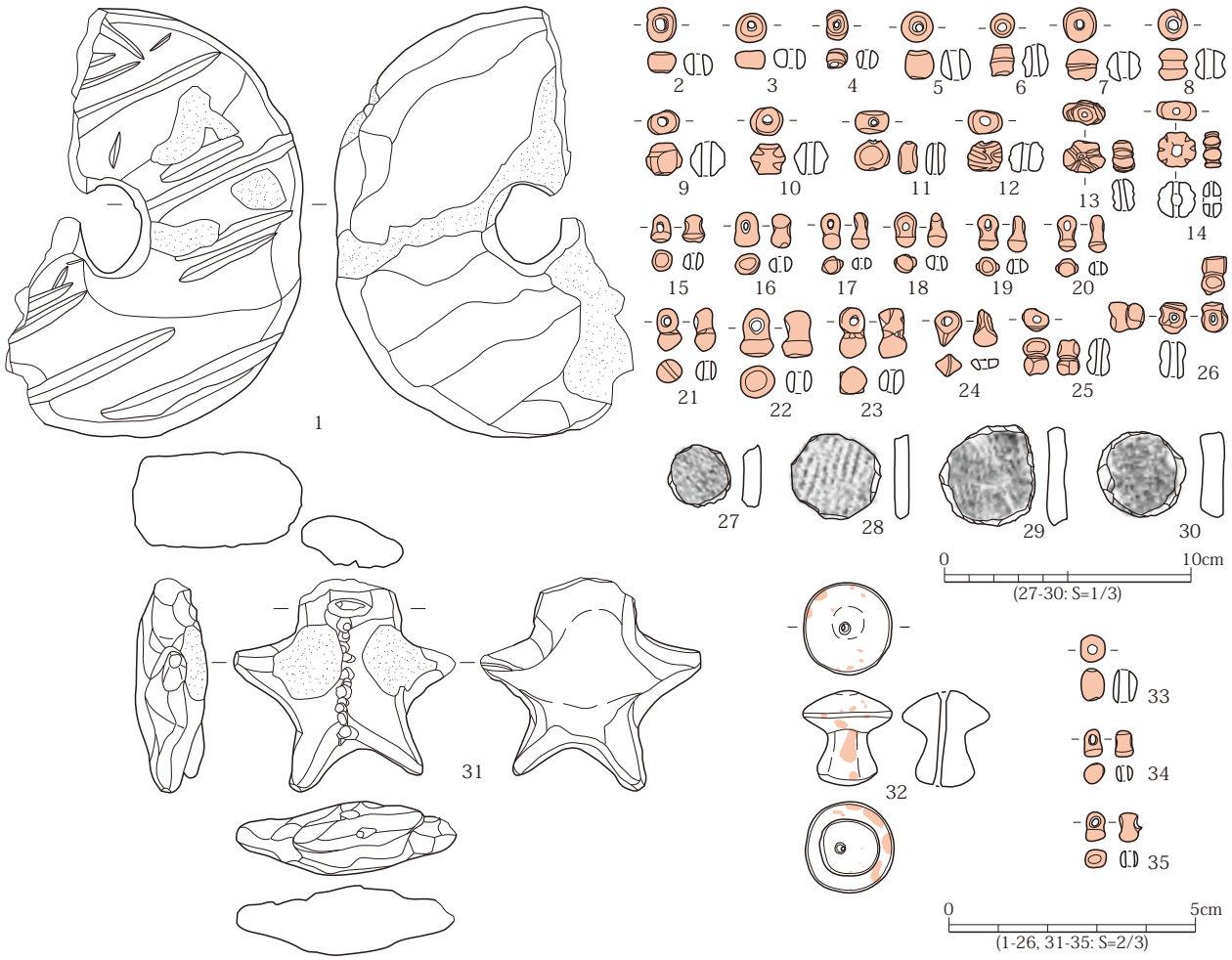
第168図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土製品（7）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	装飾	彩色	備　考	写真図版	登録
1	土製小玉	A1	Ⅵc4	F-23Eb-Fa / Ⅵc4	3.2	2.8	1.5	0.01	完形	0	黒彩		134-26	CB1000
2	土製小玉	A3	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	5.4	4.5	3.0	0.10	完形	0	赤彩		134-27	CB473
3	土製小玉	A3	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	4.5	3.5	2.7	0.06	完形	0	なし		134-28	CB935
4	土製小玉	A3	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	6.2	4.0	4.2	0.14	完形	0	赤彩		134-30	CB200
5	土製小玉	A1	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	4.8	4.8	3.8	0.10	完形	0	赤彩		134-31	CB257
6	土製小玉	A1	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	5.5	5.5	4.0	0.13	完形	0	赤彩		134-32	CB334
7	土製小玉	A2	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	3.8	3.7	5.3	0.11	完形	1	赤彩		134-33	CB348
8	土製小玉	A2	Ⅵc4	F-23Eb-Fa / Ⅵc4	5.0	4.1	6.9	0.14	完形	1	赤彩		134-34	CB959
9	土製小玉	A2	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	6.0	5.9	6.6	0.25	完形	1	赤彩		134-35	CB351
10	土製小玉	A2	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	6.2	5.7	6.7	0.27	完形	1	赤彩		134-36	CB429
11	土製小玉	A2	Ⅵc4	F-23Eb-Fa / Ⅵc4	5.7	5.6	5.5	0.17	完形	1	赤彩		134-37	CB963
12	土製小玉	A2	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	6.1	5.9	6.1	0.22	完形	0	赤彩		134-38	CB353
13	土製小玉	B2+B2	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	5.5	4.6	6.6	0.14	完形	0	赤彩	2 点連結	134-39	CB233
14	土製小玉	A1	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	5.8	5.8	5.1	0.21	完形	0	赤彩		134-40	CB323
15	土製小玉	A2	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	6.4	6.3	7.0	0.29	完形	1	赤彩		134-41	CB310
16	土製小玉	A4	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	5.1	4.8	3.2	0.11	完形	1	赤彩		134-29	CB191
17	土製小玉	A4	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	9.0	5.5	8.5	0.44	完形	1	赤彩		134-42	CB424
18	土製小玉	A4	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	6.9	4.0	6.7	0.22	完形	1	赤彩		134-43	CB480
19	土製小玉	A4	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	6.8	5.3	6.3	0.27	完形	1	赤彩		134-44	CB337
20	土製小玉	A4	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	6.2	5.3	5.9	0.23	完形	1	赤彩		134-45	CB339
21	土製小玉	A4	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	7.5	5.8	5.8	0.27	一部欠	1	赤彩		134-46	CB487
22	土製小玉	A4	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	6.0	3.9	4.3	0.13	完形	1	赤彩		134-47	CB347
23	土製小玉	B3	Ⅵc4	F-23Eb-Fa / Ⅵc4	5.4	3.8	4.0	0.08	完形	0	赤彩		134-48	CB881
24	土製小玉	B3	Ⅵc4	F-23Eb-Fa / Ⅵc4	5.5	4.2	4.0	0.07	完形	0	赤彩		134-49	CB958
25	土製小玉	B3	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	5.8	4.2	4.3	0.08	完形	0	赤彩		134-50	CB498
26	土製小玉	B3	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	5.8	4.4	4.1	0.08	完形	0	赤彩		134-51	CB446
27	土製小玉	B2	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	4.8	3.3	3.2	0.06	完形	0	赤彩		134-52	CB358
28	土製小玉	B2	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	6.3	4.3	3.7	0.11	完形	0	赤彩		134-53	CB399
29	土製小玉	B2	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	5.8	4.5	4.3	0.13	完形	0	赤彩		134-54	CB423
30	土製小玉	B1	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	6.6	3.9	3.4	0.10	完形	0	赤彩		134-55	CB442
31	土製小玉	B1	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	5.8	3.5	3.5	0.09	完形	0	赤彩		134-56	CB336
32	土製小玉	B1	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	6.8	4.1	3.3	0.09	完形	0	赤彩		134-57	CB465
33	土製小玉	B1	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	6.5	3.5	3.3	0.08	完形	0	赤彩		134-58	CB275
34	土製小玉	B1	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	5.8	3.8	4.0	0.12	完形	0	赤彩		134-59	CB320
35	土製小玉	B1	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	6.6	3.6	3.2	0.08	完形	0	赤彩		134-60	CB284
36	土製小玉	B1	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	6.7	5.0	4.4	0.16	完形	0	赤彩		134-61	CB210
37	土製小玉	B2	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	6.7	3.9	3.8	0.13	完形	0	赤彩		134-62	CB263
38	土製小玉	B2	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	6.4	5.3	5.1	0.15	完形	0	赤彩		134-63	CB209
39	土製小玉	B1	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	8.3	4.1	3.5	0.13	完形	0	赤彩		134-64	CB307
40	土製小玉	B1	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	8.0	4.0	4.8	0.18	完形	0	赤彩		134-65	CB308
41	土製小玉	B1	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	8.0	6.9	6.7	0.33	完形	1	赤彩		134-66	CB305
42	土製小玉	B2	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	8.7	6.0	6.7	0.37	完形	0	赤彩		134-67	CB309
43	土製小玉	B2+B2	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	6.0	4.4	6.1	0.21	完形	0	赤彩	2 点連結	134-68	CB444

No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
44	土版	A	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	残存長 48.0mm、残存幅 73.0mm、残存厚 15.2mm。表：横位沈線文、浅い円文＋縦位の沈線文（正中線）の両側に半円状の平行沈線文。裏：横位沈線文、縦位の沈線文（正中線）の両側に半円状の平行沈線文。上面：沈線文。赤彩	134-69	CO557
45	耳飾	B1	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	長 17.2mm、幅 19.5mm、厚 19.1mm。キノコ形。無文、貫通孔 1。傘部、孔内面赤彩	134-70	CO275
46	耳飾	B1	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	長 19.2mm、幅 19.8mm、残存厚 19.8mm。キノコ形。無文、貫通孔 1。表面全体・孔内面赤彩	134-71	CO277
47	環形土製品	-	Ⅵc3	F-23Fa / Ⅵc3	残存長 28.6mm、残存幅 21.8mm、残存厚 11.4mm。表・裏・側面（外）に刺突列。側面（外）赤彩	134-72	CO260

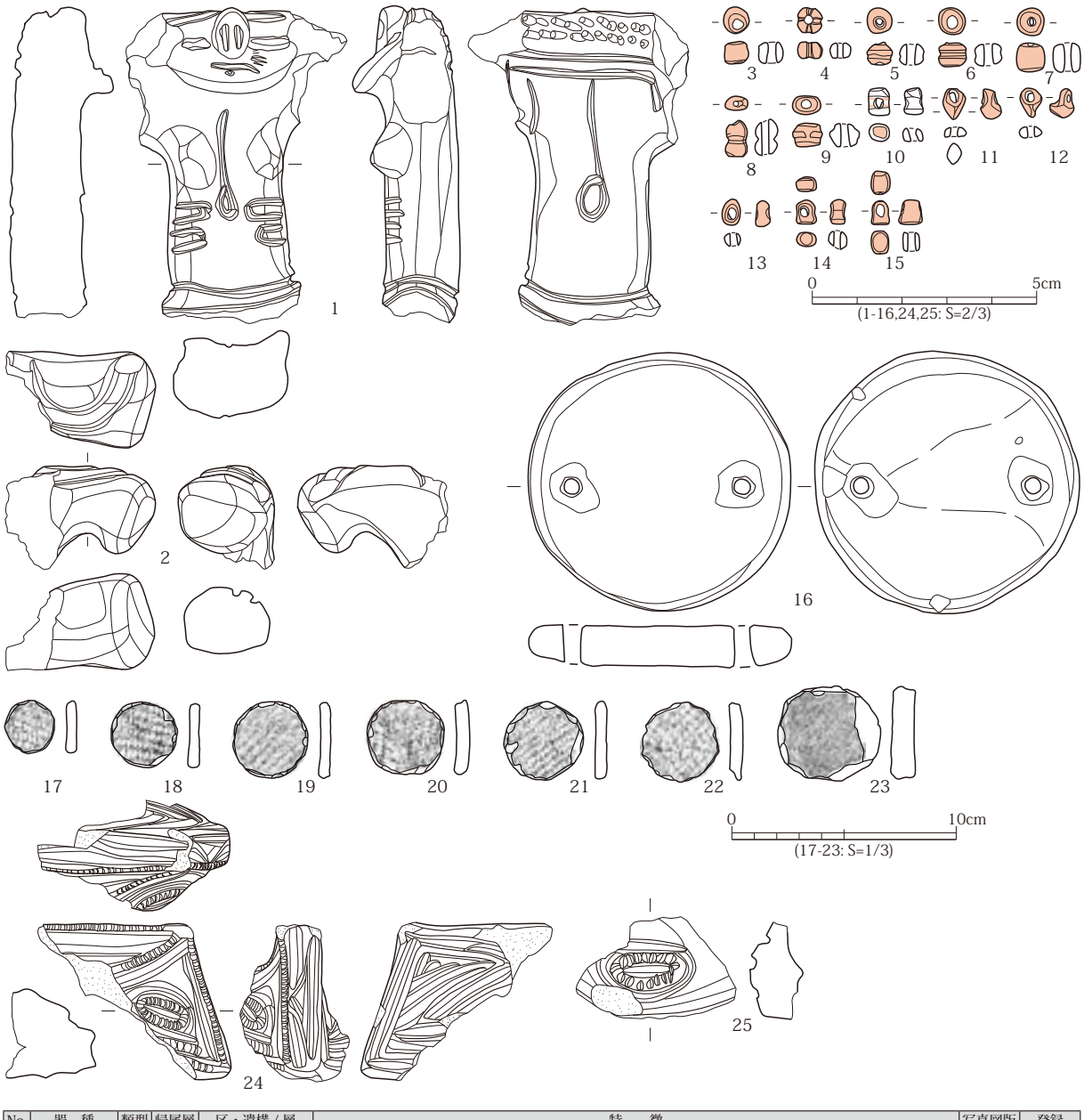
第169図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土製品（8）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	円形土製品	-	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	残存長 86.8mm、残存幅 58.3mm、残存厚 22.5mm。表：平行する直線状の線刻、裏：無文（ナデ）、貫通孔 1	134-73	CO556
27	円盤状土製品	Ac1	Ⅵc3	F-23Fa / Ⅵc3	長 25.1mm、幅 24.0mm、厚 7.9mm。円形、湾曲、剥離成形。縄文 LR	135-29	CO531
28	円盤状土製品	Ac1	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	長 36.0mm、幅 33.9mm、厚 7.7mm。円形、湾曲、剥離成形。縄文 LR	135-30	CO245
29	円盤状土製品	Ac1	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	長 42.5mm、幅 38.1mm、厚 7.8mm。円形、湾曲、剥離成形。撚糸文	135-31	CO96
30	円盤状土製品	Ab1	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	長 35.4mm、幅 32.9mm、厚 9.5mm。円形、端部湾曲、剥離成形。無文（底部外面ミガキ）。底部破片	135-32	CO95
31	土偶	-	Ⅵc2	F-23Fb / Ⅵc2	残存長 42.4mm、幅 44.7mm、残存厚 13.9mm。中実。頭部：刺突（口）、上部欠損。腹部：ヘラ刻目＋円形の刺突（正中線）、乳房剥落	135-33	CO539
32	耳飾	B1	Ⅵc2	F-23Fa / Ⅵc2・3	長 19.2mm、幅 18.4mm、厚 18.2mm。キノコ形。無文、貫通孔 1。全面赤彩	135-34	CO261

No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	装飾	彩色	備　考	写真図版	登録
2	土製小玉	A3	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	6.2	5.8	3.5	0.13	完形	0	赤彩		135-1	CB576
3	土製小玉	A1	Ⅵc3	F-23Fa / Ⅵc3	5.5	5.4	3.4	0.12	完形	0	赤彩		135-2	CB904
4	土製小玉	A3	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	5.5	3.6	3.6	0.10	完形	0	赤彩		135-3	CB584
5	土製小玉	A2	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	5.7	5.5	5.2	0.20	完形	0	赤彩		135-4	CB601
6	土製小玉	A2	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	4.6	4.3	5.4	0.11	完形	1	赤彩		135-5	CB600
7	土製小玉	A2	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	6.4	6.3	5.5	0.25	完形	1	赤彩		135-6	CB572
8	土製小玉	A2	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	6.6	6.5	6.9	0.31	完形	1	赤彩		135-7	CB704
9	土製小玉	A4	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	7.1	4.9	6.5	0.28	完形	1	赤彩		135-8	CB663
10	土製小玉	A4	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	6.9	5.1	6.0	0.26	完形	1	赤彩		135-9	CB680
11	土製小玉	A3	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	6.2	3.5	5.3	0.16	完形	0	赤彩		135-10	CB571
12	土製小玉	A4	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	6.7	4.7	5.6	0.20	完形	1	赤彩		135-11	CB713
13	土製小玉	A4	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	8.0	4.2	6.0	0.21	完形	1	赤彩		135-12	CB682
14	土製小玉	A4	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	7.8	3.8	7.0	0.22	完形	1	赤彩	正面からの貫通孔あり	135-13	CB722
15	土製小玉	B2	Ⅵc3	F-23Fa / Ⅵc3	4.6	3.6	3.8	0.08	完形	0	赤彩		135-14	CB546
16	土製小玉	B2	Ⅵc3	F-23Fa / Ⅵc3	6.0	4.3	3.4	0.11	完形	0	黒彩		135-15	CB893
17	土製小玉	B1	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	6.1	3.5	2.9	0.06	完形	0	赤彩		135-16	CB574
18	土製小玉	B1	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	6.0	4.0	3.5	0.10	完形	0	赤彩		135-17	CB581
19	土製小玉	B1	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	6.5	3.7	3.5	0.08	完形	0	赤彩		135-18	CB609
20	土製小玉	B1	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	6.6	3.6	3.1	0.07	完形	0	赤彩		135-19	CB602
21	土製小玉	B1	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	8.2	5.0	4.6	0.18	完形	0	赤彩		135-20	CB709
22	土製小玉	B1	Ⅵc3	F-23Fa / Ⅵc3	9.0	6.3	5.9	0.38	完形	0	赤彩		135-21	CB891
23	土製小玉	B1	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	9.8	5.1	5.6	0.38	完形	0	赤彩		135-22	CB727
24	土製小玉	B3	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	6.6	4.7	4.2	0.09	完形	0	赤彩		135-23	CB630
25	土製小玉	A3+A3	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	5.3	4.0	6.9	0.17	完形	0	赤彩	2 点連結	135-24	CB641
26	土製小玉	B2+B2	Ⅵc3	F-23Fa / Ⅵc3	5.5	4.6	6.8	0.18	完形	1	赤彩	2 点連結	135-25	CB534
33	土製小玉	A2	Ⅵc2	F-23Fa / Ⅵc2・3	5.6	5.4	6.5	0.22	完形	0	赤彩		135-26	CB761
34	土製小玉	B2	Ⅵc2	F-23Eb / Ⅵc2	4.5	3.5	3.3	0.07	完形	0	赤彩		135-27	CB927
35	土製小玉	B2	Ⅵc2	F-23Eb / Ⅵc2	4.8	3.7	3.2	0.07	完形	0	赤彩		135-28	CB928

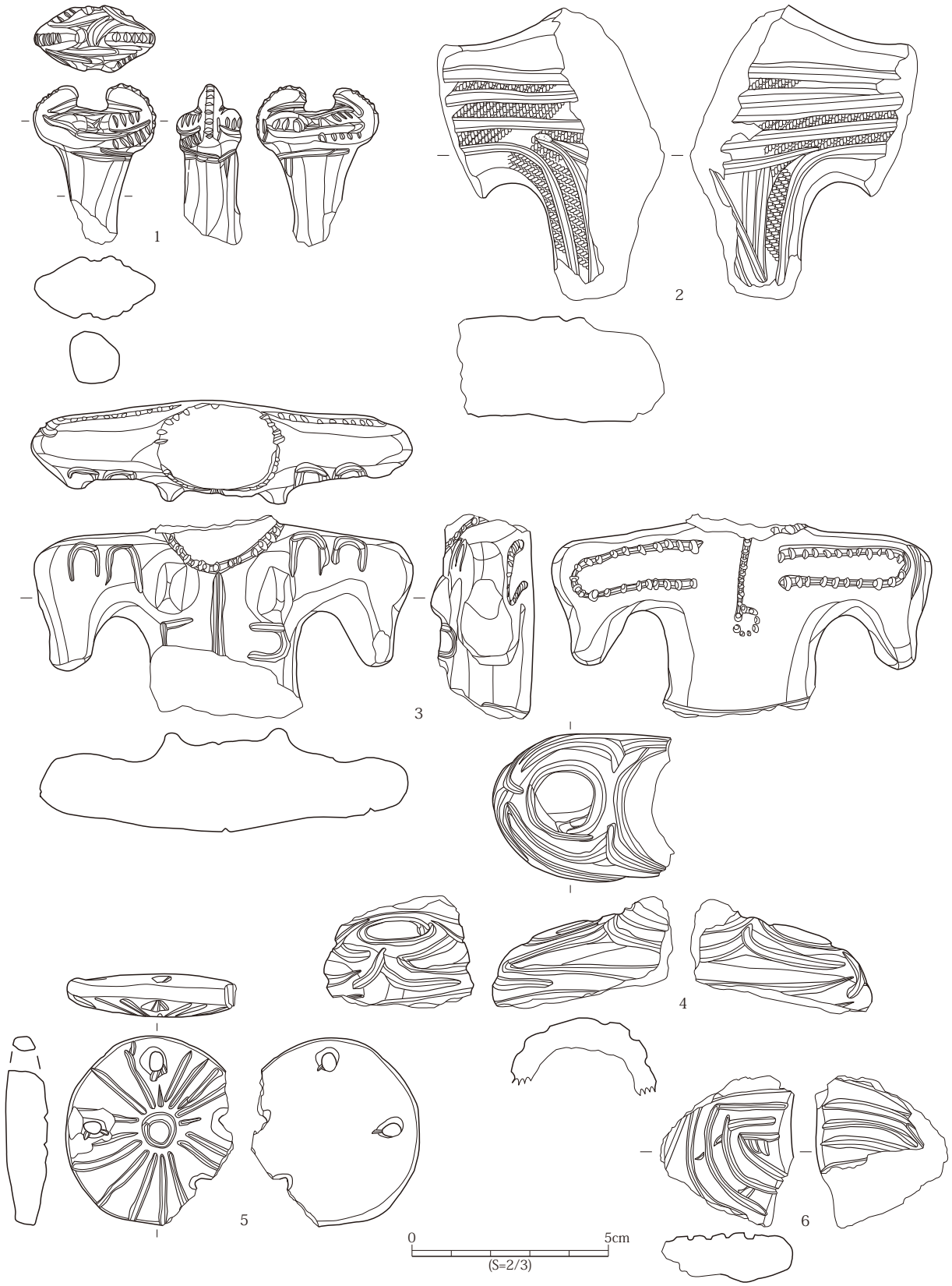
第170図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土製品（9）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	土偶頭部・胴部	-	Ⅵc1	F-23Gb / Ⅵc1	残存長 68.2mm、残存幅 49.3mm、厚 22.8mm。中実。顔：緩やかな山形沈線（眉）、短沈線文（目・口）、貼瘤＋刺突２（鼻）、櫛歯状工具による入墨の表現か。胸部：貼瘤２（乳房）、雨垂れ状の沈線文（正中線）、両側の乳房下に半円形の沈線文各２段（縦）。腰部を周る平行沈線文。背部：横位の刺突列２条、横位平行沈線文、両腕の付け根に縦位の平行短沈線文、中央に雨垂れ状沈線文	135-35	CO252
2	土偶左腕	-	Ⅵc1	F-23Ga / Ⅵc1	残存長 34.3mm、残存幅 22.5mm、厚 21.3mm。中実。腕が横に張り出す。左肩部に弧状の平行沈線文	135-36	CO221
16	垂飾	-	Ⅵc1	F-23Fb / Ⅵc1	長 57.3mm、幅 58.3mm、厚 9.0mm。中実。無文（ミガキ）、貫通孔２（左右対称）。赤彩	135-50	CO538
17	円盤状土製品	Aa3	Ⅵc1	F-23Fb / Ⅵc1	長 23.1mm、幅 22.4mm、厚 5.1mm。円形、平坦、全周研磨成形。縄文 RL	135-51	CO218
18	円盤状土製品	Aa3	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	長 29.8mm、幅 28.9mm、厚 6.3mm。円形、平坦、全周研磨成形。縄文 LR	135-52	CO233
19	円盤状土製品	Ac3	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	長 34.0mm、幅 33.0mm、厚 5.4mm。円形、湾曲、全周研磨成形。縄文 LR	135-53	CO230
20	円盤状土製品	Ac3	Ⅵc	F-23E / Ⅵc	長 35.8mm、幅 35.1mm、厚 7.4mm。円形、湾曲、全周研磨成形。縄文 RL	135-54	CO246
21	円盤状土製品	Aa3	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	長 35.4mm、幅 34.8mm、厚 6.5mm。円形、平坦、全周研磨成形。縄文 LR	135-55	CO239
22	円盤状土製品	Aa1	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	長 35.1mm、幅 33.7mm、厚 6.6mm。円形、平坦、剥離成形。羽状縄文 LR/RL	13556	CO222
23	円盤状土製品	Aa2	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	長 46.4mm、幅 43.4mm、厚 12.0mm。円形、平坦、一部研磨成形。無文（底部外面ミガキ）。底部破片	135-57	CO232
24	土偶頭部	-	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	残存長 34.4mm、残存幅 43.5mm、残存厚 24.1mm。中実。π字文＋櫛歯状刻目（頭髪）、隆線上に櫛歯状刻目＋平行する沈線（眉）、環状沈線＋頂部短沈線＋隆線上に櫛歯状刻目（目）、平行沈線文＋櫛歯状刻目（顔）、工字文（陰刻）か＋平行沈線文（後頭部）	135-60	CO128
25	土偶頭部	-	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	残存長 22.1mm、残存幅 35.3mm、残存厚 16.3mm。中実。環状沈線＋頂部短沈線＋隆線上にヘラ刻目	135-59	CO129

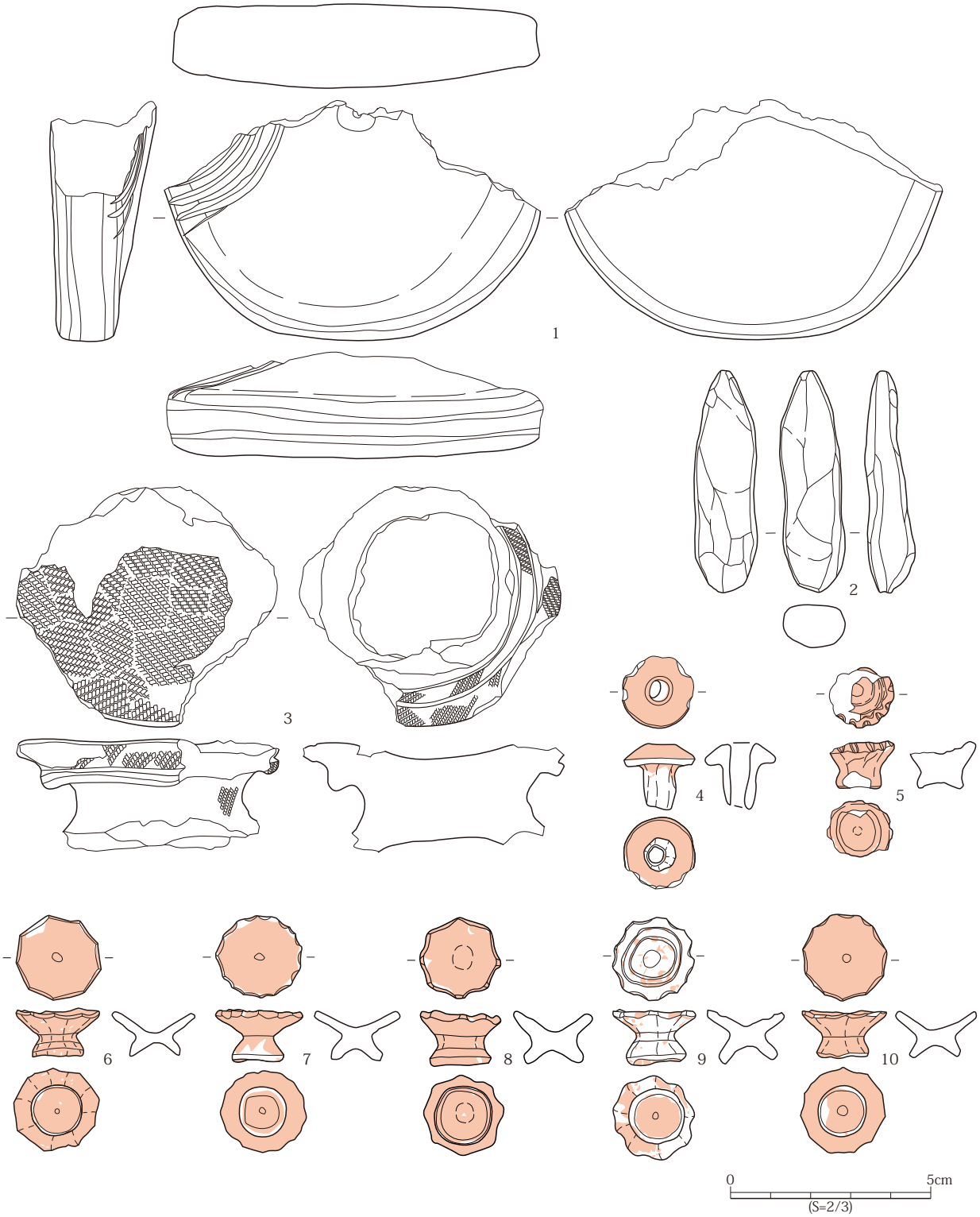
No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	装飾	彩色	備　考	写真図版	登録
3	土製小玉	A2	Ⅵc1	F-23Fb / Ⅵc1	5.0	4.8	4.6	0.13	完形	0	赤彩		135-37	CB22
4	土製小玉	A4	Ⅵc1	F-23Fb / Ⅵc1	5.1	5.0	3.8	0.12	完形	1	赤彩		135-38	CB24
5	土製小玉	A2	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	5.3	5.1	4.2	0.13	完形	1	赤彩		135-39	CB52
6	土製小玉	A2	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	5.8	5.5	5.2	0.19	完形	1	赤彩		135-40	CB48
7	土製小玉	A2	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	5.7	5.7	6.1	0.23	完形	0	赤彩		135-41	CB56
8	土製小玉	A3+A3	Ⅵc	F-23E / Ⅵc	5.4	3.4	8.5	0.18	完形	0	赤彩	2 点連結	135-42	CB769
9	土製小玉	A4	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	5.8	3.8	4.9	0.14	完形	1	赤彩		135-43	CB42
10	土製小玉	B2	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	5.3	4.3	3.6	0.11	完形	1	赤彩		135-44	CB51
11	土製小玉	B3	Ⅵc1	F-23Fb / Ⅵc1	6.2	4.1	4.4	0.08	完形	0	赤彩		135-45	CB29
12	土製小玉	B3	Ⅵc1	F-23Fb / Ⅵc1	5.8	4.4	5.0	0.08	完形	0	赤彩		135-46	CB36
13	土製小玉	A3	Ⅵc1	F-23Fb / Ⅵc1	5.1	3.7	2.9	0.06	完形	0	赤彩		135-47	CB28
14	土製小玉	B2	Ⅵc1	F-23Fb / Ⅵc1	5.0	4.0	3.0	0.08	完形	0	赤彩		135-48	CB20
15	土製小玉	B2	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	4.8	3.8	4.7	0.10	完形	0	赤彩		135-49	CB15

第171図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土製品（10）　F-23区E・F・Gグリッド



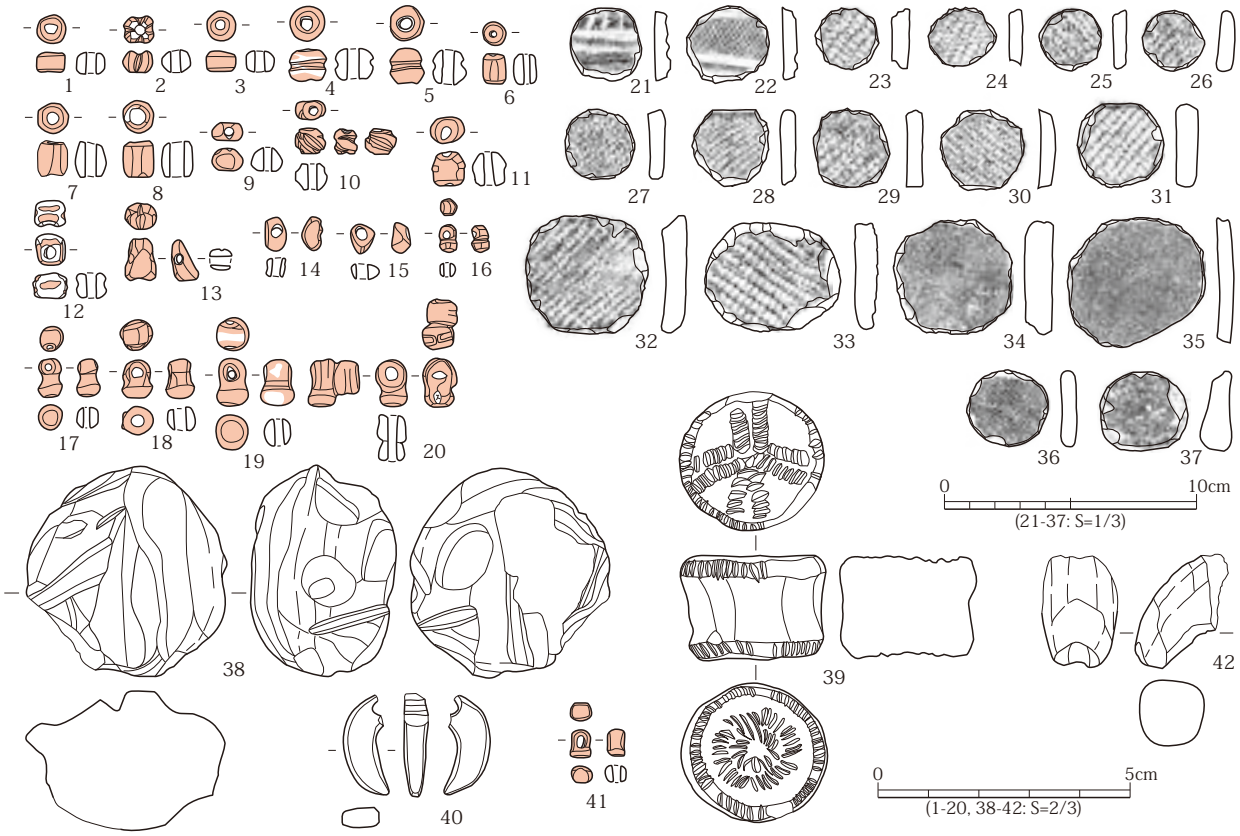
No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	土偶頭部	-	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	残存長 40.8mm、幅 30.7mm、厚 16.4mm。中実。突起部：二個一対の突起＋側縁にヘラ刻目、両面：平行沈線文＋二個一対の貼瘤＋隆線上にヘラ刻目	135-58	CO549
2	土偶上半身	-	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	残存長 71.8mm、残存幅 56.8mm、残存厚 26.7mm。中実。両面とも胸部から腕にかけて平行沈線文＋胴部に弧状の平行沈線文、胴部片面のみ斜位の平行沈線文、両面とも磨消縄文 LR	135-61	CO553
3	土偶胸部・両腕	-	Ⅵb2	F-23E / Ⅵb2	残存長 49.7mm、幅 96.0mm、厚 24.8mm。中実。腕が横に張り出す。胸部：貼瘤 2（乳房）、縦位の沈線文（正中線）。両肩に弧状の沈線文各 2 段（横）、両側の乳房下に弧状の沈線文各 1 段。首の周りに刺突列（首飾り）。背部：雨垂れ状の刺突列、両肩に U 字形の沈線文＋刺突列各 1 条。腰部を周る沈線文。赤彩	136-1	CO251
4	土偶肩部	-	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	残存長 23.6mm、残存幅 48.0mm、残存厚 37.5mm。中空。首の周りに平行沈線文、肩部上面に渦巻文（環状沈線）、肩部端部に工字文（陰刻）。赤彩	136-2	CO550
5	土版	B	Ⅵb2	F-23E / Ⅵb2	長 48.1mm、残存幅 42.1mm、厚 10.7mm。表：中央の環状沈線から放射状に延びる沈線文、貫通孔 4。裏：無文（ナデ）。蓋か	136-3	CO574
6	土版	A	Ⅵb2	F-23E / Ⅵb2	残存長 36.7mm、残存幅 33mm、残存厚 12.2mm。表：縦位の沈線文（正中線）、半円形の平行沈線文。裏：半円形の平行沈線文。赤彩	136-4	CO575

第172図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土製品（11）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	土版	A	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	残存長 60.7mm、残存幅 93.9mm、残存厚 25.4mm。表：円文（正中線）、半円状の平行沈線文。裏：無文（ミガキ）。側面：沈線上のくぼみ	136-5	CO552
2	棒状土製品	-	Ⅵb2	F-23Fb / Ⅵb2	長 55.5mm、幅 16.3mm、厚 11.5mm。中実。無文（ナデ）。マメ科植物類似	136-6	CO536
3	耳飾	A2	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	残存長 25.3mm、残存幅 65.0mm、残存厚 59.6mm。滑車形。平坦面から側面にかけて縄文 LR	136-7	CO837
4	耳飾	B1	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	長 16.2mm、幅 17.7mm、厚 17.6mm。キノコ形。無文（ミガキ）、貫通孔 1。傘部・孔内面赤彩	136-8	CO295
5	耳飾	B2	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	残存長 12.4mm、残存幅 16.1mm、残存厚 14mm。盃形。口縁部平坦＋ヘラ刻目、口縁部～体下部内面に平行する環状沈線 2 条。全面赤彩	136-9	CO288
6	耳飾	B2	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	長 11.3mm、幅 21.2mm、厚 20.1mm。盃形。口縁部波状、無文。全面赤彩	136-10	CO259
7	耳飾	B2	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	長 12.4mm、幅 20.9mm、厚 20.6mm。盃形。口縁部波状、無文。全面赤彩	136-11	CO269
8	耳飾	B2	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	長 13.2mm、幅 19.5mm、厚 19.4mm。盃形。口縁部波状、無文。全面赤彩	136-12	CO273
9	耳飾	B2	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	長 12.6mm、幅 20.7mm、厚 19.5mm。盃形。口縁部波状、口縁部内面に環状沈線。全面赤彩	136-13	CO287
10	耳飾	B2	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	長 11.4mm、幅 21mm、厚 20.5mm。盃形。口縁部波状、無文。全面赤彩	136-14	CO289

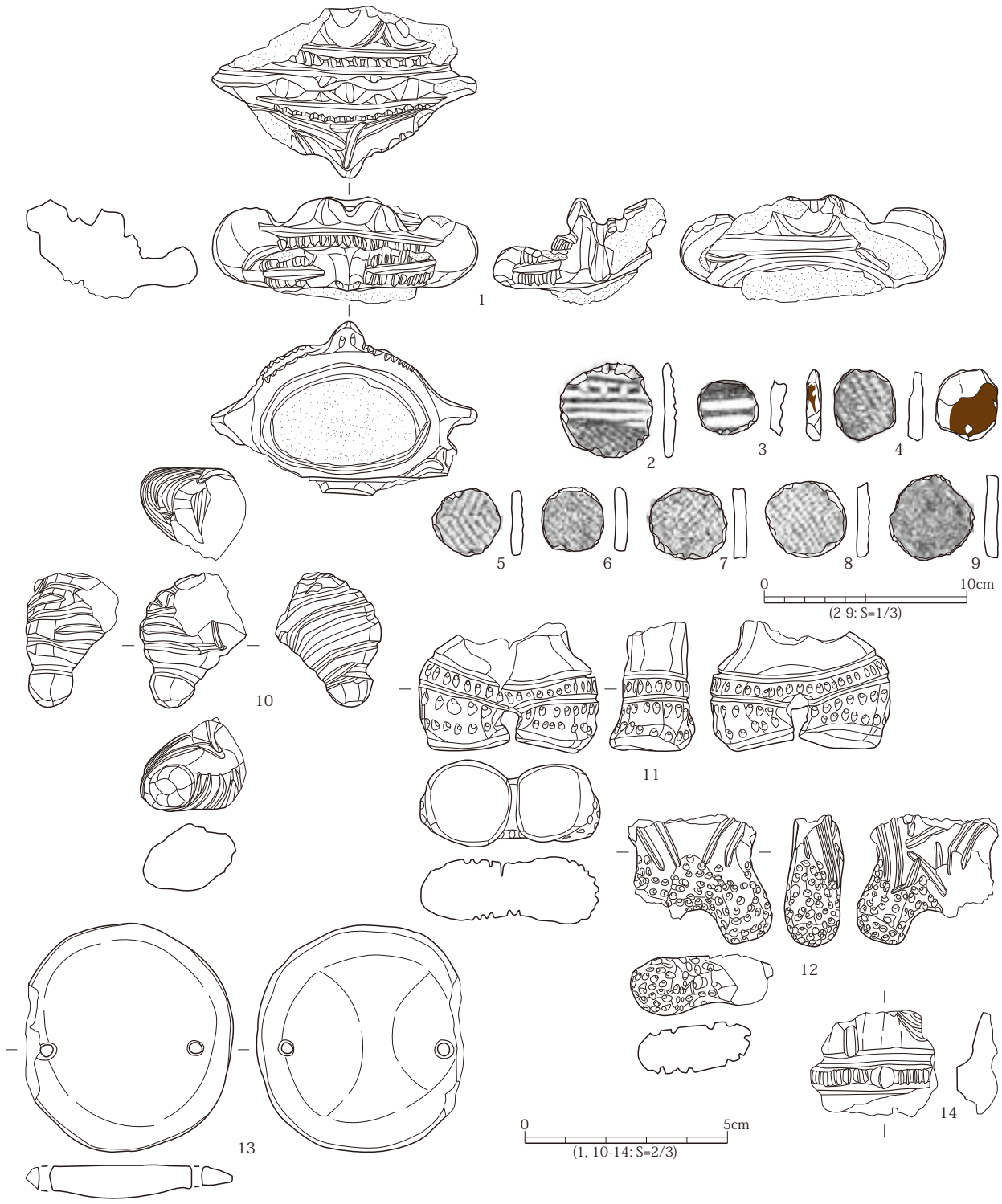
第173図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土製品（12）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	装飾	彩色	備　考	写真図版	登録
1	土製小玉	A1	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	5.3	5.3	3.7	0.12	完形	0	赤彩		136-15	CB150
2	土製小玉	A4	Ⅵ b2	F-23E / Ⅵ b2	5.3	4.8	3.7	0.13	完形	1	赤彩		136-16	CB180
3	土製小玉	A1	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	5.5	5.3	3.8	0.15	完形	0	黒彩		136-17	CB175
4	土製小玉	A2	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	6.8	6.6	6.0	0.32	完形	1	赤彩		136-18	CB113
5	土製小玉	A2	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	6.3	6.2	6.3	0.26	完形	1	赤彩		136-19	CB102
6	土製小玉	A2	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	4.2	4.1	5.7	0.14	完形	0	赤彩		136-20	CB160
7	土製小玉	A2	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	5.8	5.8	6.4	0.22	完形	0	赤彩		136-21	CB110
8	土製小玉	A2	Ⅵ b2	F-23E / Ⅵ b2	6.0	5.9	6.8	0.23	完形	0	赤彩		136-22	CB176
9	土製小玉	A3	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	5.6	3.4	4.2	0.11	完形	0	赤彩		136-23	CB105
10	土製小玉	A4	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	5.5	3.8	4.7	0.11	完形	1	赤彩		136-24	CB159
11	土製小玉	A4	Ⅵ b2	F-23Eb-Fa / Ⅵ b2	6.3	4.8	6.3	0.20	完形	1	赤彩		136-25	CB7
12	土製小玉	A4	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	6.0	5.7	4.5	0.20	完形	1	赤彩		136-26	CB83
13	土製小玉	A4	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	8.0	4.3	5.6	0.19	完形	1	赤彩		136-27	CB165
14	土製小玉	A3	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	6.0	3.2	3.6	0.09	完形	0	赤彩		136-28	CB75
15	土製小玉	B3	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	4.7	4.7	3.3	0.07	完形	0	赤彩		136-29	CB69
16	土製小玉	B1	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	4.7	2.8	3.0	0.05	完形	0	赤彩		136-30	CB100
17	土製小玉	B1	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	7.0	4.5	4.5	0.14	完形	0	赤彩		136-31	CB57
18	土製小玉	B1	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	7.4	5.6	5.3	0.24	完形	0	赤彩		136-32	CB158
19	土製小玉	B1	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	8.8	6.4	6.5	0.40	完形	0	赤彩		136-33	CB59
20	土製小玉	A1+B1	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	4.4	3.3	5.8	0.53	完形	1	赤彩	2 点連結	136-34	CB92
41	土製小玉	B2	Ⅵ b1	F-23Fb / Ⅵ b1	5.0	3.8	3.2	0.07	完形	0	赤彩		137-22	CB37

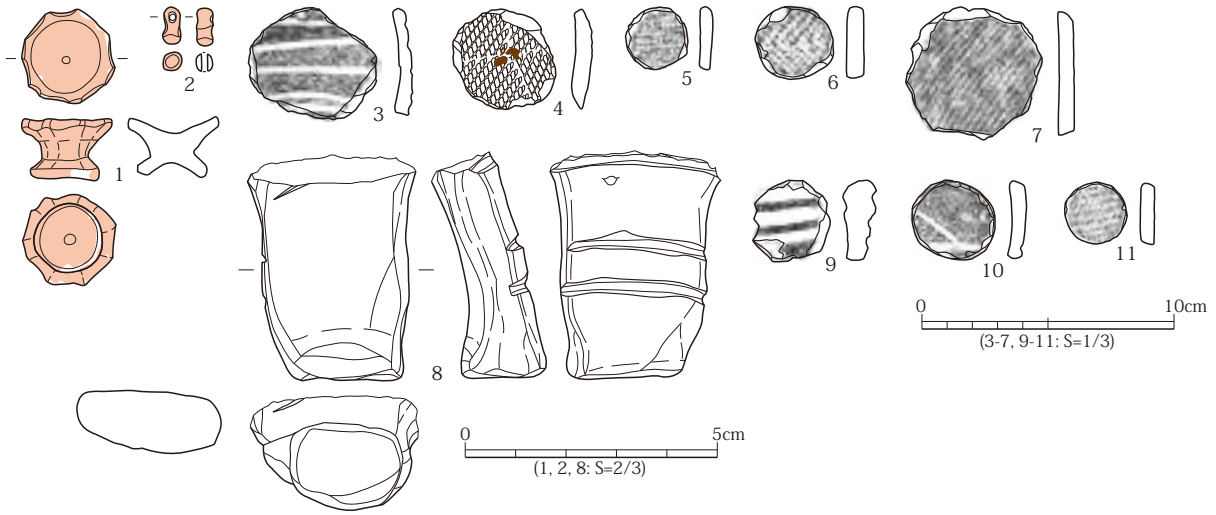
No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
21	円盤状土製品	Ac2	Ⅵ b2	F-23E / Ⅵ b2	長 27.0mm、幅 22.0mm、厚 8.0mm。円形、湾曲、一部研磨成形。平行沈線文＋ヘラ刻目	137-1	CO249
22	円盤状土製品	Ba1	Ⅵ b2	F-23E / Ⅵ b2	長 32.4mm、幅 29.4mm、厚 6.0mm。楕円形、平坦、剥離成形。雲形文（磨消縄文）、平行沈線文、縄文 LR	137-2	CO250
23	円盤状土製品	Aa1	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	長 25.3mm、幅 24.1mm、厚 6.5mm。円形、平坦、剥離成形。縄文 RL	137-3	CO130
24	円盤状土製品	Ba1	Ⅵ b2	F-23E / Ⅵ b2	長 26.1mm、幅 21.8mm、厚 5.2mm。楕円形、平坦、剥離成形。縄文 RL	137-4	CO138
25	円盤状土製品	Aa2	Ⅵ b2	F-23Eb / Ⅵ b2	長 24.4mm、幅 24.2mm、厚 5.9mm。円形、平坦、一部研磨成形。縄文 RL	137-5	CO101
26	円盤状土製品	Aa2	Ⅵ b2	F-23Eb-Fa / Ⅵ b2	長 24.5mm、幅 23.4mm、厚 6.5mm。円形、平坦、一部研磨成形。直前段多条縄文 LR	137-6	CO149
27	円盤状土製品	Aa2	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	長 28.5mm、幅 27.8mm、厚 6.5mm。円形、平坦、一部研磨成形。縄文 LR	137-7	CO116
28	円盤状土製品	Aa1	Ⅵ b2	F-23E / Ⅵ b2	長 31.4mm、幅 31.3mm、厚 5.8mm。円形、平坦、剥離成形。平縁、縄文 LR。口縁部破片	137-8	CO145
29	円盤状土製品	Ac1	Ⅵ b2	F-23Fa / Ⅵ b2	長 32.6mm、幅 30.7mm、厚 7.1mm。円形、湾曲、剥離成形。縄文 LR	137-9	CO84
30	円盤状土製品	Ac1	Ⅵ b2	F-23Fa / Ⅵ b2	長 32.9mm、幅 31.7mm、厚 6.1mm。円形、湾曲、剥離成形。縄文 RL	137-10	CO75
31	円盤状土製品	Aa2	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	長 35.5mm、幅 34.0mm、厚 9.9mm。円形、平坦、一部研磨成形。平縁、縄文 LR。胎土に海綿骨針を含む、口縁部破片	137-11	CO121
32	円盤状土製品	Ac1	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	長 51.5mm、幅 49.7mm、厚 9.2mm。円形、湾曲、剥離成形。縄文 LR	137-12	CO110
33	円盤状土製品	Bc1	Ⅵ b2	F-23Fa / Ⅵ b2	長 52.8mm、幅 43.3mm、厚 9.2mm。楕円形、湾曲、剥離成形。縄文 LR	137-13	CO83
34	円盤状土製品	Aa1	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	長 48.9mm、幅 48.4mm、厚 11.0mm。円形、平坦、剥離成形。無文（底部外面ミガキ）。底部破片	137-14	CO111
35	円盤状土製品	Bc1	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	長 57.0mm、幅 48.9mm、厚 5.4mm。楕円形、湾曲、剥離成形。無文（外面ミガキ）	137-15	CO107
36	円盤状土製品	Ac2	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	長 32.9mm、幅 30.1mm、厚 6.4mm。円形、湾曲、一部研磨成形。無文（外面ミガキ）	137-16	CO108
37	円盤状土製品	Ab2	Ⅵ b2	F-23Ea / Ⅵ b2	長 35.2mm、幅 33.6mm、厚 12.8mm。円形、端部湾曲、一部研磨成形。無文（底部外面ミガキ）。底部破片	137-17	CO126
38	不明土製品	-	Ⅵ b1	F-23Fb / Ⅵ b1	長 41.5mm、幅 39.5mm、厚 27.6mm。中実、不整な球状。縦位の沈線文（断面Ｖ字形）。外陰部の表現	137-18	CO534
39	耳飾	A3	Ⅵ b1	F-23Ga / Ⅵ b1	長 20mm、幅 28.4mm、厚 26.9mm。円筒形。平坦面に櫛歯状刻目による円文・十字文、平坦面の周縁に櫛歯状刻目	137-19	CO522
40	垂飾	-	Ⅵ b1	F-23Ga / Ⅵ b1	残存長 19.3mm、残存幅 8.6mm、厚 4.4mm。中実。無文（ミガキ）、貫通孔 1	137-20	CO523
42	土偶腕	-	Ⅵ b1	F-23Fb / Ⅵ b1	残存長 16.3mm、残存幅 23.2mm、厚 14.9mm。中実。端部にヘラ刻み（指）、無文（ミガキ）	137-21	CO533

第174図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土製品（13）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	土偶頭部	-	Ⅵb1	F-23Fb / Ⅵb1	残存長 25.1mm、残存幅 65.2mm、残存厚 44.6mm。中実。二個一対の山形突起＋波状浮線文＋平行沈線文＋ヘラ刻目（頭髪）、二個一対の小突起＋ヘラ刻目＋短沈線文（目）、鼻に刺突 2、首の周りに環状沈線	137-23	CO63
2	円盤状土製品	Ac1	Ⅵb1	F-23Fb / Ⅵb1	長 48.5mm、幅 47.0mm、厚 5.5mm。円形、湾曲、剥離成形。羊歯状文、平行沈線文、縄文 RL	137-24	CO65
3	円盤状土製品	Ab1	Ⅵb1	F-23Ga / Ⅵb1	長 28.6mm、幅 26.9mm、厚 6.5mm。円形、端部湾曲、剥離成形。平行沈線文、縄文 LR	137-25	CO56
4	円盤状土製品	Ba1	Ⅵb1	F-23Gb / Ⅵb1	長 35.4mm、幅 29.7mm、厚 7.6mm。楕円形、平坦、剥離成形。縄文 LR。側面・内面黒色物質付着	137-26	CO51
5	円盤状土製品	Aa3	Ⅵb1	F-23Ga / Ⅵb1	長 32.3mm、幅 32.2mm、厚 6.0mm。円形、平坦、全周研磨成形。羽状縄文 LR/RL（いずれも 0 段多条）	137-27	CO62
6	円盤状土製品	Ac1	Ⅵb1	F-23Ga / Ⅵb1	長 32.8mm、幅 32.1mm、厚 5.8mm。円形、湾曲、剥離成形。縄文 RL	137-28	CO55
7	円盤状土製品	Ac1	Ⅵb1	F-23Fb / Ⅵb1	長 38.8mm、幅 36.2mm、厚 7.0mm。円形、湾曲、剥離成形。羽状縄文 RL/LR	137-29	CO535
8	円盤状土製品	Aa2	Ⅵb1	F-23Ga / Ⅵb1	長 39.9mm、幅 36.6mm、厚 5.4mm。円形、平坦、一部研磨成形。直前段多条縄文 RL	137-30	CO57
9	円盤状土製品	Aa1	Ⅵb1	F-23Fb / Ⅵb1	長 42.1mm、幅 40.2mm、厚 5.1mm。円形、平坦、剥離成形。無文（底部外面ミガキ）。底部破片	137-31	CO59
10	土偶右腕	-	Ⅵa	F-23Fb / Ⅵa	残存長 28.2mm、残存幅 27.5mm、残存厚 22.0mm。中実。肩部から腕を周る平行沈線文、沈線文による手首の表現	137-34	CO544
11	土偶下半身	-	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	残存長 32.2mm、幅 44.3mm、厚 20.5mm。中実。腰部を周る平行沈線文＋刺突列、両脚を周る刺突列 2 条、足先：粘土のつまみ出し、足裏：無文（ナデ）。赤彩	137-33	CO541
12	土偶下半身	-	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	残存長 32.3mm､残存幅 35.2mm､厚 14.0mm。中空(胴部)､中実(脚部)。腹部:左右対称の弧状の平行沈線文、下腹部に円形のくぼみ、下腹部から両脚にかけて刺突文。背部：左右対称の弧状の平行沈線文、中央に縦位＋斜位の短沈線文、両脇腹に縦位の沈線文	137-32	CO526
13	垂飾	-	Ⅵa	F-23Fb / Ⅵa	長 55.7mm、残存幅 50.8mm、厚 7.5mm。中実。表:無文（ミガキ）、裏:無文（ナデ）、貫通孔 2（左右対称）。赤彩。胎土に海綿骨針を含む	137-36	CO543
14	土偶か	-	Ⅵa	F-23Fb / Ⅵa	残存長 26.4mm、残存幅 30.7mm、残存厚 15.8mm。中空。横位沈線文、隆帯上にヘラ刻目＋櫛歯状刻目	137-35	CO841

第175図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土製品（14）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	耳飾	B2	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	長 11.9mm、幅 18.0mm、厚 17.8mm。盃形。口縁部波状、口縁部内面に環状沈線。全面赤彩	137-37	CO265
3	円盤状土製品	Bb1	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	長 50.1mm、幅 40.9mm、厚 6.1mm。楕円形、端部湾曲、剥離成形。雲形文（磨消縄文）、平行沈線文、縄文 LR、内面沈線。内外面赤彩（素材土器）	137-39	CO47
4	円盤状土製品	Bc1	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	長 43.5mm、幅 38.7mm、厚 6.7mm。楕円形、湾曲、剥離成形。縄文 LR。外面黒色物質付着	137-40	CO26
5	円盤状土製品	Aa2	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	長 25.2mm、幅 24.6mm、厚 4.8mm。円形、平坦、一部研磨成形。縄文 RL	137-41	CO21
6	円盤状土製品	Aa1	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	長 30.7mm、幅 27.7mm、厚 6.6mm。円形、平坦、剥離成形。羽状縄文 RL/LR	137-42	CO15
7	円盤状土製品	Ac1	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	長 53.7mm、幅 51.0mm、厚 6.2mm。円形、湾曲、剥離成形。縄文 LR	137-43	CO46
8	土偶脚	-	Ⅴc	F-23G / Ⅴc	残存長 45.5mm、幅 33.5mm、厚 16.6mm。中実。表面：平行沈線文、裏面：無文（ミガキ）、足裏：無文（ミガキ）。赤彩	137-44	CO525
9	円盤状土製品	Ab1	Ⅴc	F-23F / Ⅴc	長 31.6mm、幅 28.1mm、厚 12.5mm。円形、端部湾曲、剥離成形。平行沈線文、π字文（上向）、内面平行沈線文。外面赤彩（素材土器）	137-45	CO3
10	円盤状土製品	Ac2	Ⅴc	F-23F / Ⅴc	長 33.6mm、幅 30.2mm、厚 6.0mm。円形、湾曲、一部研磨成形。雲形文（磨消縄文）、縄文 LR	137-46	CO49
11	円盤状土製品	Aa3	Ⅴc	F-23F / Ⅴc	長 24.4mm、幅 24mm、厚 6.6mm。円形、平坦、全周研磨成形。縄文 LR。摩滅著しい	137-47	CO9

No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	装飾	彩色	備　考	写真図版	登録
2	土製小玉	B1	Ⅵa	F-23Fb / Ⅵa	6.4	3.2	3.1	0.09	完形	0	赤彩		137-38	CB974

第176図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土土製品（15）　F-23区E・F・Gグリッド

Ⅵc2 層からは、土偶全身（第 170 図 31）、耳飾（同図 32）、円盤状土製品、土製小玉（同図 33 ～ 35）が出土している。第 170 図 31 は頭部の一部と乳房が欠けている以外は全身が残る小型の土偶である。刻目や刺突列により顔～正中線～陰部を表現している。

Ⅵc1 層（Ⅵc 層を含む）からは、土偶上半身（第 171 図 1）・左腕（同図 2）・脚?、垂飾（同図 16）、耳飾のほかに円盤状土製品（同図 17 ～ 23）、土製小玉（同図 3 ～ 15）が出土している。第 171 図 1 は顔面に櫛歯状工具による文身の表現が見られる。

Ⅵb2 層からは、土偶上半身（第 172 図 2･3）･頭部（第 171 図 24･25、第 172 図 1）･肩部（同図 4）･腕、土版（同図 5・6、第 173 図 1）、耳飾（同図 3 ～ 10）、棒状土製品（同図 2）、円形土製品、環形土製品のほかに円盤状土製品（第 174 図 21 ～ 37）、土製小玉（同図 1 ～ 20）、不明土製品が出土している。第 171 図 1 は、隆線上に櫛歯状刻目を施して目や眉を表現し、側面にはπ字文、背面（後頭部）には工字文?による頭髪の表現が見られる。第 172 図 3 は沈線文に加えて刺突列により体表の表現が行われている。同図 5 は、十字状に貫通孔が 4 箇所穿たれており、また片面のみの装飾であることから、蓋の可能性がある。第 173 図 2 は全体の形状がマメ科植物の実に類似する。同図 3 は大型の耳飾とみられ､表面には縄文が施されている。同図 5 は連続するヘラ刻みにより口縁部が表現されている。第 174 図 20 は小玉 2 点が漆で固着した状態で出土した。

Ⅵb1 層からは、土偶頭部（第 175 図 1）・腕（第 174 図 42）、垂飾（同図 40）、耳飾（同図 39）、円柱形土製品のほかに円盤状土製品（第 175 図 2 ～ 9）、土製小玉（第 174 図 41）、不明土製品（同図

38）が出土している。第174図38は粘土成形と沈線文により外陰部を表現したものとみられる。同図39は大型の耳飾で、櫛歯状の刻みによる装飾が上下両面とその縁辺に施されている。

Ⅵａ層からは、土偶胴部・右腕（第175図10）・下半身（同図11・12）、垂飾（同図13）、耳飾（第176図1）のほかに円盤状土製品（同図3～7）、土製小玉（同図2）、不明石製品が出土している。第175図11・12は腰部から脚部にかけて刺突列や刺突文が施される。第176図4は外面中央にアスファルトとみられる黒色物質が付着している。

③石器・石製品

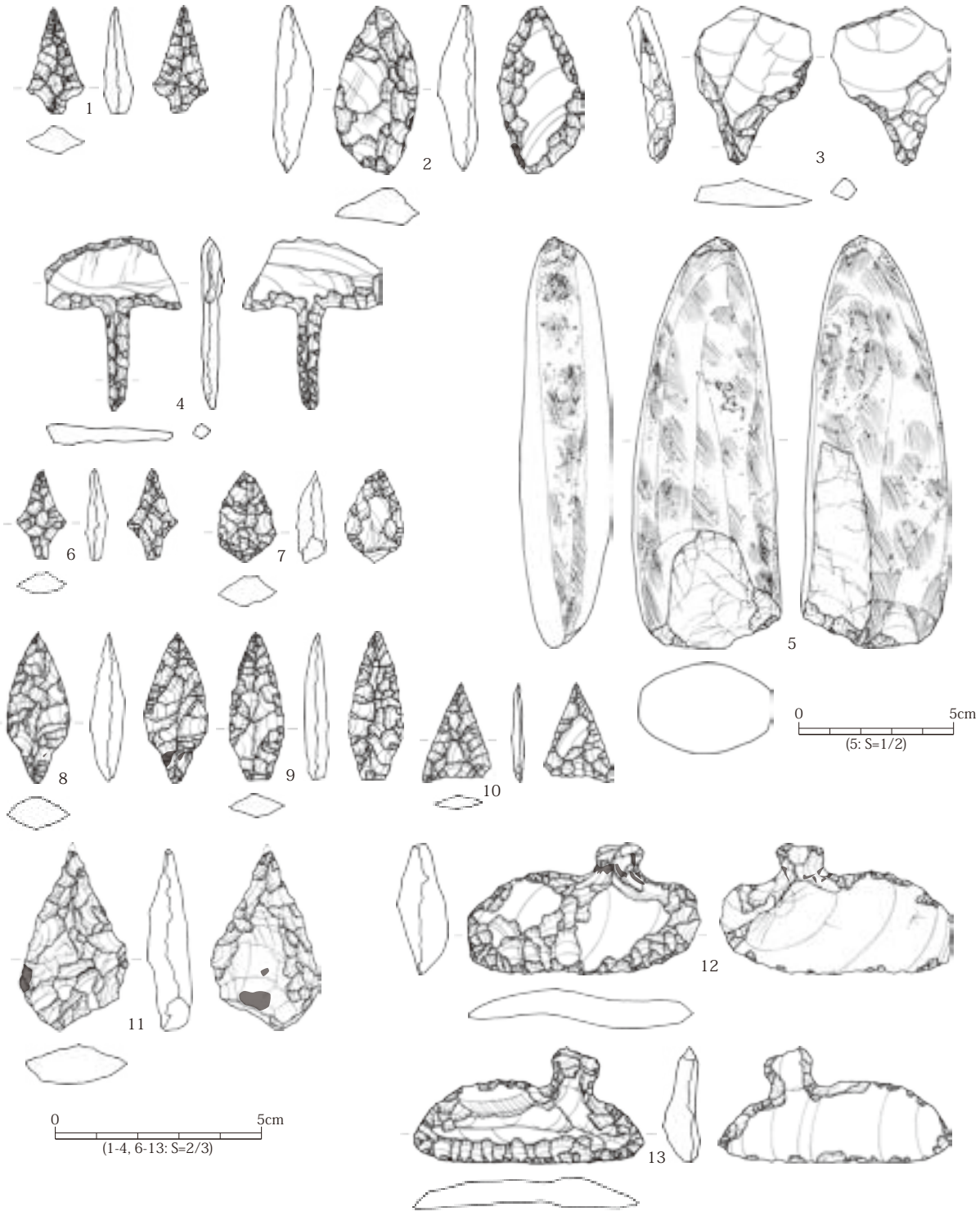
遺物包含層からは、石器・石製品が5,187点出土している。石鏃178点、尖頭器18点、石錐84点、石匙29点、石篦21点、打製石斧3点、磨製石斧24点、石庖丁様石器1点、楔形石器87点、不定形石器247点、石皿73点、磨石182点、凹石11点、砥石8点、敲石4点といったトゥール類や剥片・砕片3,781点、石核335点、また、円盤状石製品25点、石錘2点、石冠1点、独鈷石3点、石棒21点、石刀28点、サメ歯形石器1点、異形石器1点、垂飾1点、勾玉1点、臼玉1点、小玉1点、岩版1点、線刻礫4点、有孔石製品2点といった石製品がある。さらに、石器石材とみられる原石が4点、珍しい形状や色調をもつ自然石（奇石）が3点出土している。なお、層位別の器種および石材組成を第22～24・26～29表に示した。以下に、地形別・層位別に出土状況を述べる。

ⅰ）丘陵部

Ⅵｅ層（Ⅵe5層とⅥe3層を含む）からは42点出土し、石鏃2点（第177図1）、尖頭器1点（同図2）、石錐3点（同図3･4）、石匙1点、石篦1点、磨製石斧1点（同図5）、楔形石器1点、不定形石器7点、石皿4点、磨石2点、剥片13点、石核6点がある。また、石器石材とみられる原石（頁岩）が1点出土した。石材は珪質頁岩（A）が最も多く、ほかに珪質凝灰岩（B）や碧玉（B1・B2・C・D）、玉髄がやや多く見られる。

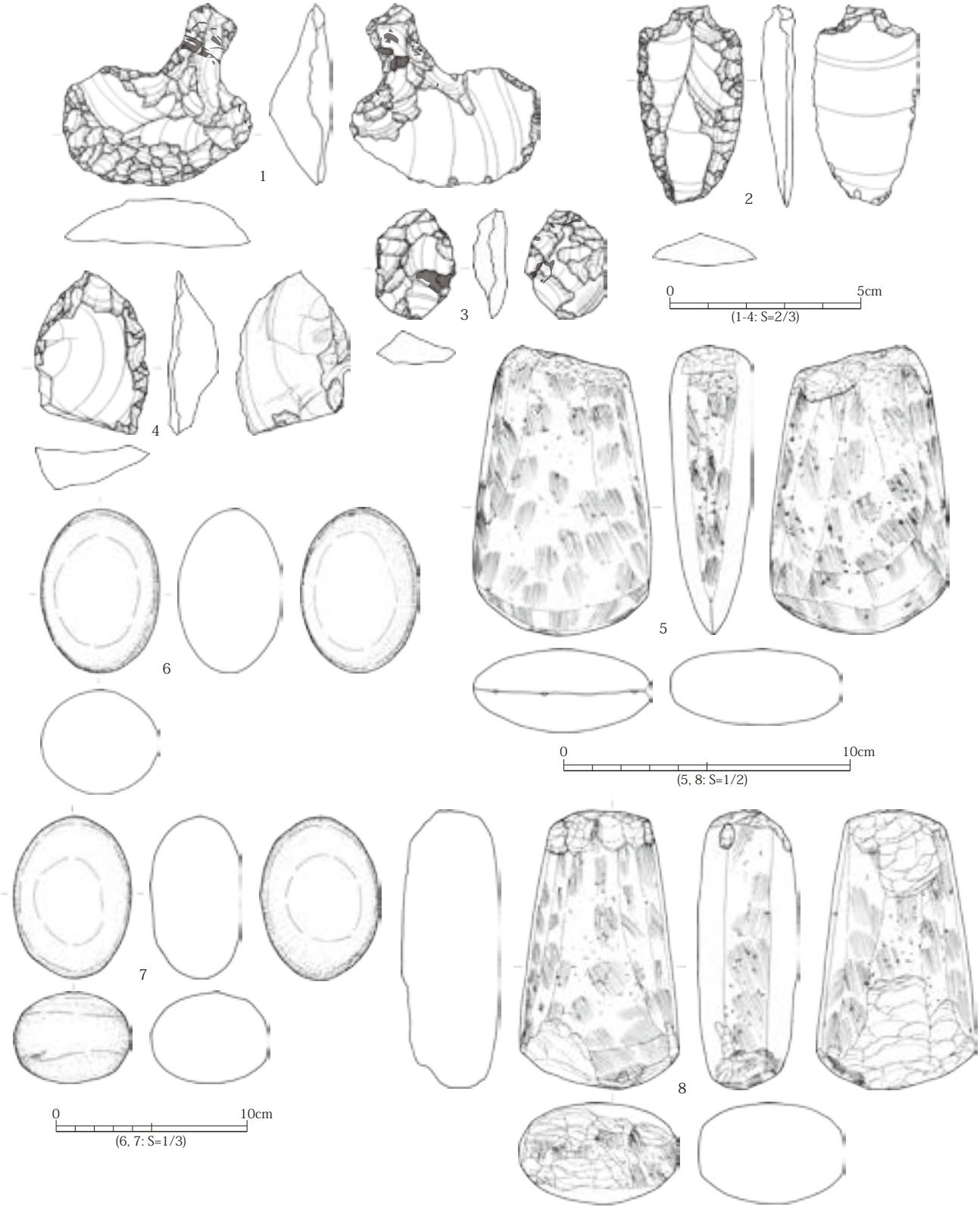
Ⅵｄ層（Ⅵ層を含む）からは311点出土し、石鏃8点（第177図6～10）、尖頭器3点（同図11）、石錐3点、石匙4点（同図12・13、第178図1・2）、石篦1点、磨製石斧2点（同図5）、楔形石器6点、不定形石器20点（同図3･4）、石皿14点（第179図3）、磨石27点（第178図6･7、第179図1）、凹石3点（同図2）、砥石4点、剥片･砕片173点、石核32点、円盤状石製品2点、石棒4点（同図4）、石刀3点、有孔石製品2点（同図5･6）がある。これらのほかに、珍しい形状や色調をもつ自然石（奇石）が1点出土した。第178図3は、一側辺にアスファルトとみられる黒色物質が付着しており、棒状の道具に装着して使用されたものとみられる。同図8は、破損した磨製石斧の刃部に明瞭な研磨痕が認められることから、砥石に転用したものである。石材は珪質頁岩（A・B）と碧玉（A・B1・B2・C・D）が特に多く、ほかに珪質凝灰岩（A・B）や玉髄、黒曜石、粘板岩、安山岩が多い。

また、遺物包含層より上位のⅤ層からは、凝灰岩の扁平な円礫の片面に、浅い線刻が施されたもの（第180図1）が出土している。はじめに正中線と凹みによる表現を施し、これを中軸線として左右対称の格子状の線刻、凹みから延びる放射状の線刻、弧状の線刻3条の順に表現を加えたものである。



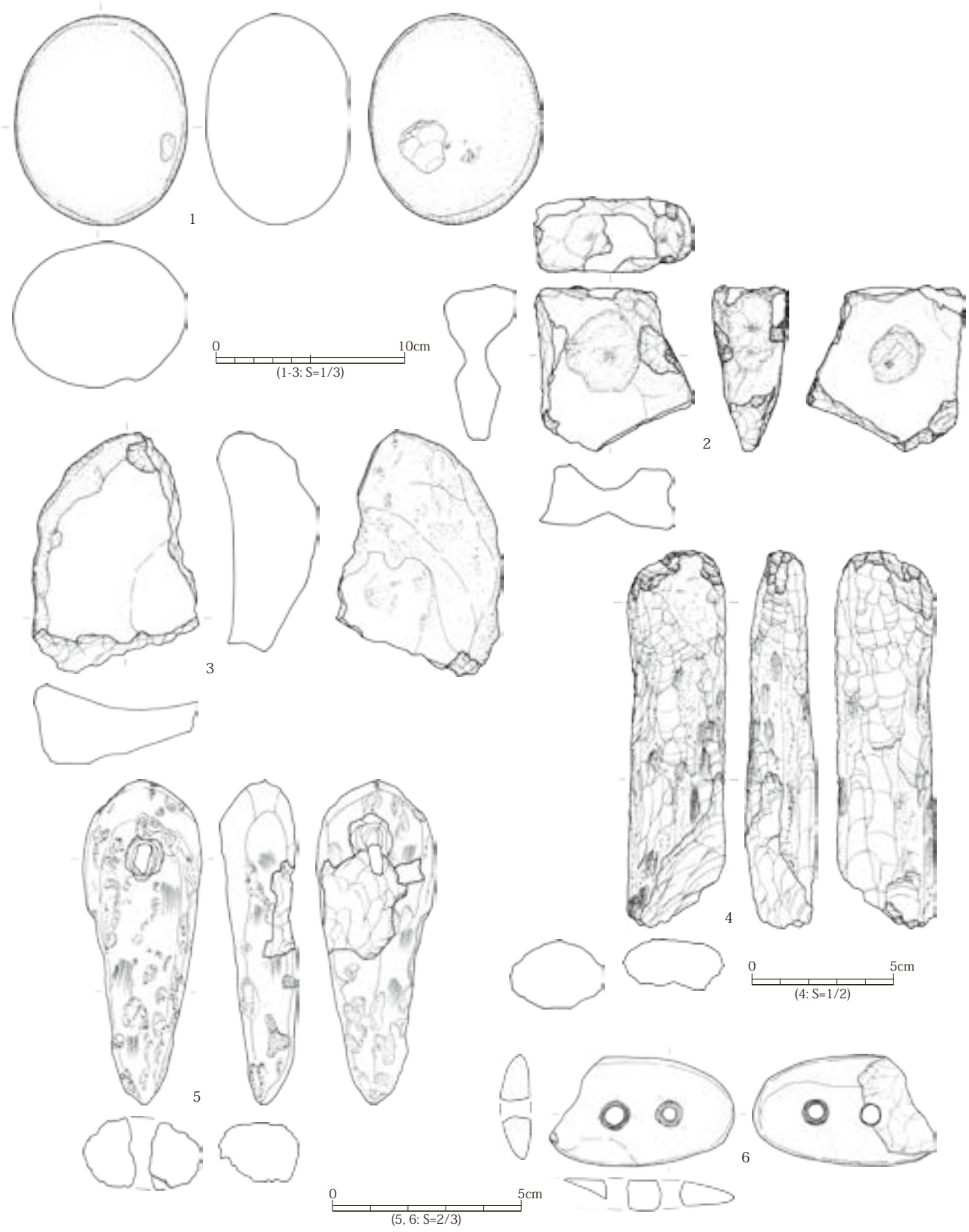
No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残　存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備考	写真図版	登録
1	石鏃	Ⅰ a1C	Ⅵ e5	F-23Ba / Ⅵ e5	碧玉 B1	25.3	13.6	5.9	1.36	茎欠	0	0	0	0	0		138-1	S4973
2	尖頭器	Ⅰ b1	Ⅵ e5	F-23A / Ⅵ e5	碧玉 B2	40.2	20.2	8.5	6.07	完形	0	1	0	0	B		138-2	S4966
3	石錐	Ⅱ a2	Ⅵ e3	F-23Ba-Ca / Ⅵ e3	珪質頁岩 A	38.1	28.4	7.2	6.16	完形	0	0	0	0	0		138-3	S4893
4	石錐	Ⅱ a1	Ⅵ e	F-23 東 / Ⅵ e	珪質頁岩 A	41.4	33.3	5.3	3.82	完形	0	0	0	1	0		138-4	S5904
5	磨製石斧	Ⅰ a1	Ⅵ e	F-23 東 / Ⅵ e	凝灰質泥岩	131.3	45.9	29.6	243.89	刃部欠	0	0	0	0	0		138-5	S5894
6	石鏃	Ⅰ a1C	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	珪質頁岩 A	21.3	11.7	4.1	0.64	完形	0	2	0	0	B		138-7	S5333
7	石鏃	Ⅰ c1A	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	碧玉 A	21.6	13.7	6.3	1.95	尖頭部欠	0	2	0	0	0		138-6	S5440
8	石鏃	Ⅰ b1A	Ⅵ d	F-23Bb / Ⅵ d	珪質頁岩 A	36.4	15.1	8.2	3.40	完形	0	2	0	0	B		138-8	S4253
9	石鏃	Ⅰ b1A	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	珪質頁岩 A	35.4	13.0	4.9	2.28	尖頭部・基部欠	0	2	0	0	0		138-9	S5450
10	石鏃	Ⅳ bB	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	珪質凝灰岩 B	23.7	16.2	2.3	0.66	逆刺欠	0	2	0	0	0		138-10	S5363
11	尖頭器	Ⅰ b1	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	碧玉 A	42.8	26.4	9.9	1.58	完形	0	0	0	1	B		138-11	S5430
12	石匙	Ⅱ b	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	珪質頁岩 A	31.2	56.1	10.0	14.52	完形	0	0	0	0	B		138-12	S5432
13	石匙	Ⅱ b	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	珪質頁岩 A	27.7	55.7	7.4	9.07	完形	0	2	0	0	0		138-13	S5449

第177図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（1）　F-23区北・東・A・Bグリッド



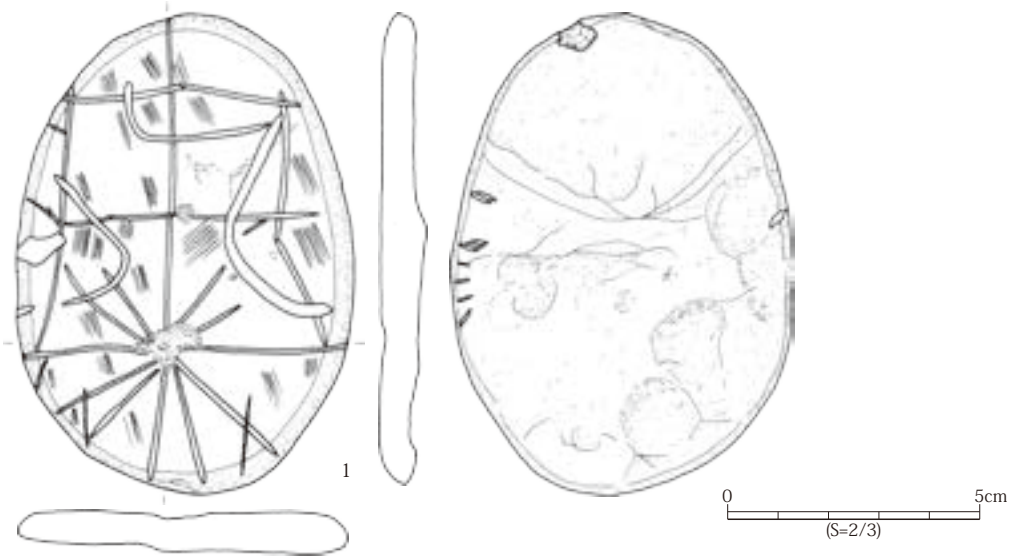
No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残　存	被熱	加熱処理	変　形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	石匙	Ⅱ a	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	珪質頁岩 A	44.8	48.7	16.3	23.98	完形	0	2	0	0	B		138-14	S5377
2	石匙	Ⅰ a2	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	珪質頁岩 A	52.4	27.5	8.2	11.89	つまみ部欠	0	2	0	0	0		138-15	S5347
3	不定形石器	Ⅲ c	Ⅵ d	F-23Bb / Ⅵ d	珪質凝灰岩 B	29.1	21.7	8.5	4.73	完形	0	2	0	1	B	棒状の道具に装着か	138-16	S4254
4	不定形石器	Ⅰ	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	珪質凝灰岩 B	42.7	29.1	10.3	12.24	完形	0	0	0	1	0		138-17	S5421
5	磨製石斧	Ⅰ b2	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	緑色凝灰岩	99.9	61.5	28.4	268.50	完形	0	0	0	0	0		138-18	S5437
6	磨石	-	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	安山岩	86.4	62.0	54.4	381.98	完形	0	0	0	1	0		138-19	S5439
7	磨石	-	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	安山岩	85.4	62.4	47.4	382.75	完形	0	0	0	1	0		138-20	S5324
8	砥石	-	Ⅵ d	F-23 東 / Ⅵ d	緑色凝灰岩	97.0	54.8	34.6	305.81	完形	0	0	磨製石斧→	0	0		139-3	S5335

第178図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（2）　F-23区北・東・A・Bグリッド



No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	磨石	-	Ⅵd	F-23 東 / Ⅵd	安山岩	111.6	90.7	76.5	1180.00	完形	0	0	0	1	0		138-21	S5473
2	凹石	-	Ⅵd	F-23 北 / Ⅵd	砂岩	88.2	80.4	39.0	251.34	一部欠	0	0	0	1	0		139-2	S5303
3	石皿	-	Ⅵd	F-23Ba / Ⅵd	凝灰岩	123.5	85.5	76.0	389.96	破片	0	0	0	1	0		139-1	S4247
4	石棒	-	Ⅵd	F-23 東 - 南イ / Ⅵd	粘板岩	132.5	34.5	25.1	144.58	頭部	0	0	0	0	0		139-4	S5495
5	有孔石製品	-	Ⅵd	F-23 東 / Ⅵd	軽石	85.3	31.5	19.2	12.99	完形	0	0	0	1	0		139-5	S5453
6	有孔石製品	-	Ⅵd	F-23 東 / Ⅵd	安山岩質凝灰岩	29.3	48.8	8.5	11.64	一部欠	0	0	0	1	0		139-6	S5455

第179図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（3）　F-23区北・東・A・Bグリッド



No.	器種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	岩版	-	V	F-23A・北 / V	凝灰岩	95.2	67.6	10.2	56.55	完形	0	0	0	1	0		139-7	S0001

第180図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（4）　F-23区北・東・A・Bグリッド

ⅱ）丘陵裾部

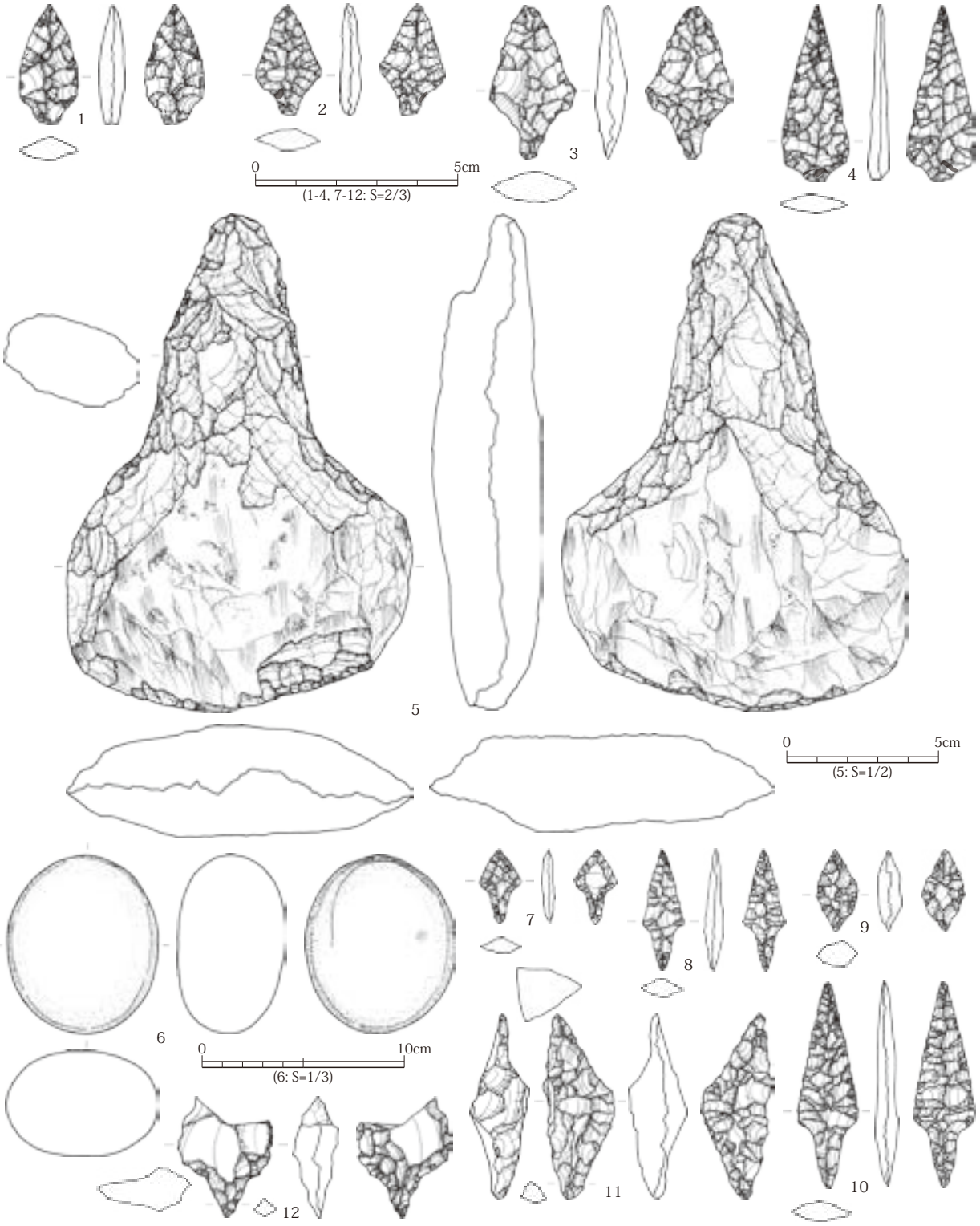
Ⅵe5層からは珪質頁岩A類製の剥片が1点出土している。

Ⅵe3層からは66点出土し、石鏃5点（第181図1～4）、磨製石斧1点（同図5）、楔形石器2点、不定形石器2点、石皿4点、磨石5点（同図6）、凹石1点、剥片・砕片41点、石核5点がある。これらのほかに、石器石材とみられる原石（珪質頁岩A類）が1点出土した。石材は珪質頁岩（A・B）が最も多く、ほかに珪質凝灰岩（B）や碧玉（A・B1・C）、デイサイトなどが見られる。

Ⅵe2層からは148点出土し、石鏃8点（第181図7～10）、石錐3点（同図11・12）、石匙1点（第182図1）、磨製石斧2点（同図5）、楔形石器5点、不定形石器11点（同図2～4）、磨石12点、剥片・砕片88点、石核16点、石棒1点、石刀2点がある。石材は珪質頁岩（A・B）が最も多く、ほかに珪質凝灰岩（A・B）や碧玉（A・B1・B2・C・D）が多く見られる。第182図5の磨製石斧の石材は緑閃石ネフライト～普通角閃石岩であり、その産地は糸魚川－青海地域であるとされている（分析編第15章）。

Ⅵe1層からは19点出土し、不定形石器2点、剥片・砕片14点、石核3点がある。石材は珪質頁岩（A・B）と碧玉（A・B1・B2・C）が多く、ほかに凝灰岩と玉髄が見られる。

Ⅵd層からは432点出土し、石鏃10点（第182図6～10）、尖頭器3点（同図11）、石錐2点（同図12・13）、石匙4点（同図14・15）、石篦1点（同図16）、楔形石器13点（第183図1）、不定形石器24点（同図2）、石皿5点、磨石11点（同図3）、凹石1点、剥片・砕片304点、石核48点、石棒1点、石刀2点、サメ歯状石製品1点（第182図17）、線刻礫1点がある。第182図12は極小型の石錐で、石鏃を転用している。同図17の「サメ歯状石製品」は異形石器の一種であり、三角形に成形して3箇所の先端部をもつ形状が「サメ歯」に類似する。石鏃と同様に小型・薄手であり、一側辺にアスファルト状の物質の付着が認められることから、組み合わせ道具として利用したものとみられる。石材は珪質頁岩（A・B）が最も多く、ほかに珪質凝灰岩（A・B）や碧玉（A・B1・B2・C・D）、玉髄が多い。

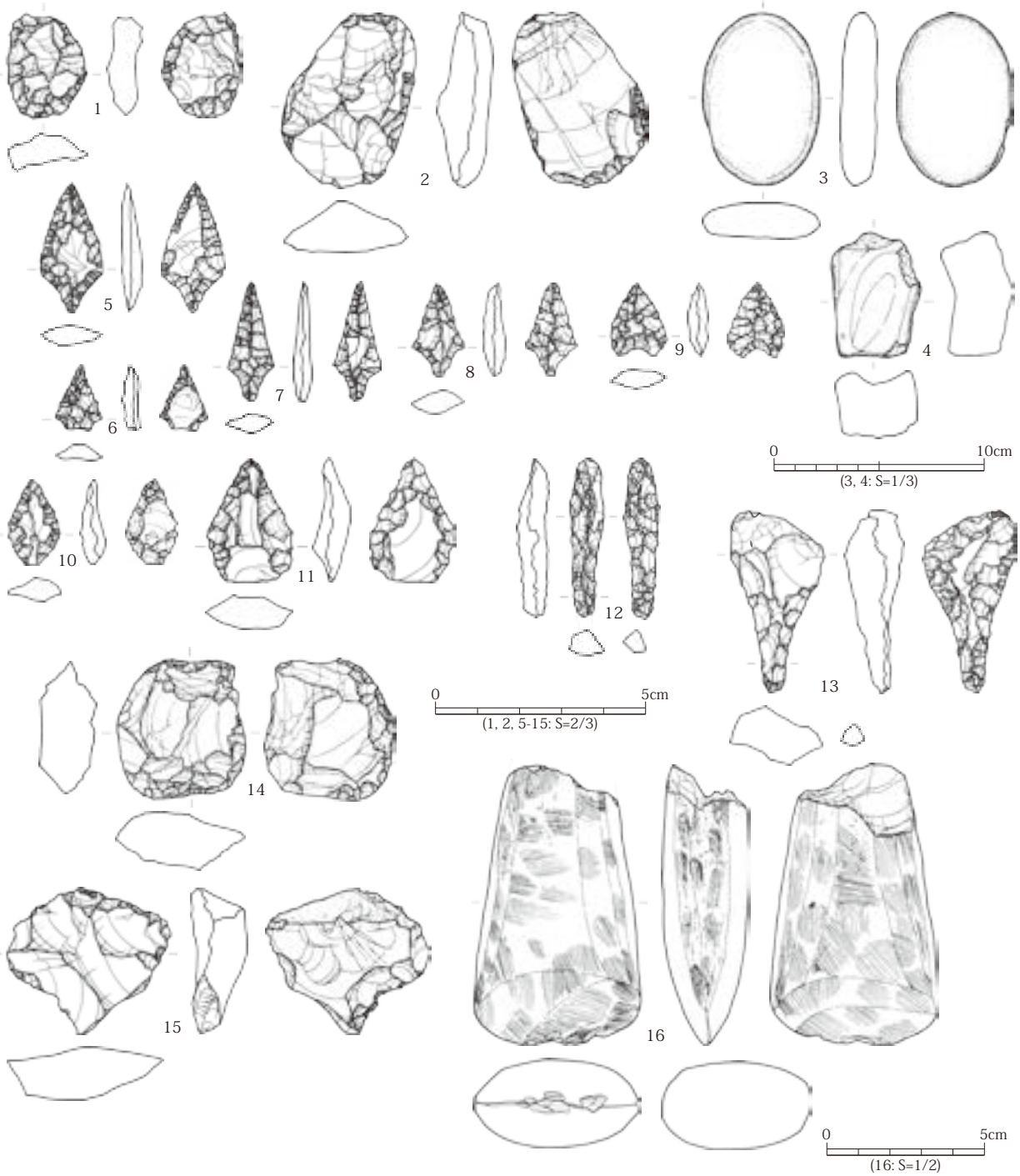


No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残　存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	石鏃	Ⅰ b1A	Ⅵ e3	F-23Ca / Ⅵ e3	珪質凝灰岩 B	29.5	14.5	6.1	1.92	茎欠	0	2	0	0	B		140-3	S4901
2	石鏃	Ⅰ a1B	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3	珪質頁岩 A	26.7	15.6	5.1	1.77	茎欠	0	2	0	0	B		140-4	S4914
3	石鏃	Ⅰ a1A	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3	珪質頁岩 A	37.8	21.3	7.1	4.17	先端部欠	0	2	0	0	0		140-1	S4908
4	石鏃	Ⅰ a1B	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3	珪質頁岩 A	42.9	16.4	5.6	2.63	茎欠	0	2	0	0	B		140-2	S4916
5	磨製石斧	Ⅱ	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3	ホルンフェルス	161.0	112.7	36.3	565.10	完形	0	0	0	1	0		140-5	S4964
6	磨石	-	Ⅵ e3	F-23Cb / Ⅵ e3	安山岩	89.5	74.4	52.1	578.01	完形	0	0	0	1	0		140-6	S4963
7	石鏃	Ⅰ a2A	Ⅵ e2	F-23Da / Ⅵ e2	碧玉 B1	17.8	9.9	2.9	0.43	完形	0	2	0	0	0		140-7	S4769
8	石鏃	Ⅰ a2C	Ⅵ e2	F-23Db / Ⅵ e2	碧玉 B1	29.7	10.3	4.1	0.77	完形	0	2	0	0	0		140-8	S4856
9	石鏃	Ⅰ b2A	Ⅵ e2	F-23Db / Ⅵ e2	珪質凝灰岩 B	19.5	10.3	6.0	1.03	完形	0	1	0	0	0		140-9	S4842
10	石鏃	Ⅰ a1B	Ⅵ e2	F-23Cb / Ⅵ e2	珪質頁岩 A	50.4	14.9	5.5	2.60	完形	0	2	0	0	0		140-10	S4732
11	石錐	Ⅱ b2	Ⅵ e2	F-23Db / Ⅵ e2	珪質頁岩 A	45.9	16.8	14.2	6.60	完形	0	2	0	0	0	錐部先端摩滅	140-11	S4880
12	石錐	Ⅱ a2	Ⅵ e2	F-23Da / Ⅵ e2	碧玉 B2	28.6	23.0	10.6	4.4	基部欠	0	0	0	0	0		140-12	S6925

第181図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（5）　F-23区C・Dグリッド

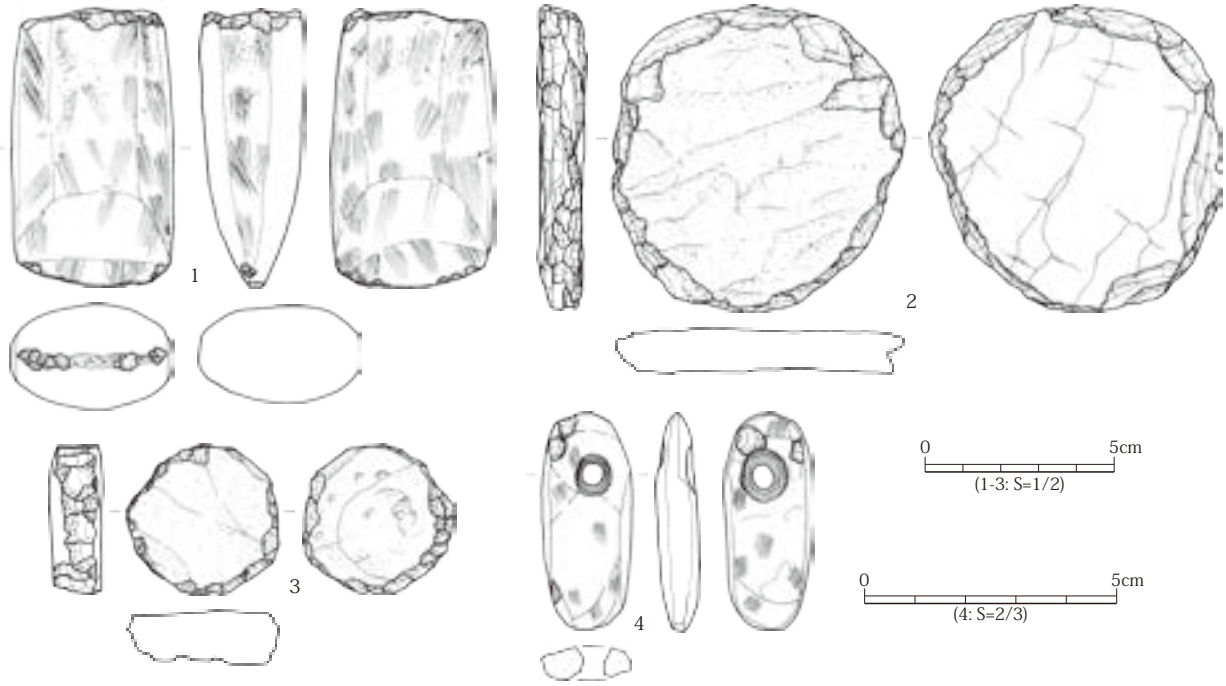
No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	石匙	Ⅱ b	Ⅵ e2	F-23Db / Ⅵ e2	珪質頁岩 A	20.3	30.5	8.4	5.30	一部欠	0	1	0	0	0		140-13	S4869
2	不定形石器	Ⅱ c	Ⅵ e2	F-23Db / Ⅵ e2	珪質凝灰岩 B	34.8	24.0	11.3	6.94	一部欠	0	0	0	0	0		140-15	S4854
3	不定形石器	Ⅲ b	Ⅵ e2	F-23Db / Ⅵ e2	珪質頁岩 A	34.9	17.5	8.4	4.65	完形	0	2	0	0	0		140-16	S4806
4	不定形石器	Ⅲ b	Ⅵ e2	F-23Db / Ⅵ e2	珪質頁岩 A	25.4	28.4	5.4	3.42	一部欠	0	0	0	0	0		140-14	S4793
5	磨製石斧	Ⅲ	Ⅵ e2	F-23Da / Ⅵ e2	緑閃石ネフライト～普通角閃石岩	44.0	28.9	9.2	19.42	刃部欠	0	0	0	0	0		140-17	S4753
6	石鏃	Ⅰ b1B	Ⅵ d	F-23Da / Ⅵ d	珪質頁岩 A	28.3	15.1	7.8	2.68	完形	0	1	0	1	0		140-18	S4567
7	石鏃	Ⅰ a1B	Ⅵ d	F-23Ca / Ⅵ d	碧玉 B1	26.1	11.6	3.6	0.87	茎欠	0	2	0	0	0		140-19	S4345
8	石鏃	Ⅰ b2B	Ⅵ d	F-23Cb / Ⅵ d	碧玉 B1	41.9	15.6	9.9	4.54	完形	0	0	0	1	0		140-22	S4520
9	石鏃	Ⅰ c1B	Ⅵ d	F-23Cb / Ⅵ d	珪質頁岩 A	27.2	16.1	4.7	1.59	完形	0	1	0	0	0		140-20	S4422
10	石鏃	Ⅴ	Ⅵ d	F-23Da / Ⅵ d	珪質頁岩 B	26.3	11.7	6.5	2.09	完形	0	1	0	0	0		140-21	S4595
11	尖頭器	Ⅰ b2A	Ⅵ d	F-23Cb / Ⅵ d	珪質頁岩 A	53.2	24.4	13.0	13.52	完形	0	2	0	1	0		140-23	S4429
12	石錐	Ⅱ b2	Ⅵ d	F-23Da / Ⅵ d	碧玉 B1	16.1	6.1	3.4	0.30	完形	0	2	石鏃→	0	0		140-25	S4568
13	石錐	Ⅱ b1	Ⅵ d	F-23Da / Ⅵ d	珪質凝灰岩 B	34.3	16.1	11.4	4.74	完形	0	0	0	0	0		140-24	S4569
14	石匙	Ⅱ b	Ⅵ d	F-23Cb / Ⅵ d	碧玉 A	44.2	50.8	7.5	11.82	完形	0	2	0	0	B		140-26	S4463
15	石匙	Ⅰ a1	Ⅵ d	F-23Cb / Ⅵ d	珪質頁岩 B	63.7	31.4	9.1	15.97	完形	0	1	0	1	0		140-27	S4519
16	石篦	Ⅰ a1	Ⅵ d	F-23Ca / Ⅵ d	珪質頁岩 A	41.8	25.4	9.3	6.91	完形	1	2	0	0	0		140-28	S4397
17	サメ歯状石製品	-	Ⅵ d	F-23Da / Ⅵ d	珪質頁岩 A	17.0	19.5	4.0	0.83	先端部・基部欠	0	2	0	0	B		140-29	S4591

第182図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（6）　F-23区C・Dグリッド



No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	楔形石器	Ⅱ bb	Ⅵ d	F-23Da / Ⅵ d	珪質凝灰岩 B	23.5	18.3	7.2	3.70	完形	1	0	0	1	0		140-30	S4606
2	不定形石器	Ⅲ c	Ⅵ d	F-23Ca / Ⅵ d	碧玉 B1	43.5	28.9	12.5	14.26	完形	0	1	0	0	0		141-1	S4359
3	磨石	-	Ⅵ d	F-23Da / Ⅵ d	安山岩	82.6	55.7	17.3	135.61	一部欠	0	0	0	1	0		141-2	S4566
4	石皿	-	Ⅵ d	F-23Db / Ⅵ d	玄武岩	59.2	40.5	39.1	73.42	一部欠	0	0	0	1	0		141-3	S4660
5	石鏃	Ⅰ b1A	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	碧玉 C	20.4	14.5	4.4	1.60	完形	0	1	0	0	0		141-4	S0869
6	石鏃	Ⅰ bB	Ⅵ b2	F-23D / Ⅵ b2	珪質凝灰岩 B	15.1	10.6	2.9	0.39	茎欠	1	0	0	0	0		141-5	S0799
7	石鏃	Ⅰ a1C	Ⅵ b2	F-23Da / Ⅵ b2	凝灰岩	27.7	11.0	3.7	0.78	完形	0	0	0	0	0		141-9	S6647
8	石鏃	Ⅰ a1C	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	珪質凝灰岩 A	21.1	11.8	4.4	0.83	完形	0	1	0	0	0		141-8	S0889
9	石鏃	Ⅳ bA	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	碧玉 B1	16.9	12.9	4.3	0.84	完形	0	0	0	1	0		141-6	S1029
10	石鏃	Ⅰ c1B	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	珪質頁岩 A	19.5	12.0	5.3	1.05	完形	0	1	0	0	0		141-7	S0873
11	石鏃	Ⅰ c1B	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	玉髄	28.7	19.7	6.9	3.77	完形	0	0	0	0	0		141-10	S0871
12	石錐	Ⅰ a	Ⅵ b2	F-23D / Ⅵ b2	珪質頁岩 A	37.5	8.3	6.4	1.87	錐部欠	0	2	0	0	0		141-11	S0801
13	石錐	Ⅱ b1	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	珪質頁岩 A	42.4	22.3	13.7	7.77	完形	0	0	0	0	B		141-12	S0950
14	楔形石器	Ⅱ aa	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	玉髄	32.5	30.2	14.3	15.33	完形	0	0	0	0	0		141-13	S0917
15	不定形石器	Ⅲ b	Ⅵ b2	F-23D / Ⅵ b2	珪質頁岩 A	33.5	37.2	12.2	14.11	完形	0	0	0	1	0		141-14	S0844
16	磨製石斧	Ⅰ	Ⅵ b2	F-23Db / Ⅵ b2	凝灰質泥岩	88.3	52.2	27.8	185.58	基部欠	0	0	0	0	0		141-16	S0963

第183図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（7）　F-23区C・Dグリッド



No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	磨製石斧	Ⅰ	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	ひん岩？	72.7	42.8	27.4	149.20	基部欠	0	0	0	0	0		141-15	S0960
2	円盤状石製品	Ⅱ	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	粘板岩	81.0	77.9	11.3	86.52	完形	0	0	0	1	0		141-18	S0908
3	円盤状石製品	Ⅰa	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	デイサイト	38.6	39.8	13.7	31.62	完形	0	0	0	1	0		141-17	S0952
4	垂飾	-	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	デイサイト？	42.3	17.6	7.5	8.76	完形	0	0	0	0	0		141-19	S0824

第184図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（8）　F-23区C・Dグリッド

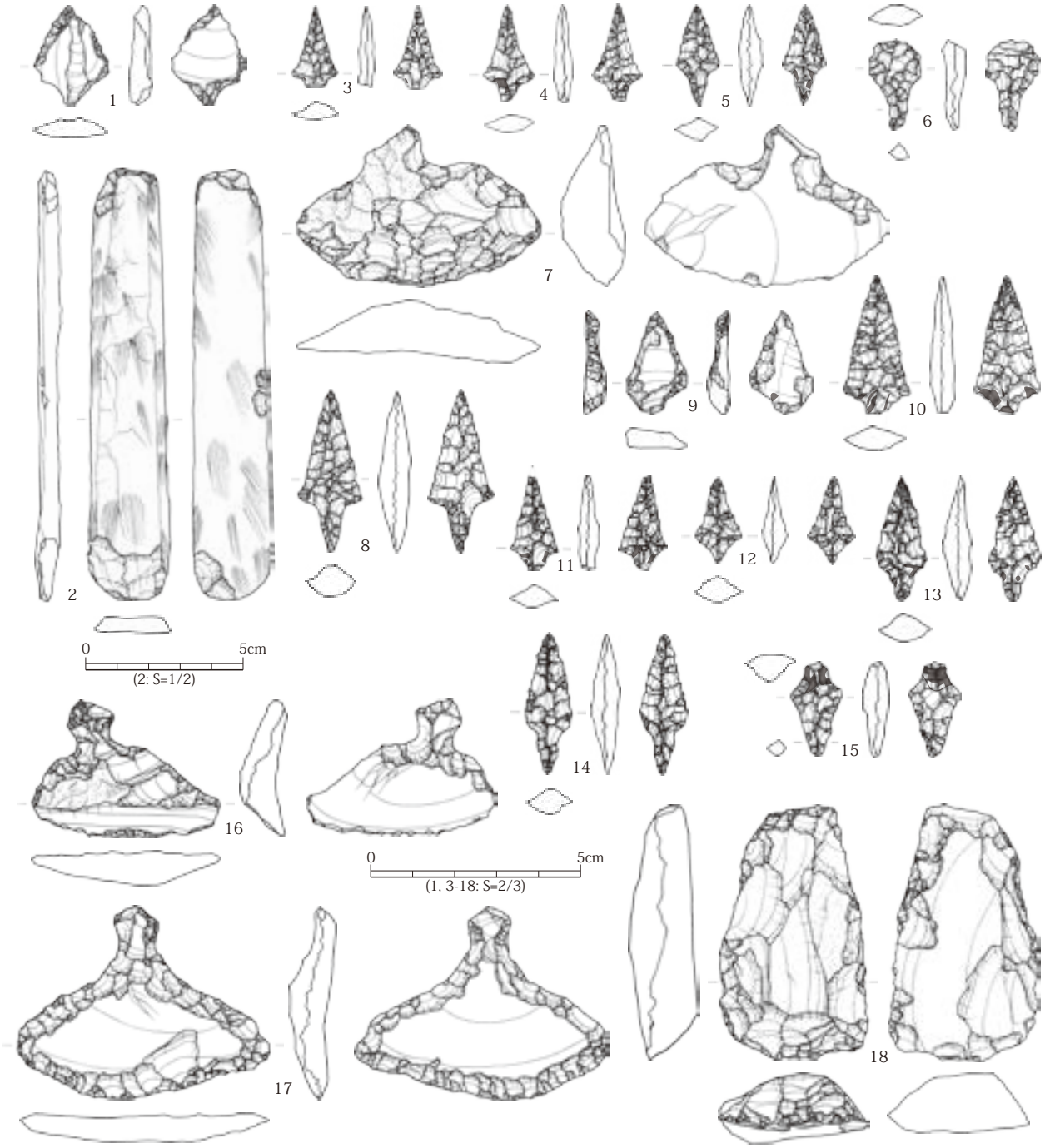
Ⅵb2 層からは 242 点出土し、石鏃 9 点（第 183 図 5 ～ 11）、石錐 4 点（同図 12・13）、石篦 1 点、磨製石斧 4 点（同図 16、第 184 図 1）、楔形石器 5 点（第 183 図 14）、不定形石器 15 点（同図 15）、石皿 2 点、磨石 13 点、凹石 3 点、敲石 1 点、剥片・砕片 160 点、石核 21 点、円盤状石製品 2 点（第 184 図 2・3）、石棒 3 点、石刀 1 点、垂飾 1 点（同図 4）がある。これらのほかに、石器石材とみられる原石（珪質頁岩 A 類）が 1 点出土した。石材は珪質頁岩（A・B）が最も多く、ほかに珪質凝灰岩（A・B）や碧玉（A・B1・B2・C・D）が多く見られる。第 184 図 2 は粘板岩製の円盤状石製品である。

ⅲ）低地部

Ⅵe2 層からは 11 点出土し、石鏃 1 点（第 185 図 1）、石錐 1 点、磨石 1 点、剥片 7 点、石刀 1 点（同図 2）点がある。第 185 図 2 は、縦に割れた石棒破片を研磨により石刀として再加工したものである。石材は珪質頁岩（A）が最も多く、ほかに珪質凝灰岩（B）や黒曜石、粘板岩などがある。

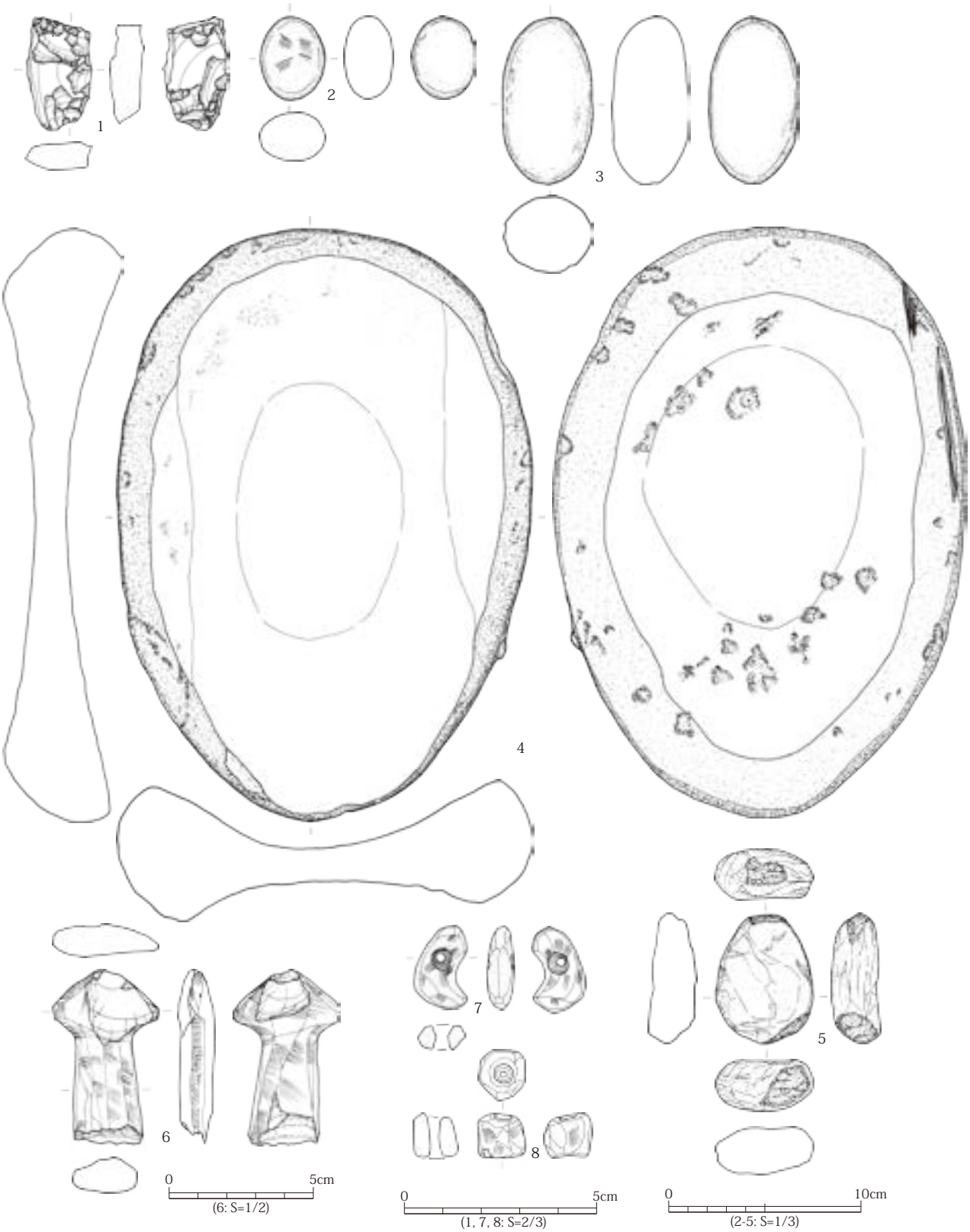
Ⅵe1 層からは 10 点出土し、不定形石器 2 点、剥片・砕片 8 点がある。石材は珪質頁岩（A）が最も多く、ほかに珪質凝灰岩（B）や碧玉（C）、玉髄がある。

Ⅵd 層からは 34 点出土し、石鏃 3 点（第 185 図 3 ～ 5）、石錐 2 点（同図 6）、石匙 1 点（同図 7）、楔形石器 1 点、不定形石器 1 点、石皿 1 点、磨石 1 点、剥片 19 点、石核 5 点がある。石材は珪質頁岩（A・B）が最も多く、次いで碧玉（A・B1・B2・C）が多くあり、ほかに珪質凝灰岩（A・B）や安山岩が見られる。



No.	器種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残　存	被熱	加熱処理	変　形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	石鏃	Ⅰ b1A	Ⅵ e2	F-23Ea / Ⅵ e2	珪質頁岩 A	23.3	17.4	4.4	1.72	完形	0	0	多段階表面変化 1	0	0		142-1	S4886
2	石刀	-	Ⅵ e2	F-23Ea / Ⅵ e2	粘板岩	135.9	25.1	6.8	36.64	頭部欠	0	0	石棒→	0	0		142-2	S4891
3	石鏃	Ⅰ a1C	Ⅵ d	F-23Ea / Ⅵ d	玉髄	18.7	10.6	3.5	0.45	茎欠	0	2	0	0	B		142-3	S4670
4	石鏃	Ⅰ a1C	Ⅵ d	F-23Ea / Ⅵ d	碧玉 B1	23.0	11.6	3.7	0.65	茎欠	0	2	0	0	B		142-4	S4666
5	石鏃	Ⅰ a2B	Ⅵ d	F-23Ea / Ⅵ d	珪質凝灰岩 B	23.6	10.1	4.7	0.55	完形	0	2	0	0	B		142-5	S4667
6	石錐	Ⅱ a1	Ⅵ d	F-23Ea / Ⅵ d	珪質頁岩 A	20.8	12.4	5.1	1.09	完形	0	2	錐部再加工	0	0		142-6	S4669
7	石匙	Ⅱ a	Ⅵ d	F-23Ea / Ⅵ d	碧玉 B1	38.2	58.1	13.2	23.36	完形	0	1	0	0	0		142-7	S4687
8	石鏃	Ⅰ a1B	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	碧玉 B1	38.4	15.7	7.5	2.35	完形	0	1	0	0	0		142-9	S4103
9	石鏃	Ⅰ c1B	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7	珪質頁岩 A	24.6	14.7	5.4	1.46	完形	0	1	0	0	B		142-10	S4041
10	石鏃	Ⅰ a1B	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7	碧玉 C	32.4	15.5	5.6	2.02	茎欠	0	2	0	0	B		142-8	S4073
11	石鏃	Ⅰ a1B	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7	碧玉 B2	21.9	11.0	4.7	0.81	尖頭部・茎欠	0	2	0	0	B		142-11	S4033
12	石鏃	Ⅰ b1C	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7	珪質頁岩 A	20.1	11.0	5.4	0.61	完形	0	2	0	0	0		142-12	S4019
13	石鏃	Ⅰ a1B	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7	碧玉 B2	29.0	12.2	6.5	1.41	完形	0	2	0	0	B		142-14	S4060
14	石鏃	Ⅰ a1A	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	碧玉 C	33.1	11.3	6.2	1.46	完形	0	2	0	0	B		142-15	S4099
15	石錐	Ⅱ b1	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	碧玉 B1	22.0	12.0	5.8	0.82	完形	0	0	石鏃→	0	B		142-13	S4183
16	石匙	Ⅱ a	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7	玉髄	32.7	44.7	8.1	8.21	完形	0	1	0	1	0		142-16	S4059
17	石匙	Ⅱ a	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7	珪質頁岩 A	45.8	59.8	9.6	16.70	完形	0	0	0	0	0		142-17	S4078
18	石篦	Ⅰ a1	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	珪質頁岩 A	61.4	36.1	14.6	35.52	完形	0	0	0	1	0		142-18	S4084

第185図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（9）　F-23区E・F・Gグリッド

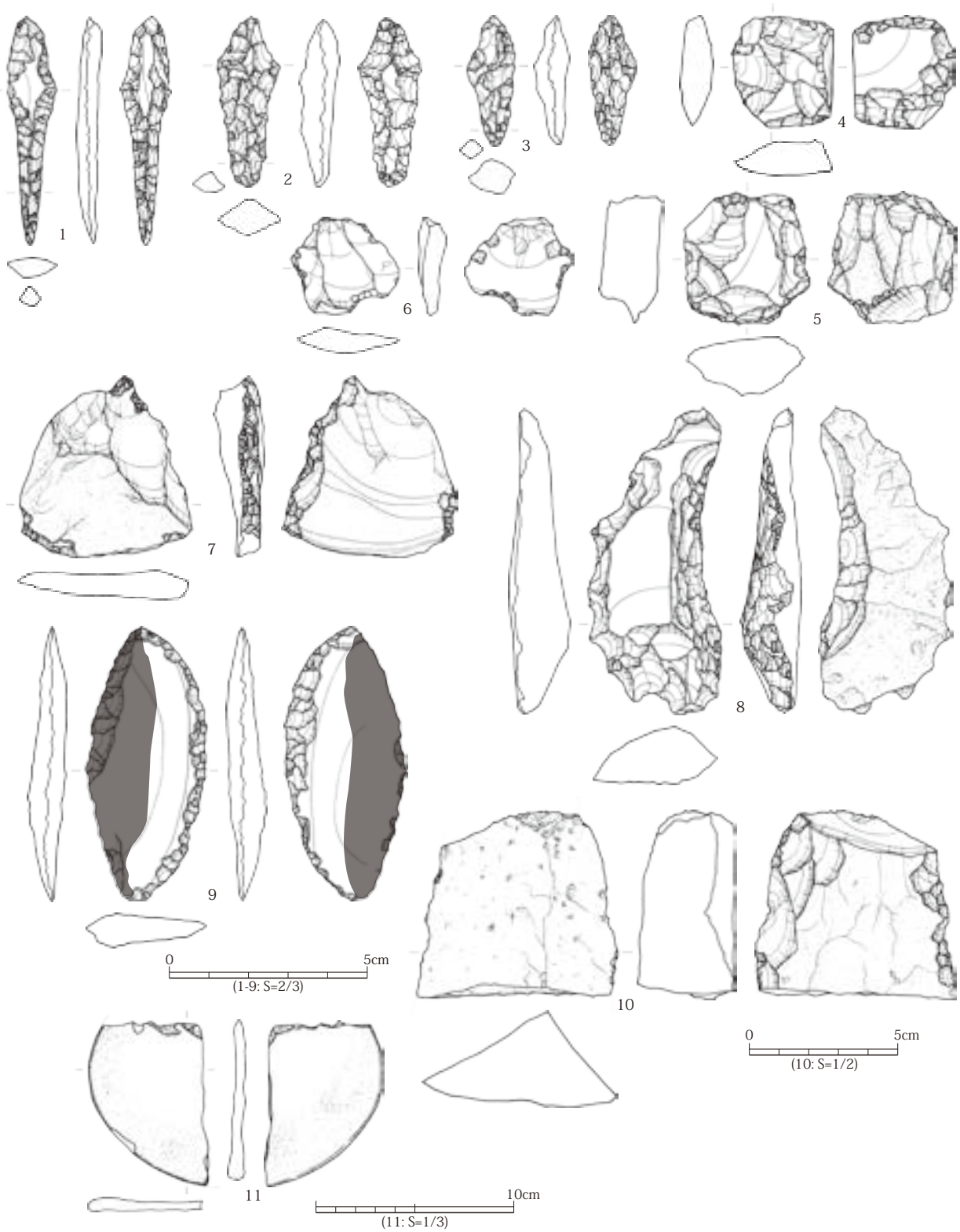


No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	楔形石器	Ⅱ bb	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	碧玉 C	27.3	18.9	9.8	5.83	完形	0	1	0	0	B		142-19	S6799
2	磨石	-	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7	凝灰岩	42.2	33.5	24.4	22.34	完形	0	0	0	1	0		143-1	S4016
3	磨石	-	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	軽石	85.9	46.2	40.7	90.92	完形	0	0	0	1	0		143-2	S4120
4	石皿	-	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	凝灰岩	296.0	205.0	172.2	2240.00	完形	0	0	0	1	0	両面使用	142-20	S4174
5	敲石	-	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	石英	65.6	51.1	24.8	118.99	完形	0	0	0	1	0		143-3	S4156
6	石棒	-	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	粘板岩	59.9	36.5	11.4	26.10	頭部	0	0	0	0	0		143-4	S4172
7	勾玉	-	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	緑色石英質岩	22.4	14.1	6.7	2.82	完形	0	0	0	0	0		143-5	S4149
8	臼玉	-	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7	滑石	11.7	11.6	11.6	2.88	完形	0	0	0	0	0		143-6	S6798

第186図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（10）　F-23区E・F・Gグリッド

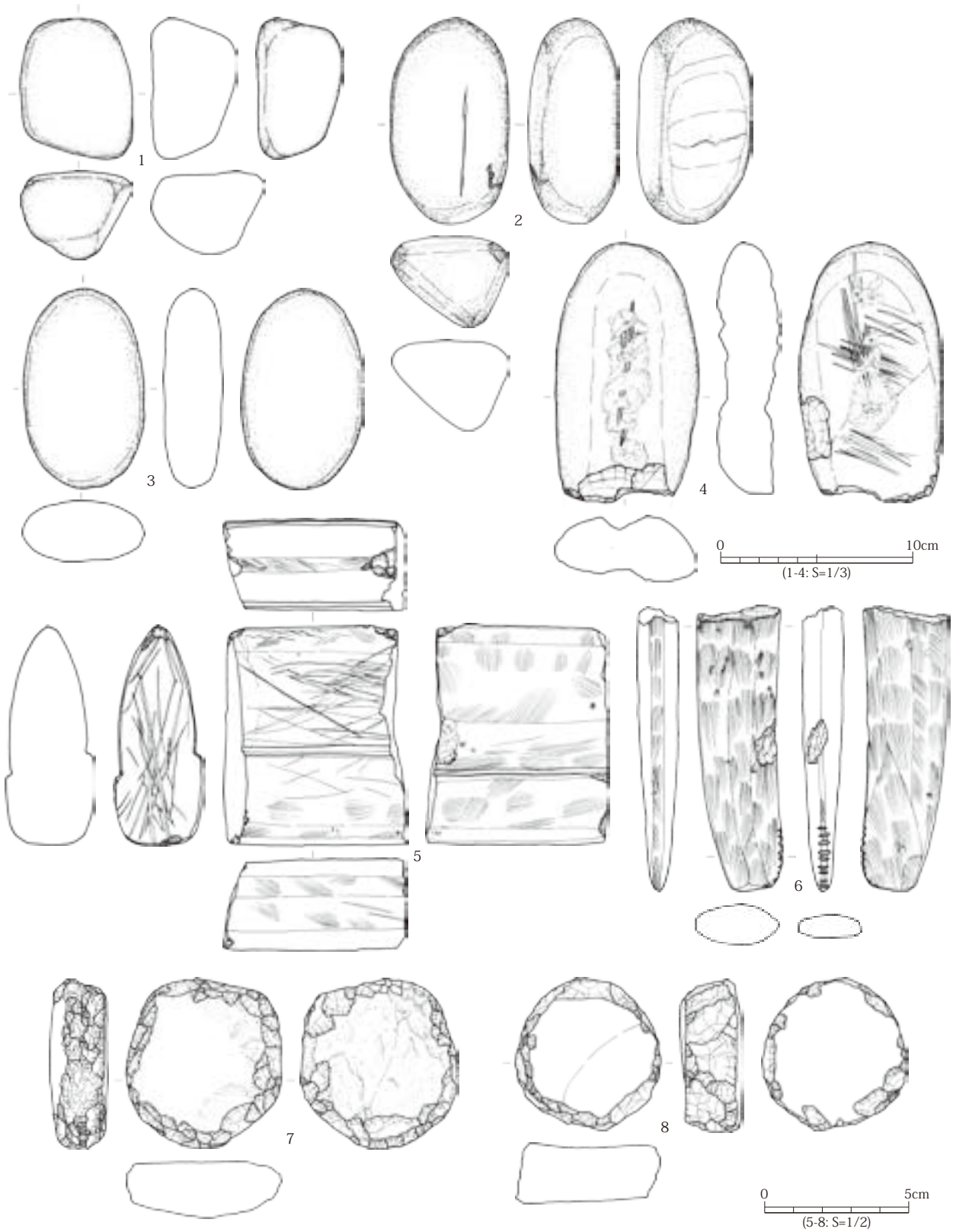
No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備考	写真図版	登録
1	円盤状石製品	Ⅰ a	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	安山岩	40.4	45.5	19.7	53.44	完形	0	0	0	1	0		143-7	S4151
2	円盤状石製品	Ⅰ b	Ⅵ c7	F-23Eb / Ⅵ c7	安山岩	51.1	56.8	20.1	92.84	完形	0	0	0	1	0		143-8	S4102
3	円盤状石製品	Ⅰ b	Ⅵ c7	F-23Ea / Ⅵ c7	安山岩質凝灰岩	49.4	52.7	16.8	59.52	完形	0	0	0	1	0		143-9	S4023
4	円盤状石製品	Ⅰ a	Ⅵ c6	F-23Eb / Ⅵ c6	頁岩	44.6	51.0	16.9	49.04	完形	0	0	0	1	0		143-10	S3976
5	石鏃	Ⅰ a2A	Ⅵ c5	F-23Eb / Ⅵ c5	珪質頁岩 A	28.9	14.0	4.7	1.38	完形	0	2	0	0	B		143-11	S6794
6	石鏃	Ⅰ a1C	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	碧玉 B1	24.3	11.0	5.8	0.82	完形	0	2	0	0	0		143-12	S3783
7	石鏃	Ⅰ a2C	Ⅵ c4	F-23Eb-Fa / Ⅵ c4	珪質凝灰岩 A	25.9	10.2	4.1	0.81	完形	0	1	0	0	0		143-14	S6735
8	石鏃	Ⅰ b2C	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	珪質頁岩 A	30.1	14.5	8.0	1.72	完形	0	0	0	0	0		143-13	S3466
9	石鏃	Ⅰ a1B	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	碧玉 B2	29.3	13.1	6.8	1.72	完形	0	2	0	0	B		143-15	S6779
10	石鏃	Ⅰ a1B	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	碧玉 B1	28.0	10.2	4.5	0.91	完形	0	2	0	0	0		143-16	S3801
11	石鏃	Ⅰ a1B	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	碧玉 C	31.4	10.9	4.3	1.06	完形	0	0	0	0	B		143-17	S3738
12	石鏃	Ⅰ a1C	Ⅵ c4	F-23Eb-Fa / Ⅵ c4	珪質頁岩 A	34.1	14.2	6.3	1.94	完形	0	0	0	0	B		143-18	S6739
13	石鏃	Ⅰ b1B	Ⅵ c4	F-23Eb-Fa / Ⅵ c4	珪質頁岩 A	28.4	15.2	6.1	1.91	茎欠	0	0	0	0	B		143-19	S3049
14	石鏃	Ⅰ b2B	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	珪質凝灰岩 B	28.5	15.1	5.3	1.91	茎欠	0	0	0	0	B		143-20	S3457
15	石鏃	Ⅰ b1C	Ⅵ c4	F-23Eb-Fa / Ⅵ c4	珪質頁岩 A	29.0	12.5	5.6	1.74	尖頭部・茎欠	0	2	0	0	0		143-21	S6737
16	石鏃	Ⅳ bB	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	玉髄	28.3	10.1	3.1	0.77	完形	0	0	0	0	0		143-22	S3690
17	石鏃	Ⅲ A	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	珪質頁岩 A	32.7	25.2	10.8	7.72	完形	0	1	0	0	0		143-23	S3628
18	石錐	Ⅱ b2	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	碧玉 B1	26.3	14.5	9.6	2.47	完形	0	2	石鏃→	0	0		143-26	S3448

第187図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（11）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備考	写真図版	登録
1	石錐	Ⅰb	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	珪質頁岩 A	57.4	12.5	5.6	2.98	完形	0	1	0	0	0		143-27	S3807
2	石錐	Ⅰb	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	珪質頁岩 A	42.2	15.8	9.7	4.41	完形	0	0	錐部再加工	0	0		143-25	S3747
3	石錐	Ⅰb	Ⅵc4	F-23Eb-Fa / Ⅵc4	珪質頁岩 A	32.4	12.5	8.9	2.54	完形	0	2	石鏃→	0	0		143-24	S6738
4	楔形石器	Ⅱbb	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	珪質頁岩 A	28.3	25.9	10.2	7.80	完形	0	0	石篦→	0	0		143-30	S3627
5	楔形石器	Ⅱab	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	珪質頁岩 A	32.7	31.2	14.5	17.58	完形	0	0	0	1	0		143-29	S3688
6	不定形石器	Ⅲb	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	玉髄	24.6	27.2	6.1	3.58	完形	0	0	0	1	0		143-31	S3730
7	不定形石器	Ⅲd	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	珪質頁岩 A	46.3	43.8	11.9	19.61	完形	0	0	0	1	0		143-34	S3522
8	不定形石器	Ⅲa	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	珪質頁岩 A	76.0	34.8	14.5	30.06	完形	0	0	0	1	0		143-32	S3880
9	不定形石器	Ⅰ	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	珪質頁岩 A	68.7	30.4	8.7	15.36	完形	0	0	0	0	B		143-33	S3774
10	打製石斧	-	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	珪質凝灰岩 B	62.5	67.0	30.9	135.89	基部・刃部欠	0	0	0	1	0		143-28	S3554
11	石皿	-	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	安山岩質凝灰岩	82.5	58.4	8.8	32.42	破片	0	0	0	1	0		144-1	S3556

第188図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（12）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備考	写真図版	登録
1	磨石	-	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	安山岩	71.9	57.7	46.6	275.10	完形	0	0	0	1	0		144-2	S3889
2	磨石	-	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	安山岩	108.6	61.4	45.6	449.16	完形	0	0	0	1	0		144-5	S3875
3	磨石	-	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	安山岩	104.0	63.0	30.4	327.78	完形	0	0	0	1	0		144-4	S3529
4	磨石	-	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	凝灰岩	133.3	74.8	33.4	408.44	一部欠	0	0	砥石→凹石→	1	0		144-3	S6787
5	砥石	-	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	凝灰岩	74.8	62.4	31.1	113.40	破片	0	0	石冠→	0	0		144-7	S6788
6	石刀	-	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	粘板岩	98.1	29.0	13.9	57.33	基部	0	0	0	0	0		144-6	S3742
7	円盤状石製品	Ⅰa	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	安山岩	58.0	54.0	19.7	89.98	完形	0	0	磨石→	1	0		144-11	S3712
8	円盤状石製品	Ⅰa	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	安山岩	50.8	49.9	21.6	86.42	完形	0	0	石皿→	1	0		144-10	S3723

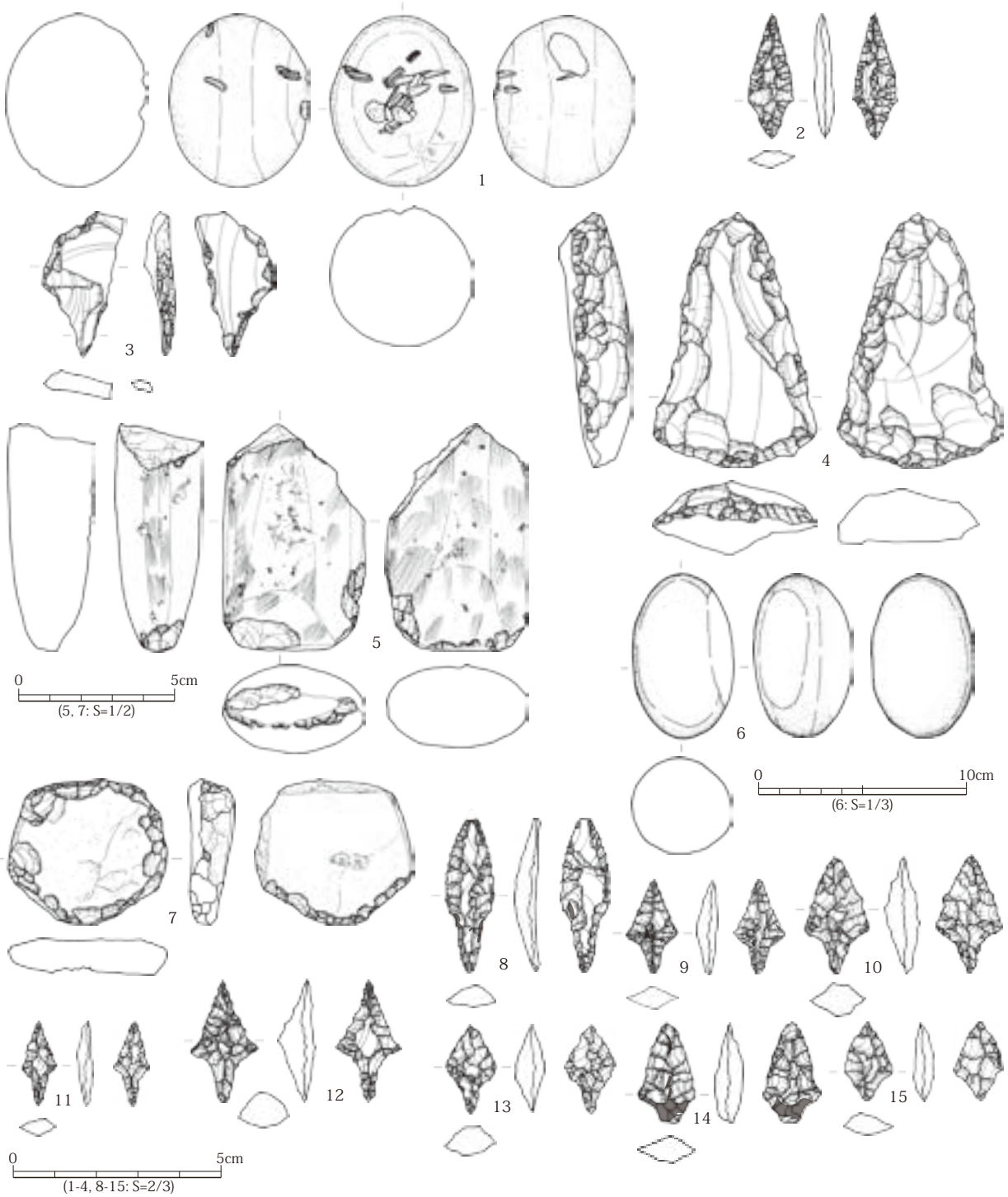
第189図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（13）　F-23区E・F・Gグリッド

No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変　形	自然面	付着物	備考	写真図版	登録
1	円盤状石製品	Ⅱ	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	凝灰岩	52.0	52.6	14.1	42.86	完形	0	0	0	1	0		144-12	S3856
2	円盤状石製品	Ⅰa	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	流紋岩	45.0	49.2	22.3	76.67	完形	0	0	0	1	0		144-9	S3850
3	円盤状石製品	Ⅰb	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	凝灰岩	34.3	34.1	9.6	9.07	完形	0	0	0	1	0		144-8	S6754
4	小玉	-	Ⅵc4	F-23Eb-Fa / Ⅵc4	凝灰質砂岩	3.6	3.2	2.9	0.04	完形	0	0	0	0	0		144-14	S6915
5	線刻礫	-	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	凝灰岩	91.2	58.2	57.5	121.73	一部欠	0	0	0	1	0	2点接合	144-13	S3811
6	石鏃	Ⅰb1C	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	珪質頁岩A	32.0	11.5	5.5	1.22	完形	0	1	0	0	0		144-15	S6706
7	石鏃	Ⅰa2B	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	珪質頁岩A	20.3	12.2	4.5	0.70	完形	0	1	0	0	0		144-19	S6705
8	石鏃	Ⅰa1B	Ⅵc3	F-23Fa / Ⅵc3	珪質頁岩A	22.0	10.7	5.1	0.82	完形	0	2	0	0	0		144-16	S2730
9	石鏃	Ⅰa1A	Ⅵc3	F-23Fa / Ⅵc3	珪質頁岩A	27.4	13.0	5.5	1.21	完形	0	0	0	0	B		144-21	S6726
10	石鏃	Ⅰc1B	Ⅵc3	F-23Fa / Ⅵc3	珪質頁岩A	18.6	10.0	2.3	0.36	完形	0	1	0	0	0		144-20	S6725
11	石鏃	Ⅰb1A	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	玉髄	25.6	20.2	9.3	3.96	完形	0	2	0	1	0		144-18	S2462
12	石鏃	ⅢA	Ⅵc3	F-23Fa / Ⅵc3	碧玉B1	28.0	21.1	11.9	7.71	完形	0	0	0	1	0		144-17	S2613
13	尖頭器	Ⅳ	Ⅵc3	F-23Fa / Ⅵc3	玉髄	38.7	21.4	9.1	8.88	一部欠	0	1	0	1	0		144-22	S2689
14	石錐	Ⅱc1	Ⅵc3	F-23Fa / Ⅵc3	玉髄	13.9	12.1	3.6	0.49	完形	0	2	0	1	0		144-26	S2767
15	石錐	Ⅱb1	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	珪質頁岩A	20.6	9.3	4.1	0.77	完形	0	0	錐部再加工	0	0		144-23	S6710
16	石錐	Ⅱc1	Ⅵc3	F-23Fa / Ⅵc3	珪質頁岩A	19.4	8.4	4.6	0.59	完形	0	1	0	0	0		144-25	S2845
17	石錐	Ⅱb1	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	碧玉A	24.0	9.5	3.8	0.68	完形	0	2	0	1	0		144-24	S2487

第190図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（14）　F-23区E・F・Gグリッド

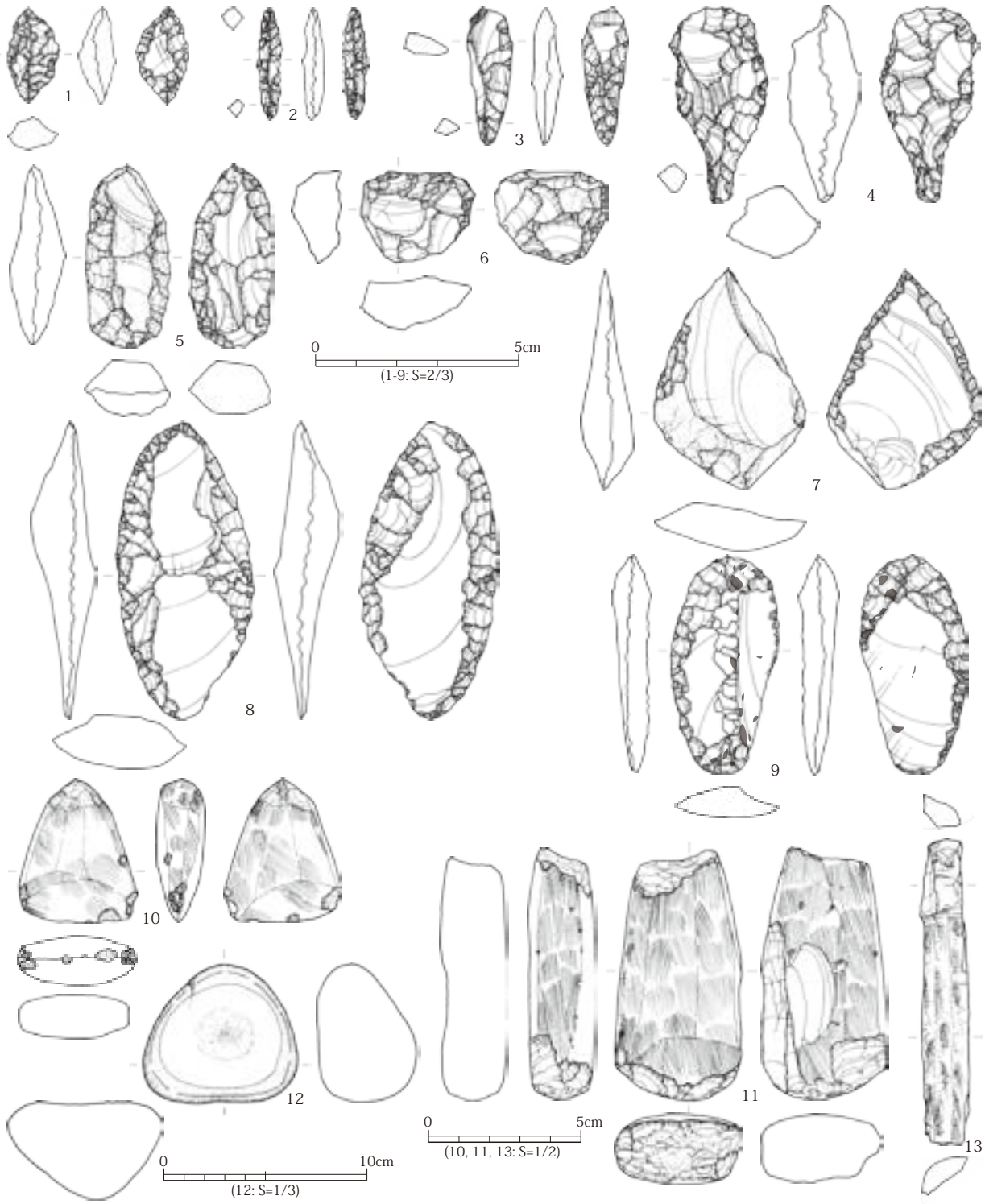
No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残　存	被熱	加熱処理	変　形	自然面	付着物	備考	写真図版	登録
1	石錐	Ⅱ b	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	珪質頁岩 A	24.9	19.1	8.2	2.43	つまみ部欠	1	1	0	0	0		144-29	S2626
2	石錐	Ⅱ c2	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	珪質頁岩 A	41.7	18.9	12.8	5.81	完形	0	0	0	0	B		144-28	S2652
3	石錐	Ⅱ a1	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	珪質頁岩 A	43.9	21.8	8.6	5.04	完形	0	0	0	1	R		144-27	S2417
4	石匙	Ⅰ a1	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	珪質頁岩 A	69.9	18.0	5.5	6.82	先端部欠	0	0	0	1	B		144-30	S2469
5	楔形石器		Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	黒曜石	21.9	21.8	6.2	2.98	完形	0	0	0	1	0		145-1	S2716
6	不定形石器	Ⅰ	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	珪質頁岩 A	27.0	13.9	7.6	1.86	完形	0	0	0	0	0		145-4	S2705
7	不定形石器	Ⅱ c	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	碧玉 B1	26.4	25.4	9.7	4.05	完形	0	1	0	0	0		145-3	S2452
8	不定形石器	Ⅲ a	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	珪質頁岩 A	38.5	20.8	7.7	5.59	完形	0	0	0	0	0		145-2	S6709
9	不定形石器	Ⅲ d	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	珪質頁岩 A	49.1	33.8	11.2	22.07	完形	0	0	0	1	0		145-5	S2461
10	磨石	-	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	安山岩質凝灰岩	46.4	36.3	11.4	15.18	完形	0	0	0	1	0		145-7	S2628
11	磨石	-	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	軽石	39.2	37.2	28.3	14.77	完形	0	0	0	1	0		145-8	S2421
12	磨石	-	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	安山岩	61.8	44.5	45.4	142.45	破片	0	0	0	1	R		145-6	S2732
13	磨石	-	Ⅵ c3	F-23Fa / Ⅵ c3	凝灰質泥岩	67.0	36.4	24.1	91.52	完形	0	0	磨製石斧→	0	R		145-9	S2624
14	石錘	-	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	安山岩質凝灰岩	66.7	94.2	30.7	262.81	完形	0	0	0	1	0		145-10	S2423
15	小玉	-	Ⅵ c3	F-23Eb / Ⅵ c3	葉蝋石	5.1	3.4	1.1	0.02	完形	0	0	0	0	0		145-11	S6894

第191図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（15）　F-23区E・F・Gグリッド



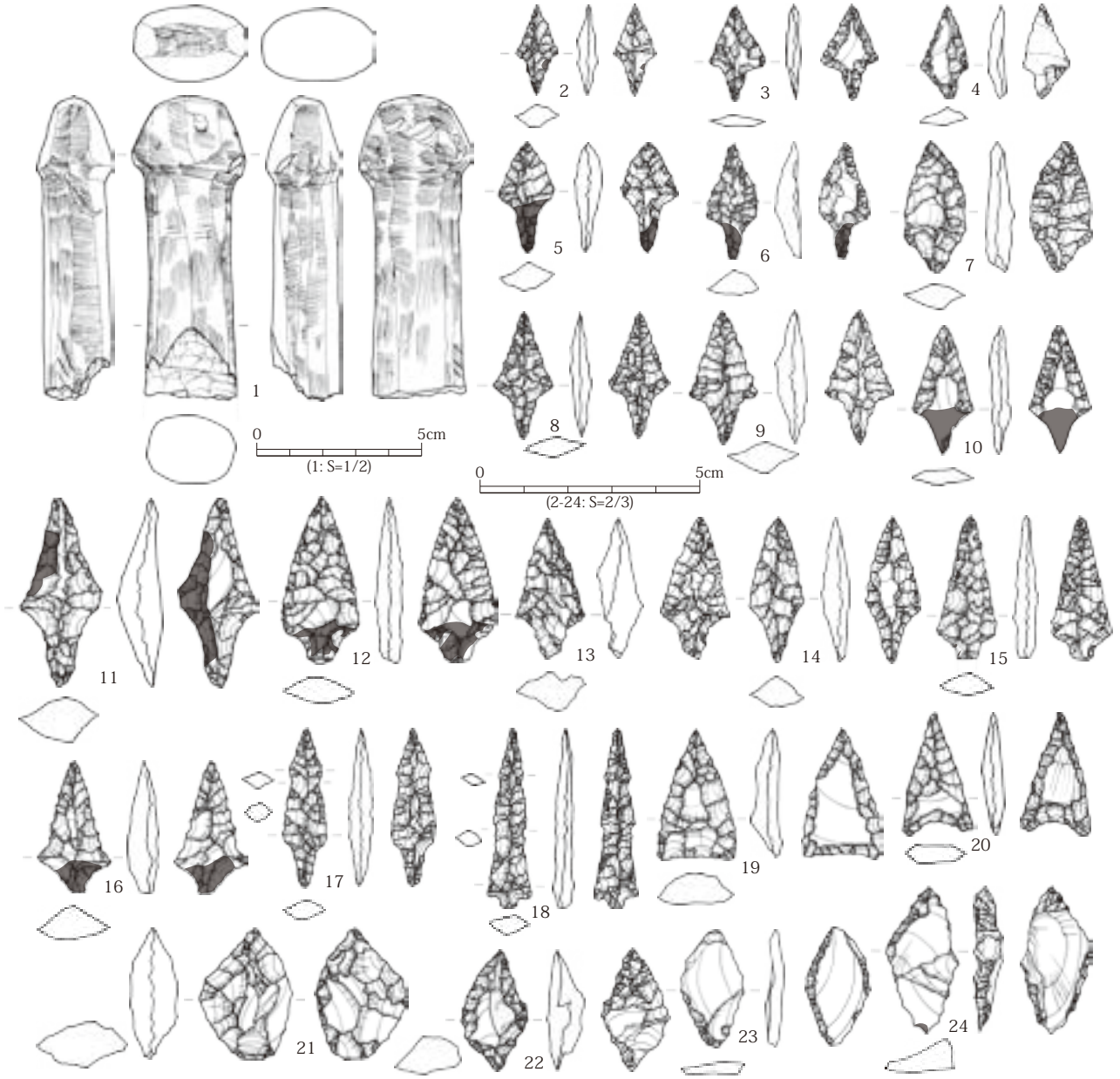
No.	器種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残　存	被熱	加熱処理	変　形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	線刻礫	-	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	凝灰岩	41.0	33.9	33.9	26.71	完形	0	0	0	1	0		145-12	S2451
2	石鏃	Ⅰb1A	Ⅵc2	F-23Gb / Ⅵc2	黒曜石	29.2	10.3	3.3	0.89	完形	0	0	0	0	0		145-13	S2390
3	石錐	Ⅱb2	Ⅵc2	F-23Fb / Ⅵc2	珪質頁岩 A	34.9	16.7	5.1	2.77	完形	0	0	0	0	0		145-14	S3022
4	石篦	Ⅰc	Ⅵc2	F-23Fb / Ⅵc2	珪質頁岩 A	61.3	39.5	15.1	32.36	完形	0	0	0	0	0		145-15	S3026
5	磨石	-	Ⅵc2	F-23Ga / Ⅵc2	緑色凝灰岩	71.9	44.6	27.6	130.68	完形	0	0	磨製石斧→凹石→	0	0		145-17	S2388
6	磨石	-	Ⅵc2	F-23Fb / Ⅵc2	安山岩	77.1	48.9	47.0	241.63	完形	0	0	0	1	0		145-16	S3027
7	円盤状石製品	Ⅰa	Ⅵc2	F-23Fa / Ⅵc2・3	安山岩質凝灰岩	46.1	50.7	14.4	43.01	完形	0	0	0	1	0		145-18	S3032
8	石鏃	Ⅰb2A	Ⅵc1	F-23Fb / Ⅵc1	珪質頁岩 A	36.7	11.6	4.9	1.72	尖頭部欠	0	1	0	0	B		145-19	S1971
9	石鏃	Ⅰa1B	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	碧玉 B1	22.3	12.3	4.7	0.65	完形	0	2	0	0	B		145-20	S2275
10	石鏃	Ⅰa1B	Ⅵc1	F-23Ga / Ⅵc1	珪質頁岩 A	27.2	15.4	7.4	1.80	完形	0	0	0	0	0		145-24	S2031
11	石鏃	Ⅰa2C	Ⅵc	F-23E / Ⅵc	碧玉 B1	20.3	8.3	3.4	0.39	完形	0	1	0	0	0		145-21	S1863
12	石鏃	Ⅰa2C	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1-2	珪質頁岩 A	28.6	16.2	8.3	1.74	完形	0	2	0	0	0		145-23	S2138
13	石鏃	Ⅰb2B	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	碧玉 B2	20.3	11.7	6.4	0.98	完形	0	2	0	0	0		145-22	S2154
14	石鏃	Ⅰa1B	Ⅵc1	F-23Fb / Ⅵc1	珪質凝灰岩 B	23.5	13.7	6.6	1.51	尖頭部欠	0	0	0	0	B		145-25	S1972
15	石鏃	Ⅰb1B	Ⅵc1	F-23Gb / Ⅵc1	珪質凝灰岩 A	18.4	11.1	4.4	0.73	完形	0	0	0	0	0		145-26	S2070

第192図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（16）　F-23区E・F・Gグリッド



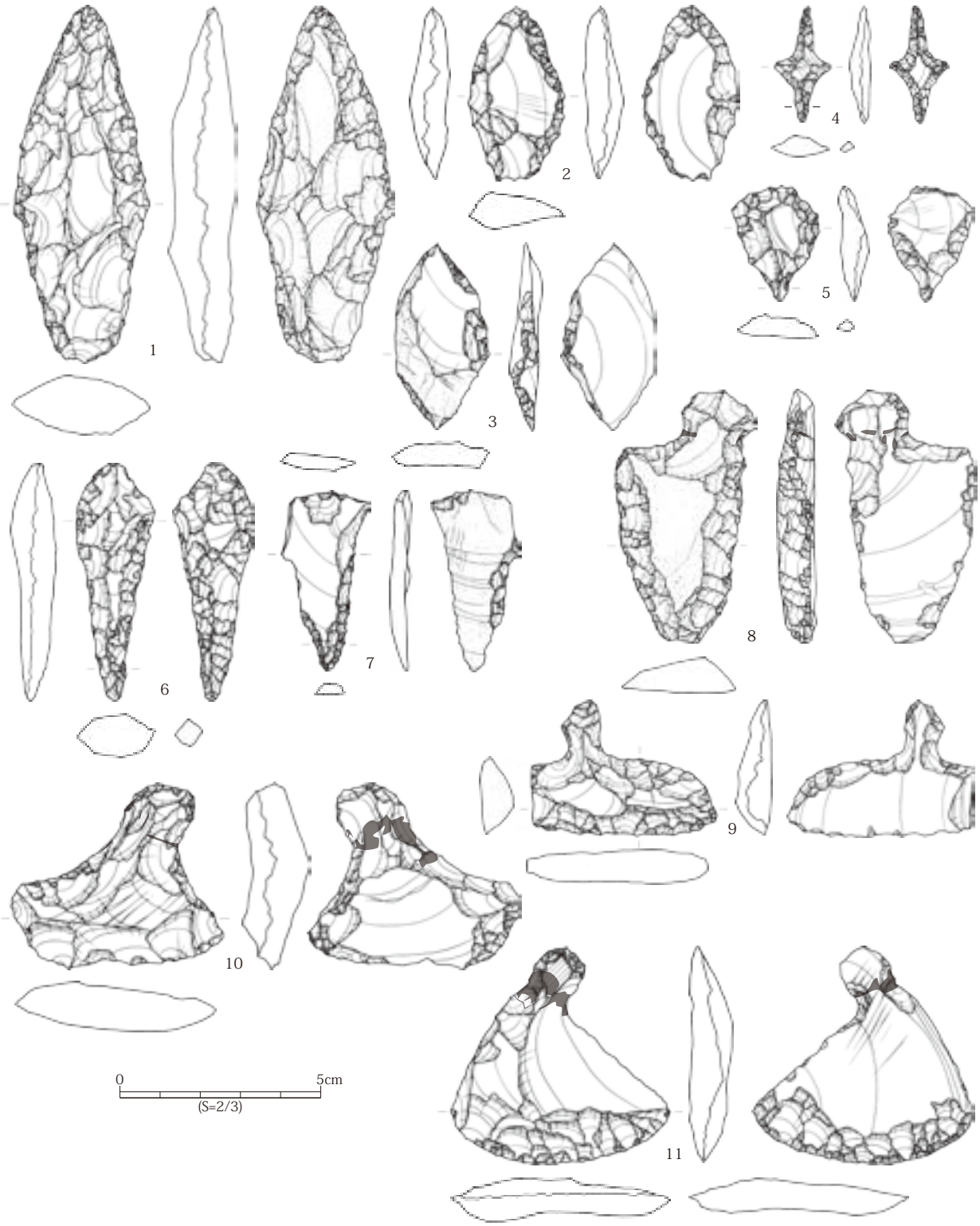
No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変　形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	石鏃	Ⅰ c1A	Ⅵ c1	F-23Fb / Ⅵ c1	碧玉 C	22.8	12.7	7.6	1.86	完形	0	1	0	0	0		145-27	S2012
2	石錐	Ⅰ a	Ⅵ c1	F-23Fa / Ⅵ c1・2	珪質頁岩 A	26.9	6.4	5.6	0.70	完形	0	2	0	0	0		145-29	S2153
3	石錐	Ⅰ a	Ⅵ c1	F-23Fa / Ⅵ c1-2	珪質頁岩 A	33.9	10.9	7.1	2.27	完形	0	2	0	0	0		145-28	S2206
4	石錐	Ⅱ b2	Ⅵ c1	F-23Fb / Ⅵ c1	珪質頁岩 A	48.1	23.1	17.4	14.33	錐部欠	0	0	多段階表面変化 1	0	0		145-30	S2013
5	石篦	Ⅰ a1	Ⅵ c1	F-23Ga / Ⅵ c1	珪質凝灰岩 B	44.4	20.4	12.5	10.61	完形	0	0	0	0	0		145-31	S2032
6	楔形石器	Ⅱ bb	Ⅵ c1	F-23Fb / Ⅵ c1	珪質頁岩 A	22.5	28.0	12.8	8.24	完形	0	0	0	1	0		145-33	S2019
7	不定形石器	Ⅰ	Ⅵ c1	F-23Fa / Ⅵ c1-2	珪質頁岩 A	54.0	37.5	12.8	17.34	完形	0	0	0	1	0		145-34	S2140
8	不定形石器	Ⅰ	Ⅵ c1	F-23Fa / Ⅵ c1-2	珪質頁岩 A	72.9	33.7	14.0	25.91	完形	0	1	0	0	0		146-1	S2092
9	不定形石器	Ⅲ c	Ⅵ c	F-23E / Ⅵ c	珪質頁岩 A	53.6	26.1	9.8	11.14	完形	0	0	0	0	B	背面中央に使用に伴う剥離痕	145-35	S6880
10	磨製石斧	Ⅲ	Ⅵ c1	F-23Fa / Ⅵ c1・2	安山岩	46.1	38.0	15.4	38.97	完形	0	0	基部破片を再加工	0	0		145-32	S2273
11	敲石	-	Ⅵ c1	F-23Fb / Ⅵ c1	凝灰質泥岩	81.3	40.2	21.5	131.71	完形	0	0	磨製石斧→	0	0		146-3	S2017
12	磨石	-	Ⅵ c1	F-23Fb / Ⅵ c1	安山岩	76.1	69.2	47.5	327.68	完形	0	0	凹石→	1	0		146-2	S2016
13	石棒	-	Ⅵ c	F-23 / Ⅵ c	粘板岩	99.4	15.1	14.4	21.03	破片	0	0	0	0	0		146-5	S1867

第193図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（17）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残　存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	石棒	-	Ⅵc1	F-23Gb / Ⅵc1	粘板岩	91.0	33.6	22.7	77.57	基部欠	0	0	0	0	0		146-4	S6687
2	石鏃	Ⅰa2C	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	碧玉 C	19.8	9.4	4.4	0.46	完形	0	2	0	0	0		146-6	S6658
3	石鏃	Ⅰa1B	Ⅵb2	F-23Ga / Ⅵb2	珪質頁岩 A	21.4	12.5	2.7	0.48	完形	0	0	0	0	0		146-8	S1815
4	石鏃	Ⅰa1B	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	碧玉 D	20.7	10.0	3.4	0.55	完形	0	0	0	0	0		146-7	S1457
5	石鏃	Ⅰa2B	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	碧玉 B1	24.3	12.4	5.2	1.00	完形	0	1	0	0	B		146-9	S1447
6	石鏃	Ⅰa1A	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	珪質頁岩 A	25.6	11.1	5.2	1.01	完形	0	1	0	0	B		146-10	S1718
7	石鏃	Ⅰb1A	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	碧玉 B1	28.9	14.1	5.5	2.06	完形	0	0	0	0	0		146-11	S1103
8	石鏃	Ⅰa2C	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	黒曜石	28.2	13.3	4.2	0.83	完形	0	0	0	0	0		146-12	S1104
9	石鏃	Ⅰa1B	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	碧玉 B1	29.8	15.1	6.0	1.61	完形	0	0	0	0	0		146-13	S1106
10	石鏃	Ⅰa1B	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	珪質頁岩 A	29.0	13.9	4.1	1.17	完形	0	1	0	0	B		146-14	S1608
11	石鏃	Ⅰb2C	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	珪質頁岩 A	42.7	18.4	10.3	4.00	尖頭部欠	0	0	0	0	B	側辺にアスファルト	146-15	S1318
12	石鏃	Ⅰa1A	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	珪質頁岩 A	37.4	17.3	5.9	3.11	完形	0	0	0	0	B		146-16	S1145
13	石鏃	Ⅰa1B	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	珪質頁岩 A	31.8	15.4	8.4	2.49	完形	0	0	0	0	0		146-17	S1446
14	石鏃	Ⅰb1A	Ⅵb2	F-23Fb / Ⅵb2	珪質頁岩 A	32.2	12.0	6.1	1.46	完形	0	2	0	0	0		146-18	S6677
15	石鏃	Ⅰa1B	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	碧玉 B2	32.3	13.5	4.9	1.54	基部欠	0	2	0	0	B	一側辺にアスファルト付着	146-19	S1200
16	石鏃	Ⅰa1C	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	珪質頁岩 A	29.7	16.2	6.8	2.11	茎欠	0	0	0	0	B		146-20	S1175
17	石鏃	Ⅰa1A	Ⅵb2	F-23Ga / Ⅵb2	珪質頁岩 A	35.7	10.0	5.0	1.12	完形	0	0	0	0	0	両側辺に抉り各 1	146-21	S1813
18	石鏃	Ⅰa1B	Ⅵb2	F-23E / Ⅵb2	碧玉 C	40.6	9.8	4.3	1.22	完形	0	0	0	0	0	両側辺に抉り各 2	146-22	S1074
19	石鏃	ⅣbA	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	珪質凝灰岩 B	29.0	17.8	6.3	2.63	完形	0	0	0	0	0		146-23	S1311
20	石鏃	ⅣbB	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	珪質頁岩 A	27.0	15.7	3.8	1.43	完形	0	0	0	0	0		146-24	S1102
21	石鏃	Ⅴ	Ⅵb2	F-23E / Ⅵb2	碧玉 B1	29.7	20.9	10.4	5.65	完形	0	1	0	0	0		146-25	S1052
22	石鏃	Ⅴ	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	碧玉 B1	26.9	14.8	8.3	2.45	完形	0	2	0	1	0		146-26	S1634
23	石鏃	Ⅰc1B	Ⅵb2	F-23Ga / Ⅵb2	珪質頁岩 A	26.5	14.2	2.8	1.15	完形	0	1	0	0	0		146-27	S1819
24	石鏃	Ⅰc1B	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	珪質頁岩 A	32.9	15.7	6.3	2.44	完形	0	0	0	0	0		146-28	S1456

第194図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（18）　F-23区E・F・Gグリッド

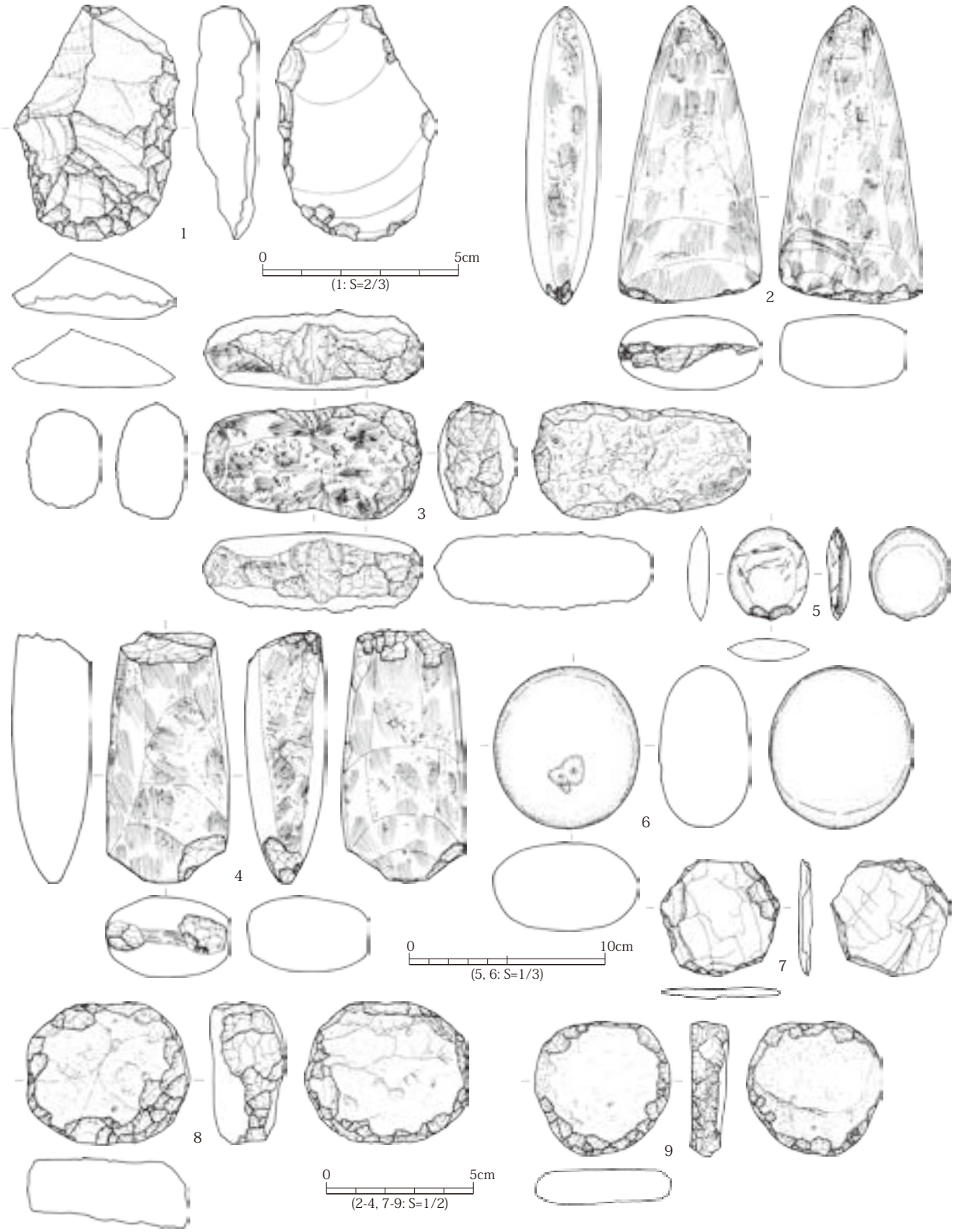


No.	器種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	尖頭器	Ⅰb1	Ⅵb2	F-23E / Ⅵb2	珪質頁岩 A	88.2	33.9	16.7	38.90	完形	0	1	0	0	0		146-29	S6650
2	尖頭器	Ⅰb1	Ⅵb2	F-23E / Ⅵb2	珪質頁岩 A	43.3	23.2	9.4	8.24	完形	0	0	0	0	0		146-30	S1091
3	尖頭器	Ⅰb1	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	珪質頁岩 A	46.4	23.1	6.4	6.23	完形	0	0	0	1	0		146-31	S1680
4	石錐	Ⅱb2	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	珪質頁岩 A	28.9	14.5	4.9	0.86	完形	0	0	石鏃→	0	B	錐部先端摩滅	146-32	S1448
5	石錐	Ⅱb2	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	珪質頁岩 A	28.6	21.2	6.7	2.75	完形	0	0	0	0	0		146-34	S1455
6	石錐	Ⅱb1	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	珪質頁岩 A	59.5	19.8	10.8	9.63	完形	0	0	0	0	0		146-33	S1202
7	石錐	Ⅱc1	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	珪質頁岩 A	44.5	21.0	4.8	3.50	完形	0	0	0	0	0		146-35	S1325
8	石匙	Ⅰa2	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	珪質頁岩 A	61.9	34.7	9.4	19.47	完形	0	0	0	1	B		147-4	S1607
9	石匙	Ⅱb	Ⅵb2	F-23E / Ⅵb2	珪質頁岩 A	33.5	46.4	8.3	10.37	一部欠	0	0	0	0	0		146-36	S1058
10	石匙	Ⅱb	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	珪質頁岩 A	44.6	52.2	14.8	23.31	完形	0	0	0	0	B		147-1	S1170
11	石匙	Ⅱa	Ⅵb2	F-23E / Ⅵb2	碧玉 B2	53.3	54.5	10.4	21.44	完形	0	0	0	0	B		147-2	S1066

第195図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（19）　F-23区E・F・Gグリッド

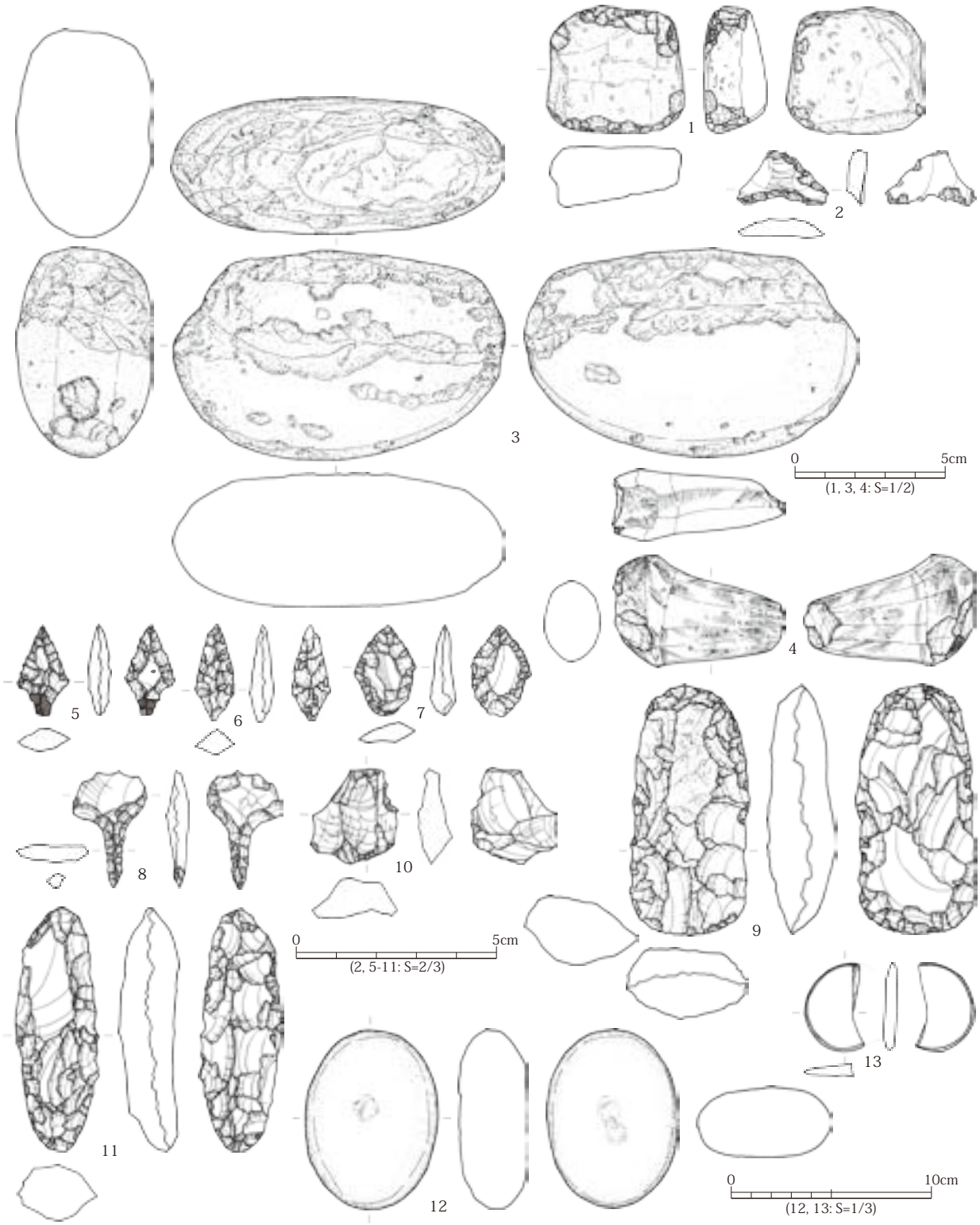
No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変　形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	石匙	Ⅱb	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	碧玉 C	40.8	72.0	11.6	21.59	完形	0	1	0	0	B		147-3	S1187
2	石篦	Ⅰa1	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	珪質頁岩 A	43.4	28.1	13.0	17.16	完形	0	1	基部再加工	0	0		147-5	S1658
3	石篦	Ⅰa1	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	凝灰岩	77.1	35.0	14.9	42.27	完形	0	0	0	0	B		147-6	S1105
4	楔形石器	Ⅰa	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	珪質頁岩 A	29.0	17.1	11.3	4.83	完形	0	0	0	0	0		147-9	S1507
5	楔形石器	Ⅰa	Ⅵb2	F-23Ga / Ⅵb2	珪質頁岩 A	24.6	31.2	8.6	7.16	完形	0	0	0	0	0		147-7	S1810
6	楔形石器	Ⅰa	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	珪質頁岩 A	18.0	22.9	6.3	2.32	完形	0	0	0	0	0		147-8	S1468
7	不定形石器	Ⅰ	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	碧玉 B2	46.5	23.3	11.3	12.41	完形	0	1	0	0	0		147-11	S1606
8	不定形石器	Ⅲd	Ⅵb2	F-23E / Ⅵb2	珪質凝灰岩 B	50.7	25.5	9.2	16.35	一部欠	0	0	多段階表面変化 1	0	0		147-12	S1046
9	不定形石器	Ⅲd	Ⅵb2	F-23E / Ⅵb2	珪質頁岩 A	57.6	26.8	9.7	14.01	完形	0	0	0	1	0		147-10	S1041
10	不定形石器	Ⅲd	Ⅵb2	F-23E / Ⅵb2	粘板岩	136.1	50.7	20.1	213.67	一部欠	0	0	0	1	0	打製石斧未成品か	147-14	S1051

第196図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（20）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変　形	自然面	付着物	備考	写真図版	登録
1	不定形石器	Ⅲc	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	流紋岩	60.0	40.4	15.2	35.40	完形	0	0	0	0	0		147-13	S1164
2	磨製石斧	Ⅰa1	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	安山岩	99.7	47.6	24.2	175.10	完形	0	0	刃部再加工	0	0		148-1	S1592
3	石錘	-	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	安山岩？	39.0	73.6	26.4	119.36	完形	0	0	磨製石斧→	1	0		148-9	S1301
4	砥石	-	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	安山岩？	85.5	41.2	26.9	163.65	一部欠	0	0	磨製石斧→	0	0		148-3	S1682
5	砥石	-	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	凝灰岩	47.2	40.6	11.0	13.56	完形	0	0	0	1	0		148-4	S1132
6	凹石	-	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	デイサイト？	82.5	73.7	46.5	423.13	完形	0	0	磨石→	1	0		148-2	S1153
7	円盤状石製品	Ⅱ	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	粘板岩	39.3	40.7	3.4	6.87	完形	0	0	0	0	0		148-6	S1174
8	円盤状石製品	Ⅰb	Ⅵb2	F-23Eb-Fa / Ⅵb2	デイサイト	47.4	56.1	23.9	90.24	完形	0	0	0	1	0		148-8	S1617
9	円盤状石製品	Ⅰb	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	安山岩	44.2	45.9	12.2	38.14	完形	0	0	0	1	0		148-7	S6659

第197図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（21）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備考	写真図版	登録
1	円盤状石製品	Ⅲ	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	安山岩	41.5	44.8	19.8	59.70	完形	0	0	0	1	0		148-5	S1168
2	異形石器	-	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	珪質頁岩 A	12.3	22.1	4.1	1.02	先端部欠	0	0	0	0	0		148-12	S1284
3	石冠	-	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	砂岩	68.2	109.5	45.1	519.77	完形	0	0	磨石→	1	0		148-10	S1156
4	独鈷石	-	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	ホルンフェルス	36.0	56.0	23.6	55.41	破片	0	0	0	0	0		148-11	S6669
5	石鏃	Ⅰb1B	Ⅵb1	F-23Ga / Ⅵb1	珪質頁岩 A	22.1	12.4	4.9	1.05	完形	0	0	0	0	B		148-13	S0701
6	石鏃	Ⅰb1B	Ⅵb1	F-23Fb / Ⅵb1	碧玉 B1	23.5	9.2	5.6	0.92	完形	0	2	0	0	0		148-14	S0643
7	石鏃	Ⅰb1A	Ⅵb1	F-23Ga / Ⅵb1	珪質頁岩 A	21.8	14.5	5.3	1.59	完形	0	2	0	0	0		148-15	S0693
8	石錐	Ⅱa1	Ⅵb1	F-23Ga / Ⅵb1	碧玉 A	28.6	18.6	5.2	1.73	完形	0	1	0	0	0		148-16	S0694
9	石篦	Ⅰa1	Ⅵb1	F-23Ga / Ⅵb1	碧玉 B1	62.3	29.1	16.9	35.73	完形	0	0	0	1	0		148-18	S0708
10	楔形石器	Ⅰb	Ⅵb1	F-23Ga / Ⅵb1	黒曜石	23.0	20.7	9.7	3.51	一部欠	0	0	0	0	0		148-17	S0730
11	不定形石器	Ⅱa	Ⅵb1	F-23Ga / Ⅵb1	珪質頁岩 A	60.9	20.2	13.9	17.27	完形	0	0	0	0	0		148-19	S0699
12	磨石	-	Ⅵb1	F-23Fb / Ⅵb1	安山岩	88.7	66.3	34.7	341.58	完形	0	0	凹石→	1	0		148-21	S6635
13	磨石	-	Ⅵb1	F-23Gb / Ⅵb1	珪質凝灰岩 B	44.3	34.0	5.9	8.43	一部欠	0	0	0	1	0		148-20	S0771

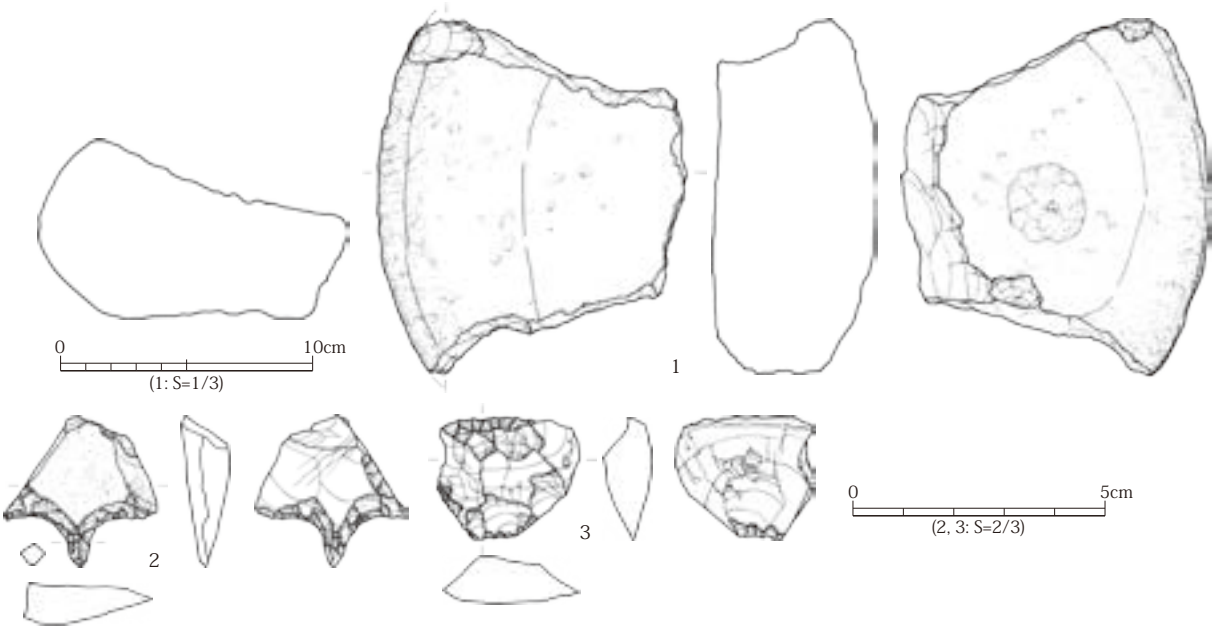
第198図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（22）　F-23区E・F・Gグリッド

No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変　形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	磨石	-	Ⅵ b1	F-23Ga / Ⅵ b1	凝灰岩	66.6	78.1	68.1	509.10	破片	0	0	0	1	0		148-22	S0748
2	石鏃	Ⅰ a2A	Ⅵ a	F-23Fb / Ⅵ a	珪質頁岩 A	27.2	11.3	5.2	1.00	完形	0	1	0	0	0		149-2	S6629
3	石鏃	Ⅰ a1C	Ⅵ a	F-23F / Ⅵ a	碧玉 B2	35.3	12.1	6.2	1.21	完形	0	2	0	0	0		149-3	S0246
4	石鏃	Ⅰ b1A	Ⅵ a	F-23F / Ⅵ a	珪質頁岩 A	33.1	14.8	8.1	2.95	完形	0	0	0	0	0		149-4	S0226
5	石鏃	Ⅰ c1B	Ⅵ a	F-23Ga / Ⅵ a	碧玉 B1	33.8	21.0	7.0	4.90	完形	0	0	0	1	0		149-1	S0495
6	石錐	Ⅱ c2	Ⅵ a	F-23F / Ⅵ a	珪質頁岩 A	45.0	22.4	9.3	8.40	完形	0	0	0	0	0		149-5	S0139
7	石錐	Ⅱ b2	Ⅵ a	F-23Fb / Ⅵ a	珪質頁岩 A	12.0	9.2	2.3	0.13	完形	0	0	0	0	0		149-7	S0329
8	石錐	Ⅱ b2	Ⅵ a	F-23Fb / Ⅵ a	頁岩	43.1	36.8	18.9	11.83	完形	0	0	0	0	0		149-6	S0279
9	石匙	Ⅰ b	Ⅵ a	F-23Gb / Ⅵ a	珪質頁岩 A	31.2	15.7	4.6	2.27	完形	0	0	0	1	0		149-11	S0795
10	石匙	Ⅰ a2	Ⅵ a	F-23G / Ⅵ a	珪質頁岩 A	80.2	25.0	11.0	19.69	完形	0	0	0	1	0		149-8	S0442
11	石匙	Ⅱ b	Ⅵ a	F-23F / Ⅵ a	珪質頁岩 A	50.8	65.2	10.8	35.76	完形	0	0	0	0	0		149-9	S0177
12	石匙	Ⅰ a2	Ⅵ a	F-23G / Ⅵ a	珪質頁岩 A	45.2	20.3	6.3	4.87	完形	0	0	0	0	B		149-10	S0485
13	楔形石器	Ⅱ ab	Ⅵ a	F-23Fb / Ⅵ a	珪質頁岩 A	34.7	26.3	15.2	11.60	完形	0	0	尖頭器→	0	0		149-15	S0412
14	楔形石器	Ⅰ b	Ⅵ a	F-23Fb / Ⅵ a	黒曜石	19.8	11.4	6.9	1.66	一部欠	0	0	0	0	0		149-13	S0377
15	不定形石器	Ⅲ d	Ⅵ a	F-23G / Ⅵ a	碧玉 B1	23.3	27.5	7.6	4.17	完形	1	1	0	0	0		149-14	S0462

第199図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（23）　F-23区E・F・Gグリッド

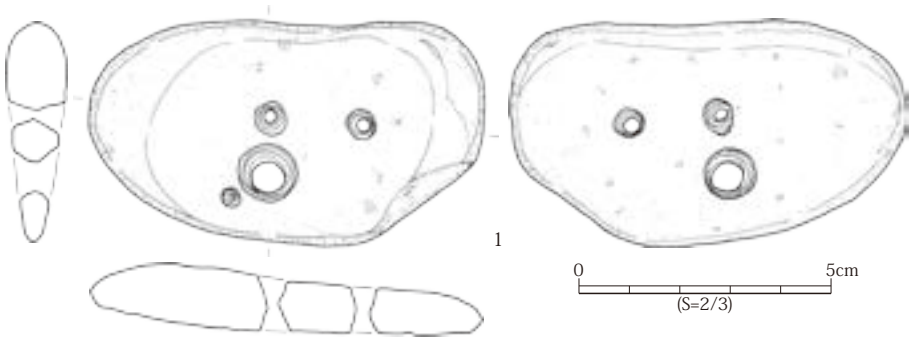
No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	石庖丁様石器	-	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	粘板岩	73.7	95.6	11.3	120.10	一部欠	0	0	0	0	0		149-12	S0147
2	石刀	-	Ⅵa	F-23Fb / Ⅵa	珪化木	303.0	54.5	18.0	459.47	完形	0	0	0	1	0	後世の破損	149-17	S0383
3	石棒	-	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	粘板岩	108.2	32.2	18.6	77.86	基部	0	0	0	0	0		150-1	S0130
4	線刻礫	-	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	凝灰岩	40.0	40.3	20.1	27.49	破片	0	0	0	1	0		150-2	S0214
5	岩版	-	Ⅵa	F-23Ga / Ⅵa	凝灰岩	60.0	68.9	16.0	37.16	破片	0	0	0	1	0		150-3	S6631

第200図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（24）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	石皿	-	Ⅵa	F-23Fb / Ⅵa	玄武岩質安山岩	138.9	123.0	68.0	1280.00	破片	0	0	0	1	0		149-16	S0413
2	石錐	Ⅱa2	Ⅴc	F-23F / Ⅴc	碧玉 C	30.4	30.1	8.9	5.30	完形	0	0	0	1	0		150-4	S0061
3	楔形石器		Ⅴc	F-23G / Ⅴc	黒曜石	23.5	27.4	8.3	4.99	完形	0	0	0	0	0		150-5	S0071

第201図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（25）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	有孔石製品	-	不明	F-23 / 不明	凝灰岩	78.1	44.1	12.5	44.97	完形	0	0	0	1	0		150-6	S6252

第202図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土石器・石製品（26）　F-23区

Ⅵc7 層からは 190 点出土し、石鏃 10 点（第 185 図 8 ～ 14）、石錐 4 点（同図 15）、石匙 2 点（同図 16・17）、石篦 1 点（同図 18）、磨製石斧 2 点、楔形石器 2 点（第 186 図 1）、不定形石器 11 点、石皿 5 点（同図 4）、磨石 7 点（同図 2・3）、敲石 1 点（同図 5）、剥片・砕片 123 点、石核 13 点、円盤状石製品 3 点（第 187 図 1 ～ 3）、独鈷石 1 点、石棒 2 点（第 186 図 6）、石刀 1 点、勾玉 1 点（同図 7）、臼玉 1 点（同図 8）がある。これらのほかに、珍しい形状や色調をもつ自然石（奇石）が 1 点出土した。第 185 図 15 は石鏃を転用した石錐である。第 186 図 4 の石皿は、両面に凹面が形成されている。同図 7 の勾玉は、緑色を呈し透過性のある石材で、緑色石英質岩とされる（分析編第 15 章）。石材は珪質頁岩（A）が最も多く、ほかに珪質凝灰岩（A・B）や碧玉（A・B1・B2・C）、玉髄が多く見られる。

Ⅵc6 層からは 33 点出土し、不定形石器 1 点、剥片･砕片 30 点、石核 1 点、円盤状石製品 1 点（第 187 図 4）がある。石材は珪質頁岩（A）が最も多く、ほかに頁岩や珪質凝灰岩（A・B）、碧玉（A・

B1・B2・C)、粘板岩が見られる。

Ⅵc5層からは79点出土し、石鏃1点（第187図5)、楔形石器2点、不定形石器4点、剥片・砕片72点がある。石材は珪質頁岩（A）が最も多く、ほかに珪質凝灰岩（A・B）や碧玉（A・B1・C・D)、黒曜石が見られる。

Ⅵc4層からは849点出土し、石鏃29点（第187図6～17)、尖頭器1点、石錐10点（同図18、第188図1～3)、石匙2点、石篦3点、打製石斧1点（同図10)、磨製石斧2点、楔形石器7点（同図4・5)、不定形石器33点（同図6～9)、石皿11点（同図11)、磨石20点（第189図1～4)、凹石3点、砥石1点（同図5)、剥片・砕片669点、石核42点、円盤状石製品8点（同図7・8、第190図1～3)、石棒1点、石刀2点（第189図6)、小玉3点（第190図4)、線刻礫1点（同図5）がある。第187図18と第188図3は、石鏃を転用した石錐である。第188図4は、石篦の刃部破片を転用して楔形石器として用いられている。同図9は、端部が尖頭状になる不定形石器（Ⅰ類）であり、一側辺にアスファルトとみられる黒色物質が多量に残る。このような石器は本遺跡で複数出土しており、特定の機能をもつ石器として再分類できるものとみられる（分析編第17章)。第189図5は、凝灰岩製の石冠破片を砥石に転用したものである。表面や破断面を機能面としている。石材は珪質頁岩(A･B)が最も多く、ほかに珪質凝灰岩（A・B）や碧玉（A・B1・B2・C・D)、玉髄、安山岩が多く見られる。

Ⅵc3層からは639点出土し、石鏃12点（第190図6～12)、尖頭器2点（同図13)、石錐13点（同図14～17、第191図1～3)、石匙1点（同図4)、石篦1点、磨製石斧1点、楔形石器8点（同図5)、不定形石器24点（同図6～9)、磨石11点（同図10～13)、凹石1点、剥片・砕片539点、石核17点、石錘1点（同図14)、石刀3点、小玉4点（同図15)、線刻礫1点（第192図1）がある。これらのほかに、珍しい形状や色調をもつ自然石（奇石）が1点出土した。第191図12は磨面に赤色顔料が付着している。同図13は、刃部が破損した磨製石斧を磨石に転用したものであるが、使用面に赤色顔料が残る。石材は珪質頁岩（A・B）が最も多く、ほかに珪質凝灰岩（A・B）や碧玉（A・B1・B2・C・D)、玉髄、粘板岩が多く見られる。

Ⅵc2層からは130点出土し、石鏃2点（第192図2)、石錐4点（同図3)、石篦1点（同図4)、楔形石器1点、不定形石器5点、磨石4点（同図5・6)、敲石1点、剥片・砕片107点、石核3点、円盤状石製品1点（同図7)、石棒1点がある。第192図5は、破損した磨製石斧の刃部を使用面として、凹石と磨石に転用している。石材は珪質頁岩（A・B）が最も多く、ほかに珪質凝灰岩（A・B）や碧玉（A・B1・B2・C・D）が多く見られる。

Ⅵc1層(Ⅵc層を含む)からは430点出土し、石鏃23点(第192図8～15、第193図1)、石錐6点(同図2～4)、石篦3点（同図5)、磨製石斧2点（同図10)、楔形石器10点（同図6)、不定形石器16点（同図7～9)、石皿10点、磨石14点（同図12)、敲石1点（同図11)、剥片・砕片322点、石核20点、石棒2点（同図13、第194図1)、小玉1点がある。第193図8は、端部が尖頭部になる不定形石器（Ⅰ類）であるが、両側辺に連続する二次加工が施されていることから第188図9と同様のものである。第193図9は明瞭な尖頭部をもたないが、同図8と同様の二次加工が施されるため、同じ機能をもつ石器とみられる。なお、背面中央の稜上には右方向からの加撃による剥離面が連続する。これらの剥

離面は二次加工よりも新しく、着柄および使用に伴う衝撃剥離痕とみられる（分析編第17章）。同図10は磨製石斧の基部破片を再加工したものであり、全体の形状が寸詰まりとなっている。同図11は、破損した磨製石斧の刃部に敲打痕が明瞭に観察されることから、ここを機能部位とした敲石に転用したものである。石材は碧玉（A・B1・B2・C・D）が最も多く、次いで珪質頁岩（A・B）が多くあり、ほかに珪質凝灰岩（A・B）や玉髄、黒曜石が多く見られる。

Ⅵb2層からは827点出土し、石鏃40点（第194図2～24）、尖頭器4点（第195図1～3）、石錐17点（同図4～7）、石匙9点（同図8～11、第196図1）、石篦3点（同図2･3）、打製石斧1点、磨製石斧4点（第197図2）、楔形石器13点（第196図4～6）、不定形石器39点（同図7～10、第197図1）、石皿7点、磨石29点、凹石3点（同図6）、砥石2点（同図4・5）、剥片・砕片588点、石核18点、円盤状石製品7点（同図7～9、第198図1）、石錘1点（第197図3）、石冠1点（第198図3）、独鈷石1点（同図4）、石棒1点、石刀6点、異形石器1点（同図2）、小玉1点がある。第194図11・15は側辺にアスファルトとみられる黒色物質が付着している石鏃である。石鏃におけるアスファルトの付着部位は基部や茎がほとんどであることから、通常とは異なる装着方法が想定される。同図17・18は、鏃身部の両側辺に抉りの入る石鏃である。第195図4は石錐で、石鏃を転用したものとみられる。第196図10は打製石斧の未成品の可能性もある。第197図3・4は磨製石斧をそれぞれ転用した石器であり、3は両側辺に敲打による抉りが入ることから石錘とみられ、4は破損した刃部に明瞭な研磨痕が観察されることから砥石とみられる。第198図3は磨石を転用した石冠である。石材は珪質頁岩（A・B）が最も多く、次いで碧玉（A・B1・B2・C・D）が多くあり、ほかに珪質凝灰岩（A・B）や玉髄、黒曜石、粘板岩、安山岩などが見られる。

Ⅵb1層からは275点出土し、石鏃6点（第198図5～7）、尖頭器2点、石錐4点（同図8）、石篦3点（同図9）、磨製石斧1点、楔形石器4点（同図10）、不定形石器11点（同図11）、石皿2点、磨石9点（同図12・13、第199図1）、凹石3点、剥片・砕片208点、石核20点、独鈷石1点、石棒4点がある。石材は珪質頁岩（A･B）と碧玉（A･B1･B2･C･D）最も多く、ほかに珪質凝灰岩（A･B）や玉髄、黒曜石が多く見られる。

Ⅵa層（Ⅵ層を含む）からは416点出土し、石鏃9点（第199図2～5）、尖頭器2点、石錐8点（同図6～8）、石匙4点（同図9～12）、石篦2点、打製石斧1点、磨製石斧2点、石庖丁様石器1点（第200図1）、楔形石器7点（第199図13・14）、不定形石器19点（同図15）、石皿8点（第201図1）、磨石16点、砥石1点、剥片・砕片294点、石核31点、円盤状石製品1点、石棒1点（第200図3）、石刀7点（同図2）、岩版1点（同図5）、線刻礫1点（同図4）がある。これらのほかに、石器石材とみられる原石（頁岩）が1点出土した。第199図13は、尖頭器の基部破片を楔形石器として転用している。第200図1は粘板岩の周縁に二次加工を施した石器である。貫通孔が穿たれたような抉りがあり､石庖丁の未成品の可能性もある。石材は珪質頁岩（A･B）が最も多く､次いで碧玉（A･B1・B2・C・D）が多くあり、ほかに珪質凝灰岩（A・B）や玉髄、黒曜石、粘板岩が多く見られる。

以上のほかに、貫通孔や盲孔が不規則に穿たれた有孔石製品が出土している（第202図1）。

④骨角牙製品

骨角牙製品は、道具や装身具、不明製品、加工や使用の痕跡のある骨、製品素材をすべて含めて383点確認した。これらは丘陵裾部や低地部に位置する遺物包含層の各層から出土している。以下に、地形別および層位別に出土状況を述べる。

ⅰ）丘陵部

丘陵部（F-23区北・東およびF-23区A・Bグリッド）からは出土していない。

ⅱ）丘陵裾部

丘陵裾部からは28点出土している。

Ⅵe2層からは8点出土し、根挟（第203図1）1点、組み合わせ式ヤス1点（同図2）、着柄式刺突具1点（同図3）、弭2点（同図5）、針状製品2点（同図4）、製品素材1点がある。第203図1の根挟には、装着のためのアスファルト状の黒色物質が残されている。特に基部は紐状の痕跡が残る。同図2は組み合わせ式ヤスの逆刺部にあたる。

Ⅵe1層からは4点出土し、鏃1点、着柄式刺突具1点、針状製品1点、板状に加工したイノシシ歯牙1点がある。

Ⅵd層からは3点出土し、根挟1点（第203図6）、猪牙製垂飾1点、垂飾1点（同図7）がある。第203図7の垂飾はサメ椎骨製で、貫通孔を再加工した痕跡が確認される。

Ⅵb2層からは13点出土し、着柄式刺突具1点、刺突具2点（第203図8・9）、垂飾6点（同図10～15）、板状に加工したイノシシ歯牙1点がある。垂飾には、シカやクマなどの大型獣骨製、イノシシ歯牙製、サメ歯製がある。第203図11はイノシシ歯牙製の垂飾で、両側辺の抉りを巡るようにアスファルト状の黒色物質が付着していることから、鏃として利用し、その後に垂飾として再加工したものとみられる。同図15はクマ末節骨製の垂飾で、貫通孔を再加工した痕跡が確認される。

ⅲ）低地部

低地部からは多くの層から出土し、計355点が出土した。

Ⅵe2層からは針状製品（第204図1）が1点出土している。

Ⅵd層からは5点出土し、鏃1点、弭1点、針状製品1点、猪牙製垂飾1点、垂飾1点（第204図2）がある。第204図2の垂飾には、側面に張り出した円盤状突帯の片面に十字状の彫刻が施されている。

Ⅵc7層からは31点出土し、鏃1点、銛頭1点（第204図3）、着柄式刺突具5点（同図4～6）、刺突具6点（同図7～10）、弭1点（同図11）、簪6点（第205図1～5）、猪牙製垂飾3点（同図8～10）、垂飾1点（同図6）、管状垂飾2点（同図7・11）、不明製品1点、板状に加工したイノシシ歯牙2点、加工痕ある骨2点がある。第204図5の着柄式刺突具は、素材形状により緩やかに湾曲する。基部にはアスファルト状の黒色物質が帯状に残る。同図7の刺突具は、薄く分割したシカ中足骨の一端に剥離と研磨による加工が施されている。同図11の弭は、装飾的な加工が施され、また、内

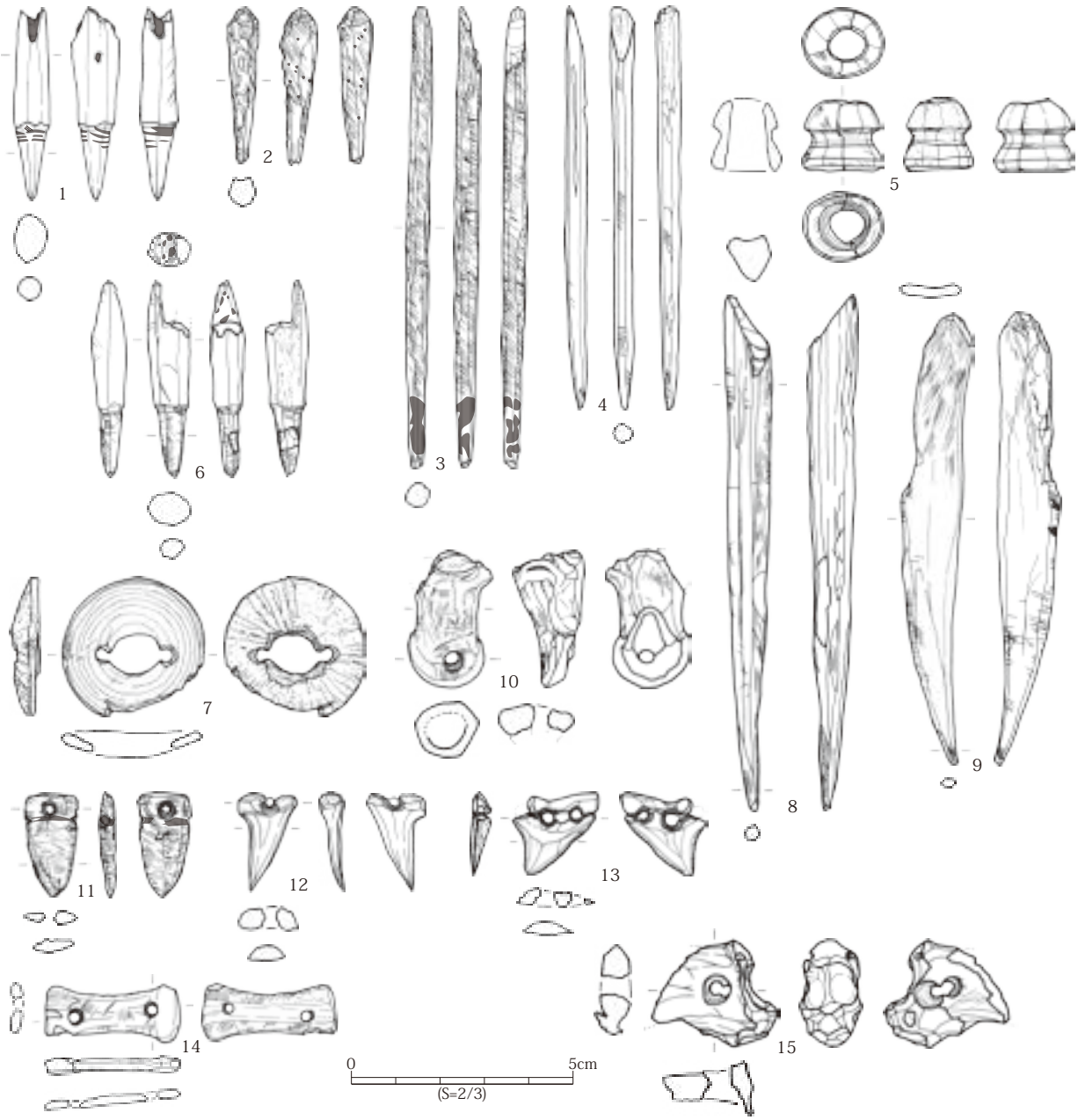
面から基部端部にかけてアスファルト状の黒色物質が多く残る。第205図1～5の簪は、1・2・5では頭部に装飾的な加工が施される。また、1・2は赤く彩色されている。同図6の垂飾には、先端部や基部に装飾的な彫刻が施される。また、基部の一面が平坦に加工されていることから、組み合わせによる使用の可能性がある。同図8～10の猪牙製垂飾は、いずれも長軸方向に二個一対の貫通孔が穿たれている。

Ⅵc5層からは4点出土し、組み合わせ式ヤス1点（第205図12）、弭1点、針状製品1点、加工痕ある骨1点がある。第205図12は組み合わせ式ヤスの逆刺とみられる。

Ⅵc4層からは73点出土し、ヤス2点（第206図4・5）、組み合わせ式ヤス4点（同図1～3）、鉤先2点（第205図13・14）、着柄式刺突具7点（同図15～17）、刺突具16点（第206図6～8、第207図1～4）、篦1点（同図5）、棒状角製品2点（第208図1･2）、弭4点（同図3･4）、簪5点（同図5～7）、針状製品5点、猪牙製垂飾4点（第209図1～3）、垂飾6点（第208図11～14）、管状垂飾3点（同図9・10）、環状製品2点（第209図4・5）、儀仗1点（同図6）、不明製品2点（第208図8、第209図7）、板状に加工したイノシシ歯牙2点、加工痕ある骨や角2点、製品素材3点がある。第206図1・2は近接して出土している。これらを3D計測したところ、1の孔径と2の基部径（アスファルト状の黒色物質が付着している箇所）との比較から、2を1に差し込むことが可能な孔の大きさと判明したため、両者を組み合わせて使用したとみられる。第205図13・14の鉤先は、いずれも組み合わせ式ヤスの逆刺の可能性がある。13は基部形状やアスファルト状の黒色物質の残存状況から、本体と紐で固定したものとみられる。第207図5の篦には、基部に平行する横方向の線刻が施されている。第208図8は、基部に残されたアスファルト状の黒色物質の状況から、外湾する側辺基部を柄に紐等で固定したものとみられる。同図11～13はサメ椎骨製の垂飾であり、うち11・12は同一個体とみられる。いずれも赤色顔料が残る。第209図3の猪牙製垂飾は、羽を広げたような形状に成形されている。同図5の環状製品は、内径の大きさから指輪の可能性がある。同図6の儀仗には、基部に工字文と綾杉状文の彫刻が施されている。端部付近の両側辺に円盤状突帯の彫刻が施され、貫通孔が穿たれている。同図7は基部に突起を作出し、イヌ等の頭部を模したものとみられる。

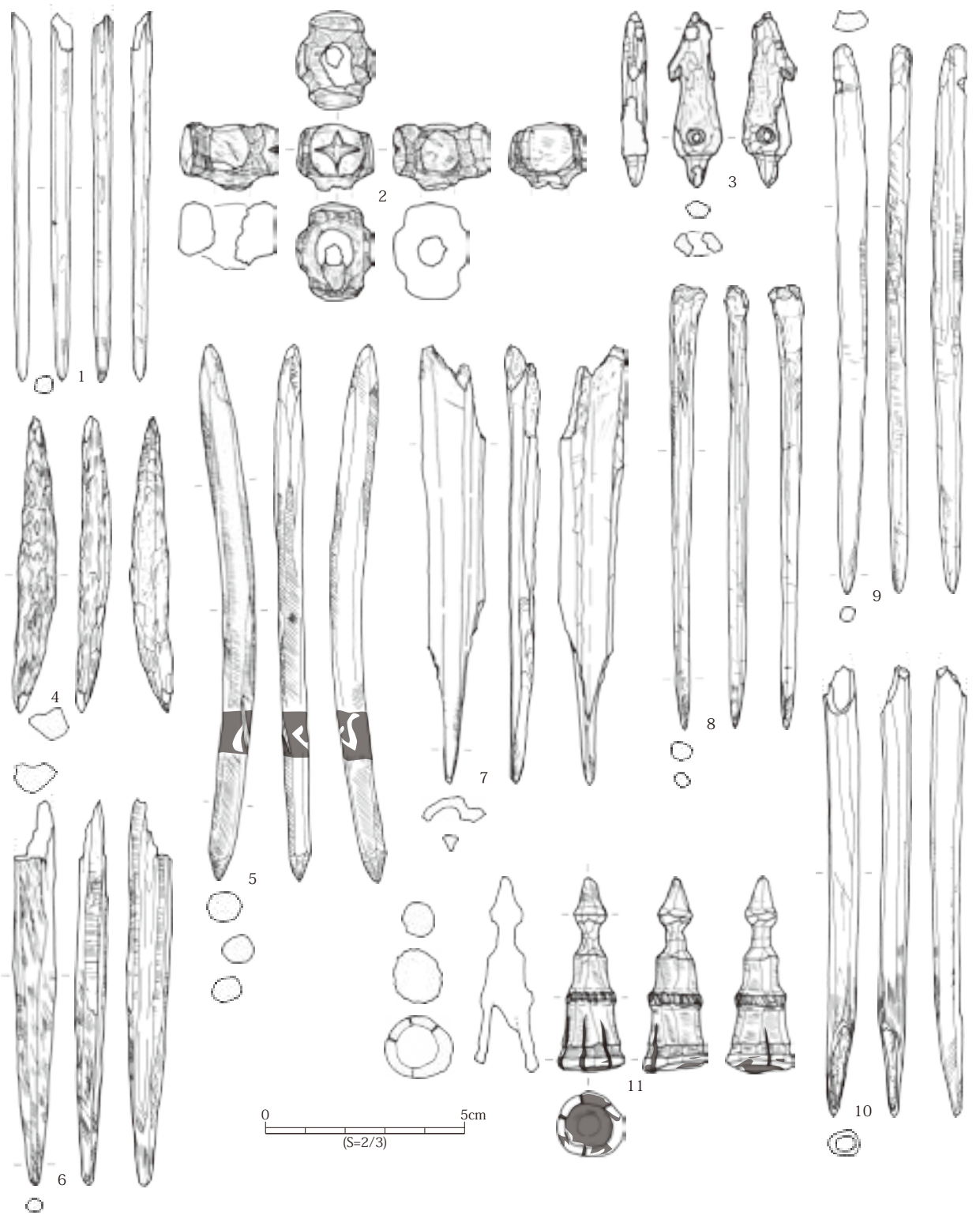
Ⅵc3層からは48点出土し、着柄式刺突具7点（第210図1・2）、刺突具10点（同図3～8）、棒状角製品3点（第211図1・2）、弭2点（同図3・4）、簪5点（第210図9～11）、針状製品1点、猪牙製垂飾4点（第211図10～12）、垂飾3点（同図6・8・9）、管状垂飾2点（同図7）、不明製品3点（同図5・13・14）、加工痕ある骨や角2点、端部に使用痕のある骨1点、製品素材3点がある。第210図9の簪には、中間部から頭部にかけて赤色顔料が付着している。第211図5は、第208図8に類似する形態であり、外湾する側辺基部を柄に固定したものとみられる。縁辺の装飾性の高さから非実用品の可能性がある。第211図9の垂飾は、ヒト頭蓋骨とみられる破片が素材となる。同図10の猪牙製垂飾には、破断面の一部にアスファルト状の黒色物質が付着している。同図13はクジラ類とみられる骨製であり、全体を薄く成形し、片面の端部付近に段が付き、反対側の端部は細く成形される。本遺跡の東に位置する大崎市中沢目貝塚（須藤編　1984）で同様の製品が出土している。

Ⅵc2層からは、鏃1点、着柄式刺突具1点、簪1点、針状製品1点、猪牙製垂飾1点（第211図



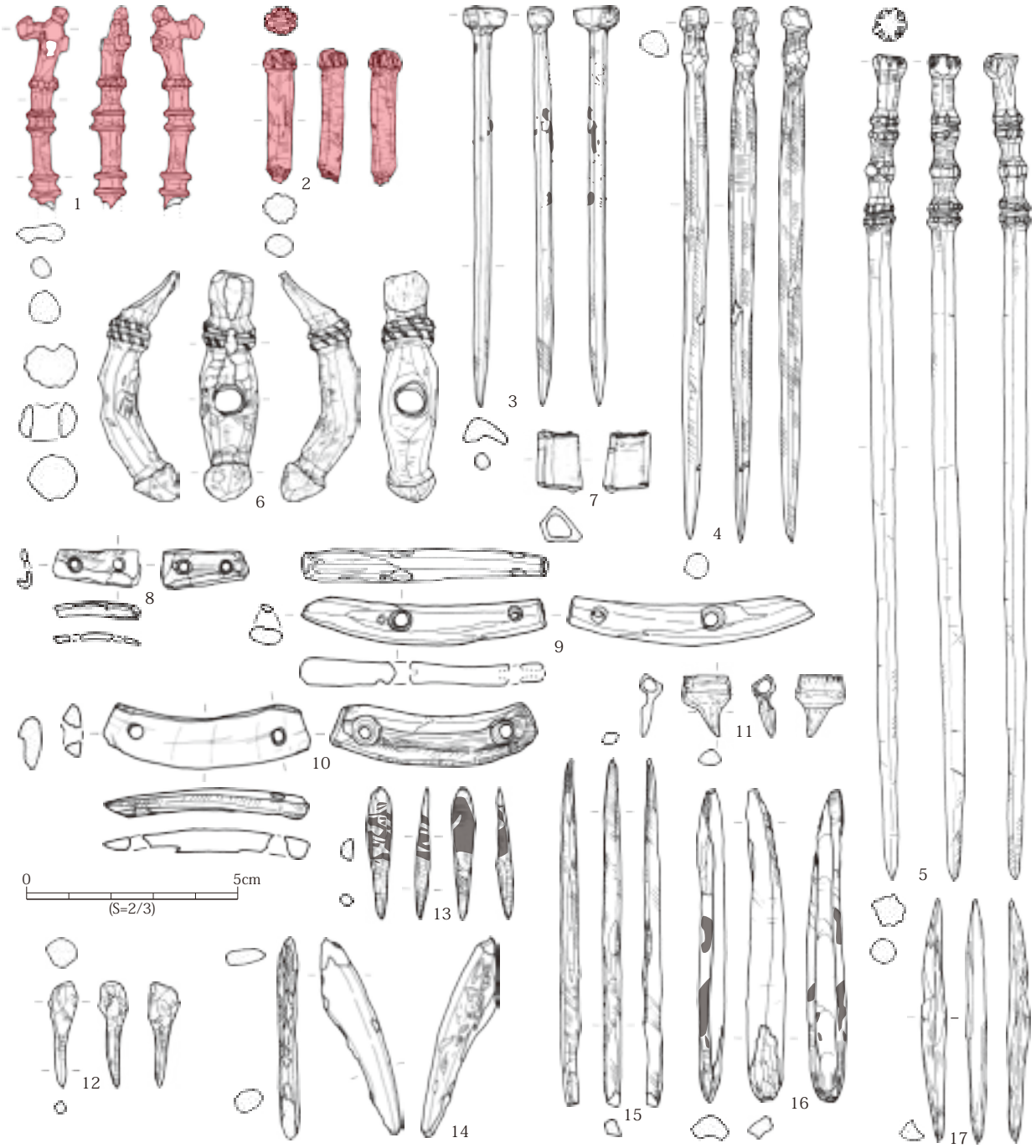
No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残　存	素　材	特　徴	写真図版	登録
1	根挟	-	Ⅵe2	F-23Db / Ⅵe2	43.2	8.1	10.5	2.16	組み合わせ部端部欠	シカ角	組み合わせ部・基部に黒色付着物。基部の付着物に横方向の細かい繊維状の圧痕（紐状の固定具の圧痕）	151-1	B396
2	組み合わせ式ヤス	（逆刺）	Ⅵe2	F-23Db / Ⅵe2	34.3	7.1	7.3	1.20	ほぼ完形	シカ角	基部に黒色付着物微量	151-2	B328
3	着柄式刺突具	B	Ⅵe2	F-23Db / Ⅵe2	103.5	5.4	5.5	3.00	先端・基部欠	大型獣長管骨	直線的に全面加工。基部に黒色付着物	151-3	B331
4	針状製品	-	Ⅵe2	F-23Db / Ⅵe2	90.5	5.2	4.7	2.30	基部欠	シカ中手 / 中足骨か	全体研磨。一部に自然面・削り痕が残る	151-4	B332
5	弭	B	Ⅵe2	F-23Db / Ⅵe2	16.3	18.2	15.6	2.49	完形	シカ角	外面摩滅。括れ部は部分的に摩滅	151-5	B330
6	根挟	-	Ⅵd	F-23D / Ⅵd	44.0	9.5	7.5	1.63	組み合わせ部片側欠	シカ角	組み合わせ部にわずかに黒色付着物	151-6	B313
7	垂飾	D	Ⅵd	F-23Cb / Ⅵd	31.2	31.6	5.9	1.49	一部欠	サメ椎骨	漏斗面を利用。ボタン状のニ個一対の貫通孔→中央部に広径の貫通孔 1	151-7	B004
8	刺突具	A1	Ⅵb2	F-23D / Ⅵb2	115.1	10.3	9.1	7.16	完形	大型獣長管骨	素材分割面を研磨。両面に自然面が残る。全体摩滅	151-8	B052
9	刺突具	A1	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	101.1	13.8	6.1	3.47	完形	シカ尺骨	基部はスパイラル割れで摩滅しており握り部なし。全体摩滅	151-9	B057
10	垂飾	B	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	30.7	18.8	15.6	1.94	一部欠	シカ中節骨Ⅲ / Ⅳ	遠位側、内外位方向に貫通孔 1。研磨痕あり	151-13	B058
11	垂飾	-	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	23.2	11.8	3.2	0.55	完形	イノシシ歯牙（オス・下顎犬歯）	基部に貫通孔 1。全面研磨（エナメル質剥落後も研磨）。基部両側辺に抉り→黒色付着物→貫通孔。鏃の転用	151-12	B053
12	垂飾	C	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	21.6	13.3	5.2	0.65	基部欠	サメ歯（アオザメ類）	基部に貫通孔 1	151-11	B060
13	垂飾	C	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	18.3	19.3	4.4	0.54	一部欠	サメ歯	基部に貫通孔 2。基部の一部に研磨痕。基部側分離	151-10	B061
14	垂飾	E	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	12.9	30.3	3.5	0.72	ほぼ完形	大型獣	両端に貫通孔 2。表面では中央方向、裏面では端部方向に紐擦れ痕。全体を丁寧に研磨	151-14	B054
15	垂飾	B	Ⅵb2	F-23Db / Ⅵb2	23.9	28.0	13.6	2.22	先端部欠	クマ末節骨	近位側、内外位方向に貫通孔 1（再穿孔 1）	151-15	B056

第203図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土骨角牙製品（1）　F-23区C・Dグリッド



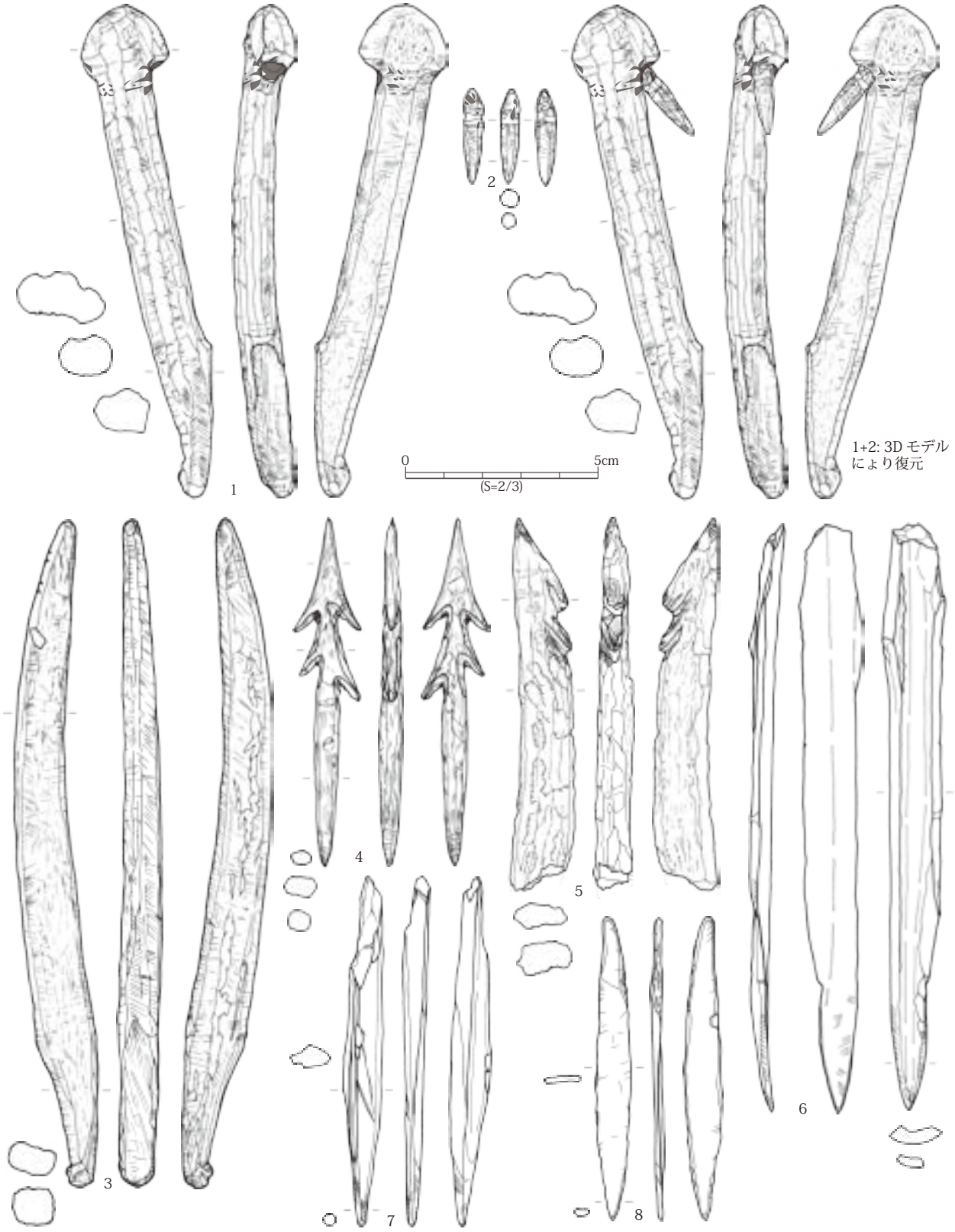
No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	素　材	特　　徴	写真図版	登録
1	針状製品	-	Ⅵe2	F-23Ea / Ⅵe2	91.4	5.3	5.0	2.33	基部欠	大型獣	全体研磨	152-1	B333
2	垂飾	E	Ⅵd	F-23Ea / Ⅵd	16.4	19.0	24.2	4.42	一部欠	シカ角	上下方向に貫通孔 1。側面に彫刻による円盤状の突帯。突帯面に十字状の彫刻	152-2	B317
3	銛頭	A	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	44.0	13.3	6.6	2.21	先端部・逆刺欠	シカ角	茎作出。基部に貫通孔 1。先端部両側辺に逆刺	152-3	B294
4	着柄式刺突具	A	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	73.2	9.2	7.2	3.75	完形	シカ角	先端部と基部を研磨。片面に自然面を大きく残す	152-4	B298
5	着柄式刺突具	A	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	134.4	12.7	7.4	9.44	完形	シカ角	素材形状にあわせて緩やかに湾曲する。基部を円錐状に成形。基部側に幅 13mm の帯状の黒色付着物	152-5	B295
6	着柄式刺突具	A	Ⅵc7	F-23Fa / Ⅵc7	96.2	10.9	6.5	6.27	基部欠	大型獣長管骨	全面を研磨し、やや扁平な棒状に成形。両面に自然面を残す	152-6	B312
7	刺突具	A2	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	109.6	16.7	8.8	7.26	完形か	シカ中足骨 R 前位面	先端部のみ加工、研磨	152-7	B308
8	刺突具	A1	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	111.0	8.6	5.5	2.77	完形	イノシシ腓骨	骨端部未癒合。素材側面を削り、細く成形	152-8	B297
9	刺突具	B	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	136.8	7.5	5.0	6.13	完形	大型獣長管骨	基部側を除いて素材分割面を研磨。全体的に摩滅	152-10	B303
10	刺突具	A1	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	112.3	7.8	6.3	4.50	基部欠	ハクチョウ橈骨 L 中位～遠位側	先端部研磨	152-9	B304
11	弭	A	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	48.8	17.1	16.1	5.27	完形	シカ角先端部	括れと節状の彫刻による装飾的加工。節状の彫刻には刻み付加。内面から基部端面にかけて黒色付着物	152-11	B302

第204図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土骨角牙製品（2）　F-23区E・F・Gグリッド



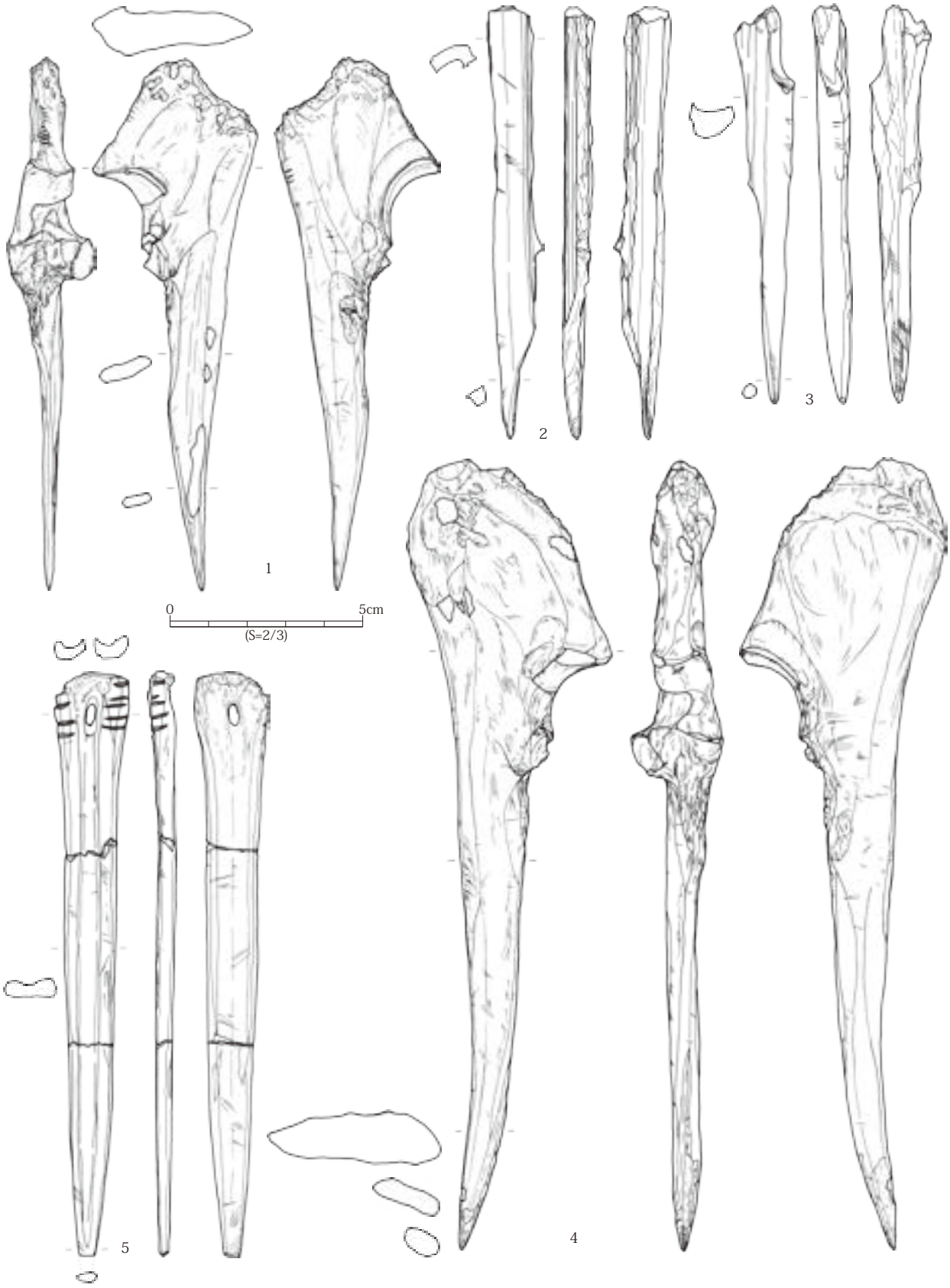
No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	素　材	特　徴	写真図版	登録
1	簪	A	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	47.7	12.3	9.3	2.10	頭部	シカ中手 / 中足骨か	節状の装飾や刻み付加。頭頂部分岐。赤彩。頭頂部に海綿質が残る	152-12	B309
2	簪	A	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	31.8	7.7	6.6	1.51	頭部	大型獣	段による頭部作出。頭頂部に刻み。赤彩。全体が丁寧に研磨されている	152-14	B290
3	簪	B	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	94.7	10.2	5.8	1.78	完形	シカ中手 / 中足骨か	段による頭部作出。全体が丁寧に研磨されている。頭部に骨内面が残る	152-13	B306
4	簪	B	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	126.2	6.9	6.4	4.69	完形	大型獣	頭部に節状の装飾。全体が丁寧に研磨されている	152-15	B296
5	簪	A	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	195.2	10.5	8.3	8.45	完形	シカ中手 / 中足骨か	頭部に節状の装飾。沈線・刻み付加。全体が丁寧に研磨されている	152-16	B301
6	垂飾	E	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	54.3	13.5	18.5	7.18	一部欠	シカ角	節状の彫刻、沈線、刻み付加。貫通孔 1。全体磨き。欠損面に弱い摩滅	152-17	B292
7	管状垂飾	A	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	14.1	11.5	8.0	0.83	完形	鳥類長管骨	両端擦り切り→切断。全面に磨きによる光沢	152-22	B299
8	猪牙製垂飾	B	Ⅵc7	F-23Ea / Ⅵc7	8.9	20.4	3.6	0.44	完形	イノシシ歯牙（オス・下顎犬歯）	貫通孔 2（両側から穿孔）。両孔に端部方向への紐擦れ痕。縁辺磨き。一端に擦り切り痕	152-18	B286
9	猪牙製垂飾	B	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	12.7	58.0	7.3	4.46	完形	イノシシ歯牙（切歯）	貫通孔 2（両面から穿孔）、盲孔 1。基部側の孔内面摩滅	152-20	B293
10	猪牙製垂飾	B	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	14.9	48.9	6.6	3.93	完形	イノシシ歯牙（オス・下顎犬歯）	貫通孔 2（髄腔側から穿孔）。両孔に端部方向への紐擦れ痕。全面が磨きによる光沢顕著	152-19	B305
11	管状垂飾	A	Ⅵc7	F-23Eb / Ⅵc7	14.2	11.4	4.9	0.29	完形	キジ♂足根中足骨 R（蹴爪）	全面に磨きによる光沢	152-21	B289
12	組み合わせ式ヤス	(逆刺)	Ⅵc5	F-23Eb / Ⅵc5	24.8	6.8	6.5	0.58	完形	シカ角	基部肥厚。先端部と基部の境に抉りがあり、側面結着式による逆刺とみられる	152-23	B394
13	銛先	-	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	31.0	3.5	5.3	0.38	完形	シカ角か	着柄面平坦。基部に黒色付着物。組み合わせ式釣針の銛先しまたは、組み合わせ式ヤスの逆刺か	153-1	B263
14	銛先	-	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	46.3	19.6	4.3	1.93	完形	シカ角	着柄面が平坦・平滑。組み合わせ式釣針の銛先または組み合わせ式ヤスの逆刺か	153-2	B419
15	着柄式刺突具	B	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	82.2	4.8	4.2	1.58	完形	大型獣長管骨	素材分割面を研磨。両面に自然面が残る	153-3	B270
16	着柄式刺突具	A	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	73.6	9.2	6.2	3.72	完形	大型獣長管骨	両端研磨。基部摩滅。基部に黒色付着物	153-4	B245
17	着柄式刺突具	B	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	56.8	4.6	4.1	0.99	完形	大型獣長管骨	小型。素材形状を残す	153-5	B261

第205図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土骨角牙製品（3）　F-23区E・F・Gグリッド



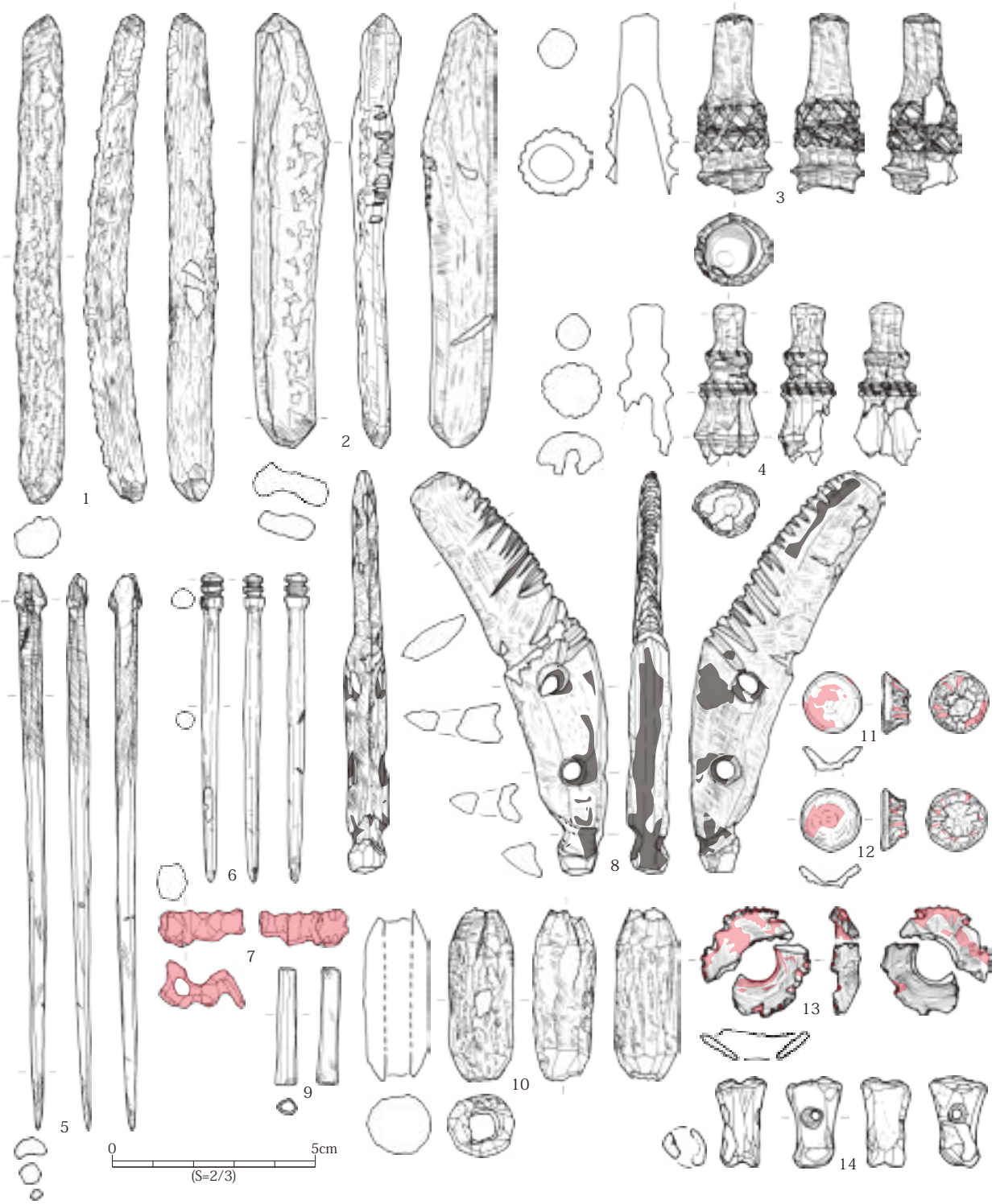
No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	素　材	特　　徴	写真図版	登録
1	組み合わせ式ヤス	B	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	127.3	34.3	16.1	18.34	完形	シカ角	挟み込み式。逆刺別付型。逆刺取付部に黒色付着物。片面に自然面残存	153-6	B271
2	組み合わせ式ヤス	(逆刺)	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	24.5	5.1	4.8	0.61	完形	シカ角	逆刺基部に黒色付着物	153-7	B271
3	組み合わせ式ヤス	C	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	173.0	22.3	11.1	25.60	完形	シカ角	大型。逆刺なし。全体的に加工痕（削り）が明瞭	153-8	B276
4	ヤス	A	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	90.0	17.3	6.0	3.92	完形	シカ角	両側辺に２段の逆刺。先端が尖る。基部に捩じ込んだ痕跡あり	153-10	B259
5	ヤス	B	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	96.8	16.9	10.0	11.69	基部欠	シカ角	大型。素材形状にあわせて湾曲。先端が尖り、外湾する側辺に２段の逆刺。片面に自然面が残る。組み合わせ式の可能性もある	153-9	B284
6	刺突具	A1	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	152.8	16.5	9.1	10.44	完形か	シカ中手骨前位面	先端部のみ加工・摩滅	153-14	B272
7	刺突具	A1	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	89.7	9.8	6.1	4.18	完形	大型獣長管骨	擦り切り痕残る。先端部加工。全体的に摩滅	153-11	B243
8	刺突具	C	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	78.5	9.7	2.9	1.54	完形	大型獣長管骨	薄手の破片の鋭い両端を先端部として利用	153-15	B268

第206図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土骨角牙製品（4）　F-23区E・F・Gグリッド



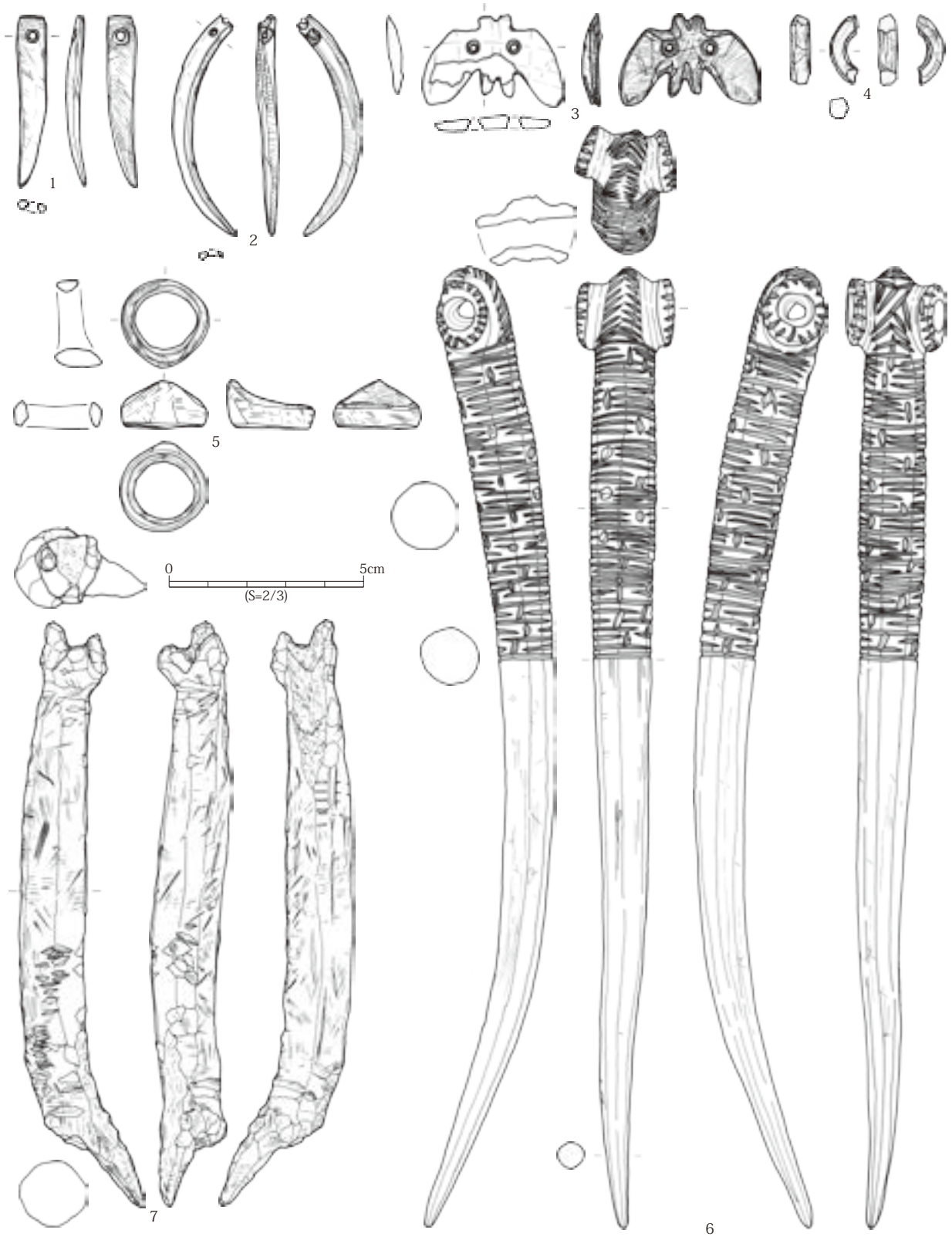
No.	器種	類型	大別層	区・遺構 / 層	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	素　材	特　　徴	写真図版	登録
1	刺突具	A1	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4	137.9	42.4	22.6	18.74	完形	シカ尺骨	握り部端部にイヌが囓った痕跡。刺突部全体摩滅	153-13	B223
2	刺突具	A2	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	111.8	14.5	7.9	7.40	完形か	シカ中足骨前位面	先端部のみ加工・摩滅	153-12	B225
3	刺突具	A1	Ⅵc4	F-23Fa / Ⅵc4-6	102.2	13.6	7.7	6.19	完形か	シカ中手 / 中足骨	先端部のみ加工・摩滅	154-2	B269
4	刺突具	A1	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	205.3	53.1	23.6	37.66	ほぼ完形	シカ尺骨	刺突部全体摩滅	154-1	B233
5	篦	-	Ⅵc4	F-23Eb-Fa / Ⅵc4	151.4	19.2	7.5	10.05	ほぼ完形	シカ中足骨 R 後位面近位	基部に横方向の線刻。全面を研磨し扁平に成形	154-3	B386

第207図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土骨角牙製品（5）　F-23区E・F・Gグリッド



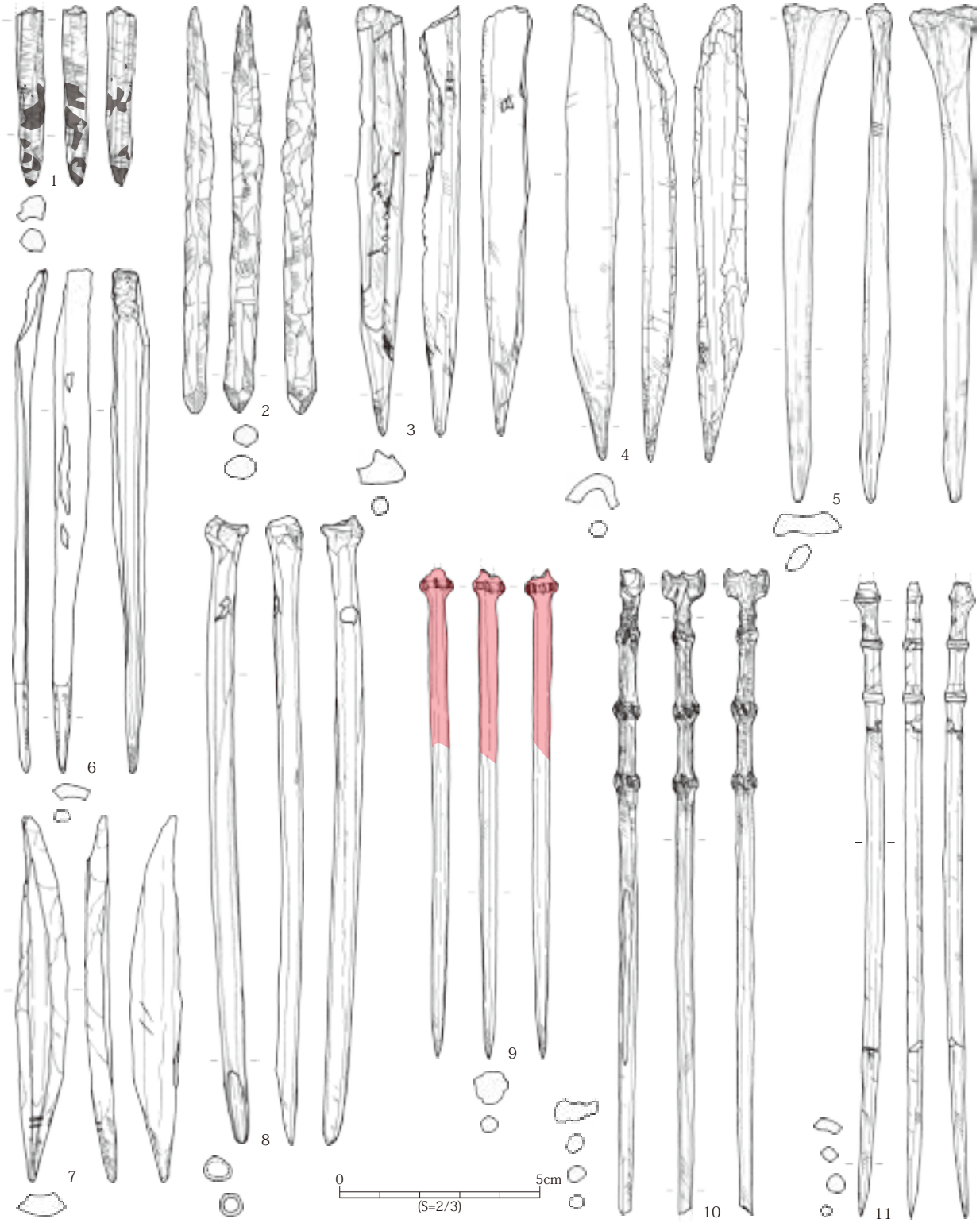
No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	素　材	特　徴	写真図版	登録
1	棒状角製品	-	Ⅵ c4	F-23Eb-Fa / Ⅵ c4	119.7	12.5	14.8	15.41	完形	シカ角	全体に削り痕跡明瞭	154-4	B389
2	棒状角製品	-	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	107.0	18.7	12.0	13.19	完形	シカ角	片面に素材分割面を残す。両端摩滅	154-5	B244
3	弭	A	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	44.2	18.7	17.4	5.26	基部欠	シカ角先端部	括れ・段・格子状沈線による装飾。沈線内に赤色顔料付着	154-6	B274
4	弭	A	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	39.4	15.9	13.6	4.32	基部欠	シカ角先端部	括れ・段・沈線・刻みによる装飾	154-7	B283
5	簪	B	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	136.7	7.6	4.9	2.65	ほぼ完形	シカ中手 / 中足骨か	段による頭部作出。頭部に研磨痕。先端部は丁寧に研磨されている。頭部に髄腔残る	154-8	B277
6	簪	B	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	75.4	5.6	4.8	1.62	完形	大型獣	段により頭部作出、2 条の沈線巡る。全体が丁寧に研磨されている	154-9	B230
7	簪	不明	Ⅵ c4	F-23Fa / Ⅵ c4-6	8.4	20.6	9.8	0.83	頭部	シカ中手 / 中足骨	近位側破片。全面赤彩	155-6	B426
8	不明製品	A	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	98.9	47.6	10.6	13.33	完形	シカ角	全体研磨。片面に髄が残る。外湾する側辺を刃先のように薄く仕上げ、刻みによる装飾を加える。基部に貫通孔 2。着柄面に溝状の彫り込み、黒色付着物	155-8	B226
9	管状垂飾	A	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	28.7	5.5	4.7	0.45	完形	鳥類長管骨	全面磨き	155-2	B229
10	管状垂飾	B	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	42.2	15.9	14.8	7.08	ほぼ完形	シカ角	両端を窄める。中心髄除去→貫通孔 1。全体研磨、角表面残る	155-3	B260
11	垂飾	D	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	13.9	13.9	5.7	0.43	ほぼ完形	サメ椎骨	側面を削り滑車状に成形。全体研磨。赤彩。2 個に分離	154-14	B249
12	垂飾	D	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	14.7	14.3	6.4	0.40	ほぼ完形	サメ椎骨	側面を削り滑車状に成形。全体研磨。赤彩。2 個に分離	154-15	B249
13	垂飾	D	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	26.8	26.4	7.2	0.84	一部欠	サメ椎骨	漏斗面を利用。周縁に彫刻。全面研磨。赤彩。2 個に分離	155-1	B248
14	垂飾	B	Ⅵ c4	F-23Eb / Ⅵ c4-6	21.8	13.6	11.7	1.53	完形	シカ中節骨Ⅱ /Ⅴ	中央部に内外位方向の貫通孔 1。近位骨端未癒合で欠	154-13	B254

第208図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土骨角牙製品（6）　F-23区E・F・Gグリッド



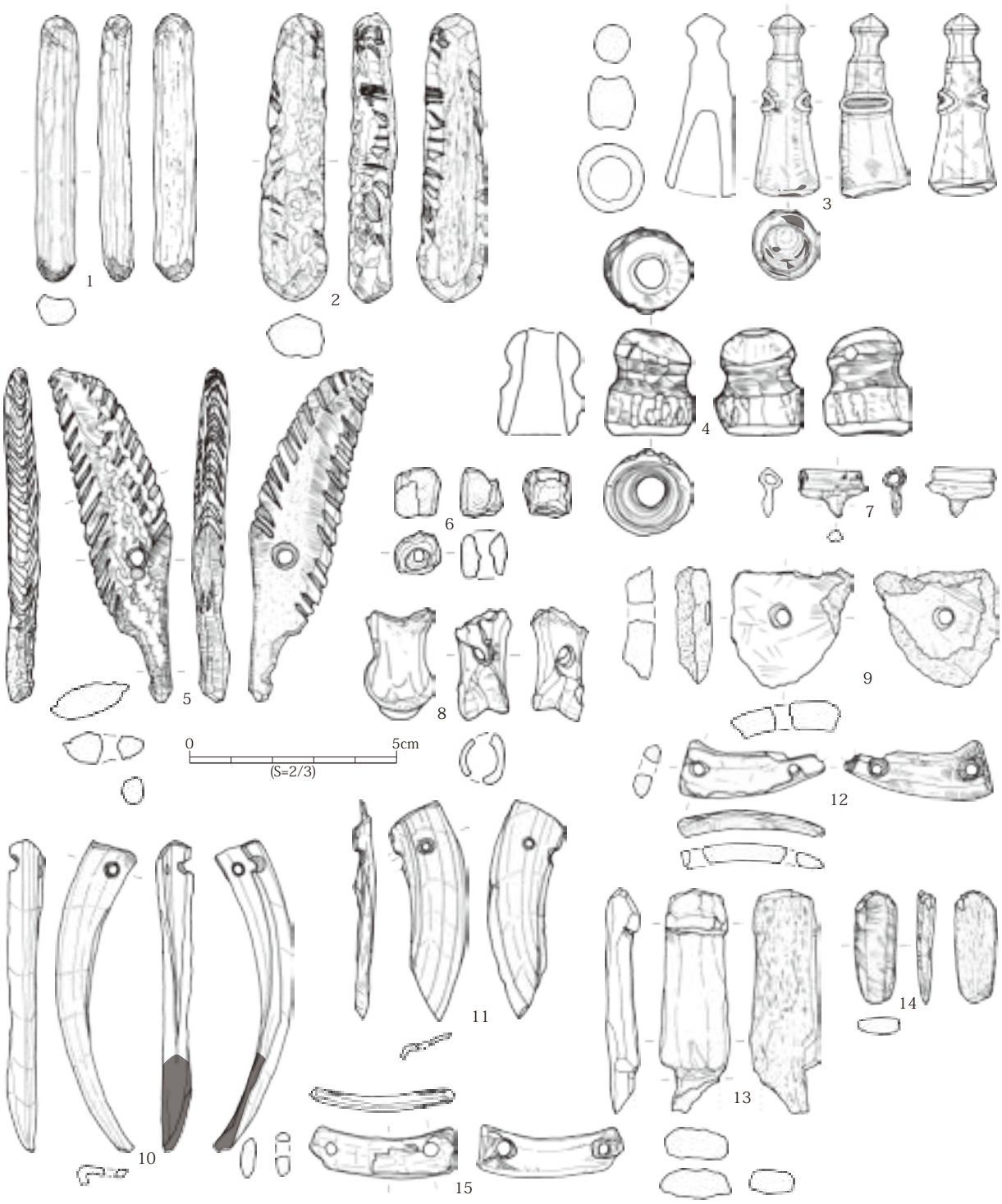
No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	長（mm）	幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）	残存	素　材	特　徴	写真図版	登録
1	猪牙製垂飾	A	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	43.3	7.3	4.9	1.01	完形	イノシシ歯牙（オス・下顎犬歯）	基部に両面から穿孔した貫通孔 1。縁辺は磨きによる光沢。髄腔側に研磨痕が残る	154-10	B420
2	猪牙製垂飾	A	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-7	56.5	15.7	4.8	1.28	基部欠	イノシシ歯牙（オス・下顎犬歯）	基部に髄腔側から穿孔した貫通孔 2。縁辺・髄腔側を研磨。研磨痕が残る	154-11	B285
3	猪牙製垂飾	C	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	23.3	36.1	4.4	2.44	完形	イノシシ歯牙（オス・下顎犬歯）	髄腔側から穿孔した貫通孔 2。縁辺・髄腔側を研磨。研磨痕が残る	154-12	B227
4	環状製品	-	Ⅵc4	F-23Eb-Fa / Ⅵc4	17.8	6.9	4.9	0.61	一部欠	イノシシ歯牙（オス犬歯）	内面摩滅	155-4	B382
5	環状製品	-	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	11.9	22.2	22.2	2.21	完形	シカ角	輪切りにして髄を削り取り、環状に成形。山形突起あり。外面磨き。内面に研磨痕が残る。指輪か	155-5	B236
6	儀仗	-	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	246.7	25.3	32.2	43.69	完形	シカ角	基部に左右対称の円盤状突帯（端部刻み）+ 貫通孔 1。基部端部に綾杉文、基部から中間部にかけて入組工字文の彫刻	155-7	B237
7	不明製品	C	Ⅵc4	F-23Eb / Ⅵc4-6	150.3	33.3	20.1	27.87	完形	シカ角	粗い研磨。基部に突起作出（イヌ？の頭部を模したものか）	155-9	B231

第209図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土骨角牙製品（7）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	長（mm）	幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）	残存	素　材	特　　徴	写真図版	登録
1	着柄式刺突具	A	Ⅵc3	F-23Fb / Ⅵc3	45.0	7.4	6.3	2.18	基部	シカ中手 / 中足骨か	基部に黒色付着物。一部に自然面が残る	155-10	B222
2	着柄式刺突具	A	Ⅵc3	F-23Fa / Ⅵc3	101.7	9.4	7.1	4.81	完形	シカ角	片面に自然面が残る	155-11	B217
3	刺突具	A1	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	106.7	12.2	10.0	10.67	完形	大型獣長管骨	先端部を加工。全体的に摩滅	155-12	B411
4	刺突具	A1	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	113.1	13.4	11.7	8.83	完形か	シカ中手 / 中足骨	先端部のみ研磨	155-13	B198
5	刺突具	A1	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	123.5	16.7	6.8	5.40	完形	イノシシ腓骨	骨端部未癒合	155-14	B375
6	刺突具	A1	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	125.3	9.3	7.7	4.00	完形か	大型獣長管骨	先端部のみ加工・摩滅	156-2	B199
7	刺突具	C	Ⅵc3	F-23Fa / Ⅵc3	90.7	12.4	5.7	4.85	完形か	大型獣長管骨	先端部摩滅	156-3	B210
8	刺突具	A1	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	156.5	10.4	9.0	4.40	完形	ハクチョウ橈骨 R	先端部研磨	156-1	B200
9	簪	A	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	25.7	21.0	20.8	3.13	頭部欠	大型獣	節状の装飾に刻み付加。全体が丁寧に研磨されている。頭部赤彩	156-4	B201
10	簪	A	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	160.7	10.7	7.3	4.70	先端部欠	大型獣長管骨	節状の装飾に刻み付加。頭頂部は幅広で海綿質・髄腔が残る。全体が丁寧に研磨されている	156-5	B203
11	簪	A	Ⅵc3	F-23Fa / Ⅵc3	158.6	7.7	5.1	3.24	頭部欠	大型獣長管骨	節状の装飾。頭頂部に髄腔が残る。全体が丁寧に研磨されている	156-6	B213

第210図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土骨角牙製品（8）　F-23区E・F・Gグリッド

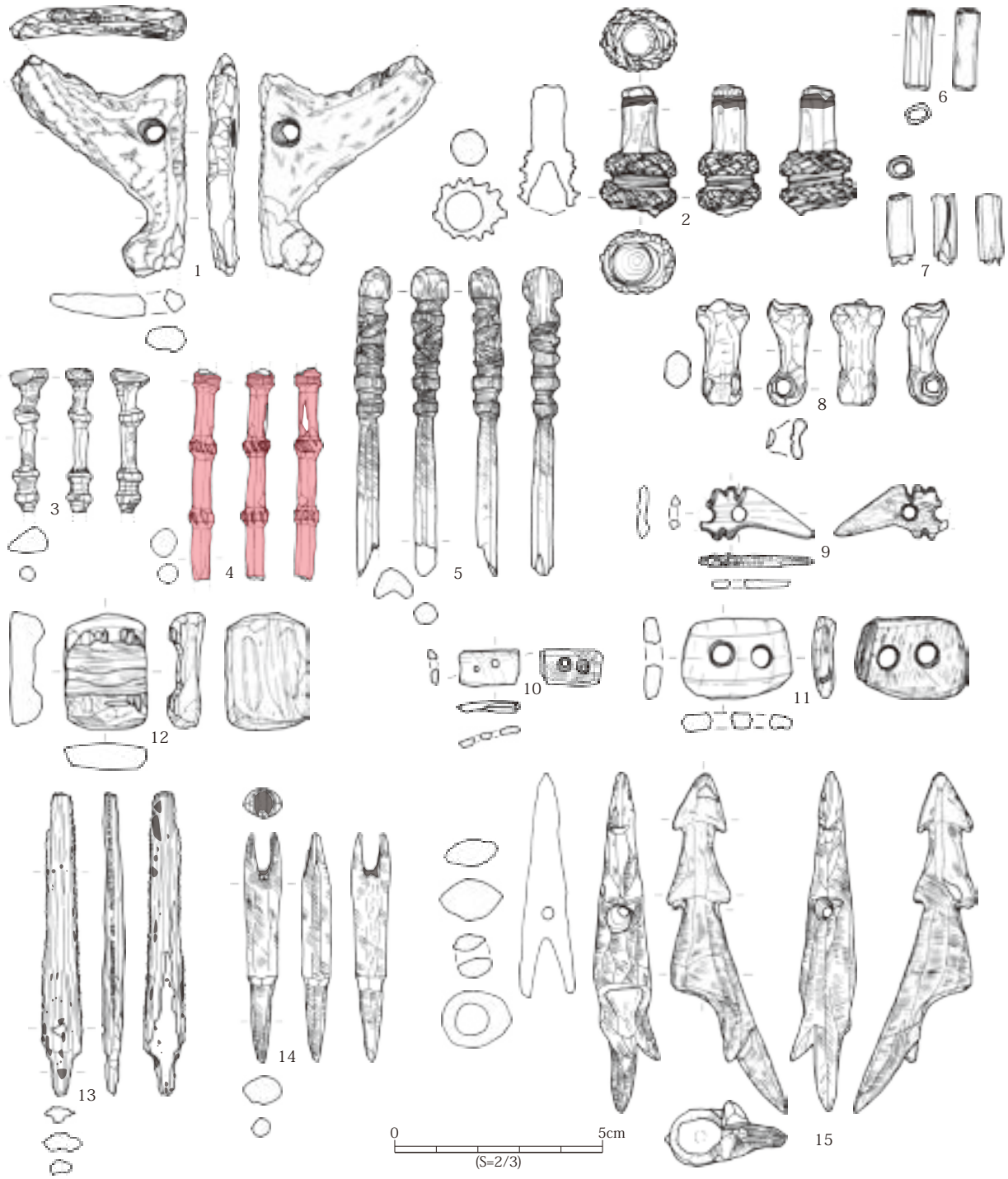


No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	長（mm）	幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）	残存	素　材	特　徴	写真図版	登録
1	棒状角製品	-	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	64.1	9.8	7.9	6.20	完形	シカ角	全体研磨。体部に比べ両端部の摩滅弱い	156-7	B192
2	棒状角製品	-	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	68.1	16.1	10.3	10.81	完形	シカ角	自然面が残る。両端部やや摩滅	156-8	B197
3	弭	A	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	44.3	15.8	16.7	6.38	完形	シカ角先端部	括れ・段・彫刻的な装飾による加工。基部外面から内面にかけて黒色付着物	156-10	B202
4	弭	B	Ⅵc3	F-23Fa / Ⅵc3	25.7	21.0	20.8	7.87	完形	シカ角	外面に自然面が残る。外面摩滅	156-9	B212
5	不明製品	A	Ⅵc3	F-23Fa / Ⅵc3	80.2	29.6	8.4	9.97	完形	シカ角	全体を研磨し、縁辺を刃先のように薄く仕上げ、刻みによる装飾を加える。両面に自然面・髄が残る。基部に貫通孔 1。着柄面平坦	156-20	B216
6	垂飾	E	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	11.4	10.8	9.6	1.17	一部欠	巻貝の軸か	上下方向の貫通孔 1	156-14	B334
7	管状垂飾	A	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	11.6	16.5	52.3	0.33	完形	キジ♂足根中足骨 R（蹴爪）	両端擦り切り→切断	156-17	B378
8	垂飾	B	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	26.5	16.8	13.5	2.30	一部欠	シカ中節骨Ⅲ / Ⅳ	中央部に前後位方向の貫通孔 1。近位骨端未癒合で欠	156-15	B191
9	垂飾	E	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	28.3	29.6	8.5	3.35	完形	ヒト頭蓋骨	貫通孔 1	156-16	B194
10	猪牙製垂飾	B	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	74.9	18.9	8.7	4.65	一部欠	イノシシ歯牙（オス・下顎犬歯）	歯舌側～頬側有している。端部に貫通孔 1（両面から穿孔）。縁辺磨き。破断面の一部に黒色付着物	156-12	B190
11	猪牙製垂飾	B	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	52.4	18.5	4.6	2.26	一部欠	イノシシ歯牙（オス・下顎犬歯）	片側に貫通孔 2（エナメル質側から穿孔）。歯舌側～頬側有していたとみられる。縁辺磨き	156-11	B196
12	猪牙製垂飾	B	Ⅵc3	F-23Fa / Ⅵc3	14.4	35.6	6.3	1.98	一部欠	イノシシ歯牙（オス・下顎犬歯）	貫通孔 2（髄腔側から穿孔）。両孔に端部方向の紐擦れ痕顕著。一端に欠損した孔・擦り切り痕あり（再加工）。全面磨き	156-13	B205
13	不明製品	C	Ⅵc3	F-23Eb / Ⅵc3	54.1	17.0	7.8	5.51	一部欠	クジラ類か	いわゆる琴柱状製品か。段により頭部・基部を作出	156-18	B193
14	不明製品	C	Ⅵc3	F-23Fa / Ⅵc3	26.5	10.1	3.8	1.03	先端部	シカ角	端部円形・扁平。全体研磨	156-19	B208
15	猪牙製垂飾	B	Ⅵc2	F-23Fa / Ⅵc2・3	12.2	35.1	5.1	1.62	完形	イノシシ歯牙（オス・下顎犬歯）	貫通孔 2（髄腔側から穿孔。両孔に端部方向の紐擦れ痕顕著。全面磨き、光沢顕著	156-21	B188

第211図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土骨角牙製品（9）　F-23区E・F・Gグリッド

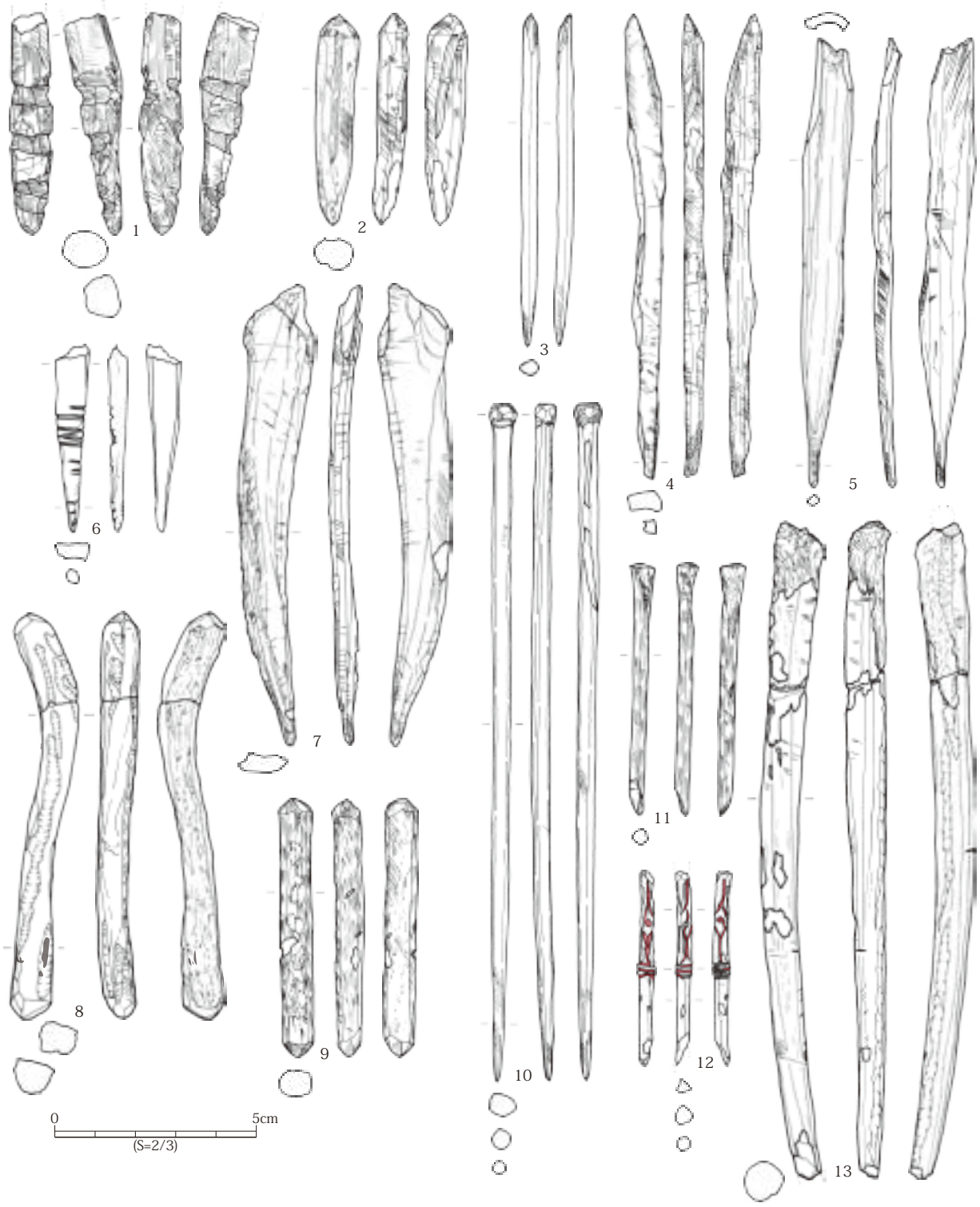
No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	素　材	特　　徴	写真図版	登録
1	組み合わせ式ヤス	C	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	98.7	27.7	9.3	11.68	完形	シカ角	逆刺なし。片面に自然面が残る。着柄面は平坦平滑に加工、一部縦方向の窪み	157-1	B159
2	ヤス	A	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	47.0	7.2	5.4	1.41	完形	大型獣	両側辺に 4 段の逆刺。基部に横方向の溝	157-2	B144
3	着柄式刺突具	A	Ⅵc1	F-23Fb / Ⅵc1	47.6	10.4	5.3	2.70	基部	シカ中手 / 中足骨か	基部に黒色付着物。素材形状を残す	157-3	B409
4	着柄式刺突具	B	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	47.1	4.7	4.6	0.95	先端部欠	大型獣	小型	157-4	B153
5	着柄式刺突具	B	Ⅵc1	F-23Fb / Ⅵc1	82.5	4.9	4.8	1.92	完形	大型獣	全体研磨または摩滅	157-5	B173
6	刺突具	A1	Ⅵc1	F-23Fb / Ⅵc1	138.0	21.0	15.0	11.19	基部欠	シカ中足骨 R 後位面近位	先端部を加工。素材面を大きく残す	157-8	B170
7	刺突具	A1	Ⅵc	F-23E / Ⅵc	92.5	32.2	20.1	8.02	完形	シカ尺骨	上端は骨端部未癒合。刺突部全体摩滅。刺突部は使用に等より短くなっている	157-7	B132
8	刺突具	A1	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	69.5	14.6	14.1	3.93	基部欠	シカ尺骨	刺突部全体摩滅。刺突部は使用等により短くなっている	157-6	B140
9	刺突具	A1	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	106.3	16.4	10.4	9.26	完形	シカ中手骨 R 後位面近位	先端部を加工。素材面を大きく残す	157-10	B158
10	刺突具	A1	Ⅵc1	F-23Ga / Ⅵc1	121.4	9.9	8.8	7.29	完形	大型獣長管骨	先端部を加工。全体摩滅	157-9	B179
11	棒状角製品	-	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	99.8	12.0	7.9	8.51	完形	シカ角	片側に擦り切り面を残す。両端部周辺研磨・摩滅	157-11	B155

第212図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土骨角牙製品（10）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	長（mm）	幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）	残存	素　材	特　　徴	写真図版	登録
1	不明製品	B	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	52.9	41.9	7.4	8.17	一部欠	シカ角（分岐部）	研磨により板状に成形。自然面が残る。貫通孔 1。縁辺の一部に刻み。全体やや摩滅	158-1	B137
2	弭	A	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	31.2	18.1	14.8	2.94	基部欠	シカ角先端部	括れ・段・松毬状彫刻による装飾。先端部に溝状の彫刻、その周囲に黒色付着物。巻き付いていた紐付着か	157-15	B160
3	簪	A	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1	34.1	9.4	6.7	0.96	頭部	大型獣	節状の装飾。全体が丁寧に研磨されている	157-12	B368
4	簪	A	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	50.7	7.0	6.8	1.37	頭部	大型獣	節状の装飾に沈線・刻み付加。赤彩	157-13	B164
5	簪	A	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	74.0	8.9	7.9		頭部	シカ中手 / 中足骨か	頭部に装飾的彫刻。全体が丁寧に研磨され、光沢顕著	157-14	B146
6	管状垂飾	A	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	18.9	6.4	5.4	0.64	完形	鳥獣類長管骨	端部研磨	157-20	B139
7	管状垂飾	A	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	17.2	6.1	5.4	0.48	一部欠	鳥類長管骨	内側に別の管状製品があり、入れ子状になっている。全面磨き	157-21	B142
8	垂飾	B	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	24.9	10.4	12.3	1.69	完形	クマ中節骨	遠位側、内外位方向に貫通孔 1。表面摩滅、光沢	157-19	B358
9	猪牙製垂飾	C	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	13.0	27.3	2.7	0.68	一部欠	イノシシ歯牙（オス・下顎犬歯）	貫通孔 2（両面から穿孔）。上下端に刻み。全面磨き、一部研磨痕が残る	157-16	B138
10	猪牙製垂飾	C	Ⅵc1	F-23Fb / Ⅵc1	8.9	14.9	2.8	0.37	完形	イノシシ歯牙（オス・下顎犬歯）	貫通孔 2（髄腔側から穿孔）。両端に擦り切り痕、髄腔側に研磨痕が残る	157-17	B174
11	猪牙製垂飾	B	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	19.4	26.8	4.9	2.93	完形	イノシシ歯牙（オス・下顎犬歯）	貫通孔 2（両面から穿孔）。両孔に端部方向の紐擦れ痕あり。全面磨き、光沢顕著。髄腔側に研磨痕・擦り切り痕	157-18	B136
12	不明製品	C	Ⅵc1	F-23Fa / Ⅵc1・2	27.2	19.4	7.6	4.75	完形	シカ角	板状。中央に樋状の段差	157-22	B147
13	鏃	-	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	72.6	9.8	5.1	2.34	先端部欠	エイ尾棘	基部のみ加工。基部側面に黒色付着物。ビビアナイト付着	158-2	B116
14	根挟	-	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	55.0	9.2	6.9	2.79	完形	シカ角	組み合わせ部に黒色付着物。基部にわずかに黒色付着物か	158-3	B086
15	銛頭	B	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	81.5	29.0	15.5	7.46	完形	シカ角先端部	閉窩式・有孔型。先端部両側に 2 段の逆刺。体部に横方向の貫通孔 1。逆刺部に尖頭部 2 箇所（元は 3 箇所か）	158-4	B080

第213図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土骨角牙製品（11）　F-23区E・F・Gグリッド

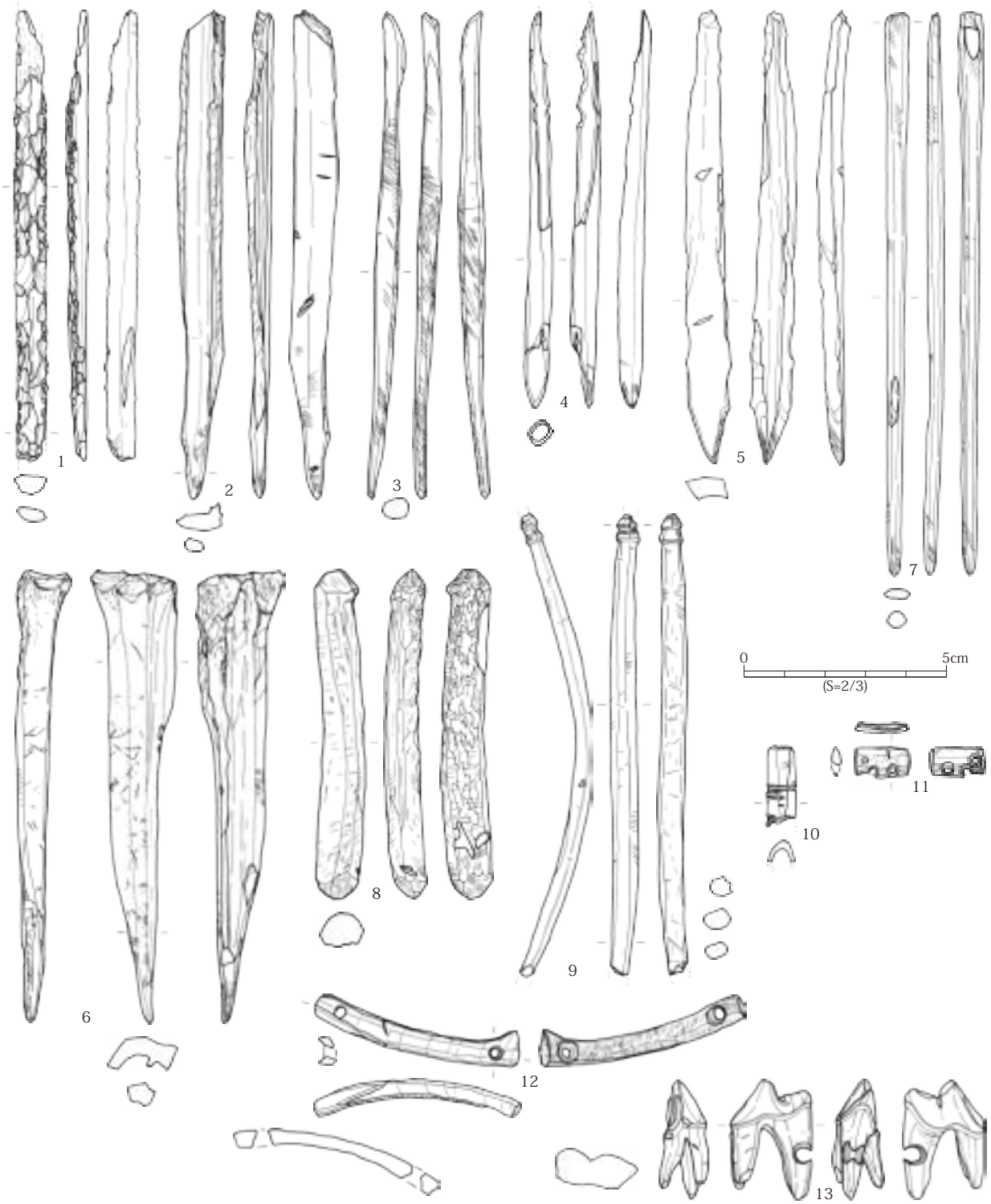


No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	素　材	特　　徴	写真図版	登録
1	組み合わせ式ヤス	不明	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	54.9	14.0	10.3	4.75	基部	シカ角	基部に溝３条。着柄面平坦	158-5	B073
2	着柄式刺突具	A	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	51.2	9.9	7.4	3.65	完形	大型獣		158-6	B110
3	着柄式刺突具	B	Ⅵb2	F-23Ga / Ⅵb2	82.0	4.0	4.0	1.59	完形	大型獣	全体研磨	158-7	B121
4	刺突具	A1	Ⅵb2	F-23E / Ⅵb2	114.7	9.8	5.8	4.94	ほぼ完形	大型獣長管骨	両端を加工	158-8	B065
5	刺突具	A2	Ⅵb2	F-23Ga / Ⅵb2	110.2	10.7	4.4	3.43	基部欠か	シカ中手 / 中足骨	先端部を加工。全体摩滅	158-9	B120
6	刺突具	A1	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	46.8	8.4	4.5	1.31	先端部	大型獣長管骨	先端部のみ研磨。横方向に多条の切れ込み	158-11	B404
7	刺突具	A1	Ⅵb2	F-23Gb / Ⅵb2	113.9	18.4	7.6	6.56	基部欠	シカ尺骨	基部にスパイラル割れ（握り部がもとからなかったか）。全体摩滅	158-10	B130
8	棒状角製品	-	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	100.5	16.7	9.6	6.76	完形	シカ角	素材湾曲。両端部のみ研磨、摩滅。素材分割面が大きく残る	158-13	B088
9	棒状角製品	-	Ⅵb2	F-23Ga / Ⅵb2	63.2	7.9	6.9	3.11	完形	シカ角	全体研磨。体部に比べ両端部の摩滅が弱い	158-12	B122
10	簪	B	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	167.7	6.7	6.0	5.18	完形	大型獣	段により頭部を作出。全体が丁寧に研磨されている	158-14	B092
11	簪	C	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	61.8	6.4	5.1	1.22	完形	大型獣長管骨	先端部欠損後研磨。頭部がやや膨らみ、頭頂部は平坦。一部に自然面が残る	158-15	B115
12	簪	A	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	48.1	4.4	4.2	0.69	頭部	大型獣	頭部に節状の装飾。頭部を断面三角形に成形し、各面に玉抱き三叉文の彫刻。赤彩	158-16	B091
13	儀仗	-	Ⅵb2	F-23E / Ⅵb2	162.4	15.6	10.7	15.02	両端欠	大型獣長管骨	研磨により棒状に成形。片面に髄腔・海綿質が残る。太い端部に貫通孔と突帯の痕跡あり	159-1	B064

第214図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土骨角牙製品（12）　F-23区E・F・Gグリッド

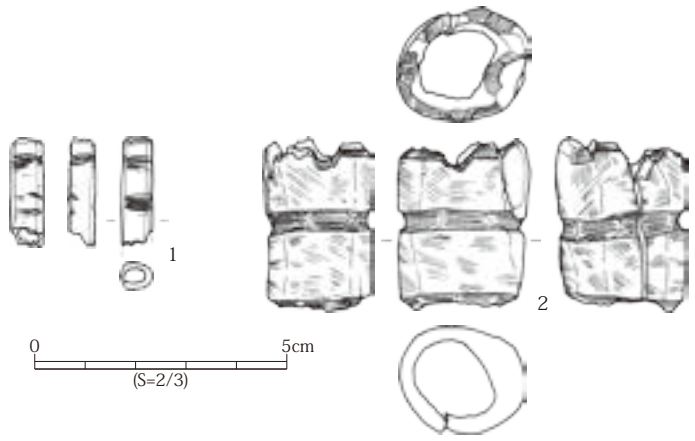
No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	素　材	特　徴	写真図版	登録
1	不明製品	C	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	25.9	16.2	7.8	1.73	破片	シカ角	彫刻あり	159-3	B082
2	不明製品	B	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	57.8	46.9	6.6	10.01	完形	シカ角（分岐部）	研磨により板状に成形。自然面が残る。貫通孔 3。内湾する縁辺に刻み。全体やや摩滅	159-2	B087
3	管状垂飾	A	Ⅵb2	F-23Ga / Ⅵb2	22.0	5.6	4.9	0.26	ほぼ完形	鳥類長管骨	2 面に連続する横方向の刻み。全面磨き→光沢	158-22	B366
4	管状垂飾	A	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	31.5	5.6	4.8	0.50	完形	鳥類長管骨	2 面に連続する横方向の刻み。全面磨き→光沢顕著	158-23	B406
5	管状垂飾	A	Ⅵb2	F-23Fa / Ⅵb2	32.2	13.0	11.0	2.52	完形	ハクチョウ上腕骨	両端擦り切り→切断。ほかに擦り切り痕あり	158-24	B117
6	管状垂飾	A	Ⅵb2	F-23Eb / Ⅵb2	17.3	6.2	5.1	0.36	完形	鳥類長管骨	全体磨き→光沢	158-25	B083
7	垂飾	E	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	10.1	22.6	3.8	0.40	破片	大型獣長管骨	貫通孔 2。沈線・刻みによる装飾。裏面に髄腔が残る	158-20	B068
8	垂飾	E	Ⅵb2	F-23Ga / Ⅵb2	15.6	16.6	4.4	0.70	一部欠	シカ角	貫通孔 1（両面から穿孔）、盲孔 2。全体が丁寧に研磨されている	158-21	B125
9	猪牙製垂飾	B	Ⅵb2	F-23Ga / Ⅵb2	13.5	23.9	2.7	0.71	完形	イノシシ歯牙（オス・下顎犬歯）	貫通孔 2（両側から穿孔）。縁辺磨き、研磨痕が残る。一端に擦り切り痕	158-18	B124
10	猪牙製垂飾	B	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	17.1	29.7	5.6	1.54	一部欠	イノシシ歯牙（オス・下顎犬歯）	貫通孔 2（両面から穿孔）。縁辺磨き、研磨痕が残る	158-19	B067
11	猪牙製垂飾	C	Ⅵb2	F-23Ea / Ⅵb2	11.7	17.7	2.3	0.24	一部欠	イノシシ歯牙（オス・下顎犬歯）か	エナメル質剥落か。貫通孔 2。全面磨き	158-17	B069
12	簪	B	Ⅵb1	F-23Eb-Fa / Ⅵb1	46.9	5.5	5.5	1.29	先端部欠	大型獣長管骨	段による頭部作出。全体が丁寧に研磨されている	159-4	B034
13	針状製品	-	Ⅵb1	F-23Fb / Ⅵb1	124.4	3.3	3.3	1.55	頭部欠	大型獣	全体が丁寧に研磨されているが、一部に研磨痕が残る。先端部に 3 条の横方向の切れ込み	159-5	B040
14	針状製品	-	Ⅵb1	F-23Fb / Ⅵb1	115.0	5.0	4.2	2.66	頭部欠	大型獣長管骨	全体が丁寧に研磨され、光沢顕著。栄養孔あり	159-6	B038
15	棒状角製品	-	Ⅵb1	F-23Ga / Ⅵb1	104.1	11.9	19.1	10.15	完形	シカ角	素材により強く湾曲している。全体に削り痕跡明瞭。両端部摩滅。付着物は埋没後のものか	159-7	B047
16	猪牙製垂飾	C	Ⅵb1	F-23Ga / Ⅵb1	12.8	37.2	6.1	1.62	完形	イノシシ歯牙（オス・下顎犬歯）	貫通孔 8（髄腔側から穿孔）。エナメル質側から研磨による仕上げ。髄腔側に研磨痕が残る。縁辺磨き	159-8	B043
17	銛頭	C	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	53.6	8.1	4.8	1.55	一部欠	シカ角	二又の逆刺。基部の両側辺に抉り（索綱固定）	159-11	B397
18	鏃	-	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	47.7	5.6	4.6	0.99	完形	大型獣長管骨	基部に黒色付着物。自然面が残る	159-9	B017
19	鏃	-	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	56.8	9.1	4.6	1.83	完形	シカ中足骨か	基部に黒色付着物。片面に自然面が残る	159-10	B398
20	組み合わせ式ヤス	A	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	70.8	22.3	8.7	4.77	完形	シカ角	外湾する縁辺先端部に逆刺。着柄部外面に横方向の溝	159-12	B015

第215図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土骨角牙製品（13）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	素　材	特　徴	写真図版	登録
1	着柄式刺突具	B	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	110.6	8.4	5.2	4.32	両端欠	シカ中手 / 中足骨か	素材分割面に剥離を加えて細長い棒状に成形。簪等の未成品か	159-13	B014
2	刺突具	A1	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	119.5	10.9	6.0	7.05	完形	大型獣長管骨	先端部を加工。全体に摩滅光沢	159-17	B011
3	刺突具	B	Ⅵa	F-23Fb / Ⅵa	119.1	5.7	4.7	2.87	完形	大型獣長管骨	針状。素材分割面を研磨して先端部を棒状に成形。全体摩滅	159-16	B025
4	刺突具	A1	Ⅵa	F-23Fb / Ⅵa	97.1	6.2	6.2	1.87	基部欠	鳥類長管骨	先端部研磨	159-15	B023
5	刺突具	C	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	111.1	10.4	4.6	5.21	完形か	大型獣長管骨	先端部やや摩滅	159-14	B401
6	刺突具	A1	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	111.2	21.3	13.3	11.21	完形	シカ中足骨 R 前位面近位	先端部を加工、素材面が大きく残る。全体に摩滅光沢	159-18	B030
7	簪	C	Ⅵa	F-23Fb / Ⅵa	138.1	5.9	4.5	3.39	完形	大型獣	頭部扁平	160-1	B021
8	棒状角製品	-	Ⅵa	F-23Ga / Ⅵa	80.4	11.3	8.5	7.28	完形	シカ角	全体研磨	160-2	B033
9	儀仗	-	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	113.7	7.1	17.9	3.99	両端欠	シカ角	素材により湾曲。頭部に段による装飾。全体が丁寧に研磨されている	160-7	B005
10	管状垂飾	A	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	19.2	6.6	4.7	0.37	一端欠	鳥類長管骨	沈線による装飾	160-6	B399
11	猪牙製垂飾	C	Ⅵa	F-23Fb / Ⅵa	7.3	13.2	2.1	0.25	一部欠	イノシシ歯牙（オス・下顎犬歯）か	貫通孔 3（髄腔側から穿孔）。全面磨き	160-4	B364
12	猪牙製垂飾	B	Ⅵa	F-23F / Ⅵa	12.0	51.9	9.2	2.38	完形	イノシシ歯牙（オス・下顎犬歯）	貫通孔 2（両面から穿孔）。髄腔面・縁辺に研磨痕が残る	160-3	B016
13	垂飾	A	Ⅵa	F-23G / Ⅵa	29.3	20.2	12.0	3.03	ほぼ完形	オオカミ右上顎第 4 前臼歯	歯根に貫通孔 1	160-5	B027

第216図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土骨角牙製品（14）　F-23区E・F・Gグリッド



No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	素　材	特　　徴	写真図版	登録
1	管状垂飾	A	Ⅴc	F-23G / Ⅴc	21.4	6.3	5.1	0.36	一端欠	鳥獣類長管骨	横方向の刻み	160-8	B002
2	管状垂飾	B	Ⅴc	F-23G / Ⅴc	34.3	26.0	22.2	10.32	一部欠	大型獣長管骨	両端擦り切り→切断。中央に沈線。一端に抉り 5 箇所	160-9	B003

第217図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土骨角牙製品（15）　F-23区E・F・Gグリッド

15）が出土している。

Ⅵc1 層（Ⅵc 層を含む）からは 60 点出土し、ヤス 1 点（第 212 図 2）、組み合わせ式ヤス 1 点（同図 1）、着柄式刺突具 6 点（同図 3 ～ 5）、刺突具 9 点（同図 6 ～ 10）、棒状角製品 3 点（同図 11）、弭 3 点（第 213 図 2）、簪 5 点（同図 3 ～ 5）、針状製品 4 点、猪牙製垂飾 3 点（同図 9 ～ 11）、垂飾 1 点（同図 8）、管状垂飾 3 点（同図 6・7）、不明製品 2 点（同図 1・12）、加工痕ある骨 3 点、製品素材 16 点がある。第 212 図 2 はヤスで、基部加工の状況から柄に固定して使用されたものとみられる。同図 7・8 の刺突具は、使用や再加工により先端が短くなっている。第 213 図 1 は、第 208 図 8 や第 211 図 5 と同様に、基部の一側辺を柄に装着したものとみられる。他の 2 点と比べてやや雑に整形されている。第 213 図 2 の弭には、先端部に彫られた溝に沿ってアスファルト状の黒色物質が付着し、また、一部に紐状のものが残る。同図 4 の簪には、残存する頭部全体に赤色顔料が付着している。同図 7 は、2 つの管（長管骨）が入れ子状になっている垂飾である。同図 9 の猪牙製垂飾は、第 209 図 3 と同様の形状に成形されている。

Ⅵb2 層からは 72 点出土し、鏃 2 点（第 213 図 13）、根挟 1 点（同図 14）、銛頭 1 点（同図 15）、組み合わせ式ヤス 2 点（第 214 図 1）、着柄式刺突具 11 点（同図 2・3）、刺突具 10 点（同図 4 ～ 7）、棒状角製品 11 点（同図 8･9）、弭 3 点、簪 7 点（同図 10 ～ 12）、針状製品 5 点、猪牙製垂飾 3 点（第 215 図 9 ～ 11）、垂飾 4 点（同図 7・8）、管状垂飾 5 点（同図 3 ～ 6）、儀仗 1 点（第 214 図 13）、不明製品 2 点（第 215 図 1・2）、板状に加工したイノシシ歯牙 2 点、加工痕ある骨や角 2 点がある。第 213 図 15 は閉窩式銛頭で、逆刺部が再加工されたものである。この形状のものは北小松遺跡全体でも 1 点のみの出土であり、遺跡外から持ち込まれたものとみられる。第 214 図 5 の刺突具は、先端部が錐状に加工されている。同図 6 は、先端部に横方向の切れ込みが見られる。同図 12 の簪には、断面三角形に成形した頭部の各面に「玉抱き三叉文」が彫刻され、それぞれの溝には赤色顔料が付着している。同図 13 の儀仗には、第 209 図 6 と同様に、端部に円盤状の突帯の彫刻が施され貫通孔が穿たれている。第 215 図 2 は、第 213 図 1 などと同様に、側辺に柄を装着したものとみられる。第 215

図 3・4 の管状垂飾には、長軸に直交する方向に等間隔で刻みが彫刻されている。

Ⅵ b1 層からは 18 点出土し、刺突具 2 点、棒状角製品 2 点（第 215 図 15）、弭 1 点、簪 1 点（同図 12）、針状製品 6 点（同図 13･14）、猪牙製垂飾 1 点（同図 16）、不明製品 2 点、加工痕ある骨や角 2 点、製品素材 1 点がある。第 215 図 15 の棒状角製品は、素材形状により湾曲している。中間部にはアスファルト状の黒色物質が残る。同図 16 の猪牙製垂飾には、貫通孔が 8 箇所穿たれている。

Ⅵ a 層からは 36 点出土し、鏃 2 点（第 215 図 18･19）、銛頭 1 点（同図 17）、組み合わせ式ヤス（同図 20）、着柄式刺突具 5 点（第 216 図 1）、刺突具 8 点（同図 2 ～ 6）、棒状角製品 2 点（同図 8）、簪 3 点（同図 7）、針状製品 4 点、猪牙製垂飾 2 点（同図 11・12）、垂飾 1 点（同図 13）、管状垂飾 1 点（同図 10）、儀仗 1 点（同図 9）、加工痕ある骨や角 2 点、製品素材 3 点がある。第 215 図 20 の組み合わせ式ヤスは、外側に逆刺が付くものである。第 216 図 1 は着柄式刺突具であるが、素材分割面に剥離痕跡が広く残されていることから、簪等の未成品の可能性がある。同図 7 は、頭部を扁平に成形しているのみで、装飾のない簪である。同図 11 の猪牙製垂飾は、貫通孔を再加工している。

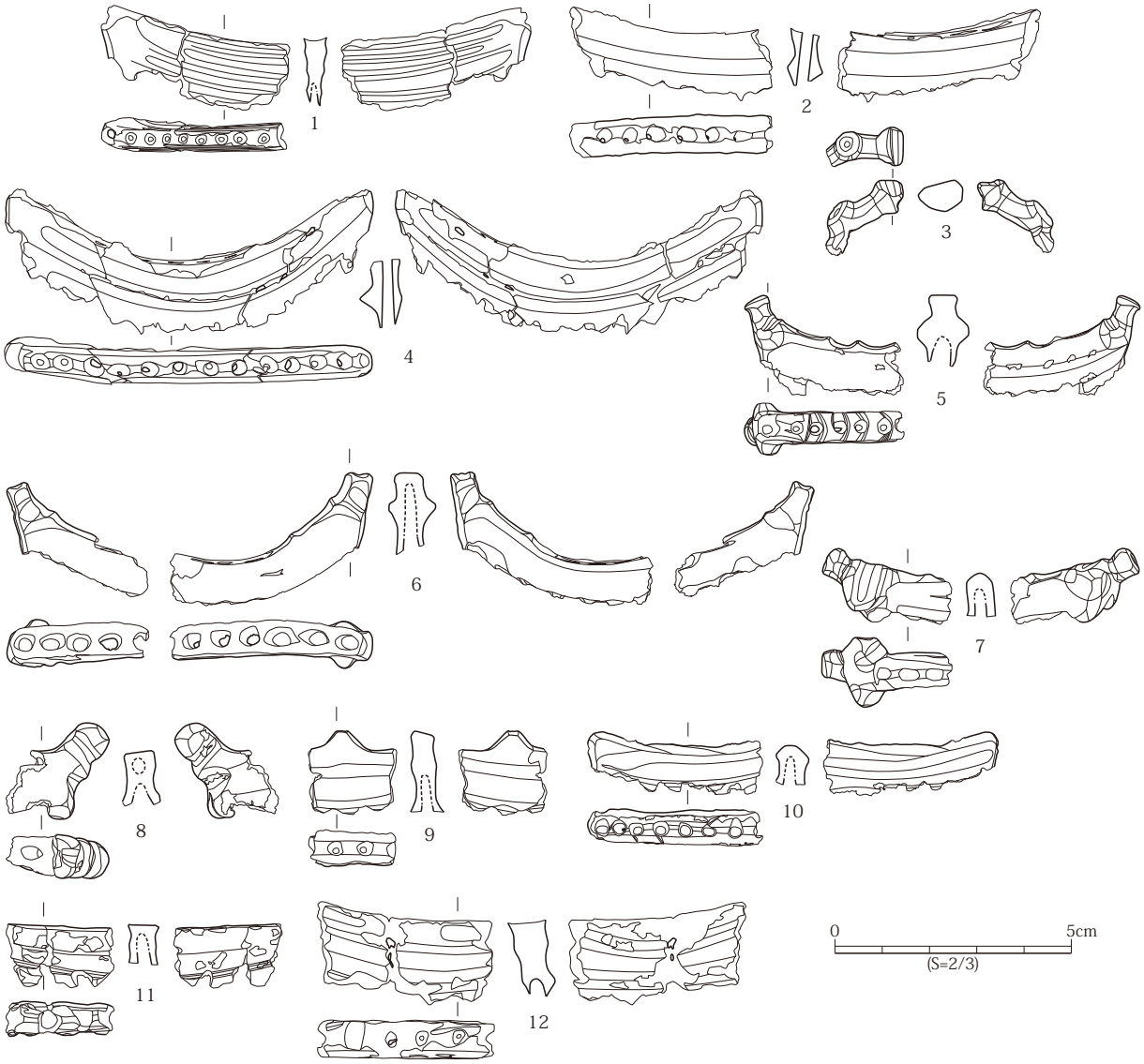
以上のほかに、Ⅴ c 層から管状垂飾が出土している（第 217 図）。いずれも、長軸と直交する方向に沈線や刻みによる装飾が施される。

⑤漆製品

漆製品は、小破片を含めると多数出土しているが、器種のわかるものは竪櫛のみである。本包含層からは竪櫛（可能性のあるものを含む）が 58 点出土している（第 218 図）。

丘陵裾部では、Ⅵ e2 層とⅥ b2 層からそれぞれ 1 点ずつ出土した。10 は飾部に装飾があまり施されないものである。

低地部では、Ⅵ d 層からⅥ a 層にかけて多くの層で出土している。なかでも、Ⅵ c4 層出土が 12 点、Ⅵ c3 層出土が 8 点、Ⅵ b2 層出土が 19 点と多い。1 は飾部の両面に平行沈線文が施されている。3 は飾部の突起とみられる。4 は残存範囲では装飾要素があまり見られないが、両側縁が残っており、竪櫛の大きさが推定できる資料である。5 ～ 8 は左右の端部に突起の付くものであり、加えて上端が波状となっている点で共通する要素が見られる。9 は、上端の波状が大きくなり、山形突起状となっている点が特徴的である。



No.	器種	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	堅櫛	F-23Eb / Ⅵ c7	残存長 2.2cm、残存幅 4.0cm、最大厚 0.7cm。両面に平行沈線文。下端に孔 9。飾部全面赤彩	161-1	W27
2	堅櫛	F-23Eb / Ⅵ c7	残存長 2.1cm、残存幅 4.2cm、最大厚 0.8cm。両面に隆線各 1。下端に孔 8。飾部全面赤彩	161-3	W25
3	堅櫛	F-23Ea / Ⅵ c7	残存長 1.5cm、幅 1.7cm、最大厚 1.0cm。山形突起 1、円形突起 1。全面赤彩	161-2	W75
4	堅櫛	F-23Eb / Ⅵ c4-6	残存長 3.1cm、幅 7.8cm、最大厚 0.7cm。両面に隆線各 1。下端に孔 14。飾部全面赤彩	161-5	W24
5	堅櫛	F-23Eb / Ⅵ c4-6	残存長 2.1cm、残存幅 3.4cm、最大厚 1.1cm。円盤状突帯の両側に山形突起、突起間に短沈線文。上端を波状に成形。下端に孔 7。飾部全面赤彩	161-4	W74
6	堅櫛	F-23Eb / Ⅵ c3	残存長 2.2cm、残存幅 4.5cm、最大厚 1.0cm。方形突起の両側に山形突起。上端を波状に成形か。下端に孔 7+5。飾部全面赤彩	161-6	W19
7	堅櫛	F-23Eb / Ⅵ c3	残存長 1.5cm、残存幅 2.8cm、最大厚 1.7cm。円盤状突帯（頂部刻み）の両側に山形突起、突起間に短沈線文。上端を波状に成形。下端に孔 4。飾部全面赤彩	161-7	W18
8	堅櫛	F-23Fa / Ⅵ c1・2	長 1.9cm、残存幅 2.1cm、最大厚 0.9cm。球状突帯の周りに沈線。側縁を波状に成形、端部に二個一対の小突起。下端に孔 3。飾部全面赤彩	161-8	W44
9	堅櫛	F-23Eb / Ⅵ b2	残存長 1.8cm、残存幅 1.8cm、最大厚 0.7cm。上端に山形突起。下端に孔 3。飾部全面赤彩	161-9	W17
10	堅櫛	F-23Db / Ⅵ b2	残存長 1.2cm、残存幅 3.6cm、最大厚 0.7cm。突起・突帯が付かない。上端をほぼ平坦に成形。下端に孔 9。飾部全面赤彩	161-10	W10
11	堅櫛	F-23Ea / Ⅵ b2	残存長 1.3cm、残存幅 2.2cm、最大厚 0.8cm。下端付近の両面に沈線。上端をほぼ平坦に成形。下端に孔 4。飾部全面赤彩	161-11	W07
12	堅櫛	F-23F / Ⅵ a	残存長 2.4cm、残存幅 3.8cm、最大厚 0.8cm。両面に平行する隆線。下端に孔 6。飾部全面赤彩	161-12	W36

第218図　東C・D丘陵間遺物包含層　出土漆製品

第３節　東Ｄ丘陵北斜面（F-23 区南・西、F-24・38・39 区）

東Ｄ丘陵は、北小松遺跡が立地する丘陵から西に樹枝状に延びる丘陵のうち、北から４番目に当たる丘陵である。今回の調査では、丘陵基部の北緩斜面において、丘陵裾部から低地部にかけて北西に広がる遺物包含層を検出した。現況では水田や畑が営まれており、調査対象区域は平坦となっている。なお、掘立柱建物跡などの遺構は検出されなかった。以下に、検出した遺物包含層と遺物について述べる。

1. 遺物包含層

東Ｄ丘陵基部付近では、黒色～黒褐色を呈する粘土～粘土質シルトを主体とするⅥ層が堆積し、この層に縄文時代晩期から弥生時代前期の土器や石器などの遺物が多量に包含されている。この遺物包含層は丘陵緩斜面から低地部にかけて北に広がる。

（1）堆積状況と分布範囲

Ⅵ層を F-23 南・23 西・24・38・39 区で検出し、縄文時代晩期から弥生時代前期の遺物が多量に包含されている状況を確認した。この範囲は、北東から南西にかけて約 106m（F-23 区南の東端と F-39 区南端を結ぶ直線距離）、東西約 23m（F-23 区西の東端と同西端を結ぶ直線距離）ある。F-23 区南の西に位置する F-23 区東でもⅥ層中に遺物包含層を検出しているが、両者は沢状の地形で隔てられているため、別地点として取り扱う（第２節）。なお、これらの調査区の西に位置する F-22 区および、南に位置する F-40 区では遺物包含層は検出されなかった。

遺物包含層は、丘陵から低地部に向かって緩やかに傾斜する。Ⅵ層が検出された各調査区におけるⅥ層上面での地形を見ると、F-23 区西の南壁ではⅥ層の検出長約 22.2m、Ⅵ層上面での比高約 1.5m、勾配約 6.8% であり、F-24 区西壁ではⅥ層の検出長約 5.5m、Ⅵ層上面での比高約 0.3m、勾配約 5.5% である。

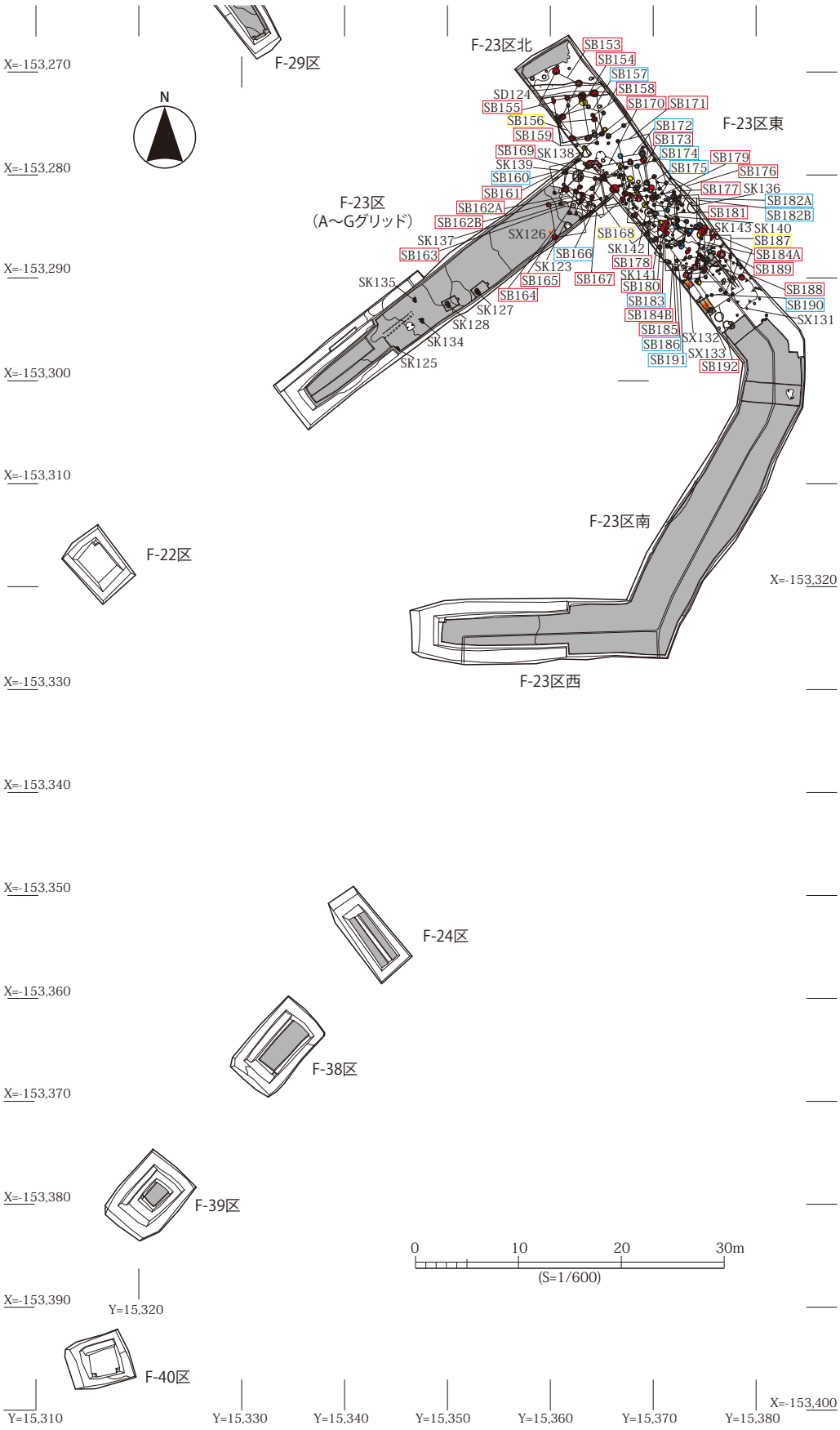
第３章で述べたように、Ⅵ層は土色や土性、含有物などの特徴から各調査区で複数の層に細分できる一方で、調査区によりⅥ層の堆積状況が異なる。これらの細分層の土性や土色、含有物などの特徴から、遺物包含層（Ⅵ層）を１～３層群に大別した（第 11 表）。大別層群でみると、３層群と１層群は F-23 区西および F-24・38・39 区で確認され、２層群は F-23 区南・西で確認される。

（2）遺物の層位別出土状況

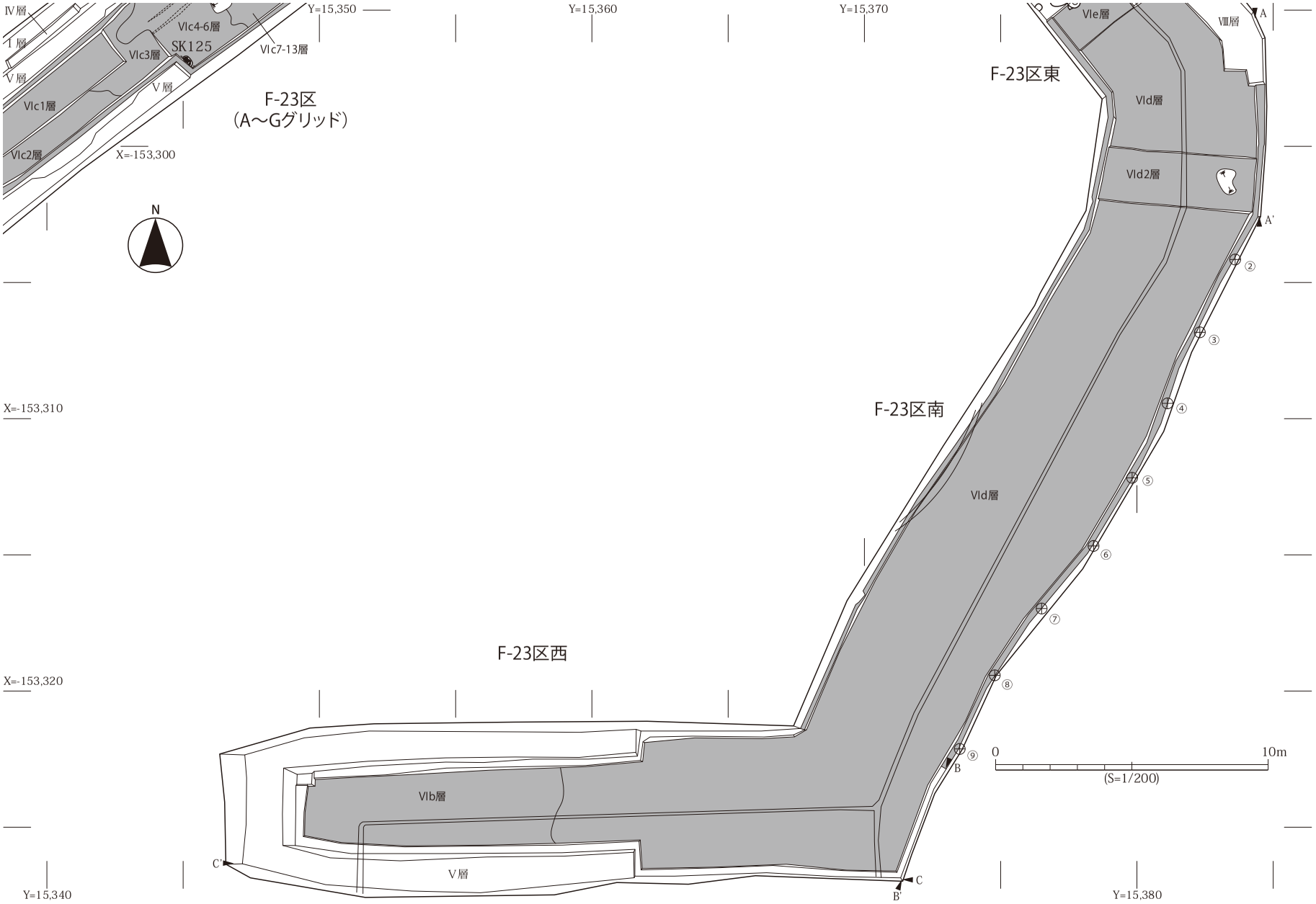
遺物包含層から出土した遺物は遺物収納箱（54 × 34 × 15cm）換算で約 52 箱に相当する量が出土している。以下に、遺物の種類ごとの層位別出土状況について述べる。

①土器

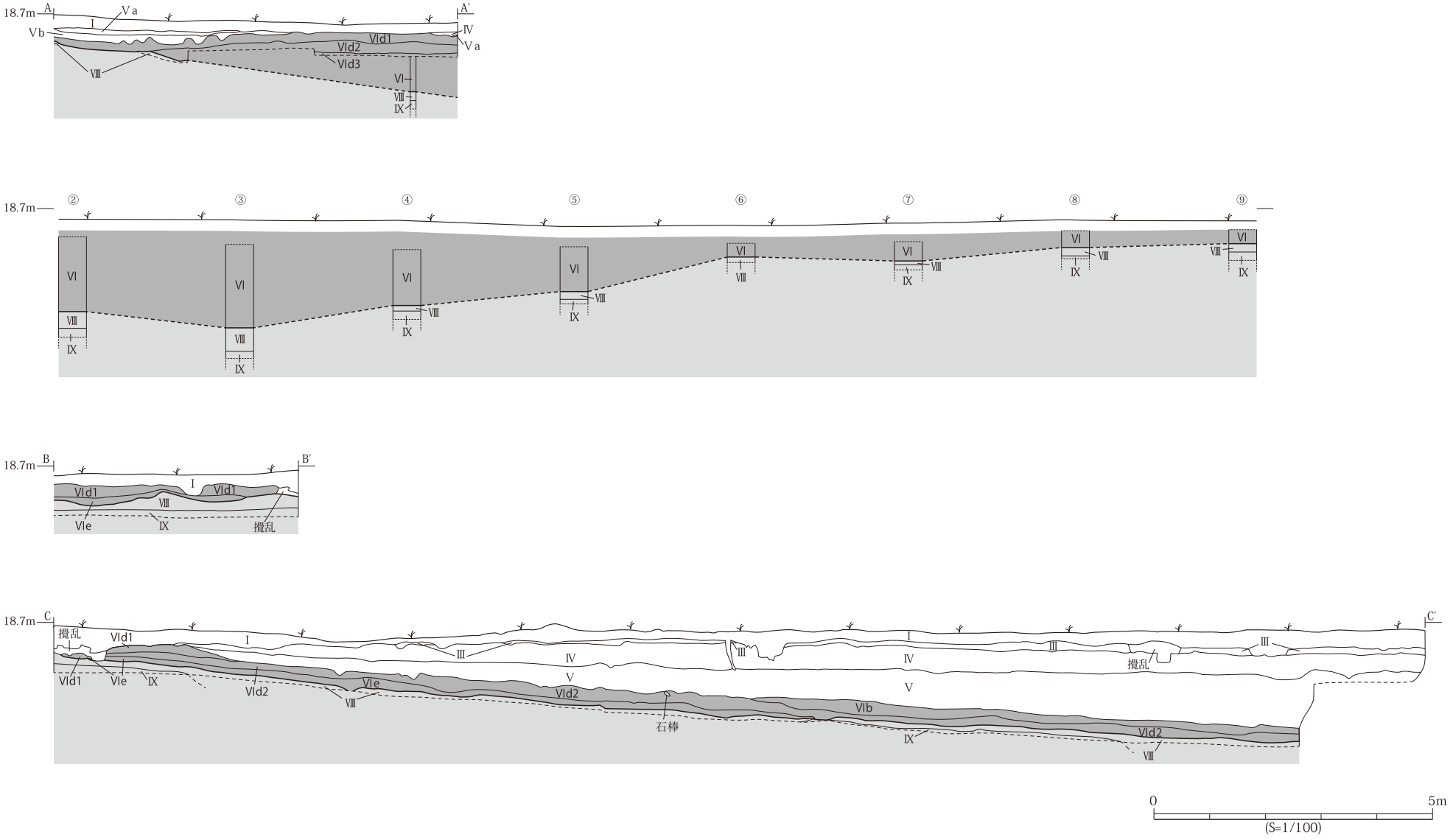
３層群は、いずれの調査区においても断面での確認にとどめたため、遺物は出土していない。



第219図　F-23・24・38・39区　平面図



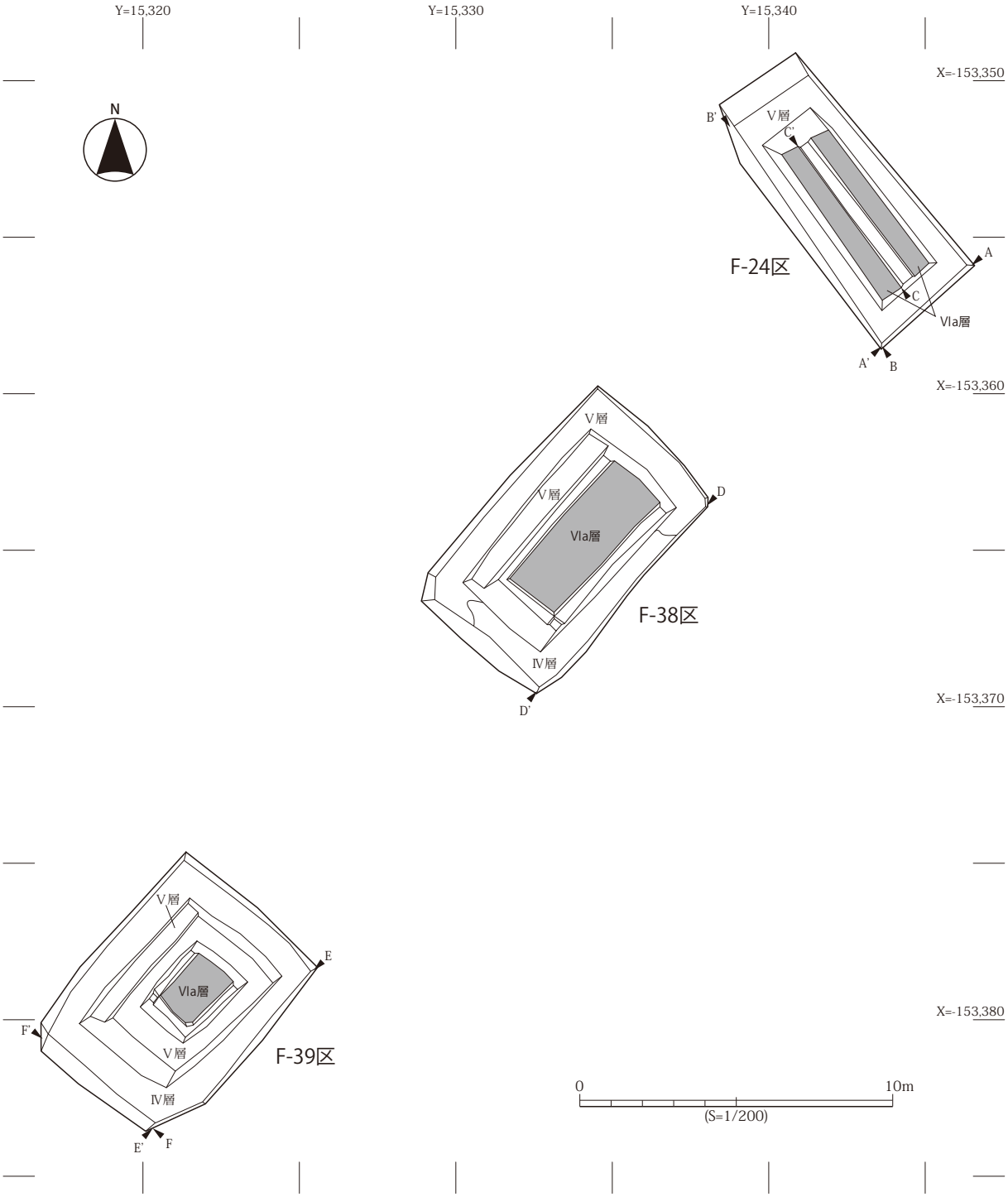
第220図　F-23区南・西　平面図



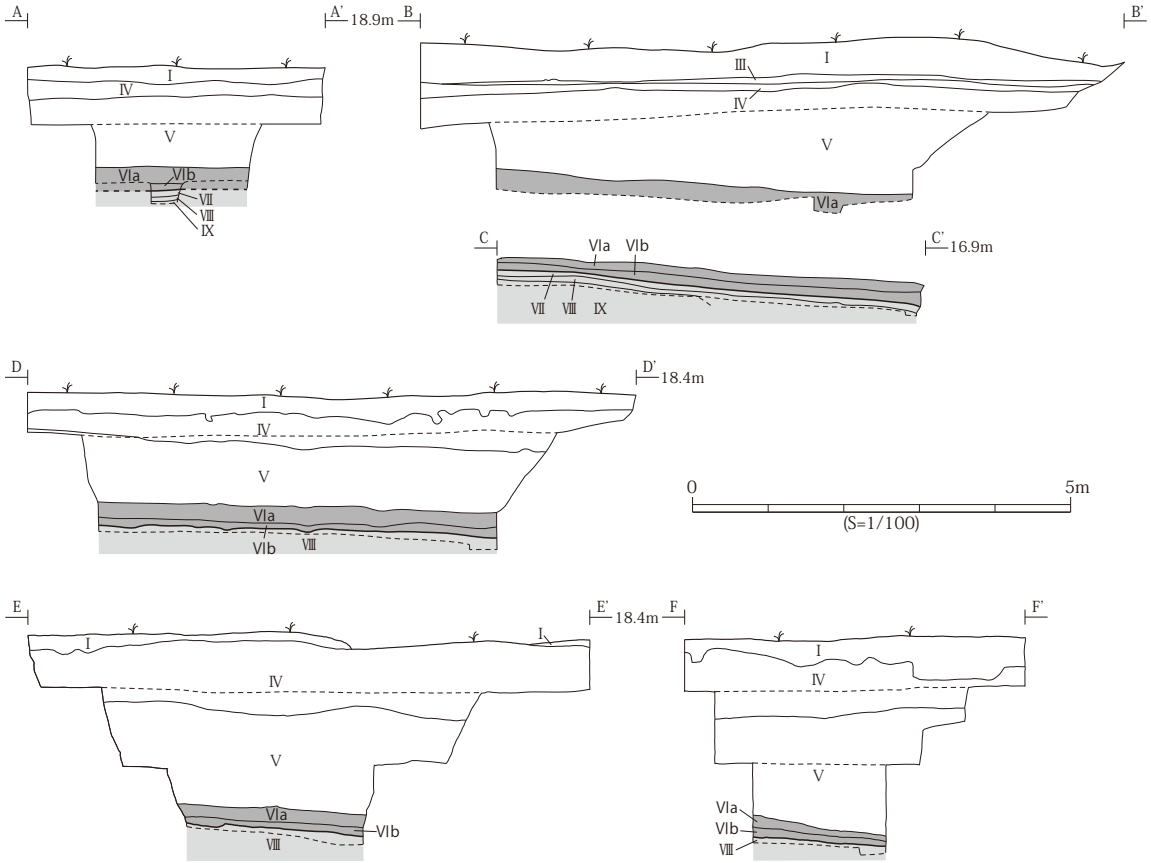
第221図　F-23区南・西　断面図・柱状模式図

第10表　F-23区南・西　土層観察表

調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　　徴
F-23 区南	A-A'	Ⅴa	オリーブ灰色（5GY5/1）	粘土	最上部にスクモ中量、一部で砂中量（ラミナ状）、植物少量
		Ⅴb	暗オリーブ灰色（5GY4/1）	粘土	
		Ⅵd1	黒色 (10YR2/1)	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒やや多量
		Ⅵd2	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒～小ブロック・炭化物粒～小ブロック少量
		Ⅵd3	黒褐色 (10YR3/1)	シルト質粘土	炭化物粒わずか
F-23 区西	B-B' C-C'	Ⅵb	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	スクモやや多量
		Ⅵd1	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒・植物少量
		Ⅵd2	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	炭化物粒わずか
		Ⅵe	黒褐色（10YR3/1）	砂質シルト	



第222図　F-24・38・39区　平面図



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
F-24 区	A-A' B-B' C-C'	Ⅵa	黒褐色（10YR2/2）	粘土質シルト	植物少量
		Ⅵb	黒褐色（10YR3/1）	砂質シルト	
F-38 区	D-D'	Ⅵa	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	小礫・植物わずか
		Ⅵb	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	
F-39 区	E-E' F-F'	Ⅵa	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	
		Ⅵb	黒褐色（10YR3/1）	砂質シルト	

第223図　F-24・38・39区　断面図

第11表　調査区間の遺物包含層（Ⅵ層）の対応　（⇔：同一層、≒：近似層）

調査区・層名（調査時）																		東 D 丘陵北斜面包含層の大別層群			
F-23 区北		F-23 区 A・B	F-23 区 C・D	F-23 区 E-G		F-23 区東		F-23 区南		F-23 区西		F-24 区		F-38 区		F-39 区	層名	細分層	堆積場所	特徴
				Ⅵa															斜面部	砂混じり粘土
				Ⅵb1	≒		≒		≒	Ⅵb	⇔	Ⅵa	⇔	Ⅵa	⇔	Ⅵa	1 層群		斜面部	スクモを含む粘土質シルト
			Ⅵb2	Ⅵb2															平坦部～斜面部	
				Ⅵc1															斜面部	スクモを含む粘土質シルトとシルト質粘土がラミナ状に堆積
				Ⅵc2																
				Ⅵc3																
				Ⅵc4																
				Ⅵc5																
				Ⅵc6																
				Ⅵc7																
				Ⅵc8																
				Ⅵc9																
				Ⅵc10																
				Ⅵc11																
				Ⅵc12																
				Ⅵc13																
Ⅵd	⇔	Ⅵd	Ⅵd	Ⅵd	⇔	Ⅵd1	≒	Ⅵd1	⇔	Ⅵd1							2 層群	2A	平坦部～斜面部	粘土質シルト
										Ⅵd2										
								Ⅵd2										2B	斜面部	
								Ⅵd3										2C		
			Ⅵe1	Ⅵe1	≒		≒		≒	Ⅵe	⇔	Ⅵb	⇔	Ⅵb	⇔	Ⅵb	3 層群			地山粒・ブロックを含むシルト質粘土～砂質シルト
			Ⅵe2	Ⅵe2															平坦部～斜面部	
		Ⅵe3	Ⅵe3																	
			Ⅵe4																	
Ⅵe5	⇔	Ⅵe5	Ⅵe5																	

2C 層群では中･小破片が少量出土している。器種は深鉢や鉢がある。装飾は横位沈線文が見られる。

2B 層群では中・小破片に加えて大破片も含まれる。器種は深鉢や鉢、壺のほかに袖珍土器深鉢、脚の付く土器がある。装飾は、帯状文や羊歯状文（第 224 図 1）、列点文、メガネ状浮文、π字文（同図 7・8）などが見られる。

2A 層群では中・小破片に加えて大破片が多く出土しており、完形に近い土器やその場でつぶれた状態で出土した土器も見られる。器種は深鉢や鉢・台付鉢・四脚付鉢、浅鉢・台付浅鉢、皿、壺、注口土器のほかに袖珍土器深鉢・鉢・台付鉢・皿・壺、台や脚の付く土器、製塩土器、漆容器（深鉢・鉢、第 227 図 13）がある。装飾は、帯状文（第 224 図 18 ～ 20、第 225 図 1）や入組帯状文、瘤の付く帯状文（第 224 図 17）・入組帯状文（同図 16）、三叉文（第 225 図 2・3・9・10）、羊歯状文（同図 4 ～ 10）、列点文（同図 5・8・11 ～ 13）、雲形文（同図 16 ～ 18・20 ～ 25）、メガネ状浮文（第 226 図 1・2、第 229 図 12・13、第 230 図 7・10、第 231 図 11 ～ 13）、X 字状文（第 225 図 26・27）、工字文（第 229 図 9・10・12、第 230 図 1・5 ～ 10・13、第 231 図 1、第 232 図 1・21、第 234 図 16・17）、綾杉状文（第 230 図 11 ～ 13）、浮線渦巻文（同図 10）、π字文（第 226 図 3・4・7・8、第 229 図 10・11・13、第 230 図 1・9・13、第 231 図 1 ～ 13・15 ～ 19、第 232 図 1 ～ 12・14 ～ 22、第 233 図 1、第 234 図 6 ～ 15・17、第 235 図 1 ～ 3・6）、変形工字文（第 234 図 9、第 235 図 2 ～ 4・6・7）、波状文（同図 8）などが見られる。なかでもπ字文が施された土器が特に多く出土しており、雲形文や工字文が施された土器も多く出土している。

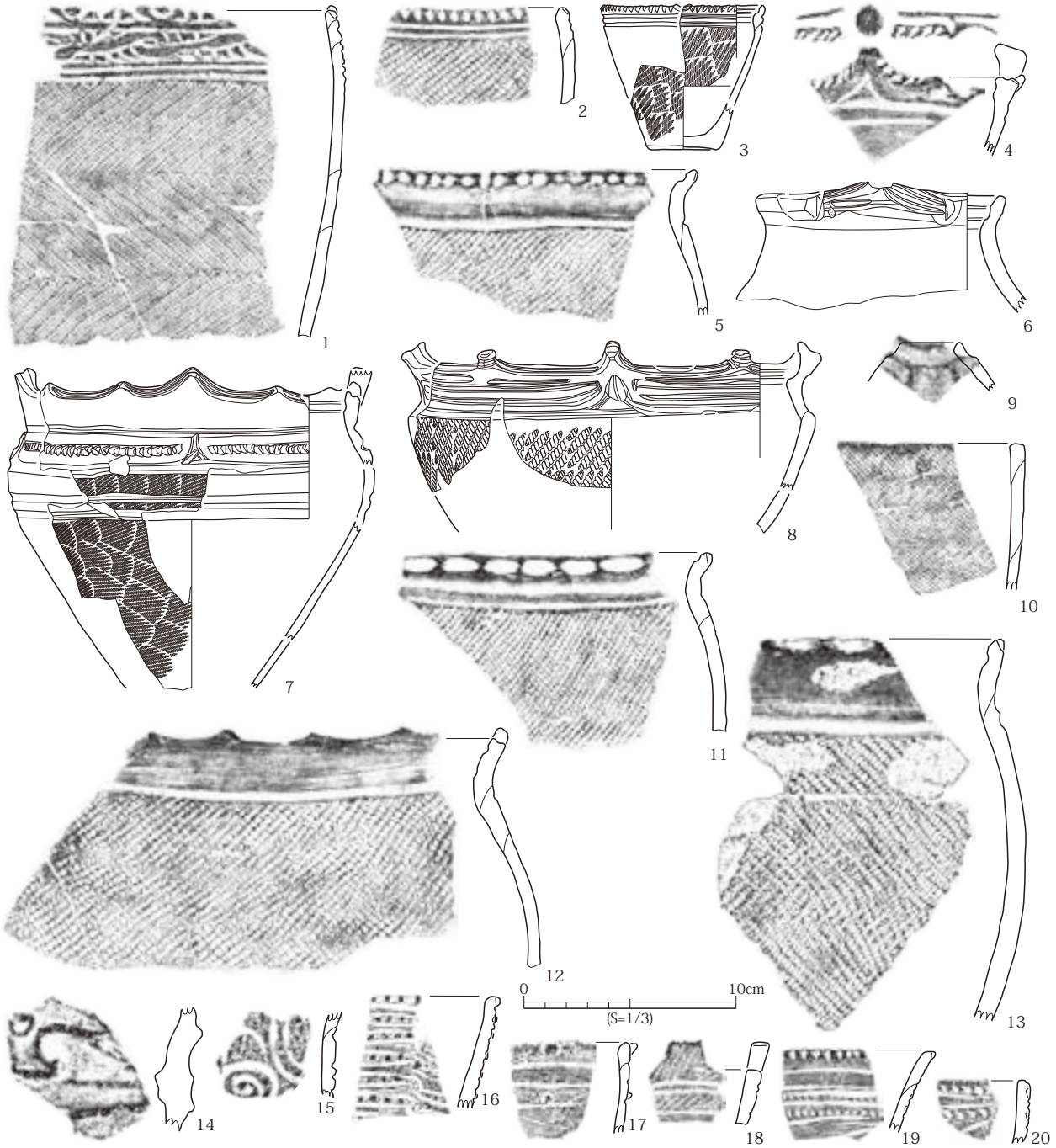
1 層群では中・小破片が主体であるが大破片も出土している。器種は深鉢や鉢、浅鉢、皿、壺、注口土器のほかに袖珍土器台付鉢・浅鉢、台や脚の付く土器、アスファルト容器（深鉢、第 241 図 4）がある。装飾は、帯状文（第 238 図 8）や入組帯状文、瘤の付く帯状文、三叉文（同図 9）、羊歯状文、雲形文（同図 12、第 239 図 1 ～ 4）、メガネ状浮文（第 239 図 4・12・20）、X 字状文（第 238 図 11）、工字文（第 239 図 13 ～ 17）、π字文（同図 9 ～ 11・15・16・18 ～ 23）、変形工字文などが見られる。なかでもπ字文が施された土器が特に多く出土しており、雲形文や工字文が施された土器も多く出土している。

②土製品

土製品は、3 層群を除く各大別層群から出土している。ほとんどが円盤状土製品である。以下に、大別層群別の出土状況について述べる。

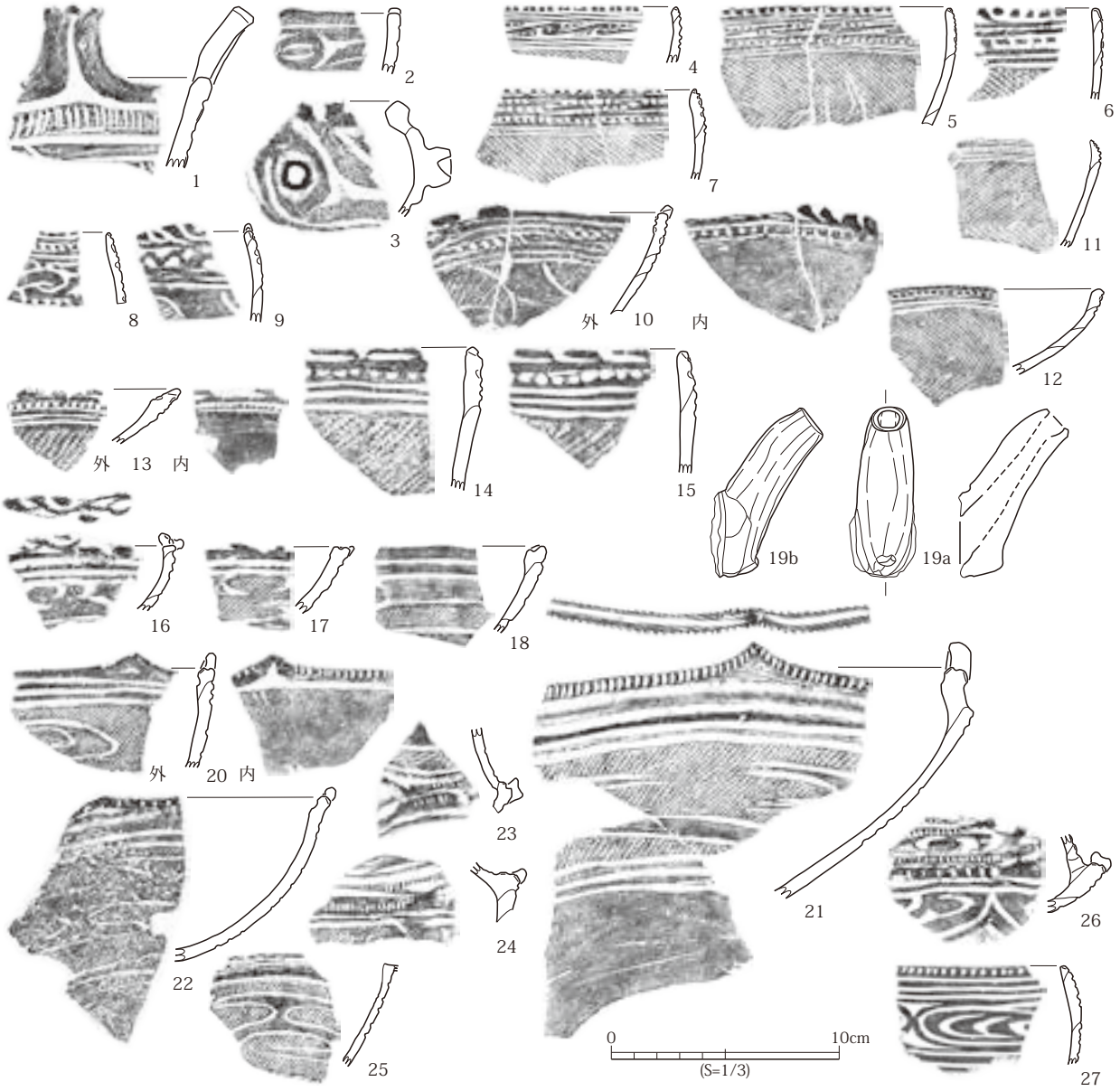
2B 層群からは円盤状土製品（第 245 図 5）が出土している。

2A 層群からは、土偶頭部（第 244 図 1）・胸部・胴部（第 243 図 1・2、第 244 図 4）・腹部（同図 3）・肩部（同図 2）・左脚（同図 5）、土版（同図 6）、耳飾（同図 7）のほかに円盤状土製品（同図 8 ～ 25、第 245 図 1 ～ 4・6 ～ 10）、不明土製品が出土している。第 243 図 1・2 はいずれも中空の土偶で、同一個体である。首元から脚の付け根まで沈線文による装飾が施される。また、腰部より下は縄文が施文され、沈線文と貫通孔を組み合わせて下半身を表現している。第 244 図 1 は指頭による押圧で顔を表現したものである。同図 3 は中空の土偶で、貫通孔により臍を表現している。第 245 図 1 は



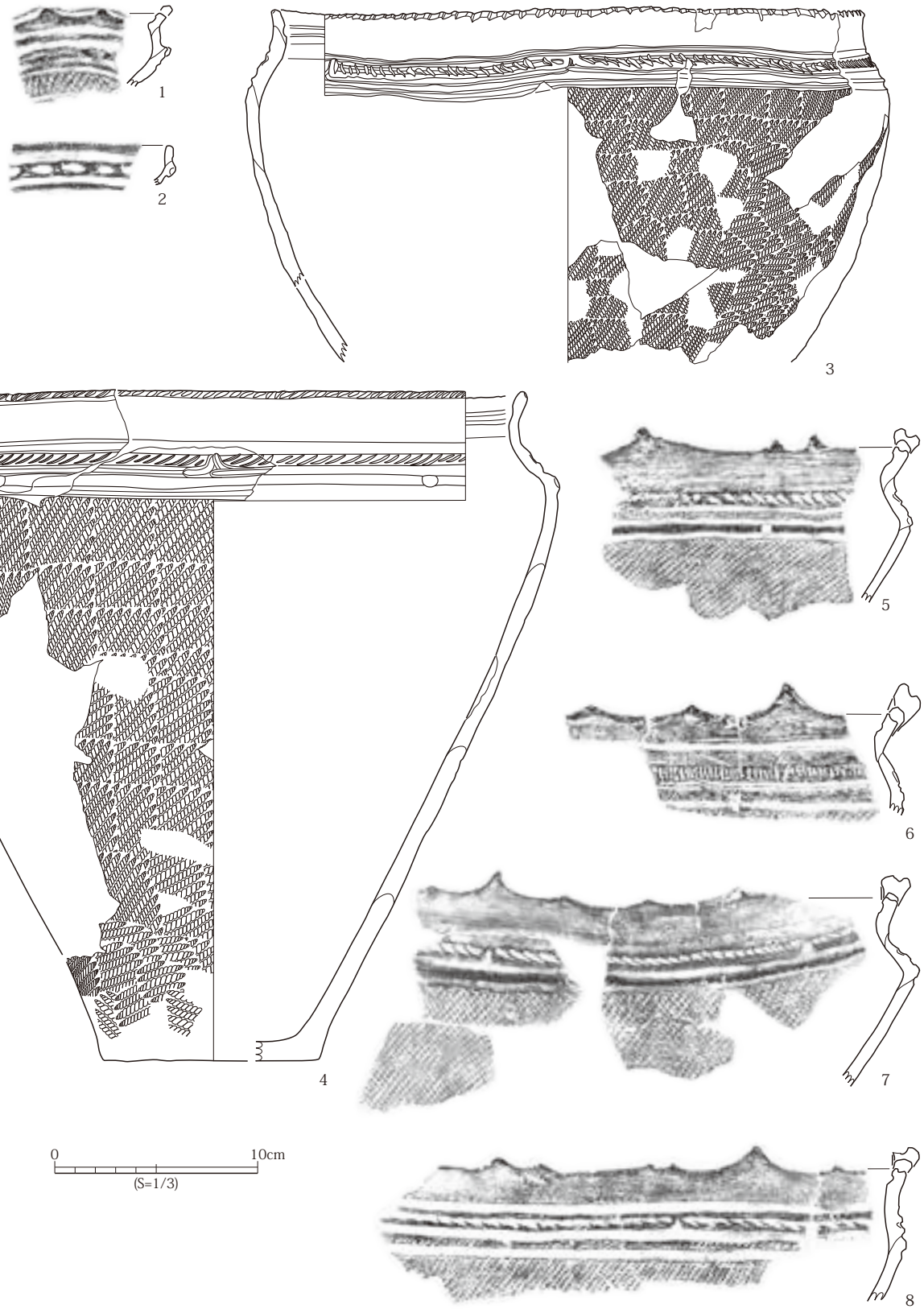
No.	器　種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1df	Ⅳ	2B 層群	F-23 南イ / Ⅵ d2+ Ⅵ d1	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。羊歯状文、平行沈線文。羽状縄文 LR/RL（いずれも直前段多条）	163-1	Po2933
2	深鉢	A1d	Ⅹ Ⅱ x	2B 層群	F-23 南イ / Ⅵ d2	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR	163-2	Po3023
3	袖珍土器深鉢	A1d	Ⅹ Ⅱ x	2B 層群	F-23 南イ / Ⅵ d2	口径 7.0cm、器高 6.9cm、底径 3.2cm。平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。無節縄文 L。底部ナデ。口縁部内面沈線	163-32	Po3026
4	鉢	A1cdef	Ⅹ Ⅱ x	2B 層群	F-23 南イ / Ⅵ d2	平縁。山形突起（大、ボタン状突帯）の両側に二個一対の山形突起（小）+ ヘラ刻目 + 口唇部沈線。突起部に三角形状の短沈線文、平行沈線文。突起・口縁部内面沈線	163-3	Po3024
5	深鉢	C1d	Ⅹ Ⅲ	2B 層群	F-23 南イ / Ⅵ d2+ Ⅵ d1	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。横位沈線文。縄文 LR	163-4	Po3017
6	壺	-	-	2B 層群	F-23 南イ / Ⅵ d2	口径 11.7cm。平縁。山形突起の両側に二個一対の小突起。短沈線文。突起・口縁部内面沈線	163-33	Po3011
7	深鉢	B1cef	Ⅸ a2	2B 層群	F-23 南 イ / Ⅵ d2+ Ⅵ d1-2+ Ⅵ d1	口径（15.6cm）、最大径（17.2cm）。平縁。山形突起（大）の両側に山形突起（小）4 単位か + 口唇部沈線。π字文（下向）4 単位か + 刺突列、平行沈線文。無節縄文 L。突起・口縁部内面沈線。内面・口唇部炭化物付着	163-34	Po3022
8	深鉢	B1ce	Ⅸ e	2B 層群	F-23 南 イ + ロ / Ⅵ d2+ Ⅵ d1-2+ Ⅵ d	口径 18.7cm。平縁。山形突起（大）4 単位 + 山形突起（ボタン上突帯）4 単位 + 口唇部沈線。π字文（下向）4 単位。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線。内面炭化物付着	163-35	Po3012
9	壺	A1	-	2B 層群	F-23 南イ / Ⅵ d2	口径（2.6cm）。平縁。横位の隆帯 + 縦位の隆帯（突帯文）	163-6	Po3028
10	深鉢	A1	Ⅹ Ⅳ a2	2B 層群	F-23 南イ / Ⅵ d2	平縁。羽状縄文 RL（0 段多条）/L（無節）	163-7	Po3029
11	深鉢	B2	Ⅹ Ⅲ	2B 層群	F-23 南イ / Ⅵ d2	小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	163-5	Po3014
12	深鉢	C2c	Ⅹ Ⅲ	2B 層群	F-23 南イ / Ⅵ d2	小波状縁。口唇部沈線。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面平行沈線文	163-8	Po3015
13	深鉢	C2	Ⅹ Ⅱ x	2B 層群	F-23 南イ / Ⅵ d2	小波状縁。平行沈線文。縄文 RL。口縁部内面沈線	163-9	Po3030
14	深鉢	-	-	2A 層群	F-23 南チ / Ⅵ d	装飾的な把手。横位の平行する隆線	163-11	Po3310
15	深鉢	-	-	2A 層群	F-23 南ハ / Ⅵ d	弧状の平行沈線文、弧状沈線文、渦巻文。縄文 RL	163-10	Po3069
16	深鉢	A1d	Ⅱ Ba	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	平縁。ヘラ刻目。入組帯状文 + 貼瘤列。縄文原体不明	163-12	Po3243
17	鉢	A1a	Ⅰ Bb	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d	平縁。貼瘤。帯状文（無文）+ 貼瘤	163-13	Po2920
18	浅鉢	A1e	Ⅰ a	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	平縁。方形突起（頂部刻目）。帯状文（縄文）。縄文 LR	163-15	Po3369
19	鉢	A1d	Ⅰ d	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	平縁。ヘラ刻目。帯状文（刺突列）か	163-14	Po3360
20	鉢	A1	Ⅰ d	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	平縁。帯状文（刺突列）	163-16	Po2949

第224図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土土器（1）



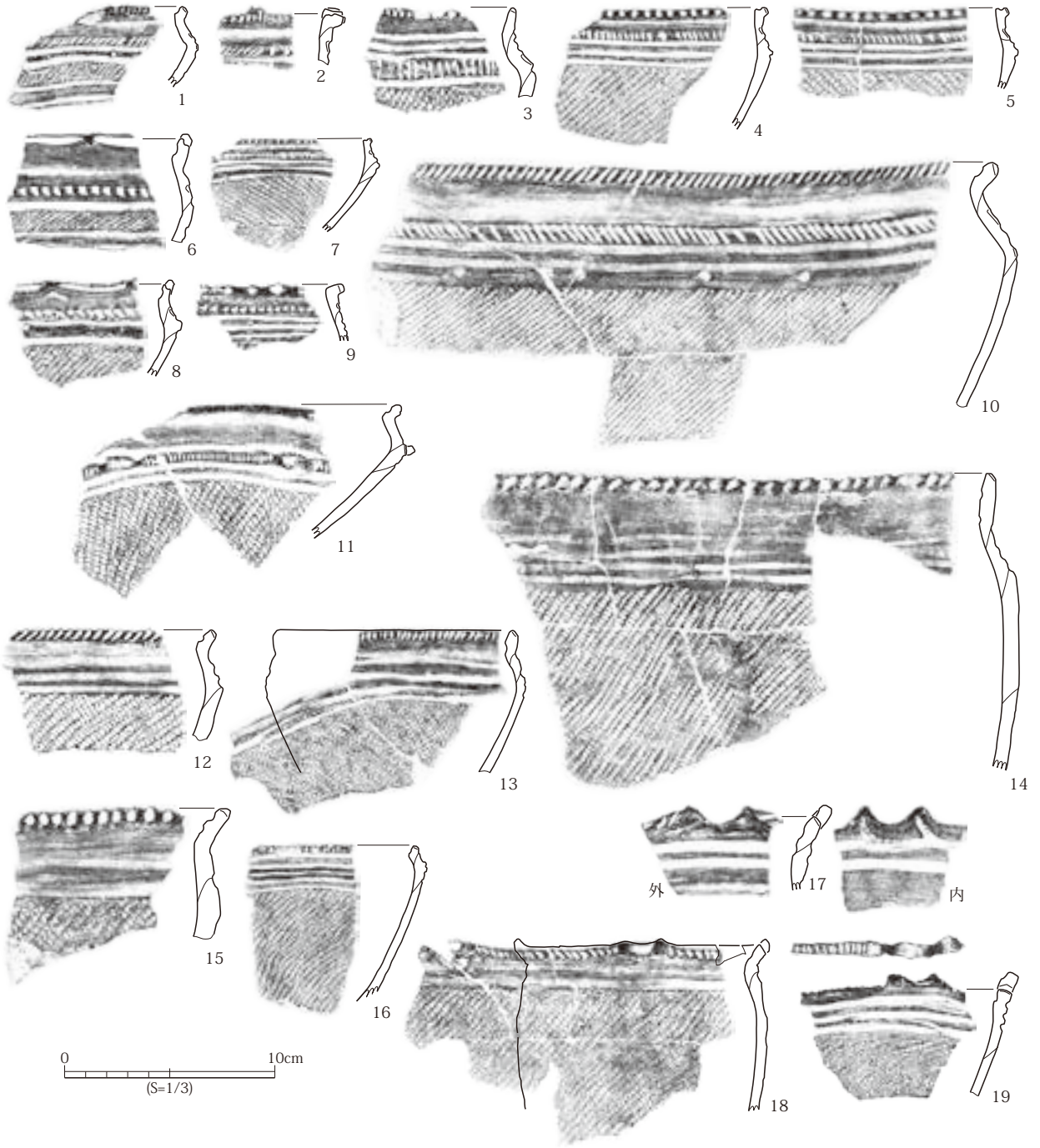
No.	器　種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1e	Ⅰc	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵd	平縁。方形突起（頂部刻目）。帯状文（櫛歯状刻目）２段	163-19	Po3247
2	鉢	A1f	Ⅲa	2A 層群	F-23 南 / Ⅵd	平縁。山形突起。魚眼状三叉文	163-17	Po3357
3	注口土器	-	Ⅲc	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵd	平縁。二個一対の小突起。入組三叉文＋リング状突帯。縄文 LR	163-20	Po2896
4	深鉢	A1df	Ⅳ	2A 層群	F-23 南ロ / Ⅵd	平縁。二個一対の小突起＋ヘラ刻目。平行沈線文、羊歯状文。縄文 RL	163-18	Po3048
5	鉢	A1d	Ⅳ＋Ⅴ	2A 層群	F-23 南 / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文、羊歯状文、列点文。縄文 RL	163-21	Po3346
6	深鉢	A1df	Ⅳ	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵd1・2	平縁。二個一対の小突起＋ヘラ刻目。平行沈線文、羊歯状文。縄文 RL	163-23	Po3005
7	鉢	A1df	Ⅳ	2A 層群	F-23 西 / Ⅵd2+Ⅴ	平縁。二個一対の小突起＋ヘラ刻目。羊歯状文、平行沈線文＋刺突列。縄文 RL	163-22	Po2808
8	注口土器	-	Ⅳ＋Ⅴ	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目。列点文、羊歯状文	163-24	Po3228
9	鉢	A1cf	Ⅲc?+Ⅳ	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵd1・2	平縁。二個一対の小突起＋弧状の短沈線文。羊歯状文、平行沈線文、入組三叉文（磨消縄文）か。縄文 LR	163-25	Po2987
10	浅鉢	A1f	Ⅲc?+Ⅳ	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵd1+Ⅴ	平縁。二個一対の小突起。羊歯状文、平行沈線文、入組三叉文か（磨消縄文）。縄文 LR。突起部内面短沈線文、口縁部内面沈線・列点文	163-26	Po2944
11	鉢	-	Ⅴ	2A 層群	F-23 西 / Ⅵd2	列点文、平行沈線文。羽状縄文 LR/RL	163-27	Po2809
12	Ⅲ	A1	Ⅴ	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵd1	平縁。列点文、平行沈線文。縄文 RL	163-28	Po2940
13	Ⅲ	A1cdf	Ⅴ	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵd1	平縁。小突起＋内面に弧状の短沈線文＋ヘラ刻目。列点文、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面列点文	163-31	Po2986
14	深鉢	A1d	ⅩⅡb1	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋刺突列。直前段多条縄文 LR	163-29	Po2892
15	深鉢	A1d	ⅩⅡb2	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵd1・2	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文＋刺突列。縄文 LR	163-30	Po3003
16	鉢	A1bf	Ⅶa	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵd1	平縁。二個一対の小突起＋羊歯状浮線文。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR。内面赤彩	164-1	Po2943
17	Ⅲ	A1cf	Ⅶa	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵd	平縁。二個一対の小突起＋口唇部沈線。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR	164-2	Po2882
18	Ⅲ	A2c	Ⅶa	2A 層群	F-23 南ヘ / Ⅵd	小波状縁。突起間沈線。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR	164-3	Po3154
19	注口土器	-	ⅩⅤ	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵd	貼瘤。注口部と体部の接合箇所に黒色物質付着	164-4	Po2919
20	Ⅲ	A1cdf	Ⅶb	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵd	平縁。山形突起＋口唇部沈線＋ヘラ刻目。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	164-5	Po2895
21	浅鉢	B1cdf	Ⅶb	2A 層群	F-23 南ホ / Ⅵd	平縁。山形突起＋ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	164-12	Po3141
22	浅鉢	C1df	Ⅶb	2A 層群	F-23 南 / Ⅵd	平縁。山形突起＋ヘラ刻目。平行沈線文＋雲形文（沈線表現、磨消縄文）、底部付近に平行沈線文。縄文 LR。底部ミガキか。突起・口縁部内面沈線	164-6	Po3352
23	注口土器	-	Ⅶb	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵd1	雲形文（沈線表現、磨消縄文）、平行沈線文、山形突起＋二個一対の小突起＋隆帯上に沈線と櫛歯状刻目。縄文 LR	164-7	Po2998
24	注口土器	-	Ⅶb	2A 層群	F-23 南ニ / Ⅵd	平行沈線文＋櫛歯状刻目、山形突起＋隆帯上に櫛歯状刻目、平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR	164-8	Po3096
25	注口土器	-	Ⅶb	2A 層群	F-23 西 / Ⅵd2	平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。直前段多条縄文 LR	164-9	Po2814
26	注口土器	-	Ⅵb	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵd	平行沈線文＋櫛歯状刻目、透かし彫りを伴うＣ字状文、平行沈線文＋山形突起＋刺突列＋ヘラ刻目、平行沈線文、Ｘ字状文	164-10	Po3248
27	鉢	A1d	Ⅵb	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文、Ｘ字状文（Ｃ字状文）	164-11	Po3257

第225図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土土器（2）



No.	器種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	浅鉢	B2	Ⅷ	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	小波状縁。メガネ状浮文 + 二個一対の貼瘤。縄文 LR。口縁部内面沈線	164-13	Po2956
2	鉢	A1	Ⅷ	2A 層群	F-23 南チ / Ⅵ d+ Ⅴ	平縁。メガネ状浮文、平行沈線文	164-14	Po3296
3	深鉢	C1d	Ⅸ a2	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	口径 28.8cm、最大径 31.8cm。平縁。ヘラ刻目。π字文（下向）+ 櫛歯状刻目、平行沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	164-19	Po3378
4	深鉢	B1d	Ⅸ d	2A 層群	F-23 南ト + チ + 南 / Ⅵ d+ Ⅴ	口径（30.0cm）、器高 32.4cm、最大径（33.0cm）、底径（10.8cm）。平縁。ヘラ刻目。π字文（下向）4 単位 + 櫛歯状刻目。直前段多条縄文 LR。底部ナデ。口縁部内面沈線	165-12	Po3199
5	深鉢	B1cef	Ⅹ Ⅱ a2+ Ⅹ Ⅱ a3	2A 層群	F-23 南ロ / Ⅵ d	平縁。山形突起 + 二個一対の山形突起 + 口唇部沈線。平行沈線文 + 櫛歯状刻目（π字状の表現か）+ ヘラ刻目（工字状の表現）。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線。内外面・口唇部炭化物付着	164-15	Po3040
6	深鉢	B2cef	Ⅹ Ⅱ a2	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d	小波状縁。山形突起（大・小）+ 口唇部沈線。平行沈線文 + 櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	164-16	Po2880
7	深鉢	B3cef	Ⅸ a2	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	大波状縁。山形突起（大）+ 山形突起（小）+ 口唇部沈線。π字文（下向）+ 櫛歯状刻目、平行沈線文。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線。内外面・口唇部炭化物付着。胎土に海綿骨針を含む	164-18	Po3238
8	深鉢	C1cef	Ⅸ a2	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	平縁。山形突起（大）の両側に山形突起（小）+ 二個一対の山形突起 + 口唇部沈線。π字文（下向）+ 刺突列、平行沈線文。直前段多条縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	164-17	Po3201

第226図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土土器（3）

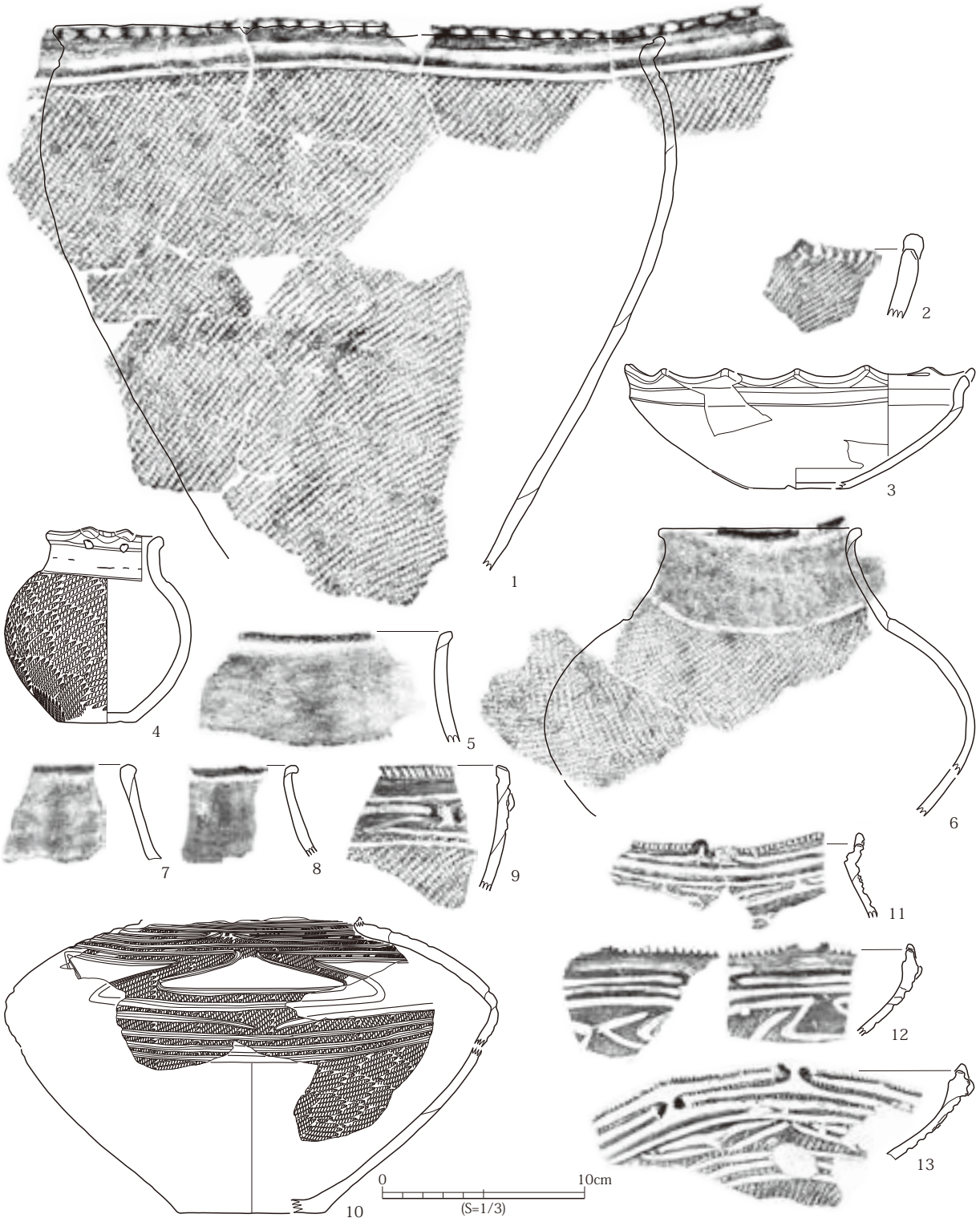


No.	器　種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	鉢	B1cd	XⅡa2+XⅡa3	2A 層群	F-23 南 / Ⅵd	平縁。櫛歯状刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文 + 櫛歯状刻目（π字状の表現あり）+ ヘラ刻目（工字状の表現）。縄文 LR	165-1	Po3350
2	深鉢	B1cdf	XⅡa2	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵd1	平縁。山形突起（頂部刻み）+ ヘラ刻目 + 突起間沈線。平行沈線文 + 櫛歯状刻目（π字状の表現あり）	165-2	Po2959
3	深鉢	C1d	XⅡa1	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵd	平縁。櫛歯状刻目。平行沈線文 + 櫛歯状刻目。縄文 LR	165-3	Po3224
4	深鉢	B1d	XⅡa2	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵd1	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文 + 櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文 LR	165-4	Po3961
5	深鉢	C1cd	XⅡa2	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵd1	平縁。口唇部沈線 + ヘラ刻目。平行沈線文 + 櫛歯状刻目（π字状の表現）。縄文 RL。口唇部炭化物付着	165-5	Po2970
6	鉢	B1cf	XⅡb1	2A 層群	F-23 南ホ / Ⅵd	平縁。山形突起 + 突起間沈線。平行沈線文 + 刺突列、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	165-6	Po3133
7	鉢	C1cd	XⅡa2	2A 層群	F-23 南チ / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文 + 櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。羽状縄文 RL/L。胎土に海綿骨針を含む	165-7	Po3273
8	深鉢	C3	XⅡb1	2A 層群	F-23 南チ / Ⅵd	大波状縁。突起間沈線。平行沈線文 + 刺突列。縄文 LR。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	165-9	Po3318
9	鉢	B1d	XⅡb1	2A 層群	F-23 南 / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文 + 刺突列	165-8	Po3361
10	深鉢	B1cd	XⅡa2+XⅡa3	2A 層群	F-23 南チ / Ⅵd	平縁。櫛歯状刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文 + 櫛歯状刻目（π字状の表現あり）+ ヘラ刻目（工字状の表現）。縄文 LR	165-11	Po3304
11	鉢	B1c	XⅡa1+XⅡe+XⅡf	2A 層群	F-23 南 ト + チ / Ⅵd+Ⅴ	平縁。口唇部沈線。平行沈線文 + 二個一対の山形突起 + 隆帯上に櫛歯状刻目。縄文 LR	165-10	Po3255
12	深鉢	C1d	XⅡx	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵd1	平縁。櫛歯状刻目。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。内面炭化物付着	166-2	Po2969
13	漆容器（鉢）	B1d	XⅡx	2A 層群	F-23 南ホ / Ⅵd	口径（11.2cm）、最大径（12.3cm）。平縁。櫛歯状刻目。平行沈線文。縄文 RL。口縁部内面沈線。内面赤漆付着	166-7	Po3134
14	深鉢	C1d	XⅡx	2A 層群	F-23 南ロ / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面平行沈線文	166-5	Po3038
15	深鉢	B1d	XⅡx	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵd1	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面平行沈線文	166-4	Po2965
16	鉢	A1d	XⅡx	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	166-3	Po3251
17	深鉢	A1df	XⅡx	2A 層群	F-23 南ハ / Ⅵd	平縁。二個一対の山形突起 + 櫛歯状刻目。平行沈線文。突起・口縁部内面平行沈線文	166-6	Po3107
18	深鉢	B1df	XⅡx	2A 層群	F-23 南ニ / Ⅵd	口径 11.1cm。平縁。二個一対の山形突起 4 単位 + ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	166-8	Po3092
19	鉢	A1df	XⅡx	2A 層群	F-23 南ヘ / Ⅵd	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	166-1	Po3172

第227図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土土器（4）

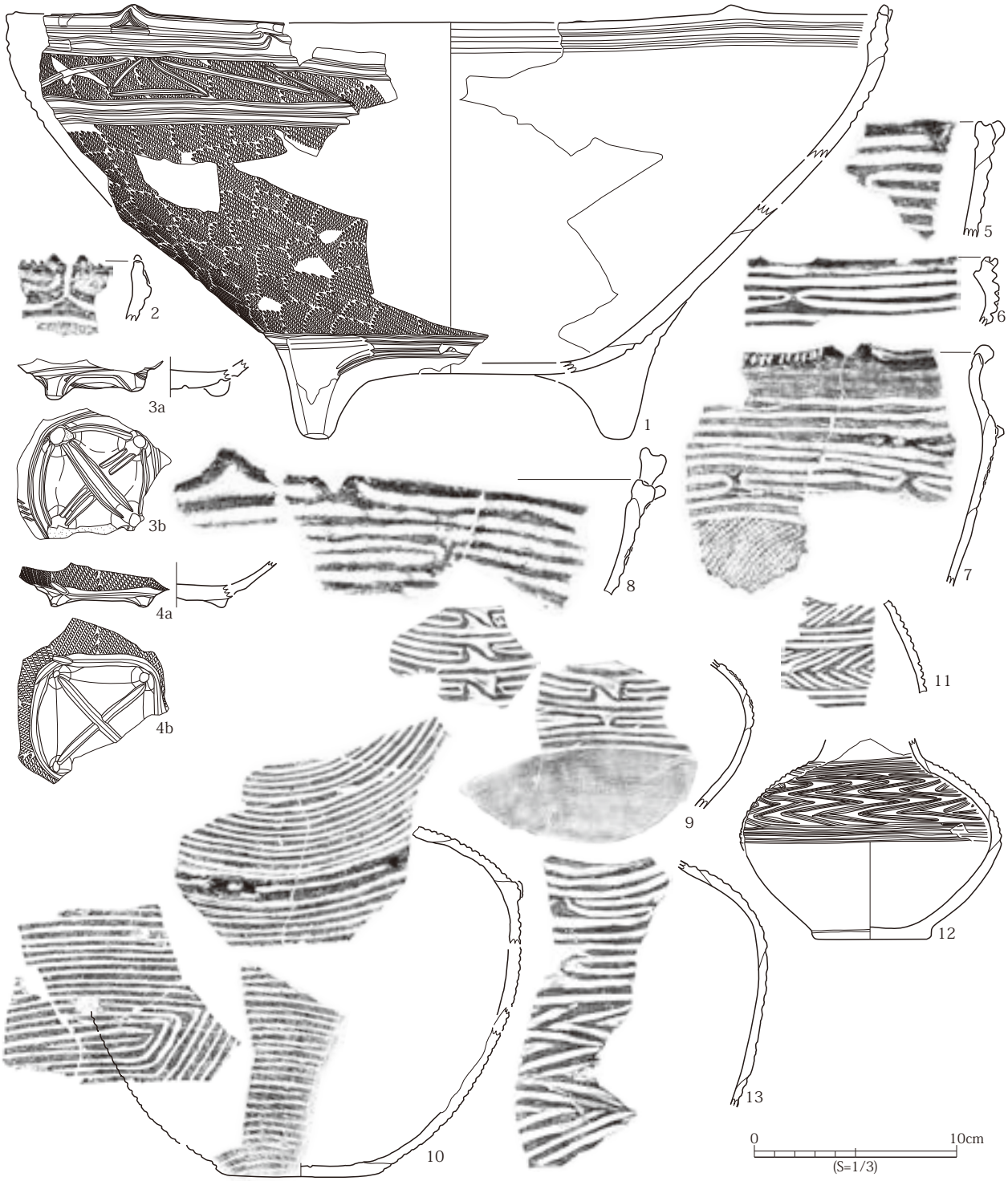
No.	器　種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	C1d	XⅡx	2A 層群	F-23 南ト＋チ＋南 / Ⅵd+ Ⅴ	口径（40.5cm）、最大径（43.5cm）。平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	166-9	Po3292
2	深鉢	B1cdf	XⅢ	2A 層群	F-23 南チ / Ⅵd	平縁。山形突起＋ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。縄文 LR	167-1	Po3293
3	深鉢	B1cd	XⅢ	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。縄文 LR	167-2	Po3206
4	深鉢	B1cd	XⅢ	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。羽状縄文 LR/RL	168-4	Po2899
5	深鉢	B1cd	XⅢ	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。縄文 LR	168-1	Po2884
6	深鉢	C1d	XⅢ	2A 層群	F-23 南チ / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	168-3	Po3295
7	深鉢	B1cd	XⅢ	2A 層群	F-23 南 / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。縄文 LR 末端部強調	167-3	Po3340
8	深鉢	B1cd	XⅢ	2A 層群	F-23 南ロ / Ⅵd	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。縄文 LR	168-2	Po3055

第228図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土土器（5）



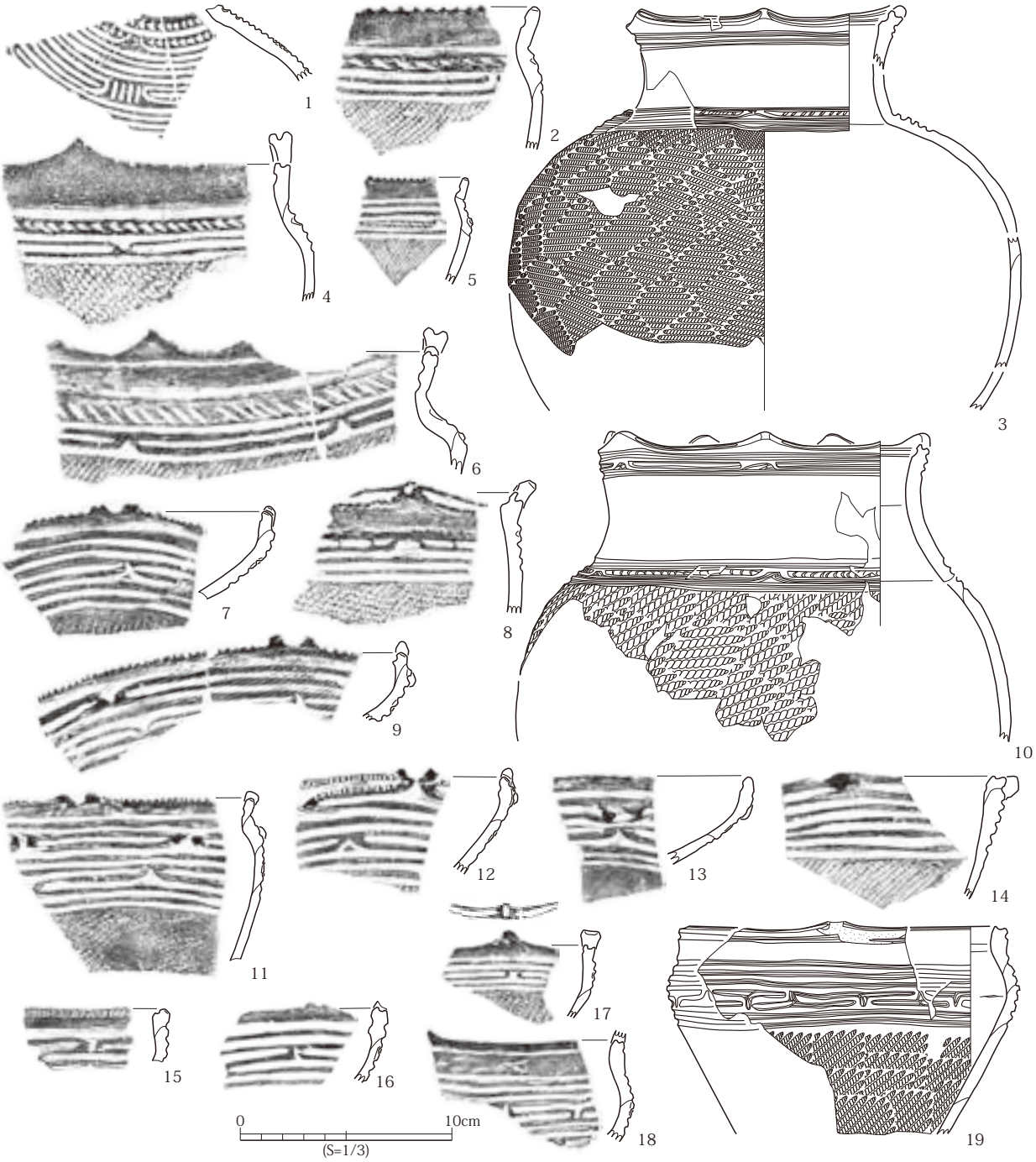
No.	器種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	B1d	XⅢ	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d	口径（29.9cm）、最大径（31.4cm）。平縁。ヘラ刻目。横位沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	167-6	Po2911
2	深鉢	A1cdf	XⅣ a1	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	平縁。二個一対の山形突起 + 突起間沈線 + ヘラ刻目。縄文 LR	168-8	Po3225
3	浅鉢	C2	XⅤ	2A 層群	F-23 南イ + 南 / Ⅵ d1+ Ⅵ d	口径（17.1cm）、器高 6.7cm、底径（5.0cm）。小波状縁。底部調整不明	167-4	Po2992
4	壺	H1	XⅣ b1	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	口径 5.7cm、器高 9.6cm、最大径 9.2cm、底径 3.9cm。平縁。二個一対の突起 1 単位。縄文 LR。底部ミガキ。口縁部付近に貫通孔 2	168-23	Po3235
5	壺	-	XⅤ	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d	平縁	168-5	Po2913
6	壺	G1c	XⅢ	2A 層群	F-23 西 / Ⅵ d1+ Ⅵ b・d	口径（10.0cm）、最大径（21.3cm）。平縁。横位沈線文。羽状縄文 LR/RL	168-22	Po2805
7	壺	-	XⅤ	2A 層群	F-23 南ホ / Ⅵ d	平縁（玉縁）	168-6	Po3124
8	壺	H1	XⅤ	2A 層群	F-23 南ニ / Ⅵ d	平縁	168-7	Po3098
9	深鉢	A1d	X c	2A 層群	F-23 南ニ / Ⅵ d	平縁。櫛歯状刻目。工字文（Z 字状）+ 二個一対の貼瘤。縄文 LR。口縁部内面沈線	168-12	Po3110
10	壺	-	Ⅸ a+ Ⅸ o+ X c	2A 層群	F-23 西 / Ⅵ d2+ Ⅵ b・d+ Ⅵ確認面	最大径（24.3cm）、底径（7.2cm）。平行沈線文、π字文（下向）、工字文（Z 字状、磨消縄文）、π字文（上向、沈線表現）。縄文 LR。底部ナデ	167-5	Po2806
11	鉢	B1df	Ⅸ a	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。平行沈線文、π字文（下向 + 上向）。縄文 LR。口縁部内面平行沈線文	168-9	Po2901
12	鉢	A1df	Ⅷ + X c	2A 層群	F-23 南チ + 南 / Ⅵ d+ Ⅵ確認面	平縁。二個一対の山形突起 + ヘラ刻目。メガネ状浮文、工字文（Z 字状、磨消縄文）。縄文 LR。口縁部内面沈線。補修孔 1	168-10	Po3297
13	浅鉢	A1df	Ⅷ + Ⅸ a	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	平縁。二個一対の小突起 + 櫛歯状刻目。メガネ状浮文 + 二個一対の貼瘤 + 櫛歯状刻目、平行沈線文、π字文（下向 + 上向）。縄文 LR。口縁部内面沈線	168-11	Po3256

第229図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土土器（6）



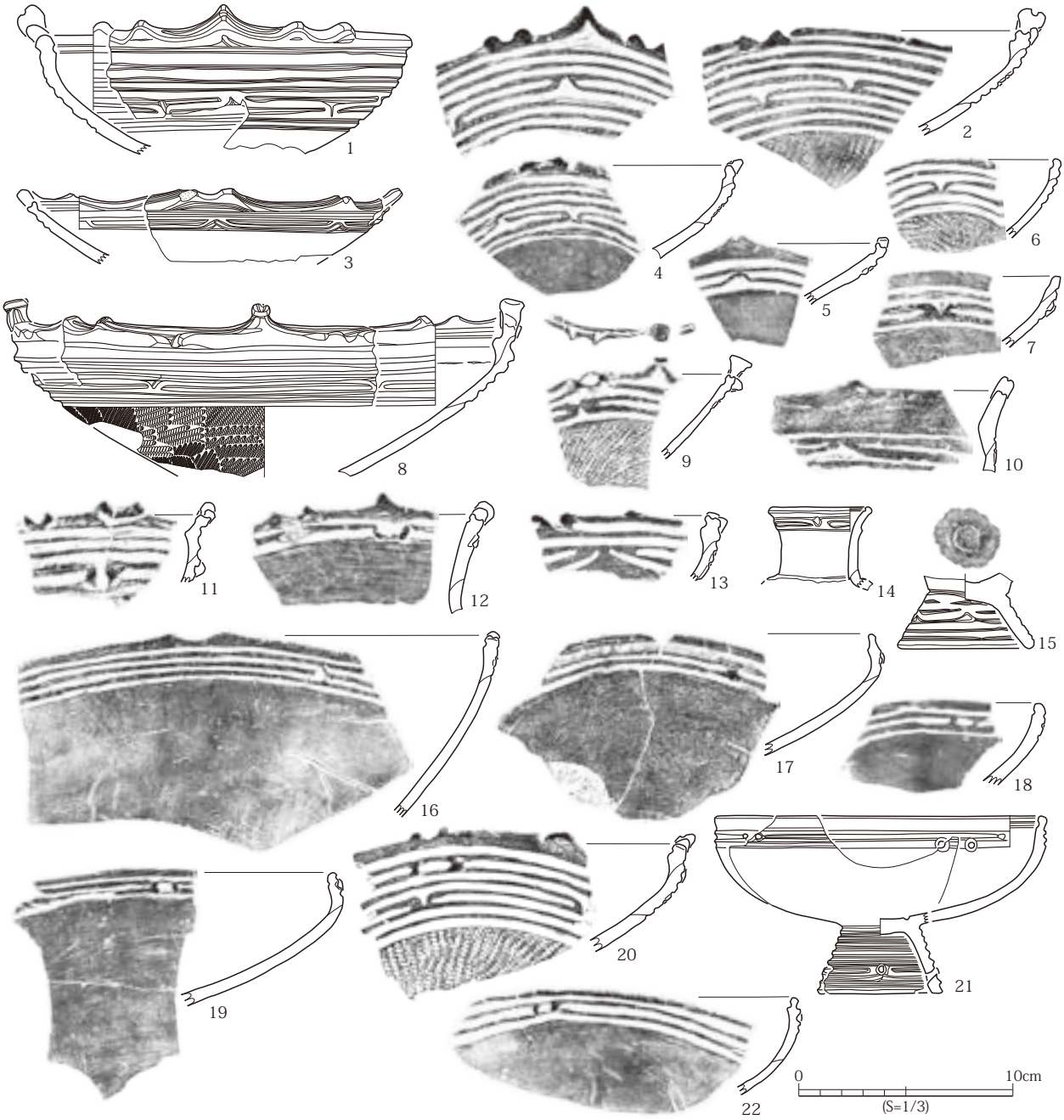
No.	器種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	四脚付鉢	A1cf	Ⅸ a+ Ⅹ c	2A 層群	F-23 南ロ / Ⅵ d	口径（43.2cm）、器高 20.7cm、底径（16.5cm）。平縁。山形突起 + 小突起 + 口唇部沈線。平行沈線文、工字文（Z 字状）、底部付近に π 字文（下向）。縄文 RL。底部ミガキ。口縁部内面平行沈線文	168-13	Po3039
2	鉢	A1df	Ⅹ Ⅱ f+ Ⅹ Ⅱ g1	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1・2	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。平行沈線文 + 縦位の隆帯 + 縦位の沈線文。縄文 RL。口縁部内面沈線	168-14	Po3004
3	脚部	-	Ⅹ Ⅱ x	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	底径 4.8cm。平行沈線文。縄文 LR。十字状の平行沈線文	168-15	Po2936
4	四脚付鉢	-	Ⅹ Ⅲ	2A 層群	F-23 南ロ / Ⅵ d	底径 5.3cm。横位沈線文。縄文 LR。十字状の沈線文	168-16	Po3036
5	鉢	A1cf	Ⅹ b	2A 層群	F-23 南ハ / Ⅵ d	平縁。二個一対の小突起 + 口唇部沈線。平行沈線文、工字文（陽刻）。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	168-17	Po3080
6	鉢	B1cd	Ⅹ b	2A 層群	F-23 南ハ / Ⅵ d	平縁。口唇部沈線 + 押圧。平行沈線文、工字文（陽刻）。口縁部内面沈線。内外面・口唇部赤彩	168-20	Po3071
7	深鉢	C1cdf	Ⅷ + Ⅹ b	2A 層群	F-23 南 チ - 西 + 南 チ + 南 / Ⅵ d+ Ⅵ確認面 + Ⅴ	平縁。二個一対の山形突起 + ヘラ刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文、メガネ状浮文 + 二個一対の貼瘤、入組工字文（陽刻）。縄文 LR。口縁部内面沈線	168-19	Po3328
8	鉢	A1cef	Ⅹ b	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	平縁。山形突起の両側に二個一対の小突起 + 口唇部沈線。平行沈線文、工字文（陽刻）。突起・口縁部内面沈線	168-18	Po2979
9	壺	-	Ⅸ a+ Ⅹ a	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	工字文（陰刻）3 段、π 字文（上向）、平行沈線文	168-21	Po3200
10	壺	-	Ⅷ + Ⅹ a	2A 層群	F-23 南ヘ + ト + チ / Ⅵ d+ Ⅴ	底径 7.9cm。平行沈線文、メガネ状浮文 + 二個一対の貼瘤、浮線渦巻文（工字文（陰刻））。底部摩滅	169-2	Po3219
11	壺	-	Ⅹ Ⅱ d2	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d	平行沈線文 + 斜位の平行沈線文（綾杉状）	169-1	Po2893
12	壺	-	Ⅵ a	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	最大径（12.9cm）。底径 5.8cm。平行沈線文、Z 字状文（綾杉状）、底部付近に横位沈線文。底部ナデ	169-4	Po3375
13	壺	-	Ⅵ a+ Ⅸ a+ Ⅹ b	2A 層群	F-23 南ト + チ / Ⅵ d+ Ⅴ	平行沈線文、π 字文（下向）、工字文（陽刻）、Z 字状文（綾杉状）	169-3	Po3254

第230図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土土器（7）



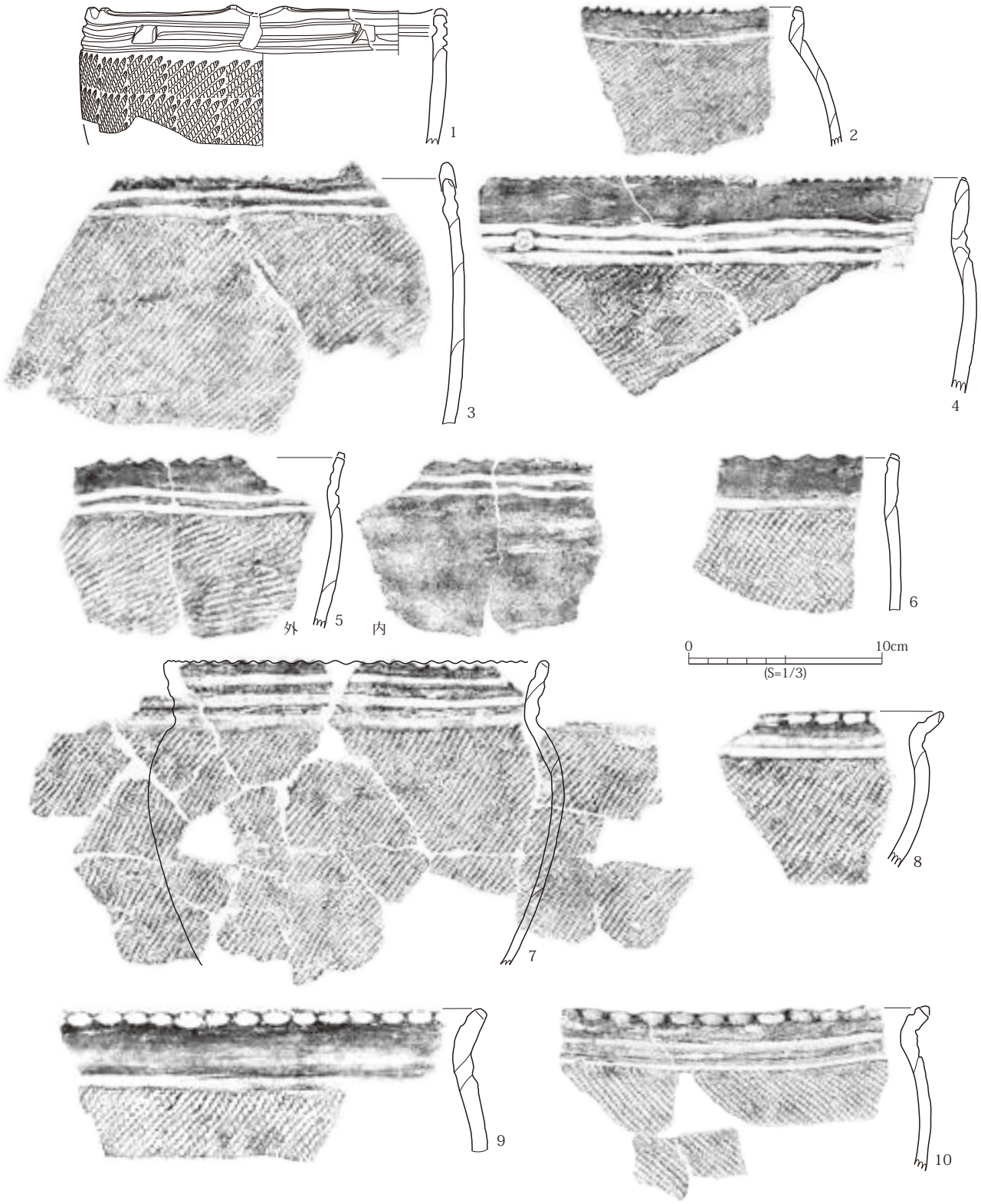
No.	器種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	壺	-	Ⅸ a2+ Ⅹ b	2A 層群	F-23 南イ + ロ / Ⅵ d	平行沈線文 + 刺突列、π字文（下向）+ 刺突列、平行沈線文、工字文（陽刻）+ 縦位の平行短沈線文	169-5	Po2897
2	深鉢	B1d	Ⅸ a	2A 層群	F-23 南ハ / Ⅵ d	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文 + 刺突列、π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	169-6	Po3075
3	壺	G1cf	Ⅸ a2	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d	口径 13.3cm、最大径（24.2cm）。平縁。山形突起 6 単位 + 口唇部沈線。平行沈線文、π字文（下向）6 単位 + 刺突列。縄文 LR。口縁部内面沈線	169-16	Po2909
4	深鉢	C1ce	Ⅸ a	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	平縁。山形突起 + 口唇部沈線。平行沈線文 + 刺突列、π字文（上向）。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	169-9	Po2990
5	鉢	B1d	Ⅸ a1	2A 層群	F-23 南ヘ / Ⅵ d	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文、π字文（下向）+ 櫛歯状刻目。縄文 LR。口縁部内面沈線	169-7	Po3177
6	深鉢	B3cef	Ⅸ a	2A 層群	F-23 南 ト + 南 / Ⅵ d+ Ⅵ	大波状縁。山形突起（大・小）+ 口唇部沈線。平行沈線文 + 櫛歯状刻目、π字文（下向）。縄文 LR。突起・口縁部内面平行沈線文	169-8	Po3218
7	浅鉢	A1df	Ⅸ a	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。平行沈線文、π字文（上向）。縄文 LR。口縁部内面沈線	169-10	Po3366
8	深鉢	B1ce	Ⅸ a2	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ確認面	平縁。山形突起（頂部刻み）+ 口唇部沈線。π字文（下向）+ 刺突列、平行沈線文。縄文 RL。突起・口縁部内面沈線	169-11	Po3391
9	浅鉢	A1df	Ⅸ a	2A 層群	F-23 南 イ + 南 / Ⅵ d1・2+ Ⅵ d1	平縁。二個一対の小突起 + 櫛歯状刻目。π字文（上向）、π字文（下向 + 上向）、平行沈線文。口縁部内面沈線。内外面・口唇部炭化物付着	169-12	Po2982
10	壺	C1cf	Ⅸ a+ Ⅸ a2	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1+ Ⅴ	口径 16.0cm。平縁。山形突起 7 単位 + 口唇部沈線。π字文(下向)6 単位、π字文(下向)6 単位 + 刺突列、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	169-17	Po2952
11	鉢	B1df	Ⅷ + Ⅸ a	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	平縁。二個一対の山形突起 + ヘラ刻目。メガネ状浮文 + 二個一対の貼瘤、π字文(下向 + 上向)、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。内外面・口唇部炭化物付着	169-13	Po3260
12	浅鉢	A1df	Ⅷ + Ⅸ a	2A 層群	F-23 南ホ / Ⅵ d	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。メガネ状浮文 + 二個一対の貼瘤 + ヘラ刻目、π字文（下向）、平行沈線文。口縁部内面沈線。外面赤彩	169-14	Po3120
13	浅鉢	A1	Ⅷ + Ⅸ a	2A 層群	F-23 南チ / Ⅵ d	平縁。メガネ状浮文、π字文（下向）、平行沈線文。口縁部内面沈線	169-15	Po3298
14	鉢	A1cf	Ⅹ Ⅱ x	2A 層群	F-23 西 / Ⅵ d1	平縁。山形突起 + 口唇部沈線。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	170-1	Po2804
15	鉢	A1cd	Ⅸ a	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	平縁。櫛歯状刻目 + 口唇部沈線。π字文（上向）2 段	170-2	Po2960
16	浅鉢	A1cf	Ⅸ a	2A 層群	F-23 南ロ / Ⅵ d	平縁。山形突起 + 突起間沈線。平行沈線文、π字文（下向）。突起・口縁部内面沈線。外面・口唇部赤彩	170-3	Po3046
17	浅鉢	A1ce	Ⅸ a	2A 層群	F-23 南ロ / Ⅵ d	平縁。山形突起（頂部刻み）+ 突起間沈線。平行沈線文、π字文（下向）。直前段多条縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	170-4	Po3042
18	鉢	C1cf	Ⅸ a	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	平縁。山形突起 + 口唇部沈線。平行沈線文、π字文（下向 + 上向）。内面炭化物付着	170-5	Po3381
19	鉢	C1cf	Ⅸ a	2A 層群	F-23 南 ト + 南 / Ⅵ d+ Ⅴ	口径（15.0cm）、最大径（23.1cm）。平縁。山形突起 + 口唇部沈線。平行沈線文、π字文（下向 + 上向）。縄文 LR	170-6	Po3356

第231図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土土器（8）



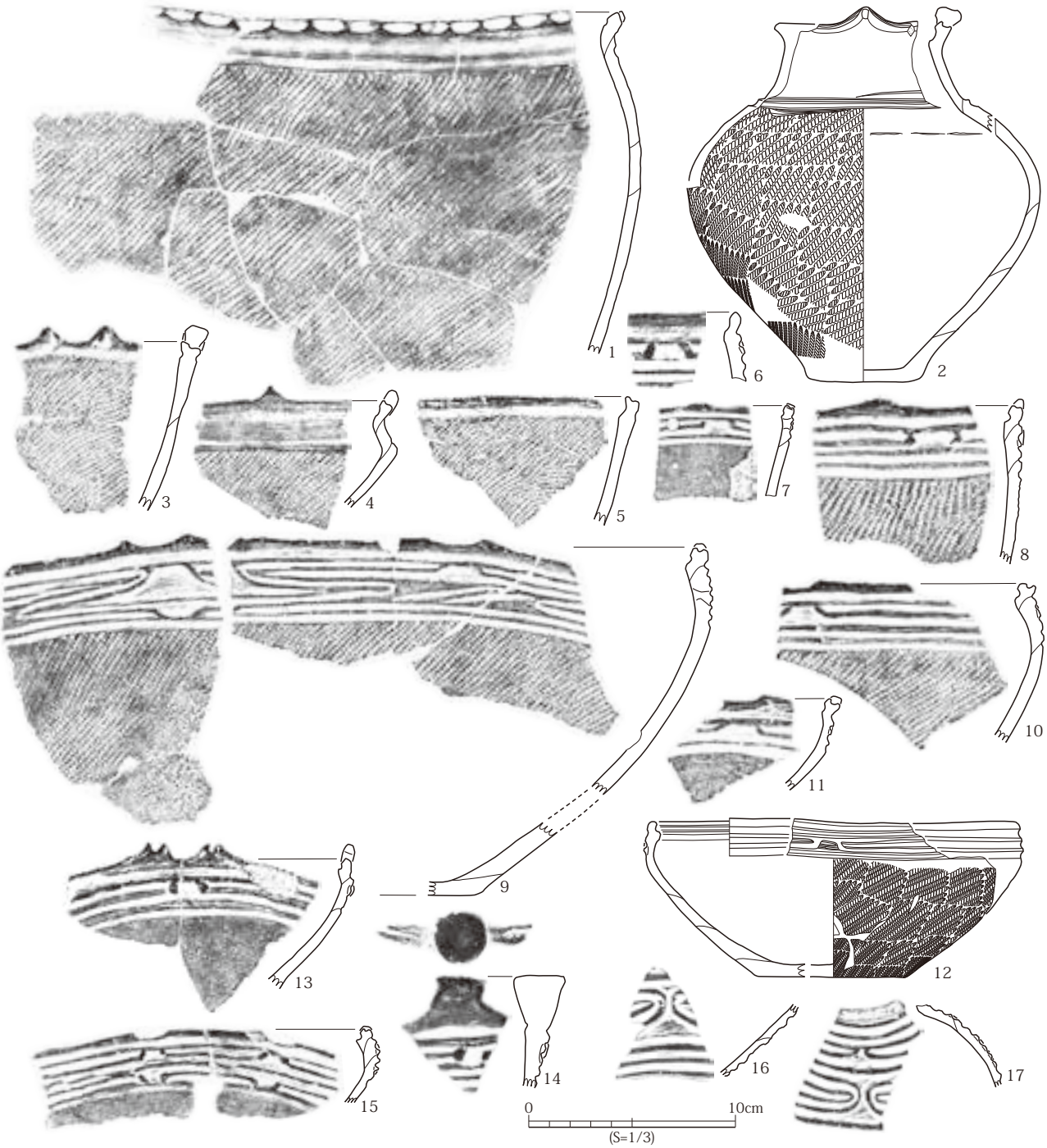
No.	器種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	浅鉢	B1cef	Ⅸ a+ Ⅹ a	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d+ Ⅴ	口径（16.8cm）。平縁。山形突起（大）の両側に二個一対の山形突起（小）+ 口唇部沈線。平行沈線文、π字文（下向）、工字文（陰刻）。突起・口縁部内面沈線	170-25	Po3217
2	浅鉢	A1cef	Ⅸ a	2A 層群	F-23 南ヘ / Ⅵ d	平縁。山形突起の両側に二個一対の小突起 + 口唇部沈線。平行沈線文、π字文（下向 + 上向）。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	170-7	Po3167
3	浅鉢	A1cf	Ⅸ a	2A 層群	F-23 南ロ + 南 / Ⅵ確認面 + Ⅴ	口径（16.8cm）。平縁。二個一対の山形突起 + 山形突起（頂部刻み）+ 突起間沈線。π字文（下向）。口縁部内面沈線	170-26	Po3392
4	浅鉢	A1f	Ⅸ a	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ確認面	平縁。二個一対の小突起。平行沈線文、π字文（下向 + 上向）。突起・口縁部内面沈線	170-8	Po3393
5	皿	A1cf	Ⅸ a	2A 層群	F-23 南ロ / Ⅵ d	平縁。山形突起（頂部刻み）+ 突起間沈線。π字文（下向）。口縁部内面平行沈線文。胎土に海綿骨針を含む	170-9	Po3049
6	浅鉢	A1	Ⅸ a	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	平縁。平行沈線文、π字文（上向）。縄文 RL。口縁部内面沈線	170-10	Po3230
7	浅鉢	A1	Ⅸ a	2A 層群	F-23 南ホ / Ⅵ d+ Ⅴ	平縁。平行沈線文、π字文（上向）	170-11	Po3140
8	浅鉢	B1cef	Ⅸ a	2A 層群	F-23 南ヘ + ト / Ⅵ d+ Ⅴ	口径（24.0cm）。平縁。山形突起（ボタン状突帯）の両側に二個一対の小突起 4 単位 + 二個一対の山形突起 4 単位 + 口唇部沈線。平行沈線文、π字文（上向）6 単位。縄文 LR。口縁部内面沈線	170-29	Po3237
9	浅鉢	A1cef	Ⅸ a	2A 層群	F-23 南チ / Ⅵ d	平縁。山形突起（頂部円盤状突帯）+ 二個一対の山形突起 + 口唇部沈線。平行沈線文、π字文（下向）。直前段多条縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	170-12	Po3294
10	深鉢	C1cf	Ⅸ a	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	平縁。山形突起 + 口唇部沈線。π字文（下向）、平行沈線文	170-13	Po3249
11	鉢	B1cf	Ⅸ b	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1・2+ Ⅵ d1	平縁。二個一対の山形突起 + 二個一対の小突起 + 口唇部沈線。弧状の短沈線文、平行沈線文、π字文（上向）+ 二個一対の貼瘤。突起・口縁部内面沈線	170-14	Po2981
12	壺	-	Ⅸ b	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	大波状縁。山形突起（大）+ 二個一対の山形突起（小）+ 突起間沈線。π字文（上向）+ 二個一対の貼瘤。口縁部内面沈線	170-15	Po2939
13	浅鉢	A1cf	Ⅹ Ⅱ d2	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	平縁。山形突起 + 二個一対の小突起 + 口唇部沈線。平行沈線文、斜位の平行沈線文（π字状）。口縁部内面沈線	170-16	Po3373
14	壺	H1	Ⅸ a	2A 層群	F-23 南ヘ / Ⅵ d	口径 4.8cm。平縁。口縁部にπ字文（上向）4 単位、頸部に横位沈線文。口縁部内面沈線	170-27	Po3166
15	台部	-	Ⅸ a	2A 層群	F-23 南ハ / Ⅵ d	台部径 6.2cm。平行沈線文、π字文（下向）5 単位	170-28	Po3076
16	浅鉢	A1cdf	Ⅸ a	2A 層群	F-23 南ニ / Ⅵ d	平縁。二個一対の山形突起 + 突起間沈線。π字文（下向）、平行沈線文	170-17	Po3100
17	浅鉢	A1	Ⅸ c	2A 層群	F-23 南ト + チ / Ⅵ d+ Ⅴ	平縁。π字文 + 二個一対の貼瘤。口縁部内面沈線	170-18	Po3241
18	浅鉢	A1	Ⅸ c	2A 層群	F-23 南チ / Ⅵ d	平縁。π字文。口縁部内面沈線	170-19	Po3305
19	浅鉢	A1	Ⅸ c	2A 層群	F-23 南ホ / Ⅵ d	平縁。π字文 + 二個一対の貼瘤。口縁部内面沈線	170-20	Po3129
20	浅鉢	A1ef	Ⅸ a+ Ⅸ c	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	平縁。二個一対の円形突起 + 二個一対の小突起。π字文 + 二個一対の貼瘤、π字文（上向）2 段、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	170-22	Po3263
21	台付浅鉢	A1	Ⅸ c?+ Ⅹ a	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	口径（15.2cm）、器高 8.2cm、台部径 5.4cm。平縁。π字文か、平行沈線文、工字文（陰刻）+ 刺突。底部ナデ。口縁部内面沈線、底部内面に環状沈線。補修孔 1	170-30	Po3377
22	浅鉢	A1	Ⅸ c	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	平縁。π字文 + 二個一対の貼瘤。口縁部内面沈線	170-21	Po3383

第232図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土土器（9）



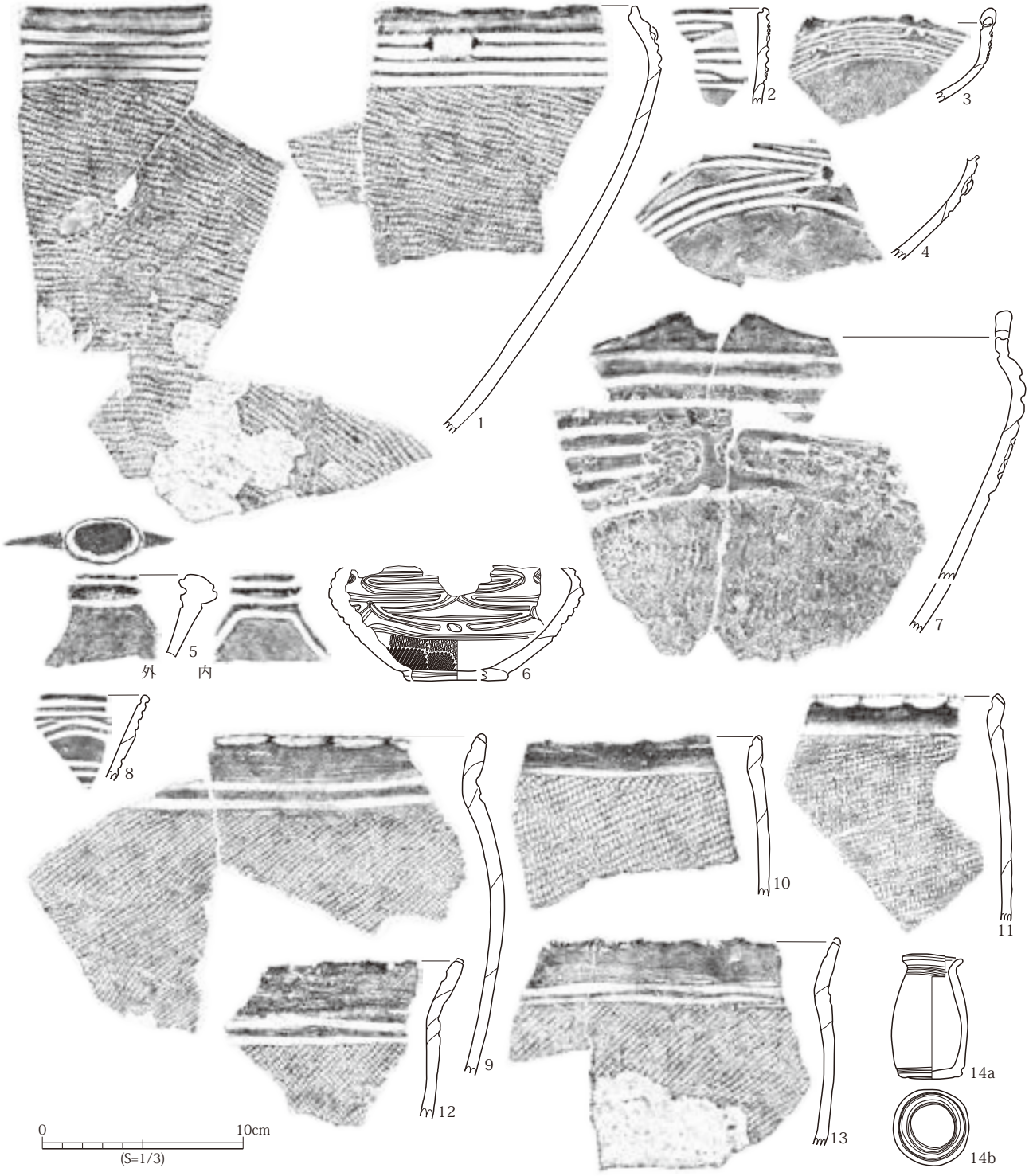
No.	器種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1cdf	Ⅸ e	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1+ Ⅴ	口径（18.2cm）。平縁。二個一対の山形突起 5 単位 + 突起間沈線。π字文（下向）5 単位。縄文 LR。口縁部内面沈線	170-23	Po2934
2	深鉢	B1d	Ⅹ Ⅲ	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	平縁。ヘラ刻目。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	170-24	Po3365
3	深鉢	A1df	Ⅹ Ⅱ x	2A 層群	F-23 南ニ / Ⅵ d	平縁。二個一対の山形突起 + ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	171-1	Po3093
4	深鉢	C1d	Ⅹ Ⅱ x	2A 層群	F-23 南ト + チ / Ⅵ d+ Ⅴ	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。外面炭化物付着。補修孔 1	171-2	Po3246
5	深鉢	C2	Ⅹ Ⅱ x	2A 層群	F-23 南チ / Ⅵ d+ Ⅴ	小波状縁。平行沈線文。無節縄文 L。口縁部内面平行沈線文	171-5	Po3290
6	深鉢	C2	Ⅹ Ⅲ	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	171-4	Po3205
7	深鉢	B2	Ⅹ Ⅱ x	2A 層群	F-23 南ロ / Ⅵ d	口径（19.6cm）、最大径（21.4cm）。小波状縁。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	171-3	Po3037
8	深鉢	B2	Ⅹ Ⅱ x	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	小波状縁。平行沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	171-6	Po3220
9	深鉢	B2	Ⅹ Ⅲ	2A 層群	F-23 南ニ / Ⅵ d	小波状縁。横位沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	171-8	Po3111
10	深鉢	B2	Ⅹ Ⅲ	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	小波状縁。横位沈線文。縄文 RL。口縁部内面沈線	171-7	Po2968

第233図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土土器（10）



No.	器　種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	B2	XIII	2A 層群	F-23 南チ / VI d+ V	小波状縁。横位沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	171-9	Po3301
2	壺	G1cef	XII x	2A 層群	F-23 南ト / VI d+ V	口径（7.8cm）、器高 18.0cm、最大径 17.0cm、底径 6.0cm。平縁。山形突起（大）の両側に山形突起（小）1 単位 + 突起間沈線。平行沈線文。縄文 LR。底部ナデ。突起・口縁部内面沈線	171-16	Po3189
3	鉢	A1cf	XIII	2A 層群	F-23 南ヘ / VI d	平縁。二個一対の山形突起 + 突起間沈線。突起部に弧状の短沈線文、横位沈線文。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	171-10	Po3178
4	鉢	B1cf	XIII	2A 層群	F-23 南ハ / VI d	平縁。山形突起 + 突起間沈線。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	171-11	Po3115
5	鉢	A1c	XIII	2A 層群	F-23 南ヘ / VI d	平縁。口唇部沈線。横位沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	171-12	Po3175
6	鉢	B1	IX a	2A 層群	F-23 南ニ / VI d	平縁。π字文（下向）、平行沈線文。口縁部内面沈線。外面・口唇部黒彩	171-13	Po3114
7	浅鉢	A1cd	IX a	2A 層群	F-23 南ヘ / VI d	平縁。口唇部沈線 + 押圧。π字文（下向）、平行沈線文。口縁部内面沈線。補修孔 1	171-14	Po3174
8	深鉢	A1cf	IX b	2A 層群	F-23 南イ / VI d1	平縁。二個一対の山形突起、突起間沈線。π字文（下向）+ 二個一対の貼瘤、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	171-15	Po2974
9	鉢	B1cf	IX a+ X I a	2A 層群	F-23 南 / VI d	平縁。二個一対の山形突起 + 突起間沈線。π字文（下向）、変形工字文（祖型）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。外面赤彩、内外面・口唇部炭化物付着	172-1	Po3380
10	鉢	B1cd	IX a	2A 層群	F-23 南 / VI d	平縁。口唇部沈線 + 押圧。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。外面赤彩	172-2	Po3382
11	浅鉢	A1cf	IX a	2A 層群	F-23 南 / VI d	平縁。二個一対の小突起 + 口唇部沈線。π字文（下向）、平行沈線文。口縁部内面沈線	172-3	Po3354
12	鉢	A1	IX a	2A 層群	F-23 南イ / VI d1	口径（17.7cm）、器高 8.1cm、底径（7.2cm）。平縁。π字文（下向）10 単位。直前段多条縄文 LR。底部ミガキ。口縁部内面沈線	172-23	Po2988
13	浅鉢	A1f	IX b	2A 層群	F-23 南 / VI確認面	平縁。二個一対の山形突起（頂部刻み）。π字文（下向）+ 二個一対の貼瘤、平行沈線文。口縁部内面沈線	172-4	Po3394
14	鉢	A1ce	IX b	2A 層群	F-23 南ト / VI d	平縁。方形突起（頂部円形突帯）+ 突起間沈線。π字文（下向）+ 二個一対の貼瘤。口縁部内面沈線	172-6	Po3233
15	浅鉢	A1cdf	IX a	2A 層群	F-23 南イ / VI d1	平縁。口唇部沈線 + 押圧。π字文（上下対向）。口縁部内面沈線	172-5	Po2955
16	浅鉢	-	X a	2A 層群	F-23 南イ / VI d1	工字文（陰刻）、底部付近に平行沈線文	172-7	Po2964
17	壺	-	IX a+ X a	2A 層群	F-23 南ハ / VI d	平行沈線文、π字文（下向）、工字文（陰刻）	172-8	Po3064

第234図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土土器（11）

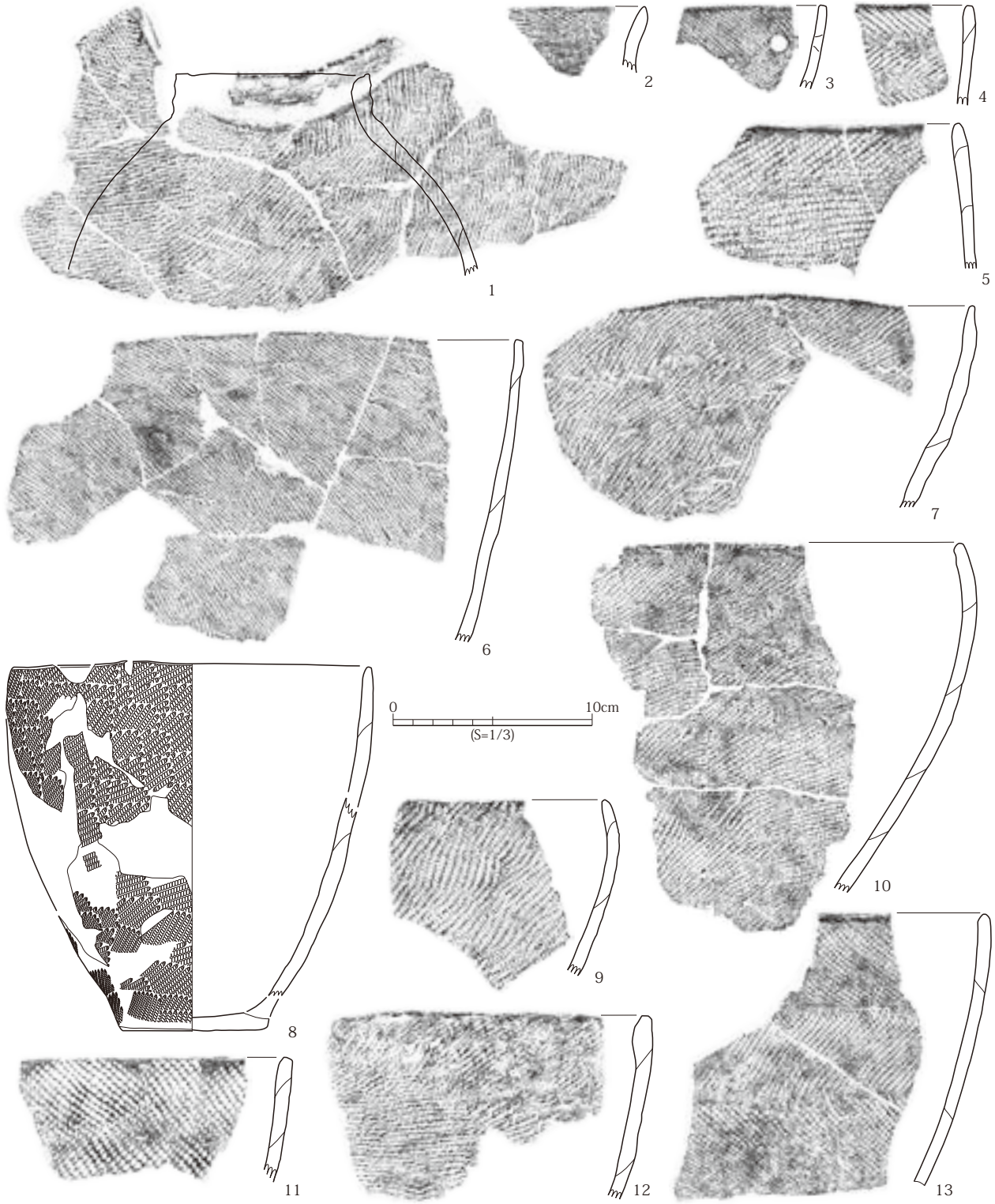


No.	器　種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	鉢	C1	Ⅸb	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ確認面	平縁。π字文（下向）+ 二個一対の貼瘤、平行沈線文。0 段多条縄文 RL。口縁部内面沈線	172-15	Po3398
2	鉢	A1c	Ⅸa+ Ⅹ Ⅰ b1	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	平縁。口唇部沈線。変形工字文、平行沈線文、π字文（上向）。胎土に海綿骨針を含む	172-9	Po2945
3	浅鉢	A1cef	Ⅸa+ Ⅹ Ⅰ b1	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	平縁。山形突起（頂部刻み）+ 二個一対の山形突起 + 突起間沈線。変形工字文、π字文（上向）。縄文 LR。口縁部内面沈線	172-10	Po3351
4	浅鉢	-	Ⅹ Ⅰ c	2A 層群	F-23 南ハ / Ⅵ d	平行沈線文、変形工字文 + 二個一対の貼瘤	172-11	Po3078
5	突起	-	-	2A 層群	F-23 南ハ / Ⅵ d	方形突起（頂部円盤状飾り + 平行沈線文）。突起部内面沈線	172-13	Po3070
6	壺	-	Ⅸa+ Ⅹ Ⅰ c	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	底径（5.0cm）。変形工字文 2 段、π字文（上向）。いずれも 5 単位か。縄文 LR。底部ナデ。外面赤彩	172-14	Po3334
7	鉢	C1ce	Ⅹ 1 c	2A 層群	F-23 南イ + 南 / Ⅵ d	平縁。二個一対の山形突起 + 突起間沈線。平行沈線文、変形工字文。縄文 LR か。口縁部内面沈線。外面炭化物付着	172-16	Po2912
8	浅鉢	A1	-	2A 層群	F-23 南ホ / Ⅵ d	平縁。平行沈線文、波状文。口縁部内面沈線	172-12	Po3135
9	深鉢	B2	ⅩⅡ x	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	小波状縁。平行沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	172-18	Po3313
10	深鉢	C2	ⅩⅢ	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	172-21	Po2967
11	深鉢	B2	ⅩⅣ b1	2A 層群	F-23 南ニ / Ⅵ d	小波状縁。縄文 LR。口縁部内面沈線。外面炭化物付着	172-20	Po3112
12	深鉢	C2	ⅩⅡ x	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	小波状縁。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	172-17	Po3250
13	深鉢	C2	ⅩⅡ x	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d	小波状縁。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。外面炭化物付着	172-19	Po2890
14	袖珍土器壺	H1	ⅩⅡ x	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ確認面	口径 2.9cm、器高 6.3cm、最大径 3.9cm、底径 3.1cm。平縁。頸部に平行沈線文、底部付近に横位沈線文。底部ミガキ + 環状沈線文	172-22	Po1836

第235図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土土器（12）

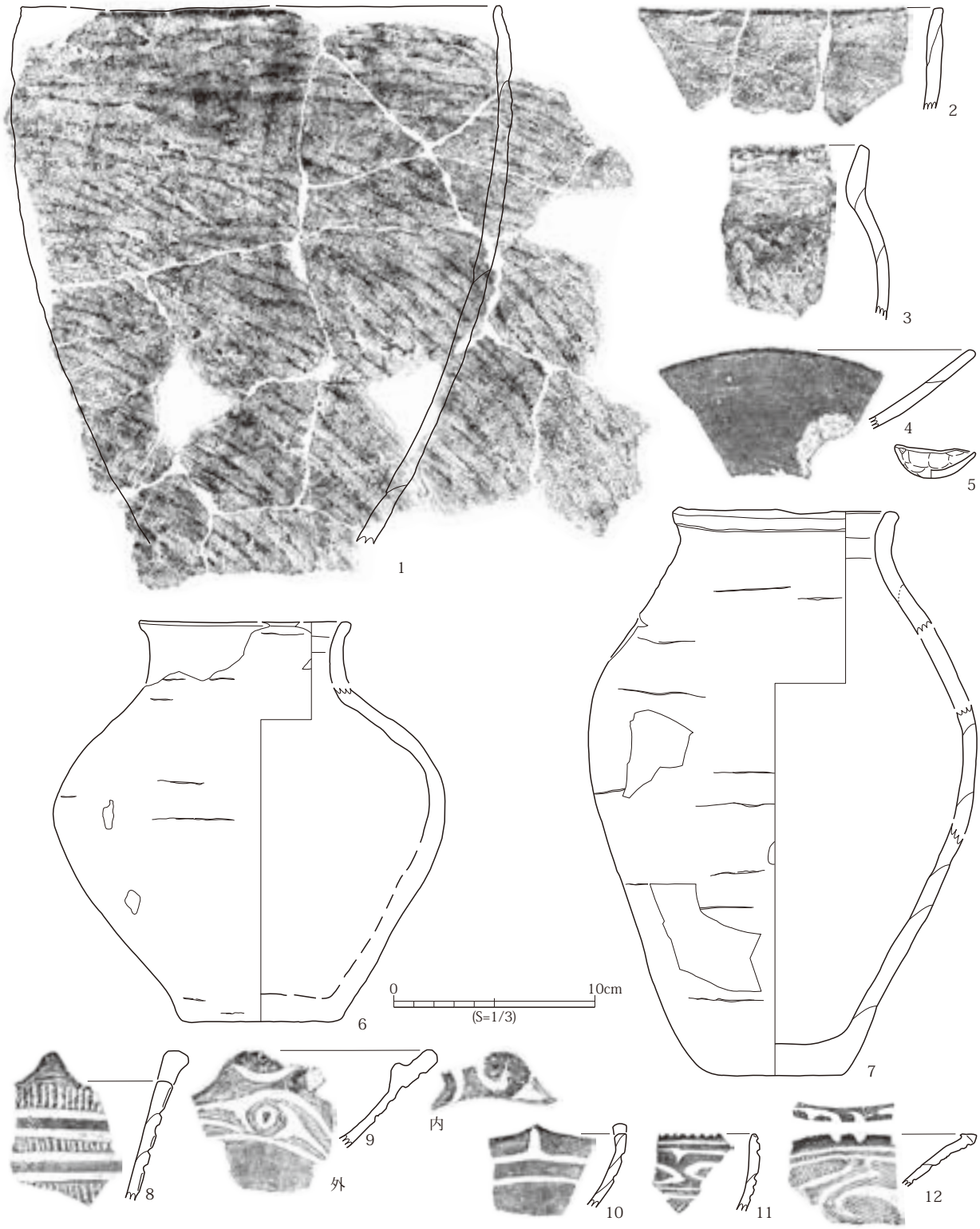
No.	器　種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	C2	XIV b1	2A 層群	F-23 南ホ / VI d+ V	口径（34.5cm）、器高 38.1cm、最大径（36.9cm）、底径 10.9cm。小波状縁。縄文 LR。底部ケズリ。口縁部内面沈線	173-5	Po3148
2	深鉢	A1	XIV b1	2A 層群	F-23 南ト / VI d	平縁。縄文 LR	173-3	Po3232
3	深鉢	B1	XIV b1	2A 層群	F-23 南 ハ + ニ / VI d+ V	口径（21.8cm）、最大径（27.3cm）。平縁。縄文 LR。外面炭化物付着	173-4	Po3068
4	深鉢	C1	XIV b1	2A 層群	F-23 南 イ + ロ / VI d+ V	口径（19.0cm）、最大径（20.0cm）。平縁。S 字状の結節。縄文 LR	173-1	Po3053
5	深鉢	B2	XIII	2A 層群	F-23 南 ロ + 南 / VI d+ VI確認面 + V	口径 19.8cm、器高 29.2cm、最大径（20.7cm）、底径（7.6cm）。小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。底部ナデ。口縁部内面沈線。外面炭化物付着	174-10	Po3338

第236図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土土器（13）



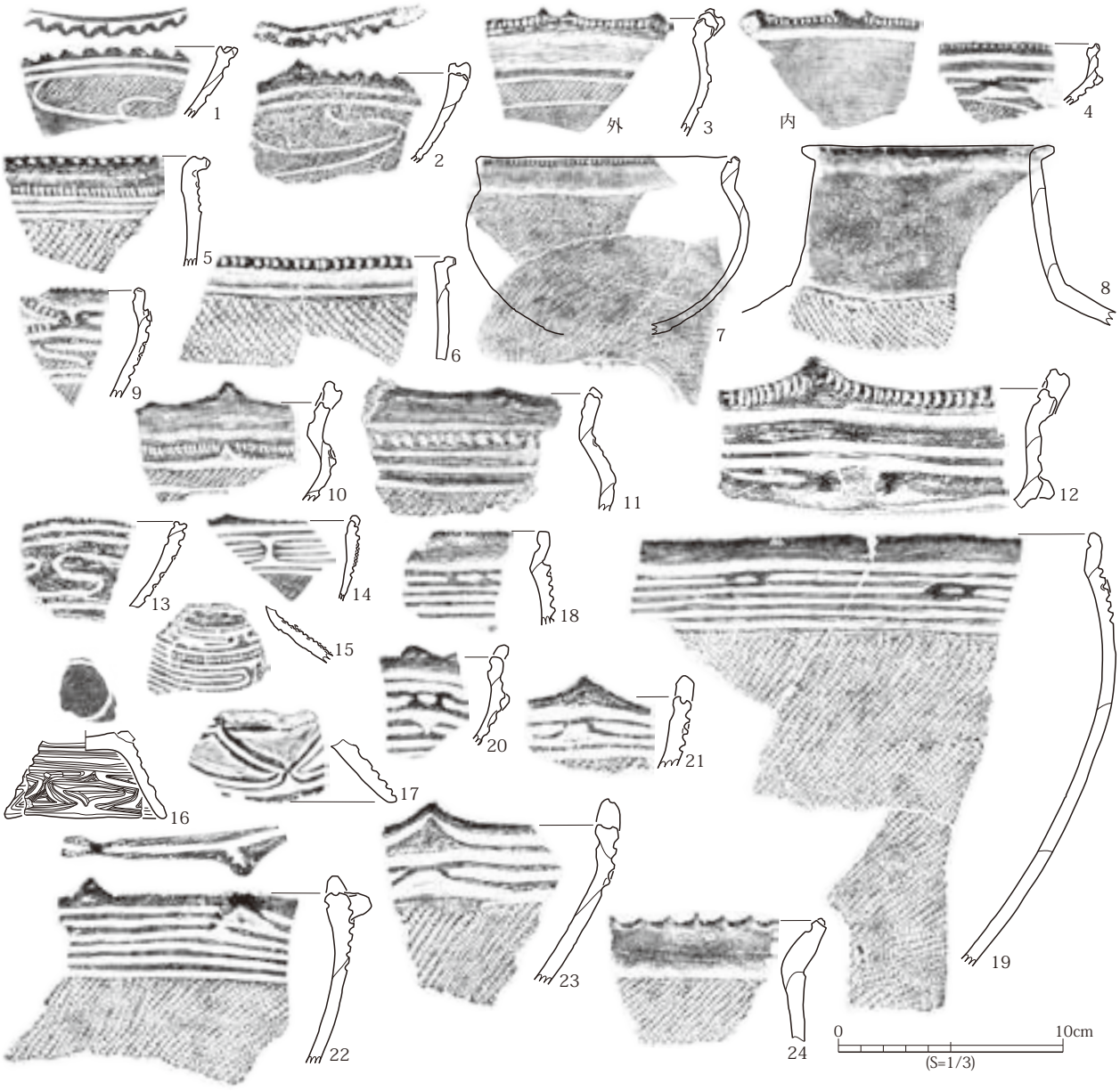
No.	器　種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	壺	E1c	XIV b1	2A 層群	F-23 南イ / VI d	口径（9.6cm）、最大径（20.3cm）。平縁。口唇部沈線。直前段多条縄文 LR	174-7	Po2915
2	壺	B1	XIV b1	2A 層群	F-23 南ロ / VI d	平縁。頸部ナデ（磨消縄文）。無節縄文 L	174-1	Po3041
3	深鉢	A1	XIV a2	2A 層群	F-23 南 / VI d	平縁。羽状縄文 RL/LR。補修孔 1	174-2	Po3331
4	深鉢	A1	XIV a2	2A 層群	F-23 南チ - 西 / VI d	平縁。羽状縄文 RL/LR（平行に磨消）	174-3	Po3327
5	深鉢	A1	XIV a1	2A 層群	F-23 南 / VI d	平縁。縄文 LR。胎土に海綿骨針を含む	173-2	Po3363
6	深鉢	A1	XIV a1	2A 層群	F-23 南イ / VI d1+ VI d	平縁。縄文 RL	174-6	Po2886
7	鉢	A1	XIV a1	2A 層群	F-23 南イ / VI d1	平縁。縄文 LR	174-5	Po3960
8	深鉢	A1	XIV a1	2A 層群	F-23 南イ / VI d	口径 17.8cm、器高 18.5cm、底径 7.1cm。平縁。縄文 LR。底部ミガキ	174-11	Po2918
9	深鉢	A1	XIV a1	2A 層群	F-23 南ニ / VI d	平縁。0 段多条縄文 LR。内外面炭化物付着	174-8	Po3109
10	深鉢	A1	XIV a1	2A 層群	F-23 南イ / VI d1	平縁。縄文 LR	175-1	Po2950
11	深鉢	A1	XIV a1	2A 層群	F-23 南ニ / VI d	平縁	175-4	Po3099
12	深鉢	A1	XIV a1	2A 層群	F-23 南チ / VI d	平縁。無節縄文 L	175-2	Po3265
13	深鉢	A1	XIV a2	2A 層群	F-23 南 / VI d	平縁。羽状縄文 RL/LR	174-9	Po3362

第237図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土土器（14）



No.	器　種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1	ⅩⅤ	2A 層群	F-23 南イ＋ロ / Ⅵ d+ Ⅴ	口径（23.6cm）。平縁	176-1	Po3050
2	深鉢	A1	ⅩⅤ	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	平縁	174-4	Po2991
3	深鉢	C1	ⅩⅤ	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1・2	平縁	175-3	Po3002
4	皿	A1	ⅩⅤ	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d	平縁	175-5	Po2927
5	袖珍土器皿	A1	ⅩⅤ	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	口径 4.1cm、器高 1.8cm。平縁。丸底ミガキ	175-20	Po3376
6	壺	D1	ⅩⅤ	2A 層群	F-23 南チ / Ⅵ d	口径（10.0cm）、器高 19.4cm、最大径 19.5cm、底径 8.2cm。平縁。底部ケズリ。体部に使用時とみられる貫通孔 1	175-21	Po1850
7	壺	C1	ⅩⅤ	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d	口径 10.6cm、最大径 19.3cm、底径 6.5cm。平縁。底部摩滅	175-22	Po2914
8	深鉢	A1e	Ⅰ c	1 層群	F-23 西 / Ⅵ b・d	平縁。山形突起。帯状文（櫛歯状刻目）	175-7	Po2858
9	浅鉢	A1e	Ⅲ a	1 層群	F-23 西 / Ⅵ b・d	平縁。二個一対の円形突起。魚眼状三叉文。縄文 LR。突起部内面三叉文、弧状の沈線文、縄文 LR	175-8	Po2844
10	浅鉢	A1f	ⅩⅡ g1	1 層群	F-23 西 / Ⅵ b・d	平縁。山形突起。平行沈線文＋縦位の短沈線文	175-17	Po2851
11	鉢	A1d	Ⅵ b	1 層群	F-23 西 / Ⅵ b・d	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文、X 字状文（C 字状文）。縄文 LR	175-13	Po2852
12	皿	A1cd	Ⅶ a	1 層群	F-23 西 / Ⅵ b・d	平縁。内面に弧状の短沈線文＋ヘラ刻目。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR	175-9	Po2839

第238図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土土器（15）



No.	器種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	Ⅲ	A1bd	Ⅶb	1 層群	F-23 西 / Ⅵb・d	平縁。ヘラ刻目＋波状浮線文。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR	175-10	Po2825
2	Ⅲ	A1bdf	Ⅶb	1 層群	F-23 西 / Ⅵb・d	平縁。山形突起＋ヘラ刻目＋波状浮線文。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。体部下半内面隆帯	175-11	Po2856
3	鉢	D1cdf	Ⅶb	1 層群	F-23 西 / Ⅵb・d	平縁。山形突起＋二個一対の山形突起＋ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	175-12	Po2831
4	浅鉢	B1cd	Ⅶb+Ⅷ	1 層群	F-23 西 / Ⅵb・d	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。平行沈線文、メガネ状浮文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR	175-18	Po2824
5	深鉢	B1cd	ⅩⅡa2	1 層群	F-23 西 / Ⅵb・d	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。刺突（盲孔）1、平行沈線文＋櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文 LR 末端部強調	175-16	Po2830
6	深鉢	B1cd	ⅩⅢ	1 層群	F-23 西 / Ⅵb・d	平縁。ヘラ刻目＋口唇部沈線。横位沈線文。縄文 LR	175-14	Po2823
7	鉢	B1d	ⅩⅢ	1 層群	F-23 西 / Ⅵ確認面	口径（11.3cm）、器高（7.9cm）、最大径（12.6cm）、底径（5.7cm）。平縁。櫛歯状刻目。横位沈線文。縄文 LR。底部ミガキ。口縁部内面沈線	175-19	Po2866
8	壺	H1	ⅩⅢ	1 層群	F-23 西 / Ⅵb・d	口径（11.1cm）。平縁。横位沈線文。縄文 RL	175-6	Po2854
9	鉢	A1d	Ⅸa	1 層群	F-23 西 / Ⅵb・d	平縁。ヘラ刻目。π字文（上向）＋ヘラ刻目、π字文（下向＋上向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。内面・口唇部炭化物付着	176-8	Po2836
10	深鉢	C1cef	Ⅸa2	1 層群	F-23 西 / Ⅵb・d	平縁。山形突起（大）＋山形突起（小）＋口唇部沈線。π字文（下向）＋櫛歯状刻目、平行沈線文。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線。内面・口唇部炭化物付着	175-15	Po2845
11	深鉢	B1cef	Ⅸd	1 層群	F-23 西 / Ⅵb・d	平縁。山形突起（大）か＋山形突起（小）＋口唇部沈線。π字文（下向）＋刺突列。縄文 LR。口縁部内面平行沈線文。内外面・口唇部炭化物付着	176-2	Po2821
12	鉢	B3cd	Ⅷ	1 層群	F-23 西 / Ⅵb	大波状縁。櫛歯状刻目＋口唇部沈線。平行沈線文、メガネ状浮文＋二個一対の貼瘤。突起・口縁部内面沈線	176-3	Po2802
13	Ⅲ	A1c	Ⅹb	1 層群	F-23 西 / Ⅵb・d	平縁。口唇部沈線。平行沈線文、入組工字文（陽刻）。口縁部内面平行沈線文	176-9	Po2815
14	鉢	A1cf	Ⅹa	1 層群	F-23 西 / Ⅵb・d	平縁。二個一対の山形突起＋突起間沈線。工字文（陰刻）。口縁部内面沈線	176-10	Po2850
15	壺	-	Ⅸb+Ⅹa	1 層群	F-23 西 / Ⅵb・d	平行沈線文＋刺突列、π字文（下向）＋二個一対の貼瘤、工字文（陰刻）、平行沈線文	176-11	Po2860
16	台部	-	Ⅸa+Ⅹc	1 層群	F-23 西 / Ⅵb・d	台部径 7.2cm。平行沈線文、π字文（上下対向）4 単位、透かし彫りを伴う工字文（Z 字状）4 単位。底部ミガキ	176-17	Po2818
17	台部	-	Ⅹc	1 層群	F-23 西 / Ⅵb・d	工字文（Z 字状）	176-12	Po2857
18	深鉢	B1	Ⅸc	1 層群	F-23 西 / Ⅵb・d	平縁。π字文、平行沈線文。口縁部内面沈線	176-13	Po2838
19	深鉢	B1	Ⅸc	1 層群	F-23 西 / Ⅵ確認面	平縁。π字文２段、平行沈線文。縄文 LR 末端部強調。口縁部内面沈線	176-14	Po2865
20	浅鉢	A1f	Ⅷ+Ⅸa	1 層群	F-23 西 / Ⅵb・d	平縁。二個一対の小突起。平行沈線文、メガネ状浮文、π字文（上向）。口縁部内面沈線	176-4	Po2853
21	深鉢	A1cf	Ⅸa	1 層群	F-23 西 / Ⅵb・d	平縁。山形突起＋突起間沈線。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。口唇部炭化物付着	176-5	Po2847
22	鉢	A1cef	Ⅸa	1 層群	F-23 西 / Ⅵb・d	平縁。山形突起（大）の両側に山形突起（小）＋二個一対の山形突起か＋口唇部沈線。π字文（下向）、平行沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線	176-7	Po2833
23	鉢	A1ce	Ⅸa	1 層群	F-23 西 / Ⅵb・d	平縁。山形突起＋口唇部沈線。平行沈線文、π字文（下向）。縄文 LR。口縁部内面沈線	176-6	Po2861
24	深鉢	B2	ⅩⅢ	1 層群	F-23 西 / Ⅵb・d	小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。外面炭化物付着	176-15	Po2816

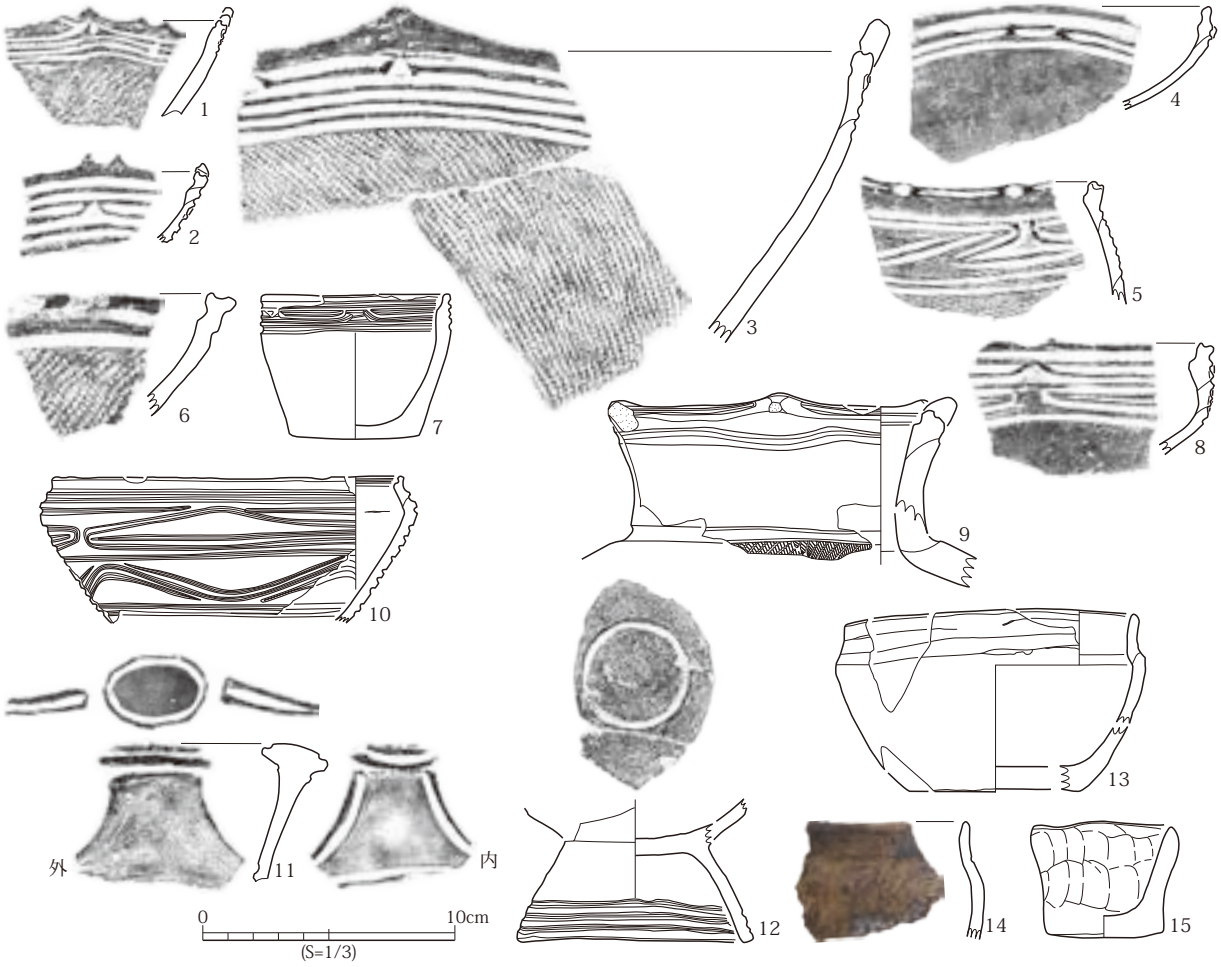
第239図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土土器（16）

No.	器種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	B1	XIII	1 層群	F-23 西 / VI確認面	口径（29.7cm）、最大径（30.8cm）。平縁。横位沈線文。口縁部内面沈線。内外面炭化物付着	176-16	Po2864
2	深鉢	B2	XIII	1 層群	F-23 西 / VI b・d+ VI確認面	口径（23.0cm）、最大径（23.4cm）。小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	177-3	Po2841
3	深鉢	B2	XIII	1 層群	F-23 西 / VI b・d+ VI b+ VI確認面	口径（26.4cm）、最大径（27.6cm）。小波状縁。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。補修孔 4	177-2	Po2801

第240図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土土器（17）

No.	器　種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1	XIV a1	1 層群	F-23 西 / VI b・d	平縁。縄文 LR	177-5	Po2820
2	深鉢	A1	XIV a2	1 層群	F-23 西 / VI b・d	平縁。羽状縄文 LR/RL	177-6	Po2827
3	深鉢	A1	XIV a2	1 層群	F-39 / VI a	平縁。羽状縄文 LR/RL（平行に磨消）。補修孔 1	177-7	Po3653
4	アスファルト容器（深鉢）	-	XIV a1	1 層群	F-23 西 / VI b・d	底径（7.6cm）。縄文 RL。底部ナデ。内外面アスファルト付着	177-1	Po2862
5	袖珍土器台付鉢	-	X V	1 層群	F-23 西 / VI b・d	底径 2.8cm	177-4	Po3944
6	突起	-	X III	V	F-23 南イ / V	方形突起（頂部平行短沈線文）。縦位の短沈線文、横位沈線文。突起部内面に縦位の短沈線文	177-10	Po2872
7	鉢	A1d	IV + V	V	F-23 南チ / V	平縁。ヘラ刻目（突起頂部刻み）。羊歯状文、列点文、平行沈線文。縄文 LR	177-13	Po3284
8	香炉形土器	-	III o	V	F-23 南イ + ハ / V	二個一対の小突起 + ヘラ刻目。透かし彫りを伴う三叉文	177-8	Po3059
9	III	A1	VII a	V	F-23 西 / V	平縁。平行沈線文、雲形文（浮彫表現、磨消縄文）。縄文 LR	177-9	Po2776
10	壺	-	VII b	V	F-23 西 / V	平行沈線文 + 二個一対の小突起、雲形文（沈線表現、磨消縄文）、平行沈線文。縄文 LR	177-12	Po2758
11	鉢	A1	VI b	V	F-23 西 / V	平縁。X 字状文（渦巻状）、平行沈線文	177-11	Po2781
12	注口土器	-	VII b	V	F-23 西 / V	平行沈線文 + 二個一対の山形突起 + ヘラ刻目、平行沈線文、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR	177-14	Po2797
13	壺	-	VII b+ X a	V	F-23 南チ / V	雲形文（沈線表現、磨消縄文）、平行沈線文、工字文（陰刻、磨消縄文）。縄文 LR	177-15	Po3288
14	注口土器	B1cef	VII b+ X a	V	F-23 南チ / V	平縁。山形突起（大）の両側に山形突起（小）+ 口唇部沈線。入組工字文（陰刻、磨消縄文）、雲形文（沈線表現、磨消縄文）。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	177-16	Po3278
15	深鉢	B1cd	X III	V	F-23 西 / V	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。横位沈線文。縄文 LR 末端部強調	177-18	Po2764
16	浅鉢	A1cef	VIII + IX a+ X a	V	F-23 南ト / V	平縁。山形突起（大・小）+ 口唇部沈線。平行沈線文、メガネ状浮文（磨消縄文）、工字文（陰刻、磨消縄文）、π 字文（上向、磨消縄文）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	177-19	Po3192
17	浅鉢	A1cef	IX a	V	F-23 西 / V	平縁。山形突起（頂部円形突帯 + 頂部刻み）+ 二個一対の小突起 + 口唇部沈線。平行沈線文、π 字文（上向）。縄文 LR 末端部強調。突起・口縁部内面沈線	177-17	Po2765
18	鉢	A1cf	IX a	V	F-23 南二 + ホ / V	平縁。山形突起 + 突起間沈線。π 字文（下向 + 上向）、π 字文（下向）、π 字文（上向）。無節縄文 R。口縁部内面沈線	177-20	Po3119
19	深鉢	A1ce	IX a	V	F-23 西 / V	平縁。山形突起 + 口唇部沈線。平行沈線文、π 字文（下向）、平行沈線文 + 刺突列。縄文 LR。口縁部内面沈線	177-22	Po2770
20	壺	G1	VIII + IX a2	V	F-23 南チ / V	口径 3.0cm。平縁。口縁部にメガネ状浮文 7 単位、体部上半に π 字文 4 単位 + 刺突列が 2 段。口縁部内面沈線	178-8	Po3276
21	壺	A1d	IX b	V	F-23 西 / V	平縁。ヘラ刻目。π 字文（上向）+ 二個一対の貼瘤、平行沈線文 + ヘラ刻目。口縁部内面平行沈線文	177-23	Po2792

第241図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土土器（18）



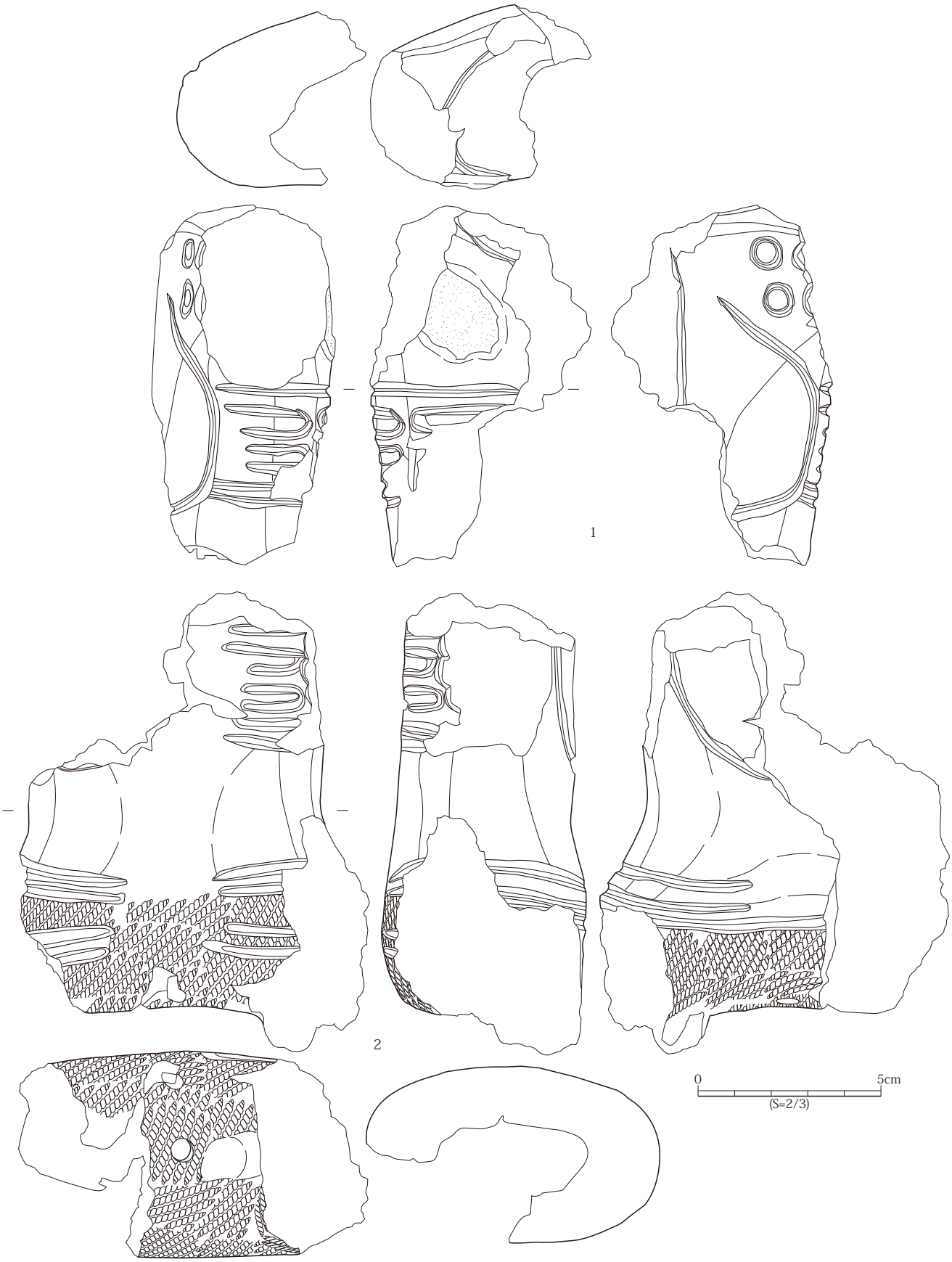
No.	器　種	類型 1	類型 2	大別層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	浅鉢	A1cf	Ⅸa	Ⅴ	F-23 南チ / Ⅴ	平縁。山形突起の両側に二個一対の山形突起＋突起間沈線。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR。突起・口縁部内面沈線	177-21	Po3282
2	浅鉢	A1cf	Ⅸa	Ⅴ	F-23 西 / Ⅴ	平縁。二個一対の山形突起＋突起間沈線。平行沈線文、π字文（下向）。口縁部内面沈線	177-24	Po2760
3	鉢	A1ce	Ⅸa	Ⅴ	F-23 南ニ / Ⅴ	平縁。山形突起＋突起間沈線。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 RL。口縁部内面沈線	177-25	Po3116
4	皿	A1	Ⅸc	Ⅴ	F-23 西 / Ⅴ	平縁。π字文＋二個一対の貼瘤。口縁部内面沈線。内外面赤彩	178-1	Po2761
5	深鉢	B1cd	ⅩⅠa	Ⅴ	F-23 南ヘ / Ⅴ	平縁。口唇部沈線＋ヘラ刻目。変形工字文（祖型）、平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線。内面炭化物付着	178-2	Po3147
6	浅鉢	B1c	ⅩⅡx	Ⅴ	F-23 南ヘ / Ⅴ	平縁。口唇部沈線。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	178-4	Po3227
7	小型鉢	A1	Ⅸa	Ⅴ	F-23 南イ / Ⅴ	口径 7.1cm、器高 6.0cm、底径 5.0cm。平縁。π字文（下向）4 単位、平行沈線文。底部ミガキ。口縁部内面沈線	178-9	Po2869
8	浅鉢	A1cd	Ⅸa+ⅩⅠb1	Ⅴ	F-23 南ロ / Ⅴ	平縁。口唇部沈線＋押圧。π字文（下向）、変形工字文。口縁部内面沈線	178-3	Po3034
9	壺	G1cf	ⅩⅢ	Ⅴ	F-23 南イ / Ⅴ	口径 13.1cm。平縁。山形突起 5 単位＋突起間沈線。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	178-12	Po2875
10	鉢	C1	ⅩⅠc	Ⅴ	F-23 南ハ＋ニ / Ⅴ	口径（13.7cm）、最大径（14.9cm）。平縁。平行沈線文、変形工字文、波状文。口縁部内面沈線	178-5	Po3084
11	突起	-	ⅩⅤ	Ⅴ	F-23 南ホ / Ⅴ	方形突起（頂部円盤状飾り＋平行沈線文）＋突起間沈線。突起・口縁部内面沈線	178-6	Po3118
12	台部	-	ⅩⅡx	Ⅴ	F-23 南ト / Ⅴ	台部径 9.5cm。平行沈線文。底部内面環状沈線。外面赤彩	178-10	Po3195
13	鉢	C1	ⅩⅤ	Ⅴ	F-23 南ニ＋ホ / Ⅴ	口径（11.4cm）、器高 7.2cm、最大径（12.3cm）、底径（6.8cm）。平縁。底部木葉痕か、かるい上げ底	178-13	Po3082
14	鉢	C1	ⅩⅢ	Ⅴ	F-23 南ニ / Ⅴ	平縁。横位沈線文。縄文 LR。内外面・口唇部赤彩	178-7	Po3091
15	袖珍土器鉢	A1	ⅩⅤ	Ⅴ	F-23 南ニ / Ⅴ	口径 5.4cm、器高 4.5cm、底径 4.6cm。平縁。底部ミガキ	178-11	Po2466

第242図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土土器（19）

側面にアスファルトとみられる黒色物質の付着が確認される。

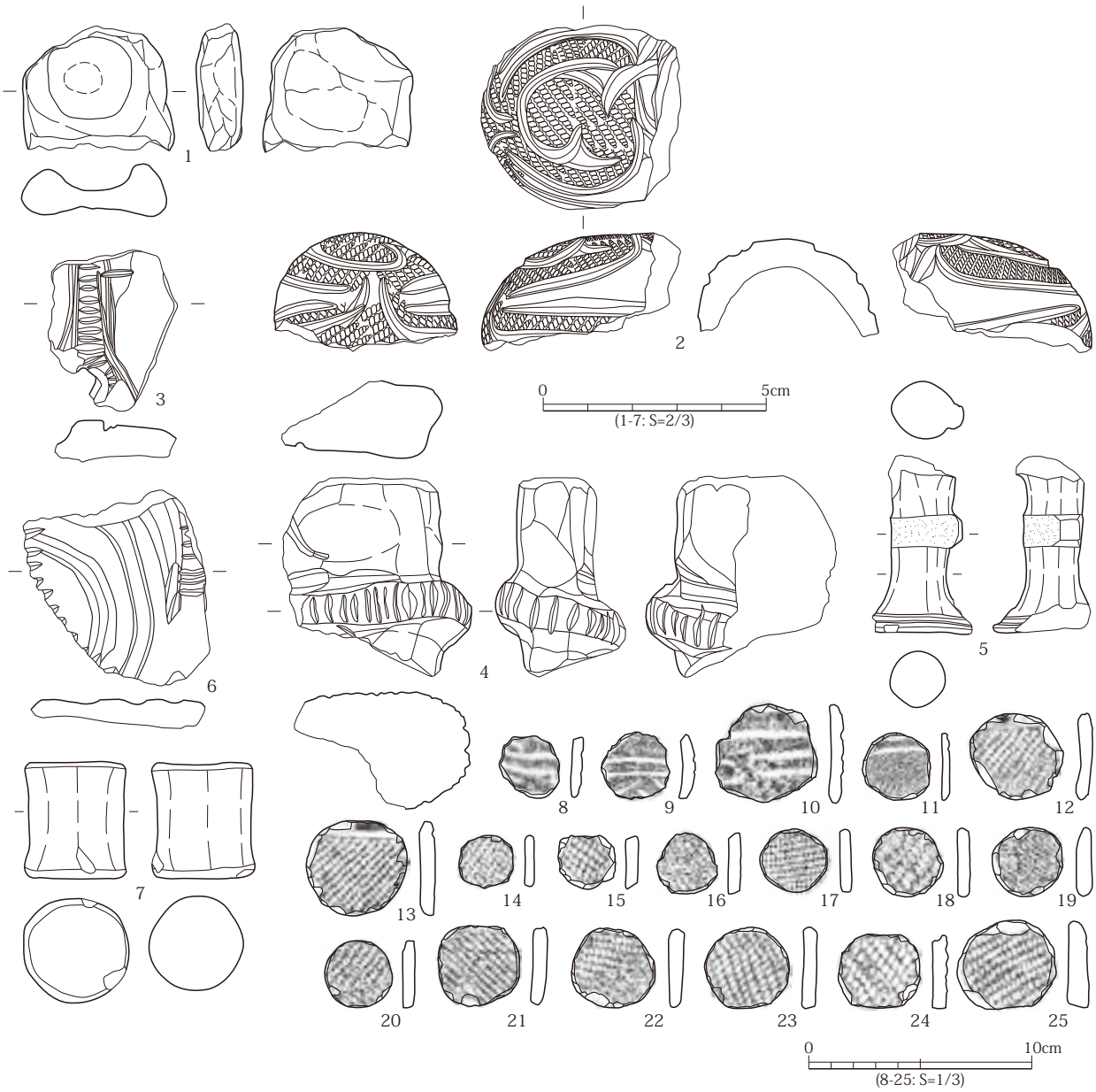
1 層群からは土版（第 245 図 11）や円盤状土製品（同図 13 ～ 16）、不明土製品（同図 12）が出土している。

なお、遺物包含層を覆うⅤ層の最下部からは、土偶右脚や動物形土製品（第 245 図 17）、土版（同図 20）、耳飾（同図 19）、スタンプ形土製品（同図 18）、円盤状土製品（同図 21 ～ 23）が出土している。



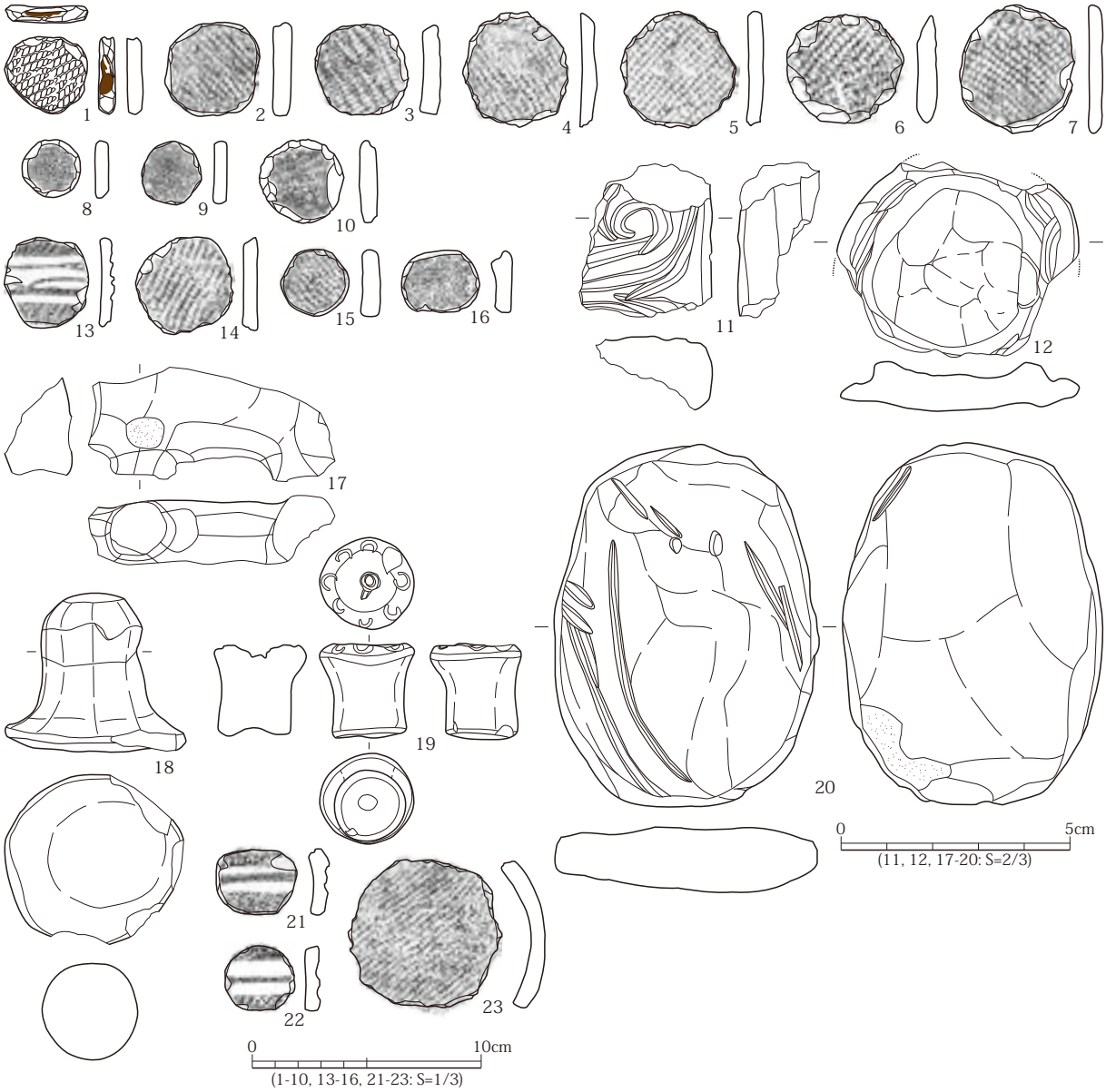
No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	土偶胴部	-	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	残存長 97.6mm、残存幅 60.4mm、残存厚 47.1mm。中空。首の周りに沈線文。胸部：乳房剝落。腹部：背部へ周る沈線文 + コ字形の沈線文か。背部：環状沈線 2 段、弧状の沈線文。脇腹にコ字形の沈線文 3 段。赤彩。CO595 と同一個体	179-1	CO598
2	土偶胴部	-	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	残存長 121.0mm、残存幅 95.0mm、残存厚 55.0mm。中空。腹部：コ字形の沈線文か。下腹部：縄文 LR+ 中央から左右に延びる平行沈線文。両脚間に縄文 LR+ 貫通孔 2。背部：弧状の沈線文。臀部：縄文 LR+ 中央から左右に延びる平行沈線文 + 臀部を周る沈線文。赤彩。CO598 と同一個体	179-2	CO595

第243図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土土製品（1）



No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	土偶頭部	-	2A 層群	F-23 南ヘ / Ⅵ d	残存長 27.5mm、残存幅 33mm、残存厚 10.9mm。中実。指頭による押圧	179-3	CO708
2	土偶肩部	-	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	残存長 22.0mm、残存幅 44.9mm、残存厚 40.5mm。中空。雲形文（磨消縄文 LR）	179-4	CO601
3	土偶腹部	-	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d	残存長 36.1mm、残存幅 28.5mm、残存厚 12.1mm。中空。隆帯 + 櫛歯状刻目 + 貫通孔 1（正中線）、隆帯の両側に沈線文	179-5	CO639
4	土偶胴部	-	2A 層群	F-23 南ロ / Ⅵ d	残存長 46.0mm、残存幅 40.1mm、残存厚 28.7mm。中実。腹部に弧状の短沈線文、腰部を周る隆帯 + 櫛歯状刻目	179-6	CO671
5	土偶左脚	-	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	残存長 39.1mm、残存幅 22.6mm、残存厚 21.4mm。中実。粘土紐貼付、弧状の沈線文	179-7	CO641
6	土版	A	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	残存長 43.5mm、残存幅 40.5mm、残存厚 5.5mm。隆線 + 櫛歯状刻目（正中線）、弧状の平行沈線文、縁辺にヘラ刻目	179-8	CO648
7	耳飾	A3	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	残存長 25.0mm、残存幅 22.6mm、残存厚 22.3mm。円筒形。無文（ミガキ）	179-9	CO605
8	円盤状土製品	Cc1	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1-2	長 28.9mm、幅 25.3mm、厚 5.3mm。多角形、湾曲、剥離成形。羊歯状文	180-1	CO657
9	円盤状土製品	Ac1	2A 層群	F-23 南ロ / Ⅵ d	長 30.4mm、幅 28.2mm、厚 5.7mm。円形、湾曲、剥離成形。平行沈線文、雲形文か	180-2	CO666
10	円盤状土製品	Cc1	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	長 44.9mm、幅 43.4mm、厚 6.4mm。多角形、湾曲、剥離成形。平行沈線文、工字文（陽刻）	180-3	CO741
11	円盤状土製品	Ca1	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	長 30.3mm、幅 29.8mm、厚 4.2mm。多角形、平坦、剥離成形。平行沈線文、縄文 LR	180-4	CO651
12	円盤状土製品	Ac1	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	長 41.9mm、幅 37.9mm、厚 6.4mm。円形、湾曲、剥離成形。平行沈線文、縄文 LR。外面炭化物付着	180-5	CO716
13	円盤状土製品	Ac1	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	長 45.2mm、幅 42.4mm、厚 7.6mm。円形、湾曲、剥離成形。横位沈線文、縄文 LR	180-6	CO735
14	円盤状土製品	Ca1	2A 層群	F-23 南ハ / Ⅵ d	長 25.2mm、幅 24.3mm、厚 4.7mm。多角形、平坦、剥離成形。縄文 LR	180-7	CO674
15	円盤状土製品	Ab1	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	長 27.8mm、幅 24.5mm、厚 5.8mm。円形、端部湾曲、剥離成形。直前段多条縄文 RL	180-8	CO722
16	円盤状土製品	Ca1	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d	長 27.2mm、幅 25.1mm、厚 6.2mm。多角形、平坦、剥離成形。縄文 RL。内外面炭化物付着	180-9	CO634
17	円盤状土製品	Aa3	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	長 30.1mm、幅 28.5mm、厚 5.8mm。円形、平坦、全周研磨成形。縄文 LR	180-10	CO738
18	円盤状土製品	Ac1	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	長 31.7mm、幅 30.5mm、厚 6.6mm。円形、湾曲、剥離成形。縄文 LR	180-11	CO717
19	円盤状土製品	Aa1	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	長 31.3mm、幅 30.1mm、厚 7.6mm。円形、平坦、剥離成形。縄文 LR。摩滅著しい	180-12	CO737
20	円盤状土製品	Aa3	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d	長 29.6mm、幅 29.4mm、厚 5.7mm。円形、平坦、全周研磨成形。羽状縄文 LR/RL	180-13	CO632
21	円盤状土製品	Ac1	2A 層群	F-23 南ニ / Ⅵ d	長 35.9mm、幅 35.9mm、厚 6.8mm。円形、湾曲、剥離成形。縄文 LR	180-14	CO693
22	円盤状土製品	Aa1	2A 層群	F-23 南ホ / Ⅵ d	長 37.3mm、幅 35.4mm、厚 7.5mm。円形、平坦、剥離成形。縄文 RL	180-15	CO698
23	円盤状土製品	Ac1	2A 層群	F-23 南チ / Ⅵ d	長 37.9mm、幅 35.8mm、厚 7.7mm。円形、湾曲、剥離成形。縄文 RL	180-16	CO733
24	円盤状土製品	Ca1	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	長 36.0mm、幅 32.9mm、厚 7.6mm。多角形、平坦、剥離成形。縄文 RL	180-17	CO744
25	円盤状土製品	Ab1	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	長 43.5mm、幅 41.0mm、厚 10.8mm。円形、端部湾曲、剥離成形。縄文 LR	180-18	CO747

第244図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土土製品（2）



No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	円盤状土製品	Aa1	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1-2	長 34.5mm、幅 33.0mm、厚 7.4mm。円形、平坦、剥離成形。縄文 LR。側面黒色物質付着	180-19	CO658
2	円盤状土製品	Aa1	2A 層群	F-23 南ロ / Ⅵ d	長 44.0mm、幅 41.0mm、厚 8.5mm。円形、平坦、剥離成形。縄文 LR	180-20	CO668
3	円盤状土製品	Aa1	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	長 39.1mm、幅 39.1mm、厚 8.8mm。円形、平坦、剥離成形。0 段多条縄文 LR	180-21	CO712
4	円盤状土製品	Ac1	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	長 49.3mm、幅 44.6mm、厚 6.9mm。円形、湾曲、剥離成形。縄文 RL	180-22	CO643
5	円盤状土製品	Ac1	2B 層群	F-23 南イ / Ⅵ d2	長 49.0mm、幅 46.9mm、厚 8.0mm。円形、湾曲、剥離成形。縄文 LR	180-23	CO665
6	円盤状土製品	Aa1	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	長 50.3mm、幅 47.6mm、厚 9.6mm。円形、平坦、剥離成形。縄文 LR	180-24	CO754
7	円盤状土製品	Ac1	2A 層群	F-23 南ハ / Ⅵ d	長 54.1mm、幅 53.7mm、厚 6.4mm。円形、湾曲、剥離成形。縄文 RL	180-25	CO677
8	円盤状土製品	Aa1	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	長 25.0mm、幅 24.6mm、厚 6.8mm。円形、平坦、剥離成形。無文（外面ミガキ）	180-26	CO748
9	円盤状土製品	Aa1	2A 層群	F-23 南ハ / Ⅵ d	長 27.6mm、幅 26.2mm、厚 6.3mm。円形、平坦、剥離成形。無文（外面ミガキ）	180-27	CO679
10	円盤状土製品	Aa1	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	長 36.2mm、幅 35.1mm、厚 7.8mm。円形、平坦、剥離成形。外面ミガキ	180-28	CO719
11	土版	A	1 層群	F-23 西 / Ⅵ b・d	残存長 28.5mm、残存幅 33.2mm、残存厚 17.2mm。表面：渦巻文	180-29	CO510
12	不明土製品	-	1 層群	F-23 西 / Ⅵ b・d	残存長 42.3mm、残存幅 52.5mm、厚 9.9mm。中実。円盤状突帯 + 環状の隆線、突帯の周りに環状沈線	180-30	CO854
13	円盤状土製品	Cc1	1 層群	F-23 西 / Ⅵ b・d	長 38.6mm、幅 36.1mm、厚 6.4mm。多角形、湾曲、剥離成形。平行沈線文、π字文（上向、磨消縄文）、縄文 LR。外面赤彩（素材土器）	180-31	CO513
14	円盤状土製品	Aa1	1 層群	F-23 西 / Ⅵ b・d	長 44.4mm、幅 41.3mm、厚 7.2mm。円形、平坦、剥離成形。縄文 LR	180-32	CO515
15	円盤状土製品	Aa2	1 層群	F-23 西 / Ⅵ b	長 29.3mm、幅 28.1mm、厚 8.7mm。円形、平坦、一部研磨成形。縄文 LR	180-33	CO502
16	円盤状土製品	Bb1	1 層群	F-23 西 / Ⅵ確認面	長 32.8mm、幅 24.9mm、厚 9.6mm。楕円形、端部湾曲、剥離成形。無文（底部外面ミガキ）。底部破片	180-34	CO520
17	動物形土製品	-	V	F-23 西 / V	残存長 24.0mm、残存幅 53.5mm、残存厚 15.3mm。中実。無文（ナデ）	180-35	CO606
18	スタンプ形土製品	-	V	F-23 南チ / V	長 33.5mm、残存幅 37.0mm、残存厚 36.0mm。中実。無文（ミガキ）	180-36	CO603
19	耳飾	B3	V	F-23 南イ / V	長 19.7mm、幅 20.7mm、厚 19.3mm。鼓形。上面：中央くぼみに竹管文 1、その周りに竹管文 8。赤彩	180-38	CO594
20	土版	C	V	F-23 南チ / V	長 77.1mm、幅 57.3mm、厚 13.7mm。無文（ナデ）	180-37	CO604
21	円盤状土製品	Cc1	V	F-23 南ニ / V	長 34.5mm、幅 28.5mm、厚 7.7mm。多角形、湾曲、剥離成形。平行沈線文 + 櫛歯状刻目、縄文 RL	180-39	CO687
22	円盤状土製品	Aa2	V	F-23 西 / V	長 30.1mm、幅 27.9mm、厚 6.7mm。円形、平坦、一部研磨成形。平行沈線文、縄文 LR	180-40	CO491
23	円盤状土製品	Ac1	V	F-23 南チ / V	長 65.9mm、幅 62.9mm、厚 7.7mm。円形、湾曲、剥離成形。縄文 LR。胎土に海綿骨針を含む	180-41	CO728

第245図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土土製品（3）

③石器・石製品

遺物包含層からは、石器・石製品が 454 点出土している。石鏃 8 点、尖頭器 5 点、石錐 7 点、石匙 2 点、石篦 1 点、打製石斧 3 点、磨製石斧 6 点、石庖丁様石器 1 点、楔形石器 6 点、不定形石器 22 点、石皿 28 点、磨石 68 点、凹石 6 点、砥石 1 点といったトゥール類や剥片・砕片 209 点、石核 53 点、また、円盤状石製品 9 点、石冠 2 点、石棒 5 点、石刀 10 点、イモガイ形石製品 1 点、不明石製品 1 点といった石製品がある。さらに石器石材とみられる原石 1 点が出土している。なお、層位別の器種組成を第 22・23 表に示した。

2B 層群からは 22 点出土し、石皿 2 点、磨石 1 点（第 248 図 5）、凹石 1 点、剥片 14 点、石核 3 点、石刀 1 点がある。石材は珪質頁岩（A）と碧玉（B1・B2）が多く、ほかに安山岩質凝灰岩や粘板岩、安山岩がある。

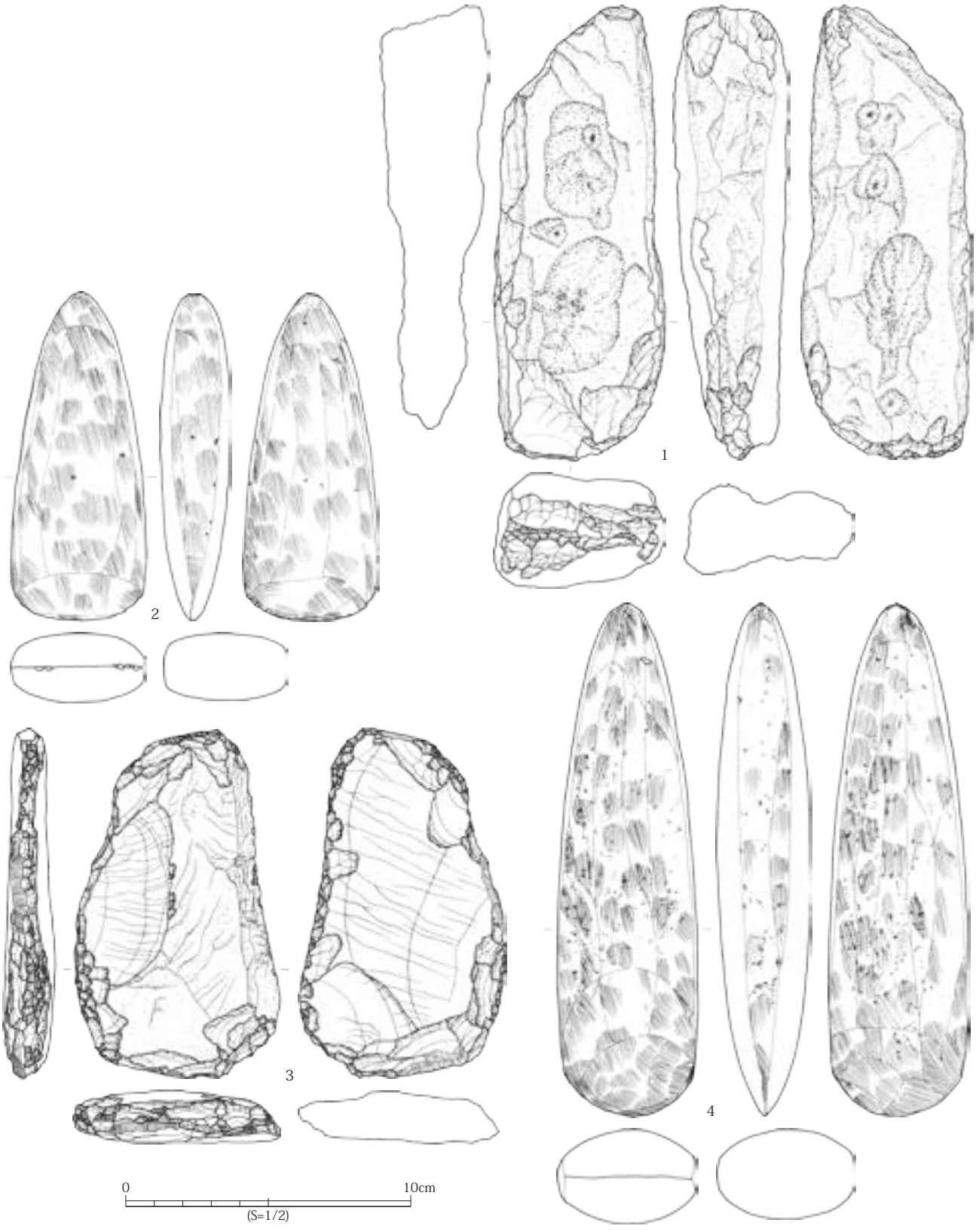
2A 層群からは 372 点出土し、石鏃 8 点（第 246 図 1 ～ 3）、尖頭器 5 点（同図 5・6）、石錐 5 点（同図 4・7 ～ 9）、石匙 2 点（同図 10・11）、石篦 1 点（同図 12）、打製石斧 1 点（第 247 図 1）、磨製石斧 6 点（同図 2 ～ 4）、石庖丁様石器 1 点（第 248 図 1）、楔形石器 6 点（第 246 図 13）、不定形石器 19 点、石皿 20 点（第 249 図 1、第 250 図 1）、磨石 46 点（第 248 図 2 ～ 8、第 250 図 3）、凹石 5 点（同図 2）、砥石 1 点（同図 4）、剥片・砕片 182 点、石核 43 点、円盤状石製品 5 点（同図 5 ～ 8）、石冠 2 点（第 251 図 1・2）、石棒 5 点（第 250 図 9）、石刀 7 点、イモガイ形石製品 1 点（第 251 図 3）、不明石製品 1 点がある。第 246 図 7 は石鏃を転用した石錐である。第 247 図 1 は凹石を転用して打製石斧としている。同図 3 は、刃部および側辺の一部のみが研磨された局部磨製石斧である。第 248 図 1 は、全面研磨により紡錘形に成形された粘板岩製石器の破片であり、石庖丁の破片の可能性がある。第 249 図 1 は大型の石皿で、皿状に凹んだ使用面の一部をさらに凹ませて使用面としている。第 250 図 4 は粘板岩製の砥石である。板状石器を砥石に転用した可能性がある。第 251 図 3 はイモガイ形石製品としたが、東北地方北部を中心によく見られるものと比べて、内面の渦の凹凸が浅く、外面には紐孔のような貫通孔が穿たれる点で異なる。石材は珪質頁岩（A・B）が最も多く、次いで碧玉（A・B1・B2・C・D）が多くあり、ほかに珪質凝灰岩（A・B）や凝灰岩、安山岩質凝灰岩、玉髄、黒曜石、粘板岩、安山岩、デイサイトが多く見られる。

1 層群からは 60 点出土し、石錐 2 点（第 251 図 4）、打製石斧 2 点、不定形石器 3 点（同図 5）、石皿 6 点、磨石 21 点（同図 6・7）、剥片・砕片 13 点、石核 7 点、円盤状石製品 4 点（第 252 図 1）、石刀 2 点がある。ほかに石器石材とみられる原石（粘板岩）が 1 点出土した。第 252 図 1 は円盤状石製品で、両面にアスファルトとみられる黒色物質が付着している。石材は珪質頁岩（A）と安山岩が特に多く、ほかに珪質凝灰岩（B）や凝灰岩、安山岩質凝灰岩、デイサイト質凝灰岩、碧玉（B1・B2・C）、粘板岩が多く見られる。

以上のほかに、研磨により一辺を刃部状に加工した粘板岩製の石庖丁様石器（第 252 図 5）や、赤色付着物が残る磨石（同図 6）、線刻により基部に装飾が施された石棒（同図 8）が出土している。

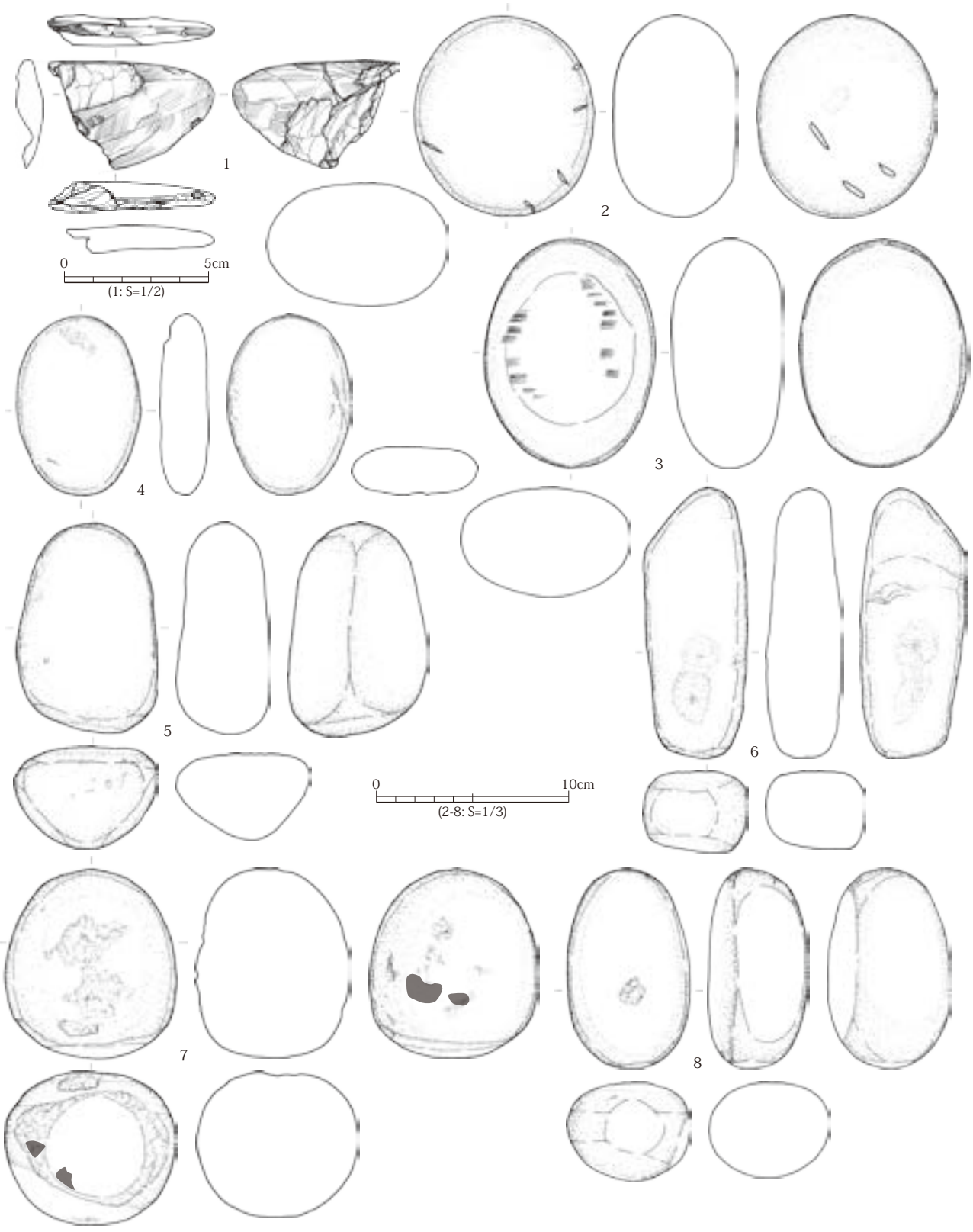
No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残　存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備考	写真図版	登録
1	石鏃	Ⅰ a1B	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1-2	珪質凝灰岩 B	25.1	15.2	5.5	1.29	完形	0	0	0	0	0		181-1	S5810
2	石鏃	Ⅰ b2B	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1-2	碧玉 B1	34.7	17.1	10.4	4.02	尖頭部欠	0	2	0	0	0		181-2	S5809
3	石鏃	Ⅳ aB	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	珪質頁岩 A	31.0	18.3	4.7	1.75	尖頭部・逆刺欠	0	2	0	0	0		181-3	S5699
4	石錐	Ⅱ b2	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	珪質頁岩 A	49.6	20.7	9.3	8.27	錐部欠	0	1	0	0	0		181-6	S5756
5	尖頭器	Ⅰ b2	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	珪質頁岩 A	72.1	33.2	15.6	33.31	基部	0	0	0	0	0		181-4	S5696
6	尖頭器	Ⅳ	2A 層群	F-23 南ホ / Ⅵ d	珪質凝灰岩 B	49.2	20.5	11.1	9.71	完形	0	0	0	0	0		181-5	S5627
7	石錐	Ⅱ a1	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	碧玉 B1	29.1	9.2	6.5	1.17	完形	0	2	石鏃→	0	0		181-7	S5519
8	石錐	Ⅰ b	2A 層群	F-23 南ホ / Ⅵ d	玉髄	30.1	9.6	9.2	2.02	完形	0	1	0	0	0		181-8	S5628
9	石錐	Ⅱ b2	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1-2	碧玉 B1	31.7	19.1	8.3	4.60	完形	0	1	0	0	0		181-9	S5811
10	石匙	Ⅱ b	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	珪質凝灰岩 B	55.6	59.7	12.8	26.72	完形	0	0	0	1	B		181-11	S5663
11	石匙	Ⅱ a	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	珪質頁岩 A	40.0	23.0	3.1	2.24	完形	0	1	0	0	0		181-10	S5762
12	石篦	Ⅰ c	2A 層群	F-23 南ヘ / Ⅵ d	珪質凝灰岩 B	69.3	40.4	17.3	39.88	完形	0	0	0	0	0		181-12	S5640
13	楔形石器		2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	黒曜石	17.4	22.5	11.9	3.49	完形	0	0	0	1	0		181-13	S5731

第246図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土石器・石製品（1）



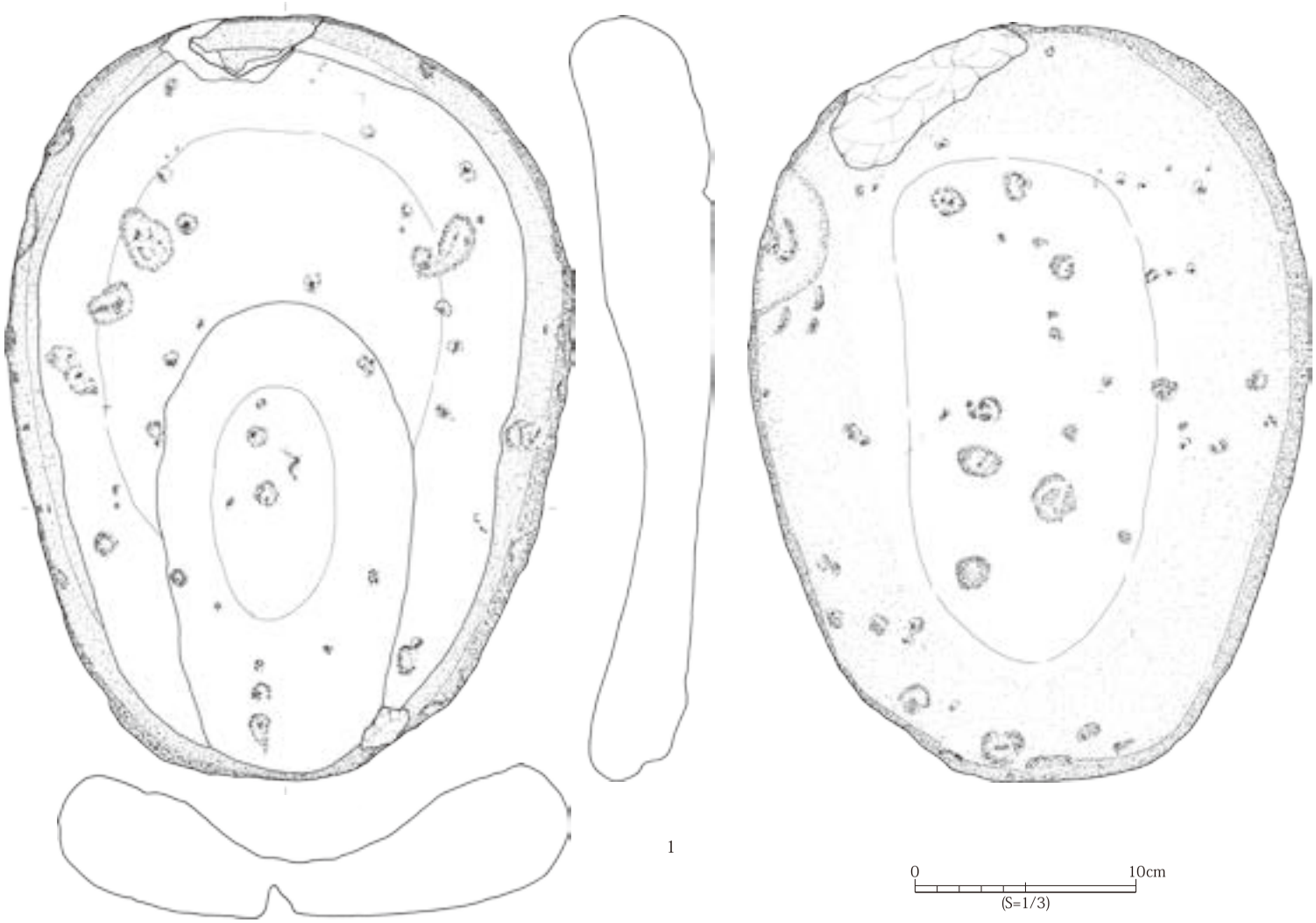
No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	打製石斧	-	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	粘板岩	158.0	58.0	39.6	440.79	完形	0	0	凹石→	1	0		181-14	S5529
2	磨製石斧	Ⅰ a1	2A 層群	F-23 西 / Ⅵ d1	緑色凝灰岩	114.5	46.6	24.7	192.96	完形	0	0	0	0	0		181-16	S5876
3	磨製石斧	Ⅱ	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ確認面	粘板岩	121.4	12.2	17.2	195.97	完形	0	0	0	1	0		181-15	S6023
4	磨製石斧	Ⅰ a1	2A 層群	F-23 西 / Ⅵ d1	緑色凝灰岩	17.7	48.5	32.4	417.96	完形	0	0	0	0	0		182-1	S5877

第247図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土石器・石製品（2）



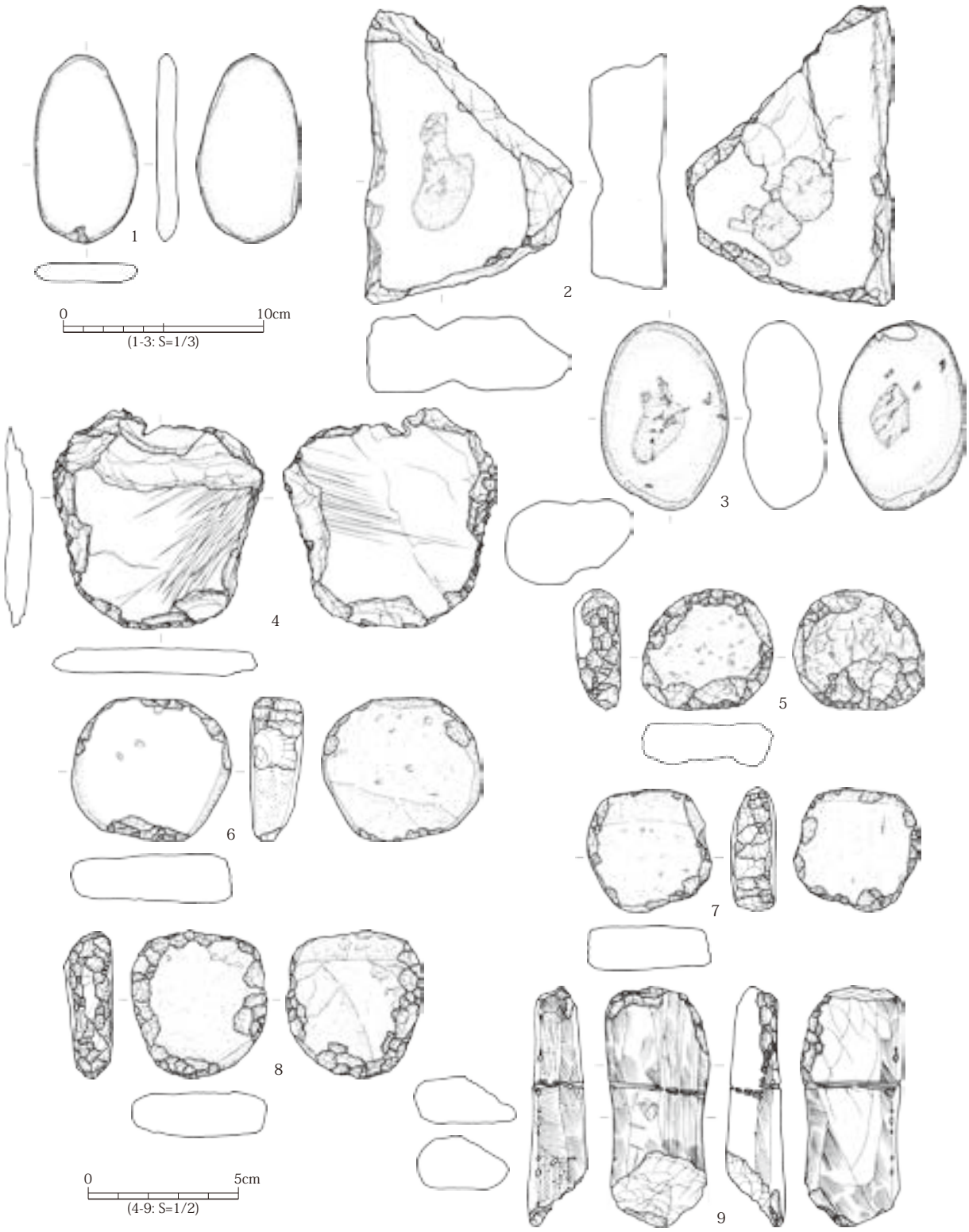
No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	石庖丁様石器	-	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	粘板岩	36.8	57.3	9.5	17.69	破片	0	0	0	0	0		182-2	S5760
2	磨石	-	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	安山岩	104.2	92.8	63.3	900.00	完形	0	0	0	1	0		182-4	S5532
3	磨石	-	2A 層群	F-23 南ニ / Ⅵ d	安山岩	120.2	88.3	58.6	860.00	完形	0	0	0	1	0		182-5	S5617
4	磨石	-	2A 層群	F-23 南ハ / Ⅵ d	安山岩	93.6	64.2	25.0	202.78	完形	0	0	0	1	0		182-7	S5599
5	磨石	-	2B 層群	F-23 南イ / Ⅵ d2	安山岩	106.3	73.1	51.6	476.81	完形	0	0	0	1	0		182-3	S5861
6	磨石	-	2A 層群	F-23 南チ / Ⅵ d	安山岩	138.4	53.2	39.7	506.96	完形	0	0	0	1	0		182-6	S5674
7	磨石	-	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d	安山岩	97.8	87.8	78.5	1010.00	完形	0	0	凹石→	1	B		182-9	S5559
8	磨石	-	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	安山岩	102.3	63.8	51.6	504.74	完形	0	0	0	1	0		182-8	S5533

第248図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土石器・石製品（3）



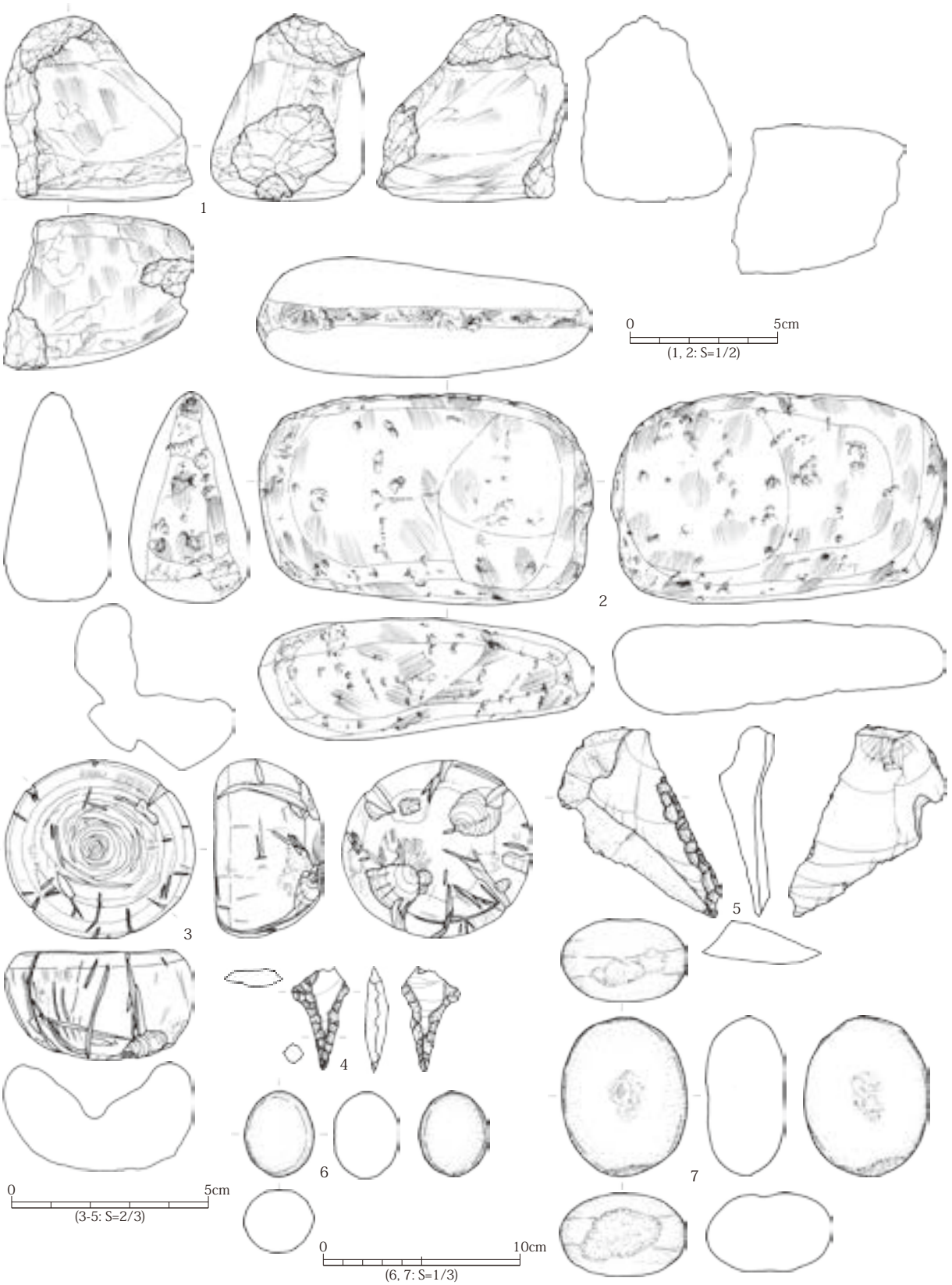
No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	石皿	-	2A 層群	F-23 南ト / Ⅵ d	凝灰岩	337.0	246.0	62.2	5170.00	完形	0	0	0	1	0		183-1	S5664

第249図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土石器・石製品（4）



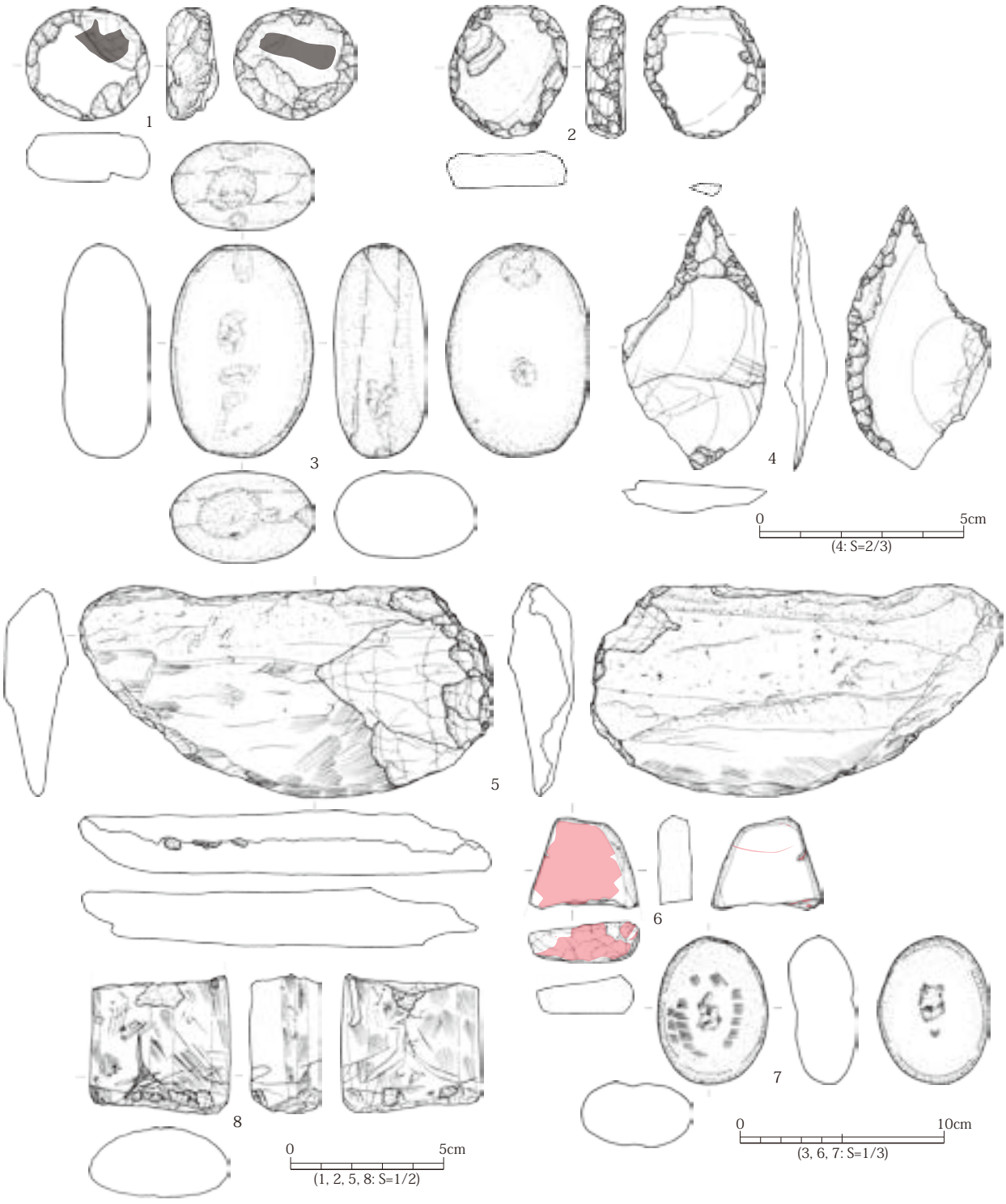
No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備考	写真図版	登録
1	石皿	-	2A 層群	F-23 南ハ / Ⅵ d	凝灰岩	93.0	51.4	9.7	61.06	完形	0	0	0	1	0		182-10	S5613
2	凹石	-	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	凝灰質砂岩	149.0	102.0	40.1	680.00	完形	0	0	石皿→	1	0		182-12	S5778
3	磨石	-	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d	デイサイト	94.9	64.2	44.3	295.28	完形	0	0	凹石→	1	0		182-11	S5558
4	砥石	-	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	粘板岩	69.5	75.8	8.8	63.33	破片	0	0	0	1	0		182-13	S5520
5	円盤状石製品	Ⅰ b	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	安山岩質凝灰岩	39.1	43.8	14.9	29.55	完形	0	0	0	1	0		183-2	S6903
6	円盤状石製品	Ⅰ b	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	安山岩	47.0	51.9	17.0	70.87	完形	0	0	磨石→	1	0		183-3	S5527
7	円盤状石製品	Ⅰ a	2A 層群	F-23 南ヘ / Ⅵ d	安山岩質凝灰岩	40.2	41.5	14.9	37.18	完形	0	0	0	1	0		183-5	S5638
8	円盤状石製品	Ⅰ b	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	デイサイト	48.0	45.2	15.8	46.32	完形	0	0	0	1	0		183-4	S5548
9	石棒	-	2A 層群	F-23 南 / Ⅵ d	粘板岩	77.7	36.5	20.0	61.80	頭部	0	0	0	0	0		183-6	S5525

第250図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土石器・石製品（5）



No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備考	写真図版	登録
1	石冠	-	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d	緑色凝灰岩	62.1	60.5	49.7	231.62	破片	0	0	0	1	0		184-2	S5556
2	石冠	-	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	玄武岩	70.2	113.0	38.9	384.68	完形	0	0	0	1	0		184-1	S5725
3	イモガイ形石製品	-	2A 層群	F-23 南イ / Ⅵ d1	凝灰岩	45.8	47.2	26.9	43.97	完形	0	0	0	1	0		184-3	S5719
4	石錐	Ⅱ a1	1 層群	F-23 西 / Ⅵ b・d	碧玉 B1	26.0	14.2	4.9	1.22	完形	0	0	0	0	0		184-4	S5277
5	不定形石器	Ⅲ d	1 層群	F-23 西 / Ⅵ b・d	珪質頁岩 A	49.9	41.7	9.6	11.11	完形	0	0	0	1	0		184-5	S5263
6	磨石	-	1 層群	F-23 西 / Ⅵ b・d	安山岩	42.4	35.0	31.7	71.80	完形	0	0	0	1	0		184-7	S5250
7	磨石	-	1 層群	F-23 西 / Ⅵ確認面	安山岩	81.3	63.9	40.6	327.73	完形	0	0	凹石→	1	0		184-6	S6037

第251図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土石器・石製品（6）



No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	円盤状石製品	Ⅰb	1 層群	F-23 西 / Ⅵb・d	安山岩	36.1	40.1	16.1	32.02	完形	0	0	0	1	B		184-8	S5237
2	円盤状石製品	Ⅰa	確認面	F-23 南 / 確認面	凝灰岩	42.3	38.5	12.2	27.06	完形	0	0	石皿→	1	0		184-10	S6017
3	敲石	-	確認面	F-23 南 / 確認面	安山岩	102.3	68.9	43.7	417.02	完形	0	0	凹石→磨石→	1	0		184-9	S6018
4	不定形石器	Ⅰ	Ⅴ	F-23 南イ / Ⅴ	珪質頁岩 A	63.9	35.1	9.3	13.19	完形	0	0	0	1	0		184-12	S5042
5	石庖丁様石器	-	Ⅴ	F-23 南チ / Ⅴ	粘板岩	134.5	69.0	20.6	212.93	一部欠	0	0	0	1	0		184-11	S5171
6	磨石	-	Ⅴ	F-23 南ヘ / Ⅴ	安山岩	46.3	53.0	19.6	64.98	破片	0	0	0	1	R		184-14	S5141
7	磨石	-	Ⅴ	F-23 西 / Ⅴ	凝灰岩	71.9	54.6	32.0	94.19	完形	0	0	凹石→	1	0		184-13	S5174
8	石棒	-	Ⅴ	F-23 南チ / Ⅴ	凝灰岩	45.1	45.6	22.9	59.82	基部	0	0	0	0	0	線刻あり	184-15	S5150

第252図　東D丘陵北斜面遺物包含層　出土石器・石製品（7）

第４節　東Ｄ・Ｅ丘陵間西斜面（F-70・71 区）

北小松遺跡が立地する丘陵から西に樹枝状に延びる丘陵のうち、北から４番目に当たる東Ｄ丘陵と、北から５番目に当たる東Ｅ丘陵の間には、南北に延びる丘陵がある。この西側斜面はやや急な傾斜をもちながらも、丘陵裾部では傾斜がやや緩やかになり、低地部へと続く。この緩斜面から低地部にかけて溝跡や沢跡を検出し、また遺物包含層を検出している。

1. 遺構

東Ｄ丘陵と東Ｅ丘陵間にある丘陵のうち、東Ｅ丘陵にやや近いところの西斜面では、F-70・71 区で遺物包含層を検出し、うち F-70 区において、遺物包含層上で遺構を検出している。検出した遺構には、溝跡１条および沢跡１条があり、遺物包含層も含めてこれらは重複する。

【SX151 沢跡】

［位置］F-70 区南の中央部（第 254 図）

［重複］流路変更が６回認められる（A → B・C → D → E → F → G）。また、SD152 溝跡および遺物包含層（Ⅵａ～Ⅵｄ層）と以下のとおり重複する。

SX151（A → B・C → D → E）→ SD152 →Ⅵｃ層→Ⅵｂ層→Ⅵａ層→ SX151（F → G）

SX151D →Ⅵｄ層→Ⅵｃ層

〈SX151A 沢跡〉（第 257 図）

［検出面］Ⅸｃ層

［構造・規模］検出長 5.2m、上幅 2.3m 以上、下幅 0.5m ある。深さは 0.5m あり、断面形はＵ字形を呈する。

［方向］東で 13° 南に偏する。

［堆積土］５層確認した。下層に地山（Ⅸｃ層）ブロックを含む灰黄褐色～褐灰色砂など、上層に砂をラミナ状に含む黒色シルト質粘土が堆積している。すべて自然堆積層である。

［出土遺物］縄文土器深鉢・鉢、剥片、種実（オニグルミなど）、炭化材が出土している。

〈SX151B 沢跡〉（第 258 図）

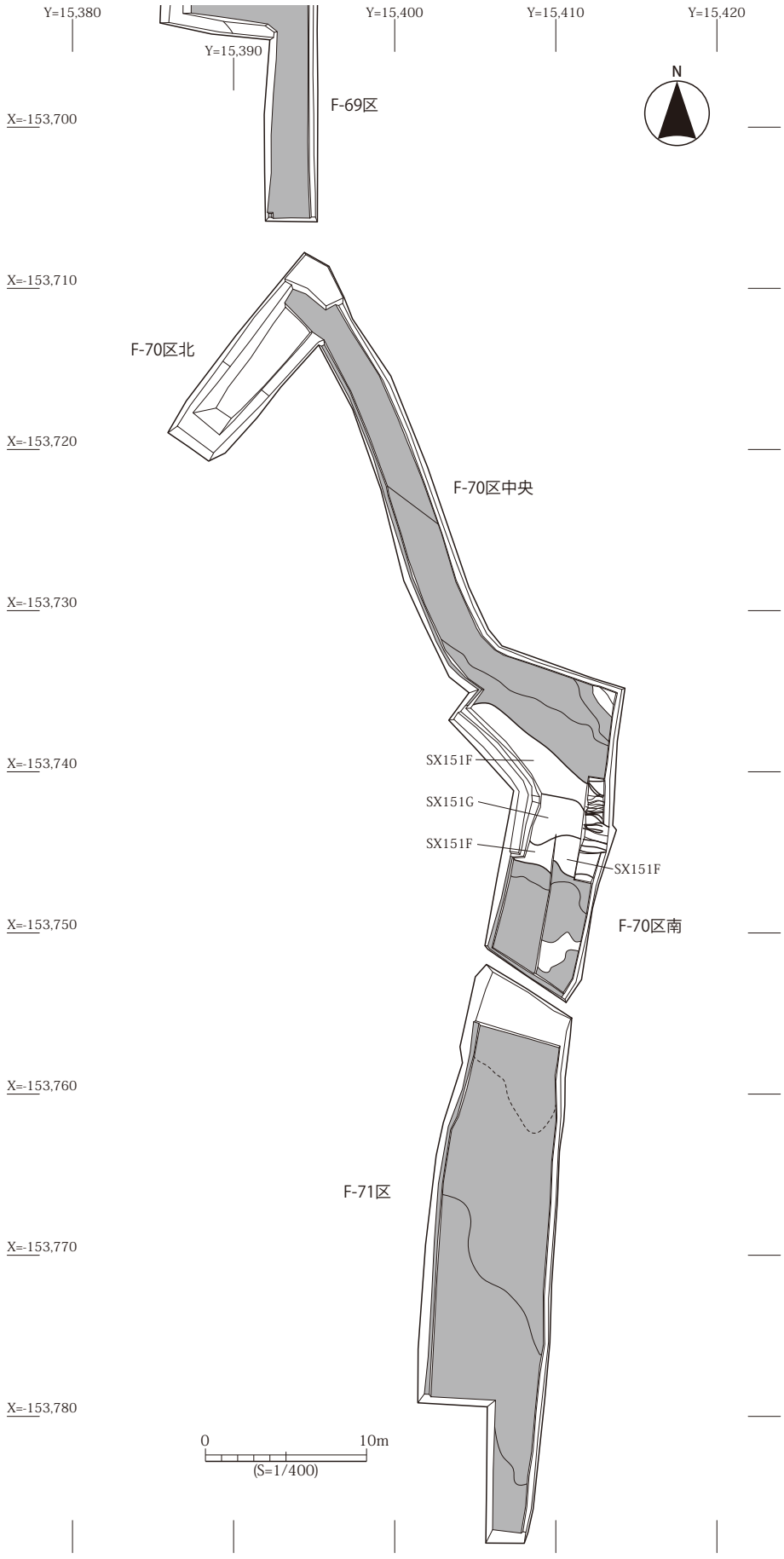
［検出面］Ⅸｃ層

［構造・規模］検出長 1.7m、上幅 2.3m 以上、下幅 0.3m ある。深さは 0.5m あり、断面形は皿形を呈する。

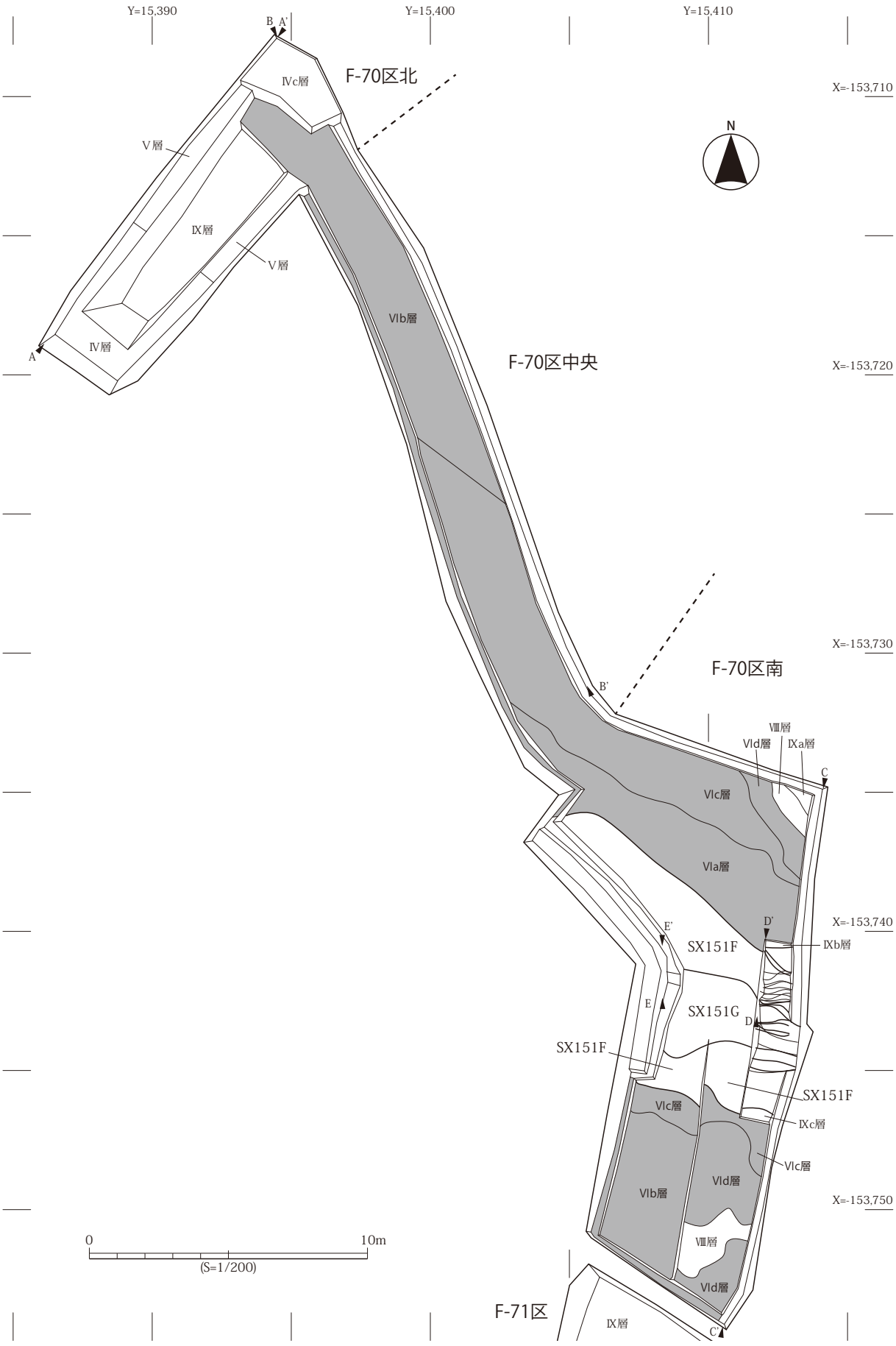
［方向］東で 13° 南に偏する。

［堆積土］４層確認した。下層に地山（Ⅸｂ層）をラミナ状に含む灰黄褐色シルト質粘土やシルト質砂、上層に灰黄褐色砂と褐灰色粘土が堆積している。すべて自然堆積層である。

［出土遺物］縄文土器深鉢、砕片、種実（オニグルミ・トチノキなど）が出土している。

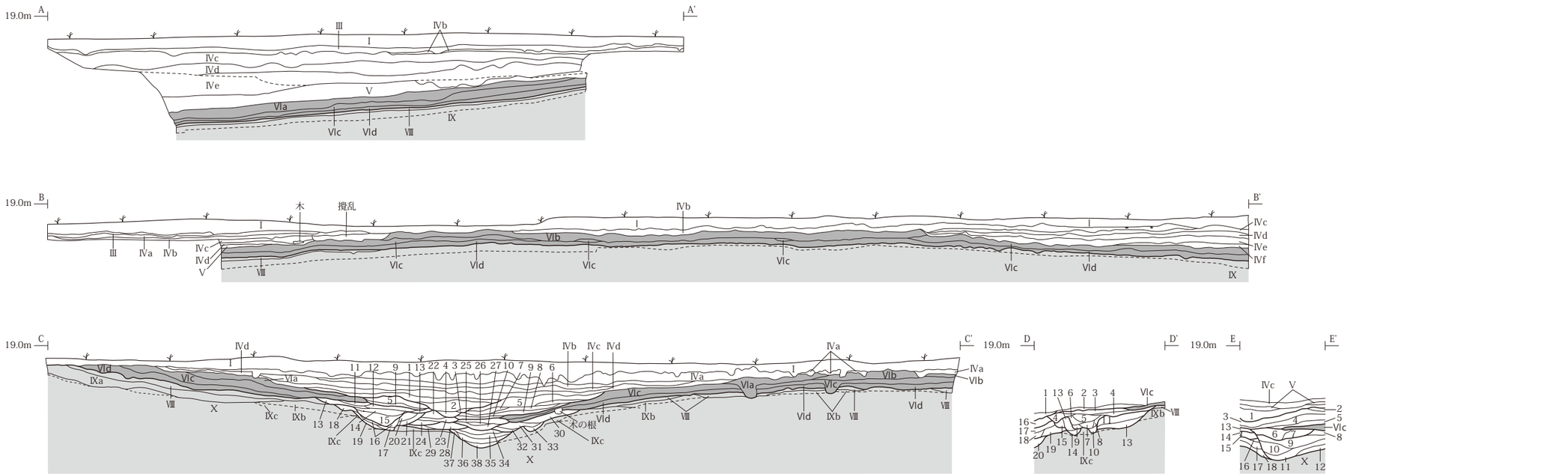


第253図　F-70・71区　平面図



第254図　F-70区　平面図

第255図　F-71区　平面図



第256図　F-70・71区　断面図

第12表　F-70・71区　土層観察表（1）

調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
F-70 区北	A-A'	Ⅳ b	黒褐色（10YR3/1）	シルト質粘土	
		Ⅳ c	暗褐色（10YR3/3）	スクモ	
		Ⅳ d	黒褐色（10YR3/1）	スクモ	
		Ⅳ e	黒褐色（10YR3/2）	スクモ	
		Ⅵ a	黒褐色（10YR2/3）	粘土質シルト	砂少量、スクモやや多量
		Ⅵ c	黒褐色（10YR2/2）	シルト質粘土	砂少量
		Ⅵ d	黒褐色（10YR2/3）	シルト質砂	
F-70 区北・中央	B-B'	Ⅳ a	暗褐色（10YR3/4）	砂質シルト	灰白色火山灰粒多量
		Ⅳ b	黒褐色（10YR3/1）	シルト質粘土	
		Ⅳ c	暗褐色（10YR3/3）	スクモ	
		Ⅳ d	黒褐色（10YR3/1）	スクモ	
		Ⅳ e	黒褐色（10YR3/2）	スクモ	
		Ⅳ f	黒褐色（10YR3/2）	砂	スクモ大ブロック中量
		Ⅵ b	黒褐色（10YR2/3）	シルト質砂	地山（Ⅸ層）粒多量
		Ⅵ c	黒褐色（10YR2/2）	シルト質粘土	砂少量
		Ⅵ d	黒褐色（10YR2/3）	シルト質砂	
F-70 区南	C-C' D-D' E-E'	Ⅳ a	暗褐色（10YR4/4）	粘土	スクモ主体
		Ⅳ b	暗褐色（10YR3/3）	粘土	スクモ主体
		Ⅳ c	暗褐色（10YR3/4）	粘土	スクモ主体
		Ⅳ d	灰黄褐色（10YR4/2）	粘土	スクモ主体。層下部に部分的にⅤ層由来のオリーブ灰色（2.5GY6/1）粘土中量
		Ⅵ a	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	スクモ多量
		Ⅵ b	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）粒～小ブロック多量、砂中量（ラミナ状）
		Ⅵ c	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	
		Ⅵ d	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	砂多量
		Ⅸ a	にぶい黄褐色（10YR5/3）	砂	
		Ⅸ b	オリーブ灰色（2.5GY6/1）	シルト質粘土	小礫・礫中量
		Ⅸ c	明緑灰色（7.5GY7/1）	粘土	
SX151G	C-C'	1	暗褐色（10YR3/3）	粘土	スクモ主体、砂少量 【堆積土】
		2	暗褐色（10YR3/3）	粘土	スクモ主体、砂少量、植物多量 【堆積土】
		3	灰黄褐色（10YR4/2）	砂	スクモ主体、植物少量 【堆積土】
		4	暗褐色（10YR3/3）	シルト質粘土	スクモ主体、砂・礫多量 【堆積土】
SX151F		5	黒色（10YR2/1）	シルト質砂	スクモ多量、小礫中量 【堆積土】
		6	にぶい黄褐色（10YR4/3）	砂	褐灰色（10YR4/1）砂質シルト中量（ラミナ状） 【堆積土】
		7	灰黄褐色（10YR4/2）	砂	礫・スクモ少量 【堆積土】
		8	暗褐色（10YR3/3）	粘土	スクモ極多量 【堆積土】
		9	灰黄褐色（10YR4/2）	砂	スクモ少量 【堆積土】
		10	灰黄褐色（10YR4/2）	砂	黒色（10YR2/1）粘土（Ⅵ c 層）中量（ラミナ状）、植物少量 【堆積土】
SD152B		11	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	砂多量（ラミナ状） 【堆積土】
		12	黒色（10YR2/1）	砂質シルト	砂少量（ラミナ状） 【堆積土】
		13	黒褐色（10YR2/2）	シルト質砂	砂多量（ラミナ状） 【堆積土】
		14	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	砂多量（ラミナ状） 【堆積土】
		15	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	砂多量 【堆積土】
SD152A		16	褐灰色（10YR4/1）	シルト質砂	【堆積土】
		17	黒褐色（10YR3/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ c 層）ブロック・砂少量 【堆積土】
		18	褐灰色（10YR4/1）	シルト質砂	地山（Ⅸ b 層）ブロック多量、礫少量 【堆積土】
		19	明緑灰色（7.5GY7/1）	粘土	褐灰色（10YR5/1）砂ブロック中量 【堆積土】
		20	灰黄褐色（10YR4/2）	シルト質砂	地山（Ⅸ c 層）大ブロック多量、黒色粘土（スクモ）ブロック少量 【壁構築土】
		21	灰黄褐色（10YR5/2）	粘土	地山（Ⅸ c 層）大ブロック多量、黒色粘土（スクモ）ブロック少量 【壁構築土】
SX151E		22	黒褐色（10YR3/1）	シルト質砂	小礫少量 【堆積土】
		23	黒褐色（10YR3/2）	粘土	スクモ多量 【堆積土】
		24	灰黄褐色（10YR4/2）	シルト質砂	小礫・スクモ少量。層下部に地山（Ⅸ c 層）由来の明緑灰色（7.5GY7/1）粘土中量（ラミナ状） 【堆積土】
SX151D		25	暗褐色（10YR3/4）	砂	植物少量 【堆積土】
		26	灰黄褐色（10YR4/2）	砂	植物少量 【堆積土】
		27	褐灰色（10YR4/1）	砂	礫・スクモ・植物多量 【堆積土】
SX151C		28	灰黄褐色（10YR4/2）	砂	小礫中量、スクモ少量 【堆積土】
		29	灰黄褐色（10YR4/2）	シルト質砂	33 層由来の灰黄褐色シルト質砂（10YR4/2）と地山（Ⅸ c 層）由来の明緑灰色（7.5GY7/1）粘土がラミナ状に堆積 【堆積土】
SX151B		30	灰黄褐色（10YR4/2）	砂	【堆積土】
		31	褐灰色（10YR4/1）	粘土	小礫少量 【堆積土】
		32	灰黄褐色（10YR4/2）	シルト質粘土	地山（Ⅸ b 層）由来のオリーブ灰色（2.5GY6/1）シルト質粘土中量（ラミナ状） 【堆積土】
		33	灰黄褐色（10YR4/2）	シルト質砂	地山（Ⅸ b 層）由来のオリーブ灰色（2.5GY6/1）シルト質粘土少量（ラミナ状） 【堆積土】
SX151A		34	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	砂多量（ラミナ状）、礫・スクモ少量 【堆積土】
		35	灰黄褐色（10YR4/2）	砂	小礫少量 【堆積土】
		36	褐灰色（10YR5/1）	砂	灰黄褐色（10YR4/2）粘土ブロック少量 【堆積土】
		37	褐灰色（10YR4/1）	シルト質砂	地山（Ⅸ c 層）ブロック多量 【堆積土】
		38	褐灰色（10YR5/1）	砂	灰黄褐色（10YR4/2）粘土多量（ラミナ状） 【堆積土】
SX151G	D-D'	1	暗褐色（10YR3/3）	粘土	スクモ層主体、砂少量、植物多量。東壁（C-C'）1 ～ 4 層に対応 【堆積土】
SX151F		2	灰黄褐色（10YR4/2）	砂	スクモ少量。東壁（C-C'）9 層に対応 【堆積土】
SD152B		3	黒色（10YR2/1）	砂質シルト	砂少量（ラミナ状）。東壁（C-C'）12 層に対応 【堆積土】
		4	黒褐色（10YR2/2）	シルト質砂	砂多量（ラミナ状）。東壁（C-C'）13 層に対応 【堆積土】
		5	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	砂少量。東壁（C-C'）14 ～ 15 層に対応 【堆積土】
		6	黒褐色（10YR3/1）	砂質シルト	砂中量（ラミナ状）。東壁（C-C'）14 ～ 15 層に対応 【堆積土】
		7	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	砂中量。東壁（C-C'）14 ～ 15 層に対応 【堆積土】
		8	褐灰色（10YR4/1）	砂質シルト	東壁（C-C'）14 ～ 15 層に対応 【堆積土】
		9	黒褐色（10YR3/1）	砂質シルト	東壁（C-C'）14 ～ 15 層に対応 【堆積土】
		10	褐灰色（10YR4/1）	砂質シルト	【堆積土】

第13表　F-70・71区　土層観察表（2）

調査区 / 遺構	層序		土色	土性	特徴
SD152A	D-D'	11	灰色（5Y5/1）	シルト質砂	小礫わずか 【堆積土】
		12	灰色（7.5Y5/1）	砂質シルト	地山（Ⅸc層）粒・小礫わずか 【堆積土】
		13	褐灰色（10YR4/1）	シルト質砂	東壁（C-C'）16層に対応 【堆積土】
		14	黒褐色（10YR3/1）	シルト質粘土	砂少量、地山（Ⅸc層）小ブロック少量。東壁（C-C'）17層に対応 【堆積土】
		15	灰黄褐色（10YR4/2）	シルト質砂	地山（Ⅸc層）大ブロック多量、黒色粘土（スクモ）ブロックを少量。東壁（C-C'）20・21層に対応 【壁構築土】
SX151E		16	黒褐色（10YR3/2）	砂	層下部に地山（Ⅸc層）由来の明緑灰色（7.5GY7/1）粘土中量（ラミナ状）、植物少量。東壁（C-C'）22～24層に対応 【堆積土】
SX151C		17	灰黄褐色（10YR5/2）	砂	小礫・スクモわずか。東壁（C-C'）28層に対応 【堆積土】
		18	灰黄褐色（10YR5/2）	砂	地山（Ⅸc層）小ブロックわずか。東壁（C-C'）28層に対応 【堆積土】
		19	灰黄褐色（10YR4/2）	シルト質砂	33層由来の灰黄褐色シルト質砂（10YR4/2）と地山（Ⅸc層）由来の明緑灰色（7.5GY7/1）粘土がラミナ状に堆積。東壁（C-C'）29層に対応 【堆積土】
SX151A		20	褐灰色（10YR5/1）	砂	灰黄褐色（10YR4/2）粘土多量（ラミナ状）。東壁（C-C'）34～38層に対応 【堆積土】
SX151G	E-E'	1	灰黄褐色（10YR4/2）	砂	スクモ・植物少量。東壁（C-C'）3層に対応 【堆積土】
SX151F		2	黒褐色（10YR3/2）	砂	スクモ多量 【堆積土】
		3	灰黄褐色（10YR4/2）	砂	小礫少量、スクモ少量（ラミナ状） 【堆積土】
		4	黒褐色（10YR3/2）	粘土	灰黄褐色（10YR4/1）砂中量（ラミナ状） 【堆積土】
		5	灰黄褐色（10YR4/2）	砂	スクモ少量 【堆積土】
SD152B		6	黒褐色（10YR2/2）	シルト質砂	砂多量（ラミナ状）。東壁（C-C'）13層に対応 【堆積土】
		7	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	砂多量。東壁（C-C'）14・15層に対応 【堆積土】
SD152A		8	灰黄褐色（10YR6/2）	砂	礫少量 【堆積土】
		9	灰黄褐色（10YR5/2）	砂	礫少量、褐灰色（10YR4/1）粘土少量（ラミナ状） 【堆積土】
		10	褐灰色（10YR6/1）	砂	礫多量 【堆積土】
		11	褐灰色（10YR5/1）	砂	礫わずか、褐灰色（10YR4/1）粘土少量（ラミナ状） 【堆積土】
		12	褐灰色（10YR6/1）	砂	礫多量 【堆積土】
SX151E		13	黒褐色（10YR3/2）	粘土	スクモ多量。東壁（C-C'）23層に対応 【堆積土】
SX151D		14	褐灰色（10YR4/1）	砂	礫・スクモ・植物多量。東壁（C-C'）27層に対応 【堆積土】
SX151C		15	灰黄褐色（10YR4/2）	砂	小礫中量、スクモ少量。東壁（C-C'）28層に対応 【堆積土】
SX151A		16	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	砂多量（ラミナ状）、礫・スクモ少量。東壁（C-C'）34層に対応 【堆積土】
		17	褐灰色（10YR4/1）	シルト質砂	地山ブロック（Ⅸc層）多量。東壁（C-C'）35～37層に対応 【堆積土】
		18	褐灰色（10YR5/1）	砂	灰黄褐色（10YR4/2）粘土多量（ラミナ状）。東壁（C-C'）38層に対応 【堆積土】
F-71区	F-F' G-G'	Ⅳb	暗褐色（10YR3/3）	粘土	スクモ層主体。F-70区Ⅳb層に対応
		Ⅳc	黒色（10YR2/1）	スクモ	
		Ⅳd	暗褐色（10YR3/4）	粘土	スクモ層主体。F-70区Ⅳc層に対応
		Ⅳe	黒褐色（10YR3/2）	スクモ	F-70区Ⅳe層に対応
		Ⅵa	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	スクモやや多量
		Ⅵb	黒褐色（10YR2/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒多量、砂・植物少量
		Ⅵc	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒少量、小～中礫やや多量
		Ⅵd	黒褐色（10YR3/1）	砂質シルト	地山（Ⅸ層）粒わずか、小～中礫多量

〈SX151C 沢跡〉（第 259 図）

［検出面］Ⅸc 層

［構造・規模］検出長 5.0m、上幅 1.4m 以上、下幅 0.8m ある。深さは 0.2m あり、断面形は浅い皿形を呈する。

［方向］東で 1° 南に偏する。

［堆積土］2 層確認した。下層に地山（Ⅸc 層）をラミナ状に含む黒色シルト質粘土、上層に灰黄褐色砂が堆積している。すべて自然堆積層である。

［出土遺物］縄文土器深鉢・鉢、磨石、砕片、種実が出土している。

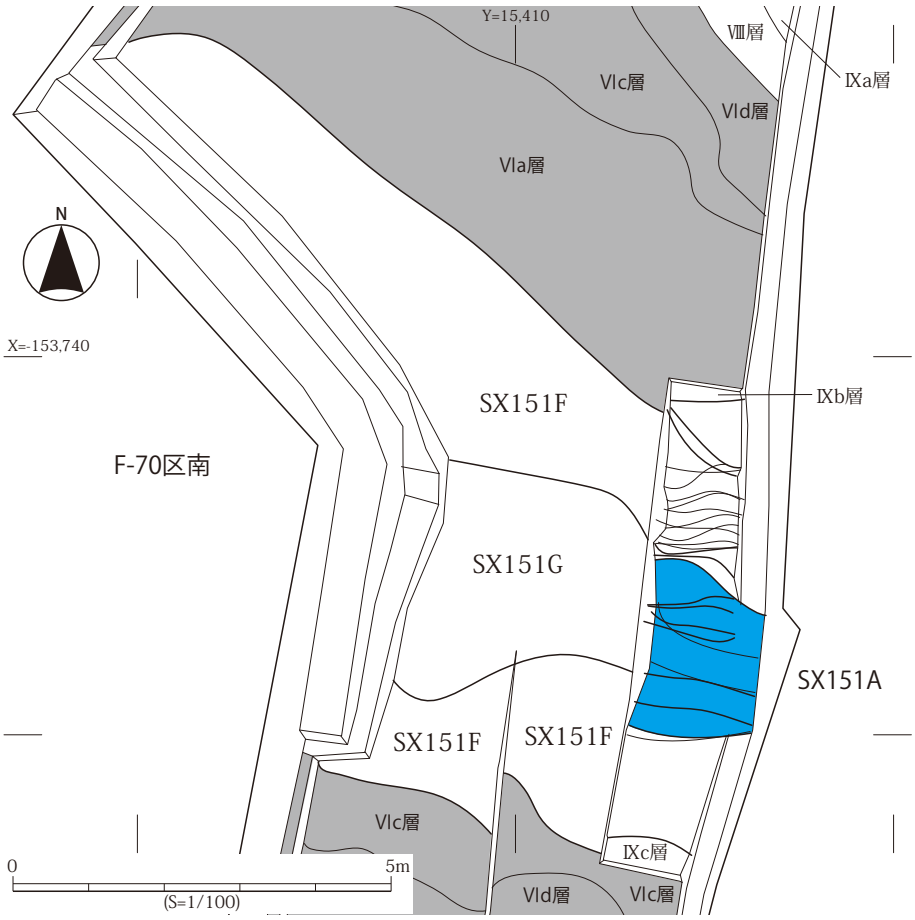
〈SX151D 沢跡〉（第 260 図）

［検出面］SX151B・SX151C 沢跡堆積土

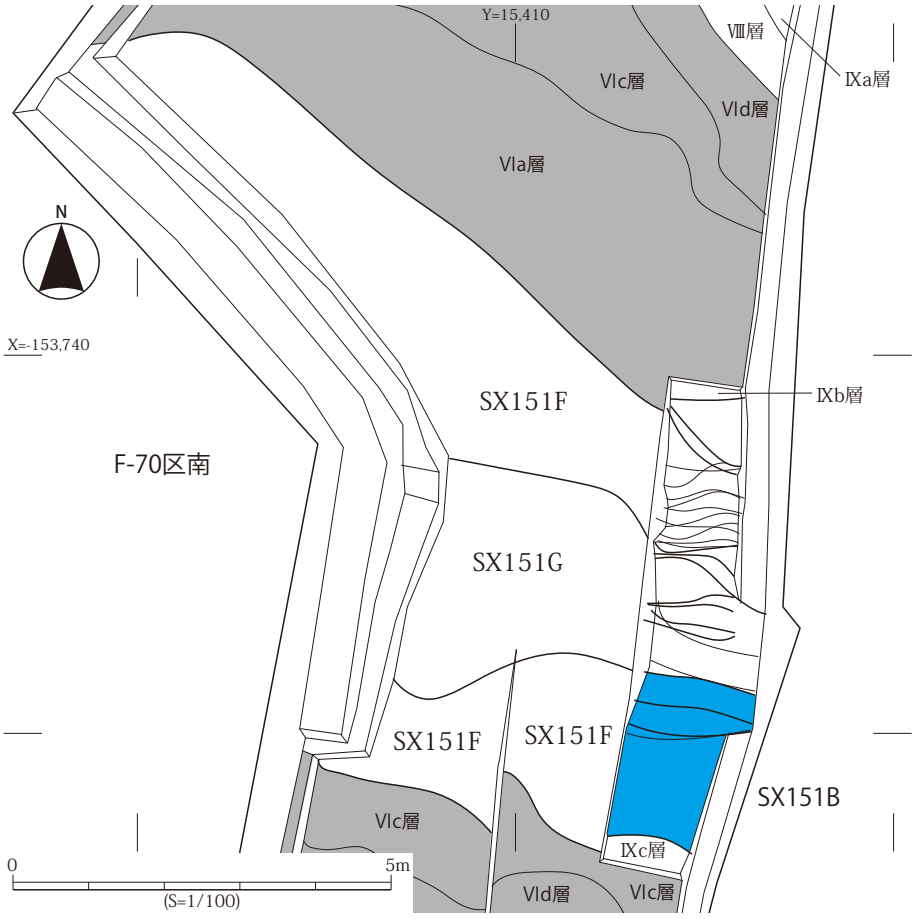
［構造・規模］検出長 5.2m、上幅 1.2m 以上、下幅 0.4m ある。深さは 0.3m あり、断面形は浅い皿形を呈する。

［方向］東で 12° 南に偏する。

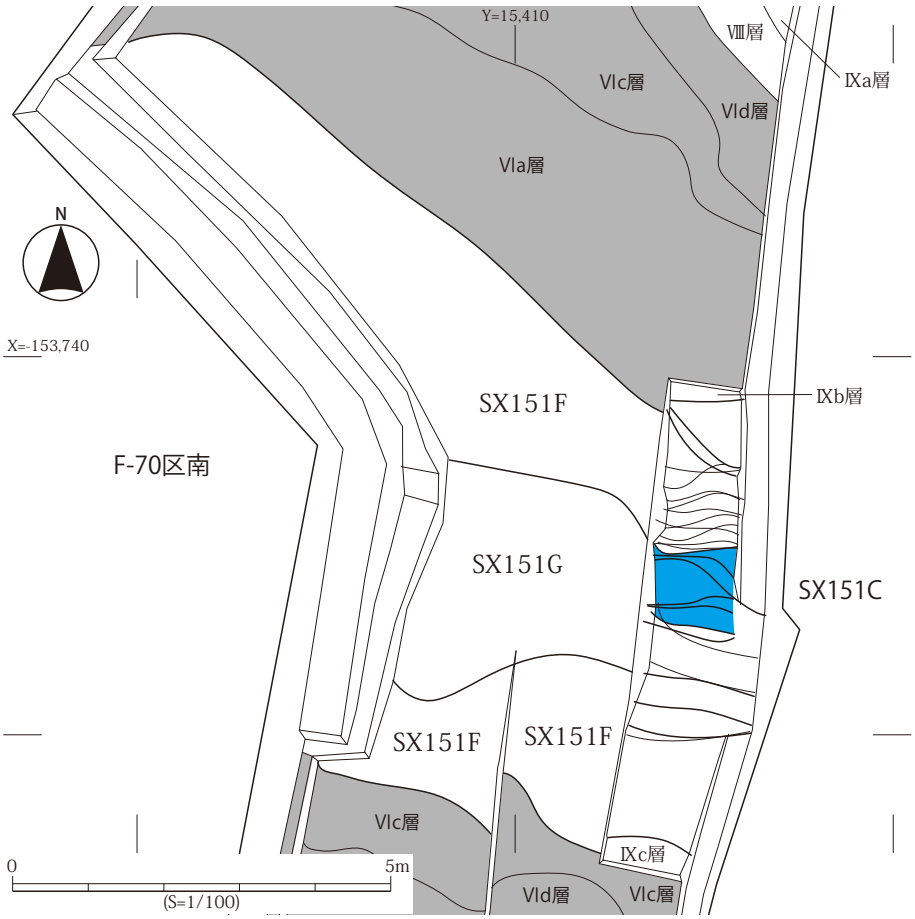
［堆積土］3 層確認した。下層にスクモや礫を多く含む褐灰色砂、上層に暗褐色～灰黄褐色砂が堆積している。すべて自然堆積層である。



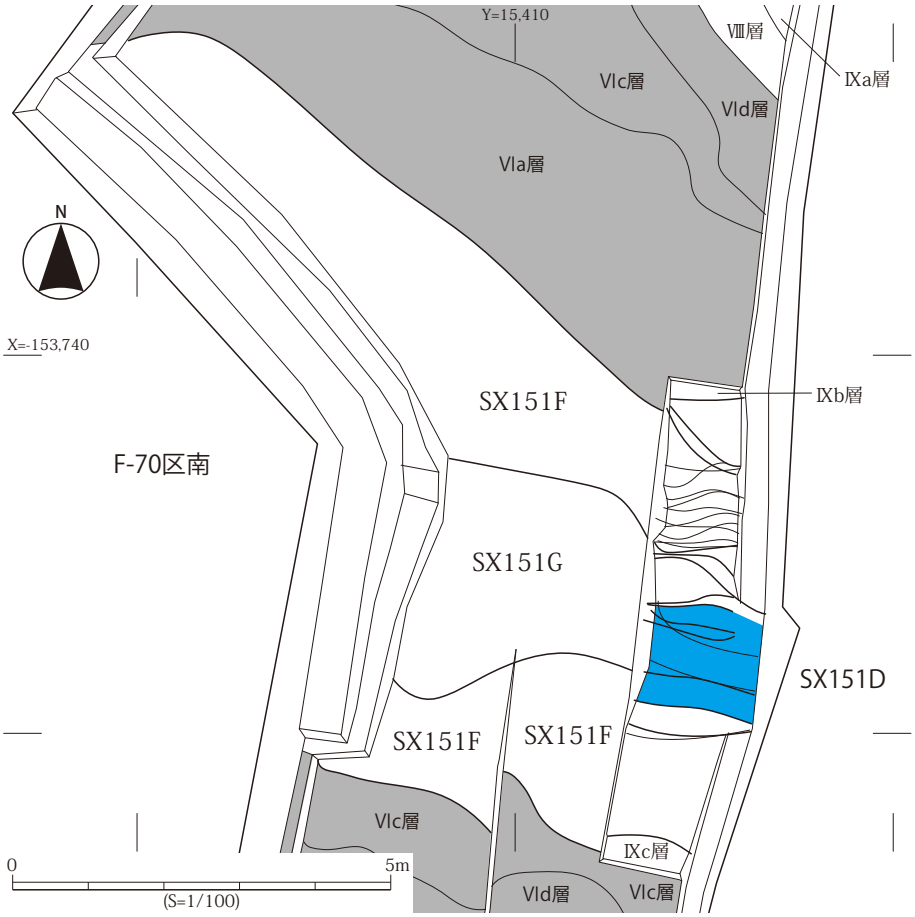
第257図　SX151A沢
跡の検出範囲



第258図　SX151B沢
跡の検出範囲



第259図　SX151C沢
跡の検出範囲



第260図　SX151D沢
跡の検出範囲

［出土遺物］縄文土器深鉢、剥片・砕片、種実（トチノキなど）が出土している（第 266 図）。

〈SX151E 沢跡〉（第 261 図）

［検出面］SX151C・SX151D 沢跡堆積土

［構造・規模］検出長 4.8m、上幅 1.1m 以上、下幅 0.2m ある。深さは 0.3m あり、断面形は浅い皿形を呈する。

［方向］東で 11° 南に偏する。

［堆積土］3 層確認した。下層に地山（Ⅸ c 層）をラミナ状に含む灰黄褐色シルト質砂、中層にスクモを多く含む黒褐色シルト質粘土、上層に黒褐色シルト質砂が堆積している。すべて自然堆積層である。

［出土遺物］縄文時代から弥生時代の土器、種実（トチノキなど）が出土している。

〈SX151F 沢跡〉（第 262 図）

［検出面］Ⅵ a 層

［構造・規模］検出長 9.3m、上幅 7.8m、下幅 0.9m ある。深さは 0.6m あり、断面形は浅い皿形を呈する。

［方向］東で 23° 南に偏する。

［堆積土］6 層確認した。上層にスクモを多く含む黒色シルト質砂や灰黄褐色～にぶい黄褐色砂、中層に暗褐色スクモ、下層に灰黄褐色砂が堆積している。すべて自然堆積層である。

［出土遺物］縄文時代から弥生時代の土器（深鉢・鉢・浅鉢・台付浅鉢・壺）、円盤状土製品、動物形土製品、石鏃、尖頭器、不定形石器、石皿、磨石、剥片・砕片、自然木、草本、種実（オニグルミ・トチノキなど）が出土している（第 266 ～ 269 図）。

〈SX151G 沢跡〉（第 263 図）

［検出面］Ⅵ a 層

［構造・規模］検出長 5.0m、上幅 8.4m 以上、下幅 0.3m ある。深さは 0.7m あり、断面形は V 字形を呈する。

［方向］東で 9° 南に偏する。

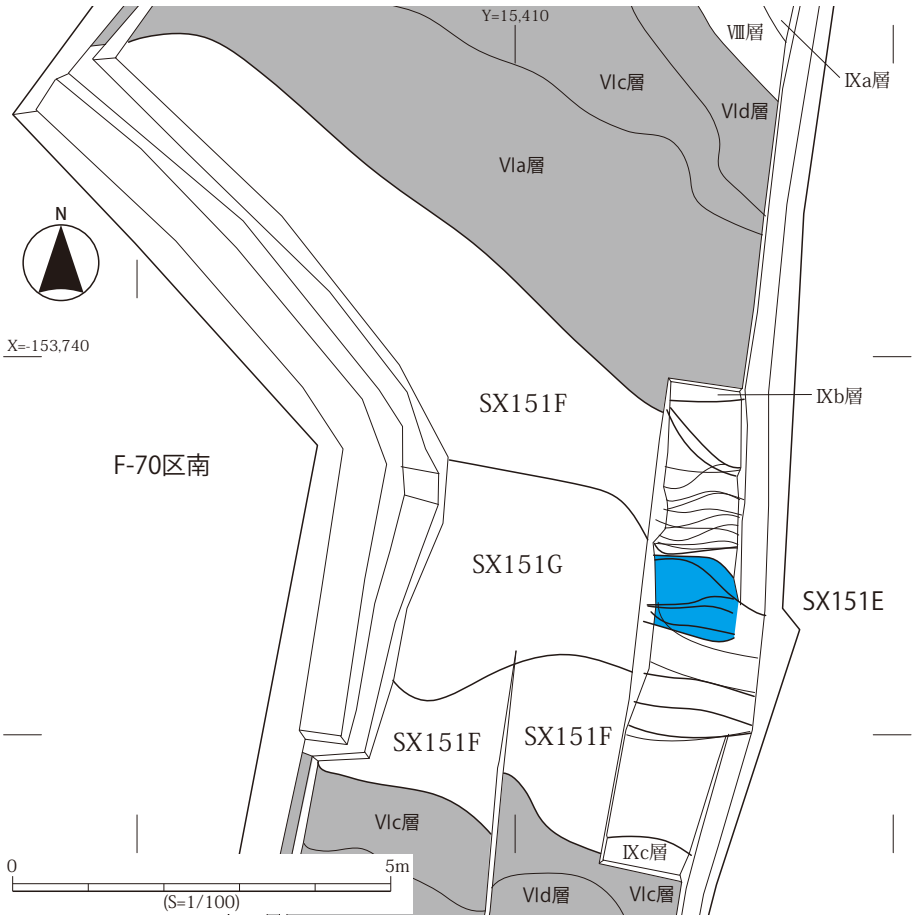
［堆積土］4 層確認した。下層に暗褐色スクモ、中層に灰黄褐色砂、上層に暗褐色スクモが堆積している。すべて自然堆積層である。

［出土遺物］縄文時代から弥生時代の土器（深鉢・鉢・浅鉢・壺・注口土器・漆容器壺）、円盤状土製品、土面 ?、石匙、不定形石器、剥片・砕片、自然木、草本、種実（オニグルミ・トチノキなど）が出土している（第 267 ～ 269 図）。

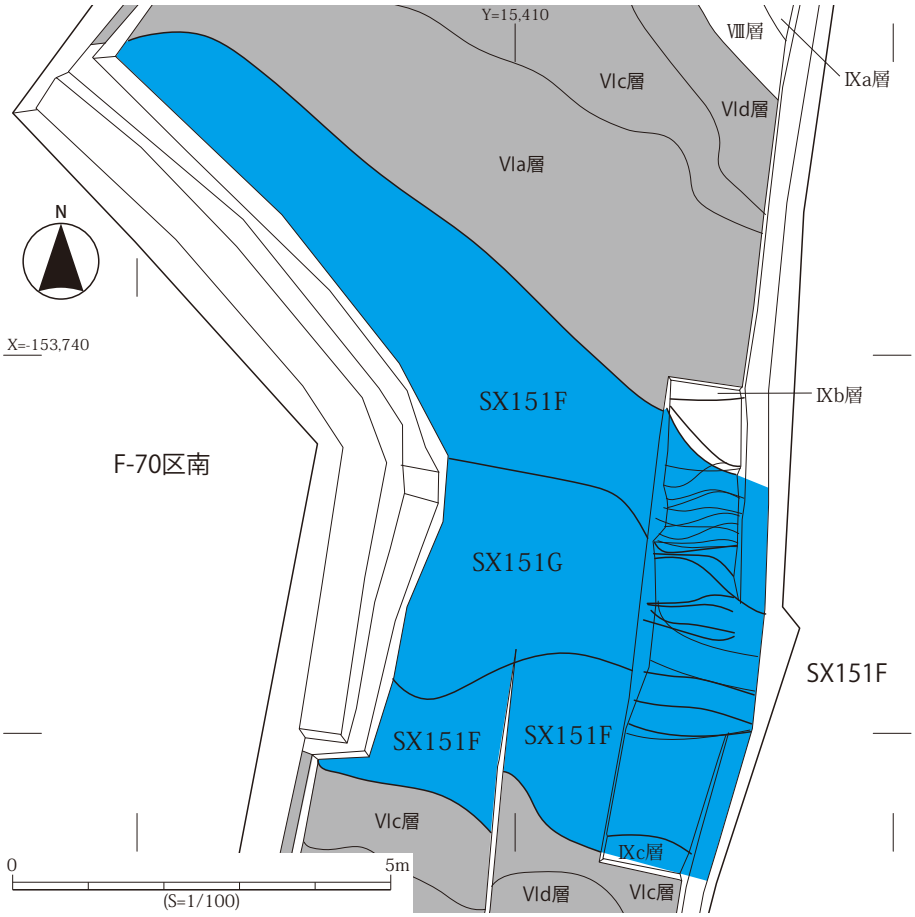
【SD152 溝跡】

［位置］F-70 区南の中央部（第 254 図）

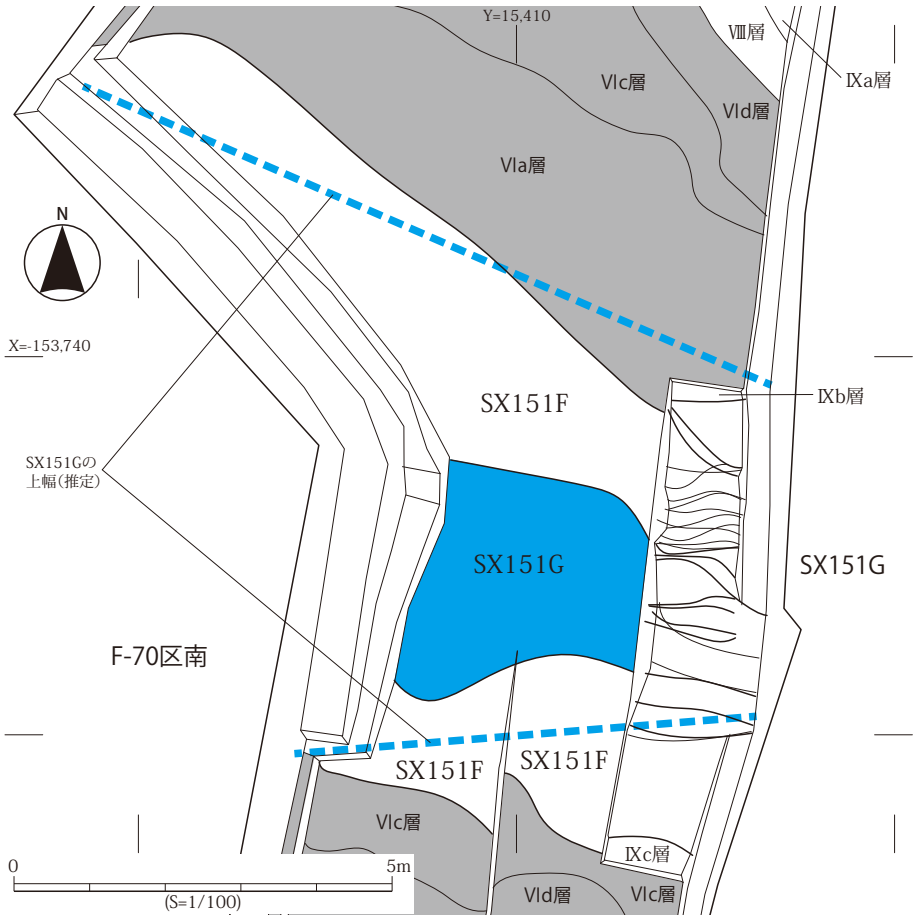
［重複］掘り直しが 1 回認められる（A → B）。SX151 沢跡および遺物包含層と重複し、SX151A ～ E



第261図　SX151E沢跡の検出範囲



第262図　SX151F沢跡の検出範囲



第263図　SX151G沢跡の検出範囲

沢跡より新しく、SX151F ～ G 沢跡と遺物包含層のⅥ c ～Ⅵ a 層よりも古い。

〈SD152A 溝跡〉（第 261 図）

［検出面］SX151E 沢跡堆積土

［構造・規模］検出長が 4.9m ある。南壁の一部（検出長 1.5m）は積土（灰黄褐色シルト質砂や粘土）により成形されている。機能時の上幅は 1.2m、下幅は 0.4m、深さが 0.4m あり、断面形は逆台形を呈する。なお、構築時の上幅は 1.6m である。下流部が増水により壊されているとみられるため、廃絶時の上幅は 5.2m 以上となる（第 256 図）。

［方向］構築時は東で 4° 北に偏し、廃絶時は東で 14° 南に偏する。

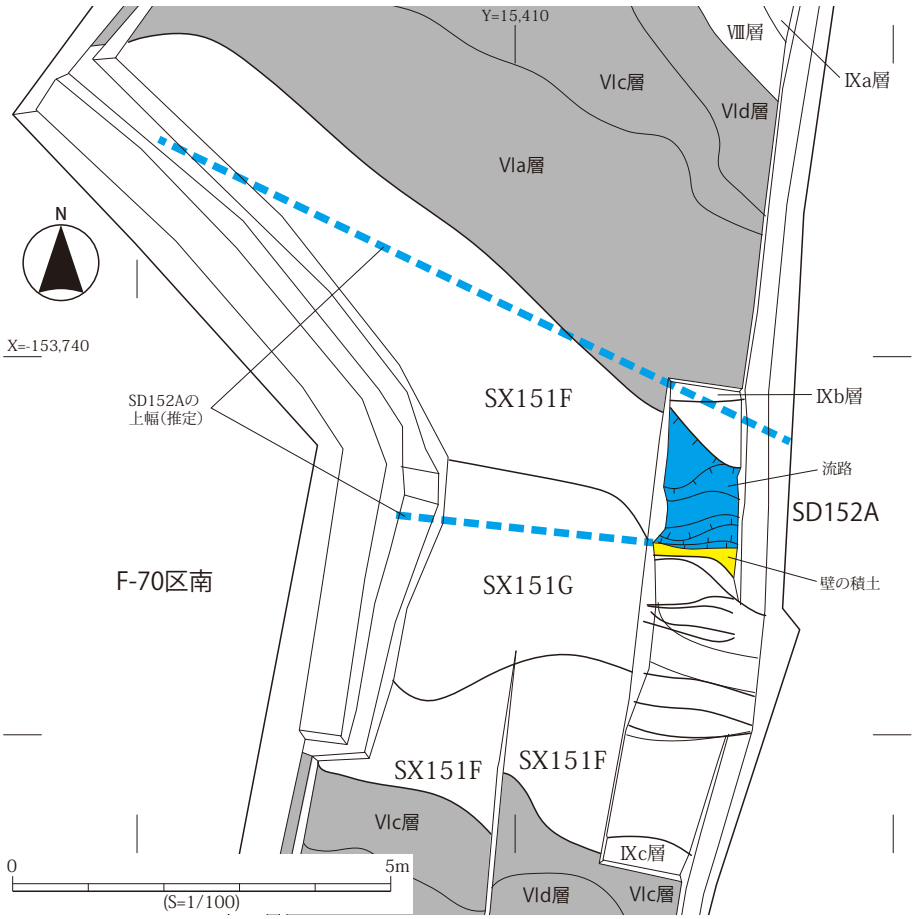
［堆積土］東壁で 6 層確認した。うち、機能時の自然堆積層は 4 層に分かれ、褐灰色シルト質砂や黒褐色シルト質粘土などが堆積している。下流部になると、増水に伴う土砂の堆積が認められるようになり、灰黄褐色～褐灰色砂や粗砂が堆積する。

［出土遺物］種実（オニグルミ・トチノキなど）が出土している。

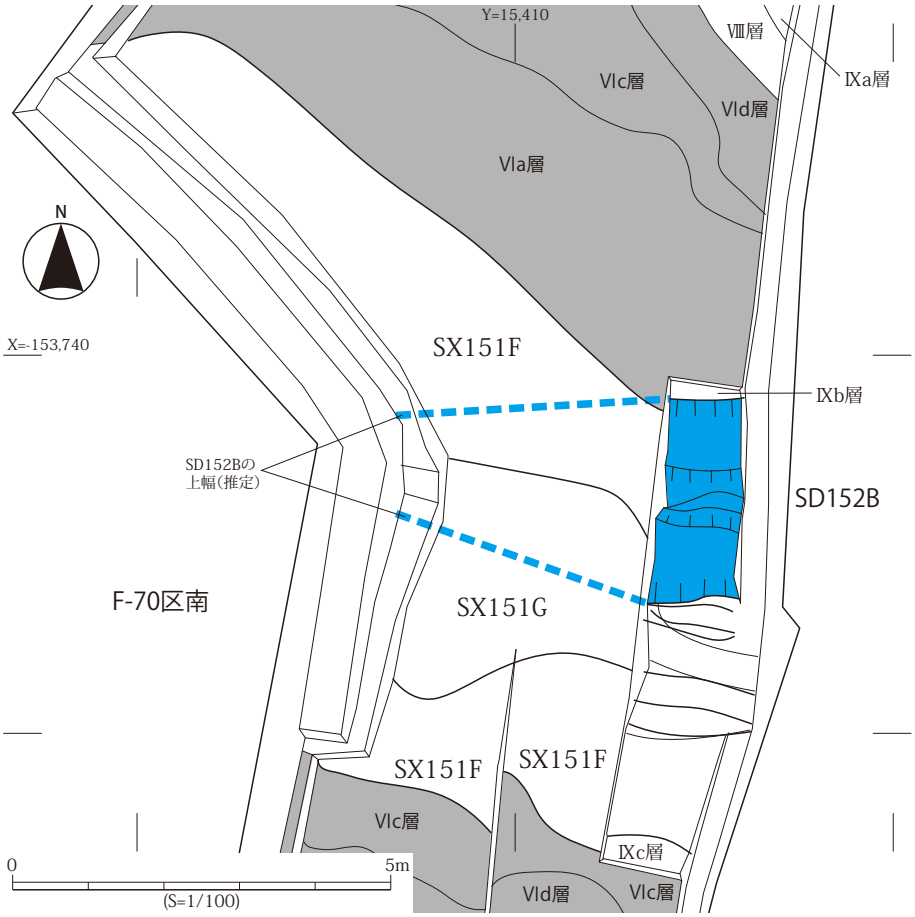
〈SD152B 溝跡〉（第 262 図）

［検出面］Ⅷ層

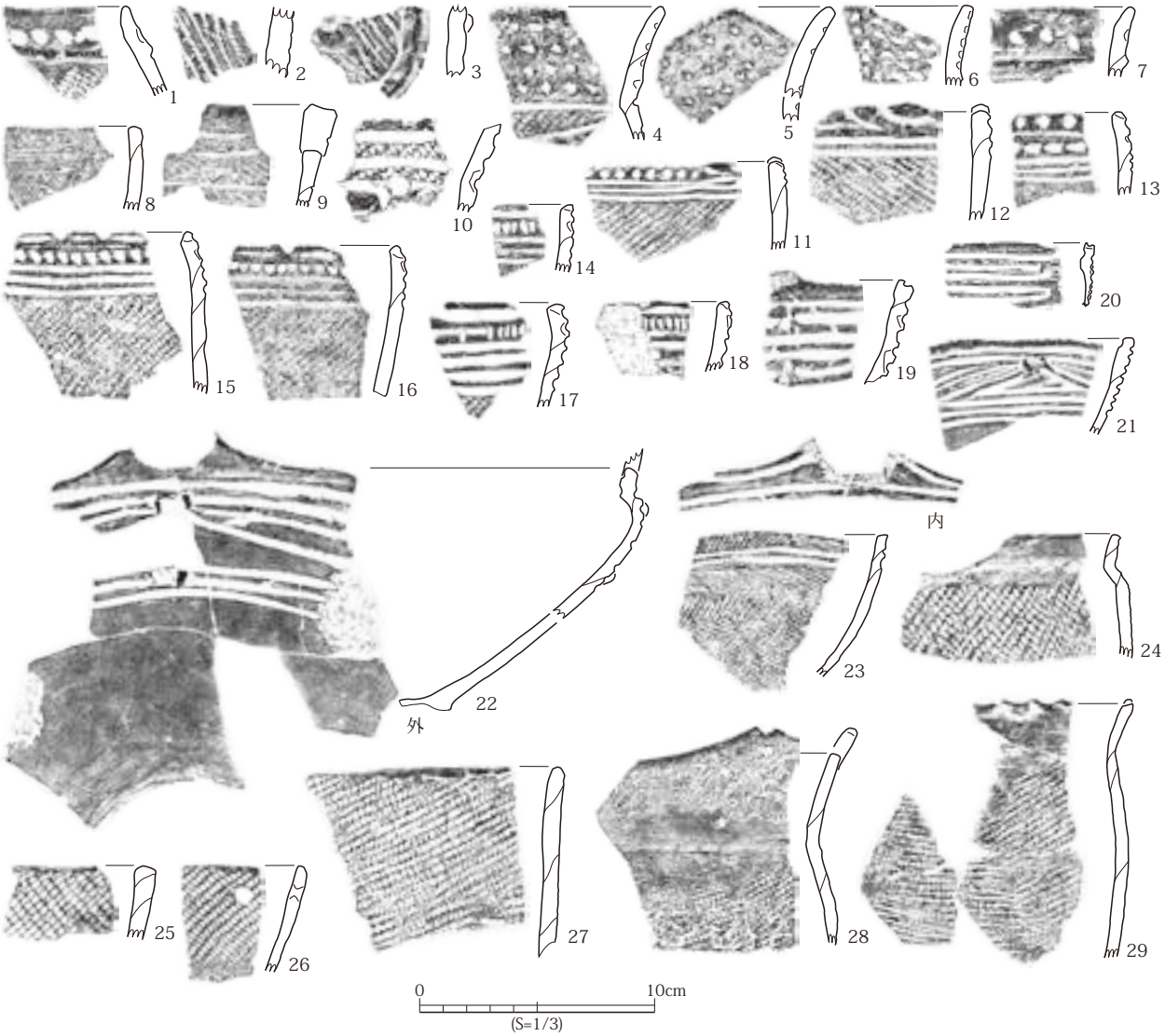
［構造・規模］検出長が 4.9m ある。機能時の上幅は 1.2m、下幅は 0.1m、深さが 0.4m あり、断面形



第264図　SD152A溝跡の検出範囲

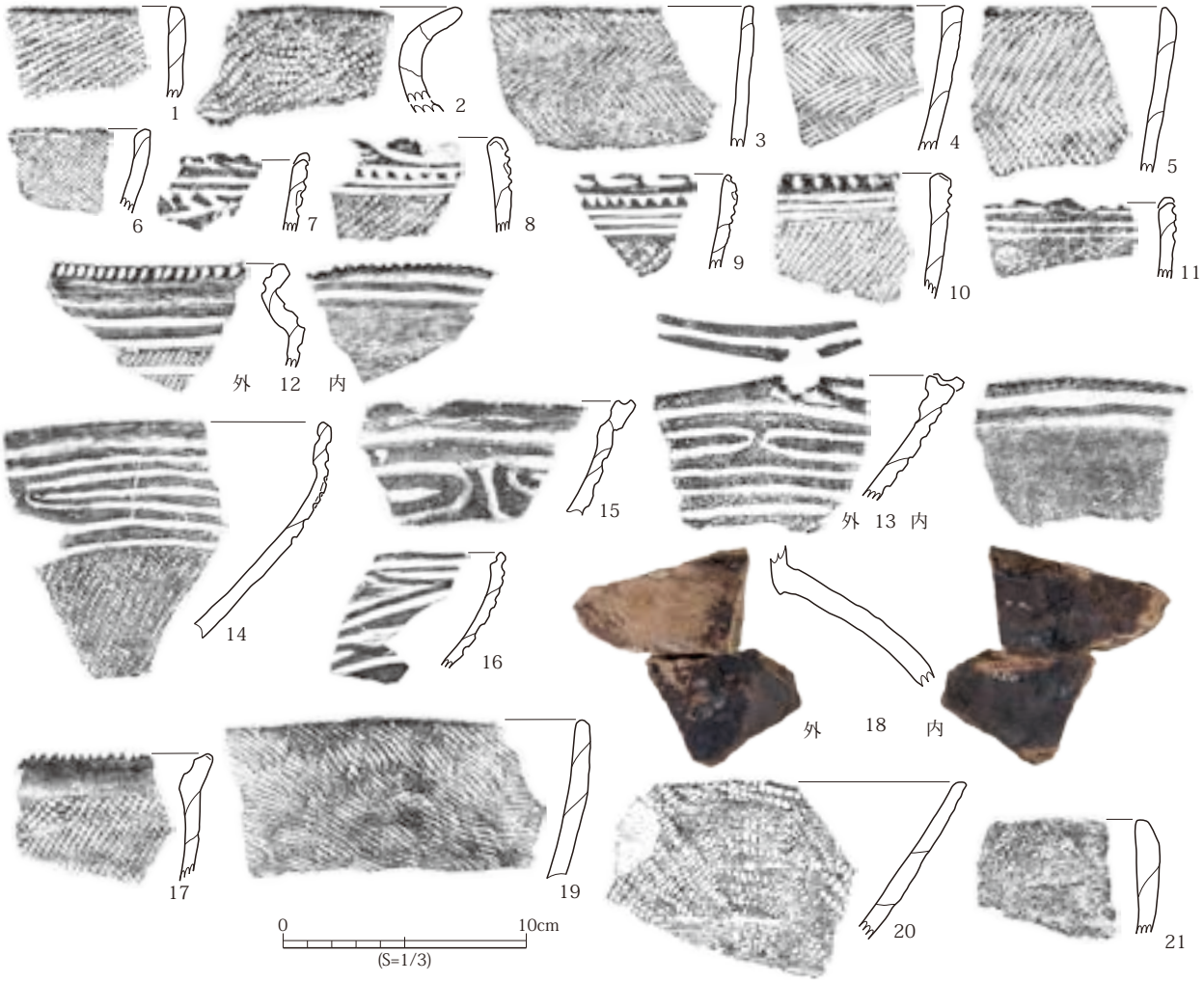


第265図　SD152B溝跡の検出範囲



No.	器　種	類型 1	類型 2	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	C1	-	F-70 南・SX151D / 25-26	平縁。刺突文、横位の隆帯。0 段多条縄文 LR	185-1	Po3815
2	深鉢	-	XIV a1	F-70 南・SX151D / 25-26	押圧縄文 L	185-2	Po3814
3	深鉢	-	-	F-70 南・SX151F / 堆積土	隆線による渦巻文。無節縄文 L	185-3	Po3971
4	深鉢	C1	-	F-70 南・SX151F / 堆積土	大波状縁。刺突文、斜位の沈線文。縄文 LR	185-18	Po3793
5	深鉢	C3	-	F-70 南・SX151F / 堆積土	大波状縁。刺突文	185-12	Po3779
6	深鉢	D1	XIII	F-70 南・SX151F / 5	平縁。刺突列、横位沈線文	185-7	Po3800
7	鉢	C1	-	F-70 南・SX151F / 6-10	平縁。刺突文、平行沈線文 + 隆帯	185-6	Po3806
8	深鉢	A1	-	F-70 南・SX151F / 堆積土	平縁。横位の条線文、弧状の条線文	185-4	Po3768
9	深鉢	A1e	I a	F-70 南・SX151F / 堆積土	平縁。方形突起。帯状文（縄文）。縄文 RL	185-5	Po3772
10	深鉢	-	II a	F-70 南・SX151F / 8-10	入組帯状文（縄文）+ 盲孔 1。縄文 LR	185-8	Po3810
11	深鉢	A1cdf	XII x	F-70 南・SX151F / 6-10	平縁。二個一対の小突起 + 弧状の短沈線文 + ヘラ刻目。羊歯状の浮線文、平行沈線文。無節縄文 L	185-9	Po3807
12	深鉢	A1cdf	XII x	F-70 南・SX151F / 確認面	平縁。二個一対の小突起 + 弧状の短沈線文 + ヘラ刻目。羊歯状の浮線文、平行沈線文。縄文 RL	185-10	Po3813
13	鉢	A1d	XII b1	F-70 南・SX151F / 堆積土	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文 + 刺突列	185-13	Po3784
14	鉢	A1d	XII a1	F-70 南・SX151F / 6-10	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文 + 刺突列	185-11	Po3805
15	深鉢	A1d	XII b1	F-70 南・SX151F / 9	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文 + 刺突列。縄文 LR。胎土に海綿骨針を含む	185-20	Po3811
16	鉢	A1d	XII b1	F-70 南・SX151F / 堆積土	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文 + 刺突列。無節縄文 L	185-19	Po3776
17	鉢	A1d	XII a2	F-70 南・SX151F / 堆積土	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文 + 櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。縄文 LR	185-14	Po3778
18	鉢	A1d	XII a1	F-70 南・SX151F / 堆積土	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文 + 櫛歯状刻目	185-26	Po3777
19	鉢	A1cf	IX a	F-70 南・SX151F / 堆積土	平縁。山形突起 + 口唇部沈線。π字文（下向）、平行沈線文。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	185-16	Po3773
20	鉢	A1cd	IX a+ X b	F-70 南・SX151F / 堆積土	平縁。口唇部沈線 + 押圧。π字文（下向）、工字文（陽刻）。口縁部内面沈線	185-15	Po3785
21	浅鉢	A1	XI a	F-70 南・SX151F / 堆積土	平縁。変形工字文（祖型）、平行沈線文。口縁部内面沈線	185-17	Po3771
22	台付浅鉢	B3e	IX b+ XI c	F-70 南・SX151F / 堆積土 + VI b 確認面	大波状縁。突起。変形工字文 + 二個一対の貼瘤、π字文（上向）+ 二個一対の貼瘤。突起・口縁部内面沈線。外面赤彩	185-22	Po3824
23	鉢	A1	XII x	F-70 南・SX151F / 5	平縁。平行沈線文。羽状縄文 LR/RL（いずれも 0 段多条）、RL/LR（いずれも 0 段多条）	185-21	Po3801
24	深鉢	B1	XIII	F-70 南・SX151F / 堆積土	平縁。直前段多条縄文 LR。外面炭化物付着。内面焼けハジケ	185-25	Po3761
25	深鉢	A1	XIV a1	F-70 南・SX151F / 9	平縁。縄文 LR	185-23	Po3812
26	深鉢	A1	XIV a1	F-70 南・SX151F / 5	平縁。羽状縄文 LR/RL。補修孔 1	185-24	Po3804
27	深鉢	A1	XIV a1	F-70 南・SX151F / 堆積土	平縁。縄文 LR。外面炭化物付着	185-28	Po3767
28	深鉢	C3	XIII	F-70 南・SX151F / 堆積土	大波状縁。突起頂部刻み。横位沈線文。直前段多条縄文 LR。内外面炭化物付着	185-29	Po3780
29	深鉢	C2	XIV b1	F-70 南・SX151F / 堆積土	小波状縁。縄文 LR	185-30	Po3791

第266図　SX151沢跡　出土土器（1）



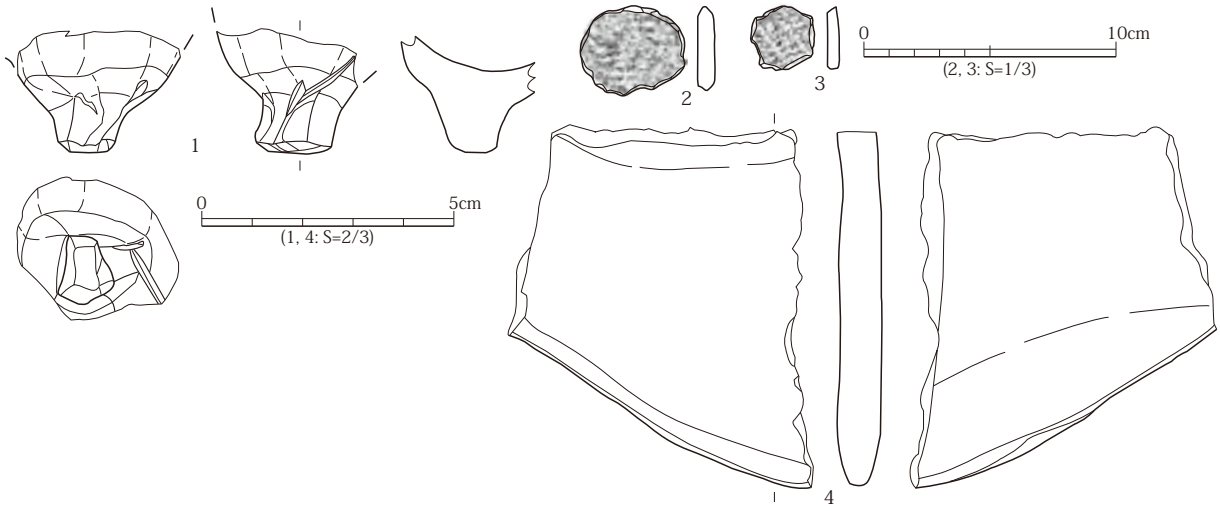
No.	器　種	類型 1	類型 2	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1	XIV a2	F-70 南・SX151F / 5	平縁。0 段多条縄文 LR	185-35	Po3803
2	壺	D1	XIV a1	F-70 南・SX151F / 6-10	平縁。縄文 LR	185-27	Po3808
3	深鉢	A1	XIV a2	F-70 南・SX151F / 堆積土	平縁。羽状縄文 RL/LR（平行に磨消）	185-33	Po3770
4	深鉢	A1	XIV a2	F-70 南・SX151F / 堆積土	平縁。羽状縄文 LR/RL	185-31	Po3766
5	深鉢	A1	XIV a2	F-70 南・SX151F / 堆積土	平縁。羽状縄文 LR（0 段多条）/RL	185-32	Po3786
6	浅鉢	A1	XIV a2	F-70 南・SX151F / 堆積土	平縁。羽状縄文 RL/LR	185-34	Po3769
7	鉢	A1df	IV	F-70 南・SX151G / 4	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。羊歯状文	185-37	Po3755
8	鉢	A1f	V	F-70 南・SX151G / 4	平縁。二個一対の円形突起。羊歯状の浮線文、列点文。縄文 LR	185-38	Po3744
9	深鉢	A1cd	XII b1	F-70 南・SX151G / 4	平縁。弧状の短沈線文 + ヘラ刻目。平行沈線文 + 刺突列。縄文 LR	185-39	Po3751
10	深鉢	A1d	XII x	F-70 南・SX151G / 4	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR	185-40	Po3748
11	鉢	A1df	XII x	F-70 南・SX151G / 4	平縁。二個一対の小突起 + ヘラ刻目。羊歯状の浮線文、平行沈線文。縄文原体不明	185-36	Po3756
12	鉢	B1d	XII x	F-70 南・SX151G / 4	平縁。ヘラ刻目。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面平行沈線文	185-47	Po3754
13	鉢	A1cf	X b	F-70 南・SX151G / 4	平縁。二個一対の山形突起 + 口唇部沈線。工字文（陽刻）、平行沈線文。口縁部内面平行沈線文	185-45	Po3747
14	鉢	C1	X b	F-70 南・SX151G / 堆積土	平縁。平行沈線文、工字文（陽刻）。縄文 LR。口縁部内面沈線	185-49	Po3736
15	鉢	B1c	X b	F-70 南・SX151G / 1-3	平縁。口唇部沈線。工字文（陽刻）。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	185-44	Po3737
16	浅鉢	A1	IX a+ XI ?	F-70 南・SX151G / 4	平縁。π字文（下向）、波状工字文か、π字文（上向）。口縁部内面沈線	185-41	Po3753
17	深鉢	C1d	XIII	F-70 南・SX151G / 4	平縁。ヘラ刻目。横位沈線文。縄文 LR。口縁部内面沈線	185-42	Po3745
18	漆容器（壺）	-	XIII	F-70 南・SX151G / 堆積土	横位沈線文。内外面アスファルト・漆？付着	185-50	Po3739
19	深鉢	A1	XIV a1	F-70 南・SX151G / 4	平縁。無節縄文 L。外面炭化物付着	185-46	Po3759
20	鉢	A1	XIV a1	F-70 南・SX151G / 4	平縁。直前段多条縄文 RL	185-48	Po3758
21	深鉢	A1	XV	F-70 南・SX151G / 1-3	平縁	185-43	Po3740

第267図　SX151沢跡　出土土器（2）

は逆台形を呈する。なお、廃絶時の上幅は 2.6m ある（第 256 図）。

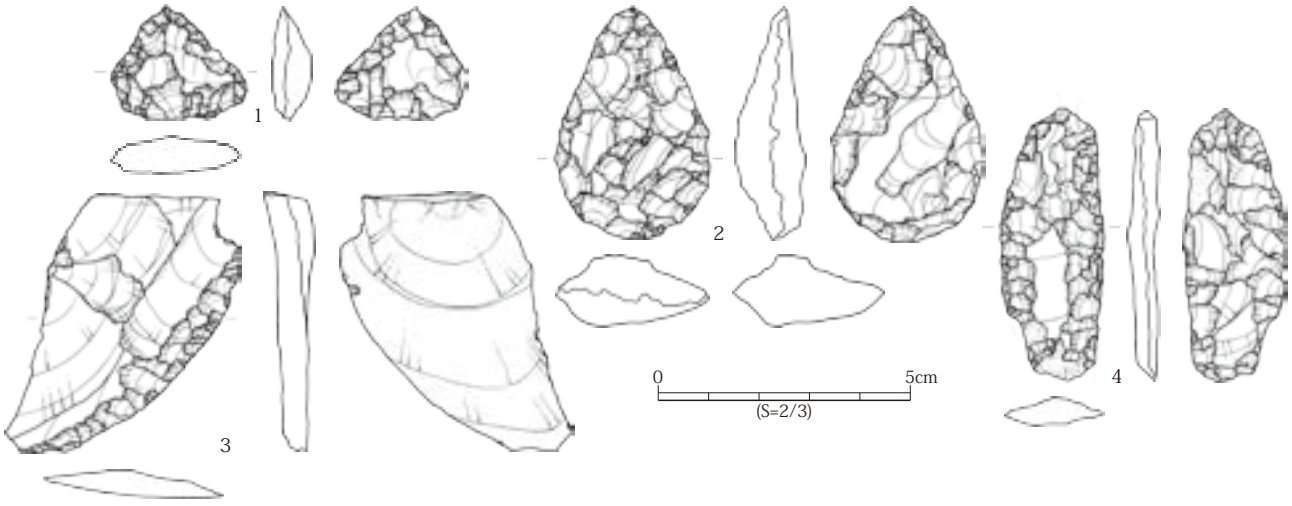
［方向］東で 6° 南に偏する。

［堆積土］東壁で 5 層確認した。廃絶時に近い時期のオーバーフローによる堆積土は 3 層に分かれ、黒褐色シルト質や黒色砂質シルト、砂黒色シルト質粘土が見られる。機能時は 2 層に分かれ、砂が多



No.	器　種	類型	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	動物形土製品	-	F-70 南・SX151F / 堆積土	残存長 25.4mm、残存幅 29.4mm、残存厚 31.1mm。中空。無文（ナデ）。左後肢か	184-1	CO844
2	円盤状土製品	Ba1	F-70 南・SX151F / 8-10	長 41.5mm、幅 33.8mm、厚 7.3mm。楕円形、平坦、剥離成形。縄文原体不明。摩滅著しい	184-2	CO829
3	円盤状土製品	Cc1	F-70 南・SX151G / 4	長 27.8mm、幅 25.0mm、厚 5.1mm。多角形、湾曲、剥離成形。縄文 LR	184-3	CO821
4	土面か	-	F-70 南・SX151G / 4	残存長 71.3mm、残存幅 60.1mm、残存厚 8.8mm。内外面無文（ミガキ）	184-4	CO839

第268図　SX151沢跡　出土土製品



No.	器　種	類型	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	石鏃	V	F-70 南・SX151F / 堆積土	碧玉 B2	22.3	25.9	6.7	3.73	完形	0	1	0	0	0		187-1	S6462
2	尖頭器	Ⅰ b1	F-70・SX151F / 5	珪質頁岩 B	46.0	30.3	13.3	15.15	完形	0	1	0	0	0		187-2	S6506
3	不定形石器	Ⅲ d	F-70 南・SX151F / 6-10	珪質凝灰岩 B	52.3	46.2	8.0	13.61	一部欠	0	0	0	0	0		187-3	S6529
4	石匙	Ⅰ b	F-70 南・SX151G / 1-3	珪質頁岩 A	54.2	20.1	6.0	6.26	つまみ部欠	1	2	0	0	0		187-4	S6466

第269図　SX151沢跡　出土石器

く混じる黒色粘土質シルトが堆積している。すべて自然堆積層である。

［出土遺物］縄文時代から弥生時代の土器（深鉢・鉢・浅鉢）、円盤状土製品、剥片が出土している。

2. 遺物包含層

東Ｄ丘陵と東Ｅ丘陵の間にある丘陵西側斜面では、黒色～黒褐色を呈する粘土～粘土質シルトを主体とするⅥ層が堆積し、この層に縄文時代晩期から弥生時代前期を主体とする土器や石器などの遺物が多量に包含されている。この遺物包含層は丘陵裾部から低地部にかけて西に広がる。第４章です

でに述べたように、この遺物包含層を「東 D･E 丘陵間西斜面包含層」と呼称し、これについて述べる。

(1) 堆積状況と分布範囲

Ⅵ層を F-70・71 区で検出し、縄文時代晩期から弥生時代前期を主体とする遺物が多量に包含されている状況を確認した。F-70 区は北・中央・南の 3 つに調査区を細分したが（第 254 図）、これらのうち南区で遺物が多く出土している。F-71 区は北側約 1/4 の範囲で遺物の出土を確認した（第 255 図）。これらの範囲は、東西約 10m（F-70 区南の東端から同区南の西端を結ぶ直線距離）、南北約 30m（F-70 区南の北端から F-71 区における遺物分布の南限を結ぶ直線距離）ある。F-70 区中央および北、また、F-71 区の南側やさらに南に位置する F-72 区では遺物の分布が散漫であり、さらに、F-70 区の北に位置する F-69 区、これらの西に位置する F-73 区と F-75 区では遺物の出土はほとんど見られなかった。

Ⅵ層は、丘陵裾部から低地部に向かってやや緩やかに傾斜する。Ⅵ層上面での地形を見ると、F-71 区北壁ではⅥ層の検出長約 5.8m、Ⅵ層上面での比高約 0.3m、勾配約 5.5% である。F-70・71 区で検出したⅥ層は 4 層に分けられる。なかでも F-70 区南で溝跡や沢跡と重複する。

(2) 遺物の層位別出土状況

遺物包含層から出土した遺物は遺物収納箱（54 × 34 × 15cm）換算で約 16 箱に相当する量（遺構出土のものを含む）が出土している。以下に、遺物の種類ごとの層位別出土状況について述べる。

①土器

Ⅵ d 層では中・小破片を中心に少量出土している。器種は深鉢や鉢、浅鉢がある。装飾は、帯状文や三叉文、雲形文、π 字文（第 270 図 3）、変形工字文（同図 3）などが見られる。

Ⅵ c 層では中・小破片が主体となる。器種は深鉢や鉢、壺、蓋のほかに台の付く土器がある。装飾は、条痕文（第 270 図 4）や入組帯状文、雲形文、浮線渦巻文（同図 9）、工字文、π 字文（同図 10・11）、変形工字文（同図 11）などが見られる。第 270 図 12 は遠賀川系土器の壺とみられる。

Ⅵ b 層では中・小破片が主体的に出土している。器種は深鉢や鉢、浅鉢・台付浅鉢、壺のほかに台や脚の付く土器がある。装飾は、帯状文（第 270 図 19）や雲形文、工字文（第 271 図 3）、π 字文（第 270 図 21、第 271 図 1）、変形工字文（同図 2 ～ 4）などが見られる。

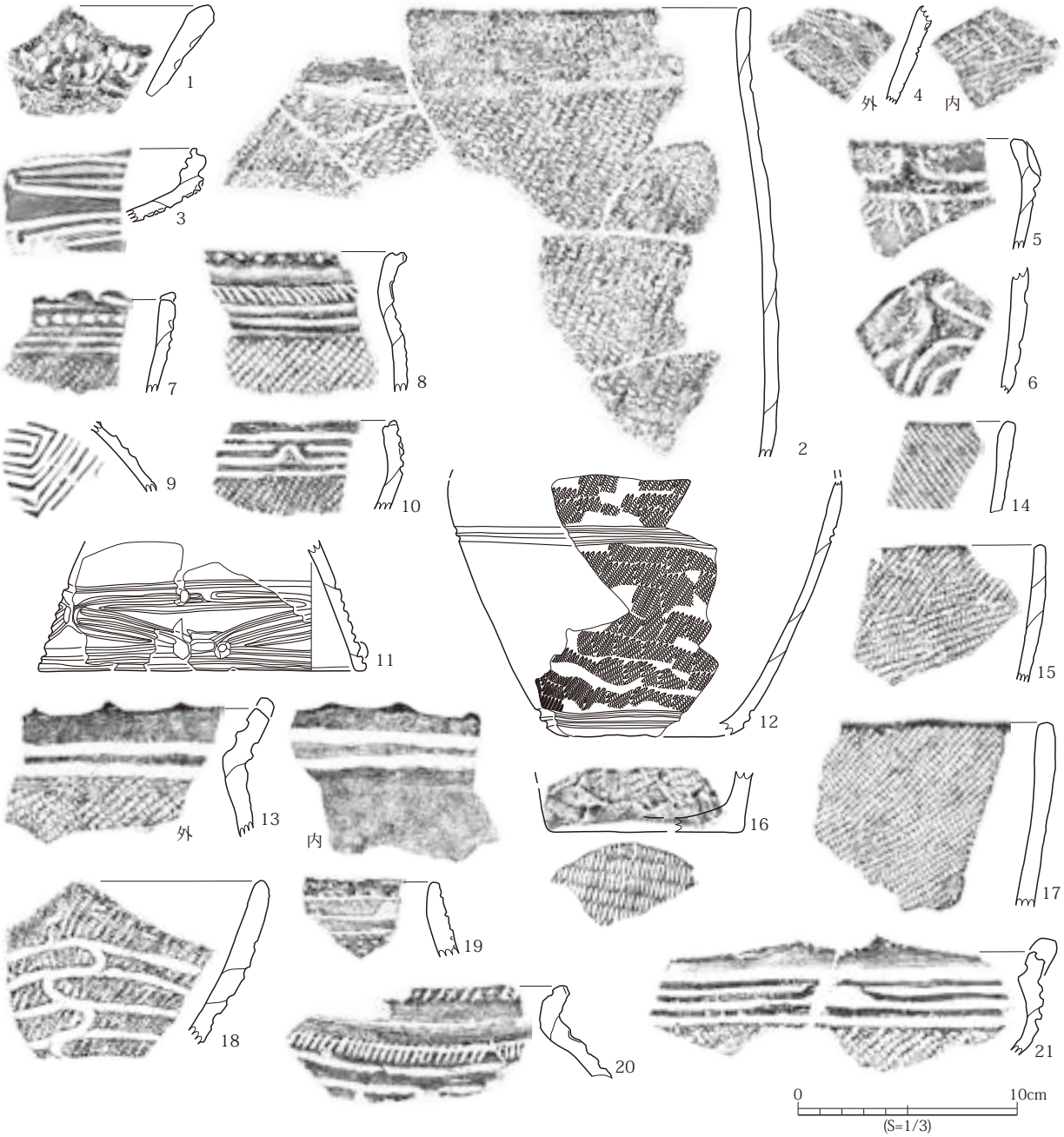
Ⅵ a 層では中・小破片と大破片が出土している。器種は深鉢や鉢、台付浅鉢、皿、壺がある。装飾は、π 字文（第 271 図 18）や変形工字文（第 272 図 1）などが見られる。

②土製品

土製品は少量の出土にとどまる。

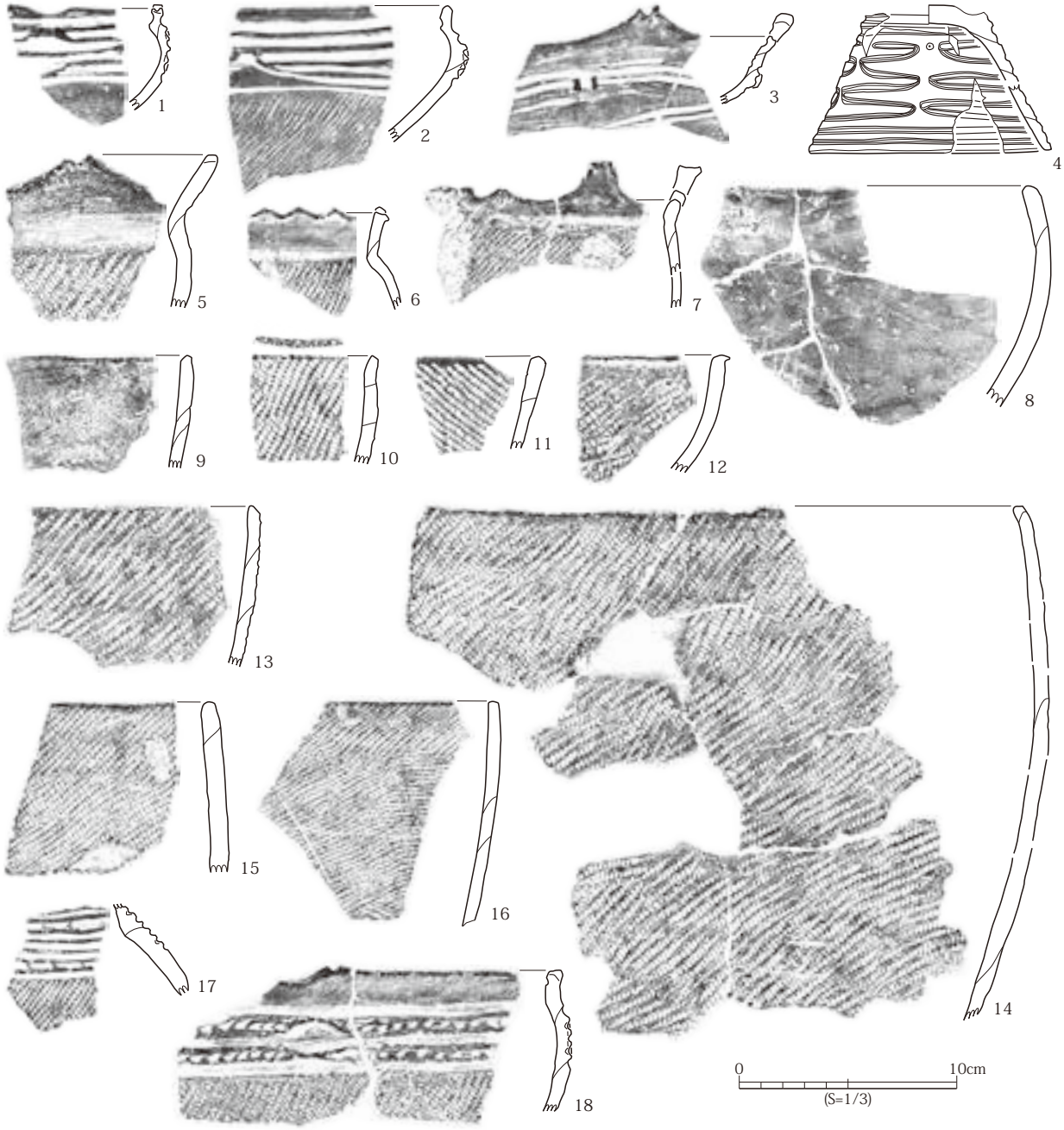
Ⅵ b 層からは円盤状土製品が出土している。

Ⅵ a 層からは、土面?（第 273 図 1）と円盤状土製品が出土している。



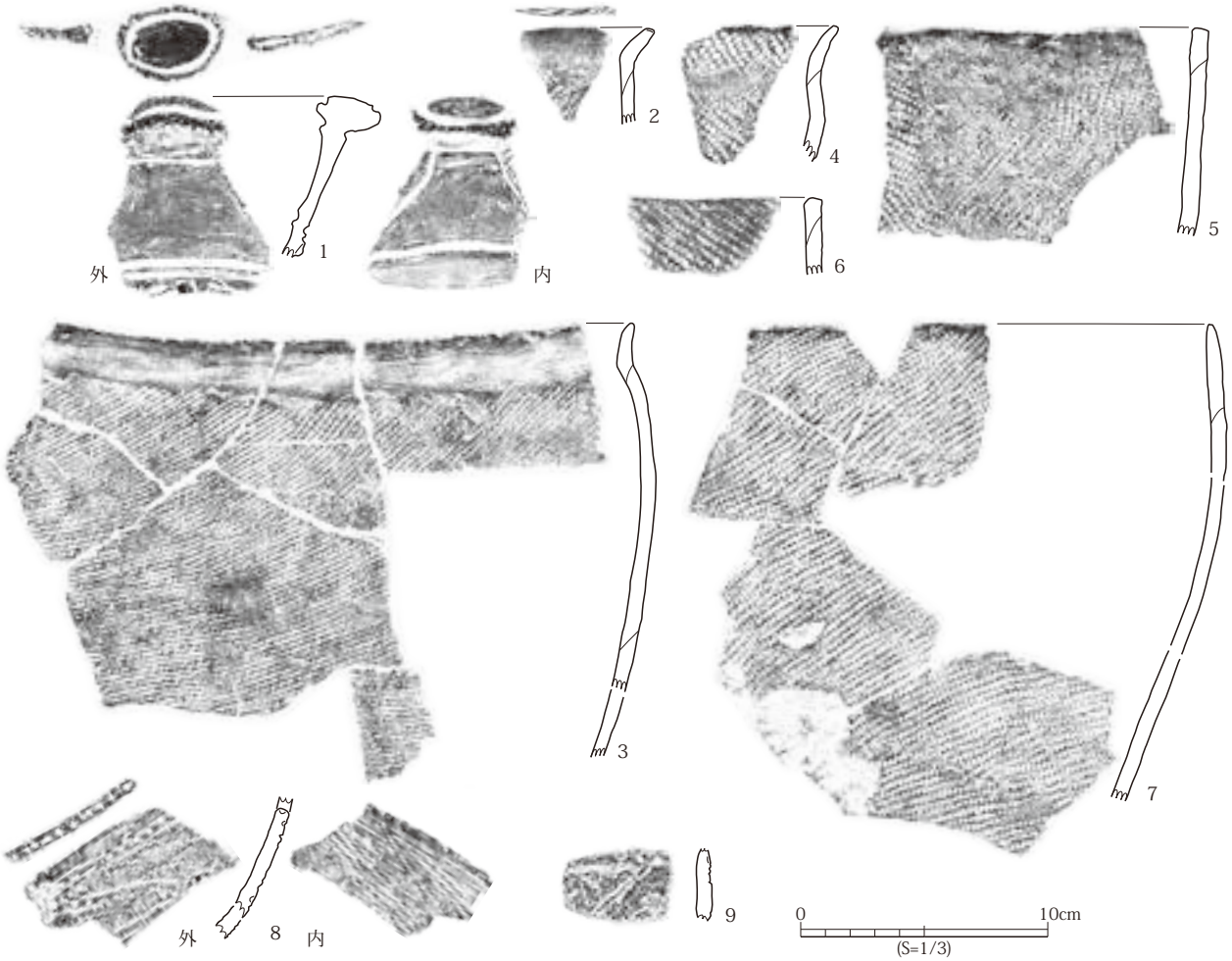
No.	器種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A3e	-	Ⅵ d	F-71 / Ⅵ d	大波状縁。山形突起。円形の区画文（隆線）+ 区画文 + 刺突文。縄文 RL	188-1	Po3890
2	深鉢	C1	ⅩⅢ	Ⅵ d	F-70 南 +F-71 /　Ⅵ d+ Ⅵ c+ Ⅵ b	平縁。横位沈線文。縄文 LR。内面焼けハジケ	188-3	Po3724
3	浅鉢	-	Ⅸ a+ Ⅹ Ⅰ b1	Ⅵ d	F-71 / Ⅵ d	変形工字文、π字文（上向）。口縁部内面沈線。内外面赤彩	188-2	Po3883
4	深鉢	A1d	-	Ⅵ c	F-70 南 / Ⅵ c	大波状縁。刺突列（円形竹管）。条痕文､弧状の平行沈線文（半裁竹管）+ 刺突列（円形竹管）。縄文 LR。内面条痕文	188-4	Po3725
5	深鉢	A1	-	Ⅵ c	F-71 / Ⅵ c	平縁。縦位の隆帯 + 横位の隆帯、弧状の平行沈線文。縄文 LR	188-5	Po3881
6	深鉢	-	-	Ⅵ c	F-70 南 / Ⅵ c	弧状の平行沈線文、鉤状沈線文	188-6	Po3726
7	深鉢	A1df	ⅩⅡ x	Ⅵ c	F-70 南 / Ⅵ c	平縁。二個一対の円形突起 + ヘラ刻目。羊歯状の浮線文、平行沈線文 + 刺突列。縄文 LR。胎土に海綿骨針を含む	188-8	Po3741
8	深鉢	B1cd	ⅩⅡ a1	Ⅵ c	F-70 南 / Ⅵ c	平縁。ヘラ刻目 + 口唇部沈線。平行沈線文 + 櫛歯状刻目。縄文 LR	188-9	Po3727
9	蓋	-	-	Ⅵ c	F-70 南 / Ⅵ c	平行沈線文（浮線渦巻文）	188-10	Po3831
10	鉢	A1cd	Ⅸ a	Ⅵ c	F-70 南 / Ⅵ c	平縁。口唇部沈線 + 押圧。π字文（下向）、平行沈線文。縄文 LR	188-12	Po3833
11	台部	A1	Ⅸ a+ Ⅹ Ⅰ c	Ⅵ c	F-70 南 / Ⅵ c	台部径（14.7cm）。平縁。変形工字文 + 二個一対の貼瘤、π字文（上向）	188-32	Po3832
12	壺	-	ⅩⅡ x	Ⅵ c	F-70 南 SX151 / 堆積土 + Ⅵ c	最大径（18.0cm）、底径（9.0cm）。平行沈線文、底部付近に平行沈線文。縄文 LR。底部ナデ。遠賀川系土器	188-11	Po3976
13	深鉢	B2	ⅩⅡ x	Ⅵ c	F-70 南 / Ⅵ c	小波状縁。平行沈線文。縄文 LR。口縁部内面平行沈線文	188-13	Po3835
14	深鉢	A1	ⅩⅣ a1	Ⅵ c	F-70 南 / Ⅵ c	平縁。直前段多条縄文 RL	188-7	Po3728
15	深鉢	A1	ⅩⅣ a1	Ⅵ c	F-71 / Ⅵ c	平縁。縄文 LR	188-14	Po3880
16	深鉢	-	-	Ⅵ c	F-70 南 / Ⅵ c	底径（9.0cm）。縄文 LR。底部網代痕	188-16	Po3830
17	深鉢	A1	ⅩⅣ a1	Ⅵ c	F-70 南 / Ⅵ c	平縁。直前段多条縄文 LR	188-15	Po3828
18	深鉢	A3	-	Ⅵ b	F-71 / Ⅵ b	大波状縁。平行沈線文 + 縦位の連続 S 字状沈線文。縄文 LR	188-17	Po3860
19	深鉢	C1	Ⅰ b+ Ⅰ d	Ⅵ b	F-70 南 / Ⅵ b 確認面	平縁。帯状文（無文、刺突列）	188-18	Po3825
20	深鉢	B1d	ⅩⅡ a2	Ⅵ b	F-71 / Ⅵ b	平縁。櫛歯状刻目。平行沈線文 + 櫛歯状刻目（π字状の表現あり）。口縁部内面沈線	188-19	Po3861
21	鉢	B1cf	Ⅸ a	Ⅵ b	F-71 / Ⅵ b+ Ⅵ確認面	平縁。二個一対の山形突起 + 突起間沈線。π字文（下向）、平行沈線文。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線。外面・口唇部赤彩。胎土に海綿骨針を含む	188-20	Po3859

第270図　東D・E丘陵間遺物包含層　出土土器（1）



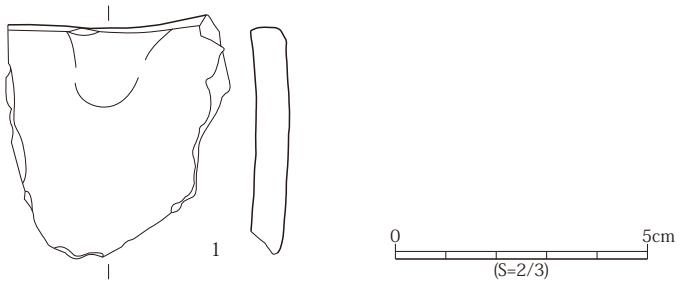
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	浅鉢	A1cd	Ⅸa	Ⅵb	F-71 / Ⅵb	平縁。口唇部沈線＋押圧。π字文（上下対向）。口縁部内面沈線	188-21	Po3869
2	浅鉢	B1	ⅩⅠb1	Ⅵb	F-71 / Ⅵb	平縁。変形工字文。縄文 LR。口縁部内面沈線。胎土に海綿骨針を含む	188-22	Po3862
3	浅鉢	C3ce	Ⅹa+ⅩⅠc	Ⅵb	F-70 南 SX151G / 堆積土＋Ⅵb 確認面	大波状縁。山形突起（頂部刻み）＋突起間沈線。工字文（陰刻）、変形工字文（沈線表現）。突起・口縁部内面沈線	188-30	Po3826
4	台部	-	ⅩⅠc	Ⅵb	F-71 / Ⅵb・c+Ⅵb	台部径 11.1cm。平行沈線文、変形工字文＋刺突 6 単位。底部ナデ	188-33	Po3855
5	深鉢	B3e	ⅩⅣb1	Ⅵb	F-71 / Ⅵb・c	大波状縁。突起頂部刻み。0 段多条縄文 LR	188-23	Po3876
6	深鉢	B2	ⅩⅣb1	Ⅵb	F-71 / Ⅵb	小波状縁。縄文 LR	188-24	Po3857
7	深鉢	C3ef	ⅩⅣb1	Ⅵb	F-71 / Ⅵb+Ⅵ確認面	大波状縁。方形突起（頂部ボタン状突帯）＋二個一対の山形突起。縄文 LR	188-31	Po3856
8	鉢	A1	ⅩⅤ	Ⅵb	F-71 / Ⅵb・c+Ⅵb	平縁	188-25	Po3870
9	深鉢	A1	ⅩⅤ	Ⅵb	F-71 / Ⅵb	平縁	188-26	Po3858
10	深鉢	A1o	ⅩⅣa1	Ⅵb	F-71 / Ⅵb・c	平縁。口唇部に縄文 LR。縄文 LR	188-27	Po3877
11	深鉢	A1	ⅩⅣa1	Ⅵb	F-66 / Ⅵb	平縁。0 段多条縄文 RL	188-28	Po3718
12	深鉢	A1	ⅩⅣb1	Ⅵb	F-71 / Ⅵb	平縁。わずかに外反。直前段多条縄文 LR	188-29	Po3865
13	深鉢	A1	ⅩⅣa1	Ⅵb	F-71 / Ⅵb・c	平縁。縄文 LR	189-1	Po3878
14	深鉢	A1	ⅩⅣa1	Ⅵb	F-71 / Ⅵb・c+Ⅵ確認面	平縁。縄文 LR。外面炭化物付着	189-3	Po3844
15	深鉢	A1	ⅩⅣa1	Ⅵb	F-71 / Ⅵb	平縁。縄文 LR	189-2	Po3866
16	深鉢	A1	ⅩⅣa1	Ⅵb	F-71 / Ⅵb	平縁。直前段多条縄文 LR	189-4	Po3864
17	壺	-	ⅩⅡb1	Ⅵ	F-71 / Ⅵ確認面	平行沈線文＋刺突列。縄文 LR	189-6	Po3846
18	鉢	C1d	Ⅸa2	Ⅵ	F-71 / Ⅵ確認面	平縁。ヘラ刻目＋押圧。π字文（上下対向、間に隆線なし）＋隆線間に刺突列。縄文 LR。口縁部内面沈線。内外面赤彩	189-5	Po3845

第271図　東D・E丘陵間遺物包含層　出土土器（2）



No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	台付浅鉢	A3ce	ＸⅠc	Ⅵ	F-70 / Ⅵ	大波状縁。方形突起（頂部円盤状飾り + 平行沈線文）+ 突起間沈線。平行沈線文、変形工字文 + 二個一対の貼瘤。突起・口縁部内面沈線	189-7	Po3837
2	深鉢	C1o	ⅩⅣ b1	Ⅵ a	F-70 北 / Ⅵ a	平縁。口唇部に縄文 LR。縄文 LR	189-12	Po3720
3	深鉢	C1	ⅩⅣ b1	Ⅵ	F-71 / Ⅵ確認面	平縁。0 段多条縄文 L	189-8	Po3850
4	深鉢	C1	ⅩⅣ a1	Ⅵ a	F-70 沢南 / Ⅵ a	平縁。縄文 RL（一部磨消）	189-11	Po3820
5	深鉢	A1	ⅩⅣ a1	Ⅵ	F-71 / Ⅵ確認面	平縁。縄文 LR（一部磨消）	189-10	Po3843
6	深鉢	A1	ⅩⅣ a1	Ⅵ a	F-70 北 / Ⅵ a	平縁。縄文 RL	189-13	Po3721
7	深鉢	A1	ⅩⅣ a1	Ⅵ	F-71 / Ⅵ確認面	平縁。縄文 LR	189-9	Po3848
8	深鉢	A1	-	Ⅰほか	F-70・71 / 排土	大波状縁。刺突列。条痕文、貝殻腹縁文、平行沈線文（半裁竹管）+ 刺突列 + 盲孔。内面条痕文	189-14	Po3839
9	深鉢	-	-	Ⅰほか	F-70 北 / 表土	貝殻腹縁文、横位の平行沈線文 + 斜位の平行沈線文（いずれも半裁竹管）+ 刺突	189-15	Po3838

第272図　東D・E丘陵間遺物包含層　出土土器（3）



No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	土面か	-	Ⅵ a	F-70 南（沢南）/ Ⅵ a	残存長 48.1mm、残存幅 44.3mm、残存厚 7.9mm。外面：無文（ミガキ）、内面：無文（ナデ）	189-16	C0840

第273図　東D・E丘陵間遺物包含層　出土土製品

No.	器　種	類型	帰属層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変　形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	不定形石器	Ⅲ c	Ⅵ c	F-71 / Ⅵ c	珪質頁岩 A	73.2	22.4	12.5	20.43	完形	0	0	0	0	0		190-1	S6583
2	楔形石器	Ⅰ b	Ⅵ b	F-71 / Ⅵ bc	珪質頁岩 A	31.8	33.0	12.9	13.66	完形	0	0	不定形石器 Ⅲ a →	1	0		190-2	S6575
3	磨石	-	Ⅵ b	F-71 / Ⅵ b	安山岩	99.5	68.3	34.1	366.46	完形	0	0	凹石→	1	0		190-4	S6556
4	磨石	-	Ⅵ b	F-71 / Ⅵ b	安山岩	105.8	80.1	50.9	548.46	完形	0	0	凹石→	1	0		190-3	S6557
5	凹石	-	Ⅵ	F-70 / Ⅵ	安山岩質凝灰岩	122.2	66.0	54.0	449.84	完形	0	0	0	1	0		190-5	S6439
6	凹石	-	Ⅵ	F-71 / Ⅵ確認面	凝灰岩	77.8	56.5	40.7	201.07	完形	0	0	0	1	0	全体摩滅	190-6	S6607
7	凹石	-	Ⅵ	F-71 / Ⅵ確認面	凝灰岩	71.8	53.5	41.8	158.32	完形	0	0	0	1	0		190-7	S6611

第274図　東D・E丘陵間遺物包含層　出土石器

③石器

遺物包含層からは、石器が38点出土している。磨製石斧2点、楔形石器1点、不定形石器1点、石皿4点、磨石9点、凹石3点、砥石1点といったトゥール類や剥片・砕片17点、石核1点がある。石製品は出土していない。また、石器石材とみられる原石3点が出土している。なお、層位別の器種組成を第22・23表に示した。

Ⅵd層からは、石皿1点、磨石1点、剥片1点が出土している。これらのほかに、石器石材とみられる原石（碧玉B1類）が1点出土した。石材は凝灰岩、デイサイト質凝灰岩、ホルンフェルスがある。

Ⅵc層からは、磨製石斧1点、不定形石器1点（第274図1）、石皿1点、磨石1点が出土している。石材は珪質頁岩（A）や頁岩、凝灰岩、安山岩がある。

Ⅵb層からは17点出土し、磨製石斧1点、楔形石器1点（第274図2）、石皿1点、磨石5点（同図3・4）、剥片8点、石核1点がある。これらのほかに、石器石材とみられる原石（碧玉B1類）が1点出土した。石材は珪質頁岩（A）や頁岩、珪質凝灰岩（B）、凝灰岩、安山岩質凝灰岩、玉髄、安山岩などが見られる。

Ⅵa層（Ⅵ層を含む）からは14点出土し、石皿1点、磨石2点、凹石3点（第274図5～7）、剥片4点がある。これらのほかに、石器石材とみられる原石（珪質頁岩A類）が1点出土した。石材は珪質頁岩（A）や頁岩、珪質凝灰岩（B）、凝灰岩、安山岩質凝灰岩、碧玉（B1）が見られる。

第５節　東Ｅ丘陵北斜面（F-55・87 区）

東Ｅ丘陵は、北小松遺跡が立地する丘陵から西に樹枝状に延びる丘陵のうち、北から５番目に当たる丘陵である。平成 20 年度の発掘調査では、この丘陵の先端部に当たる区域が調査対象となり、南斜面（F-5・6・7・10・11 区）および北斜面（F-3・8・9 区）で遺物包含層を検出し、早期中葉や前期前葉の遺物が多く出土している（宮城県教育委員会　2011）。今回の調査では、丘陵先端部の北斜面において、丘陵裾部から低地部にかけて北東に広がる遺物包含層を検出した。現況は水田や畑地であり、調査対象区域は後世の削平により平坦となっている。なお、遺物包含層以外の遺構では、井戸跡や溝跡を複数検出しているが、土層の堆積状況や出土遺物から、いずれも近世以降のものと判断される。以下に、検出した遺物包含層と遺物について述べる。

1. 遺物包含層

東Ｅ丘陵先端部付近では、黒色～黒褐色を呈する粘土～粘土質シルトを主体とするⅥ層が堆積し、この層に縄文時代前期を主体とする土器や石器などの遺物が包含されている。この遺物包含層は丘陵緩斜面から低地部にかけて北東に広がる。

（1）堆積状況と分布範囲

Ⅵ層を F-55 区および F-87 区で検出し、縄文時代前期を主体とする遺物が多く包含されている状況を確認した。過去の調査で検出した遺物包含層も含めると、丘陵北斜面では、南東から北西にかけて約 108m（F-3 区北西端と F-87 区南端を結ぶ直線距離）、東西約 9m（F-55 区におけるⅥ層検出の東西最大長）ある。なお、これらの調査区の西に位置する F-56 区および、南に位置する F-86 区では遺物包含層は検出されなかった。

遺物包含層は、丘陵から低地部に向かって傾斜する。Ⅵ層が検出された各調査区におけるⅥ層上面での地形を見ると、F-55 区南壁ではⅥ層の検出長約 7.3m、Ⅵ層上面での比高約 1.7m、勾配約 23.3% であり、F-87 区北壁ではⅥ層の検出長約 3.2m、Ⅵ層上面での比高約 0.9m、勾配約 28.1% である。

これらの調査区では、遺物包含層はスクモの含有状況により２層に細分され、いずれも共通する。

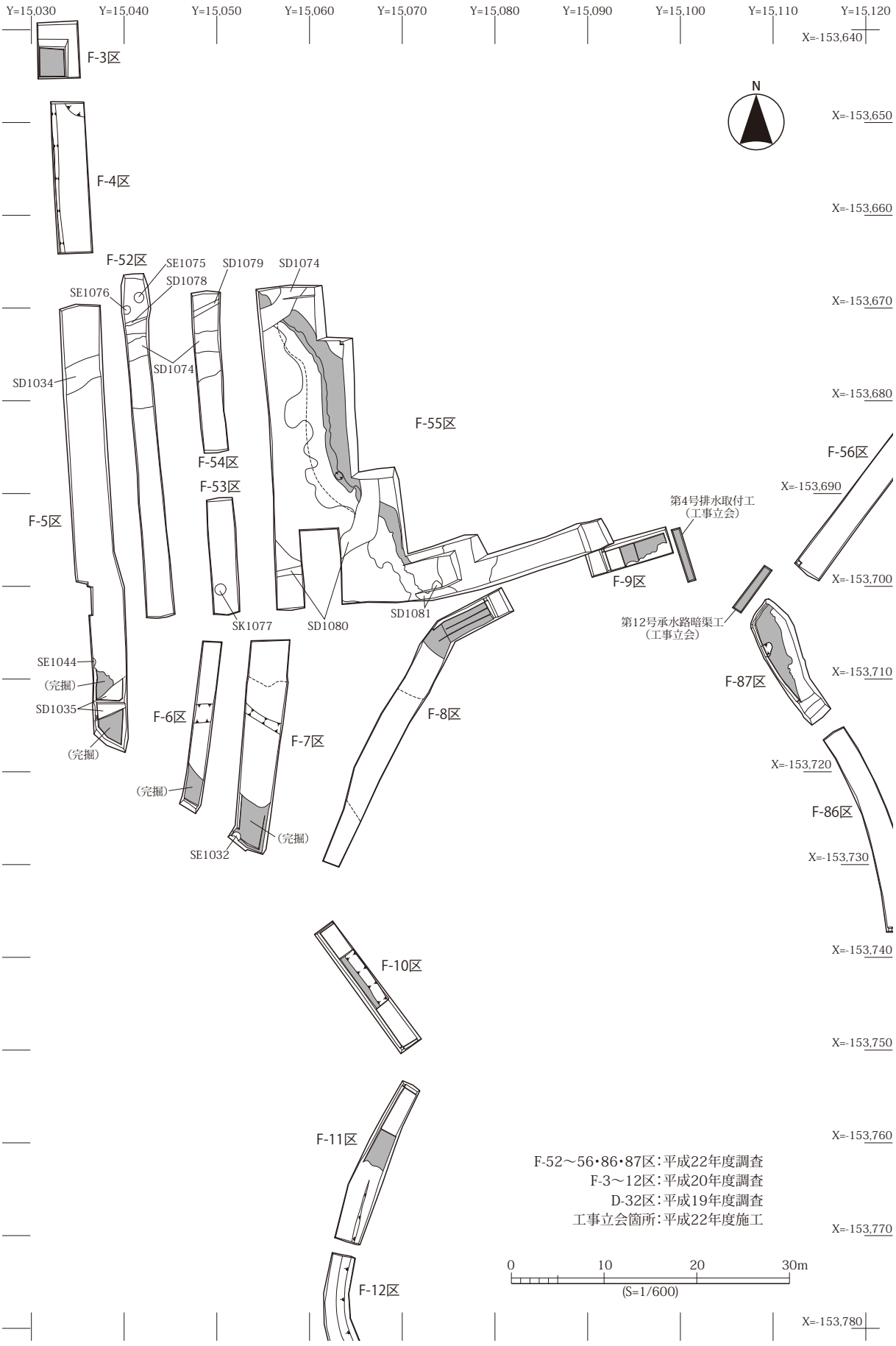
（2）遺物の層位別出土状況

遺物包含層から出土した遺物は遺物収納箱（54 × 34 × 15cm）換算で約１箱に相当する量が出土している。以下に、遺物の種類ごとの層位別出土状況について述べる。

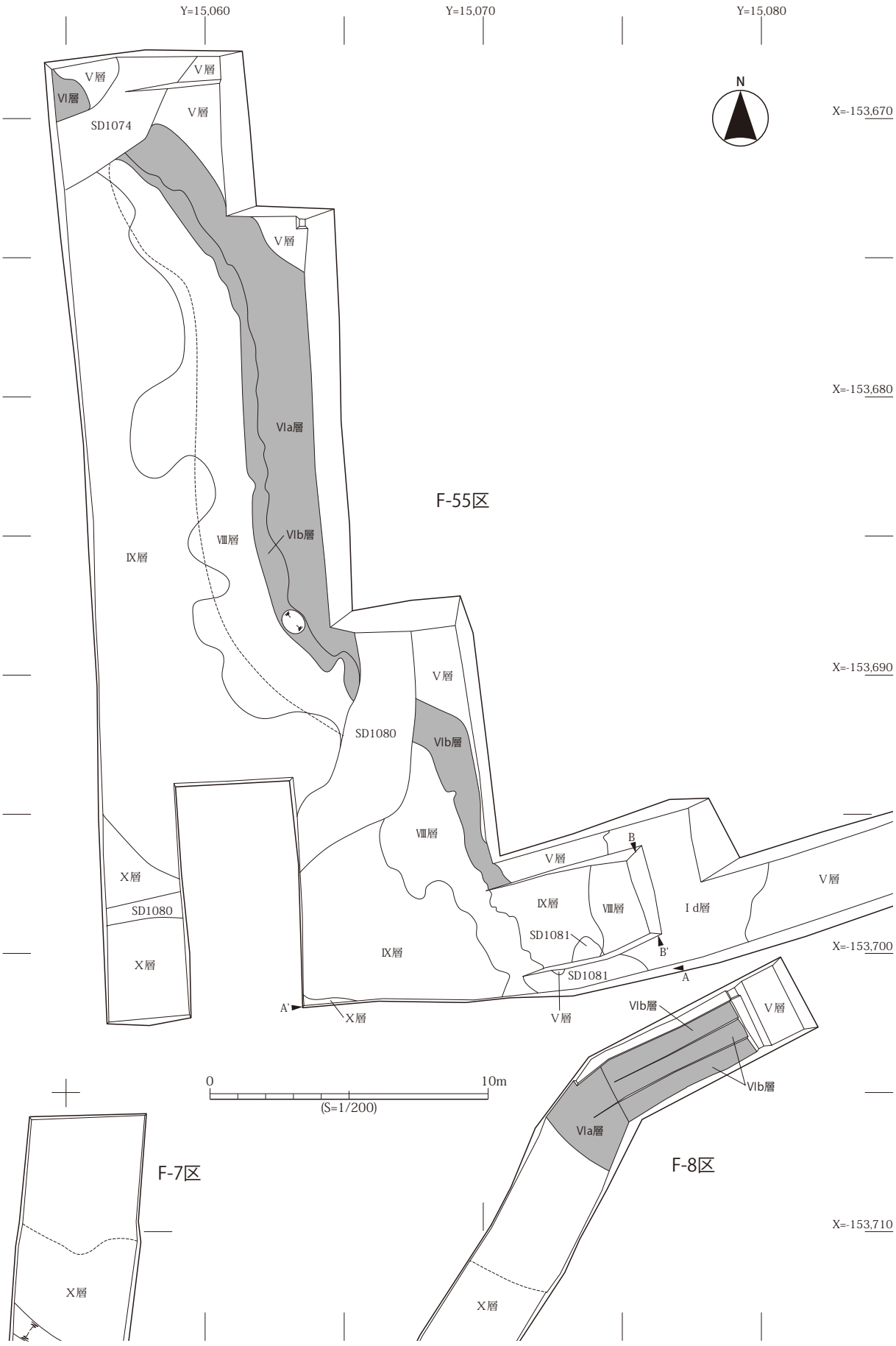
①土器

Ⅵｂ層では中・小破片が少量出土している。器種は深鉢がある。装飾は縦位の貼付文（第 279 図 1）が見られる。

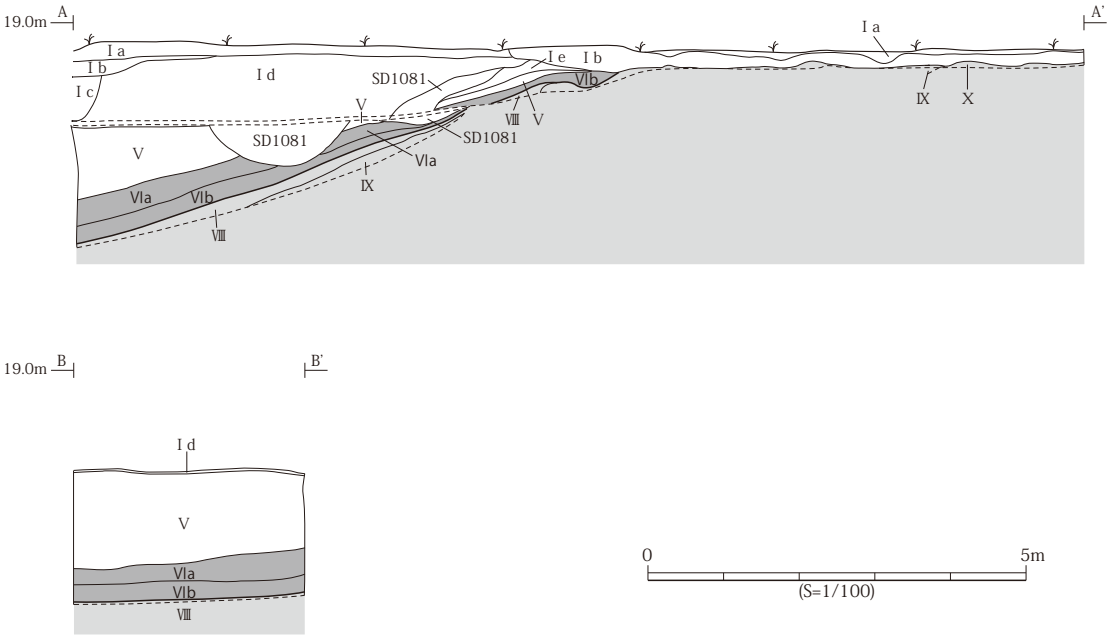
Ⅵａ層では中・小破片がやや多く出土している。器種は深鉢や鉢がある。装飾は、貝殻腹縁文（第



第275図　F区南西側（F-55区周辺）　平面図

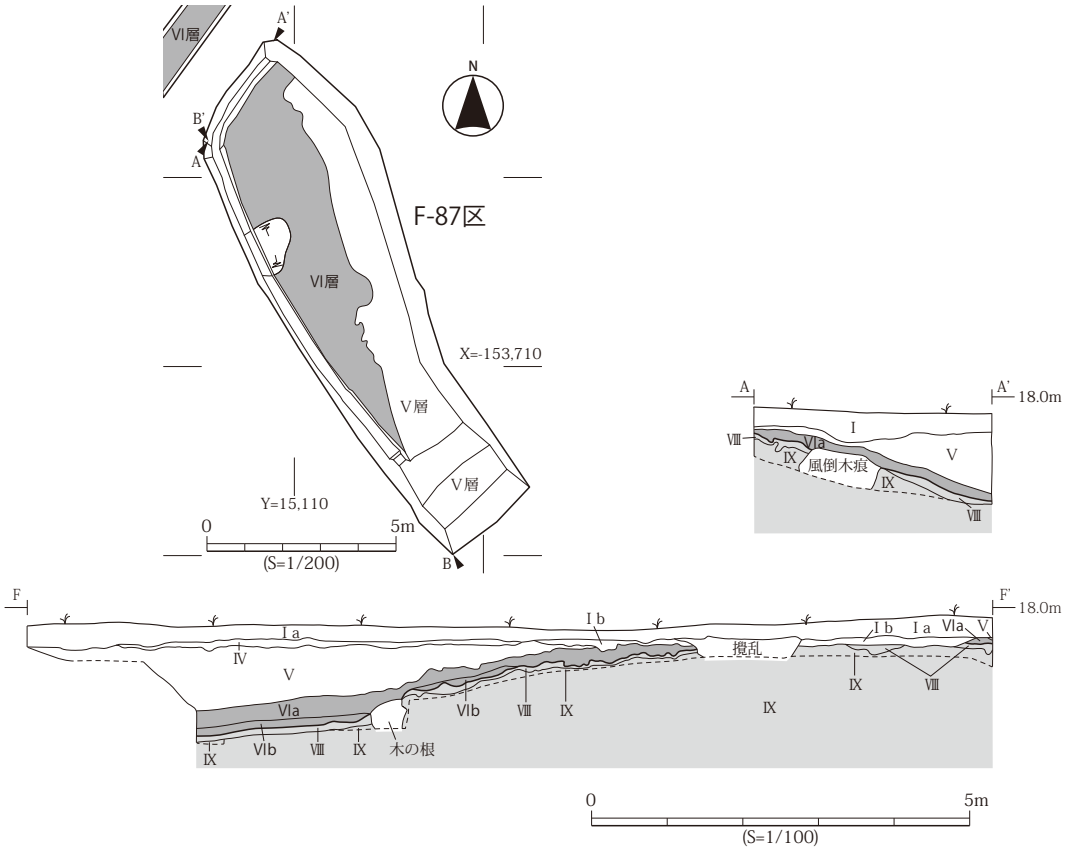


第276図　F-55区　平面図



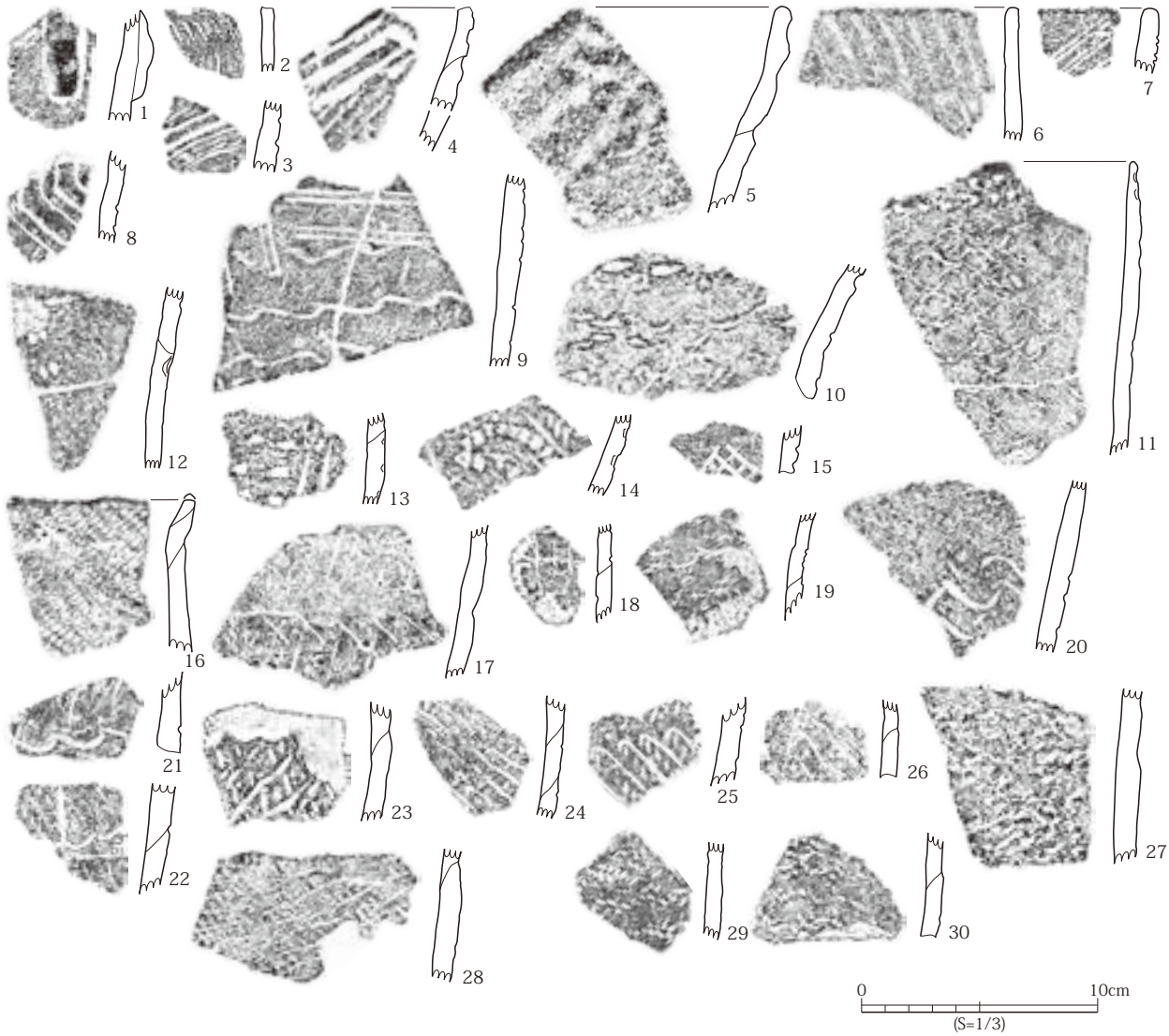
調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
F-55 区	A-A'	Ⅵ a	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	スクモ中量。F-8 区Ⅵ a 層と同一
	B-B'	Ⅵ b	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	スクモわずか。F-8 区Ⅵ b 層と同一

第277図　F-55区　断面図



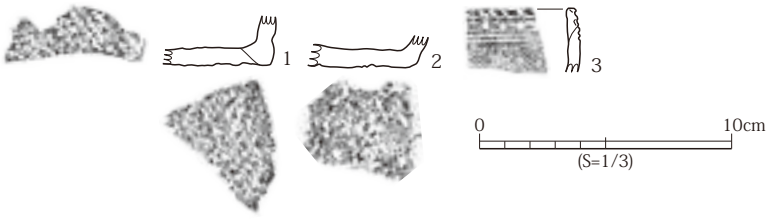
調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
F-87 区	A-A'	Ⅵ a	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）粒少量、スクモやや多量
	B-B'	Ⅵ b	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒少量

第278図　F-87区　平面図・断面図



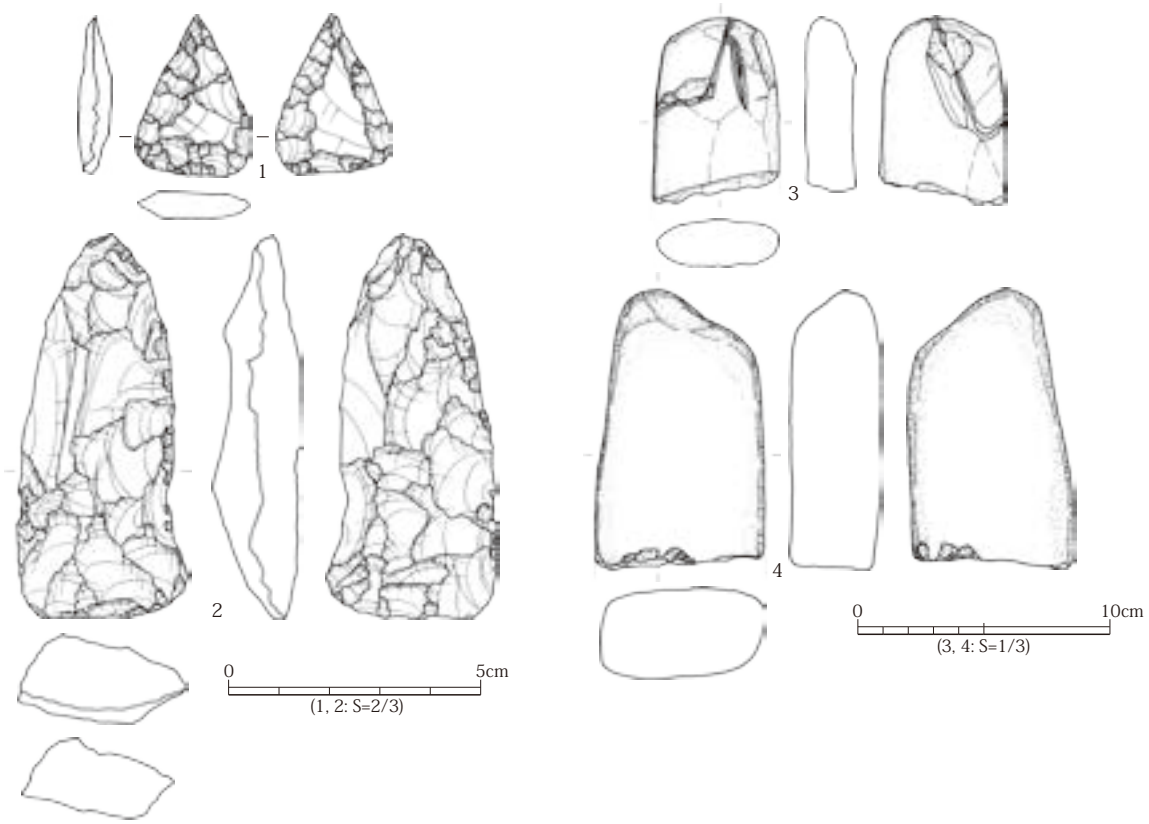
No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	-	-	Ⅵ b	F-55 / Ⅵ b	縦位の貼付文 + 押圧。胎土に繊維を含む	191-1	Po3685
2	深鉢	-	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	貝殻腹縁文。胎土に繊維を含む	191-3	Po3671
3	深鉢	-	-	Ⅵ	F-87 / Ⅵ	斜位の平行沈線文（半裁竹管）。縄文原体不明 + 附加条 r。胎土に繊維を含む	191-4	Po3699
4	深鉢	A3	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	大波状縁。斜位の平行沈線文 + 刺突。胎土に繊維を含む	191-6	Po3657
5	深鉢	C3	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	大波状縁。斜位の平行沈線文（円形竹管）+ 盲孔。胎土に繊維を含む	191-8	Po3664
6	深鉢	A1	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ確認面	平縁。斜位の平行沈線文（半裁竹管）	191-9	Po3694
7	深鉢	A1	-	Ⅵ	F-87 / Ⅵ	平縁。斜位の平行沈線文（半裁竹管）	191-5	Po3701
8	深鉢	-	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	縦位の鋸歯状沈線文（半裁竹管）	191-2	Po3658
9	深鉢	-	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	斜位の平行沈線文（半裁竹管）、縦位の平行沈線文（半裁竹管）。S 字状連鎖撚糸文（0 段）。胎土に繊維を含む	191-10	Po3659
10	深鉢	-	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	刺突列。S 字状連鎖撚糸文（0 段）	191-11	Po3665
11	深鉢	-	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	横位の刺突列 2 段。S 字状連鎖撚糸文（0 段）。胎土に繊維を含む	191-14	Po3687
12	深鉢	-	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ確認面	斜位の刺突列 2 段。胎土に繊維を含む	191-13	Po3695
13	深鉢	-	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	縦位の平行沈線文（円形竹管）、横位の刺突列 3 段	191-7	Po3681
14	深鉢	-	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	渦巻状刺突文。縄文 L+ 附加条 l。胎土に繊維を含む	191-12	Po3690
15	深鉢	-	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	格子状沈線文（半裁竹管）	191-16	Po3667
16	深鉢	C1	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	平縁。縄文 RL	191-15	Po3654
17	深鉢	-	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	網目状撚糸文（0 段）	191-18	Po3662
18	深鉢	-	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	網目状撚糸文（R、0 段）。胎土に繊維を含む	191-17	Po3666
19	深鉢	-	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	S 字状連鎖撚糸文（0 段）。胎土に繊維を含む	191-22	Po3683
20	深鉢	-	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	S 字状連鎖撚糸文（0 段）。胎土に繊維を含む	191-19	Po3680
21	深鉢	-	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	縄文原体不明 + 附加条 r、S 字状連鎖撚糸文（0 段）。胎土に繊維を含む	191-23	Po3663
22	深鉢	-	-	Ⅵ	F-87 / Ⅵ	縄文原体不明 + 附加条 l。胎土に繊維を含む	191-24	Po3704
23	深鉢	-	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	縄文 R+ 附加条 l。胎土に繊維を含む	191-25	Po3670
24	深鉢	-	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	刺突列。縄文 L+ 附加条 l、S 字状連鎖撚糸文（0 段）	191-26	Po3673
25	深鉢	-	-	Ⅵ	第 4 号排水取付工 / Ⅵ	縄文 L+ 附加条 l	191-27	Po3899
26	深鉢	-	-	Ⅵ	F-87 / Ⅵ	縄文原体不明 + 附加条 l。胎土に繊維を含む	191-28	Po3709
27	深鉢	-	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	結節縄文（原体不明）。胎土に繊維を含む	191-20	Po3668
28	深鉢	-	-	Ⅵ	F-87 / Ⅵ	縄文 LR+ 附加条 R。胎土に繊維を含む	191-21	Po3700
29	深鉢	-	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	末端ループ文 RL、S 字状連鎖撚糸文（0 段）	191-29	Po3678
30	深鉢	-	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	結節縄文 LR か。胎土に繊維を含む	191-30	Po3672

第279図　東E丘陵北斜面遺物包含層　出土土器（1）



No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	底部	-	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	縄文 LR。胎土に繊維を含む	191-31	Po3675
2	底部	-	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	底部に結節縄文 RL。胎土に繊維を含む	191-32	Po3674
3	鉢	A1c	Ⅹ Ⅱ b1	Ⅵ	F-87 / Ⅵ	平縁。弧状の短沈線文。羊歯状の浮線文、平行沈線文 + 刺突列。縄文 RL	191-33	Po3705

第280図　東E丘陵北斜面遺物包含層　出土土器（2）



No.	器種	類型	大別層	区・遺構 / 層	石材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
1	石鏃	Ⅲ A	Ⅵ b	F-55 / Ⅵ b	碧玉 C	31.5	22.5	6.9	4.00	完形	0	0	0	1	0		192-1	S6413
2	石篦	Ⅰ a1	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	凝灰岩	76.6	34.5	15.4	36.35	完形	0	0	0	0	0		192-2	S6374
3	砥石	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	凝灰岩	73.0	49.0	20.0	64.59	破片	0	0	0	1	0	S6386 と接合	192-3	S6386 +6388
4	磨石	-	Ⅵ a	F-55 / Ⅵ a	安山岩	112.1	67.2	36.5	467.64	一部欠	0	0	0	1	0		192-4	S6393

第281図　東E丘陵北斜面遺物包含層　出土石器

279 図 2）や刺突文（同図 10 ～ 14･24）、平行沈線文（同図 3 ～ 7･9･13）、鋸歯状や格子状の沈線文（同図 8・15）などが見られる。

②石器

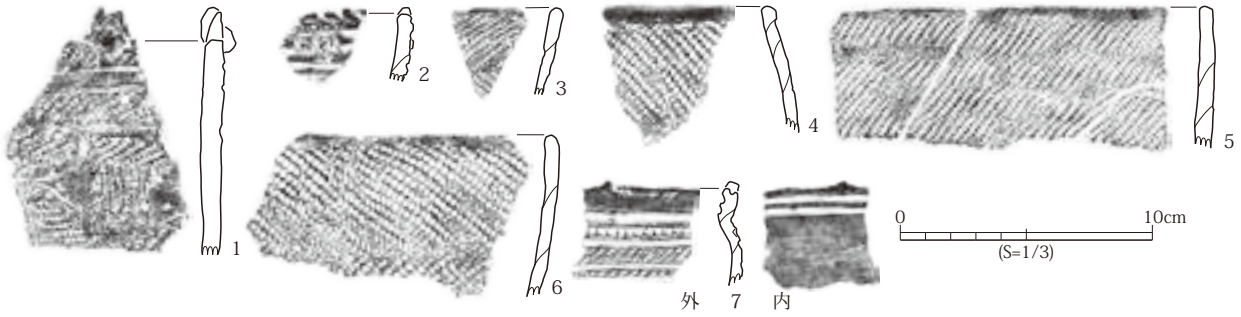
遺物包含層からは、石器・石製品が 44 点出土している。石鏃 1 点、石篦 1 点、不定形石器 3 点、石皿 2 点、磨石 12 点、砥石 2 点トゥール類や剥片・砕片 20 点、石核 3 点がある。石製品は出土していない。なお、層位別の器種組成を第 22・23 表に示した。

Ⅵb層からは、石鏃1点（第281図1)、剥片3点が出土している。石材は珪質頁岩（A)、珪質凝灰岩（B)、碧玉（C）がある。

Ⅵa層（Ⅵ層を含む）からは40点出土し、石篦1点（第281図2)、不定形石器3点、石皿2点、磨石12点（同図4)、砥石2点（同図3)、剥片・砕片17点、石核3点がある。これらのほかに、珍しい形状や色調をもつ自然石（奇石）が1点出土した。石材は珪質頁岩（A）が最も多く、ほかに珪質凝灰岩（A・B）や凝灰岩が多く見られる。

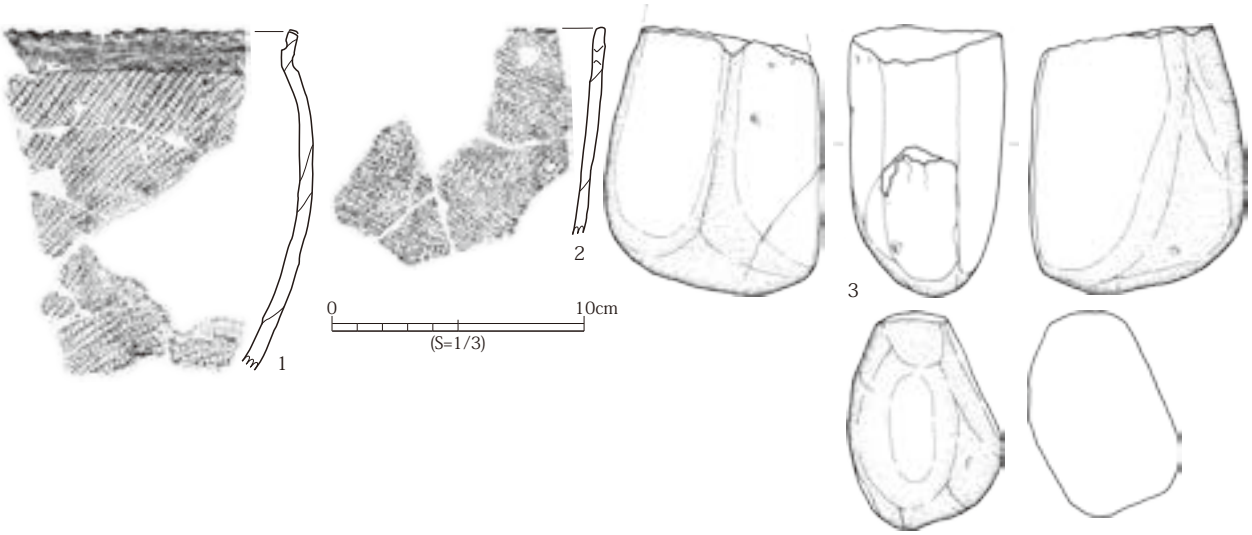
第６節　その他の地点から出土した遺物

北小松遺跡が位置する丘陵では、調査対象地のほぼ全域にわたって、丘陵裾部から低地部にかけてⅥ層が堆積している。これまでに取り上げた遺物包含層ほどの出土量ではないものの、Ⅵ層を検出した調査区の各所から縄文時代の遺物がわずかに出土している。ここでは、遺物包含層以外の地点から出土した遺物を取り上げて掲載する（第 282・283 図）。



No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	A1af	Ⅰ Ba	Ⅵ a	F-62 東 / Ⅵ a	平縁。山形突起（頂部短沈線文）+ 貼瘤。帯状文（縄文）。縄文 LR（縦位の平行磨消）。胎土に海綿骨針を含む	193-1	Po3711
2	鉢	A1cf	Ⅴ	Ⅵ a	F-62 東 / Ⅵ a	平縁。二個一対の小突起 + 弧状の短沈線文。羊歯状の浮線文、列点文、平行沈線文	193-2	Po3710
3	鉢	A1	XIV a2	Ⅵ a	F-62 西 / Ⅵ a	平縁。羽状縄文 LR/RL	193-3	Po3714
4	深鉢	A1	XIV b1	Ⅵ	F-62 / Ⅵ確認面	平縁（玉縁）。縄文 RL	193-4	Po3713
5	深鉢	A1	XIV a1	Ⅵ a	F-62 / Ⅵ a+ 確認面 + 表土	平縁。縄文 LR	193-5	Po3715
6	深鉢	A1	XIV a2	Ⅵ	F-62 / Ⅵ確認面	平縁。羽状縄文 RL/LR。胎土に海綿骨針を含む	193-6	Po3712
7	鉢	B1cf	XⅡ b1	Ⅰほか	F-63 / 表土	平縁。山形突起 + 突起間沈線。平行沈線文 + 刺突列。縄文 LR。口縁部内面平行沈線文	193-7	Po3719

第282図　東D丘陵南斜面　出土土器



No.	器　種	類型 1	類型 2	帰属層	区・遺構 / 層	特　　徴	写真図版	登録
1	深鉢	B2	XIV b1	Ⅵ	F-80 / Ⅵ	小波状縁。直前段多条縄文 LR。口縁部内面沈線。内外面・口唇部炭化物付着	194-1	Po3697
2	深鉢	A1	XIV a1	Ⅵ a	F-73 東 / Ⅵ a	平縁。縄文 RL。補修孔 1	194-2	Po3891

No.	器　種	類型	大別層	区・遺構 / 層	石　材	長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	残存	被熱	加熱処理	変形	自然面	付着物	備　考	写真図版	登録
3	磨石	-	Ⅵ a	F-73 / Ⅵ a	安山岩	98.3	82.5	55.8	820.00	一部欠	0	0	0	1	0		194-3	S6616

第283図　東E丘陵北斜面　出土土器・石器

第6章　古代以降の遺構と遺物

平成22年度の発掘調査では、弥生時代前期の洪水堆積層（Ⅴ層）の上位で、古代以降の遺構・遺物を検出している。遺構には井戸跡や土坑、溝跡、河川・自然流路跡などがあり、これらの多くが時期不明の遺構であるが､おおよそ近世以降の水田に伴うものとみられる。時期のわかる遺構としては、古代以前の河川・自然流路跡3条と古代の遺物包含層（二次堆積層）1箇所を検出している。なお、遺物包含層はF区南半部（F-63区）で検出した。

東D丘陵と東E丘陵に囲まれるF区南半部は、本遺跡と丘陵上で重複する新田柵跡の西側隣接地に当たる。東D丘陵上や東D・E丘陵間には土手状の高まりが確認されており（宮城県教育委員会1991）、平成6年の発掘調査で、東D丘陵上のものが新田柵跡の北門跡とみられる遺構に接続し、北門跡の東側では築地跡となることが判明した（田尻町教育委員会　1998）。また、東D・E丘陵間で南北に延びる土手状の高まりの南側延長線上では、平成11年の発掘調査で西門跡（旧・新）を検出し（田尻町教育委員会　2001）、さらに南側では、平成21・22年の発掘調査で外郭施設の南西隅部を検出している（大崎市教育委員会　2011･2012）。これらの遺構の時期はいずれも8世紀代とされる。

本章では、古代以降の遺構・遺物のうち、新田柵跡に関連するとみられる遺構・遺物を中心に、おもなものについて述べる。

第1節　古　代

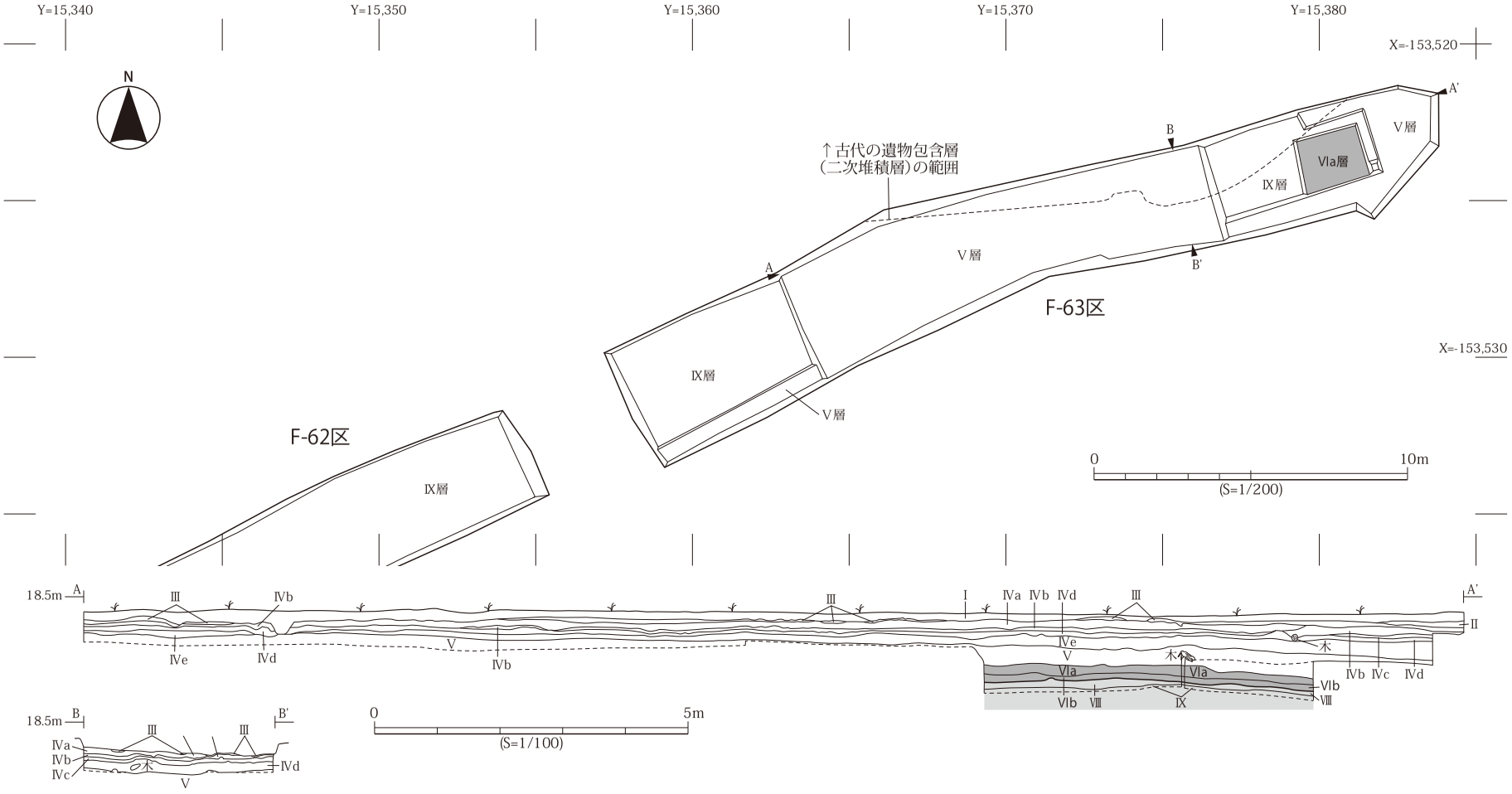
1. 東D丘陵南斜面（F-63区）の遺構・遺物

(1) 遺構

東D丘陵南斜面では、F-63区で遺物包含層を1箇所検出した（第284図）。発掘調査区で広範囲に検出される洪水堆積層（Ⅴ層）直上のスクモ層（Ⅳd～Ⅳc層）の上位に、灰黄褐色を呈する粘土～砂質シルトが堆積し（Ⅵb～Ⅵa層）、これらの一部に土師器、須恵器や瓦がやや多く含まれる。遺物が含まれる範囲は、東西15.9m、南北1.8mある。遺物は、接合するものも含まれるが、大部分は中･小破片で、縁辺が摩滅しているものも多く見られることから、遺物包含層は丘陵上からの流れ込みにより形成されたもの（二次堆積層）と判断される。なお、本堆積層は、記録保存調査の対象範囲であるために、調査対象地内では完掘している。

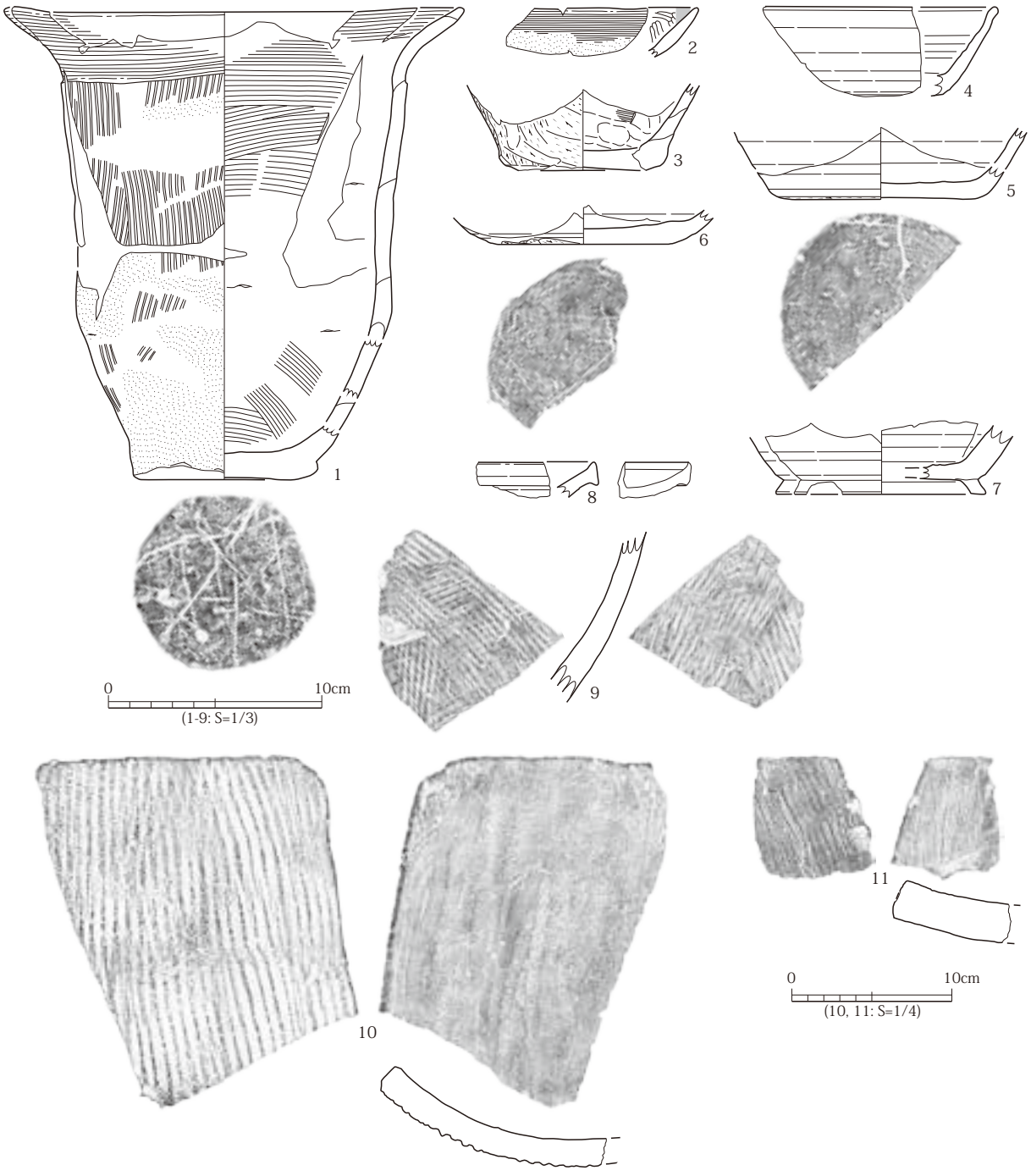
(2) 遺物

F-63区からは、土師器、須恵器、瓦が出土した（第285図）。土師器には坏や埦、甕などがある。坏や埦はいずれも非ロクロ調整で、内面には黒色処理が施されている（同図2）。甕はいずれも非ロクロ調整であり（同図1・3）、頸部に段の付くものが見られる（同図1）。須恵器には坏や蓋、壺、甕などがある。坏は、底部をヘラ切りにより切り離した後に、ナデや手持ちヘラケズリによる調整が施されている（同図5・6）。甕は外面に平行タタキ目が見られ、内面には平行当て具痕（同図9）や同心円当て具痕が見られる。瓦は平瓦が2点出土している（同図10･11）。いずれも外面が平行タタキ目、



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
F-63 区	A-A' B-B'	Ⅳ a	灰黄褐色（10YR4/2）	砂質シルト	砂中量、炭化物・焼土粒少量
		Ⅳ b	灰黄褐色（10YR4/2）	粘土	
		Ⅳ c	黒褐色（10YR3/2）	スクモ	
		Ⅳ d	黒色（10YR2/1）	スクモ	
		Ⅳ e	暗褐色（10YR3/3）	スクモ	
		Ⅵ a	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	スクモ中量
		Ⅵ b	黒褐色（10YR2/2）	砂質シルト	スクモ少量

第284図　F-63区　平面図・断面図



No.	種別	器種	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	土師器	甕	F-63 / Ⅳ d	口縁部～底部。頸部有段。口径（21.2cm）、器高（22.1cm）、底径 8.5cm。外面：口頸部ヨコナデ、体部ハケメ、底部木葉痕。内面：口頸部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	195-10	Po4015
2	土師器	坏	F-63 / Ⅳ a	口縁部。外面：ヨコナデ。内面：ヘラミガキ→黒色処理	195-1	Po4022
3	土師器	甕	F-63 / 排土	体部下半～底部。底径（7.2cm）。外面：ヘラケズリ→ナデ。内面：ヘラナデ→ナデ	195-11	Po4026
4	須恵器	坏	F-63 / Ⅳ b	口縁部～底部。器高 4.2cm	195-2	Po4019
5	須恵器	坏	F-63 / Ⅳ b	体部～底部。底径 9.4cm。外面：底部ヘラ切り→ナデ	195-3	Po4020
6	須恵器	坏	F-63 / Ⅳ d	体部下半～底部。底径（8.0cm）。外面：底部ヘラ切り→手持ちヘラケズリ、ヘラ描き	195-4	Po4016
7	須恵器	高台坏	F-63 中央 / Ⅳ a	体部～台部。台部径（9.8cm）	195-6	Po4018
8	須恵器	壺	F-63 / Ⅳ a	口縁部	195-5	Po4025
9	須恵器	甕	F-63 中央 / Ⅳ b	体部。外面：平行タタキ目、内面：平行アテ具痕	195-7	Po4017
10	瓦	平瓦	F-63 / Ⅰ	凸面：平行タタキ目。凹面：ヘラナデ。側面・小口面：ヘラナデ	195-9	T02
11	瓦	平瓦	F-63 / Ⅳ b	凸面：平行タタキ目。凹面：ヘラナデ。側面・小口面：ヘラナデ	195-8	T01

第285図　F-63区　出土遺物

内面および側面・小口面がヘラナデによる調整が見られる。

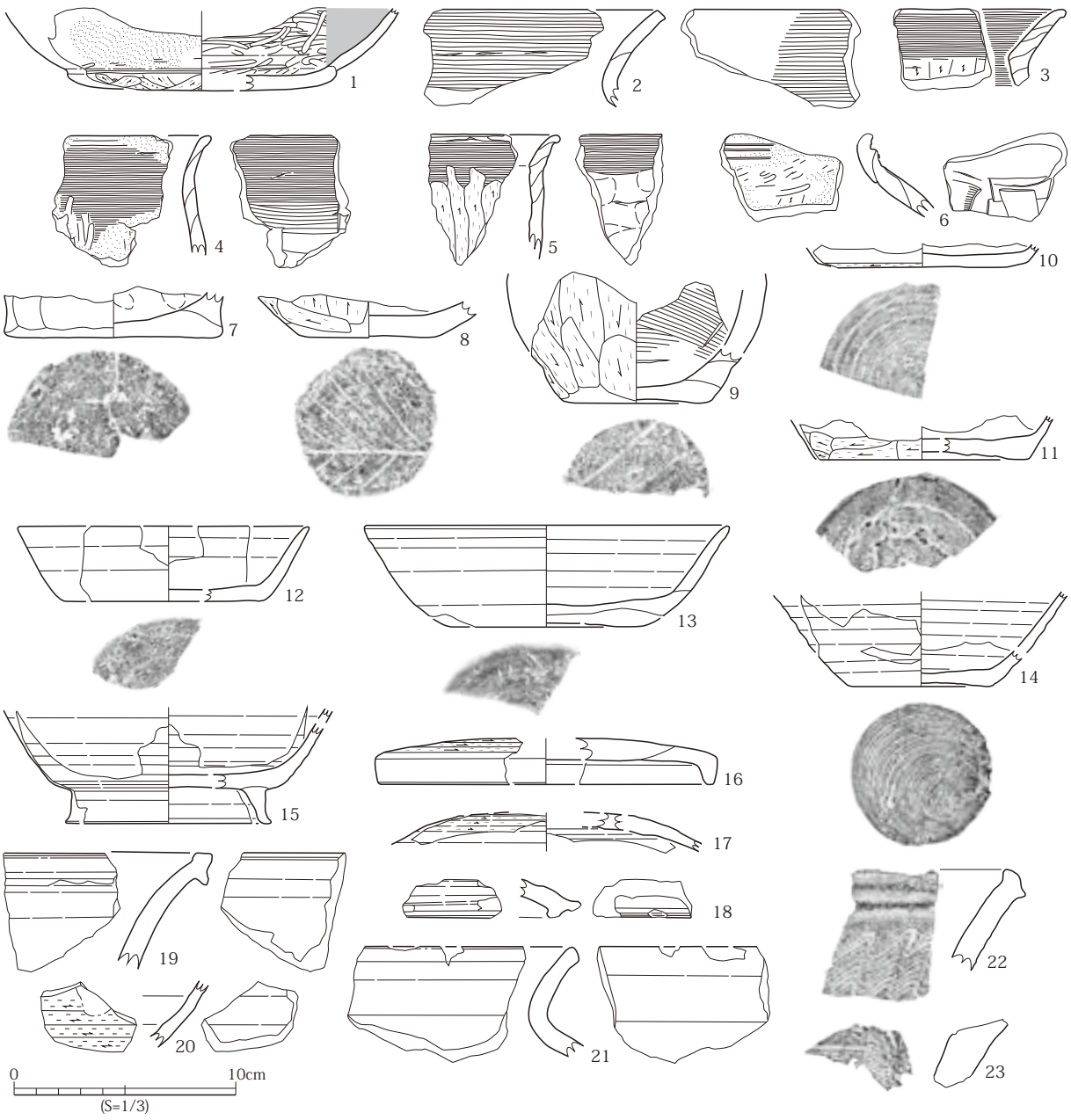
これらの遺物はおおよそ8世紀代の特徴をもち、新田柵跡の外郭施設の推定年代におおむね一致するものである（田尻町教育委員会　1998・2001、大崎市教育委員会　2011・2012）。

2. その他の地点から出土した遺物

F区では、F-63区以外からも広範囲で古代の遺物が出土している。なかでも、F-64区からF-73区にかけて、東D・E丘陵間にある南北に延びる丘陵の西側隣接地で多く出土している。F-63区のように特定の範囲に遺物が分布する状況は確認されなかったが、いずれも丘陵上から流れ込んだものと判断され、新田柵跡に関連する遺物が多く含まれているものとみられる。

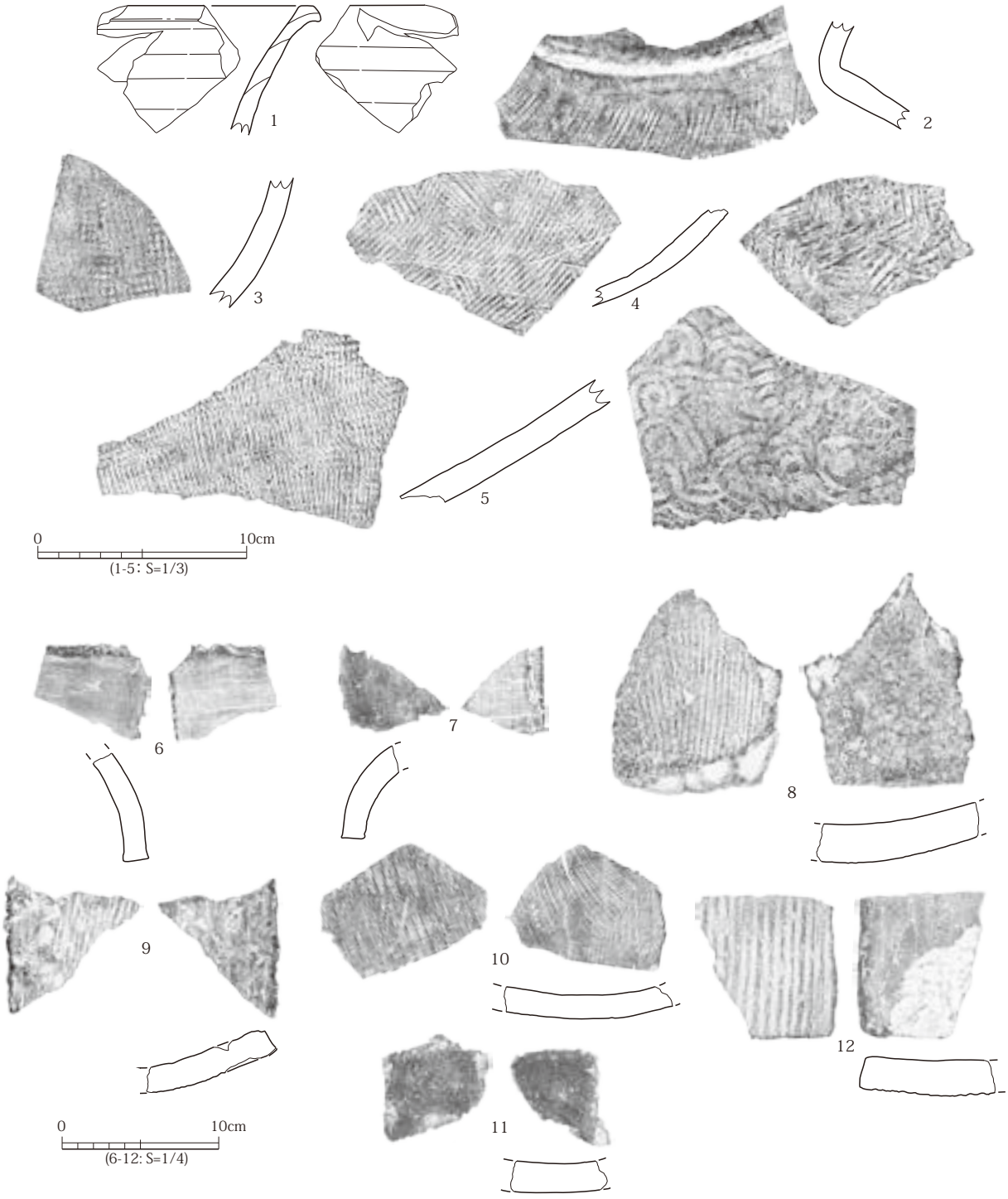
F区から出土した古代の遺物には、土師器、須恵器および瓦がある。土師器には坏や椀、鉢、甕などがある。坏や椀、鉢はいずれも非ロクロ調整で、内面には黒色処理が施されている。F区北側（F-23区）では有段平底の坏が出土している（第286図1）。甕は、坏等と同様に明確なロクロ調整は見られず（同図2～9）、頸部に突帯の付くものも見られる（同図6）。須恵器には坏や蓋、壺、甕などがある。坏は、底部をヘラ切りにより切り離したものが多く見られるが、回転糸切りのものも出土している（同図14）。ヘラ切りによる底部切り離し後は、ナデ（同図12・13）や回転ヘラケズリ（同図10）による調整が施される。蓋には口唇部にカエリの付くものがある（同図18）。なお、口唇端では研磨痕が明瞭に観察されることから、破損後に砥石として転用されたものとみられる。壺には湖西産とみられるものがあり（同図20）、外面が回転ケズリによる調整が施されている。甕は、口縁部に櫛描波状文や沈線が施されるものがある（同図22・23）。外面は平行タタキ目（第287図2・4）や格子タタキ目（同図3）が見られ、内面には平行当て具痕（同図4）や同心円当て具痕（同図5）、無文の当て具痕（同図2）が観察される。底部付近の破片も出土しており、その形状から丸底とみられる（同図4･5）。瓦は丸瓦4点、平瓦6点、熨斗瓦1点が出土している。丸瓦は粘土紐巻き作りで、凸面には平行タタキ目やナデによる調整、凹面には布目痕が観察される（同図6・7）。平瓦は、凸面に平行タタキ目や縄タタキ目、凹面にナデやヘラナデ、糸切り痕が観察されるほか（同図8～11）、10は模骨痕が観察され、桶巻き作りによるものとみられる。熨斗瓦は外面に簀の子状圧痕が観察される（同図12）。

以上から、これらの遺物の大部分は8世紀中葉から後葉頃の特徴をもつものとみられる。ただし、カエリの付く蓋（転用砥）や湖西産壺は8世紀初頭頃、底部の切り離しが回転糸切り無調整の坏は体部の立ち上がりが逆台形を呈する形状から9世紀前半以降のものとされる。また、瓦については、新田柵跡の瓦の検討から（田尻町教育委員会　1998）、本遺跡で出土した瓦には、8世紀前半頃のもの（第287図11）もあるが、おおむね8世紀中頃以降のものが多く見られる。したがって、これらの遺物についても、新田柵跡の外郭施設の推定年代におおむね一致するものが大部分であり、新田柵跡に関連する遺物が本遺跡の低地部に流れ込んだものと考えられる。



No.	種別	器種	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	土師器	坏	F-23Eb / 崩落土	口縁部付近～底部。有段平底。底径（12.1cm）。外面：体部ヘラミガキ（摩滅）、底部ヘラケズリ。内面：体部ミガキ、底部平行ミガキ→黒色処理	196-1	Po4003
2	土師器	甕	F-70 / Ⅲ - Ⅳ b	口頸部。外面・外面：ヨコナデ	196-2	Po4045
3	土師器	甕	F-73 東 / Ⅳ	口頸部。外面：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラケズリ。内面：ヨコナデ	196-3	Po4033
4	土師器	甕	F-70 北 / Ⅳ b	口縁部～体部上半。外面：口縁部ヨコナデ、体部上半ヘラミガキ。内面：口縁部ヨコナデ、体部上半ヘラナデ	196-4	Po4037
5	土師器	甕	F-70 北 / Ⅰ - Ⅳ	口縁部～体部上半。外面：口縁部ヨコナデ、体部上半ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ	196-5	Po4034
6	土師器	甕	F-71 / Ⅳ	頸部～体部上半。頸部突帯。外面：ヘラケズリ→ヘラミガキ、内面：ヘラナデ	196-6	Po4047
7	土師器	甕	F-70 / Ⅳ	底部。底径（8.8cm）。外面：ナデ、内面：オサエ	196-7	Po4042
8	土師器	甕	F-73 東 / Ⅳ	体部下半～底部。底径 6.7cm。外面：体部下半ヘラケズリ、底部木葉痕。内面：ヘラナデか	196-8	Po4051
9	土師器	甕	F-71 / Ⅳ	体部下半～底部。底径 6.6cm。外面：体部下半ヘラケズリ、底部木葉痕。内面：ヘラナデ	196-9	Po4048
10	須恵器	坏	F-68 / Ⅳ b	体部下半～底部。底径（7.6cm）。外面：底部ヘラ切りか→回転ヘラケズリ、火襷痕。内面：火襷痕	196-10	Po4032
11	須恵器	坏	F-73 西 / Ⅳ	体部下半～底部。底径（9.6cm）。外面：底部付近手持ちヘラケズリ、底部ヘラ切り後無調整。内面：火襷痕	196-11	Po4052
12	須恵器	坏	F-64 / Ⅰ	口縁部～底部。口径（12.9cm）、器高 3.4cm、底径（9.6cm）。外面：底部ヘラ切り→ナデ、火襷痕。内面：火襷痕	196-12	Po4027
13	須恵器	坏	F-70 北 / Ⅳ b	口縁部～底部。口径（16.6cm）、器高 4.6cm、底径（8.8cm）。外面：底部ヘラ切り→ナデ	196-26	Po4038
14	須恵器	坏	F-67 / Ⅳ a	体部～底部。底径 6.4cm。外面：底部回転糸切り後無調整	196-28	Po4029
15	須恵器	高台坏	F-71 / Ⅳ	体部～台部。台部径（9.3cm）。双耳坏か	196-27	Po4044
16	須恵器	蓋	F-70 北 / Ⅳ b	口縁部～体部。つまみ欠。口径（15.0cm）。外面：回転ヘラケズリ	196-13	Po4039
17	須恵器	蓋	F-70 南・SX151 / 堆積土	体部。外面：回転ヘラケズリ	196-14	Po4035
18	須恵器	転用砥	F-71 / 確認面	蓋の口縁部～体部。口唇部にカエリあり。口唇部研磨	196-15	Po4046
19	須恵器	壺	F-73 東 / Ⅰ	口縁部	196-16	Po4050
20	須恵器	壺	F-71 / Ⅰ	体部下半。外面：回転ヘラケズリ、自然釉付着。湖西産	196-17	Po4049
21	須恵器	甕	F-70 北 / Ⅳ b	口頸部	196-18	Po4040
22	須恵器	甕	F-70 / Ⅰ	口縁部。外面：櫛描波状文	196-19	Po4041
23	須恵器	甕	F-68 / Ⅰ	口縁部。外面：平行沈線→櫛描波状文	196-20	Po4030

第286図　F区　出土遺物（土師器・須恵器）

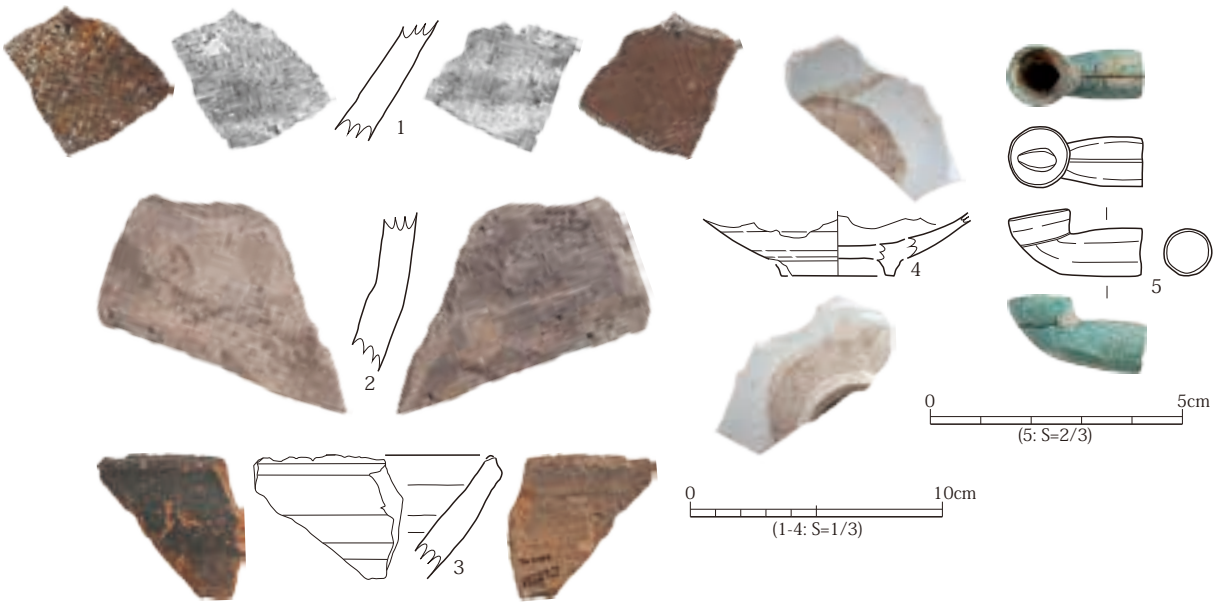


No.	種別	器種	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	須恵器	甕	F-70 北 / Ⅳ b	口縁部	196-21	Po4060
2	須恵器	甕	F-70 / Ⅳ	頸部～体部上半。外面：ナデ→平行タタキ目。内面：ナデ→無文アテ具痕	196-22	Po4043
3	須恵器	甕	F-73 東 / Ⅰ	体部下半。外面：格子タタキ目。内面：ナデ	196-23	Po4064
4	須恵器	甕	F-66 / Ⅳ b	体部下半。外面：平行タタキ目。内面：平行アテ具痕	196-24	Po4028
5	須恵器	甕	F-68 / Ⅰ	体部下半。外面：格子タタキ目→平行タタキ目。内面：同心円アテ具痕	196-25	Po4031
6	瓦	丸瓦	F-73 東 / Ⅰ	粘土紐巻き作り。凸面：ナデ。凹面：布目。側面：ナデ。小口面：無調整	197-1	T08
7	瓦	丸瓦	F-70 北 / Ⅰ	粘土紐巻き作り。凸面：平行タタキ目→ナデ。凹面：布目。側面：ナデ	197-2	T03
8	瓦	平瓦	F-65 / Ⅰ	凸面：平行タタキ目。凹面：糸切り痕→ナデ。小口面：ナデ	197-3	T11
9	瓦	平瓦	F-73 / Ⅰ	凸面：平行タタキ目→ヘラナデ。凹面：ヘラナデ。側面：ヘラナデ	197-4	T06
10	瓦	平瓦	F-69 / Ⅳ	桶巻き作り。凸面：縄タタキ目。凹面：模骨痕→ヘラナデ	197-5	T12
11	瓦	平瓦	F-78 / Ⅲ	凸面：縄タタキ目→ナデ。凹面：ナデ	197-6	T09
12	瓦	熨斗瓦	F-70 南・SX151 / 堆積土	凸面：簀の子状圧痕。凹面：ヘラナデ。側面：ヘラナデ。小口面：ナデ	197-7	T04

第287図　F区　出土遺物（須恵器・瓦）

第２節　中世以降

F区では広範囲で中世以降の遺物が出土しているが、いずれの調査区においてもごくわずかな出土にとどまる。出土した遺物には、中世陶器、近世以降の陶磁器や金属製品、燻瓦がある（第288図）。中世陶器には、甕や擂鉢があり、甕は常滑産（同図1）の他に、在地のものがわずかに見られる。在地のものは伊豆沼窯とみられるものがある（同図2・3）。近世磁器には肥前産があり（同図4）、17世紀初頭頃のものとみられる。金属製品には煙管がある（同図5）。



No.	種別	器種	区・遺構 / 層	特　徴	写真図版	登録
1	中世陶器	甕	F-20 / Ⅰ	体部下半。外面・内面：ナデ。常滑産	197-8	Po4002
2	中世陶器	甕	F-44 / Ⅰ - Ⅲ	体部下半。外面・内面：ヘラナデ。在地産（伊豆沼か）	197-9	Po4010
3	中世陶器	擂鉢	F-23 / 確認面	外面・内面：ロクロナデ。在地産（伊豆沼）	197-10	Po4007
4	磁器	皿	F-33・SD1071 / 堆積土	底径（4.5cm）。外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→削り出し高台　内面：施釉・内面蛇目釉剥ぎ。肥前産。17C 初	197-11	Po4009
5	金属製品	煙管	F-80 / 攪乱	雁首。銅製。火皿径 1.2cm、火皿高 0.6cm、首部最大径 0.9cm	197-12	M01

第288図　F区　出土遺物（中世陶器・近世磁器・金属製品）

第7章　総　括

北小松遺跡の平成22年度発掘調査は、田尻西部地区のほ場整備事業に伴う本発掘調査の4年目にあたる。本調査ではF区を調査し、調査対象地の周囲を巡る丘陵上や丘陵裾部で縄文時代から弥生時代前期頃の遺構･遺物を多数検出した。また、F区の一部において古代の遺物包含層（二次堆積層）を検出しているが、丘陵上からの流れ込みによるものであり遺物の量は少ない。したがって、本章ではF区における縄文時代から弥生時代前期の遺構・遺物を対象に考察する。

第1節　遺物包含層から出土した遺物

北小松遺跡およびその周辺遺跡においてこれまでの調査で検出している遺物包含層は、多くの地点で、長期間にわたって堆積し、複数の時期の遺物が混在して出土する状況が確認される。このような状況であるものの、層位的な出土状況を詳細に把握することで、遺物包含層それぞれの形成時期の検討が可能となる（宮城県教育委員会　2010・2011・2014)。平成22年度調査においても遺物包含層を5箇所で検出しており、縄文時代晩期を主体とし、縄文時代早期中葉から弥生時代前期中葉の遺物が出土している。ほかの地点における遺物包含層と同様に長期間にわたって堆積し、複数の時期の遺物が混在する状況が確認される。本調査で検出した5箇所の遺物包含層では、特に、東C・D丘陵間の遺物包含層で遺物が最も多く出土し、本調査全体の約7割を占める。したがって、本節では、出土量の特に多い東C・D丘陵間遺物包含層から出土した遺物について特徴や年代を検討し、それ以外の遺物包含層については、この検討をもとに形成時期などを考察する。なお、本稿では人工遺物のみを対象とし、自然遺物で出土量の多い動物遺存体については分析編第1章で分析等を行っている。

1. 土器・土製品

(1) 東C・D丘陵間遺物包含層から出土した土器

東C・D丘陵間遺物包含層からは、膨大な量の土器が出土し、これらは包含層下部から最上部まで各層にわたって出土している。

遺物包含層（Ⅵ層）の堆積状況は、丘陵部や丘陵裾部、低地部でそれぞれ異なるが、土層を確認した範囲では、Ⅵａ層からⅥｅ層まで大別5層、さらに、Ⅵｂ層が2層、Ⅵｃ層が13層、Ⅵｅ層が5層に細分される。以下に、それぞれの地点における土器の出土状況から、各層から出土する土器の特徴について検討する。なお、本文中では東C・D丘陵間遺物包含層の地点名を、地形別に丘陵部、丘陵裾部、低地部と呼称しているが、便宜的に、丘陵部を「東C-D1地点」、丘陵裾部を「東C-D2地点」、低地部を「東C-D3地点」と表現する場合もある。

①遺物包含層各層における器種・装飾類型出現状況

ｉ）丘陵部

丘陵部（東C-D1地点）に形成された遺物包含層は、F-23区北・東およびF-23区A・Bグリッド

第 14 表　東 C・D 丘陵間遺物包含層　層位別の器種類型出現頻度

器種		深鉢													片口付深鉢	小型深鉢	鉢										小型鉢	台付鉢			四脚付鉢		浅鉢										台付浅鉢						四脚付浅鉢	
類型 1		A1	A2	A3	B	B1	B2	B3	C	C1	C2	C3	D1	不明	A1	B1	A1	A2	B	B1	B2	B3	C1	C2	C3	D1	不明	B1	A1	A2	不明	A1	不明	A1	A2	A3	B1	B2	B3	C1	C2	D1	不明	A1	A3	B1	B3	C3	不明	A1	不明
東 C-D1	V	○				○											○																	○																
	Ⅵ d	◎		○		○	○			○	○			○			◎			○			○				○							○									○								
	Ⅵ e+ Ⅵ e5	○										○					○																																		
東 C-D2	Ⅵ b2	◎				◎	○			◎	○			○			○			◎	○		○	○			○	○			○		○	○	○		○			○		○	○				○		○		
	Ⅵ d	◎	○			◎	○			○	○		○	○	○	○	◎			○			○			○	○							○			○			○			○								
	Ⅵ e1					○	○			○																													○												
	Ⅵ e2	○				◎				○							○	○		○					○									○			○						○								
	Ⅵ e3	◎	○			○	○			○																								○																	
東 C-D3	V + V c	○				○	○	○						○			○			○							○							○		○											○		○		
	Ⅵ + Ⅵ a	◎				◎	◎	○		○	○			○			◎			◎		○	○			○	○						○	◎			○						○	○		○	○		○		
	Ⅵ b1	◎	○			◎	◎	○	○	○	○	○		○			◎		○	○			○				○		○				○	◎			○						○	○		○			○		
	Ⅵ b2	◎	○		○	◎	○			◎	○	○		○			◎			○	○		○	○			○						○	◎	○		○			○			○	○	○			○	○		○
	Ⅵ c+ Ⅵ c1	◎	○		○	◎	◎	○		○	○			○			◎			○			○			○	○						○	◎			○						○	○							
	Ⅵ c2	○	○			○	○			○	○	○					◎			○		○					○						○	○						○											
	Ⅵ c3	◎				○	◎	○		◎	○	○					◎			○	○		○	○		○	○						○	○						○											
	Ⅵ c4	◎	○			◎	○			◎	○			○			◎	○		○			○	○			○	○	○				○	◎									○	○							
	Ⅵ c5																																																		
	Ⅵ c6																○																	○																	
	Ⅵ c7	◎	○			◎	○			◎	○		○	○			◎			○			○	○			○		○	○		○	○	◎	○	○		○			○		○								
	Ⅵ c9					○																																													
	Ⅵ d	○				○	○			○			○	○			○										○							○		○														○	
	Ⅵ e2					○					○																										○			○											

器種		皿				壺														四脚付壺	注口土器		四脚付注口土器	香炉形土器	蓋	台部	脚部	袖珍土器深鉢	袖珍土器鉢				袖珍土器四脚付鉢	袖珍土器浅鉢		袖珍土器台付浅鉢	袖珍土器四脚付浅鉢	袖珍土器皿		袖珍土器壺					袖珍土器台部	袖珍土器脚部	製塩土器深鉢		製塩土器鉢	動物形土器
類型 1		A1	A2	B1	不明	A1	B1	C1	D1	D3	E	E1	F1	F2	G1	H	H1	I1	不明	不明	B1	不明	不明	-	-	-	-	不明	A1	B1	B3	不明	不明	A1	C1	A1	A1	A1	A3	A1	C1	D1	G1	不明	-	-	A1	不明	A1	D1
東 C-D1	V																		○																															
	Ⅵ d	○				○													○			○				○	○		○							○														
	Ⅵ e+ Ⅵ e5																		○																															
東 C-D2	Ⅵ b2	◎		○	○	○	○	○							○		○	○	◎			○		○		○			○		○																			
	Ⅵ d	◎	○		○	○		○	○								○		○		○	○				○			○			○													○				○	
	Ⅵ e1	○															○																																	
	Ⅵ e2	○		○	○			○									○		○			○																	○								○			
	Ⅵ e3	○			○	○	○	○					○						○			○																	○						○					
東 C-D3	V + V c	○				○			○										○			○				○	○																								
	Ⅵ + Ⅵ a	◎			○	○	○				○		○		○		○		○		○	○		○	○	○	○			○		○							○						○		○	○		
	Ⅵ b1	○					○	○											○						○	○	○								○								○				○			
	Ⅵ b2	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		◎	○		○				○	○	○	○				○	○			○	○				○		○				○		
	Ⅵ c+ Ⅵ c1	◎			○			○				○	○				○	○	○			○				○	○		○									○		○				○						
	Ⅵ c2	○																	○			○				○																								
	Ⅵ c3	◎				○	○					○	○		○				○			○				○												○												○
	Ⅵ c4	◎			○	○	○	○	○			○	○				○	○	◎	○		○			○	◎	○	○	○				○						○		○					○				
	Ⅵ c5																		○																															
	Ⅵ c6																																																	
	Ⅵ c7	○			○		○	○				○			○		○	○	◎				○			○																								
	Ⅵ c9																																																	
	Ⅵ d	○																	○																									○						
	Ⅵ e2								○																																									

◎：多い・やや多い　○：あり

で検出したものがこれに該当する。平面や断面で確認した層は、下層からⅥ e5 層、Ⅵ e3 層、Ⅵ d 層（Ⅵ d1 層）である。いずれの層も薄く堆積しており、遺物の量は少ない。以下に、各層から出土した土器について、器種および装飾の各類型の出現頻度（第 14 ～ 16 表）からそれぞれの特徴を検討する。なお、これらの出現頻度は抽出した土器のみを対象としており、未抽出のものに別の類型が含まれている可能性もある。しかしながら、一定量の出現が見られる類型はもれなく抽出していることから、未抽出の類型があったとしても出現頻度を検討するには影響がないものと考える。

Ⅵ e 層（Ⅵ e5 層とⅥ e3 層を含む）では、深鉢 A1・C3 類や鉢 A1 類などが出土している。類型が

第 15 表　東 C・D 丘陵間遺物包含層　層位別の装飾出現頻度

装飾		帯状文	帯状文（瘤付）	帯状文＋三叉文	入組帯状文	入組帯状文（瘤付）	三叉文	羊歯状文	羊歯状文＋列点文	列点文	列点文＋雲形文	雲形文	雲形文＋π字文	雲形文＋メガネ状浮文	X字状文	X字状文＋メガネ状浮文	メガネ状浮文	メガネ状浮文＋π字文	メガネ状浮文＋π字文＋工字文	メガネ状浮文＋工字文	工字文	工字文＋変形工字文	綾杉状文	綾杉状文＋メガネ状浮文＋π字文	π字文	π字文＋工字文	π字文＋変形工字文	変形工字文	波状文
東 C-D1	Ⅴ							+																	+				
	Ⅵ d	+	++	+	+		+	+	+	+		++					+				+				++			+	
	Ⅵ e+ Ⅵ e5	+				+		+		+																			
東 C-D2	Ⅵ b2											++++		++			++			+	++		+		++	+	+	+	
	Ⅵ d						+	+		++	+	+++++		+			+			+	+								
	Ⅵ e1											+					+												
	Ⅵ e2											+++		+	+		+												
	Ⅵ e3								+	+	+	++																	
東 C-D3	Ⅴ＋Ⅴc	+				+						+					+								++	+	+	+	+
	Ⅵ＋Ⅵa	+	+				+	+		+	+	++	+			+	+				+		+		+++++	+	++	+	+
	Ⅵ b1	+								+		+					+								+++++		++	++	+
	Ⅵ b2							+				++		+			++	++		+	++		+		++++	+	++	++	+
	Ⅵ c+ Ⅵ c1						+			+		++		+			+	+			++				+++++	+	++	++	
	Ⅵ c2							+				+									+				+++		+	+	
	Ⅵ c3				+			+				+++					++	+		+	++	+	+		++++	+	+		
	Ⅵ c4	+						+		+		++		+	+		++	++	+	+	++			+	++++	++			
	Ⅵ c6																				+								
	Ⅵ c7											+					++	++		+	++		+		++++	+			
	Ⅵ d																	+		+	+				+				
	Ⅵ e2											+																	

+++++: 非常に多い　++++: 多い　+++: やや多い　++: 少ない　+: わずか

第 16 表　東 C・D 丘陵間遺物包含層　層位別の主要な装飾類型出現頻度

層位	Ⅶa	Ⅶb	Ⅷ	Ⅸa（一方向）	Ⅸa（双方向）	Ⅸa（交互）	Ⅸa（対向）	Ⅸa1（一方向）	Ⅸa2（一方向）	Ⅸa2（対向）	Ⅸb（一方向）	Ⅸb（交互）	Ⅸb2（一方向）	Ⅸc	Ⅸd（一方向）	Ⅸe（一方向）	Ⅸe（交互）	Ⅸe（対向）	Ⅸo（一方向）
Ⅴ		+	+	++			+				+			+		+			
Ⅵa	++	++	++	++++	++		++		++	+	++			++		++	+		
Ⅵb1		+	+	+++++	+		++		+		+					+			
Ⅵb2	+	++	++	++++	++	++	+		++	+	+		+	++	+	+			+
Ⅵc1	++	++	++	++++	+		++		+		+			+	+	+		+	
Ⅵc2		+		++			+		+		+	+		+				+	
Ⅵc3	++	++	++	+++	+	++			+		+			+	+	+			
Ⅵc4	++	++	++	++++	++	++		+	+		++			++	+	+			
Ⅵc6																			
Ⅵc7	+	+	+++	+++	+	++		+	+		+				+		+		
Ⅵd	++++	+++	++	+		+	+				+			+	+				
Ⅵe1		+	+																
Ⅵe2	+	+++	+																
Ⅵe3	++																		

層位	Ⅹa	Ⅹb	Ⅹc	Ⅵa（綾杉状文）	（浮線渦巻文）	（縦位隆帯）	ⅩⅠa	ⅩⅠb1	ⅩⅠb2	ⅩⅠc	（波状文）
Ⅴ	+						+	+	+		+
Ⅵa	+	++	+	+			++	++	+	++	+
Ⅵb1							+	++		+	+
Ⅵb2	++	++	++	+	+		++	++	+	+	+
Ⅵc1	+	+	+				+	++			
Ⅵc2			+				+	+			
Ⅵc3	++	+	++	+			+				
Ⅵc4	++	+	++	+	+	+					
Ⅵc6	+										
Ⅵc7	++	++	+	+							
Ⅵd	+	++	+					+			
Ⅵe1											
Ⅵe2											
Ⅵe3											

+++++: 非常に多い　++++: 多い　+++: やや多い　++: 少ない　+: わずか

Ⅵe3 層からⅥd 層は東 C-D1 ～ 3、Ⅵc7 層からⅤ層は東 C-D3 のみを集計

不明なものや未抽出のものには浅鉢、Ⅲ、壺、注口土器、香炉形土器、袖珍土器がある。特に多く出土している器種や類型は見られない。装飾には帯状文（Ⅰa類）や瘤の付く入組帯状文（Ⅱ Ba類）、羊歯状文（Ⅳ類）、列点文（Ⅴ類）がある。ほかに瘤の付く帯状文や入組帯状文、雲形文、π字文がわずかに見られる。

Ⅵd層では、深鉢A1･A3･B1･B2･C1･C2類や鉢A1･B1･C1類、浅鉢A1類、Ⅲ A1類、壺A1類、袖珍土器鉢A1類、袖珍土器台付浅鉢A1類が出土している。類型が不明なものや未抽出のものには注口土器や香炉形土器がある。なかでも深鉢A1類や鉢A1類が多く見られる。装飾は、瘤の付く帯状文（Ⅰ Ba類）や雲形文（Ⅶa・Ⅶb?類）、π字文（Ⅸa・Ⅸb・Ⅸa+ Ⅸb・Ⅸc類）が施されたものが少量ある。ほかに帯状文や入組帯状文、瘤の付く入組帯状文、三叉文、羊歯状文、列点文、メガネ状浮文、工字文、変形工字文がわずかに見られる。

ⅱ）丘陵裾部

丘陵裾部（東C-D2地点）に形成された遺物包含層は、F-23区C・Dグリッドで検出したものがこれに該当する。平面や断面で確認した層は、下層からⅥe5～1層、Ⅵd層、Ⅵb2層である。丘陵部に比べて層の堆積が厚くなり、遺物の量も大幅に増加する。丘陵部と同様に、各層から出土した土器について、各類型の出現頻度（第14～16表）等からそれぞれの特徴を検討する。

Ⅵe3層では、深鉢A1・A2・B1・B2・C1類や浅鉢A1類、Ⅲ A1類、壺A1・B1・C1・F1類、袖珍土器Ⅲ A3類が出土している。類型が不明なものや未抽出のものには鉢、注口土器がある。なかでも深鉢A1類が多く出土している。装飾は､雲形文（Ⅶa類）が少量､ほかに入組帯状文や羊歯状文、列点文が施されたものがわずかに見られる。

Ⅵe2層では、深鉢A1・B1・C1類や鉢A1・A2・B1・C3類、浅鉢A1・B1類、Ⅲ A1・B1類、壺C1・H1類、袖珍土器Ⅲ A3類、製塩土器深鉢A1類が出土している。類型が不明なものや未抽出のものには注口土器がある。なかでも深鉢B1類が多く見られる。装飾は、雲形文（Ⅶa・Ⅶb類）がやや多い。ほかにメガネ状浮文やX字状文（C字状文）がわずかに見られる。雲形文は沈線で表現されるⅦb類が多く見られるようになる。

Ⅵe1層では、深鉢B1・B2・C1類や浅鉢B3類、Ⅲ A1類、壺H1類が出土している。類型が不明なものや未抽出のものには鉢､注口土器がある。装飾は､雲形文やメガネ状浮文がわずかに見られる。

Ⅵd層では、深鉢A1・A2・B1・B2・C1・C2・D1類、片口付深鉢A1類、小型深鉢B1類、鉢A1・B1・C1・D1類、浅鉢A1・B1・C1類、Ⅲ A1・A2類、壺A1・C1・D1・H1類、注口土器B1類、袖珍土器鉢A1類、製塩土器深鉢A1類が出土している。類型が不明なものや未抽出のものには香炉形土器がある。なかでも深鉢A1・B1類、鉢A1類、Ⅲ A1類が多く見られる。装飾は、雲形文（Ⅶa・Ⅶb類）が非常に多く、列点文（Ⅴ類）が施されたものが少量ある。ほかに帯状文や入組帯状文、瘤の付く帯状文、三叉文、羊歯状文、メガネ状浮文、工字文、π字文がわずかに見られる。雲形文は、浮彫表現となるⅦa類が多く見られるが、沈線で表現されるⅦb類も一定量ある。

Ⅵb2層では、深鉢A1・B1・B2・C1・C2類や鉢A1・B1・B2・C1・C2類、小型鉢B1類、浅鉢

A1・A2・B1・C1・D1類、台付浅鉢B3類、Ⅲ A1・B1類、壺A1・B1・C1・G1・H1・I1類、袖珍土器鉢A1類が出土している。類型が不明なものや未抽出のものには台付鉢・四脚付鉢、注口土器、香炉形土器?がある。装飾は、雲形文（Ⅶ a・Ⅶ b類）が多く、雲形文＋メガネ状浮文（Ⅶ b+ Ⅷ類）、メガネ状浮文（Ⅷ類）、工字文（Ⅹ a・Ⅹ a+ Ⅹ b・Ⅹ b・Ⅹ c類）、π字文（Ⅸ a・Ⅸ b類）が施されたものが少量ある。ほかに帯状文や入組帯状文、三叉文、羊歯状文、メガネ状浮文、綾杉状文、変形工字文がわずかに見られる。雲形文はⅦ b類が主体となり、Ⅶ a類はわずかである。また、工字文はⅩ a類とⅩ b類、π字文はⅨ a類が多く見られる。

ⅲ）低地部

低地部（東C-D3地点）に形成された遺物包含層は、F-23区E・F・Gグリッドで検出したものがこれに該当する。平面や断面で確認した層は、下層からⅥ e2・1層、Ⅵ d層、Ⅵ c13～1層、Ⅵ b2・1層、Ⅵ a層である。低地部では、Ⅵ c層が厚く堆積し、この層を中心として遺物の量がさらに大幅に増加する。これまでと同様に、各層から出土した土器について、各類型の出現頻度（第14～16表）等からそれぞれの特徴を検討する。

Ⅵ e層（Ⅵ e2層、Ⅵ e1層）では、深鉢B1・C2類や浅鉢B1・C1類、壺D1類が出土している。類型が不明なものや未抽出のものには鉢やⅢがある。装飾は、雲形文（Ⅶ b類）が見られる。

Ⅵ d層では、深鉢A1・B1・B2・C1・D1類や鉢A1類、浅鉢A1・A3類、四脚付浅鉢A1類、Ⅲ A1類が出土している。類型が不明なものや未抽出のものには壺や袖珍土器壺がある。装飾は、メガネ状浮文＋π字文（Ⅷ＋Ⅸ a）、メガネ状浮文＋工字文（Ⅷ＋Ⅹ b）、工字文（Ⅹ a・Ⅹ c類）、π字文（Ⅸ d類）が見られ、ほかに羊歯状文や雲形文、メガネ状浮文がわずかに見られる。

Ⅵ c9層では、深鉢B1類や鉢（類型不明）が出土している。

Ⅵ c7層では、深鉢A1・A2・B1・B2・C1・C2・D1類や鉢A1・B1・C1・C2類、台付鉢A1・A2類、四脚付鉢A1類、浅鉢A1・A2・A3・B2・C2類、Ⅲ A1類、壺B1・C1・E1・G1・H1・I1類が出土している。類型が不明なものや未抽出のものには四脚付注口土器や袖珍土器がある。なかでも深鉢A1・B1・C1類、鉢A1類、浅鉢A1類が多く見られる。装飾は、π字文（Ⅸ a・Ⅸ a2・Ⅸ d・Ⅸ e類）が多く、メガネ状浮文（Ⅷ類）、メガネ状浮文＋π字文（Ⅷ＋Ⅸ a・Ⅷ＋Ⅸ a+ Ⅸ a1類）、工字文（Ⅹ a・Ⅹ b類）がやや多い。ほかに雲形文、綾杉状文がわずかに見られる。π字文はⅨ a類が主体となり、工字文はⅩ b類が多い。

Ⅵ c6層では、鉢A1類や浅鉢A1類、深鉢が出土している。装飾は、工字文（Ⅹ a類）や雲形文がわずかに見られる。

Ⅵ c5層では、深鉢や鉢、浅鉢、壺、注口土器、袖珍土器鉢が出土している。装飾は、雲形文がわずかに見られる。

Ⅵ c4層では、深鉢A1・A2・B1・B2・C1・C2類や鉢A1・A2・B1・C1・C2類、小型鉢B1類、台付鉢A1類、浅鉢A1類、台付浅鉢A1類、Ⅲ A1類、壺A1・B1・C1・D1・E1・F1・H1・I1類、袖珍土器鉢A1類、袖珍土器Ⅲ A3類、袖珍土器壺C1類が出土している。類型が不明なものや未抽

出のものには四脚付鉢、四脚付壺、注口土器、蓋、袖珍土器深鉢・四脚付鉢・Ⅲがある。なかでも深鉢 A1・B1・C1 類、鉢 A1 類、浅鉢 A1 類、Ⅲ A1 類が多く見られる。装飾は、π字文（Ⅸa・Ⅸa+Ⅸb・Ⅸa+Ⅸc・Ⅸa+Ⅸd・Ⅸa1・Ⅸa2・Ⅸb・Ⅸc・Ⅸd・Ⅸe類）が多く見られ、雲形文（Ⅶa・Ⅶb類）やメガネ状浮文（Ⅷ類）、メガネ状浮文＋π字文（Ⅷ＋Ⅸa・Ⅷ＋Ⅸe）、工字文（Xa・Xb・Xc類）が施されたものが少量ある。ほかに帯状文や三叉文、羊歯状文、列点文、X字状文、綾杉状文、浮線渦巻文、変形工字文がわずかに見られる。π字文はⅨa類、工字文はXc類が最も多い。

Ⅵc3 層では、深鉢 A1・B1・B2・B3・C1・C2・C3 類や鉢 A1・B1・B2・C1・C2・D1 類、浅鉢 A1・C1 類、Ⅲ A1 類、壺 A1・B1・E1・F1・G1 類、袖珍土器Ⅲ A1 類、動物形土器 D1 類が出土している。類型が不明なものや未抽出のものには四脚付鉢、注口土器、袖珍土器浅鉢がある。なかでも深鉢 A1・B2・C1 類、鉢 A1 類、Ⅲ A1 類が多く見られる。装飾は、π字文（Ⅸa・Ⅸa+Ⅸb・Ⅸa2・Ⅸc・Ⅸd・Ⅸe類）が多く見られ、雲形文（Ⅶa・Ⅶb類）がやや多い。ほかにメガネ状浮文（Ⅷ類）や工字文（Xa・Xb・Xc類）が少量、入組帯状文や三叉文、羊歯状文、列点文、綾杉状文、変形工字文がわずかに見られる。π字文はⅨa類が最も多く、ほかの装飾類型は種類に富む。

Ⅵc2 層では、深鉢 A1・A2・B1・B2・C1・C2・C3 類や鉢 A1・B1・B3 類、浅鉢 A1・C1 類、Ⅲ A1 類が出土している。類型が不明なものや未抽出のものには四脚付鉢、壺、注口土器、蓋がある。なかでも鉢 A1 類が多い。装飾は、π字文（Ⅸa・Ⅸa2・Ⅸb・Ⅸc・Ⅸe類）がやや多く、羊歯状文、雲形文、メガネ状浮文、工字文、変形工字文がわずかに見られる。π字文はⅨa類が最も多い。

Ⅵc1 層（Ⅵc層を含む）では、深鉢 A1・A2・B・B1・B2・B3・C1・C2 類や鉢 A1・B1・C1・D1 類、浅鉢 A1・B1 類、台付浅鉢 A1 類、Ⅲ A1 類、壺 C1・E1・F1・H1・I1 類、袖珍土器鉢 A1 類、袖珍土器Ⅲ A1 類、袖珍土器壺 A1 類が出土している。類型が不明なものや未抽出のものには四脚付鉢、注口土器、香炉形土器、蓋、袖珍土器深鉢がある。なかでも深鉢 A1・B1・B2 類、鉢 A1 類、浅鉢 A1 類、Ⅲ A1 類が多い。装飾は、π字文（Ⅸa・Ⅸa+Ⅸb・Ⅸa+Ⅸe・Ⅸa2・Ⅸb・Ⅸc・Ⅸd・Ⅸe類）が非常に多く見られ、雲形文（Ⅶa・Ⅶb類）、工字文（Xa・Xb・Xc類）、π字文＋変形工字文（Ⅸa+ⅩⅠa・Ⅸa+ⅩⅠb1類）、変形工字文（ⅩⅠa・ⅩⅠb1類）が施されたものが少量ある。ほかに三叉文や羊歯状文、列点文、メガネ状浮文がわずかに見られる。π字文はⅨa類が最も多い。Ⅸa類は、隆線や沈線がπ字状に開く方向が一方向のみの場合が最も多いが、上下対向のものが一定量存在する点が特徴的で、また、π字文では種類に富む点も特徴的である。なお、雲形文はⅦb類が多い。

Ⅵb2 層では、深鉢 A1・A2・B・B1・B2・C1・C2・C3 類や鉢 A1・B1・B2・C1・C2 類、浅鉢 A1・A3・C3 類、Ⅲ A1・A2 類、壺 A1・B1・C1・D1・D3.・E1・F1・F2・G1・H・H1 類、袖珍土器鉢 A1 類、袖珍土器浅鉢 A1 類、袖珍土器四脚付浅鉢 A1 類、袖珍土器Ⅲ A1 類、袖珍土器壺 D1 類が出土している。類型が不明なものや未抽出のものには四脚付鉢、台付浅鉢、四脚付浅鉢、四脚付壺、注口土器、蓋、袖珍土器深鉢・四脚付鉢、製塩土器深鉢・鉢がある。なかでも深鉢 A1・B1・C1 類、鉢 A1 類、浅鉢 A1 類が多い。装飾は、π字文（Ⅸa・Ⅸa+Ⅸa2・Ⅸa+Ⅸb2・Ⅸa+Ⅸc・Ⅸa2・Ⅸb・Ⅸc・Ⅸd・Ⅸo類）が多く見られ、雲形文（Ⅶa・Ⅶb類）やメガネ状浮文（Ⅷ類）、メガネ状浮文＋π字文（Ⅷ＋Ⅸa・Ⅷ＋Ⅸb類）、工字文（Xa・Xb・Xc類）、π字文＋変形工字文（Ⅸ

a+ ＸⅠa・Ⅸa+ ＸⅠb1類）、変形工字文（ＸⅠa・ＸⅠb1・ＸⅠc類）が少量ある。ほかに帯状文や入組帯状文、瘤の付く帯状文、三叉文、羊歯状文、列点文、綾杉状文、浮線渦巻文、波状文がわずかに見られる。π字文はⅨa類が最も多く、また種類に富む。雲形文はⅦa類、工字文はＸa類、変形工字文ＸⅠb1類が多い。

Ⅵb1層では、深鉢A1・A2・B1・B2・B3・C・C1・C2・C3類や鉢A1・B・B1・C1類、台付鉢A1類、浅鉢A1･B1類、台付浅鉢A1･B1類、Ⅲ A1類、壺B1･C1類、袖珍土器浅鉢C1類、袖珍土器壺G1類、製塩土器深鉢A1類が出土している。類型が不明なものや未抽出のものには四脚付鉢、注口土器、香炉形土器、蓋?がある。なかでも深鉢A1･B1･B2類、鉢A1類、浅鉢A1類が多い。装飾は、π字文（Ⅸa・Ⅸa+ Ⅸb・Ⅸa2・Ⅸe類）が非常に多く見られ、π字文＋変形工字文（Ⅸa+ ＸⅠa・Ⅸa+ ＸⅠb1・Ⅸb+ ＸⅠc類）、変形工字文（ＸⅠa・ＸⅠb1類）が少量ある。ほかに帯状文や三叉文、羊歯状文、列点文、雲形文、メガネ状浮文、工字文、波状文がわずかに見られる。π字文はⅨa類がほとんどである。Ⅸa類は、隆線や沈線がπ字状に開く方向が一方向のみの場合が最も多いが、特徴として上下対向のものが一定量存在する。変形工字文はＸⅠb1類が多い。

Ⅵa層では、深鉢A1・B1・B2・B3・C1・C2類や鉢A1・B1・B3・C1・D1類、浅鉢A1・B1類、台付浅鉢A1・B1・B3類、Ⅲ A1類、壺A1・B1・E・F1・G1・H1類、注口土器B1類、袖珍土器鉢B1類、袖珍土器Ⅲ A3類、製塩土器深鉢A1類が出土している。類型が不明なものや未抽出のものには四脚付鉢、香炉形土器、蓋がある。なかでも深鉢A1・B1・B2類、鉢A1・B1類、浅鉢A1類、Ⅲ A1類が多い。装飾は、π字文（Ⅸa・Ⅸa+ Ⅸe・Ⅸa2・Ⅸb・Ⅸc・Ⅸe類）が非常に多く見られ、雲形文（Ⅶa・Ⅶb類）やπ字文＋変形工字文（Ⅸa+ ＸⅠa・Ⅸa+ ＸⅠb1・Ⅸc+ ＸⅠa・Ⅸc+ ＸⅠc・Ⅸe+ ＸⅠc類）が少量ある。ほかに帯状文や入組帯状文、瘤の付く帯状文、三叉文、羊歯状文、列点文、雲形文、メガネ状浮文、X字状文、工字文、綾杉状文、波状文がわずかに見られる。π字文はⅨa類が最も多い。Ⅸa類は、隆線や沈線がπ字状に開く方向が一方向のみの場合が最も多いが、上下対向のものが一定量存在する点が特徴的である。π字文＋変形工字文はⅨa+ ＸⅠb1類、雲形文はⅦb類が多い。

②遺物包含層各層の時期

本項では、前項において整理した層位別の器種および装飾類型の出現頻度をもとに、東C・D丘陵間遺物包含層の各層について、遺物量が多い層を中心にそれぞれの時期を検討する。

Ⅵe3層から出土した土器は､浮彫表現の雲形文(Ⅶa類)が主体となり､列点文も見られることから､これらは晩期中葉の「大洞C_1式」（山内　1930）の特徴をもつ。したがって、Ⅵe3層は晩期中葉のなかでも前半段階（大洞C1式期、晩期3期[註5]）に位置づけられる。本遺跡周辺の遺物包含層では東C丘陵西端部（南3層群､北5層群)･基部､東B丘陵裾部､西C丘陵東端部（諏訪遺跡）でまとまって出土している。県内では、気仙沼市田柄貝塚第Ⅸ群土器2類（宮城県教育委員会　1986a）や大崎市根岸遺跡（宮城県教育委員会　1981a)、同市中沢目貝塚Ⅰ群土器（須藤編　1984)、同市矢根八幡遺跡第Ⅷ群土器（大崎市教育委員会　2015a)、涌谷町ツナギの沢貝塚（涌谷町教育委員会　2004)、

大和町摺萩遺跡第1遺物包含層65・64・23～15c層出土土器（宮城県教育委員会　1990a）、仙台市川前遺跡（仙台市教育委員会　2018）、蔵王町鍛冶沢遺跡Ⅰ・Ⅱ区（宮城県教育委員会　2010a）などに類例が認められる。

Ⅵe2層およびⅥe1層から出土した土器は、雲形文が多く見られる。雲形文は沈線で表現される簡素化したもの（Ⅶb類）が多く見られるようになる。この文様は「大洞C_2式」（山内　1930）に特徴的に見られる装飾意匠である。やや簡素化した曲線文で構成される雲形文は大洞C2式古段階に位置づけられる。なお、大洞C2式新段階に位置づけられるメガネ状浮文（東北歴史資料館　1983、宮城県教育委員会　1990a、須藤　1996）も見られるが、その出土量はわずかである。したがって、Ⅵe1・2層は晩期中葉の後半段階（大洞C2式期古段階、晩期4a期）とみられる。本遺跡周辺の遺物包含層では、東C丘陵西端部（南3層群、北5層群）・基部、東B丘陵裾部、西B丘陵裾部・西C丘陵東端部（諏訪遺跡）でまとまって出土している。県内では、栗原市山王囲遺跡第Ⅶ層出土土器（伊東・須藤　1985）や根岸遺跡、矢根八幡遺跡第Ⅸ群土器、ツナギの沢貝塚、色麻町香ノ木遺跡第1群土器（宮城県教育委員会　1985）、摺萩遺跡第1遺物包含層15～7層、東松島市里浜貝塚西畑地点（東北歴史資料館　1983、小井川・山田　2002）、川前遺跡、鍛冶沢遺跡Ⅰ・Ⅱ区、亘理町畑中貝塚（宮城県教育委員会　1986b）などに類例が認められる。

Ⅵd層から出土した土器は、雲形文が多く見られるが、メガネ状浮文やπ字文、工字文、変形工字文も見られる。これらのうち、変形工字文はごくわずかで、遺物包含層の堆積が薄い丘陵部での出土であるため、混入の可能性が大きい。一方で、メガネ状浮文や工字文（Xb類）は一定量出土し、また、π字文（Ⅸa・Ⅸb・Ⅸd類）では複数の類型がわずかに確認される。π字文は晩期中葉後半頃から弥生時代前期頃まで見られる文様であり、工字文は晩期後葉の「大洞A式」（山内　1930）の特徴をもつ土器である。なかでも入り組んだπ字文や工字文は大洞A式の中でもより古い段階（須藤　1987）にみられるものとされる。したがって、Ⅵd層は晩期中葉の後半段階（大洞C2式期新段階、晩期4b期）から晩期後葉古段階（大洞A式古段階、晩期5a期）の時期に位置づけられる。本遺跡周辺の遺物包含層では、東C丘陵西端部（南2B層群、北4層群）・基部、東B丘陵裾部、西B丘陵裾部・西C丘陵東端部（諏訪遺跡）でまとまって出土している。県内では、南三陸町大久保貝塚（宮城県教育委員会　2019）や山王囲遺跡Ⅵ・Ⅶ層、根岸遺跡、矢根八幡遺跡第X群土器、香ノ木遺跡第2・3群土器、摺萩遺跡第1遺物包含層6f～1層、石巻市立浜貝塚SX2遺物包含層（石巻市教育委員会　2020）、鍛冶沢遺跡Ⅱ区などに類例が認められる。

Ⅵc7層から出土した土器は、π字文が多く、メガネ状浮文、工字文がやや多くある。Ⅵd層以下と比べて雲形文の割合が小さくなり、上記の各文様は、類型や出土量の増加が見られるようになる。π字文や工字文には入り組んだものが多く見られることから、遺物の主体は晩期後葉古段階（大洞A式古段階、晩期5a期）に位置づけられる。本遺跡周辺の遺物包含層では、東C丘陵西端部（南2B層群、北4層群）・基部、東B丘陵裾部、西B丘陵裾部・西C丘陵東端部（諏訪遺跡）でまとまって出土している。県内では、山王囲遺跡Ⅵ層や根岸遺跡、矢根八幡遺跡第XⅠ群土器、摺萩遺跡第1遺物包含層6f～1層、立浜貝塚SX2遺物包含層などに類例が認められる。

Ⅵc6層からⅥc4層で出土した土器は、π字文が特に多く見られる。π字文の類型はさらに増加し、下層と比べてⅨa・Ⅸb・Ⅸc類の割合が特に大きくなり、工字文ではⅩc類の割合が大きくなる。また浮線渦巻文や縦位隆帯もわずかに見られる。Ⅹc類や浮線渦巻文は晩期後葉中段階の山王囲遺跡Ⅴc-7・m・n層、Ⅸc類やⅨe類は晩期後葉新段階の同遺跡Ⅴa・k層から出土した土器に見られることから、晩期後葉中段階から新段階（大洞A式中段階から新段階、晩期5b・5c期）に位置づけられる。本遺跡周辺の遺物包含層では、東C丘陵西端部（南2B層群、北2B･3層群）や東B丘陵裾部、西A丘陵東端部（愛宕山遺跡）、西B丘陵裾部・西C丘陵東端部（諏訪遺跡）でまとまって出土している。県内では、前述の山王囲遺跡Ⅴ層や根岸遺跡、矢根八幡遺跡第ⅩⅠ群土器、立浜貝塚SX2遺物包含層、鍛冶沢遺跡Ⅱ区などに類例が認められる。

Ⅵc3層からⅥc2層で出土した土器は、π字文が特に多く、メガネ状浮文や工字文も一定量見られる。π字文はⅨa類が最も多いが､下層と同様に多くの類型がある。工字文もまた下層と同様である。一方で､変形工字文（ⅩⅠa類）がわずかに見られるようになる。この意匠は「変形工字文P型」（須藤　1987）とされ、山王囲遺跡ではⅤa・k層から出現する。したがって、これらの層から出土した土器は晩期後葉新段階（大洞A式新段階、晩期5c期）に位置づけられる。本遺跡周辺の遺物包含層では、東C丘陵西端部（南2B層群、北2B層群）や東B丘陵裾部、西A丘陵東端部（愛宕山遺跡）、西B丘陵裾部・西C丘陵東端部（諏訪遺跡）でまとまって出土している。県内では、前述の山王囲遺跡Ⅴ層や根岸遺跡、仙台市赤生津遺跡（仙台市教育委員会　1990）、同市梨野A遺跡（仙台市教育委員会　1983）、鍛冶沢遺跡Ⅱ区、丸森町岩ノ入遺跡（宮城県教育委員会　1983a）などに類例が認められる。

Ⅵc1層から出土した土器は、π字文が特に多く、工字文や変形工字文などが見られる。π字文はⅨa類が最も多いが、この層準から上下対向のものが一定量見られるようになり、また、変形工字文はⅩⅠa類に加えてⅩⅠb1類が一定量見られるようになる。上下対向のπ字文や変形工字文ⅩⅠb1類は、晩期末葉（大洞A'式、晩期6期）とされる山王囲遺跡Ⅳl・m層から出土した土器に見られることから、同様の時期に位置づけられる（晩期6期の細分は後述する）。本遺跡周辺の遺物包含層では、東C丘陵西端部（南2A層群、北2A層群）や東B丘陵裾部、西A丘陵東端部（愛宕山遺跡）、西B丘陵東端部（諏訪遺跡）でまとまって出土している。県内では、前述の山王囲遺跡Ⅳl・m層や栗原市柴の脇遺跡（宮城県教育委員会　1986c）、根岸遺跡、大崎市宮沢遺跡（宮城県教育委員会　1980d）、立浜貝塚SX1遺物包含層、赤生津遺跡、梨野A遺跡、鍛冶沢遺跡Ⅱ区、角田市梁瀬浦遺跡第Ⅱトレンチ（角田市教育委員会　1976）、岩ノ入遺跡などに類例が認められる。

Ⅵb2層から出土した土器は、π字文が特に多く、ほかにメガネ状浮文や工字文、変形工字文、綾杉状文、浮線渦巻文、波状文などの多くの装飾意匠が見られる。なかでも変形工字文は他の層と比較してその割合が大きくなり、種類も増え、特にⅩⅠb1類の割合が大きくなる。また、この層から変形工字文ⅩⅠb2類やⅩⅠc類、また波状文が見られるようになる。沈線の幅が広くなり貼瘤も大きくなるⅩⅠb2類は山王囲遺跡Ⅳl・m層からⅣa・k層にかけて、沈線で表現されるⅩⅠc類は山王囲遺跡Ⅳa・k層や栗原市青木畑遺跡（宮城県教育委員会　1982a）で、波状文は青木畑遺跡や山王

囲遺跡Ⅲ層出土土器に見られる。ただし、これらの装飾意匠はごくわずかな出土にとどまるため、Ⅵb2層は晩期末葉（大洞A'式、晩期6期）に位置づけられるものと判断され、下層のⅥc1層よりも後出の段階とみられる。Ⅵc1層を大洞A'式古段階（晩期6a期）とするならば、本層は大洞A'式新段階（晩期6b期）となり、晩期末葉（晩期6期）は2期に細分されるものと考える。本遺跡周辺の遺物包含層では、東C丘陵西端部（南1層群、北1A・1B層群）や東B丘陵裾端部、西A丘陵東端部（愛宕山遺跡）、西B丘陵東端部（諏訪遺跡）でまとまって出土している。県内における類例は、Ⅵc1層出土土器の類例に準ずるが、これらの遺跡においても晩期末葉の細分についてさらなる検討が必要である。

Ⅵb1層から出土した土器は、π字文が主体となり、変形工字文が一定量ある。ほかに波状文がわずかに見られる。π字文は類型の種類が少なくなり、また、特定の類型（Ⅸa類）の割合が大きくなる。なかでも、上下対向のものの割合が大きい。工字文やπ字文における各類型の出現頻度のピークが下層に多いことを鑑みると、この層から晩期後葉から末葉の時期によく見られた装飾類型の割合が小さくなる傾向が伺える。しかしながら、装飾意匠の種類は少なくなるものの、晩期末葉と共通するものが多く見られる。一方で、Ⅵb2層と同様に弥生時代前期に見られる装飾意匠が散見されるとともに、わずかに遠賀川系土器も出土している（第150図8）。また、晩期後葉以降に見られるπ字文や工字文の割合が大きく変化することから、土器の装飾要素の傾向に変化が認められるようになる。以上から、Ⅵb1層は弥生時代前期前葉（山王Ⅳ上層式、弥生1期）に位置づけられる。ただし、晩期末葉までの遺物が多く見られ、弥生時代の遺物は少ないことから、晩期末葉まで遡る可能性もある。本遺跡周辺の遺物包含層では、東C丘陵西端部（北1A層群[(註6)]）でまとまって出土している。県内では、前述の山王囲遺跡Ⅳ層や柴の脇遺跡、根岸遺跡（相原・飯塚　2020）、登米市坂戸遺跡第Ⅴ群土器（迫町教育委員会　2005）、鍛冶沢遺跡Ⅱ区などに類例が認められる。

Ⅵa層では、π字文が特に多く、変形工字文や波状文が一定量見られる。π字文はⅨa類が最も多く、Ⅵb1層と同様に、隆線や沈線がπ字状に開く方向が一方向のみのものと、上下対向のものの割合が大きい。変形工字文ではⅩⅠc類が下層に比べてその割合が大きくなり、波状文もまた下層に比べて割合が大きくなる。これらは、山王囲遺跡Ⅳa・k層からⅢl・m層、青木畑遺跡出土の土器に見られる。したがって、Ⅵa層は弥生時代前期（山王Ⅳ上層式から青木畑式、弥生1期から2a期）に位置づけられる。本遺跡周辺の遺物包含層では、東C丘陵西端部（北1A層群）でまとまって出土している。県内では、前述の山王囲遺跡Ⅲ・Ⅳ層や青木畑遺跡の他に、田柄貝塚第Ⅹ群土器、柴の脇遺跡、鍛冶沢遺跡Ⅱ区、角田市鱸沼遺跡（志間1971）などに類例が認められる。

③土器の層位的な変遷

前項では遺物包含層各層における土器の特徴から、それぞれのおおよその時期を検討した。本項ではこれらをもとに、土器の層位的な変遷について検討する。

[器種・器形]

主要な器種はⅥe層からⅥa層までおおむね揃っているが、器種別や類型別に見ると出土層位によ

る差異が認められる。

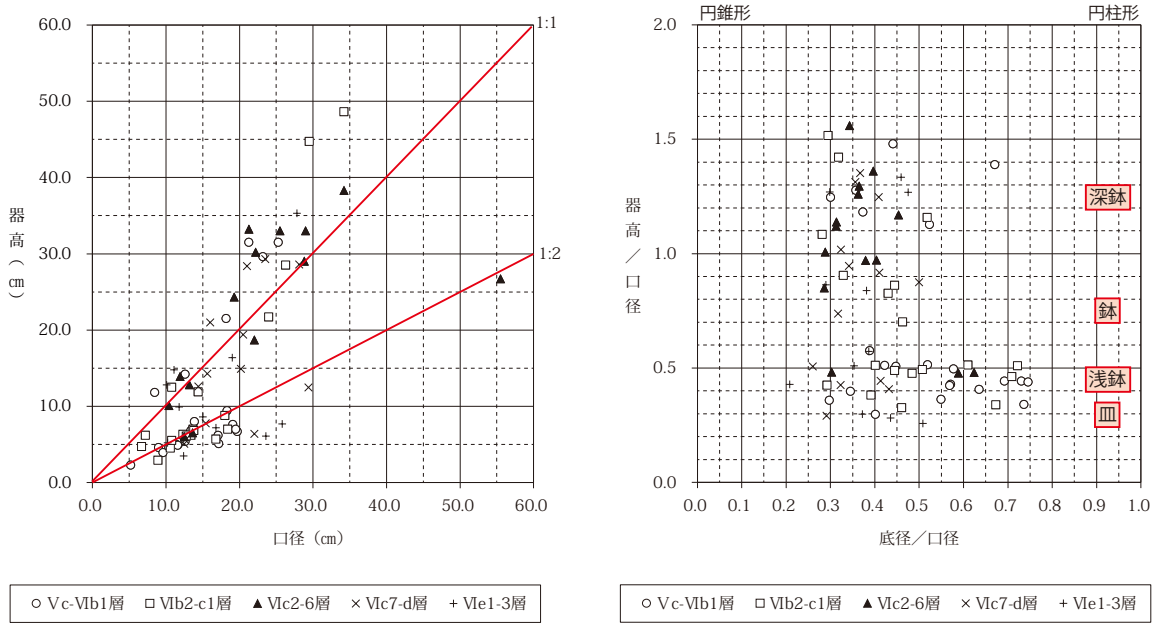
深鉢は、口縁部が緩やかに内湾・直立するA類では層位的な変化は見られないものの、く字形に外反するB類や、ゆるやかに外湾するC類では層位的な変化が見られる。B類では、平坦口縁となるB1類は各層で多く出土しているが、小波状口縁となるB2類はⅥc3層以上で出土量が増加し、大波状口縁となるB3類もまたⅥc3層以上で出現する。C類では、平坦口縁となるC1類はⅥc7層からⅥb2層にかけて多く出土し、大波状口縁となるC3類はⅥc3層以上で見られるようになる。

台や脚の付く土器はⅥd層以上で見られるが、台付鉢や四脚付鉢はⅥc7層以上で見られる。また、台付浅鉢はⅥc4層以上で見られ、特にⅥb2層以上では複数の類型が存在する。

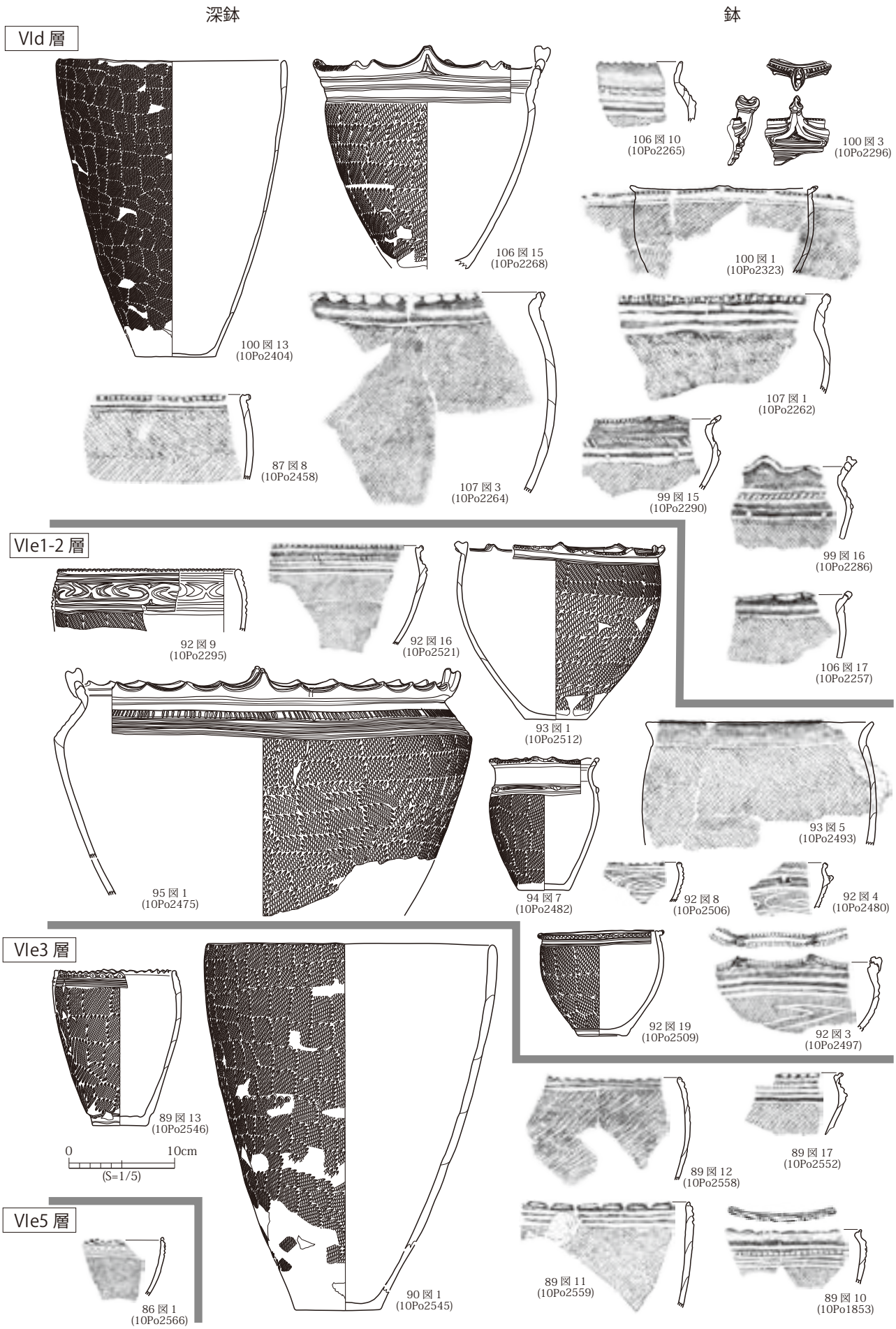
壺は大部分の層から出土しているが、Ⅵc7層以上では類型が増加する傾向が見られる。特に、頸部と体部との境に明瞭な屈折点をもつE・F・G類は、上層になると多くの類型が出現する。ただし、同じく頸部と体部との境に明瞭な屈折点をもつものであっても、口縁部がく字形に外反するH類は下層においても出現している。

袖珍土器は下層から上層まで見られるが、Ⅵc4層以上で多くの器種が見られるようになる。

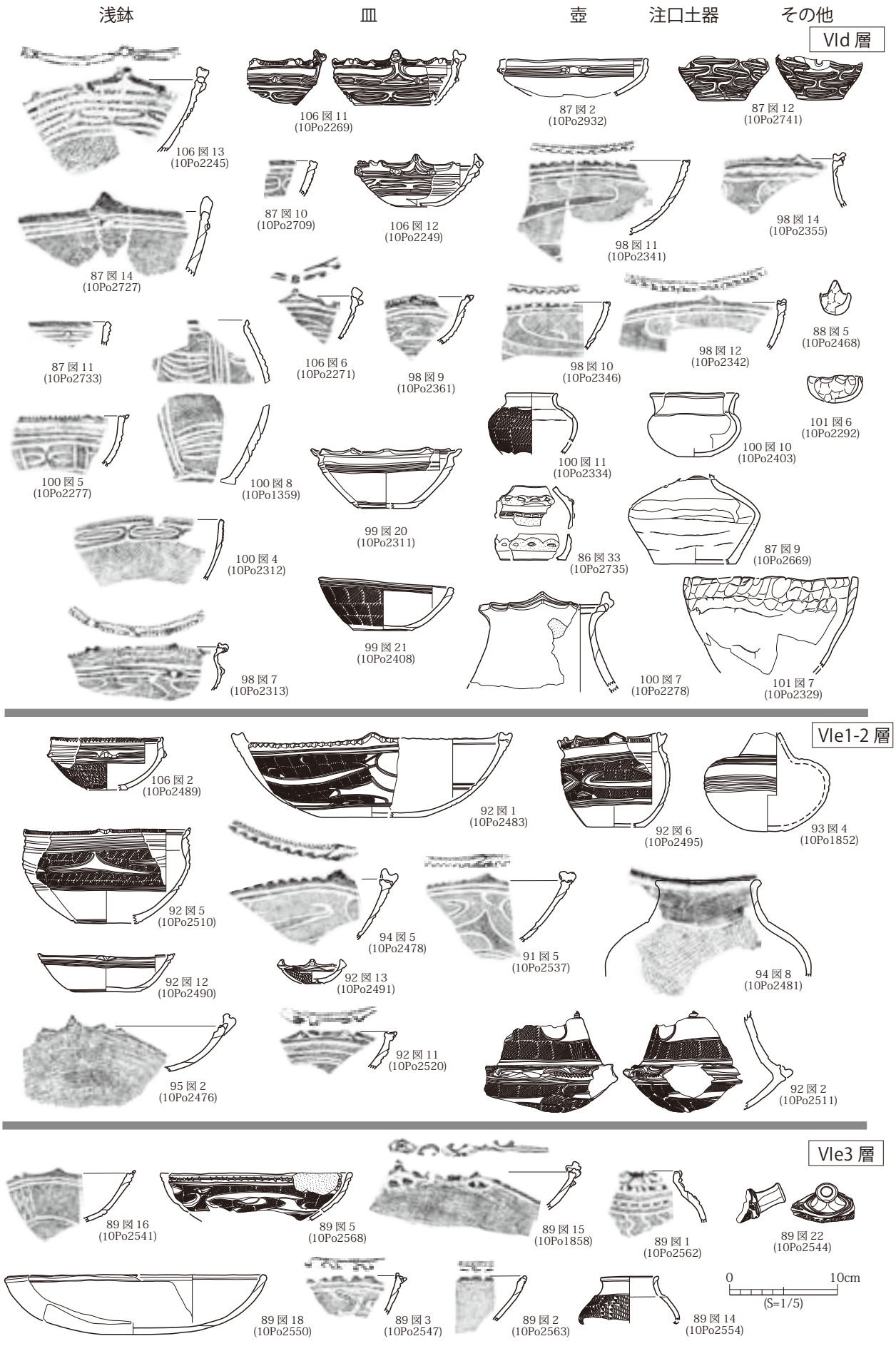
次に、出土量の多い深鉢・鉢・浅鉢・皿を対象に全体の器形について検討する。層位別の土器の大きさ（器高･口径比）および形状の分布を第289図に示した[(註7)]。土器の大きさでは、器高:口径が1:1前後に位置する深鉢や鉢では、全体として大型のものと小型のものに二極化するが、大型のものでは下層から上層になるにつれてゆるやかに大型化していく。一方で、器高：口径が1：2前後の鉢や浅鉢・皿では、下層（Ⅵc7層以下）のものが大型のところに分布し、上層になるにつれて小型のところに分布するものが増える傾向が見られる。このような傾向は本遺跡の別地点（東C丘陵西端部）においても、深鉢や鉢は時期が下るにつれて大型のものの割合が大きくなり、反対に、浅鉢や皿は時期が下るにつれて小型のものの割合が大きくなる傾向が確認されている（宮城県教育委員会　2014）。



第289図　層位別の土器の大きさ・形状（深鉢・鉢・浅鉢・皿）



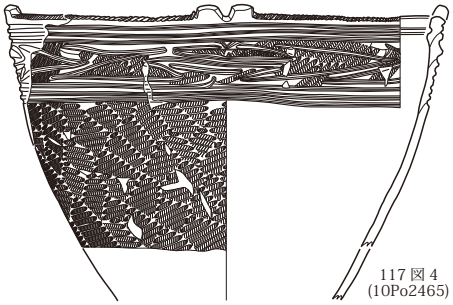
第290図　東C・D丘陵間遺物包含層　層位別出土土器（1）

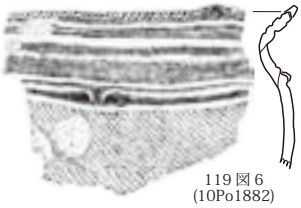


第291図　東C・D丘陵間遺物包含層　層位別出土土器（2）

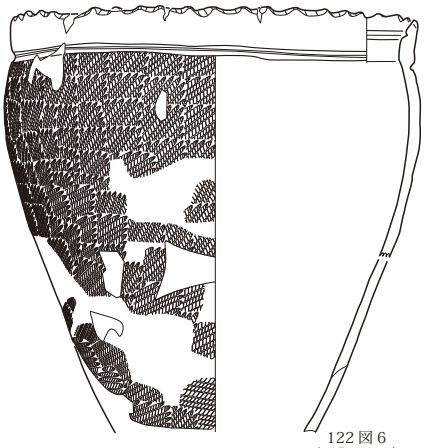
深鉢

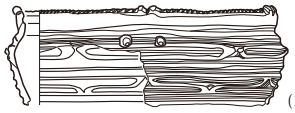
VIc4 層


117 図 4
(10Po2465)

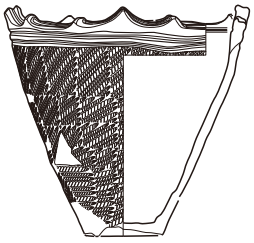

119 図 6
(10Po1882)

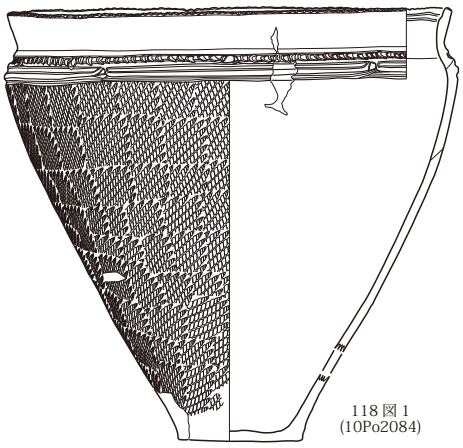
117 図 16
(10Po2033)


122 図 6
(10Po2070)

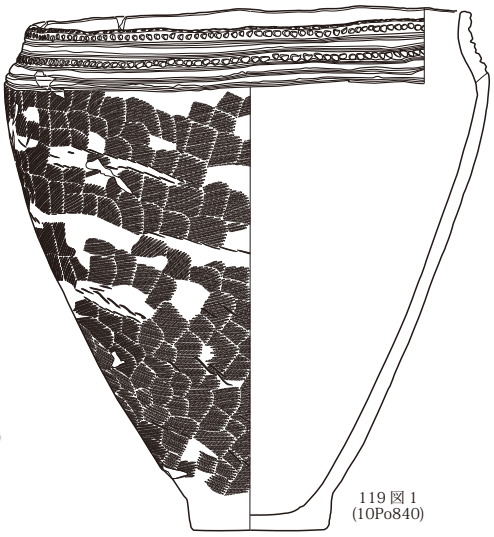

i 19 図 4
(10Po780)

119 図 7
(10Po2072)


118 図 5
(10Po1958)

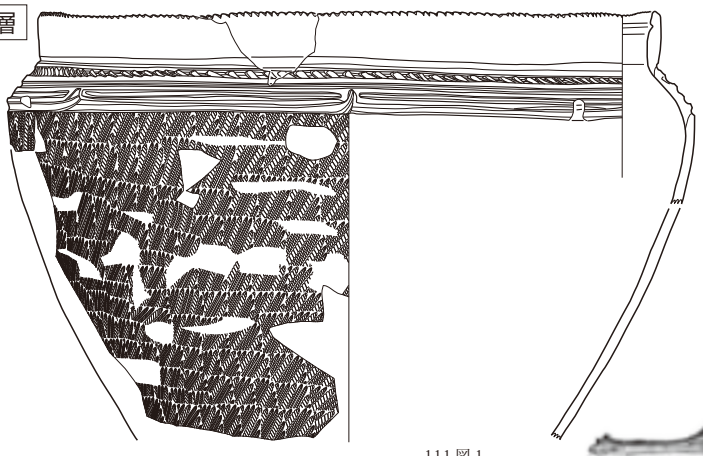

118 図 1
(10Po2084)

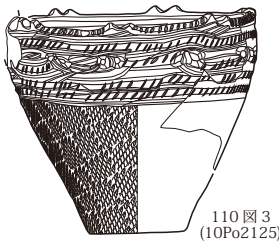
122 図 2
(10Po2182)

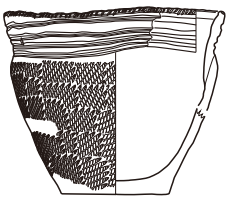

119 図 1
(10Po840)

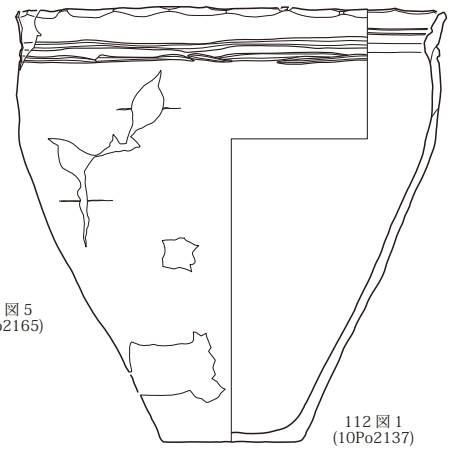
123 図 1
(10Po812)

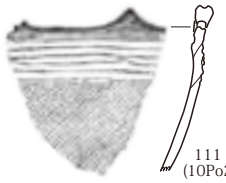
VIc7 層

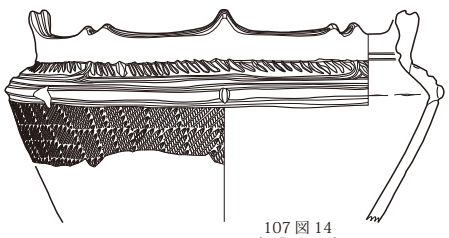

111 図 1
(10Po1927)

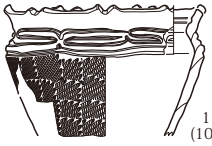

110 図 3
(10Po2125)


108 図 10
(10Po2162)


112 図 1
(10Po2137)

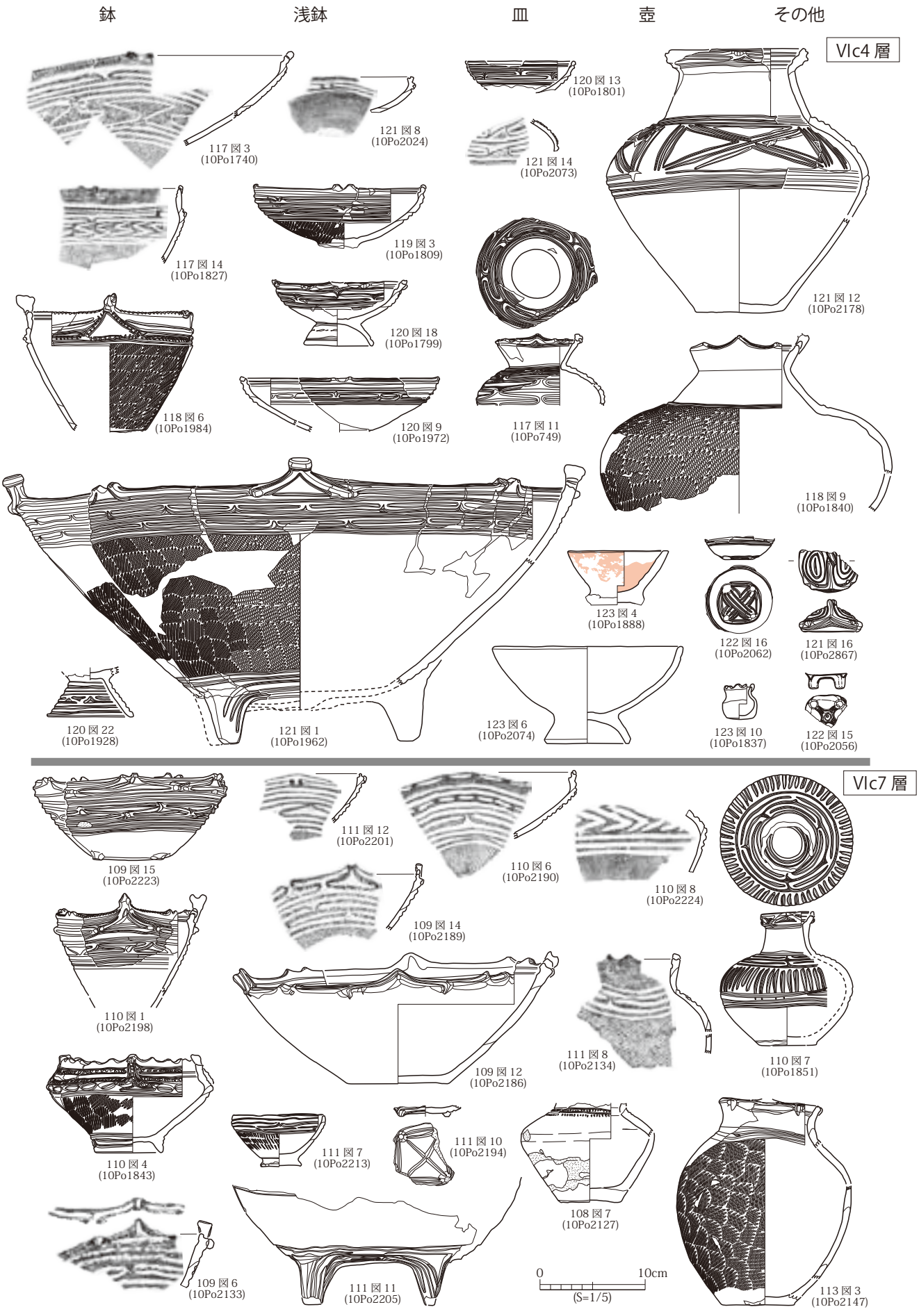

111 図 5
(10Po2165)


107 図 14
(10Po2128)


111 図 6
(10Po2210)

0 10cm
(S=1/5)

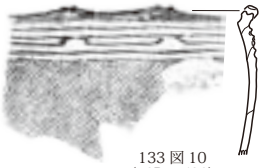
第292図　東C・D丘陵間遺物包含層　層位別出土土器（3）



第293図　東C・D丘陵間遺物包含層　層位別出土土器（4）

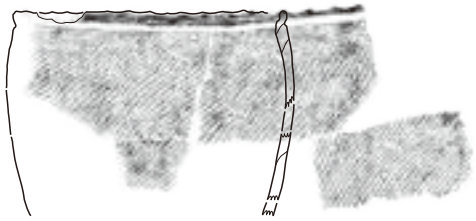
深鉢

Vlc1 層

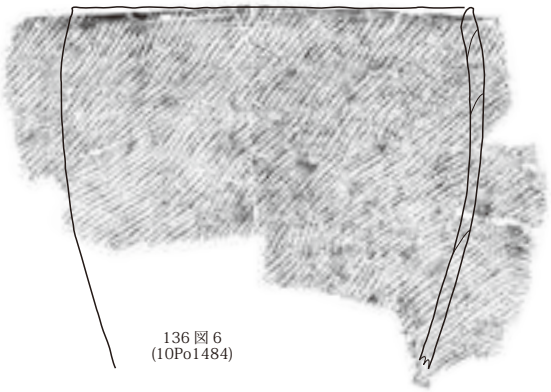


133 図 10
(10Po1530)

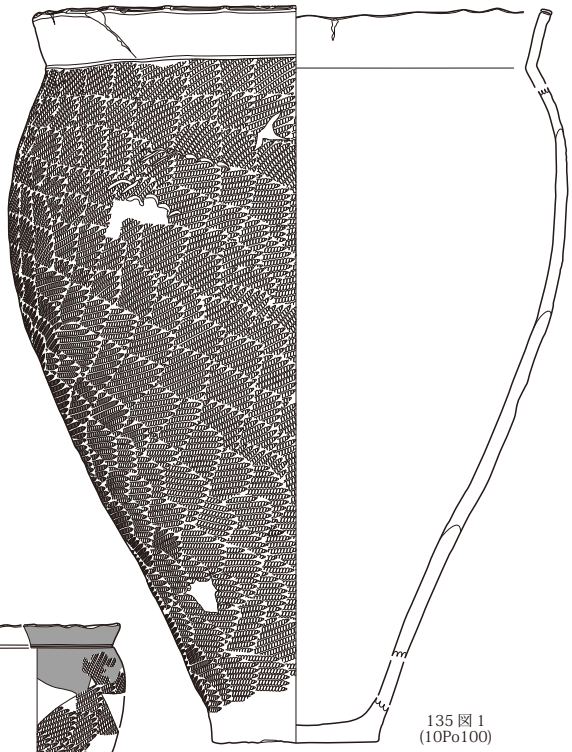
134 図 17
(10Po1486)



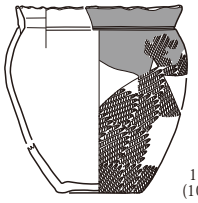
135 図 3
(10Po552)



136 図 6
(10Po1484)

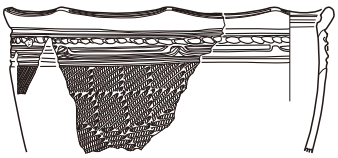


135 図 1
(10Po100)

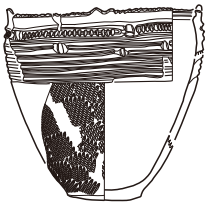


134 図 21
(10Po1480)

Vlc2-3 層



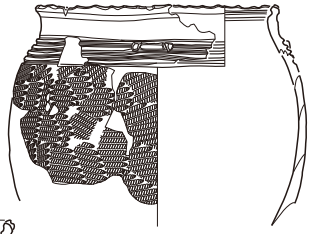
128 図 15
(10Po1580)



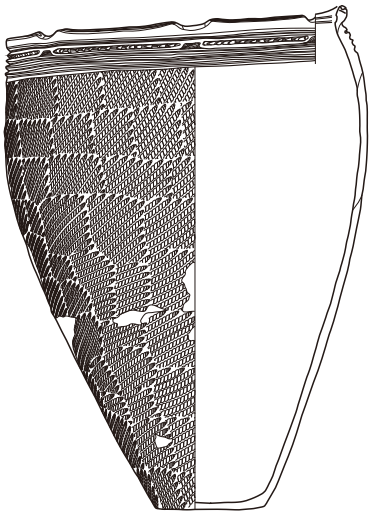
126 図 1
(10Po1776)

127 図 2
(10Po1734)

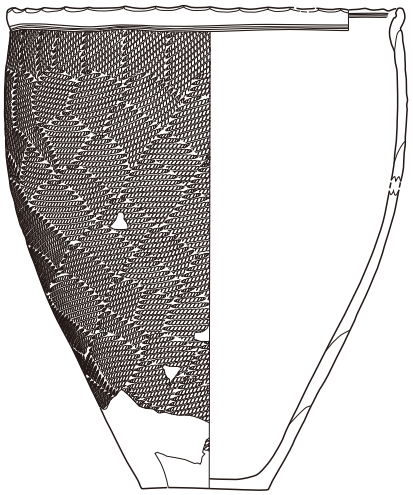
129 図 9
(10Po1768)



129 図 8
(10Po1578)

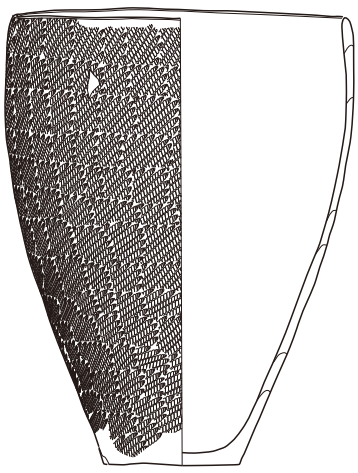


128 図 14
(10Po1589)



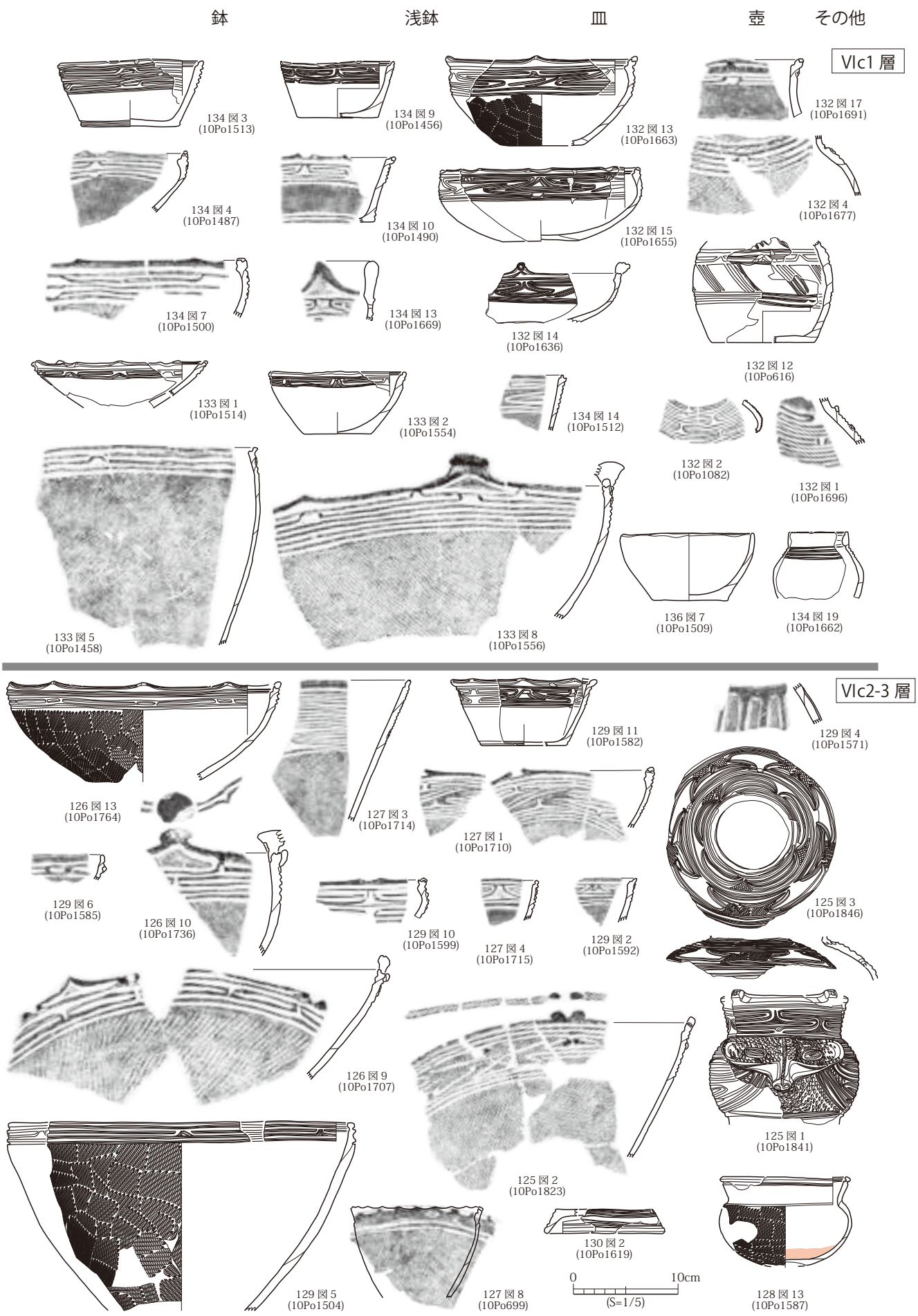
129 図 14
(10Po1612)

0 10cm
(S=1/5)

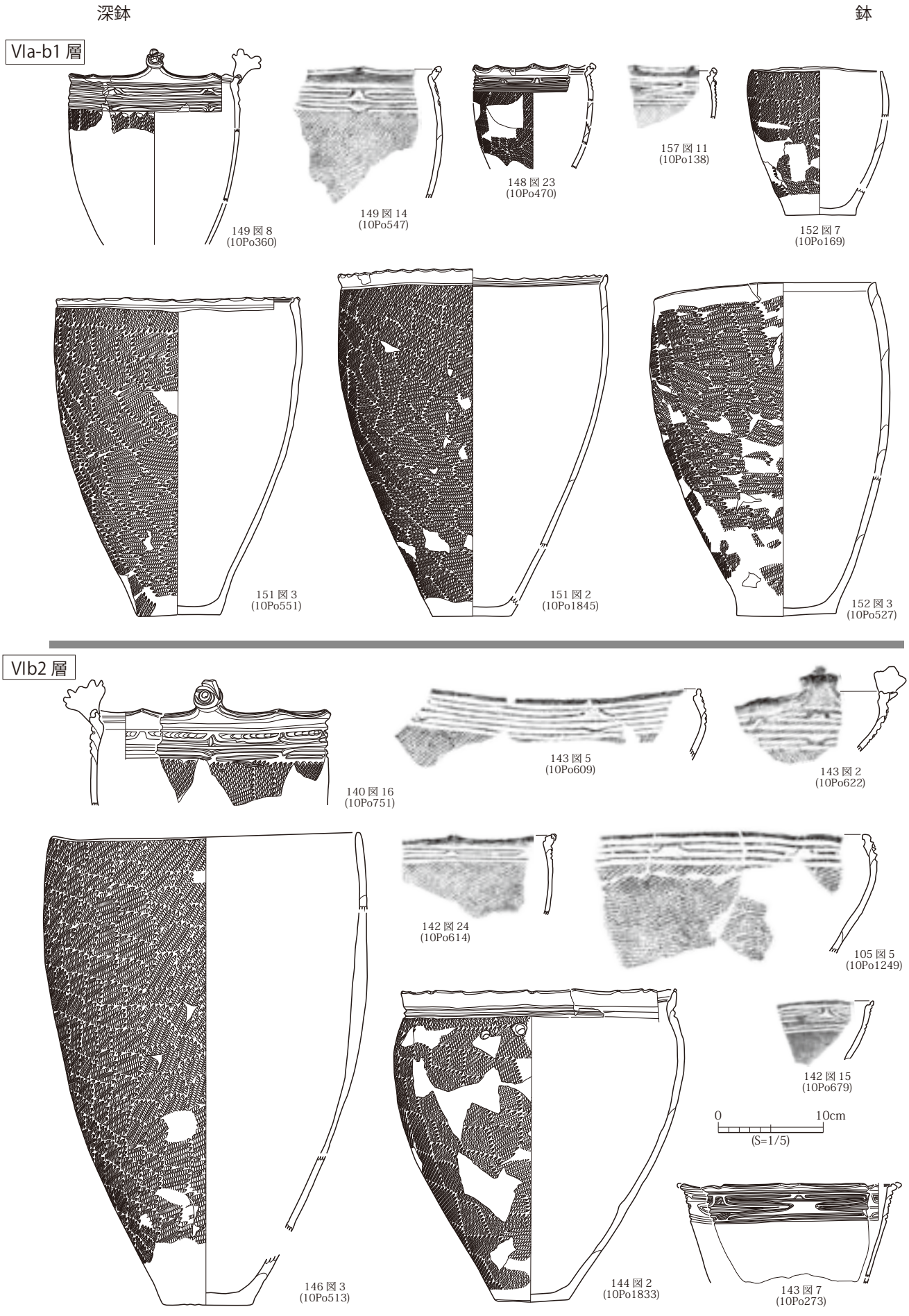


130 図 6
(10Po1656)

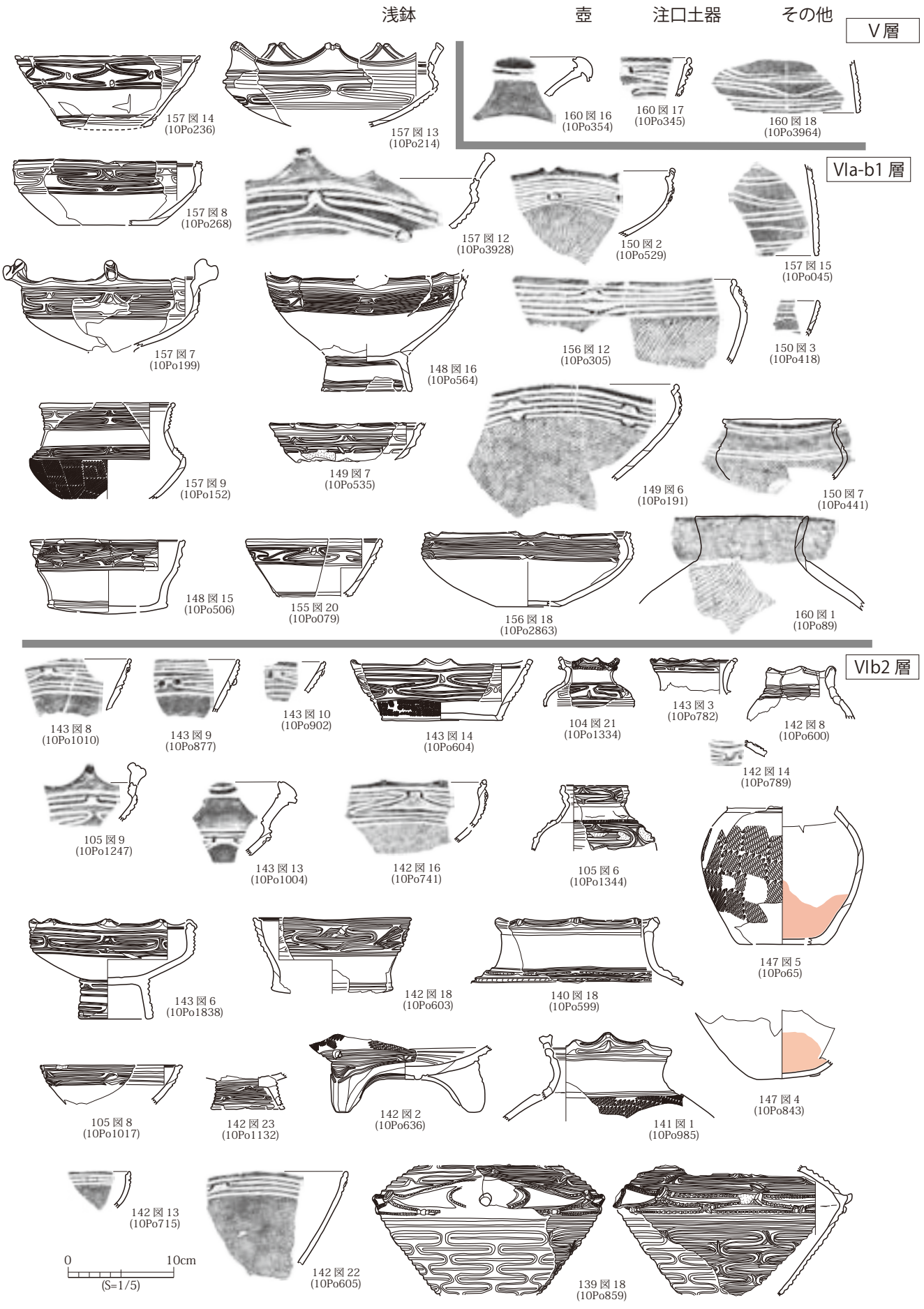
第294図　東C・D丘陵間遺物包含層　層位別出土土器（5）



第295図　東C・D丘陵間遺物包含層　層位別出土土器（6）



第296図　東C・D丘陵間遺物包含層　層位別出土土器（7）



第297図　東C・D丘陵間遺物包含層　層位別出土土器（8）

形状の分布を見ると、これらの土器は、器高／口径がおおむね 1.1 ～ 1.5 の間にある A グループ（深鉢）と、おおむね 0.7 ～ 1.1 の間にある B グループ（深鉢･鉢）、おおむね 0.3 ～ 0.6 の間にある C グループ（鉢・浅鉢・Ⅲ）の 3 つのグループに分かれる。これらの各グループにおける層位別の変化（時間的変化）を検討すると、A グループでは、上層（Ⅵ c1 層以上）のものの分布範囲がやや広いものの、一方向の時間的な変化を捉えることは難しい。B グループでは、下層（Ⅵ c2 層以下）のものが上層のものと比べて底径／口径の値が小さい、すなわち口径と底径の差が大きい円錐形に近いところに分布する傾向が見られる。C グループでは、Ⅵ c7 層以下のものが、底径／口径の値が小さいところにまとまって分布し、これよりも上層のものは、底径／口径の値が小さいところから大きいところまで広く分布する。以上から、鉢や浅鉢・Ⅲでは、円錐形から円柱形へとゆるやかな変化が見られることがわかる。

[装飾要素]

前項までに検討した、主要な装飾類型の層位別出現状況および各層の時期区分を第 298 図にまとめた。包含層における遺物の上下移動を考慮し、各装飾類型が一定量あるいは一定の割合で出土している範囲を実線や破線で示した (註 8)。

雲形文はⅥ e 層からⅥ d 層まで主体的に見られる装飾要素である。なかでも、浮彫表現となるⅧ a 類はより下層から出現しており、Ⅷ a 類からⅧ b 類への緩やかな変遷を見ることができる。

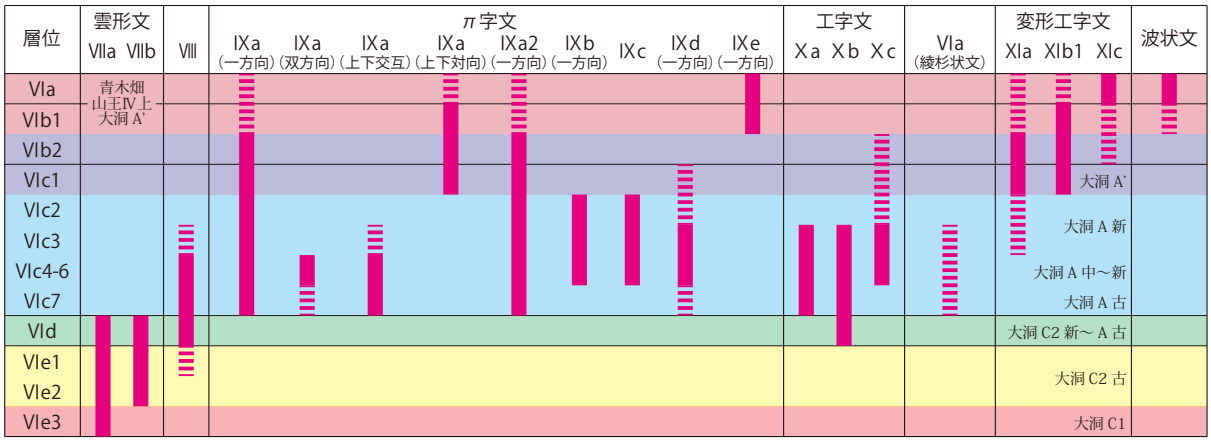
π 字文はⅥ d 層からⅥ a 層まで出土しているが、類型が多いため、その分布範囲にばらつきが見られる。π 字文ではⅨ a 類が主体となり、特に、隆線または沈線の「π 字（匹字）」の開く方向が一方向のみのものが最も多く見られ、この類型がⅥ c7 層からⅥ b2 層まで幅広い時期で装飾の主体となる。一方で、π 字文の多くの類型はⅥ c2 層までに出現・衰退し、Ⅵ c1 層からは類型が限られるとともに、主体となる類型の変化が見られるようになる。また、上下対向の π 字文は晩期末葉のⅥ c1 層以上、変形工字文に類似するⅨ e 類は弥生時代前期頃のⅥ b1 層以上に出現のピークが見られる。特に前者はⅥ c1 層以上でまとまって出土していることから、時期を検討するうえで有効な指標となる。

工字文は、π 字文に類似する装飾要素であるが、出現のピークはⅥ d 層からⅥ c3 層と π 字文と比べてやや古く、出現幅も短い。類型別では、Ⅹ a 類とⅩ b 類では大きな変化は見られないが、雲形文に類似する文様帯が Z 字状に展開するⅩ c 類は、出現がやや新しくなる傾向にある。

変形工字文はⅥ c3 層以上で出現する装飾要素であり、出土層位からⅪ a 類→Ⅺ b1 類→Ⅺ c 類という緩やかな変遷が見られる。さらにその後には波状文が出現し、これらの類型変遷を時期別に捉えることが可能となる要素である。

以上から、精製土器における装飾要素について、雲形文や π 字文、工字文、変形工字文・波状文で各要素の層位的な出現頻度の変化を捉えることができた。ここで、半精製土器や粗製土器についても各装飾類型の層位別出現頻度（第 17 表）を検討することで、これらの土器の変遷について考察する。

半精製土器では、平行沈線文が施されるⅩⅡ類と、1 本の横位沈線文のみが施されるⅩⅢ類について比較すると、Ⅵ c4-6 層以下ではⅩⅡ類の割合が大きく、Ⅵ c1 層以上になるとⅩⅢ類の割合が相対的に大きくなる傾向が見られる。この層位的な変化は粗製土器でも見られ、Ⅵ c4-6 層以下では羽状



第298図　装飾類型の出現状況（縄文時代晩期中葉～弥生時代前期）

第 17 表　半精製土器・粗製土器の層位別の各類型出現頻度

層位	ⅩⅡa1	ⅩⅡa2	ⅩⅡa3	ⅩⅡb1	ⅩⅡb2	ⅩⅡc	ⅩⅡd1	ⅩⅡd2	ⅩⅡe	ⅩⅡf	ⅩⅡx	ⅩⅢ	ⅩⅣa1	ⅩⅣa2	ⅩⅣb1	ⅩⅣb2	ⅩⅤ
Ⅴc					+						+	+			+		+
Ⅵa	+	++		++			+	+			+++	++++	+++	+	+++		+
Ⅵb1		+		+	+						++++	+++++	++++		++++		+++
Ⅵb2	++	++	+	++	+		+	+	+	+	++++	++++	++++	+	+++		++++
Ⅵc1	+			+	+						++++	+++++	+++	+	+++		+++
Ⅵc2	+	+		+							++	+++	+		+		+
Ⅵc3	+	+		+	+	+					++++	+++	+		++		+
Ⅵc4-6	++	+	+	++	+		+	+	+		+++++	+++	++	++	+		+++
Ⅵc7-9	++	++	+	+						+	+++++	++	++	+	+	+	++
Ⅵd	++	++	+	++	++		+				++++	+++	++++	+++	+		++
Ⅵe1		+										+					+
Ⅵe2	+	+		+					+		++	+++	+	+	+	+	+
Ⅵe3		+		+	+		+				+++	+	++	+	+		+

+++++: 非常に多い　++++: 多い　+++: やや多い　++: 少ない　+: わずか
Ⅵe3 層からⅥd 層は東 C-D1 ～ 3、Ⅵc7 層からⅤ層は東 C-D3 のみを集計

縄文が一定量出土するのに対し、これよりも上層ではあまり見られなくなること、また、Ⅵc1 層以上で口縁部付近に無文帯をもつⅩⅣb 類の割合が大きくなること、さらに無文土器であるⅩⅤ類の出土量も増加することがあげられる。精製土器における装飾類型の出現頻度の大きな変化がⅥc2 層とⅥc1 層との境界にあることもふまえると、晩期後葉新段階（晩期 5c 期）から晩期末葉（晩期 6 期）にかけて、土器の装飾要素全体にわたって大きな変化が見られるようになる。

装飾要素の傾向の変化を見ることができるこれらの層の境界に着目すると、器種・器形についてもⅥc1 層以降になると浅鉢の類型の増加、台付浅鉢の増加、袖珍土器の増加が見られるようになり（第 14 表）、同様に大きな変化を捉えることが可能である。

(2) その他の遺物包含層から出土した土器

前項で東 C・D 丘陵間遺物包含層における各層の土器の特徴や時期について検討した。この検討をもとに、ほかの遺物包含層についても、それぞれの器種および装飾類型の層位別出現頻度から同様の検討を行う（第 18・19 表）。

①東 C 丘陵南斜面遺物包含層

東 C 丘陵南斜面遺物包含層は、大別 3 層に分かれる。以下において、各大別層群における土器の

特徴およびそれぞれの時期について検討する。

3層群では、鉢A1・C1類やⅢA1類が出土している。類型が不明なものや未抽出のものには深鉢や浅鉢、壺などがある。装飾は、雲形文やメガネ状浮文、工字文、π字文、縦位隆帯がわずかに見られる。出土量が少ないため時期を絞り込むのは難しいが、これらの装飾要素の組み合わせは晩期中葉から後葉（大洞C1式～A式、晩期3～5期）にかけて見られることから、本層もこの時期に位置づけられる。

2層群では、深鉢A1・B1・C1・C2類や鉢A1・B1・C1・D1類、浅鉢A1・B1・D1類、ⅢA1・C1類、壺A1・C1・G1・H1類、注口土器B1類が出土している。類型が不明なものや未抽出のものには蓋、袖珍土器壺などがある。なかでも深鉢A1･B1類、鉢A1類、浅鉢A1類が多い。装飾は、π字文（Ⅸa・Ⅸc類）がやや多く、瘤の付く帯状文（ⅠB類）や雲形文（Ⅶa・Ⅶb類）、工字文（Ⅹa・Ⅹb・Ⅹc類）が少量ある。ほかに帯状文や入組帯状文、瘤の付く入組帯状文、三叉文、羊歯状文、列点文、メガネ状浮文、綾杉状文、変形工字文がわずかに見られる。π字文Ⅸa類には上下対向のものが含まれ、変形工字文ⅩⅠb1類も見られることから、東C･D丘陵間遺物包含層のⅥc1層の様相に類似し、晩期末葉（大洞A’式古段階、晩期6a期）に位置づけられる。

1層群では、深鉢A1・B1・C1・C2・D1類や鉢A1・B1・D1類、浅鉢A1類、ⅢA1・B1類、壺C1・G1類、注口土器B1類、袖珍土器深鉢A1類、袖珍土器鉢A1類が出土している。類型が不明なものや未抽出のものには､蓋などがある。なかでも深鉢B1類､鉢A1類が多い。装飾は､π字文（Ⅸa･Ⅸa2･Ⅸb･Ⅸc･Ⅸe類）がやや多く、雲形文（Ⅶa･Ⅶb類）、工字文（Ⅹb･Ⅹc類）が少量ある。ほかに帯状文、入組帯状文、三叉文、羊歯状文、列点文、X字状文、綾杉状文、変形工字文がわずかに見られる。上下対向のπ字文Ⅸa類やπ字文Ⅸe類、変形工字文ⅩⅠc類がわずかに含まれていることから、2層群と同様に晩期末葉に位置づけられるが、層位的に2層群よりも後出の段階（大洞A’式新段階、晩期6b期）に位置づけられる。

②東D丘陵北斜面遺物包含層

東D丘陵北斜面遺物包含層は、大別3層に分かれ、2層群はさらに2A･2B･2C層群に細分される。以下において、各層群における土器の特徴およびそれぞれの時期について検討する。

3層群は調査区断面での確認のみのため遺物は出土は確認されず、2C層群は時期のわかる資料が出土していないため、いずれの層も形成時期は不明である。

2B層群では、深鉢A1・B1・B2・B3・C1・C2類や鉢A1・C1類、壺A1類、袖珍土器深鉢A1類などが出土している。装飾は、帯状文や羊歯状文、列点文、メガネ状浮文、π字文（Ⅸa2･Ⅸe類）、縦位隆帯などが見られる。メガネ状浮文やπ字文､縦位隆帯の存在から､晩期後葉(大洞A式､晩期5期)に位置づけられる。

2A層群では、深鉢A1・A2・A3・B1・B2・B3・C1・C2・C3・D類や鉢A1・A2・A3・B1・B2・C1類、四脚付鉢A1類、浅鉢A1・B1・B2・C1・C2類、台付浅鉢A1・B3類、ⅢA1・A2類、壺B1・C1・D1・E1・G1・H1類、袖珍土器ⅢA1類、袖珍土器壺H1類が出土している。類型が不明なものや未

第18表　その他の地点の層位別器種類型出現頻度

器種		深鉢													鉢									小型鉢	台付鉢	四脚付鉢	浅鉢											台付浅鉢				皿				
類型1		A1	A2	A3	B	B1	B2	B3	C1	C2	C3	D	D1	不明	A1	A2	A3	B	B1	B2	B3	C1	C3	D1	不明	A1	不明	A1	不明	A1	B	B1	B2	B3	C	C1	C2	C3	D1	不明	A1	A3	B3	不明	A1	A2	B1	C1	不明
東C南	V																		○						○					○																	
	1層群	○				◎			○	○			○	○	◎				○				○	○	○					○									○				○			○		○
	2層群	◎				◎	○		○	○				○	◎			○	○			○		○	○					◎		○							○	○					○		○
	3層群														○							○																	○								
東D北	V	◎				○	○		○	○				○	◎				○			○	○		○	○			○	◎		○		○							○				○				
	1層群	○				◎	○		○					○	○				○		○			○						○		○										○							
	2A層群	◎	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○		○	◎	○	○		○	○		○			○		○	○	○	◎	○	○	○		○	○	○			○	○	○		○	○	○	○	
	2B層群	○				○	○	○	○	○				○	○							○																									
東D-E	Ⅵ + Ⅵa	○				○	○		○	○				○	○							○																		○							
	Ⅵb	◎		○	○	○	○	○	○		○				○				○								○		○						○					○							
	Ⅵc	○				○	○							○	○																															
	Ⅵd	○		○					○					○	○										○																○							
東E北	Ⅵ + Ⅵa	○		○					○		○			◎	○										○																						
	Ⅵb													○																																		

器種		壺									注口土器		四脚付壺	香炉形土器	蓋	台部	脚部	袖珍土器深鉢		袖珍土器鉢		袖珍土器台付鉢	袖珍土器皿	袖珍土器壺	袖珍土器台部
類型1		A1	B1	C1	D1	E1	F3	G1	H1	不明	B1	不明	不明	不明	不明	不明	不明	A1	不明	A1	不明	不明	A1	H1	不明
東C南	V									○															
	1層群			○				○		○	○	○				○	○	○		○	○				
	2層群	○		○				○	○	◎	○	○				○	○								
	3層群									○						○									
東D北	V	○				○	○	○		○	○	○	○	○		○				○		○			○
	1層群									○		○				○						○			
	2A層群		○	○	○	○		○	○	◎		○				○	○		○		○	○	○	○	
	2B層群	○								○							○	○							
東D-E	Ⅵ + Ⅵa									○															
	Ⅵb						○									○	○								
	Ⅵc									○					○	○									
	Ⅵd																								
東E北	Ⅵ + Ⅵa																								
	Ⅵb																								

◎：多い・やや多い　○：あり

第19表　その他の地点の層位別装飾出現頻度

装飾		帯状文	帯状文（瘤付）	入組帯状文	入組帯状文（瘤付）	三叉文	三叉文＋羊歯状文	羊歯状文	羊歯状文＋列点文	列点文	列点文＋雲形文	雲形文	雲形文＋π字文	雲形文＋メガネ状浮文	雲形文＋工字文	×字状文	×字状文＋雲形文	メガネ状浮文	メガネ状浮文＋π字文	メガネ状浮文＋π字文＋工字文	メガネ状浮文＋工字文	工字文	工字文＋変形工字文	綾杉状文	綾杉状文＋π字文＋工字文	π字文	π字文＋工字文	π字文＋変形工字文	変形工字文	波状文
東C南	V																	+				+					+		
	1層群	+		+		+		+		+	+	++		+			+					++		+		+++	+		+	
	2層群	+	++	+	+	+			+	+		++						+	+			++		+		+++	+	+	+	
	3層群											+		+												+				
東D北	V					+			+			++			+	+		+	+	+		+				++++	+	+	+	
	1層群	+				+						++		+		+		+	+			+				+++	+			
	2A層群	++	+	+	+	+	+	++	+	++	+	++	+	+		+		+	+		+	++		+	+	+++	++	+	+	+
	2B層群	+						+		+								+								+				
東D-E	Ⅵ + Ⅵa																									+		+		
	Ⅵb	+																					+			+		+		
	Ⅵc																									+		+		
	Ⅵd	+											+															+		
東E北	Ⅵ + Ⅵa																													
	Ⅵb																													

+++++: 非常に多い　++++: 多い　+++: やや多い　++: 少ない　+: わずか

抽出のものには、台付鉢や注口土器、袖珍土器深鉢・台付鉢などがある。なかでも深鉢 A1・B1 類、鉢 A1 類、浅鉢 A1 類が多く見られる。装飾は、π字文（Ⅸa・Ⅸa+ Ⅸa2・Ⅸa+ Ⅸc・Ⅸa1・Ⅸa2・Ⅸb・Ⅸc・Ⅸd・Ⅸe類）がやや多く、帯状文（Ⅰa・Ⅰb・Ⅰc・Ⅰd類）や羊歯状文（Ⅳ類）、列点文（Ⅴ類）、雲形文（Ⅶa・Ⅶb類）、工字文（Ⅹa・Ⅹb・Ⅹc類）、π字文＋工字文（Ⅸa+ Ⅸe+ Ⅹa+ Ⅹb・Ⅸa+ Ⅸo+ Ⅹc・Ⅸa+ Ⅹa・Ⅸa+ Ⅹc・Ⅸa1+ Ⅹa・Ⅸa2+ Ⅹb・Ⅸc?+ Ⅹa）が少量ある。ほかに入組帯状文や瘤の付く帯状文・入組帯状文、三叉文、メガネ状浮文、X 字状文、綾杉状文、変形工字文、波状文などがわずかに見られる。上下対向のπ字文Ⅸa類やⅨe類、変形工字文が見られることから、東C･D丘陵間遺物包含層のⅥc1層からⅥa層までの様相に類似する。ただし、波状文はわずかな出土にとどまるため、本大別層群は晩期末葉から弥生時代前期前葉（大洞 A'～山王Ⅳ上層式、晩期 6 期から弥生 1 期）に位置づけられる。なお、2 層群は、東 C・D 丘陵間遺物包含層のⅥd層と、層の特徴が類似するが、出土遺物の時期には差異が認められる。この要因としては、本包含層のⅥd層は検出範囲の大部分で丘陵上に堆積しているため、低地部ほど層の区別が明瞭ではなかったことがあげられる。したがって、東 C・D 丘陵間遺物包含層のⅥd層と層の特徴が類似していても、時期の異なるものが包含されていることになるのである。

1 層群では、深鉢 A1・B1・B2・C1 類や鉢 A1・B1・B3・D1 類、浅鉢 A1・B1 類、Ⅲ A1 類、壺 H1 類が出土している。類型が不明なものや未抽出のものには、注口土器や袖珍土器台付鉢・浅鉢などがある。なかでも深鉢 B1 類が多く見られる。装飾は、π字文（Ⅸa・Ⅸa2・Ⅸb・Ⅸc・Ⅸd類）がやや多く、雲形文（Ⅶa・Ⅶb類）が少量ある。ほかに帯状文や入組帯状文、瘤の付く帯状文、三叉文、羊歯状文、メガネ状浮文、X 字状文、工字文、変形工字文などが見られる。弥生時代に特徴的な装飾は明確に認められないが、下層の 2A 層群が晩期末葉から弥生時代前期前葉の時期幅であること、上層のⅤ層からは青木畑遺跡や山王囲遺跡Ⅲ中･下層から出土する土器に類似する文様（波状文）をもつ土器が見られることから、弥生時代前期中葉（青木畑式、弥生 2a 期）に位置づけられる。

③東 D・E 丘陵間遺物包含層

東 D・E 丘陵間遺物包含層は 4 層（Ⅵa～Ⅵd層）に細分される。

Ⅵd層では、深鉢 A1･A3･C1 類や鉢 A1 類が出土し、類型が不明のものには浅鉢がある。装飾は、帯状文や雲形文、π字文＋変形工字文（Ⅸa+ ⅩⅠb1類）などがわずかに見られる。出土量が少ないため不明確なところがあるが、おおよそ晩期末葉に位置づけられる。

Ⅵc層では､深鉢 A1･B1･B2 類や鉢 A1 類が出土し､類型が不明のもには壺､蓋などがある。装飾は、条痕文や入組帯状文、雲形文、浮線渦巻文、工字文、π字文＋変形工字文などがわずかに見られる。瘤の付く変形工字文ⅩⅠc類や遠賀川系土器（第 270 図 12）の出土が見られることから、弥生時代前期前葉（山王Ⅳ上層式、弥生 1a 期）に位置づけられる。

Ⅵb層では、深鉢 A1・A3・B1・B2・B3・C1・C3 類や鉢 A1・B1 類、浅鉢 A1・B1・C3 類、台付浅鉢 B3 類、壺 F3 類などが出土している。なかでも深鉢 A1 類が多い。装飾は、帯状文や雲形文、工字文＋変形工字文、π字文、π字文＋変形工字文、変形工字文などが見られる。変形工字文はX

Ⅰｃ類の割合が大きくなることから、弥生時代前期前葉から中葉（山王Ⅳ上層式から青木畑式、弥生1～2期）に位置づけられる。

Ⅵａ層では、深鉢A1・B1・B2・C1・C2類や鉢A1・B1類、台付浅鉢A3類が出土している。類型が不明なものや未抽出のものには皿や壺がある。装飾は、π字文や変形工字文などが見られる。下層のⅥｂ層と装飾要素に大きな変化は見られないことから、同様の時期に位置づけられる。

④東E丘陵北斜面遺物包含層

東E丘陵遺物包含層は2層（Ⅵａ･Ⅵｂ層）に細分されるが、Ⅵｂ層は出土量がわずかであるため、Ⅵａ層とあわせて検討する。

器種は、深鉢A1・A3・C1・C3類や鉢A1類がある。装飾は縦位の貼付文、半截竹管や円形竹管による平行沈線文、半截竹管による鋸歯状の沈線文、縦位や横位の刺突列や渦巻状の刺突文などがある。また、地文にはS字状連鎖撚糸文や網目状撚糸文、末端ループ文、附加条を巻く縄文などが見られる。これらの要素は大木2b式から大木3式に特徴づけられるものであり、本包含層出土の土器のほとんどがこの時期に位置づけられる。なお､貝殻腹縁文(早期中葉)や格子状の沈線文(前期末葉)、羊歯状の浮線文（晩期前葉）が施された土器もわずかに出土しており、ほかの時期でも付近で生活が営まれていたとみられる。

(3) 土製品

土製品は、土偶や動物形土製品、土版、土面?、垂飾、耳飾、舟形土製品、笠形土製品、鐸形土製品、スタンプ形土製品、棒状土製品、円形土製品、円柱形土製品、球形土製品、環形土製品、円筒形土製品、不明土製品のほかに土製小玉、円盤状土製品が出土している。これらのうち大部分が東C・D丘陵間遺物包含層出土のものである。ここでは、東C・D丘陵間遺物包含層から出土した土製品について、共伴する土器の様相を加味したうえで、それぞれの特徴や時期等の検討を行う。

①東C・D丘陵間遺物包含層から出土した土製品の特徴

土器の出土状況により包含層各層の時期が判明したため、層位別に検討する。

Ⅵｅ層（Ⅵe5層からⅥe1層）は、出土した土器から晩期中葉（大洞C2式古段階）以前に位置づけられる。土偶右脚や環状の耳飾、舟形土製品、不明土製品、土製小玉、円盤状土製品などが出土している。舟形土製品は垂飾とみられる。擬人化した不明土製品は下半身に当たる部分の線刻が特徴的である。

Ⅵｄ層は、出土した土器から晩期中葉から晩期後葉（大洞C2式新段階から大洞A式古段階）に位置づけられる。土偶や土版、耳飾、環形土製品、土製小玉、円盤状土製品などが出土している。土偶や耳飾がやや多い。土偶は大部分が中実で、全体的に扁平な形状を呈する。頭部から胴部にかけて刺突列や刻目による表現が顕著に見られる。これらの特徴をもつ土偶の多くは、県内では晩期中葉に位置づけられる土器に共伴する（阿部　1999)。土版は、正中線を中心として弧状の平行沈線文が左

第 20 表　各地点における土製品の層位別出土状況

地点	層位	土偶	土偶上半身	土偶頭部	土偶頭部・胴部	土偶胸部	土偶胸部・両腕	土偶胴部	土偶腹部	土偶肩部	土偶左肩部	土偶腕	土偶左腕	土偶右腕	土偶下半身	土偶脚	土偶左脚	土偶右脚	土偶計	動物形土製品	土版	土面か	垂飾	耳飾	舟形土製品	笠形土製品	鐸形土製品	スタンプ形土製品	棒状土製品	円形土製品	円柱形土製品	球形土製品	環形土製品	円筒形土製品	不明土製品	小計	土製小玉	円盤状土製品	総計
東 C 南	Ⅴ層																																			3	3
	1 層群		1									1		1					3																3		14	17
	2 層群																			1			1												2		40	42
	3 層群																																				1	1
東 C-D1	Ⅴ																																				1	1
	確認面																			1			2										1	1	5	2	9	16
	Ⅵ																																				2	2
	Ⅵ d			2				1			1			1				5					7										2	14		15	29
	Ⅵ e																						2											2			2
	Ⅵ e5																						1											1		1	2
	遺構			1														1					1										1	3	1	8	12
東 C-D2	Ⅵ b2							1		1			1				1	4		2			1		1								1	9		53	62
	Ⅵ d				1			2				1	1				2	7		1			1									1	2	12	1	26	39
	Ⅵ e1																1	1																1	1	4	6
	Ⅵ e2																																1	1		20	21
	Ⅵ e3																							1										1			1
東 C-D3	Ⅴ c															1			1															1		13	14
	Ⅵ a	1						2						1	2				6			1	2										1	10	2	28	40
	Ⅵ b1			1								1							2			1	2							1			1	7	1	18	26
	Ⅵ b2	1	1	3			1	1				1							8		3			16				1	1			1	2	32	152	86	270
	Ⅵ c																							2										2	15	6	23
	Ⅵ c1				1								1			1			3			1	1											5	42	21	68
	Ⅵ c2	1																	1				1											2	4	1	7
	Ⅵ c3													1					1		1			6					1			1		11	278	11	300
	Ⅵ c4							2						1		2			5		3			10		1			1		1		1	22	425	43	490
	Ⅵ c5																				1													1	29	1	31
	Ⅵ c6																				1		1											2	4		6
	Ⅵ c7															1			1		1			10										12	70	13	95
	Ⅵ c11																																			1	1
	Ⅵ d																				1													1	1	11	13
	Ⅵ e2																																			2	2
東 C-D 不明	Ⅰほか																																			5	5
	Ⅵ																																		2		2
東 D-E	Ⅵ																																			1	1
	Ⅵ a																					1												1			1
	Ⅵ b																																			1	1
	遺構																			1		1												2		15	17
東 D 北	Ⅰほか																																			1	1
	Ⅴ																1	1	1	1			6				1							10		54	64
	1 層群																			1													2	3		20	23
	2A 層群			1		1		3	1	1						1		8		1			4								1		2	16		88	104
	2B 層群																																			4	4
総　計		3	2	8	2	1	1	12	1	2	1	4	3	5	2	5	1	5	58	2	19	2	3	77	1	1	1	1	1	3	1	1	4	1	18	194	1030	641	1865

右対称に描かれており、本遺跡において晩期中葉後半から後葉の土器に共伴することが多い（宮城県教育委員会　2014）。

Ⅵ c7 層は、出土した土器から晩期後葉（大洞 A 式古段階）に位置づけられる。土偶や土版、耳飾、円盤状土製品、土製小玉が出土している。なかでも耳飾や土製小玉が多い。土偶脚は腰を下ろしたものであるとみられる。土版は、Ⅵ d 層で出土したものに装飾意匠が類似する。耳飾は盃形がほとんどである。

Ⅵ c6 層からⅥ c4 層は、出土した土器から晩期後葉（大洞 A 式中段階から新段階）に位置づけられる。土偶や土版、耳飾、鐸形土製品、円形土製品、球形土製品、円盤状土製品、土製小玉などが出土している。土偶胴部には平行沈線文が施されており、県内では晩期中葉から後葉の時期の土偶によく見られる。土版は、Ⅵ d 層やⅥ c7 層で見られた意匠に類似することから、本来の帰属層は下層であった可能性がある。耳飾は下層に比べてキノコ形の割合が大きくなる。土製小玉はこの層で最も多く出土する。

Ⅵc3層およびⅥc2層は、出土した土器から晩期後葉（大洞A式新段階）に位置づけられる。土偶や土版、耳飾、円形土製品、環形土製品、円盤状土製品、土製小玉などが出土している。耳飾はキノコ形の割合がさらに大きくなる。土製小玉は下層より出土量は少なくなるが、上層と比べると多い。

Ⅵc1層（Ⅵc層を含む）は、出土した土器から晩期末葉（大洞A'式古段階）に位置づけられる。土偶や垂飾、耳飾、円盤状土製品、土製小玉が出土している。耳飾や土製小玉は下層に比べて少ない。土偶には雨垂れ状の沈線文や弧状（U字形）の沈線文が施される。これらの意匠が見られる土偶は、本遺跡では晩期中葉後半以降の遺物包含層から出土している（宮城県教育委員会　2014）。

Ⅵb2層は、出土した土器から晩期末葉（大洞A'式新段階）に位置づけられる。土偶や土版、耳飾、笠形土製品、棒状土製品、円形土製品、環形土製品、円盤状土製品、土製小玉などが出土している。他の層と比べて土偶や耳飾、円盤状石製品が多い。土製小玉も多く出土しているが、Ⅵc4層やⅥc3層と比べると少なく、上層になるにつれて減少傾向にある。土偶は、目など頭部の隆線上に刻目が施されるものが見られる。また角状の突起の付くものや脚部が左右に張り出すもの、雨垂れ状や弧状（U字形）の装飾が施されるものなど、県内では晩期後半以降に見られるものが多い。土版としたものには、装飾が片面のみで貫通孔が4個穿たれたものがあり、蓋に分類される可能性がある。中央の環状沈線から放射状に直線の沈線文が延びる意匠は、東北地方で晩期中葉以降に見られるものであり、また、全体の形状が円盤状を呈するものは晩期後葉以降に見られる（佐藤　2008）。本遺跡においては、東C丘陵西端部（北2A層群）で類似する装飾が両面に施されたものが出土している（宮城県教育委員会　2014）。耳飾は盃形の割合が再び増加する。また、滑車形となる大型のものも見られる。

Ⅵb1層は、出土した土器から晩期末葉から弥生時代前期前葉（大洞A'式新段階から山王Ⅳ上層式）に位置づけられる。土偶や垂飾、耳飾、円柱形土製品、円盤状土製品、土製小玉などが出土している。土製小玉や耳飾が著しく減少し、円盤状土製品もまた出土量が少なくなる。土偶は、角状の突起をもち目の周りや額等の隆線上に刻目が施されており、晩期後半以降に見られるものである。

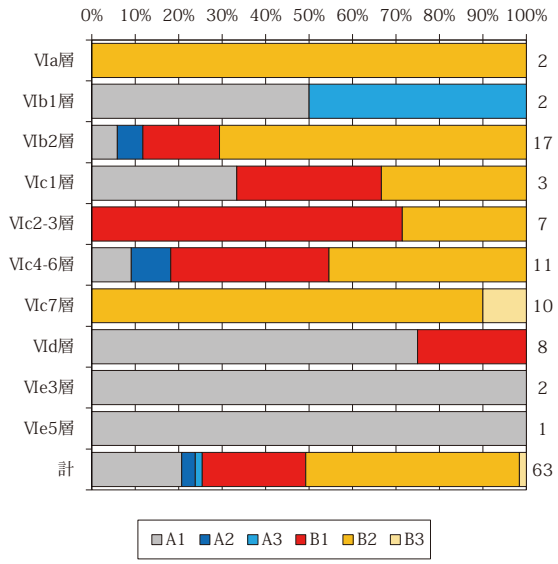
Ⅵa層は、出土した土器から弥生時代前期前葉から中葉（山王Ⅳ上層式から青木畑式）に位置づけられる。土偶や垂飾、耳飾、円盤状土製品、土製小玉などが出土している。円盤状土製品はやや増加するが、土製小玉や耳飾はわずかに出土する程度である。土偶は、平行沈線文による装飾に加えて、下半身全体に刺突が施されるものが出土している。これらは、東北地方では晩期後半に見られる意匠である（「土偶とその情報」研究会　1996）。

②器種別の特徴と変遷

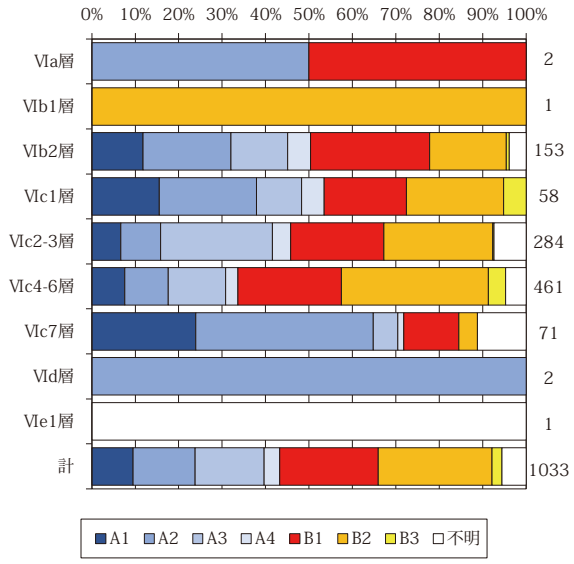
これまでの土器・土製品の検討から、東C・D丘陵間遺物包含層は、層の堆積状況や、出土した土器型式、出土遺物の年代測定結果から、縄文時代晩期中葉から弥生時代前期に位置づけられ、土製品もまたおおむねその時期に含まれるものと見られる。ここで、当該遺物包含層から出土した土製品について、器種別に特徴および変遷を捉える。

[土偶]

土偶は、ほかの土製品と比べて多く出土する器種の一つであり、ほとんどの層で出土している。Ⅵ



第299図　耳飾の層位別類型出現頻度



第300図　土製小玉の層位別類型出現頻度
（2個連なっているものを1個ずつ分けて再集計したため、合計が異なる。）

第21表　土製小玉の装飾の有無（類型別）

類型	装飾あり	装飾なし	計
A1	22	73	95
A1+A1		1	1
A1+B1	1		1
A2	69	80	149
A3		160	160
A3+A3		2	2
A4	38		38
B1	3	233	236
B2	2	261	263
B2+B2	1	3	4
B3		23	23
不明		58	58
計	136	894	1030

d層（晩期中葉から後葉）では、中実で扁平な形状で、刺突列や刻目により装身具や体の一部を表現する土偶が多く見られる。Ⅵc層（晩期後葉から末葉）になると平行沈線文やU字形、雨垂れ状の沈線文等で装飾を施すものが見られるようになる。さらにⅥb層（晩期末葉から弥生時代前期）になると、目の周り等の隆線上に刻目が施されたものが出土する。これらには角状の突起が付くものがある。Ⅵa層（弥生時代前期）には下半身全体に刺突が施されるものが見られる。これらの特徴のほとんどは、東北地方において晩期後半以降に見られる特徴であり、今回の層位的な出土事例により、各表現の消長を時期別に捉えることができた。

［土版］

土版は、A類が大部分を占め、さらにA類は、正中線の左右に対称形の文様を描いたもののみである。これらはⅥd層からⅥb2層まで出土しているが、多くがⅥc3層以下で出土していることから、晩期中葉新段階から後葉頃のものと推定される。本遺跡の東C丘陵西端部においても、同様の時期に位置づけている（宮城県教育委員会2014）。

［耳飾］

耳飾は、遺物包含層全体では小型のB類が多く出土し、なかでも盃形のB2類が最も多い。層位別にみると、Ⅵd層以下では環形のA1類が主体となるのに対し、Ⅵc層以上ではB類が主体となる（第299図）。さらにB類は、Ⅵc7層ではB2類が主体となるが、Ⅵc6層からⅥc1層にかけてキノコ形のB1類の割合が一定量存在する。すなわち、晩期中葉から後葉（大洞C1式から大洞A式古段階）までは環形の耳飾が主体であり、後葉以降になると小型の耳飾が盛んに製作・使用される傾向が伺える。またキノコ形となるB1類

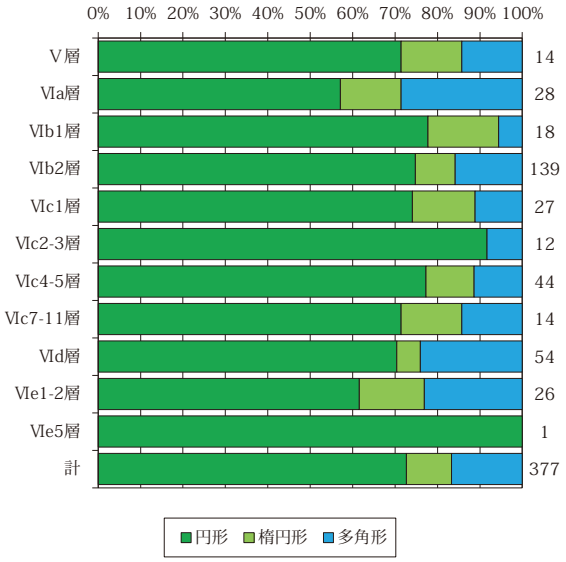
は晩期後葉から末葉にかけてよく見られる類型である。

[土製小玉]

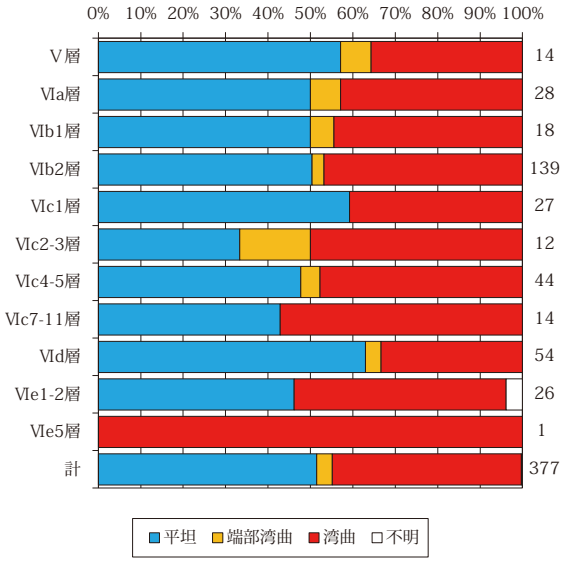
土製小玉は、遺物包含層全体でB類が多く出土している。出土数の多い層を対象に、層位別に見ると、Ⅵc7層ではA類が主体となるのに対し、Ⅵc6層以上ではB類の割合が増加するという変化が見られる。さらに類型別に見ると、A類では、Ⅵc7層で、環形や球形、円柱形を呈するような形の整っているもの（A1・A2類）の割合が大きい。一方で、Ⅵc6層以上になると、形のつぶれたA3類の割合が増加する。B類では、Ⅵc7層でくびれが明瞭に見られるB1類の割合が大きいのに対して、Ⅵc6層以上では、くびれが不明瞭となるB2類の割合が大きくなる。土製小玉は晩期後葉から末葉にかけて多く出土している器種であるが、大洞A式古段階とそれ以降では大きく変化する状況が見られる。

[円盤状土製品]

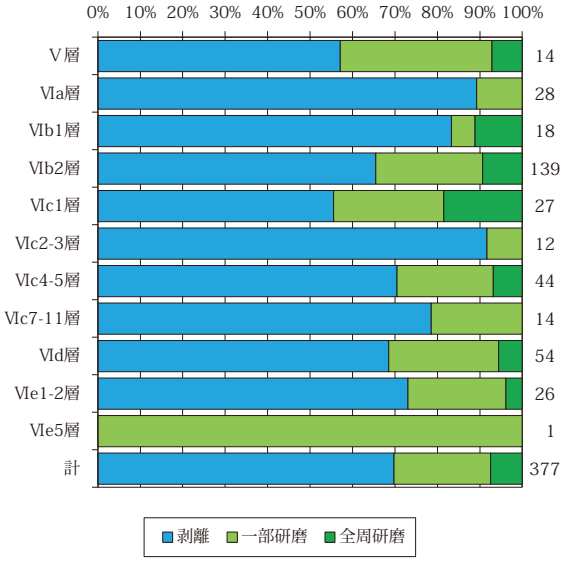
円盤状土製品は各層から出土しているが、時期のわかる装飾が残されたものには、入組三叉文や羊歯状文、雲形文、工字文、π字文がある。いずれも少なく、縄文のみが残されているものがほとんどである。平面形は、円形が70%以上を占めるが楕円形や多角形などの歪な形状を呈するものも一定量ある（第301図）。断面形は、平坦なものと、一部または全部が湾曲するものとほぼ同じ割合であるが、Ⅵc層以上で時期が新しくなるにつれて、全部が湾曲するものの割合が緩やかに大きくなる傾向が見られる（第302図）。成形方法は、約70%で剥離のみによる成形であり、Ⅵe層からⅥb2層のおおむね晩期中葉から末葉の時期にはその割合に大きな変化は見られない。Ⅵb1層以上、すなわち晩期末葉から弥生時代前期中葉の時期になると、剥離のみによる成形の割合がさら



第301図　円盤状土製品の平面形（層位別）



第302図　円盤状土製品の断面形（層位別）



第303図　円盤状土製品の成形方法（層位別）

に増加する傾向が見られる（第 303 図）。

なお、東 C 丘陵西端部では円盤状土製品に赤～黒色を呈する物質が付着するものが確認され、奈良文化財研究所の高妻洋成氏らの分析により、アスファルトと推定された（赤田・高妻　2014）。今回の調査でも、7 点で確認している。ただし、全体の 1% のみであるため、アスファルトの付着は一般的な事例ではなく、特殊な用途に用いられた場合の痕跡と推察される。

2. 石器・石製品

石器・石製品は、平成 22 年度調査区全体で 6,569 点出土している（第 22・23 表、石材および自然石（奇石）を除く）。これらのうち、東 C･D 丘陵間遺物包含層からは、Ⅴ層出土のものを含めて 5,292 点出土している（第 24 表）。

これらについて、各器種の特徴をもとにそれぞれ形態や製作･使用状況により類型化を行い、東 C･D 丘陵間遺物包含層から出土した石器・石製品を対象に、本遺跡における石材の獲得から石器・石製品の製作・使用に至る過程を考察するとともに、これらの時間的な変化を捉える。

（1）各器種の出土状況

東 C・D 丘陵間遺物包含層からは、石鏃、尖頭器、石錐、石匙、石篦、打製石斧、磨製石斧、石庖丁様石器（未成品）、楔形石器、不定形石器、石皿、磨石、凹石、砥石、敲石に分類されるトゥールと、剥片・砕片、石核を含めた石器が 5,189 点、また、円盤状石製品、石錘、石冠、独鈷石、石棒、石刀、サメ歯状石製品、異形石器、垂飾、勾玉、臼玉、小玉、岩版、線刻礫、有孔石製品に分類される石製品が 103 点出土している。これらのうち類型化を行ったものについて器種や類型別の出土状況について以下に述べる（第 25 表）。

①石器

石鏃は、本調査で 204 点出土し、そのうち東 C・D 丘陵間遺物包含層からは 180 点出土している。石鏃は点数が多いため、次項で詳細な分析を行う。

尖頭器は、本調査で 28 点出土し、そのうち東 C・D 丘陵間遺物包含層からは 20 点出土している。本包含層出土のものでは、基部が突出するⅠ類（凸基）が多く出土し、なかでも茎を作出しないⅠb1 類が最も多く見られる。

石錐は、本調査で 100 点出土し、そのうち東 C・D 丘陵間遺物包含層からは 85 点出土している。本包含層出土のものでは、尖頭部が一端のみで「つまみ部」をもつⅡ類が多く出土しており、なかでも、つまみ部を有するものの錐部との境界が不明瞭なⅡｂ類が特に多く見られる。

石匙は、本調査で 35 点出土し、そのうち東 C・D 丘陵間遺物包含層からは 29 点出土している。本包含層出土のものでは、Ⅰ類（縦型）とⅡ類（横型）で出土状況に大きな差異は見られない。これらを細分した類型では、横型で先端部が直線的になるⅡａ類が最も多い。

石篦は、本調査で 27 点出土し、そのうち東 C・D 丘陵間遺物包含層からは 22 点出土している。本

包含層出土のものでは器体が左右対称形となるⅠ類が多く出土し、なかでも、両側辺が直線的で刃部がやや開くⅠa1類が最も多い。

磨製石斧は、本調査で47点出土し、そのうち東C･D丘陵間遺物包含層からは25点出土している。本包含層出土のものでは、器体全面を敲打や研磨により成形するⅠ類が多く、なかでも基部の形状にかかわらず厚みをもつ1類が多く見られる。

楔形石器は、本調査で109点出土し、そのうち東C･D丘陵間遺物包含層からは91点出土している。本包含層出土のものでは、対になる2辺1組のみに両極剥離痕が観察されるⅠ類が多く、なかでも対になる2辺が線状と平坦面となるⅠａ類、2辺ともに線状となるⅠｂ類が特に多く見られる。

不定形石器は、本調査で318点出土し、そのうち東C・D丘陵間遺物包含層からは258点出土している。なお、不定形石器の詳細については次項で検討する。

礫石器は、本調査で552点出土し、石皿147点、磨石359点、凹石28点、砥石14点、敲石4点ある。そのうち東C・D丘陵間遺物包含層からは、石皿73点、磨石184点、凹石11点、砥石8点、敲石4点の計280点出土している。なお、礫石器の詳細については次項で検討する。

剥片、砕片および石核は、本調査で計4,973点出土し、剥片3,198点、砕片1,283点、石核492点ある。そのうち東C・D丘陵間遺物包含層からは、剥片2,653点、砕片1,195点、石核347点の計4,194点出土している。なお、剥片生産の様相については次項で検討する。

②石製品

石製品は、それぞれの器種の出土量が少量の場合が多くあり、一定量出土し類型化が有効であるものは円盤状石製品のみである。円盤状石製品は、本調査で52点出土し、そのうち東C・D丘陵間遺物包含層からは25点出土している。本包含層出土のものでは、縁辺がほぼ平坦または丸みをもつⅠ類が多く出土し、なかでも、おもに剥離によって成形されたⅠａ類が最も多い。

(2) 石材

①石材の獲得および選択

東C・D丘陵間遺物包含層から出土した石器・石製品の石材組成（第26～31表）をみると、剥片石器（石鏃・尖頭器・石錐・石匙・石篦・楔形石器・不定形石器）では、全体で珪質頁岩[註9]が最も多く用いられ、半数以上を占める。次に碧玉[註10]が多く用いられる。これらの他に、珪質凝灰岩[註11]や玉髄もやや多く利用される。磨製石斧では、緑色凝灰岩や凝灰質泥岩といった特定の石材に偏る傾向が見られる。礫石器では、安山岩が最も多く用いられ、ほかにデイサイトや凝灰岩、安山岩質凝灰岩が多く用いられる。剥片・砕片および石核では珪質頁岩が最も多く用いられ、半数近くを占める。次に碧玉が多く用いられる。石製品では、器種により石材の選択が異なり、円盤状石製品では凝灰岩と安山岩、石棒・石刀では粘板岩、玉類では凝灰質砂岩が多く利用されるなど、器種と石材の関係性が大きい。

ここで、器種別の石材組成を見ると（第304・305図）、剥片石器では器種により利用される石材の

第22表　各地点における石器・石製品の層位別出土状況（1）

地点	層位	石鏃	尖頭器	石錐	石匙	石篦	打製石斧	磨製石斧	石庖丁様石器	楔形石器	不定形石器	石皿	磨石	凹石	砥石	敲石	剥片	砕片	石核	石器計
東C南	表土ほか										1						3			4
	V											2					7		1	10
	1層群		1			1		5			2	2	6				23	1	8	49
	2層群	1		1	1	2		2		1	2	10	18	2	1		38	1	21	101
	遺構											1					2			3
	計	1	1	1	1	3		7		1	5	15	24	2	1		73	2	30	167
東C-D1	表土ほか										2		1				9	1		13
	V	1						1		1		1					3		1	8
	確認面	4		1	1					2	1	5	2	2			52	5	12	87
	Ⅵ							1			2	2	4				16		6	31
	Ⅵd	8	3	3	4	1		1		6	18	12	23	3	4		144	13	26	269
	Ⅵe	1		1	1	1		1		1	4	3	2				6		3	24
	Ⅵe3			1							1	1					5		1	9
	Ⅵe5	1	1	1							2						2		2	9
	遺構	2					1	5		1	5	5	13		2		37	2	9	82
	計	17	4	7	6	2	1	9		11	35	29	45	5	6		274	21	60	532
東C-D2	表土ほか			1							2		1							4
	Vb		1																	1
	Ⅵb2	9		4		1		4		5	15	2	13			1	150	10	21	235
	Ⅵd	10	3	2	4	1				13	24	5	11	1			231	73	49	427
	Ⅵe1										2						12	2	3	19
	Ⅵe2	8		3	1			2		5	11		12				84	3	16	145
	Ⅵe3	5						1		2	2	4	5	1			37	4	5	66
	Ⅵe5																1			1
	計	32	4	10	5	2		7		25	56	11	42	2		1	515	92	94	898
東C-D3	表土ほか	1								1		1					2		3	8
	Vc	1	1	1		1				3	11		2				54	9	11	94
	風倒木痕										1							1		2
	Ⅵ												1				4			5
	Ⅵa	9	2	8	4	2	1	2	1	7	19	8	15		1		210	80	31	400
	Ⅵb1	6	2	4		3		1		4	11	2	9				155	52	21	270
	Ⅵb2	40	4	17	9	3	1	4		13	39	7	29	2	2		507	81	50	808
	Ⅵc	3				1				1	2	2	2				14		1	26
	Ⅵc1	20		6		2		2		9	14	7	12			1	212	97	19	401
	Ⅵc2	2		4		1				1	5		4			1	48	59	3	128
	Ⅵc3	12	2	13	1	1		1		8	24		11	1			236	303	17	630
	Ⅵc4	29	1	10	2	3	1	2		7	33	11	20	3	1		361	308	42	834
	Ⅵc5	1								2	4						23	49		79
	Ⅵc6										1						9	21	1	32
	Ⅵc7	10		4	2	1		2		2	11	5	7			1	94	29	13	181
	Ⅵd	3		2	1					1	1	1	1				19		5	34
	Ⅵe1										2						6	2		10
	Ⅵe2	1		1									1				7			10
	遺構																2		1	3
	計	138	12	70	19	18	3	14	1	59	178	44	114	6	4	3	1963	1091	218	3955
東C-D不明	表土ほか	1	1	2							1		1				12			18
	確認面																2		2	4
	Ⅵ																2			2
	Ⅵd																1			1
	不明																			
	計	1	1	2							1		1				17		2	25
東D北	表土ほか										1		2				1			4
	V	4		2				2	1	6	12	11	32	2			89	5	28	194
	確認面						1									1				2
	1層群			2			2				3	6	21				12	1	7	54
	2A層群	8	5	5	2	1	1	6	1	6	19	20	46	5	1		169	13	43	351
	2B層群											2	1	1			14		3	21
	計	12	5	9	2	1	4	8	2	12	35	39	102	8	1	1	285	19	81	626
東D-E	表土ほか												1				1			2
	Ⅳ																2			2
	Ⅳa												1							1
	Ⅵ											1	2	3			4			10
	Ⅵa																2	2		4
	Ⅵb							1		1		1	5				8		1	17
	Ⅵc							1			1	1	1							4
	Ⅵd											1	1				1			3
	遺構	2	1		1						4	1	3				27	54		93
	計	2	1		1			2		1	5	5	14	3			45	56	1	136
東E北	表土ほか			1								1	1				2			5
	V											1								1
	Ⅵ												3				1		1	5
	Ⅵa					1					3	2	9		2		15	1	2	35
	Ⅵb	1															3			4
	計	1		1		1					3	4	13		2		21	1	3	50
その他	表土ほか																2			2
	確認面				1												1			2
	Ⅵ													1						1
	Ⅵa												3	1			2		2	8
	Ⅵb																	1	1	2
	計				1								3	2			5	1	3	15
総　計		204	28	100	35	27	8	47	3	109	318	147	358	28	14	5	3198	1283	492	6404

第23表　各地点における石器・石製品の層位別出土状況（2）

地点	層位	円盤状石製品	石錘	石冠	独鈷石	石棒	石刀	サメ歯状石製品	異形石器	垂飾	勾玉	臼玉	小玉	イモガイ形石製品	岩版	線刻礫	有孔石製品	不明石製品	石製品計	石材	自然石（奇石）	総計
東C南	表土ほか																					4
	V					1													1			11
	1層群				1														1			50
	2層群	7		1		1	2											1	12	1		114
	遺構																					3
	計	7		1	1	2	2											1	14	1		182
東C-D1	表土ほか																					13
	V														1				1			9
	確認面	1				1													2		1	90
	Ⅵ					1	1												2			33
	Ⅵd	2				3	2										2		9		1	279
	Ⅵe																			1		25
	Ⅵe3																					9
	Ⅵe5																					9
	遺構	3					1												4			86
	計	6				5	4								1		2		18	1	2	553
東C-D2	表土ほか																					4
	Vb																					1
	Ⅵb2	2				3	1			1									7	1		243
	Ⅵd					1	2	1								1			5			432
	Ⅵe1																					19
	Ⅵe2					1	2												3			148
	Ⅵe3																			1		67
	Ⅵe5																					1
	計	2				5	5	1		1						1			15	2		915
東C-D3	表土ほか																					8
	Vc					1													1			95
	風倒木痕																					2
	Ⅵ																			1		6
	Ⅵa	1				1	7								1	1			11			411
	Ⅵb1				1	4													5			275
	Ⅵb2	7	1	1	1	1	6		1				1						19			827
	Ⅵc					1													1			27
	Ⅵc1					1							1						2			403
	Ⅵc2	1				1													2			130
	Ⅵc3		1				3						4			1			9		1	640
	Ⅵc4	8				1	2						3			1			15			849
	Ⅵc5																					79
	Ⅵc6	1																	1			33
	Ⅵc7	3			1	2	1				1	1							9		1	191
	Ⅵd																					34
	Ⅵe1																					10
	Ⅵe2						1												1			11
	遺構																					3
	計	21	2	1	3	13	20		1		1	1	9		1	3			76	1	2	4034
東C-D不明	表土ほか	1																	1			19
	確認面																					4
	Ⅵ																					2
	Ⅵd																					1
	不明																1		1			1
	計	1															1		2			27
東D北	表土ほか																					4
	V	4				4	2												10			204
	確認面	1																	1			3
	1層群	4					2												6	1		61
	2A層群	5		2		5	7							1				1	21			372
	2B層群						1												1			22
	計	14		2		9	12							1				1	39	1		666
東D-E	表土ほか																					2
	Ⅳ	1																	1	1		4
	Ⅳa																					1
	Ⅵ																			1		11
	Ⅵa																					4
	Ⅵb																			1		18
	Ⅵc																					4
	Ⅵd																			1		4
	遺構																					93
	計	1																	1	4		141
東E北	表土ほか																					5
	V																					1
	Ⅵ																					5
	Ⅵa																				1	36
	Ⅵb																					4
	計																				1	51
その他	表土ほか																					2
	確認面																					2
	Ⅵ																					1
	Ⅵa																			1		9
	Ⅵb																			1		3
	計																			2		17
総　計		52	2	4	4	34	43	1	1	1	1	1	9	1	2	4	3	2	165	12	5	6586

第24表　東C・D丘陵間遺物包含層　石器・石製品　層位別出土状況

層位	石鏃	尖頭器	石錐	石匙	石篦	打製石斧	磨製石斧	石庖丁様石器	楔形石器	不定形石器	石皿	磨石	凹石	砥石	敲石	剥片	砕片	石核	石器計	円盤状石製品	石錘	石冠	独鈷石	石棒	石刀	サメ歯状石製品	異形石器	垂飾	勾玉	臼玉	小玉	岩版	線刻礫	有孔石製品	石製品計	総計
Ⅴ	2	2	1		1		1		4	11	1	2				57	9	12	103					1							1			2	105
Ⅵa	9	2	8	4	2	1	2	1	7	19	8	16		1		214	80	31	405	1				1	7						1	1		11	416
Ⅵb1	6	2	4		3		1		4	11	2	9				155	52	21	270				1	4										5	275
Ⅵb2	49	4	21	9	4	1	8		18	54	9	42	2	2	1	657	91	71	1043	9	1	1	1	4	7		1	1		1				26	1069
Ⅵc1	23		6		3		2		10	16	9	14			1	226	97	20	427					2						1				3	430
Ⅵc2	2		4		1				1	5		4			1	48	59	3	128	1				1										2	130
Ⅵc3	12	2	13	1	1		1		8	24		11	1			236	303	17	630		1				3					4		1		9	639
Ⅵc4	29	1	10	2	3	1	2		7	33	11	20	3	1		361	308	42	834	8				1	2					3		1		15	849
Ⅵc5	1								2	4						23	49		79																79
Ⅵc6										1						9	21	1	32	1														1	33
Ⅵc7	10		4	2	1		2		2	11	5	7			1	94	29	13	181	3			1	2	1				1	1				9	190
Ⅵd	21	6	7	9	2		2		20	45	20	39	4	4		411	86	86	762	2				5	5	1						1	2	16	778
Ⅵe1										4						18	4	3	29																29
Ⅵe2	9		4	1			2		5	11		13				91	3	16	155					1	3									4	159
Ⅵe3	6		2	1	1		2		3	7	8	7	1			48	4	9	99																99
Ⅵe5	1	1	1							2						3		2	10																10
Ⅵ（不明）																2			2																2
計	180	20	85	29	22	3	25	1	91	258	73	184	11	8	4	2653	1195	347	5189	25	2	1	3	22	28	1	1	1	1	1	9	2	4	2	103	5292

あり方が異なる。本包含層で主要な石材である珪質頁岩は、石匙で 70% 以上、不定形石器や石錐で 60% 程度を占めるのに対し、石鏃では 40% 未満、楔形石器では 50% 未満の割合となる。珪質頁岩に代わって、石鏃では碧玉Ｂ類や珪質凝灰岩、楔形石器では碧玉Ｂ類や黒曜石が、ほかの器種に比べてその割合が大きくなる傾向が見られる。剥片類や石核の石材組成では、珪質頁岩の割合が 50% 以下で、碧玉Ｂ類や珪質凝灰岩の占める割合がほかの器種と比べてやや大きくなる傾向が見られることから、楔形石器や石鏃の石材組成にやや近い。これはすなわち、剥片生産とこれらの器種の製作には親和性があると言える。一方で、珪質頁岩の割合が大きい器種であっても、珪質頁岩以外の利用石材の種類や組成に大きな差異は認められないことから、遺跡内における剥片生産との関係性があるものとみられる。ただし、珪質頁岩への依存度は大きく、ここに石材の選択性を見ることが可能である。このような石材の選択性は、縄文時代晩期の大和町摺萩遺跡第１遺物包含層や気仙沼市田柄貝塚、蔵王町鍛冶沢遺跡においてもみられ、いずれも石匙で頁岩の割合が大きく、石鏃や尖頭器でその割合が小さくなるという指摘があり（宮城県教育委員会　1990a・2010a）、本遺跡においても東Ｃ丘陵西端部でその傾向を指摘している（宮城県教育委員会　2014）。

器種による石材の選択性はあるものの、剥片石器では珪質頁岩が最も多く用いられている。珪質頁岩は、宮城県域でも採取できないことはないが、量的な確保は難しいとみられる（須田・須田 2000）。したがって、珪質頁岩の多くは出土量が豊富な日本海側（秦　2018）から持ち込まれたものと推定される。一方で、珪質凝灰岩や碧玉、玉髄などは宮城県域で十分に採取可能であり、遠隔地の石材と近傍の石材を組み合わせて利用していたものとみられる。

また、本遺跡では黒曜石製石器が一定量出土していることから、これらの産地推定を実施した（分析編第 16 章）。結果、これらのほとんどが湯ノ倉産と推定され、ほかの産地のものはごくわずかであった。本遺跡では、黒曜石は石鏃などの小型の遺物に多く用いられている。このことは、獲得できる黒曜石原石の大きさに起因するものとみられる。大型石器の製作にあたって黒曜石は必ずしも必要なものではなかったとみられ、遠隔地の良質なものを求める必要はなく、近傍の小型のもので十分に対応

第 25 表　東 C・D 丘陵間遺物包含層　石器・石製品　類型別出現頻度

石鏃	Ⅰ	Ⅰ B	Ⅰ a	Ⅰ a1A	Ⅰ a1B	Ⅰ a1C	Ⅰ a2A	Ⅰ a2B	Ⅰ a2C	Ⅰ b	Ⅰ b1	Ⅰ b1A	Ⅰ b1B	Ⅰ b1C	Ⅰ b2A	Ⅰ b2B	Ⅰ b2C	Ⅰ bB	Ⅰ c1	Ⅰ c1A	Ⅰ c1B	Ⅰ c2	Ⅱ A	Ⅲ A	Ⅳ b	Ⅳ bA	Ⅳ bB	Ⅴ	不明	計
Ⅴ層					1																						1		2
Ⅵ a 層					1	2	1					2	1							1							1		9
Ⅵ b1 層						2						1	3																6
Ⅵ b2 層			1	3	11	6		1	2			3	1	2			1	1		1	4					2	2	8		49
Ⅵ c1 層				2	5				3			1	3	1	1	1			1	1			1			1		1	1	23
Ⅵ c2 層												1																1		2
Ⅵ c3 層				1	2	2		1				2		1							1			1			1			12
Ⅵ c4 層	4	1			3	5			1				1	2		1	1						1	1			1	5	2	29
Ⅵ c5 層							1																						1
Ⅵ c6 層																													
Ⅵ c7 層				1	4	1								2							1				1				10
Ⅵ d 層				1	2	3		1				3	1		1	1			2	1	1					1	2	1	21
Ⅵ e1 層																													
Ⅵ e2 層					1	2	1		1	1		1			1												1		9
Ⅵ e3 層				1	2						1	1															1		6
Ⅵ e5 層						1																							1
計	4	1	1	9	32	24	3	3	7	1	1	15	10	8	3	3	2	1	1	4	8	1	2	2	1	3	4	22	4	180

尖頭器	Ⅰ b1	Ⅰ b1A	Ⅰ b2	Ⅰ b2A	Ⅳ	計
Ⅴ層					2	2
Ⅵ a 層	1		1			2
Ⅵ b1 層			2			2
Ⅵ b2 層	3				1	4
Ⅵ c1 層						
Ⅵ c2 層						
Ⅵ c3 層					2	2
Ⅵ c4 層					1	1
Ⅵ c5 層						
Ⅵ c6 層						
Ⅵ c7 層						
Ⅵ d 層	2	1		2	1	6
Ⅵ e1 層						
Ⅵ e2 層						
Ⅵ e3 層						
Ⅵ e5 層		1				1
計	6	2	3	2	7	20

石錐	Ⅰ a	Ⅰ b	Ⅱ	Ⅱ a	Ⅱ a1	Ⅱ a2	Ⅱ b	Ⅱ b1	Ⅱ b2	Ⅱ c1	Ⅱ c2	Ⅲ	不明	計
Ⅴ層						1								1
Ⅵ a 層	1			1			2		2		2			8
Ⅵ b1 層		1			1		1	1						4
Ⅵ b2 層	1	3		1	2		1	4	4	2	1	1	1	21
Ⅵ c1 層	2			1		1		1	1					6
Ⅵ c2 層			1					2	1					4
Ⅵ c3 層		1		1	2		1	2	2	2	1		1	13
Ⅵ c4 層		3		1		1			3		1		1	10
Ⅵ c5 層														
Ⅵ c6 層														
Ⅵ c7 層								1	2				1	4
Ⅵ d 層	1			1	2			1	1				1	7
Ⅵ e1 層														
Ⅵ e2 層		1				2			1					4
Ⅵ e3 層					1	1								2
Ⅵ e5 層													1	1
計	5	9	1	6	8	6	5	12	17	4	5	1	6	85

石匙	Ⅰ	Ⅰ a	Ⅰ a1	Ⅰ a2	Ⅰ b	Ⅱ a	Ⅱ b	Ⅲ	計
Ⅴ層									
Ⅵ a 層				2	1		1		4
Ⅵ b1 層									
Ⅵ b2 層		2	1	1		1	3	1	9
Ⅵ c1 層									
Ⅵ c2 層									
Ⅵ c3 層			1						1
Ⅵ c4 層								2	2
Ⅵ c5 層									
Ⅵ c6 層									
Ⅵ c7 層						2			2
Ⅵ d 層			2	1		2	4		9
Ⅵ e1 層									
Ⅵ e2 層							1		1
Ⅵ e3 層	1								1
Ⅵ e5 層									
計	1	2	4	4	1	5	9	3	29

石篦	Ⅰ	Ⅰ a1	Ⅰ c	Ⅱ	Ⅲ	不明	計
Ⅴ層						1	1
Ⅵ a 層		1				1	2
Ⅵ b1 層	1	1				1	3
Ⅵ b2 層		2			1	1	4
Ⅵ c1 層		1			2		3
Ⅵ c2 層			1				1
Ⅵ c3 層				1			1
Ⅵ c4 層		2				1	3
Ⅵ c5 層							
Ⅵ c6 層							
Ⅵ c7 層		1					1
Ⅵ d 層		1				1	2
Ⅵ e1 層							
Ⅵ e2 層							
Ⅵ e3 層						1	1
Ⅵ e5 層							
計	1	9	1	1	3	7	22

楔形石器	Ⅰ	Ⅰ a	Ⅰ b	Ⅰ c	Ⅰ d	Ⅰ e	Ⅱ	Ⅱ aa	Ⅱ ab	Ⅱ ac	Ⅱ bb	Ⅱ be	Ⅱ cd	Ⅱ dd	不明	計
Ⅴ層		1	2								1					4
Ⅵ a 層	1		2		1		1		1		1					7
Ⅵ b1 層		3	1													4
Ⅵ b2 層	2	5	7	1				1				1			1	18
Ⅵ c1 層	2		1		2	2	1				1	1				10
Ⅵ c2 層												1				1
Ⅵ c3 層		2	3			1				1			1			8
Ⅵ c4 層	1	1	2	1					1		1					7
Ⅵ c5 層	1								1							2
Ⅵ c6 層																
Ⅵ c7 層			1								1					2
Ⅵ d 層	2	6	8						1		2			1		20
Ⅵ e1 層																
Ⅵ e2 層		1	1		2							1				5
Ⅵ e3 層		1			2											3
Ⅵ e5 層																
計	9	20	28	2	7	3	2	1	4	1	7	4	1	1	1	91

磨製石斧	Ⅰ	Ⅰ a1	Ⅰ b1	Ⅰ b2	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ d	不明	計
Ⅴ層		1							1
Ⅵ a 層	1		1						2
Ⅵ b1 層			1						1
Ⅵ b2 層	5	2	1						8
Ⅵ c1 層			1			1			2
Ⅵ c2 層									
Ⅵ c3 層							1		1
Ⅵ c4 層		1						1	2
Ⅵ c5 層									
Ⅵ c6 層									
Ⅵ c7 層		1	1						2
Ⅵ d 層				1					1
Ⅵ e1 層									
Ⅵ e2 層	1					1			2
Ⅵ e3 層	1	1			1				3
Ⅵ e5 層									
計	8	6	5	1	1	2	1	1	25

不定形石器	Ⅰ	Ⅱ a	Ⅱ b	Ⅱ c	Ⅲ a	Ⅲ b	Ⅲ c	Ⅲ d	計
Ⅴ層	1						3	7	11
Ⅵ a 層	4	1		1		1	2	10	19
Ⅵ b1 層	1	1					2	7	11
Ⅵ b2 層	11	3	2	1	1	3	7	26	54
Ⅵ c1 層	3	1		1			4	7	16
Ⅵ c2 層		1						4	5
Ⅵ c3 層	3		1	3	1	2	3	11	24
Ⅵ c4 層	5				1	1	6	20	33
Ⅵ c5 層		1					2	1	4
Ⅵ c6 層								1	1
Ⅵ c7 層		1					3	7	11
Ⅵ d 層	4						9	30	43
Ⅵ e1 層							1	3	4
Ⅵ e2 層				2	1	2	1	5	11
Ⅵ e3 層	1						2	6	9
Ⅵ e5 層	1							1	2
計	34	9	3	8	4	9	45	146	258

円盤状石製品	Ⅰ a	Ⅰ b	Ⅱ	Ⅲ	計
Ⅴ層					
Ⅵ a 層				1	1
Ⅵ b1 層					
Ⅵ b2 層	3	3	2	1	9
Ⅵ c1 層					
Ⅵ c2 層	1				1
Ⅵ c3 層					
Ⅵ c4 層	4	1	3		8
Ⅵ c5 層					
Ⅵ c6 層	1				1
Ⅵ c7 層	1	2			3
Ⅵ d 層	1		1		2
Ⅵ e1 層					
Ⅵ e2 層					
Ⅵ e3 層					
Ⅵ e5 層					
計	11	6	6	2	25

第26表　東C・D丘陵間遺物包含層　層位別石材組成（剥片石器）

層位	珪質頁岩A	珪質頁岩B	頁岩	凝灰岩	珪質凝灰岩A	珪質凝灰岩B	碧玉A	碧玉B1	碧玉B2	碧玉C	碧玉D	玉髄	流紋岩	黒曜石	粘板岩	珪化木	計
Ⅴ	6				1	3	1	3	1	1		2	2	1			21
Ⅵa	24		1			4		9	3	5			2	3			51
Ⅵb1	12				1	4	1	5		1	1	1		3		1	30
Ⅵb2	91			3	4	9	2	21	6	6	1	11	2	2	1		159
Ⅵc1	20			1	2	4	2	11	3	11	1	2		1			58
Ⅵc2	7					2		2						2			13
Ⅵc3	33	1		1	1	3	3	5	2	3		6	2	1			61
Ⅵc4	49				2	5	2	19	2	1		5					85
Ⅵc5	4					1	2										7
Ⅵc6	1																1
Ⅵc7	12				1	2		5	3	3		3		1			30
Ⅵd	50	5				13	11	14	2	3	4	5	1	2			110
Ⅵe1	3								1								4
Ⅵe2	19					3	1	3	1		1	1	1				30
Ⅵe3	15					2	2	1									20
Ⅵe5	1					1		1	1			1					5
計	347	6	1	5	12	56	27	99	25	34	8	37	10	16	1	1	685

第27表　東C・D丘陵間遺物包含層　層位別石材組成（礫石器）

層位	珪質頁岩A	頁岩	凝灰質頁岩	珪質凝灰岩B	凝灰岩	緑色凝灰岩	安山岩質凝灰岩	デイサイト質凝灰岩	碧玉B1	流紋岩	黒曜岩質流紋岩	真珠岩	粘板岩	玄武岩	安山岩	玄武岩質安山岩	デイサイト	石英	ホルンフェルス	花崗岩	片状花崗岩	軽石	泥岩	凝灰質泥岩	凝灰質砂岩	砂岩	計
Ⅴ										1						1			1								3
Ⅵa					4								1	3	10	3	1		2	1							25
Ⅵb1				1	1		1							1	2	2	3										11
Ⅵb2					5	1	5	1	1		1		2	4	18	8	6		3					1			56
Ⅵc1		1		1	2	1	4							6	3	2	1		2					1			24
Ⅵc2						1								1	2		1										5
Ⅵc3					1		3	1							3		1					1		1		1	12
Ⅵc4		1			5		6			1					11	1	7		1			2					35
Ⅵc7					4									2	3	1		1				1				1	13
Ⅵd		2	1		7	1	9				1		2	2	19	1	8		3		1	2	1			7	67
Ⅵe2	2				1		2	1							4	1	1		1								13
Ⅵe3					2			2				1		1	4		4					1			1		16
計	2	4	1	2	32	4	30	5	1	2	2	1	5	20	79	20	33	1	13	1	1	7	1	3	1	9	280

できたと言えよう。

黒曜石の産地推定ではそのほとんどが宮城県内の湯ノ倉産とされたものの、日本海側の月山産のものもわずかに見られる。黒曜石以外では、磨製石斧で緑閃石ネフライト～普通角閃石岩が用いられており、新潟県糸魚川－青海地域で産出されるネフライトに類似する石材である（分析編第15章）。また、本遺跡では東C丘陵西端部でネフライト製磨製石斧が出土している（飯塚・小野　2020）。さらに、勾玉で緑色石英質岩が用いられており、これは山形県材木遺跡で多く採集されている玉類製作に伴う剥片類と同じ石材とみられる（分析編第15章、三澤　2020）。日本海側からの石材の移動は、剥片石器で最も多く用いられる珪質頁岩の量が目立つが、希少石材においても複数の種類でその移動が認められる。

②石材利用の変化

出土量の多い各器種の層位別の石材組成（第30・31表、第304・305図）から、複数の器種で石材利用の変化を見ることができる。

剥片石器では、石鏃は、Ⅵd層以上になるとⅥe層と比べて珪質頁岩の割合がやや小さくなる傾

第28表　東C・D丘陵間遺物包含層　層位別石材組成（剥片・砕片・石核）　点数

層位	珪質頁岩A	珪質頁岩B	頁岩	凝灰質頁岩	珪質凝灰岩A	珪質凝灰岩B	凝灰岩	安山岩質凝灰岩	碧玉A	碧玉B1	碧玉B2	碧玉C	碧玉D	玉髄	流紋岩	黒曜石	粘板岩	千枚岩	玄武岩	安山岩	石英	ホルンフェルス	珪化木	泥岩	凝灰質シルト岩	計
Ⅴ	28	1	1		1	6			6	17	3	7	4	2		1							1			78
Ⅵa	121	13	6		12	18	3		12	41	15	29	7	19	4	22	3									325
Ⅵb1	76	6	3		9	14	2		12	49	9	14	2	13	3	14	1					1				228
Ⅵb2	363	13	12		11	46	6		37	159	26	54	16	40	7	19	5		1	1			3			819
Ⅵc1	115	4	6	1	22	15	2		14	74	15	39	6	12	2	9	3						4			343
Ⅵc2	52	1	1		1	9	1		9	11	3	9	5	4		2	1						1			110
Ⅵc3	303	2	8		12	23	4	1	23	90	8	32	2	27	1	8	8	1			1	1	1			556
Ⅵc4	410	2	6		16	45	3		25	99	12	37	8	29	3	5	5						2	2	2	711
Ⅵc5	46				3	3			4	11		3	1			1										72
Ⅵc6	15		1		1	4			4	1	1	3					1									31
Ⅵc7	58		2		2	15	2	1	6	14	8	5		20	1		1				1					136
Ⅵd	283	6	10		14	27	10	1	46	90	10	29	8	30	4	11	3					1				583
Ⅵe1	12					1	1		1	3	1	3		3												25
Ⅵe2	70	1	1		1	6	1		2	12	3	5	1	2		4			1							110
Ⅵe3	39	1	1			4	1		2	4		3	1	4									1			61
Ⅵe5	3		1											1												5
計	1994	50	59	1	105	236	36	3	203	675	114	272	61	206	25	96	31	1	2	1	2	3	13	2	2	4193

第29表　東C・D丘陵間遺物包含層　層位別石材組成（剥片・砕片・石核）　重量（g）

層位	珪質頁岩A	珪質頁岩B	頁岩	凝灰質頁岩	珪質凝灰岩A	珪質凝灰岩B	凝灰岩	安山岩質凝灰岩	碧玉A	碧玉B1	碧玉B2	碧玉C	碧玉D	玉髄	流紋岩	黒曜石	粘板岩	千枚岩	玄武岩	安山岩	石英	ホルンフェルス	珪化木	泥岩	凝灰質シルト岩	計
Ⅴ	134.9	2.2	311.6		2.3	44.7			25.2	31.8	11.6	16.7	23.2	4.3		4.0							2.7			615.0
Ⅵa	438.0	67.6	336.3		30.8	95.7	39.4		52.8	115.9	67.1	166.8	27.5	77.1	42.0	27.4	0.3									1584.5
Ⅵb1	191.5	22.0	16.7		26.2	84.4	5.8		62.5	153.7	33.7	21.5	1.4	16.9	30.4	20.7	0.0					0.2				687.6
Ⅵb2	1463.5	62.5	203.3		23.4	246.6	60.7		163.1	471.6	79.7	236.2	137.9	164.0	144.5	111.6	1.6		7.4	15.4			15.2			3608.3
Ⅵc1	342.9	9.1	60.6	56.9	55.8	22.0	3.8		41.1	149.6	34.4	59.3	24.4	30.1	11.3	25.0	0.7						5.9			932.9
Ⅵc2	46.0	0.3	0.7		6.2	1.7	28.1		0.9	14.9	11.6	12.9	20.4	6.5		0.2	69.3						0.5			220.4
Ⅵc3	345.0	5.8	19.0		15.7	47.9	31.5	0.4	27.5	211.3	17.3	88.4	0.5	40.7	33.1	40.5	3.2	0.1			0.3	7.2	0.0			935.1
Ⅵc4	1156.7	33.5	221.9		15.5	140.8	10.2		18.8	186.8	82.5	252.1	33.3	63.1	64.7	6.7	2.3						39.3	14.7	47.7	2390.7
Ⅵc5	20.4				0.8	0.3			5.8	6.9		0.3	0.5			0.3										35.2
Ⅵc6	3.0		0.3		0.1	0.2			4.5	4.8	1.0	5.7					0.4									19.7
Ⅵc7	285.3		46.3		1.2	15.3	21.6	18.8	8.8	38.0	86.6	19.3		60.5	12.3		2.9				11.8					628.6
Ⅵd	1628.8	48.6	429.4		126.4	129.7	62.1	5.7	227.0	358.4	30.9	321.7	18.5	105.7	22.1	173.4	2.6					3.6				3694.6
Ⅵe1	56.2					0.1	0.2		1.5	5.1	0.6	5.7		17.4												86.7
Ⅵe2	345.5	0.5	3.6		1.0	14.3	7.0		7.3	35.2	12.0	19.8	0.5	5.1		10.4			2.2							464.4
Ⅵe3	171.7	17.9	69.3			55.4	2.8		15.6	9.4		3.6	5.6	107.9									7.6			466.7
Ⅵe5	17.5		10.7											21.8												50.0
計	6646.7	270.0	1729.7	56.9	305.5	899.1	273.1	24.9	662.2	1793.3	469.0	1229.8	293.8	720.9	360.3	420.1	83.3	0.1	9.6	15.4	12.1	10.9	71.2	14.7	47.7	16420.5

向が見られる。この傾向は、不定形石器や剥片・砕片・石核でも類似する傾向である。楔形石器では、碧玉Ｂ類がⅥc1層以上、黒曜石がⅥb1層以上でそれぞれほかの層と比べて割合が大きくなる。特に碧玉の割合の増大は、東Ｃ丘陵西端部においても同様の指摘がある（宮城県教育委員会　2014）。

礫石器では、凝灰岩や安山岩、デイサイト、玄武岩が多く利用される石材であるが、Ⅵb2層以上で凝灰岩の割合がやや小さくなり､安山岩をはじめとする火成岩の割合が大きくなる傾向が見られる。

剥片および石核では、最も多く利用される珪質頁岩に着目すると、点数比および重量比いずれにおいても上層になるにつれて珪質頁岩の割合が緩やかに小さくなる。これに代わって、碧玉Ｂ類や黒曜石の割合が上層になるにつれて大きくなる傾向が見られる。この傾向は石鏃や楔形石器において部分的に見られるものである。本遺跡においては、東Ｃ丘陵西端部で同様の傾向が見られ、その理由を時期差としている（宮城県教育委員会　2014）。また、県内では蔵王町鍛冶沢遺跡で同様の傾向が認められる（宮城県教育委員会　2010a）。

第30表　東C・D丘陵間遺物包含層　器種別石材組成（1）

器　種	層位	珪質頁岩	その他頁岩	珪質凝灰岩	その他凝灰岩	碧玉B	碧玉C	その他碧玉	玉髄	流紋岩	黒曜石	粘板岩	玄武岩	安山岩	デイサイト	その他石材	計
石鏃	Ⅴ	1							1								2
	Ⅵa	3		1		3	1			1							9
	Ⅵb1	2		1		1		1	1								6
	Ⅵb2	19		7	1	13	3	1	4		1						49
	Ⅵc1	3		4		7	5	2	2								23
	Ⅵc2-3	5				3	1	2	2		1						14
	Ⅵc4-5	11		3		10	1	2	3								30
	Ⅵc7	4				4	2										10
	Ⅵd	8		3		5		4	1								21
	Ⅵe2	5		1		2		1									9
	Ⅵe3	4		1		1											6
	Ⅵe5					1											1
	計	65		21	1	50	13	13	14	1	2						180
尖頭器	計	11		1		2	1	2	2		1						20
石錐	Ⅴ						1										1
	Ⅵa	3	1			2	2										8
	Ⅵb1	2				1		1									4
	Ⅵb2	14			1	1		1	4								21
	Ⅵc1	5				1											6
	Ⅵc2-3	10		2		2		1	2								17
	Ⅵc4	5		2		3											10
	Ⅵc7	1		2		1											4
	Ⅵd	4		1		1		1									7
	Ⅵe2	3				1											4
	Ⅵe3	2															2
	Ⅵe5	1															1
	計	50	1	7	1	13	3	4	6								85
石匙	計	21		1		3	1	1	1	1							29
石篦	計	12		1	2	4	1		1							1	22
打製石斧	計			1								2					3
磨製石斧	計				11									1		13	25
石庖丁様石器	計											1					1
楔形石器	Ⅴ	1		1		1					1						4
	Ⅵa	2		2		1					2						7
	Ⅵb1	2				1					1						4
	Ⅵb2	9		1		4	1		2	1							18
	Ⅵc1	3		1		4	2										10
	Ⅵc2-3	8									1						9
	Ⅵc4-5	4		1		2		1	1								9
	Ⅵc7					1	1										2
	Ⅵd	9		3		2	1	2	2		1						20
	Ⅵe2	2				1		1	1								5
	Ⅵe3	2						1									3
	計	42		9		17	5	5	6	1	6						91
不定形石器	Ⅴ	3		2		3		1		2							11
	Ⅵa	12		1		3	1			1	1						19
	Ⅵb1	5		4			1				1						11
	Ⅵb2	36		5		7	1	1	1	1	1	1					54
	Ⅵc1	9				2	3	1			1						16
	Ⅵc2-3	14		4	1	4	2		1	2	1						29
	Ⅵc4-6	28		2		6		1	1								38
	Ⅵc7	5		1		2			2		1						11
	Ⅵd	24		5		7	2	5	1		1						45
	Ⅵe1-2	11		2		1				1							15
	Ⅵe3	5		1				1									7
	Ⅵe5			1					1								2
	計	152		28	1	35	10	10	7	7	7	1					258
石皿	Ⅴ															1	1
	Ⅵa				1								2	4	1		8
	Ⅵb1												1		1		2
	Ⅵb2				1								2	5		1	9
	Ⅵc1		1		2								3	1		2	9
	Ⅵc4		1		5					1				1	3		11
	Ⅵc7				2								2			1	5
	Ⅵd				3							2	2	4	2	7	20
	Ⅵe3				1					1			1	1	3	1	8
	計		2		15					2		2	13	16	10	13	73
磨石類	Ⅴ									1				1			2
	Ⅵa				3							1	1	9		3	17
	Ⅵb1			1	2									4	2		9
	Ⅵb2				11	1				1		2	2	21	6	3	47
	Ⅵc1			1	5								3	4	1	1	15
	Ⅵc2-3				6								1	5	2	3	17
	Ⅵc4				6									11	4	3	24
	Ⅵc7				2									4		2	8
	Ⅵd		3		14					1				16	6	7	47
	Ⅵe2	2			4									5	1	1	13
	Ⅵe3				3									3	1	1	8
	計	2	3	2	56	1				3		3	7	83	23	24	207

第31表　東C・D丘陵間遺物包含層　器種別石材組成（2）

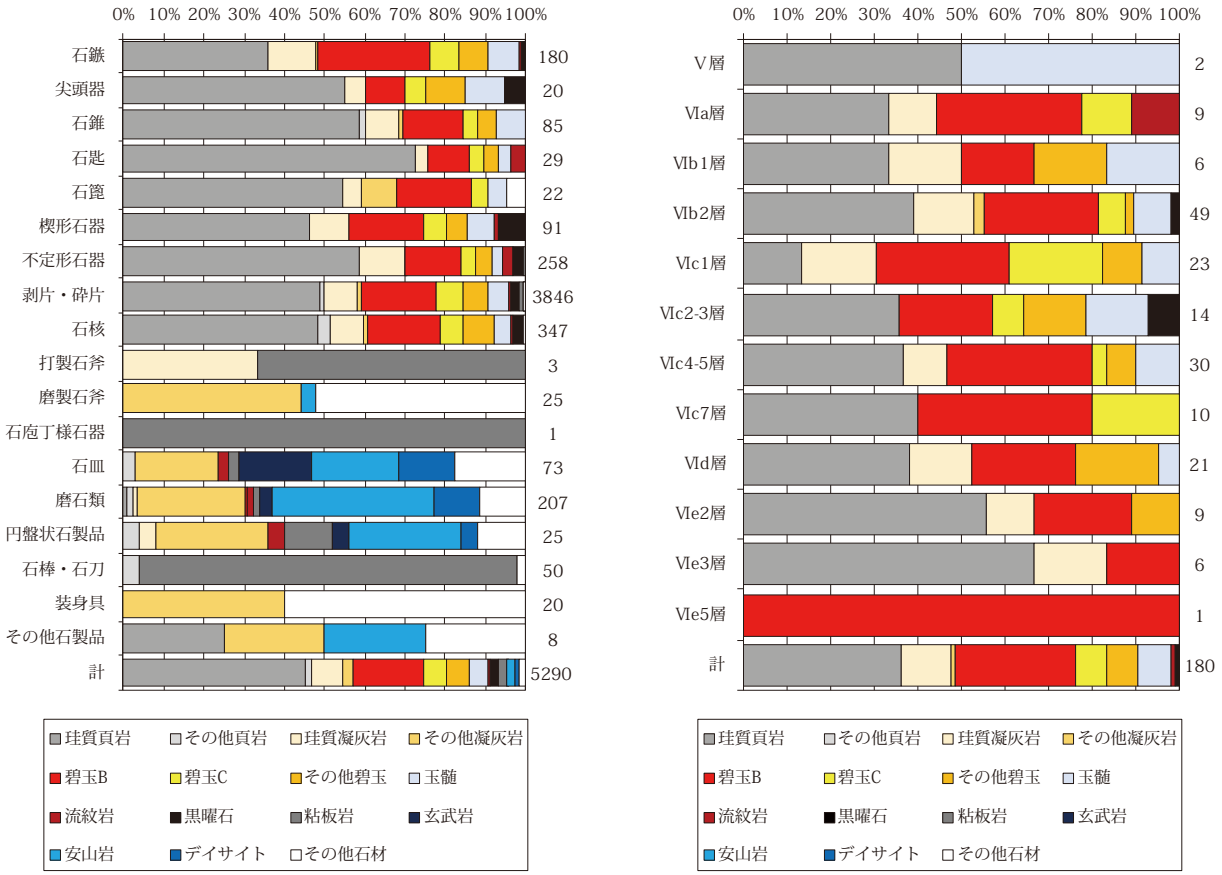
器　種	層位	珪質頁岩	その他頁岩	珪質凝灰岩	その他凝灰岩	碧玉 B	碧玉 C	その他碧玉	玉髄	流紋岩	黒曜石	粘板岩	玄武岩	安山岩	デイサイト	その他石材	計
剥片・砕片	V	25		4		18	6	9	2		1					1	66
	Ⅵa	122	5	28	3	48	26	17	18	3	21	3					294
	Ⅵb1	75	2	18	2	53	14	11	13	3	14	1				1	207
	Ⅵb2	346	10	54	6	168	47	48	38	6	16	5	1	1		2	748
	Ⅵc1	107	6	33	2	87	39	19	12	2	9	3				4	323
	Ⅵc2-3	354	7	43	5	108	39	37	30	1	8	9				5	646
	Ⅵc4-6	454	6	69	3	114	40	39	27	3	5	6				5	771
	Ⅵc7	51	1	17	2	19	5	6	19	1		1				1	123
	Ⅵd	241	8	35	10	91	24	46	25	4	9	3				1	497
	Ⅵe1-2	67	1	8	2	16	8	4	5		4		1				116
	Ⅵe3	33	1	4	1	4	3	2	3							1	52
	Ⅵe5	2	1														3
	計	1877	48	313	36	726	251	238	192	23	87	31	2	1		21	3846
石核	V	4	1	3		2	1	1									12
	Ⅵa	12	1	2		8	3	2	1	1	1						31
	Ⅵb1	7	1	5		5		3									21
	Ⅵb2	30	2	3		17	7	5	2	1	3					1	71
	Ⅵc1	12	1	4		2		1									20
	Ⅵc2-3	4	2	2	1	4	2	2	1		2						20
	Ⅵc4-6	19	1	3		10	3	3	2		1					1	43
	Ⅵc7	7	1		1	3			1								13
	Ⅵd	48	2	6	1	9	5	8	5		2						86
	Ⅵe1-2	16				3											19
	Ⅵe3	7						1	1								9
	Ⅵe5	1							1								2
	計	167	12	28	3	63	21	26	14	2	9					2	347
円盤状石製品	計		1	1	7					1		3	1	7	1	3	25
石錘	計				2												2
石冠	計															1	1
独鈷石	計													2		1	3
石棒・石刀	計		2									47				1	50
サメ歯状石製品	計	1															1
異形石器	計	1															1
垂飾	計				1												1
玉類	計															11	11
岩版	計				2												2
線刻礫	計				4												4
有孔石製品	計				1											1	2
総　計		2401	69	413	143	914	306	299	243	41	112	90	23	110	34	92	5290

（3）素材剥片の生産

本遺跡における素材剥片の生産について、東 C 丘陵西端部の遺物包含層に含まれていた自然石の分析から、遺跡内には剥片石器の主要石材の供給源はなく、石器石材のほとんどが遺跡外から原石もしくはそれに近い状態で搬入され、遺跡内において剥片生産が行われたものと考える（宮城県教育委員会　2014）。この現象は、地点の差異による変化が小さいものと判断されるため、本包含層においても同様に、主要な石器石材は遺跡外から搬入されたものとみられる。また、剥片類や石核に自然面が残されたものは、剥片の重量比で 54.9%、石核の点数比で 45.8%、重量比で 68.4% あることから、原石もしくはそれに近い形状で搬入された可能性が考えられる（第 32 表）。

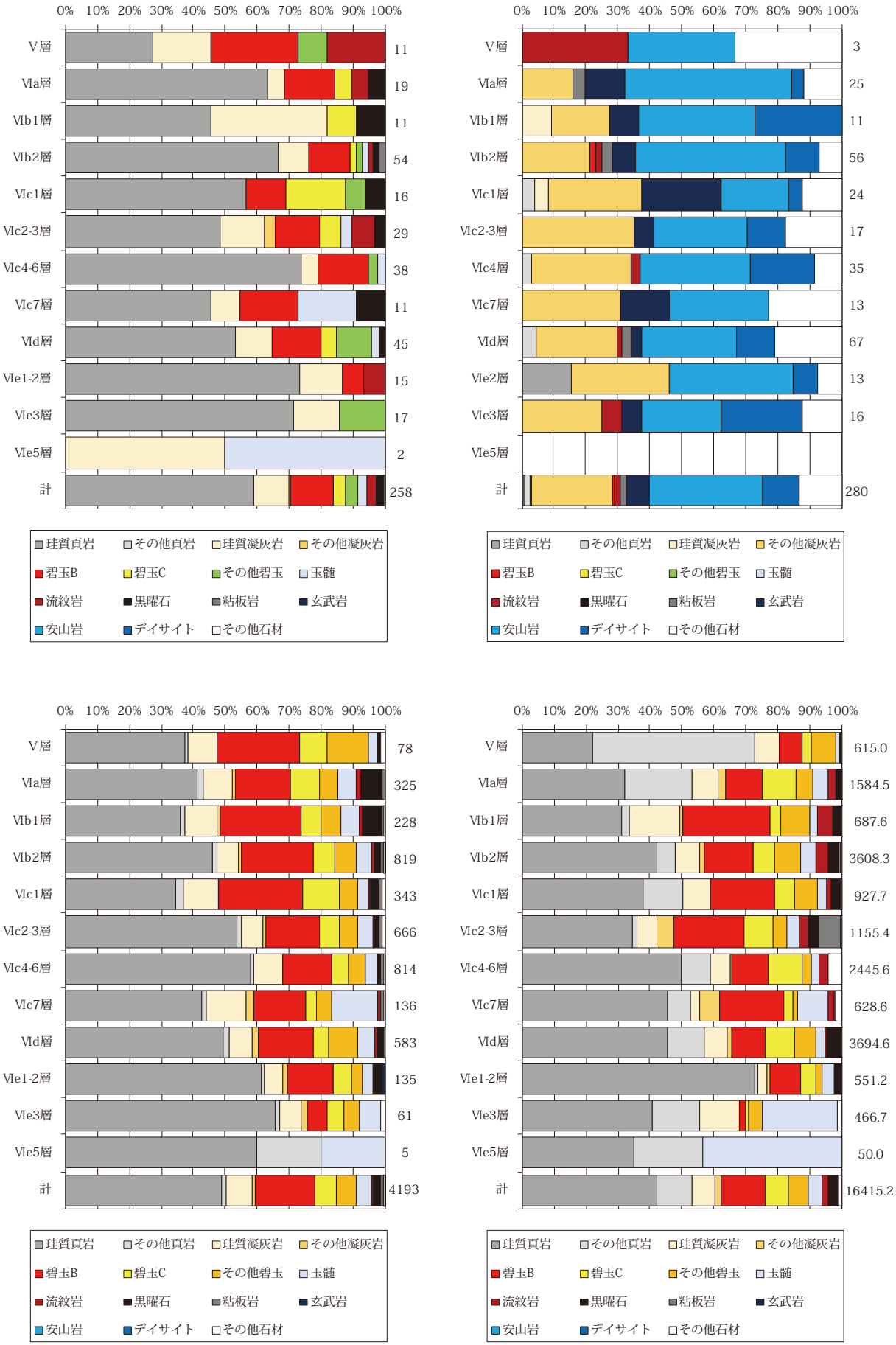
剥片類や石核および剥片石器それぞれの石材組成の比較から、剥片石器の石材と剥片類や石核の石材の種類に大きな差異は認められないことから、遺跡内で生産された剥片は、各種剥片石器の素材となったものとみられる。前項での分析結果から、剥片類や石核の石材組成は石鏃や楔形石器のそれに類似し、それ以外の剥片石器は剥片・石核と石材組成比がやや異なることが判明している。これは特に良質な珪質頁岩を特定の器種に選択的に利用した結果であると考えられる。

剥片剥離方法に着目すると、剥片素材の石核が、点数比で 48.1% あり、約半数を占める。層位別では、一定量出土した層を比較すると、Ⅵb1 層以上でこの割合がやや小さくなる傾向が見られる。剥



第304図　東C・D丘陵間遺物包含層　器種別石材組成（1）

（左上: 全器種　右上: 石鏃　左下: 石錐　右下: 楔形石器）



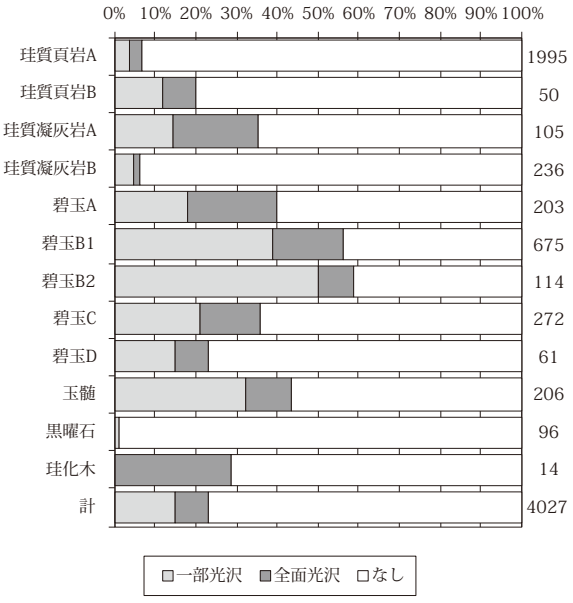
第305図　東C・D丘陵間遺物包含層　器種別石材組成（2）

（左上: 不定形石器　右上: 礫石器類　左下: 剥片・砕片・石核点数比　右下: 剥片・砕片・石核重量g比）

第32表　東C・D丘陵間遺物包含層　剥片・砕片・石核各属性の層位別出現頻度　（上: 剥片・砕片　下: 石核）

層位	点数	重量 (g)	背面ポジ面				自然面				被熱				加熱処理				多段階剥離				付着物			
			点数		重量 (g)		点数		重量 (g)		点数		重量 (g)		点数		重量 (g)		点数		重量 (g)		点数		重量 (g)	
V	66	203.3	21	31.8%	46.4	22.8%	18	27.3%	104.0	51.2%	2	3.0%	1.0	0.5%	9	13.6%	15.4	7.6%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵa	296	1081.3	84	28.4%	190.7	17.6%	65	22.0%	559.9	51.8%	14	4.7%	35.9	3.3%	35	11.8%	82.5	7.6%	2	0.7%	9.3	0.9%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵb1	207	423.1	62	30.0%	118.2	27.9%	41	19.8%	200.1	47.3%	13	6.3%	19.0	4.5%	53	25.6%	79.3	18.7%	0	0.0%	0.0	0.0%	4	1.9%	16.8	4.0%
Ⅵb2	748	2602.6	220	29.4%	593.5	22.8%	198	26.5%	1309.3	50.3%	36	4.8%	49.7	1.9%	142	19.0%	206.2	7.9%	2	0.3%	8.7	0.3%	3	0.4%	15.4	0.6%
Ⅵc1	323	707.3	82	25.4%	199.2	28.2%	77	23.8%	326.8	46.2%	19	5.9%	19.1	2.7%	107	33.1%	145.7	20.6%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵc2	107	168.7	19	17.8%	17.9	10.6%	18	16.8%	121.3	71.9%	6	5.6%	2.4	1.4%	20	18.7%	22.2	13.1%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵc3	539	747.0	96	17.8%	125.4	16.8%	102	18.9%	370.8	49.6%	32	5.9%	30.6	4.1%	99	18.4%	118.7	15.9%	1	0.2%	4.0	0.5%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵc4	669	1598.8	147	22.0%	227.6	14.2%	155	23.2%	967.3	60.5%	50	7.5%	71.2	4.5%	145	21.7%	136.7	8.5%	1	0.1%	4.1	0.3%	1	0.1%	14.8	0.9%
Ⅵc5	72	35.2	14	19.4%	9.8	27.8%	10	13.9%	21.2	60.2%	4	5.6%	1.0	2.9%	14	19.4%	10.9	31.1%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵc6	30	15.0	0	0.0%	0.0	0.0%	4	13.3%	4.9	32.8%	1	3.3%	0.1	0.5%	6	20.0%	1.5	10.3%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵc7	123	421.9	19	15.4%	45.7	10.8%	41	33.3%	269.9	64.0%	5	4.1%	1.6	0.4%	32	26.0%	58.7	13.9%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵd	497	1893.9	92	18.5%	195.9	10.3%	178	35.8%	1138.8	60.1%	34	6.8%	24.6	1.3%	151	30.4%	341.3	18.0%	1	0.2%	13.7	0.7%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵe1	22	47.7	5	22.7%	12.1	25.4%	5	22.7%	22.9	47.9%	0	0.0%	0.0	0.0%	6	27.3%	7.8	16.4%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵe2	94	286.9	24	25.5%	65.3	22.7%	28	29.8%	135.7	47.3%	2	2.1%	4.5	1.6%	24	25.5%	46.5	16.2%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵe3	52	359.0	10	19.2%	26.5	7.4%	20	38.5%	262.6	73.2%	2	3.8%	7.4	2.1%	9	17.3%	36.3	10.1%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵe5	3	19.0	0	0.0%	0.0	0.0%	2	66.7%	16.5	86.6%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
計	3848	10610.6	895	23.3%	1873.9	17.7%	962	25.0%	5831.9	55.0%	220	5.7%	268.1	2.5%	852	22.1%	1309.6	12.3%	7	0.2%	39.8	0.4%	8	0.2%	47.0	0.4%

層位	点数	重量 (g)	剥片素材				自然面				被熱				加熱処理				多段階剥離				付着物			
			点数		重量 (g)		点数		重量 (g)		点数		重量 (g)		点数		重量 (g)		点数		重量 (g)		点数		重量 (g)	
V	12	411.8	5	41.7%	52.7	12.8%	9	75.0%	399.5	97.0%	0	0.0%	0.0	0.0%	2	16.7%	12.4	3.0%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵa	31	503.3	12	38.7%	194.9	38.7%	13	41.9%	301.9	60.0%	0	0.0%	0.0	0.0%	6	19.4%	54.2	10.8%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵb1	21	264.5	8	38.1%	102.5	38.8%	10	47.6%	130.9	49.5%	0	0.0%	0.0	0.0%	3	14.3%	31.2	11.8%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵb2	71	1005.7	38	53.5%	412.0	41.0%	26	36.6%	498.6	49.6%	1	1.4%	8.0	0.8%	19	26.8%	174.6	17.4%	0	0.0%	0.0	0.0%	1	1.4%	6.0	0.6%
Ⅵc1	20	225.6	10	50.0%	130.7	57.9%	9	45.0%	138.2	61.3%	1	5.0%	12.4	5.5%	4	20.0%	37.6	16.7%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵc2	3	51.7	0	0.0%	0.0	0.0%	1	33.3%	15.8	30.6%	1	33.3%	7.8	15.0%	1	33.3%	7.8	15.0%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵc3	17	188.1	8	47.1%	79.5	42.3%	9	52.9%	141.2	75.1%	0	0.0%	0.0	0.0%	4	23.5%	27.6	14.7%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵc4	42	791.9	20	47.6%	291.0	36.7%	23	54.8%	593.7	75.0%	0	0.0%	0.0	0.0%	9	21.4%	54.7	6.9%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵc5	0	0.0	0	-	0.0	-	0	-	0.0	-	0	-	0.0	-	0	-	0.0	-	0	-	0.0	-	0	-	0.0	-
Ⅵc6	1	4.8	0	0.0%	0.0	0.0%	1	100.0%	4.8	100.0%	0	0.0%	0.0	0.0%	1	100.0%	4.8	100.0%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵc7	13	206.7	7	53.8%	68.8	33.3%	8	61.5%	185.9	89.9%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵd	86	1800.7	45	52.3%	700.8	38.9%	40	46.5%	1375.6	76.4%	1	1.2%	34.9	1.9%	28	32.6%	182.5	10.1%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵe1	3	39.0	3	100.0%	39.0	100.0%	1	33.3%	19.8	50.8%	0	0.0%	0.0	0.0%	1	33.3%	11.4	29.3%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵe2	16	177.5	6	37.5%	51.4	29.0%	8	50.0%	128.0	72.1%	0	0.0%	0.0	0.0%	3	18.8%	14.7	8.3%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵe3	9	107.8	4	44.4%	30.7	28.5%	1	11.1%	38.1	35.3%	0	0.0%	0.0	0.0%	2	22.2%	22.7	21.0%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
Ⅵe5	2	30.9	1	50.0%	9.2	29.7%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%	0	0.0%	0.0	0.0%
計	347	5809.9	167	48.1%	2163.1	37.2%	159	45.8%	3972.0	68.4%	4	1.2%	63.0	1.1%	83	23.9%	636.0	10.9%	0	0.0%	0.0	0.0%	1	0.3%	6.0	0.1%



第306図　剥片・砕片・石核の石材別の加熱処理痕跡出現頻度

片の背面にポジ面（素材剥片の腹面）を有するものは、点数比で 23.3% あり、重量比では 17.6% とその割合はさらに小さくなる。このことから、剥片素材の石核から剥離された剥片が小型で、石鏃等の小型石器の製作を目的とした剥片剥離方法が想定される。背面にポジ面を有する剥片の割合について層位別に見ると、上層でその割合が大きくなる傾向が見られ、石核とは反対の状況を示す。このことは、一つの石核あたりの剥片剥離数が多くなることを示唆するものである。以上から、本包含層における剥片生産では、剥片を石核素材として剥片剥離を行う方法がある程度の割合を占めるが、時期が新しくなるにしたがい剥片素材の石核は若干減少する。しかしながら、一つの石核から生産される剥片は増加する傾向にあるものと考えられる。

剥片剥離においては、加熱処理の方法が用いられたとみられるものが一定量存在する。剥片および石核の全面もしくは一部の剥離面に光沢を有するものが、加熱処理の痕跡と考えられている（御堂島

1993a・b)。剥片・砕片の 22.1%、石核の 23.9%（いずれも点数比）にこの痕跡を確認することができた。このことから、剥片生産の段階で一部の石核で加熱処理が行われ、剥片生産に用いられたことがわかる。これを重量比にするとその割合は小さくなることから、特に小型の剥片剥離に用いられたとみられる。なお､層位別では加熱処理の痕跡の有無に大きな変化は見られない。石材別に見ると、加熱処理の痕跡は碧玉Ｂ類でその割合が大きく、55% 以上となる（第 306 図)。これ以外では、玉髄や碧玉Ａ・Ｃ類、珪質凝灰岩Ａ類でやや多い。一方で主要な石材である珪質頁岩ではその割合が小さい（7.0%)。石材により光沢の確認の容易さに差異はあるものの [註 12]、剥片石器に多く用いられている碧玉Ｂ類と珪質頁岩Ａ類とでその割合が大きく異なることから、石材によりこの技術が選択的に用いられたものと考えられる。

(4) 剥片石器の製作・使用

①二次加工（加熱処理）

剥片石器（石鏃・尖頭器・石錐・石匙・石篦・楔形石器・不定形石器）では、40% 以上で加熱処理の痕跡が確認され [註 13]、剥片類や石核における割合すなわち剥片剥離の段階と比べてその割合が大きくなる。器種別では、石鏃で 70% 以上、尖頭器や石錐、石匙で 40% 以上の石器にその痕跡が確認される（第 307 図)。一方で、石篦や楔形石器、不定形石器でその割合は 30% 前後とやや小さい。加熱処理の方法を用いた二次加工は、石鏃や石錐といった小さな二次加工面で構成されるものや、尖頭器や石匙など機能部位で細かな加工が求められる石器でその割合が大きくなる傾向が見られる。剥片石器に類似するサメ歯状石製品や異形石器も含めて、加熱処理の痕跡が見られた石材では、半数近くに加熱処理の痕跡が認められる。多く利用されている石材では、碧玉 A・B1・B2 類や玉髄でその割合が大きく、70% 以上の割合を占めるのに対し、主要な石材である珪質頁岩 A 類は、剥片・砕片・石核と同様にその割合が小さい。以上から、器種や石材によってこの方法が選択的に用いられたと考えられる。

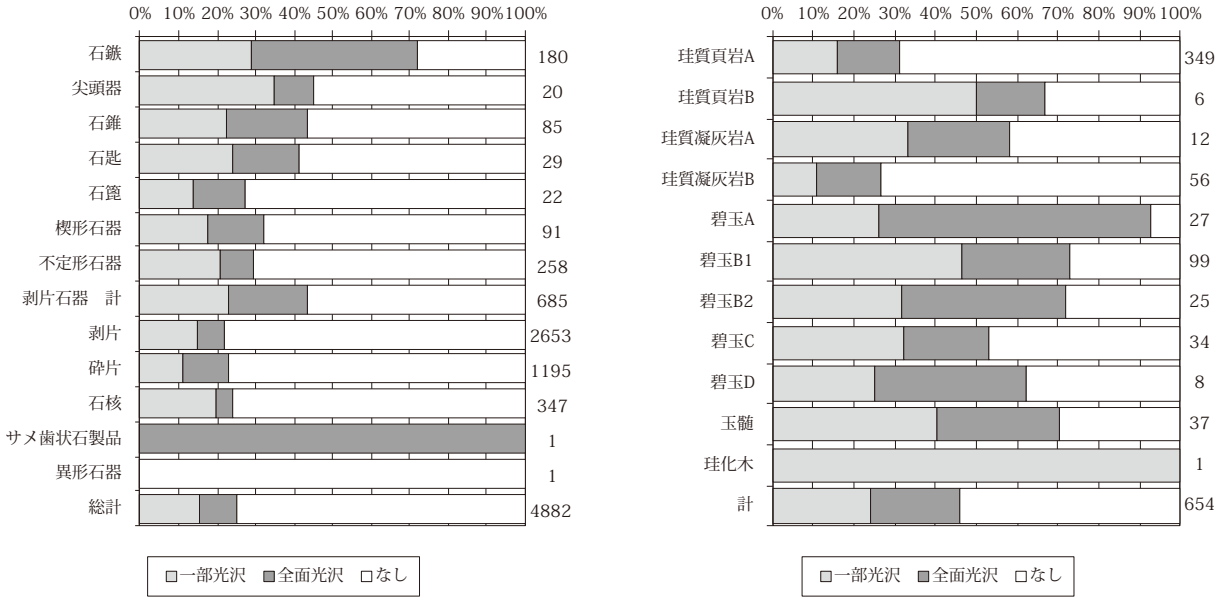
層位別に見ると、出土量の多い石鏃や不定形石器では、上層になると加熱処理の痕跡の割合が小さくなる（第 33 表)。特にⅦｄ層とⅦｃ層との間に大きな差異が認められることから、晩期中葉では盛んに用いられていたこの方法が､晩期後葉以降になるとその頻度がやや小さくなるものとみられる。

②石器の類型と形状

石器の類型化の基準とその出現頻度はこれまでに述べたとおりであるが、ここでは出土点数の多い石鏃および不定形石器について考察する。

[石鏃]

類型別に見ると、東Ｃ・Ｄ丘陵間遺物包含層からは有茎鏃が最も多く出土し、約 70% の割合を占める（第 308 図)。茎を作出しない凸基無茎鏃もあわせると、Ⅰ類の凸基鏃は約 80% に上る。層位別に見ると、出土量の多い層では有茎鏃の占める割合がいずれも 60% から 80% の間にあり、かつ一方向の変化が認められないことから､時期差による明瞭な変化は見られない。石鏃の形態変化については、



第307図　剥片石器の加熱処理痕跡出現頻度　（左: 器種別　右: 石材別　※剥片・砕片・石核を除く）

第33表　剥片石器の層位別の加熱処理痕跡出現頻度

層位	石鏃				尖頭器				石錐				石匙				石篦				楔形石器				不定形石器				総計
	一部	全面	なし	計	一部	全面	なし	計	一部	全面	なし	計	一部	全面	なし	計	一部	全面	なし	計	一部	全面	なし	計	一部	全面	なし	計	
Ⅴ	1		1	2			2	2			1	1						1		1			4	4	3	1	7	11	21
Ⅵa	3	3	3	9	1		1	2	2		6	8			4	4	1		1	2	1		6	7	5		14	19	51
Ⅵb1		4	2	6			2	2	2		2	4					1		2	3	1		3	4		1	10	11	30
Ⅵb2	17	9	23	49	1		3	4	2	3	16	21	1	1	7	9	1		3	4	3	2	13	18	8	4	42	54	159
Ⅵc1	8	11	4	23					3	2	1	6							3	3	1	4	5	10	4	1	11	16	58
Ⅵc2	1		1	2					1		3	4							1	1			1	1		1	4	5	13
Ⅵc3	6	4	2	12	2			2	4	3	6	13			1	1			1	1			8	8	4	2	18	24	61
Ⅵc4	5	15	9	29			1	1	2	3	5	10	1		1	2			3	3	2	1	4	7	6	1	26	33	85
Ⅵc5		1		1																		1	1	2	1		3	4	7
Ⅵc6																											1	1	1
Ⅵc7	3	6	1	10					1		3	4	1		1	2			1	1	1		1	2	4		7	11	30
Ⅵd	6	14	1	21	2	2	2	6	1	4	2	7	2	4	3	9		1	1	2	4	4	12	20	12	8	23	43	108
Ⅵe1																									1		3	4	4
Ⅵe2	2	6	1	9						3	1	4	1			1					2	1	2	5	2	1	8	11	30
Ⅵe3		5	1	6							2	2	1			1		1		1	1		2	3	3	2	4	9	22
Ⅵe5			1	1	1			1	1			1													1		1	2	5
計	52	78	50	180	7	2	11	20	19	18	48	85	7	5	17	29	3	3	16	22	16	13	62	91	54	22	182	258	685

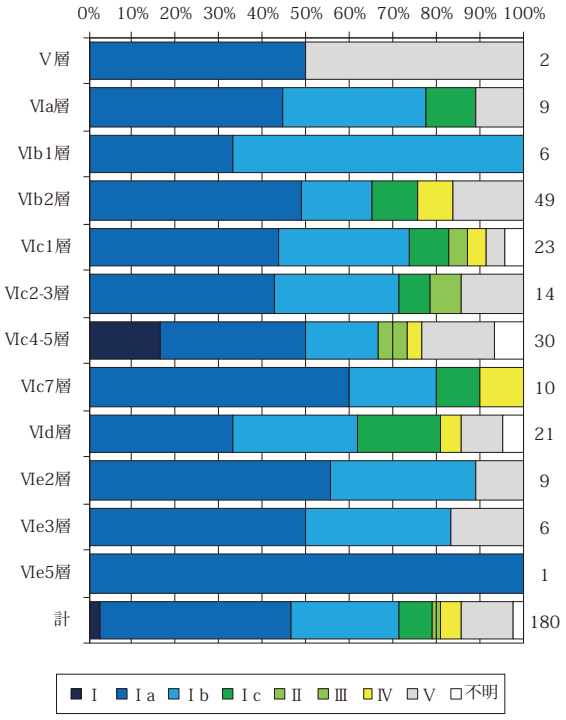
同じ縄文時代晩期を主体とする摺萩遺跡や鍛冶沢遺跡において、有茎鏃で、抉りの浅いⅠｂ類から抉りの深いⅠａ類へと変化することが指摘されている（宮城県教育委員会　1990a・2010a）。本包含層でも、Ⅵｄ層以下において、Ⅵｃ層以上と比べてⅠｂ類の割合が大きくなる傾向にあり、おおむね同様の傾向を指摘できる。

類型別の石材組成では（第 309 図）、主要石材である珪質頁岩の占める割合は出土量の多い類型で 30% 弱から 50% の間にあり、未成品（Ⅴ類）を除くと、37%（Ⅰａ類）から 50%（Ⅰｃ類）と差異があまり見られない。次に多く出土している碧玉Ｂ類は、未成品（Ⅴ類）で半数近くを占め、Ⅰ類においても、7%（Ⅰｃ類）から 29%（Ⅰａ類）と、珪質頁岩に比べてその差異が大きいものとなっている。碧玉Ｂ類は、深い抉りを入れて茎が明瞭に作出されたⅠａ類でやや多く利用され、茎の作出の程度が小さくなるにつれてあまり利用されなくなる傾向が見られる。しかしながら、有茎鏃以外の類型は出土量が少ないことから、本遺跡の東Ｃ丘陵西端部での分析（宮城県教育委員会　2014）で確認されているように、石鏃の形状により石材を使い分ける傾向は明瞭に認められない状況である。

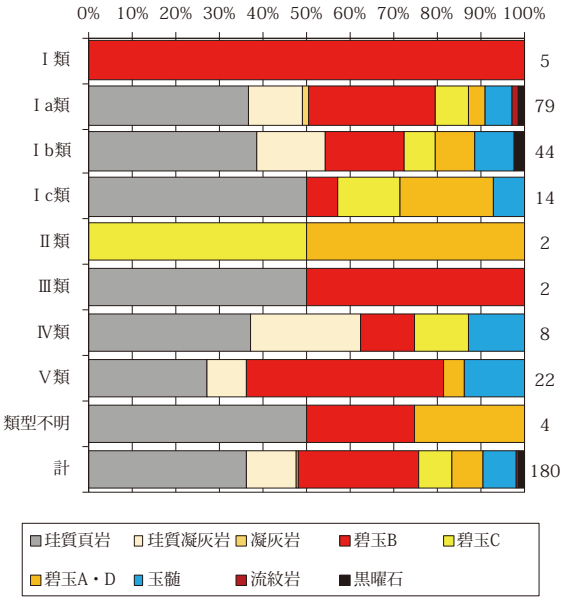
石鏃の類型別に大きさ・形状の分布を比較すると（第 310 図）[註 14]、有茎鏃は、凸基無茎鏃や円基・平基鏃、凹基鏃と比べて大型ものが多く、また縦長のところに分布する傾向が見られる。また、有茎鏃の約半数は、これ以外の類型に比べて厚手のところに分布する。有茎鏃（Ⅰ類）をさらにⅠa類、Ⅰb類に細分すると、Ⅰb類のほうがより厚手に分布する傾向が見られる。

出土点数の多い有茎鏃に限定して、層位別にこれらの分布を見ると、上層（晩期末葉以降）よりも下層（晩期中葉から後葉）のものが縦長・厚手に分布する傾向が見られる。本遺跡の東Ｃ丘陵西端部での分析では、晩期中葉よりも後葉のほうが大型で縦長・厚手の傾向を示す（宮城県教育委員会　2014）。本包含層では晩期中葉の資料数が少ないため同様の結論を得ることは難しいが、これらの分析結果を加味すると、晩期後葉で縦長・厚手となったものが、末葉以降にやや幅広・薄手化することになる。

なお、石材別では、出土量の多い珪質頁岩と碧玉・玉髄の２種に着目すると、双方ともに大型から小型、また、縦長から幅広、薄手から厚手まで広く分布しており、明確な差異は見られなかった。



第 308 図　石鏃　層位別類型出現頻度

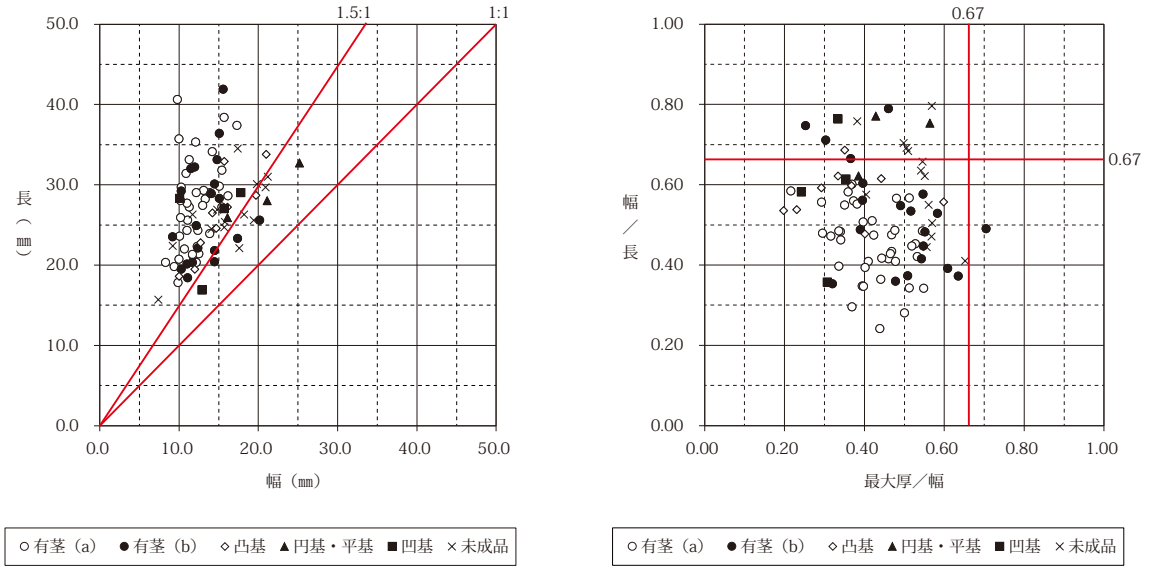


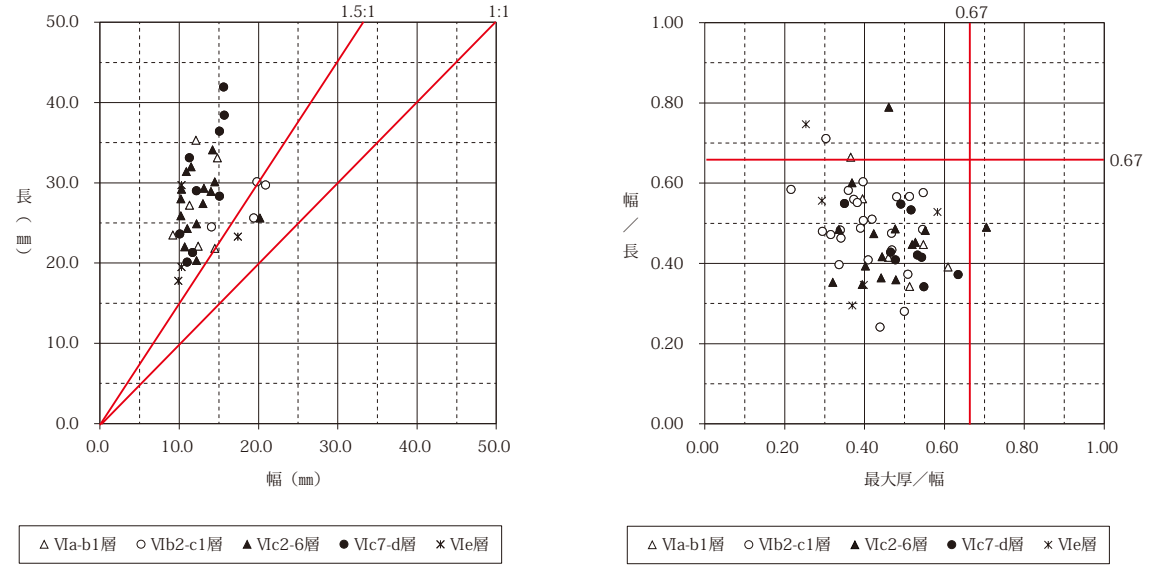
第 309 図　石鏃　類型別石材組成

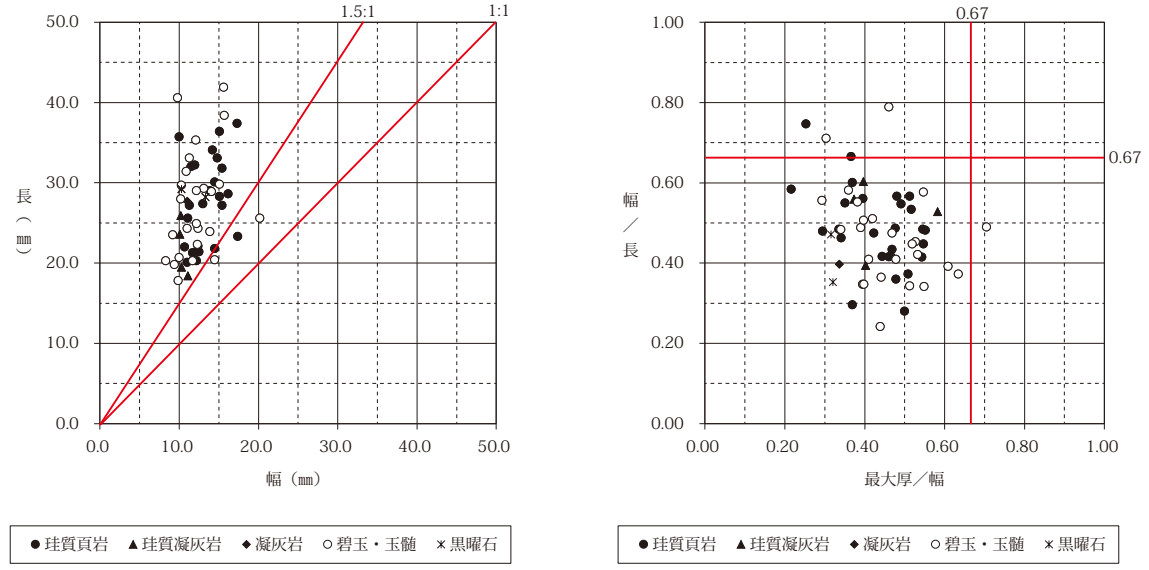
[不定形石器]

本包含層から出土した不定形石器は、剥片の縁辺に連続する二次加工を施した石器（Ⅲ類）が 80% 程度を占め、出土数が一定量あるいずれの層位においても、70% から 90% 程度を占める。なかでも二次加工に規則性・規格性のないⅢｃ類やⅢｄ類がほとんどである（第 311 図）。Ⅲ類は下層に比べて上層でその割合が小さくなる傾向が見られる。Ⅲ類以外では、剥片の一端を尖頭状に加工するⅠ類が、各層で一定量出土している。面的な加工を施すⅡ類は下層に比べて上層で割合がやや大きくなる傾向が見られる。

不定形石器の石材は、珪質頁岩が全体で 60% 程度の割合を占め、主要な石材となっている。類型別に見ると、加工が少なく規則性・規格性のないⅢｄ類で珪質頁岩の割合がやや小さい（第 312 図）。また、石材組成を見ると、加工の程度が大きく面的な加工を施すⅡ類や、加工に規則的・規格的な傾







第310図　石鏃の大きさ・形状　（上段: 類型別　中段: 層位別（有茎鏃のみ）　下段: 石材別（有茎鏃のみ））

向が見られるⅠ類とⅢａ・Ⅲｂ類では、石材の種類が限定される傾向が見られる。目的の形を意図して製作したものと、便宜的に製作したものとで石材利用に差異があったことが、不定形石器の石材組成に見ることができる。

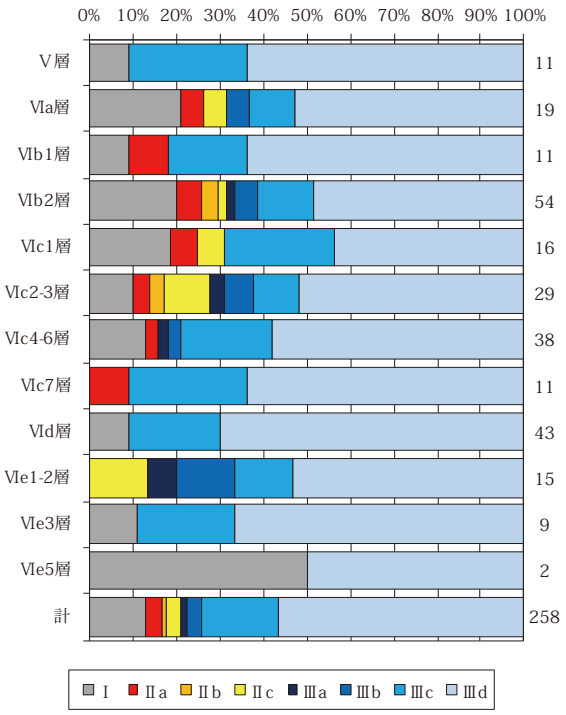
③再加工・転用

剥片石器（剥片を含む）で再加工や転用の痕跡を確認できたものは少なく、石鏃や石錐、石篦、楔形石器、不定形石器、剥片あわせて 32 点にとどまる（第 34 表）。再加工や転用の意図が不明で剥離面の風化が多段階あるもの（多段階表面変化）を除くと、再加工は、石錐が錐部、石篦が基部に認められる。また、石錐で石鏃の転用とみられるものが 7 点、楔形石器で尖頭器や石篦の転用とみられるものがそれぞれ 1 点ずつある。

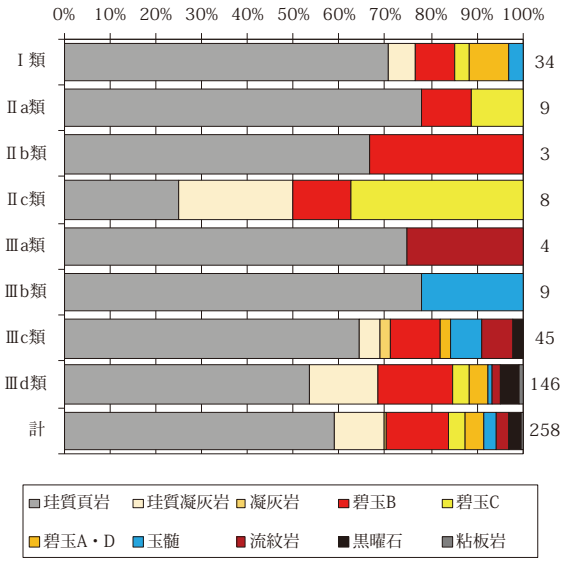
磨製石斧では、刃部を再加工したものが 1 点、基部破片を利用して寸詰まりの磨製石斧に再加工したものが 1 点確認した。

礫石器では 21 点で転用の痕跡を確認し、磨製石斧を転用したものが 5 点、石冠を転用したものが 1 点ある。また、礫石器で複数の用途に用いられたものが 16 点あり（凹痕のある石皿を除く）、2 種類の用途に用いられたもの 14 点、3 種類の用途に用いられたものが 2 点見られた。

石製品においても再加工や転用が確認される。石刀では基部の再加工や石棒からの転用が確認され、円盤状石製品と石冠では礫石器からの転用、石錘では磨製石斧からの転用が見られた。



第 311 図　不定形石器　層位別類型出現頻度



第 312 図　不定形石器　類型別石材組成

④付着物

当該期の石器は、柄などの他の道具と組み合わせた使用方法も推定される。この場合には膠着材が用いられることがあり、その痕跡としてアスファルトまたは漆とみられる黒色物質が石器に残されていることがよくある。本調査で出土した石器では、石匙（31.4%）や石鏃（22.1%）、尖頭器（17.9%）で黒色物質が残るものが目に付く。このたび、石器（2 点）に顕著に付着している黒色物質の材質分析を実施したところ、いずれもアスファルトという結果が得られた（分析編第 13 章）。また、東Ｃ・

第34表　各器種における再加工・転用

器種	再加工			転用												多段階表面変化	計
	刃部	基部	破片	石鏃→	尖頭器→	石篦→	磨製石斧→	磨製石斧→凹石→	石皿→	磨石→	磨石→凹石→	凹石→	砥石→凹石→	石冠→	石棒→		
石鏃																1	1
石錐	3			7												1	11
石篦		1														1	2
楔形石器					1	1											2
不定形石器																9	9
剥片																7	7
磨製石斧	1		1														2
磨石							1	1	1			5	1				9
凹石									2	4							6
砥石							2							1			3
敲石							1			1	1						3
円盤状石製品									1	1							2
石錘							1										1
石冠										1							1
石刀		1													1		2
計	1	2		7	1	1	5	1	4	7	1	5	1	1	1	19	61

D 丘陵間と東 D 丘陵北斜面のそれぞれの遺物包含層から、アスファルト塊が計 3 点確認された（分析編第 14 章）。宮城県域ではアスファルトの産出地は知られていないことから（アスファルト研究会編　2018）、遠隔地から塊の状態で遺跡内に持ち込まれたものとみられる。さらに、本遺跡では土器の内面にアスファルトが広く付着している、いわゆるアスファルト容器も出土しており、これらの遺物は遺跡内でのアスファルト精製の可能性を示唆するものである。

（5）礫石器

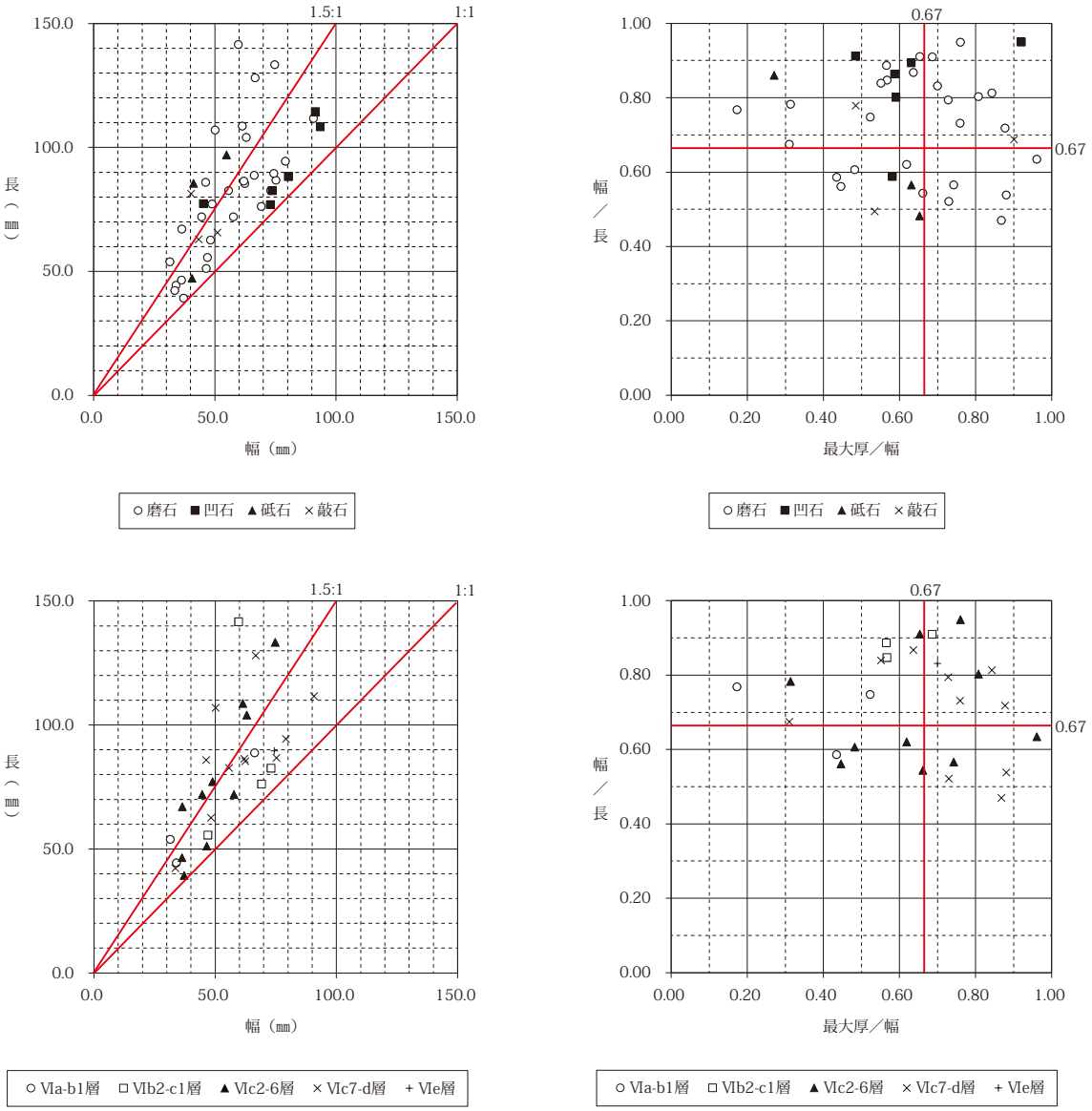
本包含層からは礫石器が 280 点出土している。これまでの分析で、層位的には出土状況に大きな変化や特徴は見られない。ここでは石皿以外の礫石器（磨石・凹石・砥石・敲石）の大きさや形状に着目して、その変遷や特徴について検討する。

礫石器における器種別の大きさの分布を見ると（第 313 図）[註 15]、磨石は、長さが 150mm 以下、幅が約 90mm 以下の範囲に分布するが、長さが 40 ～ 90mm、幅が 30 ～ 80mm の範囲内に多くが分布する。一方で、凹石では、長さが 70 ～ 120mm、幅が 70 ～ 100mm の範囲内に多くが分布し、敲石では、長さがおおよそ 60 ～ 80mm、幅がおおよそ 40 ～ 50mm の範囲内にまとまる。磨石の大きさに対照させると、前者がやや大型、後者が中型のところにまとまる。

形状の分布を見ると、磨石は「縦長・厚手」、「縦長・薄手」、「幅広・厚手」・「幅広・薄手」のいずれにも分布するが、凹石と砥石では薄手と認識される厚幅比 0.67 未満の範囲に多く分布し、磨石と比べてややまとまりが見られる。

以上から、凹石は磨石に比べてやや大型の礫を選択して利用する傾向が見られ、相対的な厚さもまた磨石に比べて限定される傾向にある。本遺跡では東 C 丘陵西端部でも同様の傾向が見られ、県内では鍛冶沢遺跡においてこれに類似する傾向が認められる（宮城県教育委員会　2010a・2014）。

ここで、出土数の多い磨石について、層位別にその大きさや形状の分布を検討する。大きさの分布では、Ⅵ c7 層以下で、上層に比べてやや大型のところに分布する傾向が見られる。形状の分布では、Ⅵ c7 層以下で、厚手と認識される厚幅比 0.67 以上の範囲に多く分布し、これが上層になるにつれて、薄手と認識される厚幅比 0.67 未満の範囲に分布するようになり、Ⅵ c1 層以上では多くが、0.67 未満



第313図　礫石器の大きさ・形状　（上段: 器種別　下段: 層位別（磨石））

の範囲に分布するようになる。したがって、磨石では、厚手から薄手へという時間的な変遷を捉えることが可能である。

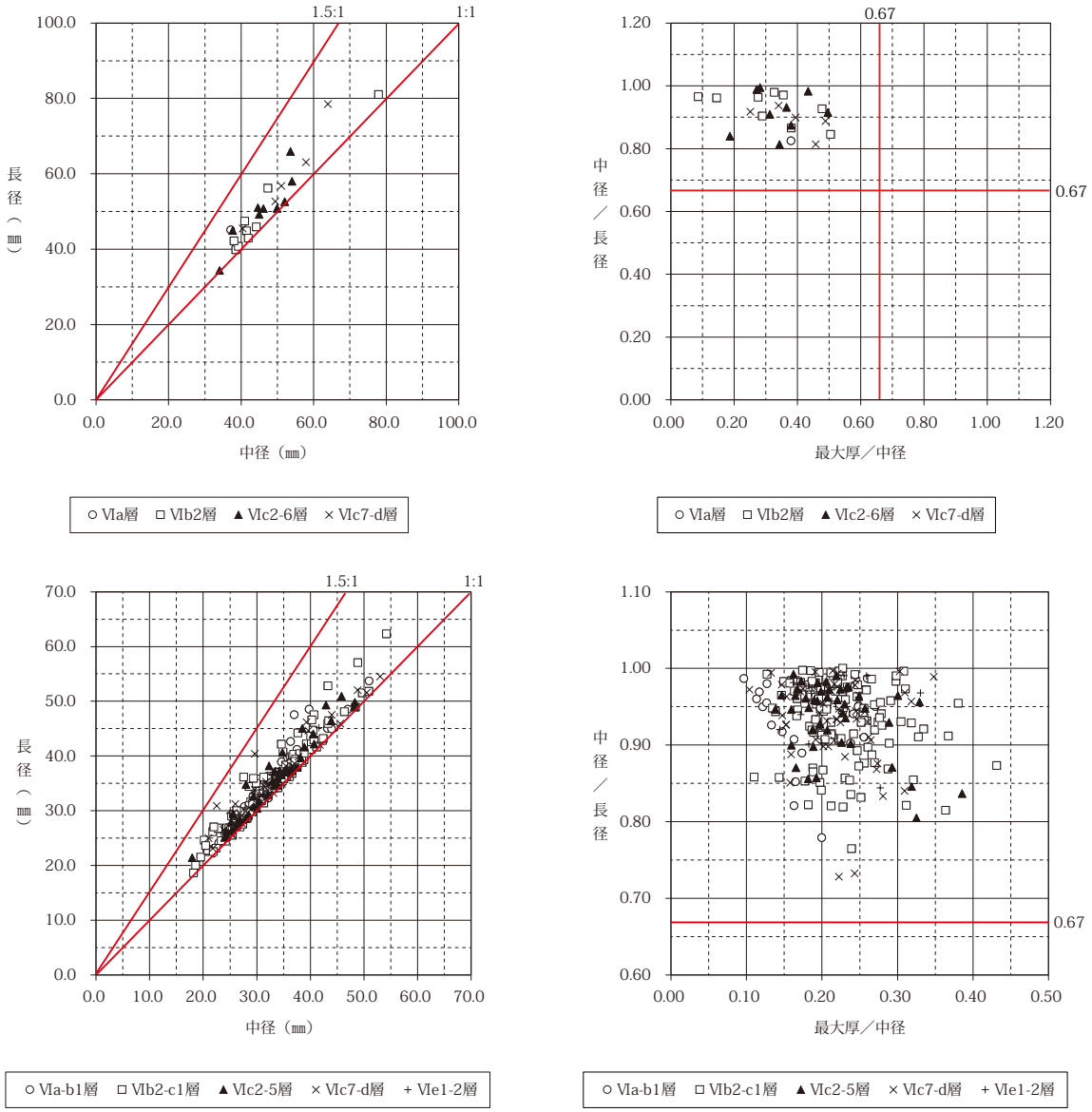
(6) 石製品

石製品は、東C･D丘陵間遺物包含層から103点出土している。石製品には、円盤状石製品や石錘、石冠、独鈷石など、形態や転用、用途などで石器との関係性が見られるものと、石棒や石刀、玉類などの装身具、岩版など、特定の石材との関係性が大きいものがある。前者は、石器への転用が見られるほか、全体や一部の形状から実用品として利用されたとみられるものもある。各器種の石材は後者と比べて多様である。後者は、石器への転用が見られず、一部において実用品として利用された可能性もあるが、形状等からほとんどが非実用品として位置づけられる。以下に、出土量の多いものや特徴的なものについて器種別に述べる。

［円盤状石製品］

円盤状石製品は本包含層から 25 点出土している。層位別の大きさの分布を見ると（第 314 図）[註16)]、Ⅵ c7 ～Ⅵ d 層出土のものは径 5cm 以上のところに多く分布するが、Ⅵ c2 ～Ⅵ c6 層出土のものになるとやや小型化し、Ⅵ b2 層以上では径 5cm 以下のところに多く分布するようになる。すなわち、時期が新しくなるにつれて小型化する傾向が認められる。形状の分布では、わずかな差異ではあるが、下層に比べて上層のほうが中径／長径比が大きく、最大厚／中径比が小さくなる傾向、すなわち、平面形が正円に近く、薄手となる傾向が見られる。特に時期が新しくなるにつれて薄手化する傾向は、本遺跡における別地点（東 C 丘陵西端部）でも確認されており（宮城県教育委員会　2014）、共通する傾向である。

ここで、円盤状石製品の大きさや形状について、平面形や製作方法が類似する土製品（円盤状土製品）についても同様に大きさや形状の分布について検討する（第 314 図）。層位別に見ると、土製品では、



第314図　円盤状石製品の大きさ・形状　（上段: 円盤状石製品　下段: 円盤状土製品（参考））

大きさや形状の分布に石製品ほどの差異が認められない。両者のサンプル数には大きな差異があることから同列に取り扱うことは難しいが、東C丘陵西端部における分析結果も加味すると、石製品と土製品では大きさや厚さの分布に差異が認められる。土製品では土器片を加工し、石製品では扁平な自然石を多用することが多いことから、素材の違いにより、後者が多様な形状となることは明らかであるが、土製品のほうが総じて小型で薄手の傾向にある。また、土製品に特徴的に見られるアスファルトの付着も石製品には見られないことから、一見すると同じような特徴をもつものと見られる両者は、その製作目的や用途に差異があるものと考えられる。

[石錘・石冠]

これら2つの器種は出土数が少ないが、石錘では磨製石斧からの転用、石冠では磨石からの転用が確認された。また、砥石に分類したものには、石冠の破片を利用しているものが1点ある。石材も転用した石器と類似しており、実用的な石器との関係性が大きい器種である。

[勾玉・臼玉・小玉]

玉類は本包含層から11点出土している。勾玉は緑色石英質岩製で、臼玉は滑石製であり、いずれも表面が光沢のある石材である。小玉は蛇紋石製が1点ある以外は、すべて凝灰質砂岩製とされている（分析編第15章）。稀少石材のものを凝灰岩等で代用する傾向は、縄文時代晩期の遺跡ではよく見られる様相である。なお、勾玉に利用されている石材に類似するものが、山形県材木遺跡（縄文時代晩期前葉から末葉）で剥片や原石など多量に採集されており（三澤　2020）、そこで加工されたものが本遺跡に搬入されたものと推定される。なお、資料を採集した三澤裕之氏によると、同様の石材で作られた玉類は、山形県の置賜地方以外、宮城県北部、秋田県南部の縄文時代後期末葉から晩期の遺跡で確認されており、当該期に東北地方中部に広まったものと考えられている（三澤　前掲）。緑色を呈し、光を透過する特徴はヒスイの一部に類似するものであり、ヒスイの代用品あるいは類似品として広まったものと考えられる。なお、本県では、大崎市根岸遺跡から同種の石材で作られた勾玉が出土している（相原・飯塚　2020）。

[イモガイ形石製品]

本包含層出土のものではないが、東D丘陵北斜面遺物包含層でイモガイ形石製品が1点出土している。本遺跡では、東C丘陵西端部でも1点ある。イモガイ形石製品は、県内では本資料を含めて5点ほどの出土にとどまっており、東北地方南部ではあまり見られない資料である（宮城県教育委員会2010a）[註17]。これらの資料と比較すると、本資料は渦巻きを表現した面が大きくくぼみ、溝の浅い渦となっている点が特徴的であり、ほかの資料との大きな差異を有する。また、渦と反対側には貫通孔が穿たれており、紐穴をもつ「つまみ」状となっている。このような加工は、イモガイ形石製品では類例が認められない。鍛冶沢遺跡では渦巻きの方向と全体形状により、殻頂部内面の渦巻きを表現した「左巻・半球状」と、殻頂部外面の渦巻きを表現した「右巻・円盤状」の2種類に分類しているが、本資料は渦巻きが表現された面がくぼむことから、殻頂部内面を表現したものとみられ、「左巻・半球状」に分類されるものと考える。

3. 骨角牙製品

平成 22 年度調査で出土した骨角牙製品には、鏃、根挟、銛頭、ヤス、組み合わせ式ヤス、鉤先、着柄式刺突具、刺突具、篦、棒状角製品、弭、簪、針状製品、猪牙製垂飾、垂飾、管状垂飾、環状製品、儀仗などがあり、ほかに加工や使用痕のある骨・角、製品素材が出土している。これらはすべて東 C・D 丘陵間遺物包含層からの出土であり、本調査におけるほかの地点の遺物包含層からは、骨角牙製品は出土していない。

東 C・D 丘陵間遺物包含層からは 383 点出土している（第 35・36 表）。銛頭やヤス、組み合わせ式ヤスなどの漁具、鏃や根挟、着柄式刺突具、刺突具、篦などの道具類が 181 点、管玉や垂飾などの装身具類が 135 点のほかに、不明製品が 12 点ある。また、これら製品の他に、加工痕ある骨･角 18 点、使用痕ある骨 1 点、板状に加工した猪牙 9 点、製品素材 27 点が出土している。これらの素材は、道具類ではシカ角やシカ骨などの大型獣の骨や角がほとんどであり、装身具類では大型獣の骨や角が多く見られるほか、哺乳類歯牙や鳥類骨、魚類骨・歯なども見られる（第 37 表）。以下に、おもな種類や器種別に特徴を述べる。

［鏃・根挟］

鏃 8 点、根挟 3 点が出土している。出土層位はⅥe2 層からⅥa 層まで広範囲にわたる。素材は、シカ骨やシカ角など大型獣がほとんどであり、大型獣以外ではエイ尾棘製の鏃が 1 点出土している。柄や石鏃などと組み合わせて使用されるものであるため、アスファルト状の黒色付着物が残存しているものが多く見られる。

［漁具］

漁具は銛頭 3 点、ヤス 3 点、組み合わせ式ヤス 10 点、鉤先 2 点が出土している。出土層位はⅥe2 層からⅥa 層まで広範囲にわたるが、これらの多くがⅥc4 層以上である。素材は、不明のもの 1 点を除いてすべてシカ角である。

銛頭は 3 点とも異なる類型であり、紐の固定や着柄の方法がそれぞれ異なる。ヤスはいわゆる固定式の銛頭にも分類されるもので、本包含層において分類した銛頭と異なり、柄に固定して使用したものとみられる。

組み合わせ式ヤスは、銛頭やヤスと比べて 10 点と多く出土している。本体や逆刺の形状に多様性があり、これらは逆刺部の作出の差異によるものとみられ、逆刺を本体に差し込むものや[(註 18)]、本体と紐などで固定するものがある。組み合わせ式ヤスは、気仙沼市田柄貝塚（宮城県教育委員会 1986a）や東松島市里浜貝塚西畑地点（小井川・山田　2002）など、沿岸部の貝塚で出土しているが、内陸部の貝塚での出土は稀である（杉山　2013）。また、本遺跡の立地する丘陵の東端部にある中沢目貝塚では、釣針や単純銛頭（固定式銛頭）、燕形銛頭（開窩式離頭銛頭）が出土しているが（須藤・富岡編　1995）、組み合わせ式ヤスは出土していない点で差異が認められる。本遺跡では東 C 丘陵西端部でも 4 点出土しており、ほかの漁具と比べても多く見られる器種である。この点において本遺跡における骨角製品利用の特徴の一つと言えよう。

第35表　骨角牙製品　層位別出土状況

器種	鏃	根挟	銛頭	ヤス	組み合わせ式ヤス	鉤先	着柄式刺突具	刺突具	篦	棒状角製品	弭	簪	針状製品	猪牙製垂飾	垂飾	管状垂飾	環状製品	儀仗	不明製品	骨角牙製品計	加工痕ある骨・角	使用痕ある骨	板状加工猪牙	素材	計
Ⅴ層								1								2				3					3
Ⅵa層	2		1		1		5	8		2		3	4	2	1	1		1		31	2			3	36
Ⅵb1層								2		2	1	1	6	1					2	15	2			1	18
Ⅵb2層	2	1	1		2		12	12		11	4	7	5	3	10	5		1	2	78	2		4		84
Ⅵc1層				1	1		6	9		3	3	5	4	3	1	3			2	41	3			16	60
Ⅵc2層	1						1					1	1	1						5					5
Ⅵc3層							7	10		3	2	5	1	4	3	2			3	40	4	1		3	48
Ⅵc4層				2	4	2	7	16	1	2	4	5	5	4	6	3	2	1	2	66	2		2	3	73
Ⅵc5層					1						1		1							3	1				4
Ⅵc7層	1		1				5	6			1	6		3	1	2			1	27	2		2		31
Ⅵd層	1	1									1		1	2	2					8					8
Ⅵe1層	1						1						1							3			1		4
Ⅵe2層		1			1		1				2		3							8				1	9
計	8	3	3	3	10	2	45	64	1	23	19	33	32	23	24	18	2	3	12	328	18	1	9	27	383

第36表　骨角牙製品　層位別各類型出現頻度

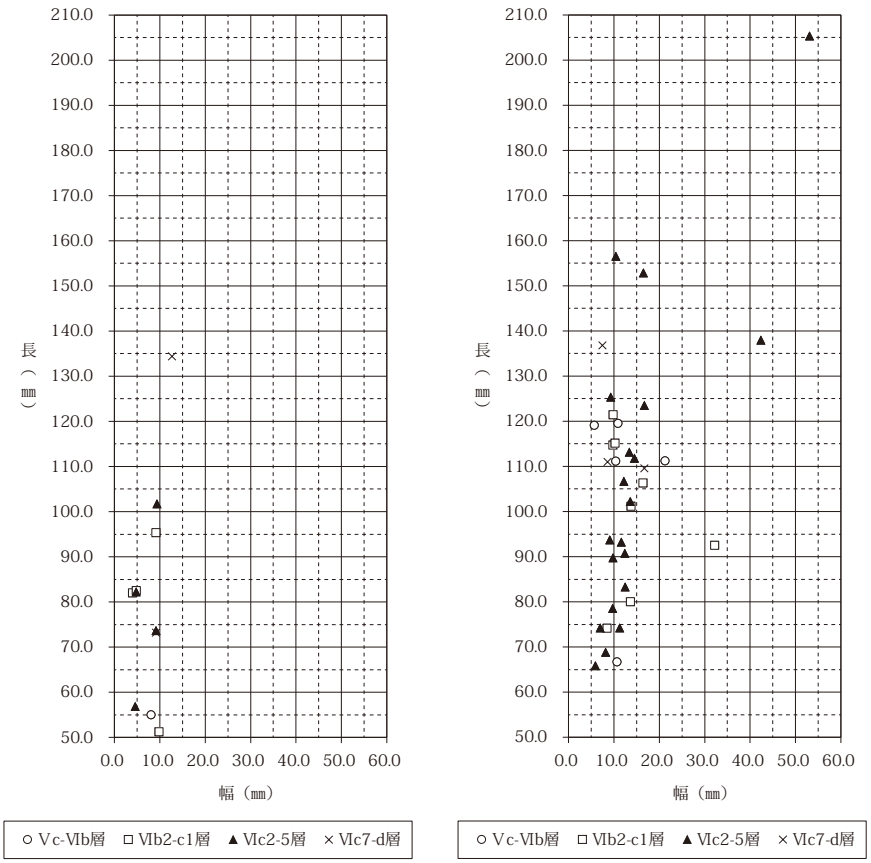
器種	銛頭				ヤス				組み合わせ式ヤス						着柄式刺突具			刺突具						弭				簪						猪牙製垂飾			
類型	A	B	C	計	A	B	計	A	B	C	不明	逆刺	計	A	B	計	A1	A2	B	C	不明	計	A	B	計	A	B	C	不明	計	A	B	C	計
Ⅴ層																	1					1												
Ⅵa層			1	1				1					1	2	3	5	5	1	1	1		8					2	1		3		1	1	2
Ⅵb1層																	1	1				2	1		1		1		1			1	1
Ⅵb2層		1		1							2		2	8	4	12	8	2	1	1		12	3	1	4	3	2	2		7		2	1	3
Ⅵc1層					1		1			1			1	4	2	6	8		1			9	3		3	3		1	1	5		1	2	3
Ⅵc2層															1	1										1				1		1		1
Ⅵc3層														5	2	7	8			2		10	1	1	2	5				5		4		4
Ⅵc4層					1	1	2		1	1	1	1	4	3	4	7	8	2	2	3	1	16	3	1	4	1	3		1	5	2		2	4
Ⅵc5層												1	1										1		1								
Ⅵc7層	1			1										4	1	5	3	2	1			6	1		1	4	2			6		3		3
Ⅵd層																							1		1							1	1	2
Ⅵe1層															1	1																		
Ⅵe2層												1	1		1	1							1	1	2									
計	1	1	1	3	2	1	3	1	1	2	3	3	10	26	19	45	42	8	6	7	1	64	15	4	19	17	10	4	2	33	2	13	8	23

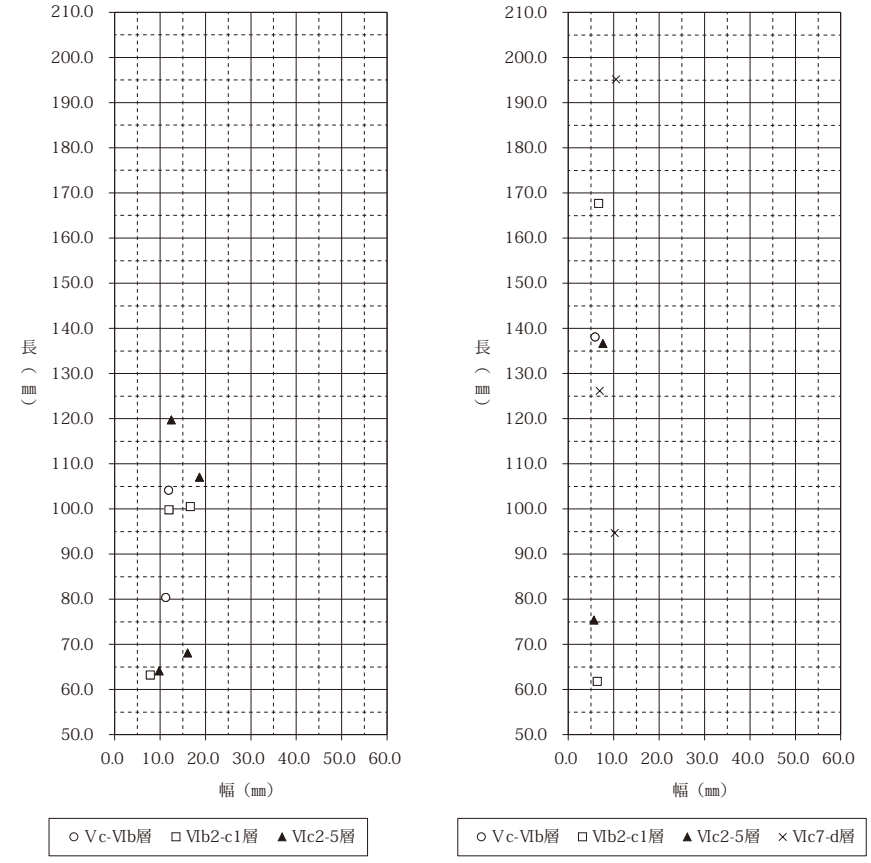
第37表　骨角牙製品　器種別素材

器種	シカ骨	シカ角	イノシシ骨	イノシシ歯牙	オオカミ歯	クマ骨	クジラ類骨	ヒト骨	大型獣骨	大型獣	哺乳類	哺乳類歯牙	哺乳類／鳥類骨	キジ骨	ハクチョウ骨	鳥類骨	サメ骨	サメ・エイ類骨	サメ歯	エイ尾棘	巻貝軸	計
鏃	2	1							2	2										1		8
根挟		3																				3
銛頭		3																				3
ヤス		2								1												3
組み合わせ式ヤス		10																				10
鉤先		2																				2
着柄式刺突具	8	15							11	11												45
刺突具	18		3						37						3	3						64
篦	1																					1
棒状角製品		23																				23
弭		19																				19
簪	7	1							6	19												33
針状製品	1								1	27	3											32
猪牙製垂飾				23																		23
垂飾	4	4		1	1	2		1	1	1		1					4	1	2		1	24
管状垂飾		1							2		1		2	2	1	9						18
環状製品		1		1																		2
儀仗		2							1													3
不明製品		9					1		1							1						12
製品　計	41	96	3	25	1	2	1	1	62	61	4	1	2	2	4	13	4	1	2	1	1	328
加工痕ある骨・角	3	6	2						1				1	1	2	2						18
使用痕ある骨								1														1
板状加工猪牙				9																		9
素材	25								2													27
総計	69	102	5	34	1	2	1	2	65	61	4	1	3	3	6	15	4	1	2	1	1	383

［着柄式刺突具・刺突具・篦・棒状角製品］

着柄式刺突具45点、刺突具64点、篦1点、棒状角製品23点が出土している。出土層位はⅥe2層からⅥa層まで広範囲にわたるが、着柄式刺突具と刺突具はⅥc7層以上で多くなり、棒状角製品は





第315図　骨角牙製品の大きさ　（左上: 着柄式刺突具　右上: 刺突具　左下: 棒状角製品　右下: 簪）

Ⅵc4層以上で出土する傾向が見られる。素材は、刺突具や篦のほとんどがシカなどの大型獣骨製であり、着柄式刺突具ではシカ角の割合が大きくなる。柄に固定する刺突具は、その使用方法から基部などを細く加工する必要があり、一方で手に持って使用したとみられる刺突具は、基部形状が限定されないため、使用方法によりそれぞれの素材が選択されたものとみられる。また、素材が限定される着柄式刺突具や棒状角製品は大きさにまとまりが見られ、多様な素材を用いている刺突具は大きさもまた多様である（第315図）。なお、それぞれ大きさについて層位別（時期別）の変化を捉えると[註19)]、刺突具において、下層出土のもので大型のものが含まれる傾向が見られるが、それ以外の変化はあまり見られない。

[弭]

弭は19点出土している。出土層位はⅥe2層からⅥb1層まで広範囲にわたる。素材はすべてシカ角である。類型別に見ると、大型で装飾的な彫刻が施され、受けが貫通しないA類が大部分を占める。

[簪]

簪は32点出土している。出土層位はⅥc7層からⅥa層である。素材はシカなどの大型獣の骨や角であるが、素材が判明しているものでは骨製のものが多い。頭部に装飾が施されるものがほとんどであり、なかでも装飾帯が広く装飾性の高いA類が多く見られる。刺突具等の棒状の道具類と比べて幅が小さく、長さの範囲が大きくなる傾向がある。

[垂飾類]

猪牙製垂飾が23点、垂飾が24点、管状垂飾が18点、環状製品が2点出土している。出土層位はⅥd層からⅥa層まで広範囲にわたるが、Ⅵc4層からⅥb2層にかけてやや多い。垂飾全体では、イノシシ歯牙製のものが最も多く、鳥類骨製が次に多く見られる。ほかにシカやクマ、ヒト骨、シカ角、オオカミ歯、サメの骨や歯、巻貝の軸などがあり、ほかの器種と比べて素材の種類が豊富である。大きさや形状も多様であり、素材の形状を生かしたものが多く見られる。

[儀仗]

儀仗は3点出土している。2点がシカ角製で、1点が大型獣骨製である。一端が尖頭状となり、残る一端に装飾性の高い加工が施されるものがあり、線刻による工字文の表現や、削り出しによる動物の頭部様の彫刻が施されている。

[不明製品]

不明製品としたものは12点あるが、うちA類とした5点は、基部の一辺が直線状を呈する点が特徴である。すなわち、組み合わせ式ヤスと同様に柄に固定して使用されたと想定されるが、全体として平坦な形状で、基部には貫通孔が施される点で両者は異なる。また、先端部は羽根状に薄く成形し、刻みによる装飾が施される点も異なり、その装飾性の高さから、儀器のような非実用的なものであったと考えられる。

第２節　遺　構

平成 22 年度の発掘調査では、縄文時代から弥生時代前期の掘立柱建物跡 48 棟（建て替えを含む）、竪穴状遺構 1 基、石斧集積遺構 1 基、埋葬犬骨 5 基、土坑 9 基、溝跡 2 条、沢跡 1 条、焼け面 1 箇所、焼土集積 5 箇所、ピット多数を検出したほかに、遺物包含層を 5 箇所で検出した。遺構検出面の層位や出土遺物から、これらの遺構は縄文時代早期中葉から弥生時代前期中葉頃に形成されたものとみられる。本節では、はじめに遺構の種類ごとに時期や性格等について検討し、次に各地点における遺構群の時期やその変遷、性格等を検討する。

1. 主要な遺構の時期と特徴

本項では、検出数の多い掘立柱建物跡と、他の遺跡ではあまり見られない希少性のある埋葬犬骨、および遺構が機能していた時間幅の大きい沢跡に着目し、それぞれの時期や特徴について検討する。

（1）掘立柱建物跡

①建物跡の分類と特徴

掘立柱建物跡は 48 棟確認し、東 C 丘陵南斜面（F-29 区）で 5 棟、東 C・D 丘陵間にある小丘陵突端部（F-23 区）で 43 棟検出した。これらの建物跡は柱の配置から、建物の梁行側面中央柱が外に張り出す五角形の建物跡、1 間 × 1 間の四本柱構造の建物跡、桁行が 2 間以上となる建物跡に分類される。

五角形の建物跡は 12 棟確認し、すべて東 C・D 丘陵間で検出している。いずれも 1 間 × 1 間の梁行側に張出部の付く五本柱構造である。桁行総長が 2.2 ～ 3.4m、梁行総長が 1.5 ～ 3.0m ある。平面形は張出部を除くと正方形と長方形を呈するものがあり、後者が多い。張出部は東を向くものが 2 棟、南を向くもの 7 棟、西を向くものが 3 棟ある。これらの建物跡は、F-23 区で柱穴が検出された範囲のほぼ全域で確認される。このように、五角形建物跡と同様の構造により多角形となる建物跡は、本遺跡では東 C 丘陵西端部において 5 棟確認している（宮城県教育委員会　2014）。県内では蔵王町鍛冶沢遺跡で 6 棟確認し、後期後葉から晩期中葉の時期に位置づけられた（宮城県教育委員会　2010a）。また、東北地方では各県で確認されているが、なかでも、山形県下叶水遺跡（晩期前葉から後葉、山形県埋蔵文化財センター　2009）、福島県田子平遺跡（後期末葉から晩期初頭、福島県文化振興事業団　2010）、西田 H 遺跡（晩期中葉、福島県文化振興事業団　2005）などで複数の建物跡が確認されている。さらに新潟県内では、剣野 B 遺跡（後期後葉から晩期中葉、柏崎市教育委員会　2011）や元屋敷遺跡（晩期後葉、朝日村教育委員会　2002）、青田遺跡（晩期後葉、新潟県埋蔵文化財調査事業団　2004）では 10 ～ 50 棟程度の建物跡が確認されるなど、東北地方と比べて建物数や遺跡数が多い。

1 間 × 1 間の四本柱構造の建物跡は 33 棟確認し、東 C 丘陵南斜面で 5 棟、東 C・D 丘陵間で 28 棟検出した。東 C 丘陵南斜面で検出した建物跡は、すべてこの形態である。正方形のものが 1 棟、長方形のものが 4 棟あり、桁行総長が 1.4 ～ 2.2m、梁行総長が 1.4 ～ 1.6m ある。3 棟と 2 棟がそれぞれ

同じ位置で重複していることから、建物の位置をやや変えながら2箇所で建て替えが行われたものと見られる。東C･D丘陵間では正方形のものが13棟、長方形のものが15棟検出した。桁行総長が1.8～4.2m、梁行総長が1.4～3.9mある。五角形の建物跡と同様に、F-23区で柱穴が検出された範囲のほぼ全域で確認され、一部の建物は、この範囲の北西や南西部に位置する丘陵の落ち際や、そこから延びる微高地上につくられたものとみられる。四本柱構造の建物跡は、本遺跡では東C丘陵西端部で9棟確認している（宮城県教育委員会　2014）。県内では鍛冶沢遺跡で31棟確認されており、晩期中葉に位置づけられた（宮城県教育委員会　2010a）。また、この構造の建物跡は、東北地方の縄文時代晩期の遺跡では最も多く見られるものである。なかでも、青森県川原平（1）遺跡（後期後葉から晩期後葉、青森県埋蔵文化財調査センター　2017）や岩手県長倉Ⅰ遺跡（晩期前葉、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2000）、上杉沢遺跡（晩期中葉、浄法寺町教育委員会　2001）、長谷堂貝塚（晩期後葉主体、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1999・2001・2004）、山形県下叶水遺跡（後期後葉から晩期後葉、山形県埋蔵文化財センター　2009）、福島県田子平遺跡（後期末葉から晩期前葉、福島県文化振興事業団　2010）、宮畑遺跡（晩期前半から後葉、福島市教育委員会　2004、福島市教育委員会・福島市振興公社　2005）では10～50棟程度の建物跡が確認されている。

桁行が2間以上となる建物跡は3棟確認し、すべて東C・D丘陵間で検出した。桁行2間以上、梁行1間の建物跡が2棟、桁行5間、梁行2間の建物跡が1棟あり、平面形がいずれも長方形を呈する。桁行総長が4.6～6.7m、梁行総長が3.2～3.8mある。これらの建物は互いに重複することなく、丘陵の縁辺に沿うように点在する。このような建物跡は、本遺跡では東C丘陵西端部で5棟確認している（宮城県教育委員会　2014）。県内では鍛冶沢遺跡で6棟確認され、晩期中葉に位置づけられた（宮城県教育委員会　2010a）。ほかの構造の建物跡より少なく、本遺跡も含めて東北地方全体でもあまり多く見られないものである。これらは、青森県五月汝菟遺跡（晩期中葉、五所川原市教育委員会　2017）、川原平（1）遺跡（晩期中葉、青森県教育委員会　2017）、岩手県長倉Ⅰ遺跡（晩期前葉、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2000）、大橋遺跡（晩期中葉、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2006）、杉の堂遺跡（晩期中葉から後葉、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2020）、秋田県戸平川遺跡（晩期中葉、秋田県教育委員会　2000）、新潟県石神澤田遺跡（後期末葉から晩期初頭、上越市教育委員会　2008）などでわずかに確認されている。

ここで、掘立柱建物跡の床構造について検討する。本調査で検出した建物跡では床面に伴う構築物は検出されていない。また、遺構形成時の地表面を床と想定した場合、炉跡や炭化物集中などの遺構は、建物群と重複する同一平面上では確認されなかった。F-23区の丘陵頂部では、遺構検出面の直上層が後世の大規模洪水層であるⅤ層に覆われており、これにより一定の範囲で遺物包含層が削平されていたため、建物の床も同様に削平されている可能性もある。しかしながら、F-23区やF-29区の丘陵裾部では、柱穴掘込面の直上が遺物包含層（Ⅵ層）に覆われるものも少なくなく、これらの建物跡では床面の構築や使用の痕跡は確認されていない。したがって、最も蓋然性のある床構造は高床とみられ、多く存在するものと考えられる。

本遺跡においては、東C丘陵西端部の丘陵頂部で、遺構が希薄となる場所（広場）を囲むように、

第38表　掘立柱建物跡の分類と推定時期

遺構名	位　置	検出面	掘込面	遺構直上層	平面形	間数	出土土器の型式	柱材の暦年較正年代（1 σ）	遺構の新旧関係	推定時期	大洞 BC 以前	大洞 C1	大洞 C2	大洞 A	大洞 A'	弥生前期
SB153	F-23 区北	Ⅸ層	-	-	長方形	1 × 1	大洞 A 古	-	SB156 → SB153 → SD124	大洞 A 古～				古◎	○	○
SB154	F-23 区北	Ⅸ層	-	-	長方形	1 × 1	大洞 B	-	SB154 → SD124	大洞 B ～	○	○	○	○	○	○
SB155	F-23 区北	Ⅸ層	-	-	長方形	1 × 1	大洞 C1	817-798calBC	SB156 → SB155 → SD124	大洞 C2 新			新◎			
SB156	F-23 区北	Ⅸ層	-	-	長方形	2 以上 × 1	-	-	SB156 → SB153 SB156 → SB155 SB156 → SB159 → SB157 SB156 → SK138	～大洞 C2 新	○	○	新○			
SB157	F-23 区北	Ⅸ層	-	-	五角形	1 × 1	-	-	SB156 → SB159 → SB157	不明	○	○	○	○	○	○
SB158	F-23 区北・Aa	Ⅷ層	-	-	正方形	1 × 1	-	-		不明	○	○	○	○	○	○
SB159	F-23 区北	Ⅸ層	-	-	長方形	1 × 1		-	SB156 → SB159 → SB157	不明	○	○	○	○	○	○
SB160	F-23 区 Ab-Ba	Ⅸ層	-	-	五角形	1 × 1	-	-	SB163 → SB160 SB169 → SB167 → SB160 SB160 → SB165"	大洞 C1 ～		○	○	○	○	○
SB161	F-23 区 Ba-Bb	Ⅵ e5 層	-	-	正方形	1 × 1	大洞 C2?	-		大洞 C2 ～			◎	○	○	○
SB162A	F-23 区 Ab-Bb	Ⅵ e5 層	Ⅵ e5 層	Ⅵ d 層	正方形	1 × 1	大洞 C1	-	SB163 → SB162A・B → SB165 SB162A → SB162B	大洞 C1 ～ C2 古		◎	古○			
SB162B	F-23 区 Ab-Bb	Ⅵ e5 層	Ⅵ e5 層	Ⅵ d 層	正方形	1 × 1	大洞 C2	-	SB163 → SB162A・B → SB165 SB162A → SB162B	大洞 C2 古			古◎			
SB163	F-23 区 Ab-Bb	Ⅵ e5 層	-	-	正方形	1 × 1	-	-	SB163 → SB160 SB163 → SB162A・B → SB165	大洞 C1 ～ C2 古		○	古○			
SB164	F-23 区 Ba-Ca	Ⅵ e3 層	-	-	正方形	1 × 1	-	-	SK137 → SB164 → SB166 SB164 → SK123	大洞 C2 古			古○			
SB165	F-23 区 Ba-Bb	Ⅵ e5 層	-	-	長方形	1 × 1	大洞 C1	-	SB160 → SB165 SB163 → SB162A・B → SB165	大洞 C2 古～			古○	○	○	○
SB166	F-23 区 Ba-Bb	Ⅵ e5 層	Ⅵ e5 層	Ⅵ d 層	五角形	1 × 1	大洞 C1	-	SK137 → SB164 → SB166	大洞 C2 古			古○			
SB167	F-23 区 Ab-Ba	Ⅸ層	-	-	正方形	1 × 1	-	-	SB169 → SB167 → SB160 SK137 → SB167	不明	○	○	○	○	○	○
SB168	F-23 区 Ab-Ba・東	Ⅵ e5 層	Ⅵ e5 層	Ⅵ d 層	長方形	5 × 2	大洞 C1?	-	SB183 → SB168 → SK142 → SB175 SB184A・B → SB168	大洞 C2 古			古○			
SB169	F-23 区 Ab-Ba・東	Ⅸ層	-	-	長方形	1 × 1	-	-	SB169 → SB167 → SB160	不明	○	○	○	○	○	○
SB170	F-23 区 Aa-Ba・東	Ⅸ層	-	-	長方形	1 × 1	-	-		不明	○	○	○	○	○	○
SB171	F-23 区 Aa	Ⅸ層	-	-	長方形	1 × 1		-		不明	○	○	○	○	○	○
SB172	F-23 区 Aa-Ab・東	Ⅷ層	-	-	五角形	1 × 1	大洞 BC	797-761calBC 895-826calBC （柱材 ?）	SB173 → SB172 → SB175	大洞 C2 新			新◎			
SB173	F-23 区 Aa-Ab・東	Ⅷ層	-	-	長方形	1 × 1	-	-	SB173 → SB172 → SB175	～大洞 C2 新	○	○	新○			
SB174	F-23 区 Aa・東	Ⅸ層	-	-	五角形	1 × 1	-	-		不明	○	○	○	○	○	○
SB175	F-23 区東	Ⅸ層	-	-	五角形	1 × 1	-	-	SB183 → SB168 → SK142 → SB175 SB173 → SB172 → SB175	大洞 C2 新～			新○	○	○	○
SB176	F-23 区東	Ⅸ層	-	-	長方形	1 × 1	大洞 C2	-		大洞 C2 ～			◎	○	○	○
SB177	F-23 区東	Ⅸ層	-	-	正方形	1 × 1	-	-		不明	○	○	○	○	○	○
SB178	F-23 区東	Ⅸ層	-	-	正方形	1 × 1	-	-		不明	○	○	○	○	○	○
SB179	F-23 区東	Ⅸ層	-	-	正方形	1 × 1	-	-	SK140 → SB179 → SB180	不明	○	○	○	○	○	○
SB180	F-23 区東	Ⅷ層	-	-	長方形	1 × 1	-	-	SK140 → SB179 → SB180 SB183 → SB180	大洞 C2 古～			古○	○	○	○
SB181	F-23 区東	Ⅸ層	-	-	長方形	1 × 1	-	-	-	不明	○	○	○	○	○	○
SB182A	F-23 区東	Ⅸ層	-	-	五角形	1 × 1	大 洞 C2 新 -A 古	-	SB187 → SB184B → SB182A・B SB184A・B → SB182A・B SB186 → SB182A・B SK140 → SB182A・B SK143 → SB182A・B SB182A → SB182B	大洞 C2 新～			新◎	◎	○	○
SB182B	F-23 区東	Ⅸ層	-	-	五角形	1 × 1	大 洞 C2 新 -A 古	-	SB187 → SB184B → SB182A・B SB184A・B → SB182A・B SB186 → SB182A・B SK140 → SB182A・B SK143 → SB182A・B SB182A → SB182B	大洞 C2 新～			新◎	◎	○	○
SB183	F-23 区東	Ⅵ e3 層	-	-	五角形	1 × 1	-	-	SB183 → SB168 → SK142 → SB175 SB183 → SB180	大洞 C2 古			古○			
SB184A	F-23 区東	Ⅵ e3 層	-	-	正方形	1 × 1	大洞 C1	-	SB185 → SB184A・B → SB168 SB186 → SB184A・B SK141 → SB184A・B SB184A・B → SB182A・B SB184A → SB184B	大洞 C2 古			古○			
SB184B	F-23 区東	Ⅷ層	-	-	正方形	1 × 1	大洞 C1	-	SB185 → SB184A・B → SB168 SB186 → SB184A・B SB187 → SB184B SK141 → SB184A・B SB184A・B → SB182A・B SB184A → SB184B	大洞 C2 古			古○			
SB185	F-23 区東	Ⅵ e3 層	-	-	長方形	1 × 1	大洞 C2	-	SB185 → SB184A・B → SB168 SB185 → SK141	大洞 C2 古			古◎			
SB186	F-23 区東	Ⅵ e3 層	-	-	五角形	1 × 1	-	-	SB186 → SB182A・B SB186 → SB184A・B SB186 → SB188 SB186 → SB192	大洞 C2 古			古○			
SB187	F-23 区東	Ⅷ層	-	Ⅵ d 層	長方形	2 以上 × 1	-	-	SB187 → SB184B → SB182A・B SB187 → SB191 → SB188 SB187 → SB190	～大洞 C2 古	○	○	古○			
SB188	F-23 区東	Ⅵ e3 層	-	Ⅵ d 層	長方形	1 × 1	-	-	SB186 → SB188 SB187 → SB191 → SB188	大洞 C2 古			古○			
SB189	F-23 区東	Ⅷ層	-	Ⅵ d 層	長方形	1 × 1	-	-		～大洞 C2 古	○	○	古○			
SB190	F-23 区東	Ⅵ e3 層	-	Ⅵ d 層	五角形	1 × 1	-	-	SB187 → SB190	大洞 C2 古			古○			
SB191	F-23 区東	Ⅵ e3 層	-	Ⅵ d 層	五角形	1 × 1	-	-	SB187 → SB191 → SB188	大洞 C2 古			古○			
SB192	F-23 区東	Ⅵ e3 層	-	-	正方形	1 × 1	-	449-401calBC	SB186 → SB192	大洞 A' ～					◎	◎
SB193	F-29 区拡張部分	3 層群	-	-	長方形	1 × 1	-	-	SB193 → SB194 SB193 → SB195	大洞 A'					○	
SB194	F-29 区拡張部分	3 層群	3 層群	2A 層群	長方形	1 × 1	-	-	SB193 → SB194	大洞 A'					○	
SB195	F-29 区拡張部分	3 層群	3 層群	2A 層群	正方形	1 × 1	大洞 A	-	SB193 → SB195	大洞 A'					○	
SB196	F-29 区拡張部分	Ⅸ層	-	-	長方形	1 × 1	-	-	SB196 → SB197	大洞 A'					○	
SB197	F-29 区拡張部分	Ⅷ層	-	-	長方形	1 × 1	-	-	SB196 → SB197	大洞 A'					○	

第39表　遺構の推定時期

遺構名	種　別	調査区	検出面	遺構直上層	土器型式	遺物の暦年較正年代（1 σ）	遺構の新旧関係	推定時期	大洞 BC 以前	大洞 C1	大洞 C2	大洞 A	大洞 A'	弥生前期
SX145	竪穴状遺構	F-29 区拡張部分	3 層群	2 層群	-	797-773calBC（柱材？）		（大洞 A ～）大洞 A'					○	
SX129	焼土集積	F-29 区	2 層群	-	-	-		大洞 A' ～					○	○
SX130	焼土集積	F-30 区	2 層群	-	-	-		大洞 A' ～					○	○
SX144	焼土集積	F-29 区	2B 層群	2A 層群	-	-		大洞 A'					○	
SX131	石斧集積遺構	F-23 区東	Ⅵ d 層	-	-	-		大洞 A 古～				古○	○	○
SK125	埋葬犬骨（1 体）	F-23 区 Fa	Ⅵ c4 層	Ⅵ c3 層	-	-		大洞 A 中～新				○		
SK127	埋葬犬骨（2 体）	F-23 区 Db	Ⅵ e2 層	Ⅵ d 層	-	-		大洞 C2 古（～大洞 C2 新）			古○			
SK128	埋葬犬骨（1 体）	F-23 区 Ea	Ⅵ c7-13 層	Ⅵ b2 層	-	806-791calBC（肋骨）	Ⅵ d 層より上位	大洞 C2 新（～大洞 A 中）			新◎			
SK134	埋葬犬骨（1 体）	F-23 区 Eb	Ⅵ b2 層	-	-	895-827calBC（左第 3 中足骨）	Ⅵ c7-13 層より上位（遺体のみ再堆積か）	大洞 C2 古（～大洞 A'）			古◎			
SK135	埋葬犬骨（1 体）	F-23 区 Eb	Ⅵ c4-6 層	Ⅵ b2 層	-	971-851calBC（左第 3 中足骨）	Ⅵ c7-13 層より上位（遺体のみ再堆積か）	大洞 C1 ～ C2 古（～大洞 A 新）		◎	古◎			
SK123	土坑	F-23 区 Bb	Ⅵ d 層	-	-	-	SB164 → SK123	大洞 A 古～				古○	○	○
SK136	土坑	F-23 区東・中央	Ⅸ層	-	-	-	SK136 → P455	不明	○	○	○	○	○	○
SK137	土坑	F-23 区 Ba	Ⅸ層	-	-	-	SK137 → P540 → SB164 → SB166 → P539 SK137 → P540 → SB167	～大洞 C2 古	○	○	古○			
SK138	土坑	F-23 区 Ab	Ⅸ層	-	-	-	SB156 → SK138	不明	○	○	○	○	○	○
SK139	土坑	F-23 区 Ba	Ⅸ層	-	-	-	SK139 → P534 → P533	不明	○	○	○	○	○	○
SK140	土坑	F-23 区東・中央	Ⅸ層	-	-	-	SK140 → SB179 → SB180 SK140 → SB182A・B SK140 → P560	不明	○	○	○	○	○	○
SK141	土坑	F-23 区東・中央	Ⅷ層	-	-	-	SB185 → SK141 P557 → SK141 → SB184A → SB184 P557 → SK141 → P509	大洞 C2 古			古○			
SK142	土坑	F-23 区東・北西	Ⅸ層	-	-	-	SB183 → SB168 → SK142 → SB175 SK142 → P550	大洞 C2 古～			古○	○	○	○
SK143	土坑	F-23 区東・中央	Ⅷ層	-	-	-	SK143 → SB182A SK143 → P561 SK143 → P562 SK143 → P563	不明	○	○	○	○	○	○
SD124	溝跡	F-23 区北	Ⅷ層	-	-	-	SB156 → SB153 → SD124 SB154 → SD124 SB156 → SB155 → SD124	大洞 A 中～				中○	○	○
SX126	焼け面	F-23 区 Ca	Ⅵ e3 層	Ⅵ d 層	-	-		大洞 C2 古			古○			
SX132	焼土集積	F-23 区東	Ⅵ d 層	-	-	-	SB191 → P566 → SX132	大洞 A 古～				古○	○	○
SX133	焼土集積	F-23 区東	Ⅵ d 層	-	-	-		大洞 A 古～				古○	○	○
SX151A	沢跡	F-70 区南	Ⅸ層	-	-	7032-6829calBC（オニグルミ） 7028-6824calBC（ハクウンボク）	SX151A → SX151B・SX151C	早期中葉	◎					
SX151B	沢跡	F-70 区南	Ⅸ層	Ⅵ d 層	-	1385-1268calBC（ヒシ属） 1287-1212calBC（オニグルミ）	SX151A → SX151B・SX151C → SX151D	後期前葉？ ※堆積土上部は後期後葉から晩期初頭の堆積か	○					
SX151C	沢跡	F-70 区南	Ⅸ層	-	-	2297-2206calBC（ハクウンボク） 2278-2145calBC（ミズキ）	SX151A → SX151B・SX151C → SX151D	後期前葉	◎					
SX151D	沢跡	F-70 区南	-	Ⅵ d 層	後期初頭	1958-1892calBC（トチノキ） 1944-1887calBC（トチノキ）	SX151B・SX151C → SX151D → SX151E	後期前葉	◎					
SX151E	沢跡	F-70 区南	-	-	-	2286-2200calBC（ハクウンボク） 405-389calBC（トチノキ）	SX151D → SX151E → SD152A	弥生時代前期						◎
SX151F	沢跡	F-70 区南	Ⅵ a 層	-	大洞 A'	1220-1228calBC（クリ） 1107-997calBC（オニグルミ） 769-556calBC（トチノキ） 514-412calBC（土器付着炭化物）	SD152B → SX151F → SX151G	弥生時代前期～中期						○
SX151G	沢跡	F-70 区南	Ⅵ a 層	-	大洞 A'	397-367calBC（トチノキ） 392-239calBC（クワ属） 380-234calBC（トチノキ） 365-211calBC（トチノキ）	SX151F → SX151G	弥生時代前期～中期						◎
SD152A	溝跡	F-70 区南	-	Ⅵ c 層	-	-	SX151E → SD152A → SD152B	弥生時代前期						○
SD152B	溝跡	F-70 区南	Ⅷ層	Ⅵ c 層	-	-	SD151A → SD152B → SX151F	弥生時代前期						○

丘陵の縁辺に沿って建物跡がつくられており、建物跡の近辺で竪穴建物などの居住施設や、貯蔵穴などの貯蔵施設が確認されていないことから、居住施設もしくは倉庫の役割が考えられた（宮城県教育委員会　2014）。県内における先行事例となる鍛冶沢遺跡においても、特にⅡ区で検出した大型の四本柱構造建物跡群が、広場と考えられる空閑地を扇状に囲むように配置され、食料や日常生活、祭祀

道具などを保管した倉庫の可能性が指摘されている（宮城県教育委員会　2010a）。本調査においても、東C・D丘陵間で検出した柱穴群は、調査区の北東側で希薄となり、建物跡も少なくなる傾向が見られる。一方で、丘陵の縁辺に沿うように柱穴が密集し、建物跡が何棟も重複する状況も確認され、東C丘陵西端部と共通する現象が認められる。また、建物跡と同じ調査区では竪穴建物跡や貯蔵穴などが検出されていないことから、本地点における建物跡は、これまでの県内における調査事例と同様に居住施設や倉庫の役割が考えられる。さらに、建物跡群の外側に焼け面や焼土集積が確認される一方で、これらの建物群の内部に炉跡や焼け面などが確認されず、また床構造もふまえると、高床の倉庫に位置づけられる可能性がより大きいものとみられる。

東C丘陵南斜面で検出した掘立柱建物跡は、桁行総長が1.4～2.2m、梁行総長が1.4～1.6mと、東C・D丘陵間で検出した建物群よりも小型で、柱の配置には多様性が認められない。加えて、ピットを含む柱穴の分布密度も小さいことから、この地点では、小型の建物が少数存在していた様子がうかがえる。また、近接して竪穴状遺構がつくられ、さらに建物跡の外側に焼土集積が確認される一方で、これらの内部では炉跡や焼け面などが確認されず、また床構造の検討もふまえると倉庫の可能性が考えられる。

②建物跡の時期

本項では掘立柱建物跡の推定時期について検討する。なお、これらの建物跡を構成する柱穴はすべて、弥生時代前期の洪水堆積層であるⅤ層に覆われていることから、これらの年代の下限は弥生時代前期となる。したがって、これらの弥生時代前期以前の建物跡について、遺構の掘り込みや検出層位、柱材の炭素年代、出土遺物、遺構の重複関係等を踏まえ、これらの時期をさらに絞り込むこととする。

［東C丘陵南斜面の建物跡（5棟）］

東C丘陵南斜面で確認した5棟のうち、西側のSB194・195建物跡の遺構掘込面がⅥg層（3層群）であり、その直上をⅥc層（2A層群）が覆う。遺物包含層出土土器の分析から、これらの層の形成時期は、3層群が不明で、2A層群が晩期末葉と推定される。また、柱穴から晩期後葉の深鉢が出土している。SB194・195建物跡は、SB193建物跡も含めて同じ位置での建て替えとみられることから、西側の3棟は晩期末葉（晩期6期、大洞A'式）に位置づけられる。一方で、東側の2棟（SB196・197）は、遺構掘込・検出層位や出土遺物から時期の確定は難しいが、西側3棟と同様の構造および規模の建物跡であることから、同じ時期のものとみられる。

［東C・D丘陵間の建物跡（43棟）］

東C・D丘陵間で確認した43棟のうち、SB162A・162B・166・168建物跡は、遺構掘込面がⅥe5層でその直上をⅥd層が覆い、また、SB188・190・191建物跡は、遺構検出面がⅥe3層でその直上をⅥd層が覆う。遺物包含層から出土した土器の分析から、Ⅵe3層は晩期中葉前半（晩期3期、大洞C1式）、Ⅵd層は晩期中葉後半から後葉（晩期4b期から5a期、大洞C2式新段階から大洞A式古段階）と推定され、Ⅵe5層からは大洞C1式の土器がわずかに出土している。上記のほかに、建物跡を構成する柱穴の遺構検出面が遺物包含層となり、建物跡の上限年代が押さえられるものとし

て、Ⅵe5 層が検出面の SB161・163・165 建物跡と、Ⅵe3 層が検出面の SB183・184A・185・186・192 建物跡がある。以上から、本地点における建物跡のうち、遺構掘込面や検出面の層位から時期がわかるものは、いずれも晩期中葉前半以降であり、一部の建物跡は晩期中葉後半（晩期 4b 期、大洞 C2 式古段階）までに年代が押さえられる。

次に、出土遺物から建物跡の時期を推定する。建物跡周辺の遺物包含層から出土した遺物のうち、一定量の出土が見られるようになる時期は後期後葉以降である。したがって、建物跡の年代の上限は後期後葉と推定される。また、建物跡を構成する柱穴からは、それぞれの柱穴において大洞 A 式古段階までの土器が出土しており、洪水堆積層による下限の年代と矛盾は生じない。さらに、一部の柱穴では柱材が残存しており、それぞれの暦年較正年代（1σ）は、SB155 建物跡が 817 ～ 798calBC で晩期中葉に相当する年代（小林　2019、以下同）、SB172 建物跡が 797 ～ 761calBC で晩期中葉に相当する年代、SB192 建物跡が 449 ～ 401calBC で晩期末葉から弥生時代前期に相当する年代である。

以上の検討に加えて、遺構の重複関係を加味すると、本地点における建物跡の時期は以下のように推定される。

後期後葉から晩期中葉（大洞 C2 式古段階まで）：SB187、SB189

晩期中葉（大洞 C1 式から大洞 C2 式古段階まで）：SB162A、SB163

晩期中葉（大洞 C2 式古段階）：SB162B、SB164、SB166、SB168、SB183、SB184A・B、SB185、SB186、SB188、SB190、SB191

後期後葉から晩期中葉（大洞 C2 式新段階まで）：SB156、SB173

晩期中葉（大洞 C2 式新段階）：SB155、SB172

後期後葉から弥生時代前期：SB157、SB158、SB159、SB167、SB169、SB170、SB171、SB174、SB177、SB178、SB179、SB181

晩期前葉から弥生時代前期：SB154

晩期中葉から弥生時代前期：（大洞 C1 式以降）SB160

（大洞 C2 式古段階以降）：SB165、SB180

（大洞 C2 式以降）SB161、SB176

（大洞 C2 式新段階以降）SB175、SB182A・B

晩期後葉から弥生時代前期：SB153

晩期末葉から弥生時代前期：SB192

時期を絞り込めないものが多いが、晩期中葉を中心としてその前後に多くの建物跡がつくられたものと推定される。また、時期を特定できた晩期中葉で区分すると、大洞 C2 式古段階以前の建物跡が 16 棟、大洞 C2 式新段階以降の建物跡が 7 棟と、晩期中葉以前の建物跡が多い。柱配置による分類を加味すると、五角形および四本柱構造の建物跡は両方の時期に存在するが、桁行が 2 間以上となる長方形の建物跡は古い時期のみに存在するという点で差異が認められる。一方で、建物の配置では、いずれの時期においても、調査区北東方向にある遺構が希薄となる場所を中心として、丘陵の縁辺に沿うように建物跡が展開する点において共通する。

(2) 埋葬犬骨

埋葬犬骨は東C･D丘陵間（F-23区）で5基検出し、Ⅵb2層、Ⅵc4層、Ⅵc4～6層、Ⅵc7～13層、Ⅵe2層からそれぞれ1基ずつ検出した。5基のうち1基が2体合葬、残る4基は1体ずつの単独葬である。また、一部の骨がまとまって検出しているイヌが3個体あり、これらを埋葬犬骨と認定するならば計8基に上る。なお、後者の3基の検出面は、2基がⅥb2層、1基がⅥc4～6層である。

これらの遺構は、F-23区DbグリッドからFaグリッド間に位置し、長さ約9.5m×幅約4mの範囲に形成される。遺物包含層が微高地を形成する場所の端部（落ち際）から斜面部にかけて形成され、この範囲では埋葬犬骨以外の遺構は検出されない。掘立柱建物跡を中心に構成される居住・倉庫域からは9m以上の距離があり、この場はイヌの墓域として利用されたものとみられる。なお、本遺跡では、東C丘陵西端部においてヒトの墓域が形成される南斜面上で3基検出しているが、それぞれが距離をもって散漫に分布する状況が確認される。また、本県の田柄貝塚（晩期前半、宮城県教育委員会　1986a）や前浜貝塚（晩期初頭から中葉、本吉町教育委員会　1979、相原ほか　2013）、里浜貝塚西畑地点（晩期中葉、東北歴史資料館　1982・1986）では、埋葬犬骨に近接して、ヒト（胎児骨を含む）が埋葬されている事例が確認されているが、本地点では、ヒトの全身骨格や埋設土器、土坑などは確認されなかった。ただし、この周辺からヒト骨（胎児骨を含む）の中・小破片が10点以上出土しており、また、本遺跡の東C丘陵西端部やほかの遺跡の事例も考慮に入れると、東C・D丘陵間にある丘陵端部でヒトの墓域が形成された可能性は否定できない。なかでも胎児骨の遺存状態が良いことから、ヒト胎児の墓が近接してつくられた可能性が考えられる。

これらの遺構の時期は、検出面となる遺物包含層の形成時期から晩期中葉から末葉と推定される。しかしながら、5基のうち3基について放射性炭素年代測定を実施したところ、晩期後葉（大洞A式古段階）以降と推定されたSK128、同じく晩期後葉（大洞A式新段階）と推定されたSK135、晩期末葉（大洞A'式）以降と推定されたSK134がいずれも晩期中葉頃の測定結果が得られ、遺構検出面に基づく推定時期とに差異が見られる結果となった。ここで、この差異について検討する。

SK128は、遺構検出面がⅥc7～13層であるが、北側2/3はⅥd層（晩期中葉～後葉）である。遺体の周囲にある遺構堆積土はⅥc7～13層およびⅥd層と異なり、この違いから楕円形のプランが確認される。なお､この堆積土は遺構保存のために検出のみにとどめている。このプランについて、墓壙ではなく遺体に被せた土と解釈することが可能である。この場合、遺構底面がⅥd層中で、遺体を覆う土の周囲にⅥd層以上が堆積したことになり、両者の年代観は整合性をもつこととなる。

一方で、SK134とSK135はSK128と異なり、遺構底面の遺物包含層の年代もまた埋葬遺体の年代測定値よりも新しい。すなわち、新しい時期の包含層中に古い動物骨が混入している状況である。ここで、埋葬犬骨の年代測定結果を改めて検討すると、炭素安定同位体比（δ13）の値が高いことから、水産資源によるリザーバー効果により実際よりも年代値が古くなる傾向にあるという[(註20)]。しかしながら、SK134は年代差が大きいことから、年代測定のみにこの原因を求めることは難しい。年代測定値が実際よりも古くなるこれら2基について、残る3基と比較すると、土坑または埋葬土の範囲が確認されなかった点、また、骨格の一部がやや大きく動き埋葬時の位置をとどめていない点に差異

が認められる。また、これら2基が検出された地点は、水流の影響により崩落した地山層（Ⅸ～X層）をラミナ状に含む水成堆積層で形成された斜面部であるため、埋没後に水の影響を受けやすい場所である。すなわち、検出層位よりも古い遺物包含層にあった遺物が、湖水の侵食作用により原位置からやや動いた状態で再堆積する可能性が十分にある場所と想定される。したがって、SK134およびSK135は、遺物包含層が形成された時期に、新しい時期の遺物とともに再堆積した古い埋葬犬骨の可能性が考えられる。ただし、同じく低地部に位置するSK125については、SK134・135が検出された地点よりも傾斜がやや緩やかになること、土坑状のプランを確認していること、先行するトレンチ調査により四肢骨の一部を欠損しているがほぼ全身の骨格が残っており埋葬姿勢が明瞭であることから、遺構の年代は検出面から推定される年代とみなすことが可能である。

(3) 沢跡・溝跡

東D・E丘陵間にあるF-70区では、遺物包含層と重複するSX151沢跡とSD152溝跡を検出した。特にSX151沢跡からは、土器や石器などの人工遺物とともに、多量の植物遺存体が出土している。本項では、これらの遺構について、年代やその特徴について検討する。

①遺構の時期

SX151沢跡は6回の流路変更、SD152溝跡は1回の掘り直しが確認されており、これらと遺物包含層との重複は以下のとおりである。

SX151（A→B･C→D→E）→SD152（A→B）→Ⅵc層→Ⅵb層→Ⅵa層→SX151（F→G）
SX151D→Ⅵd層→Ⅵc層

遺物包含層から出土した土器の分析から、各層の形成年代は、Ⅵd層が縄文時代晩期末葉、Ⅵc層が弥生時代前期前葉、Ⅵb層およびⅥa層が弥生時代前期前葉から中葉と推定されることから、SX151A～Dは縄文時代晩期末葉以前、SX151EおよびSD152A・Bは弥生時代前期前葉以前、SX151F～Gは弥生時代前期中葉以降に形成されたものとみられる。なお、SX151Dから後期前葉、SX151FとSX151Gから晩期末葉とみられる土器が出土しており、これらの推定年代との矛盾はない。また、SX151Gは大規模洪水堆積層の下位であることから、弥生時代前期以前に形成されたものとみられる。

ここで、SX151沢跡堆積土から出土した遺物のうち、土器付着炭化物や自然木、種実を対象に実施した放射性炭素年代測定結果から、SX151Aが縄文時代早期中葉、SX151CおよびSX151Dが縄文時代後期前葉、SX151EおよびSX151Gが弥生時代前期の年代が推定される（第39表）。また、SX151Fから出土した遺物は晩期末葉以前の年代測定値が得られているが、遺構の重複関係から、弥生時代前期とみられる。

なお、SX151Bは重複関係から早期中葉から後期前葉の時期が考えられるが、出土した遺物（種実）では縄文時代後期後葉から晩期初頭の年代値が得られており、矛盾する結果となっている。このことについては､SX151Bは堆積層上部で晩期末葉の遺物包含層（Ⅵd層）に覆われる箇所があることから、

新しい時期の遺物が混入した可能性が十分に考えられる。遺構の堆積状況から、SX151B は SX151C と同様に SX151A の上位で、SX151A の左右にそれぞれ堆積することから、両者は同じ時期に堆積した可能性がある。

以上から、SX151 および SD152 の形成時期は第 316 図のように推定され、縄文時代早期中葉から弥生時代前期中葉にかけて形成された遺構と判断される。なお、これらの遺構が位置する F-70 区周辺からは、早期中葉および後期前葉から弥生時代前期の遺物が出土している。しかしながら、遺物包含層の形成は晩期末葉以降であることから、晩期後葉以前は丘陵のより高いところを中心に活動が行われたものとみられる。

②遺構の特徴

SX151 沢跡からは植物遺存体が多量に出土しており、なかでも SX151D および SX151F・G で特に多い。これらの堆積層には多様な植物種が包含されているが、トチノキやミズナラ、ミズキ、オニグルミ、ヤマブドウが多く含まれる（分析編第 10 章）。弥生時代前期以降の SX151F・G ではトチノキの出土量が圧倒的に多くなり、検出した範囲では種皮の集積が確認され、いわゆる「トチ塚」の様相を呈する。珪藻化石および花粉化石の分析から、SX151 沢跡の堆積は河川によるものが主体であったとされるが、トチノキが集積する SX151G は穏やかな水域と河川による堆積環境であったとみられる（分析編第 8 章）。したがって、本地点における「トチ塚」の形成は、河川周囲からの流れ込みによる集積によるものと推定される。

また、SX151 沢跡および SD152 溝跡の花粉分析によると、次のような樹木花粉の変化が確認されている（分析編第 8 章）。SX151A ではクリが高率を占め、SX151B ～ D ではクリが低率になる代わりに、コナラ亜属が高率を占める。SD152 および SX151F になるとコナラ亜属が減少し、上部でクリが高率となる。SX151F・G では再びクリが減少し、下部でトチノキが高率を占め、コナラ亜属も比較的高率となる。SX151 は縄文時代早期中葉から弥生時代前期中葉まで長期間にわたって形成された遺構であり、通時的に見た周辺の植生の差異から、土地利用のあり方に伴う近郊の集落の変化を示唆する結果が得られた。

（4）石斧集積遺構

東 C・D 丘陵間では、磨製石斧 3 点を並べた状態で埋没した遺構（SX131 石斧集積遺構）を検出した。検出層位から、晩期後葉（大洞 A 式古段階）以降と推定される。石器や自然礫を 1 箇所に集積した遺構は、本遺跡では他に 4 基確認されている。いずれも遺物が多量に出土した遺物包含層上に形成される点で共通するが、SX131 のみ建物跡と重複する点で差異が認められる。SX131 以外の 4 基の集石遺構は集積された遺物の主体が自然礫や礫石器であり、SX131 は遺物組成の点においても他と異なる。より実用的な遺物が集積されている点において、他の集石遺構と性格の異なるものと言える。なお、縄文時代晩期に磨製石斧が集積された状態で出土した遺跡としては、美里町峯山遺跡（大洞 C2 式主体）があり、磨製石斧が 5 点並んだ状態で出土している（小牛田町史編纂委員会　1970）。

(5) 遺物包含層

F区では遺物包含層を5箇所で検出し、検出層準や出土土器の型式、遺物の年代測定結果から、遺物包含層それぞれのおおよその時期について第316図に示した。縄文時代前期前葉から中葉の遺物包含層が検出された東E丘陵北斜面以外の4箇所は、縄文時代後期後葉以降であり、なかでも縄文時代晩期後半から弥生時代前期を主体とする。これら4箇所の遺物包含層について、時期別に示す。

後期後葉から晩期前葉（大洞BC式）までの遺物包含層は、東C丘陵南斜面、東C・D丘陵間、東D丘陵北斜面で形成されているものと推定される[(註21)]。

晩期中葉（大洞C1～C2式）の遺物包含層は、東C丘陵南斜面3層群、東C・D丘陵間Ⅵe5層からⅥd層が該当する。また、東D丘陵北斜面でこの時期の遺物包含層が形成されたとみられる。これらの遺物包含層は、調査区の大部分の範囲で検出される。

晩期後葉（大洞A式）の遺物包含層は、東C丘陵南斜面3層群、東C･D丘陵間Ⅵd層からⅥc2層、東D丘陵北斜面2B層群が該当する。東C丘陵南斜面と東D丘陵北斜面では調査区の大部分で検出され、広く形成されたとみられるが、東C・D丘陵間では低地部のみに形成される。

晩期末葉（大洞A'式）から弥生時代前期の遺物包含層は4箇所で検出されており、東C丘陵南斜面1～2層群、東C・D丘陵間Ⅵa～Ⅵc1層、東D丘陵北斜面1～2A層群、東D・E丘陵間Ⅵa～Ⅵd層が該当する。東C･D丘陵間では低地および微高地部で形成され、丘陵部では検出されなかった。それ以外の地点では調査区のすべてで検出されることから、広い範囲で形成されたとみられる。

2. F区における各時期の集落の様相

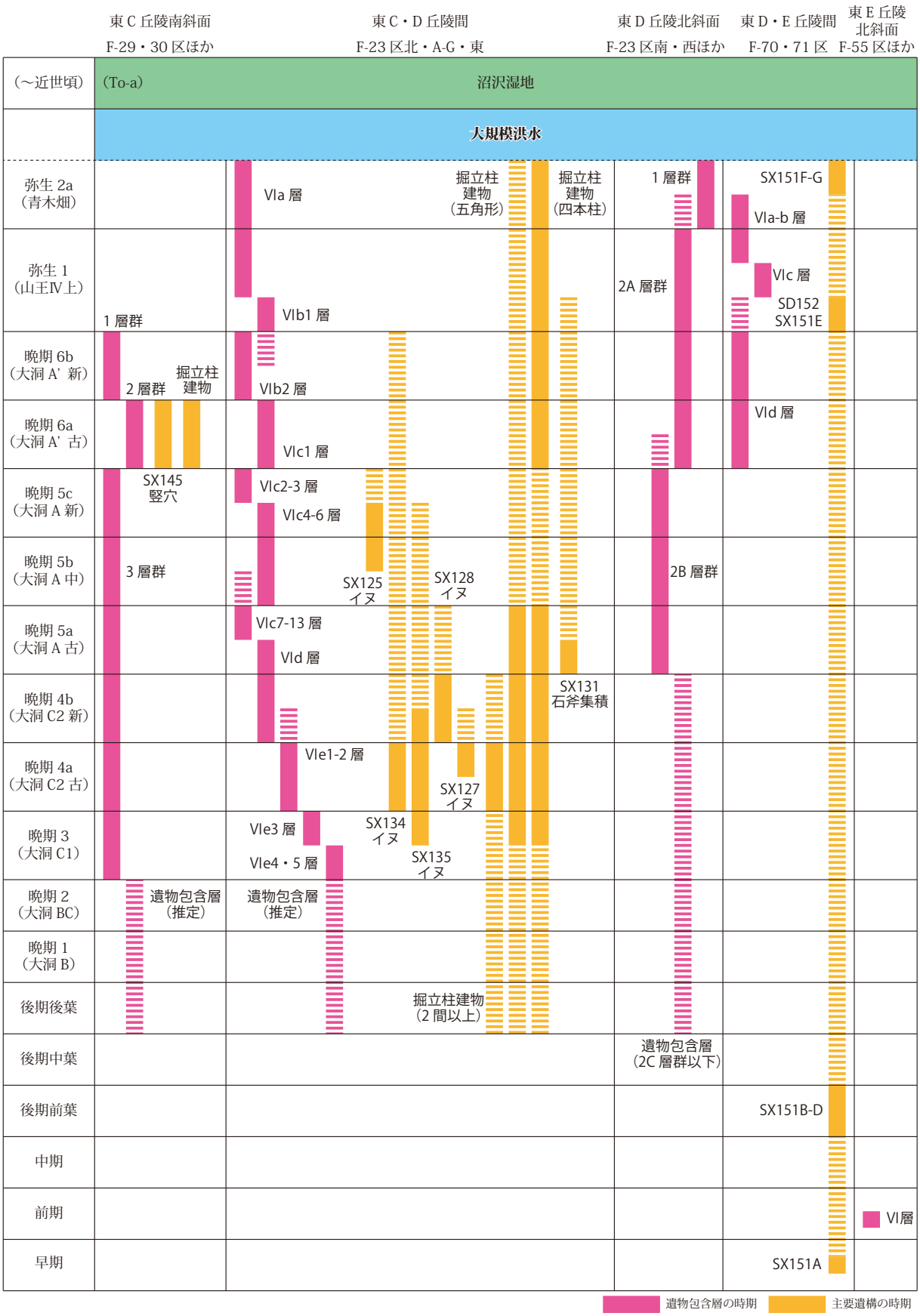
前項では遺構種別ごとにそれぞれの時期や特徴について考察した。本項では、遺構・遺物を最も多く検出した東C・D丘陵間を中心として、各時期における集落構成について検討する。なお、主要遺構の変遷を第316図にまとめ、各時期の主要遺構の分布を第317～319図に示した。

(1) 縄文時代後期後葉から晩期2期（大洞BC式）

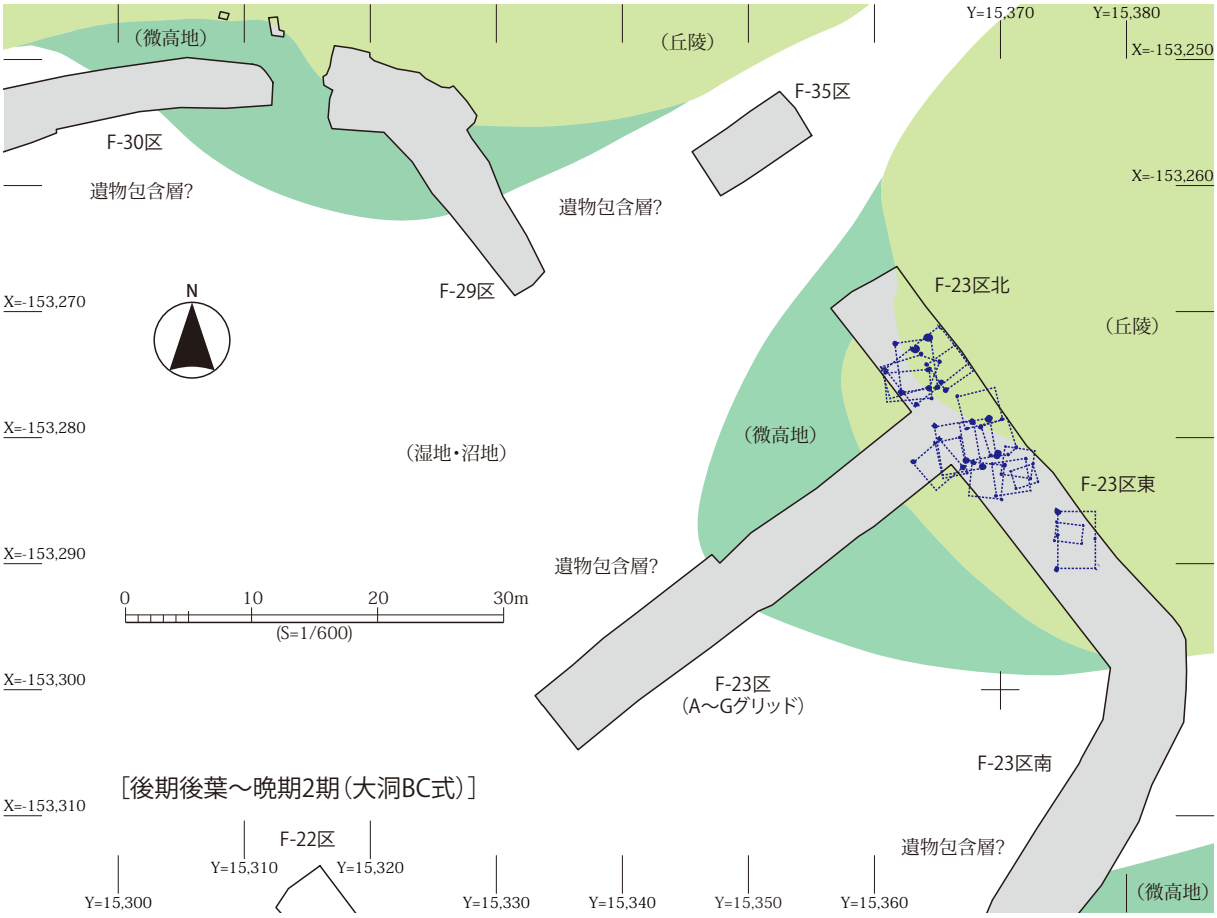
東C・D丘陵間周辺の遺物包含層は、いずれも最下層まで調査を行っていないため、遺物包含層の形成時期の上限は確定できない。ただし、これらの遺物包含層からは後期後葉から晩期前葉の土器が一定量出土していることから、これらの時期以降に形成されたものとみられる。遺物包含層は、東C･D丘陵間において小丘陵を囲むように形成され、小丘陵上では掘立柱建物跡を多数検出している。遺物包含層の形成年代が後期後葉以降と推定されることから、掘立柱建物群もまた後期後葉以降につくられ始めた可能性がある。

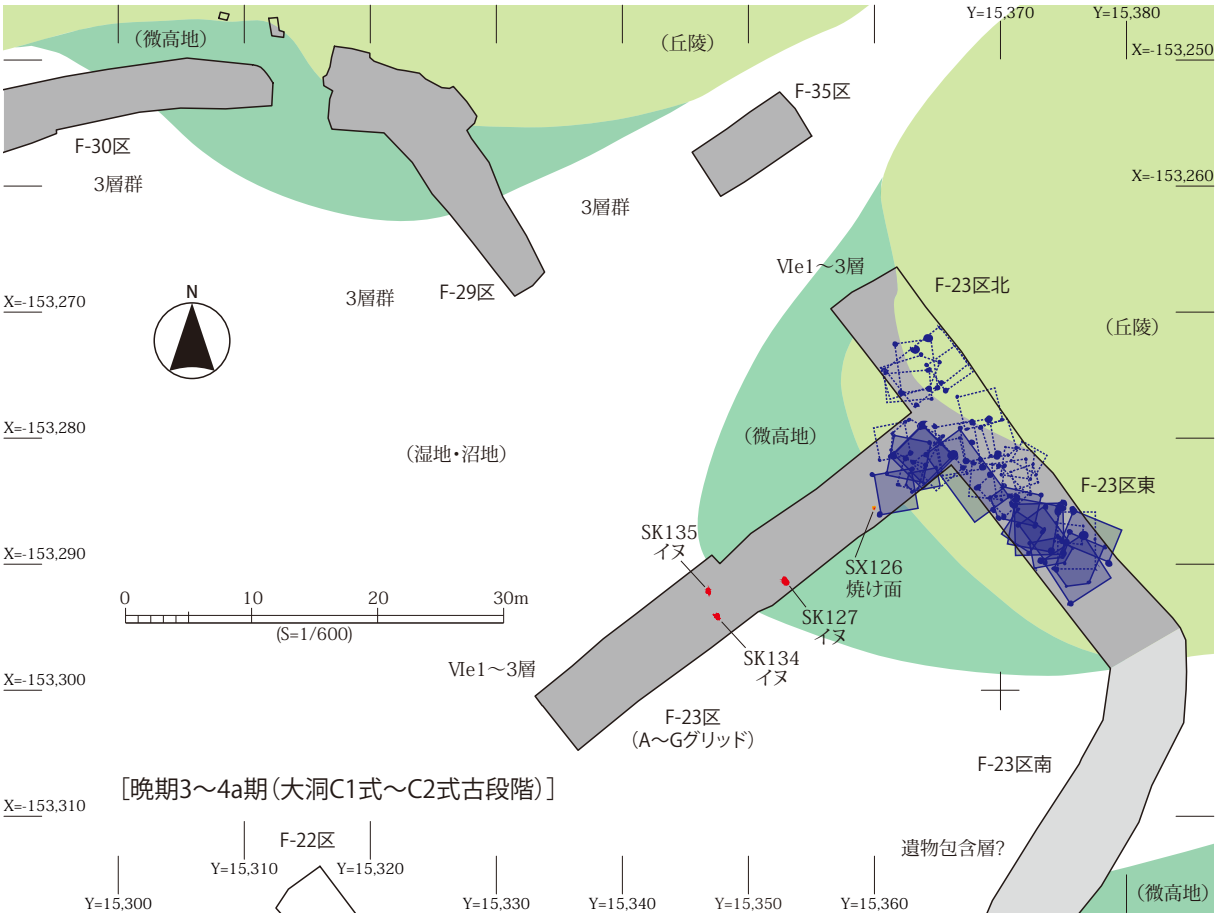
(2) 晩期3期から4a期（大洞C1式～C2式古段階）

東C・D丘陵間の小丘陵上につくられた掘立柱建物のうち時期を特定できるものは、この時期のものが最も多い。これらの建物は丘陵の縁辺部に弧状につくられ、また、同じ場所で何度も建て替えられた状況が確認される。また、建物跡の南西側に近接して焼け面1基を検出している。焼け面や焼土

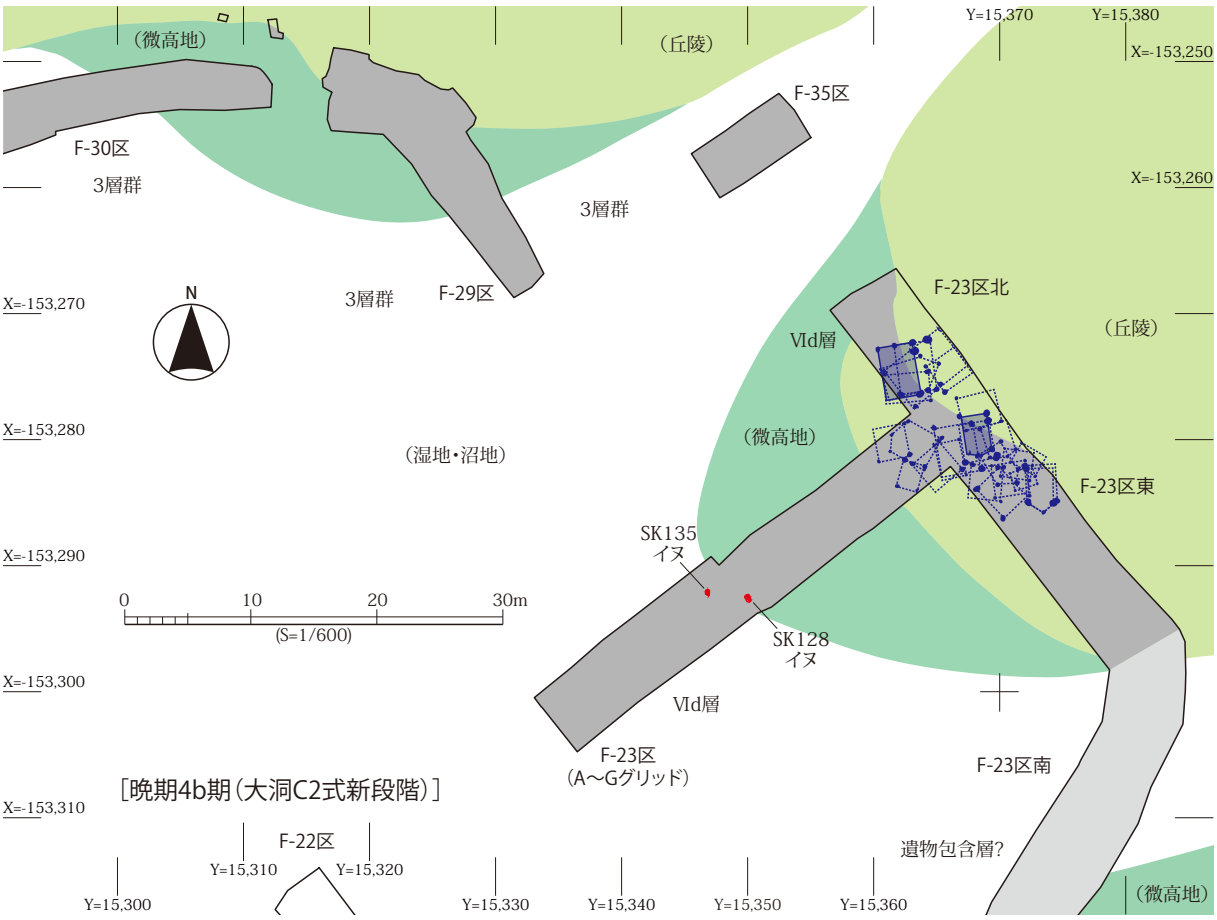


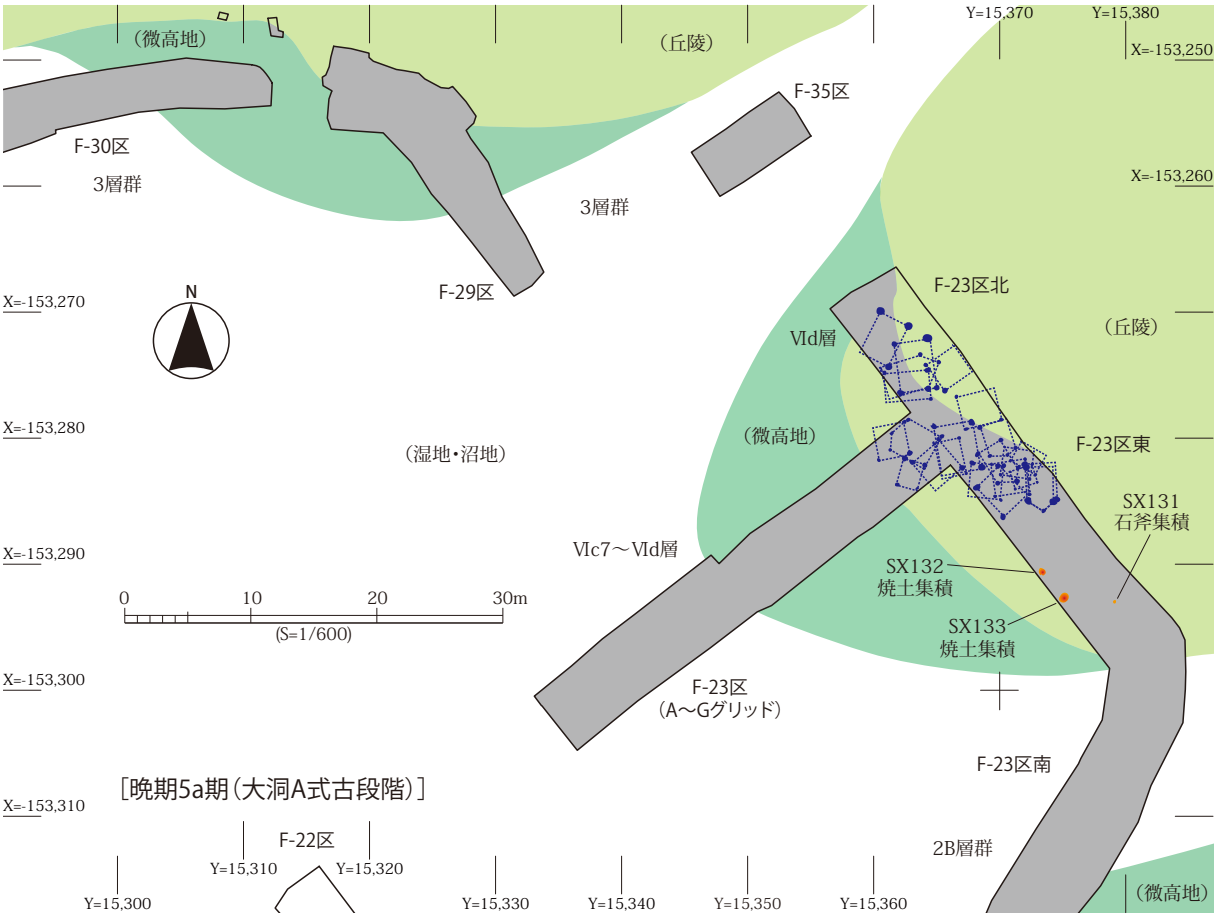
第316図　F区における主要遺構の変遷



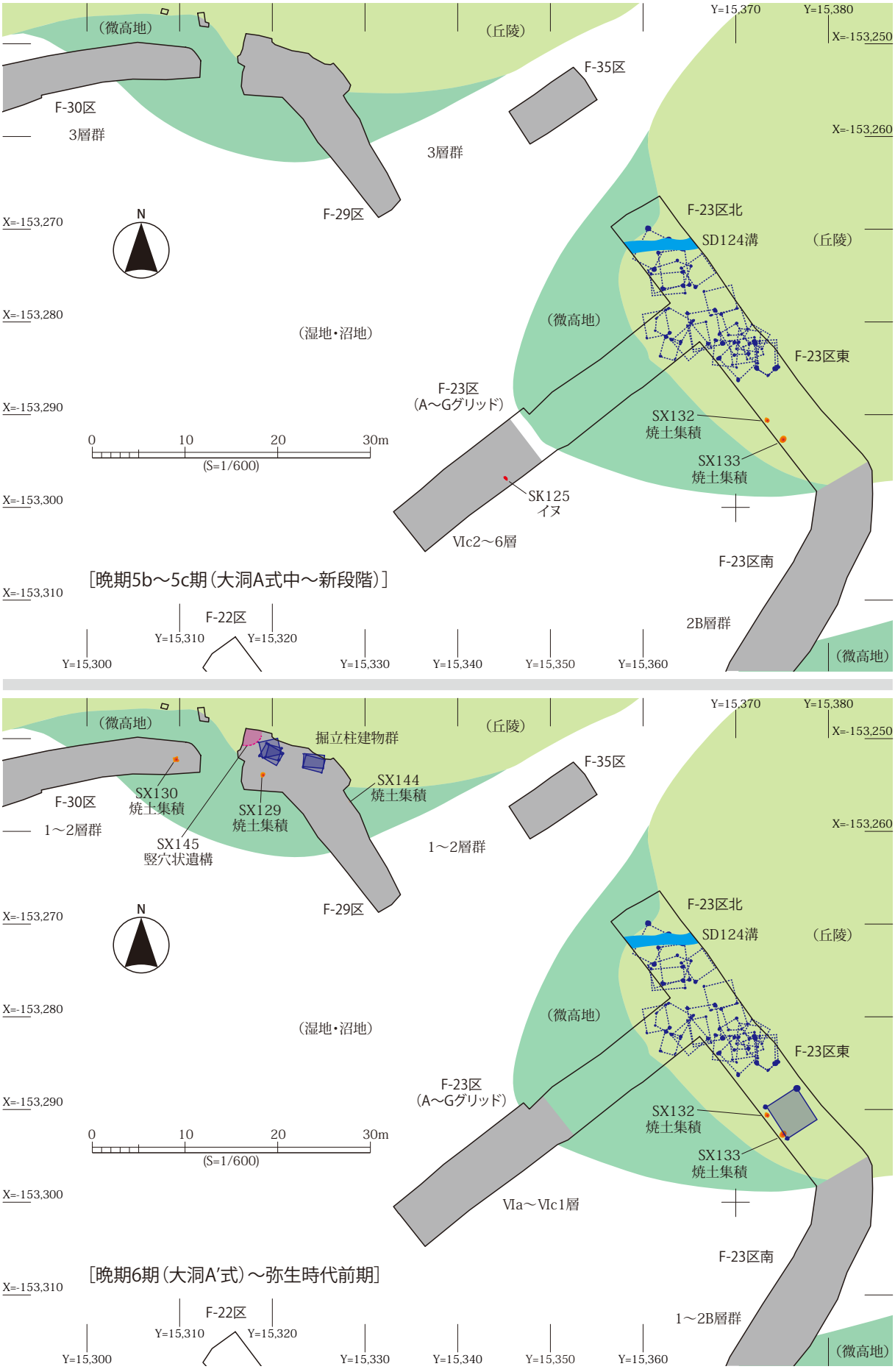


第317図　各時期の主要遺構および遺物包含層の分布状況（1）





第318図　各時期の主要遺構および遺物包含層の分布状況（2）



第319図　各時期の主要遺構および遺物包含層の分布状況（3）

集積は建物群の内側では確認されないことから、建物と重複する場所での日常的な火の使用は想定されない。

小丘陵の突端部に形成された微高地と低地の境界付近では、埋葬犬骨3基（SK127・134・135）を検出している。微高地上にあるSK127は、遺体の遺存状況はあまりよくないものの、墓壙または埋葬土の範囲を確認できることから、埋葬位置をとどめているものとみられる。一方で低地部にあるSK134・135は、遺体の遺存状況があまりよくなく、墓壙または埋葬土の範囲が確認できない。また、検出面や遺構底面の遺物包含層の推定年代と埋葬遺体の年代測定値との乖離があることから、本来の埋葬位置から動いたものとみられる。

遺物包含層は、小丘陵のやや高いところを除きほぼ全域で形成される。東C・D丘陵間にある遺物包含層（Ⅵe層）は、建物跡を検出している範囲では層の堆積が浅く、傾斜も緩やかであり、埋葬犬骨が形成される範囲では層の堆積が深くなり、急傾斜となる。

（3）晩期4b期（大洞C2式新段階）

東C・D丘陵間の掘立柱建物群は時期を特定できるものが少ないが、前の時期と異なり、丘陵縁辺に沿うように弧状につくられる状況が見られるようになる。また、桁行が2間以上となるやや大型の建物は、この時期までにつくられる。

建物群の南西方向では、埋葬犬骨1基（SK128）が新たに形成される。また、前の時期に埋葬犬骨3基を検出しているが、うち1基（SK135）はこの時期に形成された可能性もある。

遺物包含層は、小丘陵のやや高いところを除きほぼ全域で形成される。東C・D丘陵間の遺物包含層（Ⅵd層）は、下層のⅥe層と同様の堆積状況である。

（4）晩期5a期（大洞A式古段階）

東C・D丘陵間の掘立柱建物群は晩期4b期と同様に、丘陵縁辺に沿うように弧状につくられる。また、桁行が2間以上となるやや大型の建物は、この時期以降見られなくなる。

建物群の南東側では、石斧集積遺構1基と焼土集積2箇所を検出している。これらは建物群から離れており、周囲では遺構が検出されないことから、屋外活動の場が存在していた可能性が考えられる。

遺物包含層は、小丘陵のやや高いところを除きほぼ全域で形成される。東C・D丘陵間にある遺物包含層のうちⅥc層は、微高地の斜面から低地にかけてにラミナ状に堆積しており、水成作用による影響が大きいものとみられる。

（5）晩期5b～5c期（大洞A式中～新段階）

東C･D丘陵間の掘立柱建物群は晩期4b～5a期と同様に､丘陵縁辺に沿うように弧状につくられる。建物群の北側では溝跡を検出し、その北側には建物が確認されないことから、建物群の範囲がやや狭まるものとみられる。

建物群の南東側では､晩期5a期以降に形成されたとみられる焼土集積2箇所を検出している。また、

建物群の南西側に広がる微高地のさらに南西方向では、埋葬犬骨 1 基（SK125）を検出した。SK125 は低地部につくられたものであるが、同じく低地部にある埋葬犬骨 2 基（SK134・135）と比べて遺体の遺存状況が良好であり、墓壙または埋葬土の範囲を確認できることから、埋葬位置をとどめているものとみられる。

遺物包含層は、東 C 丘陵南斜面および東 D 丘陵北斜面ではほぼ全域で形成され、東 C・D 丘陵間では微高地の周囲に形成される。

(6) 晩期 6 期（大洞 A' 式）～弥生時代前期

東 C・D 丘陵間の掘立柱建物群は晩期 4b ～ 5c 期と同様に、丘陵縁辺に沿うように弧状につくられる。また、これらの建物群の南東部では、規模のやや大きな四本柱構造の建物跡を検出している。この建物跡と重複する焼土集積はこの時期の可能性もある。

掘立柱建物群は、東 C 丘陵南斜面においても検出している。すべて丘陵上につくられ、東 C・D 丘陵間のものと比べて規模の小さい四本柱構造の建物跡である。建物群を構成する柱穴の密度も小さく、比較的小規模な建物群であったとみられる。また、建物跡と重複するように竪穴状遺構もつくられている。建物群や竪穴状遺構が位置する丘陵南側の微高地上では焼土集積を 3 箇所で検出した。これらは、東 C・D 丘陵間と同様に、焼け面や焼土集積は建物群の外側に位置する。

遺物包含層は、東 C 丘陵南斜面および東 D 丘陵北斜面ではほぼ全域で形成され、東 C･D 丘陵間では、微高地の先端部から低地部にかけて形成される。

第３節　まとめ

北小松遺跡は宮城県北部にある築館丘陵（清滝丘陵）南縁部の谷底平野に位置する大規模な遺跡である。本遺跡を含む地域（田尻西部地区）では、ほ場整備事業に伴う本発掘調査を平成 19 年度から実施しており、本報告は 4 年目の発掘調査成果をまとめたものである。

本遺跡の時期は縄文時代から中世以降まであるが、主体は縄文時代から弥生時代前期であり、なかでも晩期中葉から末葉にかけて遺構・遺物の量が増加する。以下に、要点を簡潔にまとめる。

1. 調査の結果､縄文時代から弥生時代前期の掘立柱建物跡 48 棟（建て替えを含む）や竪穴状遺構 1 基、石斧集積遺構 1 基、埋葬犬骨 5 基、土坑 9 基、溝跡 2 条、沢跡 1 条、焼け面 1 箇所、焼土集積 5 箇所、ピット多数を検出した。また、丘陵裾部で縄文時代前期から弥生時代前期の遺物包含層を検出している。遺物包含層は、東Ｃ丘陵南斜面、東Ｃ・Ｄ丘陵間、東Ｄ丘陵北斜面、東Ｄ・Ｅ丘陵間、東Ｅ丘陵北斜面でそれぞれ 1 箇所ずつ、計 5 箇所で確認した。
2. 東Ｃ丘陵南斜面では、晩期末葉の掘立柱建物跡 5 棟を検出した。これらは、建物跡を多数検出した東Ｃ・Ｄ丘陵間のものよりも小型で、四本柱構造のみとなる。また、ピットを含む柱穴の分布密度も小さいことから、小型の建物が少数存在していたものとみられる。建物に近接して竪穴状遺構がつくられることや、建物の内部では炉跡や焼け面などが確認されないことから、倉庫の可能性が考えられる。
3. 東Ｃ丘陵南斜面で検出した遺物包含層からは縄文時代後期後葉以降の遺物が出土しているが、調査した範囲では、晩期中葉から晩期末葉の遺物が多い。
4. 東Ｃ・Ｄ丘陵間で検出した遺構には、掘立柱建物跡 43 棟（建て替えを含む）、石斧集積遺構 1 基、埋葬犬骨 5 基、溝跡 1 条、土坑 9 基、焼け面 1 箇所、焼土集積 2 箇所、ピット多数がある。これらの時期は、縄文時代後期後葉から弥生時代前期の範囲に収まるが、なかでも晩期中葉から後葉のものが多い。
5. 掘立柱建物跡は、柱の配置により、五角形、1 間×1 間の方形、2 間以上の長方形の 3 種類に分類される。近接する遺物包含層の時期から、縄文時代後期後葉から弥生時代前期の範囲に収まるものとみられるが、時期を特定できるものでは晩期中葉のものが多い。沢を挟んで西に位置する東Ｃ丘陵南斜面の建物群と異なり、ピットを含む柱穴の大きさや柱の配置が多様で、その分布密度が大きいことから、大小さまざまな建物が長期間存在していたものとみられる。これらは丘陵頂部の遺構が希薄な場所（広場か）を扇状に囲むように丘陵縁辺に沿ってつくられ、何棟も重複する。建物の内部では炉跡や焼け面などが確認されないことから、倉庫の可能性が考えられる。
6. 埋葬犬骨は 5 基検出しているが、ほかに一部の骨がまとまって出土しているイヌが 3 個体ある。これらの多くが晩期中葉のものとみられる。建物群からやや離れた微高地の落ち際から斜面部にかけてまとまってつくられ、墓域が形成されている。5 基のうち 1 基は幼犬 2 体の同時埋葬であり、希少な事例である。

7. 東Ｃ・Ｄ丘陵間の丘陵裾部に形成された遺物包含層における遺物の出土状況から、縄文時代後期後葉には丘陵部に集落が営まれていたとみられる。遺物包含層の形成は弥生時代前期まで続くが、特に晩期中葉から末葉の遺物が多く出土している。

8. 遺物包含層からは、土器や土製品、石器・石製品のほか、骨角牙製品や漆製品などの有機質遺物や動植物遺存体が多量に出土している。なかでも、動物遺存体や骨角牙製品の出土が多いことが本包含層における特徴である。一方で、祭祀にかかわるものとみられる非実用的遺物は、骨角牙製品を除くと、葬送行為が行われた東Ｃ丘陵西端部南斜面と比べると少ない。両地点は遺物包含層と重複して形成される墓域を含む点で共通するが、葬送される遺体には差異が認められ（ヒトとイヌ）、この差異が、非実用的遺物の種類と量的な差異につながるものとみられる。

9. 東Ｄ丘陵北斜面で検出した遺物包含層からは縄文時代後期後葉以降の遺物が出土しているが、調査した範囲では、晩期後葉から弥生時代前期の遺物が多く見られる。特に、最上層から出土した土器には、弥生時代前期の青木畑式にみられる土器が少量含まれている。この上位には、大規模洪水以前の湿地層、大規模洪水堆積層の順に堆積していることから、大規模洪水の時期を推定する鍵となる地点である。

10. 東Ｄ・Ｅ丘陵間西斜面で検出した遺物包含層からは、縄文時代晩期末葉から弥生時代前期の遺物が出土している。また、遺物包含層と重複する溝跡や沢跡からは、早期中葉や後期前葉の遺物も散見される。本地点に隣接する丘陵上では、これらの時期にも集落が営まれていたとみられる。

11. 東Ｅ丘陵北斜面で検出した遺物包含層からは、縄文時代早期中葉から前期中葉の遺物が出土した。この地点の南側では、平成 20 年度に発掘調査において本調査と同様の時期の遺物が出土している。これらの遺物包含層は、同一の時期に形成されたものとみられる。

12. 東Ｃ・Ｄ丘陵間遺物包含層から多量に出土した動物遺存体には、遺跡周辺の丘陵や湖沼・河川に生息する多様な種がある。なかでもシカ・イノシシが多く、シカが多数を占める。両者には年齢や部位残存状況などに差異が認められ、それぞれの資源的価値に合わせ捕獲・利用されていたことが示唆される。他の種では、コイ科などの淡水魚は春～初夏、カモ類は冬におもに捕獲されたとみられる。海産魚類は少量ながら沿岸域からもたらされており、資源の時期的空間的変異に対応し、年間の資源確保が行われていたと考えられる。

13. 珪藻化石や花粉化石の分析から、東Ｃ・Ｄ丘陵間の遺物包含層は湿った環境から乾燥した環境にあり、東Ｅ丘陵北斜面の遺物包含層は流水域と湿った環境であったとされている。また、縄文時代前期の遺物包含層が形成される東Ｅ丘陵突端部付近ではクリの純林が広がっていたとみられ、晩期を主体とする遺物包含層が形成される東Ｃ・Ｄ丘陵間付近では、クリ林が分布していたとみられる。さらに、両地点からは夥しい量の細粒微粒炭が検出され、これらの周辺では植物燃焼を伴う生業が行われていたとされる。

14. 遺構や遺物包含層を覆う洪水堆積層は、弥生時代前期の大規模洪水により流入した土砂である。この層の下部や下位で出土した遺物は、土器では弥生時代前期中葉（青木畑式、弥生２期）のものが最も新しく、また有機物の放射性炭素年代測定値もおおよそこの範囲に収まる。この時期の遺物

は極端に少ないことから、大規模洪水はほぼこの時期に発生したものと推定される。

なお、本報告部分も含めた北小松遺跡周辺地域の集落構成や変遷等の総合的な考察については、総括報告書（宮城県文化財調査報告書第 255 集）に記載する。

註１　ほ場整備事業に伴う発掘調査成果により、調査開始時点から遺跡名や遺跡範囲が大きく変更されている。過去の調査報告と本報告で遺跡名や遺跡範囲等が異なる場合は本書が優先される。

註２　大崎市教育委員会のご教示による。なお、発掘調査報告書は令和３年２月に刊行された。

註３　発掘調査開始前のボーリング調査は、調査の作業効率と、発掘調査における掘削の安全性を考慮して、地表下約 2m の深度までの確認とし、これを超える深度については、発掘調査時に再度ボーリング等による調査を実施して、周辺の調査状況から遺物包含層と判断される場合には対応をあらためて協議することとした。なお、2m を超える深度での遺物包含層の広がりは F-23 区で確認している。ここでは、構造物を敷設する水路予定地内のため記録保存調査が必要となったが、事業者との協議により工事の設計変更（構造物の不設置）を行うことで、調査を回避することができた。

註４　本製品の名称については意見が分かれるところであるが、鍛冶沢遺跡における報告例（宮城県教育委員会 2010a）と同様に「イモガイ形石製品」と呼称する。

註５　遺物包含層出土土器の時期区分については、山内清男（1937 年）の「縄紋土器型式の大別と細別」による６期区分を踏襲し、東北地方中部から出土した資料をもとに２～３段階の変遷を捉えた、須藤隆の変遷案（1998 年、初出：1996 年）を併記している。なお、晩期５期について、前回報告（宮城県教育委員会　2014）では層位的な根拠をもとに３段階の変遷を捉えることが困難であったことから、おおむね新旧２段階に分類したが、本報告では層位的に３段階の変遷を捉えることが可能と判断したため、須藤の変遷案を基に３段階（5a・5b・5c の各期）に分類している。

註６　東Ｃ丘陵西端部の発掘調査報告書（宮城県教育委員会　2014）では、これらの大別層群についておもな時期を晩期末葉に位置づけた。ただし、弥生時代前期とみられる土器の共伴も報告しており、これらは南 2A ～１層群および北 2A ～ 1B 層群で散見され、北 1A 層群である程度のまとまりが見られるようになることから、北 1A 層群については、弥生時代前期まで時期が下る可能性を指摘している。Ｆ区の遺物包含層出土土器の分析から、本遺跡周辺の遺物包含層の形成は弥生時代前期まで継続することが判明したため、東Ｃ丘陵西端部の北 1A 層群もまた、弥生時代前期まで続くものとみられる。

註７　東Ｃ・Ｄ丘陵間遺物包含層から出土した深鉢・鉢・浅鉢・皿の各器種で、口径・器高・底径が復元できたもののみを分析の対象として散布図を作成した。また、Ｖｃ層出土の土器も分析対象として含めた。この理由として、Ｖｃ層はいわゆるスクモ層であり、堆積当時の環境は湿地が想定されるため、地点間の遺物の移動は小さいことがあげられる。

註８　各装飾類型出現における実線部下端よりも下位の層準から、当該装飾類型をもつ土器が出土している場合があるが、それぞれごくわずかな出土にとどまる。攪乱などの混入による出土層位の誤認の可能性も十分に考えられるため、下層から累積して一定量以上（おおむね 5% 以上）に達した層準以上の場合に、各装飾類型が出現したものとみなしている。

註９　珪質頁岩は色調により細分している。剥離面が黒色を呈するもの（黒色頁岩）をＢ類とし、それ以外のものをＡ類とした。

註 10　碧玉は色調により細分している。剥離面が黒色～濃い茶色を呈するものをＡ類、赤色を呈するものをＢ類、黄色を呈するものをＣ類とし、これら以外の色調（緑色、青灰色など）のものをＤ類とした。Ｂ類については、赤色の範囲でさらに細分し、全体が赤色のものを B1 類、一部が赤色でそれ以外の部分が明るい茶色を呈するものを B2 類として分類している。

註 11　珪質凝灰岩は珪化の程度により細分している。珪化が進んでいるもの（珪化凝灰岩）をＡ類とし、それ以外をＢ類とした。

註 12　碧玉は、ほかの石材に比べて加熱処理の痕跡の有無を容易に判別が可能である点を考慮する必要がある。

註 13　一つの石器で二次加工面と素材面とで光沢の差異が見られるもの（観察表の加熱処理の項目で「1」と表記）は加熱処理の痕跡として認めることができるが、二次加工面も素材面も光沢がある場合（観察表の加熱処理の項目

で「2」と表記）にはその認定が難しい。同じ石材で両者（「1」と「2」）の光沢面を比較した結果、両者の光沢面の状況に大きな差異は認められなかったため、後者についても加熱処理の痕跡のある石器として捉えている。

註 14　礫の形状分析で用いられる手法を援用して、幅長比、厚幅（長）比により長さおよび厚さの認識の基準としている。長さは、幅長比 0.67 未満を縦長、0.67 以上を幅広とし、厚さは、厚幅比（長さ≧幅の場合）または厚長比（長さ＜幅の場合）0.67 未満を薄手、0.67 以上を厚手とした。なお、完形のもののみを抽出して散布図を作成している。

註 15　石鏃と同様に礫の形状分析で用いられる手法を援用して、長さおよび厚さの認識の基準としている。なお、完形および一部欠損（残存率がおおむね 1/2 以上）のもののみを抽出して散布図を作成した。

註 16　石鏃や礫石器と同様に石鏃と同様に礫の形状分析で用いられる手法を援用して、長さおよび厚さの認識の基準としている。長さ・幅はそれぞれ値の大きい方を最大径、小さい方を中径として、中径／最大径、厚／中径の値を算出して用いた。なお、完形のもののみを抽出して散布図を作成している。

註 17　東北地方北部では多く見られるものの、南部（宮城県・山形県・福島県）では、本遺跡（2 点）の他に宮城県鍛冶沢遺跡（2 点、宮城県教育委員会　2010b）や川前遺跡（仙台市教育委員会　2018）、山形県宮の前遺跡（山形県埋蔵文化財センター　1995）、福島県荒屋敷遺跡（小柴編　1990）、同県宮畑遺跡（岡村道雄氏のご教示による）で見られる程度である。

註 18　本遺跡で出土している、ヤス先軸部に逆刺を装着する孔をもつもの（第 206 図 1）は、杉山陽亮による分類（2013 年）にないものであり、今後類例の有無のさらなる検討が必要である。

註 19　完形またはほぼ完形の資料を対象に散布図を作成した。

註 20　早瀬亮介氏（加速器分析研究所）のご教示による。

註 21　これらの遺物包含層を含む調査地点は確認調査の対象であり、すべての層を精査していないため、出土土器の型式をもとに遺物包含層の形成時期を推定した。

引用文献

相原淳一・飯塚義之　2020 「宮城県栗原市上堤遺跡出土「の」字状石製品と大崎市根岸遺跡出土の管玉ほか玉類」『東北歴史博物館研究紀要』21　pp. 45-55

相原淳一ほか　2013 「宮城県気仙沼市前浜貝塚の学際的研究　―東北地方における縄文時代の葬制―」『Saito Ho-on Kai Museum Reserch Bulletin』77　齋藤報恩会　pp. 1-34

青森県埋蔵文化財調査センター　2017 『川原平（1）遺跡Ⅳ　―津軽ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査報告―』青森県埋蔵文化財調査報告書第 576 集

赤田昌倫・高妻洋成　2014 「北小松出土遺物の黒色物質の材料調査」『北小松遺跡　―田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成 21 年度発掘調査報告書―』宮城県文化財調査報告書第 234 集　第 2 分冊 pp. 103-106

秋田県教育委員会　1989 『八木遺跡発掘調査報告書　―公害防除特別土地改良事業八木地区に係る埋蔵文化財発掘調査―』秋田県文化財調査報告書第 181 集

秋田県埋蔵文化財センター　2000 『戸平川遺跡　―東北横断自動車道秋田線建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅩⅣ―』秋田県文化財調査報告書第 294 集

朝日村教育委員会　2002 『奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書ⅩⅣ　元屋敷遺跡Ⅱ（上段）』朝日村文化財調査報告書第 22 集

アスファルト研究会（編）　2018 『縄文時代のアスファルト利用Ⅱ』特定非営利活動法人いちのへ文化・芸術 NPO

阿部博志　1999 「宮城県の土偶」『土偶研究の地平 「土偶とその情報」研究論集（3）』勉誠出版　pp. 459-461

飯塚義之・小野章太郎　2020 「完全非破壊化学分析による宮城県地域の縄文時代磨製石斧および石製装身具の石材研究」『宮城考古学』22　pp. 137-156

石巻市教育委員会　2020 『立浜貝塚　―石巻市雄勝町立浜地区防災集団移転促進事業に係る発掘調査報告書―』石巻市文化財調査報告書第 15 集

一迫町教育委員会　1977 『巻堀遺跡』

伊東信雄　1940 『宮城縣遠田郡不動堂村素山貝塚調査報告』東北帝國大學法文學部奥羽史料調査部研究報告第二

伊東信雄　1957 「古代史　縄文式文化時代」『宮城縣史 1』 pp. 3-51

伊東信雄　1981 「館貝塚」『宮城縣史 34（資料篇 11）』 pp. 408-409

伊東信雄ほか　1965 「敷味遺跡調査概報」『埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』宮城県文化財調査報告書第 8 集　pp. 24-34

伊東信雄ほか　1969 『埋蔵文化財緊急発掘調査概報　―長根貝塚―』宮城県文化財調査報告書第 19 集
伊東信雄・須藤　隆　1985 『山王囲遺跡調査図録』一迫町教育委員会
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1999 『長谷堂貝塚発掘調査報告書　県営長谷堂住宅替代事業関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 296 集
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2000 『長倉Ⅰ遺跡発掘調査報告書　広域農道整備事業関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 336 集
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2001 『長谷堂貝塚発掘調査報告書　県営長谷堂アパート建設事業関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 367 集
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2004 『長谷堂貝塚発掘調査報告書　県営長谷堂アパート建設事業関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 434 集
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2006 『大橋遺跡発掘調査報告書　中山間総合整備事業岩間地区関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 481 集
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2020 『杉の堂遺跡発掘調査報告書　一般国道 397 号小谷木橋地区連携道路整備事業関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 716 集
大崎市教育委員会　2008 『野崎遺跡・欠下遺跡・若林遺跡　―県道古川岩出山線雨生沢道路改良工事関連遺跡調査報告―』 大崎市文化財調査報告書第 4 集
大崎市教育委員会　2009a 『新田柵跡推定地 12　―第 10 次調査報告書―』 宮城県大崎市文化財調査報告書第 7 集
大崎市教育委員会　2009b 『師山遺跡』 宮城県大崎市文化財調査報告書第 8 集
大崎市教育委員会　2010 「大崎市　通木田中前遺跡・通木城跡」『平成 22 年度宮城県遺跡調査成果発表会　発表要旨』宮城県考古学会　pp. 79-82
大崎市教育委員会　2011 「新田柵跡推定地 14　―第 12 次調査―」『新田柵跡推定地 14 ほか　―第 12 次調査報告書―』宮城県大崎市文化財調査報告書第 15 集　pp. 5-56
大崎市教育委員会　2012 『新田柵跡推定地 15　―第 13 次調査報告書―』宮城県大崎市文化財調査報告書第 17 集
大崎市教育委員会　2015a 『矢根八幡遺跡』宮城県大崎市文化財調査報告書第 21 集
大崎市教育委員会　2015b 『文化財年報Ⅷ　（平成 25 年度）』宮城県大崎市文化財調査報告書第 22 集
大崎市教育委員会　2016 『金鋳神遺跡ほか　―田尻中央地区ほ場整備事業に係る平成 16・18 年度発掘調査報告書―』宮城県大崎市文化財調査報告書第 24 集
大崎市教育委員会　2017 『通木城跡ほか　―田尻中央地区ほ場整備事業に係る平成 22 年度発掘調査報告書―』宮城県大崎市文化財調査報告書第 30 集
大崎市教育委員会　2018a 『天神前遺跡　―第 1・2 次発掘調査報告書―』宮城県大崎市文化財調査報告書第 32 集
大崎市教育委員会　2018b 『木戸遺跡　―田尻中央地区ほ場整備事業に係る発掘調査報告書―』宮城県大崎市文化財調査報告書第 33 集
大崎市教育委員会　2019 『お椀子山遺跡　―田尻中央地区ほ場整備事業に係る発掘調査報告書―』宮城県大崎市文化財調査報告書第 35 集
大崎市教育委員会　2020 『新田柵跡　―田尻中央地区ほ場整備事業に係る発掘調査報告書―』宮城県大崎市文化財調査報告書第 38 集
小野章太郎　2019 「3D データを利用した縄文土器実測の実践と埋蔵文化財行政への効果」『文化財の壺』7　pp. 26-29
角田市教育委員会　1976 『梁瀬浦遺跡』宮城県角田市文化財調査報告書第 1 集
柏崎市教育委員会　2011 『剣野　―新潟県柏崎市剣野遺跡群・剣野 B 遺跡発掘調査報告書―』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第 63 集
加藤　孝・後藤勝彦　1975 「宮城県登米郡南方町青島貝塚発掘調査報告」『南方町史　資料編』 pp. 1-274
門脇秀典　2003 「縄文石器に関する 2･3 の問題　―楢葉町馬場前遺跡出土の石器について―」『福島県文化財センター白河館　研究紀要』pp. 153-164
興野義一　1959 「江合川流域の石器時代文化」『仙台郷土研究』19-3　pp. 7-23
栗原市教育委員会　2013 『史跡山王囲遺跡保存整備事業報告書』
栗原市教育委員会　2014 『城下遺跡ほか　―県営経営体育成基盤整備事業（城下地区）に伴う発掘調査報告書―』栗原市文化財調査報告書第 18 集
車田　敦　2020 「田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成 13 ～ 17 年度発掘調査について」『団子山西遺跡Ⅱ　―田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成 23・25 ～ 27・29 年度（J・K・M 区）発掘調査報告書―』宮城県文化財調査報告書

第 252 集　pp. 301-326
小井川和夫・山田晃弘　2002 「里浜貝塚西畑地点出土遺物」『東北歴史博物館研究紀要』3　pp. 45-136
古賀日加里・富岡直人　2014 「北小松遺跡出土イヌ遺存体（埋葬犬）」『北小松遺跡　―田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成 21 年度発掘調査報告書―』宮城県文化財調査報告書第 234 集　第 2 分冊 pp. 73-85
小牛田町教育委員会　1976 『山前遺跡』
小牛田町史編纂委員会　1970 『小牛田町史　上巻』
小柴吉男（編）　1990 『荒屋敷遺跡Ⅱ 《河岸段丘低湿地の遺跡》 ―国道 252 号線改良工事に伴う発掘調査報告書―』三島町文化財調査報告 10 集　埋蔵文化財調査報告書Ⅴ
五所川原市教育委員会　2017 『五月女萢遺跡』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 34 集
小林謙一　2019 『縄紋時代の実年代講座』同成社
佐藤　優　2006 「灰塚遺跡」『古川市史　第 6 巻　資料Ⅰ　考古』 pp. 83-84
佐藤祐輔　2008 「縄文時代晩期後半の蓋形土器」『研究紀要』5　山形県埋蔵文化財センター　pp. 81-112
上越市教育委員会　2008 『農免農道上岡 3 期地区遺跡発掘調査報告書　雁金城跡・石神澤田遺跡』
浄法寺町教育委員会　2001 『上杉沢遺跡』
志間泰治　1971 『鱸沼遺跡』
志間泰治・桑月　鮮　1991 『宝ヶ峯』齋藤報恩会
杉山陽亮　2013 「組み合わせ式ヤス考　―東北地方縄文時代後・晩期の漁撈活動の一考察―」『動物考古学』30　pp. 275-290
須田良平・須田富士子　2000 「宮城県における石器石材の基礎的研究」『佐藤広史君追悼論文集　一所懸命』pp. 81-94
須藤　隆　1987 「東日本における弥生文化の受容」『考古学雑誌』73-1　pp. 1-43
須藤　隆　1996 「亀ヶ岡文化の発展と地域性」『日本文化研究所研究報告別巻』33　東北大学日本文化研究所　pp. 93-132
須藤　隆　1998 『東北日本先史時代文化変化・社会変動の研究　―縄文から弥生へ―』纂集堂
須藤　隆（編）　1984 『中沢目貝塚　―縄文時代晩期貝塚の研究―』東北大学文学部考古学研究会
須藤　隆・大場亜弥ほか　1996 『国史跡　山王囲遺跡　発掘調査報告書Ⅰ』一迫町教育委員会
須藤　隆・大場亜弥ほか　1997 『国史跡　山王囲遺跡　発掘調査報告書Ⅱ』一迫町教育委員会
須藤　隆・大場亜弥ほか　1998 『国史跡　山王囲遺跡　発掘調査報告書Ⅲ』一迫町教育委員会
須藤　隆・大場亜弥・氷見淳哉ほか　2007 『国史跡　山王囲遺跡　発掘調査報告書Ⅳ』栗原市文化財調査報告書第 5 集
須藤　隆・富岡直人（編）　1995 『縄文時代晩期貝塚の研究 2　中沢目貝塚』東北大学文学部考古学研究会
瀬峰町教育委員会　2002 『下富前遺跡　―富地区県営担い手育成ほ場整備事業に係る発掘調査報告書Ⅱ―』瀬峰町文化財調査報告書第 20 集
仙台市教育委員会　1983 「梨野 A 遺跡」『茂庭　茂庭住宅団地造成工事地内遺跡発掘調査報告』仙台市文化財調査報告書第 45 集　pp. 25-324
仙台市教育委員会　1990 『赤生津遺跡』仙台市文化財調査報告書第 139 集
仙台市教育委員会　2018 『鍛冶屋敷 A 遺跡・富沢館跡・川前遺跡ほか　―仙台市富沢駅西土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書―』仙台市文化財調査報告書第 466 集
高橋　理　1986 「中沢目貝塚及び北小松遺跡出土人骨」『中沢目貝塚　―第 3 次調査概報―』東北大学文学部考古学研究会　pp. 7-8、第 12 図版
高橋誠明　2006 「小野横穴墓群」『古川市史　第 6 巻　資料Ⅰ　考古』 pp. 153-185
田尻町教育委員会　1978 『天狗堂遺跡』田尻町文化財調査報告書第 1 集
田尻町教育委員会　1986 『中沢目貝塚』田尻町文化財調査報告書第 2 集
田尻町教育委員会　1998 『新田柵跡推定地』 田尻町文化財調査報告書第 3 集
田尻町教育委員会　2001 『新田柵跡推定地 3 ほか』 田尻町文化財調査報告書第 5 集
田尻町史編さん委員会　1982 『田尻町史　上巻』
築館町教育委員会　2003 『嘉倉貝塚　―平成 13・14 年度重要遺跡範囲確認調査報告書―』 築館町文化財調査報告書第 16 集
東北歴史資料館　1982 『里浜貝塚Ⅰ』東北歴史資料館資料集 5
東北歴史資料館　1983 『里浜貝塚Ⅱ』東北歴史資料館資料集 7

東北歴史資料館　1986 『里浜貝塚Ⅴ』東北歴史資料館資料集 15
「土偶とその情報」研究会　1996 『土偶シンポジウム 5　宮城大会　東北・北海道の土偶Ⅱ　―亀ヶ岡文化の土偶―』
登米市教育委員会　2011 『青島貝塚』登米市文化財調査報告書第 1 集
新潟県埋蔵文化財調査事業団　2004 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ　青田遺跡』 新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集
迫町教育委員会　2005 『坂戸遺跡』迫町文化財調査報告書第 4 集
秦　昭繁　2018 「東日本の珪質頁岩を河川資源と捉える」『考古学ジャーナル』710　pp. 34-37
福島県文化振興事業団　2005 「西田 H 遺跡」『こまちダム遺跡発掘調査報告 3』福島県文化財調査報告書第 424 集　pp. 103-420
福島県文化振興事業団　2010 「田子平遺跡」『常磐自動車道遺跡調査報告 58』福島県文化財調査報告書第 461 集　pp. 15-430
福島市教育委員会　2004 『宮畑遺跡（岡島） 確認調査報告書』福島市埋蔵文化財報告書第 173 集
福島市教育委員会・福島市振興公社　2005 『史跡　宮畑遺跡　史跡整備発掘調査報告 1』福島市埋蔵文化財報告書第 180 集
古川市教育委員会　2001 『高幌遺跡』宮城県古川市文化財調査報告書第 29 集
古川市教育委員会　2006 「灰塚遺跡」『名生館官衙遺跡ⅩⅫ・灰塚遺跡』宮城県古川市文化財調査報告書第 30 集　pp. 59-117
松本彦七郎　1930 「陸前國登米郡南方村青島介塚調査報告」『東北帝國大學理學部　地質學古生物學教室研究邦文報告』　pp. 1-47
松本秀明　1984 「沖積平野の形成過程からみた過去一万年間の海岸線変化」『宮城の研究　第 1 巻　考古学篇』清文堂　pp. 7-52
松本秀明　2014 「北小松遺跡周辺の地形・地質の特徴と洪水堆積層」『北小松遺跡　―田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成 21 年度発掘調査報告書―』宮城県文化財調査報告書第 234 集　第 1 分冊 pp. 415-421
三澤裕之　2020 「最上町材木遺跡から採集した緑色の石英について　―縄文時代終末期の東北地方中南部地域における物流に関する一考察―」『山形考古』49　pp. 1-11
御堂島　正　1993a 「石器製作における加熱処理」『二十一世紀への考古学』櫻井清彦先生古稀記念論文集　pp. 3-34
御堂島　正　1993b 「加熱処理による石器製作　―日本国内の事例と実験的研究―」『考古学雑誌』79-1　pp. 1-18
南方町教育委員会　1978 『長者原貝塚』南方町文化財調査報告書第 1 集
宮城県企画部土地対策課　1989 『土地分類基本調査　涌谷』
宮城県教育委員会　1980a 「西手取遺跡・手取遺跡」『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅱ』宮城県文化財調査報告書第 63 集　pp. 253-408
宮城県教育委員会　1980b 「恵比須田遺跡出土の土偶」『金剛寺貝塚・宇賀崎貝塚・宇賀崎 1 号墳他』宮城県文化財調査報告書第 67 集　pp. 217-222
宮城県教育委員会　1980c 『玉造遺跡』宮城県文化財調査報告書第 68 集
宮城県教育委員会　1980d 「宮沢遺跡」『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅲ』宮城県文化財調査報告書第 69 集　pp. 3-262
宮城県教育委員会　1980e 「混内山遺跡」『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅳ』宮城県文化財調査報告書第 71 集　pp. 383-413
宮城県教育委員会　1981a 「根岸遺跡」『宮城県営圃場整備関連遺跡詳細分布調査報告書　（昭和 55 年度）』宮城県文化財調査報告書第 75 集　pp. 3-56
宮城県教育委員会　1981b 「日向前横穴古墳群」『東北新幹線関係遺跡調査報告書Ⅴ』宮城県文化財調査報告書第 77 集　pp. 555-581
宮城県教育委員会　1981c 「長者原貝塚」『長者原貝塚・上新田遺跡』宮城県文化財調査報告書第 78 集　pp. 1-36
宮城県教育委員会　1982a 『青木畑遺跡』宮城県文化財調査報告書第 85 集
宮城県教育委員会　1982b 『天神山遺跡』宮城県文化財調査報告書第 89 集
宮城県教育委員会　1983a 「岩ノ入遺跡」『宮城県営圃場整備等関連遺跡詳細分布調査報告書　（昭和 57 年度）』宮城県文化財調査報告書第 95 集　pp. 199-229
宮城県教育委員会　1983b 「朽木橋横穴古墳群」『朽木橋横穴古墳群・宮前遺跡』宮城県文化財調査報告書第 96 集　pp. 1-70
宮城県教育委員会　1984 「大谷地遺跡」『宮城県営圃場整備等関連遺跡詳細分布調査報告書　（昭和 58 年度）』宮城県

文化財調査報告書第 100 集　pp. 163-250
宮城県教育委員会　1985 「香ノ木遺跡」『色麻町　香ノ木遺跡・色麻古墳群』宮城県文化財調査報告書第 103 集　pp. 3-46
宮城県教育委員会　1986a 『田柄貝塚』宮城県文化財調査報告書第 111 集
宮城県教育委員会　1986b 『亘理町畑中貝塚　―黒森沢砂防流路工事関連調査報告書―』宮城県文化財調査報告書第 115 集
宮城県教育委員会　1986c 「柴の脇遺跡」『若柳町柴の脇遺跡・鳴瀬町里浜貝塚等　―昭和 60 年度分布調査に伴う発掘調査報告書―』宮城県文化財調査報告書第 119 集　pp. 16-27
宮城県教育委員会　1989 「上戸遺跡」『亘理町三十三間堂遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 131 集　pp. 237-241
宮城県教育委員会　1990a 『摺萩遺跡』宮城県文化財調査報告書第 132 集
宮城県教育委員会　1990b 「倉崎貝塚」『大貫館山館跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 137 集　pp. 97-126
宮城県教育委員会　1991 「八幡遺跡・大嶺八幡遺跡」『合戦原遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 140 集　pp. 167-222
宮城県教育委員会　2005 「北小松遺跡」『壇の越遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 202 集　pp. 67-72
宮城県教育委員会　2008 『北小松遺跡ほか　―平成 19 年度発掘調査概報―』宮城県文化財調査報告書第 216 集
宮城県教育委員会　2010a 『鍛冶沢遺跡』宮城県文化財調査報告書第 222 集
宮城県教育委員会　2010b 『北小松遺跡ほか　―田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成 19 年度発掘調査報告書―』宮城県文化財調査報告書第 223 集
宮城県教育委員会　2011 『北小松遺跡　―田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成 20 年度発掘調査報告書―』宮城県文化財調査報告書第 226 集
宮城県教育委員会　2014 『北小松遺跡　―田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成 21 年度発掘調査報告書―』宮城県文化財調査報告書第 234 集
宮城県教育委員会　2016 『御駒堂遺跡・堂の沢遺跡』宮城県文化財調査報告書第 244 集
宮城県教育委員会　2018 『団子山西遺跡Ⅰ　―田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成 22 ～ 25 年度（H・I・L 区）発掘調査報告書―』宮城県文化財調査報告書第 248 集
宮城県教育委員会　2019 「大久保貝塚」『大久保貝塚ほか』宮城県文化財調査報告書第 250 集　pp. 1-70
宮城県教育委員会　2020 『団子山西遺跡Ⅱ　―田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成 23･25 ～ 27･29 年度（J･K･M 区）発掘調査報告書―』宮城県文化財調査報告書第 252 集
宮城県塩釜女子高等学校社会部　1969 「宮城県桃生郡矢本町平田原貝塚発掘調査報告」『貝輪』5　pp. 3-15
宮城県多賀城跡調査研究所　2008 「六月坂遺跡発掘調査」『六月坂遺跡ほか』多賀城跡関連遺跡発掘調査報告書第 33 冊　pp. 2-32
本吉町教育委員会　1979 『前浜貝塚』本吉町文化財調査報告書第 2 集
山形県埋蔵文化財センター　1995 『宮の前遺跡第 2 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 19 集
山形県埋蔵文化財センター　2009 『下叶水遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 177 集
山内清男　1930 「所謂亀ヶ岡式土器の分布と縄紋式土器の終末」『考古学』1-3　pp. 139-157
山内清男　1937 「縄紋土器型式の大別と細別」『先史考古学』1-1　pp. 29-32
涌谷町教育委員会　2004 『ツナギの沢貝塚　～県道河南築館線道路改良工事に係るツナギの沢貝塚発掘調査報告～』涌谷町文化財調査報告書第 6 集

付表　平成 22 年度発掘調査状況一覧

調査区	調査年度	調査原因	調査面積（㎡）	遺構確認面	Ⅵ層の検出深度（m）	Ⅵ層の検出高（m）	検出遺構	出土遺物	遺物量
F-18	平成 22 年度	記録保存	33.10	Ⅴ	未確認（3.39）	未確認（14.02）	なし	陶器	<1 箱
F-19	平成 22 年度	記録保存	34.70	Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	未確認（4.16）	未確認（13.48）	なし	なし	-
F-20	平成 22 年度	記録保存	118.50	Ⅴ	未確認（3.91）	未確認（13.76）	なし	中世陶器	<1 箱
F-21	平成 22 年度	記録保存	69.00	Ⅴ	未確認（4.82）	未確認（13.22）	なし	土師器	<1 箱
F-22	平成 22 年度	記録保存	28.40	Ⅴ	未確認（3.64）	未確認（14.85）	なし	なし	-
F-23A-G	平成 22 年度	（記録保存→）確認	743.80	Ⅵ・Ⅷ・Ⅸ	0.59 - 2.10	17.99 - 16.48	SB153・154・155・156・157・158・159・160・161・162A・162B・163・164・165・166・167・168・169・170・171・172・173・174・175・176・177・178・179・180・181・182A・182B・183・184A・184B・185・186・187・188・189・190・191・192 掘立柱建物跡 SX131 石斧集積遺構 SK125・127・128・134・135 埋葬犬骨 SK123・136・137・137・139・140・141・142・143 土坑 SD124 溝跡 SX126 焼け面 SX132・133 焼土集積 ピット 遺物包含層（東 C-D 間包含層）	縄文・弥生土器 土製品 石器・石製品 骨角製品 漆製品 柱材 アスファルト塊 人骨 動物遺存体 糞石 植物遺存体 土師器 須恵器	204 箱
F-23 北	平成 22 年度	確認		Ⅵ・Ⅷ・Ⅸ	0.69 - 0.83	17.86 - 17.72			
F-23 東				Ⅵ・Ⅷ・Ⅸ	0.12 - 0.55	18.43 - 18.00			
F-23 南				Ⅵ	0.18 - 0.60	18.38 - 17.96	遺物包含層（東 D 北包含層）	縄文・弥生土器 土製品 石器・石製品 アスファルト塊 動物遺存体 植物遺存体 須恵器	51 箱
F-23 西				Ⅵ	0.14 - 1.74	18.38 - 16.78			
F-24	平成 22 年度	確認	33.87	Ⅵ	1.32 - 1.68	16.95 - 16.59	遺物包含層（東 D 北包含層）	縄文・弥生土器 植物遺存体	<1 箱
F-25	平成 22 年度	確認	45.11	Ⅴ	未確認（3.22）	未確認（14.88）	なし	土師器	<1 箱
F-26	平成 22 年度	確認	63.27	Ⅴ	未確認（3.14）	未確認（14.54）	SK1072 土坑（時期不明）	土師器	<1 箱
F-27	平成 22 年度	確認	36.87	Ⅴ	未確認（4.45）	未確認（13.35）	なし	なし	-
F-28	平成 22 年度	確認	57.00	Ⅴ	未確認（4.14）	未確認（13.70）	なし	なし	-
F-29	平成 22 年度	確認	95.04	Ⅵ	0.70 - 1.50	17.80 - 17.00	SX129・144 焼土集積 ピット 遺物包含層（東 C 南 b 包含層）	縄文・弥生土器 土製品 石器・石製品 動物遺存体 植物遺存体	4 箱
F-29 拡張	平成 22 年度	記録保存	41.27	Ⅵ・Ⅷ・Ⅸ	0.75 - 1.36	18.31 - 17.70	SB193・194・195・196・197 掘立柱建物跡 SX145 竪穴状遺構 ピット 遺物包含層（東 C 南 b 包含層）	縄文・弥生土器 土製品 石器 柱材？ 植物遺存体	1 箱
F-30	平成 22 年度	確認	100.87	Ⅵ	0.20 - 1.12	18.30 - 17.38	SX130 焼土集積 遺物包含層（東 C 南 b 包含層）	縄文土器 土製品 石器・石製品 植物遺存体	4 箱
F-31	平成 22 年度	確認	41.47	Ⅴ	未確認（3.63）	未確認（14.25）	なし	なし	-
F-32	平成 22 年度	確認	86.84	Ⅵ	0.11 - 1.23	17.76 - 16.64	なし	縄文土器 植物遺存体	<1 箱
F-33	平成 22 年度	確認	128.34	Ⅵ	0.46 - 1.21	17.60 - 16.85	SD1071 溝跡（時期不明）	近世磁器 植物遺存体	<1 箱
F-34	平成 22 年度	確認	46.19	Ⅵ	0.96 - 1.74	17.38 - 16.60	遺物包含層（東 C 南 b 包含層）	縄文土器 土製品 石器・石製品 植物遺存体	<1 箱
F-35	平成 22 年度	確認	37.07	Ⅵ	1.28 - 1.61	17.50 - 17.17	遺物包含層（東 C 南 b 包含層）	縄文土器 土製品 石器・石製品 植物遺存体	2 箱
F-36	平成 22 年度	確認	23.22	Ⅵ	1.26 - 1.52	16.60 - 16.34	遺物包含層（東 C 南 b 包含層）	縄文・弥生土器	<1 箱
F-37	平成 22 年度	確認	12.31	Ⅵ	1.72 - 1.80	16.52 - 16.44	遺物包含層（東 C 南 b 包含層）	縄文土器 植物遺存体	<1 箱
F-38	平成 22 年度	確認	46.89	Ⅵ	1.65 - 1.57	16.75 - 16.63	遺物包含層（東 D 北包含層）	縄文・弥生土器 植物遺存体	<1 箱
F-39	平成 22 年度	確認	44.10	Ⅵ	2.25 - 2.68	15.93 - 15.50	遺物包含層（東 D 北包含層）	縄文・弥生土器 植物遺存体	<1 箱
F-40	平成 22 年度	確認	28.27	Ⅴ	2.31	15.68	なし	須恵器	<1 箱
F-41	平成 22 年度	確認	24.87	Ⅴ	未確認（3.50）	未確認（14.35）	なし	なし	-
F-42	平成 22 年度	確認	141.65	Ⅴ	未確認（4.16）	未確認（13.65）	なし	なし	-
F-43	平成 22 年度	確認	80.30	Ⅴ	未確認（3.48）	未確認（14.12）	なし	石器	<1 箱
F-44 西	平成 22 年度	確認	208.47	Ⅴ	未確認（4.28）	未確認（13.46）	SX1093 自然流路跡（古代以前）	中世陶器	<1 箱
F-44 東				Ⅴ	未確認（3.79）	未確認（13.96）			
F-45	平成 22 年度	確認	89.53	Ⅴ	未確認（4.00）	未確認（13.50）	なし	なし	-
F-46	平成 22 年度	確認	13.44	Ⅴ	未確認（4.58）	未確認（13.06）	なし	なし	-
F-47	平成 22 年度	確認	16.74	Ⅴ	未確認（4.23）	未確認（13.40）	なし	なし	-
F-48	平成 22 年度	確認	56.04	Ⅴ	未確認（3.92）	未確認（13.86）	なし	土師器	<1 箱
F-49	平成 22 年度	確認	94.98	Ⅴ	未確認（4.20）	未確認（13.58）	なし	なし	-
F-50	平成 22 年度	確認	54.55	Ⅴ	未確認（4.45）	未確認（13.12）	なし	なし	-
F-51	平成 22 年度	確認	41.14	Ⅴ	未確認（3.92）	未確認（13.40）	SX1073 自然流路跡（古代以前）	なし	-
F-52	平成 22 年度	確認	100.47	Ⅸ・Ⅹ	残存しない		SD1074・1078 溝跡（時期不明） SE1075・1076 井戸跡（近世以降）	石器 土師器 瓦 木製品 植物遺存体	1 箱
F-53	平成 22 年度	確認	36.83	Ⅹ	残存しない		SK1077 土坑（時期不明）	なし	-
F-54	平成 22 年度	確認	49.24	Ⅸ・Ⅹ	残存しない		SD1074・1079 溝跡（時期不明）	なし	-
F-55（切土部分）	平成 22 年度	確認	441.85	Ⅵ・Ⅸ・Ⅹ	0.92 - 1.53	17.75 - 17.14	遺物包含層（東 E 北包含層） SD1074・1080 溝跡（時期不明）	縄文土器 石器 植物遺存体 須恵器	1 箱
F-55（水路部分）	平成 22 年度	記録保存		Ⅵ	0.34 - 2.32	18.36 - 16.38	遺物包含層（東 E 北包含層） SD1081 溝跡（時期不明）		

調査区	調査年度	調査原因	調査面積（㎡）	遺構確認面	Ⅵ層の検出深度（m）	Ⅵ層の検出高（m）	検出遺構	出土遺物	遺物量
F-56	平成 22 年度	記録保存	90.72	Ⅴ	未確認（4.02）	未確認（13.74）	なし	なし	-
F-57	平成 22 年度	記録保存	19.94	Ⅴ	未確認（4.04）	未確認（13.72）	なし	なし	-
F-58	平成 22 年度	記録保存	181.39	Ⅴ・Ⅵ	2.95 - 3.33	14.98 - 14.58	SD1082・1083 溝跡（時期不明）	須恵器	<1 箱
F-59	平成 22 年度	記録保存	83.51	Ⅵ	1.65 - 2.03	16.26 - 15.88	SX1094 河川跡（古代以前）	縄文土器	<1 箱
F-60	平成 22 年度	記録保存	53.35	Ⅴ	1.93	16.04	SK1085・1087 土坑（時期不明） SD1084・1086・1088 溝跡（時期不明）	陶器	<1 箱
F-61	平成 22 年度	記録保存	181.39	Ⅴ・Ⅵ	2.43	16.00	SD1089 溝跡（時期不明）	土師器	<1 箱
F-62	平成 22 年度	記録保存	85.86	Ⅵ	0.12 - 0.46	18.08 - 17.74	なし	縄文土器 石器 動物遺存体 植物遺存体 土師器	<1 箱
F-63 西	平成 22 年度	記録保存	100.13	Ⅳ・Ⅵ	0.44 - 0.97	17.81 - 17.28	遺物包含層（古代）	縄文土器 石器 土師器 須恵器 瓦 植物遺存体	1 箱
F-63 東				Ⅳ・Ⅵ	0.80 - 1.28	17.44 - 16.96			
F-64	平成 22 年度	確認	34.36	Ⅵ	2.28	16.14	なし	石器 須恵器	<1 箱
F-65	平成 22 年度	確認	55.58	Ⅵ	1.28	17.04	なし	瓦	<1 箱
F-66	平成 22 年度	確認	66.92	Ⅵ	0.84 - 1.26	17.46 - 17.04	なし	縄文土器 植物遺存体 土師器 須恵器	<1 箱
F-67	平成 22 年度	確認	69.93	Ⅵ	0.85	17.27	なし	縄文土器 土師器 須恵器	<1 箱
F-68	平成 22 年度	記録保存	67.37	Ⅵ	0.58 - 1.52	17.62 - 16.68	なし	縄文土器 石器 植物遺存体 土師器 須恵器	<1 箱
F-69	平成 22 年度	記録保存	72.78	Ⅵ	0.77 - 1.53	17.50 - 16.74	なし	縄文土器 石器 土師器 須恵器 瓦	<1 箱
F-70 北水路部分	平成 22 年度	記録保存	276.51	Ⅵ	0.92 - 1.68	17.66 - 16.90	なし	縄文・弥生土器 土製品 石器 動物遺存体 植物遺存体 土師器 須恵器 瓦 陶器	11 箱
F-70 北・中央水路以外	平成 22 年度	確認		Ⅵ	0.29 - 0.70	18.45 - 18.04	なし		
F-70 南	平成 22 年度	確認		Ⅵ	0.10 - 1.21	18.59 - 17.48	SX151 沢跡 SD152 溝跡 遺物包含層（東 D-E 間包含層）		
F-71	平成 22 年度	確認	221.13	Ⅵ	0.31 - 0.91	18.52 - 17.92	遺物包含層（東 D-E 間包含層）	縄文・弥生土器 土製品 石器・石製品 動物遺存体 植物遺存体 土師器 須恵器 瓦 中世陶器 近世磁器	5 箱
F-72	平成 22 年度	確認	88.58	Ⅵ	0.08 - 0.70	18.52 - 17.90	なし	土師器 中世陶器	<1 箱
F-73 東	平成 22 年度	確認	235.97	Ⅵ	0.45 - 1.11	18.00 - 17.34	なし	縄文土器 石器 植物遺存体 土師器 須恵器 瓦	<1 箱
F-73 西				Ⅳ・Ⅵ	0.78 - 0.94	17.51 - 17.35			
F-74	平成 22 年度	記録保存	25.42	Ⅵ	1.32 - 1.82	16.58 - 16.08	なし	土師器	<1 箱
F-75	平成 22 年度	記録保存	11.84	Ⅳ	3.59	14.34	なし	なし	-
F-76	平成 22 年度	記録保存	27.66	Ⅴ	3.12	14.73	なし	土師器 須恵器	<1 箱
F-77 東	平成 22 年度	記録保存	84.07	Ⅴ	3.39	14.49	なし	土師器 須恵器 中世陶器	<1 箱
F-77 西				Ⅵ	1.55	16.34			
F-78	平成 22 年度	記録保存	58.29	Ⅴ・Ⅵ	1.03 - 1.85	16.17 - 15.95	なし	縄文土器 土師器 須恵器 瓦	<1 箱
F-79 南	平成 22 年度	確認	108.44	Ⅴ	2.45	15.35	なし	須恵器	<1 箱
F-79 北		記録保存		Ⅴ・Ⅵ	0.85 ～ 1.53	16.92 ～ 16.24			
F-80（水路部分）	平成 22 年度	記録保存	266.89	Ⅵ	0.13 - 2.06	17.67 - 15.74	SD1090 溝跡（時期不明）	縄文土器 煙管	<1 箱
F-80（道路部分）		確認		Ⅵ	0.11 - 1.27	17.68 - 16.52			
F-81	平成 22 年度	確認	21.34	Ⅴ	未確認（3.83）	未確認（13.91）	なし	なし	-
F-82	平成 22 年度	確認	31.55	Ⅴ	未確認（3.94）	未確認（13.85）	なし	なし	-
F-83	平成 22 年度	確認	27.41	Ⅴ	未確認（3.70）	未確認（14.18）	なし	なし	-
F-84	平成 22 年度	確認	83.47	Ⅴ・Ⅵ	0.31 - 1.30	17.43 - 16.44	なし	縄文土器 須恵器	<1 箱
F-85	平成 22 年度	確認	31.59	Ⅵ	1.35 - 1.92	16.65 - 16.08	なし	縄文土器 植物遺存体 土師器 陶器	<1 箱
F-86	平成 22 年度	確認	66.59	Ⅴ	1.80	15.90	なし	土師器	<1 箱
F-87	平成 22 年度	確認	47.83	Ⅵ	0.27 - 1.23	17.60 - 16.64	遺物包含層（東 E 北包含層）	縄文土器 石器 植物遺存体	<1 箱
F-88	平成 22 年度	記録保存	59.44	Ⅴ	未確認（3.32）	未確認（14.44）	SD1091・1092 溝跡（時期不明）	土師器 須恵器 燻瓦	<1 箱
F-89	平成 22 年度	記録保存	29.35	Ⅴ	未確認（3.84）	未確認（13.90）	なし	陶器	<1 箱

報 告 書 抄 録

ふりがな	きたこまついせき
書名	北小松遺跡
副書名	田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成 22 年度発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	宮城県文化財調査報告書
シリーズ番号	第 254 集
編著者名	小野章太郎・西村　力
編集機関	宮城県教育委員会
所在地	〒 980-8423　宮城県仙台市青葉区本町 3-8-1　TEL: 022-211-3685　FAX: 022-211-3693
発行年月日	西暦 2021 年 3 月 19 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	世界測地系 北緯	世界測地系 東経	調査期間	調査面積	調査原因
北小松遺跡（きたこまついせき）	宮城県大崎市（みやぎけんおおさきし）田尻小松字岩（たじりこまつあざいわ）田東（たひがし）ほか	42153	38005	38 度 37 分 9 秒	141 度 0 分 35 秒	2010. 04. 26 ～ 2011. 02. 03	6,412m^2	記録保存調査 試掘・確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
北小松遺跡	集落	縄文時代 早期 前期 後期 晩期 弥生時代 前期	掘立柱建物跡 48 棟 竪穴状遺構 1 基 石斧集積遺構 1 基 埋葬犬骨 5 基 遺物包含層 5 箇所	縄文・弥生土器 土製品 石器・石製品 骨角牙製品 漆製品 柱材 人骨 動物遺存体 植物遺存体	縄文時代晩期中葉から弥生時代前期の居住・倉庫域とイヌの墓域、遺物包含層等で構成される大規模集落跡

要約

北小松遺跡は、宮城県北部にある大崎平野（大崎低地）の北縁部の谷底平野に位置する大規模な遺跡である。ほ場整備事業に係る発掘調査の結果、丘陵の縁辺部で縄文時代晩期中葉から弥生時代前期を主体とする掘立柱建物跡や竪穴状遺構、石斧集積遺構、埋葬犬骨、遺物包含層などを検出した。掘立柱建物群は 2 箇所、遺物包含層は 5 箇所で検出し、過去に調査したものも含めると、本遺跡では丘陵に沿って 12 地点で遺構や遺物包含層を検出している。

今回の調査で確認した居住・倉庫域は丘陵上から裾部に形成され、おもに掘立柱建物群からなる。建て替えを含む 43 棟の掘立柱建物跡を検出した F-23 区では、丘陵の縁辺に沿って建物跡が重複して弧状に並び、丘陵上にあるその中央部は広場として利用されたものとみられる。この建物群の西から南側には遺物包含層が広がる。遺物包含層の堆積により、丘陵に接続するように微高地状の平坦な地形が形成され、この微高地の落ち際から斜面にかけて、イヌの墓域が形成される。これらの遺構は縄文時代後期後葉から弥生時代前期中葉にかけて形成され、特に晩期中葉から後葉にかけて多くの施設が営まれたものとみられる。

遺物包含層からは、縄文時代早期中葉から弥生時代前期中葉の遺物が出土している。遺物量が特に多い、東 C･D 丘陵間遺物包含層では、土器や土製品、石器･石製品のほか、骨角牙製品や漆製品、柱材などの有機質の製品や動植物遺存体が多量に出土した。これらの主体となる時期は、晩期中葉から末葉である。一方で、弥生時代前期になると遺物は少なくなり、間もなくして本遺跡の低地部を含む周辺一帯が大規模洪水による堆積物により覆われ、これらの遺構・遺物は地下に良好に残されることとなる。

宮城県文化財調査報告書第254集

北小松遺跡

－田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成22年度発掘調査報告書－

第１分冊　本文編

令和３年３月12日印刷
令和３年３月19日発行

発　行　宮城県教育委員会
仙台市青葉区本町三丁目８番１号

印　刷　株式会社東北プリント
仙台市青葉区立町24番24号